笛吹市文化財調査報告書　第31集

山梨県笛吹市

前付遺跡・大祥寺遺跡

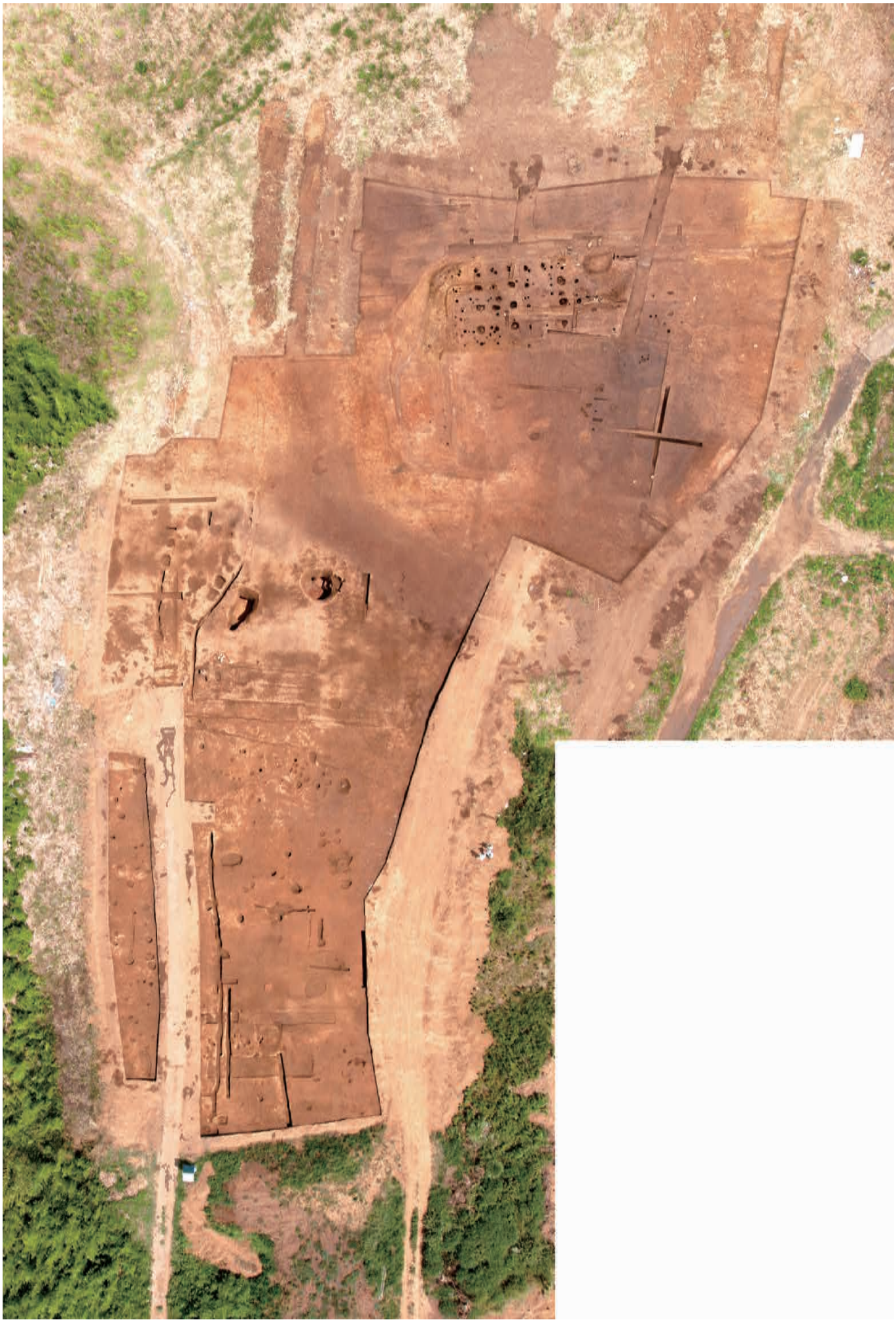
甲府・峡東地域ごみ処理施設建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合
笛　吹　市　教　育　委　員　会
公益財団法人山梨文化財研究所

1．調査区全景　（上：大祥寺遺跡　下：前付遺跡　モザイク写真）



２．大祥寺遺跡〔A 区〕全景（モザイク写真）

３．前付遺跡〔B 区〕全景（モザイク写真）

1．SI5　瓦塔

2．SI29　焼成粘土塊

3．SI29　砂貯蔵土器

4．SI10　炭化ご飯塊

5．SI10　炭化ご飯塊・かご検出状況 (処理前)

序

本書は平成24年度から25年度にかけて実施された笛吹市境川町寺尾地区で発掘調査を実施した前付遺跡・大祥寺遺跡の発掘調査報告書です。

大祥寺遺跡では中世の造成面上に掘立柱建物跡、礎石建物跡、地下式坑及び多字一石経を埋納する経塚が確認されました。この地は、甲府市下曽根の竜華院の前身寺院である大祥寺があったとの伝承が残っております。また、前付遺跡においては、旧石器時代の遺物をはじめ、縄文時代中期の竪穴住居跡、古墳時代前期の竪穴住居跡、奈良時代の竪穴遺構を調査し、記録保存を行い、縄文時代中期の土器制作を示す遺構・遺物や古墳時代前期の炭化ご飯塊など、注目すべき資料を提示することが出来ました。奈良時代の遺構では、山寺とされる掘立柱建物跡やそれを取り巻くように配置された竪穴遺構が確認され、その内部及び周囲から瓦塔片が出土しています。

前付遺跡、大祥寺遺跡が立地する曽根丘陵では、これまで奈良時代集落遺跡の発見はほとんどなく、今回調査された前付遺跡の一連の奈良時代遺構は今後の曽根丘陵一帯の集落史に一石を投じるものとなるのではないかと期待するところであります。

また、奈良時代山寺遺構の発見は、県指定史跡寺本廃寺や国指定史跡甲斐国分寺、甲斐国分尼寺といった古代寺院とは異なる流れの仏教の歴史を解き明かす上でも有効な資料になるのではないかと思われます。

笛吹市ではこれまで『甲斐国千年の都』として、岡･銚子塚や竜塚などの前期古墳、姥塚などの後期古墳、甲斐の国府推定地として知られる春日居町国府や御坂町国衙、県下最古の寺院である寺本廃寺跡、甲斐国分寺跡や国分尼寺跡などの官営寺院などを広く紹介してきました。

一方で豊富な資料を有する縄文時代中期を中心とした遺跡に注目した歴史フォーラムの開催や冊子の刊行、ガイドマップ類の作成に力を入れてまいりました。本報告書の刊行により、新たに奈良時代の良好な資料を提示することが出来たことで、この取り組みがより厚みを増してきたのではないかと考えております。

発掘調査にあたり、御理解、ご協力を賜りました甲府・峡東ごみ処理施設事務組合、ご指導ご協力を賜りました山梨県教育委員会はじめ関係諸機関、発掘調査においてご不便をおかけいたしました地権者各位、猛暑の中、発掘調査に参加いただきました作業員各位並びに調査を担当いただいた公益財団法人山梨文化財研究所の皆様に深く感謝申し上げ、この発掘調査報告書の刊行の序文に代えさせていただきます。

平成 27年 3月

笛吹市教育委員会

教育長　坂本誠二郎

例　言

1. 本書は、山梨県笛吹市境川町寺尾地内に所在する前付遺跡・大祥寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、甲府・峡東地域ごみ処理施設建設に伴うものであり、甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合の委託を受けた笛吹市教育委員会が調査主体となり、笛吹市教育委員会及び公益財団法人山梨文化財研究所が発掘調査・整理作業・報告書作成を行った。
3. 発掘調査は、2013（平成 25）年２月 26 日に着手し、2013（平成 25）年 11 月 29 日まで行った。なお、整理作業については発掘調査に併行して着手し、2015（平成 27）年１月 31 日まで実施した。
4. 本書の執筆は、第１章１・２節を望月和幸、第１章３節～第４・６章を宮澤公雄、櫛原功一、望月秀和が行った。第５章は自然科学分析、第６章には土器胎土分析の成果報告を掲載した。本書の編集は望月（秀）が行った。
5. 本書に掲載の遺構写真は、宮澤、平野、望月（秀）が、遺物写真は中川美治、宮澤、望月（秀）が撮影した。
6. 発掘調査および整理作業のうち一部の調査・業務について、以下の機関に委託ならびに協力を得た。

基準点・航空測量	株式会社テクノプラニング
自然科学分析	株式会社パレオ・ラボ
土器胎土分析	公益財団法人山梨文化財研究所
鉄器・木器保存処理	公益財団法人山梨文化財研究所

7. 本報告書に係わる出土品および記録図面・写真などは一括して笛吹市教育委員会に保管してある。
8. 参考文献については、第４・５章は各項の末尾に、それ以外は第６章末尾に掲載した。
9. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関･各位から多大なるご指導･ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。

上寺尾区、中寺尾区、間門区、地権者各位、竜華院、甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合、
山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、須田 勉（国士舘大学）、大隅清陽（山梨大学）、谷口一夫（笛吹市文化財保護審議会委員）、長沢宏昌（笛吹市文化財保護審議会委員）、古代甲斐国官衙研究会、明治大学日本先史文化研究所、清雲俊元、小野正敏、堀内秀樹、佐々木満、水本和美、小松 学、山本孝司、佐々木由香、小林謙一、小沢毅彦、松本建速、河西 学、藤澤 明、小畑弘己、小野正文、新津 健、森原明廣、室伏 徹、久保田健太郎、中野賢治、末木 健、八巻與志夫、保坂康夫、村石真澄、岡野秀典、杉本悠樹、御山亮済、信藤祐仁、志村憲一、平塚洋一、大木丈夫　（順不同・敬称略）

調査組織

調査事務局

坂本誠二郎（笛吹市教育委員会教育長）
仲澤和朗（前 笛吹市教育委員会教育部長）
堀内常雄（笛吹市教育委員会教育部長）
小渕忠秋（元 笛吹市教育委員会文化財課長）
田中育也（前 笛吹市教育委員会文化財課長）
猪股喜彦（笛吹市教育委員会文化財課長）
伊藤修二（笛吹市教育委員会文化財課）
野崎　進（笛吹市教育委員会文化財課）

調査統括担当者	望月和幸（笛吹市教育委員会文化財課）
発掘調査受託者	公益財団法人山梨文化財研究所

凡　例

1. 遺跡全体におけるＸ・Ｙ座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のＸ＝ -46280.000、Ｙ＝ 9000.000（北緯 35 度 34 分 58 秒、東経 138 度 35 分 57 秒）を基点（Ｘ＝０、Ｙ＝０）とした座標値である。
   各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。なお、真北方向角は－０度３分 28 秒となる。
2. 検出した遺構は、各調査区ごとに遺構名（遺構番号）を付している。掲載した遺物実測図には、大祥寺遺跡（A 区）では調査区全体の通し番号を付している。前付遺跡（B 区）では土器類は各遺構ごとに連番、金属製品・石製品は種別・種類ごとに並べて番号を付け、出土地点をあわせて表示した。
3. 遺構の略記、および遺物実測図の縮尺は以下の通りである。各図版中には、使用する縮尺のスケールを示した。遺物図版中で縮尺を変更した遺物は、該当する縮尺のスケールに（ ）で掲載番号を表記した。

   遺構略記　竪穴住居跡（SI）　掘立柱建物跡（SB）　土坑（SK）　溝（SD）
   ピット（Pit　竪穴住居内の柱穴は pit と表記）　性格不明遺構（SX)

   遺物縮尺　縄文土器・土師器・須恵器・土器・陶磁器：1/3・1/4　金属製品・土製品・経石：1/2
   古銭：1/1　木製品：1/6　石器・石製品：1/1・1/3・1/4
4. 遺構図版中の遺物分布図のマーク、スクリーントーンの凡例は以下の通りである。ただし、マークの向きは平面図については北向き、垂直分布図は垂直方向を基準としている。

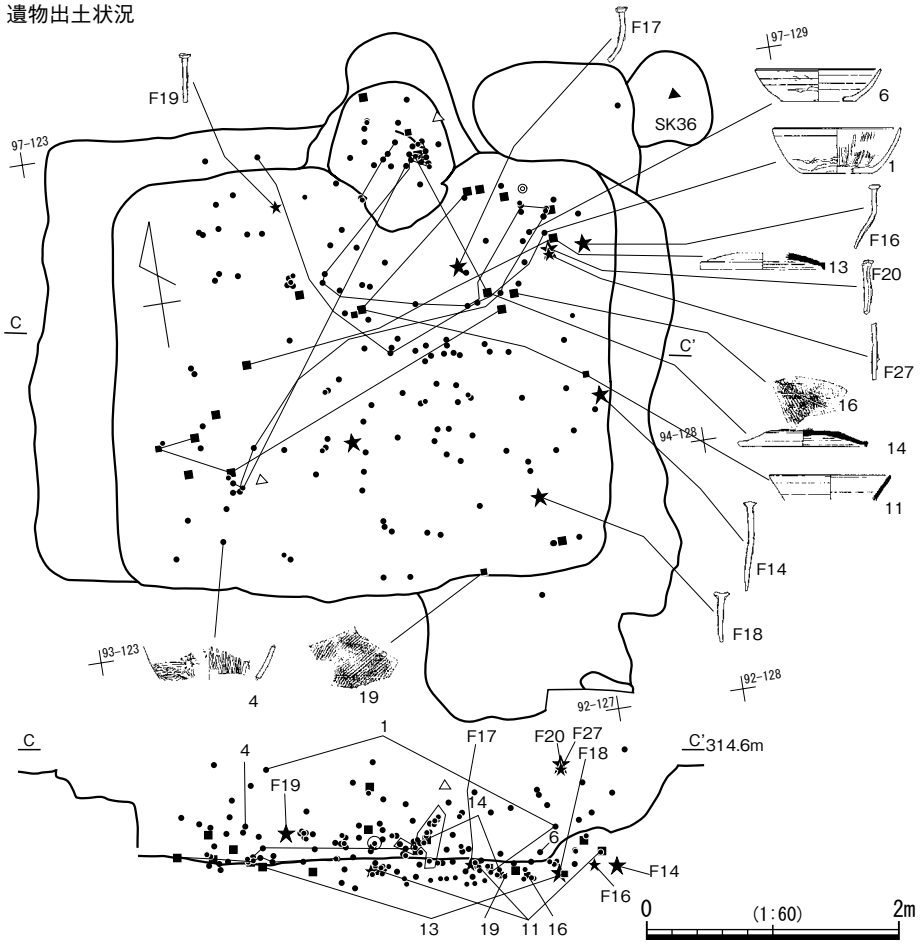
遺物マーク

- ▲ 縄文土器
- ● 弥生土器、土師器
- ■ 須恵器
- ○ 土師質土器
- ◇ 磁器
- ♦ 陶器
- ★ 金属製品
- △ 石器･石製品
- ☆ 土製品
- □ 木製品
- ⧗ 炭化物
- ◎ 粘土
- 種子
- ▵ 自然礫

遺構スクリーントーン

- 石
- 焼土範囲
- 炭化物範囲
- 硬化面範囲
- 粘土

遺物出土状況



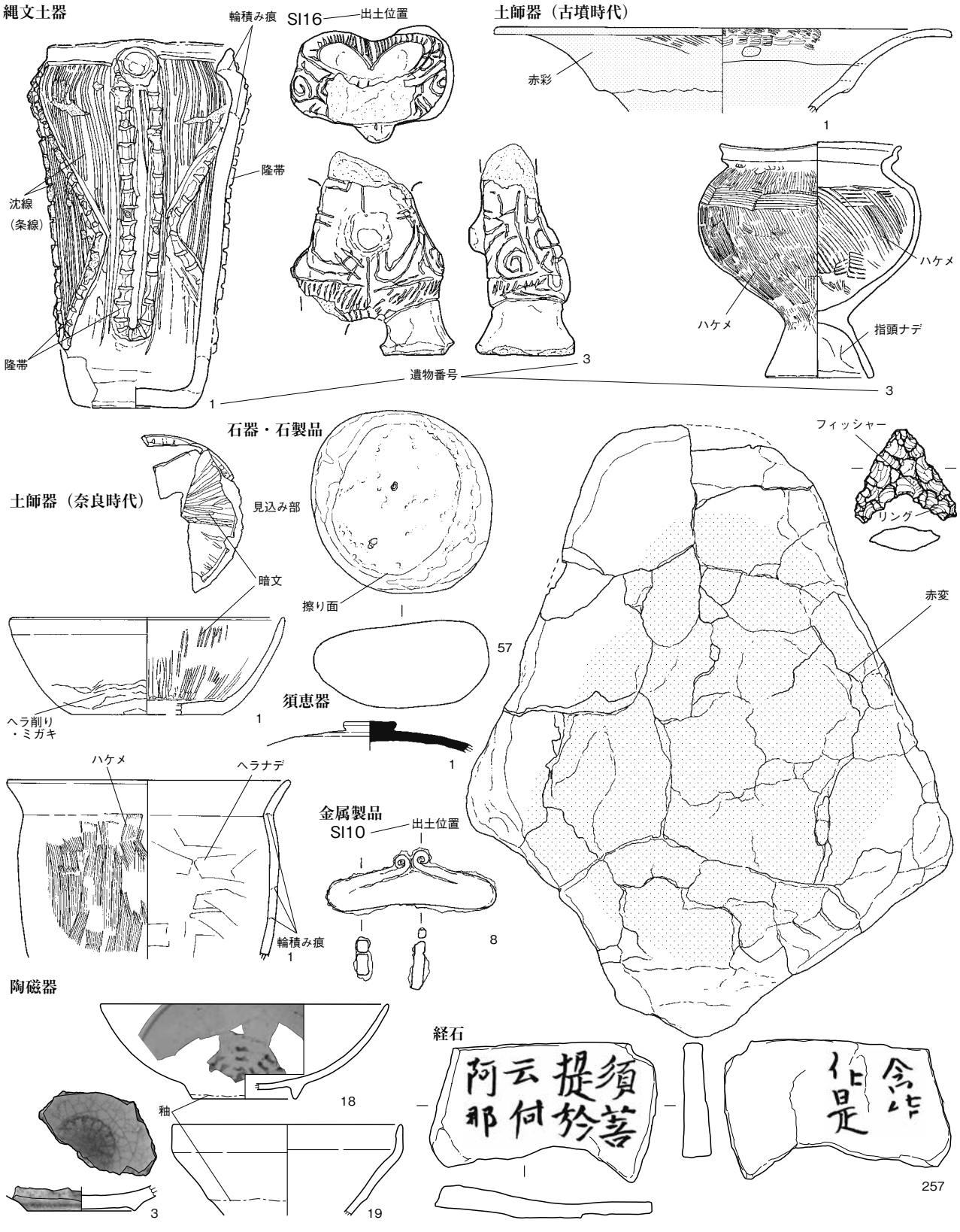
5. 出土遺物分布図中の遺物実測図は、任意の縮尺であり統一していない。また、接合関係を表現した線のうち、実線は接合関係にあるもの、破線は直接接合しないが同一個体と判断されるものを表す。
6. 経石観察表では、経石に用いられた石材を肉眼観察によってＡ～Ｋの 11 タイプに分けた。但し、石質はその分類中の主な石材を観察したものであり、出土した経石の石材をすべてを同定したものではない。
7. 経石の文字判読については、肉眼観察と赤外線スキャナによる画像解析、経典との照合によって経文を

復元した。判読できなかった箇所は□、経典から推定復元した部分は（）、脱字は［］で示した。

8. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）、尚学図書・言語研究所　1986『色の手帳』 小学館によっている。

9. 本書で用いた地図は、国土地理院発行「甲府」1/200,000（第６図）、境川村発行「都市計画基本図５･８」1/2500（第６図）である。

10. 遺物図版中の使用したスクリーントーン凡例および調整痕等の表現については、以下の通りである。



目　次

例　言
凡　例
第１章　序　説 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 2
　第３節　調査方法 …… 3
第２章　遺跡の立地と環境 ……10
　第１節　遺跡の位置 ……10
　第２節　地理的環境 ……10
　第３節　歴史的環境 ……12
　第４節　周辺の遺跡 ……12
第３章　大祥寺遺跡（A 区） …… 19
　第１節　建物跡周辺 ……19
　第２節　溝（SD） …… 22
　第３節　土坑（SK） …… 25
　第４節　地下式坑 ……26
　第５節　経石埋納遺構 ……26
　第６節　性格不明遺構 ……27
　第７節　遺構外出土遺物 ……30
第４章　前付遺跡（B 区） ……91
　第１節　竪穴住居（SI） ……91
　第２節　掘立柱建物跡（SB） ……107
　第３節　土坑・ピット（SK・Pit） ……109
　第４節　性格不明遺構（SX） ……111
　第５節　畝・耕作痕 ……112
　第６節　遺構外出土遺物 ……112
第５章　自然科学分析 ……267
　第１節　放射性炭素年代測定（炭化種子） ……267
　第２節　放射性炭素年代測定（炭化鱗茎） ……269
　第３節　前付遺跡から出土した炭化鱗茎の同定 ……271
　第４節　前付遺跡出土炭化鱗茎の炭素・窒素同位体分析 ……277
　第５節　前付遺跡出土の炭化種実 ……279
　第６節　前付・大祥寺遺跡出土木材の樹種同定 ……284
　第７節　前付遺跡から出土した炭化かごの素材植物の同定 ……287
　第８節　レプリカ法による粘土塊および敷物圧痕の観察 ……292
　第９節　レプリカ法による籠目文土器の観察 ……295
第６章　土器胎土分析 ……298
　第１節　前付遺跡出土貯蔵砂・粘土塊・土器の岩石鉱物分析 ……298
　第２節　前付遺跡出土土器の胎土分析 ……308
第７章　総　括 ……314
　第１節　遺構分布と遺物の出土傾向について ……314
　　第１項　遺構の分布と変遷および地理的特徴 ……314

第２項　遺物の出土傾向について　……315
第２節　検出した遺構について　……317
第１項　縄文時代における土地利用の変遷　……317
第２項　古墳時代の遺構について　……318
第３項　大祥寺の伝承と寺院建築について　……318
第３節　出土遺物について　……320
第１項　縄文土器について　……320
第２項　籠目土器について　……321
第３項　瓦塔について　……322
第４節　前付遺跡での砂貯蔵土器発見の意義　……323
第５節　前付遺跡出土の炭化ご飯塊について　……327
引用・参考文献　……329
おわりに　……330

表　目　次

表１　試掘トレンチ一覧……3
表２　試掘調査出土遺物観察表……7
表３　周辺の遺跡一覧……13
表４　A 区ピット一覧……28
表５　A 区溝一覧……31
表６　A 区土坑一覧……31
表７　A 区出土遺物観察表（磁器・陶器・土器類）……60
表８　A 区木製品観察表……62
表９　A 区石器・石製品観察表……62
表 10　A 区金属製品観察表……62
表 11　経石の岩石名……69
表 12　A 区出土経石一覧……70
表 13　B 区土坑・ピット一覧……113
表 14　B 区出土縄文土器観察表……197
表 15　B 区出土土師器観察表……202
表 16　B 区出土土偶・土製品観察表……209
表 17　B 区出土石器・石製品観察表……210
表 18　B 区出土金属製品観察表……212
表 19　B 区出土陶磁器観察表……213
表 20　種別出土量比較……315
表 21　大祥寺遺跡出土遺物量一覧……316
表 22　前付遺跡出土遺物量一覧……316

図版目次

第１図　調査区周辺の地形および試掘トレンチ配置図……4
第２図　試掘トレンチ　……5
第３図　試掘調査出土遺物　……6
第４図　調査グリッド　……8
第５図　基本層序　……9
第６図　遺跡の位置　……11
第７図　遺跡の位置と周辺の遺跡　……14
第８図　A 区全体図　……15･16
第９図　B 区全体図　……17･18
第10図　SB1（1）……32
第11図　SB1（2）……33
第12図　SB1（3）……34
第13図　テラス面 Pit（1）……35
第14図　テラス面 Pit（2）……36
第15図　SB2（1）……37
第16図　SB2（2）……38
第17図　SD（1）……39
第18図　SD（2）、テラス面サブトレ……40
第19図　SD（3）……41
第20図　SD（4）……42
第21図　SD（5）……43
第22図　SD（6）……44
第23図　SD2・4、SK 位置図……45
第24図　SK（1）……46
第25図　SK（2）……47
第26図　SK（3）……48
第27図　SK（4）……49
第28図　地下式坑（1）……50
第29図　地下式坑（2）……51
第30図　SX1（1）……52
第31図　SX1（2）……53

第32図　SX1（3）……54
第33図　SX1（4）、経石埋納遺構（1）……55
第34図　経石埋納遺構（2）……56
第35図　経石埋納遺構（3）……57
第36図　経石埋納遺構（4）……58
第37図　建物変遷推定図……59
第38図　A区SB、SD（1）遺物……63
第39図　A区SD（2）、SK、SX（1）遺物……64
第40図　A区SX（2）、サブトレ、遺構外遺物……65
第41図　A区出土柱材……66
第42図　A区出土石器・石製品（1）……67
第43図　A区出土石器・石製品（2）……68
第44図　A区出土石器・石製品（3）、金属製品　……69
第45図　経石（1）……86
第46図　経石（2）……87
第47図　経石（3）……88
第48図　経石（4）……89
第49図　経石（5）……90
第50図　SI1、SK3・36（1）……115
第51図　SI1、SK3・36（2）……116
第52図　SI1、SK3・36（3）……117
第53図　SI1、SK3・36（4）……118
第54図　SI1、SK3・36（5）……119
第55図　SI2……120
第56図　SI3（1）……121
第57図　SI3（2）……122
第58図　SI4……123
第59図　SI5……124
第60図　SI6（1）……125
第61図　SI6（2）……126
第62図　SI6（3）……127
第63図　SI6（4）……128
第64図　SI7（1）……129
第65図　SI7（2）……130
第66図　SI8（1）……131
第67図　SI8（2）……132
第68図　SI8（3）……133
第69図　SI9（1）……134
第70図　SI9（2）……135
第71図　SI10（1）……136
第72図　SI10（2）……137
第73図　SI11.21、SK37（1）……138
第74図　SI11.21、SK37（2）……139
第75図　SI11.21、SK37（3）……140
第76図　SI12……141
第77図　SI13（1）……142
第78図　SI13（2）……143
第79図　SI13（3）……144
第80図　SI14（1）……145
第81図　SI14（2）……146
第82図　SI14（3）……147
第83図　SI15（1）……148
第84図　SI15（2）……149
第85図　SI16・23（1）……150
第86図　SI16・23（2）……151
第87図　SI16・23（3）……152
第88図　SI17（1）……153
第89図　SI17（2）……154
第90図　SI18、SK18・27（1）……155
第91図　SI18、SK18・27（2）……156
第92図　SI18、SK18・27（3）……157
第93図　SI19（1）……158
第94図　SI19（2）……159
第95図　SI20・22、SK38（1）……160
第96図　SI20・22、SK38（2）……161
第97図　SI20・22、SK38（3）……162
第98図　SI24（1）……163
第99図　SI24（2）……164
第100図　SI25……165
第101図　SI26、SK24（1）……166
第102図　SI26、SK24（2）……167
第103図　SI27（1）……168
第104図　SI27（2）……169
第105図　SI28（1）……170
第106図　SI28（2）……171
第107図　SI28（3）……172
第108図　SI28（4）……173
第109図　SI29（1）……174
第110図　SI29（2）……175
第111図　SI29（3）……176
第112図　SI30（1）……177
第113図　SI30（2）……178
第114図　SI30（3）……179
第115図　SI31（1）……180
第116図　SI31（2）、SI32（1）……181
第117図　SI32（2）…… 182
第118図　SB1～3位置図……183
第119図　SB1（1）……184
第120図　SB1（2）……185
第121図　SB1（3）、SB3……186
第122図　SB2……187
第123図　SK、Pit（1）……188

第124図　SK、Pit（2）……189
第125図　SK、Pit（3）……190
第126図　SK、Pit（4）……191
第127図　SK、Pit（5）……192
第128図　SK、Pit（6）……193
第129図　SX1・2・3……194
第130図　畝（1）……195
第131図　畝（2）……196
第132図　B区SI遺物（1）……215
第133図　B区SI遺物（2）……216
第134図　B区SI遺物（3）……217
第135図　B区SI遺物（4）……218
第136図　B区SI遺物（5）……219
第137図　B区SI遺物（6）……220
第138図　B区SI遺物（7）……221
第139図　B区SI遺物（8）……222
第140図　B区SI遺物（9）……223
第141図　B区SI遺物（10）……224
第142図　B区SI遺物（11）……225
第143図　B区SI遺物（12）……226
第144図　B区SI遺物（13）……227
第145図　B区SI遺物（14）……228
第146図　B区SI遺物（15）……229
第147図　B区SI遺物（16）……230
第148図　B区SI遺物（17）……231
第149図　B区SI遺物（18）……232
第150図　B区SI遺物（19）……233
第151図　B区SI遺物（20）……234
第152図　B区SI遺物（21）……235
第153図　B区SI遺物（22）……236
第154図　B区SI遺物（23）……237
第155図　B区SI遺物（24）……238
第156図　B区SI遺物（25）……239
第157図　B区SI遺物（26）……240
第158図　B区SI遺物（27）……241
第159図　B区SI遺物（28）……242
第160図　B区SI遺物（29）……243
第161図　B区SI遺物（30）……244
第162図　B区SB遺物、SK（1）遺物……245
第163図　B区SK遺物（2）……246
第164図　B区SK遺物（3）……247
第165図　B区SK遺物（4）、B区遺構外遺物（1）……248
第166図　B区遺構外遺物（2）……249
第167図　B区出土土偶（1）……250
第168図　B区出土土偶（2）、土製品……251
第169図　B区SI29粘土塊……252
第170図　B区出土瓦塔（1）……253
第171図　B区出土瓦塔（2）……254
第172図　B区出土石器（1）……255
第173図　B区出土石器（2）……256
第174図　B区出土石器（3）……257
第175図　B区出土石器（4）……258
第176図　B区出土石器（5）……259
第177図　B区出土石器（6）……260
第178図　B区出土石器（7）……261
第179図　B区出土石器（8）……262
第180図　B区出土石器（9）……263
第181図　B区出土金属製品（1）……264
第182図　B区出土金属製品（2）、陶磁器（1）……265
第183図　B区出土陶磁器（2）……266
第184図　瓦塔片分布図……319
第185図　中道往還経路推定……322
第186図　SI29内遺物出土状況……324

写真図版目次

巻頭１　1. 調査区全景
巻頭２　2. 大祥寺遺跡 A 区全景
巻頭３　3. 前付遺跡 B 区全景
巻頭４　1. SI5　瓦塔
　　2. SI29　焼成粘土塊
　　3. SI29　砂貯蔵土器
　　4. SI10　炭化ご飯塊
　　5. SI10　炭化ご飯塊・かご検出状況 (処理前）

大祥寺遺跡〔A 区〕

図版１　1. 大祥寺遺跡調査前全景
　　2. 調査区遠景（上寺尾・中寺尾方面を望む）
　　3. 調査地点遠景（西から）
　　4. SB1 上層
　　5. SB1 完掘
図版２　1. SB1 近景（南東から）
　　2. SB2（東から）
図版３　1. SB1 近景（北から）
　　2. SB1 近景（西から）
　　3. テラス東端（北から）
　　4. SB2 近景（東から）
　　5. SD1・5 近景（南から）
　　6. SD1・5 調査区南壁
　　7. SX1（SB1 竈跡検出状況）
　　8. SX1（構築土断ち割り状況）
図版４　1. Pit70 柱材検出状況
　　2. Pit70 断面
　　3. Pit73 礫充填
　　4. Pit73 柱材検出状況
　　5. Pit104 柱材検出状況
　　6. Pit112 礫出土状況
　　7. Pit136 礫出土状況
　　8. Pit138 柱痕
図版５　1. Pit148 完掘状況
　　2. Pit149 完掘状況
　　3. Pit151 柱材検出状況
　　4. Pit151 柱材検出状況
　　5. Pit152 完掘状況
　　6. Pit159 完掘状況
　　7. Pit161 完掘状況
　　8. Pit 完掘状況
図版６　1. SX2 礫出土状況
　　2. SX2 堆積状況
　　3. SX2 礫除去後（南から）
　　4. SX2 礫除去後（西から）
　　5. SX2 地輪出土状況
　　6. SX2 灰器出土状況
　　7. SX3 炭化物分布範囲
　　8. SX3 完掘状況
図版７　1. 遺物出土状況（21）
　　2. 遺物出土状況（3）
　　3. 遺物出土状況（15）
　　4. 遺物出土状況（135）
　　5. 地下式坑近景（SK2・SK24）
図版８　1. SK2 完掘状況
　　2. SK2 底面検出状況
　　3. SK2 竪坑底面
　　4. SK2 壁面工具痕
　　5. SK24 検出状況
　　6. SK24 内部
　　7. SK24 完掘状況（東から）
　　8. SK24 完掘状況（北から）
図版９　1. SD2 近景（西から）
　　2. SK8 断面
　　3. SK3・4 礫検出状況
　　4. SK12 礫検出状況
　　5. SK12 断ち割り状況
図版 10　1. SK13 炭化物堆積状況
　　2. SK13 断ち割り状況
　　3. SD17・18 近景（東から）
　　4. SD18・19 近景（東から）
　　5. SD20 ～ 24（北から）
　　6. SD17、SK25 断面
　　7. SD17、SK25 断ち割り状況
　　8. SK25 断ち割り状況
図版 11　1. SK26 検出状況
　　2. SK26 断ち割り状況
　　3. SK26 底面礫検出状況
　　4. SK28 遺物出土状況
　　5. SK28 遺物出土状況（53）
　　6. SK1・SX5 近景（東から）
　　7. SK1 経石検出状況
　　8. SK1 経石検出状況（西から）
図版 12　1. SK1 完掘状況
　　2. 作業風景（経石検出作業）
　　3. SK1 経石堆積状況（東から）
　　4. SK1 近景（東から）
　　5. SK1 経石出土状況（16）

6. SK1 経石出土状況（71）
7. SK1 経石出土状況（171）
8. SK1 経石出土状況（21・22）
図版 13　出土遺物　（1）
図版 14　出土遺物　（2）
図版 15　出土遺物　（3）
図版 16　大祥寺遺跡　経石（1）
図版 17　大祥寺遺跡　経石（2）
図版 18　大祥寺遺跡　経石（3）
図版 19　大祥寺遺跡　経石（4）
図版 20　大祥寺遺跡　経石（5）
図版 21　大祥寺遺跡　経石（6）
図版 22　大祥寺遺跡　経石（7）
図版 23　大祥寺遺跡　経石（8）
図版 24　大祥寺遺跡　経石（9）
図版 25　大祥寺遺跡　経石（10）
図版 26　大祥寺遺跡　経石（11）
図版 27　大祥寺遺跡　経石（12）

前付遺跡〔B 区〕

図版 28　1. B 区調査前
2. 遺構確認作業（1）
3. 遺構確認作業（2）
4. SI1 完掘
5. SI1 遺物出土状況（1）
6. SI1 遺物出土状況（2）
7. SI1 遺物出土状況（3）
8. SI1 遺物出土状況（4）
図版 29　1. SI1 ステップ状高まり
2. SI1 竈
3. SI1 竈完掘
4. SI1 竈構築粘土
5. SI1 竈遺物出土状況
6. SI2 完掘
7. SI2 遺物出土状況（1）
8. SI2 遺物出土状況（2）
図版 30　1. SI2 遺物出土状況（3）
2. SI2 竈完掘
3. SI3 完掘
4. SI3 遺物出土状況（1）
5. SI3 遺物出土状況（2）
6. SI3 遺物出土状況（3）
7. SI4 完掘
8. SI4 遺物出土状況（1）
図版 31　1. SI4 遺物出土状況（2）
2. SI4 遺物出土状況（3）
3. SI4 遺物出土状況（4）
4. SI4 竈完掘
5. SI4 竈遺物出土状況
6. SI5 完掘
7. SI5 遺物出土状況（1）
8. SI5 遺物出土状況（2）
図版 32　1. SI5 遺物出土状況（3）
2. SI5 遺物出土状況（4）
3. SI5 竈完掘
4. SI5 竈遺物出土状況（1）
5. SI5 竈遺物出土状況（2）
6. SI6 完掘
7. SI6 遺物出土状況（1）
8. SI6 遺物出土状況（2）
図版 33　1. SI6 遺物出土状況（3）
2. SI6 遺物出土状況（4）
3. SI6 遺物出土状況（5）
4. SI6 土偶出土状況
5. SI6 炉内遺物出土状況
6. SI6 炉石出土状況
7. SI7 完掘
8. SI7 遺物出土状況（1）
図版 34　1. SI7 遺物出土状況（2）
2. SI7 遺物出土状況（3）
3. SI7 遺物出土状況（4）
4. SI7 遺物出土状況（5）
5. SI7 炭化物出土状況
6. SI8 完掘
7. SI8 遺物出土状況（1）
8. SI8 遺物出土状況（2）
図版 35　1. SI8 遺物出土状況（3）
2. SI8 炭化物出土状況
3. SI8 内 SK 2
4. SI9 完掘
5. SI9 遺物出土状況（1）
6. SI9 遺物出土状況（2）
7. SI9 遺物出土状況（3）
8. SI10 完掘
図版 36　1. SI10 遺物出土状況（1）
2. SI10 遺物出土状況（2）
3. SI10 遺物出土状況（3）
4. SI10 遺物出土状況（4）
5. SI10 炭化ご飯塊
6. SI11・21 完掘
7. SI21 完掘

8. SI11 遺物出土状況（1）
図版 37　1. SI11 遺物出土状況（2）
2. SI11 遺物出土状況（3）
3. SI11 遺物出土状況（4）
4. SI11・21 遺物出土状況
5. SI21 遺物出土状況
6. SI12 完掘
7. SI12 遺物出土状況
8. SI13 完掘
図版 38　1. SI13 遺物出土状況（1）
2. SI13 遺物出土状況（2）
3. SI13 遺物出土状況（3）
4. SI13 遺物出土状況（4）
5. SI13 遺物出土状況（5）
6. SI13 貯蔵穴遺物出土状況
7. SI14 完掘
8. SI14 遺物出土状況（1）
図版 39　1. SI14 遺物出土状況（2）
2. SI14 遺物出土状況（3）
3. SI14 遺物出土状況（4）
4. SI14 炉
5. SI15 完掘
6. SI15 遺物出土状況（1）
7. SI15 遺物出土状況（2）
8. SI15 遺物出土状況（3）
図版 40　1. SI15 炉
2. SI16 完掘
3. SI16 遺物出土状況（1）
4. SI16 遺物出土状況（2）
5. SI16 遺物出土状況（3）
6. SI16 遺物出土状況（4）
7. SI16 遺物出土状況（5）
8. SI16 炉
図版 41　1. SI17 完掘
2. SI17 遺物出土状況（1）
3. SI17 遺物出土状況（2）
4. SI18 完掘
5. SI18 遺物出土状況（1）
6. SI18 遺物出土状況（2）
7. SI18 遺物出土状況（3）
8. SI18 遺物出土状況（4）
図版 42　1. SI19 完掘
2. SI19 遺物出土状況（1）
3. SI19 遺物出土状況（2）
4. SI19 炉
5. SI20・22 完掘
6. SI20 遺物出土状況
7. SI20・22 遺物出土状況（1）
8. SI20・22 遺物出土状況（2）
図版 43　1. SI20・22 遺物出土状況（3）
2. SI20・22 遺物出土状況（4）
3. SI23 完掘
4. SI23 遺物出土状況
5. SI24 完掘
6. SI24 遺物出土状況（1）
7. SI24 遺物出土状況（2）
8. SI25 完掘
図版 44　1. SI25 遺物出土状況（1）
2. SI25 遺物出土状況（2）
3. SI25 遺物出土状況（3）
4. SI25 遺物出土状況（4）
5. SI25 遺物出土状況（5）
6. SI26 完掘
7. SI26 遺物出土状況（1）
8. SI26 遺物出土状況（2）
図版 45　1. SI26 埋甕
2. SI26 炉
3. SI27 完掘
4. SI27 遺物出土状況
5. SI28 完掘
6. SI28 遺物出土状況（1）
7. SI28 遺物出土状況（2）
8. SI28 遺物出土状況（3）
図版 46　1. SI28 貯蔵穴
2. SI28 貯蔵穴遺物出土状況
3. SI29 完掘
4. SI29 遺物出土状況（1）
5. SI29 遺物出土状況（2）
6. SI29 遺物出土状況（3）
7. SI29 遺物出土状況（4）
8. SI29 砂貯蔵土器
図版 47　1. SI29 砂貯蔵土器半裁
2. SI29 深鉢
3. SI29 台石
4. SI29 焼成粘土塊
5. SI29 埋甕
6. SI29 炭化材
7. SI29 炉
8. SI30 完掘
図版 48　1. SI30 遺物出土状況
2. SI31 完掘
3. SI31 遺物出土状況（1）

4. SI31 遺物出土状況（2）
5. SI31 埋甕
6. SI31 炉
7. SI32 完掘
8. SI32 遺物出土状況
図版 49　1. SB1 完掘
2. SB1 地業範囲
3. SB1 地業部分セクション W-E
4. SB1 地業部分セクション N-S
5. SB1 地業部分掘り方
図版 50　1. SB1 pit1
2. SB1 pit2
3. SB1 pit3
4. SB1 pit4
5. SB1 pit5
6. SB1 pit6
7. SB1 pit7
8. SB1 pit8
図版 51　1. SB1 pit9
2. SB1 pit10
3. SB1 pit11
4. SB1 pit12
5. SB1 pit13
6. SB1 pit14
7. SB1 pit8 遺物出土状況
8. SB1 遺物出土状況
図版 52　1. SB2 完掘
2. SB2 pit1
3. SB2 pit2
4. SB2 pit3
5. SB2 pit4
図版 53　1. SB2 pit5
2. SB2 pit6
3. SB2 pit7
4. SB2 pit8
5. SB2 pit9
6. SB2 pit10
7. SB3
8. SB3 pit1
図版 54　1. SB3 pit2
2. SB3 pit3
3. SB3 pit4
4. SB3 pit5
5. SB3 pit6
6. SX1 完掘
7. SX2 完掘
8. SX2 遺物出土状況（1）
図版 55　1. SX2 遺物出土状況（2）
2. SX3 完掘
3. SK1 遺物出土状況
4. SK2 遺物出土状況（1）
5. SK2 遺物出土状況（2）
6. SK17 遺物出土状況（1）
7. SK17 遺物出土状況（2）
8. SK18 遺物出土状況（1）
図版 56　1. SK18 遺物出土状況（2）
2. SK27 遺物出土状況
3. SK29 礫出土状況
4. SK30 礫出土状況
5. SK32 礫出土状況
6. Pit1・2
7. Pit3
8. Pit6
図版 57　1. Pit7
2. Pit13
3. 遺構外 尖頭器出土状況
4. 見学会（1）
5. 見学会（2）
6. 調査風景（1）
7. 調査風景（2）
8. 調査終了
図版 58　出土遺物（1）
図版 59　出土遺物（2）
図版 60　出土遺物（3）
図版 61　出土遺物（4）
図版 62　出土遺物（5）
図版 63　出土遺物（6）
図版 64　出土遺物（7）
図版 65　出土遺物（8）
図版 66　出土遺物（9）
図版 67　出土遺物（10）
図版 68　出土遺物（11）
図版 69　出土遺物（12）
図版 70　出土遺物（13）
図版 71　出土遺物（14）
図版 72　出土遺物（15）

第1章　序　説

第1節　調査に至る経緯

前付遺跡、大祥寺遺跡は、西側に広がる馬場遺跡とともに、笛吹市境川町寺尾集落の沢を挟んだ南側の台地上に広がる遺跡として知られてきた。特に、大祥寺遺跡には、かつて前付山大祥寺という寺院があったとされ、この大祥寺が甲府市上曽根町にある吉国山竜華院の前身であるとの伝承が残る。

平成18年3月、この地に甲府市、笛吹市、山梨市、甲州市によるごみ処理施設の建設が計画され、それに伴い、平成18年5月より、埋蔵文化財取り扱いに関する協議が行われてきた。

平成19年6月25日から9月21日にかけて笛吹市教育委員会により、馬場遺跡を含めた第1次試掘調査が行われ、その後、平成20年11月17日から12月8日までの間、第2次試掘調査を実施した。続いて、平成23年4月25日より8月18日までの間､ごみ処理施設への進入路工事に伴う馬場遺跡内の試掘調査を実施、本調査範囲を確定した。尚、道路拡張部における遺構検出には至らなかったため、当該道路拡張計画地については、本調査対象外とした。

その間、山梨県教育委員会、笛吹市教育委員会、甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合との間で発掘調査に関する協議を進め、平成24年6月26日付けで甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合と笛吹市教育委員会との間で「甲府・峡東地域ごみ処理施設建設における埋蔵文化財に関する協定書」締結をした。平成25年3月5日、両者間において、「甲府・峡東地域ごみ処理施設建設における埋蔵文化財に関する協定書」の一部（発掘調査期間）に関する変更協定書を取り交わしたうえで発掘調査に着手した。

平成25年2月25日付けで、調査主体である笛吹市と、公益財団法人山梨文化財研究所、有限会社桃李、株式会社イビソクの三社とそれぞれ発掘調査業務の一部を委託する契約を締結し、諸準備を経て発掘調査に着手した。尚、記録保存については、主に公益財団法人山梨文化財研究所が担当した。

文化財保護法94条に関する埋蔵文化財発掘の通知	平成24年5月11日
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）	平成24年5月29日
文化財保護法99条における着手報告	平成25年4月1日
文化財保護法第100条第2項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成25年12月2日

調査体制

調 査 主 体　　笛吹市教育委員会
調査担当者　　望月和幸（笛吹市教育委員会）
調　査　員　　宮澤公雄、櫛原功一、平野修、畑 大介、中山千恵、小澤美和子、望月秀和
（公益財団法人山梨文化財研究所）
事　務　局　　林紀子、柳本千恵子（公益財団法人山梨文化財研究所）

発掘調査参加者

飯野金雄、井上文夫、岩崎満佐子、長田秋文、小澤正臣、梶原孝浩、河西町男、川口三和、岸本美苗、北原耕助、窪田信一、小池幹子、河野次雄、奥石邦次、小林森雄、小林雪乃、三枝哲雄、阪本國廣、坂本行臣、菅沼芳治、須田泰美、高野博行、高野眞寿美、武井美知子、高原南洋、田中真紀美、近山辰男、土屋常子、筒井聡、角田万紀、出井光、手塚松雄、内藤敏夫、中込榊、中澤保、長塚浩美、長澤晴雄、原義仁、原田隆邦、樋川芳久、平賀早苗、深沢修、藤原さつき、藤原五月、藤巻淑子、古郡明、保坂悌司、馬渕泰蔵、水上喜正、村山邦夫、望月一正、望月孝次、山下詩雅、箭本公幸、横内光夫、渡辺智之、渡辺麗子

整理作業参加者

岩崎満佐子、大村加代子、川口三和、櫛原ゆかり、斉藤ひろみ、佐野眞雪、末木美保、菅原由美子、須田泰美、竜沢みち子、田中真紀美、中川美千子、中川美治、原野ゆかり、平賀早苗、藤原五月、古郡明、山下詩雅

第２節　調査経過

前付遺跡・大祥寺遺跡の発掘調査は、笛吹市教育委員会が平成 19・20 年に試掘調査を実施し、本調査は平成 25 年２月 26 日より着手した。重機による表土掘削後の実質的な調査は、同教育委員会より業務委託された公益財団法人山梨文化財研究所が４月８日～同年 11 月 29 日の期間に実施した。

調査は２区に分けて実施し、大祥寺遺跡側の調査区を A 区、前付遺跡を B 区とした。調査は対象地区外の開発工事（土砂の掘削・整地・運搬）と一部併行しながらの実施となったが、開発工事側からの提案と協議によって調査区を囲む防護壁の設置や工事用道路と調査スタッフ専用の通路を定めるなど、安全対策を講じながら実施した。

調査は両調査区を同時に着手したが、A 区では一部拡張となったため、開発工事の工程上予定していた東端尾根斜面の掘削工事が着手できない状況となり、市教育委員会との協議を経て、A 区調査を優先しての実施となった。そのため、調査区東側のテラス面の調査は６月 25 日までに遺構の検出と記録を終了して一部調査区を引渡し、A 区全体では８月２日に調査を完了した。なお、調査区周辺は工事区域内のため、現地見学が困難な状況にあったが、A 区調査終了前に地元の寺尾地区の方々を対象にしての現地報告会と、B 区空撮終了後の 11 月 10 日には現地見学会を実施し、調査成果の一般公開を行った。その他、調査工程に関する詳細は下記の調査日誌に記した。

整理作業については、出土遺物の洗浄・注記等の基礎整理を発掘調査に併行して開始し、出土遺物の実測図化等の報告書作成業務については、平成 26 年度に公益財団法人山梨文化財研究所において実施した。

調査日誌

4 月 8 日　機材搬入、土嚢作り等調査準備。
4 月 9 日　発掘調査開始。遺構精査、掘削。
4 月 10 日　航空写真測量（地形測量）、基準点設置。A 区試掘時検出の経石埋納土坑を確認。
4 月 11 日　グリッド杭設定。プレハブ設置。
4 月 17 日　B 区遺構確認、住居調査。
4 月 18 日　A 区、地下式坑確認（SK2）。
4 月 19 日　A 区調査範囲について市教委と協議。
4 月 22 日　B 区、尖頭器（縄文時代草創期）出土確認。
4 月 23 日　A 区拡張に関して現地協議。
4 月 24 日　工事掘削（土壌調査）立ち会い。
4 月 26 日　A 区調査区東側に試掘坑設定。B 区耕作土（撹乱表土）掘り下げ。
5 月 8 日　A 区調査区東側の試掘開始（市教委）。
5 月 14 日　A 区拡張部表土剝ぎ（～ 16 日まで）。
5 月 17 日　遺構調査・撹乱掘り下げ。
6 月 12 日　A 区および B 区道路南側区画、航空写真測量。
6 月 19 日　A 区写真測量（ポール撮影）。
6 月 19 日　寺尾地区住民見学会・参加者 50 名。
7 月 16 日　A 区、地下式坑写真測量。
7 月 31 日　A 区写真測量。
8 月 2 日　A 区調査終了。
8 月 22 日　工事関係市町村担当および笛吹市市議会議員見学。
9 月 17 日　台風被害復旧作業・遺構調査。
10 月 21 日　国士舘大学須田勉先生、来跡。
11 月 8 日　空撮準備。山日新聞取材。
11 月 9 日　B 区航空写真測量。
11 月 10 日　B 区（前付遺跡）見学会実施。参加者 70 名。
11 月 29 日　遺構調査終了。機材撤収。

第３節　調査方法

試掘調査と調査区の設定について

調査の対象範囲については、試掘調査と開発計画との調整を図り、本調査区の表土剥ぎを実施した笛吹市教育委員会が設定した。調査区は主に建物構築部分を対象とし、先述のとおり大祥寺遺跡側をＡ区、前付遺跡側をＢ区とした。調査は重機による表土剥ぎまでを市教育委員会が担当し、その後公益財団法人山梨文化財研究所が調査記録を担当した。調査面積はＡ区で4,212㎡、Ｂ区で6,903㎡を測る。

試掘調査は、開発対象範囲に立地する大祥寺遺跡・前付遺跡・馬場遺跡の３遺跡において実施しており、平成19年に18箇所、平成20年に23箇所、計41本の試掘トレンチを設定して実施した（第１図、表１）。本書では本調査範囲内に位置し、遺構と纏まった出土遺物が確認された12・14トレンチ、および縄文時代の土坑が検出された25トレンチの調査記録を、試掘調査の成果の一部として第２図と第３図に掲載した。

12Tr

前付遺跡調査区内にあたり、X120Y30 ～ X110Y60グリッドに位置する。調査区南西隅に設置した東西方向のトレンチで、遺物の出土と遺構と推定したプランが確認されていた。しかし、本調査では耕作に伴って掘削された溝のほか、遺構を確認することはできなかった。なおＢ区調査地点の形状は、尾根のピークから緩やかに下っていくかまぼこ型を呈している。同トレンチは南傾斜した畑地の縁辺にあたる場所であり、表土剝ぎの際にも周辺で土偶が出土するなど､遺構面が浅く､さらには上層からの耕作による撹乱が著しかった場所でもある。以上のことから、掘削されていた可能性も考えられる。

出土遺物は５点を図化した。第３図１は無文の平口縁で、口縁端部は丸く肥厚する。２は重弧文口縁部。３は縄文地文の小形円筒形土器で、無文口縁と縦位縄文との間に２本の平行沈線を施文し、交互刺突を加える。４は頸部に斜格子文帯をもつ長胴甕形で、胴部は４本セットの竹管隆線文をモチーフとし、縦位櫛歯条線地文を施文する。５は縄文地文の長胴甕形で、３本セットの竹管隆線に蛇行粘土紐で加飾する。

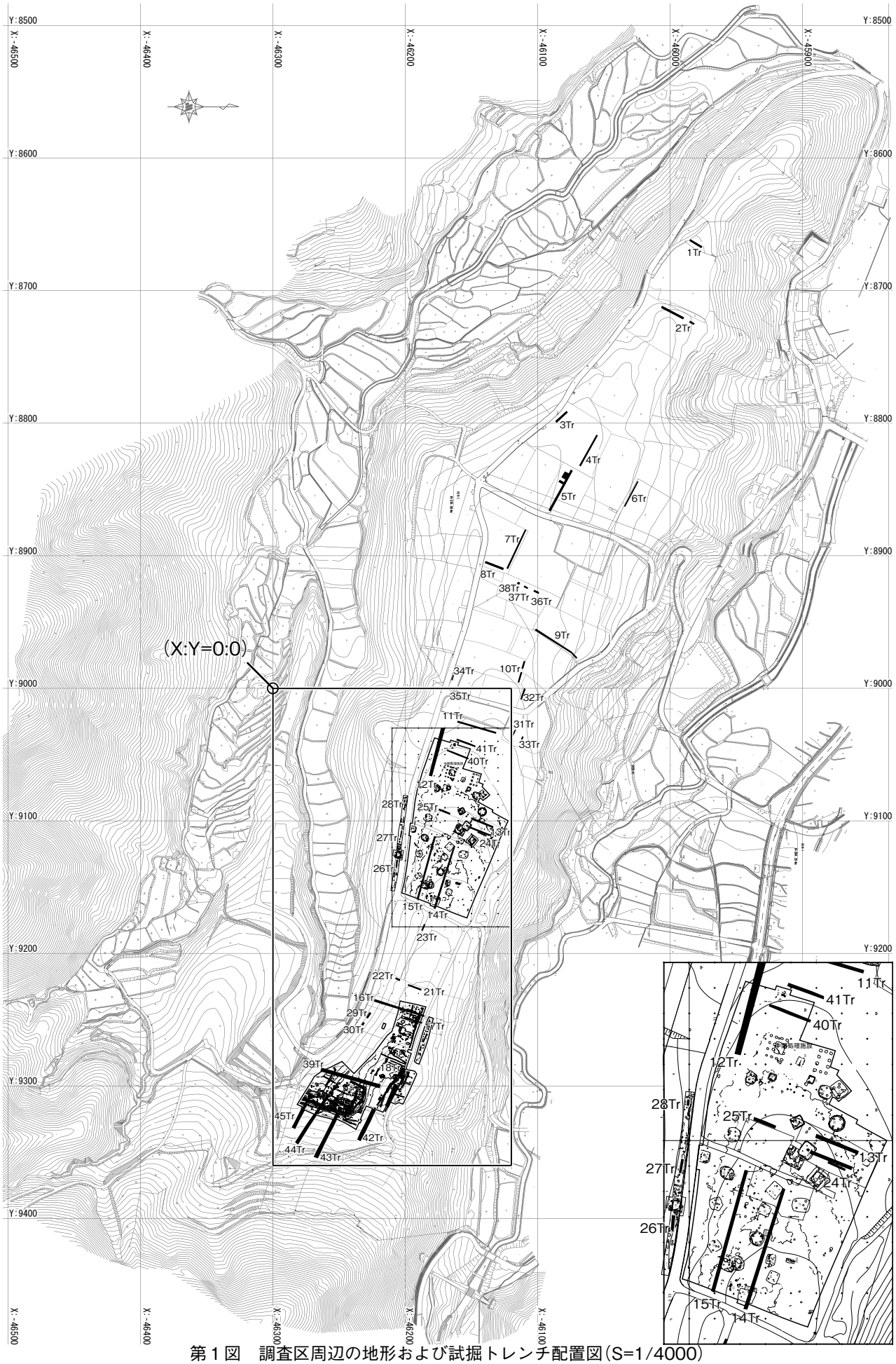
14Tr

前付遺跡調査区内、X120Y110 ～ X120Y160グリッドに位置する。東西に長く設定したトレンチで、SI11を確認している。出土遺物については、埋甕とした縄文土器片が検出されており、SI11東で出土した資料と接合したため、本調査報告内であわせて記載した。

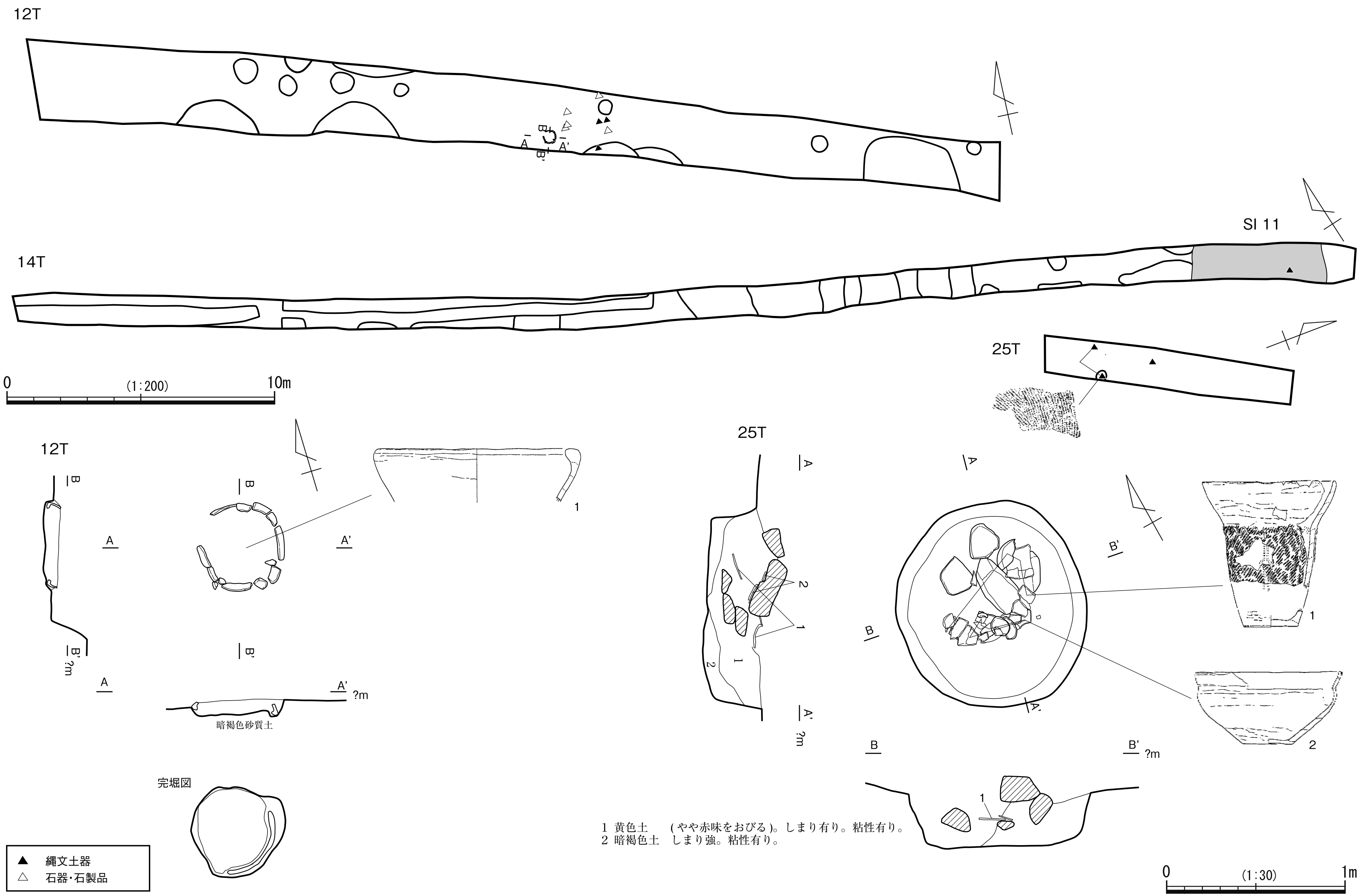
表１　試掘トレンチ一覧

トレンチ名	位　置	対象遺構名		
		馬場	前付	大祥寺
1Tr	—	○		
2Tr	—	○		
3Tr	—	○		
4Tr	—	○		
5Tr	—	○		
6Tr	—	○		
7Tr	—	○		
8Tr	—	○		
9Tr	—	○		
10Tr	—		○	
11Tr	X140Y20～X160Y30		○	
12Tr	X120Y30～X110Y60		○	
13Tr	X150Y90～X160Y100		○	
13Tr	X140Y100～X160Y110		○	
14Tr	X130Y110～X120Y160		○	
15Tr	X120Y110～X100Y150		○	
16Tr	X70Y230～X110Y240			○
17Tr	X100Y240～X110Y250			○
18Tr	X90Y280～X70Y310			○
19Tr	—			
20Tr	—			
21Tr	X100Y220～X110Y220			○
22Tr	X90Y210～X90Y220			○
23Tr	X110Y170～X110Y180		○	

トレンチ名	位　置	対象遺構名		
		馬場	前付	大祥寺
24Tr	X150Y100～X160Y110		○	
25Tr	X120Y90～X130Y90		○	
26Tr	X90Y120～X90Y130		○	
27Tr	X90Y100～X90Y110		○	
28Tr	X90Y80		○	
29Tr	X70Y240			○
30Tr	X60Y250			○
31Tr	—		○	
32Tr	—		○	
33Tr	—		○	
34Tr	—		○	
35Tr	X130Y0		○	
36Tr	—	○		
37Tr	—	○		
38Tr	—	○		
39Tr	X30Y280～X80Y300			○
40Tr	X130Y40～X140Y50		○	
41Tr	X140Y30～X150Y40		○	
42Tr	X70Y310～X60Y340			○
43Tr	X40Y320～X30Y350			○
44Tr	X40Y300～X20Y340			○
45Tr	X20Y300～X20Y330			○

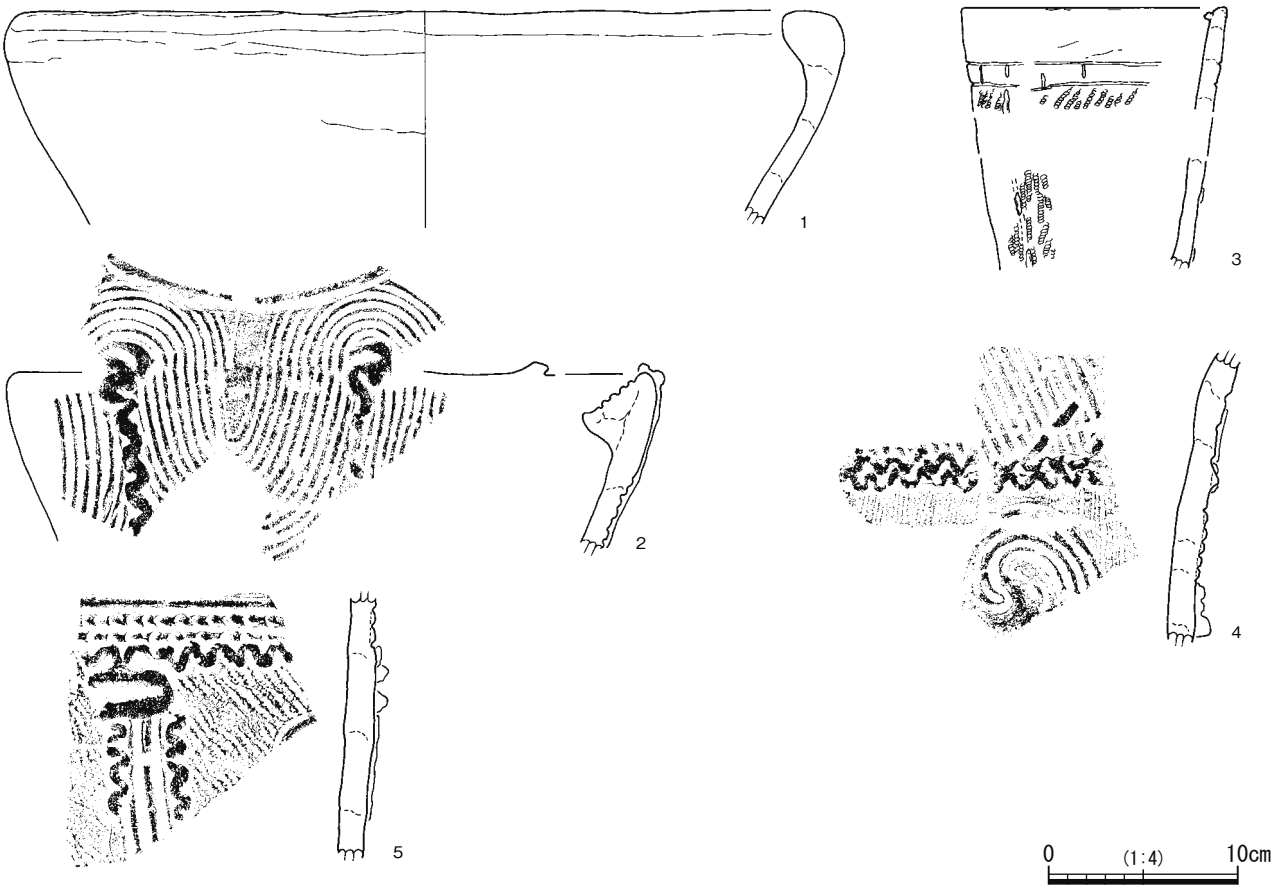


第１図　調査区周辺の地形および試掘トレンチ配置図(S=1/4000)

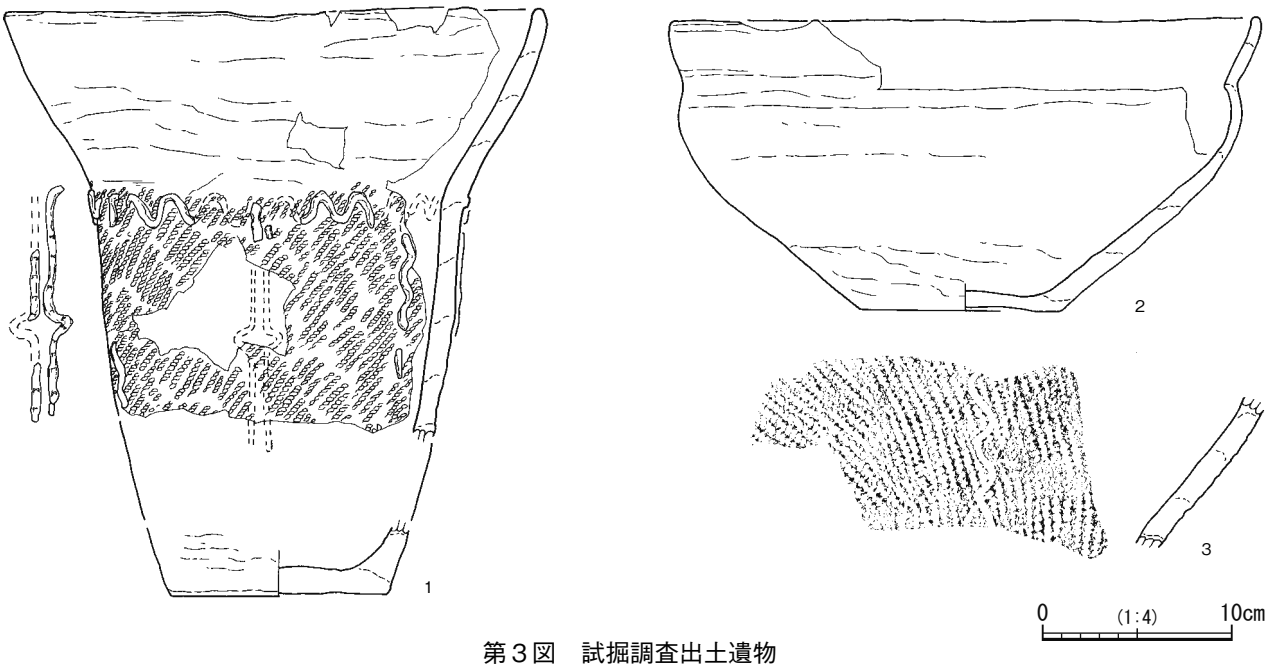

12T
14T
SI 11
25T
(1:200)
0
10m
12T
A
A'
B
B'
?m
暗褐色砂質土
完掘図
25T
1 黄色土　(やや赤味をおびる)。しまり有り。粘性有り。
2 暗褐色土　しまり強。粘性有り。
(1:30)
1m
▲ 縄文土器
△ 石器・石製品

第２図　試掘トレンチ

12Tr



25Tr



第３図　試掘調査出土遺物

25Tr

前付遺跡調査区内、X120Y90 ～ X130Y90 グリッドに位置する。耕作痕が著しかった区画の西側に、南北方向に設置したトレンチであり、集石を伴った縄文時代の土坑を検出した。出土遺物は３点を図化した。第３図 25Tr － １は縄文地文の紐線文土器で、頸部、胴部に細い蛇行粘土紐を貼付する。２は無文鉢で、頸部屈曲し、口縁部は開き気味に立ち上がる。３は縄文地文土器で、蛇行沈線を垂下する。

その他、掲載はしなかったが、前付遺跡の西側の馬場遺跡においては、５トレンチで弥生時代末頃～古墳

表２　試掘調査出土遺物観察表

法量（　）は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	底径	器高	整形技法等 内面	外面	底部	色調	胎土	含有物	焼成	残存率(%)	注記内容	備考
3	トレンチ12	深鉢	(41.8)	－	[11.3]	ナデ	ナデ		明褐(7.5YR5/6)～暗褐(7.5YR3/3)	密	白・黒色粒子	不良	－	12T M1-1.1-2.1-3…	
3	トレンチ12	深鉢	(33.6)	－	[9.5]	ナデ	重弧文、蛇行状粘土紐貼付		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	不良	－	12T一括	
3	トレンチ12	深鉢	(13.8)	－	(13.7)	ナデ	ナデ、沈線、縄文		明黄褐(10YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	－	12T一括	
3	トレンチ12	深鉢	－	－	－	ナデ	重弧文、棒状粘土紐上に蛇行状粘土紐貼付		内:褐(7.5YR4/6) 外:暗褐(7.5YR3/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	－	12T一括	内面:アバタ状
3	トレンチ12	深鉢	－	－	－	ナデ	隆線上に押引文、縄文、隆線、粘土紐貼付、渦巻文		内:褐(7.5YR4/4) 外:暗褐(10YR3/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	－	12T.G1862	内面:アバタ状
3	トレンチ25	深鉢	28.4	11.4	(31.1)		縄文(RL)、粘土紐、半截竹管押圧文	ナデ、無文	内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:赤褐(5YR4/6)～黄褐(2.5Y5/4)	やや密	赤色粒子、雲母、長石等	良	40	ジ25T ジNo.10.11.12…	内面:胴部・底部オコゲ付着、外面:口縁部スス薄く付着・胴部赤変
3	トレンチ25	浅鉢	30.5	10.7	15.3	ナデ・ミガキ顕著		ナデ、無文	内:黒褐(10YR3/1)～黄褐(2.5Y5/3) 外:明赤褐(5YR5/6)～黒褐(10YR3/1)	密	赤色粒子、雲母、長石等	良	80	ジ25T ジNo.1.14.19…	内面:全体に黒色、外面:黒斑付
3	トレンチ25	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、蛇行沈線		明褐(7.5YR5/7)	密	白・黒色粒子、雲母	良	－	ジ25TNo.1.SI23一括	内面:スス付着

時代前期の遺物が纏まって出土しており、周辺でも遺物が多数表採されることから、同時期の遺構の存在が推定される。

その他、本書には掲載していないが、前付遺跡の西側に隣接する馬場遺跡においては、5トレンチにおいて、弥生時代末から古墳時時代前期にかけての遺物が出土している他、方形周溝墓が複数確認されている。今回馬場遺跡については調査対象ではなかったが、現地の地表面には同時期の遺物が多数表採される状況であった。地形的にも類似する同町の白戸遺跡の調査事例では、尾根先端部において方形周溝墓を検出し、遺構内より遺物が出土していることや、同地点から谷を挟んだ西側には上の平遺跡が所在することなどから、同様な遺構が存在すると思われる。

大祥寺遺跡（A区）調査区について

A区では、遺跡名のとおり大祥寺の遺称地であることから、寺院遺構の検出を念頭に調査を開始した。調査開始前から、起伏と複数の平坦面がある土地であったため、工事に伴って雑木が伐採された後に空撮による地形測量を実施し、さらに表土剝ぎ後の精査では、平坦面（テラス）と溝状遺構が当初の調査範囲外に広がる状況が確認できたことから、協議を経て一部拡張して実施することになった。

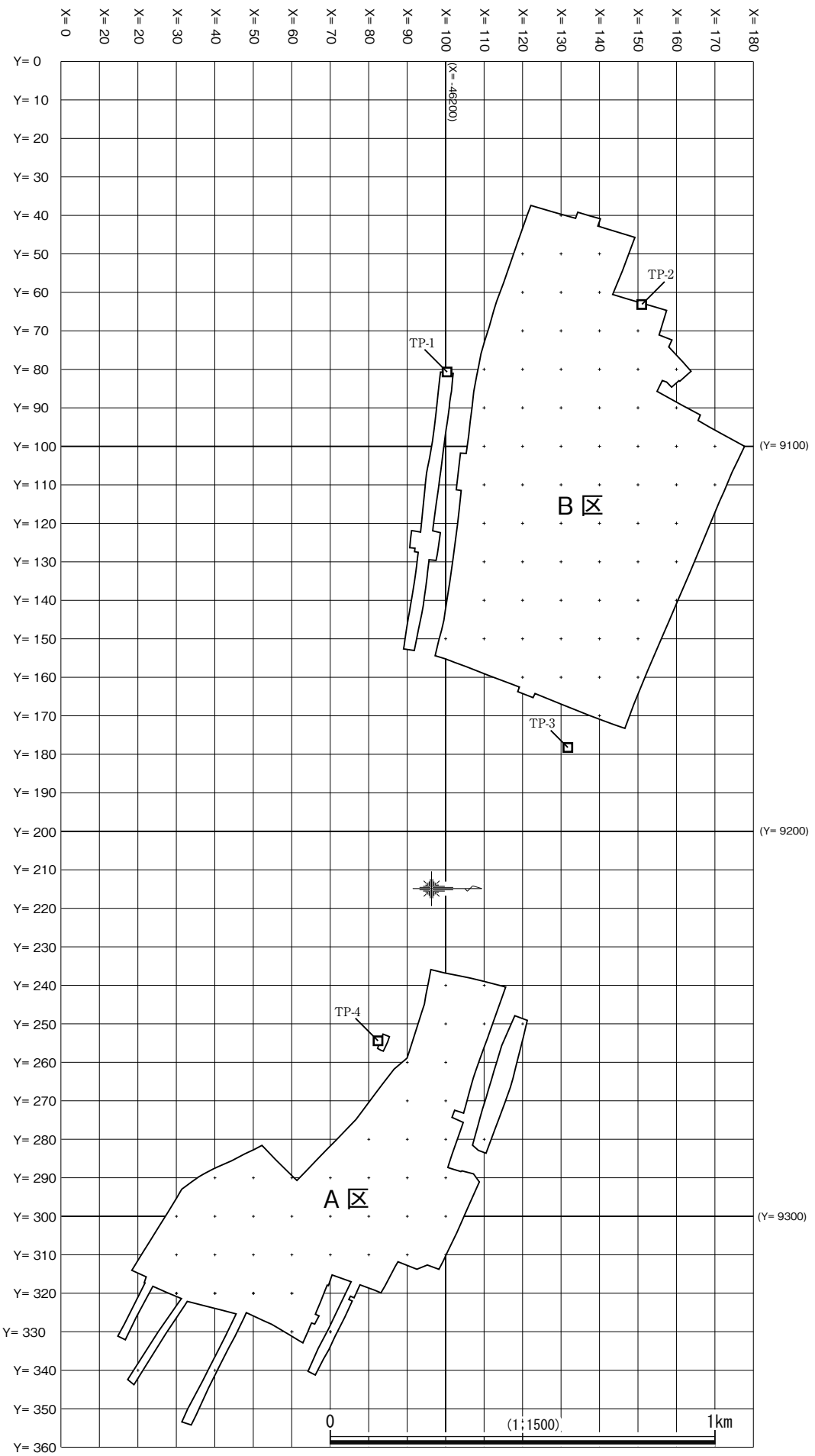
この一帯は耕作放棄地となってから幾年も経過しており、開発工事が着手される直前まで深い竹藪に覆われていたため、事前調査による範囲確認が困難であったが、調査区の拡張範囲については、市教育委員会・開発者との協議後、本調査に併行して市教育委員会による試掘調査を実施して決定した。

試掘は東側の斜面に3本のトレンチをいれ、遺構の広がりを確認した。なお、調査区東側斜面中腹のテラス状の平坦面については、堆積土層の観察と肥料袋等の近代のゴミなどが出土したことから、耕作により削平されたもので、本調査の対象範囲から除外した。また、遺構を確認した平坦面から立ち上がる東端部分には、重機による竹の根切り溝が開けられており、後世の撹乱が多い状況が窺えた。

調査の方法

前述のとおり、重機による表土剥ぎまでを市教育委員会が担当し、その後公益財団法人山梨文化財研究所が遺構・遺物の検出と記録を担当した。基準点設置および調査グリッドの設定については、テクノプランニングが実施した。グリッドについては、両調査区全体を被うように国土座標にあわせ、南北方向をX軸、東西方向をY軸として、南西隅を基点（X＝0、Y＝0）に設定した。なお、基点（X＝0、Y＝0）は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX＝-46280.000、Y＝9000.000（北緯35度34分58秒、東経138度35分57秒）である。

調査は人力によって遺構確認面の精査検出、および遺構覆土の掘削を行った。但し、対象地は畑地であったため、根菜類の栽培による撹乱が広範囲に入り、場所によっては竹の根切りのために約1.5mほどの掘削された部分や、耕作地のほぼ全面が撹拌された場所もあった。そのため、遺構検出には再度重機で表層の除去を行うなどしながら調査を進めた。A区については前述のとおりであるが、B区においても縄文時代草創期の石器（尖頭器）が出土したことから、調査の最終段階には数か所を深掘りをして層序の確認を行った。さらに調査区西端では遺構が調査区外に及ぶことが明らかになり、一部調査区を拡張して記録を実施した。


X= 0
X= 20
X= 20
X= 30
X= 40
X= 50
X= 60
X= 70
X= 80
X= 90
X= 100
X= 110
X= 120
X= 130
X= 140
X= 150
X= 160
X= 170
X= 180
(X= -46200)
Y= 0
Y= 10
Y= 20
Y= 30
Y= 40
Y= 50
Y= 60
Y= 70
Y= 80
Y= 90
Y= 100
Y= 110
Y= 120
Y= 130
Y= 140
Y= 150
Y= 160
Y= 170
Y= 180
Y= 190
Y= 200
Y= 210
Y= 220
Y= 230
Y= 240
Y= 250
Y= 260
Y= 270
Y= 280
Y= 290
Y= 300
Y= 310
Y= 320
Y= 330
Y= 340
Y= 350
Y= 360
TP-1
TP-2
TP-3
TP-4
B 区
A 区
(Y= 9100)
(Y= 9200)
(Y= 9300)
0
(1:1500)
1km

第４図　調査グリッド

発見した遺構・遺物の記録については、遺構断面図の作成、基本層序および遺構埋土の観察記録、光波測量による平面図作成、遺物の３次元記録、簡易図化システムによる写真測量を実施した。光波測量によって取り上げた遺物以外の小片遺物等は、調査区内に設定した５ｍグリッドごとに取り上げた。

その他、テクノプランニングによるポール撮影、ラジコンヘリによる航空撮影での写真測量をあわせて実施した。なお、今回の調査で用いた測量機器および図化・記録システムは以下の通りである。

光波測量機器／ TOPCONGPS― Ⅲ、コンピュータ／ Panasonic TOUGHBOOK

取り上げ・図化システム／ CUBIC 社製　遺構くん

基本層序

第５図は第４図に示した４地点において観察した層序柱状図で基本層序として第Ⅰ～Ⅹ層を設定した。

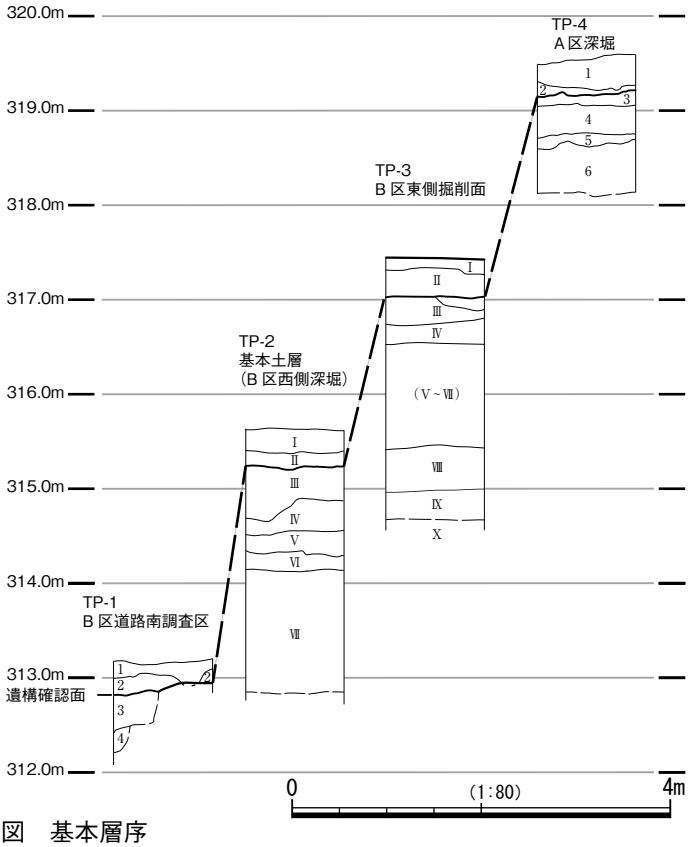
遺構を多数検出したＢ区では、第Ⅲ層上層が遺構確認面であった。今回の調査区は尾根上に位置するため、Ａ区とＢ区では最大約６ｍの比高差があった。しかし、河川等の影響を受けない立地環境でもあり、表層から遺構確認面までの層序に大差はなく、両調査区ともほぼ共通した遺存環境であった。但し、Ｂ区は地点によって耕作による撹乱の度合いが違い、遺構確認面までの深さや遺存状況が異なった。またⅠ層、Ⅱ層は耕作による撹乱が入った層であり、遺構が構築された当時の確認面を想定する際、表土流失を考慮しなければならない。Ａ区の遺構確認面についても、調査区西側はＢ区とほぼ同じ状況である。調査区東側のテラス面については、標高レベルは TP-4 とほぼ同じであるが、尾根南側を掘削して平坦面を構築していたため、遺構確認は主に建物基礎面およびテラスの掘削面において行った。層序についてはＡ区尾根の中央部には黒色土層が入っていたことや、地下式坑など深い掘削が伴った箇所では、基本層序第Ⅹ層に相当する黄色土層または白色粘質層などがみられた。地山にはわずかに礫が混在するが、拳大以下で、遺構から検出されるような大きさはなかった。

第Ⅹ層は橙褐色軽石層（Pm-1）で、約８万年前に相当する。この層を確認した TP-2 は、調査区外にあたり、工事に伴って掘削された場所で Pm-1 が確認されたことから、許可を得て記録を実施したものである。なお、この土層は、谷を挟んで西側の丘陵地に立地する上の平遺跡発掘調査（第６次）でも確認されている。

基本土層（TP-2･3）
Ⅰ 暗褐色土（10YR3/4）盛土層。Ⅱ層とほぼ同。黄褐色土(Ⅲ)層が少混。
Ⅱ 暗褐色土（10YR3/3）旧表土。耕作土層。
Ⅲ 褐色土（10YR4/4）ローム層。粒子細かい。炭化粒含。遺構確認層。
Ⅳ 暗褐色土（10YR3/4）ブラックバンド、しまり極強。
Ⅴ 褐色土（10YR4/4）ローム層、スコリア、炭化粒少含。粘質、ハードロームブロック少含。
　上層の黒色土も少混。
Ⅵ 褐色土（10YR4/4）Ⅴ、Ⅶ層の混層。しまり極強。白色粒子含。炭化粒少含。
　ハードロームがブロック状に混じる。
Ⅶ 褐色土（10YR4/6）硬質ローム層。(ハードローム)スコリア混。
Ⅷ 褐色土（10YR4/4）ハードローム層、炭化粒多含。径1mm大のスコリア、黄褐色粒含。
Ⅸ 褐色土（10YR4/4）ハードローム層、炭化粒多含。径3mm大のスコリア、黄褐色粒含。
Ⅹ 明黄褐色土（2.5Y6/8）火山灰土、炭化粒、白色粒子混。

B区道路南調査区（TP-1）
1 暗褐色土（10YR3/4）耕作土(表土)か。しまり弱い。遺物有り。FB少々入。
2 褐色土（10YR4/4）黄味強い。しまりやや弱。カクランの掘り込み多。遺物あり。
3 にぶい黄褐色土（10YR4/3）二次堆積的なローム土、しまりあり。遺物なし。
　3層上面で遺構等確認できる。(確認面)
4 褐色土（10YR4/4）しまりの強いローム土(ハードローム)、遺物なし。密。

A区深堀（TP-4）
1 10YR3/4 暗褐色土 表土(耕作土)。礫なし。密。しまり有。焼土粒、白色粒子含。竹根多。
2 10YR4/4 褐色土 礫なし。密。しまり有。ローム土。炭化粒含。
3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 礫なし。密。しまり有。炭化粒含。
4 10YR3/3 暗褐色土 礫なし。密。しまり有。
5 10YR3/3 暗褐色土 4･6層の漸移層。礫なし。6層のブロックやや多混。
6 10YR5/6 黄褐色土 ハードローム。粘質。白色･褐色粒子含。



第５図　基本層序

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置

前付遺跡・大祥寺遺跡は、山梨県笛吹市境川町寺尾に所在する。笛吹川の左岸、曽根丘陵上に立地する遺跡である。国道 358 号線間門交差点から山梨県道 308 号鶯宿上曽根線に入り、山梨牛乳運送株式会社手前を右折して約 650m ほど進むと、右手にみえる尾根（舌状台地）上が調査地である。周辺は畑地として利用されてきた場所で、果樹や根菜類、植木等の栽培がされていた。調査地点の標高は約 316m（前付遺跡）を測る。

遺跡が所在する笛吹市は、平成 16 年 10 月 12 日に笛吹川流域の６町村（東八代郡石和町・御坂町・一宮町・八代町・境川村、東山梨郡春日居町）の合併により発足した。その後、平成 18 年８月１日に東八代郡芦川村が編入し、総面積は 201.92k㎡（山梨県の面積の約 4.5％）、標高は 256 m（石和町井戸周辺）～ 1,793m（御坂黒岳）となった。笛吹市域は、北方の秩父山地と大菩薩領、南東の御坂山塊へと連なる急峻な丘陵山岳地帯と、河川によって形成された扇状地帯、および沖積平地帯から構成されており、西方の盆地低部に向かって広がる地形を呈している。市域の多くは、釈迦ヶ岳、黒岳をはじめとして、1,500m級の山々からなる御坂山地の山裾および山地から流れ出たいくつかの河川によって形成された扇状地上に立地する。市名の由来となった笛吹川の本流は、秩父山地より発する延長 46.5km、流域面積は 1,040k㎡を測る。笛吹川は同市域を西流した後は盆地南辺を流れ、南巨摩郡富士川町鰍沢で釜無川と合流して富士川となり、南下して駿河湾へ注いでいる。また笛吹川には町名の由来である境川をはじめ、鼓川・兄川・重川・日川・金川など複数の支流があり、同市域を特徴づける扇状地形の形成要因となっている。

第２節　地理的環境

遺跡の立地する曽根丘陵とは、境川以西から市川三郷町にかけて延びる東西約 10km、南北約３km、標高 320 ～ 400m の平坦面をいう。その東端部に位置する境川町の地形は、後背の御坂山地と盆地端部の急崖とをあわせて「ベンチ形」と例えられている。但し、曽根丘陵の一部であるものの、遺跡の所在する境川町寺尾一体は、地名のとおり東西約 1.4km の尾根上に立地する。これは笛吹川に向かって南東から北西へ流れ込む河川によって、半島状の小丘（舌状台地）が形成されたもので、現在もその尾根筋の両側には蟹沢川・間門川が流れている。

前付遺跡は、西側に隣接する馬場遺跡とともに、地元では多くの土器や石器が採集できる場所として知られていた。先述のとおり調査前まで畑地として利用されてきた場所で、果樹や根菜類などが栽培された。同台地周辺には住宅はみられるが、寺尾地区では調査地の北側にある別の幅が広い台地に立地する上寺尾・中寺尾地区に住宅地が形成されている。寺尾の地名は、伝承として残る大祥寺が調査地である尾根の上にあったことに由来するとされており、間門地内に残る凡字石は大祥寺の参道入口を示すともいわれる。地理的には、上寺尾・中寺尾が所在する尾根の北西端に大祥寺が移転したとする竜華院がある他、尾根上の常泉寺、全福寺、間門の竜昌院などの 16 ～ 17 世紀建立の寺院や、日枝神社、諏訪南宮大明神、さらに尾根下にも妙石庵、満願寺など多数の寺社が分布している。なお、凡字石と大祥寺の中間に古宮と呼ばれる箇所があり、この場所に治承年間（1177 ～ 1181）に諏訪南宮大神社が建立されたと伝わる。これが武田氏滅亡後に下曽根の福歳神社と中寺尾の諏訪南宮大明神に分社されたといわれている。また、旧中道町（現甲府市）側の中道往還の周辺にも右左口町に常福寺、円楽寺、御左口神社、中畑町に諏訪神社、心経寺町に安国寺、白山神社など、多くの寺社が分布する地域である。

遺跡の西側には中道往還が通る。山梨県では御坂山塊を境にして甲府盆地側を「国中」、富士五湖・都留・大月側を「郡内」と呼称している。中道はこの両地域を繋ぐ道のひとつであり、現在の山梨県道 113 号線甲府精進湖線のルートにあたる。かつては右左口宿から右左口峠を越え、古関、精進湖から本栖湖東岸へ抜け

（国土地理院発行20万分の１を加工・加筆）

第６図　遺跡の位置

て、駿河国へ至る最短の経路であり、古来より甲斐九筋とよばれた古道のひとつに数えられていた。また県南部を流れる富士川の流域は「河内」と呼ばれ、この地域を通って駿河と繋いだのが河内路（駿州往還または甲州往還）である。「中道」の名称は、西には河内路、東には若彦路があり、その中間を通る道であることが由来とされている。

第３節　歴史的環境

遺跡の西側を通る中道往還は、甲斐と駿河を結んだ最短のルートである。このルート上に位置し、甲府盆地の玄関口にあたる中道地域には、120 基以上の方形周溝墓を検出した上の平遺跡や天神山古墳や甲斐銚子塚古墳といった東日本屈指の前方後円墳などが形成され、弥生時代後半から古墳時代にかけては墳墓関連遺跡が集中的に分布している。

奈良時代には、古代、甲斐国は八代郡・山梨郡・巨麻郡・都留郡の４郡にわかれており、このうち境川町寺尾地域は、和名類聚抄による八代郡白井郷に属したと推測されている。甲斐国は東海道に属し、内陸国のため支路である甲斐路（御坂路）が横走駅から分岐し、御坂峠を越えて甲斐国府まで結ばれていた。ルートにはいくつかの説があるが、現在の笛吹市域に古代の中枢機関である国衙･国府の推定地や甲斐国分二寺が置かれた。同地域に古墳や官衙に関連する施設が置かれた背景には、山塊を越えで甲府盆地に入る最初の土地、いわば甲斐国の玄関口であり、その場所に古代国家の象徴的建造物を構築して権力を示す意図をもつと考えられる。

前付・大祥寺遺跡が所在する境川町寺尾の地名については、『甲斐国志』に「大祥寺アリテ村名ト為ル」とある。かつて大祥寺という寺院が存在したことが由来とされており、今回調査した大祥寺遺跡がその遺称地であった。同じく『甲斐国志』には、大祥寺が吉国山竜華院の前身寺院であり、暦応中（1338 ～ 1341）に現在の場所（甲府市上曽根町）に移ったという記載がある。また、地元においては、大祥寺は 806 年に弘法大師が開基し、寺尾地区は門前集落として栄えたと伝わる。「寺尾」は弘治四年（1558）の武田晴信棟別役免許状に「てらおの彦八」と記載されたのが初見とされている。これは寺尾の彦八の漆進上などの奉公に対して家一軒分の棟別を免除するというものである。寺尾の彦八については、永禄三年（1560) の武田信玄召漆状に触口とあり、漆職人頭であったとしている。『境川村誌』によれば、彦八は八代郡の触頭で、同状に記載されている漆産地のひとつであった七覚に対して漆調達の命を通達していたとする。また寺尾地域についての文書では、天正三年（1575）の武田勝頼藁縄調達状で、寺尾の郷に対して竹木・藁縄などの川除用資材の調達を命じたものがある。これらの資料から、同地域には漆等を扱う職能民や素材を調達できる環境があったことが推察できる。

第４節　周辺の遺跡

笛吹市域には多くの遺跡の存在が知られ、甲府盆地において最も遺跡の分布が濃密な地域であるといっても過言ではない。第７図に示したとおり、調査地周辺に分布する遺跡の多くは丘陵上に占地している。

第７図および表３には周辺遺跡の分布と概要をまとめた。調査事例は多くないが、一帯は旧石器が出土する遺跡も分布し、縄文時代から中世に至るまでの遺跡が周知されている。以下、これまでの報告事例から、時代別に発見された遺構をあげておく。

縄文時代

笛吹市側で諏訪尻遺跡（第７図４。以下､同図の遺跡番号のみ表記する)､物見塚遺跡（12)､天神遺跡（14)､甲府市（旧中道町）側では立石遺跡（26）の調査報告がある。諏訪尻遺跡では第２次調査まで実施され、縄文時代前期後半の住居跡３軒、土坑９基、集石土坑１基を検出している。物見塚遺跡では昭和 59 年に実施した調査で、縄文時代前期の住居跡１軒を検出している。天神遺跡では２次調査まで行われ、縄文時代中期

の住居跡２軒（曽利式期・加曾利ＥⅣ式期）、土坑３基を検出している。立石遺跡では旧中道町教育委員会・山梨県教育委員会により調査が実施され、縄文時代前期初頭の住居跡７軒を検出したほか、旧石器時代の文化層を３枚確認している。

その他、笛吹市域には1,116点の土偶が出土した縄文時代の一大集落である釈迦堂遺跡群や、県指定有形文化財の渦巻文土器が出土した桂野遺跡のほか、境川町域においても境川の東岸、狐川に形成された扇状地に位置する一の沢遺跡、西原遺跡などで集落の分布が発見されている。

弥生時代末～古墳時代前期

笛吹市側で諏訪尻遺跡、物見塚遺跡、天神遺跡、白戸遺跡（16）、北原遺跡（17）、甲府市側では立石遺跡の調査報告がある。諏訪尻遺跡で弥生時代後末～古墳時代初頭の住居跡17軒、方形周溝墓１基、低墳丘古墳２基を検出している。物見塚遺跡で弥生時代後期の住居跡１軒、弥生時代後期の土坑２基を検出している。白戸遺跡では方形周溝墓の一部と推定する溝状遺構が確認されている。北原遺跡では２次調査まで行われており、古墳時代前期の住居跡５軒を検出している。立石遺跡では、立石・宮の上遺跡として実施した県教育委員会の調査によって、弥生時代の住居跡23軒と方形周溝墓７基、古墳時代の住居跡６軒と方形周溝墓２基を検出している。本遺跡も該当するが、寺尾周辺、および中道地域では古墳時代前期段階に尾根上の平坦地に集落が形成される傾向が窺える。なお、前付遺跡にもかつてはマエツカ（前付塚か）と呼ばれた塚があったと伝わっている。

奈良・平安時代

天神遺跡、物見塚遺跡、諏訪尻遺跡などで遺構・遺物を検出しているが、周辺では希少な事例となっている。

周辺地域では奈良時代の遺構は確認されていなかったが、天神遺跡においては、平安時代２軒、土坑１基、溝１条を検出している。また、溶融した鉄が付着した粘土塊の出土や、物見塚では土坑から鞴羽口が出土するなど、鍛冶行為の痕跡も看取される。諏訪尻遺跡では、遺構外遺物として土師器坏、灰釉陶器坏、須恵器片が出土し、周辺では希少な事例となっている。

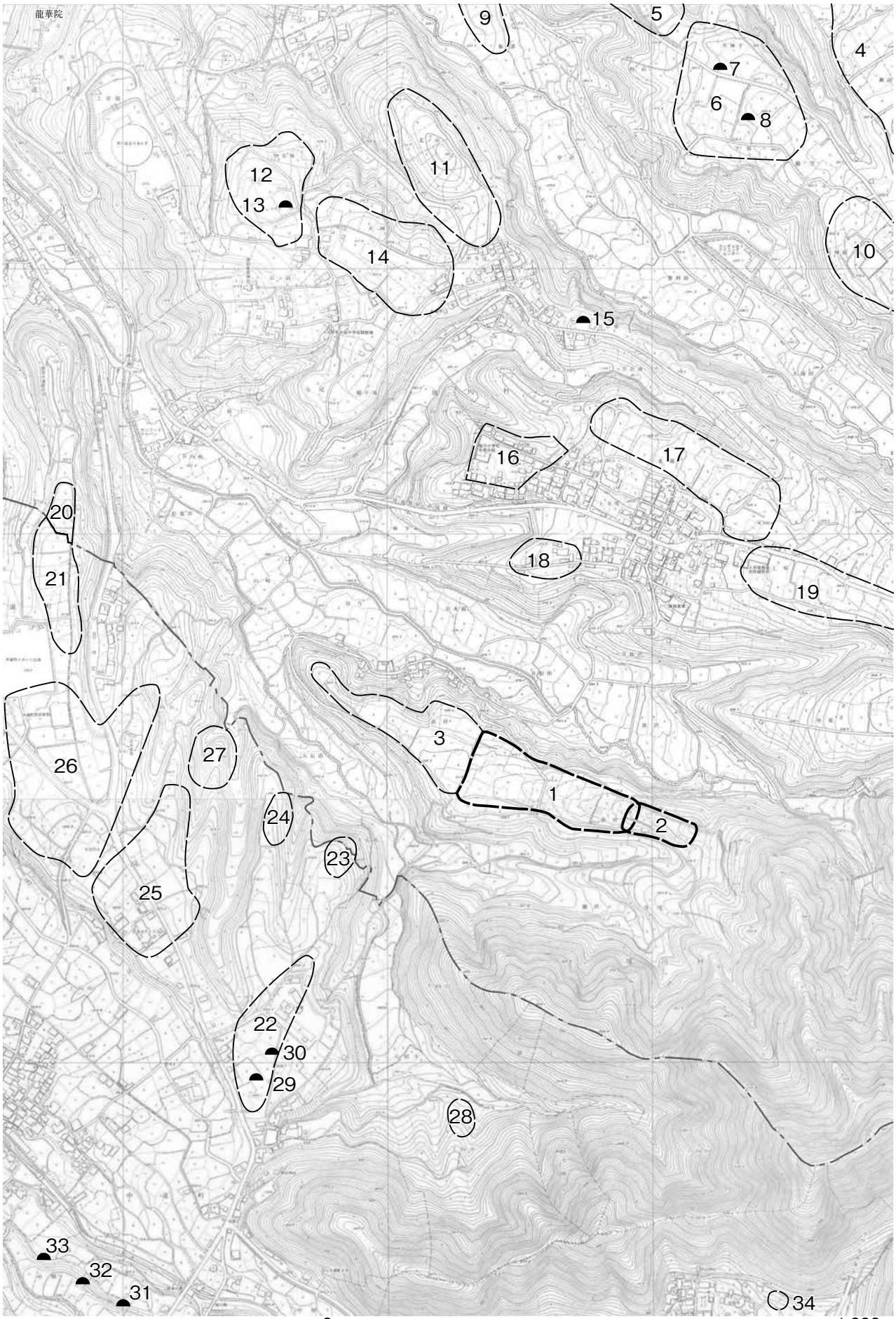
中世・近世

調査事例は少なく、天神遺跡で墓壙１基、諏訪尻遺跡で焙烙等の遺物を検出している。その他、中寺尾経塚（15）は、中世段階の経塚である可能性もある。

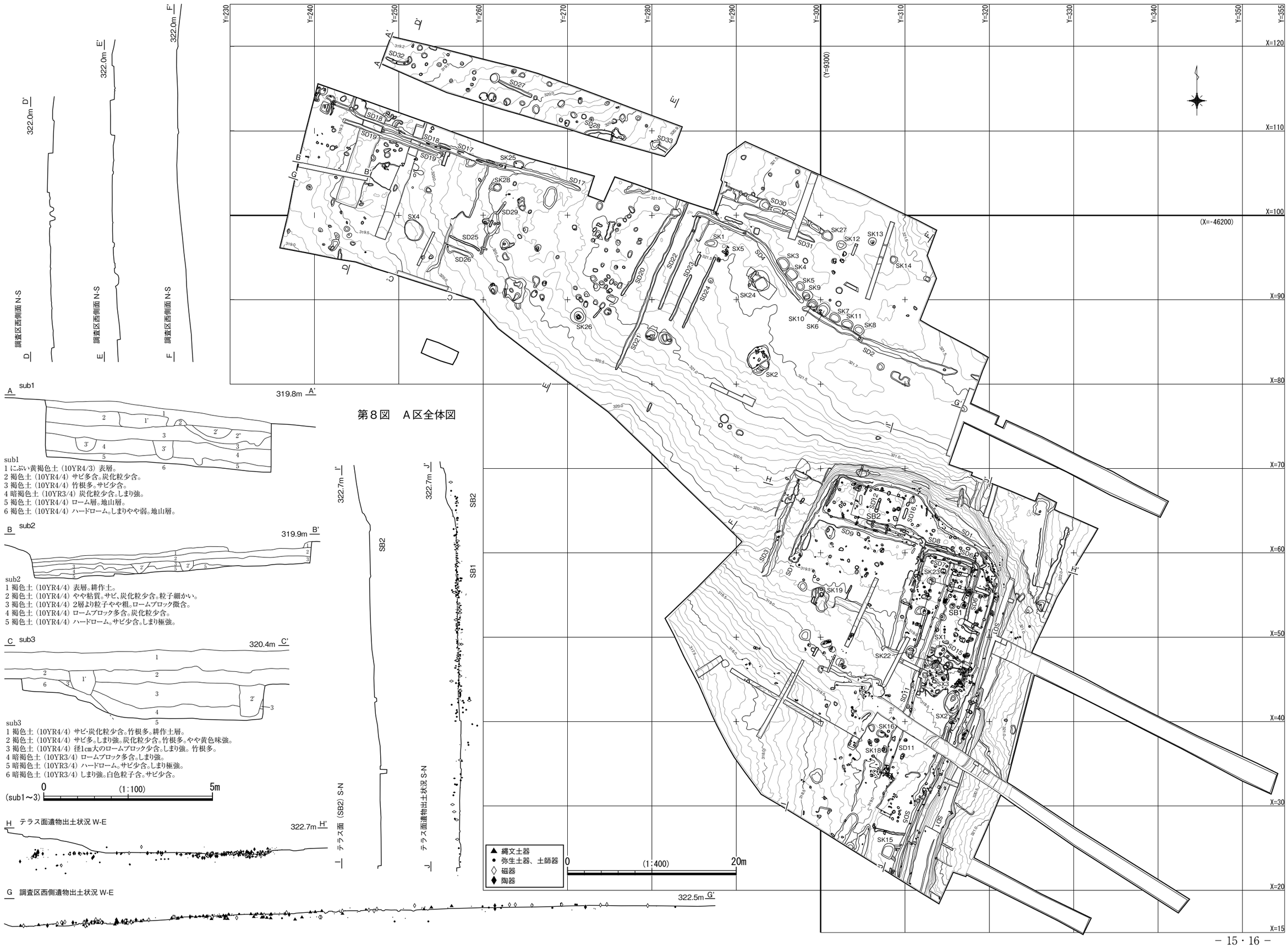
経石に関しては、立石北遺跡で一字一石経塚が出土し、同町内の晴雲寺に奉納されている。近年では笛吹市内に所在する甲斐国分寺跡の史跡整備に伴い、現国分寺が移転する際にも一字一石経が発見されている。文政10年（1827）の銘がある「薬師経石塔」という石塔を移動した後、その下と思われる場所で発見したという。いずれも経石自体の観察・検討などは未報告となっているが、今回の調査でも経石が検出しており、本地域の特色のひとつになる可能性もある。

表３　周辺の遺跡一覧

位置	No.	遺跡名	時期	市内No.
笛吹市	**1**	**前付遺跡**	縄文・弥生・古墳	132
	2	**大祥寺跡**	平安・中世	133
	3	馬場遺跡	縄文・弥生・古墳	131
	4	諏訪尻遺跡	縄文・弥生・古墳	70
	5	天神山遺跡	縄文・弥生・古墳	71
	6	下原遺跡	縄文～平安	72
	7	飯潰一号墳	古墳	73
	8	飯潰二号墳	古墳	74
	9	飯潰遺跡	中世・近世	75
	10	天神前遺跡	縄文・古墳～平安	76
	11	北ノ山遺跡	縄文・弥生・古墳	121
	12	物見塚遺跡	縄文・弥生・平安	122
	13	物見塚古墳	古墳	123
	14	天神遺跡	縄文・弥生・平安	124
	15	中寺尾経塚	中世?	125
	16	白戸遺跡	縄文・平安	126
	17	北原遺跡	縄文・弥生・古墳	127
	18	坂下遺跡	縄文・弥生・古墳	128
	19	上原遺跡	縄文・弥生・近世	129
	20	上の平遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	135
甲府市	21	熊久保遺跡	縄文・弥生・古墳	38
	22	諏訪前南遺跡	縄文・古墳	32
	23	諏訪前北遺跡	縄文	33
	24	諏訪前西遺跡	弥生・古墳	34
	25	北原遺跡	縄文・弥生・古墳	35
	26	立石遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	36
	27	馬乗窪遺跡	弥生・古墳	37
	28	別所遺跡	縄文	31
	29	無名墳	古墳	56
	30	無名墳	古墳	57
	31	無名墳	古墳	95
	32	無名墳	古墳	96
	33	無名墳	古墳	97
	34	心経寺横手遺跡	平安	102

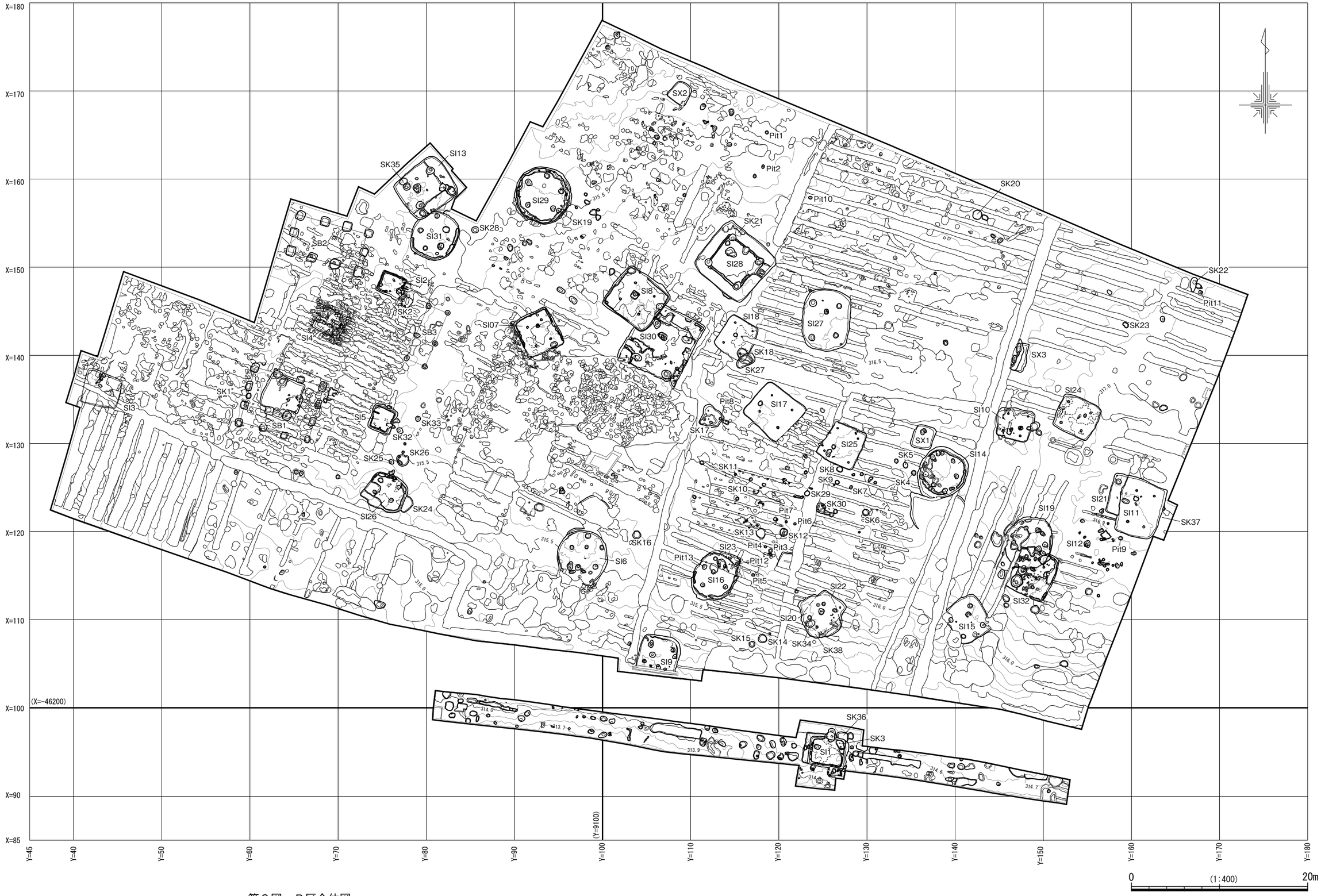


第７図　遺跡の位置と周辺の遺跡



調査区西側面 N-S
322.0m D'
322.0m E'
322.0m F'
sub1
319.8m A'
sub1
1 にぶい黄褐色土（10YR4/3）表層。
2 褐色土（10YR4/4）サビ多含。炭化粒少含。
3 褐色土（10YR4/4）竹根多。サビ少含。
4 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒少含。しまり強。
5 褐色土（10YR4/4）ローム層。地山層。
6 褐色土（10YR4/4）ハードローム。しまりやや弱。地山層。
sub2
319.9m B'
sub2
1 褐色土（10YR4/4）表層。耕作土。
2 褐色土（10YR4/4）やや粘質。サビ、炭化粒少含。粒子細かい。
3 褐色土（10YR4/4）2層より粒子やや粗。ロームブロック微含。
4 褐色土（10YR4/4）ロームブロック多含。炭化粒少含。
5 褐色土（10YR4/4）ハードローム。サビ少含。しまり極強。
sub3
320.4m C'
sub3
1 褐色土（10YR4/4）サビ・炭化粒少含。竹根多。耕作土層。
2 褐色土（10YR4/4）サビ多。しまり強。炭化粒少含。竹根多。やや黄色味強。
3 褐色土（10YR4/4）径1cm大のロームブロック少含。しまり強。竹根多。
4 暗褐色土（10YR3/4）ロームブロック多含。しまり強。
5 暗褐色土（10YR3/4）ハードローム。サビ少含。しまり極強。
6 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。白色粒子含。サビ少含。
(sub1～3) 0 (1:100) 5m
テラス面遺物出土状況 W-E
322.7m H'
調査区西側遺物出土状況 W-E
322.5m G'
322.7m I'
テラス面（SB2）S-N
322.7m J'
テラス面遺物出土状況 S-N
SB2
SB1
(Y=9300)
(X=-46200)
X=120
X=110
X=100
X=90
X=80
X=70
X=60
X=50
X=40
X=30
X=20
X=15
Y=230
Y=240
Y=250
Y=260
Y=270
Y=280
Y=290
Y=300
Y=310
Y=320
Y=330
Y=340
Y=350
Y=355
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
◇ 磁器
◆ 陶器
0 (1:400) 20m

第８図　Ａ区全体図


X=180
X=170
X=160
X=150
X=140
X=130
X=120
X=110
X=100
X=90
X=85
(X=-46200)
Y=45
Y=40
Y=50
Y=60
Y=70
Y=80
Y=90
Y=100
Y=110
Y=120
Y=130
Y=140
Y=150
Y=160
Y=170
Y=180
(Y=-9100)
SX1
SX2
SX3
Pit1
Pit2
Pit1.1
Pit10
Pit8
Pit7
Pit6
Pit5
Pit4
Pit3
Pit12
Pit13
Pit9
SI1
SI2
SI3
SI4
SI5
SI6
SI07
SI8
SI9
SI10
SI11
SI12
SI13
SI14
SI15
SI16
SI17
SI18
SI19
SI20
SI21
SI22
SI23
SI24
SI25
SI26
SI27
SI28
SI29
SI30
SI31
SI32
SB1
SB2
SB3
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK26
SK27
SK28
SK29
SK30
SK32
SK33
SK34
SK35
SK36
SK37
SK38
316.5
316.0
315.5
314.0
313.7
313.9
314.6
314.7
317.0
0
(1:400)
20m

第９図　Ｂ区全体図

第３章　大祥寺遺跡（Ａ区）

第１節　建物跡周辺

調査区東側の山裾と尾根南側を切り下げて構築した平坦面（テラス面）において、建物跡２棟を検出した。調査当初は調査区東側の斜面にみられる段状の部分が、寺院に関連するテラス面ではないかと推定していた。しかし、市教育委員会が実施した試掘調査では、近代の農作に伴う廃棄物が出土し、耕作によって地山を削平した痕跡であったことが明らかにされた。よって調査対象は拡張を行った最下面のテラスとその周辺とし、遺構の検出に努めた。

調査の結果、テラス面では多数のピット、溝跡、土坑等を検出し、その多くは建物跡に関連する施設、もしくは建物廃絶以降の痕跡であることが明らかとなった。ここでは各建物跡とテラス面の構築に関連する遺構を抽出して記す。ピットについては表４にまとめておく。

ＳＢ１（第10～12・37図）

位　置　X＝45～60、Y＝309～320グリッド、調査区東端のテラス面に位置する。北西にはSB2があり、その間には複数のピットを検出している。

主　軸　推定で、第１期回線（南北軸）：Ｎ－17°－Ｅ、第２期回線（南北軸）：Ｎ－16°－Ｅを測った。

遺構概要　尾根の南側および後背の斜面を切り土し、平坦面を構築する。検出した遺構は、南北５間、東西２間とさらにその東と南に軒状に柱穴列が伴う。

建物に伴う施設としては、遺構確認の際、不明遺構（SX1）としたが、火床とわずかに壁体が残存した竈を検出している。建物の南側に構築され、その周辺にピットが確認できなかったことから、土間を構築していたものと推定した。なお、竈が確認されたことで住宅建築であると推定でき、もしくは寺院に関連する遺構であっても、本堂ではなく庫裏的な建物であったといえる。

遺構は２面で確認され、上層確認面では暗褐色土が堆積していた柱痕と建物廃絶後に掘削されたと考える溝跡を検出した（図版１－４）。柱痕は径約15～25cmで、主に建物の外側の列で確認した。建物基礎の中央部分はやや基壇上に盛土されていた可能性もあり、上層確認面から約５cm～10cmほど掘り下げた下層確認面では、既に検出していたピットの掘り方と、覆土に暗褐色土に黄褐色土が混じる新たなピットを確認した。建物推定範囲の中央部ではピットが重複しており、柱の痕跡だけでなくいくつかのピットには柱材に用いたと思われる木材が出土しており、さらに重複部分に礫を充填している状況なども確認した（図版４・５）。ピットから出土した木材は、樹種同定によりクリ材（第41図89・93・94）とヒノキ材（同90・91・92）であることが判明しており、いずれも構築材として用いたと推定している。なお、建物中央部で木材が出土したピットは、重複状況からいずれも古い段階に位置づけられ、修築時に土中に柱痕を切り落としたものが土中に残ったものと推定できる。

なお、重複する新しい段階のピットには柱材の痕跡が見られず、抜き取って片付けられている可能性があり、その証左と考えたのが、石材や遺物をまとめて遺棄していたSX2と、多量の炭化物が広範囲に堆積していたSX3である。これらについては廃材等を一定の場所に集積し、処分した痕跡ではないかと推定する。

遺物出土状況（第10図）　出土遺物は多くはなかったが、建物範囲およびその周辺の溝より、陶磁器・かわらけ等が散在的に分布していた。特徴として、古銭の出土は確認できなかったことや、寺院の存在を示すような遺物が少ない傾向があり、SD1およびSX2より第38図25・第40図60の灰器と推定した素焼きの土器片と、SX2から第44図127の五輪等の地輪１点が出土した程度であったことがあげられる。

出土遺物（第38・43・44図）　第38図１～３は陶器皿で、１・２は瀬戸・美濃所産16世紀前半の大窯Ⅱ期、３は大窯Ⅰ期で内面見込み部に印花文がみられる。５・７・８はかわらけで、おおよそ出土した陶磁器と同じ時期に位置づけられる。柱穴からは９～14のかわらけ、15の景徳鎮所産で15世紀後半～16世紀の白磁皿、16の土鍋片の他、時期不明であるが17の手捏土器などが出土している。

石製品では第43図124の砥石、金属製品では第44図134の刀子と推定するものや、135・136の火打ち金を検出している。その他、138･139の不明銅製品、140の鉄滓なども同遺構およびその周辺から出土している。

時　期　数回の建て替えを行った可能性があるが、出土遺物の年代からは、15世紀中葉～16世紀段階と、18世紀後半段階の２段階の時期を設定できる。

ＳＢ２（第15・16・37図）

位　置　X＝61～68、Y＝300～311グリッド、調査区東側のテラス面に位置し、南東にSB1、西側のテラス面より上方にSD3が位置する。

主　軸　N－17°－E

遺構概要　SB1とは建物の主軸方向を約90度変えており、東西に伸びる尾根の南側を掘削して構築している。おそらくは北方からの風を避ける意図があり、SB1と同様に計画的に構築されたものと推定した。SB2はテラス北西端の最も地表面から深く掘削を入れている場所にあたる。そのため、建物北側の斜面がテラスの造成や建物の立替を考える要所になると考え、その形状の検出に努めた。結果、遺構上の堆積土は斜面上方から流れ込んできた土でパックされている状況を確認し、その下層でピットと溝を検出した。なお、斜面の切り落としは、基本層序第Ⅹ層近くまで掘り下げており、斜面と遺構面は調査区西側で検出した地下式坑（SK2）内部と同じく黄白色土が露出していた。

遺構検出面ではピット43基を確認しているが、建築材等の出土はなかった。ピットの深さは20㎝程度の浅いものが大半であるが、礎石を用いた建物構造であったとも考えられる。南側には東西方向に等間隔で４間分のピットが２列確認できる。またSD1に沿って柵または杭跡と思われる小ピットが検出でき、囲いのような施設であった可能性もある。SB1との比較では、同遺構では比較的浅いピットと短い溝状の窪みが観察されたことから、木材や礎石等を用いた建物であった可能性や、馬屋等の施設が推定される。また、SB1と同様にテラス面の西端から北端のSD1にも再構築されている状況が窺え、同遺構についても建物等の立替もしくは何らかの施設を構築し直している可能性が窺えた。

遺物出土状況（第15図）　建物と推定した範囲からは遺物の出土はほとんどなく、小片や焼成粘土塊などがわずかにみられた。遺物は主にSD1･9周辺から出土しており、かわらけ片や陶磁器片が散在していた。ピット等の遺構確認面でも同様で、遺物の分布は薄かった。

出土遺物（第38図）　４は瀬戸・美濃所産で16世紀代の擂鉢、６はかわらけ、SD1覆土より19の天目茶碗片が出土している。

時　期　建物の痕跡自体が乏しいため、明確な時期は不明であるが、SB1同様に近世初頭から18世紀中頃までとしておきたい。

ＳＤ１（第16～18図）

位　置　X＝20～50、Y＝290～320グリッド

軸方向　西辺：N－27°－E、東辺：N－17°－E、屈曲がみられる北辺は、おおよそN－62°－Wの方向を示す。

遺構概要　幅は1.3ｍ、深さはおよそ0.2ｍを測る。テラスの形状に沿って端部を外周する溝で、確認した範囲では、全長72.7ｍである。東辺ではSD5との重複関係が明確にみられ、同遺構がテラス面または建物の改築伴って掘削した遺構と考えられる。北辺は、SB2建物部分で凸状に屈曲し、また鬼門の方位である北東部でも緩やかにクランクしている。

同遺構は底面には鉄分や砂粒の堆積がみられる箇所もあり、SD5との重複部分では周提状に盛土している箇所も認められた。テラスの構築で切り下げた斜面から滴る水を排水する目的があったと考える。

遺物出土状況（第17図）　遺物は16世紀、17世紀後半～18世紀中頃の遺物が出土した。建物廃棄後に整地等を行った可能性があるためか、遺構内ではSB1より南で複数出土した。また同じテラス内ではあるが、

やや距離のある位置で出土した遺物と接合するものがあり、遺物が散在している状況が窺える。
出土遺物（第 38・42・44 図） 第 38 図 18 は貿易陶磁であり、景徳鎮所産の磁器碗で、16 世紀前半に比定する。19 ～ 24 は陶器で、瀬戸美濃所産である。19 は天目茶碗で 16 世紀後半、20 は皿で 16 世紀の大窯Ⅲ類、21 は壺で 17 世紀後～ 18 世紀に比定する。22 は壺と推定し、17 世紀後半に比定する。23 は腰錆茶碗で、18 世紀前、24 は片口鉢で 18 世紀前～中である。25・26 は土器である。25 は灰器の底部および脚部であり、SX2 からは同一個体と推定した口縁部の破片（第 40 図 60）が出土している。所産地は不明である。26 は擂鉢である。その他、第 42 図 99 の石鏃、第 44 図 128 の鉄鏃、138 の不明銅製品が出土している。
時　期 出土遺物は建物跡と同様に時期差が認められるが、遺構の重複状況から、近世初頭から 18 世紀中頃までとしておきたい。

ＳＤ５（第 17・18 図）

位　置 X = 20 ～ 50、Y = 300 ～ 320 グリッドに位置し、重複する SD1・SX2 に壊されている。
遺構概要 幅は1.3ｍ､深さはおよそ0.3ｍを測る｡テラス面の東側縁辺に構築された溝で､確認した範囲では、全長 36.7 ｍであった。テラス面では SD1 の内側に位置し、重複関係から、SD1 に先立って構築された遺構である。おそらくは SD1 と同様の機能があり、テラス面の拡張または修築時に廃棄・埋め立てられたと考える。なお、南側では埋め土の上に周堤状に盛土されている部分がみられた。
出土遺物（第 39 図） テラス面の改修時と建物廃絶時の状況の差であろうか、他の溝とは異なって埋没土中に陶磁器類を伴わず、SB1 の東側で第 39 図 35 の古墳時代の土師器甕片が混在したのみであった。
時　期 不明であるが、SB1、SD1 との関係から、少なくとも 16 世紀には存在していたであろう。

ＳＫ１５（第 26 図）

位　置 X = 24、Y = 308 グリッド、調査区東南端に位置する。
主　軸 N － 24° － E
遺構概要 平面形不整方形で、1.79 × 1.38 m、深さ 0.18 ｍを測る。遺物はなく、SD5 に連結するように溝が２条付属する。
時　期 遺物は出土しなかったが、SD5 との関連する遺構であれば、16 世紀代まで遡る可能性がある。

ＳＸ１（第 30 図）

位　置 X = 48、Y = 314 グリッド、SB1 内の南側に位置し、Pit163 に切られる。
遺構概要 検出時には既に壁体はなく、底面のみが残存する状態であった。出土遺物はなく底面にはわずかに焼土がみられたが、壁体の基礎部の上層も他所と同じ土に覆われていたことから、廃棄後に整地された可能性があり、焚き口の向きも西面か東面か、判断できなかった。建物跡の柱穴の配置から最も南の柱間に土間を構築していたと考えられる。なお、SB1 の南側で覆土中に多量の炭化物が混じる SX3 は、同遺構より南側に広がっており、建物廃絶が火災によるものであれば、同遺構が火元となった可能性も推定できる。
時　期 不明であるが、建物内施設のため、構築・廃絶の時期は SB1 と同時期と考えられる。

ＳＸ２（第 30・31 図）

位　置 X = 42、Y = 315 グリッド、SB1 の南側に位置し、SD1、SD5 の一部を切る。
主　軸 N － 12° － E
遺構概要 平面形は不整円形で径 3.10 ～ 1.85 m、深さ 0.25 ｍを測る。多数の礫とともに陶磁器、土器、石製品が出土した。上層では礫は平石や面が平らなものが多くみられた。底面付近では人頭大～拳大のものが混在し、覆土には多量の炭化粒を含んでいた。但し、この場所で火を炊いた形跡はみられず、焼けたものなどをまとめて廃棄したと考えられる。

遺物出土状況（第 31 図） 礫が多数充填されており、これに混じって遺物が出土した。主に下層近くからの出土が多く、土器や陶磁器類、小品の石製品などが出土した。碁石以外に完形のまま遺存していたものはなく、建物廃絶後に廃材等を片づけ、整地した際に廃棄したものと推定する。

出土遺物（第 39･40･42 ～ 44 図） 第 39 図 54 は龍泉窯所産、15 世紀の磁器皿、55･56 は瀬戸･美濃所産、16 世紀の陶器碗である。57・58 はかわらけ、59 は土器で甕である。第 40 図 60 は灰器で、SB1 で出土した 25 は同一個体と思われる。第 42 図 105 ～ 111 は碁石と思われ、それらと同じ大きさに欠いた磁器片も数点出土している。礫に混じり、石製品が出土しており、第 43 図 125 は茶臼、26 はひで鉢、第 44 図 127 は五輪塔（地輪）である。133 は刀子であろうか。

灰器や茶臼、五輪塔などの出土は、寺院との関連性を考える要点にはなるが、明確に断定できるものではないといえる。但し、同時期の建物における生活の痕跡を発見できたことは、県内では希少な事例であり、今後も検討していく必要がある。その他、第 42 図 95 の黒曜石の石鏃が混在した。

時　期　出土遺物の年代から、16 世紀と比定するが、SB1 廃棄後の遺構と位置づけておく。

ＳＸ３（第 32・33 図）

位　置　X = 42 ～ 48、Y = 311 ～ 317 グリッド、SB1 内の南側、SX1 と SX2 の間に位置する。

遺構概要　明確な掘形等があるわけではなく、凹地に多量の炭化粒を含む土が堆積していた。調査時は上層が撹乱されていることを想定し、ベルトを残して掘り下げを行った。しかし下部に遺構は確認できず、一部地山を掘り下げてしまった部分もあった。周辺に SX2 があったことから、可燃性の廃材等を処分した痕跡ではないかと推定した。出土遺物は少なく、散在していた。

出土遺物（第 40 図） 61 ～ 63 は陶器である。61・62 は瀬戸・美濃所産で、61 は大窯の皿、62 は端反皿、63 は瀬戸・美濃所産で、17 世紀中～後の徳利である。64 はかわらけである。65 は粘土塊で、SX1 の竈壁であろうか。

時　期　出土遺物からは 16 世紀以降と比定するが、建物廃棄後の痕跡と考えるため、SB1 廃棄後と位置づけておく。

第 2 節　溝（SD）

A 区では 33 条の溝を検出した。テラス面の構築に関わるものについては概述したが、ここではそれ以外について記す。なお、調査区西側で検出した溝はすべて耕作等に伴って掘削された痕跡と断定した。遺構内から出土した遺物はほとんどないため、これらを調査区西側検出の溝と一括して報告する。また、同様に耕作の撹乱以外に遺構が検出できなかった道路北側の調査区についてもあわせて報告する。

ＳＤ３（第 17・18 図）

位　置　X = 50 ～ 60、Y = 290 グリッド。テラス面の西側に位置する。

主　軸　N － 20° － E

遺構概要　全長 12.1 m、幅 1.0 m、深さはおよそ 0.3 mを測る。SD1 の西側に位置する南北方向へ伸びる溝で、状況から東側のテラス面へ下る雨水の排水を目的に構築したと推定した。SD1 西編よりも長く、南側の傾斜面途中で立ち消えていた。

遺物出土状況（第 17 図） 主に 17 世紀～ 18 世紀までの陶磁器類が出土しており、同遺構の南で、溝の掘形は立ち消えた先でも遺物が出土している。

出土遺物（第 39・42 図） 第 39 図 28 ～ 30 は磁器である。28・29 は景徳鎮所産で、28 は 16 世紀前葉に比定する端反碗である。29 は 16 世紀後半の皿である。30 は肥前所産の仏花器で、18 世紀頃か。31 ～ 34 は陶器で、いずれも瀬戸・美濃所産である。31 は碗で 17 世紀中～後、32 は片口鉢で 17 世紀末～ 18 世紀前半、33 は鉢で片口と推定し 18 世紀前半、3 は擂鉢で 18 世紀前～中に比定する。その他、第 42 図 102 は縄文時代のユーストフレイクなども混在した。

ＳＤ６（第 11・17 図）

位　置　X = 50 ～ 60、Y = 310 グリッドで、SB1 の北側にあり、コの字状を呈す。内側には同様に SD7 が巡る。

主　軸　西辺：N － 29° － E、北辺：N － 29° － E

遺構概要　幅は 0.4 m、深さはおよそ 0.1 mを測る。テラス面の北東にいくつかのピットを囲むように構築している。確認した範囲では全長 14.7、深さ 0.1 mを測った。幅は狭く、雨落ち等の用途が考えられるが、SB1 とした Pit148 と重複していることから、別の施設に伴った可能性がある。

出土遺物（第 44 図）　129 の角釘のほか、土師質土器片等が出土した。

時　期　不明。

ＳＤ７（第 11・17 図）

位　置　X = 50、Y = 310 グリッドで、SB1 の北側にあり、コの字状を呈す。外側には同様に SD6 が巡る。

遺構概要　全長 12.6 m、幅は 0.6 m、深さはおよそ 0.08 mを測る。SD6 同様に雨落ち溝と考えたが、同遺構が伴う建物については不明である。

出土遺物（第 38 図）　21 の瀬戸・美濃所産の陶器壺は、SD1 出土遺物として報告しているが、同遺構出土の破片とも接合した。17 世紀後半～ 18 世紀に比定される。

時　期　遺物は陶器片がわずかに出土したが遺構の時期を断定するものはなく、重複状況から SB1 廃絶後と位置づけておきたい。

ＳＤ８（第 11・16 ～ 18 図）

位　置　西側：X = 60、Y = 300 ～ 310 グリッドで、SB1 の北側から SB2 の南側に延びる東西方向の溝である。

遺構概要　調査時点では同一の方向で続くため、ひとつの遺構としたが、図面からは別遺構とするのが妥当と考え、SB1 側を SD8A、SB2 側を SD8B とした。

全長は 11.4 m、幅約 0.8 m、確認面からの深さは 0.05 mであった。SD8A は長さ 3.8 mで、主軸方向はN － 73° －Wである。SD6 と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物は、36 の擂鉢片 1 点が出土した。SD8B は長さ 7.6 mで主軸方向はN － 71° －Wである。SB2 の南側に位置し、北側の斜面が凹むところまで延びており、建物変遷に伴う遺構である可能性もある。また、掘り方が段状になる部分もみられ、一部掘り直しをしている可能性も窺える。

時　期　SB2 との関連性は窺えるが、遺物は土器片が少量出土したのみで、詳細な時期は不明である。

ＳＤ９（第 16 ～ 18 図）

位　置　X = 60、Y = 290 ～ 310 グリッド、SB2 の南側に位置する。北側には SD8B がある。

主　軸　N － 72° －W

遺構概要　全長 12.4 m、幅は 1.2 m、深さは 0.08 mを測る。SB2 の南側を東西に区切るように掘削しており、北側の立ち上がりにいくつかピットが重複する。SB2 建物推定域の付近では、土師質土器等の出土と溝の南側で Pit166・179 などを検出している。本遺構は、SB1 側にある SD9・10 と同様に、建物前を区切り、柵列等を伴うような何らかの境界を成していたと思われる。また、溝の両脇にピットがみられることから、その範囲への入り口などの痕跡である可能性が窺える。

出土遺物　図化しなかったが、土師質土器や陶磁器の小片が出土している。

時　期　明確ではないが、建物との関連性と小片遺物の出土から、16 世紀前半頃と考えておきたい。

ＳＤ１０（第 17 図）

位　置　X = 40 ～ 50、Y = 300 グリッド、SB1 の西側に位置する。

主　軸　N － 18° － E

遺構概要　全長 9.6 m、幅は 1.3 mを測る。非常に浅い溝で、SB1 の南端あたりで立ち消えている。他の遺構と比べ、幅広である。SB1 に関連する遺構の西端に位置しており、SB2 南側の SD9 と同様に、建物の軸に平行しており、何らかの境界を成していたと思われる。また、ほぼ同じ軸線をもつ SD11 とは、建物建替えなどに伴い、変遷した関係にあると考えられるが、判然としない。

出土遺物（第 39 図）　37 は陶器で鍋である。所産地は不明であるが、19 世紀中葉～後葉のものと思われる。38 は土師器坏である。

時　期　遺物が少なく不明である。同軸方向の SD6・7 と同じ時期に構築されたものであろうか。

ＳＤ１１（第 11・17・18 図）

位　置　X = 30 ～ 50、Y = 300 ～ 310 グリッド、SB1 の西側に位置する。

主　軸　N － 18° － E

遺構概要　全長 26.8 m、幅は 1.4 m、深さはおよそ 0.1 mを測る。SB1 を縦断するように南北に延びる溝である。SD 9・10 と同様に、やや幅広で何らかの境界をなしていた可能性が窺える。なお、SB1 との重複関係から、建物廃絶後に掘削されたものと考えるが、明確ではない。

遺物出土状況（第 17 図）　SB1 と重複する部分から、古手の遺物が出土しているが、同遺構への混入もしくは掘削面からの出土と考えられる。

出土遺物（第 39･43 図）　第 39 図 39 ～ 41、44 は磁器である。39 肥前所産で 17 世紀末～ 18 世紀前の白磁坏、40 は龍泉窯所産で 14 世紀の青磁碗、41 は景徳鎮所産で 15 世紀後半の碗である。42・43 は陶器で、42 は瀬戸・美濃所産で 17 世紀後半の皿である。43 は肥前所産で 17 世紀後～ 18 世紀中の皿で、底部に墨書がみられたが、判読はできなかった。44 の磁器は肥前所産で 17 世紀中葉の皿である。第 43 図 123 は砥石である。

時　期　遺物は古手であるが、SB1 との重複部に限られるため、建物廃絶後に掘削された遺構と考える。

ＳＤ１２・１６（第 16・17 図）

位　置　X = 60、Y = 300 グリッド、SB2 内に位置する。

主　軸　N － 19° － E

遺構概要　全長 1.3 m、幅は 0.4 m、深さはおよそ 0.1 mを測る。SB2 内にある短い溝で、東側には SD16、また西側にも同様の溝の痕跡がみられた。性格ははっきりしないが、丸太等を横にして並べた基礎の跡などの可能性もあり、今後の検討の課題である。陶磁器などの遺物は出土しなかったが、SD12 から焼粘土を検出している。

調査区西側検出の溝および道路北側調査区（第 19 ～ 23 図）

遺構概要　調査区西側では耕作に伴う掘削痕が多数みられ、畝状の耕作痕や根切り溝として掘削したものと推定した SD2･4･17 ～ 33 や、不整形で耕作による撹乱と判断したピット状の掘り込みを 102 箇所検出した。

尾根の傾斜面はほぼ竹類に覆われており、地下茎の侵食は耕作へ影響したものと考えられる。SD17･18 は、竹の根切り溝だけでなく、尾根頂部に通る道路の側溝としての用途も兼ねていた可能性がある。

SD2･4 はテラス面の上、北西に位置し、多くの土坑と重複する。東側に同じ性格の遺構の SD4 が位置し、への字状に延びている。SD17 も同様の遺構で、いずれも尾根頂部にあたる道沿いに位置し、畑区画に沿って東西方向に延びていた。土坑との重複関係は覆土のしまりが緩く、さらに竹の根などによってはっきりしなかった。溝自体は竹の根切りを目的に開けられたものと考えられる。溝断面の形状から、数回の掘り直しがされていたようであるが、重複関係と同様に覆土からは判別がつかなかった。

道路北側の調査区では、遺構・遺物は検出できず、樹木の根跡などが出土した。なお、同調査区西端でもサブトレンチを設けて土層確認を行ったが、表層下は基本層序第Ⅳ層以下であった可能性があり、遺構確認面が既に耕作層で撹乱・削平されていた可能性も窺えた（第８図 A-A'）。

出土遺物（第 39・43 図） SD2 から出土した第 39 図 27 は瀬戸・美濃所産の陶器の擂鉢で、18 世紀頃に比定する。また調査区西側では縄文時代の土器片、石器等が散在した。第 43 図 121 は凹石で、ピット内から出土したが、周辺状況から判断して後世に紛れ込んだものと判断した。

時　期　一度に掘削したものではなく、また数回の掘り直しをしているものと考えられる。遺物が少なく、時期については不明であるが、おそらくは近世～近代に周辺が畑地化してからの痕跡であろう。

第３節　土坑（SK）

土坑については、A 区では地下式坑２基と経石埋納土坑、SB1 の廃棄土坑を含め、計 29 基を検出した。各遺構の規模等の詳細は表６にまとめた。地下式坑と経石が出土した SK1 以外の土坑の特徴について記しておく。

ＳＫ３～１４、２５、２７（第 23 ～ 27 図）

遺構概要　調査区西側において、多数の礫を内包した土坑を検出した。SK3~11 までは SD2・4 に沿って掘削されている。SK25 は重複する SD17 を壊しており、SK27 も SD30 の西端に重複して壊している。

各遺構とも拳大程度の礫が多数伴い、被熱して変色したものが多数みられた。礫以外に出土する遺物は少なく、時期や用途については不明である。SD と重複する遺構内では、炭や焼土などの痕跡はなかった。

一方で、SD2･4 と重複する土坑よりも北側で検出した SK13･14 は、いずれも覆土に多量の炭化物が混じり、火を焚いていた痕跡と思われる。この状況から、焼けた礫を別の場所へ運び、なんらかの用途で使用した痕跡と考えられる。

これらの土坑と溝との関連性については SD2 ・4 で概述したが、SK25・27 については、それぞれ SD17、SD30 との重複状況から同時併存ではないことが明白である。また土坑同士が重複する部分がみられないことから、尾根頂部の道沿いで何らかの行為を計画的もしくは一斉に行った可能性が窺える。

遺物出土状況（第 39・42・43 図）　遺物が伴わないものが大半であったが、SK4 で第 39 図 49 の肥前所産の 18 世紀中～後葉の磁器碗、SK6 で 50 の焙烙と第 42 図 115 の打斧、SK8 で第 43 図 122 の砥石画出土した。その他、図化しなかったが SK11 から用途不明の薄い板状の金属片なども出土した。

時　期　判断要素が少なく、近世から近代頃か。

ＳＫ２６（第 27 図）

位　置　X = 88、Y = 271 グリッド、調査区西側の緩やかな南傾斜面に位置する。

遺構概要　平面形は不整円形で、1.87 × 1.80 m、深さ 0.50 m を測る。覆土に多量の礫と炭化物を含む。底面中央に 29 × 23 × 13cm の平石をおき、そのまわりを石を囲うようにして石組の炉床とする。地山直上は被熱で硬化していた。SK13・14 も覆土に礫と炭を含んでいたが単層で、礫が混在する層も浅いため、同遺構とは構造的な違いがみられた。縄文時代の屋外集石炉と考えられる。

出土遺物（第 39 図）　51 の無節縄文が施文された縄文土器片 1 点を図化した。

時　期　時期を示す遺物は少なかったが、縄文時代前期中～後半としておく。

ＳＫ２８（第 27 図）

位　置　X = 103、Y = 261 グリッド、調査区西側に位置する。

主　軸　N － 76° － E

遺構概要　上層に耕作の撹乱が入っており、掘り下げてしまったが、平面形は円形で 1.42 × 1.00 m、深さ 0.38 m を測る。覆土中と遺構底面付近より人頭大の礫が出土した。遺物は縄文時代早期の土器片が出土したが、上層からの出土で、埋没時に混入した可能性がある。

出土遺物（第 39 図）　53 は縄文時代早期後半、竹管による押引沈線文をもつ土器で、繊維痕があるが、繊

維土器ではないとみられる。遺構外出土の 68・69 と同一か。

時　期　不明。

第４節　地下式坑

ＳＫ２（第 28 図）

位　置　X = 82、Y = 292 グリッド、調査区西側に位置し、北側に SK24 がある。

主　軸　N − 28° − W

遺構概要　重機による表土掘削時に、天井部の土が崩落して発見された。尾根平坦部の南端に構築しており、土のしまりは悪く、天井の他、竪坑の壁部など崩落している部分が多くみられた。天井が大きく崩落しており、使用時の空間規模は明確ではないが、主室の平面形は不整楕円形で 2.84 × 1.90 m、地表面から底面までの深さは約 2.72 mを測る。天井面は確認できず、主室の高さは不明である。側面には約 15cm 幅の鋤鍬状の工具痕が残る。

竪坑は南側にあり、ステップ状に３段ほど下る壁構造であったと思われる。竪坑の一番下の段で 2.16 × 0.10 mのスペースを設けていた。基本層序のⅩ層近くまで掘り下げられ、壁面には黄白色土がみられ、底面は壁面から染み出した水によって鉄分が堆積して、硬くしまっていた。遺物はなく、底面近くに礫１点があった。

時　期　不明であるが、県内では中世に寺院近くで検出される事例が報告されており、周辺の状況から中世から近世の時期に比定される可能性がある。

ＳＫ２４（第 29 図）

位　置　X = 92、Y = 292 グリッド、調査区西側に位置し、北側に SD4、南には SK2 がある。

主　軸　N − 47° − W

遺構概要　尾根の頂部に構築されており、検出時には主室・竪坑ともに土で充填された状態にあり、遺存状態は良好であった。堆積土の観察からは、竪坑の掘り直しや、人為的に埋め立てられた痕跡が窺えた。

竪坑の平面形は丸形で径 2.70 × 2.60 mを測った。地表面から約 0.9 mの深さで主室の横穴となる。竪坑底面までは 1.45 mを測る。主室は竪坑の南東側に位置し、底面をさらに一段低く構築され、地表面からの深さは 2.55 mを測る。主室の壁面は、平坦に削り整えて構築しており、奥壁に対して右側の壁が屈曲し、平面形は五角形を呈した。平面測量は天井部を除去した後に行い、奥壁までの長さは 2.75 m、奥壁幅は 1.65 mを測る。なお、主室の天井の表面はほとんど崩落していた。奥壁右上の隅に、一部天井面がみられ、底面からの高さは約 1.2m を測る。

主室の対面にはさらにもうひとつ横穴が設けられていた。主室と異なり、掘削が粗く小規模な空間もしくは未完成であった可能性もある。平面形状は方形と思われ、1.08 × 0.72 m、天井面は崩落していたが、底面からの高さは 1.1 mを測る。覆土の堆積状況からは、主室がある程度埋没した後に掘りはじめたと推定される。

時　期　出土遺物がなく、不明であるが、SK2 と同様で中世から近世に比定される可能性がある。

第５節　　経石埋納遺構

SK1（第 33 ～ 36 図）

位　置　X = 96、Y = 287 グリッド、調査区西側に位置し、SX5 が隣接する。

主　軸　N − 86° − E

遺構概要　平面形は楕円形を呈し、径 1.50 × 0.78 m、深さ 0.20 mを測る。試掘調査時に確認した遺構で、

調査以前まで大祥寺の由来に関わる根拠のひとつとされてきた。傍らには楓の木と竜華院の名が刻まれた石碑が存在した。石碑は現在、甲府市下曽根町に所在する同院の境内に移設されている。高さ 91.5㎝、幅

46㎝の自然石で、文字は表に縦３行「明□五　辰□月二日／龍華開山大禅師之塔／吉国山霊場舊跡」、左側面に縦１行「桑（原カ）常庸造立之」と刻まれている。竜華院の開山は桂節宗昌、明応五年五月二日寂で1496年にあたるが、後に顕彰して建てたものだろう。

試掘時に発見してから本調査までの間はブルーシートをかけて埋設保護していたため、ほぼ検出時の状態のままで、経石の間には多少の竹根の侵食がみられたが、遺存状況は良好であった。取り上げに際しては写真実測と、中央断面の堆積状況を記録した。

出土した経石は、一石に多数の文字を書く多字一石経であり、経文との照合によって「金剛般若波羅蜜経」と判明した。出土資料には判読できない石や文字が消えてしまった石、または文字を書かなかった石も含まれたが、経文の照合から、同経典の終わり近くの部分に一致する文字が確認でき、経典すべてを写経したものと推定する。さらに数点ではあるが、別経典（大悲心陀羅尼）と推定される経文が混在した。

遺物出土状況（第34～36図）　遺構内から出土した礫すべてを取り上げ、試掘時に取り上げた１点を含めると総数は1325点であった。経石の取上げは写真測量による平面記録の上、堆積状況確認のため土坑中央部をベルト上に残しながら、光波測量によって一点ずつ取上げた。土坑内には比較的均一で、平坦に埋納されていた。また、経石は、石に写経する行為であるため、必然的に書いた順序が生じる。表経文と照合できた範囲でその順番を記した。取り上げは全点記録しており、経文の順番からみた出土状況の再検討も行ったが、出土位置と経文の順番との間に関連性はなく、現地において経文の前後関係を意識した礫の出土状況は認められなかった。

経石は、肉眼観察により石材の特徴をＡ～Ｋに分類し、各グループでみられた典型的な岩石について観察を行った（表11）。経石の文字については多字一石経のため、ひとつの石の複数面に書き込まれており、先に書いた文字が薄くなっているものもみられた。また、写経は砂や土など除去しきれていない面にも書かれており、その汚れの欠落とともに書いた文字も消えている箇所がみられた。経石の文字には筆跡の違いが認められ、複数人によって書かれているものと推定した。なお、第46図228の最も大きく重量のある石材には、「金剛般若波羅蜜經」と経文名が書かれていた。要となる石と考えられたが、出土した位置は経石出土範囲の北西端の上層にあり、特別な意匠もって配置しているような様子は看取できなかった。

時　期　近世か

第６節　性格不明遺構

遺構検出の際、その遺構の性格が推定できなかった遺構を、SX として調査を進めた。SX1 ～ SX3 については、第１節で概述したとおりであるが、その他、調査区西側で検出した遺構について述べておく。

ＳＸ４（第33図）

位　置　X = 98、Y = 251 グリッド、調査区西側、SD25・26。

遺構概要　平面形は楕円を呈し、径2.6 × 2.1ｍ、深さ0.23ｍを測る。掘り方もほぼ平坦であり、特徴はみられなかった。上層から遺物が出土しているが、混入と思われる。時期不明であるが、耕作痕の可能性も高い。

ＳＸ５（第33図）

位　置　X = 95、Y = 288 グリッド、経石が出土したSK1の東側に位置する。

遺構概要　最大縦50cm、幅20㎝大の石が、約2.1ｍの範囲内に12点ほど出土。遺物はなく、時期は不明である。調査区は尾根上に位置するため、石材自体が少なく、地山に混在する礫も拳大程度であったことから、尾根下に流れる河川流域などから同地点まで運び込まれたものと考えられる。また、周辺には炭化物が散在しており、石の出土位置も地山直上ではないことから、人為的に置き並べたものと考えられた。元々、経石埋納遺構（SK1）の脇には石碑が立てられていたことから、その土台などに用いた石材と推定した。但し、石碑は本調査以前に移転してしまい、位置関係は不明である。

表４　A区ピット一覧

[ ]の中の数値は残存値　単位:m　出土遺物は遺物No.を示す

遺構名	位置 (X-Y)	形態	上端 長径	上端 短径	深さ	出土遺物	土層観察	備考
Pit1	57-311	不整形	0.70	0.40	0.35		第13図参照。	SB1関連
Pit2	59-318	不整円形	0.42	0.40	0.03		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。径1㎜以下の白色粒子,径2㎜以下の黄褐色・赤褐色粒子含。	SB1関連
Pit3	60-317	楕円形	0.50	0.34	0.04		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。径5～10㎜の黄褐色土ブロック,径1㎜以下の赤褐色粒子含。径5㎜以下の炭化物微含。	SB1関連
Pit4	60-316	楕円形	0.48	0.36	0.09			SB1関連
Pit5	59-316	円形	0.20	0.18	0.06		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。10mm以下の黄褐色土ブロック含。径2㎜以下の白色粒子,赤褐色粒子微含。	SB1関連
Pit6	60-315	楕円形	0.44	0.35	0.06		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。径1～3㎜の白色粒子,径2㎜以下の黄褐色粒子,赤褐色粒子含。	SB1関連
Pit7	62-313	不整楕円形	0.24	0.20	0.07		暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土,白色粒子,小礫微含。	SB1関連
Pit8	58-313	楕円形	0.38	0.30	0.54		第13図参照。	SB1関連
Pit9	67-302	円形	0.32	0.32	0.06		暗褐色土(10YR3/4)径1～2㎜の白色粒子,炭化物含。	SB2
Pit10	68-302	不整円形	0.20	0.20	0.12		暗褐色土(10YR3/4)径1～2㎜の白色粒子,炭化物含。	SB2
Pit11	68-303	不整楕円形	0.44	0.24	0.05		暗褐色土(10YR3/4)やや粘質。径1～2㎜の白色粒子,炭化物含。	SB2
Pit12	67-304	不整隅丸方形	0.72	0.68	0.11		暗褐色土(10YR3/4)やや粘質。径1～20㎜の黄褐色土ブロック混。径1㎜以下の白色粒子,赤褐色粒子微含。炭化物含。	SB2
Pit13	67-305	楕円形	0.28	0.22	0.02			SB2
Pit14	67-307	不整円形	0.30	0.30	0.26		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。サビ多含。炭化物含。径20㎜以下の明黄褐色粘質土ブロック混。	SB2
Pit15	68-304	円形	0.24	0.24	0.14		褐色土(10YR4/4)サビ,炭化粒含。粘質。白色粒子多含。	SB2
Pit16	58-313	円形	0.36	0.32	0.10		にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。サビ含。炭化粒少含。ローム粒含。	SB1関連
Pit17	63-306	楕円形	0.38	0.30	0.16		―	SB2
Pit18	65-303	不整楕円形	0.22	0.16	0.07		暗褐色土(7.5YR3/4)サビ,白色粒子含。ローム粒多含。粘質。	SB2
Pit19	64-302	円形	0.28	0.28	0.36		褐色土(7.5YR4/4)粘質。径1～2㎜大の黄褐色粒含。ロームブロック混。	SB2
Pit20	58-307	不整楕円形	0.45	0.30	0.06		暗褐色土(10YR3/3)サビ少含。粘質。	
Pit21	57-304	楕円形	0.53	0.39			暗褐色土(10YR3/4)粘質。白色粒子少含。	
Pit22	58-304	不整円形	0.44	0.39	0.07		暗褐色土(10YR3/4)粘質。白色粒子少含。	
Pit23	62-304	不整形	0.48	0.36	0.07		褐色土(7.5YR4/4)白色粒子含。径1～2㎜大の黄褐色粒含。粘質。炭化粒少含。	SB2周辺
Pit24	62-300	不整楕円形	0.48	0.28	0.17		暗褐色土(10YR3/4)白色粒子多含。炭化粒少含。サビ,ローム粒含。	SB2周辺
Pit25	57-318	円形	0.18	0.18	0.58		暗褐色土(10YR3/4)粘質。杭残存。柱跡か。	SB1関連
Pit26	66-309	不整円形	0.34	0.30	0.05		暗褐色土(10YR3/3)白色粒子含。	SB2
Pit27	67-308	楕円形	0.48	0.34	0.13		暗褐色土(10YR3/3)炭化粒多含。径1～2㎜大のローム粒含。白色・黄褐色粒含。粘質	SB2
Pit28	66-309	不整円形	0.28	0.24	0.07		褐色土(10YR4/4)ローム粒,白色粒子多含。黄褐色粒含。	SB2
Pit29	55-314	不整形	0.24	0.24	0.05		暗褐色土(10YR3/4)径5㎜大の炭化粒,白色粒子,サビ含。遺物包含。	SB1関連
Pit30	66-301	不整円形	0.36	0.32	0.07		暗褐色土(10YR4/6)白色粒子,ローム粒多含。サビ含。炭化粒少含。粘質。	SB2
Pit31	65-302	不整円形	0.36	0.32	0.04		褐色土(10YR4/6)白色粒子,ローム粒多含。サビ含。炭化粒少含。粘質。	SB2
Pit32	65-302	楕円形	0.44	0.26	0.07		褐色土(10YR4/6)ローム粒多含。ロームブロック混。	SB2
Pit33	65-308	不整形	0.46	0.44	0.14		暗褐色土(10YR3/4)ローム粒、サビ含。	SB2
Pit34	35-309	不整円形	0.48	0.48	0.09		褐色土(10YR4/6)ローム粒、サビ含。黄褐色粒子微含。	SB2
Pit35	64-308	不整楕円形	0.74	0.48	0.05		黄褐色土(10YR5/6)サビ,黄褐色粒子多含。粘質強。	SB2
Pit36	57-313	楕円形	0.36	0.28	0.05		暗褐色土(10YR3/4)白色・黄褐色粒子微含。やや粘質。	SB1関連
Pit37	55-312	楕円形	0.32	0.24	0.06		暗褐色土(10YR3/4)白色・黄褐色粒子微含。やや粘質。	SB1関連
Pit38	56-313	楕円形	0.54	0.39	0.65	9	暗褐色土(7.5YR3/4)粘質強。径1～3㎜大の白色粒子,炭化粒含。黄褐色土ブロック多含。	SB1柱穴,Pit146重複
Pit39	64-304	楕円形	0.30	0.18	0.24		第16図参照	SB2
Pit40	64-304	不整楕円形	0.36	0.26	0.08		暗褐色土(10YR3/4)白色・黄褐色粒子少含。	SB2
Pit41	65-303	楕円形	0.24	0.20	0.07		暗褐色土(7.5YR3/4)粘質強。粘土状の白色ブロック多含。	SB2
Pit42	65-301	不整楕円形	0.40	0.32	0.15		―	SB2
Pit43	57-319	楕円形	0.28	0.23	0.18		暗褐色土(7.5YR3/4)粘質。褐色土ブロック,径2～5㎜大の黄褐色粒子少含。	SB1関連
Pit44	56-319	楕円形	0.25	0.20	0.06		暗褐色土(7.5YR3/4)粘質。黄色土ブロック,白色粒子含。	SB1関連
Pit45	56-320	不整楕円形	0.38	0.31	0.45		第13図参照。	SB1関連
Pit46	56-319	不整円形	0.42	0.39	0.44	93	第13図参照。	SB1関連
Pit47	57-319	不整円形	0.18	0.16	0.07		暗褐色土(7.5YR3/4)粘質。白色粒子少含。	SB1関連
Pit48	43-308	円形	0.34	0.32	0.17	100	暗褐色土(10YR3/4)粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子少含。	SB1関連
Pit49	38-308	円形	0.32	0.30	0.41		第13図参照。	
Pit50	38-307	楕円形	0.32	0.28	0.42		暗褐色土(10YR3/3)粘質。径2～6㎜大の黄褐色粒子,黄褐色土ブロック少含。	
Pit51	37-310	不整円形	0.41	0.36	0.18		褐色土(10YR4/4)粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子含。	
Pit52	35-309	不整楕円形	0.76	0.42	0.34		第13図参照。	
Pit53	37-306	不整形	0.56	0.48	0.35		第13図参照。	
Pit54	35-306	不整円形	0.36	0.31	0.23		褐色土(10YR4/4)粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子,黄褐色土ブロック少含。	
Pit55	37-305	不整形	0.53	0.47	0.29		暗褐色土(10YR3/3)粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子,黄褐色土ブロック含。	
Pit56	57-316	不整楕円形	0.38	0.34	0.09		褐色土(10YR4/4)粘質。径2～10㎜大の黄褐色粒子含。	SB1関連
Pit57	55-316	隅丸方形	0.36	0.36	0.12		褐色土(10YR4/4)粘質。炭化粒、白色粒子少含。	SB1関連
Pit58	55-312	円形	0.54	0.50	0.50	10	褐色土(10YR4/4)粘質。径2～4㎜大の白色粒子少含,黄褐色土ブロック含。	SB1
Pit59	53-312	不整円形	0.94	0.84	0.76		褐色土(10YR4/4)粘質。径2～4㎜大の白色粒子,径2～6㎜大の黄褐色粒子少含。	SB1柱穴
Pit60	60-307	不整形	0.56	0.44	0.10		褐色土(10YR4/4)粘質。下層に明黄褐色土が堆積。粘性強。	SB2周辺
Pit61	60-306	不整円形	0.28	0.28	0.04		褐色土(10YR4/4)粘質。	SB2周辺
Pit62	57-305	不整楕円形	[0.34]	0.31	0.20		褐色土(10YR4/6)粘質。	テラス面、Pit63と重複

[ ]の中の数値は残存値　単位:m　出土遺物は遺物No.を示す

遺構名	位置 (X-Y)	形態	上端 長径	上端 短径	深さ	出土遺物	土層観察	備考
Pit63	57-305	隅丸方形	0.31	0.29	0.13		褐色土(10YR4/4)粘質。黄褐色土ブロック少含。	テラス面、Pit62と重複
Pit64	58-305	円形	0.37	0.32	0.06		褐色土(10YR4/6)粘質。	
Pit65	53-315	不整形	0.54	0.44	0.13		第13図参照。	SB1関連
Pit66	54-317	円形	0.21	0.20	0.07		暗褐色土(10YR3/3)粘質。	SB1
Pit67	50-314	楕円形	0.26	0.23	0.09		暗褐色土(10YR3/3)粘質。炭化粒少含。径2㎜大の白色粒子,径4～6㎜大の黄褐色粒子含。	SB1関連
Pit68	47-317	不整円形	0.44	0.44	0.55		第13図参照。	SB1柱穴､2基重複
Pit69	53-318	不整円形	0.47	0.45	0.37		第13図参照。	SB1柱穴
Pit70	54-319	不整円形	0.50	0.48	0.57	90	第13図参照。	SB1
Pit71	53-319	不整隅丸方形	0.24	0.20	0.47		暗褐色土(10YR3/4)粘質。しまり弱。径1㎜大の白色・褐色粒子少含。	SB1柱穴か
Pit72	49-317	不整隅丸方形	0.27	0.24	0.54		暗褐色土(10YR3/3)粘質。1㎝以下の黄褐色粒,白色粒子含。	SB1柱穴
Pit73	51-318	不整楕円形	0.23	0.17	0.42	91	にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。炭化粒含。杭材有。	SB1柱穴
Pit74	57-314	不整楕円形	0.38	0.32	0.29		暗褐色土(10YR3/3)ローム粒・白色粒子がブロック状に混。粘質。炭化粒少含。サビ含。	SB1関連
Pit75	58-312	円形	0.16	0.16	0.22		にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質。サビ含。しまり弱。杭痕か。	SB1関連
Pit76	56-299	円形	0.31	0.30	0.09		暗褐色土(10YR3/4)粘質。径1㎜大の白色粒子少含。	
Pit77	66-308	楕円形	0.24	0.20	0.13		褐色土(10YR4/6)白色粒子,サビ多含。しまり強。	SB2
Pit78	64-307	楕円形	0.32	0.24	0.15		褐色土(10YR4/4)サビ,ローム粒,白色粒子,炭化粒多含。しまり強。	SB2
Pit79	63-308	楕円形	0.24	0.20	0.10		暗褐色土(10YR3/4)粘質。サビ,炭化粒含。	SB2
Pit80	63-310	楕円形	0.30	0.26	0.01		暗褐色土(10YR3/4)サビ,ローム粒少含。	SB2
Pit81	63-311	不整円形	0.30	0.30	0.04		暗褐色土(10YR3/4)径1～2㎜大の白色粒子含。炭化粒少含。	SB2
Pit82	62-312	円形	0.20	0.20	0.04		暗褐色土(10YR3/3)サビ,炭化粒少含。粘質。	SB1関連
Pit83	58-315	円形	0.20	0.20	0.25		暗褐色土(10YR3/3)粘質。白色粒子,サビ含。径2～3㎝大の礫含。	SB1関連
Pit84	57-316	不整楕円形	0.36	0.28	0.09		暗褐色土(10YR3/3)炭化粒,ローム粒,サビ含。粘質。径5㎜大の礫少含。地山土か。	SB1関連
Pit85	62-313	不整	0.42	0.36	0.10		暗褐色土(10YR3/4)明黄褐色土(10YR4/6)ブロック混。炭化粒,サビ含。径5㎜大の礫含。粘質。	SB1関連
Pit86	53-319	不整円形	0.20	0.20	0.04		暗褐色土(10YR3/4)粘質。炭化粒,ローム粒,サビ含。	SB1関連
Pit87	52-319	円形	0.36	0.36	0.10		暗褐色土(10YR3/3)径15㎝大の礫混。焼土粒,炭化粒少含。粘質。	SB1関連
Pit88	51-311	不整形	0.44	0.37	0.04		にぶい黄褐色土(10YR4/3)サビ,炭化粒,白色粒子含。しまり強。	SB1柱穴
Pit89	50-314	楕円形	0.22	0.20	0.11		暗褐色土(10YR3/4)炭化粒,黄褐色粒子含。粘質。	SB1関連
Pit90	29-309	楕円形	0.30	0.24	0.06		暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粒子,炭化粒含。サビ少含。	
Pit91	29-308	不整円形	0.40	0.37	0.09		褐色土(10YR4/4)白色土混。サビ,炭化粒含。ローム粒多含。	
Pit92	28-308	楕円形	0.32	0.26	0.05		褐色土(10YR4/4)炭化粒,サビ,ローム粒含。	
Pit93	28-309	不整円形	0.24	0.24	0.05		暗褐色土(10YR3/3)焼土粒,炭化粒,ローム粒,サビ含。	
Pit94	46-302	不整形	0.47	0.37	0.09		暗褐色土(10YR3/4)黄褐色・白色粒子含。サビ,炭化粒少含。	
Pit95	56-298	不整円形	0.29	0.25	0.05		暗褐色土(10YR3/4)白色土多混。炭化粒,サビ含。粘質。	
Pit96	57-299	不整円形	0.31	0.31	0.05		暗褐色土(10YR3/4)サビ多含。炭化粒含。焼土粒少含。白色土混。	
Pit97	58-297	円形	0.21	0.21	0.15		暗褐色土(10YR3/4)サビ,焼土粒,炭化粒,白色微粒子含。	
Pit98	65-305	円形	0.22	0.20	0.21		褐色土(10YR4/4)サビ,白色粒子,炭化粒含。粘質。	SB2
Pit99	欠番							近代の撹乱と断定した。
Pit100	59-318	楕円形	0.20	0.16	0.07		褐色土(10YR4/4)黄褐色粒含。サビ少含。粘質。	SB1柱穴か､Pit147と重複
Pit101	55-317	―	―	―	0.10		褐色土(10YR4/4)サビ多含。黄褐色粒含。しまり強。	SB1柱穴か､Pit148と重複
Pit102	55-317	―	―	―	0.22		暗褐色土(10YR3/3)粘質。炭化粒,白色・黄褐色粒子含。焼土粒少含。	SB1
Pit103	45-314	―	0.22	―	0.36		暗褐色土(10YR3/3)粘質。サビ多含。黄褐色粒含。第14図参照。	SB1関連,Pit104と重複
Pit104	45-314	―	0.28	―	0.37	11	暗褐色土(10YR3/3)粘質。ローム多混。炭化粒少含。焼土粒含。第14図参照。	SB1関連,Pit103と重複
Pit105	47-313	不整形	0.76	0.68	0.30	17	第14図参照。	SB1
Pit106	47-313	欠番						Pit105と同一と判断した。
Pit107	46-312	不整円形	0.20	0.20	0.11		暗褐色土(10YR3/3)炭化粒,焼土粒,白色粒子含。径3㎝大の礫含。	SB1関連
Pit108	44-316	円形	0.25	0.25	0.10		暗褐色土(10YR3/3)炭化粒,焼土粒,ローム粒含。粘質。	SB1関連
Pit109	58-314	不整円形	0.31	0.30	0.25		第14図参照。	SB1関連
Pit110	58-313	円形	0.16	0.16	0.09		―	SB1関連
Pit111	56-316	円形	0.16	0.16	0.19		―	SB1関連
Pit112	56-316	円形	0.24	0.24	0.34		第14図参照。	SB1関連
Pit113	57-312	不整円形	0.18	0.16	0.17		―	SB1関連
Pit114	57-312	円形	0.16	0.16	0.16		―	SB1関連
Pit115	56-315	楕円形	0.28	0.22	0.11		褐色土(7.5YR4/6)暗褐色土(7.5YR3/4)混。しまり強。粘質。径0.5㎜以下の白色粒子微含。	SB1関連
Pit116	56-312	円形	0.16	0.16	0.07		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。夾雑物なし。	SB1関連
Pit117	56-314	円形	0.16	0.16	0.06		暗褐色土(10YR3/4)褐色土(10YR4/6)混。しまり強。径2㎜以下の黄褐色粒子微含。	SB1関連
Pit118	49-317	不整円形	0.37	0.34	0.49		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。粘質。炭化粒微含。径0.5～5㎜大の黄褐色粒子・礫微含。第14図参照。	SB1
Pit119	47-315	円形	0.30	0.30	0.21		暗褐色土(10YR3/4)褐色土(10YR4/4)混。径0.5～10㎜大の黄褐色粒子微含。暗赤褐色粒子極微含。第14図参照。	SB1関連
Pit120	47-315	不整楕円形	0.28	0.16	0.24		暗褐色土(10YR3/4)褐色土(10YR4/4)混。径0.5～10㎜大の黄褐色粒子微含。暗赤褐色粒子極微含。	SB1関連
Pit121	47-316	不整楕円形	0.34	0.26	0.11		暗褐色土(7.5YR3/4)しまり強。粘質。炭化粒微含。径0.5～10㎜大の礫微含。第14図参照。	SB1関連
Pit122	54-315	不整楕円形	0.33	0.26	0.13		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。褐色土ブロック(10YR4/6)混。径1～5㎜大の黄褐色・赤褐色粒子微含。	SB1関連
Pit123	54-316	楕円形	0.22	0.16	0.32		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。粘質。径0.5㎜以下の黄褐色粒子極微含。第14図参照。	SB1関連
Pit124	54-315	不整隅丸方形	0.42	0.42	0.05		暗褐色土(7.5YR3/4)しまり強。径1～20㎜大の黄褐色粒子含。サビ含。	SB1

[ ]の中の数値は残存値 単位:m 出土遺物は遺物No.を示す

遺構名	位置 (X-Y)	形態	上端 長径	上端 短径	深さ	出土遺物	土層観察	備考
Pit125	54-314	円形	0.30	0.28	0.42		第14図参照。	SB1関連
Pit126	53-316	不整楕円形	0.40	0.32	0.04		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。径10～20㎜大の炭化粒微混。径1～30㎜大の赤褐色粒子少混。	SB1関連
Pit127	55-311	円形	0.22	0.20	0.15		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。夾雑物なし。	SB1関連
Pit128	55-311	円形	0.30	0.28	0.41		第14図参照。	SB1関連
Pit129	52-312	不整形	0.48	0.38	0.17		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。径0.5～5㎜大の黄褐色粒子(10YR5/8)，白色粒子微含。	SB1柱穴か
Pit130	49-315	円形	0.20	0.20	0.12	15	暗褐色土(10YR3/4)しまり強。径20㎜大の黄褐色粒ブロック混。	SB1関連
Pit131	50-316	円形	0.24	0.23	0.23		―	SB1関連
Pit132	63-304	円形	0.28	0.26	0.24		暗褐色土(10YR3/4)褐色土(10YR4/6)混。しまり強。粘質。径0.5㎜以下の黒色・暗赤褐色・黄褐色粒子極微含。	SB2
Pit133	63-304	楕円形	0.24	0.20	0.13		暗褐色土(10YR3/4)褐色土(10YR4/6)混。しまり強。粘質。径0.5㎜以下の黒色・暗赤褐色・黄褐色粒子極微含。	SB2
Pit134	64-301	不整円形	0.26	0.26	0.10		エレベーションのみ。第16図参照。	SB2
Pit135	55-312	不整円形	0.30	0.30	0.44		第14図参照。	SB1関連
Pit136	55-312	不整円形	0.40	0.35	0.53		暗褐色土(10YR3/4)しまり強。炭化粒極微含。黄褐色土ブロック(10YR5/6)少混。径1～10㎜大の暗褐色・黄褐色粒子微含。	SB1関連
Pit137	50-316	不整形	0.58	0.51	0.60		暗褐色土(10YR3/4)しまり有。粘質。径5～20㎜大の礫少混。径5～10㎜大の褐色土ブロック微混。炭化粒極微含。径5～30㎜大の黄褐色粒子微含。	SB1柱穴
Pit138	47-312	不整円形	1.00	0.91	0.68		第14図参照。	SB1,Pit164 と重複
Pit139	55-311	不整楕円形	0.17	0.13	0.08		暗褐色土(7.5YR3/4)しまり強。径0.5～5㎜大の礫,炭化粒極微混。	SB1関連
Pit140	61-310	円形	0.20	0.20	0.16		褐色土(10YR4/4)サビ,炭化粒含。粘質。しまり強。	SB2
Pit141	62-309	円形	0.24	0.24	0.25		暗褐色土(10YR3/3)粘質。炭化粒,サビ,ローム粒含。	SB2
Pit142	62-309	円形	0.32	0.32	0.28		褐色土(10YR4/4)径5㎜大の炭化粒含。ロームブロック混。粘質。しまり強。	SB2
Pit143	62-308	円形	0.18	0.18	0.13		褐色土(10YR4/4)炭化粒,ローム粒,サビ含。焼土粒少含。しまり強。粘質。	SB2
Pit144	62-307	不整形	0.36	0.26	0.18		暗褐色土(10YR3/3)炭化粒,サビ,焼土粒含。粘質。	SB2
Pit145	63-307	不整形	0.48	0.40	0.29		暗褐色土(10YR3/3)粘質。炭化粒含。ロームブロック混。やや黒色味強。	SB2
Pit146	56-313	不整形			0.65	12	第11・12図参照。	SB1,Pit38重複
Pit147	56-315	不整楕円形	0.92	0.64	0.64		第11・12図参照。	SB1柱穴,2基重複
Pit148	55-317	不整楕円形	1.00	0.76	0.61		第11・12図参照。	SB1
Pit149	54-319	不整円形	0.46	0.44	0.49		第11・12図参照。	SB1
Pit150	55-312	欠番						番号重複のため欠番。Pit58と同。
Pit151	54-314	不整楕円形	0.96	0.70	0.88	13,89,94	第11・12図参照。	SB1柱穴,2基重複
Pit152	53-316	不整隅丸方形	0.84	0.74	0.57	92	第11・12図参照。	SB1柱穴
Pit153	52-314	不整楕円形	0.88	0.78	0.80	130	第11・12図参照。	SB1柱穴
Pit154	51-316	楕円形	0.88	0.64	0.73	96	第11・12図参照。	SB1柱穴
Pit155	52-312	欠番						番号重複のため欠番。Pit129と同。
Pit156	57-315	円形	0.30	0.28	0.56		暗褐色土(10YR3/3)ローム粒,焼土粒,炭化粒少含。粘質。黄褐色粒子含。	SB1関連
Pit157	58-317	不整形	0.40	0.37	0.42		暗褐色土(10YR3/3)粘質。黄褐色粒子含。	SB1関連
Pit158	66-311	不整円形	0.28	0.24	0.13		―	SB2
Pit159	51-316	不整楕円形	0.25	0.22	0.19		暗褐色土(10YR3/4)黄褐色粒子含。炭化粒少含。粘質。	SB1関連
Pit160	49-317	不整楕円形	0.60	0.52	0.61		―	SB1柱穴,Pit71と重複
Pit161	46-316	不整円形	0.36	0.36	0.43		暗褐色土(10YR3/3)白色粒子含。粘質。炭化粒少含。	SB1
Pit162	47-316	不整円形	0.36	0.32	0.38		―	SB1関連
Pit163	48-314	不整形	0.36	0.34	0.48		―	SB1関連
Pit164	47-312	不整円形	―	―	0.77		―	SB1柱穴,Pit138 と重複
Pit165	50-313	円形	0.48	0.44	0.69		―	SB1柱穴
Pit166	60-307	不整円形	0.32	0.28	0.14		―	SB2周辺
Pit167	47-310	不整形	0.92	0.70	0.65		―	SB1柱穴
Pit168	51-311	不整楕円形	0.40	0.28	0.09		―	SB1柱穴か
Pit169	59-313	不整円形	0.36	0.32	0.10		―	SB1関連
Pit170	59-312	不整楕円形	0.21	0.14	0.06		―	SB1関連
Pit171	59-314	不整楕円形	0.39	0.30	0.14		―	SB1関連
Pit172	58-316	不整楕円形	0.38	0.32	0.07		―	SB1関連
Pit173	45-312	不整円形	0.68	0.60	0.50		―	SB1関連
Pit174	63-306	不整円形	0.26	0.26	0.19		―	SB2
Pit175	64-302	不整隅丸方形	0.24	0.24	0.12		―	SB2
Pit176	67-305	不整形	0.26	0.26	0.10		―	SB2
Pit177	67-306	楕円形	0.48	0.20	0.09		―	SB2
Pit178	欠番							番号重複のため欠番。Pit166と同。
Pit179	61-305	隅丸長方形	0.28	0.24	0.07		―	SB2周辺
Pit180	53-310	楕円形	0.56	0.44	0.45	124	―	SB1関連
Pit181	49-311	円形	0.30	0.28	0.24		―	SB1柱穴か
Pit182	51-311	不整楕円形	0.48	0.36	0.31	14	―	SB1柱穴
Pit183	95-276	円形	0.43	0.39	0.48		―	調査区西側
Pit184	52-309	不整楕円形	1.19	0.97	0.59	16,135	第14図参照。	SB1,2基重複

第７節　遺構外出土遺物

縄文時代　第 40 図 68 ～ 74 は縄文土器。68・69 は早期後半の押引沈線文をもつ口縁部片で、同一個体とみられる。無繊維で、裏面に条痕文はない。口唇部にも押引沈線と同一工具による刻みを入れる。70・71 は早期鵜ケ島台式土器で同一個体。微隆起線文と円形刺突文で区画文を描き、内部には沈線文を施文する。繊維状圧痕がみられるが、無繊維。72 は無節縄文、73 は羽状縄文的な縄文施文を施した前期中～前半期の土器。74 は時期不詳だが、表面のナデから後期か。石器は柱穴等にも混在していたものを含め、尖頭器1点（100）、石鏃5点（95 ～ 99）、ユーストフレイク3

点（102～104）、石錐1点（101）、打製石斧5点（114～118）、磨製石斧1点（119）、磨石2点（120･121）を図化した。

古墳時代　古墳時代の遺物は特に出土量が少なく、土師器では75の甕片、76の台付甕脚部、77の底部が穿孔している壺を図化した。いずれも小片である。

中世～近世　磁器は第40図78～80を図化した。78～80は肥前所産の碗である。78は18世紀中葉～後葉、79は18世紀後葉、80は18世紀中葉～後葉に比定される。

陶器では、第40図81は瀬戸・美濃所産で17世紀前半の志野皿である。82・83は肥前所産の碗であり、82は17世紀末～18世紀初で、内面に蛇の目釉剥ぎがみられる。83は18世紀前葉に比定される。84は瀬戸・美濃所産の18世紀前葉に比定される擂鉢で、割れ口が摩耗しており、砥石などに転用した痕跡がある。85は志戸呂所産で18世紀後葉～19世紀中葉の秉燭の脚部であり、中軸孔は0.4㎝である。86は瀬戸・美濃所産で19世紀前葉～中葉の秉燭である。87・88はかわらけである。その他、金属製品では第44図131の不明鉄製品、137のキセルの雁首が出土している。

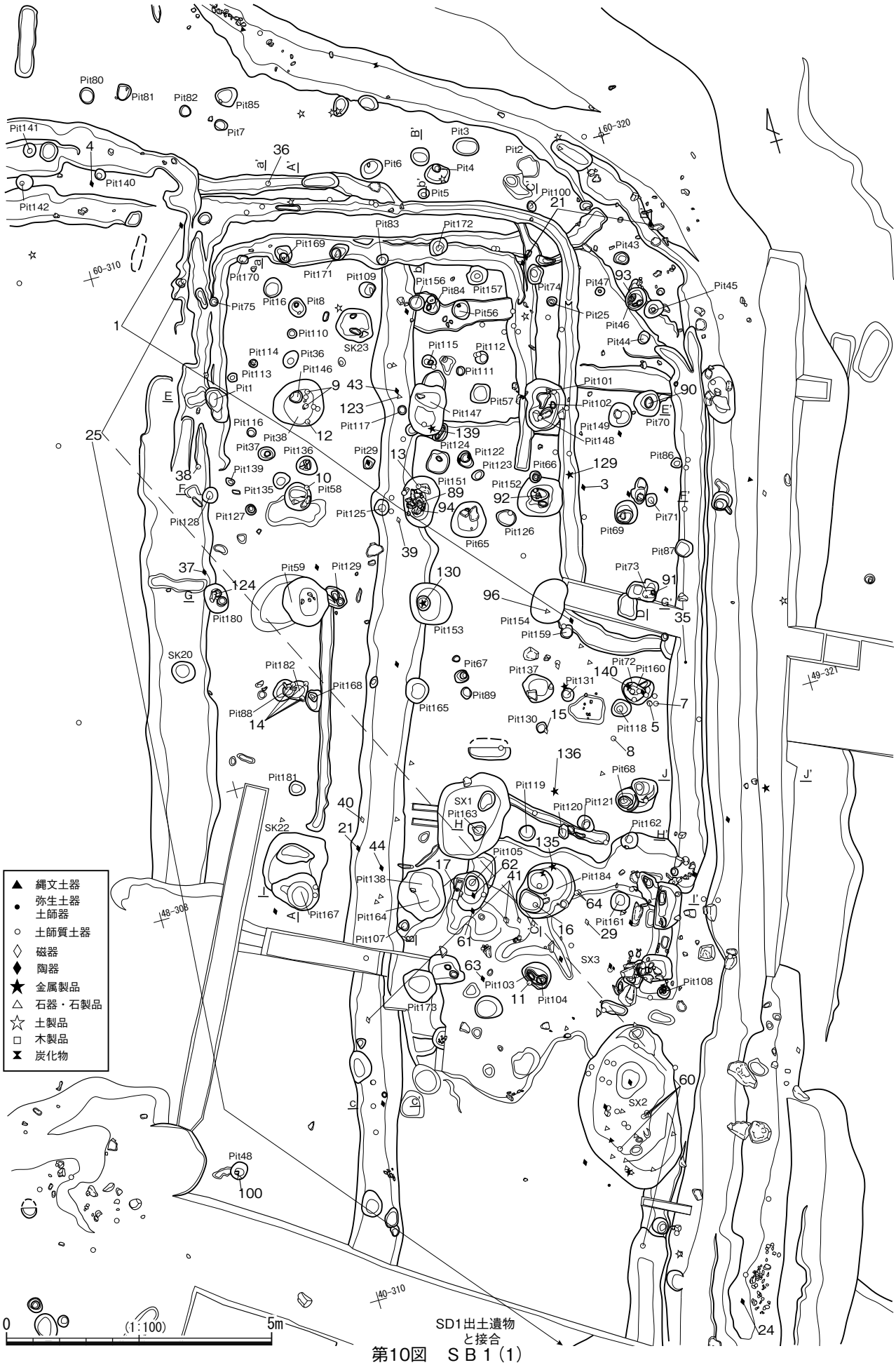
表5　A区溝一覧

遺構名	位置(X-Y)	幅(m)	深さ(m)	長さ(m)	出土遺物(遺物No.)	備　考
SD1	X20～50,Y290～320	1.3	0.2	74.8	18～26,99,116,128,138	テラス面
SD2	X80,Y300～310	1	0.7	2.6	27	調査区西側、耕作痕
SD3	X50～60,Y290	1	0.3	12.1	28～34,102	テラス面
SD4	X80～100,Y280～310	1.1	0.2	36.9		調査区西側、耕作痕
SD5	X20～50,Y300～320	1.3	0.3	36.3	35	テラス面
SD6	X50～60,Y310	0.4	0.1	14.7	129	テラス面
SD7	X50,Y310	0.6	0.08	12.6		テラス面
SD8	X60,Y300～310	0.8	0.05	11.4	36	テラス面
SD9	X60,Y290～310	1.2	0.08	12.4		テラス面
SD10	X40～50,Y300	1.3	－	9.6	37,38	テラス面
SD11	X30～50,Y300～310	1.4	0.1	26.8	39～44,123	テラス面
SD12	X60,Y300	0.4	0.1	1.3		テラス面
SD13	欠番	－	－	－		SB1、溝にならず欠番
SD14	欠番	－	－	－		SB1、溝にならず欠番
SD15	X40,Y310	0.2	0.06	2		テラス面
SD16	X60,Y300	0.4	0.1	1.3		テラス面
SD17	X100,Y250～270	0.7	0.5	17.6	45	調査区西側、耕作痕
SD18	X100～110,Y240～260	0.9	0.3	20.1		調査区西側、耕作痕
SD19	X100～110,Y240～250	0.8	0.6	12.3	46	調査区西側、耕作痕
SD20	X90～100,Y270～280	0.6	0.2	13.3		調査区西側、耕作痕
SD21	X80～100,Y270～280	0.6	0.2	21.5		調査区西側、耕作痕
SD22	X80～90,Y280	0.5	0.2	12	132	調査区西側、耕作痕
SD23	X80～90,Y280	0.4	0.1	7.4		調査区西側、耕作痕
SD24	X80～90,Y280	0.4	0.1	9.3		調査区西側、耕作痕
SD25	X90,Y250	0.3	－	4		調査区西側、耕作痕
SD26	X90,Y250	0.9	－	3.3		調査区西側、耕作痕
SD27	X110,Y260	0.5	－	4.4		調査区西側、耕作痕
SD28	X100～110,Y270	0.5	－	3.1		調査区西側、耕作痕
SD29	X90～100,Y260	0.4	0.7	6.9	47	調査区西側、耕作痕
SD30	X90～100,Y280～300	1.4	0.4	13.1	48	調査区西側、耕作痕
SD31	X90～100,Y290	0.7	0.1	9		調査区西側、耕作痕
SD32	X110,Y240～250	0.5	－	3.7		調査区西側、耕作痕
SD33	X100,Y280	0.4	－	1.1		調査区西側、耕作痕

表6　A区土坑一覧

[ ]の中の数値は残存値 ( )の中の数値は推定値　単位:m　出土遺物は遺物No.を示す

遺構名	位置 (X-Y)	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
SK1	96-287	不整楕円形	1.50×0.78	0.90×0.48	0.20	N-86° -E	経石1325点	経石埋納遺構
SK2	82-292	不整形	竪坑2.66×2.18	竪坑2.16×0.10 主室2.84×1.90	2.72	N-28° -W		地下式坑
SK3	94-295	不整楕円形	1.62×1.13	1.28×0.81	0.30	N-29° -W		
SK4	93-296	不整楕円形	1.46×1.24	1.22×0.90	0.44	N-49° -W	49	
SK5	91-297	不整楕円形	1.10×0.96	0.74×0.60	0.19	N-36° -W		
SK6	88-300	不整円形	1.62×1.50	1.20×1.06	0.30	―	50,115	
SK7	87-301	楕円形	1.34×1.00	1.06×0.72	0.34	N-62° -W		
SK8	86-304	不整楕円形	1.26×1.05	0.86×0.64	0.36	N-70° -W	122	
SK9	90-298	不整円形	1.26×1.26	0.80×0.78	0.22	―		
SK10	89-299	不整形	1.42×1.26	1.16×0.98	0.28	N-20° -W		
SK11	87-303	不整楕円形	1.40×0.92	1.10×0.70	0.29	N-66° -W		
SK12	96-302	不整形	1.19×1.66	1.11×0.50	0.26	N-67° -W		
SK13	96-306	円形	0.97×0.45	0.91×0.38	0.31	―		
SK14	94-308	不整隅丸方形	0.87×0.85	0.64×0.56	0.15	N-25° -E		
SK15	24-308	隅丸長方形	1.79×1.38	1.28×1.04	0.18	N-24° -E		
SK16	38-307	不整楕円形	1.12×0.76	0.92×0.54	0.20	N-60° -W		
SK17	欠番							根跡か。土坑ではないと断定。
SK18	36-307	不整形	0.80×[0.62]	0.40×0.17	0.41	N-9° -E		
SK19	55-300	不整楕円形	1.20×0.79	1.02×0.60	―	―		
SK20	52-309	円形	0.44×0.39	0.26×0.22	0.16	―		SB1周辺
SK21	45-317	不整隅丸長方形	0.88×0.49	0.50×0.18	0.22	N-26° -E		SB1内
SK22	48-310	不整形	1.12×[0.81]	0.72×[0.60]	0.22	N-27° -E		SB1内
SK23	57-314	不整円形	0.68×0.68	0.50×0.46	―	―		SB1周辺
SK24	92-292	不整形	竪坑2.70×2.60	主室2.70×1.80 横穴1.08×0.72	2.55	N-47° -W	120	地下式坑
SK25	106-264	不整楕円形	1.24×0.91	1.10×0.68	0.41	N-69° -W	114	
SK26	88-271	不整円形	1.87×1.80	1.16×0.92	0.50	―	51	屋外集石炉　縄文前期中～後半
SK27	97-300	不整楕円形	1.34×1.08	1.16×0.87	0.40	N-51° -W	52	
SK28	103-261	楕円形	1.42×1.00	0.74×0.66	0.38	N-76° -W	53	
SX2	42-315	不整楕円形	3.10×1.85	1.90×1.27	0.25	N-12° -E	54～60,95, 105～111, 125～127, 133	


▲ 縄文土器
● 弥生土器
土師器
○ 土師質土器
◇ 磁器
◆ 陶器
★ 金属製品
△ 石器・石製品
☆ 土製品
□ 木製品
⧗ 炭化物
0
(1:100)
5m
SD1出土遺物
と接合
SB1
SK20
SK22
SK23
SX1
SX2
SX3
Pit1
Pit2
Pit3
Pit4
Pit5
Pit6
Pit7
Pit8
Pit16
Pit29
Pit36
Pit38
Pit48
Pit56
Pit58
Pit59
Pit65
Pit67
Pit69
Pit70
Pit71
Pit72
Pit73
Pit74
Pit75
Pit80
Pit81
Pit82
Pit83
Pit84
Pit85
Pit87
Pit89
Pit100
Pit101
Pit102
Pit103
Pit104
Pit105
Pit107
Pit108
Pit109
Pit110
Pit111
Pit112
Pit113
Pit114
Pit115
Pit116
Pit117
Pit118
Pit119
Pit120
Pit121
Pit122
Pit123
Pit124
Pit125
Pit126
Pit127
Pit128
Pit129
Pit130
Pit131
Pit135
Pit136
Pit137
Pit138
Pit139
Pit140
Pit141
Pit142
Pit146
Pit147
Pit148
Pit149
Pit151
Pit152
Pit153
Pit154
Pit156
Pit157
Pit159
Pit160
Pit161
Pit162
Pit163
Pit164
Pit165
Pit167
Pit168
Pit169
Pit170
Pit171
Pit172
Pit173
Pit178
Pit180
Pit181
Pit182
Pit184
60-320
60-310
49-321
48-308
40-310

第10図　ＳＢ１(1)

Pit59
1 褐色土（10YR4/4）粘質。径2～4㎜大の白色粒子、径2～6㎜大の黄褐色粒子少含。

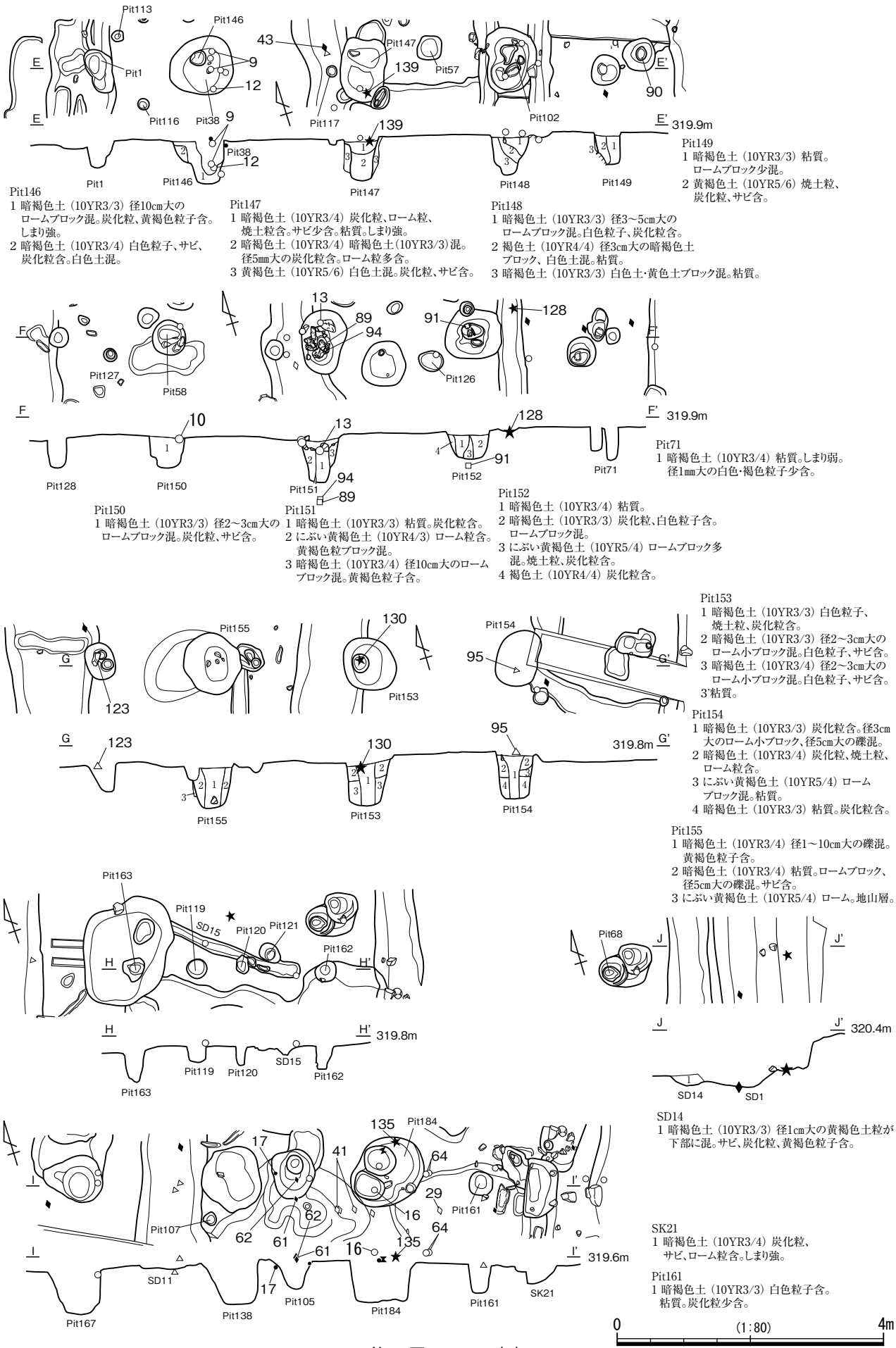
Pit58
1 褐色土（10YR4/4）粘質。径2～4㎜大の白色粒子、径2～6㎜大の黄褐色粒子少含。
2 褐色土（10YR4/4）粘質。径2～4㎜大の白色粒子、黄褐色土ブロック含。

SD6～8
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。径2㎜以下の黄褐色粒子含。白色粒子微含。SD6覆土。
2 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。径2㎜以下の黄褐色粒子含。白色粒子微含。SD7覆土。
3 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。径2㎜以下の黄褐色粒子含。20㎜以下の小礫微混。SD8覆土。

SD6・7、Pit5
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。径2㎜以下の黄褐色粒子含。SD6覆土。
2 褐色土（10YR4/6）しまり有。サビ含。
3 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。径2㎜以下の黄褐色粒子含。1～10㎜大の小礫少混。SD7覆土。

SD11
1 暗褐色土（10YR3/3）白色粒子、黄褐色粒子含。しまり強。

第11図 SB1(2)



Pit146
1 暗褐色土（10YR3/3）径10㎝大のロームブロック混。炭化粒、黄褐色粒子含。しまり強。
2 暗褐色土（10YR3/4）白色粒子、サビ、炭化粒含。白色土混。

Pit147
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒、ローム粒、焼土粒含。サビ少含。粘質。しまり強。
2 暗褐色土（10YR3/4）暗褐色土（10YR3/3）混。径5㎜大の炭化粒含。ローム粒多含。
3 黄褐色土（10YR5/6）白色土混。炭化粒、サビ含。

Pit148
1 暗褐色土（10YR3/3）径3～5㎝大のロームブロック混。白色粒子、炭化粒含。
2 褐色土（10YR4/4）径3㎝大の暗褐色土ブロック、白色土混。粘質。
3 暗褐色土（10YR3/3）白色土・黄色土ブロック混。粘質。

Pit149
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。ロームブロック少混。
2 黄褐色土（10YR5/6）焼土粒、炭化粒、サビ含。

Pit71
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。しまり弱。径1㎜大の白色・褐色粒子少含。

Pit150
1 暗褐色土（10YR3/3）径2～3㎝大のロームブロック混。炭化粒、サビ含。

Pit151
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。炭化粒含。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒含。黄褐色粒ブロック混。
3 暗褐色土（10YR3/4）径10㎝大のロームブロック混。黄褐色粒子含。

Pit152
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。
2 暗褐色土（10YR3/3）炭化粒、白色粒子含。ロームブロック混。
3 にぶい黄褐色土（10YR5/4）ロームブロック多混。焼土粒、炭化粒含。
4 褐色土（10YR4/4）炭化粒含。

Pit153
1 暗褐色土（10YR3/3）白色粒子、焼土粒、炭化粒含。
2 暗褐色土（10YR3/3）径2～3㎝大のローム小ブロック混。白色粒子、サビ含。
3 暗褐色土（10YR3/4）径2～3㎝大のローム小ブロック混。白色粒子、サビ含。3'粘質。

Pit154
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化粒含。径3㎝大のローム小ブロック、径5㎝大の礫混。
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒、焼土粒、ローム粒含。
3 にぶい黄褐色土（10YR5/4）ロームブロック混。粘質。
4 暗褐色土（10YR3/3）粘質。炭化粒含。

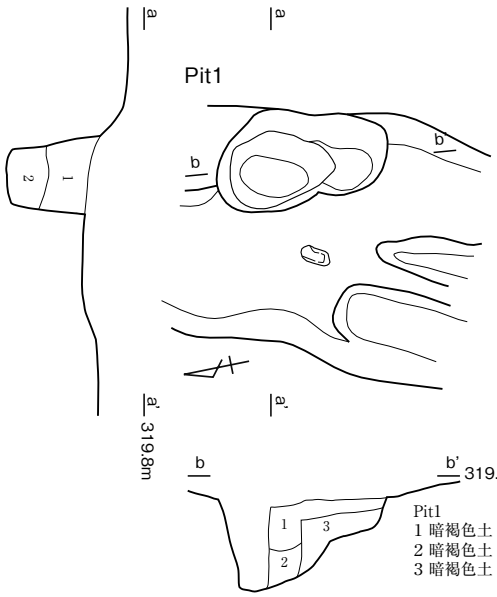
Pit155
1 暗褐色土（10YR3/4）径1～10㎝大の礫混。黄褐色粒子含。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。ロームブロック、径5㎝大の礫混。サビ含。
3 にぶい黄褐色土（10YR5/4）ローム。地山層。

SD14
1 暗褐色土（10YR3/3）径1㎝大の黄褐色土粒が下部に混。サビ、炭化粒、黄褐色粒子含。

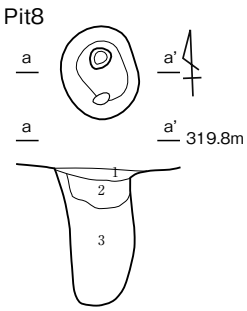
SK21
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒、サビ、ローム粒含。しまり強。

Pit161
1 暗褐色土（10YR3/3）白色粒子含。粘質。炭化粒少含。

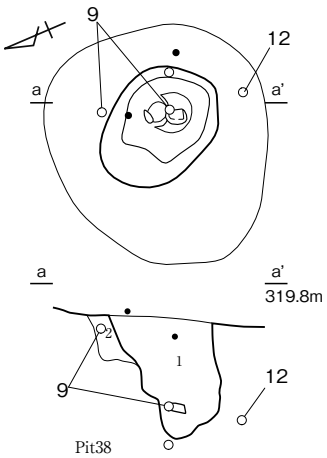
第12図　ＳＢ１(3)



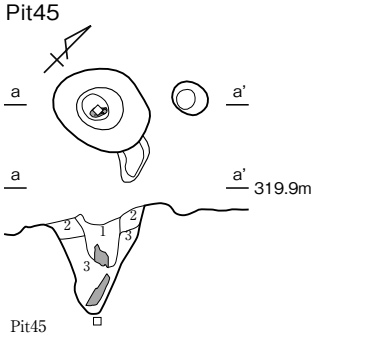
Pit1
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。しまり強。サビ含。ロームブロック混。
2 暗褐色土（10YR3/3）粘質。しまり弱。炭化粒少含。
3 暗褐色土（10YR3/4）粘質。しまり有。径10～20㎜のロームブロック混。



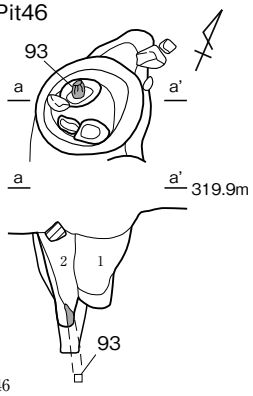
Pit8
1 暗褐色土（10YR3/4）径5㎜以下の白色粒子微含。径5㎜以下の黄褐色土ブロック微混。
2 暗褐色土（10YR3/4）径1～2㎜大の白色粒子、黄褐色土ブロック多含。
3 暗褐色土（10YR3/4）やや粘質。径3㎜以下の白色・黄褐色粒子含。



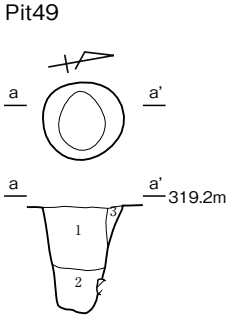
Pit38
1 暗褐色土（7.5YR3/4）粘質強。径1～3㎜大の白色粒子、炭化粒含。黄褐色土ブロック多含。



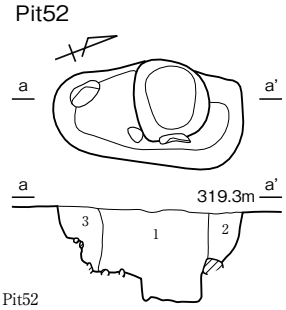
Pit45
1 暗褐色土（10YR3/4）やや粘質。白色粒子少含。杭、または柱材有。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。白色粒子少含。
3 暗褐色土（10YR3/4）やや粘質。径3㎜以下の白色・黄褐色粒子含。



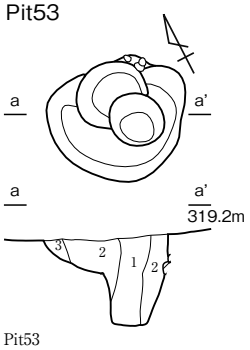
Pit46
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。白色粒子、黄色度ブロック含。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。5㎜大の黄色土ブロック多含。



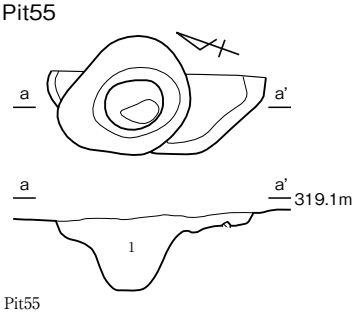
Pit49
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。黄褐色ブロック少含。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径5㎜大の黄褐色土粒子少含。
3 黄褐色土（10YR5/6）粘質。地山層。



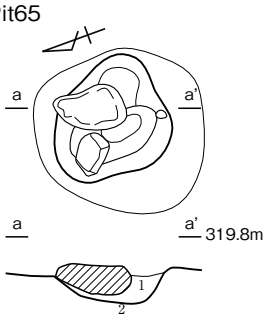
Pit52
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子、黄褐色土ブロック少含。
2 褐色土（10YR4/4）粘質。径2㎜大の黄褐色粒子少含。
3 褐色土（10YR4/4）粘質。径2～4㎜大の黄褐色粒子、黄褐色土ブロック少含。



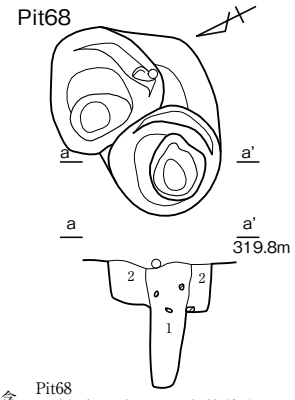
Pit53
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径2㎜大の黄褐色土粒子微含。
2 褐色土（10YR4/4）粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子、黄褐色土ブロック含。
3 褐色土（10YR4/6）粘質。地山層。



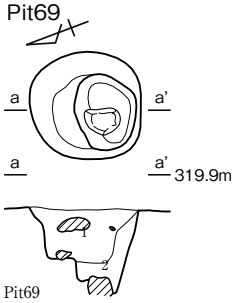
Pit55
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径2～8㎜大の黄褐色粒子、黄褐色土ブロック含。



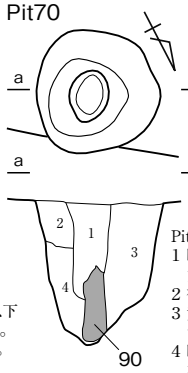
Pit65
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。焼土粒、炭化粒含。
2 褐色土（10YR4/4）粘質。径4～8㎜大の黄褐色粒子少含。



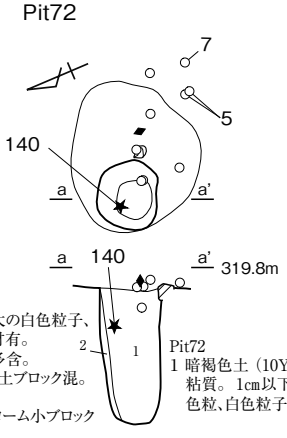
Pit68
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径1㎜大の白色粒子少含。1cm大の礫微含。
2 褐色土（10YR4/4）1層より粘性有。白色・褐色粒子少含。



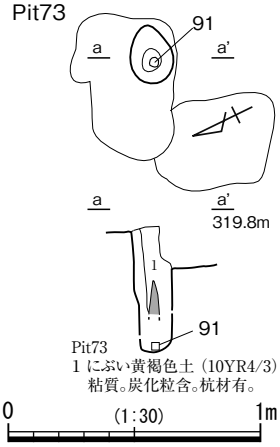
Pit69
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径1㎜以下の白色粒子少含。黄色粒ブロック少含。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。しまり有。3～5㎜大の黄色土ブロック多含。



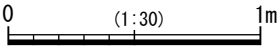
Pit70
1 暗褐色土（10YR3/3）径1㎜大の白色粒子、黄褐色粒子少含。杭または柱材有。
2 褐色土（10YR4/4）ローム粒多含。
3 黄褐色土（10YR5/6）暗褐色土ブロック混。サビ含。しまりやや弱。
4 暗褐色土（10YR3/3）粘質。ローム小ブロック混。サビ、炭化粒少含。



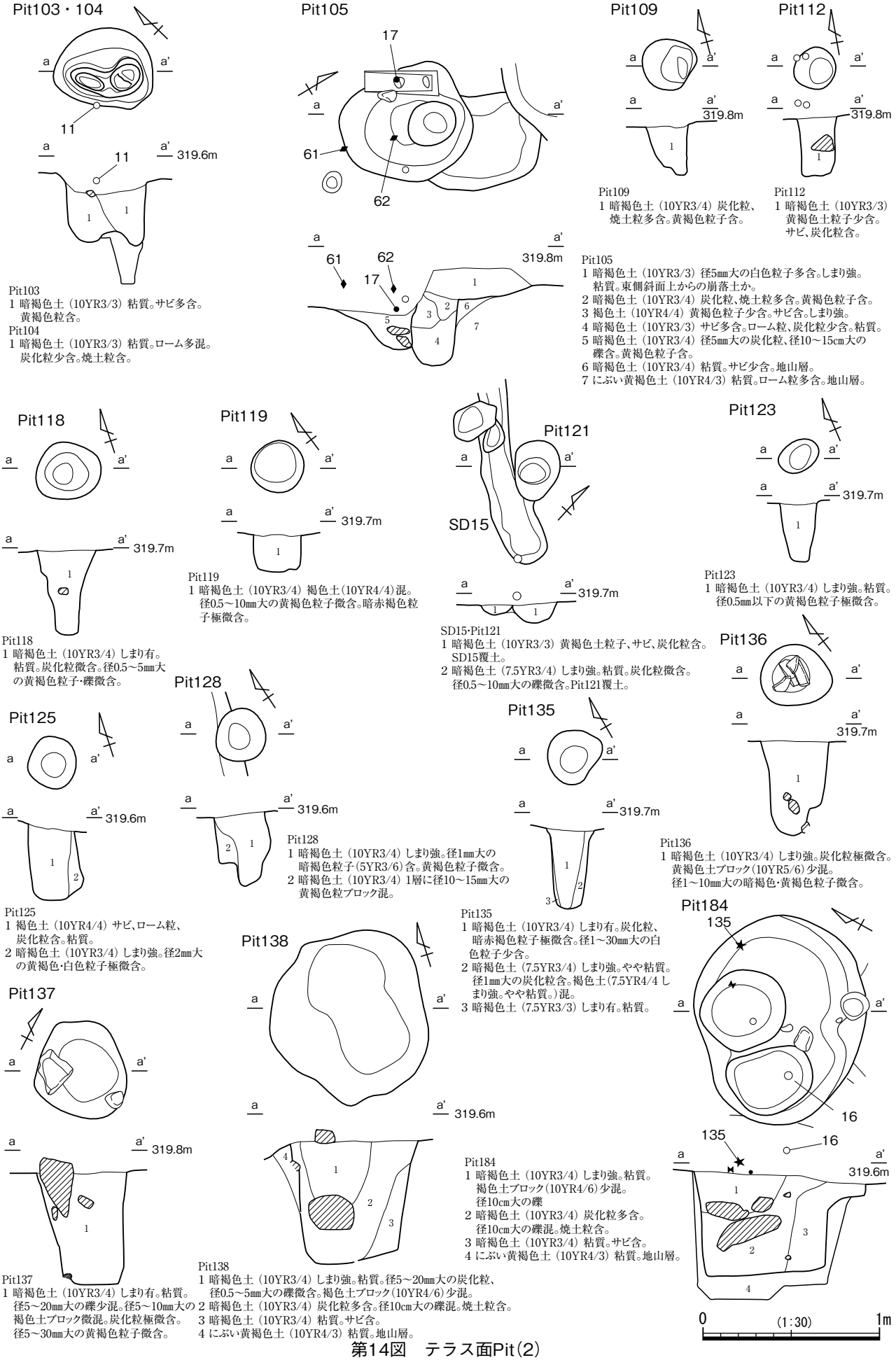
Pit72
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。 1cm以下の黄褐色粒、白色粒子含。



Pit73
1 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。炭化粒含。杭材有。



第13図　テラス面Pit（1）



Pit103
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。サビ多含。黄褐色粒含。
Pit104
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。ローム多混。炭化粒少含。焼土粒含。

Pit105
1 暗褐色土（10YR3/3）径5㎜大の白色粒子多含。しまり強。粘質。東側斜面上からの崩落土か。
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒、焼土粒多含。黄褐色粒子含。
3 褐色土（10YR4/4）黄褐色粒子少含。サビ含。しまり強。
4 暗褐色土（10YR3/3）サビ多含。ローム粒、炭化粒少含。粘質。
5 暗褐色土（10YR3/4）径5㎜大の炭化粒、径10～15㎝大の礫含。黄褐色粒子含。
6 暗褐色土（10YR3/4）粘質。サビ少含。地山層。
7 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。ローム粒多含。地山層。

Pit109
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒、焼土粒多含。黄褐色粒子含。

Pit112
1 暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土粒子少含。サビ、炭化粒含。

Pit118
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。粘質。炭化粒微含。径0.5～5㎜大の黄褐色粒子・礫微含。

Pit119
1 暗褐色土（10YR3/4）褐色土（10YR4/4）混。径0.5～10㎜大の黄褐色粒子微含。暗赤褐色粒子極微含。

SD15・Pit121
1 暗褐色土（10YR3/3）黄褐色土粒子、サビ、炭化粒含。SD15覆土。
2 暗褐色土（7.5YR3/4）しまり強。粘質。炭化粒微含。径0.5～10㎜大の礫微含。Pit121覆土。

Pit123
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。粘質。径0.5㎜以下の黄褐色粒子極微含。

Pit125
1 褐色土（10YR4/4）サビ、ローム粒、炭化粒含。粘質。
2 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。径2㎜大の黄褐色・白色粒子極微含。

Pit128
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。径1㎜大の暗褐色粒子（5YR3/6）含。黄褐色粒子微含。
2 暗褐色土（10YR3/4）1層に径10～15㎜大の黄褐色粒ブロック混。

Pit135
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。炭化粒、暗赤褐色粒子極微含。径1～30㎜大の白色粒子少含。
2 暗褐色土（7.5YR3/4）しまり強。やや粘質。径1㎜大の炭化粒含。褐色土（7.5YR4/4 しまり強。やや粘質。）混。
3 暗褐色土（7.5YR3/3）しまり有。粘質。

Pit136
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。炭化粒極微含。黄褐色土ブロック（10YR5/6）少混。径1～10㎜大の暗褐色・黄褐色粒子微含。

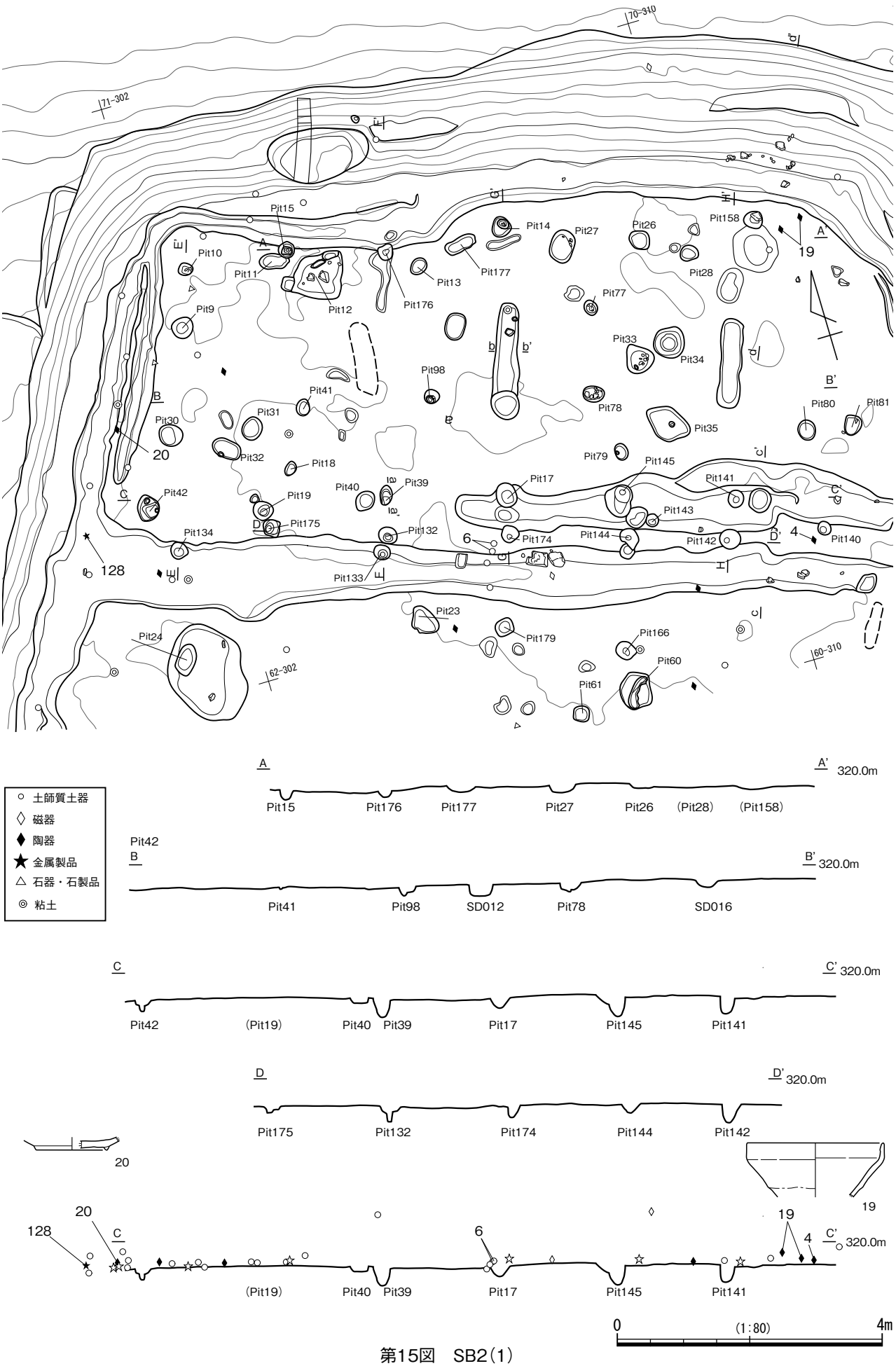
Pit137
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり有。粘質。径5～20㎜大の礫少混。径5～10㎜大の褐色土ブロック微混。炭化粒極微含。径5～30㎜大の黄褐色粒子微含。

Pit138
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。粘質。径5～20㎜大の炭化粒、径0.5～5㎜大の礫微含。褐色土ブロック（10YR4/6）少混。
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒多含。径10㎝大の礫混。焼土粒含。
3 暗褐色土（10YR3/4）粘質。サビ含。
4 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。地山層。

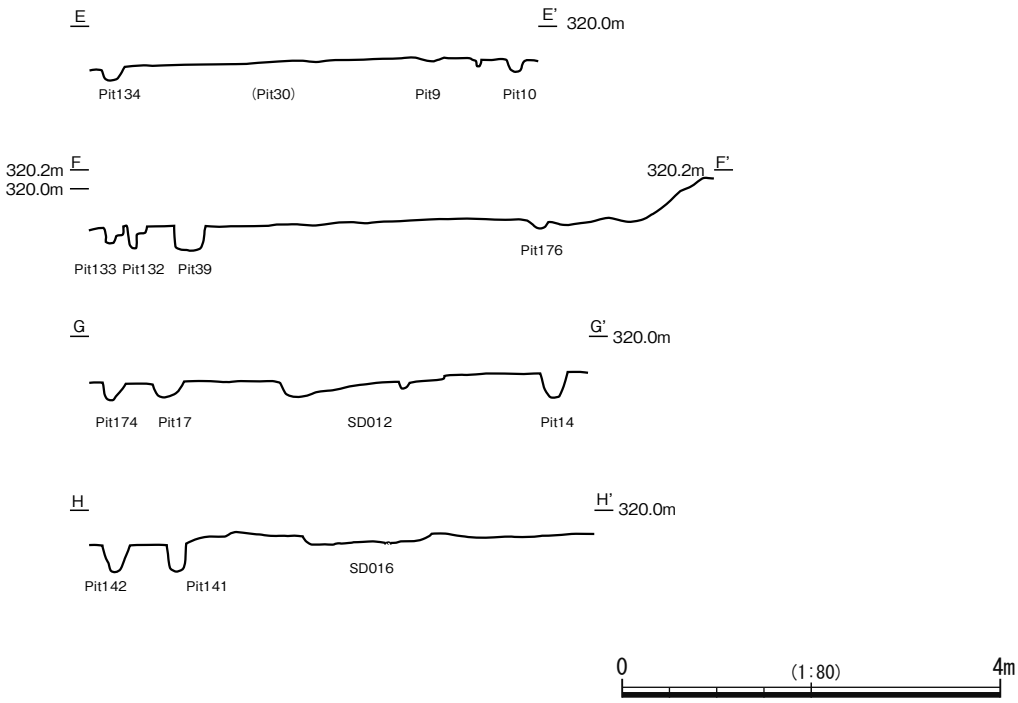
Pit184
1 暗褐色土（10YR3/4）しまり強。粘質。褐色土ブロック（10YR4/6）少混。径10㎝大の礫
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒多含。径10㎝大の礫混。焼土粒含。
3 暗褐色土（10YR3/4）粘質。サビ含。
4 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。地山層。

0 (1:30) 1m

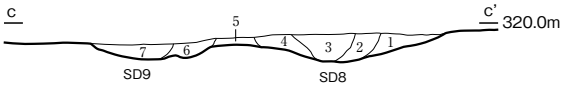
第14図　テラス面Pit（2）

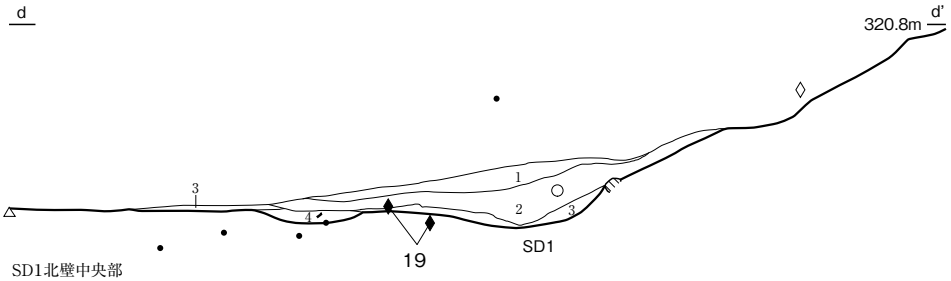

71-302
70-310
62-302
60-310
Pit15
Pit10
Pit11
Pit12
Pit13
Pit176
Pit177
Pit14
Pit27
Pit26
Pit158
Pit28
Pit77
Pit9
Pit33
Pit34
Pit98
Pit41
Pit31
Pit30
Pit32
Pit18
Pit78
Pit35
Pit80
Pit81
Pit79
Pit145
Pit141
Pit42
Pit19
Pit40
Pit39
Pit17
Pit143
Pit175
Pit132
Pit174
Pit144
Pit142
Pit140
Pit134
Pit133
Pit23
Pit179
Pit166
Pit24
Pit60
Pit61
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
19
20
128
6
4
土師質土器
磁器
陶器
金属製品
石器・石製品
粘土
320.0m
(Pit28)
(Pit158)
SD012
SD016
(Pit19)
0
(1:80)
4m

第15図　SB2(1)



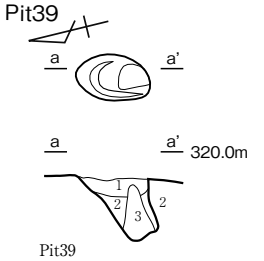
SD8･9
1 暗褐色土（7.5YR3/4）粘質。径1㎜以下の白色･黄褐色粒子多含。
2 褐色土（7.5YR4/6）粘質。白色粘土状ブロック･明褐色土ブロック多含。
3 褐色土（7.5YR4/4）径2～3㎜大の白色粒子、炭化粒、黄褐色粒子多含。
4 褐色土（7.5YR4/4）白色粒子少含。
5 暗褐色土（7.5YR3/4）やや粘質。径1㎜以下の白色粒子少含。
6 褐色土（10YR4/6）粘質。ブロック状。
7 褐色土（10YR4/4）径1㎜以下の白色粒子含。



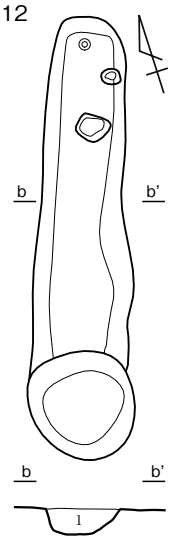


SD1北壁中央部
1 褐色土（10YR4/4）サビ、黄褐色粒子、ローム粒含。白色粘土少含。
2 暗褐色土（10YR3/3）炭化粒含。粘質。しまり強。白色粒子多含。
3 にぶい黄褐色土（10YR4/3）炭化粒含。ローム粒多含。掘り方面か
4 褐色土（10YR4/4）ロームブロック混。炭化粒含。サビ含。遺物包含層。

0 (1:40) 2m



Pit39
1 褐色土（10YR4/4）径5㎜大の白色･黄褐色粒子少含。
2 褐色土（10YR4/4）1より白色･黄褐色粒子、炭化粒多含。粘質経。
3 暗褐色土（10YR3/4）やや粘質。炭化粒少含。

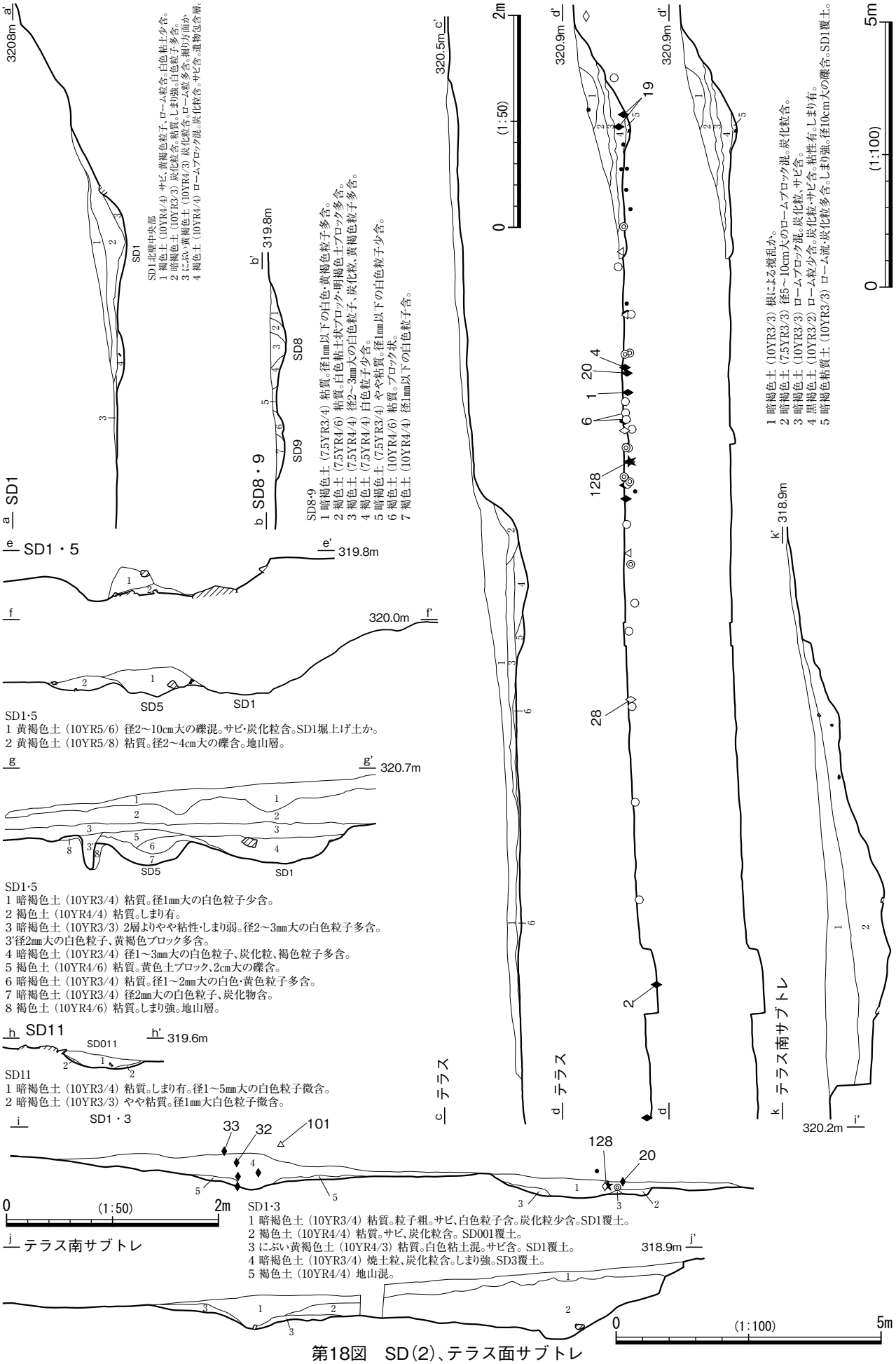


SD12
1 暗褐色土（10YR3/3）サビ少含。粘質。

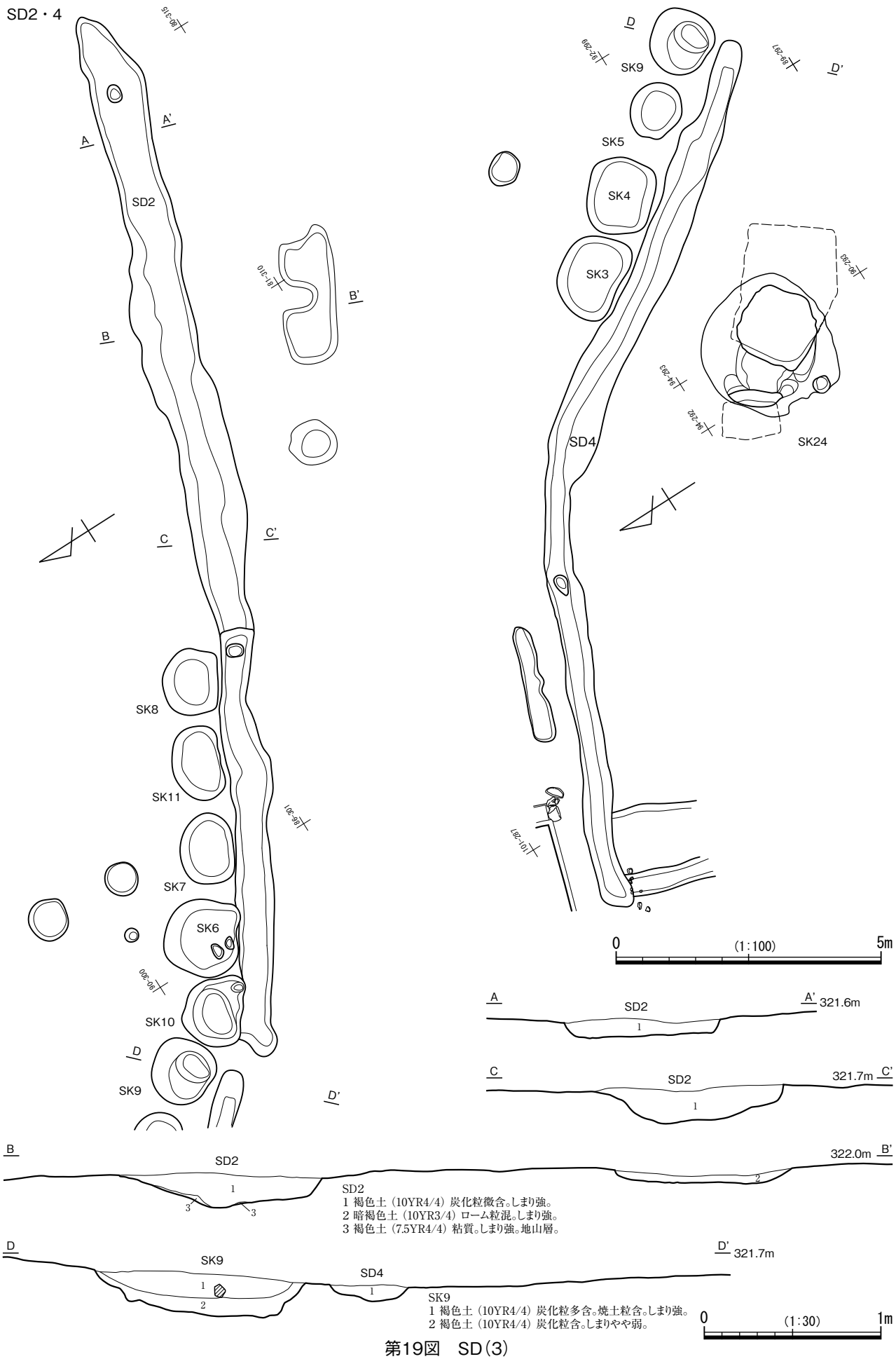
0 (1:30) 1m

第16図　SB2(2)

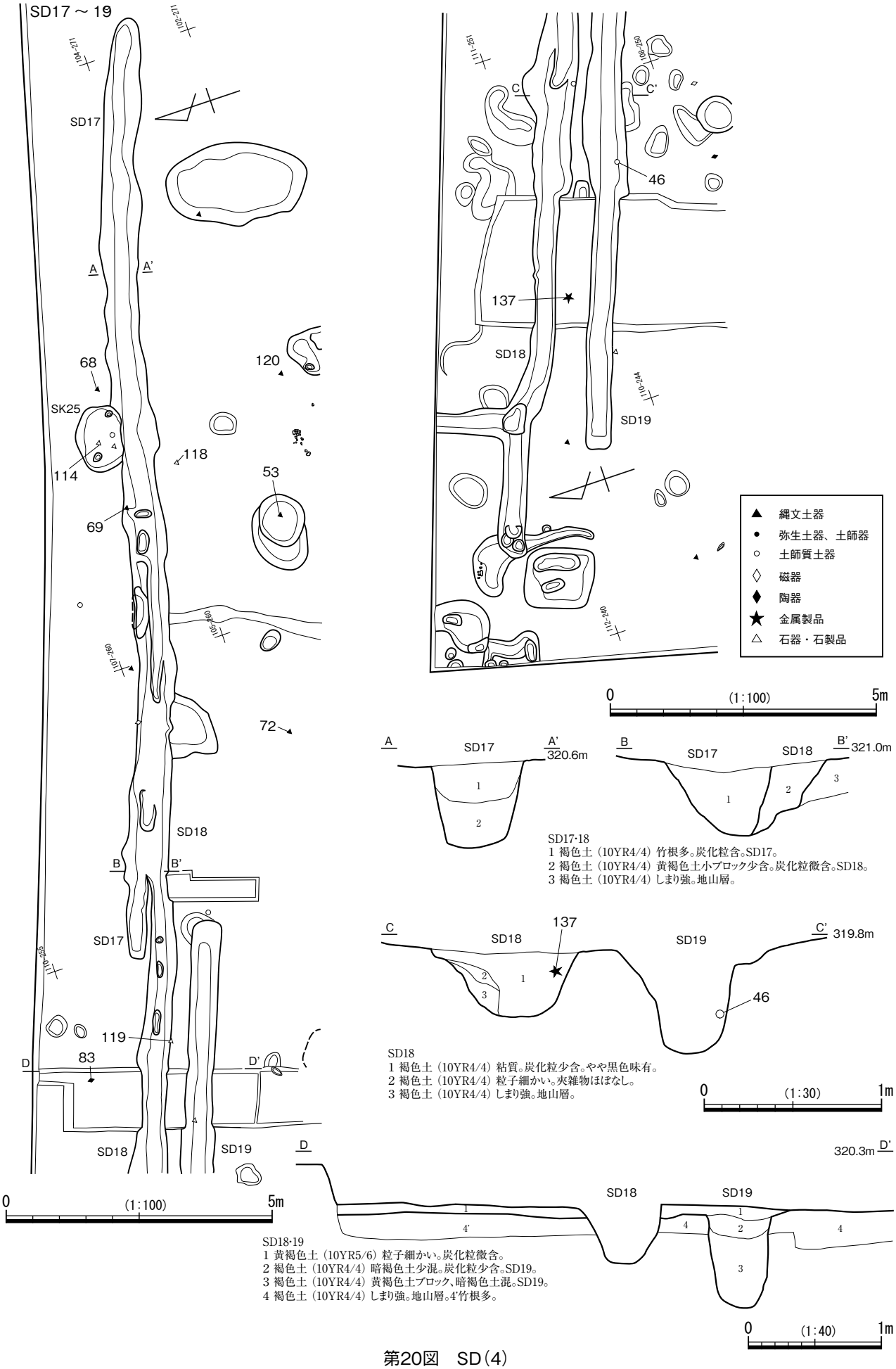
第17図　SD(1)



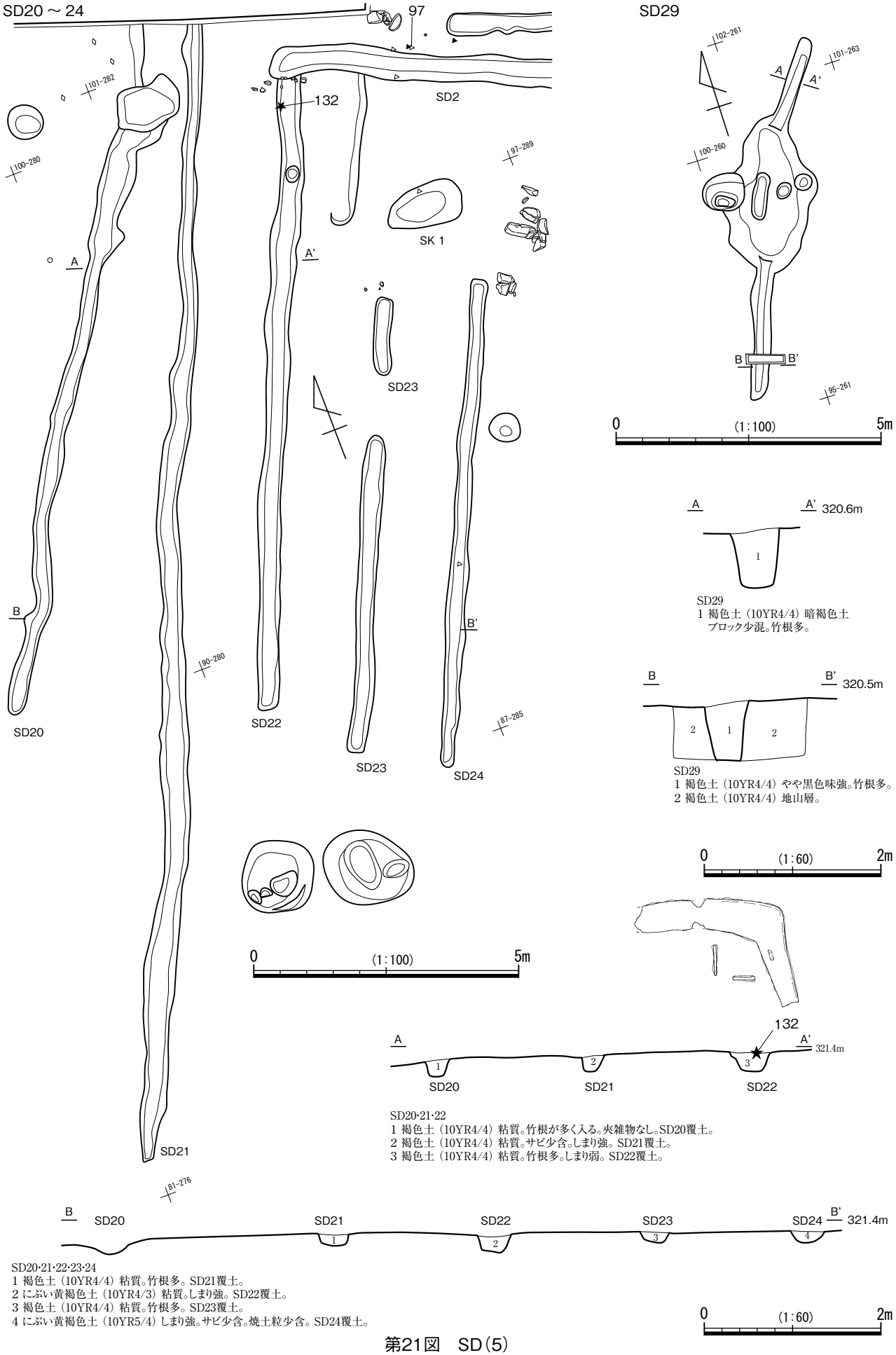
第18図　SD(2)、テラス面サブトレ


SD2・4
SD2
SD4
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK24
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
0
(1:100)
5m
321.6m
321.7m
322.0m
SD2
1 褐色土（10YR4/4）炭化粒微含。しまり強。
2 暗褐色土（10YR3/4）ローム粒混。しまり強。
3 褐色土（7.5YR4/4）粘質。しまり強。地山層。
SK9
1 褐色土（10YR4/4）炭化粒多含。焼土粒含。しまり強。
2 褐色土（10YR4/4）炭化粒含。しまりやや弱。
0
(1:30)
1m

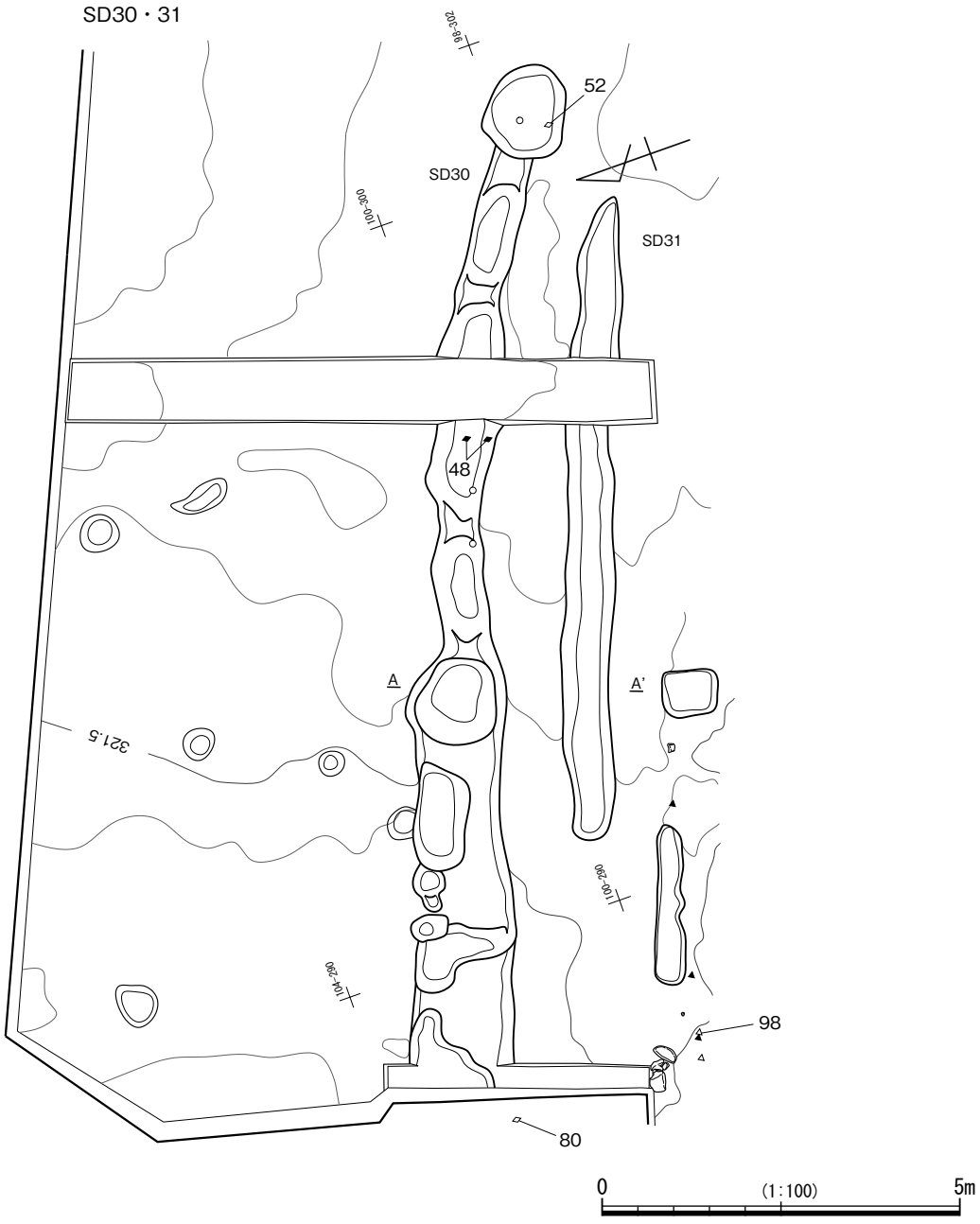
第19図　SD(3)

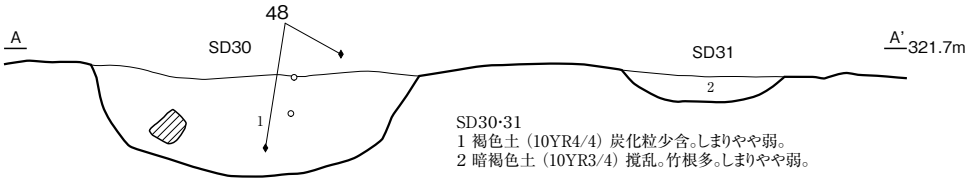

SD17～19
SD17
SD18
SD19
SK25
68
69
72
83
114
118
119
120
53
137
46
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
縄文土器
弥生土器、土師器
土師質土器
磁器
陶器
金属製品
石器・石製品
0 (1:100) 5m
A SD17 A' 320.6m
B SD17 SD18 B' 321.0m
SD17･18
1 褐色土（10YR4/4）竹根多。炭化粒含。SD17。
2 褐色土（10YR4/4）黄褐色土小ブロック少含。炭化粒微含。SD18。
3 褐色土（10YR4/4）しまり強。地山層。
C SD18 SD19 C' 319.8m
SD18
1 褐色土（10YR4/4）粘質。炭化粒少含。やや黒色味有。
2 褐色土（10YR4/4）粒子細かい。夾雑物ほぼなし。
3 褐色土（10YR4/4）しまり強。地山層。
0 (1:30) 1m
D 320.3m D'
SD18 SD19
SD18･19
1 黄褐色土（10YR5/6）粒子細かい。炭化粒微含。
2 褐色土（10YR4/4）暗褐色土少混。炭化粒少含。SD19。
3 褐色土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、暗褐色土混。SD19。
4 褐色土（10YR4/4）しまり強。地山層。4'竹根多。
0 (1:40) 1m

第20図　SD（4）

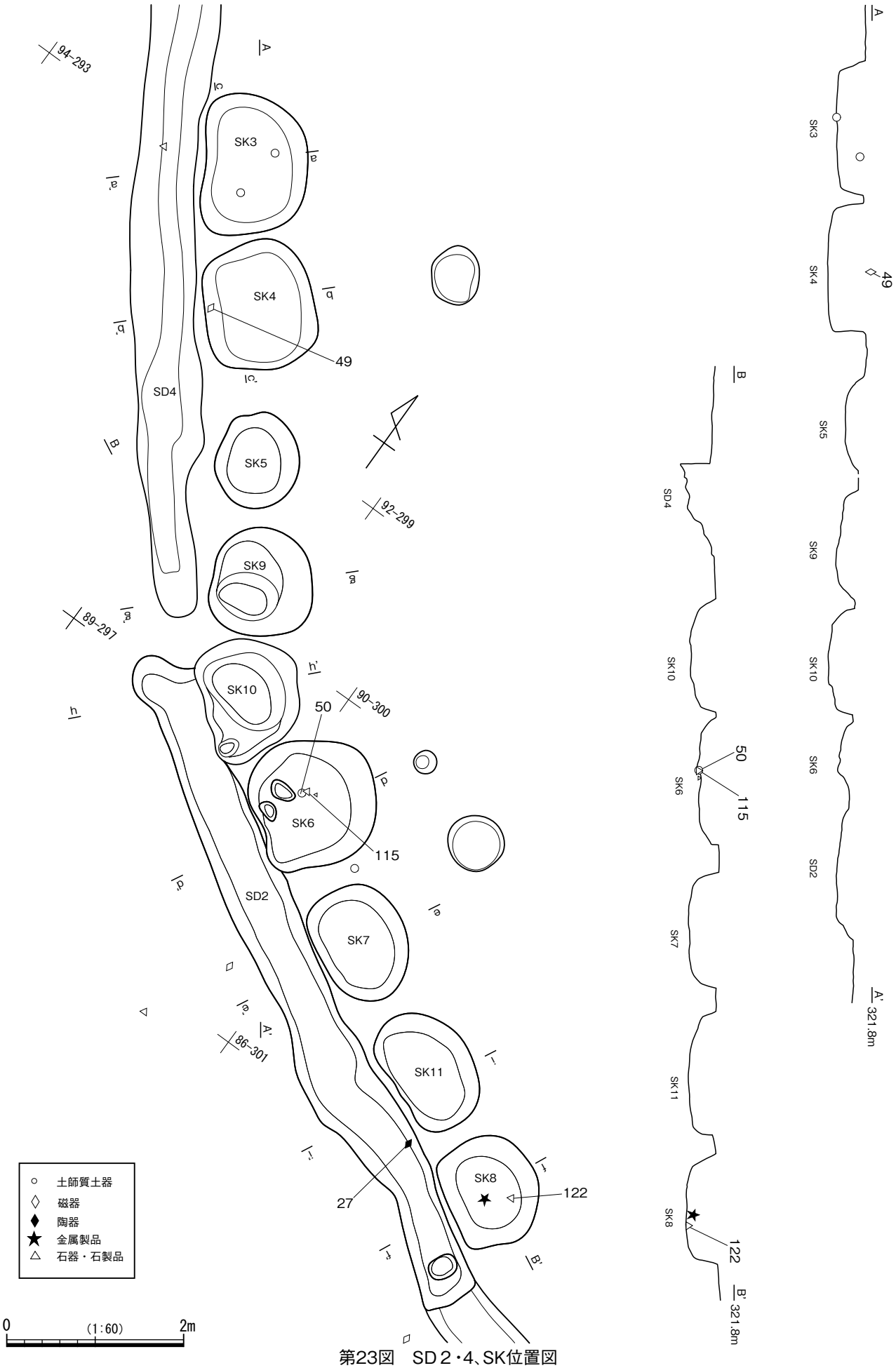

SD20 ～ 24
97
SD2
132
101-282
100-280
97-289
SK 1
A
A'
B
B'
SD23
SD20
SD22
SD23
SD24
90-280
87-285
SD21
81-276
0
(1:100)
5m
SD29
102-261
101-263
100-260
95-261
A
A' 320.6m
1
SD29
1 褐色土（10YR4/4）暗褐色土
ブロック少混。竹根多。
B
B' 320.5m
2
1
2
SD29
1 褐色土（10YR4/4）やや黒色味強。竹根多。
2 褐色土（10YR4/4）地山層。
0
(1:60)
2m
132
A
A' 321.4m
1
2
3
SD20
SD21
SD22
SD20･21･22
1 褐色土（10YR4/4）粘質。竹根が多く入る。夾雑物なし。SD20覆土。
2 褐色土（10YR4/4）粘質。サビ少含。しまり強。SD21覆土。
3 褐色土（10YR4/4）粘質。竹根多。しまり弱。SD22覆土。
B
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
B' 321.4m
1
2
3
4
SD20･21･22･23･24
1 褐色土（10YR4/4）粘質。竹根多。SD21覆土。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。しまり強。SD22覆土。
3 褐色土（10YR4/4）粘質。竹根多。SD23覆土。
4 にぶい黄褐色土（10YR5/4）しまり強。サビ少含。焼土粒少含。SD24覆土。
0
(1:60)
2m

第21図　SD(5)

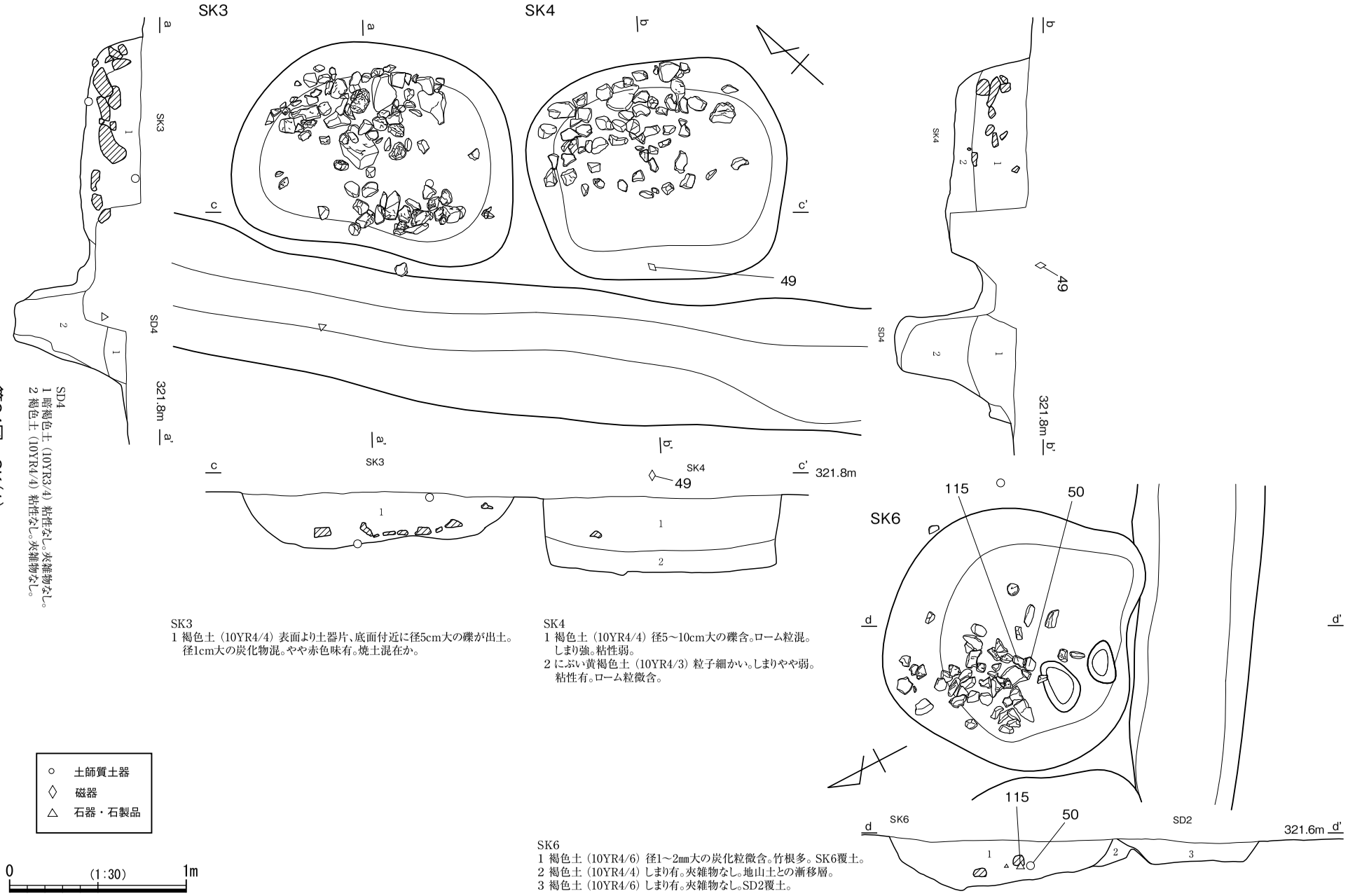

SD30・31
52
SD30
SD31
48
A
A'
98
80
0
(1:100)
5m


48
A
SD30
SD31
A'
321.7m
1
2
SD30･31
1 褐色土（10YR4/4）炭化粒少含。しまりやや弱。
2 暗褐色土（10YR3/4）撹乱。竹根多。しまりやや弱。
0
(1:30)
1m

第22図　SD(6)



第23図　SD２・4、SK位置図



SD4
1 暗褐色土（10YR3/4）粘性なし。夾雑物なし。
2 褐色土（10YR4/4）粘性なし。夾雑物なし。

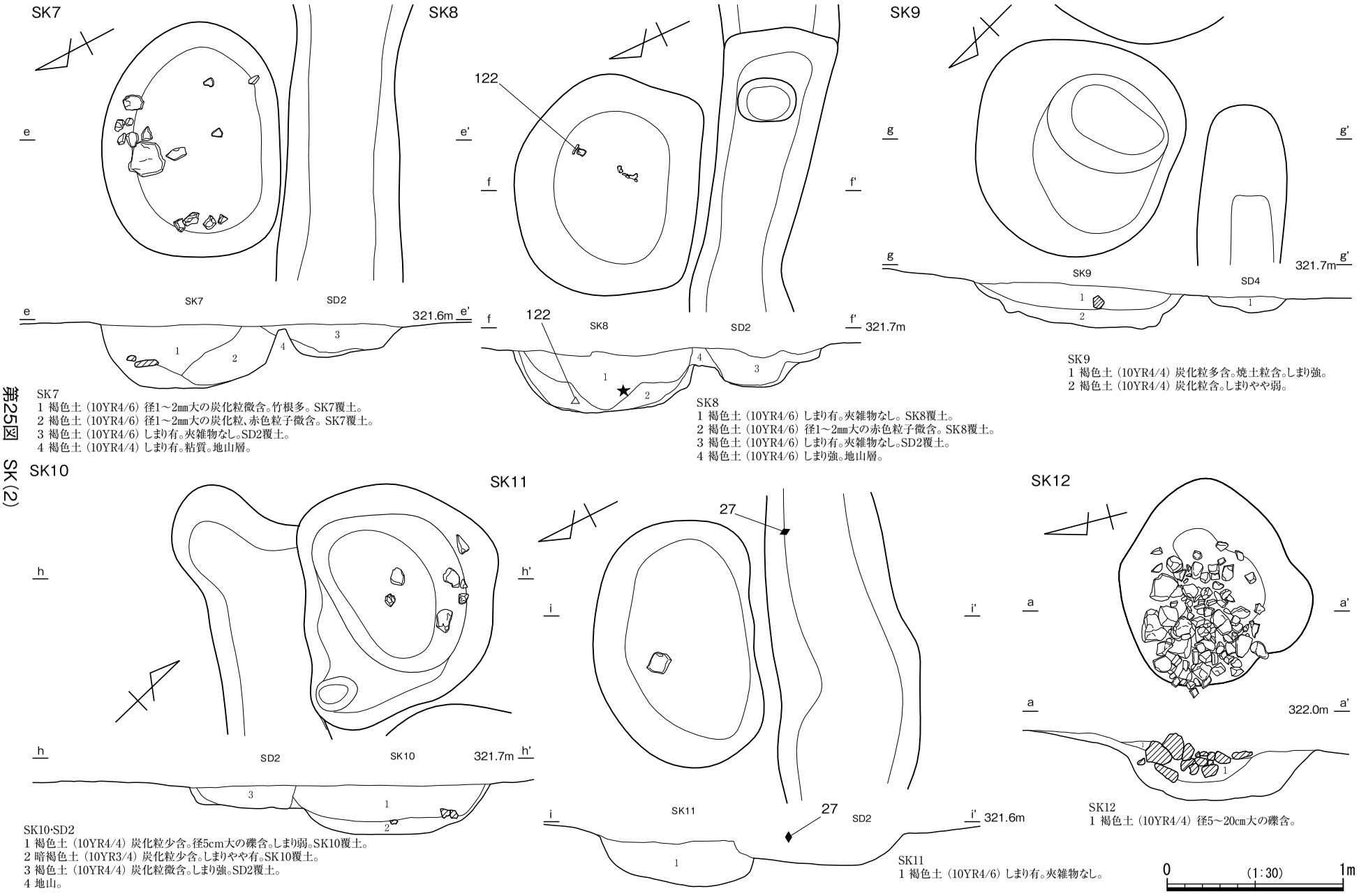
SK3
1 褐色土（10YR4/4）表面より土器片、底面付近に径5cm大の礫が出土。
径1cm大の炭化物混。やや赤色味有。焼土混在か。

SK4
1 褐色土（10YR4/4）径5～10cm大の礫含。ローム粒混。
しまり強。粘性弱。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粒子細かい。しまりやや弱。
粘性有。ローム粒微含。

SK6
1 褐色土（10YR4/6）径1～2㎜大の炭化粒微含。竹根多。SK6覆土。
2 褐色土（10YR4/4）しまり有。夾雑物なし。地山土との漸移層。
3 褐色土（10YR4/6）しまり有。夾雑物なし。SD2覆土。

第24図　SK(1)

第25図　SK(2)



SK7
1 褐色土（10YR4/6）径1～2㎜大の炭化粒微含。竹根多。SK7覆土。
2 褐色土（10YR4/6）径1～2㎜大の炭化粒、赤色粒子微含。SK7覆土。
3 褐色土（10YR4/6）しまり有。夾雑物なし。SD2覆土。
4 褐色土（10YR4/4）しまり有。粘質。地山層。

SK8
1 褐色土（10YR4/6）しまり有。夾雑物なし。SK8覆土。
2 褐色土（10YR4/6）径1～2㎜大の赤色粒子微含。SK8覆土。
3 褐色土（10YR4/6）しまり有。夾雑物なし。SD2覆土。
4 褐色土（10YR4/6）しまり強。地山層。

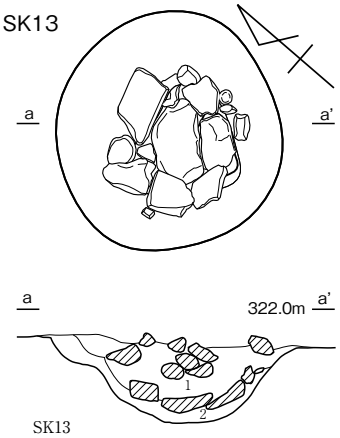
SK9
1 褐色土（10YR4/4）炭化粒多含。焼土粒含。しまり強。
2 褐色土（10YR4/4）炭化粒含。しまりやや弱。

SK10・SD2
1 褐色土（10YR4/4）炭化粒少含。径5cm大の礫含。しまり弱。SK10覆土。
2 暗褐色土（10YR3/4）炭化粒少含。しまりやや有。SK10覆土。
3 褐色土（10YR4/4）炭化粒微含。しまり強。SD2覆土。
4 地山。

SK11
1 褐色土（10YR4/6）しまり有。夾雑物なし。

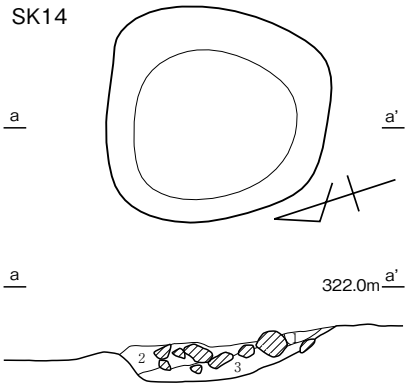
SK12
1 褐色土（10YR4/4）径5～20cm大の礫含。

SK13



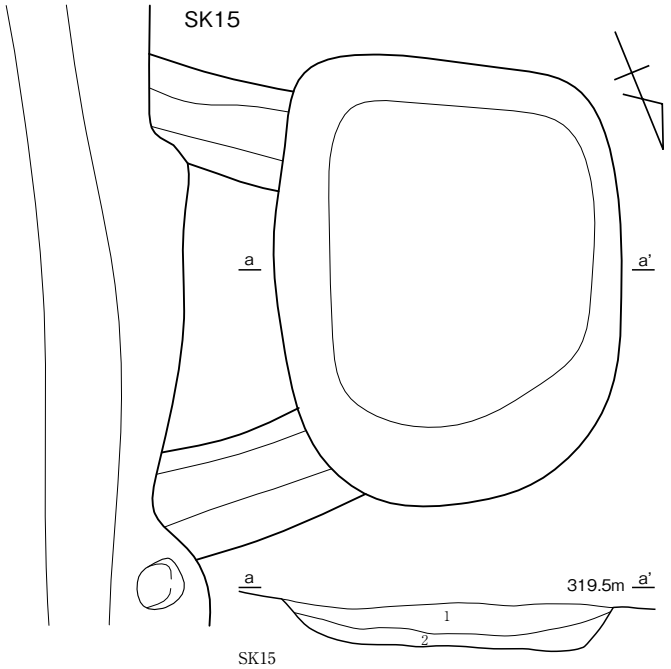
SK13
1 黒褐色土（10YR2/2）径1㎝大の褐色土ブロック(10YR4/4)少混。炭化物多含。径5～15㎝大の礫混。
2 黒褐色土（10YR2/2）1層と地山層の混層。掘り方。

SK14



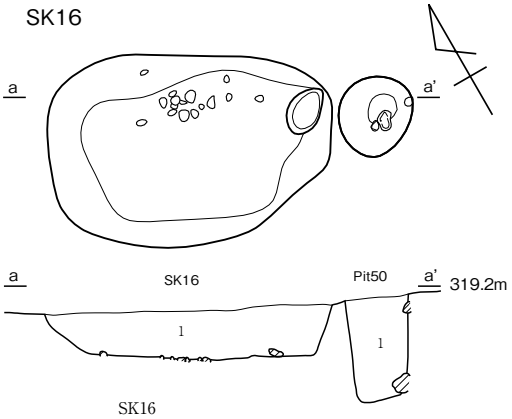
SK14
1 黒褐色土（10YR2/3）炭化粒多含。
2 褐色土（10YR4/4）径5～20㎝大の礫含。
3 褐色土（10YR4/4）しまり有。やや粘質。径5㎝大の礫少混。

SK15



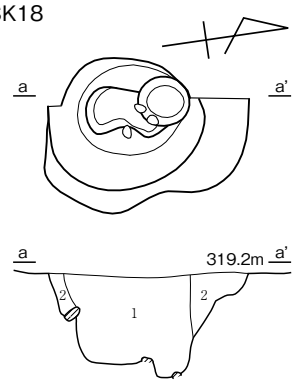
SK15
1 暗褐色土（10YR3/3）サビ・炭化粒・ローム粒多含。白色粒子含。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）サビ多含。しまり強。炭化粒少含。

SK16



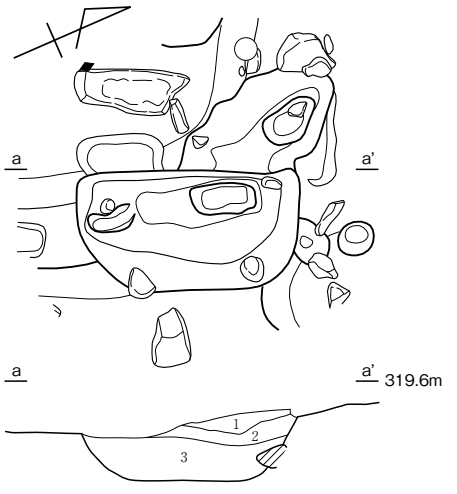
SK16
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径1～2㎜大の白色粒子、黄色土ブロック少含。

SK18



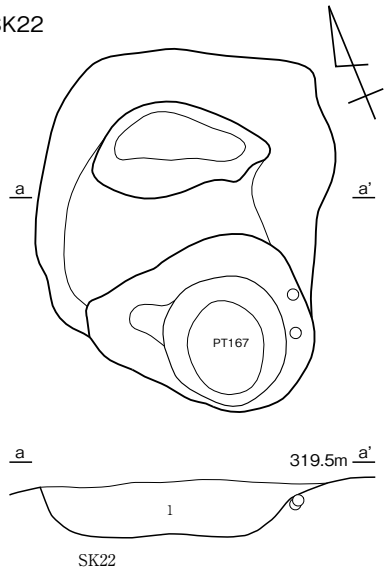
SK18
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径1㎜大の白色粒子、径2㎜大の褐色粒子少含。
2 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径1～2㎜大の白色粒子少含。5㎜大の黄色土ブロック含。

SK21

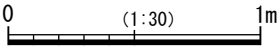


SK21
1 褐色土（10YR4/4）径5㎝大の礫、ロームブロック混。粘質。しまり強。
2 暗褐色土（10YR3/3）サビ多含。炭化粒少含。黒色味強。
3 褐色土（10YR4/4）ロームブロック多混。径5～10㎝大の礫混。サビ多含。

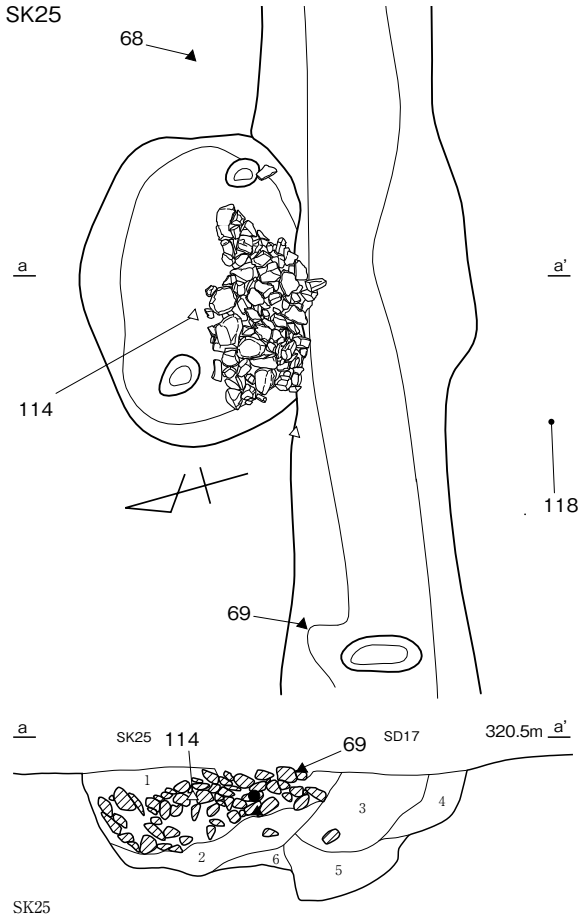
SK22



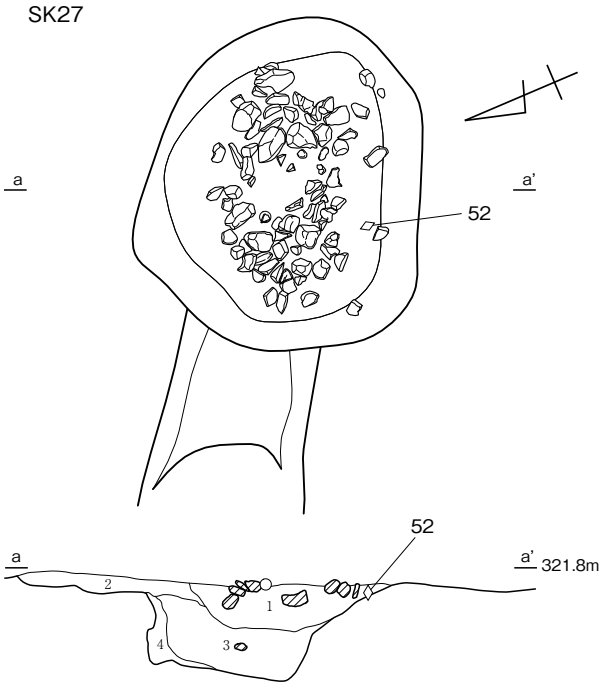
SK22
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。白色・黄褐色粒子含。



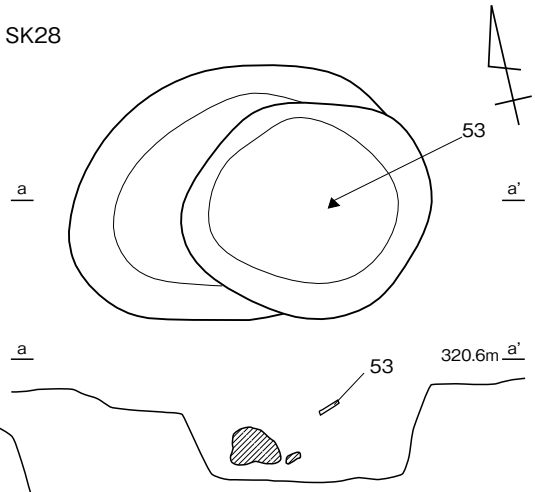
第26図　SK(3)

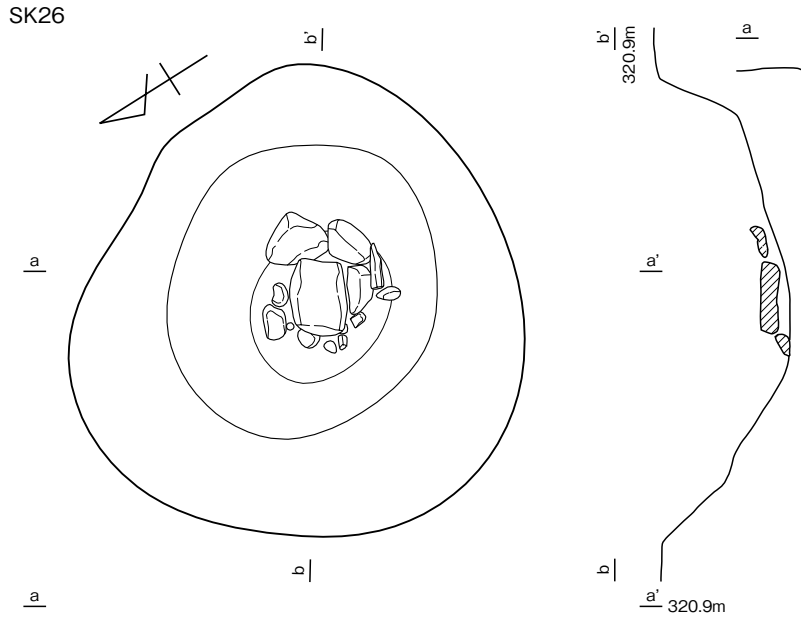


SK25
1 褐色土（10YR4/6）粒子細かい。地山層とほぼ同。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）径5cm大の礫少混。炭化粒微含。
3 褐色土（10YR4/4）径0.5～1cm大の褐色土ブロック混。しまり強。(SD17)
4 褐色土（10YR4/4）褐色土ブロック多混。(SD17)
5 褐色土（10YR4/4）4層と類似。やや黒色味有。しまりやや弱。(SD17)
6 褐色土（10YR4/4）地山層。



SK27
1 褐色土（10YR4/4）径15～20cm大の礫含。粒子細かい。
2 褐色土（10YR4/4）粒子細かい。サビ含。竹根少。
3 にぶい黄褐色土（10YR4/3）径1～2センチ大のロームブロック、
径5mm大の礫含。竹根多。溝状遺構内堆積層。
4 褐色土（10YR4/4）ローム質。しまり強。地山層。





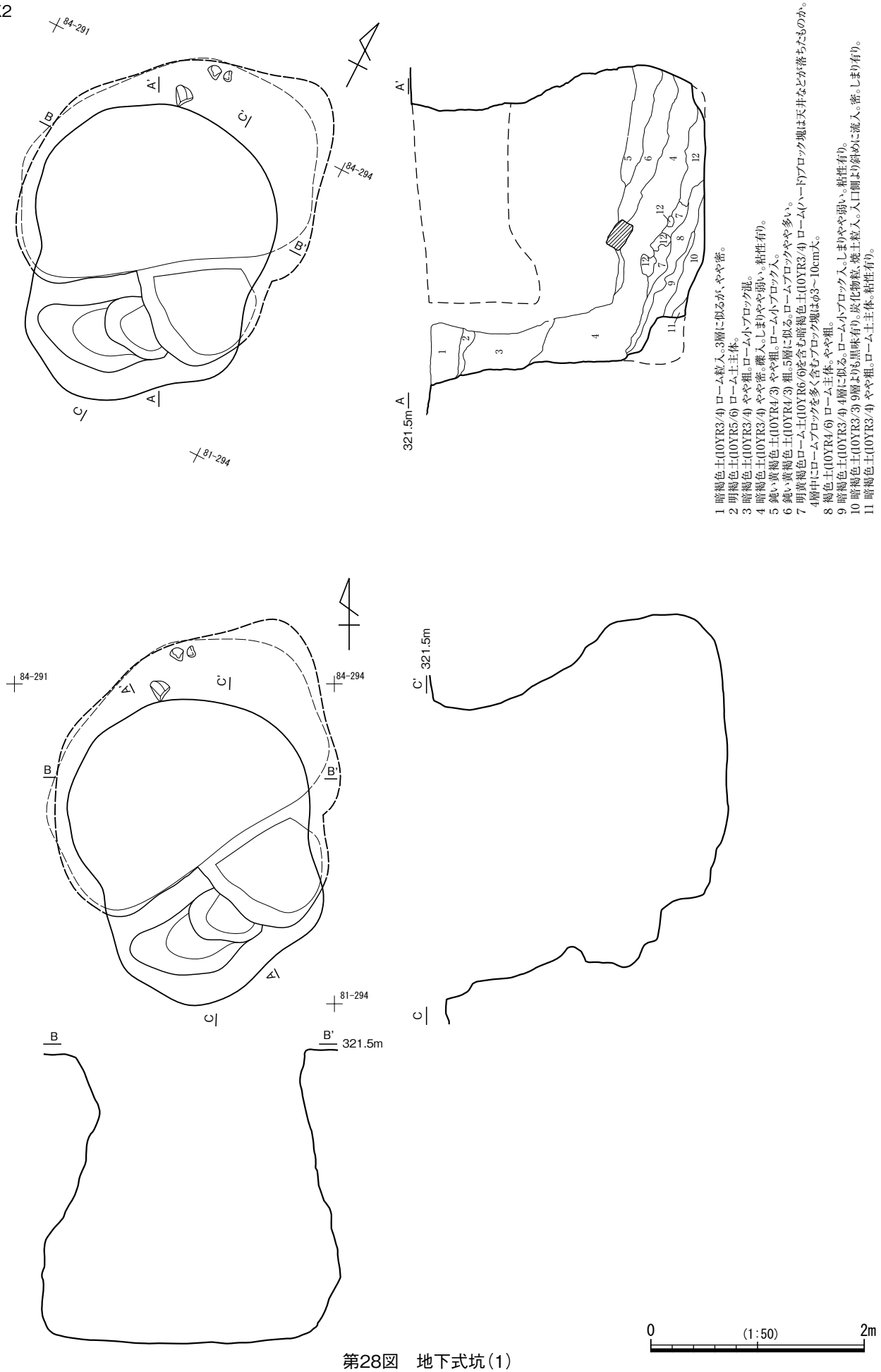
SK26
1 暗褐色土（10YR3/3）炭化粒含。褐色土混。しまり強。
2 暗褐色土（10YR3/3）径15cm大の礫多含。炭化粒含。
3 炭化層。(10YR1.7/1）炭化層。上層の礫下部分。
4 褐色土（10YR4/4）地山と上層の混層。被熱で硬化。

○ 土師質土器
◇ 磁器
● 弥生土器、土師器
▲ 縄文土器
△ 石器・石製品

0 (1:30) 1m

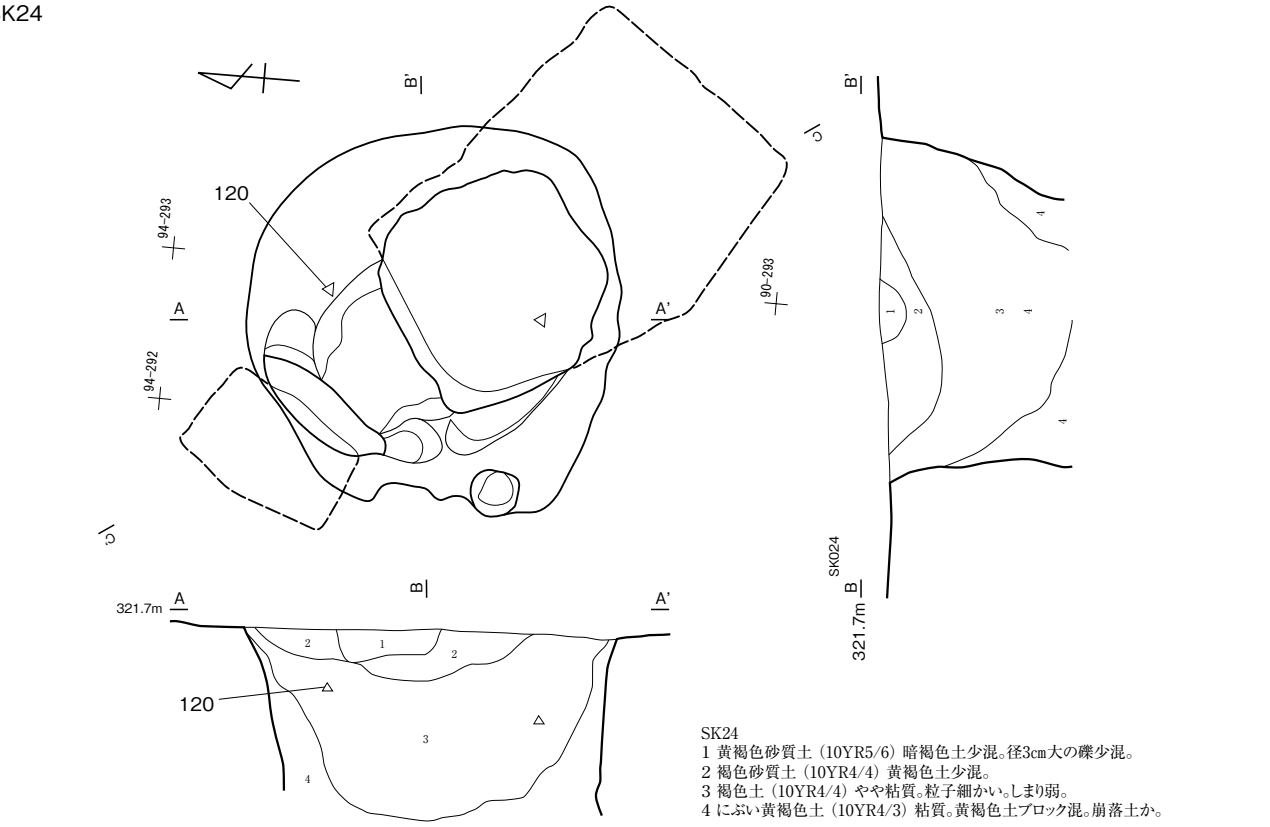
第27図　SK(4)

SK2



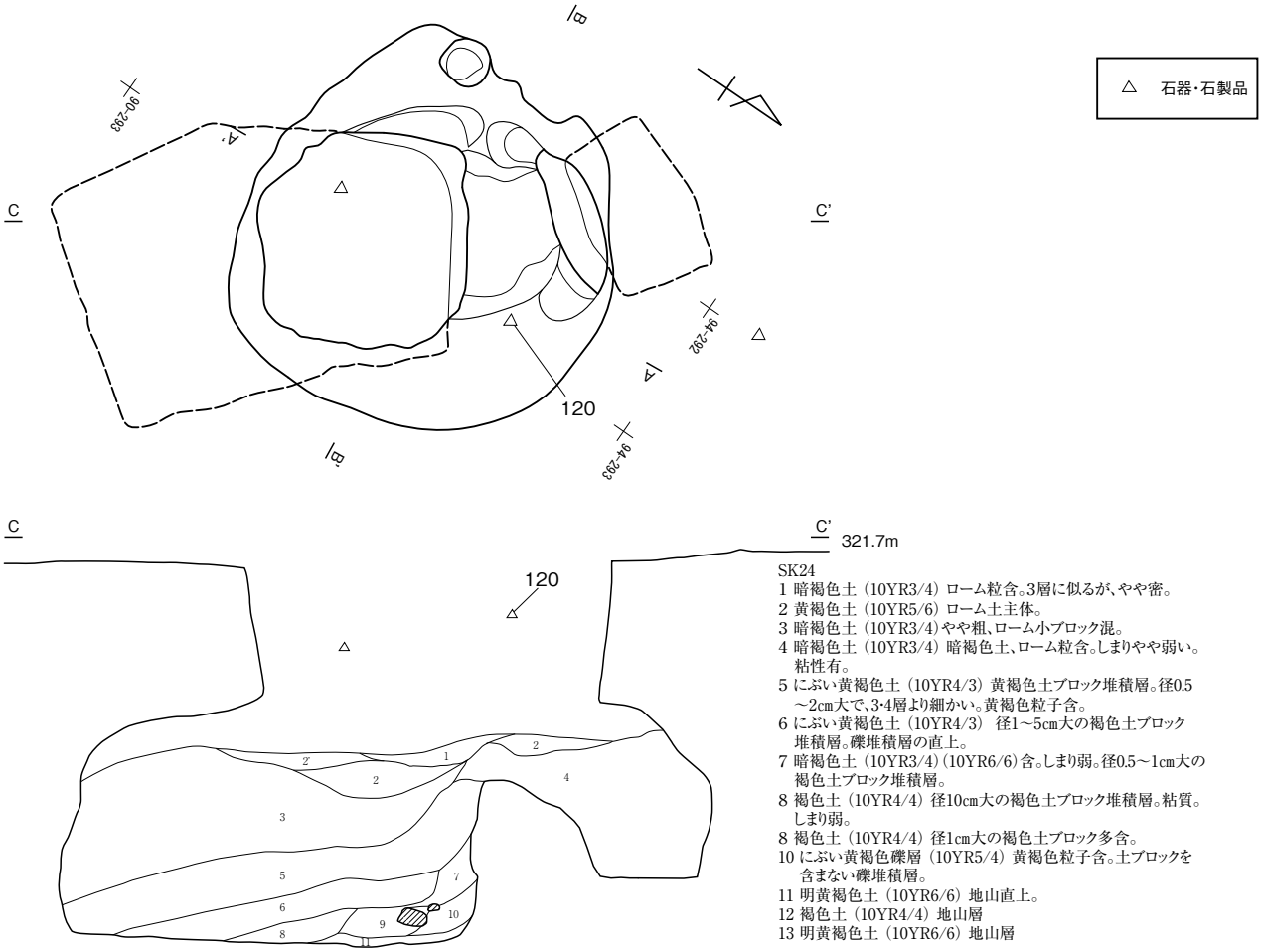
第28図　地下式坑(1)

SK24



SK24
1 黄褐色砂質土（10YR5/6）暗褐色土少混。径3㎝大の礫少混。
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土少混。
3 褐色土（10YR4/4）やや粘質。粒子細かい。しまり弱。
4 にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘質。黄褐色土ブロック混。崩落土か。

△ 石器・石製品

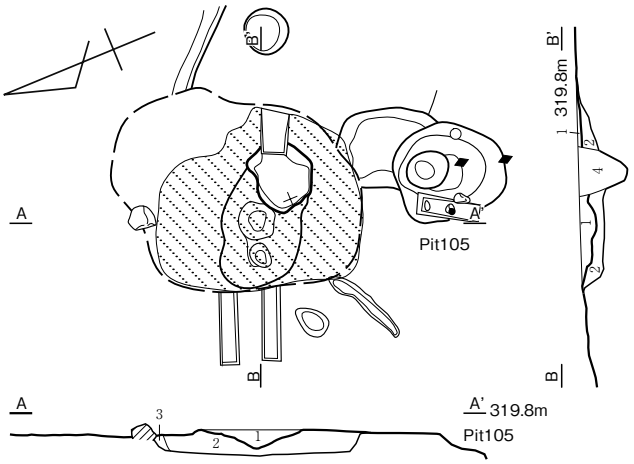


SK24
1 暗褐色土（10YR3/4）ローム粒含。3層に似るが、やや密。
2 黄褐色土（10YR5/6）ローム土主体。
3 暗褐色土（10YR3/4）やや粗、ローム小ブロック混。
4 暗褐色土（10YR3/4）暗褐色土、ローム粒含。しまりやや弱い。粘性有。
5 にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色土ブロック堆積層。径0.5～2㎝大で、3･4層より細かい。黄褐色粒子含。
6 にぶい黄褐色土（10YR4/3）径1～5㎝大の褐色土ブロック堆積層。礫堆積層の直上。
7 暗褐色土（10YR3/4）（10YR6/6）含。しまり弱。径0.5～1㎝大の褐色土ブロック堆積層。
8 褐色土（10YR4/4）径10㎝大の褐色土ブロック堆積層。粘質。しまり弱。
8 褐色土（10YR4/4）径1㎝大の褐色土ブロック多含。
10 にぶい黄褐色礫層（10YR5/4）黄褐色粒子含。土ブロックを含まない礫堆積層。
11 明黄褐色土（10YR6/6）地山直上。
12 褐色土（10YR4/4）地山層
13 明黄褐色土（10YR6/6）地山層

0 (1:50) 2m

第29図　地下式坑(2)

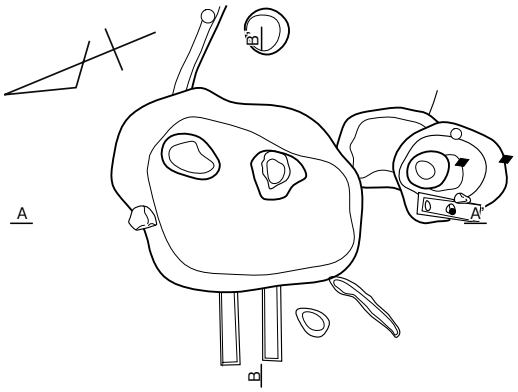
SX1



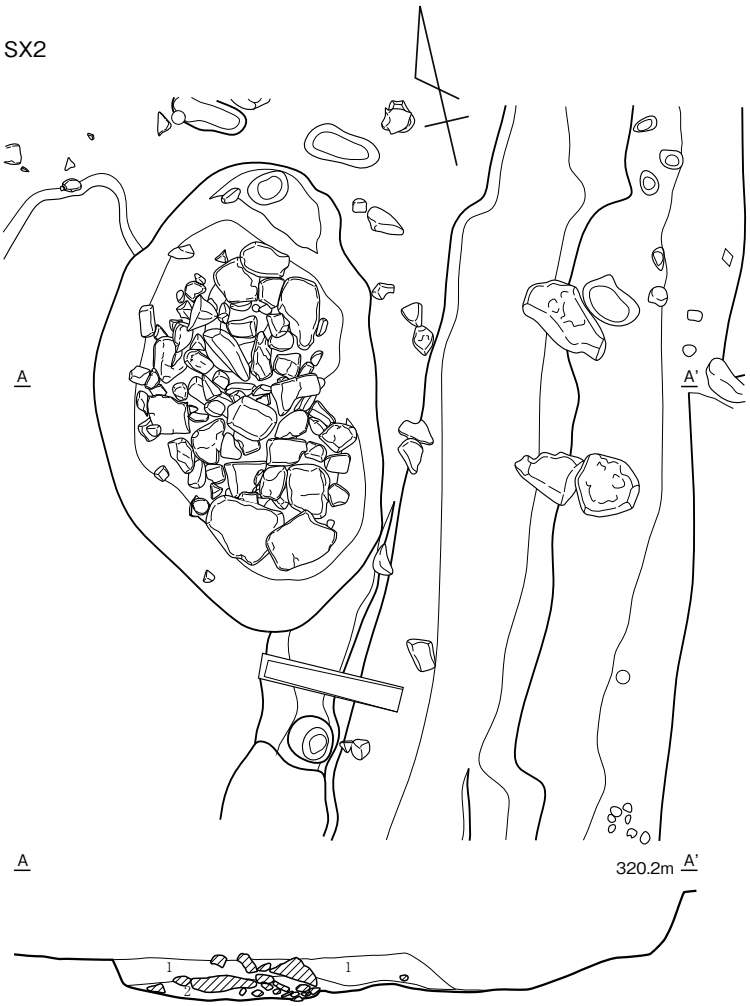
SX1
1 褐色土（10YR4/4）サビ、白色粒子少含。しまり強。
2 褐色土（10YR4/6）焼土粒、炭化粒含。
3 褐色土（10YR4/6）炭化粒少含。サビ含。

粒土範囲

SX1 完掘

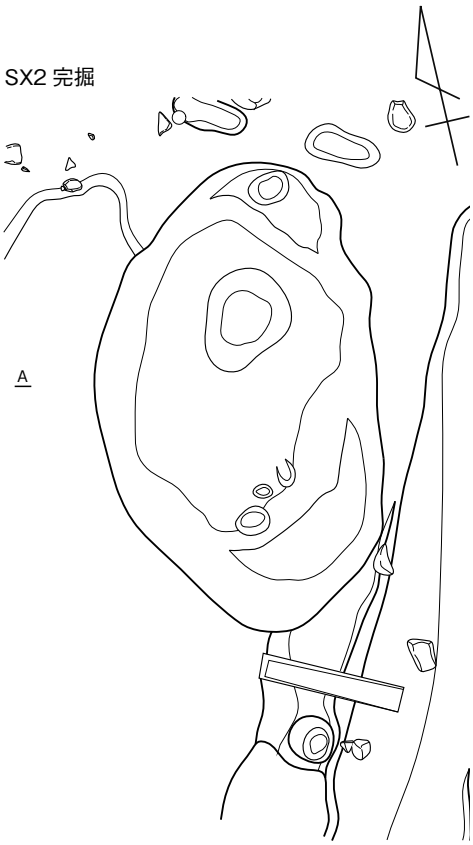


SX2



SX2
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。径2～5㎜大の黄褐色土粒子含。白色粒子・炭化粒多含。遺物包含。
2 暗褐色土（10YR3/3）1層類似。3～50㎝大の礫混。

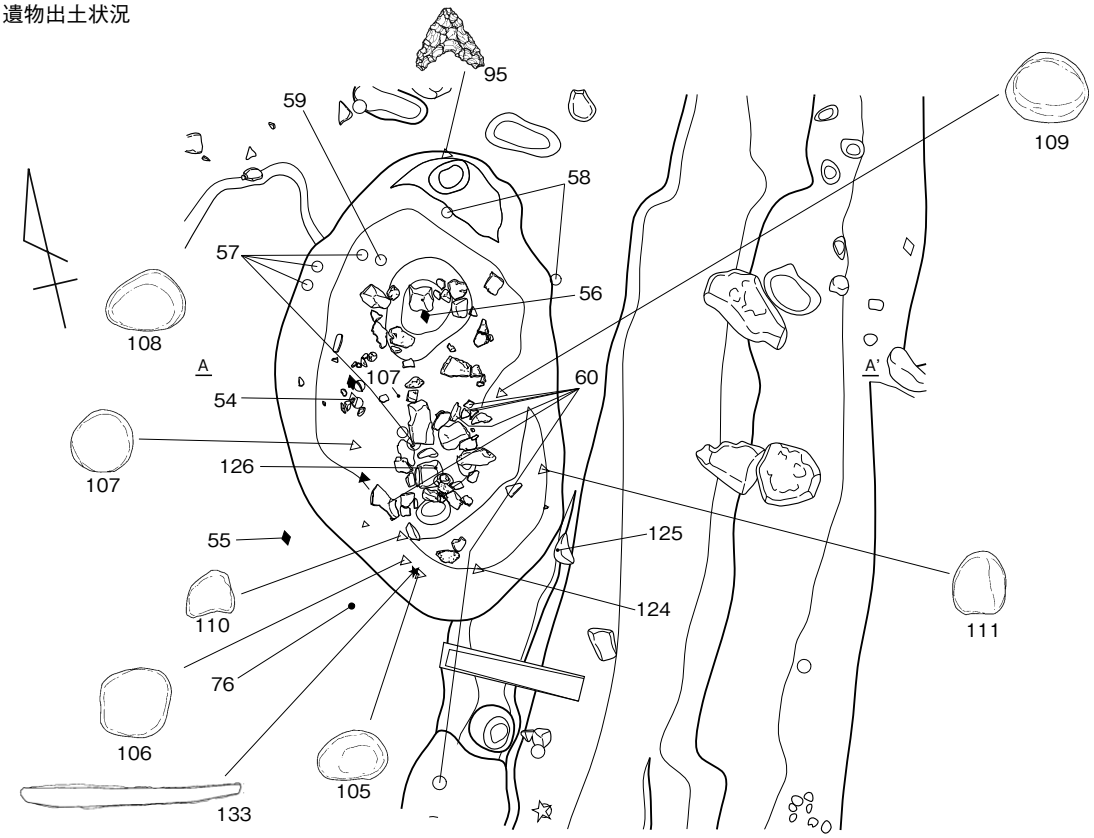
SX2 完掘

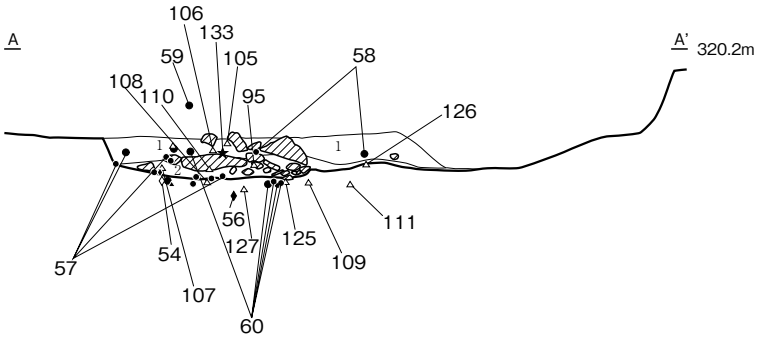


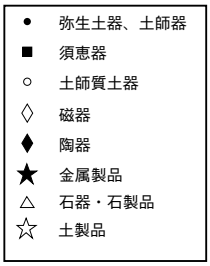
0 (1:50) 2m

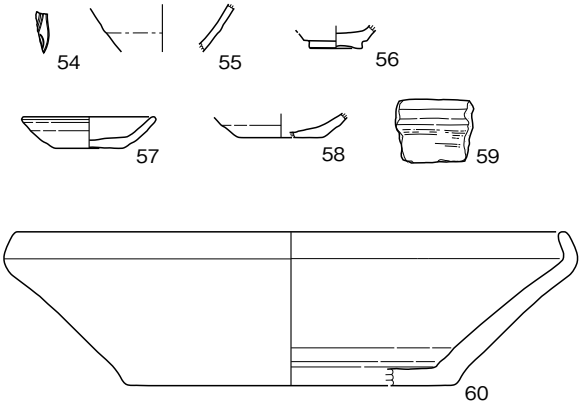
第30図　SX（1）

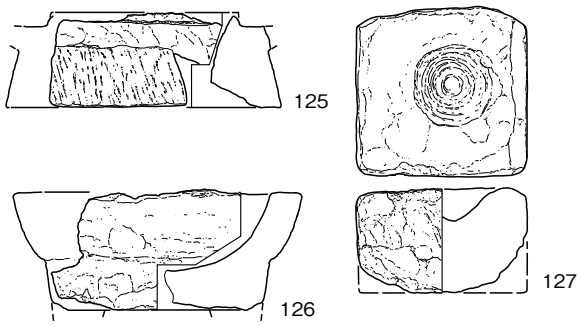
SX2 遺物出土状況







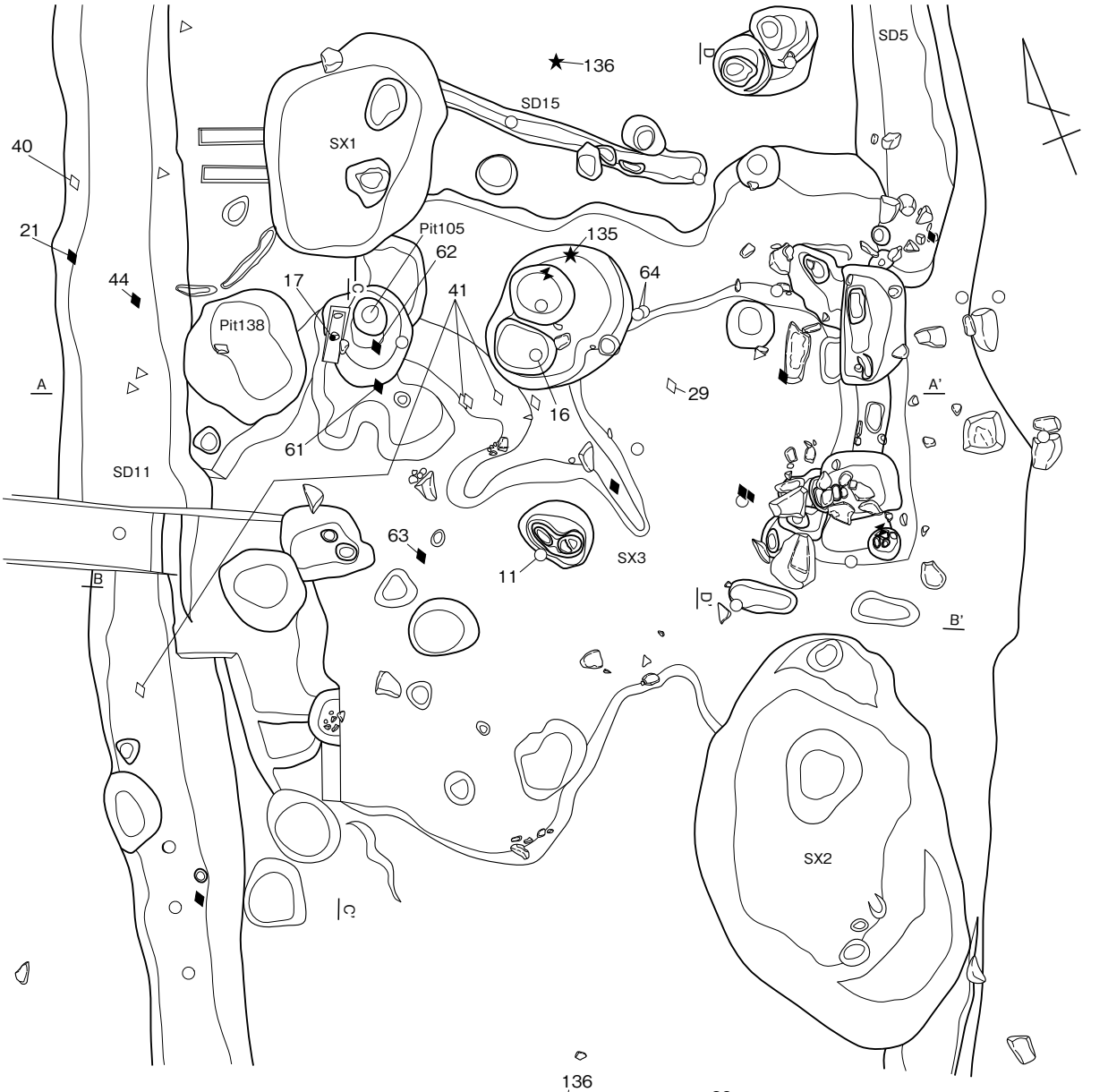


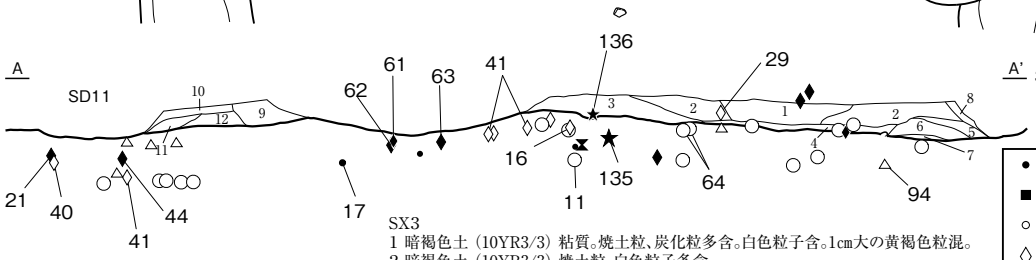


0 (1:50) 2m

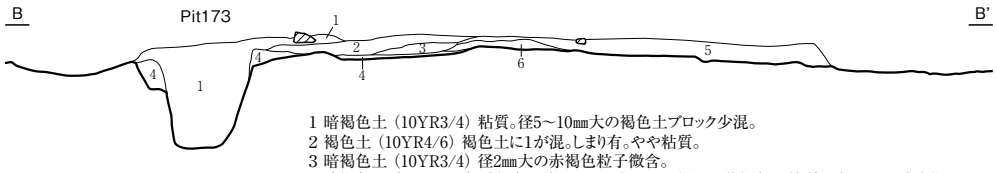
第31図　SX(2)

SX3

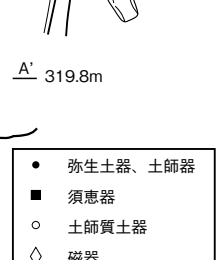


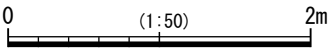


SX3
1 暗褐色土（10YR3/3）粘質。焼土粒、炭化粒多含。白色粒子含。1cm大の黄褐色粒混。
2 暗褐色土（10YR3/3）焼土粒、白色粒子多含。
3 暗褐色土（10YR3/3）白色粒子含。炭化粒多含。粘質。
4 暗褐色土（10YR3/3）径5㎜大の黄褐色粒混。粘質。炭化粒含。
5 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径5㎜大の礫含。白色粒子少含。
6 暗褐色土（10YR3/3）径5㎜大の黄褐色粒、ロームブロック含。しまり強。
7 暗褐色土（10YR3/3）サビ多含。
8 暗褐色土（10YR3/4）黄褐色粒多含。SD5覆土。
9 褐色土（10YR4/4）径5㎜大の礫、ロームブロック、炭化粒多含。しまり強。
10 暗褐色土（10YR3/3）炭化粒少含。しまり有。夾雑物なし。
11 にぶい黄褐色土（10YR4/3）白色粒子多含。SD11覆土か。



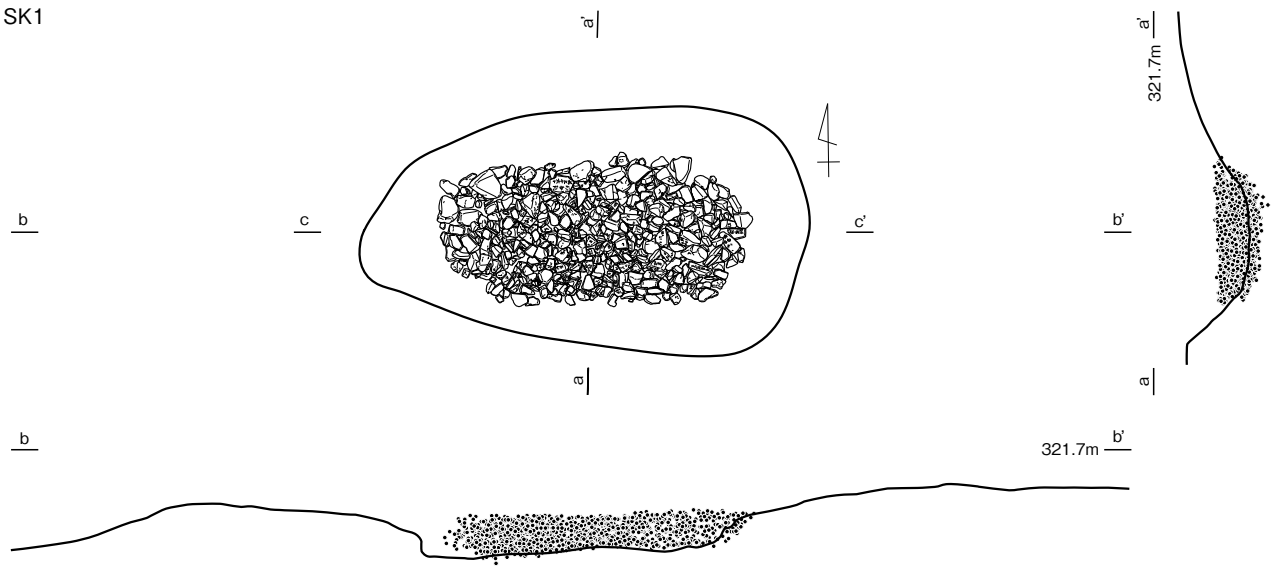
1 暗褐色土（10YR3/4）粘質。径5～10㎜大の褐色土ブロック少混。
2 褐色土（10YR4/6）褐色土に1が混。しまり有。やや粘質。
3 暗褐色土（10YR3/4）径2㎜大の赤褐色粒子微含。
4 暗褐色土（7.5YR3/4）暗褐色土（10YR3/4）ブロック混。明黄褐色土粘質土（10YR6/6）少混。
5 褐色土（10YR4/6）地山か。
6 褐色土（10YR4/4）明黄褐色粘質土（10YR6/6）多混。夾雑物なし。

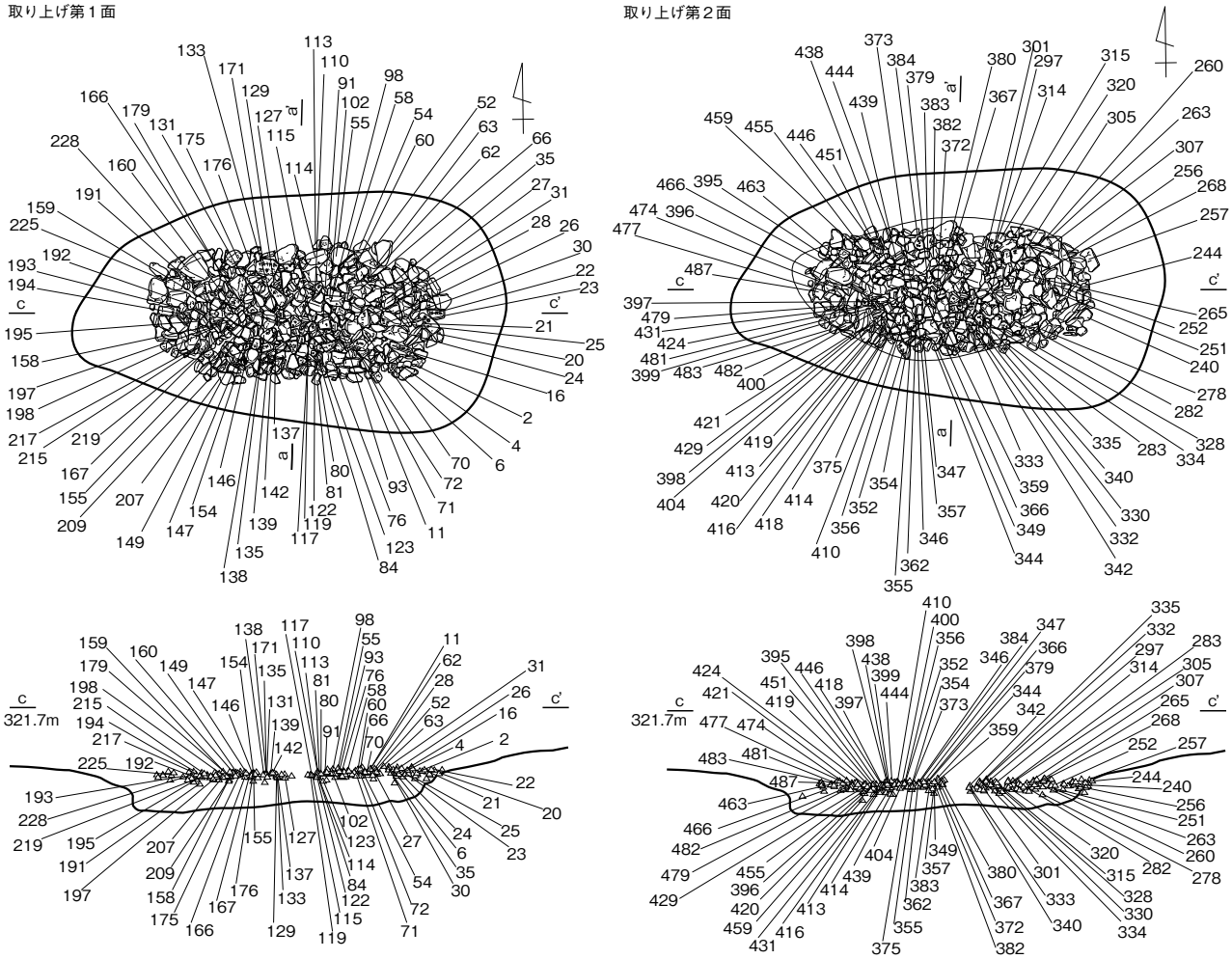




第32図　SX（3）

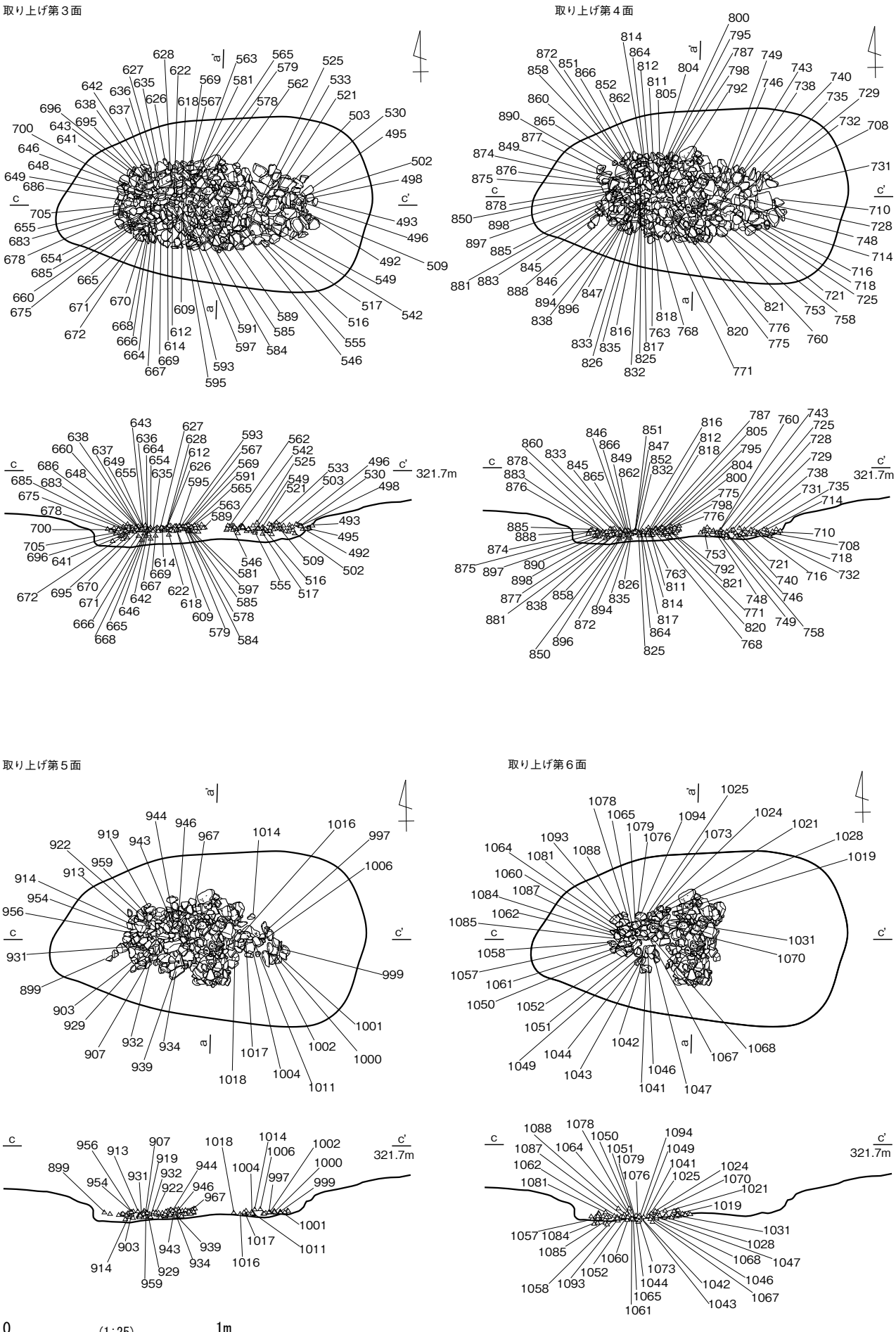
第33図　SX(4)、経石埋納遺構(1)



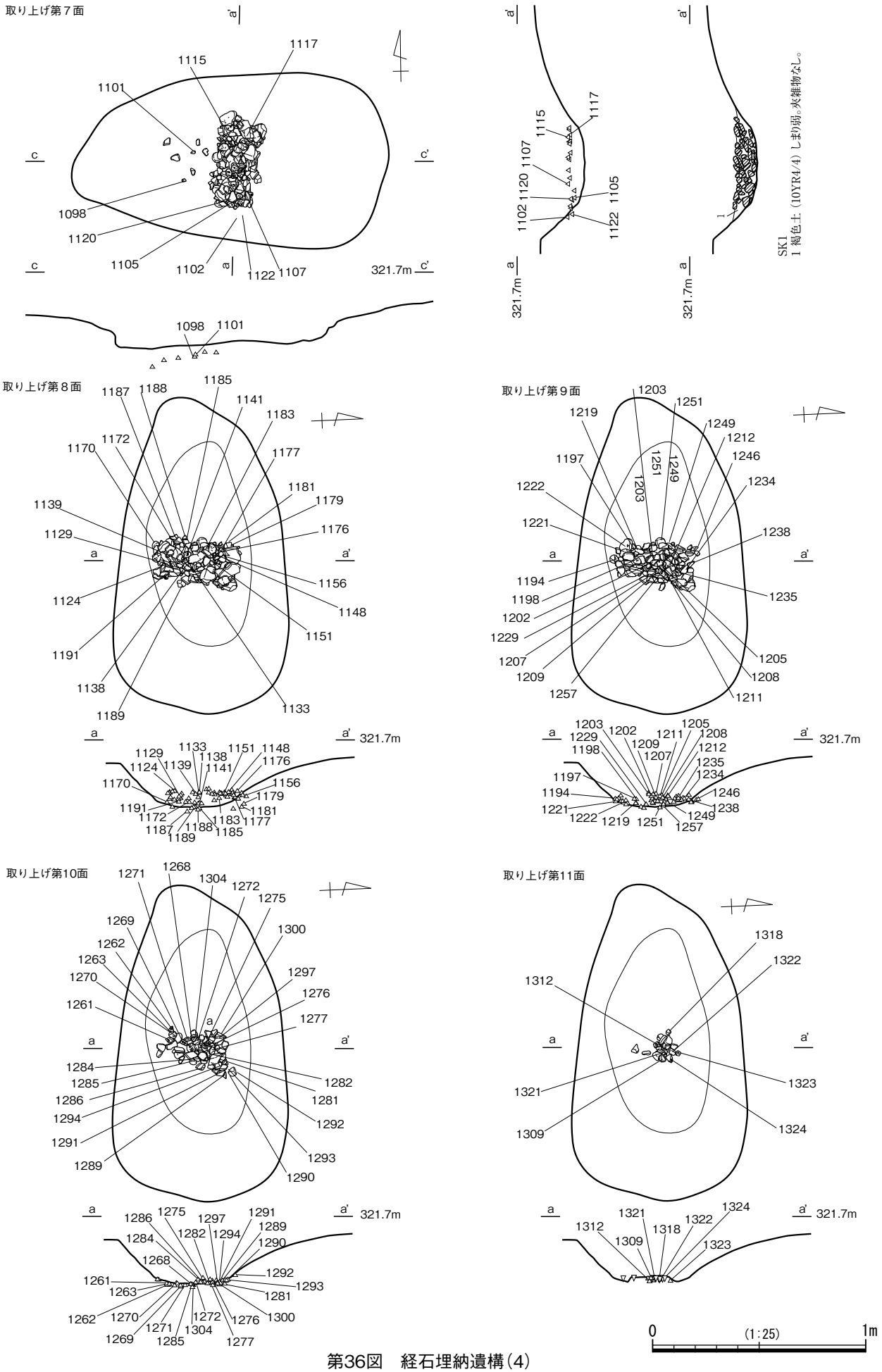


0 (1:25) 1m

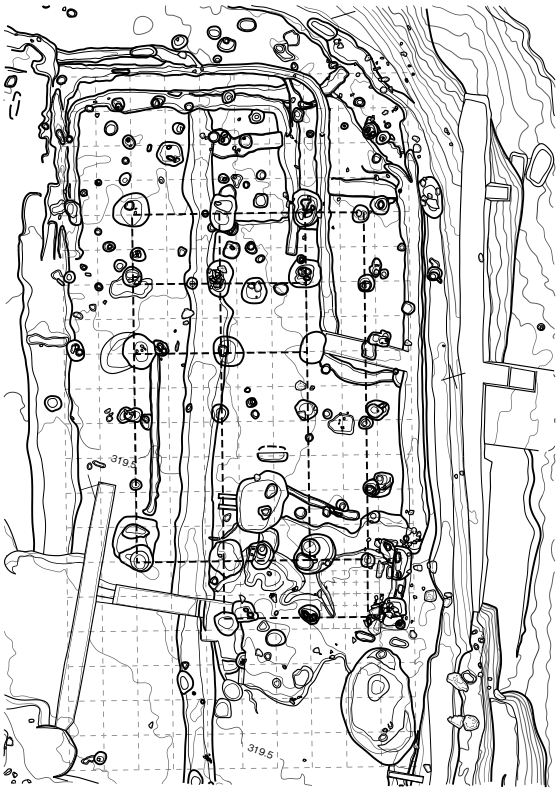
第34図　経石埋納遺構(2)



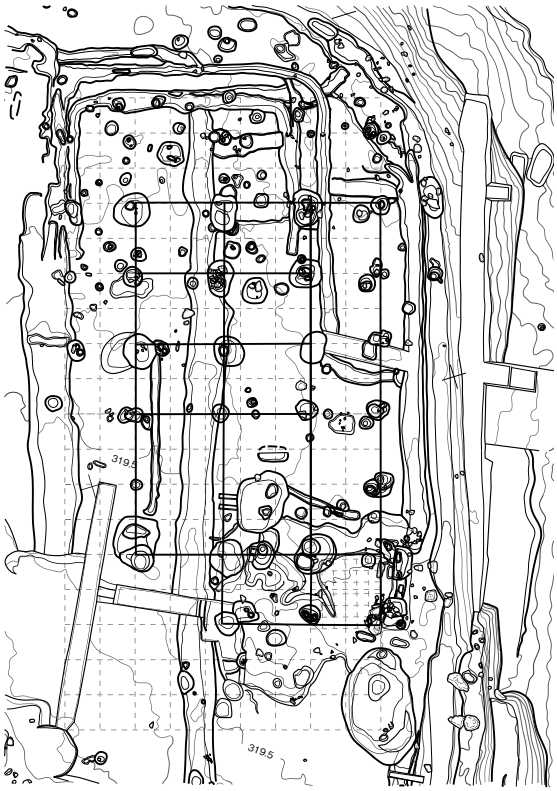
第35図　経石埋納遺構(3)



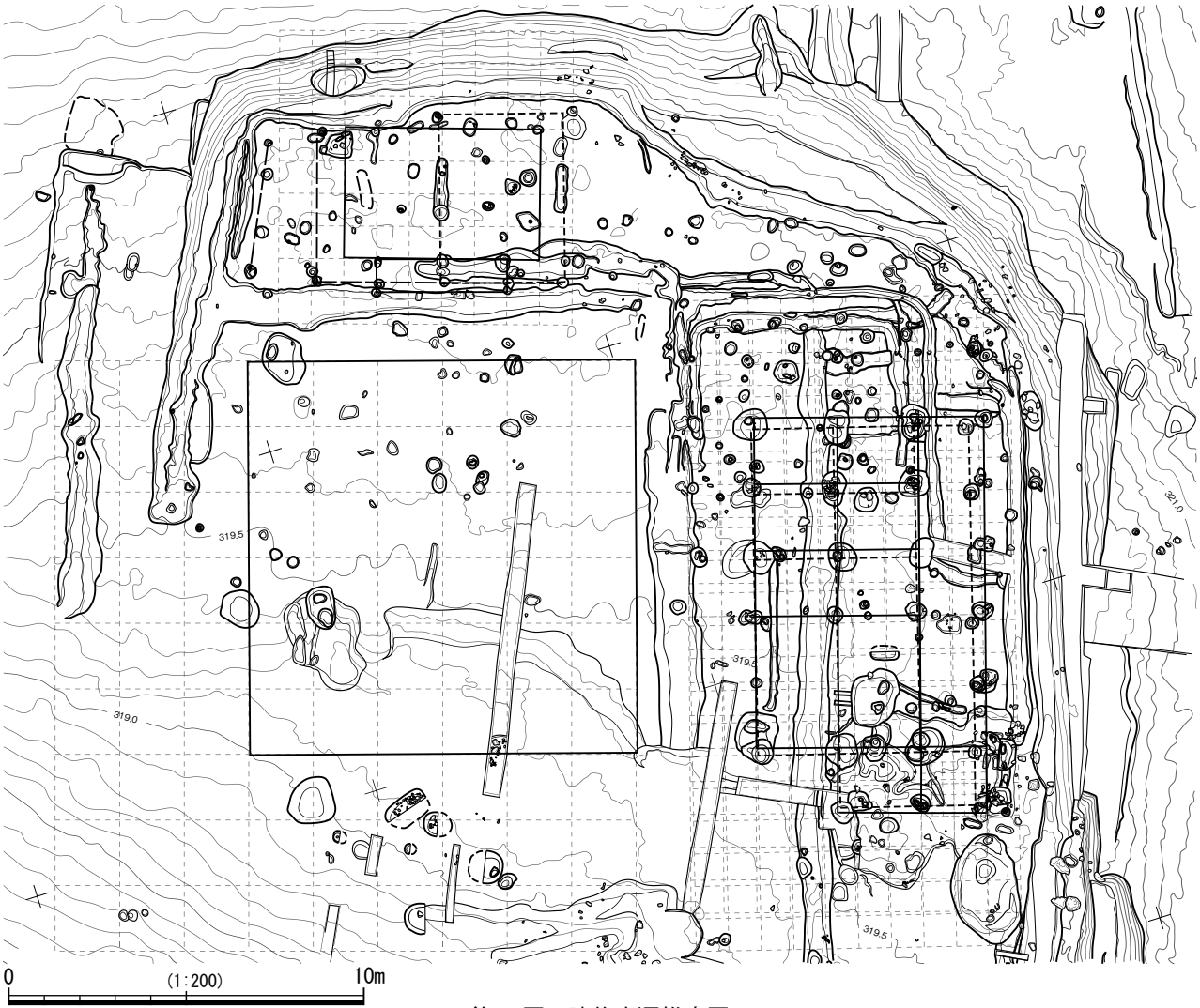
第36図　経石埋納遺構(4)



第1期推定回線(N−16°−E)



第2期推定回線(N−17°−E)



第37図　建物変遷推定図

表７　A区出土遺物観察表（磁器・陶器・土器類）

法量（　）は復元実測値、[　]は現存値である。

図	No.	遺構名	種別	器種	部位	口径（横）	底径（縦）	器高（厚）	内面/外面/底部	装飾技法	色調（内／外）	胎土、含有物	焼成	産地	年代	注記内容	備考
1	1	SB1	陶器	皿	口縁～底	(11.2)	(6.0)	[2.5]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	灰釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C前半	P102,213	大窯Ⅱ
1	2	SB1	陶器	皿	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	灰釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C前半か	P391	大窯Ⅱか
1	3	SB1	陶器	皿	胴～底	－	(5.8)	[1.3]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	灰釉	にぶい黄橙 10YR7/3	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C前半	P207	大窯Ⅰ　印花文
1	4	SB1	陶器	擂鉢	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	鉄釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C代	P440	大窯
1	5	SB1	土師器	かわらけ	口縁～底	8.4	5.4	1.8	回転ナデ/回転ナデ/ヘラケズリ		橙7.5YR6/8	密,赤・白・黒色粒子,少量の雲母	良			P247,351	
38	6	SB1	土師器	かわらけ	口縁～底	(9.6)	(4.6)	2.05	回転ナデ/回転ナデ,ヘラケズリ/ヘラケズリ		明褐7.5YR5/8	密,赤・白・黒色粒子,少量の雲母	良			P95,96	摩耗してヘラケズリ不明瞭
38	7	SB1	土師器	かわらけ	口縁～底	(10.4)	(5.8)	2.2	回転ナデ/回転ナデ/ヘラケズリ		橙7.5YR6/6	密,赤・白・黒色粒子	良			P352	両面:焼ムラ(黒変)あり
38	8	SB1	土師器	かわらけ	口縁～胴	(11.0)	－	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ/－		黒褐7.5YR3/1	密,白色粒子	良			P355	両面:全体的に黒色
38	9	Pit38	土師器	かわらけ	口縁～胴	(12.4)	－	[1.95]	回転ナデ/回転ナデ/－		明褐7.5YR5/6	やや密,赤・白・黒色粒子,雲母	やや不良			P334,335	
38	10	Pit58	土師器	かわらけ	口縁～胴	(8.8)	－	[1.8]	回転ナデ/回転ナデ/－		黒10YR2/1	やや密,白色粒子,雲母	不良			P375	
38	11	Pit104	土師器	かわらけ	口縁～底	(8.0)	(4.0)	[1.6]	回転ナデ/回転ナデ/－		橙7.5YR6/6	密	良			P417	
38	12	Pit146	土師器	かわらけ	口縁～胴	(12.0)	－	[2.5]	回転ナデ/回転ナデ/－		明黄褐10YR6/6	やや密,赤・黒・白色粒子,雲母	やや不良			P443	口縁スス付着(灯明皿か)
38	13	Pit151	土師器	かわらけ	口縁～底	(9.8)	(4.8)	2.4	回転ナデ/回転ナデ/工具痕?		にぶい黄橙 10YR6/4	密,白・赤・黒色粒子,雲母	やや良			P450	
38	14	Pit182	土師器	かわらけ	口縁～底	10.0	5.0	2.3	回転ナデ/回転ナデ/ヘラケズリ		明褐7.5YR5/6	やや密,白・赤・黒色粒子	良			P288,406,428,492,493	内面:スス付着?
38	15	Pit130	磁器	皿	口縁～底	(12.6)	(7.0)	2.9	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	白磁	灰白5Y8/2	緻密	良	景徳鎮	15C後半～16C	P283	
38	16	Pit184	土器	鍋	口縁～胴	(25.0)	－	[8.4]	ナデ/ナデ/－		褐7.5YR4/6／黒褐色7.5YR3/1	密,白・黒色粒子	やや良		16C後半か	P361	
38	17	Pit105	土器	手捏ね	胴～底	－	4.4	[2.8]	ヘラナデ/ヘラナデ/ナデ		明褐7.5YR5/6	密,白・黒・赤色粒子	良			P449	
38	18	SD1	磁器	碗	口縁～底	(15.2)	(5.4)	5.0	回転ナデ/回転ナデ/－		灰白5Y8/1	密,黒色粒子	良	景徳鎮	16C前半	P278,P344,P176,外	
38	19	SD1	陶器	天目茶碗	口縁～胴	(12.2)	－	[4.8]	回転ナデ/回転ナデ/－	鉄釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	16C後半	P296,P328	大窯　天目茶碗
38	20	SD1	陶器	皿	胴～底	－	(6.4)	[1.1]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	灰釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	16C	P155	大窯Ⅲ類
38	21	SD1	陶器	壺	口縁～胴	(11.2)	－	[6.8]	回転ナデ/回転ナデ/－	鉄釉	灰黄褐10YR6/2	密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C後～18C	P157,193,287,410,411	
38	22	SD1	陶器	壺か	胴	－	－	[5.5]	回転ナデ/回転ナデ/－	鉄釉	灰黄褐10YR6/2	密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C後半	P228,P229	
38	23	SD1	陶器	碗,	胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	灰釉,鉄釉	にぶい黄橙 10YR6/4	密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前	P172	腰錆茶碗
38	24	SD1	陶器	片口鉢	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	灰釉	淡黄2.5Y8/3　釉:黄褐2.5YR5/6	密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前～中	P259	
38	25	SD1	土器	灰器	胴～底	－	(25.0)	[8.1]	回転ナデ/回転ナデ/ナデ,足貼付		明褐7.5YR5/6	密,白・黒色粒子,少量の雲母	良	不明	不明	P280,318	スス付着
38	26	SD1	土器	擂鉢	胴	－	－	－	回転ナデ,櫛目/回転ナデ,ヘラナデ/－		黒7.5YR2/1／暗褐7.5YR3/4	密,白・黒色粒子,少量の雲母	良	不明	不明	P279	内面:部分的に櫛目(すり目)あり
39	27	SD2	陶器	擂鉢	胴～底	－	(10.0)	[1.7]	回転ナデ,すり目/回転ナデ/ナデ		にぶい黄橙 10YR7/3	やや粗,白色粒子	やや良	瀬戸・美濃	18Cか	P170	内面:見込にすり目
39	28	SD3	磁器	碗	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	染付	灰白5Y8/1	緻密	良	景徳鎮	16C前	P118	端反碗
39	29	SD3	磁器	皿	胴～底	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		灰白5Y8/1	密	良	景徳鎮	16C後半	P216	
39	30	SD3	磁器	仏花器	胴～底	－	－	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		灰白5Y8/1	緻密	良	肥前	18Cか	P271	
39	31	SD3	陶器	碗	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	鉄釉	にぶい黄橙 10YR6/4	密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C中～後	P158,P239	
39	32	SD3	陶器	片口鉢	口縁～胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	灰釉	にぶい黄橙7/4	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	17C末～18C前半	P163	
39	33	SD3	陶器	鉢	胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	灰釉	明黄褐2.5Y6/6	やや密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前半	P143	片口か
39	34	SD3	陶器	擂鉢	胴	－	－	－	回転ナデ,すり目/回転ナデ/－	鉄釉	にぶい黄橙 10YR7/4	やや密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前～中	P159	
39	35	SD5	土師器	甕	胴	－	－	－	ナデ/ナデ/－		明赤褐5YR5/6	密,白・黒色粒子	良			P248	
39	36	SD8	土器	鉢	口縁～胴	－	－	－	ナデ,すり目/ナデ/－		褐7.5YR4/4	密,白・黒・赤色粒子,少量の雲母	良			P327	
39	37	SD10	陶器	鍋	口縁～胴	(14.4)	－	[4.2]	回転ナデ/回転ナデ/－		にぶい黄褐 10YR5/4	密,白・黒色粒子	やや良	不明	19C中～後	P294	近代か
39	38	SD10	土師器	坏	胴～底	－	(6.0)	[1.3]	ナデ/ナデ/ナデ		明赤褐5YR5/6	密,白・黒・赤色粒子	良			P319	
39	39	SD11	磁器	坏	口縁～胴	(6.6)	－	[3.1]	回転ナデ/回転ナデ/－	白磁	灰白N8/	緻密	良	肥前	17C末～18C前	P267	
39	40	SD11	磁器	碗	胴	－	－	－	回転ナデ/回転ナデ/－	青磁	灰白7.5Y7/1	緻密	良	龍泉窯	14C	P320	
39	41	SD11	磁器	碗	胴～底	－	－	[3.9]	回転ナデ/回転ナデ/－		灰白5Y8/1	やや密	良	景徳鎮	15C後半	P323,379,381	
39	42	SD11	陶器	皿	胴～底	－	(7.0)	[1.2]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		灰白2.5Y7/1	密,黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C後半	P401	トチン跡
39	43	SD11	陶器	皿	胴～底	－	4.5	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	青緑釉	浅黄2.5Y7/3	密	良	肥前	17C後～18C中	P262	内野山窯　蛇の目釉剥ぎ　底部:墨書
39	44	SD11	磁器	皿	胴～底	－	(5.8)	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	青磁	浅黄橙10YR8/4	密,黒色粒子	良	肥前	17C中葉	P321	漆継ぎ　蛇の目釉剥ぎ
39	45	SD17	磁器	碗	口縁～胴	(8.2)	－	[5.0]	回転ナデ/回転ナデ/－		灰白7.5Y8/1	緻密	良	肥前	17C前半(1620～1630)	P482,P1876	筒形碗

図	No.	遺構名	種別	器種	部位	口径(横)	底径(縦)	器高(厚)	内面/外面/底部	装飾技法	色調(内/外)	胎土、含有物	焼成	産地	年代	注記内容	備考
39	46	SD19	土器	擂鉢か	胴～底	-	-	-	回転ナデ,ヘラナデ/回転ナデ,ヘラナデ/ナデ		明褐7.5YR5/6	やや密,白・黒・赤色粒子,少量の雲母	やや良	不明	不明	P502	
39	47	SD29	縄文	鉢	胴	-	-	-	ナデ/沈線/-		褐7.5YR4/4	密,白・黒色粒子	良			P1888	
39	48	SD30	陶器	秉燭	口縁～底	(5.1)	3.8	4.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	鉄釉	にぶい黄橙10YR6/4	密,白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	19C前～中	P1866,1874	ス ス付着　軸孔0.4cm
39	49	SK4	磁器	碗	胴～底	-	(4.0)	[2.2]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		灰白5Y7/1	緻密	良	肥前	18C中～後	P77	
39	50	SK6	土器	焙烙	口縁～底	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/ナデ		褐10YR4/4／黒褐10YR3/1	密,白・黒色粒子,雲母	良	在地か		P180	
39	51	SK26	縄文	鉢	胴	-	-	-	ナデ/縄文/-		褐7.5YR4/4	密,白色粒子	良			P1848,1849	
39	52	SK27	磁器	油壺か	胴	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/-	染付	灰白5Y8/1	緻密	良	肥前	18C中～後	P1856	被熱
39	53	SK28	縄文	深鉢	口縁～胴	-	-	-	ナデ/竹管による押引沈線文/-		褐7.5YR4/4	密,白・黒色粒子,雲母	良		縄文早期後半	P1865	口唇部:刻み　53・69と同一個体か　繊維痕あり
39	54	SX2	磁器	皿	口縁	-	-	-	-		灰黄2.5Y6/2	密	良	龍泉窯	15C	P376	
39	55	SX2	陶器	皿	胴	-	-	[3.8]	回転ナデ/回転ナデ/-	鉄釉	浅黄橙10YR8/3	密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C	P302	
39	56	SX2	陶器	碗	胴～底	-	(4.2)	[1.8]	回転ナデ/回転ナデ/輪高台	鉄釉	浅黄橙10YR8/3	密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	16C	P434	
39	57	SX2	土師器	かわらけ	口縁～底	(10.4)	(5.4)	2.5	回転ナデ/回転ナデ/ヘラケズリ		明褐7.5YR5/6	密,白・赤・黒色粒子,少量の雲母	良	在地か		P309,311,371,433	
39	58	SX2	土師器	かわらけ	胴～底	-	(6.6)	[1.9]	回転ナデ/回転ナデ/ヘラケズリ		黄褐10YR5/6	密,白・赤・黒色粒子,少量の雲母	良	在地か		P308,313	
39	59	SX2	土器	甕	口縁～胴	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/-		明褐7.5YR5/6	密,白・黒色粒子	良	在地か		P220	
40	60	SX2	土器	灰器	口縁～底	(43.4)	(26.0)	12.2	回転ナデ/回転ナデ/ナデ		明褐7.5YR5/6	密,白・黒色粒子,雲母	やや不良	在地か		P222,367～369,370,373	
40	61	SX3	陶器	皿	口縁～胴	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/-	灰釉	にぶい黄2.5Y6/3	密	良	瀬戸・美濃		P384	大窯Ⅰ　端反皿
40	62	SX3	陶器	皿	口縁～胴	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/-	灰釉	浅黄2.5Y7/4	密,白色粒子	良	瀬戸・美濃		P383	大窯　端反皿
40	63	SX3	陶器	徳利	胴	-	-	[4.1]	回転ナデ/回転ナデ/-	鉄釉	にぶい黄橙10YR7/3	密,白色粒子	良	瀬戸・美濃	17C中～後	P336	
40	64	SX3	土師器	かわらけ	口縁～底	(12.4)	(7.0)	2.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り,ヘラケズリ		明黄褐10YR7/6	密,赤・白・黒色粒子	良	在地か		P358,404	
40	65	SX3	粘土塊	竈壁か		5.8	11.6	5.0	-		褐7.5YR4/6	白色粒子	-				
40	66	サブトレ	土器	擂鉢	胴	-	-	-	回転ナデ,櫛目/回転ナデ/-		にぶい赤褐5YR4/4	密,白・黒・赤色粒子,雲母	良			P416	
40	67	サブトレ	土師器	坏?	胴～底	-	(5.6)	[1.6]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		黒褐7.5YR3/1／橙7.5YR6/6	密,白・黒・赤色粒子	良	在地か		P399	内面:黒色(内黒)
40	68	遺構外	縄文	深鉢	口縁～胴	-	-	-	ナデ/竹管による押引沈線文/-		褐7.5YR4/4	密,白・黒色粒子,雲母	良		縄文早期後半	P743	口唇部:刻み 53・69と同一個体か
40	69	遺構外	縄文	深鉢	口縁～胴	-	-	-	ナデ/竹管による押引沈線文/-		明褐7.5YR5/6	密,白・黒色粒子,雲母	良		縄文早期後半	P483	口唇部:刻み53・68と同一個体か
40	70	遺構外	縄文	深鉢	胴	-	-	-	ナデ/ナデ,沈線/-		にぶい黄褐10YR5/4	密,白・黒色粒子	やや良			P1419	※⑦と同一個体か
40	71	遺構外	縄文	深鉢	胴	-	-	-	ナデ/ナデ,隆帯,斜状沈線/-		にぶい黄褐10YR5/4	密,白・黒色粒子	やや良			P1418	※⑥と同一個体か
40	72	遺構外	縄文	深鉢	胴	-	-	-	ナデ/縄文/-		赤褐5YR4/6	密,白・黒色粒子,少量の雲母	良			P503	
40	73	遺構外	縄文	深鉢	胴	-	-	-	ナデ/縄文/-		褐7.5YR4/4	密,白・黒色粒子	良			一括	
40	74	遺構外	縄文?	鉢	口縁～胴	-	-	-	ナデ/?/-		褐灰7.5YR4/1／明褐7.5YR5/6	やや密,白・黒色粒子	やや良			P486	
40	75	遺構外	土師器	壺?甕?	胴	-	-	-	ハケメ/ナデ/-		にぶい黄橙10YR6/4	密,白・黒色粒子	良	在地か		P9	
40	76	遺構外	土師器	台付甕	胴～底	-	(7.6)	[3.0]	ハケメ/ハケメ/-		にぶい黄橙10YR5/4	密,白色粒子	良	在地か		P409	脚部
40	77	遺構外	土師器	壺?	胴～底	-	(9.6)	[4.6]	ナデ/ナデ/ナデ		明黄褐10YR6/6	密,白・黒・赤色粒子	やや良	在地か		P414	磨滅加工?(孔?)
40	78	遺構外	磁器	碗	口縁～胴	(11.8)	-	[2.6]	回転ナデ/回転ナデ/-		灰白N8/	緻密	良	肥前	18C中～後	P1883	
40	79	遺構外	磁器	碗	口縁～胴	(11.0)	-	[2.1]	回転ナデ/回転ナデ/-		灰白N8/	緻密	良	肥前	18C後	P1886	
40	80	遺構外	磁器	碗	胴～底	-	(4.2)	[2.8]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台		灰白7.5Y8/1	緻密	良	肥前	18C中～後	P1852	
40	81	遺構外	陶器	皿	口縁～胴	(10.4)	-	[1.4]	回転ナデ/回転ナデ/-	灰釉	灰白2.5Y8/1	密	良	瀬戸・美濃	17C前半	P480	志野皿
40	82	遺構外	陶器	碗	胴～底	-	(4.0)	[2.6]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	刷毛目	灰白7.5Y4/2	密	良	肥前	17C末～18C初	一括	蛇の目釉剥ぎ
40	83	遺構外	陶器	碗	胴～底	-	(4.0)	[2.8]	回転ナデ/回転ナデ/削り出し高台	刷毛目	褐7.5YR4/6	密	良	肥前	18C前	P1	
40	84	遺構外	陶器	擂鉢	口縁～胴	-	-	-	回転ナデ/回転ナデ/-		にぶい黄橙10YR7/4	密	良	瀬戸・美濃	18C前	P1623	断面摩耗、砥石転用か
40	85	遺構外	陶器	秉燭	胴～底	-	4.0	[3.3]	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り痕	鉄釉	褐7.5YR4/3	密	良	志戸呂	18C後～19C中	P37	軸孔0.4cm
40	86	遺構外	陶器	秉燭	口縁～胴	(4.0)	-	[3.0]	回転ナデ/回転ナデ/-	鉄釉	褐灰7.5YR5/1	密	良	瀬戸・美濃	19C前～中	P34	
40	87	遺構外	土師器	かわらけ	口縁～底	(11.6)	(6.4)	3.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り痕		明黄褐10YR6/6	密,黒・白・赤色粒子,雲母	良	在地か		P1880	
40	88	遺構外	土師器	かわらけ	口縁～底	(5.8)	(4.6)	1.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り痕		明褐7.5YR5/6	密,黒・白・赤色粒子,雲母	良	在地か		P72	

表８　A区木製品観察表

法量[　]は現存値である。

図	No.	出土位置	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	取上No.	備　考
41	89	Pit151	クリ	45.3	13.1	11.4	457	
41	90	Pit70	ヒノキ	28.8	17.4	9.4	448	
41	91	Pit73	ヒノキ	26.4	13.9	9.0	452	
41	92	Pit152	ヒノキ	13.9	12.5	12.1	460	
41	93	Pit46	クリ	28.5	5.3	3.3	474	割材
41	94	Pit151	クリ	30.9	6.6	5.6	456	割材

表９　A区石器・石製品観察表

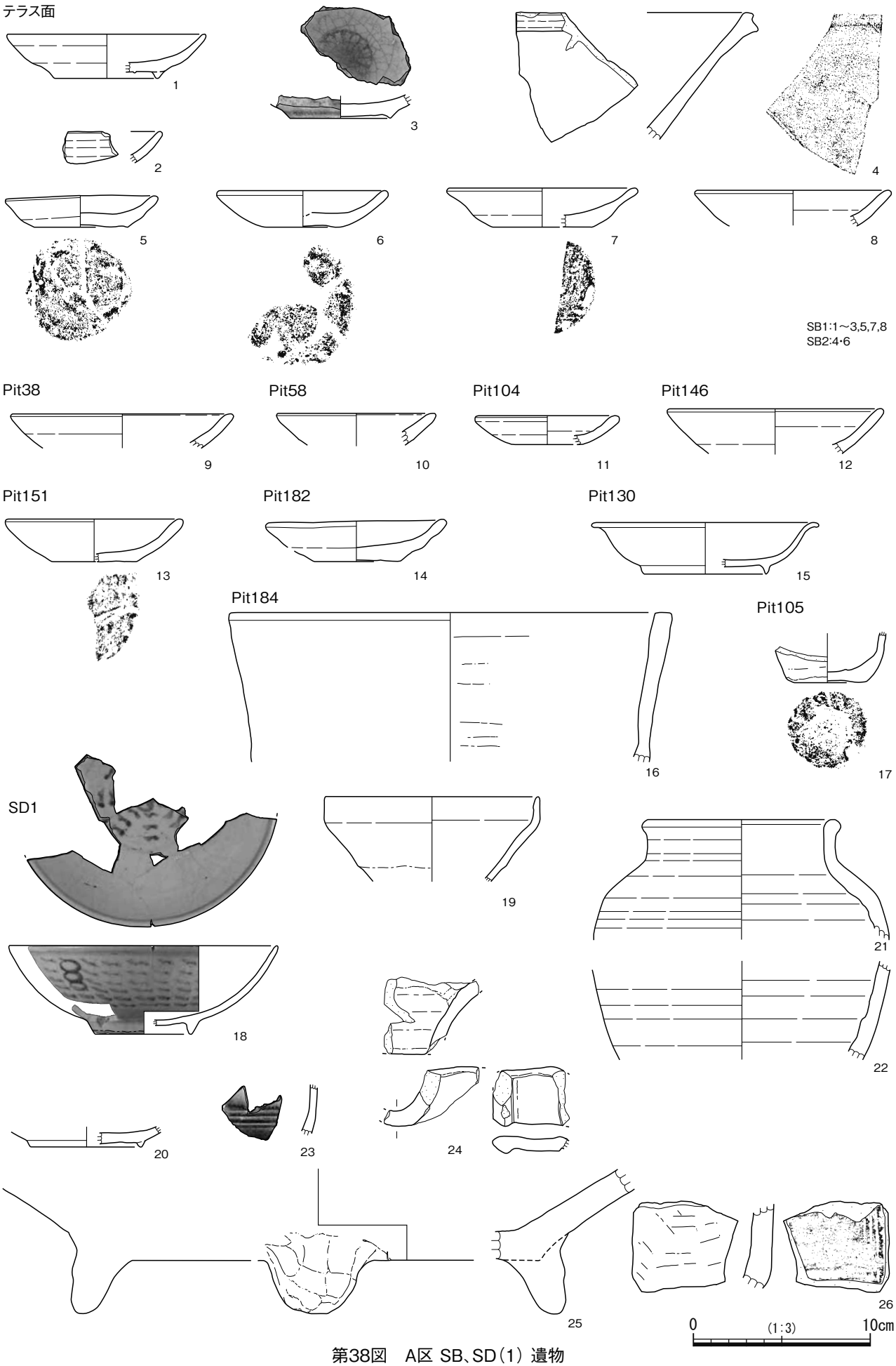
法量[　]は現存値である。

図	No.	出土位置	実測No.	取上No.	種　別	材　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	色　調	備　考
42	95	SX2	1-19	307	石鏃	黒曜石	1.60	1.80	0.40	0.62	黒透	
42	96	Pit154	1-18	282	石鏃	黒曜石	2.05	1.85	0.55	1.16	黒透	
42	97	遺構外	1-23	14	石鏃	黒曜石	1.80	1.30	0.40	0.77	黒透	
42	98	遺構外	1-24	500	石鏃	黒曜石	[1.25]	1.30	0.30	0.40	黒透	
42	99	SD1	1-17	230	石鏃	黒曜石	[2.95]	[1.60]	0.50	1.56	黒透	
42	100	Pit48	1-16	343	尖頭器	黒曜石	3.60	1.50	0.50	2.76	黒透	
42	101	遺構外	1-20	142	石錐	頁岩	3.55	1.95	0.60	2.95	浅黄	
42	102	SD3	1-22	245	ユーストフレイク	黒曜石	2.65	1.55	0.45	1.30	黒透	
42	103	遺構外	1-21	58	ユーストフレイク	黒曜石	2.40	1.50	0.60	1.69	黒透	
42	104	遺構外	1-25	1853	ユーストフレイク	黒曜石	3.65	2.00	0.70	5.62	黒透	
42	105	SX2	1-26	303	碁石	砂質粘板岩	1.35	1.80	0.40	1.46	黒褐色	
42	106	SX2	1-27	304	碁石	ホルンフェルス	1.85	1.90	0.40	2.22	暗灰青色	
42	107	SX2	1-28	306	碁石	珪質頁岩	1.60	1.60	0.40	1.57	黒灰色	
42	108	SX2	1-29	374	碁石	細粒砂岩	1.60	2.10	0.50	2.55	黒褐色	
42	109	SX2	1-30	432	碁石	粘板岩	1.80	2.15	0.50	2.77	暗灰	
42	110	SX2	1-32	315	碁石	礫岩	1.20	1.30	0.40	0.72	黒褐色	
42	111	SX2	1-34	437	碁石	砂岩	1.70	1.40	0.50	1.78	暗青灰色	
42	112	遺構外	1-33	392	碁石か	砂岩	1.40	1.25	0.30	0.76	黒褐色	
42	113	遺構外	1-31	A区一括	碁石か	細粒砂岩	1.35	1.85	0.45	1.56	暗灰褐色	
42	114	SK25	2-13	1221	打製石斧	ホルンフェルス	14.15	4.80	1.30	112.87	灰ｵﾘｰﾌﾞ	
42	115	SK6	2-12	181	打製石斧	ホルンフェルス	[9.80]	4.90	1.50	106.63	灰	一部敲打痕あり
42	116	SD1	2-14	281	打製石斧	ホルンフェルス	[9.30]	4.30	1.60	99.48	灰ｵﾘｰﾌﾞ	
42	117	遺構外	2-15	4	打製石斧	ホルンフェルス	[7.30]	4.40	1.50	64.43	灰	
42	118	遺構外	2-16	6	打製石斧	粘板岩	[5.90]	4.20	0.60	26.22	灰	
43	119	遺構外		25	磨製石斧	緑色凝灰岩類	[7.7]	4.70	2.70	134.00	ｵﾘｰﾌﾞ灰	
43	120	SK24		801	磨石	安山岩	14.40	9.60	4.50	720.00	灰ｵﾘｰﾌﾞ	全面磨り面か
43	121	遺構外		28	磨石+敲石	安山岩	11.10	6.20	5.40	588.00	にぶい黄橙	敲打痕
43	122	SK8		184	砥石	珪質緑色凝灰岩	[4.80]	3.65	3.00	92.00	灰ｵﾘｰﾌﾞ	
43	123	SD11		263	砥石	頁岩	2.40	2.60	1.10	8.00	にぶい橙	磨ってなめらか
43	124	Pit180		461	砥石	緑色凝灰岩類	20.70	11.60	9.00	2540.00	灰ｵﾘｰﾌﾞ	
43	125	SX2		435	茶臼	安山岩	9.90	20.80	9.20	1180.00	褐灰	
43	126	SX2		436	ひで鉢	安山岩	口径 (30.90)	底径 (19.00)	器高 12.4	2740.00	明黄褐、褐灰	内面スス付着か
44	127	SX2		378	五輪塔(地輪)	安山岩	18.00	18.10	11.10	4980.00	浅黄	

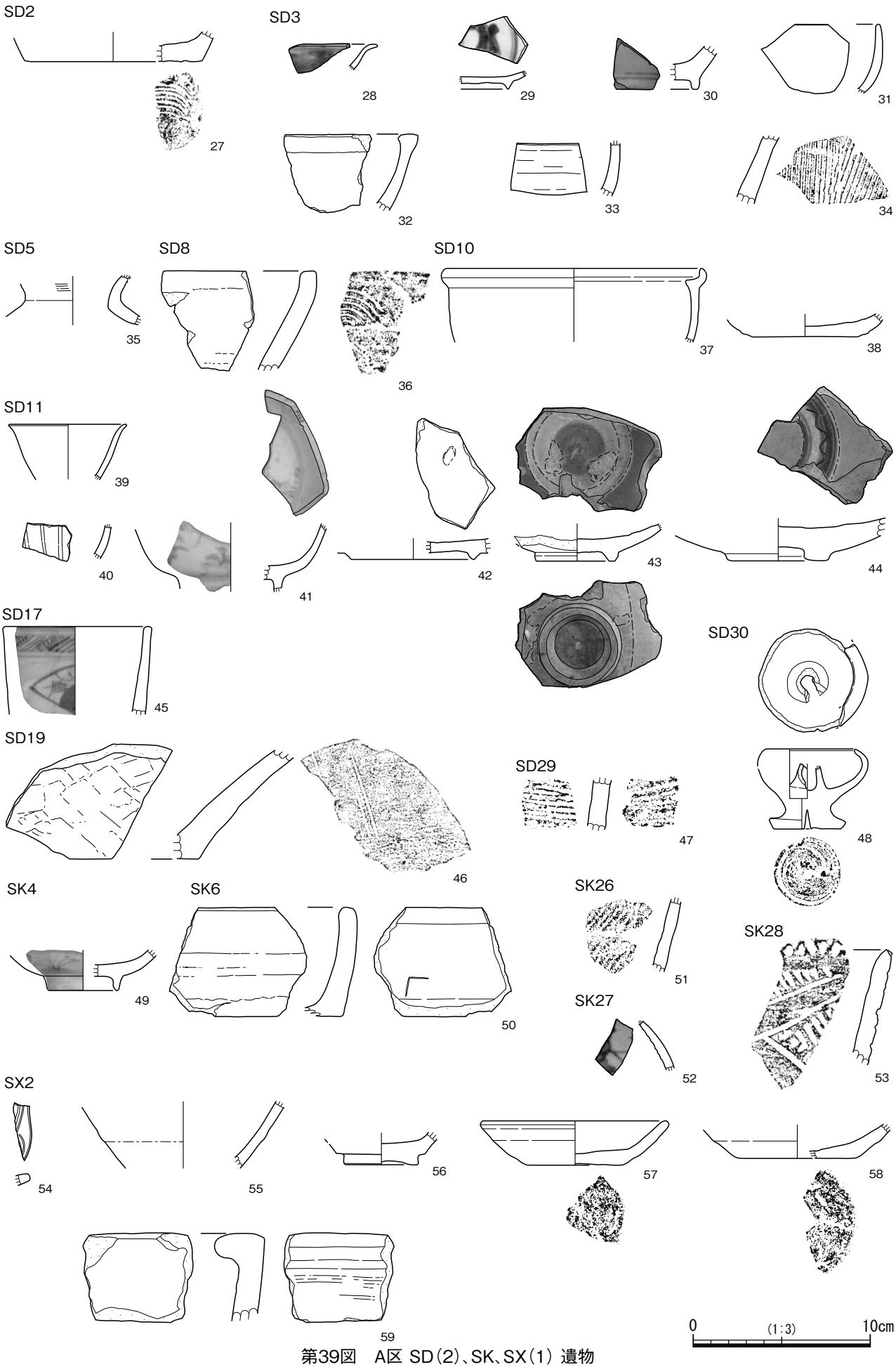
表10　A区金属製品観察表

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

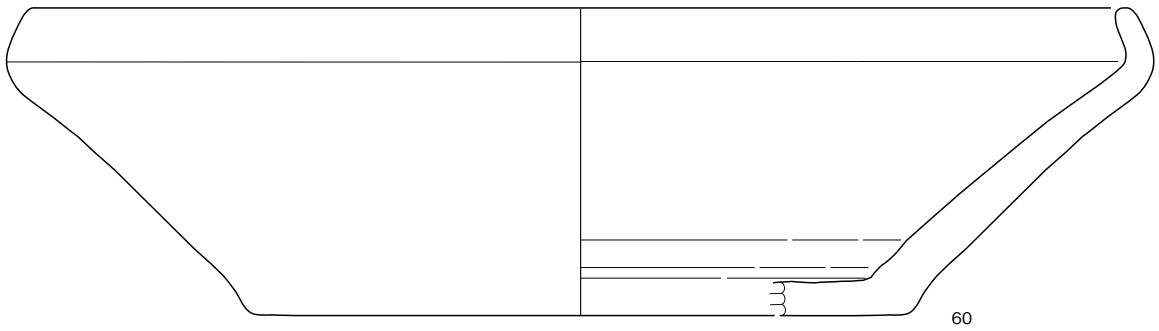
図	No.	出土位置	種　別	長さ・径	幅	厚さ	重量(g)	注記内容	備　考
44	128	SD1	鉄鏃	[4.5]	1.25	0.4	5.71	153	
44	129	SD6	角釘	[4.4]	1.0	0.7	5.17	341	
44	130	Pit153	角釘	[3.0]	0.6	0.4	1.35	451	
44	131	遺構外	不明鉄製品	6.2	0.4	0.1	3.19	70	
44	132	SD22	鎌	[12.2]	2.3	0.4	43.86	741	
44	133	SX2	刀子か	[11.5]	1.2	0.7	9.16	316	
44	134	テラス面	刀子か	[6.5]	1.8	0.6	10.97	224	
44	135	Pit184	火打ち金	3.1	7.1	0.7	13.44	423	
44	136	SB1	火打ち金か	[2.0]	[4.0]	0.7	5.64	215	
44	137	遺構外	煙管(雁首)	6.6	1.6	0.08	7.07	41	材質:銅
44	138	SD1	不明銅製品	1.8	1.8	0.05	1.77	179	材質:銅
44	139	Pit147	不明銅製品	2.1	[1.0]	0.03	2.38	377	材質:銅
44	140	Pit72	鉄滓	4.7	6.3	2.0	39.20	385	



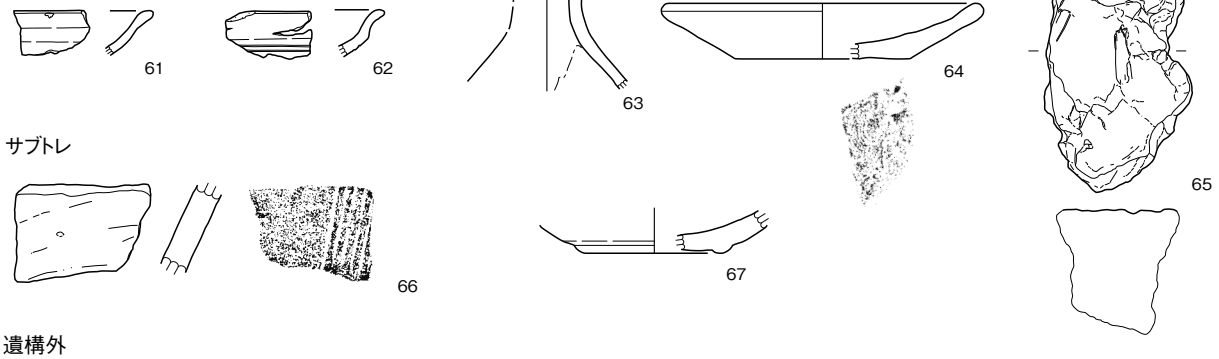
第38図　A区 SB、SD（1）遺物



第39図　A区 SD(2)、SK、SX(1) 遺物

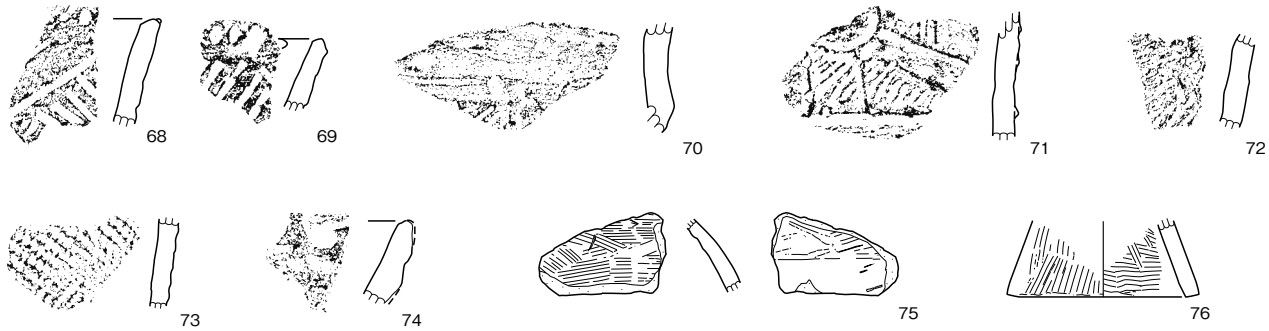


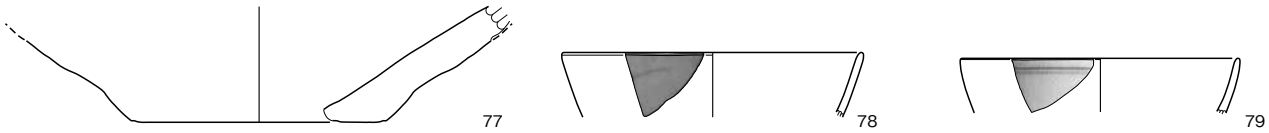
SX3

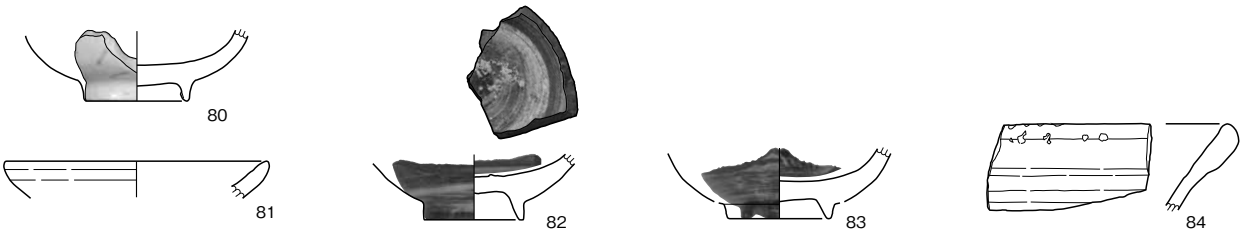


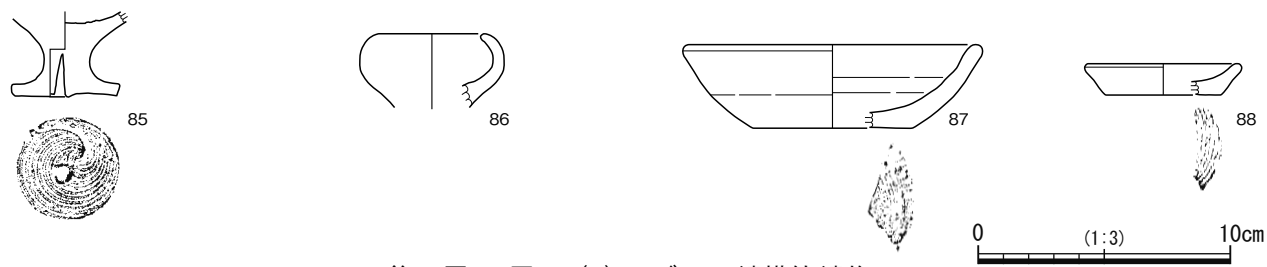
サブトレ

遺構外



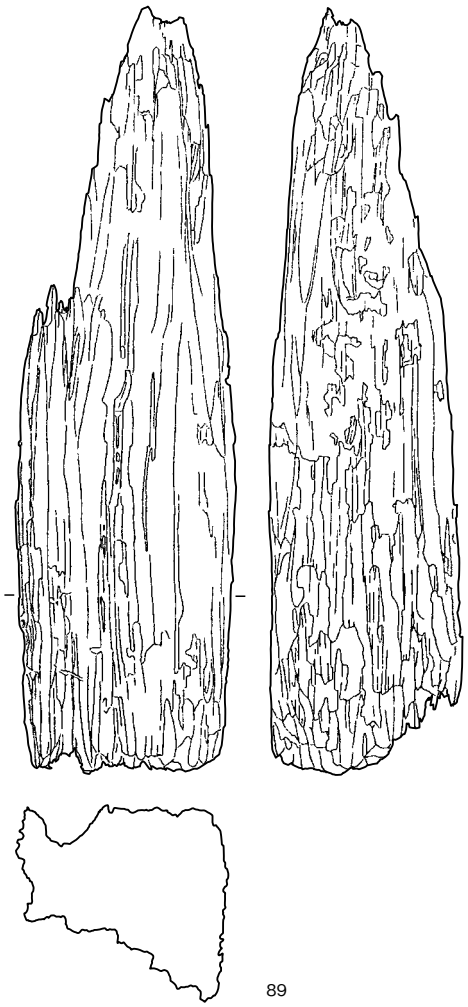






第40図　A区 SX(2)、サブトレ、遺構外 遺物

Pit151

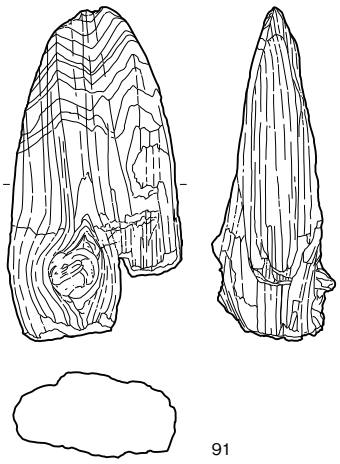


89

Pit70

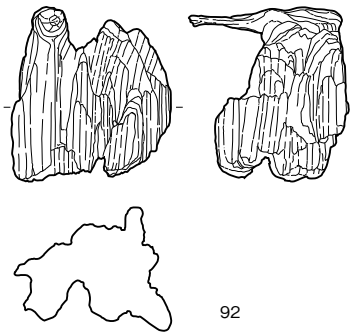
90

Pit73



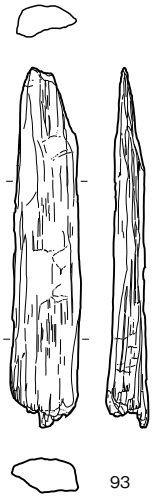
91

Pit152



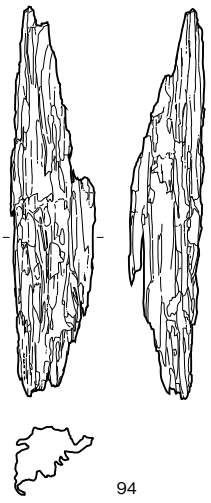
92

Pit46



93

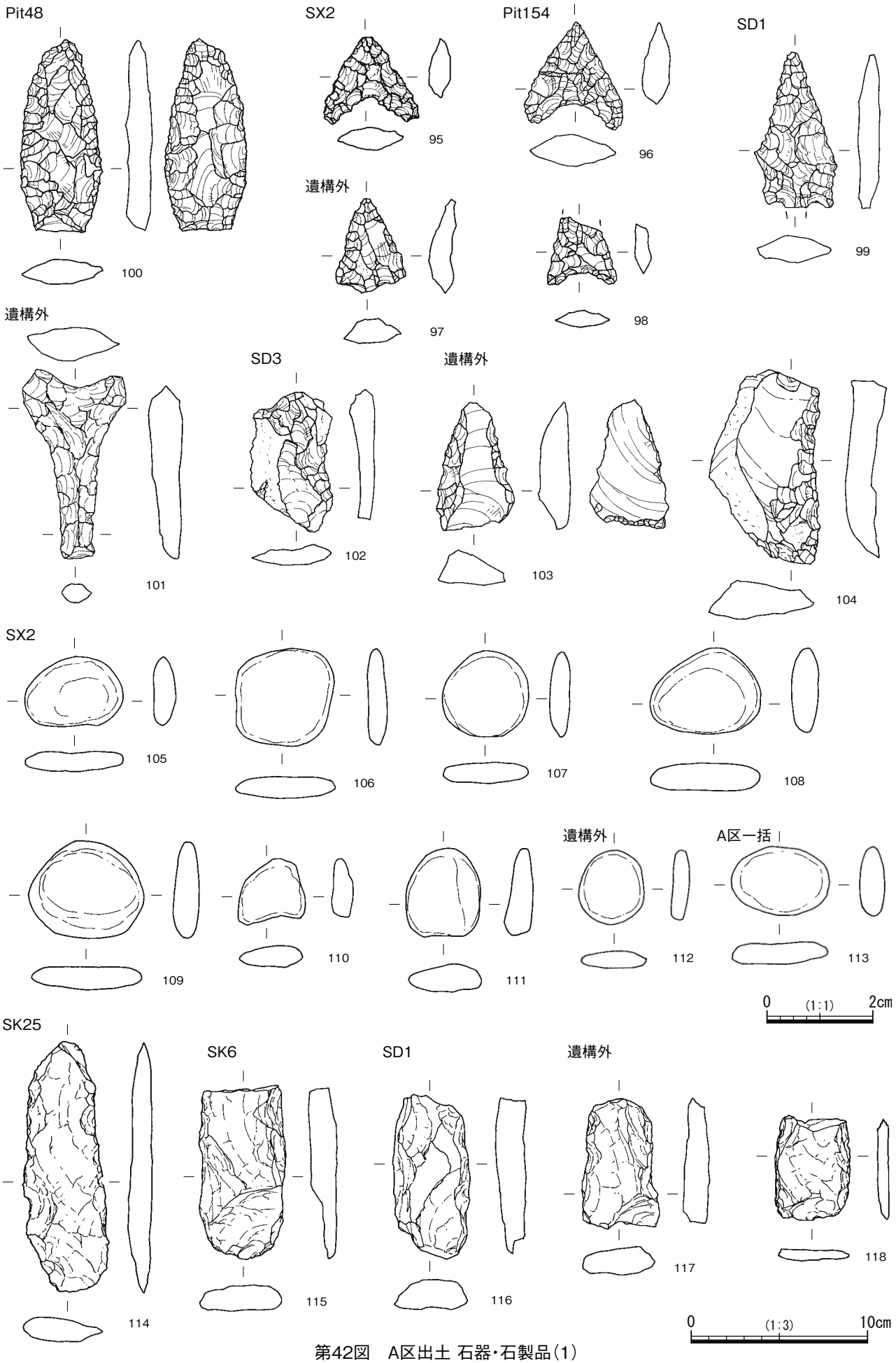
Pit151



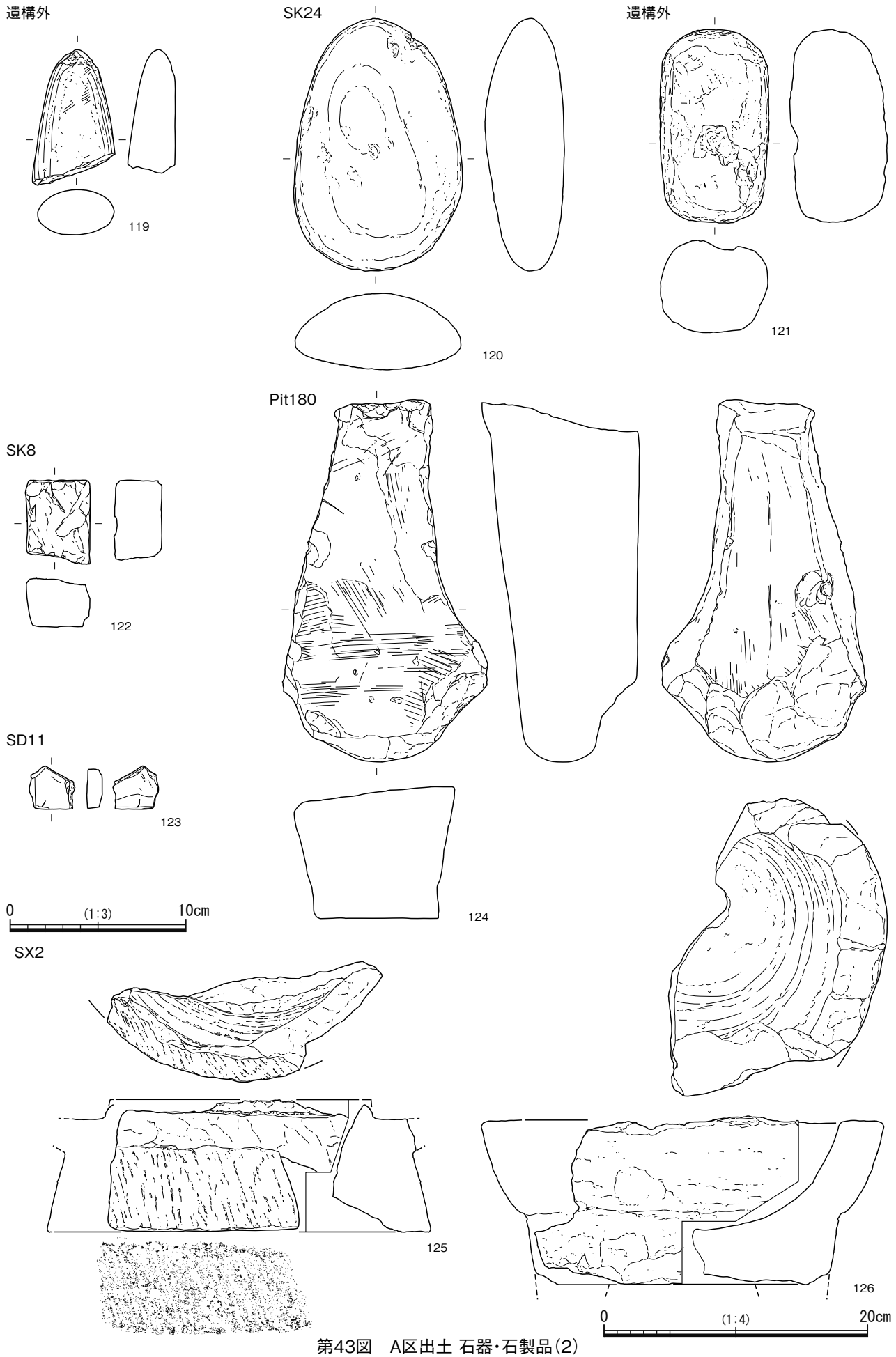
94

0 (1:6) 20cm

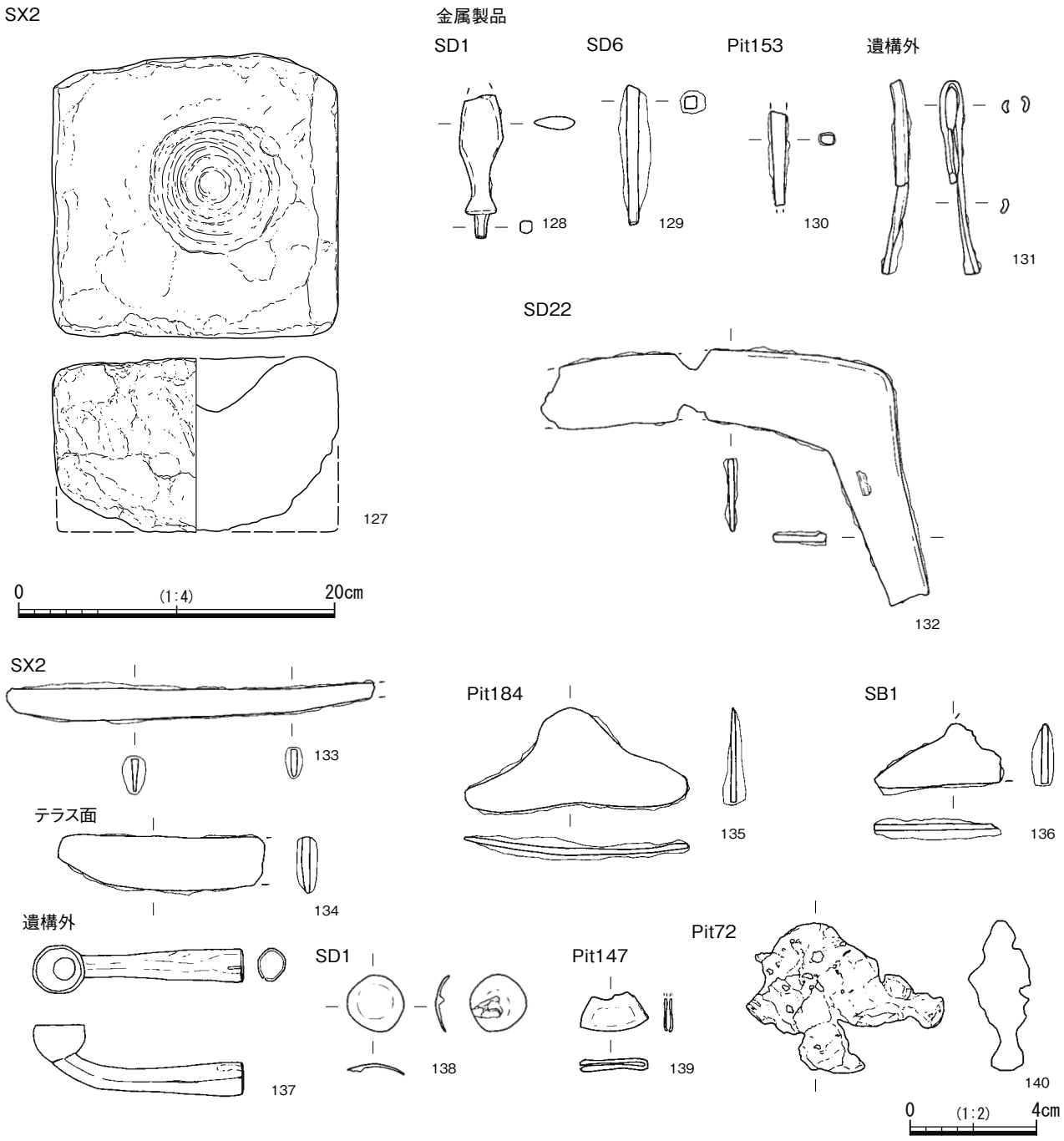
第41図　A区出土 柱材



第42図　A区出土 石器･石製品(1)



第43図　A区出土 石器・石製品(2)



第44図　A区出土 石器･石製品(3)、金属製品

表 11　経石の岩石名

記号	観察所見	岩石名	観察した経石No.
A	黒と黄の粒状で表面は粗い。	閃緑岩	21
B	黄色味のある褐灰色で、赤茶色の斑点がみられる。	緑色変質安山岩	16
C	やや青味ある灰色で粒子は細かい。表面はざらつく。	玢岩	24
D	鉄色が強く、凹凸はあるが表面は密である。	緑色凝灰岩類	366
E	黄褐色で表面は密。鉄色がないD。	緑色凝灰岩類	20
F	Eより表面が粗く、赤茶色の斑点がみられる。	緑色凝灰岩類	8
G	粘板岩。	砂礫混じり粘板岩	277
H	にぶい黄橙色に黄褐色の斑点がみられる。	緑色変質デイサイト	479
I	青灰色に白がまだらに入り、表面が粗く,凹凸が多い。	安山岩	1093
J	Eより白色味が強く、表面に凹凸が多い。	花崗岩類	296
K	まだら模様で表面は細かく、密。	火山礫凝灰岩	161

表12　A区出土経石一覧

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
16		2	B	26.0	2		須菩提/・	1	P508	
16		4	E	33.0	4		生/・/・/ ・	1	P510	
16		6	F	38.0	4	17	佛/言/哉/・	1	P512	
16		11	F	10.0	2		不可/哉	1	P517	
16	45	16	B	84.0	2	85	般若波羅蜜[則非]般若	1	P522	
16		20	E	20.0	2		須/菩提	1	P526	
16	45	21	A	96.0	2	67	佛告須菩提於意/云何如來昔在(燃燈)	1	P527	
16		22	A	48.0	1		衆生相	1	P528	
16		23	F	26.0	3		須菩提	1	P529	
16	45	24	C	42.0	1	48	何説非法	1	P530	
16		25	B	77.0	2		阿/・	1	P531	
16		26	D	28.0	1	71	訶	1	P532	
16		27	F	56.0	2		(壽)者/相	1	P533	
16		28	J	29.0	1		於法	1	P534	
16	45	30	F	160.0	2	76	我今實言告汝若(有)善男子(善女人)以七(寶滿)	1	P536	
16		31	F	73.0	3		法	1	P537	
16		35	A	36.0	3	141	布施/是人/以	1	P541	
16		52	A	33.0	3	81	皆應/供養/如佛	1	P558	
16		54	C	36.0	2	155	般若/至四句	1	P560	
16		55	F	131.0	1	別経	蘆僥蓋	1	P561	
16		58	C	51.0	2	11	而坐	1	P564	
16		60	A	12.0	2		得成ヵ	1	P566	
16		62	C	21.0	3	91	非相/是名/三十二	1	P568	
16		63	H	99.0	2	127	悉皆供養/・・	1	P569	
16		66	F	73.0	1		子(善)	1	P572	ワレ 48と接
16		70	F	45.0	2	98	信(心清)/則生	1	P576	
16	45	71	C	76.0	3	46	如来/所説/法皆(不)	1	P577	
16		72	F	43.0	2		佛/□	1	P578	
16		76	F	10.0	2		布(施)	1	P582	
16		80	B	14.0	2		是諸	1	P586	
16		81	A	16.0	2		所以/者何	1	P587	
16		84	B	28.0	2		比丘	1	P590	
16		91	J	73.0	3	別経	訶/娑□/婆	1	P597	
16		93	F	38.0	3		須菩提	1	P599	
16	45	98	B	88.0	5	138	(數)佛世/界(如)/是(寧)/(爲)多/不	1	P604	
16		102	C	41.0	2		須菩提/□□□□	1	P608	
16		110	F	43.0	3		頗/(有)/(眾)	1	P616	
16		113	C	11.0	1	別経	(娑)	1	P619	
16		114	C	205.0	3	143	此人/以(是)	1	P620	
17		115	F	29.0	3	別経	婆/□/□	1	P621	
17		117	B	22.0	2	163	提/以諸	1	P623	
17		119	F	20.0	2		(佛)/言	1	P625	
17		122	F	13.0	1		取	1	P628	
17		123	F	93.0	2		波羅蜜/□	1	P629	
17		127	K	14.0	2	別経	(時)/(司)	1	P633	
17		129	C	21.0	2	156	凡夫/是(名)	1	P635	
17		131	A	24.0	2		羅三藐	1	P637	
17		133	F	18.0	1		提	1	P639	
17		135	A	59.0	2	135	於意云何/如(恒)	1	P641	
17		137	C	27.0	2	101	非相/何以	1	P643	
17	45	138	F	40.0	3	53	受持/乃至/四句偈等	1	P644	
17		139	C	14.0	2		何以故	1	P645	
17		142	F	10.0	2	65	不(言偏にハ允)/須	1	P648	
17		146	A	21.0	2	181	比丘(尼)	1	P652	
17	45	147	A	15.0	3	179	(切)/(有)/爲	1	P653	
17		149	E	20.0	2		人見/(眾)	1	P655	
17		154	F	11.0	1		如	1	P660	
17		155	C	45.0	3	153	法者/如(來説)/非	1	P661	
17		158	F	14.0	1	114	刼以	1	P664	
17		159	F	33.0	3	36	根/聞/是	1	P665	
17		160	C	49.0	2	120	不(可思議)/(功)得如是	1	P666	
17		166	A	14.0	1		法	1	P672	
17		167	A	22.0	1		菩	1	P673	
17		170	C	33.0	2		□□悉□夜/娑□□	1	P676	
17	45	171	A	178.0	4	154	須菩提若三千大(千)/(世界中所有諸須彌山王)/如是/等(七)	1	P677	
17		175	C	67.0	4	145	(如來)可/(以具)/(足諸)/相見	1	P681	
17		176	C	35.0	4	別経	呼□/醯(呼)/呼	1	P682	
17		179	F	17.0	2		是/人	1	P685	
17		191	A	101.0	4	144	足色身見/不不/也	1	P697	
17		192	B	52.0	4		尊/□□/□	1	P698	
17		193	F	19.0	1		須	1	P699	
17		194	C	15.0	2		提白佛/言世尊	1	P700	
17		195	B	16.0	3		如來/□	1	P701	
17		197	F	14.0	2		(有)/人	1	P703	
17		198	D	10.0	2		是人	1	P704	【墨痕】
17		207	B	79.0	2	別経	薩/名□□□	1	P713	
17		209	F	31.0	2		希/(有)	1	P715	
17		215	B	21.0	2		不如是/世(尊)	1	P721	
17	45	217	J	12.0	2		三菩提	1	P723	
17		219	F	13.0	2		身(相)	1	P725	
17		225	B	104.0	3	146	何以故/若人(言)如來有/□□□	1	P731	
18	46	228	B	856.0	4	1	金(剛)般若波羅蜜経	1	P734	
18		240	F	80.0	2	110	如人闇(暗)/鼻	2	P750	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
18		244	A	14.0	2	別経	弥/帝	2	P754	
18		251	B	15.0	1	別経	(怛那)	2	P761	
18		252	A	40.0	3	別経	説菩(薩)	2	P762	
18		256	F	39.0	2		降□/□□□□	2	P766	
18	46	257	A	51.0	2	57	須菩提於[意]云何阿(那)/(含能作)是	2	P767	
18		260	B	59.0	3	72	其心/須菩提	2	P770	
18		261	B	58.0	2		善付□/□□□	2	P771	
18		263	J	203.0	1		(身)須菩提	2	P773	
18	46	265	A	24.0	2	105	利王/割截	2	P775	
18		268	A	63.0	3		何以故/□	2	P778	
18	46	278	B	152.0	2	2	□‥/波羅蜜経	2	P788	
18		282	A	91.0	5	52	如來/(説)/福/(徳)/多	2	P792	
18		283	A	30.0	2		阿/那含	2	P793	
18		297	A	8.0	1		諸	2	P808	
18	46	301	J	33.0	2	68	佛所/於法	2	P812	
18		305	C	36.0	2	102	如是/若復	2	P816	
18		307	F	40.0	3	124	(圍繞)/(以)諸/華香	2	P818	
18		314	B	22.0	2		布施	2	P825	
18	46	315	J	66.0	2	151	是名(阿耨多羅) 三藐三菩提	2	P826	
18		320	A	162.0	4	133	是(佛)法須菩提/所(言)/(□名□法)/□□□□	2	P831	
18	46	328	J	83.0	4	45	三菩/提亦無(有)/定法如(來)/可説	2	P839	
19		330	B	12.0	1		持	2	P841	
19		332	B	12.0	2		(那)/(羅)	2	P843	
19		333	J	13.0	1		爲	2	P844	
19		334	C	20.0	3		我/相/無	2	P845	
19		335	J	19.0	2		見如來	2	P846	
19	46	340	C	94.0	3	26	不可思量須菩提 於意云何	2	P851	
19		342	A	7.0	2	162	於/(忍)	2	P853	
19		344	D	10.0	2		(喜)/(禄)	2	P855	
19		346	C	19.0	2		無(有)	2	P857	
19		347	C	9.0	2		菩提	2	P858	
19		349	K	130.0	4		千萬億分/[乃至]/算數譬	2	P860	
19		352	A	33.0	2	94	而(白佛)/言(希有)	2	P863	
19		354	F	9.0	2		無/(數)	2	P865	
19		355	E	22.0	2		道/(不)	2	P866	
19		356	B	11.0	1		是	2	P867	
19		357	F	14.0	1		三	2	P868	
19		359	A	16.0	1		(眼)	2	P870	
19		362	C	31.0	3	80	(等當)/知/(此處)	2	P873	
19	46	366	D	27.0	1		提實	2	P877	
19		367	B	18.0	2		如来 佛所	2	P878	
19		372	C	27.0	2	別経	(囉)/□	2	P883	
19		373	F	25.0	2		提[言]/甚多	2	P884	
19		375	A	30.0	2		(降)/伏	2	P886	
19		379	F	16.0	2		須菩	2	P890	
19		380	A	36.0	1	38	(信)者	2	P891	
19		382	F	53.0	2		法得:得法	2	P893	
19		383	F	129.0	1		持	2	P894	
19		384	B	25.0	2	73	譬如/(有)	2	P895	
19		395	F	103.0	4		其福勝(彼)/□□□□/□□□□/□□□□	2	P906	【墨痕】
19		396	C	45.0	3		須菩提	2	P907	
19		397	A	16.0	2		(阿耨)	2	P908	
19		398	A	25.0	2		説□/(如來)	2	P909	
19		399	E	9.0	1		須	2	P910	
19		400	C	56.0	2		作/□	2	P911	
19		404	C	18.0	1		漢	2	P915	
19		410	B	18.0	1		□	2	P921	
19		413	A	15.0	2	別経	□/囉	2	P924	
19		414	E	40.0	2		世尊/不阿□	2	P925	
19		416	A	17.0	1		得	2	P927	
19		418	F	48.0	1		云何	2	P929	【墨痕】
19		419	E	23.0	2		爲(他)/人(説)	2	P930	
19		420	C	51.0	2	95	世尊佛(説)/如是	2	P931	
19		421	C	29.0	3	62	(離)欲/阿(羅)/漢	2	P932	
19		424	J	5.0	1		昔	2	P935	
19		429	F	10.0	2		□/住	2	P940	
19		431	F	28.0	1		世尊	2	P942	
19		438	E	6.0	2		鼻/(非)	2	P949	
19		439	B	9.0	1	別経	夜	2	P950	
19		444	C	15.0	2		是/□	2	P955	
19		446	C	25.0	2	77	以用布施/(得)福	2	P957	
20	46	451	J	60.0	1		羅三藐三	2	P962	
20		455	A	63.0	3		須菩提/□意云何	2	P966	
20		459	G	23.0	3	別経	阿唎/□	2	P970	
20		463	F	19.0	1		而	2	P974	
20	47	466	B	161.0	3	84	我等[言(云)]何奉持佛[告]須菩(提)/(是經名為)金(剛)般若波羅蜜	2	P977	
20		474	B	52.0	2		阿耨/□	2	P985	
20		477	A	34.0	4	35	言説/章句/生/□□	2	P988	
20		479	H	165.0	2	別経	入縛羅/不ヵ □□□□□□□□	2	P990	
20		481	A	90.0	3	5	世尊/(食)/時	2	P992	
20		482	C	58.0	2	134	不如 是世	2	P993	
20		483	C	51.0	2		(有)/法名	2	P994	
20		487	B	40.0	2	8	收/衣(鉢)	2	P998	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
20		492	C	41.0	2		(有)何以故	3	P1003	
20		493	B	15.0	1		説	3	P1004	
20		495	C	92.0	3	131	以(實)無有阿耨(多)羅三藐	3	P1006	
20		496	C	17.0	1		其	3	P1007	
20		498	A	13.0	2	164	何菩薩	3	P1009	
20	47	502	K	332.0	4	22	(伏其)心所有(一切)(衆生之類若)(卵化若胎生)若(濕)生若化生/若(有色) /若無色(若有想)□/若無想	3	P1013	
20		503	D	17.0	1		此經	3	P1014	
20		509	I	20.0	2	16	世尊/善男子	3	P1020	
20		516	C	38.0	2		須菩提白佛言	3	P1027	
20		517	B	58.0	2	112	(日分亦以恒河沙)/(等)身(布施)	3	P1028	
20		521	J	68.0	2	別経	□他/薩婆	3	P1032	
20		525	B	14.0	1		如來	3	P1036	
20		530	C	31.0	2		蜜/(須)	3	P1041	
20		533	J	34.0	2	88	(十二)/相見	3	P1044	2個体
20	47	542	C	62.0	2	70	云何菩(薩)/莊嚴	3	P1053	
20		546	F	21.0	2		是/經	3	P1057	
20		549	F	199.0	2	122	聽受[讀] 誦(爲)/□□‥	3	P1060	
21		555	F	51.0	3	113	萬(億)如□來□/□	3	P1066	
21		562	C	25.0	3		若(有)/善男子	3	P1073	
21		563	F	130.0	3	175	(見是名)我見人(見)/衆(生見)/(壽者)	3	P1074	
21	47	565	C	54.0	6	66	行者以 須菩提實 無所	3	P1076	
21		567	C	8.0	2		三千大千世	3	P1078	
21		569	F	27.0	2		皐是	3	P1080	
21	47	578	C	108.0	4	別経	□婆訶摩波利/郡(羅)□□□/羅(耶)	3	P1089	
21		579	A	26.0	1		得	3	P1090	
21		581	B	12.0	2		是(微)/塵(眾)	3	P1092	
21		584	B	39.0	4	152	善法(則)/得/阿	3	P1095	
21		585	A	11.0	1		是	3	P1096	
21		589	F	19.0	1		能	3	P1100	
21		591	C	11.0	3	118	若(有)/人能	3	P1102	
21		593	F	8.0	1		人	3	P1104	ワレ
21		595	F	15.0	3	83	當/何/名	3	P1106	
21		597	F	14.0	1		(有)	3	P1108	
21		609	J	18.0	1	別経	漫	3	P1120	
21	47	612	C	39.0	3	6	入/舍衛/□/□	3	P1123	
21		614	G	34.0	3		如來/(有肉)	3	P1125	
21		618	A	16.0	2		(受)/持	3	P1129	
21		622	C	22.0	2		見(若):(若)見	3	P1133	
21	47	626	F	15.0	1		世尊(※向きが異なる)	3	P1137	
21		627	F	156.0	1		無(壽)	3	P1138	
21		628	F	21.0	3		(以)/三十/二相	3	P1139	
21		635	F	74.0	2	32	須菩提於/(意)云何	3	P1148	
21		636	F	10.0	1		等	3	P1149	
21		637	J	69.0	4		薩/婆/摩/□	3	P1150	
21		638	F	22.0	1		能	3	P1151	
21	47	641	J	87.0	4	28	世尊須菩提南西/北方/四維上下	3	P1154	
21		642	F	15.0	2		故(德)	3	P1155	
21		643	E	35.0	1	10	(敷座)	3	P1156	
21		646	B	15.0	1		非	3	P1159	
21		648	A	19.0	1		爲/□	3	P1161	
21		649	F	10.0	2		須菩	3	P1162	
21		654	A	30.0	1	107	體	3	P1167	
21		655	J	13.0	1		如	3	P1168	
21		660	A	15.0	1		善	3	P1173	
21		664	F	11.0	2		寧/爲	3	P1177	
21		665	A	50.0	3	25	□□/□/其福德	3	P1178	
21		666	A	23.0	2		如來	3	P1179	
21		667	F	188.0	2		善付(囑)/□	3	P1180	
21	47	668	J	108.0	2	42	是故不/應取	3	P1181	
22		669	F	74.0	2	60	(道皐爲著)/(我)人	3	P1182	
22		670	C	25.0	1		福	3	P1183	
22		671	A	17.0	1		佛	3	P1184	
22		672	F	38.0	2		(大)身/□□	3	P1185	
22		675	F	9.0	1		身	3	P1188	
22		678	A	16.0	2	93	悲/泣	3	P1191	
22		683	F	71.0	3		(百分)不及/□□/□‥	3	P1196	
22		685	I	52.0	1		善	3	P1198	
22		686	B	28.0	3		不/(應)/住	3	P1199	
22	47	695	D	93.0	2	51	多不須菩提/‥	3	P1208	
22		696	C	21.0	1	40	無(復)	3	P1209	
22		700	C	9.0	2		(有)/法	3	P1213	
22		705	F	60.0	2		阿耨多羅	3	P1218	
22	48	708	B	56.0	3	64	得阿羅漢/道世尊(則)	4	P1224	
22		710	F	54.0	1		人相	4	P1226	
22		714	J	24.0	2		我/相	4	P1230	
22		716	J	73.0	2		於意/□	4	P1232	
22		718	F	13.0	1		相	4	P1234	
22		721	A	65.0	2	97	未曽得[聞如]/是之(經)世(尊)	4	P1237	
22		725	B	61.0	2		佛/告	4	P1241	
22		728	F	84.0	2	174	説義何以故/□	4	P1244	
22		729	J	12.0	1	55	流	4	P1245	
22		731	F	97.0	3	148	須菩提(白)佛(言)/世尊(佛得)阿耨	4	P1247	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
22	48	732	A	100.0	4	86	法不須菩提(白)/(佛[所(言)])	4	P1248	
22		735	F	21.0	2	12	時(長)	4	P1251	
22		738	B	29.0	3	157	言如(是)/如(是)/(以)三	4	P1254	
22		740	F	108.0	2		千/□	4	P1256	
22		743	F	22.0	2		恒/河	4	P1259	
22	48	746	F	62.0	3	20	願樂/欲/聞	4	P1262	
22		748	J	85.0	3	別経	不(尊)/量/□‥	4	P1264	
22		749	K	22.0	2		(如來)/有	4	P1265	
22		753	F	11.0	1		提	4	P1269	
22		758	F	48.0	2	183	(説)皆	4	P1274	
22	48	760	F	106.0	1	14	(座起偏袒)右(肩)	4	P1276	
22		763	F	19.0	3	別経	功徳/(成)/(等)	4	P1279	
22		768	A	47.0	1	44	義故	4	P1284	
22	48	771	J	39.0	2	172	何以故若/世(界)實	4	P1287	
22		775	F	8.0	2		□/足	4	P1291	
22		776	F	12.0	1		(而)	4	P1292	
22		787	F	22.0	3		耨多/□	4	P1303	
22		792	F	23.0	4	159	(法)/(斷)/滅/[相]	4	P1308	
22		795	A	13.0	1		(施)	4	P1311	
22		796	F	19.0	2		何以(故)	4	P1312	
22		798	K	34.0	2		須菩(提)	4	P1314	
22		800	C	20.0	2	184	(信受)/奉行	4	P1316	
22		804	A	26.0	2	128	須菩提若善	4	P1320	
23		805	F	10.0	1		法	4	P1321	
23		811	A	73.0	2		阿(耨)多	4	P1327	
23		812	F	19.0	2		其福/勝	4	P1328	
23		814	F	18.0	2		(是)/無	4	P1330	
23		816	C	26.0	2		實無:無實	4	P1332	
23		817	F	22.0	1		不	4	P1333	
23		818	C	38.0	2		云何/□‥	4	P1334	
23		820	A	44.0	1		□故	4	P1336	
23		821	F	60.0	1		誦	4	P1337	
23	48	825	A	32.0	2	別経	如來[(定)]説	4	P1341	
23		826	C	12.0	3	別経	娑/夜/(陁)	4	P1342	
23		832	A	27.0	2		如是	4	P1348	
23		833	F	11.0	1		何	4	P1349	
23		835	C	126.0	4	別経	是念/三/(藐)/□	4	P1351	
23		838	C	24.0	1		如來	4	P1354	
23		845	B	42.0	2	170	説(是微)/塵(眾)	4	P1361	
23		846	F	7.0	1		提	4	P1362	
23		847	F	12.0	1		耨	4	P1363	
23		849	A	19.0	1		不	4	P1365	
23		850	A	26.0	3		相無/眾/生相	4	P1366	
23		851	C	31.0	3	167	(若坐)/[若臥]/是人	4	P1367	
23		852	F	20.0	1		(若)心	4	P1368	
23		858	B	36.0	2		相/□□	4	P1374	
23		860	F	11.0	1		諸	4	P1376	
23		862	A	13.0	1		百	4	P1378	
23		864	F	29.0	2		(一切)/世間天人	4	P1380	
23		865	F	10.0	2		經/□	4	P1381	
23		866	A	48.0	3	99	(難)/(若)/(當)	4	P1382	
23		872	C	58.0	1	75	(恒河於)	4	P1388	
23		874	F	30.0	4	178	(説)/不/取/□	4	P1390	
23		875	F	35.0	1		(所得)	4	P1391	
23	48	876	A	23.0	1	106	□人相	4	P1392	
23		877	C	21.0	1	61	世尊佛	4	P1393	
23		878	F	12.0	1	49	□□/(皆以)	4	P1394	
23		881	E	15.0	2	140	實/以用	4	P1397	
23		883	F	27.0	1	50	(別)	4	P1399	
23		885	J	11.0	1		法	4	P1401	
23		888	F	22.0	1		(發)	4	P1404	
23		890	A	35.0	4	9	洗足/己/□/□	4	P1406	
23		894	A	76.0	2	41	亦無/非	4	P1410	
23		896	F	21.0	2	115	(有)/不可	4	P1412	
23		897	G	52.0	4	123	所應/(供養)/當/(知)此	4	P1413	
23		898	F	25.0	2	111	人/有	4	P1414	
23		899	A	11.0	2		言/不	5	P1420	
23		903	F	48.0	3		須菩提	5	P1424	
23		907	F	19.0	2	100	其/(有)	5	P1428	
23		908	A	63.0	2		阿/漢	5	P1429	
23		913	J	135.0	2	別経	□□尼□□/(陁羅)	5	P1434	
23	48	914	A	84.0	2	54	(佛法者鼻)/非佛法	5	P1435	
23		919	F	31.0	2	142	是因(緣得)	5	P1440	
23	48	922	A	59.0	2	82	盡能受持/讀誦	5	P1443	
24		929	C	15.0	2		(者)/如來:如來(者)	5	P1450	
24		931	A	17.0	2	177	持/於比	5	P1452	
24		932	C	36.0	2		何以故	5	P1453	
24		934	C	124.0	2	4	孤(獨)/園	5	P1455	
24	48	939	A	143.0	2	3	舍衛国	5	P1460	
24		943	J	17.0	1		提	5	P1464	
24		944	F	21.0	2		於意	5	P1465	
24		946	F	13.0	2		(有)/人:人/(有)	5	P1467	
24		954	F	19.0	1		心	5	P1475	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
24		956	A	11.0	2		云何	5	P1477	
24		997	B	24.0	2		聞是/經	5	P1518	
24		999	A	32.0	2	87	塵如來説	5	P1520	
24		1000	A	53.0	3	23	鼻非菩薩‥	5	P1521	
24		1001	A	30.0	1		何以故	5	P1522	
24		1002	B	46.0	2	78	偈等(為)他人(説而此福)	5	P1523	
24		1004	C	13.0	2		法/相	5	P1525	
24		1006	A	19.0	1		□(※言偏にハ允)	5	P1527	
24	48	1011	F	86.0	2	182	優婆塞優婆(夷)一(切世間)	5	P1532	
24		1014	F	14.0	1		生	5	P1535	穿孔ヵ
24	48	1016	A	34.0	5	79	是/經/乃至	5	P1537	
24		1017	C	61.0	2	74	如恒河中/所	5	P1538	
24		1018	F	43.0	1	96	甚(深)	5	P1539	「菩提ヵ」
24		1019	B	17.0	2	119	無(有)/邉	6	P1540	4個体
24		1021	F	6.0	1		一切	6	P1542	
24		1024	F	21.0	3		(菩)/提/於	6	P1545	
24		1025	B	11.0	1		佛	6	P1546	ワレ
24		1028	F	9.0	2		(須)/□	6	P1549	
24		1031	F	55.0	4		菩提/□	6	P1552	
24		1041	D	32.0	1	56	所入	6	P1562	
24		1042	F	15.0	1		故	6	P1563	
24		1043	A	27.0	3	169	塵於/意云	6	P1564	
24		1044	F	23.0	3		如來/有佛/(眼)	6	P1565	
24		1046	J	43.0	2	21	佛吉須菩提/諸菩薩訶	6	P1567	
24		1047	F	25.0	2	19	善/哉	6	P1568	
24		1049	C	50.0	3	7	本(處)/(飯)食/」」(訖)	6	P1570	
24		1050	J	35.0	2		世尊/□	6	P1571	
24		1051	B	97.0	7	168	須菩提若/□□人□/男‥	6	P1572	
25		1052	A	15.0	2		(相)/人相	6	P1573	
25		1057	K	37.0	2	31	菩薩/(但)應	6	P1578	
25		1058	F	47.0	2		如□/〈來〉	6	P1579	
25		1060	J	48.0	2	別経	至/□□	6	P1581	
25	49	1061	A	74.0	3	171	所以者何/佛(説)/(微塵眾)	6	P1582	
25		1062	A	27.0	1		須	6	P1583	
25		1064	F	19.0	1		邊	6	P1585	
25		1065	F	24.0	2	33	(有)相	6	P1586	
25		1067	C	39.0	3	158	念/如來不/以(具)	6	P1588	
25		1068	F	13.0	2		(離)/一(切)	6	P1589	
25		1070	F	27.0	1		衆〈眾〉□	6	P1591	
25		1073	B	57.0	3	126	(億那 ヵ)由也/佛/(諸)	6	P1594	
25		1076	F	69.0	3	103	如來/(説/非)	6	P1597	
25		1078	C	29.0	2	39	知/悉	6	P1599	
25		1079	B	44.0	4	180	法(如)/(夢)/(幻泡)/(影)	6	P1600	
25		1081	A	36.0	2	63	(我)/是(離)	6	P1602	
25		1084	A	42.0	2	125	(得值)八百	6	P1605	
25		1085	F	14.0	1		無	6	P1606	
25		1087	J	59.0	1	147	(説)法者	6	P1608	
25		1088	C	23.0	2		菩提	6	P1609	
25	49	1093	I	27.0	1		多羅	6	P1614	
25		1094	A	13.0	1		皆	6	P1615	
25		1098	F	16.0	2		如来	7	P1619	
25		1101	A	8.0	2		心者	7	P1622	
25		1102	F	8.0	1		於	8	P1624	
25		1105	F	22.0	1		須[菩]提ヵ	8	P1627	
25		1107	C	32.0	3		須菩提	8	P1629	
25		1115	F	16.0	2		善男子善	8	P1637	
25		1117	G	32.0	1		千	8	P1639	
25		1120	J	39.0	4		善護念諸菩(薩)	8	P1642	
25		1122	C	53.0	4	109	薩心不應	8	P1644	
25		1124	J	12.0	1		見	9	P1646	
25		1129	C	37.0	5		阿耨多羅	9	P1651	
25		1133	C	18.0	2		於(意)	9	P1655	
25		1138	A	13.0	1		世	9	P1660	
25		1139	A	41.0	3	27	不不也ヵ東方ヵ□空	9	P1661	
25	49	1141	A	105.0	2	13	在大(眾)中即從	9	P1663	
25		1148	C	7.0	2		如我(解)	9	P1670	
25	49	1151	J	34.0	2		善男子	9	P1673	
26		1156	B	45.0	2		具(足)	9	P1678	
26		1170	F	24.0	1	108	於(五)	9	P1692	
26		1172	F	27.0	1		第(一)	9	P1694	
26		1176	C	20.0	2	160	滅相	9	P1698	
26		1177	F	19.0	2		菩(提)	9	P1699	
26		1179	B	49.0	2		菩提	9	P1701	
26		1181	A	15.0	1		(如)來	9	P1703	
26		1183	B	32.0	2		阿耨	9	P1705	
26		1185	B	11.0	1		相	9	P1707	
26	49	1187	D	36.0	3	129	人於後	9	P1709	
26		1188	B	26.0	1	別経	徳ヵ	9	P1710	
26		1189	F	33.0	2		波□	9	P1711	
26	49	1191	J	17.0	2	34	鼻見如來	9	P1713	
26		1194	B	116.0	3		(以恒河沙)等身布施	10	P1716	
26		1197	A	12.0	1		爲	10	P1719	
26		1198	B	40.0	2	89	不(也)如來不	10	P1720	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
26		1202	F	13.0	1		告	10	P1724	ワレ
26		1203	J	40.0	2		須菩提	10	P1725	
26		1205	F	11.0	2	104	爲歌	10	P1727	
26		1207	J	4.0	1		及	10	P1729	
26		1208	A	69.0	4	139	種心如(來)(悉知)何以故	10	P1730	
26		1209	A	43.0	1		慧眼	10	P1731	
26		1211	A	38.0	2		□□菩提	10	P1733	
26	49	1212	A	65.0	2	92	善男子善(女人)以(恒)河(沙)等身□布(施)若(復)ヵ	10	P1734	
26		1219	J	36.0	1		此(經)(所)	10	P1741	
26		1221	A	63.0	2	18	應如是住	10	P1743	
26		1222	F	118.0	2	15	(恭敬)而(白)佛言	10	P1744	
26		1229	A	31.0	3	別経	若阿[羅](漢)	10	P1751	
26		1234	A	33.0	2		法相	10	P1756	
26		1235	F	26.0	3	117	(發)(最)上乗者	10	P1757	
26		1238	A	40.0	3	別経	摩囉□醯ヵ□	10	P1760	
26		1246	F	34.0	2		諸(相)	10	P1768	
26		1249	J	35.0	2		薩應	10	P1771	
26		1251	J	95.0	2	90	三十二(相)(得)	10	P1773	
26		1257	C	51.0	3		(聲)香味	10	P1779	
27		1261	J	15.0	2		善(□)	11	P1783	
27		1262	F	11.0	3	176	相須菩提	11	P1784	
27		1263	F	46.0	2	37	浄ヵ生	11	P1785	
27	49	1268	B	101.0	4		三藐三善/菩提	11	P1790	
27		1269	J	12.0	1		世尊	11	P1791	
27		1270	J	44.0	2		脩/羅	11	P1792	
27		1271	F	22.0	2		衆〈眾〉/生	11	P1793	
27		1272	J	22.0	2		(來)不以□	11	P1794	
27		1275	F	16.0	2	別経	提□□(戸天ヵ)	11	P1797	
27		1276	A	18.0	1		提	11	P1798	
27		1277	J	38.0	2	43	(不)應取	11	P1799	
27		1281	F	136.0	6	161	界七(寶)持用布施	11	P1803	
27		1282	F	18.0	3		□□云何□□	11	P1804	
27		1284	F	9.0	1		云□	11	P1806	
27		1285	A	40.0	3		須(菩)提	11	P1807	
27		1286	B	36.0	2		得聞	11	P1808	
27		1289	C	32.0	4		亦如	11	P1811	
27		1290	A	24.0	4	173	是名一合相	11	P1812	
27		1291	B	30.0	4		菩提/言/世尊	11	P1813	
27	49	1292	B	44.0	3	121	我見人見/衆生	11	P1814	
27		1293	J	36.0	3		(如)(來)有天	11	P1815	
27		1294	J	28.0	2		須□	11	P1816	
27	49	1297	J	96.0	2		希	11	P1819	
27		1300	B	55.0	2	116	[(不可)]稱量無(邊)	11	P1822	【墨痕】
27	49	1304	A	30.0	3		佛告/須菩提	11	P1826	
27		1309	J	33.0	1		如來	12	P1831	
27		1312	A	13.0	1		念	12	P1834	
27		1318	C	5.0	2		來世	12	P1840	
27		1321	J	14.0	1		如來	12	P1843	
27		1322	F	21.0	1		忍ヵ	12	P1844	
27		1323	C	7.0	2	166	□説不:不□説	12	P1845	
27		1324	C	19.0	1		衆〈眾〉	12	P1846	
27	49	1325	A	219.0	6	150	有少法可/得是名/阿耨多羅三藐三/菩提	試	試掘	試掘時取上げ。
		1	F	73.0	0			1	P507	【墨痕】
		3	A	39.0	3		・/・/哉	1	P509	
		5	A	17.0	0		法ヵ	1	P511	【墨痕】
		7	C	9.0	1		而ヵ	1	P513	
		8	F	43.0	0			1	P514	
		9	F	28.0	2		若/・	1	P515	
		10	F	29.0	2		不/・	1	P516	
		12	C	14.0	1			1	P518	
		13	F	17.0	0			1	P519	ワレ
		14	F	12.0	1		一ヵ	1	P520	ワレ【墨痕】
		15	B	27.0	2			1	P521	
		17	A	359.0	1		(迦□)□□(□波)訶	1	P523	
		18	H	42.0	0			1	P524	【墨痕】
		19	B	64.0	2			1	P525	
		29	F	75.0	0			1	P535	【墨痕】
		32	F	59.0	0			1	P538	【墨痕】
		33	F	56.0	0			1	P539	ワレ／39接
		34	F	30.0	2		訶/・	1	P540	
		36	F	33.0	4		(何)/□/□/□	1	P542	
		37	F	15.0	3		・/・/・	1	P543	ワレ【墨痕】
		38	F	88.0	2		(不/見)	1	P544	
		39	F	89.0	0			1	P545	ワレ33接
		40	F	55.0	0			1	P546	
		41	F	20.0	1			1	P547	
		42	F	10.0	0			1	P548	
		43	F	15.0	0			1	P549	
		44	F	39.0	1			1	P550	
		45	F	86.0	1			1	P551	
		46	A	56.0	0			1	P552	なし？
		47	F	56.0	0			1	P553	【墨痕】
		48	F	5.0	0			1	P554	ワレ66と接

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		49	H	181.0	0			1	P555	【墨痕】
		50	B	93.0	3			1	P556	
		51	F	132.0	0			1	P557	【墨痕】
		53	B	231.0	0			1	P559	
		56	F	9.0	0			1	P562	【墨痕】
		57	B	21.0	1		是□	1	P563	
		59	C	37.0	0			1	P565	
		61	A	26.0	0			1	P567	【墨痕】
		64	F	51.0	1			1	P570	【墨痕】
		65	K	48.0	0			1	P571	
		67	A	65.0	2		(羅)□/□□	1	P573	
		68	F	21.0	1			1	P574	
		69	F	85.0	2		非□□□/如(來)	1	P575	
		73	B	17.0	2			1	P579	
		74	A	49.0	2			1	P580	
		75	A	40.0	1			1	P581	
		77	F	45.0	2			1	P583	
		78	F	67.0	0			1	P584	
		79	C	15.0	1			1	P585	
		82	F	58.0	0			1	P588	【墨痕】
		83	F	59.0	5	137	諸/恒訶/所有/沙	1	P589	
		85	F	27.0	0			1	P591	
		86	F	26.0	0			1	P592	【墨痕】
		87	F	30.0	0			1	P593	【墨痕】
		88	E	22.0	0			1	P594	【墨痕】
		89	C	19.0	3		佛/□/□	1	P595	
		90	B	25.0	2		□以/□□	1	P596	
		92	F	21.0	0			1	P598	【墨痕】
		94	F	36.0	1			1	P600	
		95	F	20.0	1			1	P601	【墨痕】
		96	F	26.0	1			1	P602	【墨痕】
		97	F	21.0	0			1	P603	【墨痕】
		99	B	27.0	0			1	P605	【墨痕】
		100	A	25.0	2			1	P606	
		101	A	12.0	2		(菩薩)	1	P607	
		103	B	47.0	1		何以	1	P609	
		104	A	45.0	3			1	P610	
		105	A	22.0	2			1	P611	
		106	A	31.0	2			1	P612	
		107	A	16.0	1			1	P613	
		108	K	89.0	0			1	P614	【墨痕】
		109	F	52.0	2		□相□何□	1	P615	
		111	J	35.0	3			1	P617	
		112	F	58.0	0			1	P618	【墨痕】
		116	F	11.0	0			1	P622	【墨痕】
		118	F	17.0	1			1	P624	【墨痕】
		120	J	11.0	2		等/□	1	P626	
		121	F	19.0	0			1	P627	【墨痕】
		124	F	10.0	0			1	P630	【墨痕】
		125	A	69.0	3		□□/不	1	P631	
		126	B	12.0	0			1	P632	【墨痕】
		128	C	58.0	2	165	所作福/(德)	1	P634	
		130	B	37.0	1		(娑婆)	1	P636	
		132	A	12.0	1		是	1	P638	
		134	H	80.0	1			1	P640	ワレ
		136	F	17.0	1		□薩	1	P642	
		140	F	13.0	1			1	P646	【墨痕】
		141	F	20.0	1			1	P647	
		143	C	23.0	1			1	P649	
		144	F	13.0	0			1	P650	【墨痕】
		145	F	27.0	0			1	P651	
		148	F	81.0	0			1	P654	【墨痕】
		150	A	17.0	1		(羅)	1	P656	
		151	F	27.0	1			1	P657	
		152	C	17.0	1			1	P658	
		153	E	32.0	0			1	P659	
		156	C	13.0	1			1	P662	
		157	B	23.0	1		無	1	P663	
		161	K	24.0	1		□行	1	P667	
		162	F	26.0	2		吉/□	1	P668	
		163	F	81.0	0			1	P669	【墨痕】
		164	F	22.0	0			1	P670	【墨痕】
		165	F	25.0	1			1	P671	【墨痕】
		168	F	15.0	0			1	P674	
		169	F	2.0	0			1	P675	
		172	F	16.0	0			1	P678	
		173	J	10.0	0			1	P679	
		174	B	124.0	0			1	P680	【墨痕】
		177	A	64.0	1			1	P683	
		178	A	9.0	0			1	P684	【墨痕】
		180	F	30.0	0			1	P686	【墨痕】
		181	F	85.0	0			1	P687	
		182	F	17.0	0			1	P688	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		183	B	21.0	1			1	P689	
		184	B	42.0	1			1	P690	
		185	B	240.0	4		是□/如來/(有沙但)□□沙□□	1	P691	
		186	F	48.0	1			1	P692	【墨痕】
		187	F	12.0	0			1	P693	
		188	F	19.0	1			1	P694	
		189	E	17.0	0			1	P695	
		190	F	53.0	1		□須	1	P696	
		196	C	24.0	1			1	P702	
		199	F	10.0	0			1	P705	
		200	F	17.0	0			1	P706	【墨痕】
		201	A	9.0	0			1	P707	ワレ
		202	F	10.0	2		(爲)□	1	P708	
		203	B	20.0	2		(是人)/問	1	P709	
		204	A	13.0	0			1	P710	【墨痕】
		205	F	31.0	1			1	P711	
		206	F	9.0	1			1	P712	ワレ
		208	F	88.0	0			1	P714	【墨痕】
		210	F	27.0	0			1	P716	【墨痕】
		211	F	21.0	0			1	P717	【墨痕】
		212	F	9.0	0			1	P718	ワレ
		213	B	22.0	2		作□我□	1	P719	
		214	F	20.0	1		說	1	P720	
		216	J	80.0	0			1	P722	【墨痕】
		218	F	27.0	0			1	P724	【墨痕】
		220	C	28.0	0			1	P726	
		221	F	20.0	0			1	P727	【墨痕】
		222	A	51.0	1		行	1	P728	
		223	B	87.0	1		是	1	P729	
		224	F	43.0	2			1	P730	
		226	B	253.0	1			1	P732	【墨痕】
		227	F	51.0	0			1	P733	【墨痕】
		229	B	39.0	2			1	P735	
		230	A	11.0	2			1	P736	
		231	C	17.0	0			1	P737	【墨痕】
		232	C	71.0	1		(其)多	1	P738	白線有り
		233	F	12.0	0			1	P739	
		234	B	15.0	2	47	可/取	1	P740	
		235	F	17.0	0			2	P745	
		236	K	22.0	0			2	P746	【墨痕】
		237	C	118.0	0			2	P747	【墨痕】
		238	F	47.0	0			2	P748	【墨痕】
		239	F	111.0	0			2	P749	【墨痕】
		241	F	9.0	0			2	P751	【墨痕】
		242	A	31.0	0			2	P752	【墨痕】
		243	A	76.0	0			2	P753	【墨痕】
		245	F	47.0	0			2	P755	【墨痕】
		246	A	147.0	4	149	三藐(三菩提為無所)/得(耶)/(佛)言/(如是如是)須菩提	2	P756	
		247	B	171.0	4		者/□	2	P757	
		248	F	97.0	0			2	P758	【墨痕】
		249	J	70.0	0			2	P759	2個体
		250	A	39.0	1		□人	2	P760	
		253	F	103.0	1		□□□□	2	P763	
		254	F	46.0	1		□界□(鼻)	2	P764	ワレ
		255	A	21.0	1		是□	2	P765	
		258	C	156.0	1		三□□菩提□不□□	2	P768	
		259	F	29.0	2		鼻□/□	2	P769	
		262	F	85.0	1			2	P772	
		264	J	17.0	1			2	P774	
		266	F	26.0	0			2	P776	【墨痕】
		267	F	102.0	0			2	P777	【墨痕】
		269	E	32.0	0			2	P779	【墨痕】
		270	C	14.0	0			2	P780	【墨痕】
		271	F	27.0	1			2	P781	【墨痕】
		272	A	35.0	2		生/□	2	P782	
		273	J	71.0	0			2	P783	【墨痕】
		274	F	43.0	1			2	P784	文字3横
		275	A	71.0	1			2	P785	【墨痕】
		276	B	51.0	0			2	P786	
		277	G	40.0	0			2	P787	
		279	F	44.0	1			2	P789	
		280	F	63.0	2		□/億	2	P790	
		281	F	13.0	0			2	P791	ワレ／2個体
		284	A	76.0	3	30	福徳亦/(復如是)/(不可思量)	2	P794	
		285	F	21.0	2		薩/所	2	P795	
		286	H	67.0	1			2	P796	
		287	F	23.0	0			2	P797	
		288	A	19.0	0			2	P798	【墨痕】
		289	F	84.0	0			2	P799	【墨痕】
		290	F	12.0	0			2	P800	【墨痕】
		291	J	13.0	2		見/□	2	P802	
		292	F	22.0	1			2	P803	
		293	F	17.0	0			2	P804	【墨痕】

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		294	F	27.0	0			2	P805	【墨痕】
		295	F	13.0	0			2	P806	【墨痕】
		296	J	28.0	2			2	P807	
		298	J	65.0	0			2	P809	【墨痕】
		299	A	9.0	0			2	P810	【墨痕】
		300	F	28.0	0			2	P811	【墨痕】
		302	B	47.0	0			2	P813	【墨痕】
		303	A	110.0	3		□慧□/□□	2	P814	
		304	H	68.0	0			2	P815	【墨痕】
		306	F	92.0	0			2	P817	【墨痕】
		308	H	50.0	0			2	P819	
		309	E	70.0	2		□/耨	2	P820	
		310	H	62.0	2			2	P821	
		311	E	43.0	2		(鼻□此□)/(下)	2	P822	
		312	F	22.0	2			2	P823	
		313	F	23.0	0			2	P824	
		316	B	33.0	1		(是□)	2	P827	
		317	F	16.0	2		(羅)/□□	2	P828	
		318	F	51.0	1		(云阿□)	2	P829	
		319	F	39.0	3		須(菩)提	2	P830	
		321	F	39.0	0			2	P832	【墨痕】
		322	A	27.0	1		於	2	P833	
		323	F	17.0	2		三(藐)	2	P834	
		324	A	58.0	3		(爲)大/□□/□	2	P835	
		325	F	23.0	0			2	P836	【墨痕】
		326	A	12.0	0			2	P837	
		327	F	120.0	0			2	P838	
		329	A	33.0	1			2	P840	
		331	A	23.0	0			2	P842	【墨痕】
		336	A	13.0	1		得	2	P847	
		337	F	10.0	0			2	P848	【墨痕】
		338	F	57.0	1			2	P849	
		339	B	15.0	0			2	P850	
		341	G	31.0	0			2	P852	
		343	F	33.0	0			2	P854	【墨痕】
		345	F	47.0	0			2	P856	【墨痕】
		348	F	21.0	0			2	P859	【墨痕】
		350	B	66.0	2			2	P861	
		351	F	40.0	0			2	P862	
		353	F	16.0	0			2	P864	【墨痕】
		358	D	65.0	0			2	P869	【墨痕】
		360	F	10.0	1			2	P871	【墨痕】
		361	F	5.0	0			2	P872	【墨痕】
		363	E	18.0	0			2	P874	【墨痕】
		364	B	57.0	1		言	2	P875	
		365	B	8.0	0			2	P876	
		368	A	17.0	2			2	P879	【墨痕】
		369	F	23.0	0			2	P880	
		370	F	103.0	0			2	P881	【墨痕】
		371	F	15.0	0			2	P882	
		374	B	24.0	0			2	P885	【墨痕】
		376	A	41.0	0			2	P887	
		377	F	7.0	0			2	P888	
		378	C	11.0	1			2	P889	
		381	F	8.0	0			2	P892	2個体
		385	E	15.0	2		須菩提	2	P896	
		386	F	16.0	0			2	P897	
		387	D	15.0	0			2	P898	
		388	A	13.0	0			2	P899	
		389	F	82.0	0			2	P900	【墨痕】
		390	A	46.0	3	29	無住/相/布施	2	P901	
		391	A	22.0	0			2	P902	
		392	B	15.0	0			2	P903	【墨痕】
		393	H	33.0	0			2	P904	【墨痕】
		394	F	26.0	1		□(有)	2	P905	
		401	E	8.0	1			2	P912	
		402	F	50.0	2			2	P913	
		403	A	200.0	2			2	P914	
		405	D	17.0	1			2	P916	【墨痕】
		406	F	5.0	0			2	P917	ワレ
		407	F	46.0	0			2	P918	【墨痕】
		408	F	13.0	0			2	P919	【墨痕】
		409	F	14.0	0			2	P920	【墨痕】
		411	F	8.0	0			2	P922	【墨痕】
		412	F	23.0	0			2	P923	【墨痕】
		415	F	15.0	0			2	P926	【墨痕】
		417	F	17.0	0			2	P928	
		422	G	15.0	1		(諸)	2	P933	
		423	E	20.0	0			2	P934	【墨痕】
		425	G	11.0	1			2	P936	【墨痕】
		426	C	80.0	0			2	P937	
		427	F	70.0	0			2	P938	【墨痕】
		428	F	30.0	0			2	P939	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		430	A	70.0	2		身□□/□‥	2	P941	
		432	C	26.0	2		相□/是□	2	P943	
		433	A	45.0	2		我/鼻若	2	P944	
		434	F	11.0	0			2	P945	【墨痕】
		435	B	18.0	1		菩	2	P946	
		436	F	21.0	0			2	P947	
		437	A	7.0	1		(是)	2	P948	
		440	F	10.0	0			2	P951	2個体／【墨痕】
		441	F	66.0	2		(説)□□(須)□□	2	P952	
		442	H	32.0	2		摩□□□	2	P953	
		443	B	33.0	0			2	P954	【墨痕】
		445	E	9.0	1		須	2	P956	
		447	F	6.0	0			2	P958	2個体
		448	A	40.0	2		(所)/□□	2	P959	
		449	C	11.0	0			2	P960	【墨痕】
		450	B	46.0	1		(如來)	2	P961	【墨痕】
		452	B	108.0	0			2	P963	【墨痕】
		453	F	75.0	3		何□/□□/□□	2	P964	
		454	A	56.0	0			2	P965	【墨痕】
		456	F	8.0	0			2	P967	【墨痕】
		457	E	8.0	1		(可)	2	P968	
		458	F	12.0	1			2	P969	【墨痕】
		460	H	90.0	1		阿□	2	P971	
		461	F	65.0	0			2	P972	【墨痕】
		462	F	35.0	0			2	P973	【墨痕】
		464	J	14.0	1		尊	2	P975	
		465	B	16.0	0			2	P976	【墨痕】
		467	F	39.0	0			2	P978	【墨痕】
		468	F	265.0	1			2	P979	【墨痕】
		469	A	22.0	1		若(是)	2	P980	
		470	B	41.0	2		甚多	2	P981	
		471	F	11.0	1		乘者	2	P982	
		472	A	16.0	2		等□/羅	2	P983	
		473	B	128.0	2	130	具説[/者或有](人聞)	2	P984	
		475	F	19.0	1			2	P986	
		476	A	13.0	1		但	2	P987	
		478	B	13.0	1		於	2	P989	
		480	C	18.0	1			2	P991	
		484	J	33.0	1			2	P995	
		485	B	47.0	3			2	P996	
		486	A	43.0	1			2	P997	
		488	F	34.0	2		□□/□	2	P999	
		489	F	9.0	1			2	P1000	ワレ
		490	F	51.0	0			3	P1001	
		491	F	24.0	0			3	P1002	【墨痕】
		494	J	60.0	0			3	P1005	
		497	C	21.0	1			3	P1008	
		499	F	24.0	0			3	P1010	
		500	J	19.0	1			3	P1011	
		501	C	132.0	1			3	P1012	
		504	J	57.0	0			3	P1015	
		505	F	101.0	1	69	有所(得不)	3	P1016	
		506	F	13.0	0			3	P1017	
		507	B	5.0	0			3	P1018	
		508	B	236.0	2	24	布施不□□□□若/□‥	3	P1019	
		510	F	100.0	1			3	P1021	
		511	C	44.0	1			3	P1022	
		512	J	37.0	0			3	P1023	
		513	F	47.0	0			3	P1024	
		514	F	64.0	2		若人/□‥	3	P1025	
		515	F	82.0	1		若人	3	P1026	
		518	F	7.0	0			3	P1029	
		519	F	22.0	0			3	P1030	
		520	F	61.0	0			3	P1031	【墨痕】
		522	J	55.0	2		無□生□(□世尊)□	3	P1033	
		523	C	166.0	2			3	P1034	
		524	G	130.0	0			3	P1035	【墨痕】
		526	F	90.0	1			3	P1037	【墨痕】
		527	C	10.0	1			3	P1038	
		528	F	328.0	1			3	P1039	
		529	A	36.0	3		如是/□	3	P1040	
		531	F	80.0	0			3	P1042	【墨痕】
		532	F	166.0	2		如□□□(中)□所(界) 鼻ヵ□□□□□	3	P1043	【墨痕】
		534	F	137.0	1		□□□□(生)	3	P1045	
		535	J	94.0	2		□來□□□□/□‥	3	P1046	
		536	B	16.0	1		(至)	3	P1047	
		537	F	38.0	0			3	P1048	【墨痕】／1100同個体ヵ
		538	F	25.0	0			3	P1049	【墨痕】
		539	F	52.0	0			3	P1050	
		540	F	118.0	0			3	P1051	
		541	F	13.0	0			3	P1052	【墨痕】
		543	F	56.0	1			3	P1054	
		544	F	38.0	3		□□(□是ヵ)/經/典	3	P1055	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		545	F	19.0	0			3	P1056	
		547	J	51.0	1			3	P1058	
		548	J	21.0	0			3	P1059	
		550	B	33.0	2		善□/□□	3	P1061	
		551	F	7.0	1		有	3	P1062	白線2面
		552	F	75.0	2		(若)□/□	3	P1063	
		553	F	81.0	1		如來□□□□	3	P1064	
		554	F	149.0	0			3	P1065	
		556	F	29.0	1		菩□	3	P1067	
		557	H	28.0	0			3	P1068	
		558	J	24.0	0			3	P1069	
		559	F	20.0	0			3	P1070	
		560	K	17.0	1		陀	3	P1071	
		561	F	32.0	1			3	P1072	【墨痕】
		564	C	13.0	2			3	P1075	
		566	G	9.0	0			3	P1077	
		568	G	41.0	1			3	P1079	
		570	F	19.0	1		□如	3	P1081	
		571	C	4.0	1		千世	3	P1082	
		572	C	52.0	2		以可/説	3	P1083	567接
		573	F	65.0	1			3	P1084	
		574	F	4.0	0			3	P1085	ワレ／【墨痕】
		575	A	51.0	2		(以徳)□□/□□	3	P1086	
		576	F	15.0	1		(於)	3	P1087	
		577	A	25.0	1			3	P1088	
		580	F	70.0	0			3	P1091	
		582	A	57.0	1		(當)	3	P1093	
		583	B	21.0	3		羅/三/(塵)	3	P1094	
		586	F	7.0	0			3	P1097	【墨痕】
		587	F	75.0	2		鼻/□	3	P1098	
		588	B	67.0	3		醯/□‥	3	P1099	
		590	F	25.0	1			3	P1101	
		592	F	8.0	1			3	P1103	
		594	C	108.0	2		(祇□)/□	3	P1105	
		596	H	53.0	0			3	P1107	
		598	B	18.0	2		説	3	P1109	
		599	B	92.0	3		我/□‥	3	P1110	
		600	F	32.0	2			3	P1111	
		601	F	5.0	0			3	P1112	
		602	G	37.0	0			3	P1113	
		603	F	30.0	0			3	P1114	
		604	F	59.0	0			3	P1115	【墨痕】
		605	H	79.0	1			3	P1116	
		606	K	13.0	2			3	P1117	
		607	B	25.0	2			3	P1118	
		608	C	175.0	5		□□(有)/(人門)□/□‥	3	P1119	
		610	F	14.0	1		鼻	3	P1121	
		611	F	14.0	0			3	P1122	
		613	F	12.0	1			3	P1124	
		615	A	13.0	1		(善)□	3	P1126	
		616	B	19.0	1		(須)	3	P1127	
		617	F	27.0	1			3	P1128	
		619	A	23.0	0			3	P1130	
		620	F	47.0	0			3	P1131	
		621	F	9.0	1			3	P1132	
		623	F	14.0	1			3	P1134	
		624	A	33.0	3		説□/(足)/□□	3	P1135	
		625	F	46.0	2		□世□/□	3	P1136	
		629	B	10.0	2		(得)/□	3	P1140	
		630	F	15.0	1		(得)	3	P1141	
		631	A	10.0	1		(當)	3	P1142	
		632	A	14.0	0			3	P1143	
		633	C	24.0	2		(成)/□	3	P1144	
		634	F	16.0	1			3	P1145	
		639	F	25.0	1			3	P1152	
		640	F	21.0	2		(善)/無	3	P1153	
		644	F	13.0	0			3	P1157	【墨痕】
		645	F	21.0	0			3	P1158	
		647	A	4.0	1		(須)	3	P1160	
		650	F	10.0	0			3	P1163	1100接／【墨痕】
		651	F	2.0	0			3	P1164	ワレ
		652	A	23.0	1			3	P1165	
		653	A	41.0	3		(我)/如来説/(高)	3	P1166	
		656	F	15.0	2		(更)/(名)	3	P1169	
		657	A	36.0	3		(戻)/□‥	3	P1170	
		658	J	43.0	0			3	P1171	
		659	B	15.0	0			3	P1172	
		661	F	31.0	1		□娑	3	P1174	
		662	F	4.0	0			3	P1175	ワレ
		663	F	25.0	1		(是)	3	P1176	
		673	J	49.0	1			3	P1186	
		674	F	13.0	0			3	P1187	【墨痕】
		676	A	15.0	0			3	P1189	【墨痕】

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		677	J	63.0	1			3	P1190	
		679	K	65.0	3			3	P1192	
		680	B	19.0	3			3	P1193	
		681	B	23.0	2		子/□	3	P1194	
		682	A	28.0	0			3	P1195	
		684	J	86.0	1			3	P1197	
		687	J	57.0	2			3	P1200	
		688	F	40.0	2			3	P1201	
		689	F	25.0	2			3	P1202	
		690	F	2.0	0			3	P1203	2個体
		691	F	0.0	0			3	P1204	
		692	F	39.0	4	136	河/(中)/(所有)/(沙)	3	P1205	
		693	B	49.0	3			3	P1206	
		694	A	123.0	0			3	P1207	
		697	A	18.0	1			3	P1210	
		698	F	22.0	2		(徳)/□	3	P1211	
		699	F	66.0	0			3	P1212	
		701	F	18.0	2		菩提	3	P1214	
		702	K	49.0	2		應/意	3	P1215	
		703	C	18.0	1			3	P1216	
		704	F	47.0	2			3	P1217	【墨痕】
		706	B	88.0	1		(薩)	3	P1219	
		707	F	104.0	3		阿□多/善□□□	3	P1220	
		709	F	202.0	0			4	P1225	
		711	A	64.0	2		(是)□‥	4	P1227	
		712	K	37.0	2			4	P1228	
		713	F	247.0	1		□□壽□□	4	P1229	破片3個体
		715	J	50.0	1			4	P1231	
		717	F	94.0	2		(陁)□	4	P1233	
		719	C	21.0	0			4	P1235	
		720	F	69.0	2		□人□	4	P1236	
		722	B	228.0	1		楽□‥	4	P1238	
		723	C	26.0	0			4	P1239	1面黒い(鉄分融着か)
		724	B	83.0	1			4	P1240	
		726	F	187.0	2			4	P1242	【墨痕】
		727	F	25.0	1			4	P1243	
		730	A	48.0	2		(等)/□□	4	P1246	
		733	F	48.0	1		(有)□□□	4	P1249	
		734	F	42.0	3			4	P1250	
		736	F	60.0	0			4	P1252	
		737	F	59.0	0			4	P1253	
		739	F	10.0	2			4	P1255	
		741	F	129.0	0			4	P1257	【墨痕】
		742	F	73.0	2			4	P1258	
		744	F	36.0	0			4	P1260	
		745	F	110.0	0			4	P1261	
		747	F	20.0	0			4	P1263	
		750	J	28.0	1			4	P1266	
		751	F	10.0	0			4	P1267	【墨痕】
		752	G	31.0	0			4	P1268	
		754	B	108.0	5	132	三(菩)提/(故是中於是中無實無)/(如来説)	4	P1270	
		755	K	26.0	0			4	P1271	【墨痕】
		756	A	24.0	0			4	P1272	【墨痕】
		757	G	45.0	0			4	P1273	【墨痕】
		759	C	81.0	4		□□(身)/□‥	4	P1275	
		761	E	39.0	1		(躰)	4	P1277	
		762	A	105.0	0			4	P1278	
		764	H	20.0	0			4	P1280	
		765	F	25.0	0			4	P1281	【墨痕】
		766	A	27.0	1			4	P1282	
		767	F	22.0	0			4	P1283	
		769	B	11.0	0			4	P1285	
		770	F	76.0	0			4	P1286	【墨痕】
		772	B	57.0	0			4	P1288	
		773	F	40.0	0			4	P1289	【墨痕】
		774	F	82.0	1			4	P1290	
		777	K	62.0	1			4	P1293	
		778	F	17.0	1			4	P1294	
		779	F	8.0	2		(爲)/□	4	P1295	ワレ／【墨痕】
		780	B	11.0	2		(如)/□	4	P1296	
		781	B	15.0	2		(耶)/□	4	P1297	
		782	C	21.0	2		(帊)/□	4	P1298	
		783	F	12.0	0			4	P1299	【墨痕】
		784	B	43.0	2			4	P1300	
		785	C	37.0	0			4	P1301	
		786	J	34.0	2		(説)/□□	4	P1302	
		788	F	21.0	2			4	P1304	
		789	F	34.0	1			4	P1305	
		790	F	11.0	0			4	P1306	【墨痕】
		791	B	147.0	1			4	P1307	
		793	F	52.0	0			4	P1309	【墨痕】ヵ
		794	F	2.0	0			4	P1310	ワレ、2個体
		797	F	5.0	1			4	P1313	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		799	F	28.0	0			4	P1315	【墨痕】
		801	F	4.0	1			4	P1317	
		802	F	61.0	2			4	P1318	
		803	F	38.0	2		(未来)/(必)□□□	4	P1319	
		806	E	10.0	0			4	P1322	【墨痕】
		807	F	43.0	0			4	P1323	
		808	B	145.0	4		(一合)/□‥	4	P1324	
		809	F	10.0	0			4	P1325	【墨痕】
		810	A	18.0	2		(安)/羅	4	P1326	
		813	F	6.0	0			4	P1329	ワレ
		815	A	28.0	1			4	P1331	
		819	A	23.0	1			4	P1335	
		822	F	25.0	0			4	P1338	【墨痕】
		823	F	10.0	0			4	P1339	【墨痕】
		824	F	31.0	0			4	P1340	
		827	F	75.0	0			4	P1343	【墨痕】
		828	J	20.0	2			4	P1344	
		829	F	38.0	2		(於此)/□	4	P1345	
		830	F	29.0	0			4	P1346	【墨痕】
		831	F	5.0	0			4	P1347	ワレ
		834	B	35.0	0			4	P1350	【墨痕】
		836	B	22.0	1		佛/□	4	P1352	
		837	F	21.0	1			4	P1353	
		839	F	53.0	0			4	P1355	【墨痕】
		840	F	7.0	0			4	P1356	
		841	J	15.0	0			4	P1357	
		842	F	41.0	0			4	P1358	
		843	F	21.0	1		是	4	P1359	【墨痕】
		844	F	19.0	0			4	P1360	【墨痕】
		848	A	47.0	2	58	□(不來)□(而/實無)	4	P1364	
		853	F	19.0	0			4	P1369	【墨痕】
		854	E	53.0	0			4	P1370	【墨痕】
		855	F	15.0	0			4	P1371	【墨痕】
		856	F	21.0	0			4	P1372	
		857	A	126.0	0			4	P1373	
		859	F	22.0	2		(無不)	4	P1375	
		861	F	14.0	1		(若)	4	P1377	
		863	F	12.0	1			4	P1379	【墨痕】
		867	B	19.0	2		(阿)/□□	4	P1383	
		868	J	25.0	0			4	P1384	
		869	F	51.0	0			4	P1385	【墨痕】
		870	F	8.0	1			4	P1386	
		871	F	13.0	0			4	P1387	【墨痕】
		873	F	72.0	2		(如)/(人)	4	P1389	
		879	C	16.0	0			4	P1395	
		880	F	25.0	2		(皆)/□	4	P1396	
		882	K	29.0	0			4	P1398	
		884	F	33.0	0			4	P1400	【墨痕】
		886	J	30.0	1			4	P1402	
		887	C	148.0	1			4	P1403	
		889	H	65.0	0			4	P1405	
		891	K	175.0	2			4	P1407	
		892	A	17.0	0			4	P1408	【墨痕】
		893	F	304.0	0			4	P1409	【墨痕】
		895	F	43.0	0			4	P1411	【墨痕】
		900	F	21.0	0			5	P1421	【墨痕】
		901	H	72.0	1		(須菩提)	5	P1422	
		902	F	20.0	0			5	P1423	【墨痕】
		904	F	14.0	0			5	P1425	
		905	F	13.0	1		河 □(※有の月が日)	5	P1426	白線
		906	F	17.0	1			5	P1427	
		909	F	8.0	0			5	P1430	【墨痕】
		910	F	10.0	1		(三)	5	P1431	
		911	F	30.0	0			5	P1432	【墨痕】
		912	F	17.0	1			5	P1433	【墨痕】
		915	F	6.0	0			5	P1436	【墨痕】
		916	F	19.0	0			5	P1437	【墨痕】
		917	F	9.0	2		□/來	5	P1438	
		918	A	10.0	1		於	5	P1439	
		920	F	54.0	0			5	P1441	【墨痕】
		921	F	43.0	0			5	P1442	【墨痕】
		923	F	91.0	0			5	P1444	【墨痕】
		924	F	0.0	0			5	P1445	
		925	J	22.0	0			5	P1446	【墨痕】
		926	F	27.0	2			5	P1447	文字1･2横
		927	A	51.0	1			5	P1448	
		928	K	14.0	0			5	P1449	
		930	H	38.0	0			5	P1451	
		933	F	49.0	0			5	P1454	【墨痕】
		935	F	37.0	0			5	P1456	【墨痕】
		936	B	30.0	1		(就)	5	P1457	【墨痕】
		937	H	124.0	0			5	P1458	
		938	F	26.0	1			5	P1459	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		940	E	13.0	0			5	P1461	【墨痕】
		941	F	3.0	0			5	P1462	
		942	A	41.0	3			5	P1463	
		945	F	12.0	0			5	P1466	【墨痕】
		947	B	14.0	2		作是/□□	5	P1468	
		948	A	15.0	2		羅/若□	5	P1469	
		949	F	112.0	3		見/如□説	5	P1470	
		950	F	39.0	1			5	P1471	
		951	F	49.0	0			5	P1472	
		952	F	33.0	0			5	P1473	【墨痕】
		953	F	5.0	1			5	P1474	
		955	F	3.0	0			5	P1476	ワレ
		957	H	42.0	1			5	P1478	【墨痕】
		958	A	84.0	3			5	P1479	
		959	F	69.0	4	別経	(※口編に參)佛/囉/(舍利)/□□	5	P1480	
		960	B	20.0	2			5	P1481	
		961	H	10.0	1			5	P1482	
		962	H	33.0	2			5	P1483	
		963	J	18.0	2			5	P1484	
		964	F	11.0	0			5	P1485	
		965	E	30.0	0			5	P1486	
		966	J	32.0	2			5	P1487	
		967	F	13.0	1		須	5	P1488	
		968	K	33.0	2		塵/□□□	5	P1489	
		969	C	10.0	1			5	P1490	
		970	E	27.0	0			5	P1491	
		971	J	14.0	1			5	P1492	
		972	C	11.0	0			5	P1493	
		973	F	33.0	0			5	P1494	
		974	F	10.0	0			5	P1495	
		975	C	10.0	0			5	P1496	
		976	F	26.0	0			5	P1497	
		977	C	8.0	2			5	P1498	
		978	A	12.0	0			5	P1499	
		979	B	27.0	2		(取)/□	5	P1500	
		980	F	20.0	2		(有)/□	5	P1501	
		981	F	23.0	2		(持)/□	5	P1502	
		982	A	14.0	1			5	P1503	
		983	F	16.0	0			5	P1504	ワレ
		984	B	10.0	1			5	P1505	
		985	C	62.0	4		阿/所/□□□	5	P1506	
		986	F	29.0	0			5	P1507	
		987	F	11.0	0			5	P1508	
		988	F	261.0	0			5	P1509	
		989	F	70.0	0			5	P1510	
		990	A	59.0	3		者/□□/□	5	P1511	
		991	F	21.0	0			5	P1512	
		992	F	77.0	1			5	P1513	
		993	C	14.0	1			5	P1514	
		994	J	46.0	3		(須)菩提	5	P1515	
		995	F	84.0	0			5	P1516	
		996	F	3.0	0			5	P1517	ワレ
		998	F	33.0	0			5	P1519	
		1003	F	11.0	0			5	P1524	
		1005	F	28.0	0			5	P1526	
		1007	C	27.0	0			5	P1528	
		1008	F	56.0	1		(汝)	5	P1529	
		1009	B	56.0	1	59	□□不來	5	P1530	
		1010	F	17.0	0			5	P1531	
		1012	F	146.0	0			5	P1533	【墨痕】
		1013	A	21.0	2		(菩)提	5	P1534	
		1015	B	44.0	1			5	P1536	
		1020	A	6.0	0			6	P1541	
		1022	F	21.0	1		(鼻)	6	P1543	多孔質ヵ
		1023	F	7.0	1		(入)	6	P1544	
		1026	J	15.0	0			6	P1547	
		1027	F	39.0	2		須菩提/□□	6	P1548	
		1029	F	61.0	2		(如來□)/□	6	P1550	
		1030	F	38.0	0			6	P1551	
		1032	F	9.0	0			6	P1553	【墨痕】
		1033	F	19.0	2			6	P1554	
		1034	F	3.0	1			6	P1555	ワレ
		1035	H	28.0	0			6	P1556	
		1036	F	79.0	0			6	P1557	
		1037	J	11.0	1			6	P1558	
		1038	D	20.0	0			6	P1559	
		1039	F	4.0	1			6	P1560	ワレ
		1040	B	11.0	1		(一)	6	P1561	【墨痕】
		1045	F	15.0	2			6	P1566	
		1048	F	26.0	1			6	P1569	
		1053	F	13.0	0			6	P1574	
		1054	E	2.0	0			6	P1575	ワレ
		1055	A	55.0	1			6	P1576	

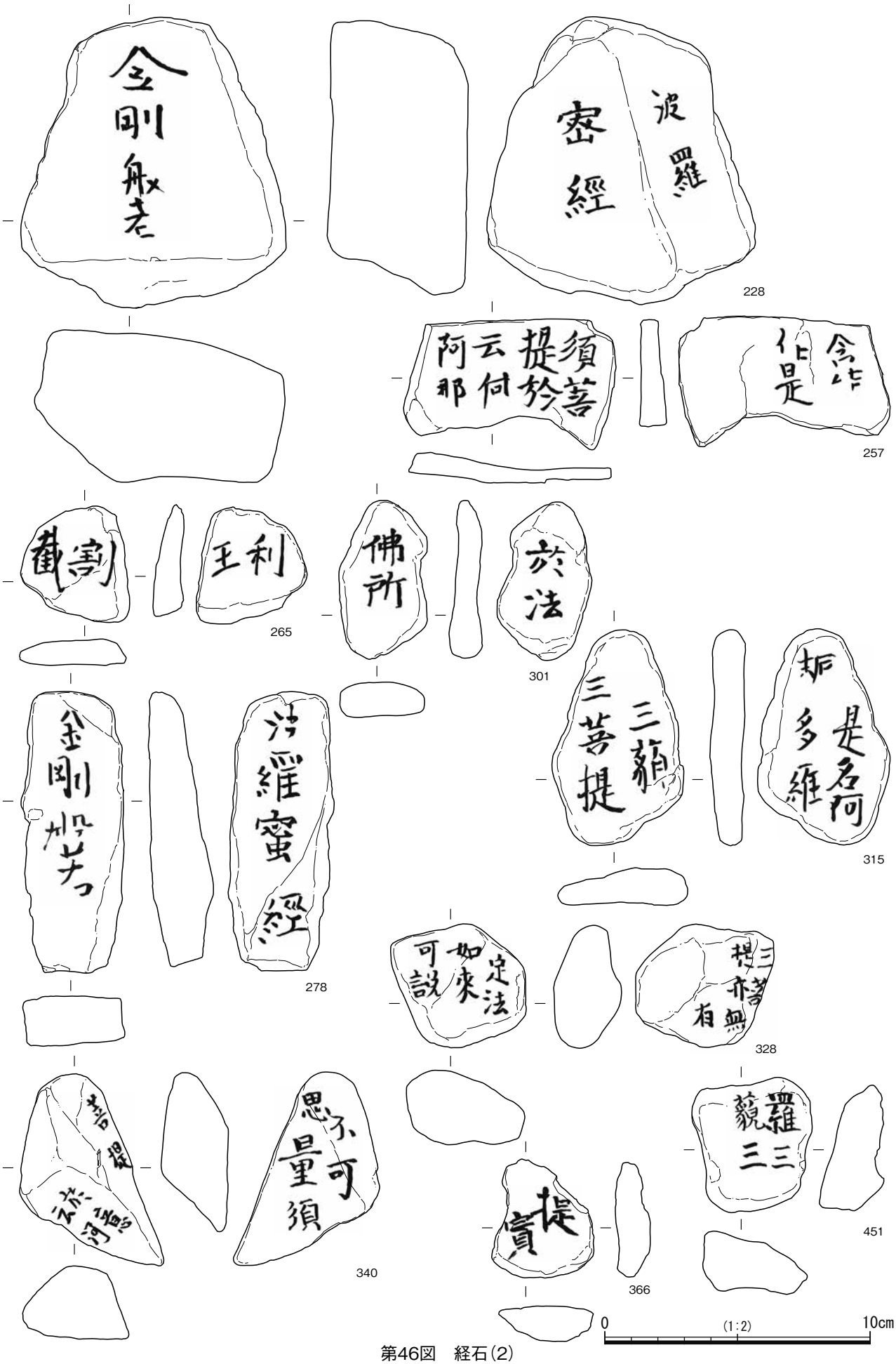
重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		1056	F	16.0	2			6	P1577	
		1059	G	16.0	0			6	P1580	
		1063	B	47.0	0			6	P1584	
		1066	F	19.0	0			6	P1587	
		1069	F	3.0	0			6	P1590	
		1071	F	14.0	2			6	P1592	【墨痕】のみかヵ
		1072	J	63.0	2			6	P1593	
		1074	J	21.0	3		(衆)/□/□	6	P1595	
		1075	F	33.0	3			6	P1596	
		1077	F	5.0	0			6	P1598	ワレ
		1080	J	19.0	0			6	P1601	
		1082	F	3.0	0			6	P1603	ワレ／1100接
		1083	F	48.0	0			6	P1604	
		1086	F	17.0	0			6	P1607	
		1089	H	19.0	0			6	P1610	
		1090	J	82.0	3			6	P1611	
		1091	B	4.0	1			6	P1612	
		1092	A	11.0	1			6	P1613	
		1095	F	14.0	0			7	P1616	
		1096	C	32.0	0			7	P1617	
		1097	B	4.0	0			7	P1618	ワレ
		1099	F	4.0	0			7	P1620	ワレ
		1100	F	21.0	0			7	P1621	1082接
		1103	F	73.0	0			8	P1625	
		1104	F	69.0	0			8	P1626	【墨痕】
		1106	F	15.0	0			8	P1628	
		1108	F	56.0	1		□是説我□	8	P1630	2面分
		1109	F	45.0	3		(無)/(人)/□	8	P1631	
		1110	F	32.0	0			8	P1632	【墨痕】
		1111	F	54.0	0			8	P1633	【墨痕】
		1112	F	29.0	0			8	P1634	
		1113	K	15.0	2		(説)/□‥	8	P1635	
		1114	J	153.0	2			8	P1636	
		1116	F	9.0	0			8	P1638	
		1118	F	245.0	0			8	P1640	
		1119	B	69.0	1			8	P1641	
		1121	F	22.0	1			8	P1643	
		1123	J	52.0	1		不	9	P1645	
		1125	F	26.0	1			9	P1647	
		1126	F	19.0	0			9	P1648	ワレ
		1127	H	48.0	0			9	P1649	
		1128	E	43.0	2			9	P1650	
		1130	E	22.0	2			9	P1652	
		1131	F	101.0	0			9	P1653	【墨痕】
		1132	F	27.0	2		(是)/□	9	P1654	
		1134	C	11.0	1			9	P1656	
		1135	F	15.0	0			9	P1657	2個体
		1136	F	14.0	0			9	P1658	【墨痕】
		1137	H	62.0	0			9	P1659	
		1140	A	2.0	0			9	P1662	ワレ
		1142	F	125.0	1			9	P1664	【墨痕】
		1143	F	13.0	1			9	P1665	
		1144	F	3.0	0			9	P1666	ワレ1100接
		1145	F	32.0	0			9	P1667	【墨痕】
		1146	J	42.0	1			9	P1668	
		1147	F	9.0	0			9	P1669	【墨痕】
		1149	C	7.0	1			9	P1671	
		1150	C	13.0	0			9	P1672	
		1152	F	6.0	0			9	P1674	
		1153	F	27.0	0			9	P1675	
		1154	F	1.0	0			9	P1676	
		1155	F	7.0	0			9	P1677	【墨痕】
		1157	H	59.0	0			9	P1679	
		1158	J	84.0	0			9	P1680	【墨痕】
		1159	J	274.0	0			9	P1681	
		1160	A	234.0	1		多羅	9	P1682	
		1161	F	26.0	0			9	P1683	
		1162	F	198.0	1			9	P1684	
		1163	B	80.0	2		阿耨/羅三藐三□	9	P1685	
		1164	F	16.0	1			9	P1686	
		1165	F	81.0	0			9	P1687	
		1166	B	141.0	0			9	P1688	
		1167	B	49.0	1			9	P1689	
		1168	K	93.0	0			9	P1690	
		1169	J	32.0	0			9	P1691	
		1171	F	17.0	0			9	P1693	
		1173	B	30.0	0			9	P1695	
		1174	F	37.0	0			9	P1696	
		1175	F	32.0	0			9	P1697	
		1178	F	32.0	0			9	P1700	
		1180	F	6.0	0			9	P1702	
		1182	J	23.0	1		(無)	9	P1704	
		1184	J	15.0	0			9	P1706	

重量の単位はg、経文の□は判読不可、( )は経典から推定した文字、[ ]は抜け字を示す。

写図	図	No.	石材	重量	文字面	経文順	経文	取上面	取上No.	備考
		1186	C	43.0	2		(而)/□□	9	P1708	
		1190	C	45.0	1			9	P1712	
		1192	F	32.0	0			10	P1714	【墨痕】
		1193	J	38.0	0			10	P1715	
		1195	F	82.0	0			10	P1717	【墨痕】
		1196	F	84.0	0			10	P1718	【墨痕】
		1199	F	12.0	0			10	P1721	
		1200	J	53.0	1			10	P1722	
		1201	A	4.0	0			10	P1723	ワレ
		1204	F	19.0	2		□(庠ヵ)/□	10	P1726	
		1206	F	8.0	0			10	P1728	
		1210	H	28.0	2			10	P1732	
		1213	J	81.0	0			10	P1735	
		1214	F	9.0	0			10	P1736	
		1215	B	46.0	2		如□/□	10	P1737	
		1216	F	29.0	0			10	P1738	
		1217	H	21.0	0			10	P1739	
		1218	F	17.0	0			10	P1740	
		1220	A	15.0	0			10	P1742	
		1223	F	96.0	1			10	P1745	
		1224	F	53.0	0			10	P1746	【墨痕】ヵ
		1225	F	25.0	0			10	P1747	
		1226	F	10.0	0			10	P1748	
		1227	B	69.0	0			10	P1749	
		1228	C	64.0	2			10	P1750	
		1230	A	60.0	1			10	P1752	
		1231	B	50.0	3		菩提□/□□	10	P1753	
		1232	F	13.0	0			10	P1754	
		1233	C	93.0	2			10	P1755	
		1236	H	33.0	0			10	P1758	
		1237	A	115.0	2		阿耨多羅□□□舎/□‥	10	P1759	
		1239	A	12.0	0			10	P1761	
		1240	A	27.0	3			10	P1762	
		1241	F	33.0	0			10	P1763	【墨痕】
		1242	F	11.0	0			10	P1764	
		1243	J	31.0	0			10	P1765	
		1244	F	36.0	0			10	P1766	
		1245	F	24.0	0			10	P1767	
		1247	A	11.0	0			10	P1769	
		1248	F	24.0	1			10	P1770	
		1250	F	49.0	0			10	P1772	
		1252	H	48.0	1			10	P1774	
		1253	B	54.0	0			10	P1775	
		1254	A	52.0	2		須□/□	10	P1776	
		1255	A	40.0	2		夜/□□	10	P1777	
		1256	E	12.0	1			10	P1778	
		1258	E	21.0	0			11	P1780	
		1259	F	19.0	0			11	P1781	【墨痕】
		1260	B	46.0	1			11	P1782	
		1264	H	36.0	0			11	P1786	【墨痕】
		1265	F	28.0	0			11	P1787	【墨痕】
		1266	F	12.0	0			11	P1788	【墨痕】
		1267	J	132.0	1		(時)□	11	P1789	
		1273	A	13.0	1			11	P1795	
		1274	F	30.0	1		(雨)特	11	P1796	
		1278	J	11.0	0			11	P1800	
		1279	J	18.0	1			11	P1801	
		1280	A	32.0	2			11	P1802	
		1283	C	27.0	1		須菩	11	P1805	
		1287	C	18.0	1			11	P1809	
		1288	F	10.0	0			11	P1810	
		1295	H	13.0	0			11	P1817	
		1296	J	29.0	1			11	P1818	
		1298	B	26.0	3		三/意/□	11	P1820	
		1299	A	18.0	0			11	P1821	
		1301	F	22.0	1			11	P1823	
		1302	J	23.0	1			11	P1824	
		1303	F	12.0	1			11	P1825	
		1305	F	24.0	0			11	P1827	
		1306	A	16.0	1			12	P1828	
		1307	F	11.0	1			12	P1829	
		1308	A	10.0	1			12	P1830	
		1310	J	23.0	2			12	P1832	2個体
		1311	A	37.0	0			12	P1833	
		1313	F	29.0	1			12	P1835	
		1314	J	18.0	2		□/囉	12	P1836	
		1315	F	12.0	0			12	P1837	【墨痕】
		1316	B	16.0	0			12	P1838	【墨痕】
		1317	F	41.0	0			12	P1839	【墨痕】
		1319	B	20.0	3		世尊/□	12	P1841	【墨痕】
		1320	F	15.0	0			12	P1842	【墨痕】

第45図　経石(1)



第46図　経石(2)

第47図　経石(3)

第48図　経石(4)

1061
1093
1141
1151
1187
1191
1212
1268
1292
1297
1304
1325
0
(1:2)
10cm

第49図　経石(5)

第４章　前付遺跡（Ｂ区）の調査成果

第１節　竪穴住居（ＳＩ）

ＳＩ１（第 50 ～ 54 図）

位　置　X = 90、Y = 120 グリッド

主　軸　N － 9° － E

遺構概要　道路より南の調査区にあり、検出した遺構のなかでは最も南に位置する。北側に SI22 があり、SK36 と重複し、SK3 は遺構内施設と考えられる。遺構規模は東西 4.93 m、南北 3.7 mを測り、隅丸方形を呈す。傾斜面に位置するため覆土はＵ字状に堆積し、調査当初は溝跡と推定して SD1 とした。また道路北側の調査区よりも耕作による撹乱が少なく、遺構自体が斜面を深く切り込む形で構築されていたため、遺存状況は良好であった。床面までの深さは東側で 0.76 m、南側で 0.5 m、西側 0.7 m、北側 0.78 mであった。ピットは床面の中央やや西寄りに位置し、断面観察から重複する２基のピットを確認した。pit1 は径約 0.55 m × 0.4 m、深さ 0.22 mを測り、pit2 は径 0.47 m × 0.28 m、深さ 0.25 m、pit1 に切られる。竈は北壁中央に構築する。構築材には礫を用い、袖石、煙道の側面、煙蓋石が遺存していた。竈の煙道までの全長は 1.58 m、幅 1.19 m、深さは地面から掘り方 0.14 mである。遺構内施設として北東隅に貯蔵穴とした SK3 を検出した。径 1.22 m × 0.8 m、深さ 0.25 mである。その南側には床面から約 25㎝ほど盛土されたステップ状の高まりを検出している。また、東壁および西壁から竈にかけては段状に掘り下げられていた。西壁では地面からの高さ 0.85 m、幅約 0.55 ～ 0.65 m、北壁の竈西側で地面からの高さ 0.85 m、幅約 0.35 ～ 0.40 m、東壁で地面からの高さ 0.86 mを測り、棚状施設と考えられる。

遺物出土状況（第 54 図）当該期の遺構は出土遺物が少ないことが特徴のひとつにあげられるが、SI1 からは土師器甕・坏・皿、須恵器甕・坏・蓋などまとまった遺物が出土している。覆土中からの出土もみられたほか、床面に近いレベルでの出土が多い。竈内とその周辺から甕類が少なくとも大小あわせて３個体の出土し、使用時の状況を留めると考えられる。また遺構東側の床面および SK3 より釘等の金属製品が出土した。

出土遺物（第 132・133 図）１～７は土師器坏皿である。１～５はいずれも内面に暗文、外面をヘラ削りとヘラミガキを施している。１・２・４はいわゆる箱形に近く、４には外面に墨痕がみられたが、文字としては判別できなかった。３は半球状に内湾する器形で、外面は口縁部の下まで横方向のミガキを施している。６・７は器高が低く、皿に近い器形である。内面はナデ、外面にヘラ削りが入る。また５・７には灯明煤の付着がみられた。８～９は土師器甕で、いずれも外面にハケメが施され、頸部の屈曲は緩やかで、口縁部にかけて外反する。11 ～ 19 は須恵器で、いずれも小片である。11 は坏、12 ～ 14 は蓋、15 は小甕、16 ～ 19 は甕である。蓋・甕片には内面に擦痕をもつものがあり、砥石または硯等として使用された可能性がある。

時　期　８世紀中葉

ＳＩ２（第 55 図）

位　置　X = 140、Y = 70 グリッド

主　軸　N － 67° － W

遺構概要　北東に SI31、北西に SB2、南東に SB3、SK2 が位置する。東西 2.85 m、南北 2.52 mを測り、方形を呈する。深さは、北側 0.32 m、南側 0.47 m、西側 0.47 mを測る。北壁から南壁中ほどにかけての壁際に、幅 20cm ほどの周溝が巡っていた。西壁中央よりやや南側には、径 0.37 m × 0.35 m、深さ 0.19 mを測る pit1 があり、住居中央より南北付近に浅い掘り込みがみられたが、本遺構に伴うものかどうか明らかにできなかった。竈は、住居東壁の中央よりやや南側に設けられていた。石組竈で、両袖に１石ずつ立石が残存し、掘り込み中央には、細長い自然石が支脚として立てられていた。また北東隅付近には、南北 60cm、東西 36cm 程の範囲に焼土がみられた。周溝以外、柱穴などの付属施設は確認されなかった。

遺物出土状況（第 55 図）出土遺物はそれほど多くはなく、散在的に分布している。土師器坏は竈前面と東

壁際より出土しており、須恵器甕の口縁部資料は竈前面から西壁際まで分布している。

出土遺物（第 133 図） 1～3は土師器坏で、内外面とも丁寧なナデやミガキが施され、1・3は底部がヘラ削りされている。1の内面には墨痕が確認できる。4は口径の大きな鉢で、胴下半を欠損するが屈曲が強いことから器高はそれほど高くないものと思われる。5・6は須恵器蓋で、5のつまみは扁平なものである。7は須恵器大甕の口縁部資料。第 171 図 D37 は須恵質の土製品で水煙状を呈し、瓦塔の水煙の一部と思われる。

時　期　8世紀中葉

ＳＩ３（第 56・57 図）

位　置　X = 130、Y = 40 グリッド

主　軸　N－14°－E

遺構概要　調査区西端に位置し、周辺は耕作による撹乱が激しい。遺構は大きく撹乱を受け、残存する部分は半分にも満たない。残存部から推定される規模は、東西 4.23 m、南北 3.91 mの西側壁面がやや長い不整台形を呈する。撹乱は床面にも及び、過半は削平を受けている。深さは、東側 0.38 m、西側 0.43 mほどを測る。竈は残存していないが、北側壁の中央よりやや西側付近に焼土のまとまりが確認され、北壁に存在したと思われる。壁際が床面よりやや掘り込まれた状態であったが、明確に竈の掘り込みと断定するには至らず、規模、構造とも不明である。その他、周溝や柱穴などの付属施設は検出されていない。

遺物出土状況（第 57 図） 撹乱を激しく受けていたため、中央よりやや北寄りの東西に帯状に分布の中心がある。遺物はいずれも小破片で、土師器、須恵器が中心となる。特殊な遺物として、竈推定位置の前面から瓦塔の破片、奈良三彩が出土している。

出土遺物（第 133・134 図） 1～3は土師器甕で、いずれも長胴のもので、外面はタテハケ、内面はヨコハケ調整を施す口縁部資料である。1は、緩やかに外反する。4～6は須恵器甕で、4のみ内面の整形痕をナデ消している。7は奈良三彩の薬壺肩部破片である。第 171 図 D28 は、瓦塔の屋蓋部隅棟付近の破片である。表面の丸瓦は棒状粘土を貼付け表現し、平瓦は丸瓦と丸瓦の間のナデにより表現している。丸瓦はすべて剥落している。軒廻りは二軒で、地垂木と飛檐垂木を表現しているが、いずれの垂木も鋭利な工具によって削り出している。表面には白色土を塗る。

時　期　8世紀中葉

ＳＩ４（第 58 図）

位　置　X = 140、Y = 60 グリッド

主　軸　N－64°－W

遺構概要　調査区西側に位置し、北に SB2、北東に SI2、南に SB1 がある。遺構は耕作による撹乱によって大きく破壊を受け、遺構の半分以上は残存していない。規模は、南北 2.69 m、東西 3.18 mのやや長方形を呈する。深さは、北東側 0.41 m、南西側 0.38 m、北西側 0.36 m、南東側 0.38 mであった。住居の南隅に竈を設置した、いわゆるコーナー竈である。竈は石組竈と思われ、袖石は残存していなかったが、袖部にあたる部分に掘り込みが残存しており、袖石の掘り方と思われる。竈の掘り方は、東西 0.55 m、南北 0.82 m、深さ 0.15 mである。周溝や柱穴などの付属施設は検出されていない。

遺物出土状況（第 58 図） 撹乱により残存する部分がわずかなため、出土遺物も少ない。かろうじて撹乱を免れた竈付近に遺物の集中がみられるが、他は散在的である。土師器坏は遺構東側より出土し、竈周辺には土師器甕が2点みられる。中央よりやや西側から棒状鉄製品が2点出土している。

出土遺物（第 134 図） 1～3は土師器坏で、いずれも直線的な体部をもった小形の製品である。1・3の底部は回転糸切り未調整である。4・5は、口径の大きな甕で、体部から口縁にかけて広がる形態を呈する。第 191 図 28・29 は棒状の鉄製品で、同一個体の可能性があるが接合しない。用途は不明。

時　期　11 世紀前半代

ＳＩ５（第 59 図）

位　置　X = 130、Y = 70 グリッド

主　軸　N − 69° − W

遺構概要　調査区の西側に位置し、南東に SI26、SK25・26、西に SB1、東に SK32・33 などがある。規模は東西 3.08 m、南北 2.87 mの隅丸方形を呈する。深さは東側 0.46 m、西側 0.49 m、北側 0.42 m、南側 0.48 mを測る。

東壁の中央よりやや南側に竈を設置している。石組竈で、北側には１石、南側では２石の袖石が残存していた。煙道が屋外に延び、全長 1.07 m、幅 0.49 m、深さ 0.07 mの掘り込みをもつ。東壁の北側の一部を除き、周溝を巡らせている。周溝が途切れた部分には、壁に直交するように長さ 0.65 m、幅 0.12 mの溝状の掘り込みがみられたが、用途、性格は不明。

遺物出土状況（第 59 図）遺物は遺構内全体に広がって出土したが、北側壁寄りでは遺物のレベルが床よりかなり高く、流れ込みの遺物が多数を占めることがわかる。竈の脇には口縁部のみの資料ではあるが土師器甕が出土している。また、竈前面より中央付近からは、和釘および関をもち直角に屈曲する棒状鉄製品が床面付近から出土している。特筆すべきは、竈内より瓦塔の破片が出土している。右袖石付近に破片を押し込めたような状態で発見されたことから、竈廃絶直後に故意に瓦塔片を廃棄もしくは埋置したものである。

出土遺物（第 134 図）１・２は土師器甕の口縁部資料である。３・４は須恵器甕の胴部資料であり、３は内面をナデ成形しているが、青海波文が残る。第 170・171 図 27・29 は瓦塔屋蓋隅棟の破片資料。表面の丸瓦および隅棟は棒状粘土を貼付け表現し、平瓦は丸瓦と丸瓦の間のナデで表現する。軒廻りは二軒で、地垂木と飛檐垂木を表現するが、いずれの垂木も鋭利な工具により削り出している。表面には白色土を塗布する。SI3 より出土した資料と同一個体と判断される。

時　期　出土土器はわずかなもので、これらから時期を想定することは困難であるが、瓦塔屋蓋部を故意に竈内に廃棄していることから、相輪部部品を出土した SI2、屋蓋部を出土した SI3 と同時期と考えてよいと思われ、８世紀中葉と想定される。

ＳＩ６（第 60 ～ 63 図）

位　置　X = 110、Y = 90 グリッド。調査区中央、南側の緩やかな南傾斜面に位置し、SI26 と SI16 の間にある。

主　軸　炉の平面形から判断するとＮ − 5° − Ｅ。

遺構概要　南壁は撹乱を受け欠失する。現状では東西 5.71 m、南北現存値 6.13 mの楕円形で、調査時点では１軒分の竪穴とみなしたが、中央付近の石囲炉のほかに pit7 の周囲に石囲炉の一部が遺存すること、時期差のある土器の分布状況から、重複する２軒分の竪穴住居と考えておく。床面までの深さは東側 0.54 m、西側 0.51 m、北側 0.54 mを測る。床面にはとくに硬化面がない。周溝は明確ではないが、西壁側に断続的に存在する。ピットは 10 箇所あり、プランの切り合い関係を調査時点で把握することができなかったが、炉石が遺存する pit7 を中心とした pit1・3 ～ 6 の５本柱穴を主柱穴とするプラン（SI6A）と、中央の石囲炉に伴うプラン（SI6B）が想定できる。完掘状況によれば両者の床面はほぼ同じ深さであるが、SI6A の床面は炉石のレベルから推測すると本来 SI6B の床面よりも若干高かったことが推定でき、土器が掘り上がり面よりも高い位置にまとまっているのもその証左となる。土層断面図によれば、明確な切り合い関係が観察されていないものの、床下面とみられるロームブロックを多く含む４層が SI6A 側に偏在し、炉裏側に一部切り合いを示すようなラインがあるほか、北西の周溝が断続的なのも住居の重複に起因するのであろう。SI6A の炉石が２枚の炉石を残して不完全なのも SI6B に切られたためである。したがって覆土４層については掘り方の覆土ではなかったかと考えておく。SI6A のプランは、東壁から北壁に遺存し、西から南壁を欠失するが、柱穴配置から規模は東西４m、南北５m程度である。SI6B のプランは西壁が遺存し、北から東にかけての壁は明確ではないが、炉を中心とした５× ５m程度の範囲と思われる。柱穴は pit2・7・8 が

該当するものと考えるが、柱穴を全て検出できなかった可能性が高い。したがって主柱本数は定かではないものの、住居規模から４～５本と推定しておく。後述するようにSI6Aは井戸尻Ⅲ式期、SI6Bは曽利Ⅱ式期であり、SI6AよりもSI6Bが新しいことから、前者が後者に切られる状況が想定できる。SI6AとSI6Bは同一地点でわずかに位置をずらして重複するが、主軸方向はほぼ同一となっている。検出した各ピットの規模は、pit1= 直径0.58 m、深さ0.67 m、pit2= 径1.02 m× 0.64 m、深さ0.57 m、pit3= 直径0.48 m、深さ0.55 m、pit4 =直径0.61 m、深さ0.54 m、pit5= 径0.53 m × 0.42 m、深さ0.54 m、pit6 =直径0.58 m、深さ0.63 m、pit7= 径0.42 m × 0.37 m、深さ0.33m、pit8 =直径0.26 m、深さ0.51 m。SI6Bに伴う炉は、横長の棒状礫の側面を立てるようにして７個の礫を楕円形に並べた石囲炉で、径0.8 × 0.7 mの大きさである。正面にあたる礫は主軸方向と直交するように横向きに炉石を据え、正面観を意識した平面プランとなっている。炉の底面は４層下面であり、５層下面は炉の掘り方である。炉内には１の深鉢形土器が横位で出土し、底部が正面の炉石に接するように出土したことから、炉内に据えられていた可能性がある。SI6Aに伴う炉石はSI6Bよりも大きい平石を用い、SI6Bと違って平置きにする。炉石を平置きで楕円形か円形に配した石囲炉で、井戸尻式期から曽利Ⅰ式期の炉形態であろう。

遺物出土状況（第61～63図）出土土器には井戸尻Ⅲ式期と曽利Ⅱ式期の２時期がある。それらの出土状況をみると、前者は主に北東側、炉石北側に集中するほか、SI6B東側にかけて分散して出土し、後者は石囲炉南側にブロック状に集中して出土した。前者はSI6A、後者はSI6Bに伴い、分布域が区別されている。ただ、一部の土器は混在しているのは事実であり、そうした現象を説明することは難しいが、住居廃絶後に何らかの覆土の撹乱現象があったことを示すものと理解しておく。SI6Bの石囲炉内出土土器は生活時の原位置を留める可能性が高い。また覆土中ではあるが炉石南側から腕と脚部を一部欠く土偶が出土し、約40 m離れたSI29覆土出土の腕片と接合している。また炉の上部覆土中から顔面のない土偶頭部片が出土している。

出土遺物（第135～139図）１は井戸尻Ⅲ式で曽利Ⅰ式の様相をもつ円筒形深鉢。口縁部を無文、頸部を２段のヒダ状隆帯とし、交互刺突状沈線により蛇行隆線表現とする。隆帯の下側には連続円環文を沈線、刺突文で表現する。胴部は縦位沈線間に横位連続ヘラキザミを施文する。２は口縁部が内湾した円筒形深鉢。キザミをもつ垂下隆線とＸ字状隆線によるモチーフに縦位沈線を地文とする。３はキャリパー形の深鉢で、口縁部に連続円環文を貼付し、その下に２段の蛇行粘土紐を貼付する。胴部には粘土紐で垂下文、十字文等のモチーフを貼付し、地文を縦位櫛歯状条線とする。４は４単位の突起をもつ深鉢形土器で、頸部を無文とする。５も同様な突起をもつ深鉢で、曽利式期につながる内湾した無文口縁部の先駆例となる。６は１と同じ円筒形深鉢で、口縁部を無文とし、頸部文様帯はなく、胴部は横位数段に区切り、交互三叉状沈線を施文し、地文を刺突文とする。７も６と同じ胴部文様帯とする。11は円筒形深鉢で、口縁部は４単位のミミズク突起をもつ無文帯とする。胴部はキザミをもつＸ字文隆線文をモチーフとし、区画内を渦巻沈線文、三叉沈線文で埋める。９は大形円筒形深鉢で、口縁部は無文、頸部は１段の蛇行粘土紐、胴部は多段化した横位区画文内に楕円形文を連結し、内部に渦巻文、縦位沈線文とする。10は口縁部に重弧文をもつ長胴甕形土器で、頸部は斜格子文とする。11は重弧文土器の初現形態ともいえる褶曲文土器で、頸部を無文とする。12は獣面状突起で、渦巻文による眼、鼻、口をもつ。13は突起。14は口縁部無文、胴部は縦位櫛歯条線地文に蛇行隆線文を垂下する小形深鉢。15は６Ｂ炉内出土の縄文地文の紐線文深鉢で、口縁部無文、頸部は２条の蛇行隆線とする。胴部にはＵ字状に懸垂した押圧のある隆線文を貼付する。16は加曽利Ｅ式の小形深鉢で、頸部を無文とし、胴部は垂下沈線、蛇行沈線を施文し、縄文地文とする。17は無文の小形深鉢で、頸部、胴部に蛇行隆線文、竹管によるキザミを施文した垂下隆線文を貼付する。18は４単位の波状口縁をもつ小形深鉢で、胴部に竹管による２条１対の沈線文をもつ。19は直線的に開く深鉢形で、口縁部は無文、胴部は隆線文を垂下する無文地文で、一部に縄文帯を垂下する。17～19はいずれも地文を無文とする、いわゆる規範を逸脱した土器である。20は縄文地文の紐線文土器。21は胴部に竹管隆線文によるＸ字状把手を配した縄文地文の壺形土器で、他地域の影響を受けたモチーフとみられる。22は雨垂れ状の刺突文地文の紐

線文の小形深鉢。23 は口縁部無文の長胴形土器で、頸部は斜格子文とする。24 は長胴形またはＸ把手付深鉢の胴部で、３本単位の竹管隆線文で渦巻文を施文し、地文は縦位櫛歯条線とする。26・27 は無文口縁部、28・29 は無文鉢。30 は無文の浅鉢。31 ～ 38 は深鉢底部で、31・33 は縄文地文上に蛇行隆線文等を垂下した紐線文土器。39 は浅鉢底部、40 は浅鉢口縁部。第 167 図Ｄ１・２は土偶。Ｄ１は腕を横に伸ばして直立する高さ 21.5㎝の土偶で、右脚を欠く。顔面は丸く平坦で、目が下がり、口は小さく丸い刺突で、鼻下の人中線は２本線間に斜めの沈線を入れる。眉から耳にかけて沈線でキザミを入れ、耳には穴を貫通する。胸は丸く突出し、胴部正面には正中線が長く伸び、出臍となる。腰にはパンツ様の沈線文があり、背面の臀部から側面にかけても同種の文様を施文する。胴は板状で長く、臀部は腰が張り、脚は短く直立する。首には側面、背面に沈線で文様を描く。また腹面から側面、背面にかけて剣先状などの沈線文を刺青風に充填している。曽利Ⅱ式期の甲府盆地を代表する土偶である。Ｄ２は顔面無文の土偶頭部片で、頭部にも何の文様もない。第 168 図 D12 ～ 15 は土器片加工の土製円板。第 172 ～ 178 図のＳ１～９は打斧、S31 は磨斧、S39・40 は凹み石、S63 は石鏃。S85 は SI6A の炉石で、表面に摩耗した使用痕がある。

時　期　SI6A は井戸尻Ⅲ式期、SI6B は曽利Ⅱａ式期。

ＳＩ７（第 64・65 図）

位　置　X = 140、Y = 90 グリッド

主　軸　N － 26° － W

遺構概要　調査区の中央よりやや西側に位置し、東側に SI8・30 が隣接する。規模は、南西～北東 4.42 m、北西～南東 4.71 mで、方形を呈する。深さは、北東側 0.65 m、南東側 0.7 m、南西側 0.67 m、北西側 0.6 mである。遺構プランの対角線上に柱穴を４本配しており、それぞれの規模は、pit1 ＝直径 0.21 m、深さ 0.4 m、pit2 ＝径 0.25 m × 0.21 m、深さ 0.56 m、pit3 ＝径 0.26 m × 0.2 m、深さ 0.35 m、pit4 ＝直径 0.25 m、深さ 0.57 mである。北側の柱穴列よりやや内側に、径 0.42 m × 0.39 m、深さ 0.14 mの炉を配し、掘り込み中央寄りには枕石を配している。遺構の北西側半分ほどに幅 15cm ほどのわずかに掘り窪めた周溝を巡らせている。また、南東壁中央よりやや東側に土坑が確認された。径 0.82 m × 0.53 m、深さ 0.24 mの規模で、炉との位置関係から貯蔵穴と思われる。床面からは、建物構造材と思われる多くの炭化材および焼土が検出され、焼失した遺構である。

遺物出土状況（第 65 図）出土遺物はそれほど多くはないが、南東隅から有孔鉢が、北東隅付近にはＳ字甕がまとまって出土した。南壁付近からは環状鉄製品、煙管雁首が出土したが、後者は後世の混入で、前者が本遺構に伴うものか性格も含め不明である。

出土遺物（第 139 図）３～６はＳ字甕であり、３・４は肩部に横ハケを施している。７は単純口縁台付甕で、内外面ともハケ調整されている。８は有孔鉢で完形品。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ８（第 66 ～ 68 図）

位　置　X = 140、Y = 100 グリッド

主　軸　N － 54° － W

遺構概要　調査区の中央よりやや西側に位置し、SI30 を切る。南西に SI7、北東に SI28 が隣接する。規模は、北西～南東 6.17 m、南西～北東 5.56 mを測り、方形のプランを呈する。深さは、北東側 0.73 m、南東側 0.65 m、南西側 0.73 m、北西側 0.75 mと深い掘り込みをもつ。遺構プランの対角線上に柱穴を４本配しており、それぞれの規模は、pit1 ＝直径 0.26 m、深さ 0.72 m、pit2 ＝直径 0.26 m、深さ 0.7 m、pit3 ＝直径 0.21 m、深さ 0.6 m、pit4 ＝径 0.21 m × 0.26 m、深さ 0.7 mとなる。炉は、北西柱穴列のやや内側、北寄りに位置し、径 0.85 m × 0.81 mの方形の掘り込み内に、径 0.48 × 0.41 m、深さ 0.13 mほどの不整円形の掘り込みをしている。遺構の北隅および南東壁際に土坑があり、それぞれの規模は、径 0.99 m × 0.69 m、深さ 0.17 m、径 0.86

m × 0.66 m、深さ 0.3 mである。後者については、炉との位置関係から貯蔵穴と考えられるが、前者も同様な性格をもつ可能性もある。両土坑内からまとまった遺物は出土していない。床面からは、遺構の構造材と思われる多くの炭化材および焼土が発見され、SI7 同様に焼失遺構である。

遺物出土状況（第 68 図） 遺構の掘り込みが深く、多くの遺物が出土しているが、多くは小破片で、床面から浮いた状態で発見されている。本遺構に伴う遺物としては、北東壁際より出土したＳ字甕およびＳ字甕脚部がある。遺構中央付近より鉄製品が２点出土しているが、いずれも床面より 0.5 mほど浮いており、埋没過程において埋まったものである。

出土遺物（第 140 図） １は装飾器台の小破片で、工具で切り欠いた透孔が確認できる。２は有段口縁壺の口縁部で、内外面とも赤彩されている。３～５はＳ字甕で、３は小型品であるが、肩部に横ハケを施している。第 181 図 M12 は刀子の破片と思われる。M21 は角釘で後世の混入である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ９（第 69・70 図）

位　置　X = 100、Y = 100 グリッド

主　軸　N − 77° − W

遺構概要　調査区の南隅に位置し、遺構の南側は農道建設によって削平を受ける。北東に SI16・23、北西に SI6 がある。東西 4.53 m、南北現存値 3.76 mを測る隅丸方形を呈する。深さは、東側 0.64 m、南側 0.55 m、西側 0.56 m、北側 0.45 mとなる。遺構の対角線よりややずれるが、柱穴が４本確認され、pit1 ＝径 0.18 m × 0.15 m、深さ 0.6 m、pit2 ＝直径 0.16 m、深さ 0.61 m、pit3 ＝径 0.15 m × 0.14 m、深さ 0.63 m、pit4 ＝直径 0.19 m、深さ 0.69 mである。炉は、西側の柱穴列のやや内側に設置され、径 0.65 m × 0.6 m、深さ 0.18 mの掘り込みをもつ。また、東壁際に径 0.5 m × 0.46 m、深さ 0.46 mの掘り込みが確認され、炉の対辺に位置することから、貯蔵穴と思われる。

遺物出土状況（第 70 図） 遺物の総点数はそれほど多くはない。Ｓ字甕をはじめとする甕類は、遺構東側に多くみられ、壺類は北側から東側にかけて分布している。遺構中央よりやや北西において、手捏土器が出土した。

出土遺物（第 140 図） １～４は壺、５・６はＳ字甕、７は単純口縁甕、10 の内面にはススが付着することから鉢としたが、形態的には高坏の可能性もある。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１０（第 71・72 図）

位　置　X = 130、Y = 140 グリッド

主　軸　N − 30° − W

遺構概要　調査区の東寄りに位置し、北東に SI24、南西に SI14、南東に SI11･21 が隣接する。規模は、東西 3.87 m、南北 3.57 mと小形の不整隅丸方形を呈する。西側壁の一部をおよび東壁の一部を撹乱によって切られる。深さは、東側 0.21 m、南側 0.25 m、西側 0.15 m、北側 0.23 mである。対角上に４本の柱穴を配し、pit1 ＝直径 0.22 m、深さ 0.26 m、pit2 ＝直径 0.2 m、深さ 0.27 m、pit3 ＝径 0.17 m × 0.15 m、深さ 0.27 m、pit4 ＝径 0.23 m × 0.17 m、深さ 0.3 mである。炉は、東側の柱穴列の内側に位置し、径 0.54 m × 0.47 m、深さ 0.13 mの不整形である。遺構中央付の床面には、焼土がまとまってみられ、覆土中にも炭化物が多くみられたことから、焼失遺構であったと考えられる。

遺物出土状況（第 72 図） 遺構は小形で、掘り込みも浅く、残存状況は悪かったが、出土遺物は豊富である。遺構東側に、壺、Ｓ字甕が潰れたような状態で発見された。土製品として手捏土器、土製鈴も出土している。特筆すべきは、遺構の中央部と北側壁の中間の位置より炭化したご飯が、ござ目編みの広口籠の中に入れられた状態で発見されたことである。この炭化ご飯塊については、検出当初は炭化米の観察から籾などがなく

おにぎり状に固形している状態であることを確認していたが、籠に入った状態であるとの認識はできていなかった。籠は、調査終了後の整理作業段階に佐々木由香氏（パレオ・ラボ）より籠等の容器に入っている可能性があるとのご教示を受け、山梨文化財研究所の保存科学担当が処理中に発見したものである。調査時から、同資料は時期的にも希少な事例になると考えていたため、取り上げに際しては、まず炭化米が固形でみられた範囲を記録し、出来る限り現状のまま取上げられるよう表面に薬剤等を塗布するなど丁寧な処理をしたことで、今回の発見につながったといえる。なお同資料に関しては、第５章第７節で自然科学分析、第７章第５節で取上げおよび保存処理についての報告を別記した。

出土遺物（第 140･141 図） １は細かく磨かれた高坏、２～４は壺、５･６はＳ字甕で、肩部に横ハケをもつ。７～９は単純口縁の甕。第 168 図Ｄ６は土製鈴の破片、Ｄ９は手捏土器。その他、後世の混入になるが第 181 図Ｍ８の火打金が出土した。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１１（第 73 ～ 75 図）

位　置　X = 120、Y = 150 ～ 160 グリッド

主　軸　N － 71° － W

遺構概要　調査区東端に位置し、南側で SI12、西側で SI21 を南側で SK37 を切る。規模は、東西 4.67 m、南北 6.52 mの長方形を呈する。深さは東側 0.5 m、南側 0.58 m、西側 0.6 m、北側 0.59 mとなる。対角線上に４本の柱穴を配し、pit1 ＝径 0.29 m × 0.26 m、深さ 0.39 m、pit2 ＝径 0.25 m × 0.23 m、深さ 0.38 m、pit3 ＝直径 0.22 m、深さ 0.39 m、pit4 ＝直径 0.21 m、深さ 0.45 mである。炉は、東側の柱穴列線上の北寄りに確認され、径 0.61 m × 0.46 m、深さ 0.04 mほどの不整形を呈する。

遺物出土状況（第 75 図） 遺構内全体に遺物の分布がみられるが、南東隅付近にＳ字甕、壺、小形壺、有孔鉢などがまとまって出土している。

出土遺物（第 142 図） １・２は高坏で、丁寧にヘラミガキ調整されている。３～５は壺で、５は小形のものである。６～８は甕の胴部資料で、いずれも口縁部、底部を欠損する。９は有孔鉢である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１２（第 76 図）

位　置　X = 110、Y = 150 グリッド

主　軸　不明

遺構概要　調査区東端に位置し、北東を SI11 に切られる。南西に SI19・32 が隣接する。わずかではあるが土器のまとまりがあり、ピット、焼土範囲が確認されたことから遺構として認定したが、床の硬化面が認められたわけではなく、床面も削平を受けている可能性が高い。明確な掘り込みは確認されず、規模、形状等は不明である。やや不整配置ではあるが､柱穴は４本確認され､pit1 ＝直径 0.24 m､深さ 0.18 m､pit2 ＝径 0.47 m × 0.4 m、深さ 0.34 m、pit3 ＝径 0.75 m × 0.69 m、深さ 0.29 m、pit4 ＝直径 0.29 m、深さ 0.36 mとなる。焼土範囲は東側の柱穴列に近い位置に確認され、径 1.45 m × 0.78 mの不整形を呈している。掘り込みはほとんど確認することはできず、炉とは断定できない。

遺物出土状況（第 76 図） 小破片が点在しているに過ぎず、まとまりもみられない。

出土遺物（第 143 図） １は有段口縁壺の口縁部資料で、内面に櫛描波状文を施している。２は甕の頸部、３は台付甕の脚部資料である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１３（第 77 ～ 79 図）

位　置　X = 150、Y = 70 ～ 80 グリッド

主　軸　N－39°－W

遺構概要　調査区の北西端に位置し、南東側でSI31、SK35を切る。規模は、北西～南東5.43ｍ、南西～北東6.19ｍの隅丸方形を呈する。遺構の深さは、北東側0.3ｍ、南東側0.28ｍ、南西側0.45ｍ、北西側0.37ｍであった。対角線上に４本の柱穴を配し、pit1＝径0.87ｍ×0.76ｍ、深さ0.46ｍ、pit2＝径0.95ｍ×0.78ｍ、深さ0.75ｍ、北東壁と南東壁際には、0.05～0.08ｍほどの高まりをもち、いわゆるベッド状遺構といわれる施設が確認された。遺構の東隅および南隅には、貯蔵穴と思われる土坑が掘られていた。住居内土坑１＝径1.1ｍ×0.91ｍ、深さ0.41ｍ、住居内土坑２＝径0.73ｍ×0.63ｍ、深さ0.56ｍであり、いずれも底面は比較的平坦である。住居内土坑２の周辺は、床面より一段低く掘り窪められていた。炉は、北西側の柱穴列の内側のやや西寄りに確認され、径0.96ｍ×0.89ｍ、深さ0.15ｍを測る。

遺物出土状況（第79図）　遺構内からは多くの遺物が出土している。小形・広口壺は４点出土しているが、まとまりはもたず、北西壁際、中央付近、住居内土坑２の上段、南東側のベッド状遺構上より出土している。南東のベッド状遺構上出土土器は、正位で据え置かれていた。炉の西側には高坏、台付甕脚がみられた。
住居内土坑２の覆土上層からは、完形の台付甕が倒れたような状態で発見された。

出土遺物（第143図）　１・２は高坏で、１の脚部の穿孔は４ヶ所にみられる。３～８は壺で、３・４は広口、５・６は小形壺、７は折り返しの口縁を有する。９は有刻口縁の台付甕、10・11は台付甕脚部である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１４（第80～82図）

位　置　Ｘ＝120、Ｙ＝130グリッド。調査区東側に位置する。

主　軸　炉石の配石状況を勘案するとＮ－43°－Ｗ。

遺構概要　5.4ｍ×6.23ｍの不整円形で、主軸方向よりも交軸方向の幅が広い。ピットは13本程度存在するが、主柱穴はpit1～7のほか、炉裏にあたるpit3・4間のピットも該当する可能性があり、６本主柱もしくは７本主柱の柱穴配置を示す。それらのうちpit2はpit7の拡張形とみられる。周溝は出入口部を除き、幅約30㎝、深さ約15㎝の溝がほぼ全周する。Pit2・7付近では周溝を越えてプランが広がり、周溝外からも遺物が出土している。また南壁にかかるように炉石大の礫等が集まる集石があり、当初炉ではないかとして遺構番号を付けた経緯があるが、結果的には住居ではないとした。床面までの深さ（壁高）は東側0.39ｍ、南側0.27ｍ、西側0.34ｍ、北側0.37ｍ。柱穴規模は、pit1=径0.64ｍ×0.62ｍ、深さ0.54ｍ、pit2=径0.53ｍ×0.4ｍ、深さ0.74ｍ、pit3=径0.46ｍ×0.35ｍ、深さ0.62ｍ、pit4=径0.64ｍ×0.42ｍ、深さ0.68ｍ、pit5=径0.53ｍ×0.41ｍ、深さ0.61ｍ、pit6=径0.55ｍ×0.46ｍ、深さ0.39ｍ、pit7=径0.53ｍ×0.47ｍ、深さ0.33ｍ。

炉は石囲埋甕炉で、口縁部と胴部下半を欠く直径40㎝の深鉢胴部を転用した土器を正位埋設し、土器に接するように横長の礫７個を平置きにする。炉石は左右に３個ずつ、奥壁側に１個を配していることから、炉の向き、正面観を判断することができる。その炉石の配置に相似するように柱穴が配されている点、注意される。炉の底面までは約20㎝で、埋甕炉の覆土中位に焼土層が存在した。

遺物出土状況（第81・82図）　１の埋甕炉は住居構築・生活時を示す土器で、口縁部片は住居内に散在して出土した。また炉の直上および炉周辺の床面上から２・４・16・13・23等が出土したほか、住居中央付近の覆土中を中心として多数の土器が出土している。これらのうち２の深鉢は炉石上から出土し、16の小形深鉢は逆位で炉の脇から床面直上で出土した。

出土遺物（第144～146図）　１は炉体土器で、無文口縁部が内湾した深鉢形土器。胴部は綾杉沈線をもつ隆線文で人体文を４単位表現し、地文を三叉文、縦位沈線で埋める。把手が頸部に２箇所つくとみられるが、片方は欠失する。５はキャリパー形の小形深鉢で、平縁口縁からキザミをもつ４単位の垂下隆線を貼付する。胴部を無文とし、頸部の地文をヘラガキ縦位沈線とする。３も２と類似した器形で、４単位の波状口縁頂部に突起をもち、頸部にはキザミをもつ隆線文を貼付する。４・５はソロバン状底部をもつ深鉢で、５は縦位施文した縄文地文上にＪ字文を貼付する。６は４単位の波状口縁をもつ円筒形の深鉢形土器。波頂部からキ

ザミをもつ垂下隆線を貼付し、口縁部は無文、胴部は２段の横帯文とする。区画内は横長楕円文で、渦巻文、縦位条線をヘラガキする。７は大形の円筒形深鉢で、口縁部は無文平縁、胴部は２段の横長楕円区画文とし、区画内は渦巻文、縦位沈線文をヘラガキする。８は小形円筒土器でキザミ隆線文による区画内に玉抱き三叉文等を施文する。９はキャリパー形深鉢口縁部で、縦位に貼付した粘土紐により縦位沈線文的な効果を表している。10 は縦位沈線文を２段に施文した小形円筒形土器。11 は内湾した無文口縁部、１条の蛇行隆線文をもつ頸部、ヘラガキ縦位沈線文を地文とする胴部からなる小形深鉢で、胴部には粘土紐で綾杉状を表現した隆線が垂下する。12 は無文口縁をもつ台付深鉢で、頸部には１条の蛇行隆線を印刻表現し、胴部には縦位沈線をヘラガキする。13 は２段の段腹状の斜格子文の頸部をもつ深鉢で、胴部は縦位沈線とする。14 は胴部を櫛歯沈線による縦位沈線文とする深鉢で、頸部は１条の蛇行隆線文とする。15 は口縁部無文、胴部は縦位櫛歯条線文とする円筒土器。16 は円筒形小形土器で、頸部に三角押引文を２条施文し、胴部をヘラガキ縦位沈線文とする。17 は無文口縁、胴部縄文地文で J 字文をもつ。18 はキザミ隆線文を貼付した縄文地文の土器。19 も小形縄文地文土器。20 は口縁部に隆線による楕円区画をもつ小形深鉢で、胴部は縄文地文とする。21 は小形深鉢の無文口縁。22 はキザミ垂下隆線文をもつ小形深鉢で、刺突による弧状モチーフをもつ。23 ～ 25 は浅鉢底部、26 は浅鉢口縁部、27 はイノシシ状把手。第 168 図 D11 は切り込みをもつ楕円形の土器片錘で、裏面には紐が通る位置に溝を入れている。タカラガイ状土製品かもしれない。第 172 図 S10 ～ 14 は打製石斧だが、S11 は薄手で側面に細かな刃部が付けられていることから、横刃形石器とみられる。第 173 図 S29 は横刃形石器。S40 ～ 44 は凹み石。第 175 図 S53 は打ち欠き石錘。第 176 図 S64 は石鏃。

時　期　井戸尻Ⅲ式期を中心に曽利Ⅰａ式期の土器（11 ～ 14・17）を含む。炉周辺から出土したのは井戸尻Ⅲ式土器で、住居使用～廃絶期は井戸尻Ⅲ式期、土器廃棄は井戸尻Ⅲ式期から曽利Ⅰａ式期。

ＳＩ１５（第 83・84 図）

位　置　X = 100 ～ 110、Y = 140 グリッド

主　軸　N － 34° －W

遺構概要　調査区の南東隅付近に位置し、北東に SI19・32 が隣接する。規模は、北西～南東 4.79 m、南西～北東 4.34 mを測り、隅丸方形を呈するが、南西壁・南東隅が撹乱を受けている。深さは、北東側 0.38 m、南東 0.19 m、南西側 0.17 m、北西側 0.49 mである。対角線上に４本の柱穴が確認され、pit1 ＝径 0.55 m × 0.47 m、深さ 0.38 m、pit2 ＝径 0.56 m × 0.46 m、深さ 0.38 m、pit3 ＝径 0.61 m × 0.52 m、深さ 0.45 m、pit4 ＝径 0.56 m × 0.47 m、深さ 0.5 mである。炉は、北側の柱穴列より内側の東寄りに掘られていた。径 0.57 m × 0.51 m、深さ 0.1 mの隅丸方形の浅い掘り込み内に不整形の掘り込みをもつ。南東側には枕石を配していた。

遺物出土状況（第 84 図）　遺構の北東側に遺物分布の集中がみられるが、斜面下方の南東側の覆土残存状況が悪いことに起因するかもしれない。壺･甕を中心として出土し、いずれも小形の破片である。そのなかで、北側壁寄りには小形の鉢が出土している。

出土遺物（第 146 図）　１・２は壺で、前者は有段口縁壺である。３～ 11 は甕類で、３はＳ字甕、９・10 は有刻口縁のものである。12 は小形の鉢である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１６（第 85 ～ 87 図）

位　置　X = 110、Y = 110 グリッド。調査区南斜面にあり、SI6 北側に位置し、SI23 と重複する。住居を横断するように、３本の耕作溝によって床面付近まで撹乱されている。

主　軸　N － 3° － W。

遺構概要　東西 4.76 m、南北 5.54 mの不整楕円形で、南壁側を中心に幅約 20 ～ 40㎝、深さ約 10㎝の断続的な周溝をもつ。北側については SI23 との重複により欠失したとみられる。床面までの深さは東側で 0.39 m、南側で 0.19 m、西側で 0.43 m、北側で 0.33 m。柱穴は pit1 ～ 4 の４本、または SI23 の pit3 を加えた５本

とみられる。Pit1・4には柱痕が認められる。炉は奥壁寄りに位置し、SI23との重複および耕作溝のため炉石を失うが､SI23の地床炉と重複するようにして存在する。柱穴規模は､it1=径0.54ｍ×0.44ｍ､深さ0.54ｍ、pit2=径0.53ｍ×0.49ｍ、深さ0.38ｍ、pit3=径0.43ｍ×0.34ｍ、深さ0.52ｍ、pit4=直径0.49ｍ、深さ0.59ｍである。炉は径0.52ｍ×0.43ｍ、深さ６㎝の不整楕円形の掘り方を残すのみだが、本来は石囲炉と考えられる。

遺物出土状況（第86・87図）炉の南側、住居中央の覆土中位付近を中心に土器が集中的に出土した。

出土遺物（第147～149図）１は深鉢を押しつぶしたような器高の短い鉢状を呈した台付土器で、台部は欠損する。胴部はソロバン玉状となる。無文口縁、斜格子文の頸部、横Ｓ字文モチーフをもつ胴部を縦位櫛歯条線地文とする。２～４は無文口縁、幅広の頸部文様帯に竹管文を横位に重ねた土器である。２は頸部の屈折部に１条の蛇行粘土紐を貼付し、頸部文様帯以下は無文のようである。３は幅広の頸部を横位竹管文とし、一部にＸ字状の粘土紐を貼付し、胴部には縦位に縦位竹管条線文を施文する。４は頸部の屈折部に小さなＸ把手を貼付し、幅広の頸部文様帯に蛇行粘土紐を垂下する。５は口縁部に４単位の小突起をもつ縄文地文の深鉢形小形土器。６は頸部に小突起を４つもつ小形深鉢形土器で、胴部には竹管条線文をやや密に垂下し、縄文地文とする。７～９は縄文地文土器で、７・８は縄文のみ、９は頸部、胴部に粘土紐を貼付する。10は無文のハの字状口縁の長胴甕形土器で、頸部には斜格子文を施文する。11は３本セットの竹管隆線文施文後に竹管条線文を地文として施文した土器で、おそらくＸ把手甕形土器と推定される。12はＸ把手をもつ両耳鉢で、無節縄文地文とする。13・14は12同様に無文口縁部が立ち上がる鉢形土器で、胴部は縄文地文であり、両耳鉢の可能性もある。16は縄文地文土器で、蛇行沈線文を垂下する。16は小形のＸ把手土器だが、器高が低く１に似た台付土器の可能性がある。17・18は深鉢形の無文口縁。19は縄文地文深鉢で、口縁部に竹管刺突文を施文する。20～23は深鉢底部。24は口縁部にＳ字状粘土紐を貼付した縄文地文土器。25・26は４本単位の竹管隆線文をもつＸ把手甕か長胴甕の胴部片で、地文を櫛歯条線とし、同一個体とみられる。27は台付深鉢の小形土器で、竹管条線地文上に蛇行粘土紐を垂下する。第168図Ｄ４は土偶左脚。第174図S45は凹み石。

時　期　縄文地文土器（５～８･15･19･24)、横帯文土器（２～４）、縄文地文鉢（12～14)、台付深鉢（１・27）等からなる曽利Ⅱａ式期。

ＳＩ１７（第88・89図）

位　置　Ｘ＝130、Ｙ＝110～120グリッド

主　軸　Ｎ－48°－Ｗ

遺構概要　調査区の中央よりやや東側に位置し､北東にSI27､東にSI25､北西にSI18､西にSK17が隣接する。規模は、北西～南東5.44ｍ、南西～北東5.01ｍを測る隅丸方形のプランを呈する。深さは、北東側0.11ｍ、南東側0.13ｍ､南西側0.12ｍ､北西側0.12ｍである。柱穴は､対角線上に４本確認され､pit1＝径0.25ｍ×0.29ｍ、深さ0.51ｍ、pit2＝直径0.2ｍ、深さ0.6ｍ、pit3＝直径0.21ｍ、深さ0.46ｍ、pit4＝直径0.16ｍ、深さ0.45ｍである。炉は、西側柱穴列より壁際に確認され、径0.57ｍ×0.46ｍ、深さ0.06ｍを測る。

遺物出土状況（第89図）遺物は､遺構内全体に分布しているが､小破片が多く､総量はそれほど多くはない。

出土遺物（第150図）１は高坏脚部で､円形の穿孔が確認できるが､単位は不明。２・３は壺で､２は加飾壺。内面には櫛描波状文ががみられ、内外面ともに赤色塗彩されている。４・５は甕で、５は台付甕脚部。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１８（第90～92図）

位　置　Ｘ＝140、Ｙ＝110グリッド

主　軸　Ｎ－27°－Ｅ

遺構概要　調査区ほぼ中央に位置し、SK18・27と重複し、SK27を切る。規模は、北東～南西4.26ｍ、北

西～南東3.98 mの隅丸方形のプランを呈する。南東壁は撹乱を受け、残存しない。深さは、北東側0.08 m、南東側0.11 m、南西側0.13 m、北西側0.1 mと遺構の残存状況は良くない。対角線上に４本の柱穴が確認され、pit1 ＝直径0.19 m、深さ0.41 m、pit2 ＝径0.2 m× 0.18 m、深さ0.66 m、pit3 ＝直径0.14 m、深さ0.64 m、pit4 ＝径0.19 m× 0.17 m、深さ0.68 mである。北西の柱穴列の内側のほぼ中央に直径0.42 m、深さ0.04 mの炉が掘られていた。炉の北東側には、焼土の広がりが確認された。焼土は0.16 mほどの深さをもつ掘り込みの上層に確認されたが、この掘り込みの性格は不明。

遺物出土状況（第91･92図）遺構の残存状況が悪かったにもかかわらず、出土遺物は比較的豊富であった。Ｓ字甕を含む甕類が北東壁側にまとまって出土している。南側では上半を欠損するが手焙形土器が、南隅からは小形の鉢が出土してる。

出土遺物（第150･151図）１は高坏の身部。２･３は壺で、２は大形のものであるが、胴部以下を欠損する。４～７はＳ字甕で、いずれも頸部に横ハケを施す。８は甕、９～13は鉢で、９は小形、10は広口、11は口唇部に刻目をもつ。12は鉢で小形の鉢で内外面とも赤彩を施す。13は底部の大きい有孔鉢である。14は上半を欠損するが、手焙型土器である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ１９（第93・94図）

位　置　X = 110 ～ 120、Y = 140 グリッド。調査区東端に位置し、SI32と重複する。南北方向に走る耕作溝３本により、撹乱を受ける。

主　軸　炉石の配置から判断すると、Ｎ－ 24°－Ｅか。

遺構概要　南壁はSI32との重複で欠失するが、南北推定6.11 m、東西現存値5.43 mの円形と推定される。炉は礫を平置きした石囲炉で、完存する。調査の過程で掘り方面まで下げたため、完掘状況では炉が浮いたようになっているが、土層断面の３・５層は掘り方覆土であり、床面は３層上面である。周溝は東壁、北壁の一部に遺存するが、不明瞭である。柱穴は10本程度存在するが、炉を囲むpit3 ～ 7の５本が主柱穴かと思われるものの、その配置には歪みがあり、柱穴を全て検出できなかった可能性がある。掘り方面までの深さは東側で34㎝、南側で16㎝、西側で58㎝、北側で36㎝。ピット規模は、pit1= 直径0.24 m、深さ0.3 m、pit2= 径0.3 m× 0.22 m、深さ0.25 m、pit3 ＝直径0.45 m、深さ0.27 m、pit4= 径0.59 m× 0.53 m、深さ0.32 m、pit5= 径0.61 m× 0.4 m、深さ0.53 m、pit6= 直径0.46 m、深さ0.45 m、pit7= 径1.0 m× 0.82 m、深さ0.55 m、pit8= 径0.62 m× 0.57 m、深さ0.58 mである。

炉は６枚の礫を配した石囲炉で、正面に横長の大形礫を平置きし、左右にやや小形の礫を２個ずつ、奥壁側に１個の小形礫を平置きしたＤの字状の炉である。正面観を意識した平面形で、中期中葉的な炉形態を残している。炉の規模は、内径で42 × 40㎝、炉石を含めた外形で80 × 84㎝あり、深さ24㎝となる。

遺物出土状況（第94図）住居中央部の炉周辺に遺物分布があり、南側のSI32にかけて散在する。

出土遺物（第151図）１は破片から復元した図のため、全体像は不明な点があるが、頸部にあたる横位文様帯に隆線文でモチーフを描き、ヘラガキ沈線文で縦位沈線地文とし、その下は無文とする。２はソロバン玉状底部をもつ土器胴部で、縦位縄文を地文とする。３は頸部に振幅幅の大きい１条の蛇行隆線文を貼付し、胴部にヘラガキ縦位沈線文を地文として施文する。第174図S48は凹み石。

時　期　土器には井戸尻Ⅲ式期から曽利Ⅰａ式期があるが、炉石形態から井戸尻Ⅲ式期と考えたい。

ＳＩ２０（第95～97図）

位　置　X = 100 ～ 110、Y = 120 グリッド

主　軸　SI20　Ｎ－ 53°－Ｅ

遺構概要　調査区中央、南側に位置し、SI22とはほぼ重なり、南側でSK34・38をも切る。西にSI16、南西にSK14・15が隣接する。規模は、北西～南東3.95 m、南西～北東4.15 mほどの隅丸長方形を呈する。

深さは、北東側 0.43 m、南東側 0.3 m、南西側 0.24 m、北西側 0.42 mである。遺構内からは 7 本の pit が確認された。それぞれの規模は、pit1 ＝径 0.5 m × 0.41 m、深さ 0.18 m、pit2 ＝直径 0.39 m、深さ 0.22 m、pit3 ＝直径 0.26 m、深さ 0.24 m、pit4 ＝径 0.48 m × 0.36 m、深さ 0.21 m、pit5 ＝径 0.44 m × 0.38 m、深さ 0.34 m、pit6 ＝径 0.68 m × 0.47 m、深さ 0.26 m、pit7 ＝径 0.51 m × 0.46 m、深さ 0.42 mである。本遺構に伴う柱穴は、位置関係から pit1 ～ 3 および pit6 の南西側の深い掘り込みが相当すると考えられる。炉は、北西側の柱穴列より内側に位置し、径 0.68 m × 0.62 m、深さ 0.15 mである。南側には枕石を配している。

遺物出土状況（第 97 図） 遺物は遺構内全体に分布し、総量も比較的多い。北側では、甕類が潰れたような状態で何個体か出土した。また、胴部との接合関係はないが、S 字甕を含む台付甕の脚部が 6 点ほど出土している。高坏類は南側に分布のまとまりがみられる。

出土遺物（第 152・153 図） 1 ～ 4 は高坏であるが、身部と脚部の接合資料はない。5 ～ 12 は壺で、大形のものと小形もの（7 ～ 9）がみられる。甕類は豊富であるが、破片が多く口縁部資料を中心に図化、掲載した。S 字甕は 1 点のみ（13）のみにととまるが、脚部は 2 点（26・27）出土している。16 は刻目口縁を有する。その他、第 178 図 S86 の台石なども出土している。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２１（第 73 ～ 75 図）

位　置　X = 120、Y = 150 グリッド

主　軸　N − 72° − W

遺構概要　調査区の東端に位置し、遺構の西側の一部を除きそのほとんどを SI11 に切られる。北東に SI24、南に SI12 が隣接する。規模は、南北 4.67 m、東西現存値で 1.46 mの隅丸方形を呈するものと思われる。深さは、南西側 0.6 mである。北隅に径 0.63 m × 0.59 m、深さ 0.14 mの土坑が掘られ、位置から貯蔵穴の可能性もある。炉は、SI11 下層より発見され、遺構西寄りに掘られたものである。径 0.84 m × 0.49 m、深さ 0.09 mを測る、楕円形を呈する。柱穴の発見に努めたが、SI11 掘り方の調査においても発見することはできなかった。

遺物出土状況（第 75 図） 出土遺物はほとんどなく、わずかに高坏、甕が出土したに過ぎない。高坏は脚部を欠損するが、住居内土坑の上層より出土している。

出土遺物（第 153 図） 1 は高坏で、脚部を欠損する。２・３は甕で、小形のものと大形のものがある。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２２（第 95 ～ 97 図）

位　置　X = 100 ～ 110、Y = 120 グリッド

主　軸　不明

遺構概要　調査区の中央、南側に位置し、SI20 とはほぼ重なり、ほとんど残存しない。南側では SK34・38 を切る。西に SI16、南西に SK14・15 が隣接する。遺構のほとんどを SI20 によって切られており、西壁の一部が残存するに過ぎない。規模は、東西 4.7 mほどと推定されるが、南北は不明である。柱穴、炉ともに明らかにすることはできなかった。

遺物出土状況（第 97 図） 西側の残存した部分に遺物をわずかに確認できたのみである。

出土遺物（第 153 図） 1 は有刻口縁をもつ甕の口縁部資料である。

ＳＩ２３（第 85 ～ 87 図）

位　置　X = 110、Y = 110 グリッド

主　軸　不明

遺構概要　調査区の中央、南側に位置し、南側で SI16 を切る。Pit12・13 とも重複する。北側、南側壁とも耕作による撹乱によって残存せず、現存値で東西 2.32 m、南北 1.8 mほどで、形状不明である。いずれにせよ、

小形の遺構である。深さは北東側で0.53 mを測る。柱穴は明らかではないが、位置関係からpit3が本遺構に伴うものかもしれない。炉は、遺構の東寄りに掘られており、現存値径1.21 m×0.94 m、深さ0.13 mである。非常に小形の遺構であり、柱穴配置も明らかではないため、住居ではない可能性もある。

遺物出土状況（第86・87図）遺構も小形であり、出土遺物も僅かである。

出土遺物（第153図）１・２は壺で、１は小形の広口壺、２は底部資料であるが、上半を欠き形状は不明。３は有孔鉢である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２４（第98・99図）

位　置　X＝130、Y＝150グリッド

主　軸　N－63°－W

遺構概要　調査区の東端付近に位置し、南東にSI11･21、西にSI10が隣接する。規模は、東西4.8 m、南北4.21 mの隅丸方形のプランを呈する。深さは東側0.4 m、南側0.33 m、西側0.3 m、北側0.48 mである。対角線上に４本の柱穴を配し、pit1＝直径0.22 m、深さ0.38 m、pit2＝直径0.28 m、深さ0.3 m、pit3＝直径0.2 m、深さ0.3 m、pit4＝径0.29 m×0.25 m、深さ0.28 mである。炉は、東柱穴列の内側の北寄りに設けられており、径0.41 m×0.31 mの楕円形を呈し、深さ0.11 mであった。

遺物出土状況（第99図）遺物は中央の南北ライン付近に比較的分布のまとまりがみられる。

出土遺物（第153図）１～３は壺類で、１は小形の広口壺、３は口縁部を折り返している。４は有刻口縁の甕である。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２５（第100図）

位　置　X＝120～130、Y＝120グリッド

主　軸　N－61°－E

遺構概要　調査区の中央よりやや東側に位置し、東にSI14、SK4・5、西にSI17、北東にSX1、南にSK7・8・9が隣接する。規模は、東西4.25 m、南北4.62 mの隅丸方形プランを呈する。西壁は撹乱を受け、一部残存しない。深さは、東側0.36 m、南側0.25 m、西側0.2 m、北側0.27 mである。対角線上に柱穴を４本配し、pit1＝直径0.18 m、深さ0.52 m、pit2＝直径0.18 m、深さ0.33 m、pit3＝直径0.17 m、深さ0.45 m、pit4＝径0.2 m×0.16 m、深さ0.35 mである。炉は西側柱穴列の内側南寄りに設け、径0.5 m×0.42 mの不整円形を呈し、深さ0.12 mを測る。

遺物出土状況（第100図）遺物は遺構内全体に分布するが、遺構中央から東隅付近にかけて、土器が潰れたような状態で数個体発見されている。中央付近では、壺が据え置かれたような状態で発見されたが、確認された遺構の掘り込みが浅かったために上半部を欠損する。中央よりやや北側では、Ｓ字甕、広口壺が横倒しの状態で発見された。東隅付近からは、壺、台付甕、鉢などが出土している。

出土遺物（第154・155図）１～３は壺で、１は小形の広口壺、２・３は球胴の壺である。２は頸部に縄文を施文し、内面のみ赤彩されている。４～７はＳ字甕で、いずれも肩部に横ハケを施す。８・９は台付甕で、10も胴下半を欠損するが、同様に台付甕であると思われる。11・12は鉢で、直線的に外反する器高の低いもの（11）と、椀状に立ち上がるもの（12）がみられる。その他、第172図S15の打斧、第174図S46の凹石、第175図S54の磨石、第176図S65の石鏃なども混在していた。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２６（第101・102図）

位　置　X＝120、Y＝70グリッド。調査区南西側、南斜面にあり、SI6の西側に位置する。東壁にSK24（古

墳前期）が重複するほか、耕作溝などの撹乱が南西側に存在し、住居の正確なプランが掴めていない。

主　軸　N－23°－E。

遺構概要　4.56 m× 4.16 mの交軸方向に長い隅丸方形。床面までの深さは、東側で 26㎝、南側で 12㎝、北側で23㎝。炉は奥壁寄りに横長方形に近い石囲炉がある。4 本主柱の住居で、その配置も交軸方向にやや長い。主軸線上に埋甕をもつ。口縁部と胴下半を欠く胴部輪切り状の土器で、上下が明確ではない縄文地文の土器で細片化していたため、現場では上下関係を確認できなかった。周溝は不明瞭ながら、東壁から南壁にかけて幅約 35㎝、深さ 10 ～ 20㎝の溝があり、北側から西側にかけては断続的に分布する。床面に硬化面はない。

検出したピットは、pit1= 径 0.44 m × 0.36 m、深さ 0.54 m、pit2= 径 0.65 m × 0.48 m、深さ 0.59 m、pit3= 径 0.45 m × 0.38 m、深さ 0.48 m、pit4= 径 0.55 m × 0.45 m、深さ 0.5 mである。炉は北東隅の 1 石を欠くが、正面を 3 個の礫で「く」の字状とした方形石囲炉で、礫は平置きとする。規模は内径 42 × 45㎝、礫を含む外形は 70 × 75㎝、深さは礫から炉底までが 24㎝となる。

遺物出土状況（第 102 図）炉の北側に遺物が散在し、量は少ない。

出土遺物（第 155 図）1 は加曽利Ｅ式土器で、口縁部の渦巻き隆線文から 3 本の沈線を垂下し、縄文地文とする。また胴部区画内には蛇行沈線文を垂下する。縄文地文は垂下沈線施文後の充填施文のようである。2 は直立した無文口縁をもつ鉢で、縄文地文とする。3 は器形が不明ではあるが、鉢形か壷形であろう。4 は胴部を輪切りにして転用した埋甕で、文様は縄文地文のみであり、上下の向きが定かではない。図で下側とした割れ口には、意図的な磨り面が観察できる。第 173 図 S32･36 ～ 38 は磨斧。S32 は磨斧の刃部であるが、打斧に似た剥離面をもち、打製で整形したのち磨きを加えている。S36 は磨斧片とみられる破片。S37 は小形磨斧で両端を欠損する。

時　期　曽利Ⅱａ式期

ＳＩ２７（第 103・104 図）

位　置　X = 140、Y = 120 グリッド

主　軸　N－5°－E

遺構概要　調査区の中央よりやや東側に位置し、南西に SI17、西に SI18、北西に SI28 が隣接する。規模は、東西 5.42 m、南北 7.05 mの小判形のプランを呈する。深さは、東側 0.54 m、南側 0.56 m、西側 0.43 m、北側 0.48 mである。小判形の対角線上の壁寄りに 4 本の柱穴を配しており、pit1 ＝直径 0.58 m、深さ 0.53 m、pit2 ＝直径 0.58 m、深さ 0.44 m、pit3 ＝直径 0.71 m、深さ 0.59 m、pit4 ＝直径 0.8 m、深さ 0.52 mを測る。炉は、中央よりやや北側に位置し、0.58 m× 0.45 mの隅丸長方形を呈し、深さ 0.12 mを測る。

遺物出土状況（第 104 図）出土遺物はそれほど多くはなく、中央付近に分布のまとまりがみられる。甕類が多くを占め、高坏、器台なども見られる。

出土遺物（第 156 図）1 ・ 2 は高坏で、脚部の円孔は 4 ヶ所に配されている。3 ・ 4 は器台である。4 については、同様な形態を呈したものを釧とした報告例もあるが、底部を造りだし、口縁部が外反して面をなすことなどから、器台と判断した。5 ～ 9 は甕で、5 は有刻口縁のものであり、9 はやや小形である。その他、第 172 図 S16 の打斧、第 175 図 S55 の磨石や、第 181 図 M25 の煙管なども混在した。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２８（第 105 ～ 108 図）

位　置　X = 140 ～ 150、Y = 110 グリッド

主　軸　N－51°－W

遺構概要　調査区中央の北側に位置し、南東に SI27、南に SI18、南西に SI8･30 が隣接する。北東～南西 6.88 m、北西～南東 7.23 mの規模を測り、隅丸方形のプランを呈する。深さは、南東側 0.34 m、南西側 0.36 m、北西側 0.35 m、北東側 0.34 mである。南東壁の一部を除き、床面より一段高くなるベッド状遺構を巡らす。ベッ

ド状遺構と床の境界には、幅 0.15 m、床からの深さ 0.15 mほどの周溝を巡らせているが、南東側のベッド状遺構が構築されない部分は掘り残している。南東壁のベッド状遺構が途切れた部分には、南北 1.5 m、東西 0.76 m、深さ 0.2 mほどの方形の掘り込みが確認された。また、掘り込みの南西側には東西 0.62 m、南北 0.5 m、深さ 0.36 mの方形の掘り込みがされ、底部は円形を呈している。遺構内の位置関係から、貯蔵穴であろう。対角線上に 4 本の柱穴が配され、さらに北東柱穴列の中央には、柱穴が掘られていた。検出したピットは、pit1 ＝径 1.0 × 0.74 m、深さ 0.77 m、pit2 ＝直径 0.84 m、深さ 0.68 m、pit3 ＝直径 0.83 m、深さ 0.9 m、pit4 ＝径 0.95 m × 0.64 m、深さ 0.44 m、pit5 ＝径 0.94 m × 0.68 m、深さ 0.74 mである。炉は中央よりやや北側に偏し、径 1.29 m × 0.99 m、深さ 0.14 mの不整形を呈する。

遺物出土状況（第 106・108 図） 遺物は遺構内全体に分布し、ベッド状遺構からも多くの遺物が出土している。小形の鉢類は、東隅付近のベッド状遺構上にまとまりがみられる。

出土遺物（第 156 図） 1 ～ 4 は高坏であるが、いずれも破片資料である。5 ・ 6 は壺で、5 は加飾壺で内面に櫛描波状文を施し、内外面とも赤色塗彩されている。6 は有段口縁壺である。7 ～ 9 は甕で、8 は小形のものである。10 ～ 14 は鉢で、緩やかな屈曲をもって立ち上がるもの、直線的に立ち上がるものがある。15 ～ 19 は籠目土器で、粘土紐を籠状の編み物内側に押し付け、土器製作を行ったものである。19 はグリッド出土であるが、本遺構出土時と思われたため、ここに掲載した。その他、第 172 図 S17・18 の打斧が出土した。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ２９（第 109 ～ 111 図）

位　置　X = 150、Y = 90 グリッド。調査区北西側、緩やかな西向き斜面に立地する。

主　軸　N － 14° － E

遺構概要　径 6.25 m × 6.3 mの円形プランで、幅 30 ～ 60㎝、深さ 15 ～ 20㎝の周溝が全周する。周溝の内側に pit1 ～ 5 があり、それらを主柱とする 5 本柱穴の住居で、北側奥壁寄りに楕円形石囲炉をもつ。出入口部には周溝内側に縄文地文の紐線文土器の胴下半および口縁部の大半を欠く埋甕を正位に埋設する。火災住居で、床面直上にはほぼ全体的に炭化層が覆い（断面図 12 層）、板状などの大形炭化物が認められ、埋甕覆土にも焼土が覆土中位に堆積している状況が認められた。したがって住居焼失時には埋甕に蓋がなく、また埋甕内には空間部が存在したことになる。奥壁柱穴周辺からは河川砂を頸部まで充填した砂貯蔵土器、焼成粘土塊、両耳鉢、台石が床直または本来床直と考えられるレベルで出土し、土器作りの作業空間としての出土状況を示している点が大いに注目された。壁の高さは東側で 32㎝、南側で 34㎝、西側で 30㎝、北側で 25㎝を測る。ピットの規模は、pit1= 径 0.64 m × 0.5 m、深さ 0.79 m、pit2= 径 0.78 m × 0.61 m、深さ 0.6 m、pit3= 径 0.62 m × 0.51 m、深さ 0.71 m、pit4= 径 0.62 m × 0.59 m、深さ 0.61 m、pit5= 径 0.63 m × 0.54 m、深さ 0.71 m。炉は楕円形石囲炉で、正面と奥壁に 1 石、左右に 2 石の計 6 石を平置きに配している。礫はいずれも楕円形の平石で、正面と奥壁側の礫がわずかに大きい。深さは礫から炉底まで 30㎝を測るが、断面図の 4 層直下が炉底である。

遺物出土状況（第 110・111 図） 炉裏には奥壁柱穴との間に大小 2 段重ねの焼成粘土塊が出土した。断面図では床面からやや浮上しているが、炭化層直上から出土したことから、本来床面に存在した可能性がある。大きい粘土塊の底面には網代編みの圧痕が認められるが、籠の炭化材は未検出である。また奥壁柱穴を挟むように 7 ・ 8 の両耳鉢が正位で出土し、奥壁柱穴裏の周溝上にかかるようにして砂貯蔵土器が出土した。また右側空間壁寄りからは台石が出土し、表面には丸い被熱痕が残されていた。その他の土器類は覆土中位からの破片状態での出土事例が多い。石製品では埋甕右側の周溝寄りに斜めに立て掛けたように台石状の平板礫が出土したほか、左側空間からは覆土中ではあるが棒状角礫が出土している。

出土遺物（第 157 ～ 159 図） 1 は埋甕。縄文地文の紐線文土器で、頸部には 2 条の蛇行粘土紐を貼付する。2 は砂貯蔵土器で、完形品。頸部に 1 条の蛇行粘土紐、胴部に弧状懸垂文を貼付後、地文として縦位竹管文

を施文し、地文上に蛇行粘土紐を貼付する。内部は胴下半に鱗茎を煮沸した際のオコゲが付着する（砂、炭化鱗茎の分析は第５章第３節を参照）。３～５は縄文地文土器。６は竹管隆線による２本単位の渦巻文等を貼付し、地文を縄文地文とした深鉢形で、X 把手甕とみられる。７～ 10 は無文口縁が短く立ち上がる鉢形土器で、７～９は両耳把手をもつ。把手は X 字状で、７・８には把手面にも縄文を施文し、８・９には竹管押引文を加飾している。18 も９とよく類似している。11 は縄文のみの浅鉢。12 は重弧文土器口縁部、13 は無文口縁部でどちらも大形であり、X 把手甕または長胴甕であろう。14・15・19・20・22 は小形の縄文地文土器。16 は小形の加曽利Ｅ式土器。17 は重弧文土器口縁部で、口縁部に X 把手を２段付け、把手上部に突起をもつ。26 は縄文地文の長胴甕形で、モチーフとして竹管隆線をもつ。27 は縄文地文の紐線文土器片。第 169 図 D25・26 は焼成粘土塊。D26 の上に D25 がのるようにして出土した。D25 はいくつかの粘土塊をひとつに集めたような形態を呈し、網代痕はない。D26 も３つの大形粘土塊をひとまとめにした形で、表側には多数の指頭痕が放射状に付き、中央付近には小粘土塊が張り付けられている。また粘土紐が付着し、中には十文字に交差するものもある。ちょうど曽利Ⅱ式期の紐線文土器の粘土紐に類似する。裏側には網代痕が付着し、側面にも立ち上がりがある。粘土を入れた籠の圧痕とみられ、これらの粘土塊が籠に入れられた状態で被熱、焼成を受けたことがわかる。また網代痕中に指頭痕もあり、籠に入れる際に残された指頭痕と考えられる。第 168 図 D10 は高台付の手捏ね土器。第 168 図 D22 は匙形土製品と思われる土製品。柄と匙部を欠損する。第 172 図 S19 は打製石斧。第 173 図 S26 は石匙。刃部は剥離面のままとするが、細かな使用痕がある。第 174 図 S49 は凹み石。第 175 図 S56・57 は磨石。第 176 図 S66 は石鏃。第 178 図 S84 は棒状の角礫。自然石ではあるが、立石等の用途で搬入された礫とみられる。S87 は 33 × 30㎝の台石で、表面は被熱により細かな割れが入り、欠損部がある。また中央部には直径約 10㎝の円形の赤変部がある。裏面は被熱痕がなく、平坦面が台部として使用されたとみられ、複数のごく小さな凹みが周縁にあく。第 180 図 S89 は立石状の平石で、表面は平らで被熱し、被熱のためか細かなヒビが入っている。

時　期　曽利Ⅱａ式期。

ＳＩ３０（第 112 ～ 114 図）

位　置　X = 130 ～ 140、Y = 100 グリッド、調査区の中央付近に位置し、北側隅を SI8 に切られる。

主　軸　N － 27° － E

遺構概要　北東に SI28、東に SI18 が隣接する。規模は東西 7.3 m、南壁は耕作による撹乱により削平されているが南北現存長 7.6 mで、南北に長い長方形のプランを呈し、本遺跡内で最大規模を誇る。深さは、東側 0.3 m、南側 0.45 m、西側 0.42 m、北側 0.37 mである。北壁、南壁側には床面よりわずかに高まりがあり、ベッド状遺構であると確認された。南壁側のベッド状遺構は、東壁の南側まで延長されている。柱穴は、遺構の対角線上の床面に４本存在し、pit1 ＝径 1.04 m × 0.7 m、深さ 0.71 m、pit2 ＝径 1.13 m × 0.77 m、深さ 0.74 m、pit3 ＝径 1.15 m × 0.7 m、深さ 0.81 m、pit4 ＝径 1.13 m × 0.94 m、深さ 0.7 mである。炉は北側の柱穴列の内側、やや西寄りにあり、径 1.06 m × 0.72 mの不整楕円形を呈し、深さ 0.13 mである。

遺物出土状況（第 114 図）　遺構内からは多くの遺物が出土する。全体に分布するが、中央付近にまとまりがみられる。

出土遺物（第 160 図）　１～５は高坏である。６～ 12 は壺で、広口のもの（６）、小形のもの（７～９）、折り返し口縁のもの（10）などがみられる。13 ～ 20 は甕で、有刻口縁のもの（13）、単純口縁のもの（14 ～ 18）がある。21 は土師質の把手状の製品であるが、どのような器種に付けられたものなのかは不明。

時　期　古墳時代前期

ＳＩ３１（第 115・116 図）

位　置　X = 150、Y = 70 ～ 80 グリッド。調査区北西側、SI29 西側に位置する。

主　軸　N － 16° － W

遺構概要　SI13 に切られるが、ほぼ全形が遺存する。5.2 m × 5.5 mのわずかに幅がある円形で、南半に幅約 40㎝、深さ約 15㎝の周溝が巡る。ピットは５本程度あるが、主柱穴は４本または５本で、５本柱穴の場合、出入口側の主軸上に pit5 を配する逆五角形になるが、pit5 は柱穴とするにはやや浅い。炉は中央奥壁寄りに石囲炉が存在する。周溝内側、出入り口部に正位埋甕をもつ。床面までの深さは東側で 30㎝、南側で 28㎝、西側で 32㎝、北側で 32㎝。検出したピットは、pit1 ＝直径 0.49 m、深さ 0.63 m、pit2= 径 0.57 m × 0.55 m、深さ 0.73 m、pit3= 径 0.54 m × 0.52 m、深さ 0.46 m、pit4= 径 0.77 m × 0.66 m、深さ 0.77 m、pit5 ＝径 0.78 m × 0.67 m、深さ 0.39 mを測る。埋甕は出入口部に胴下半を欠いた縄文地文の深鉢を正位に埋設する。炉は正面側に２石、その他の辺には１石ずつの計５石を平置きした方形石囲炉で、炉石は完存する。正面側の２石はやや小ぶりの楕円形礫だが、側面、背面の礫は大形の横長礫を用いる。平置き楕円形から方形へと変遷する過渡的な炉形態といえる。深さは、礫から炉底まで 32㎝を測る。

遺物出土状況（第 116 図）遺物量は少ない。また埋甕を除くと、住居に伴うとみられる遺物はほとんどなく、多くが覆土中位からの出土である。

出土遺物（第 161 図）１は埋甕。口縁端部がわずかに直立する頸部屈曲した縄文地文深鉢形で、口縁部と頸部に１条の横位蛇行粘土紐を貼付し、胴部には３本セットの沈線文を垂下する。２は縄文地文の鉢形または頸部屈折した深鉢形土器。３は重弧文土器口縁部で、蛇行粘土紐を貼付する。４は胴部がソロバン玉状を呈した縄文地文の深鉢形。５は頸部屈曲した深鉢形で、胴部は丸く、縄文地文上に粘土紐でモチーフを描く紐線文土器。６は無文口縁部が短く直立した縄文地文の鉢形土器。７は重弧文土器口縁部。９は縦位条線地文の長胴甕形。９は撚糸文地文の深鉢胴部。第 168 図Ｄ７は無文の土鈴。半分を欠失する。第 174 図 S50 は凹み石。第 175 図 S58・60 は磨石。第 176 図 S67・68 は石鏃。第 179 図 S88 はやや大形の敲打による凹みをもつ礫。

時　期　曽利Ⅱａ式期。

ＳＩ３２（第 117 図）

位　置　X = 110 ～ 120、Y = 140 グリッド、調査区の南東隅付近に位置し、北側で SI19 を切る。南西に SI15 が隣接する。

主　軸　N － 23° － E

遺構概要　遺構の西壁は耕作による撹乱により残存しない。規模は、南北 5.46 m、東西現存値 4.77 mの隅丸方形を呈する。深さは、東側 0.28 m、南側 0.08 m、西側 0.17 m、北側 0.3 mである。耕作による撹乱は床面にも及び、西側では床より下方へ深く掘り込まれている。床面の残存部分は、半分ほどにしか満たない。西側の南北隅が削平によって残存しないが、柱穴は対角線上付近に４本確認された。ただし、北西側に位置する pit2 はやや外側へずれている。それぞれの規模は、pit1 ＝直径 0.27 m、深さ 0.24 m、pit2 ＝直径 0.24 m、深さ 0.3 m、pit3 ＝直径 0.33 m、深さ 0.34 m、pit4 ＝直径 0.24 m、深さ 0.22 mである。炉は、遺構の中央よりやや北側に掘られ、0.67 m × 0.44 m、深さ 0.1 mほどの東西に長い不整楕円形を呈している。

遺物出土状況（第 117 図）遺物の分布は遺構内全体に広がっていたが、覆土の残存状況が良好な斜面上方にあたる北側にまとまりがみられる。発見された遺物は、小破片がほとんどである。

出土遺物（第 161 図）１・２は高坏、３は有段口縁壺。４～６は甕で、口縁部および脚部の資料である。

時　期　古墳時代前期

第２節　掘立柱建物跡（ＳＢ）

ＳＢ１（第 118 ～ 121 図）

位　置　X = 130、Y = 60 グリッド。調査区西端の緩やかな南傾斜面にある。周囲は東西方向の耕作溝が並行に激しく入るため、耕作溝をすべて掘り下げた状態で柱穴配置を確認することができた。北側には 13

m離れてSB2が存在し、南北方向に２棟の建物が配置する。SB1と主軸線、建物幅（柱間）を同一とすることから、両者は計画的に構築されたセットとなる建物群で、建築時期も同時期と考えられる。さらに建物群東側にあるSI2・5、西側のSI3、やや離れて存在するSI1は同時期の竪穴と考えられ、とくにSI2・5は主軸方向がほぼ同一であることから、SB1・2の造営、運営に関わる集団の住居、管理施設と推測される。

主　軸　N－16°－E。

遺構概要　３間×３間の掘立柱建物で、２間×３間の母屋南面に１間分の庇が付属する。柱穴は14本存在し、一辺70～90㎝程度の方形の平面形を呈している。庇部分はpit1・10～12、母屋部分はpit2～9・13・14で、母屋部分のpit5・6・13・14間は須弥壇に相当し、4.5ｍ×４ｍ、深さ25～37㎝の範囲で方形の掘り込み地業がある。竪穴状の掘り方内に５層からなる暗褐色土、褐色土層を水平に版築状に重ねている。地盤を固めて安定させるための地盤改良であり、地形の傾斜を水平にするため、西側の低くなる部分にはさらに数層が重ねられている。

建物規模は柱穴心心で東西８ｍ 南北6.4～6.5ｍを測り、柱穴間は東西間が約2.7ｍ、南北間が2.3～2.4ｍ幅となる。各柱穴は段下げの後、半截、図化を行っているが、pit2～7・9～11・14では直径30㎝程度の明確な柱痕が存在した。柱痕内の覆土（柱痕覆土）は暗褐色土で締りが弱い。また柱痕外の覆土（埋め土）は褐色土、黒褐色土が互層をなして３～４層重なる版築状を呈している。柱穴はいずれも箱状の掘り方で、深さは60～85㎝程度を測る。底面には円形の柱当り痕をもつものがあるが（pit2・7・8・14）、断面の柱痕と当り痕の位置が一致しないものがある。柱穴覆土にはほとんど遺物を伴わないが、pit4からは埋め土内中心に古墳時代を中心とした土師器甕片等がやや多く出土した。土器片を含む土が埋め土に用いられたと考えておくが、耕作溝が柱穴覆土を切っていた可能性も大きい。

各柱穴の規模は、pit1=径0.95ｍ×0.81ｍ、深さ0.81ｍ、pit2=径0.88ｍ×0.83ｍ、深さ0.72ｍ、pit3=径1.08ｍ×0.7ｍ、深さ0.83ｍ、pit4=径1.04ｍ×0.84ｍ、深さ0.75ｍ、pit5=径1.0ｍ×0.81ｍ、深さ0.64ｍ、pit6=径0.88ｍ×0.7ｍ、深さ0.57ｍ、pit7=径1.05ｍ×0.78ｍ、深さ0.79ｍ、pit8=径0.97ｍ×0.65ｍ、深さ0.6ｍ、pit9＝径0.9ｍ×0.64ｍ、深さ0.7ｍ、pit10=径0.81ｍ×0.58ｍ、深さ0.58ｍ、pit11=径0.77ｍ×0.72ｍ 、深さ0.51ｍ、pit12=径0.81ｍ×0.73ｍ、深さ0.49ｍ、pit13=径0.92ｍ×0.85ｍ、深さ0.62ｍ、pit14=径0.98ｍ×0.95ｍ、深さ0.66ｍである。

遺物出土状況（第119・120図）pit4でやや多くの土器片が出土したほか、pit8・10・13等で少量の破片が出土した。また掘り込み地業内からも少量の土器片が出土しているが、耕作溝が多数入っていたため、それらの撹乱に伴うものであった可能性が高い。建物跡周辺では耕作溝等の撹乱中や遺構外から土器や瓦塔片が出土し、瓦塔が本来この建物跡に伴って祀られていた可能性が考えられる。

出土遺物（第162図）pit4の１～６は土師器甕で、１は胴部球状を呈し、外面にはハケメをもつ。３・４は口縁部片、５は丸底を呈した甕底部。６は台付甕の脚部片。時期は古墳中期であるが、３については奈良時代の可能性もある。

時　期　直接建物の時期を示唆する遺物は伴っていないが、建物構造、周辺のSI1・2・5の時期から奈良時代、８世紀中葉と推定しておく。建物の性格としては仏堂と考えられ、須弥壇に当たる位置に地業が行われていることから、信仰の対象物が祀られていたものと思われる。また建物構造としては庇付きでSB2よりも大きいことから、中心的な建物とみられる。

ＳＢ２（第118・122図）

位　置　X＝150、Y＝60～70グリッド。調査区西北隅、SB1の北側に位置する。SB1とは建物幅、主軸方向が一致し、セットとなる建物群であり、SB1とは約13ｍ離れている。

主　軸　N－16°－E。

遺構概要　東西３間×南北２間の側柱建物で、建物規模は柱穴心心で東西8.2ｍ 南北4.5ｍを測る。柱穴は10本からなり、各柱穴の平面形は方形を呈し、柱間は東西方向で約2.5ｍ～2.8ｍ、南北約2.1ｍ～2.4ｍと

なる。各柱穴の幅、深さはSB1よりもひとまわり大きい。各柱穴の断面形は箱状で、断面に明瞭な柱痕が確認されたのはpit1～3・5のみで、他は柱痕状ではあるが不明瞭であった。柱痕の幅はpit5では40㎝程度あり、SB1と比較すると太いものがある。

柱穴の規模は、pit1=径1.12 m×0.99 m、深さ0.68 m、pit2=径0.98 m×0.95 m、深さ0.76 m、pit3=径1.06 m×0.93 m、深さ0.75 m、pit4=径1.04 m×1.01 m、深さ0.75 m、pit5=径1.13 m×1.01 m、深さ0.67 m、pit6=径0.96 m×0.92 m、深さ0.78 m、pit7=径0.89 m×0.87 m、深さ0.67 m、pit8=径1.22 m×0.88 m、深さ0.54 m、pit9=径1.2 m×1.18 m、深さ0.63 m、pit10=径1.06 m×0.98 m、深さ0.65 mを測った。

遺物出土状況（第122図）pit2上層に内外面放射状暗文をもつ坏片が出土したほか、pit1などで少量の遺物が伴っている。

出土遺物（第162図）pit2の1は土師器坏。内外面に放射状暗文をもつ甲斐型坏の初期形態で、8世紀中葉から第3四半期に該当する。

時　期　8世紀中葉か。SB1と比較すると建物構造は庇がないものの、SB1の母屋部分とSB2の平面図は完全に重なり、全く同一の仕様、寸法によって建築されたものであることがわかる。したがってSB1を集落内寺院としての中心的な仏堂（本堂）とするならば、SB2は講堂的な建物ではないだろうか。ただ、本遺跡で検出された竪穴数は少なく、千葉県方面でみられるような大規模集落中にある村落内寺院とは存在意義が異なるものと思われる。御坂山塊に連なる山裾に立地し、周囲に大規模集落を伴わないことから、当初から寺院建立を目的に選地された山林寺院の一種であり、周囲の竪穴は寺院に関連した居住施設とみておきたい。建物群の向きが中道往還を意識したように配置する点にも注意すべきであるが、建物が官衙建築にも匹敵する本格的な建築構造であることから、集落レベルで造られたものではなく、国衙レベルで造られたものではなかったろうか。

ＳＢ３（第118・121図）

位　置　X=140、Y=70～80グリッド。調査区北西側、SB2、SI2の西側に位置する。

主　軸　N－22°－E

遺構概要　東西1間×南北2間の6本柱穴からなる掘立柱建物跡で、主軸方向を南北に向けている。SB1・2の建物群の中心を通る主軸線とほぼ平行する。建物規模は柱穴の心心で東西2.3 m 南北6.5～6.6 mとなる。各柱穴の平面形は円形で、断面は筒状、もしくはコップ状を呈し、断面観察ではpit2・4・5に柱痕状の痕跡が認められた。ただ埋め土部分の覆土にはSB1･2のような版築状の層位はない。柱穴間距離は東西2.3 m、南北でpit1-2間およびpit4-5間で2.8 m、pit5-6間およびpit2-3間で3.7～3.8 mと南北方向の柱間に長さの違いがある。各柱穴の規模は、pit1=径0.60 m×0.57 m、深さ0.57 m、pit2=径0.61 m×0.53 m、深さ0.61 m、pit3=径0.57 m×0.52 m、深さ0.49 m、pit4=径0.63 m×0.51 m、深さ0.59 m、pit5=径0.74 m×0.51 m、深さ0.64 m、pit6=径0.61 m×0.55 m、深さ0.43 mである。

遺物出土状況（第121図）わずかにpit5内に土師器の甕片を伴う。

時　期　建物の構築時期を示す遺物はない。柱穴の平面形の違いからSB1・2とは同時期ではなく、調査時の印象では近世以降の可能性が高いと推測する。ただし建物の軸線がSB1・2に似ているため、建物群との関係も完全に否定することはできない。

第3節　土坑・ピット（SK・Pit）

B区では土坑37基、ピット13基を検出した。但し、耕作による撹乱との区別や、遺物が伴わず時期の位置づけが困難なものが多くあった。検出した遺構の位置・規模・主軸方向・出土遺物等については表12にまとめ、ここでは主に遺物が出土している縄文時代・古墳時代の遺構とした土坑について記しておく。

ＳＫ２（第 123 図）

位　置　X = 145、Y = 77 グリッドに位置する。調査区北西側、SB3 と SI2 の間に位置する。

主　軸　N − 39° − E

遺構概要　周辺の撹乱の影響もあったが、形状はやや不整形の隅丸方形を呈し、1.23 × 0.98 m、深さ 0.48 mを測った。内部からは礫が出土し、覆土中には炭化物を含む層や焼土層が確認できた。縄文時代の出土遺物があることから、屋外炉などである可能性が考えられる。

出土遺物（第 162 図）１は重弧文土器で、胴部は縦位条線地文上に粘土紐を貼付する。２は木葉痕をもつ浅鉢底部。３は縄文地文の深鉢形底部。４は木葉痕をもつ縦位櫛歯条線地文の深鉢形底部。

ＳＫ３（第 50・53・54 図）

位　置　X = 95、Y = 127 グリッド、SI1 の一部で、北西隅に位置する。

主　軸　N − 39° − E

遺構概要　平面形は不整楕円形で、径 1.22 × 0.8 m、SI1 床面からの深さは 0.25 を測る。遺構内施設と考えられ、貯蔵穴もしくは灰捨て場等であった可能性が考えられる。その他、詳細は SI1 を参照されたい。

ＳＫ１７（第 125 図）

位　置　X = 132、Y = 112 グリッドに位置する。北側に SI18・30、東側に SI17 があり、遺構の東側で Pit8 と重複していたが、重複関係は明確ではない。主軸はＮ − 30° − Ｅとしたが、明確ではない。

遺構概要　平面形は不整形で、径 2.59 m × 2.21 m、深さ 0.38 mを測る。特徴としては、遺構中央の底に粘土の堆積が確認され、覆土には炭化物や焼土粒を含んでいたことで、屋外炉等の施設の痕跡と考えられる。

遺物出土状況　遺物は粘土の周囲からの出土が顕著で、おもに古墳時代前期の遺物が散在していた。

出土遺物（第 163 図）１・２は高坏である。３は蓋で内外面にハケメとナデ調整が施されている。４は甕で口唇部は細く尖るように外湾している。５～７は台付甕の脚部、８は鉢である。

時　期　古墳時代前期

ＳＫ１８（第 90 ～ 92 図）

位　置　X = 139、Y = 116 グリッドに位置し、SI18・SK27 と重複し、SK27 を壊している。

主　軸　N − 39° − E

遺構概要　SI18･SK27 と重複しており、遺構範囲や平面形等は明確ではないが、径 2.12 × 1.32 mと推定し、深さは 0.19 mである。覆土には炭化物や焼土が僅かに混在しているが、屋外炉等の施設よりも廃棄土坑などの用途が考えられる。

遺物出土状況（第 92 図）破片資料が大半であるが、器種のバラエティは多い。なお覆土中には縄文土器も混在したが、下層の遺構に包含されていたものと推定する。

出土遺物（第 163 図）１は土師器高坏である。２は土師器壺の口縁部、３は丸胴の土師器壺、４・５は土師器甕、６・７は台付甕、８～ 11 は土師器鉢である。

時　期　古墳時代前期

ＳＫ２４（第 101・102 図）

位　置　X = 123、Y = 76 グリッドに位置し、SI26 と重複する。

主　軸　N − 22° − E

遺構概要　縄文時代の SI26 の東壁に重複し、古墳時代前期の遺物が分布する範囲を遺構とした。SI26 との重複部分については明確ではないが、確認した範囲では径 2.79 × 1.89 m、深さ 0.31 mを測る。

出土遺物（第 164 図）Ｓ字状口縁台付甕６点を図化した。いずれも外面をハケメ、内面をナデ調整している。

時　期　古墳時代前期

ＳＫ２７（第 90 ～ 92 図）

位　置　X = 139、Y = 116 グリッドに位置し、SI18、SK18 に壊されている。

主　軸　N － 60° － E

遺構概要　縄文時代の土坑で、SI18、SK18 との重複で遺構の上面は撹乱されており、確認した範囲では径 2.25 × 1.26 m、深さ 0.15 mを測る。

出土遺物（第 164 図）縄文土器１点を図化した。曽利Ⅰ式期の長胴甕形土器で、口縁部は無文、胴部には 4 本単位の隆線文貼付後、竹管条線による地文を施している。

時　期　曽利Ⅰ式期

ＳＫ３７（第 73 ～ 75 図）

位　置　X = 120、Y = 163 グリッド、調査区東端に位置し、SI11 に切られている。

遺構概要　SI11 の東壁より縄文土器が出土したことから、調査区を一部拡張して確認した遺構である。試掘調査の際、既に同位置で住居跡（SI11）と縄文土器の出土が確認されていた（試掘 14Tr）。これが今回出土した遺物とも接合したため、同遺構出土遺物として掲載した（第 165 図１）。さらに遺構が東側に広がり住居跡になる可能性も考えたが、確認範囲では柱穴等は確認できず、さらに調査区の東側も道路で削平されているため、遺構範囲を明確にするまで至らなかった。

出土遺物（第 165 図）１は褶曲文土器で、丸く内湾したキャリパー形口縁部をもち、頸部は無文とし、頸部屈曲部には２条の粘土紐間に蛇行粘土紐を施文する。胴部は縦位粘土紐を連続し、曽利式の縦位条線文地文の先駆けとみられる。２は丸く内湾した無文口縁部をもち、胴部は縦位ヘラガキ沈線文を地文とし、粘土紐による綾杉状矢羽文を貼付する。胴部文様帯下部は横位ヘラガキ沈線文を施文し、胴部文様帯を区切っている。

時　期　曽利Ⅰａ式期

ＳＫ３８（第 95 ～ 97 図）

位　置　X = 108、Y = 124 グリッドに位置し、重複する SI20･22 に切られている。

遺構概要　遺構範囲は明確ではなかったが、重複する SI20･22 は古墳時代前期の遺構で、同遺構の上の大半を削平していたと考えられる。出土遺物はいずれも小片で２点を図化した。その分布状況から住居跡の可能性も考えられたが、同遺構に位置づけられるような柱穴・炉の痕跡は確認できず、上層遺構の床面構築の際に混入したものと推定した。

出土遺物（第 165 図）１は長胴甕形の頸部で、斜行文帯をもつ。２は縦位条線地文の紐線文土器。

時　期　曽利Ⅱ式期

第４節　性格不明遺構（ＳＸ）

ＳＸ１（第 129 図）

位　置　X = 130、Y = 136 グリッドに位置する。SI14、SK5 の北側に位置する。

遺構概要　平面形はやや不整の隅丸方形を呈し、2.68 × 2.35 m、深さ 0.38 mを測る。一部耕作の撹乱に壊されていたが、ほぼ均一に掘削された遺構である。覆土中からは土師器等が出土したが、いずれもの小片であり、遺構の性格・時期ともに不明である。

ＳＸ２（第 129 図）

位　置　X = 169、Y = 108 グリッド、調査区北西隅に位置する。平面形は不整方形で 2.45 × 2.20 m、深さ 0.13 mを測る。

遺構概要　調査区北西側、尾根のピークから北側へ傾斜しはじめる場所に位置する。調査前には竹藪であったため、根による撹乱が著しく、この周辺で他の遺構は確認できなかった。古墳時代前期の遺物１点を図化したが、上層からの出土である。その他、縄文土器片なども混在しており、耕作痕の可能性が高い。

ＳＸ３（第 129 図）

位　置　X = 139、Y = 147 グリッドに位置し、南側には SI10、南東側に SI24 がある。

遺構概要　遺構西側は、調査を北から南へ縦走する根切り溝に壊されている。遺存する東側の形状は方形の竪穴住居状で、隣接する SI10 と同等の規模の遺構である可能性も考えたが、断面観察から南北の根切り溝が一部拡張したとも考えられ、明確ではない。出土遺物はなかった。

第５節　畝・耕作痕

Ｂ区では大半が耕作地として利用されていたため、耕作に伴ってできた掘削痕が遺構の検出・記録の障害となった。これらの溝状の掘削痕は、通常は撹乱として扱うため、特段記録などを残さない性格のものである。しかし今回は調査区全域に同様の痕跡があり、同地域における土地の利用性についての記録ともいえるため、第 130 図に平面図、第 131 図に部分的ではあるが、断面実測図を掲載した。

東西方向の畝状の掘削痕は深さ約 0.16 ～ 0.30 ｍであり、根菜類の耕作によるものである。南北方向には畑地境と竹根の進入を防ぐためにあけられた根切り溝が走り、最も深い調査区東側の溝では約 1.02 ｍを測る。また SI30 の南側の耕作痕が調査区内で最も著しく入っており、遺構確認面はほとんど撹乱されていた。

第６節　遺構外出土遺物

縄文土器・石器（第 165・172 ～ 180 図）

１は加曽利Ｅ式土器口縁部。２は頸部に幅広の横位竹管文をもち、縦位に蛇行粘土紐を貼付する小形深鉢で、頸部文様帯以下は無文とする。３も幅広の頸部横位竹管文帯をもつ小形深鉢で、口縁部は無文とする。口縁部と頸部間のほか、頸部と胴部間にも屈曲部をもち、頸部には部分的にＸ字状隆線文を貼付する。胴部は縦位竹管文地文で、２本セットのＪ字文をモチーフとする。４はＸ把手甕の可能性のある大形土器で、４本セットの竹管隆線文をモチーフとし、地文を縦位櫛歯条線で埋める。５は口縁部に竹管刺突文をもつ深鉢で、縄文地文とみられる。６は加曽利Ｅ式土器。７は中期前葉の可能性のある胴部片で、竹管文による区画内に斜格子文を施文する。８～ 10 は縄文前期初頭の深鉢片で、９は櫛歯条線による斜格子文、９は打越式とみられる貝殻復縁による刺突文をもつ。11 は刺突文下部に櫛歯条線で斜格子文をもつ。11 は後期、加曽利Ｂ式土器の精製深鉢。第 168 図Ｄ５は表土剥ぎ中に出土した土偶で、両腕を欠く上半身。顔面は平坦、無文で、耳朶に貫通孔があり、後頭部にも横位に貫通した孔がある。胴部正面は胸が欠け、正中線がある。側面から背面にかけて２本セットのＶ字状沈線を施文し、背中には十字沈線文がある。SI6 のＤ１と比較すると、頭部輪郭や形態、耳朶に貫通孔をもつ点が共通する。顔面表現がない点については、SI6 のＤ２と類似する。時期は曽利Ⅱ式期。第 168 図 D16 ～ 20 は土器片加工の土製円板。第 172 図 D20 ～ 25 は打製石斧。第 173 図 S27・28 は石匙、S30 は横刃形石器。S34・35 は磨製石斧。S51・52 は凹み石。S52 は直方体を呈した砥石状の形態で、凹み面はごく浅い。

S59・61 は磨石で、S61 には表面にごく浅い敲打痕がある。S69 ～ 71 は石鏃。S72 は石錐。第 180 図 S90 ～ 93 は碁石状の小円礫。S73 ～ 76 は尖頭器。S73 は先端と基部の一部を欠く左右非対称の柳葉形尖頭器。両面加工で、打点幅はやや広く、断面カマボコ状となる。草創期と思われるが、石槍等の縄文石器の可能性もある。S74 は完存する木葉形尖頭器で、最大幅が中央付近にある。先端側は直線的な側縁、基部側は丸味のある側縁となり、先端はより鋭角となる。S75 は完存する木葉形尖頭器で、最大幅が基部側に寄り、側縁

は直線的で、菱形を呈する。剥離には粗大なものと中軸まで達しない短いものがあり、裏面には素材面が残る。S76 は基部側を欠損するが、全体に丸味をもつ木葉形で、最大幅は中央付近にある。先端はやや丸みを持って尖り、剥離は全体にやや粗大である。第 177 図 S77 ～ 80・83 は使用痕のある黒曜石剥片で、S77・83 は大形品。S81・82 は黒曜石の石核。

土師器・須恵器・土製品（第 166・168・171 図）

第 166 図 12・13 は土師器高坏である。12 は坏部は内面黒色、脚部の穿孔は３～４か所と思われる。13 は高坏の坏部のみで、14 の小型壺、15 の広口壺は内外面に赤彩が施されている。16 は壺底部、17 は壺口縁部で棒状貼付文がある。18 ～ 20 は甕、21 はＳ字甕の脚部、22 は台付甕である。23 は手焙土器の一部、24 は須恵器蓋である。第 168 図 D24 は紡錘車。

第 171 図 D32 ～ 42 は瓦塔片。D[32 ～ 36 は土師質で、SI3・5 から出土したものと同様に瓦や垂木を表現する。D37 ～ 40 は水煙で、須恵質。D37・40 には装飾を留めるためとも思われる孔をもつ。D38・39、板状の D42 は須恵質で、SI2 で出土したものと同様に瓦塔の一部と考えられる。また D41 は須恵質で、水煙下に設置された伏鉢と推定しておく。

金属製品（第 181・182 図）

第 181 図Ｍ２～４は古銭で、SI18 に混在したＭ１を含めすべて寛永通宝である。Ｍ５・６は硬貨で、Ｍ５は半銭、Ｍ６は一銭である。Ｍ７はキセルの雁首を潰した雁首銭である。Ｍ９～ 11 は火打ち金で、SI10 に混在したＭ８を含め４点出土している。Ｍ８～ 10 は同形と考えられ、両端から蕨手状の摘みがつく。他、M13 は刀子、M22 は角釘、M24 はキセルの吸口である。M34 は板状鉄製品で、X 線写真では５か所の穿孔とその一部に釘状の留め金状がみられる。M35 は鉄滓。

陶磁器（第 182 図）

Ｂ区内では明確に中・近世に比定できる遺構は確認できなかった。しかし、竪穴住居等に混在したものを含め、小片ではあるが 14 世紀から 19 世紀に比定する陶磁器類が出土している。Ａ区では同時期の遺構・遺物を検出しているため、同じ台地上から出土した関連資料として報告する。なお、陶磁器類の時期については、１世紀を３区分する場合は前葉・中葉・後葉、２分割する場合は前半・後半と示しておく。

第 182 図１～ 15 は磁器である。１・２は小片であるが貿易陶磁であり、１は 14 世紀の龍泉窯所産の碗、２は 16 世紀末～ 17 世紀前葉の漳州窯所産の磁器皿である。３～ 14 は肥前窯所産の磁器である。３は 18 世紀後半の猪口、４･５は 18 世紀の仏花器である。６は 18 世紀の碗であるが、焼成不良で染付の発色が悪く、濁りがみられる。７～９は 18 世紀後葉～ 19 世紀初の筒形碗、10 は 18 世紀後葉～ 19 世紀前葉の灰落しで、口唇部に敲打痕がみられる。11 ～ 13 は 18 世紀後葉～ 19 世紀中葉の香炉であるが、12 には口唇部に敲打痕がみられた。14 は 19 世紀前葉～中葉の紅皿である。なお、瀬戸・美濃窯所産の遺物では、15 の 19 世紀前葉～中葉の所産の碗１点を図化した。

16 ～ 46 は陶器で、16 ～ 27・35 ～ 43 は瀬戸・美濃窯所産である。16・17 は瀬戸・美濃窯 16 世紀前葉の皿で鉄絵が施されている。18 は 16 世紀～ 17 世紀前葉の擂鉢、19・20 は 16 世紀後半・大窯所産の皿、21 は 17 世紀前葉の皿で鉄絵が施されている。22 は 17 世紀前半の志野皿である。23 は 17 世紀前半の碗、24 は 17 世紀後葉の菊皿、25 は 17 世紀後葉の擂鉢である。26 は 17 世紀～ 18 世紀の黄瀬戸鉢で刷毛目がみられる。27 は 17 世紀後葉～ 18 世紀前葉の擂鉢、30 は灯明皿であろうか、18 世紀前半の皿が出土している。35 は 18 世紀前葉～中葉の擂鉢、36 は 18 世紀の皿で、摺絵の部分は欠落していた。37 は 18 世紀の壺で内面に鉄分が付着しており、お歯黒壺の可能性がある。38 は 18 世紀の鬢水入れで鉄絵が施され、底部は無釉であった。39 は 18 世紀後半～ 19 世紀前半の片口鉢、40 ～ 42 は 19 世紀前葉～中葉の灯明皿で、40・41 は受皿、42 は上皿 である。43 は 19 世紀中葉～後葉の灯明受皿である。

28･31 ～ 34 は肥前窯所産である。28 は 17 世紀末～ 18 世紀前葉の鉢、31 ～ 34 は 18 世紀前半の碗である。

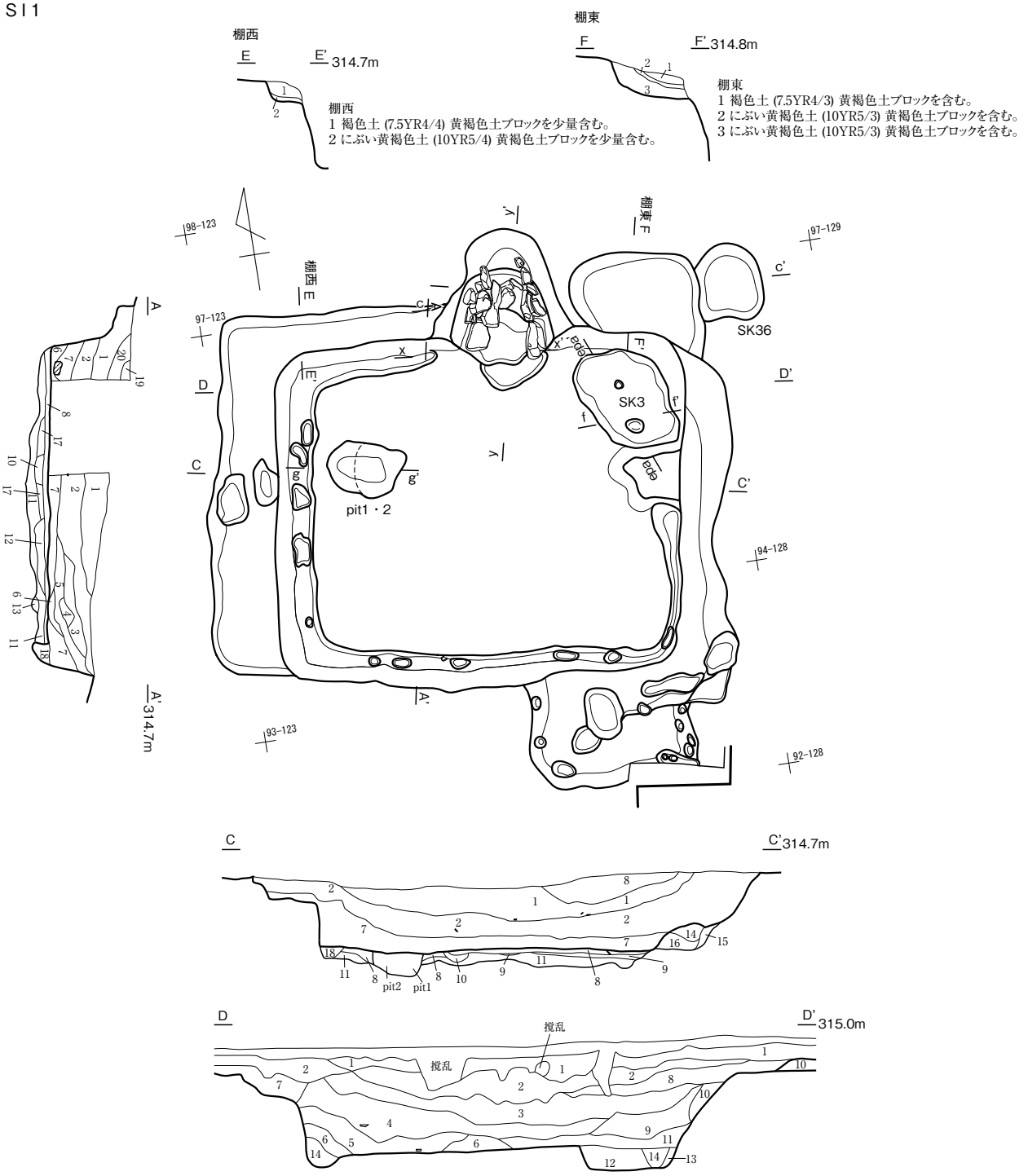
その他、29 は京・信楽焼所産で 18 世紀前葉の碗、46 は時期の判別はつかないが、志戸呂皿と推定するもの、43・44 は所産地は不明であるが、19 世紀所産と推定する鍋と鍋の蓋などが出土している。

表13　B区土坑･ピット一覧

[ ]の中の数値は残存値 ( )の中の数値は推定値 単位:m 出土遺物(点数)は光波測量による取上数

遺構名	位置	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物(点数)	備考
SK1	135-59	不整円形	0.65×0.55	0.50×0.41	0.09	N-14° -E	土師器3	SB1と重複
SK2	145-77	隅丸長方形	1.23×0.98	0.61×0.33	0.48	N-39° -E	縄文81,土師器1	撹乱に切られる
SK3	95-127	不整楕円形	1.22×0.80	1.08×0.66	0.25	N-39° -W	土師器8,須恵器2,自然礫1	SI1内貯蔵穴
SK4	126-135	不整楕円形	0.57×0.52	0.36×0.34	0.15	N-15° -W		
SK5	127-134	楕円形	0.67×0.54	0.60×0.45	0.08	N-9° -W		
SK6	122-129	不整円形	0.71×0.67	0.57×0.51	0.14	―		
SK7	124-128	楕円形	0.42×0.31	0.19×0.12	0.13	N-29° -E		
SK8	126-126	不整楕円形	0.71×0.59	0.55×0.48	0.14	N-74° -W		
SK9	125-126	不整円形	0.49×0.47	0.36×0.32	0.10	―		
SK10	124-117	不整形	0.69×0.54	0.45×0.36	0.18	N-31° -E		撹乱に切られる
SK11	125-116	不整円形	0.40×0.36	0.17×0.15	0.28	―		
SK12	119-120	不整円形	0.94×0.89	0.74×0.73	0.25	―	縄文1	
SK13	119-117	不整楕円形	1.17×1.06	1.02×0.89	0.13	N-16° -W	土師器1	撹乱に切られる
SK14	107-118	不整円形	0.99×0.94	0.76×0.71	0.14	―		
SK15	107-116	不整円形	0.72×0.67	0.50×0.38	0.17	―		
SK16	119-103	不整円形	0.91×0.88	0.69×0.66	0.14	―		
SK17	132-112	不整形	2.59×2.21	2.18×2.01	0.38	N-30° -E	縄文10,土師器133,土製品1	Pit8と重複
SK18	139-116	不整形	(2.12)×(1.32)	(1.86)×(0.98)	0.19	N-39° -W	縄文23,土師器220,石製品18,金属製品1,炭化物4	SI18･SK27と重複
SK19	156-94	不整形	0.54×0.47	0.13×0.10	0.51	N-37° -E		SI29と重複
SK20	155-142	不整円形	1.07×1.03	1.07×1.06	0.41	―	縄文1,土師器6	
SK21	153-115	不整形	0.88×0.69	0.83×0.64	0.20	N-25° -W		SI28と重複
SK22	147-167	不整形	0.64×0.54	0.58×0.43	0.09	N-55° -W		
SK23	143-159	不整楕円形	0.70×0.51	0.54×0.37	0.10	N-51° -W		
SK24	123-76	不整楕円形	(2.79)×1.89	(2.38)×1.72	0.31	N-63° -W	縄文5,土師器35,石製品1	SI26を切る
SK25	127-76	不整楕円形	0.59×0.46	0.19×0.16	0.34	N-68° -W		
SK26	128-77	不整形	1.41×1.29	1.15×1.03	0.23	N-61° -W		
SK27	139-116	不整楕円形	2.25×1.26	1.73×1.02	0.15	N-60° -E	縄文18,土師器1	SI18･SK18と重複
SK28	154-85	楕円形	0.81×0.69	0.44×0.39	0.21	N-77° -E	土師器1	
SK29	124-123	円形	0.61×0.56	0.51×0.44	0.11	―	焼成粘土塊1	
SK30	122-124	不整隅丸方形	1.16×1.00	0.85×0.70	0.34	N-18° -E		
SK31	欠番							
SK32	131-76	不整楕円形	0.78×0.62	0.34×0.22	0.29	N-51° -W		
SK33	132-79	不整円形	0.59×0.56	0.29×0.26	0.19	―		
SK34	109-123	不整楕円形	0.98×0.73	0.50×0.49	0.33	N-65° -E		SI20･22と重複
SK35	159-77	楕円形	0.93×0.81	0.81×0.66	0.90	N-75° -E		SI13と重複
SK36	96-128	不整形	0.79×0.79	0.59×0.56	0.11	N-6° -E	土師器1	SI1に切られる
SK37	120-163	不整形	―	―	―	―	縄文14	SI11に切られる
SK38	108-123	不整形	―	―	―	―	縄文5,土師器8	SI20･22と重複
Pit1	165-118	円形	0.37×0.35	0.24×0.21	0.48	―	土師器1	
Pit2	161-118	楕円形	0.43×0.29	0.10×0.09	0.40	―		
Pit3	117-119	不整楕円形	0.47×0.42	0.29×0.22	0.10	―		
Pit4	118-118	不整円形	0.30×0.25	0.15×0.12	0.17	―		
Pit5	115-117	不整円形	0.35×0.34	0.17×0.16	0.18	―		
Pit6	120-121	円形	0.28×0.28	0.15×0.12	0.30	―	土師器1	
Pit7	121-120	円形	0.27×0.25	0.10×0.08	0.32	―		
Pit8	132-113	不整円形	0.33×0.31	0.24×0.17	0.24	―		SK17と重複
Pit9	116-157	不整円形	0.25×0.23	0.12×0.12	0.33	―		SI12と重複
Pit10	157-123	楕円形	0.40×0.32	0.23×0.14	0.31	―		
Pit11	147-167	不整形	0.45×0.44	0.22×0.12	0.21	―		
Pit12	116-115	不整形	0.47×0.39	0.19×0.17	0.23	―		SI16･SI23と重複
Pit13	116-112	不整円形	0.45×0.43	0.33×033	0.15	―		SI16･SI24と重複

SI1

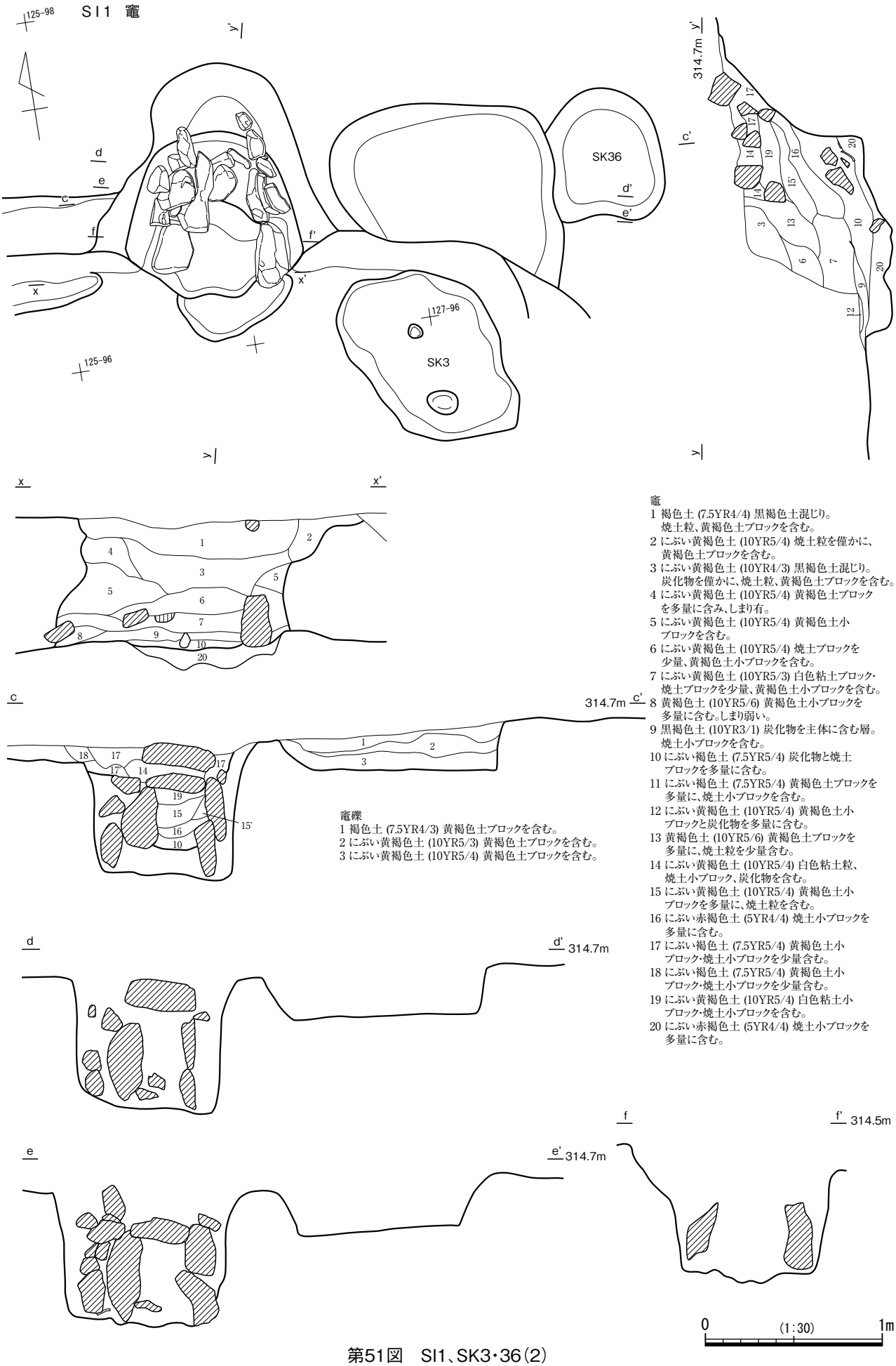


1 黒褐色土 (10YR2/3) 粒子細かい。炭化物粒少量含む。粘性しまり弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色、黒褐色土小ブロックを含む。遺物包含層
3 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを含む。炭化物粒少量含む。やや粘性。しまりあり。
4 褐色土 (10YR4/4) 粘性。しまりあり。
5 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土を少量含む。粘性無くしまりあり。
6 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性無し。しまりやや弱い。暗褐色砂粒を少含。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物粒を少量含む。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土炭化物を少量含む。しまり強い。
9 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土を非常に多く含む。
10 褐色土 (10YR4/4) 炭化物粒を多量、焼土小ブロックを少量含む。
11 褐色土 (7.5YR4/4) 明褐色土とローム小ブロックを含む。
12 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色粒とローム小ブロックを少量含む。
13 褐色土 (10YR4/4) 炭化物を僅かに、ローム小ブロックを少量含む。
14 褐色土 (7.5YR4/4) 明褐色粘質土小ブロックを含む。
15 明褐色土 (7.5YR5/8) 黒色砂質土を含み、しまり非常に弱い。
16 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に1～2mm小礫を含み、下層はしまり弱い。
17 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを少量含む。
18 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土粒、炭化物粒多く含む。粘性あり。しまり強い。
19 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化物を僅かに、黒褐色土・焼土粒・黄褐色土ブロックを含む。
20 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 黄褐色土小ブロック・焼土小ブロックを含む。

D-D'
1 黒褐色土 (10YR2/3) 粒子細かい。炭化物粒少量含む。粘性しまり弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色、黒褐色土小ブロックを含む。遺物包含層
3 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを含む。炭化物粒少量含む。やや粘性。しまりあり。
4 褐色土 (7.5YR4/4) 粘性。しまりあり。
5 褐色土 (10YR4/4) 炭化物を多量。焼土小ブロックを少量含む。
6 黒褐色土 (10YR2/3) 暗褐色砂粒を少量含む。粘性無くしまり弱い。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物粒を少量含む。
8 褐色土 (10YR4/4) 黒褐色土を少量含む。
9 暗褐色土 (10YR3/4) 粘質土ブロックを多く含む。しまり強い。
10 暗褐色土 (10YR3/3) 粒子細かい。ローム粒を含む。
11 暗褐色土 (10YR3/4) 粘質土ブロックを多く含む。
12 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒、炭化物粒を少量含む。
13 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物粒を少量含む。しまり弱い。
14 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土粒、炭化物粒を多く含む。粘性あり。しまり弱い。

0 (1:60) 2m

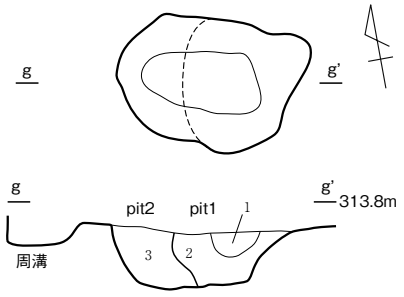
第50図　SI1、SK3・36(1)



第51図　SI1、SK3・36(2)

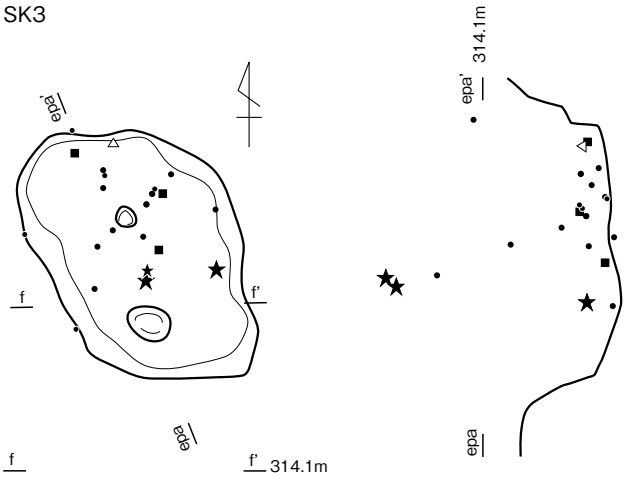
第52図　SI1、SK3・36(3)

pit1・2



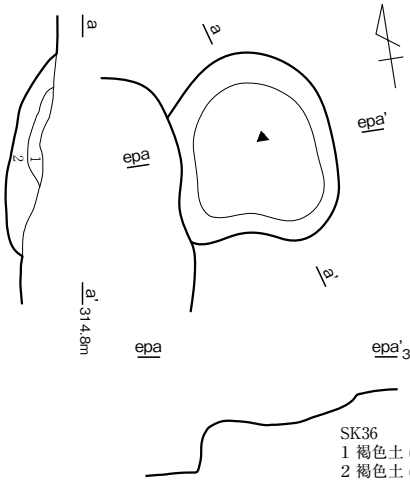
pit1-2
1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物粒少量含む。しまり粘性弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土粒少量含む。しまり粘性弱い。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック少量含む。しまり粘性弱い。

SK3



SK 3
1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土粒、炭化物粒を多量に含む。粘性あり。しまり弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物粒を少量含む。しまり弱い。
3 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒、炭化物粒を少量含む。

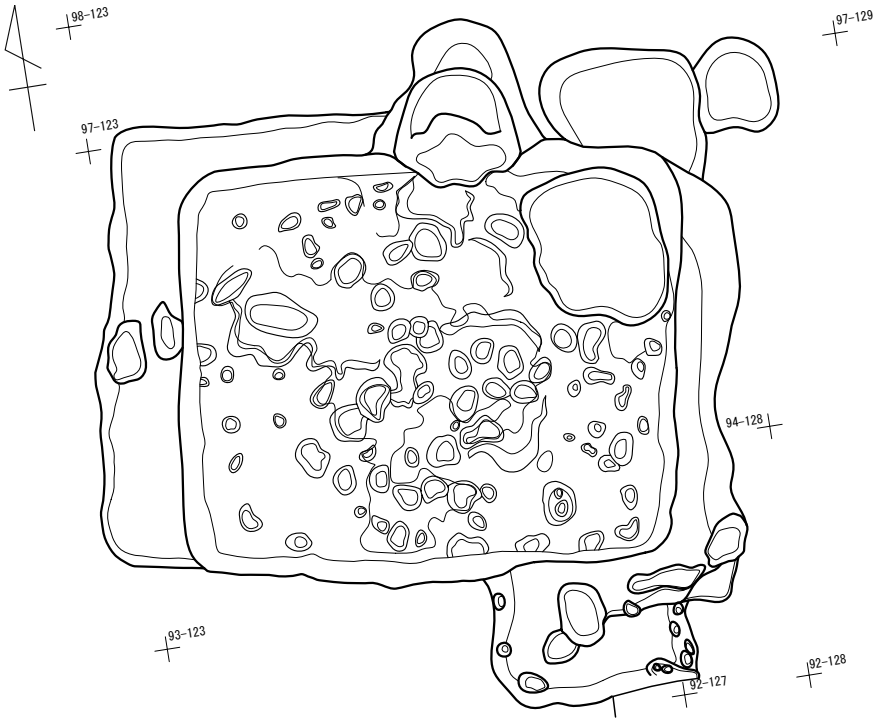
SK36



SK36
1 褐色土 (7.5YR4/4) 黒褐色粒子を少量含む。
2 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを少量含む。

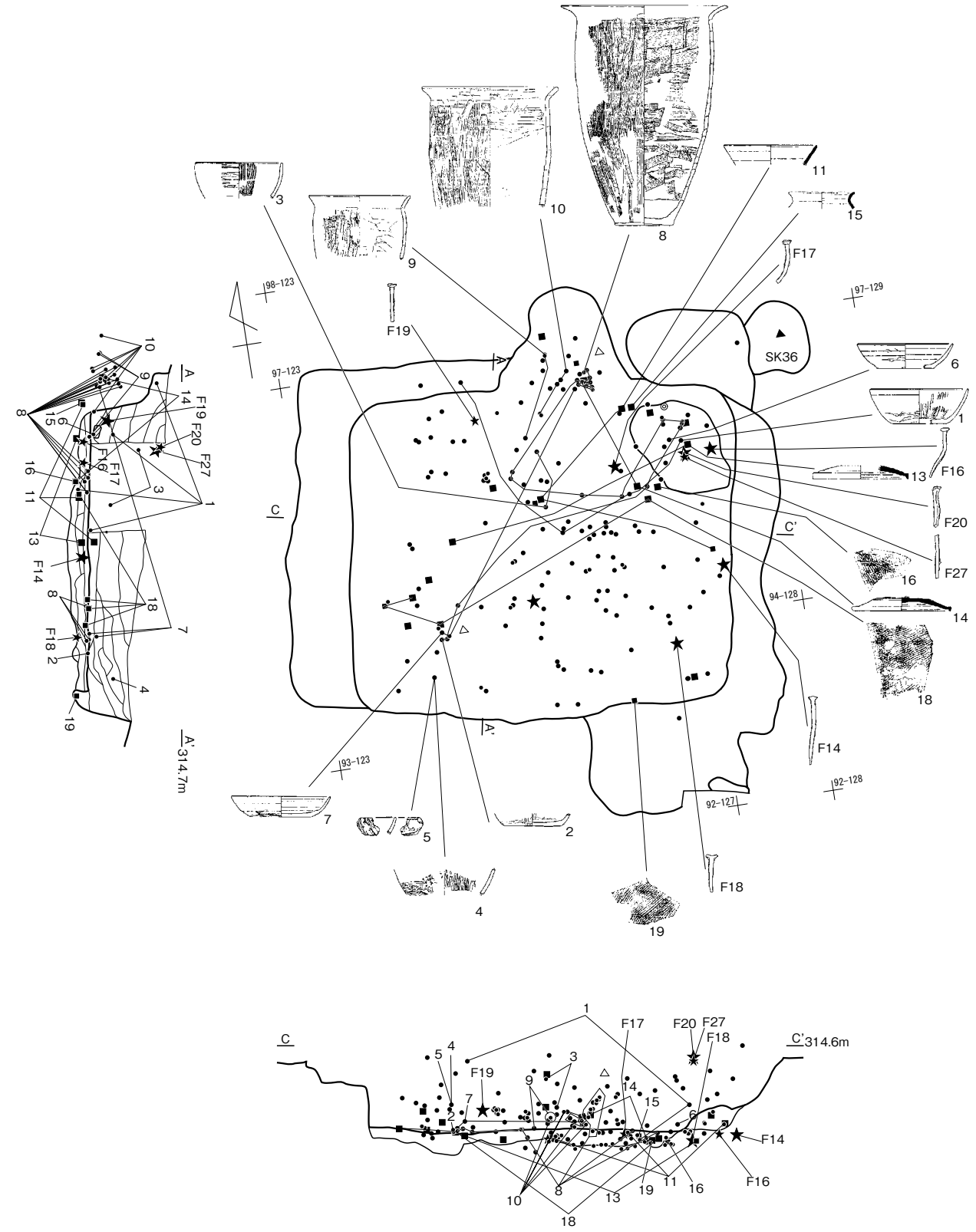
0 (1:30) 1m

掘り方



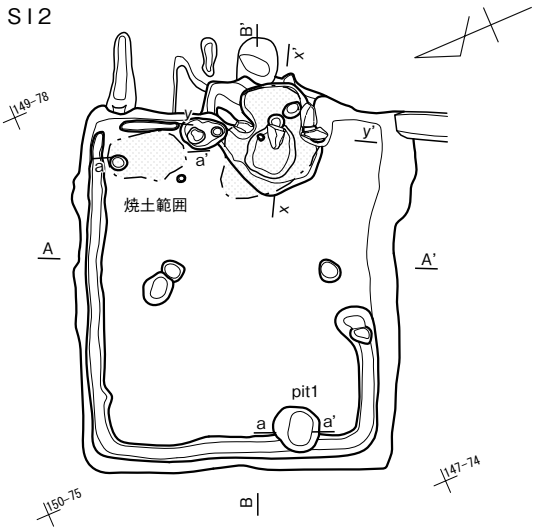
0 (1:60) 2m

第53図　SI1、SK3・36(4)

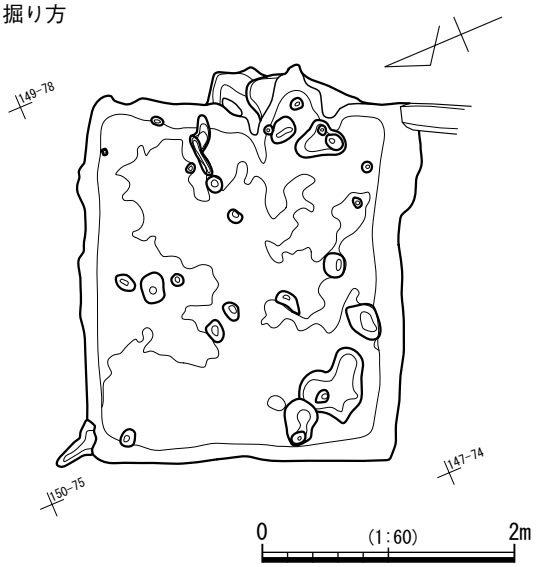


第54図　SI1、SK3･36(5)

SI2

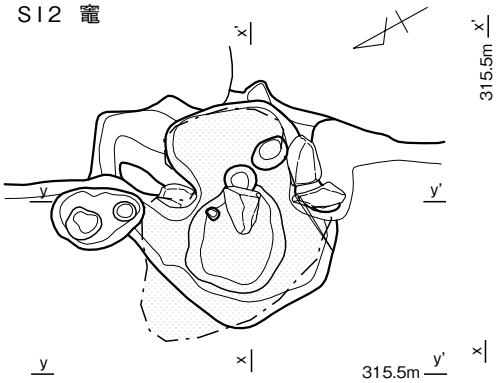


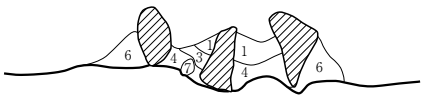
掘り方



1 撹乱
2 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒、赤褐色粒子を多く含む。
3 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物を少量、ローム小ブロックを含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4) 赤褐色粒とローム小ブロックを少量含む。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黄褐色粒子、層下部に焼土粒を含む。
6 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロックを多く含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒･黄褐色を多く含む。
8 黒褐色土 (7.5YR3/2) 赤褐色粒とロームブロックを多く含む。
9 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 褐色粒を僅かに含む。
10 黒褐色土 (7.5YR3/2) 黄褐色粒子を僅かに含む。しまり非常に弱い。
11 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 赤褐色粒子を含む。
12 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒と炭化物を少量含む。
13 黒褐色土 (7.5YR3/2) 焼土小ブロックを多く含む。
14 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロック･ローム小ブロックを少量、赤褐色土粒を僅かに含む。

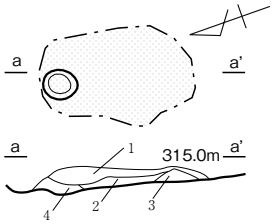
SI2 竈



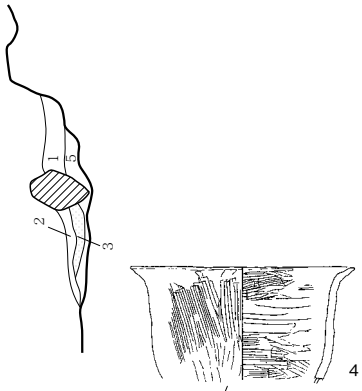


竈
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土ブロック、黄褐色粒子を含む。
2 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) 焼土多く、黄褐色土ブロック含む。
3 焼土層
4 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土の小ブロックと焼土粒を含む。
5 黄褐色土 (10YR5/6) 焼土の小ブロックと焼土粒を含む。
6 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土の小ブロックを多く含む。
7 灰白色粘土 (10YR8/1)

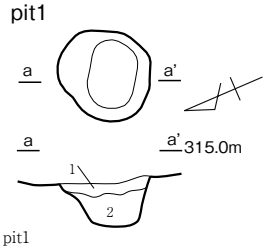
焼土範囲



焼土範囲
1 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 焼土小ブロックを多く含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 焼土粒、黄褐色土小ブロックを含む。
3 黄褐色土 (2.5Y5/4) 黒褐色土混じり。
4 黄褐色土 (2.5Y5/6) 黒褐色土小ブロック、焼土粒を含む。

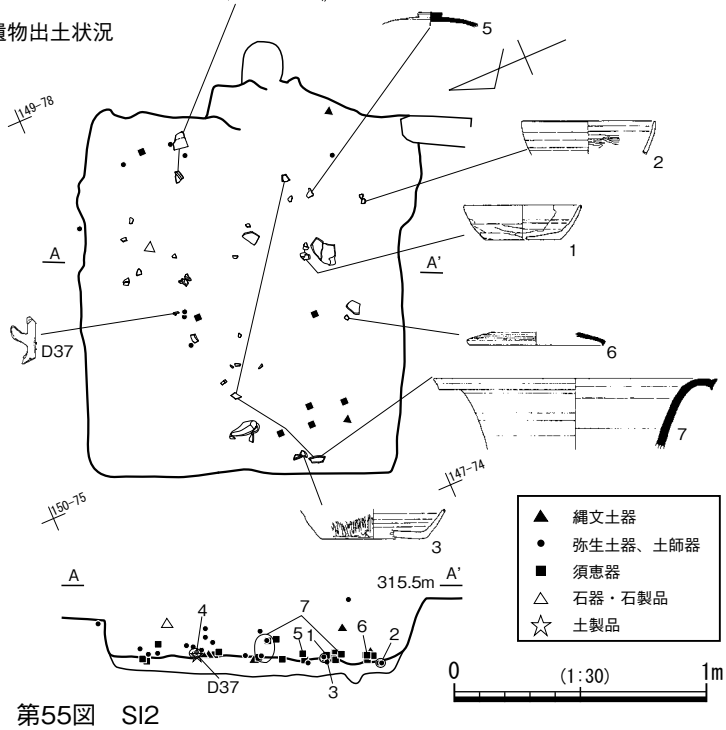


pit1



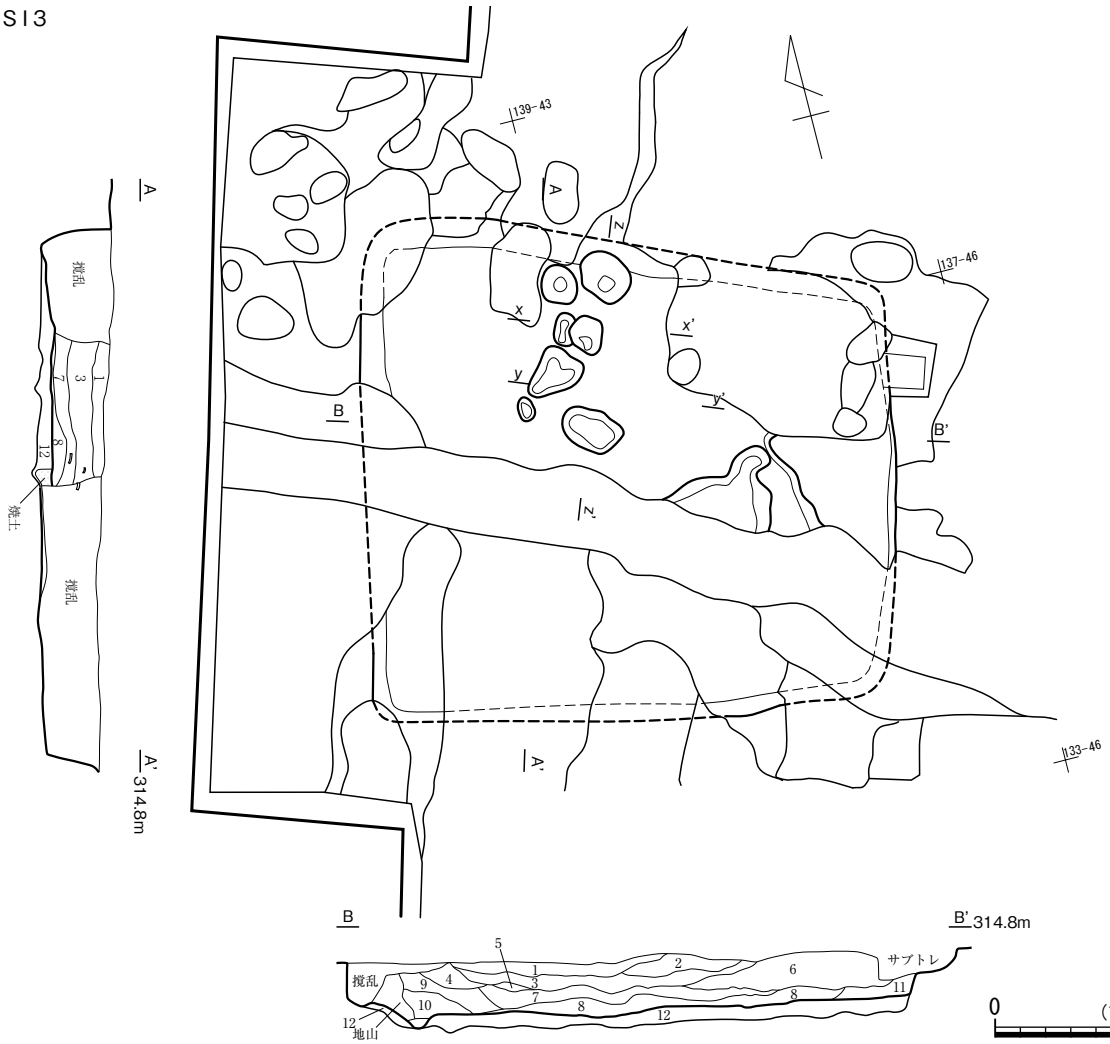
pit1
1 褐色土 (7.5YR4/3) 黄褐色土小ブロックを含む。焼土粒を含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黄褐色土小ブロックを含む。焼土粒を含む。

遺物出土状況



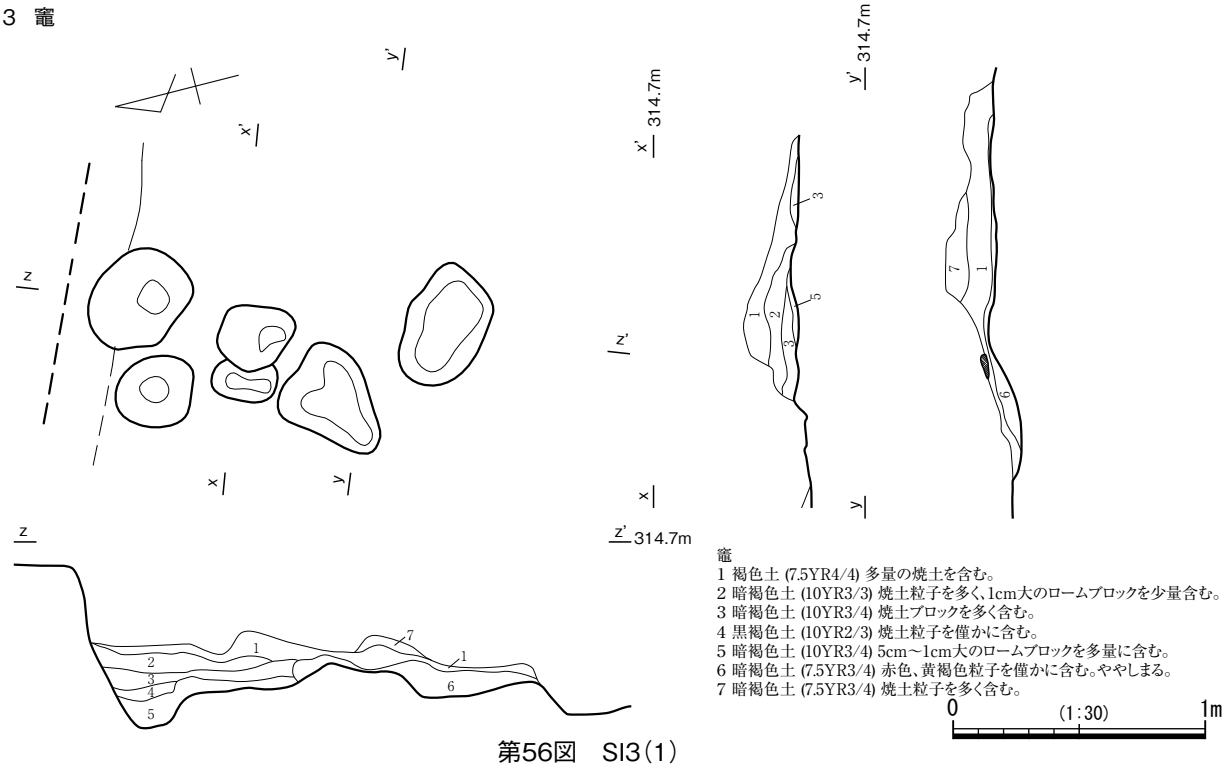
第55図　SI2

SI3



1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 赤褐色粒子を多量に、炭化物を僅かに含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土粒および黄褐色粒子を多く含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色粒子を多く含む。
4 褐色土 (7.5YR4/3) 黒褐色土ブロック、赤色粒子・黄褐色粒子を僅かに含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土ブロック、褐色粒子を多く含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒子を多く含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒子を多量に含む。
8 黒褐色土 (7.5YR3/2) 焼土粒子およびローム粒子を多く含む。
9 褐色土 (7.5YR4/3) 黒褐色土ブロックを多く含む。
10 褐色土 (7.5YR4/3) 0.5～1cm大のロームブロックを多く含む。
11 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
12 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。

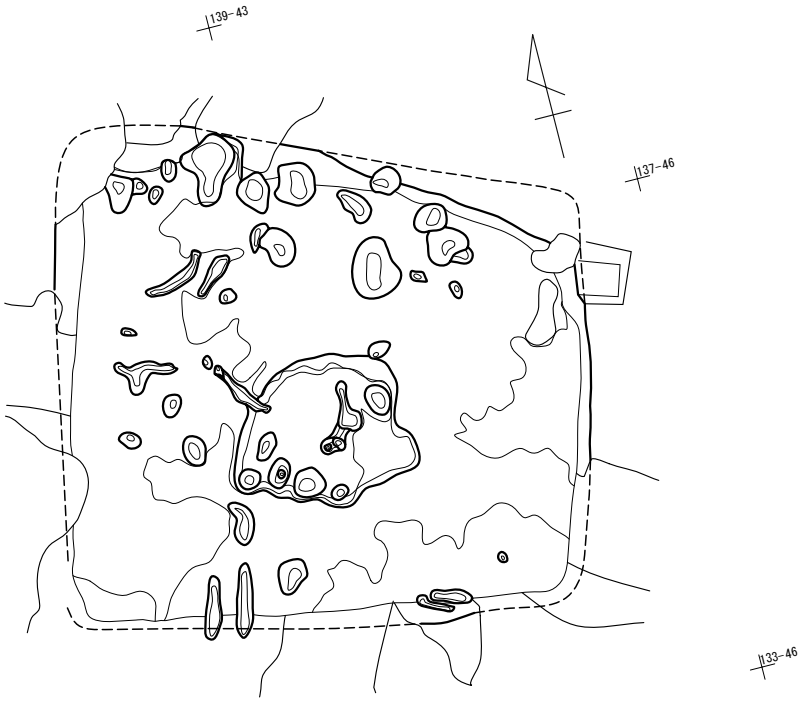
SI3 竈



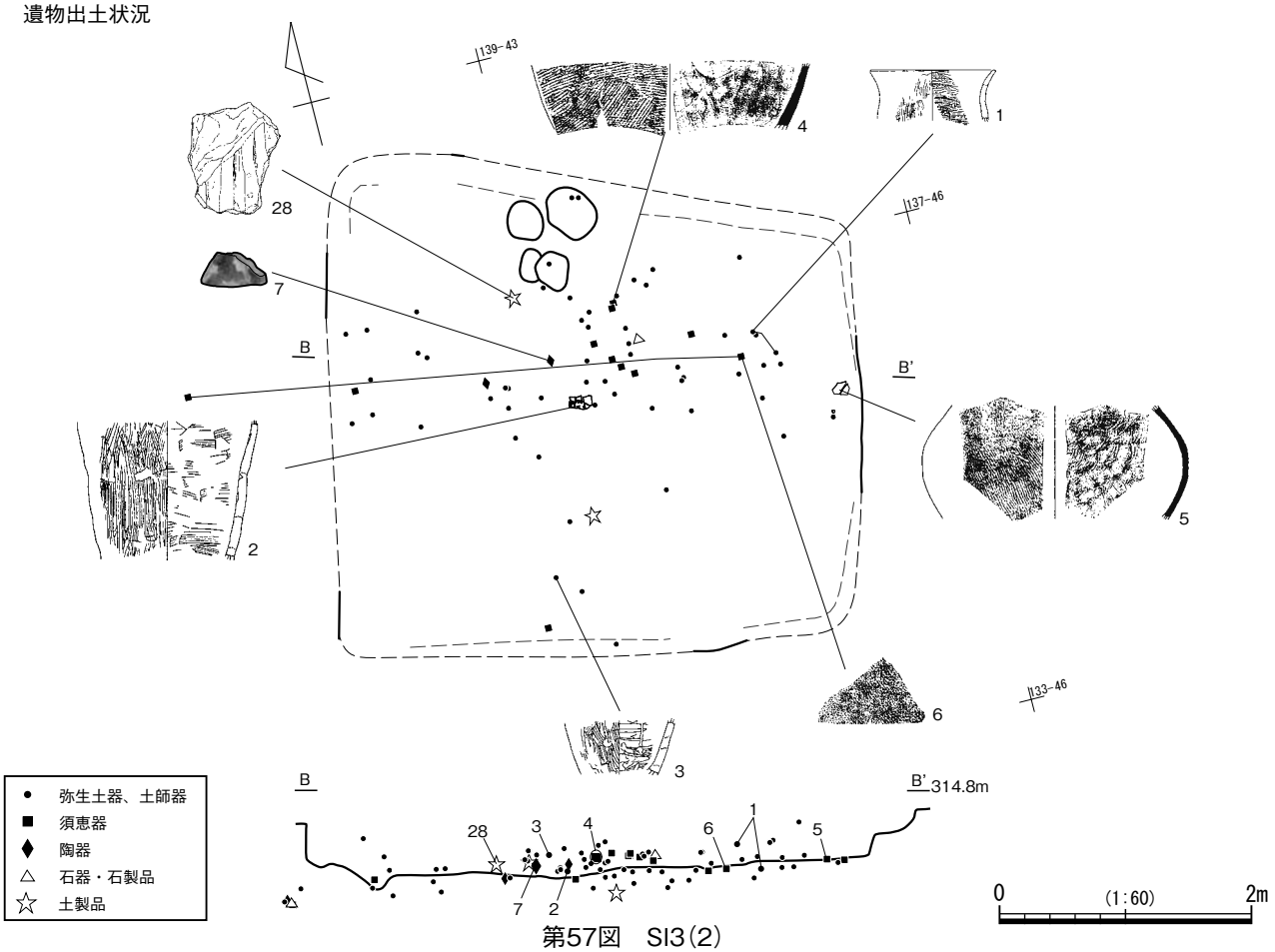
竈
1 褐色土 (7.5YR4/4) 多量の焼土を含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒子を多く、1cm大のロームブロックを少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土ブロックを多く含む。
4 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土粒子を僅かに含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4) 5cm～1cm大のロームブロックを多量に含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 赤色、黄褐色粒子を僅かに含む。ややしまる。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒子を多く含む。

第56図 SI3(1)

掘り方

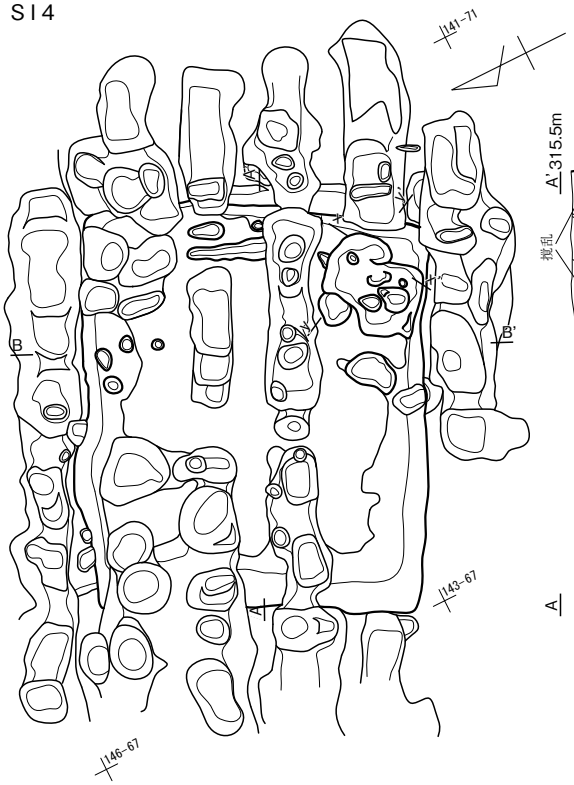


遺物出土状況

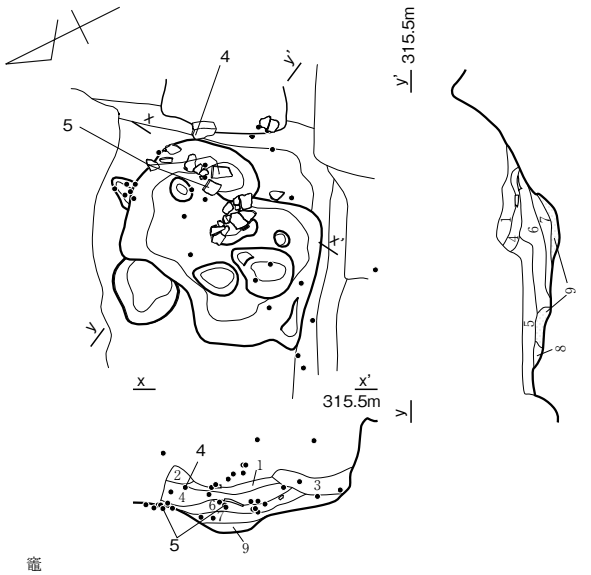


第57図　SI3(2)

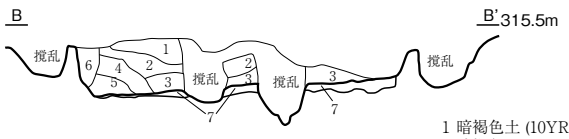
SI4

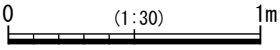


SI4 竈



竈
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒子、炭化物、白色粘土小ブロック、焼土を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物、焼土を僅かに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土を少量、白色粘土を多量に含む。
4 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土小ブロックを少量含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物少量、焼土粒を多量に含む。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を多量、黄褐色土小ブロックを少量含む。
7 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土B・焼土粒を多量に含む。
8 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、白色粘土小ブロックを含む。しまりやや弱い。
9 焼土層

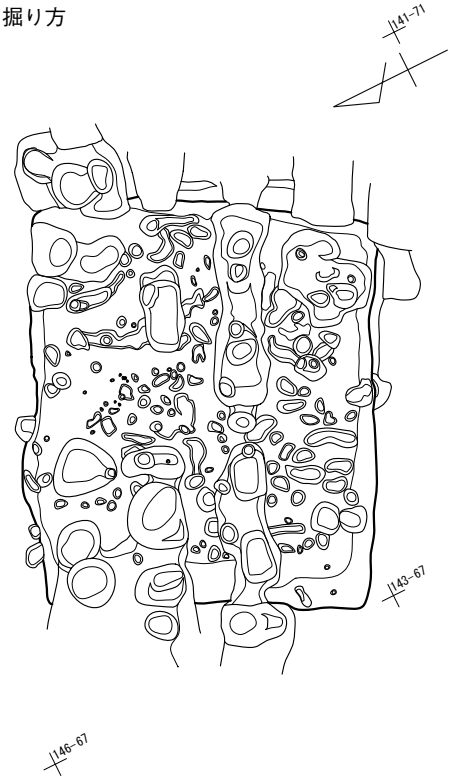




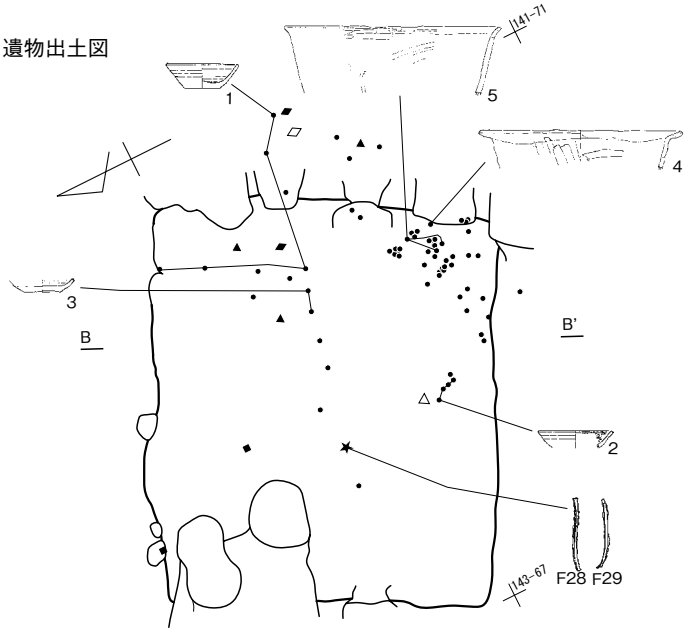
1 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土混じり、黄褐色土小ブロック、炭化物粒含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土小ブロックやや多く、黒褐色土小ブロック少量含む。
3 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土ブロックやや多く、炭化物粒・焼土粒含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土小ブロック含む。
5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色小ブロック多く含む。
6 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土ブロック多く含む。
7 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロック少量、焼土・炭化物を僅かに含む。しまり非常に強い。

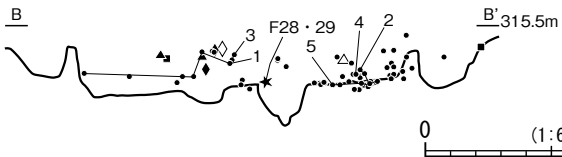
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
■ 須恵器
◇ 磁器
◆ 陶器
★ 金属製品
△ 石器・石製品

掘り方

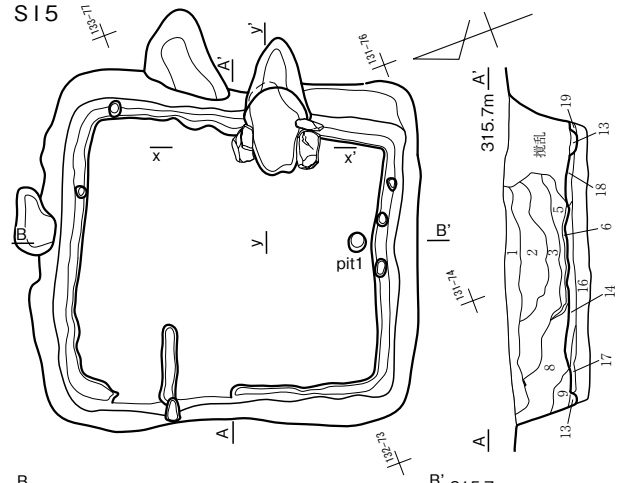


遺物出土図

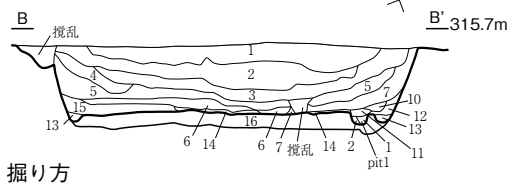




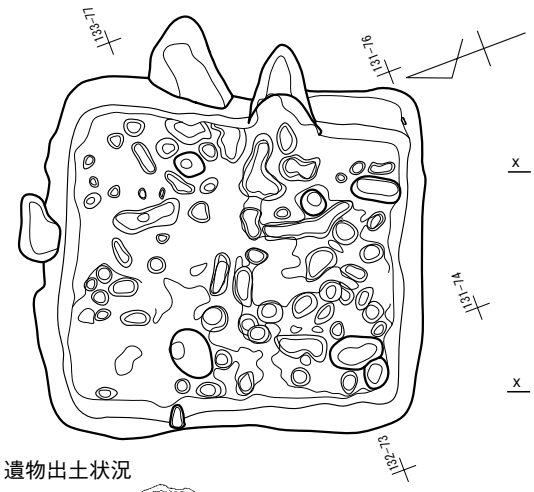
第58図　SI4



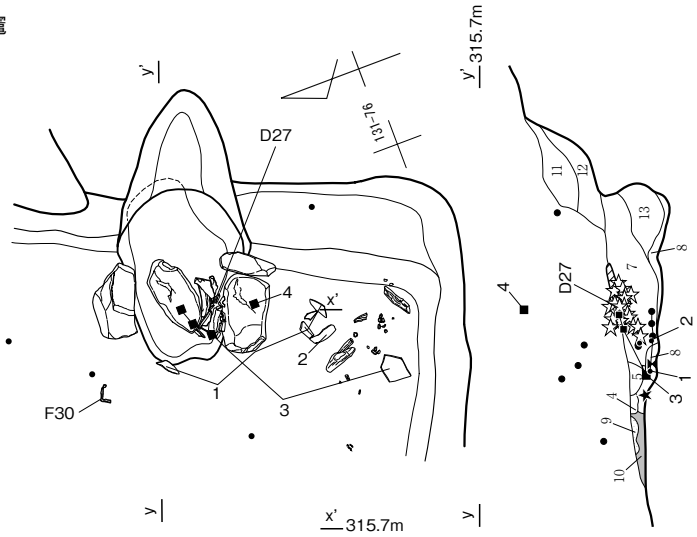
1 黒色土 (10YR1.7/1) 褐色粒子を多量に含む。
2 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 褐色粒子を多く、3mm大の小礫を僅かに含む。
3 黒褐色土 (7.5YR2/2) カーボンを少量、褐色粒子を多く含む。
4
5 褐色土 (7.5YR4/3) 5mm大の暗褐色度ブロックを多量に含む。
6 黒褐色土 (7.5YR2/2) カーボン、赤褐色粒子を多量に含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) カーボン、褐色粒子、5mm大のロームブロックを多量に含む。
8 暗褐色土 (7.5YR3/4) 床面に近い層下部では、カーボンを多量に混入する。
9 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 褐色粒子を多量に含む。
10 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土、炭化物を非常に多く含む。
11 極暗赤色土 (5YR2/4) 焼土、炭化物を含む。下層にロームブロックを少量含む。
12 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒子を多量、ロームブロックを少量含む。
13 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロックを含む。
14 暗褐色土 (10YR3/4) 層上部に炭化物と焼土を少量、明褐色粘質土を多量に含む。
しまり非常に強い。
15 褐色土 (10YR4/6) 黒褐色土ブロックを含む。
16 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックと褐色土小ブロックを含む。
17 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックと黄褐色土小ブロックを含む。
18 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色粒を少量、明黄褐色土を含む。
19 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土小ブロックを少量含む。
pit1
1 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ローム小ブロック含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム小ブロック含む。



掘り方

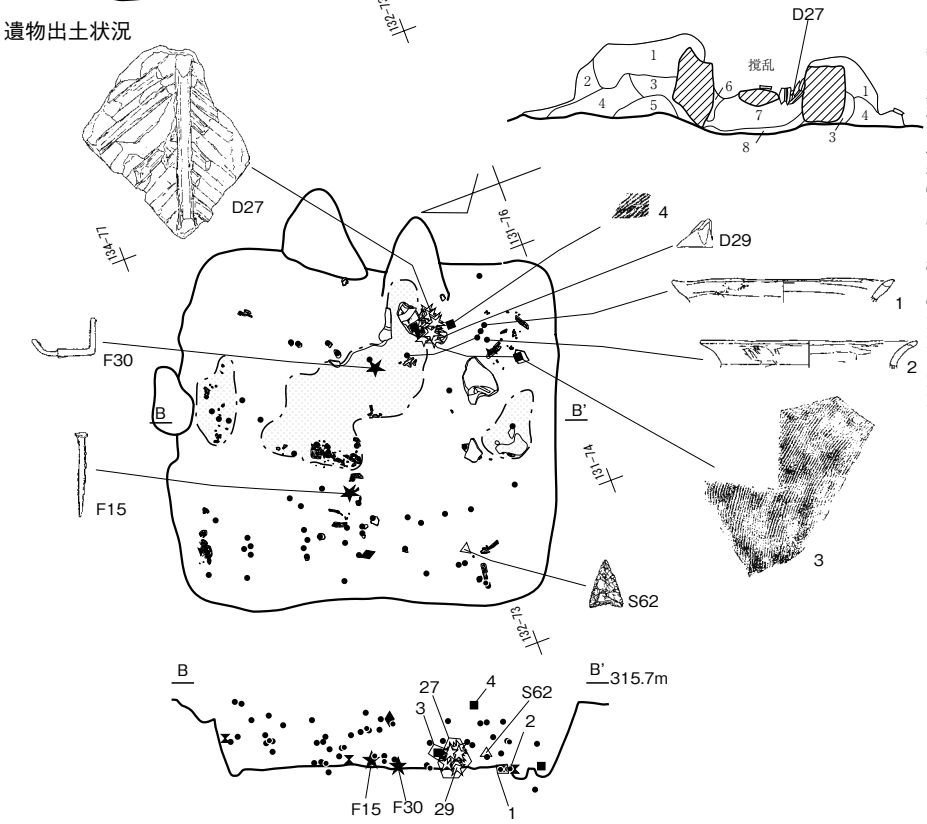


SI5 竈



0 (1:30) 1m

遺物出土状況



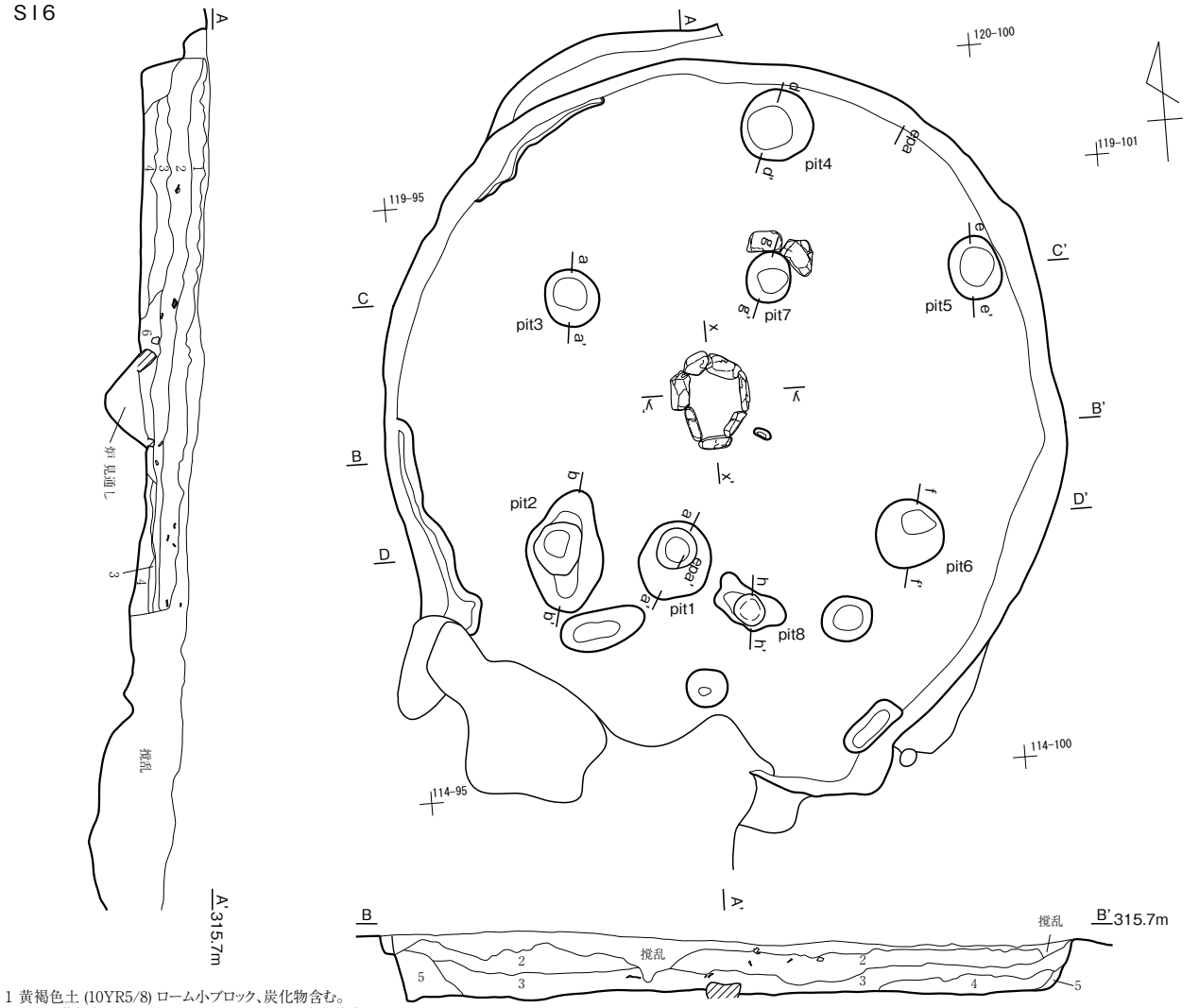
竈
1 褐色土 (10YR4/6) 黒･黄褐色粒子を含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒･褐色粒を含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物･粘土小ブロックを含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土ブロックを少量含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土ブロックを多く含む。
6 黒褐色土 (10YR2/2) 褐色土を少量含む。やや粘性、しまり強い。
7 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土ブロックを多く、明黄褐色土を含む。
8 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) 焼土小ブロックを多く含む。やや粘性強い。
9 焼土層
10 炭化物層
11 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土、黒褐色粒子を少量含む。
12 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物、焼土を含む。
13 灰黄褐色土 (10YR4/2) 炭化物、焼土を含む。しまり強い。

- ● 弥生土器、土師器
- ■ 須恵器
- ◆ 陶器
- ★ 金属製品
- △ 石器・石製品
- ☆ 土製品
- ⧗ 炭化物

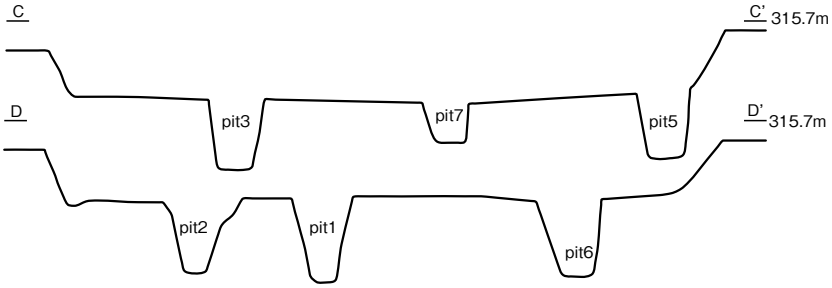
0 (1:60) 2m

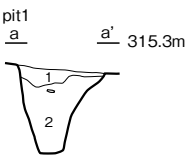
第59図 SI5

SI6

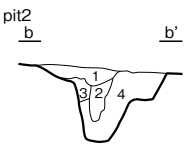


1 黄褐色土 (10YR5/8) ローム小ブロック、炭化物含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム小ブロック、炭化物含む。
3 黄褐色土 (10YR5/6) やや赤みのある粒子、
ローム小ブロック、炭化物含む。
4 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック多量に含む。
5 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ロームブロック多量に含む。
6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 焼土、炭化物含む。

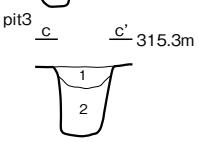




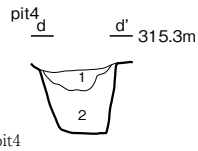
pit1
1 暗褐色土 (7.5YR3/3)
褐色粒少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ローム多量に
含む。しまり強い。



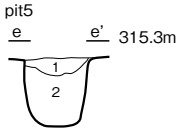
pit2
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色粒を多量に含む。
3 褐色土 (7.5YR4/4) 黒褐色粒を僅かに含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) ロームを多量に含む。しまり強い。



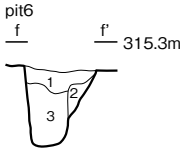
pit3
1 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土を
まだらに含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 層下部にロームを
多量に含む。しまり強い。



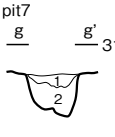
pit4
1 褐色土 (7.5YR4/3) 暗褐色土をまだらに
少量含む。しまりやや弱い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にロームを
多量に含む。しまり強い。



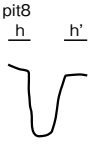
pit5
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒を
かに含む。やや粘性あり。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部
ロームを多量に含む。しまり強い。

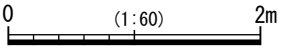


pit6
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を
まだらに少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色土を
多量に含む。しまり非常に強い。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にロームを
多量に含む。しまり強い。



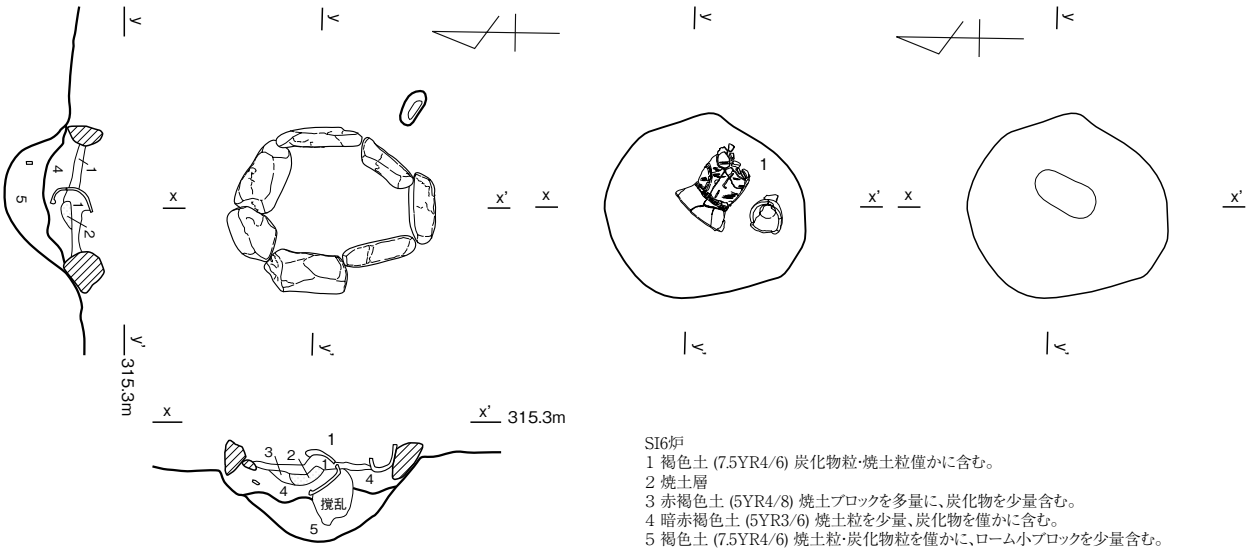
pit7
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) 褐色粒を
僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部に
ロームを多量に含む。しまり強い。





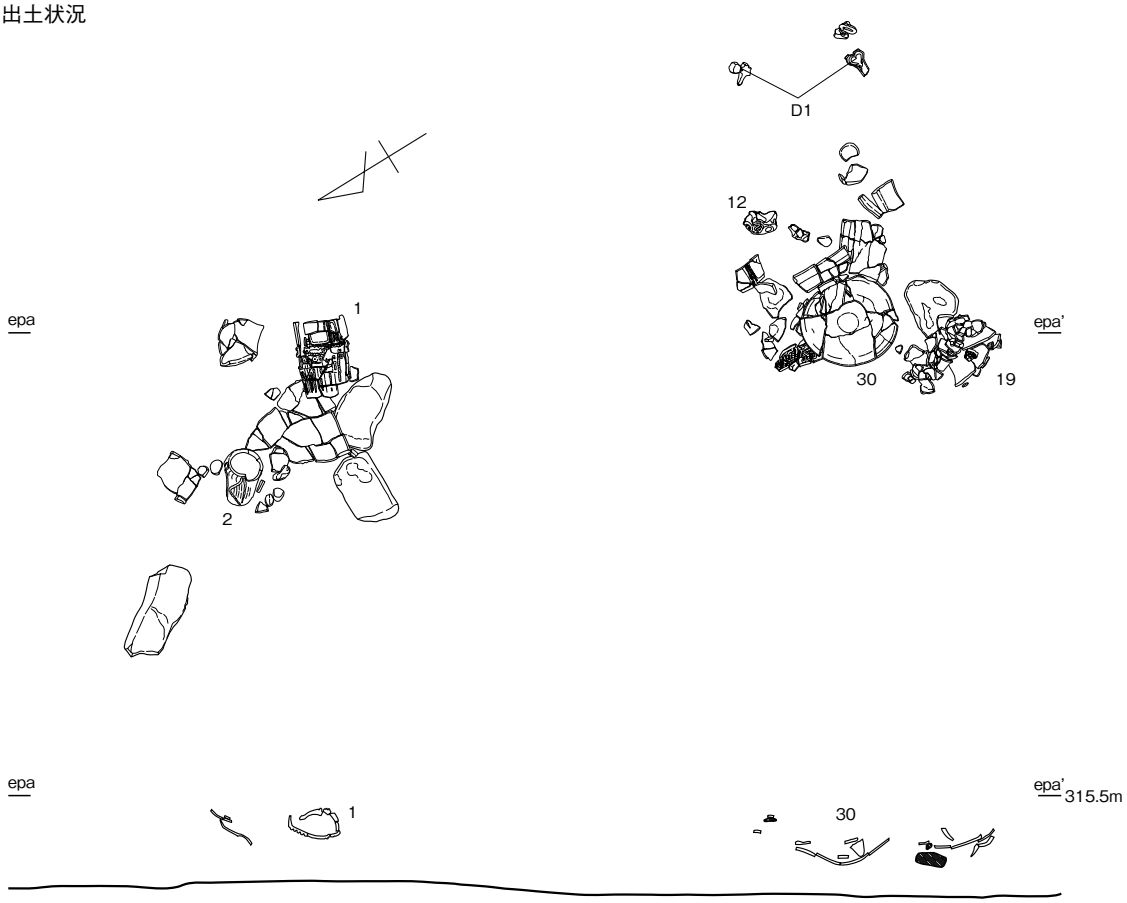
第60図　SI6(1)

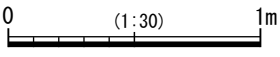
SI6 炉



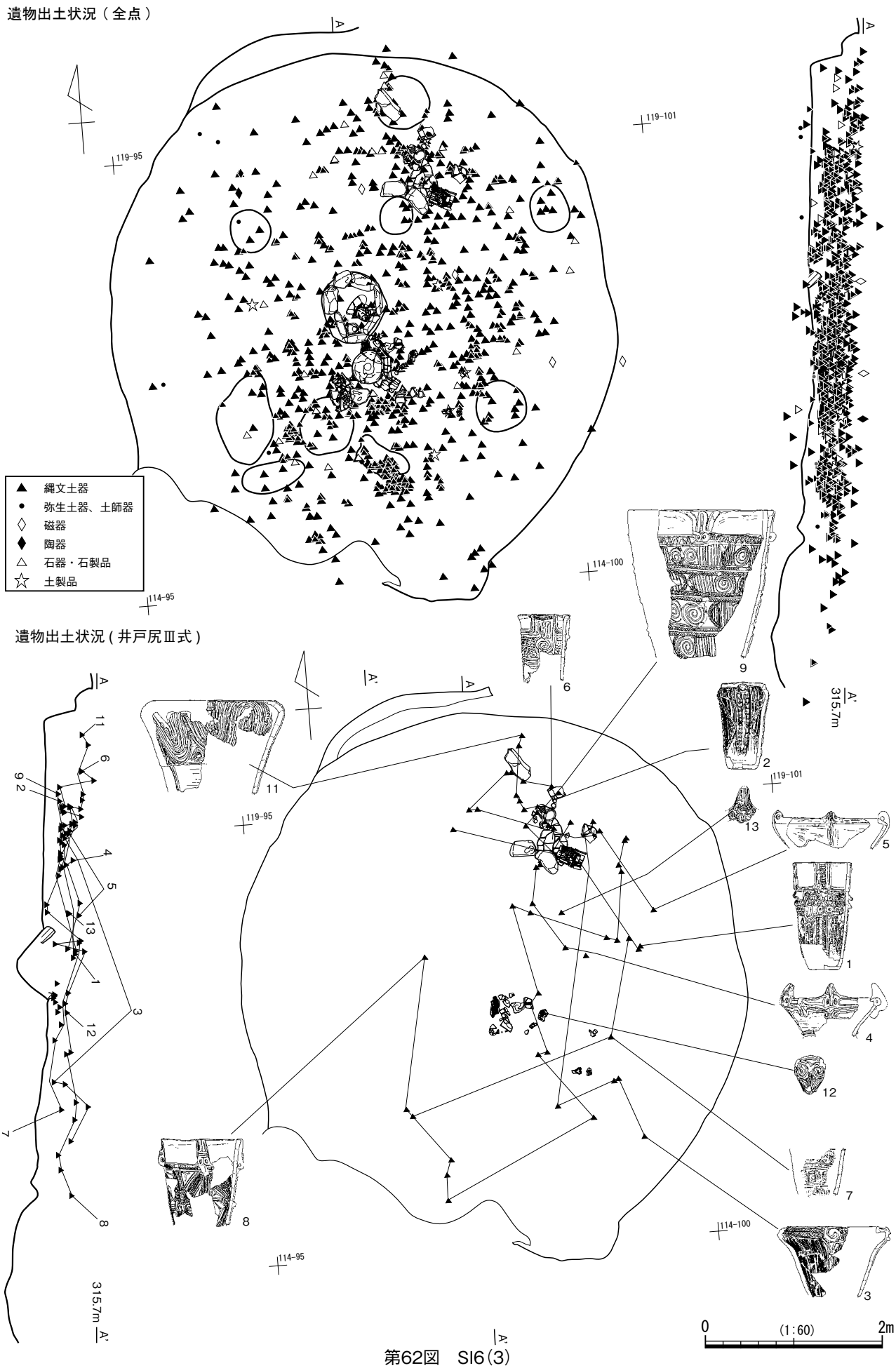
SI6炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物粒･焼土粒僅かに含む。
2 焼土層
3 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土ブロックを多量に、炭化物を少量含む。
4 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土粒を少量、炭化物を僅かに含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒･炭化物粒を僅かに、ローム小ブロックを少量含む。

遺物出土状況

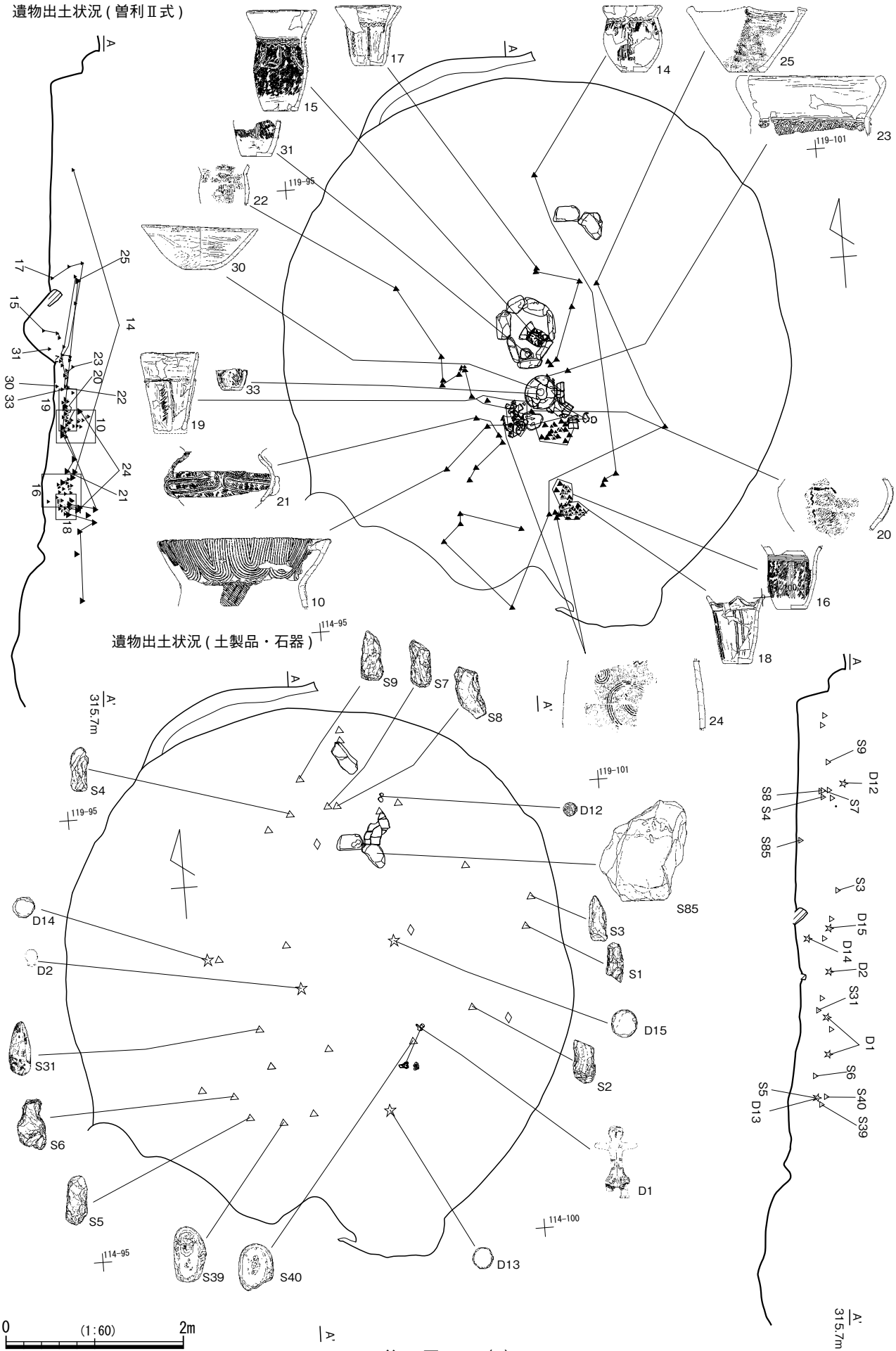




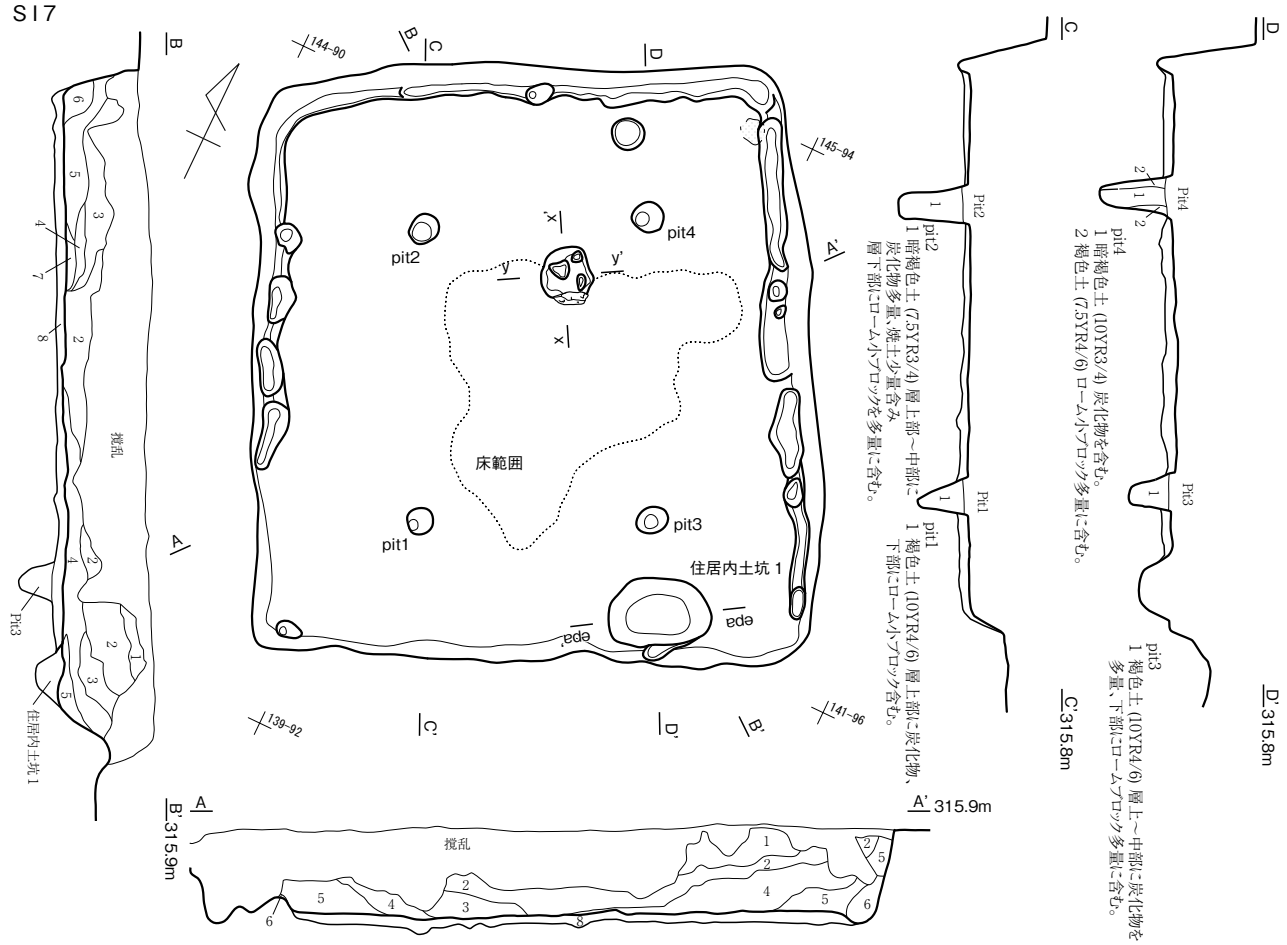
第61図　SI6(2)


遺物出土状況（全点）
縄文土器
弥生土器、土師器
磁器
陶器
石器・石製品
土製品
119-95
119-101
114-95
114-100
遺物出土状況 (井戸尻Ⅲ式)
315.7m
0
(1:60)
2m

第62図　SI6(3)

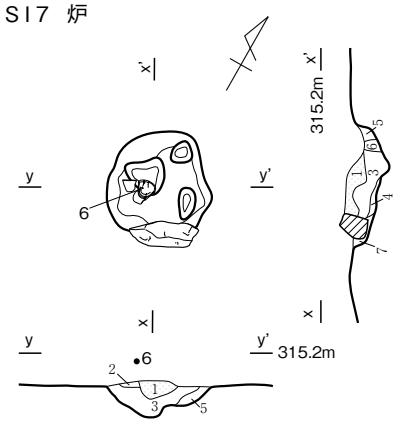

遺物出土状況 (曽利Ⅱ式)
遺物出土状況 (土製品・石器)
A
A'
315.7m
119-95
119-101
114-95
114-100
S9
S7
S8
S4
S85
S3
S1
S2
S31
S6
S5
S39
S40
D12
D14
D2
D15
D1
D13
0
(1:60)
2m

第63図　SI6(4)

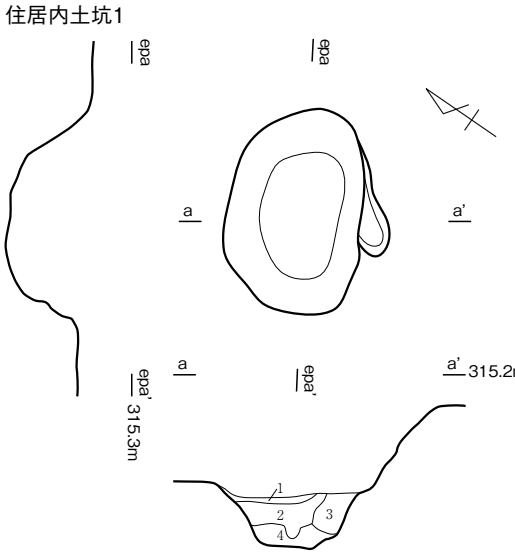


1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロックを多く、褐色粒を僅かに含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム小ブロックを多く、褐色粒を僅かに含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロックと炭化物を含む。
4 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックと炭化物を含む。
5 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多量に含む。
6 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ロームブロックを多量に含む。
7 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロックを多量に含む。しまり非常に強い。
8 褐色土 (10YR4/6) 暗、黒褐色土ブロック少量、ロームブロックを多く含む。

0 (1:60) 2m



炉
1 焼土層
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を含む。
3 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土小ブロックと焼土粒を多量に含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を少量、炭化物を僅かに含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒を少量、炭化物を僅かに含む。
6 明褐色土 (7.5YR5/8) 焼土粒を僅かに含む。
7 明暗色土 (7.5YR3/3) 黒褐色粒とローム粒を少量含む。しまり強い。



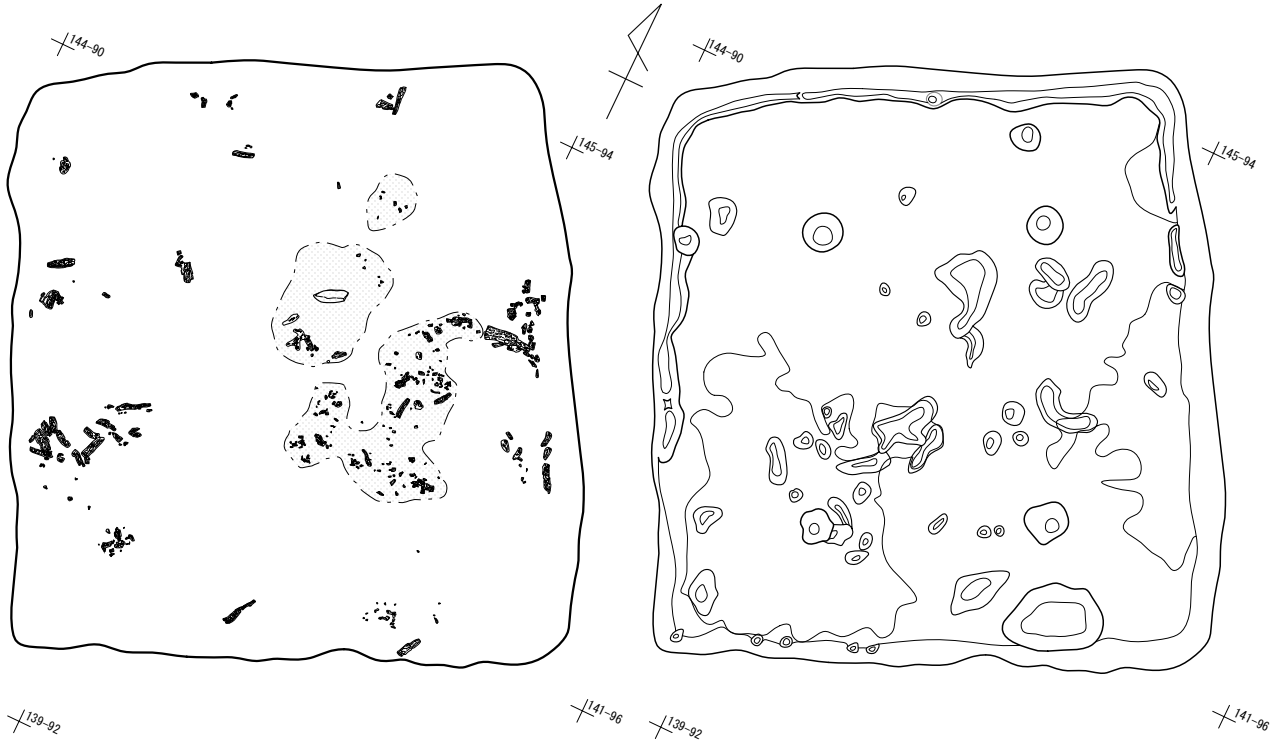
住居内土坑1
1 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物、暗褐色土小ブロックを少量含む。しまり強い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を多量に含む。しまり弱い。
3 褐色土 (10YR4/6) 炭化物を少量、暗褐色粒を含む。
4 褐色土 (7.5YR4/3) 黒褐色・暗褐色を少量、炭化物を僅かに含む。

0 (1:30) 1m

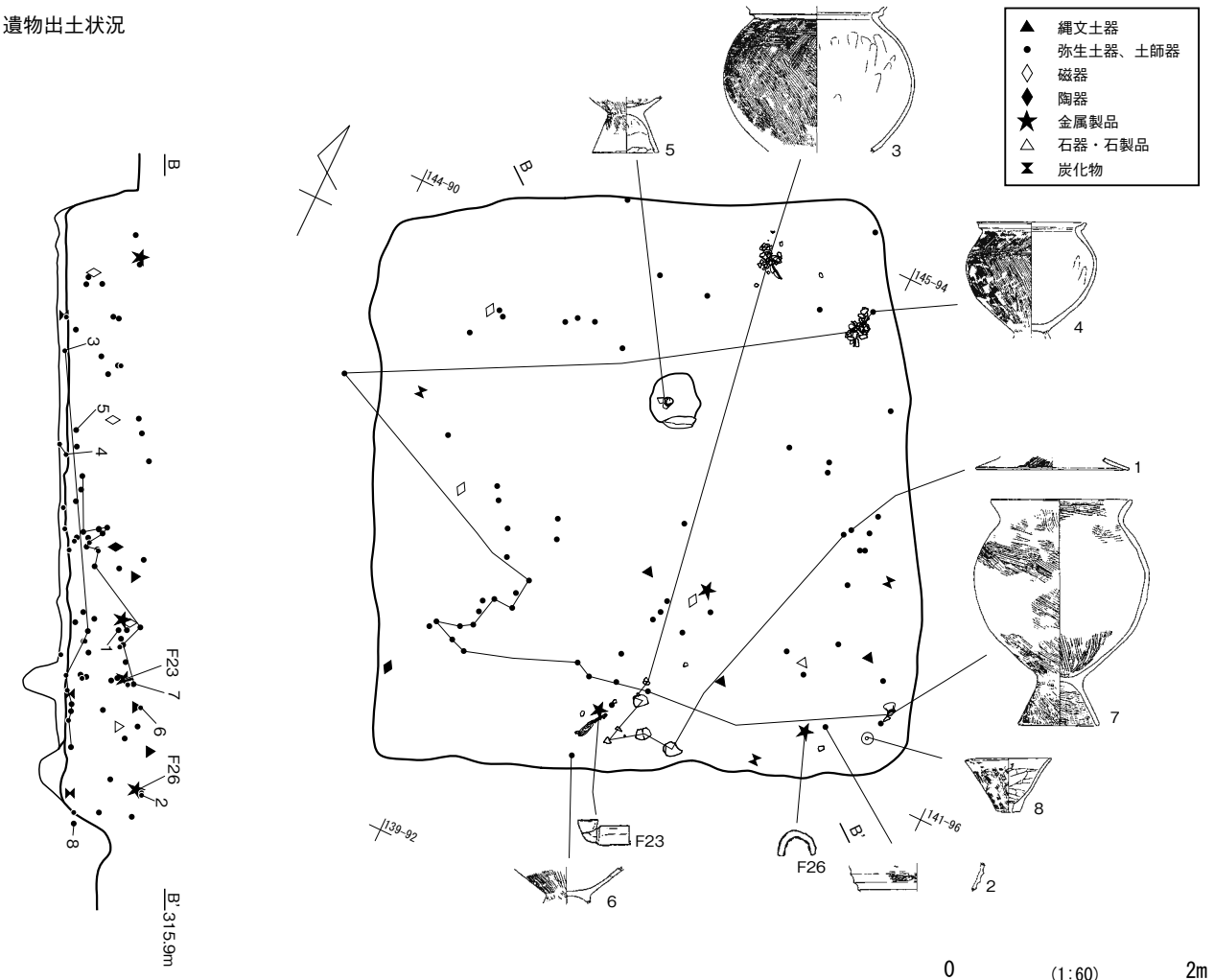
第64図　SI7(1)

炭化材出土状況

掘り方

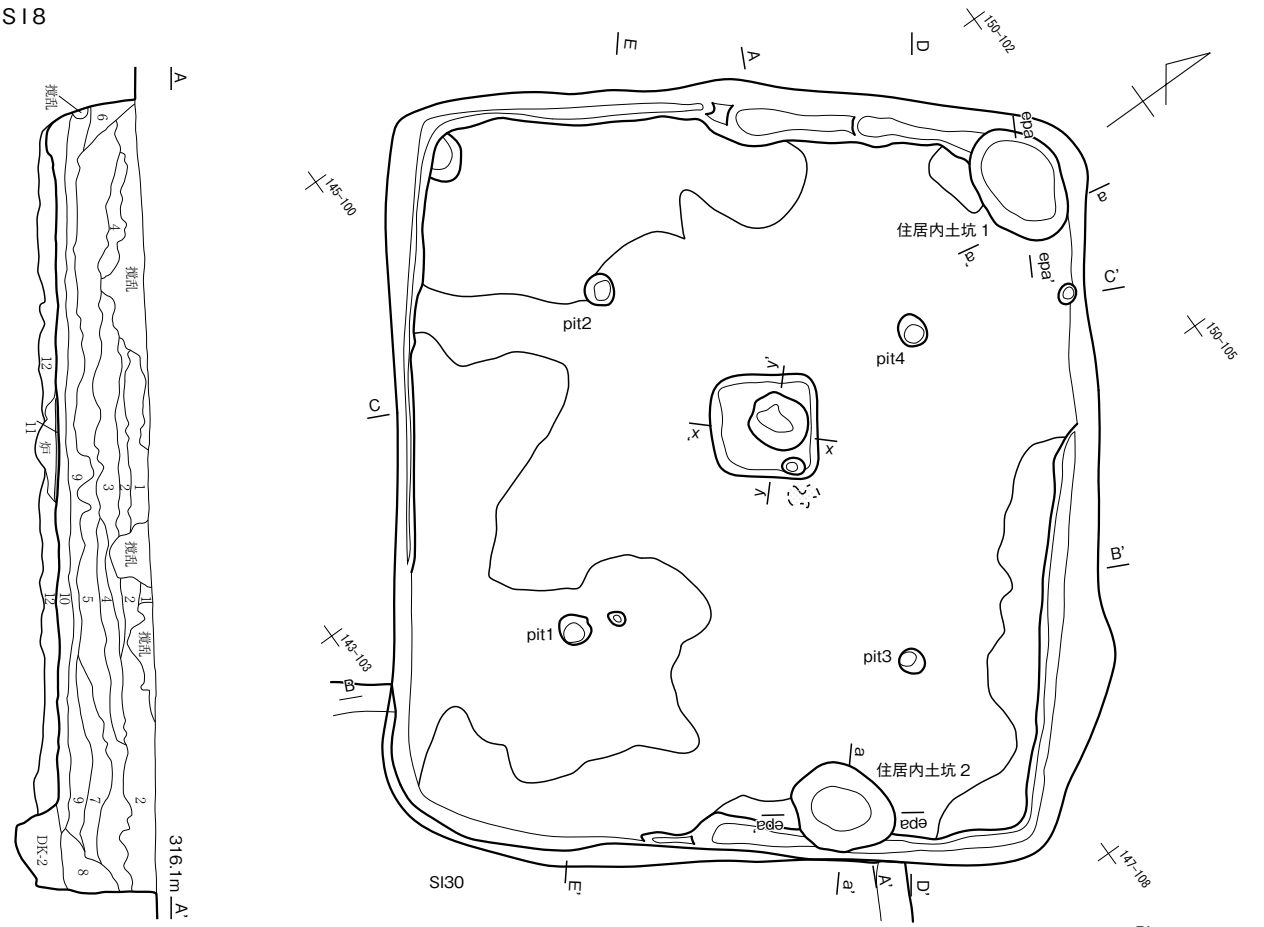


遺物出土状況



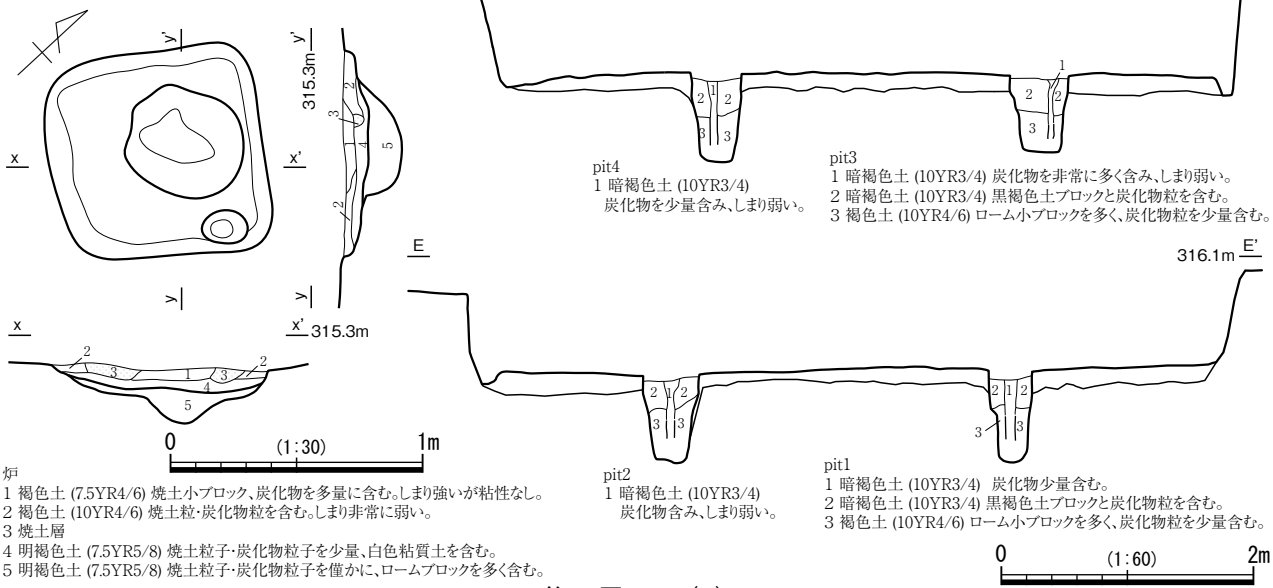
第65図　SI7(2)

SI8



1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロックを多量に含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム小ブロックを多量に含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロックと炭化物粒を含む。
4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黒褐色土ブロックを含む。
5 黄褐色土 (10YR5/6) ローム小ブロックを多量に、黒褐色土ブロックを少量含む。
6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ロームブロックを多量に含む。
7 黄褐色土 (10YR5/8) ロームブロックを多量に含む。
8 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多量に含む。
9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックを多量に炭化物を含む。
10 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム小ブロックを多量に、焼土粒・炭化物粒をやや多く含む。
11 炭化物層
12 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックを少量、ロームブロックを多く含む。

SI8 炉



pit4
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を少量含み、しまり弱い。

pit3
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を非常に多く含み、しまり弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックと炭化物粒を含む。
3 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを多く、炭化物粒を少量含む。

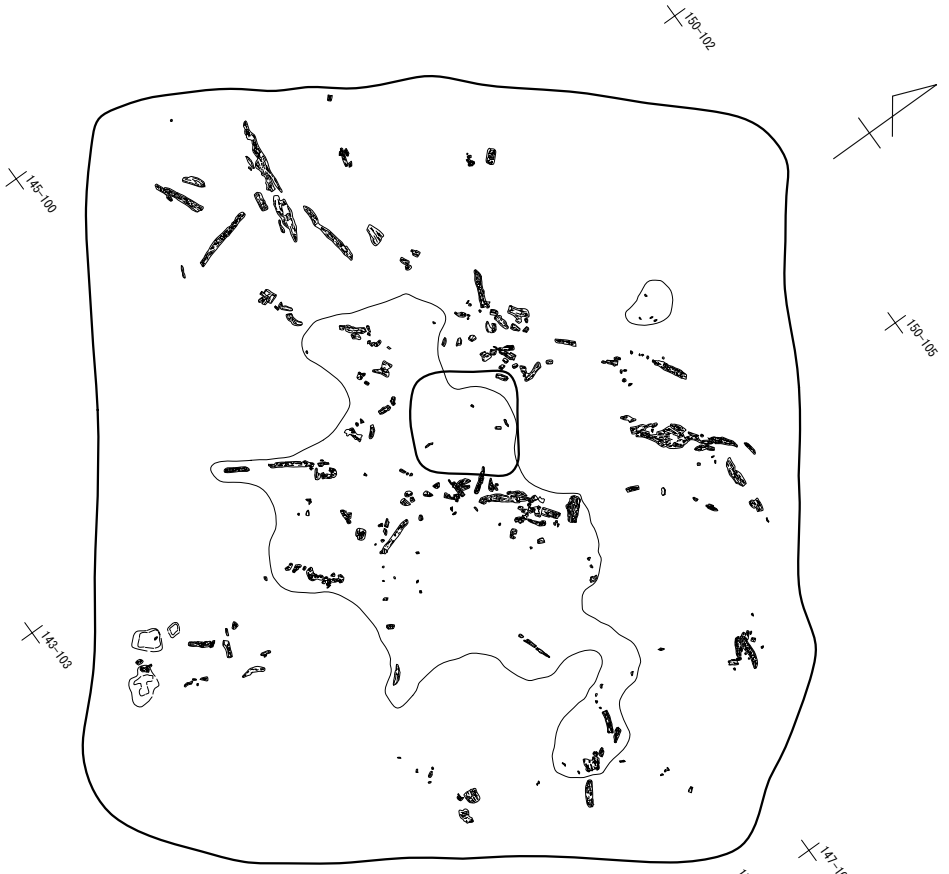
炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土小ブロック、炭化物を多量に含む。しまり強いが粘性なし。
2 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒・炭化物粒を含む。しまり非常に弱い。
3 焼土層
4 明褐色土 (7.5YR5/8) 焼土粒子・炭化物粒子を少量、白色粘質土を含む。
5 明褐色土 (7.5YR5/8) 焼土粒子・炭化物粒子を僅かに、ロームブロックを多く含む。

pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物含み、しまり弱い。

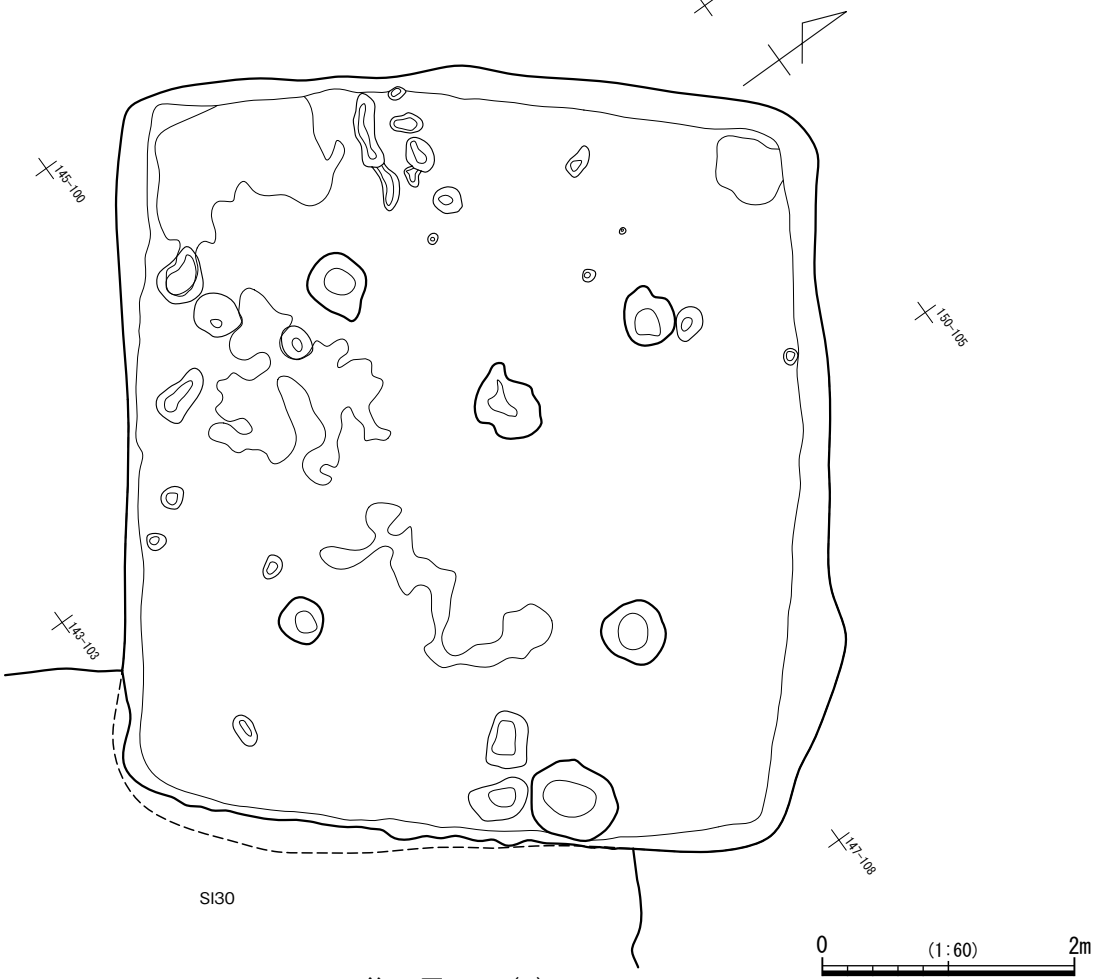
pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックと炭化物粒を含む。
3 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを多く、炭化物粒を少量含む。

第66図 SI8(1)

炭化物出土状況

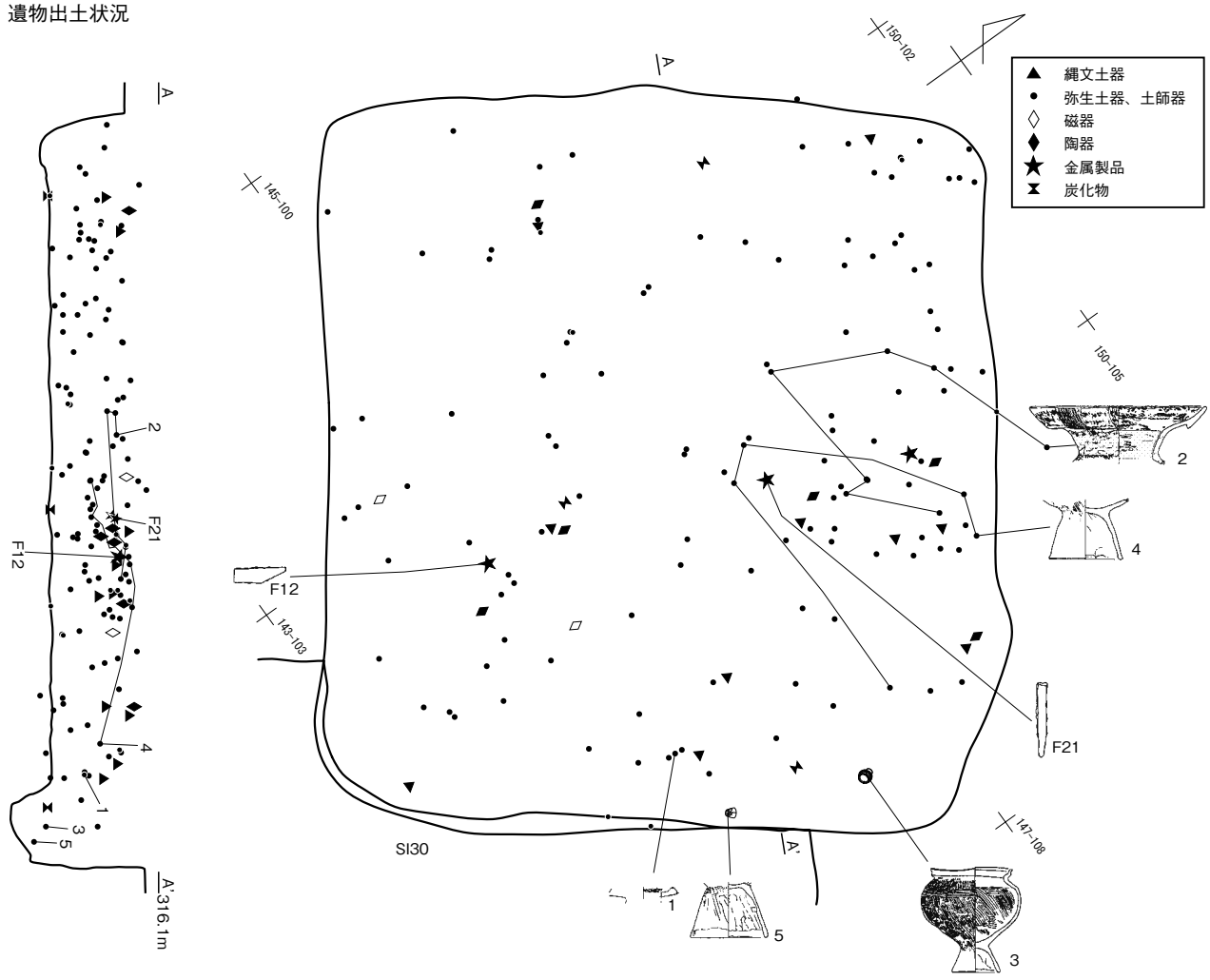


掘り方

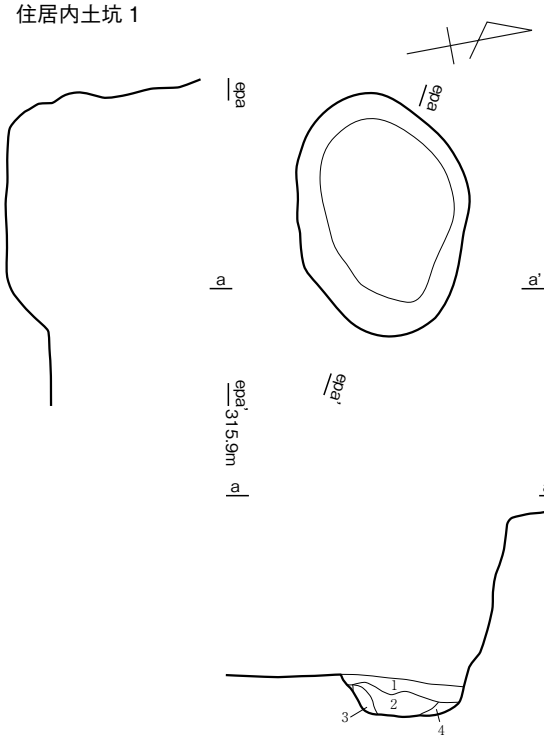


第67図　SI8(2)

遺物出土状況

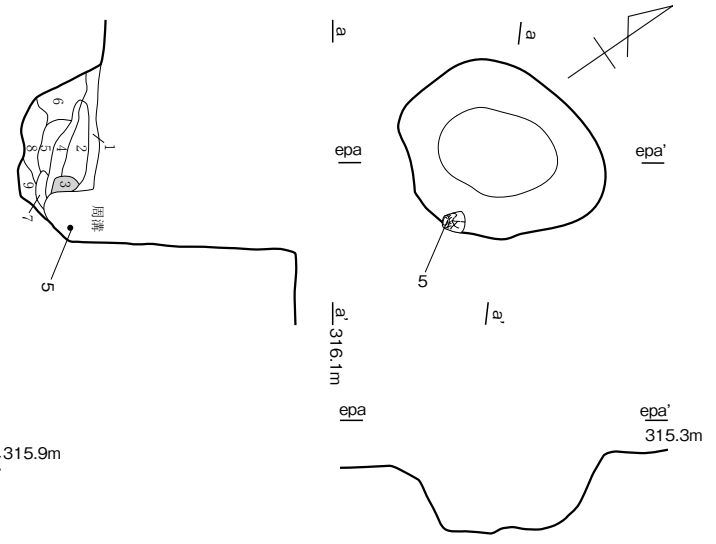


住居内土坑 1



住居内土坑1
1 褐色土 (10YR4/6) 明褐色土粒を少量、黒色ロームブロックを含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土ブロックを含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
4 褐色土 (10YR4/6) 黒色ローム小ブロックを僅かに含む。

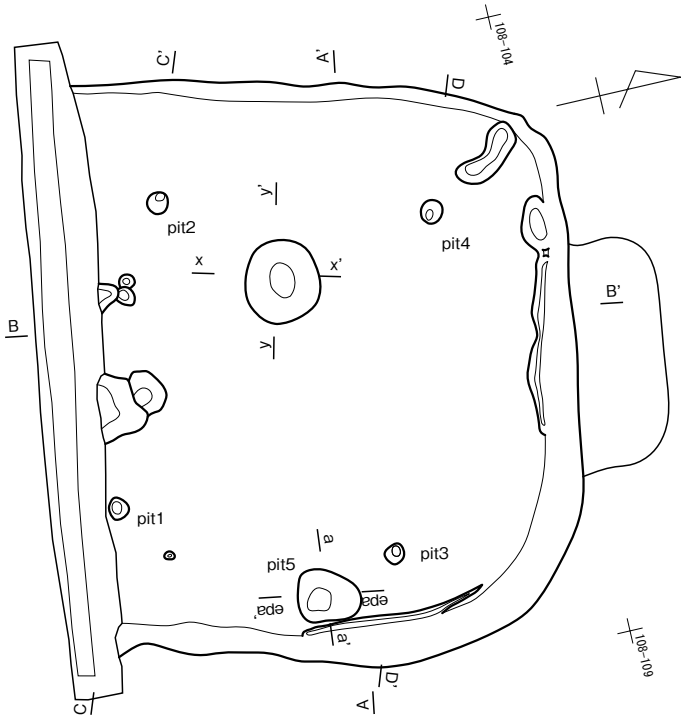
住居内土坑 2

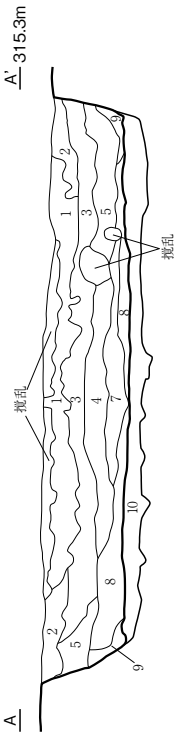


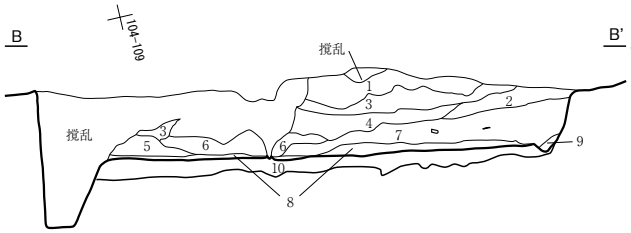
住居内土坑2
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを少量、炭化物、焼土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/7) 炭化物・焼土粒を少量含む。
3 炭化物層
4 極暗赤色土 (5YR2/4) 炭化物・焼土小ブロック多量に含み、粘性無くしまり非常に弱い。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物と明褐色土小ブロック僅かに含む。
6 赤褐色土 (5YR4/8) 褐色粒を少量、炭化物僅かに含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黄褐色土小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を僅かに含む。
9 明褐色土 (7.5YR5/8) 炭化物を僅かに含む。

第68図　SI8(3)

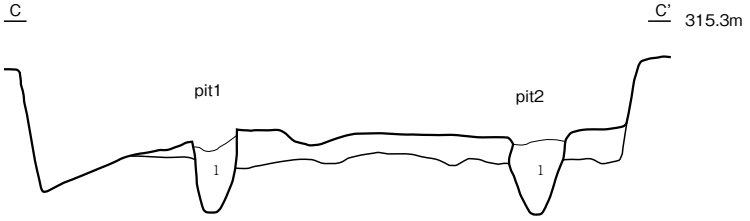
SI9







1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロック多量に含む。
2 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロック多量に含む。
3 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。
4 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。
5 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。
6 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックを多量に含む。
7 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多量に含む。
8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックを多量に、炭化物粒を含む。
9 黄褐色土 (10YR5/8) ロームブロックを多量に含む。
10 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。

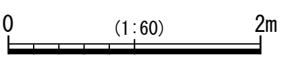


pit1
1 褐色土 (7.5YR4/6)
層下部にローム小ブロック少量含む。

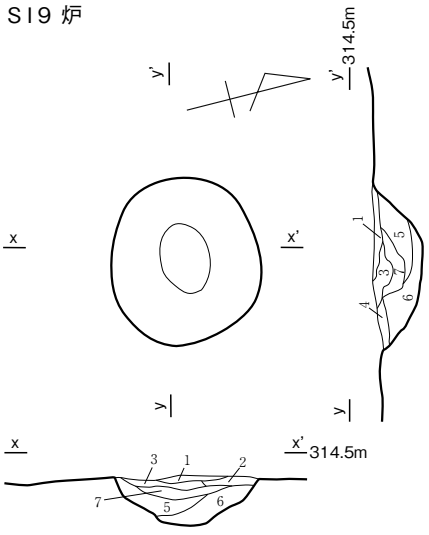
pit2
1 褐色土 (7.5YR4/6)
層上部に炭化物を僅か、下部に
暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。

pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6)
層下部にローム小ブロックを少量含む。

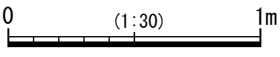
pit3
1 褐色土 (7.5YR4/6)
層下部に暗褐色土粒とローム小ブロックを小量含む。



SI9 炉



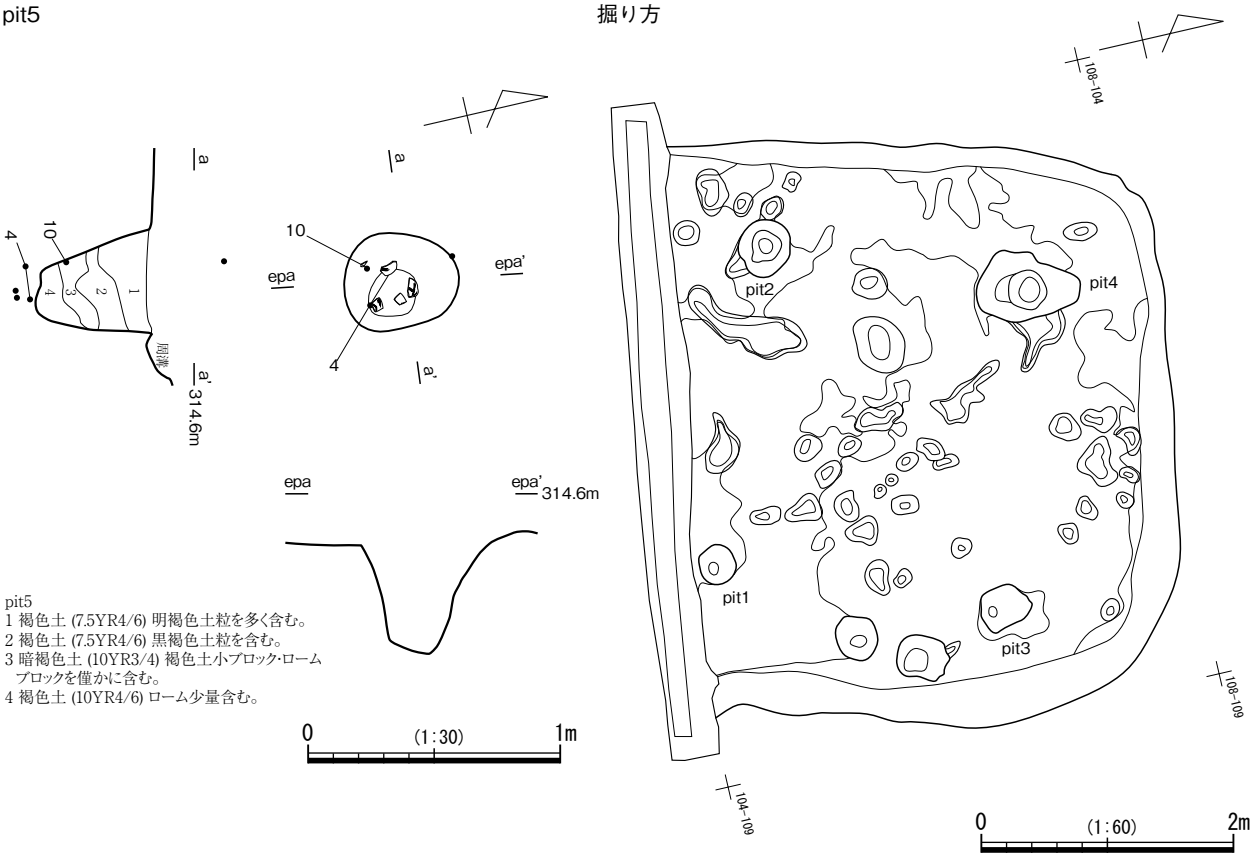
炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物を多量、焼土を少量含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/8) 炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土小ブロックを多量、炭化物を少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土、炭化物、暗褐色土粒僅かに含む。
5 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土粒少量、ローム小ブロックを僅かに含む。
6 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土粒僅か、ローム小ブロックを少量含む。
7 焼土層



第69図　SI9(1)

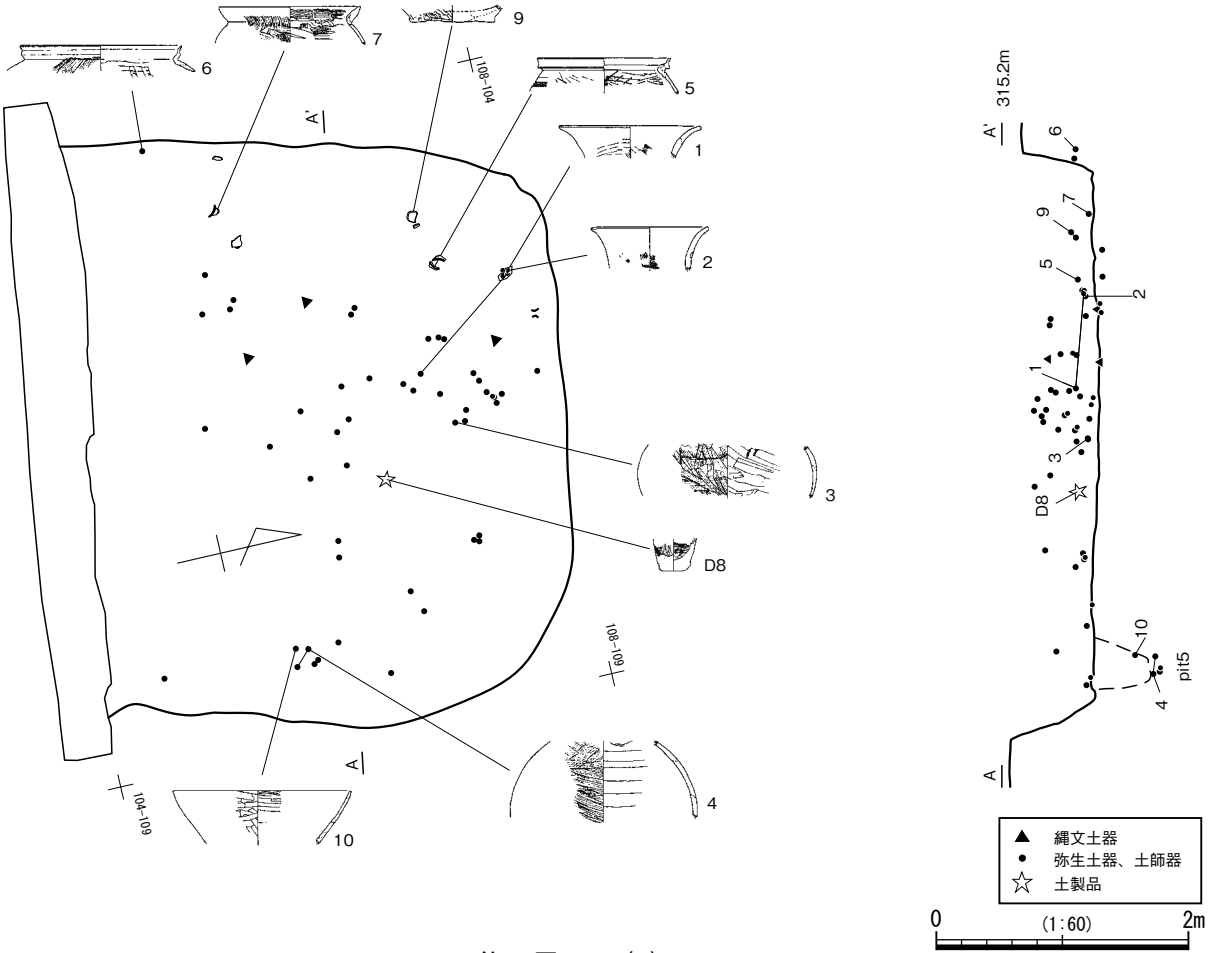
pit5

掘り方



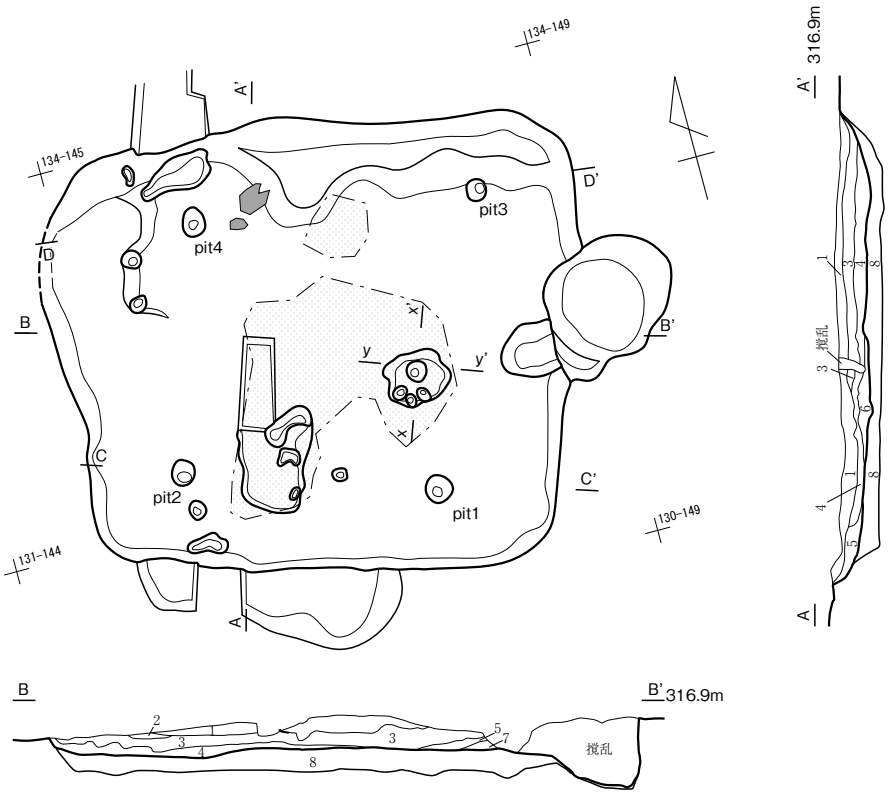
pit5
1 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土粒を多く含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土粒を含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロック・ローム
ブロックを僅かに含む。
4 褐色土 (10YR4/6) ローム少量含む。

遺物出土状況



第70図　SI9(2)

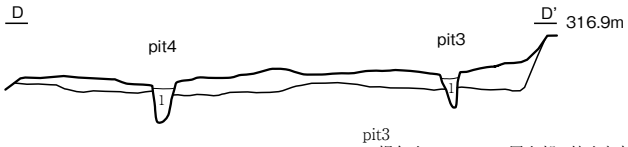
SI10



SI10
1 褐色土 (10YR4/6) 黄褐色土粒を少量、焼土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色土粒を少量、焼土粒を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物・焼土を含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土粒と焼土粒を少量、炭化物を僅かに含む。
5 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物・焼土粒、ローム小ブロックを含む。
7 黄褐色土 (10YR5/6) 黒褐色粒と炭化物を僅かに、ローム小ブロック含む。しまりやや強い。
8 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックを少量、ロームを多く含む。しまり強い。

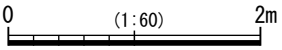
pit2
1 褐色土 (10YR4/4) 層上部に焼土を僅かに、
炭化物を少量、層下部にローム小ブロックを少量含む。

pit1
1 褐色土 (10YR4/6) 層上部に焼土を僅かに、
炭化物を少量、層下部にローム小ブロックを少量含む。

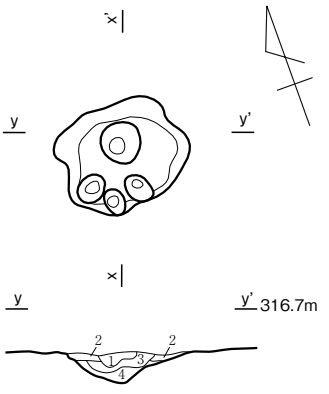


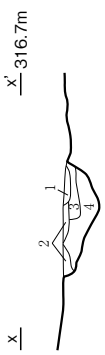
pit4
1 褐色土 (10YR4/4) 層上部に焼土と炭化物を僅か、
層下部にローム小ブロックを多く含む。

pit3
1 褐色土 (10YR4/4) 層上部に焼土を少量、
炭化物を僅か、層下部にローム小ブロックを多く含む。

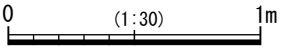


SI10 炉



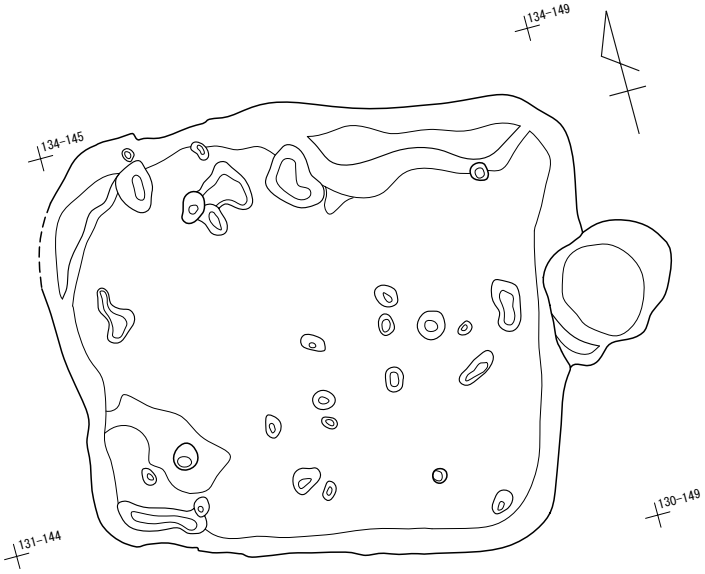


炉
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物多量、焼土粒僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物非常に多量、焼土粒多量に含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物少量、焼土粒僅かに含む。しまり非常に強い。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物僅かに、焼土粒少量含む。暗褐色土小B少量含む。

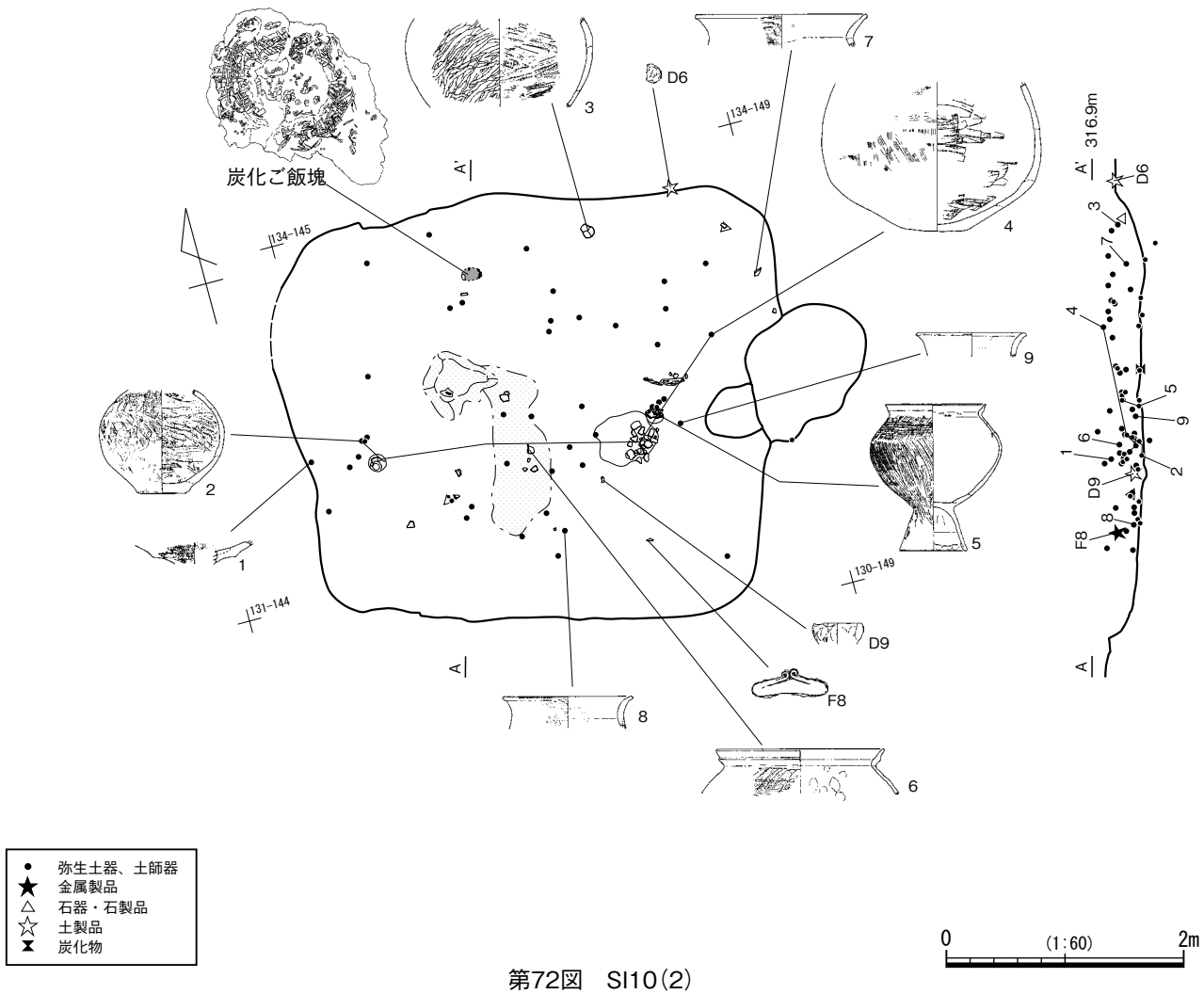


第71図　SI10(1)

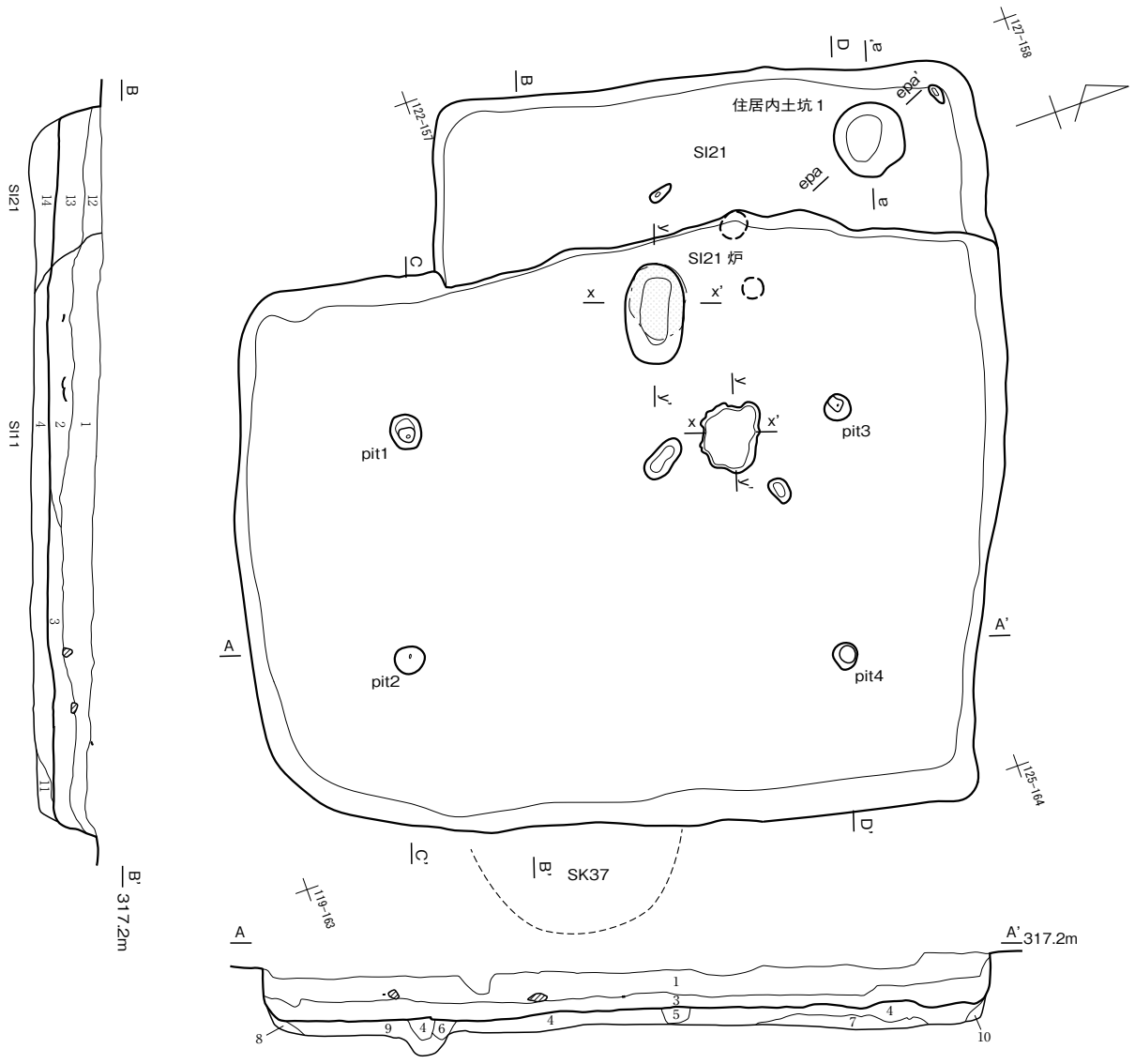
SI10 掘り方



遺物出土状況



第72図　SI10(2)

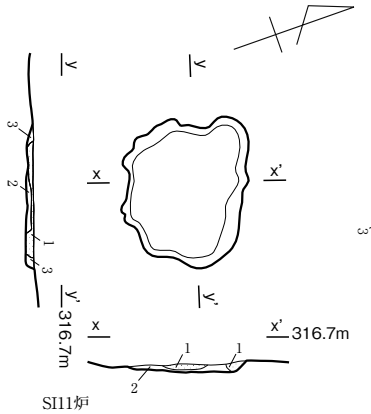


1 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを少量、暗褐色土ブロックを含む。
2 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。
3 褐色土(10YR4/4) ローム小ブロックを含む。しまり強い。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。(Pit2を含む。)
5 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。
6 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを少量含む。しまり弱い。
7 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。やや粘性あり。
8 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを含む。
9 黄褐色土 (10YR5/6) ローム小ブロック、暗褐色粒を少量含む。
10 明黄褐色土 (10YR6/8　ローム粒を含む。しまり強い。
11 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
12 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを少量含む。(SI21)
13 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを少量、暗褐色土ブロックを含む。(SI21)
14 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。(SI21)

0　(1:60)　2m

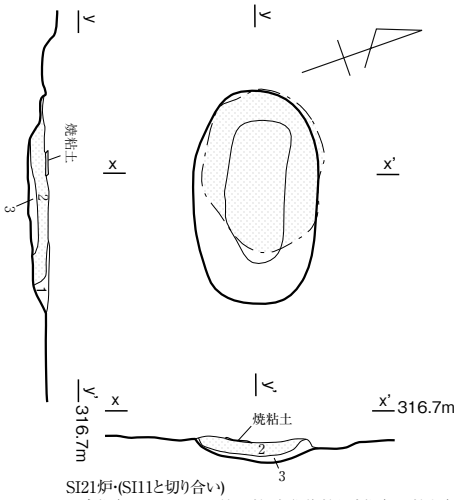
第73図　SI11・21、SK37(1)

SI11 炉



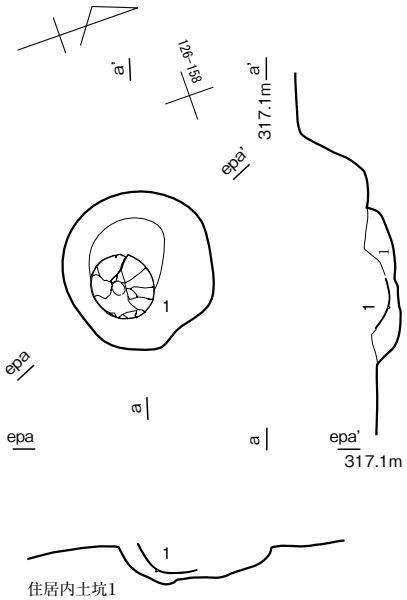
SI11炉
1 焼土層
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を極僅かに、ローム小ブロックを少量含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黄褐色粘土を少量、炭化物を僅かに含む。しまり弱い。

SI21 炉



SI21炉･(SI11と切り合い)
1 赤褐色土 (5YR4/8) 焼土粒･炭化物粒と暗褐色土粒を含む。
2 焼土層
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。

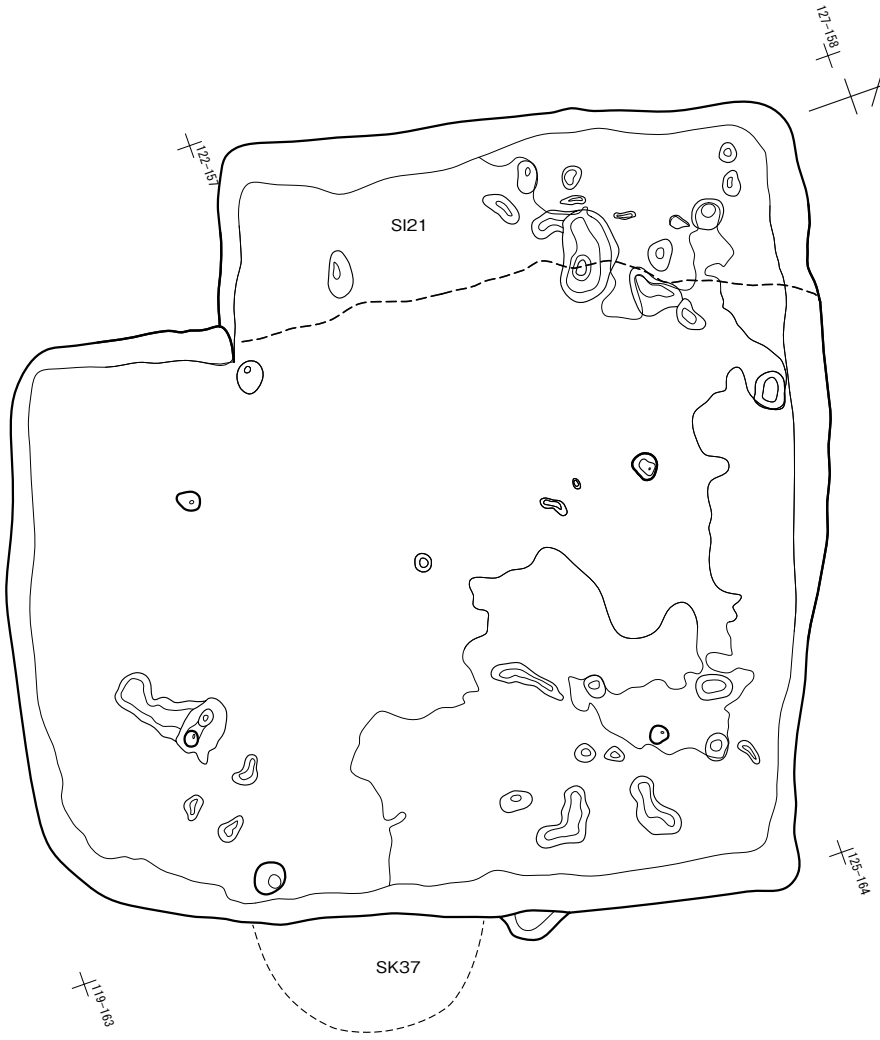
SI21 住居内土坑 1



住居内土坑1
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物と、粘性の強い明褐色土小ブロックを少量含む。ロームを僅かに含む。

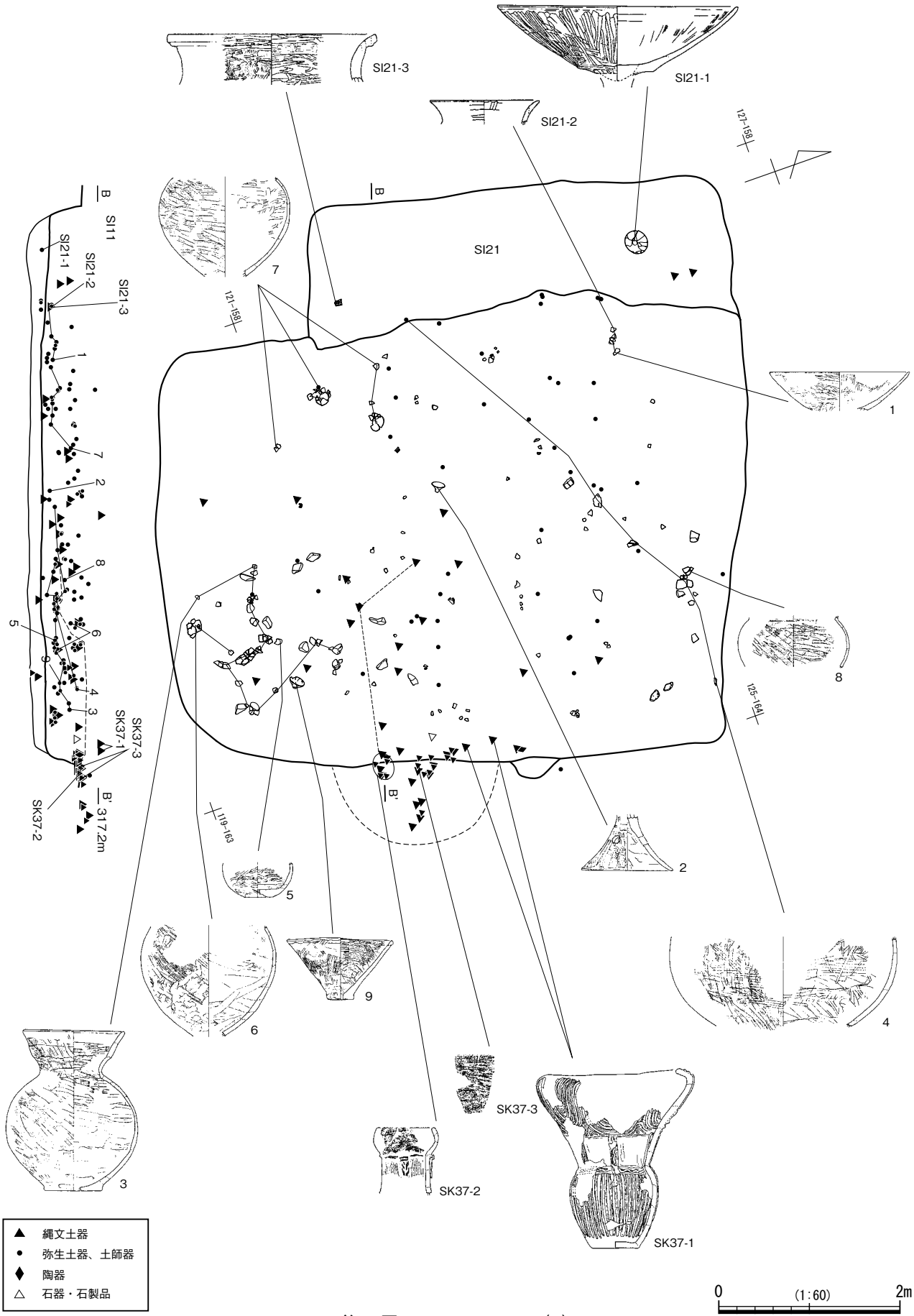
0 (1:30) 1m

SI11・21 掘り方

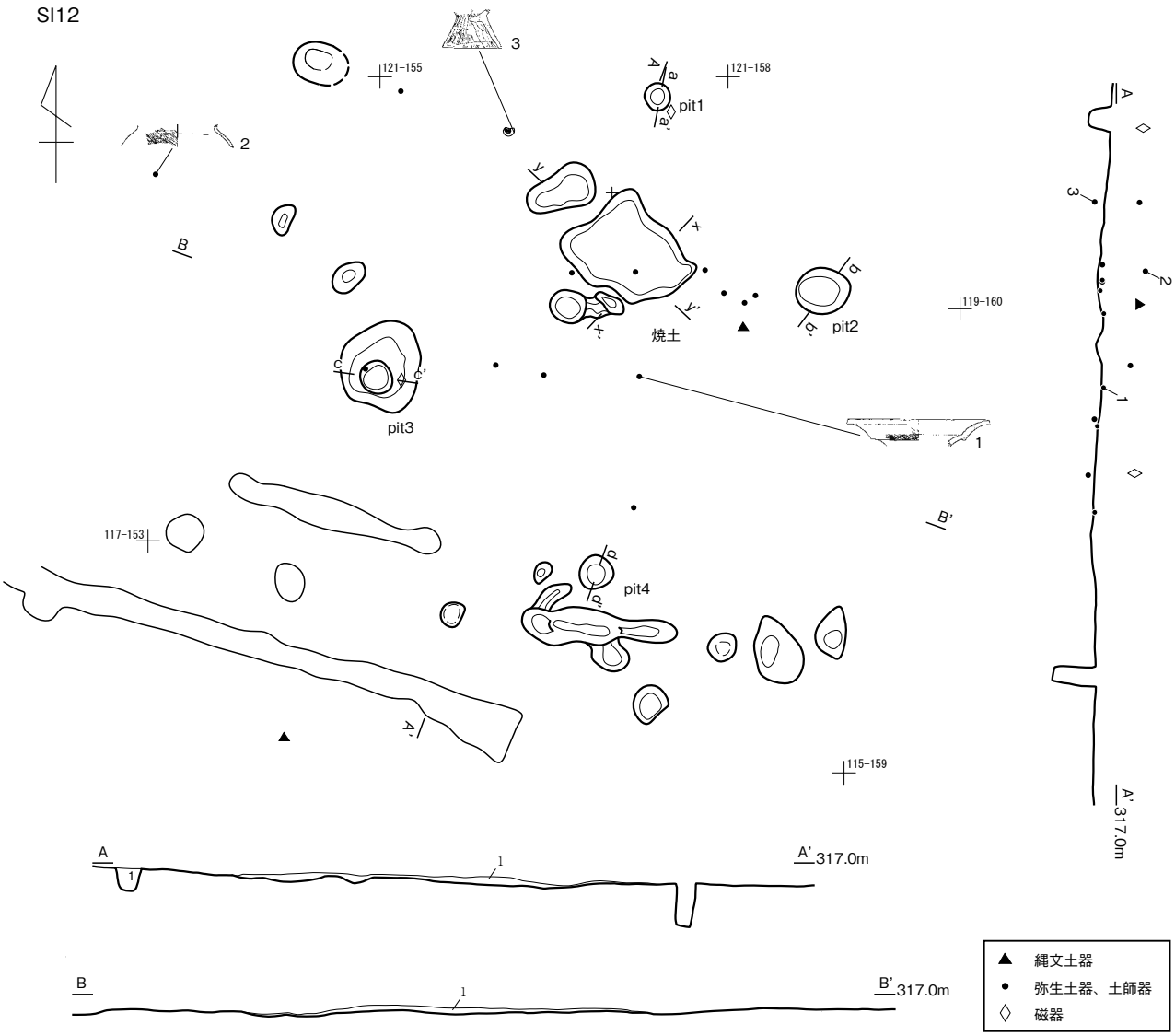


0 (1:60) 2m

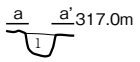
第74図　SI11･21、SK37(2)



第75図　SI11・21、SK37(3)



pit1

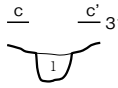


pit1
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土粒と
ローム小ブロックを少量含む。

pit2

pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土粒と褐色土小ブロックを
少量、層下部に黄褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。
2 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを多く含む。

pit3

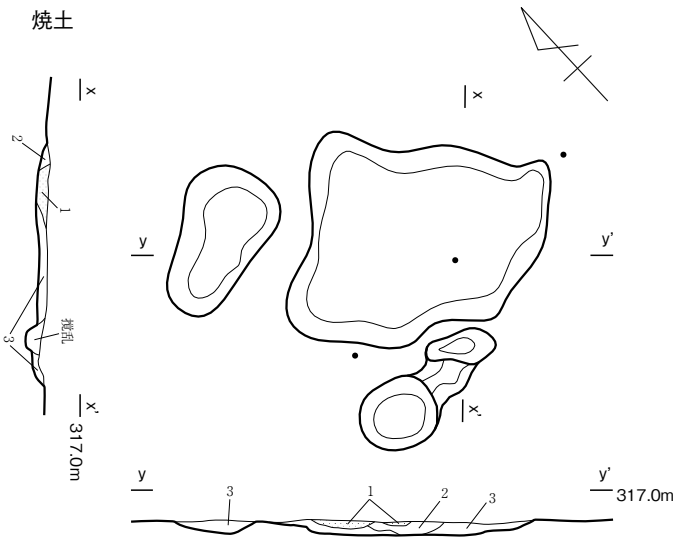


pit3
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土粒と
ローム小ブロックを少量含む。

pit4

pit4
1 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土粒子と
ロームブロックを少量含む。

焼土

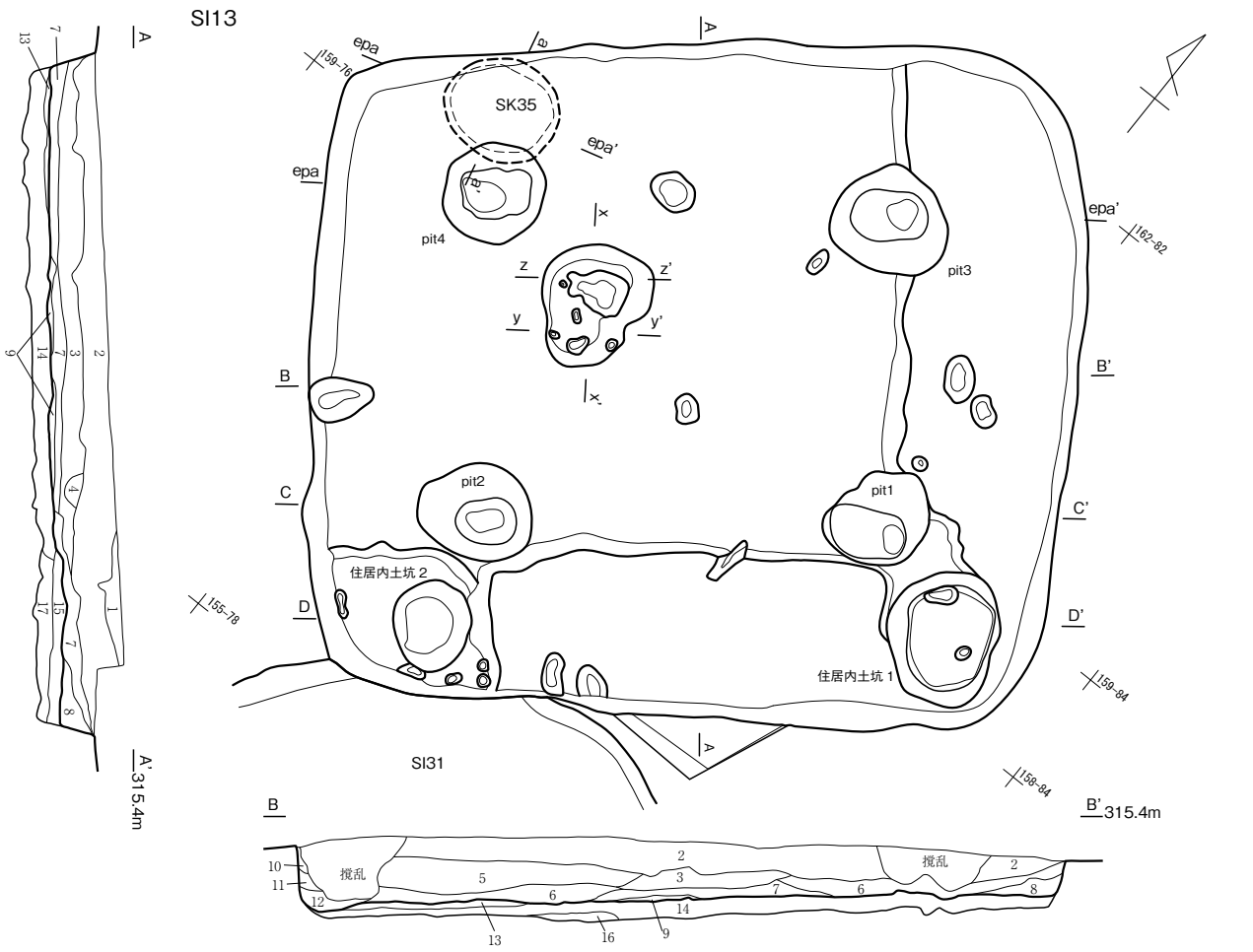


焼土範囲
1 焼土層
2 明褐色土 (7.5YR5/8) 焼土粒多量、褐色土粒少量含む。
3 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒子少量含む。

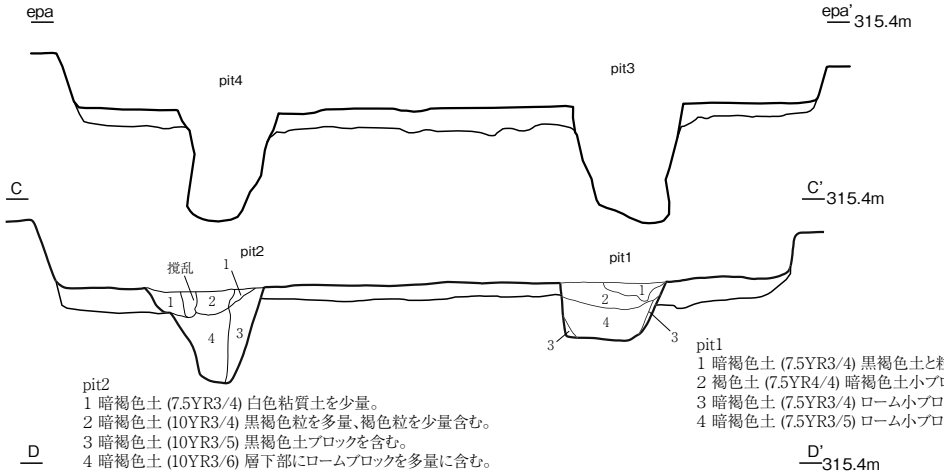
0 (1:60) 2m

0 (1:30) 1m

第76図　SI12

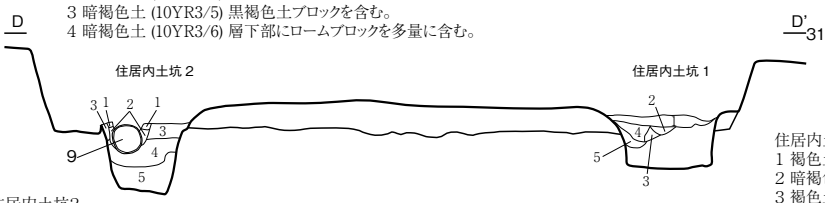


1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒、炭化物粒を極僅かに、褐色粒を僅かに含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土ブロックを多量に、焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。
3 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土ブロックを非常に多量、黒褐色土ブロックを少量含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を僅かに含む。
5 褐色土 (10YR4/6) 明褐色土をまだらに含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒、ローム小ブロックを少量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒とローム粒を多量に含む。
8 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒とローム粒を少量含む。しまり強い。
9 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックを多量に、褐色土小ブロックを少量含む。やや粘性あり。
10 褐色土 (7.5YR4/3) 黒褐色粒を少量含む。しまり強い。
11 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) 黒褐色土小ブロックと粒子の粗い明褐色粒を多く含む。
12 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黒褐色土小ブロックを少量含む。やや粘性あるがしまり弱い。
13 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロック、ローム小ブロックを含む。
14 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック、ローム小ブロックを含む。
15 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色粒とローム粒を少量含む。しまり強い。
16 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱い。
17 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を極僅かに、暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。しまり強い。



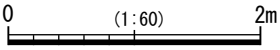
pit2
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 白色粘質土を少量。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色粒を多量、褐色粒を少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/5) 黒褐色土ブロックを含む。
4 暗褐色土 (10YR3/6) 層下部にロームブロックを多量に含む。

pit1
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土と粒子の粗い褐色粒を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム小ブロックを含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/5) ローム小ブロックを多量に含む。



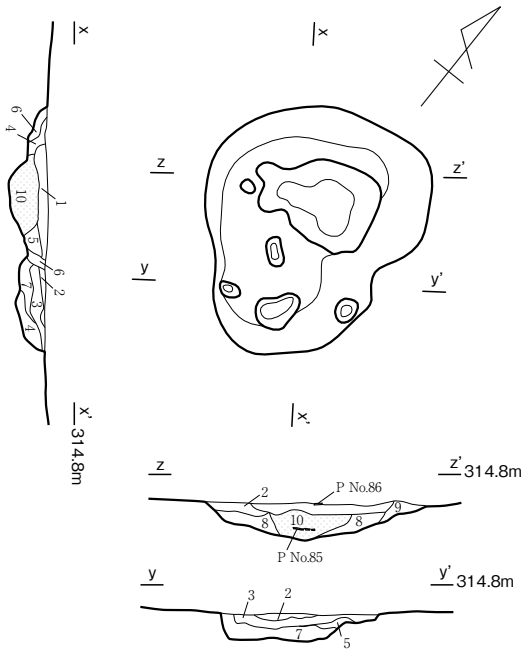
住居内土坑2
1 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土をまだらに、明褐色粒を少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 明褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を僅かに、明褐色粒を含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) 明褐色粒を含む。
5 褐色土 (7.5YR4/3) 暗褐色土小ブロックを少量含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 褐色粒を多量に、焼土粒を僅かに含む。

住居内土坑1
1 褐色土 (10YR4/6) 明褐色粒を含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒を含む
3 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粒子の粗い褐色粒を含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物を僅かに含む。

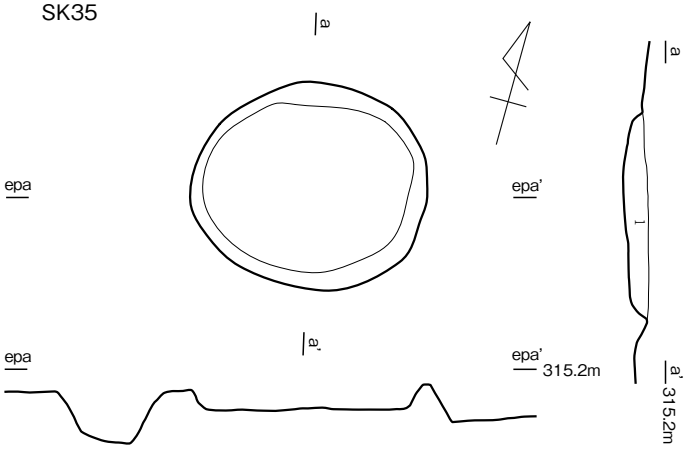


第77図　SI13(1)

SI13 炉



SK35

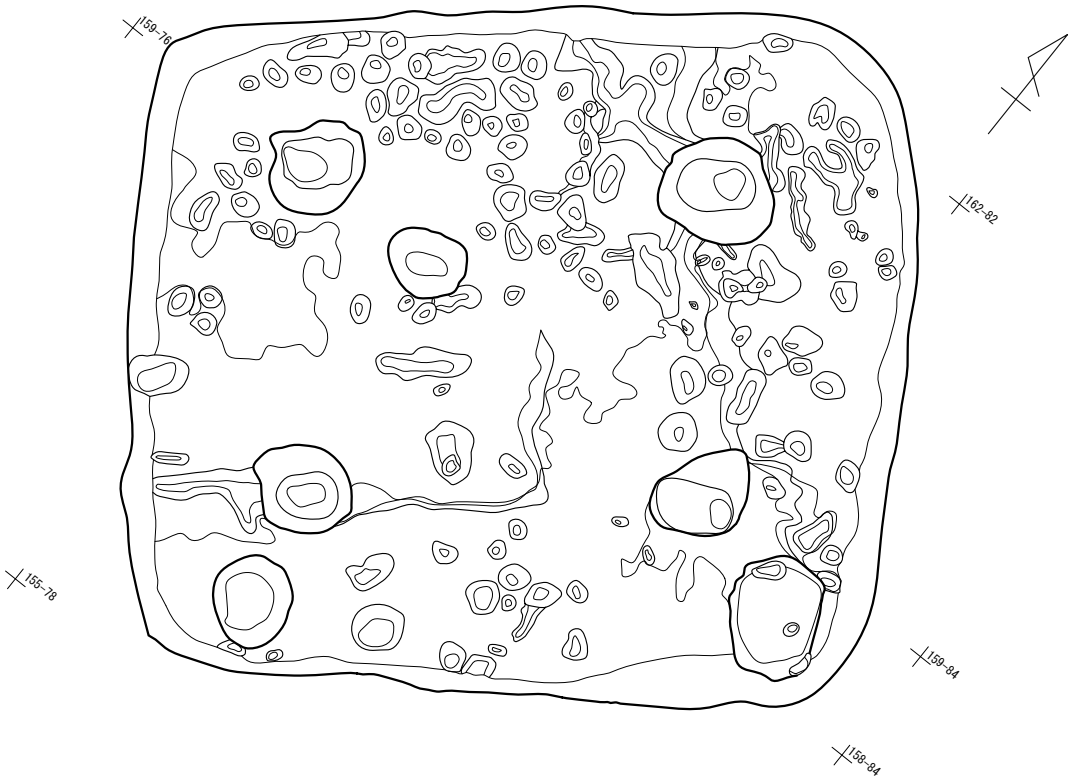


SK35
1 暗褐色土（10YR3/4）炭化物極僅かに、褐色土小ブロック、褐色粒を含む。

炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土と焼土粒を少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土を多量に含む。しまり弱い。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・焼土粒を少量含む。
4 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。
5 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土ブロックを含む。しまり弱い。
6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 褐色粒と焼土を含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性のある黒色土を少量含む。
8 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土を少量、焼土小ブロックを含む。
9 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土、炭化物を少量含む。
10 焼土層

0 (1:30) 1m

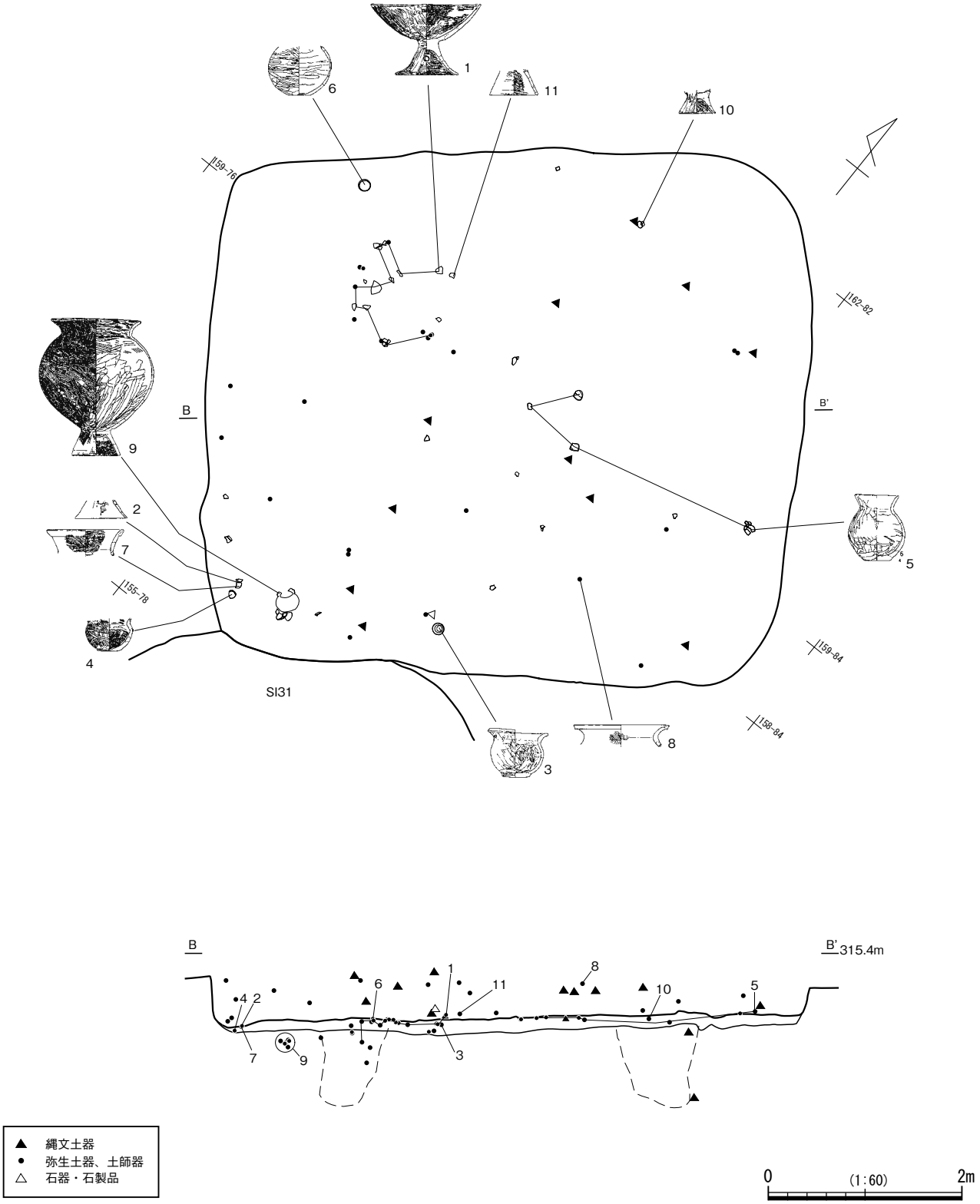
掘り方



0 (1:60) 2m

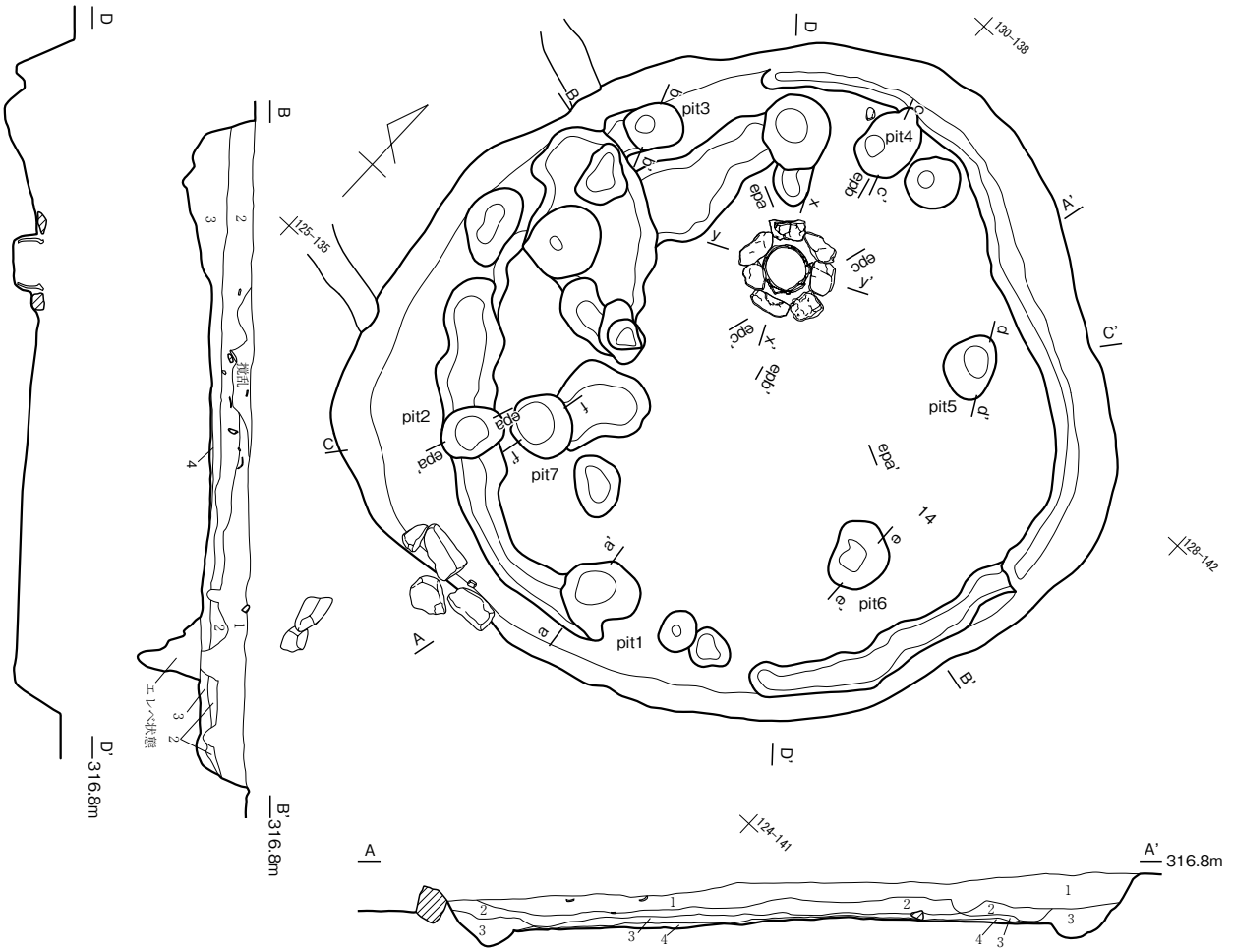
第78図　SI13(2)

遺物出土状況

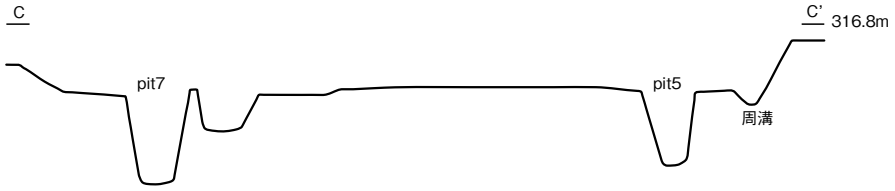


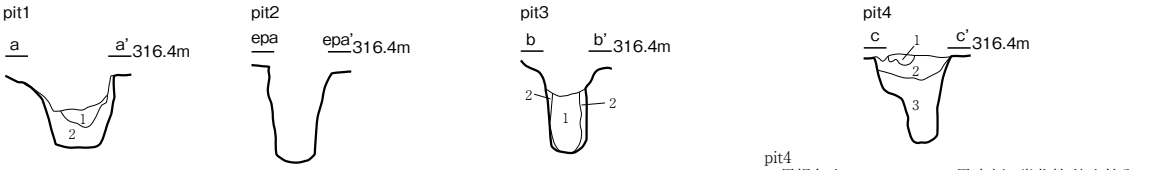
第79図　SI13(3)

SI14



1 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色粒・焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ローム小ブロックを少量、炭化物粒を僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを非常に多く含む。しまり強い。





pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒主、2層よりも黄味あり。
炭化粒、焼土粒入。しまりあり。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒入。しまり、粘性あり。

pit3
1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒入り
しまりやや弱い。柱痕状。
2 褐色土 (10YR4/4) 壁際黄色味あり。
炭化粒入。

pit4
1 黒褐色土 (10YR3/2) やや黒味あり。炭化粒・焼土粒入。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム土主、3層よりもやや黄味あり。
3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム土主。

pit5
1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒入。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化粒入。ローム土主。
3 褐色土 (10YR4/4) 壁際ローム土主。黄味あり。

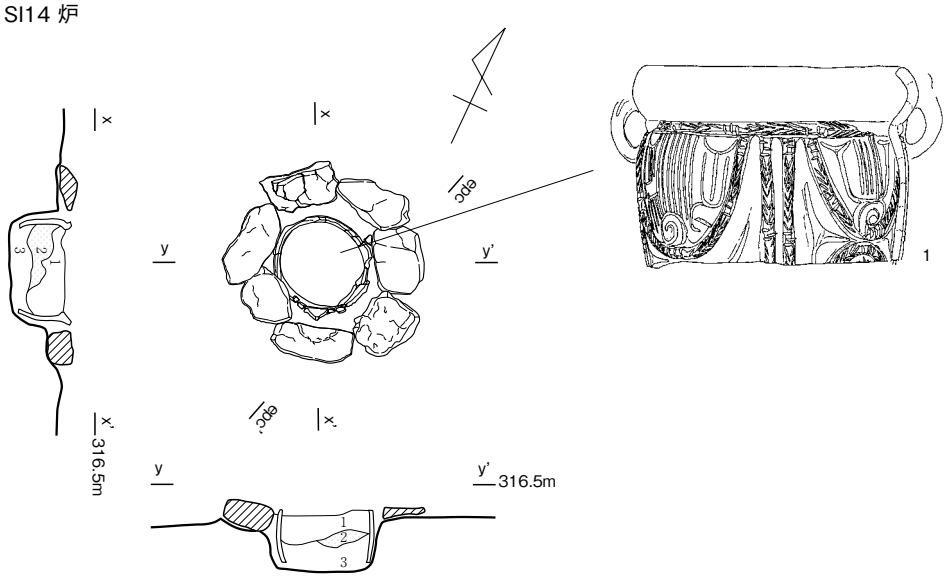
pit6
1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化粒やや多。
焼土粒入。ローム土主。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム土主。

SI14Pit7
1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム土主。
2 暗褐色土 (10YR3/4)
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム土主。
粘性しまりあり。地山に近い。

0 (1:60) 2m

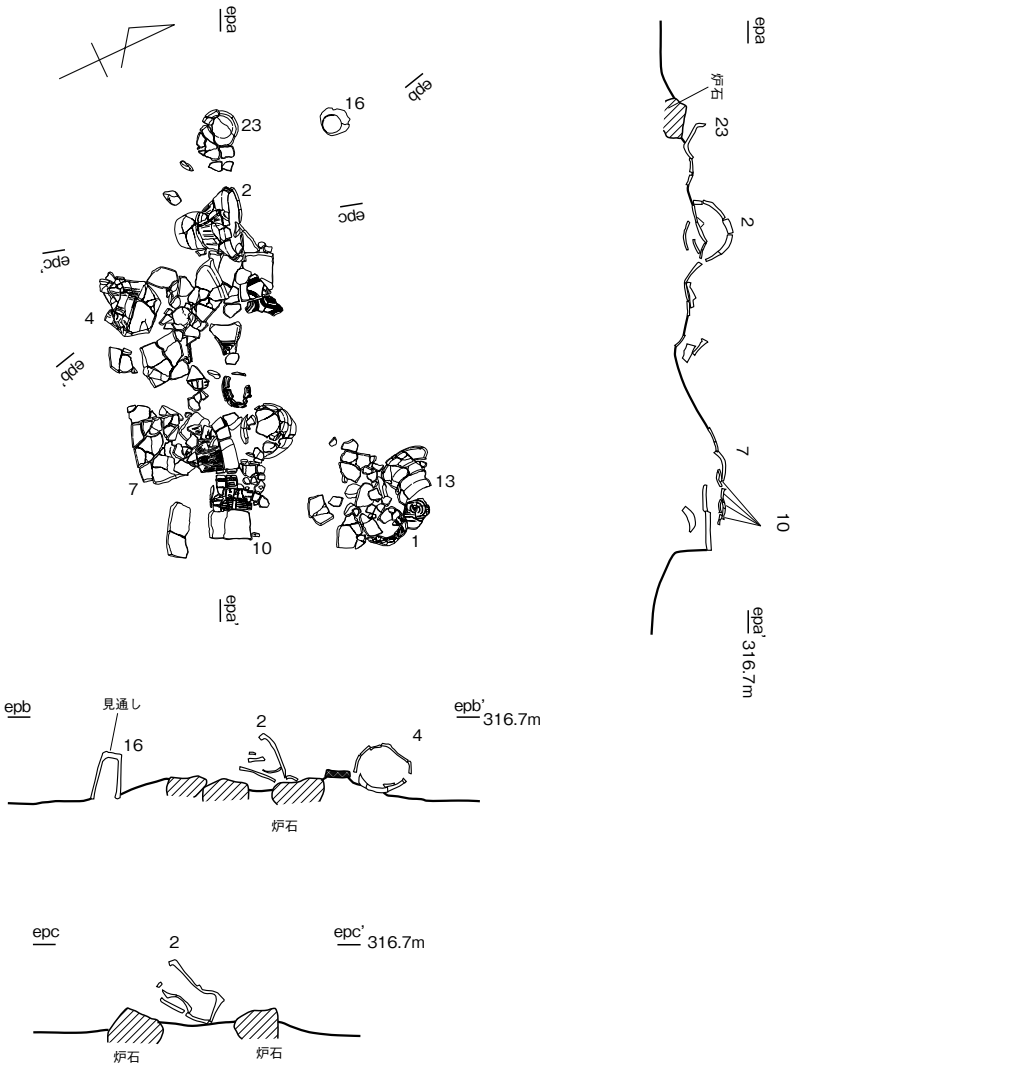
第80図　SI14(1)

SI14 炉



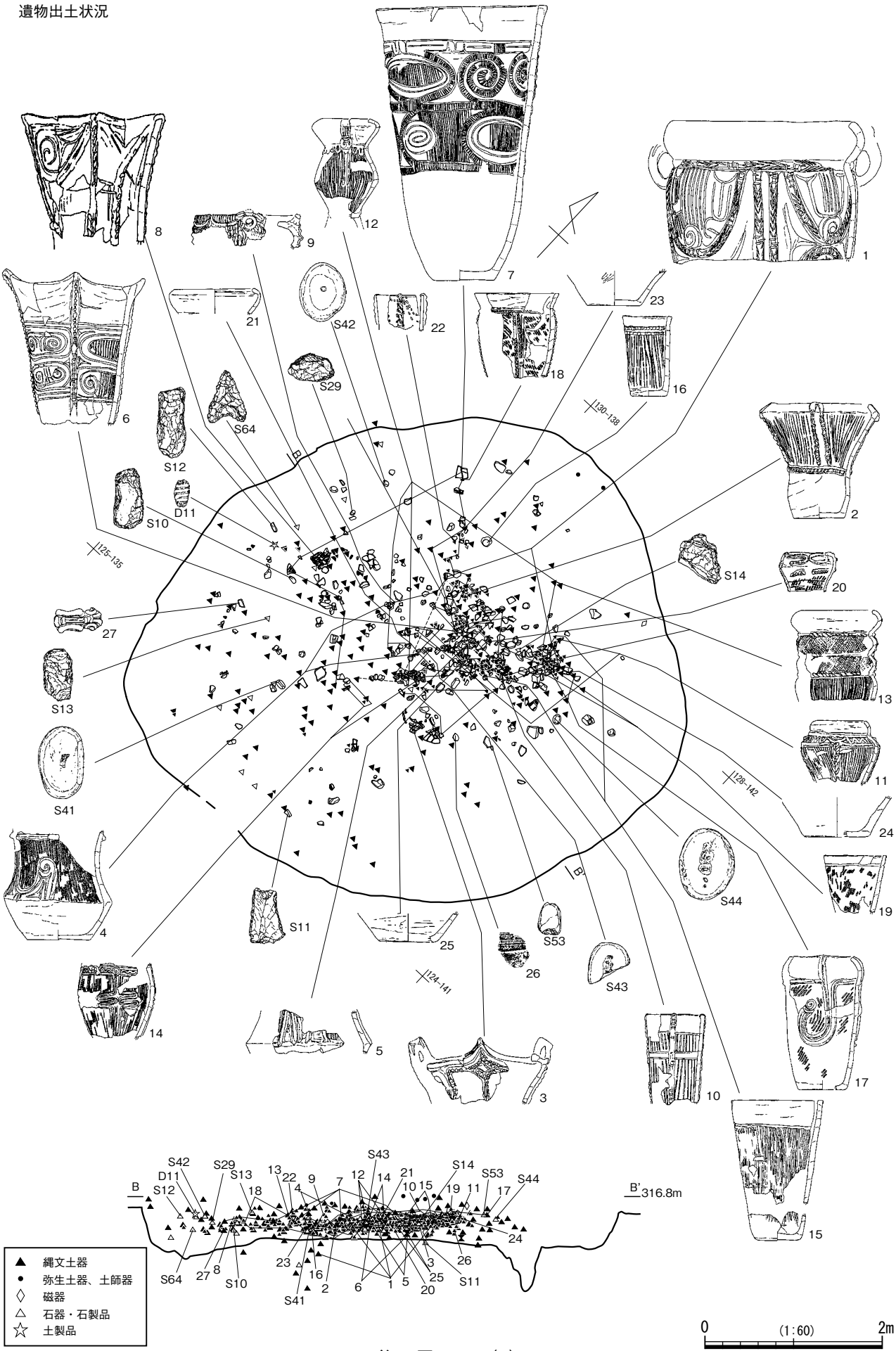
炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒を少量、焼土粒炭化物を僅かに含む。
2 焼土層
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土粒を含む。

遺物出土図



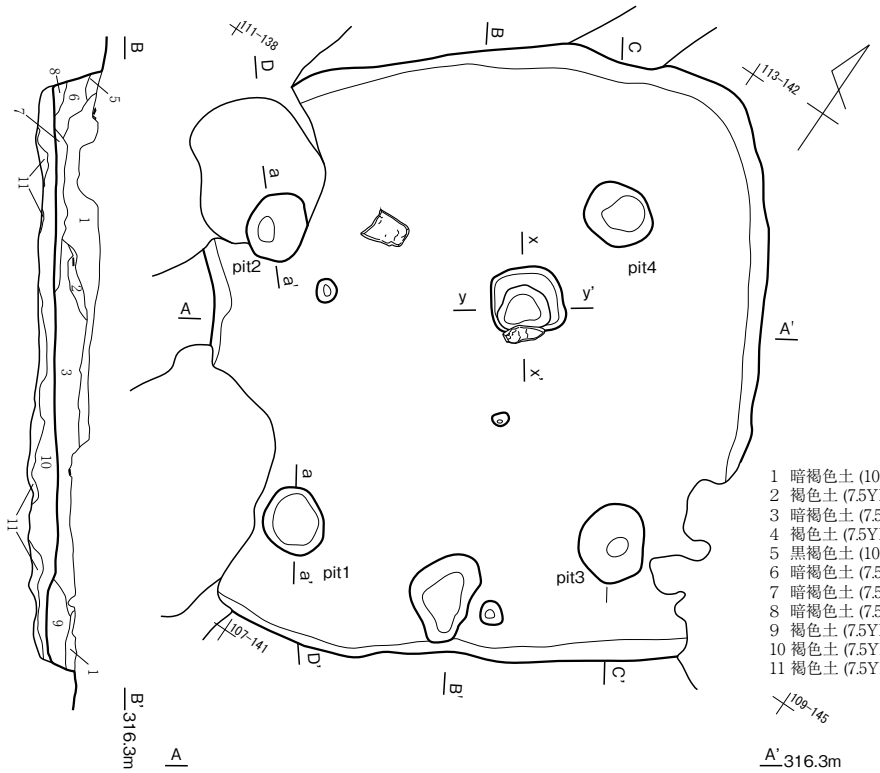
第81図　SI14(2)

遺物出土状況

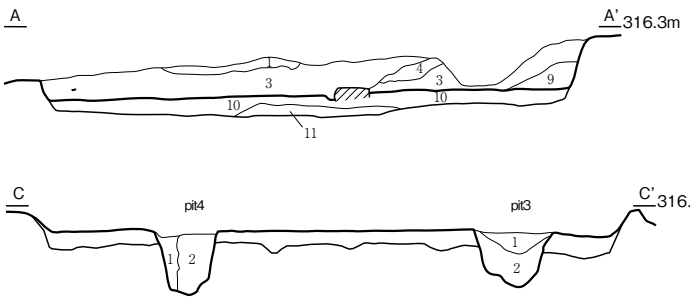


第82図　SI14(3)

SI15

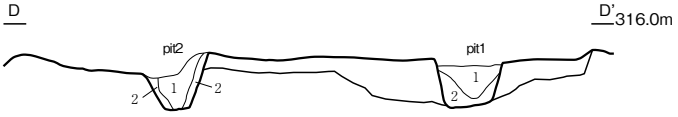


1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを多量に含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを多量に含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土小ブロックを非常に多量に含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色粒とローム小ブロックを少量含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3) 暗褐色粒を僅かに含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黄褐色土小ブロックを少量含む。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを少量含む。
8 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色粒を少量、ローム小ブロックを僅かに含む。
9 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土粒とローム小ブロックを少量含む。
10 褐色土 (7.5YR4/3) ローム小ブロックを含む。しまり強い。
11 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。



pit4
1 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土粒を極僅かに含む。しまりややゆるい。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。

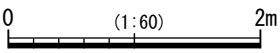
pit3
1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。

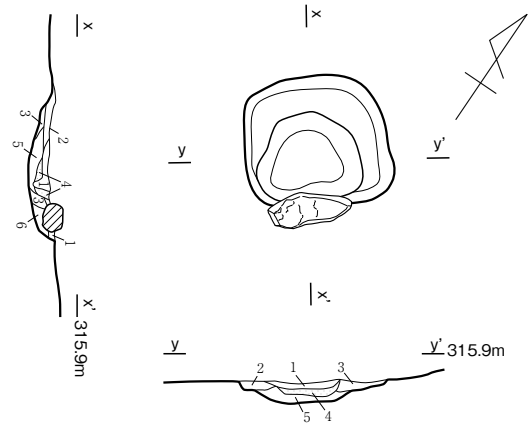


pit2
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 粒子の粗い褐色粒を多く含む。しまりややゆるい。

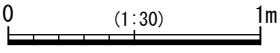
pit1
1 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロック少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック少量含む。しまりゆるい。

SI15炉





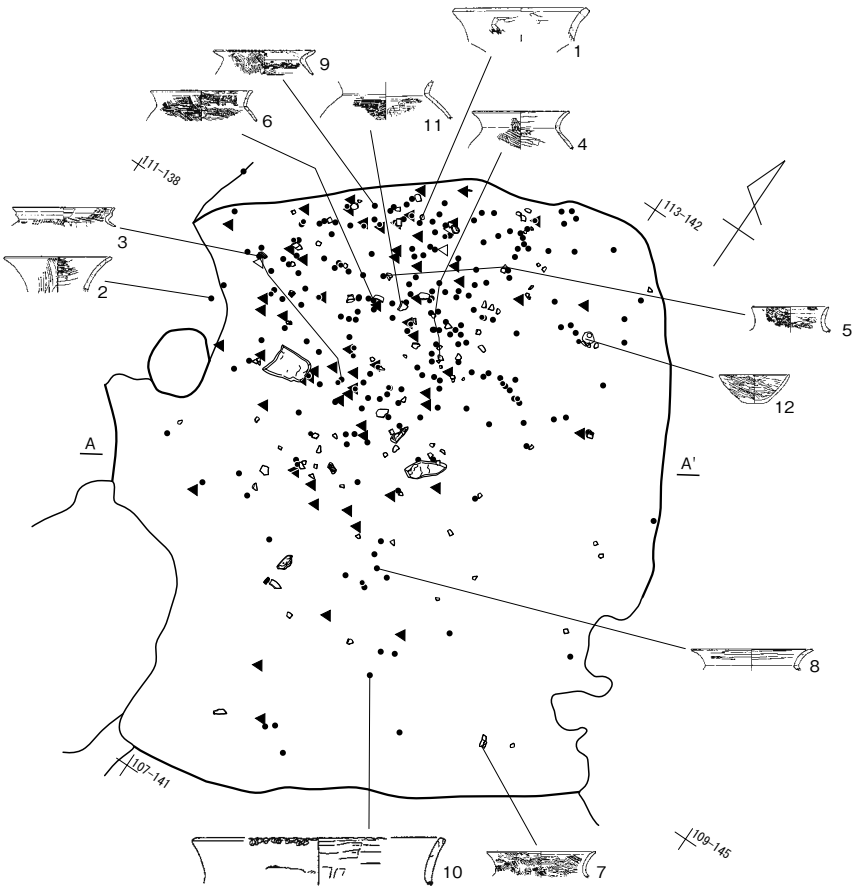
炉
1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒、炭化物粒と褐色土小Bを含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を多量、焼土粒を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土粒・炭化物粒を僅かに、ローム粒を少量含む。
4 焼土層
5 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒を多量に含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒・炭化物粒を極僅かに含む。しまり強く、やや粘性あり。

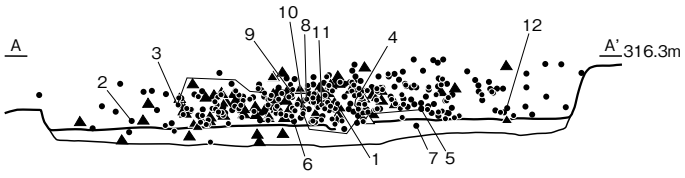


第83図　SI15(1)

掘り方

遺物出土状況



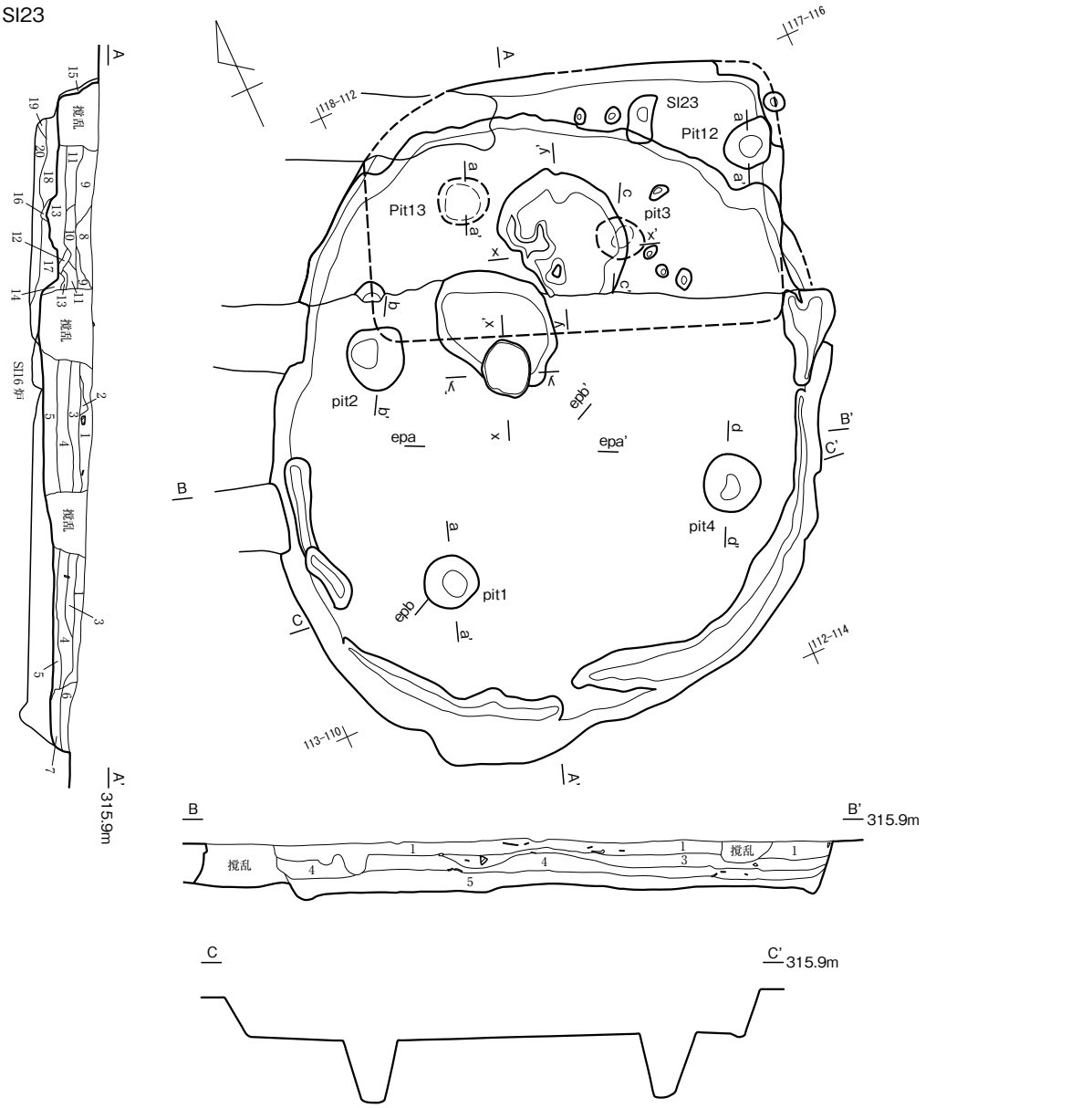


▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
△ 石器・石製品

0 (1:60) 2m

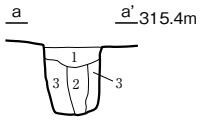
第84図　SI15(2)

SI16・SI23



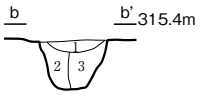
1 褐色土 (7.5YR4/3) 1mm程度の小礫を少量、焼土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土小ブロックを多量に含む。しまり弱い。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒を少量、焼土粒、炭化物を僅かに含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土をまだらに、焼土粒・炭化物を僅かに含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロックを少量、焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒を多量、ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。しまり弱い。
7 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色、暗褐色粒を少量、炭化物を僅かに含む。(SI23)
9 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を少量、焼土粒を極僅かに含む。(SI23)
10 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色粒、暗褐色土小ブロックを少量含む。(SI23)
11 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。(SI23)
12 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。(SI23)
13 褐色土 (7.5YR4/3) 炭化物を非常に多量、黄褐色粒を僅かに含む。しまり弱い。(SI23)
14 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を含む。(SI23)
15 地山 (掘りすぎ)
16 暗褐色土 (10YR3/4) ロームを含む。しまり強い。
17 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色粒を多量に、ロームを含む。
18 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物を少量、鉄分を僅かに含む。しまりやや弱い。
19 褐色土 (10YR4/4) 黒褐色粒を少量含む。ロームを多量に含む。
20 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色粒子を少量含む。ややしまりあり。

pit1



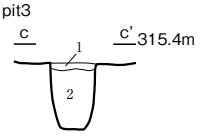
pit1
1 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色土小ブロック、ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/6) 層上部に炭化物を僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。

pit2



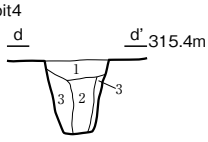
pit2
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む
2 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む
3 褐色土 (7.5YR4/3) ローム小ブロックを多量に含む。しまり強い。

pit3



pit3
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックと炭化物を少量、黄褐色粒を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。

pit4

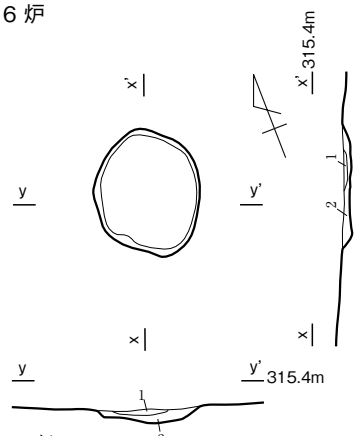


pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量、炭化物僅かに、黄褐色粒を含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/6) 層上部に炭化物を僅かに含む。しまりやや弱い。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロックを多量に含む。しまり強い。

0 (1:60) 2m

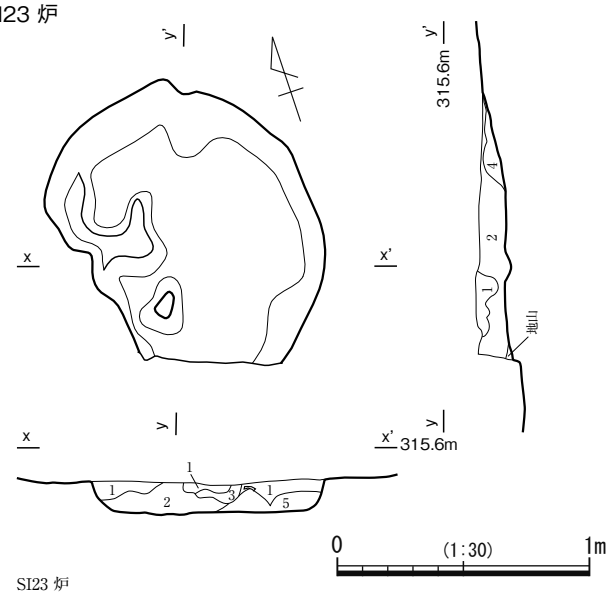
第85図 SI16・23(1)

SI16 炉



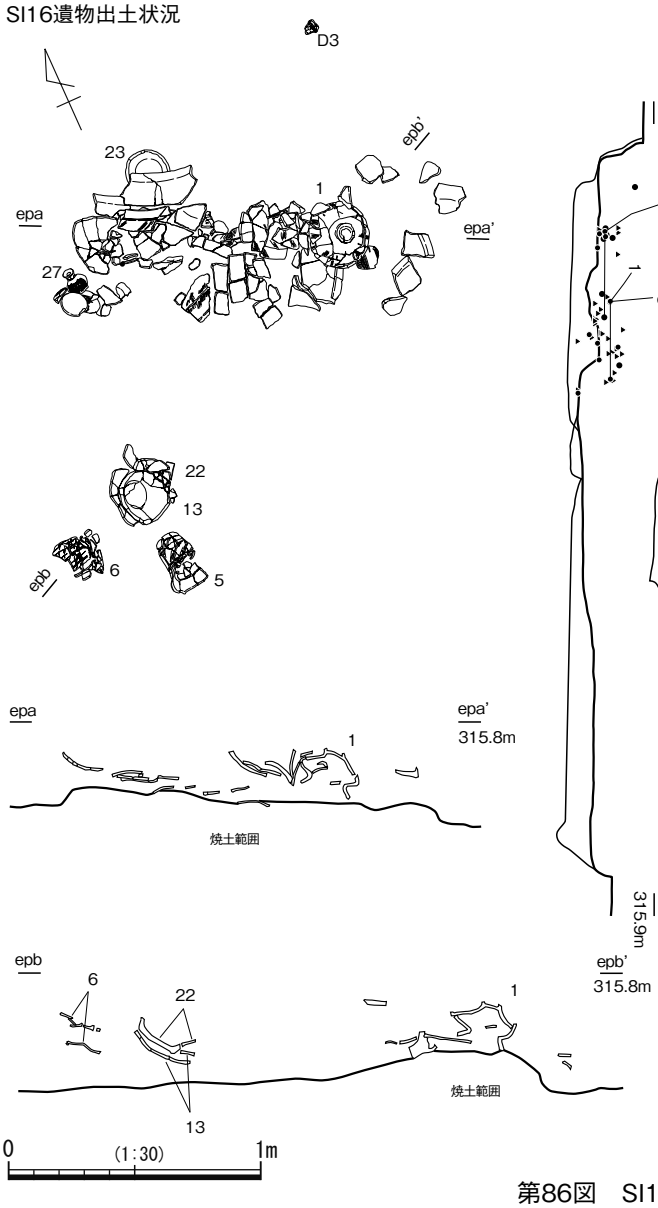
SI16 炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を多量に含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を僅かに、ローム粒を含む。

SI23 炉

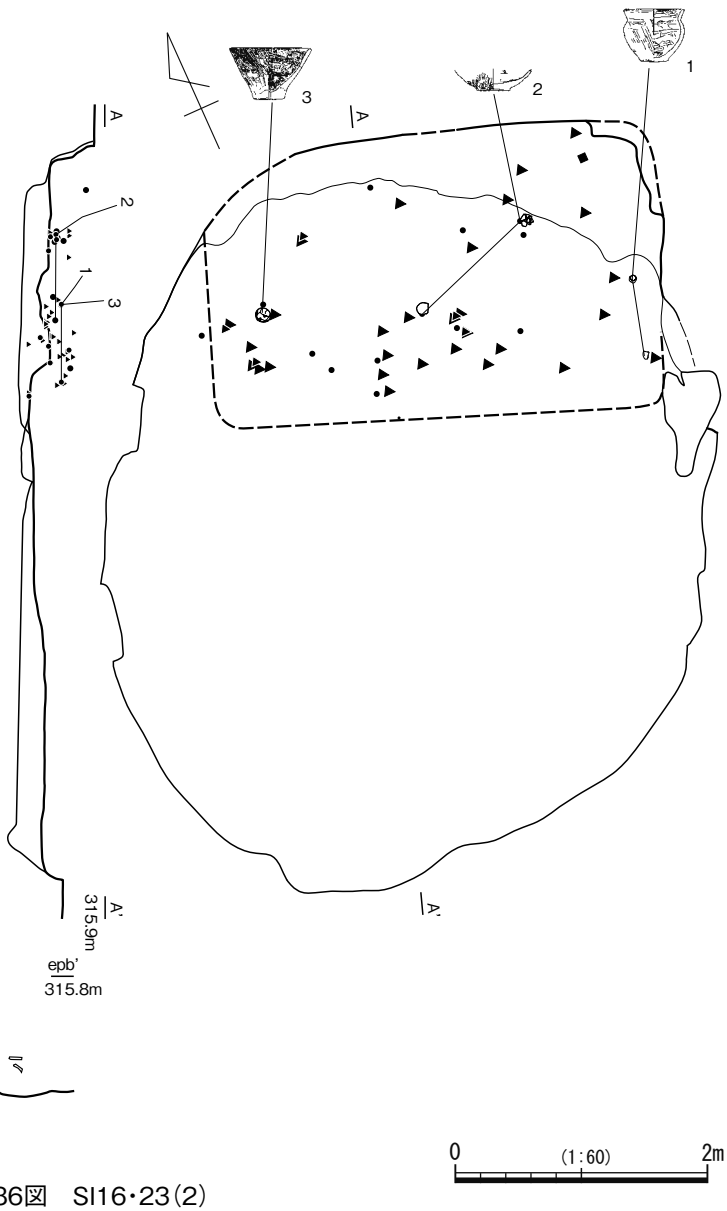


SI23 炉
1 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土をまだらに含む。やや粘性有。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒・炭化物粒、下層部にローム粒少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・炭化物粒を含む。しまり弱い。
4 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土を多量、炭化物を少量含む。しまり強い。

SI16遺物出土状況

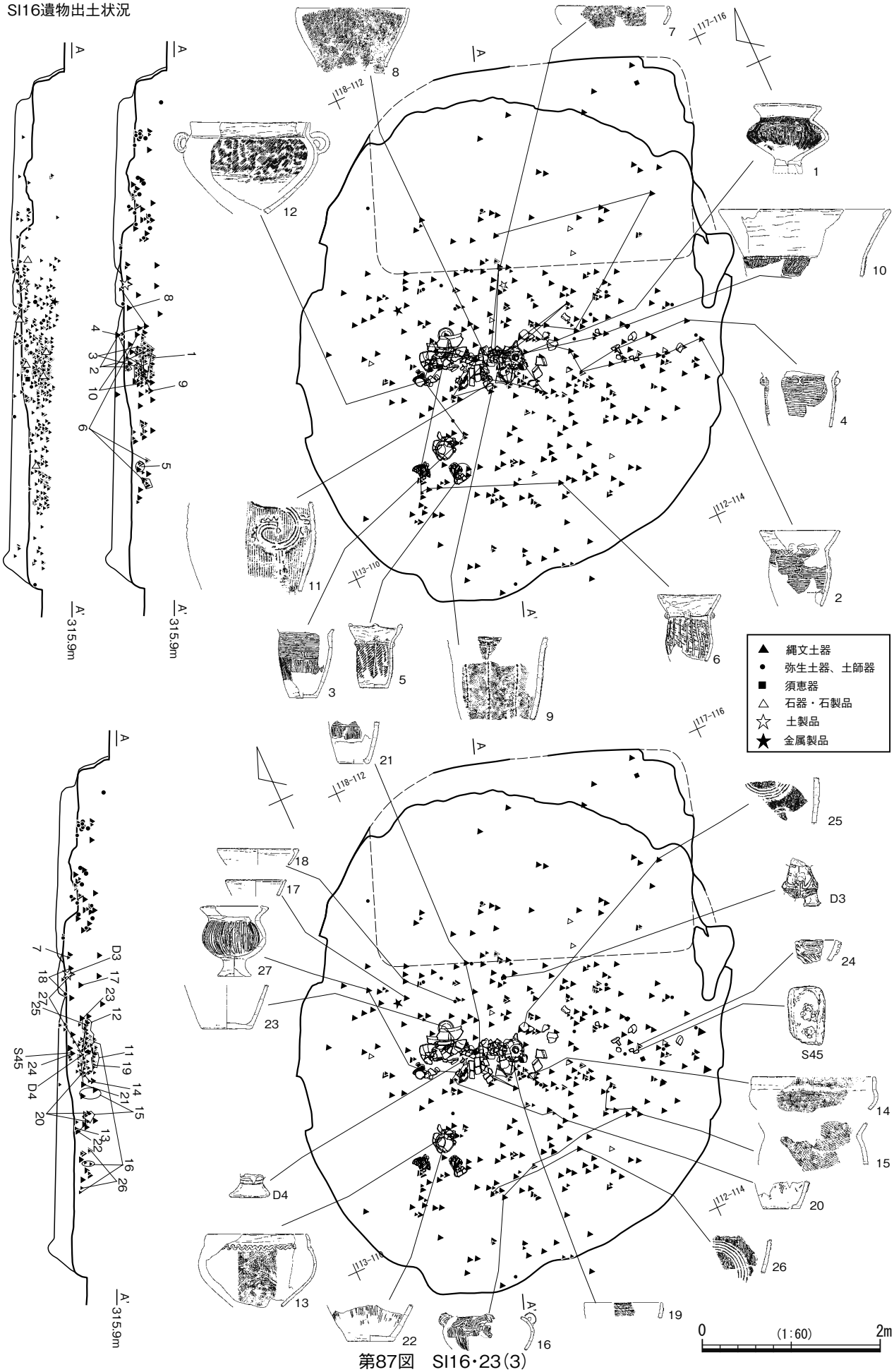


SI23遺物出土状況



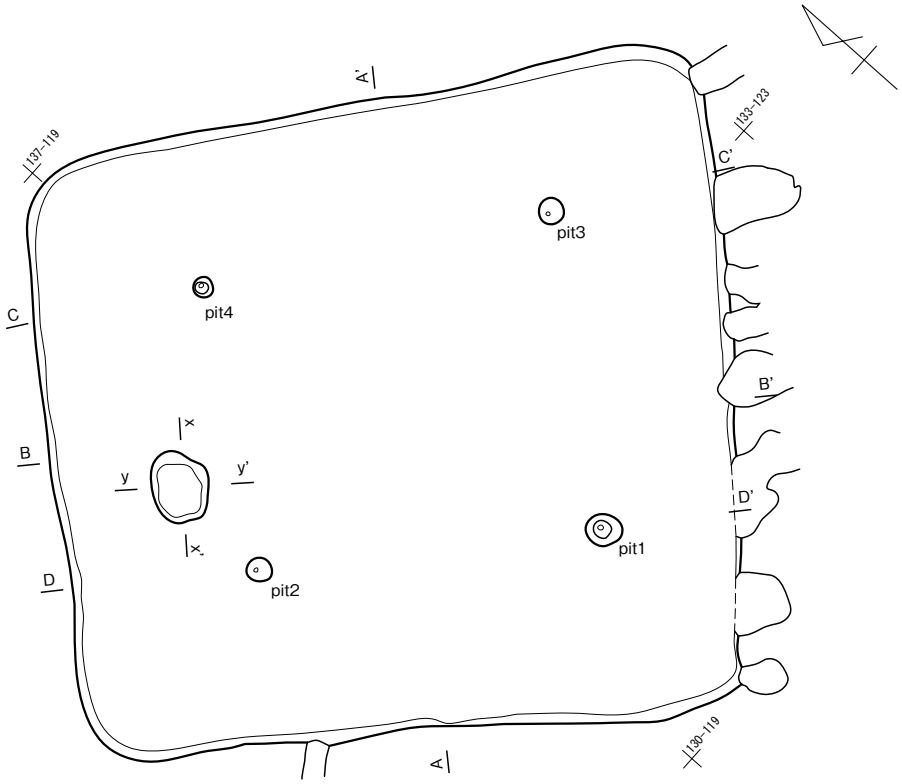
第86図　SI16・23(2)

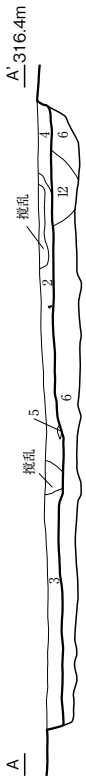
SI16遺物出土状況

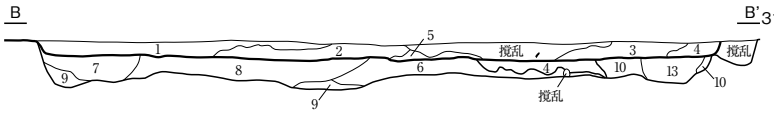


第87図　SI16・23(3)

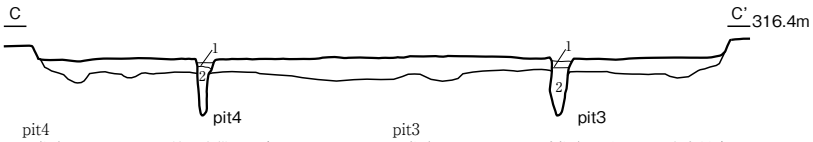
SI17





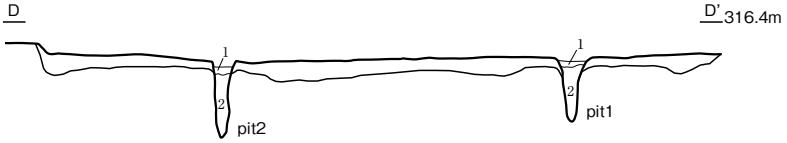


1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を僅かに、層下部にローム小ブロックを少量含む。しまり強い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒・炭化物粒を僅かに、層下部にローム小ブロックを少量含む。しまりつよい。
3 褐色土 (10YR4/6) 層上部に炭化物を僅かに、層下部にローム小ブロックを少量含む。しまり強い。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土小ブロック・ローム小ブロックを少量含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多量に含む。
6 褐色土 (10YR4/6) 層上部に焼土と炭化物を僅かに含み、暗褐色土ブロックを少量含む。しまり強い。
7 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを多量に含む。やや粘性あり。しまり弱い。
8 褐色土 (7.5YR4/4) 層上部に暗褐色粒、炭化物を極僅か、層下部にローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
9 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多量に含む。
10 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を僅かに含む。
11 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土をまだらに、ローム小ブロックを少量含む。



pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを含む。

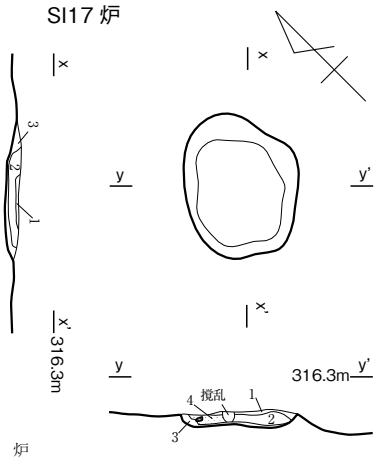
pit3
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを少量含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/8) 1～2mmの小礫を僅かに、下層にローム小ブロックを少量含む。



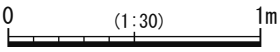
pit2
1 褐色土 (10YR4/6) 焼土を僅かに、粒子の粗い白色砂質土を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を極僅かに、下層にローム小ブロックを含む。

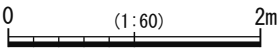
pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) 赤味のある褐色土、小ブロックを含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを多量に含む。

SI17 炉



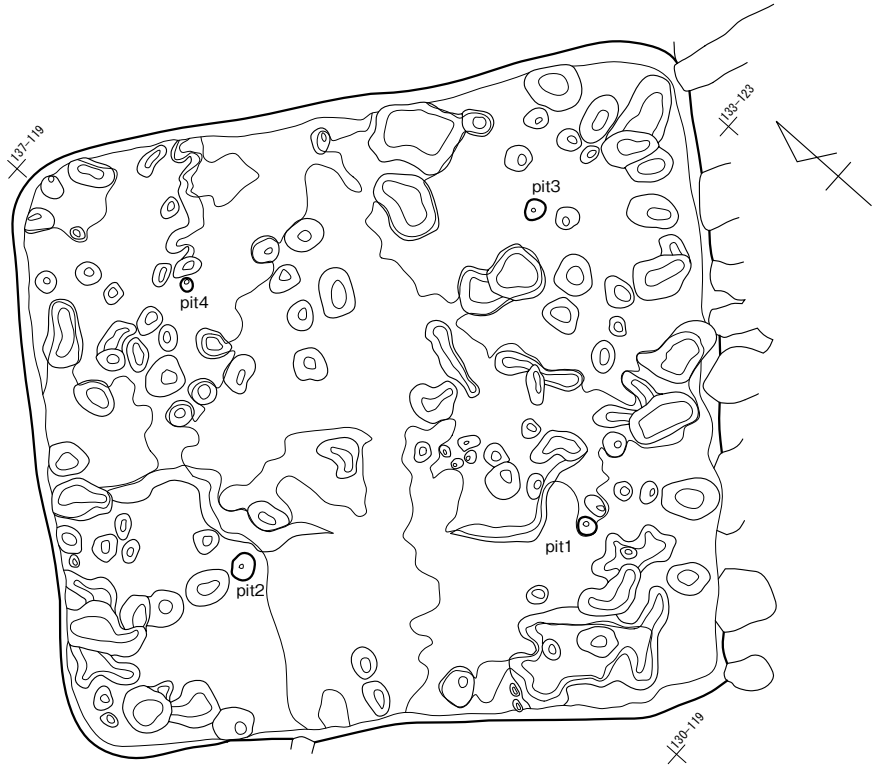
炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物僅か、白色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を多量、炭化物を僅か、暗褐色粒を極僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を少量、炭化物を僅か、ローム小ブロックを少量含む。
4 焼土層



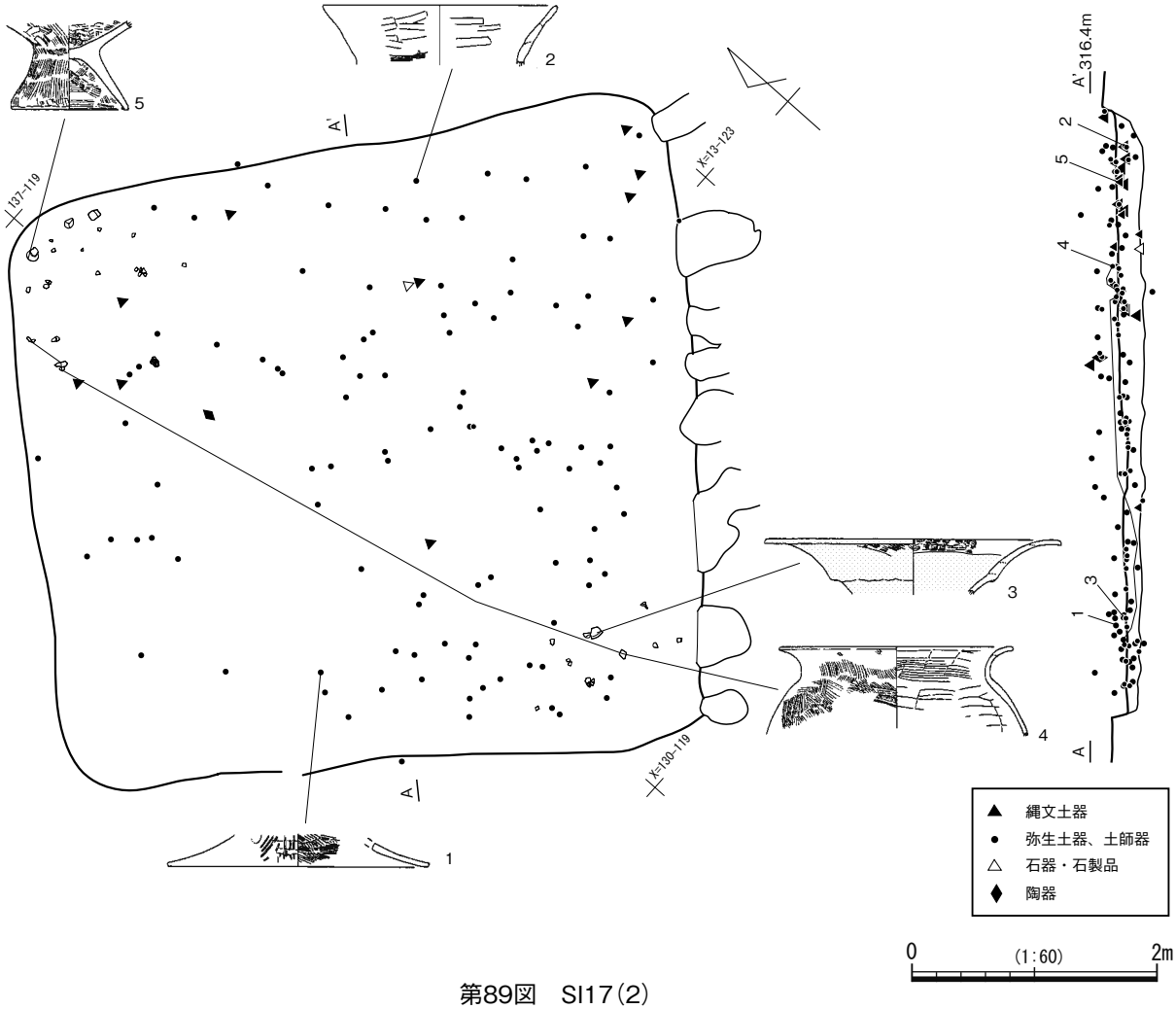


第88図　SI17(1)

掘り方

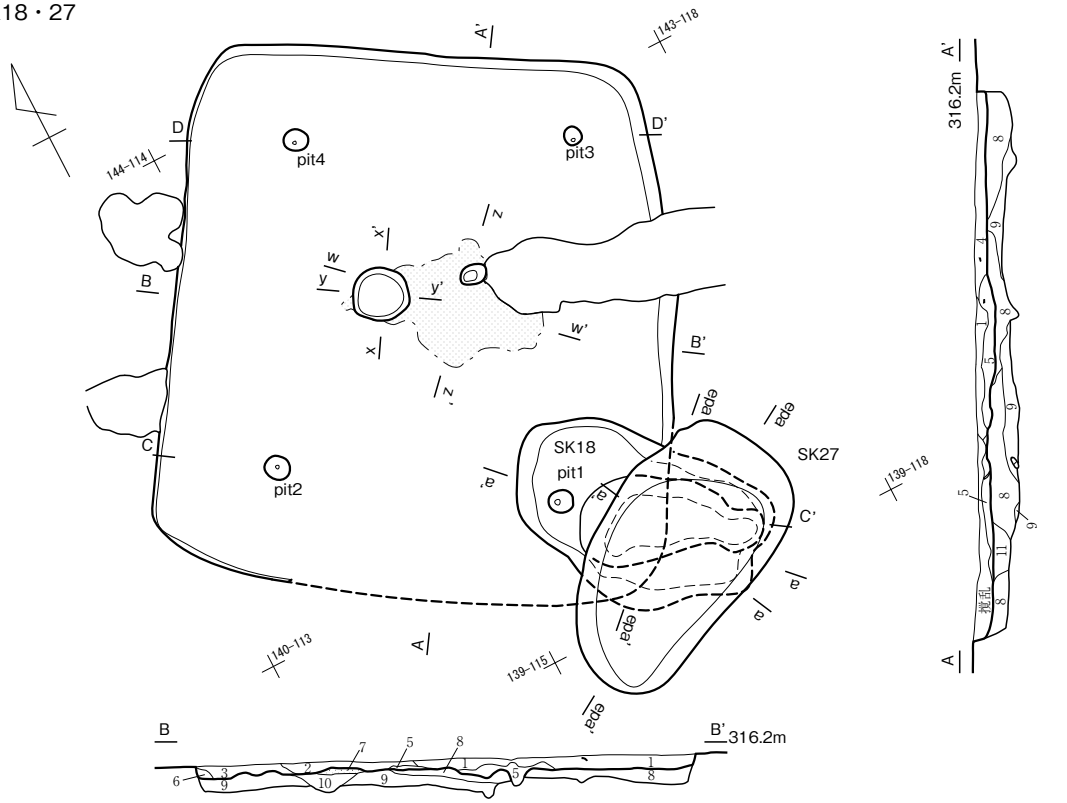


遺物出土状況

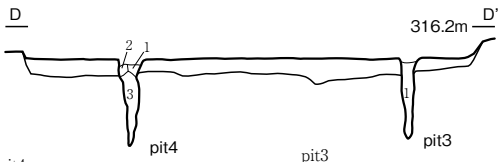


第89図　SI17(2)

SI18・SK18・27

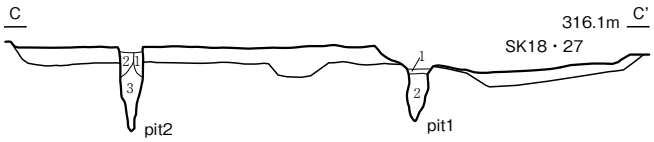


1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土、炭化物を極僅かに含む。黒褐色土をまだらに含む。しまり強い。
2 褐色土 (10YR4/4) 焼土、炭化物を極僅かに含む。暗オリーブ褐色土ブロックを多量に含む。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒を少量含む。
4 褐色土 (10YR4/4) ローム粒を含む。
5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックを多量に、焼土を少量含む。
6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒を少量含む。しまりやや弱い。
7 焼土層
8 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土をまだらに、焼土粒を僅かに含む。
9 明褐色土 (7.5YR5/8) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。
10 暗褐色土 (7.5YR3/3) 褐色土をまだらに含む。しまりやや弱い。
11 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に暗褐色粒、下部にローム粒を多量に含む。



pit4
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) 明褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。やや粘性あり。

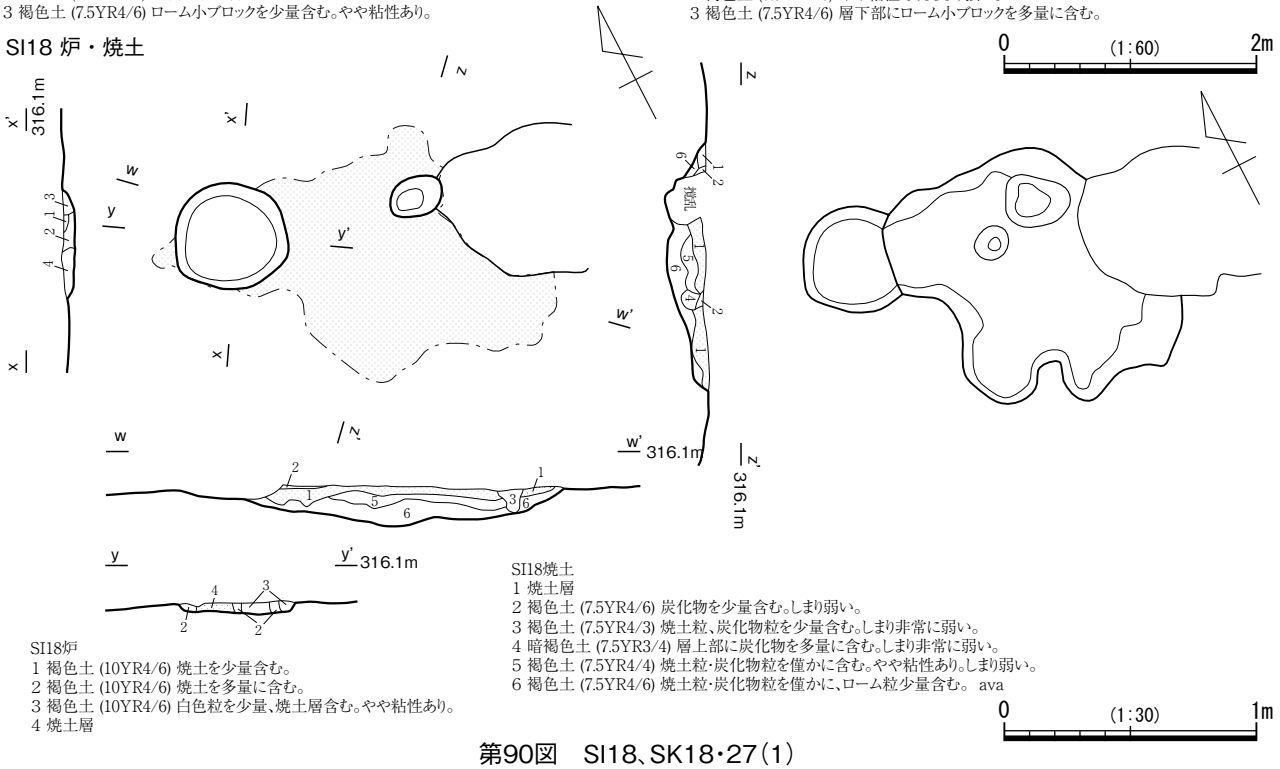
pit3
1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム小ブロックを多量に含む。



pit1
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック少量、暗褐色粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロック多量に含む。

pit2
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黄褐色土小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) やや粘性あり。しまり強い。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にローム小ブロックを多量に含む。

SI18 炉・焼土

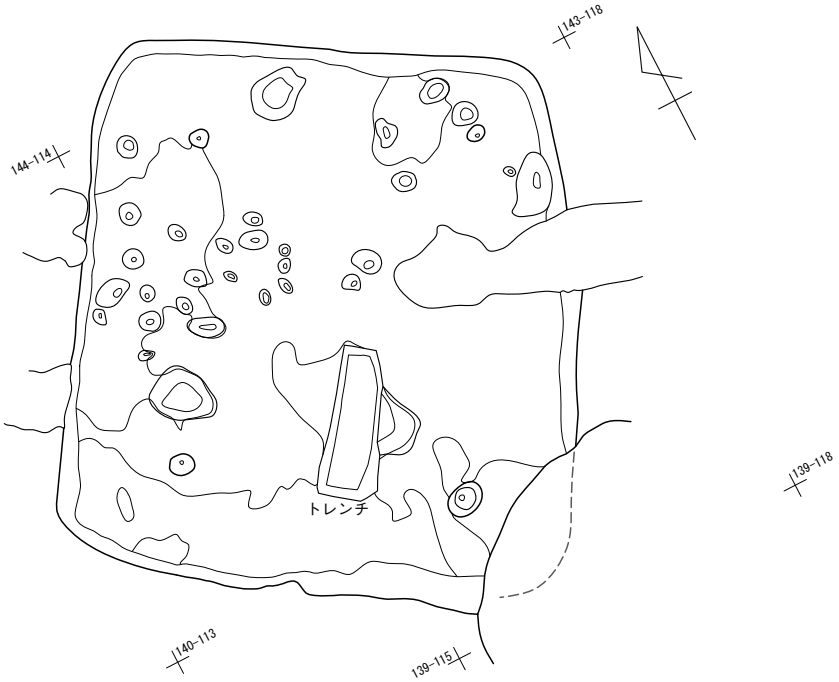


SI18炉
1 褐色土 (10YR4/6) 焼土を少量含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 焼土を多量に含む。
3 褐色土 (10YR4/6) 白色粒を少量、焼土層含む。やや粘性あり。
4 焼土層

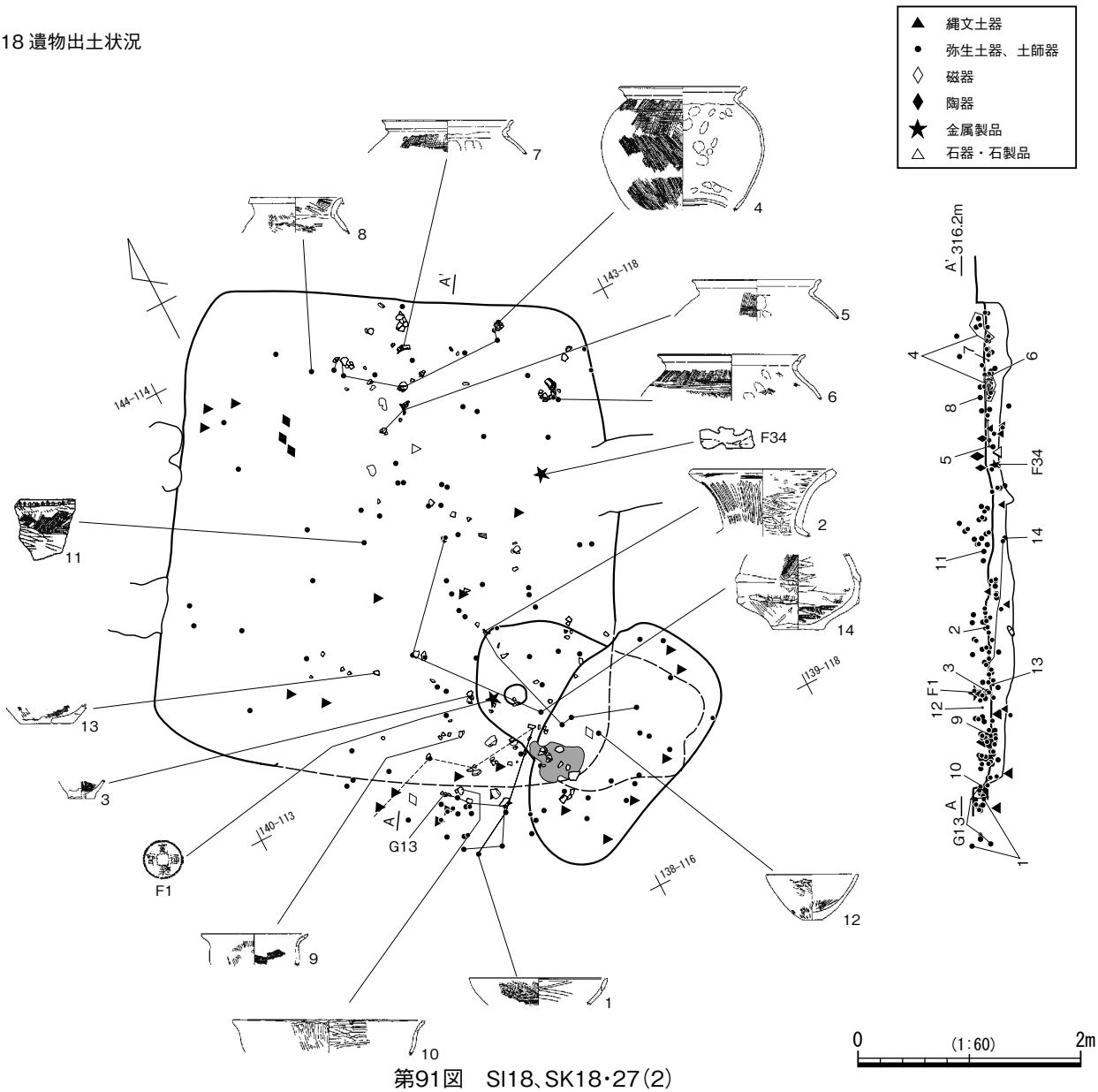
SI18焼土
1 焼土層
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を少量含む。しまり弱い。
3 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土粒、炭化物粒を少量含む。しまり非常に弱い。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層上部に炭化物を多量に含む。しまり非常に弱い。
5 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。やや粘性あり。しまり弱い。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒・炭化物粒を僅かに、ローム粒少量含む。 ava

第90図　SI18、SK18・27(1)

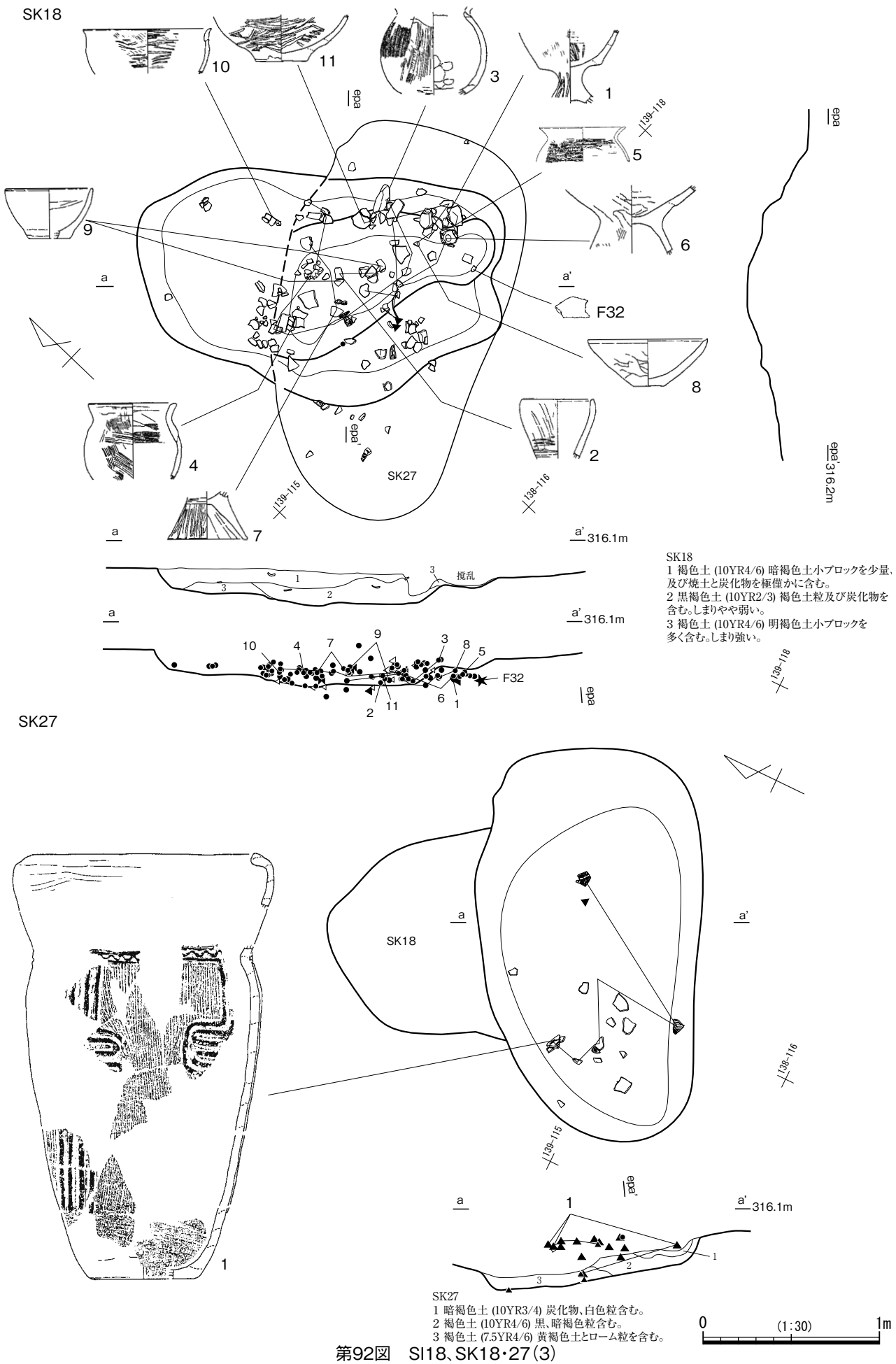
掘り方



SI18 遺物出土状況

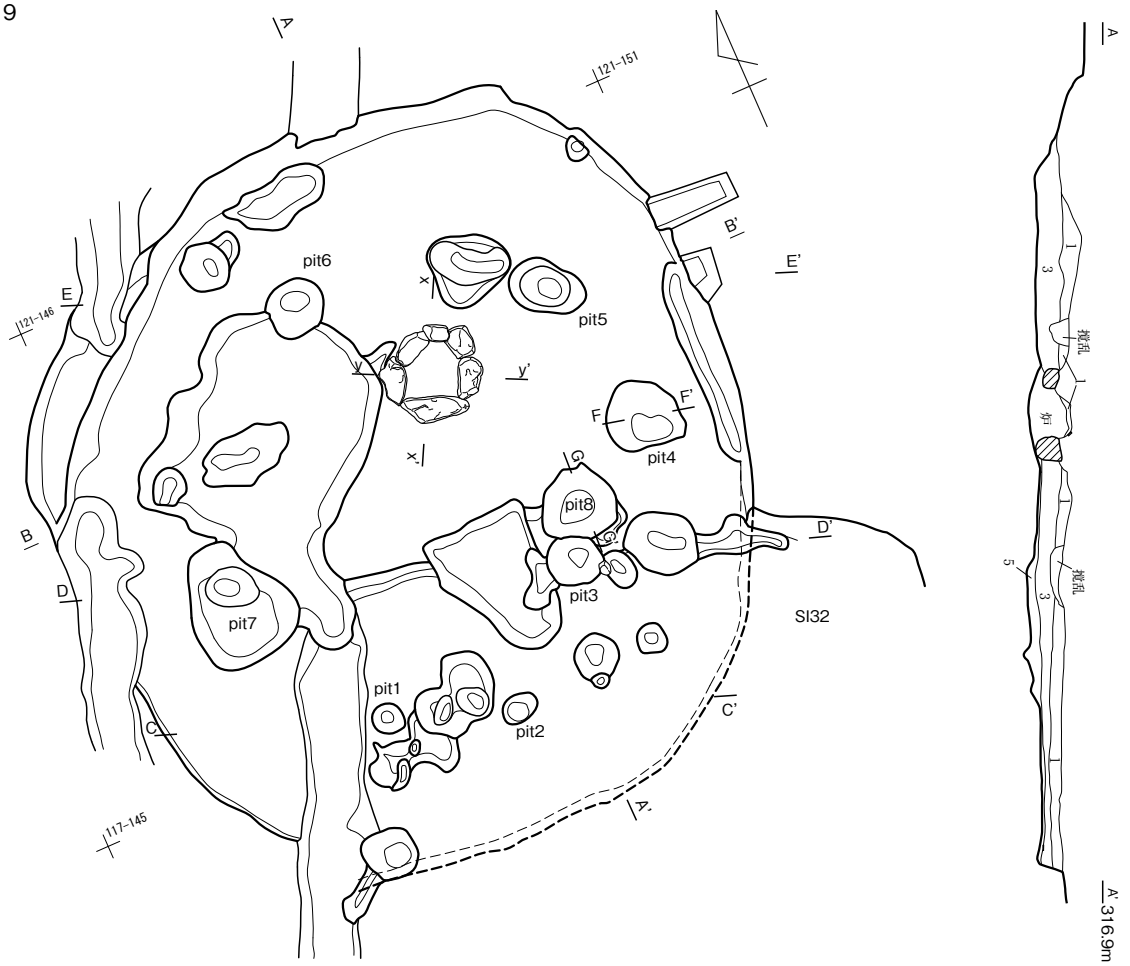


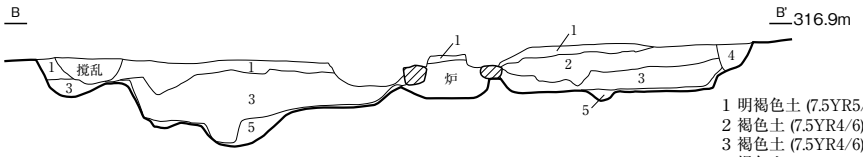
第91図　SI18、SK18・27(2)



第92図　SI18、SK18・27(3)

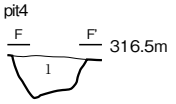
SI19



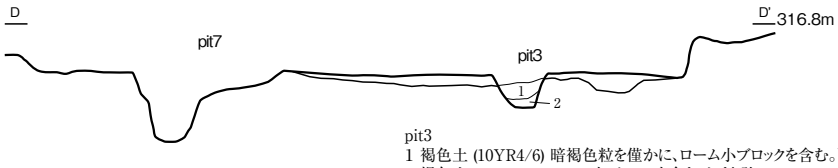


1 明褐色土 (7.5YR5/6) 焼土、炭化物を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土、炭化物を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土、炭化物を少量、ローム粒を多量に含む。
4 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多量に含む。しまり強い。
5 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く含む。ややしまりは強い。

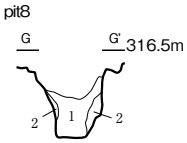
pit1･2
1 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロック、暗褐色土小ブロックを少量含む。しまり強い。
2 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。しまり強い。



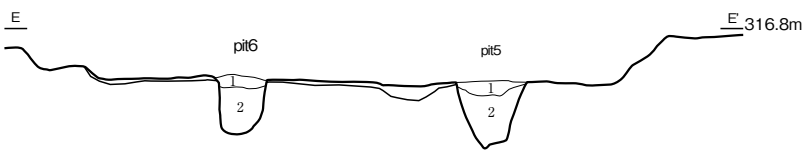
pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に褐色粒を
少量、層中部以下にロームブロックを多量に含む。



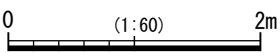
pit3
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒を僅かに、ローム小ブロックを含む。しまり強い。
2 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを含む。しまり強い。



pit8
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層上部に褐色粒を
少量、層中部以下に暗褐色粒と
ローム小ブロックを含む。
2 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
しまり強い。

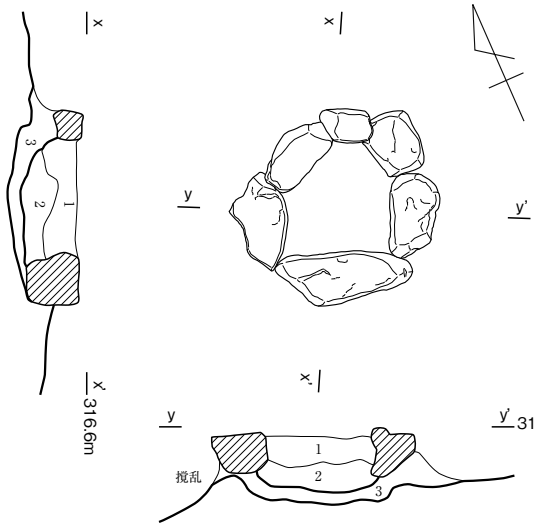


pit5･6
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層上部に褐色粒を少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層中部以下にロームを多量に含む。しまり強い。



第93図　SI19(1)

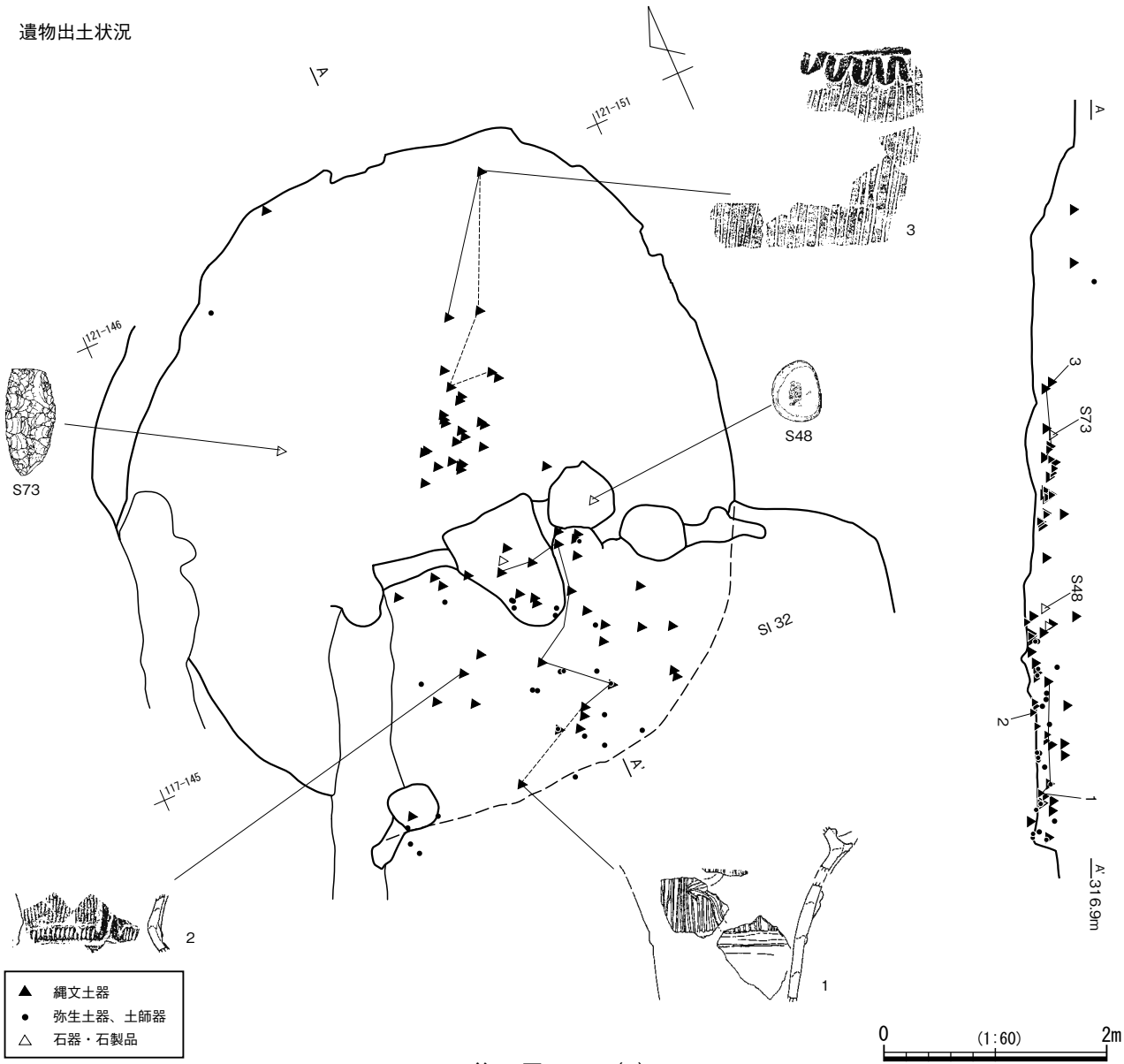
SI19 炉



炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を極僅かに含む。しまりやや強い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を極僅かに、暗褐色粒多量に含む。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒少量、炭化物粒、焼土粒を極僅かに含む。

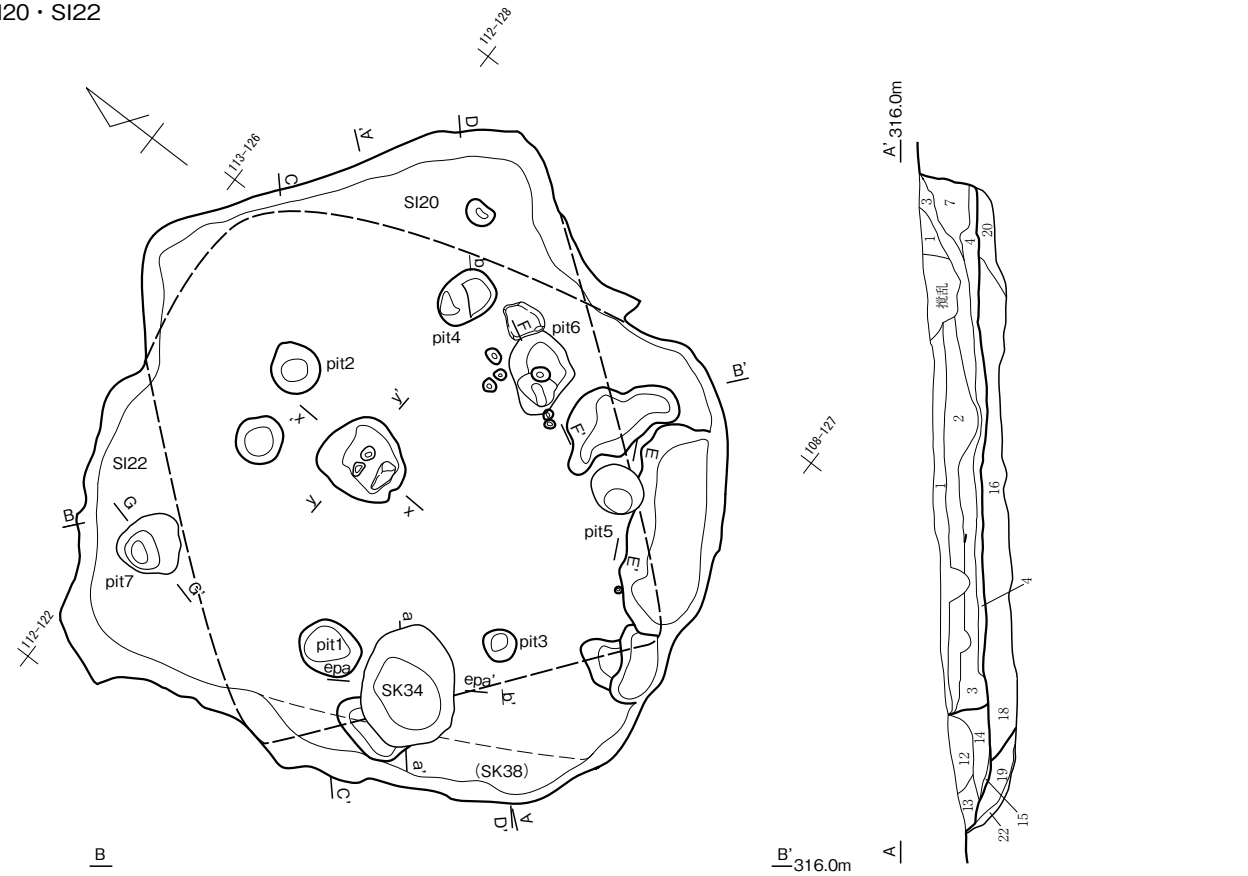
0 (1:30) 1m

遺物出土状況



0 (1:60) 2m

第94図　SI19(2)



1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土小ブロック少量。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒少量。しまりやや強い。
3 褐色土 (10YR4/6) 層上部に暗褐色土含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物僅か、ローム小ブロックを少量。
5 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土小ブロックを少量。
6 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック多。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒少量含む。
8 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒小含む。
9 褐色土 (10YR4/4) 特記事項なし。
10 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム小ブロック含む。
11 黄褐色土 (10YR5/6) 黄色味の強いローム多。
12 褐色土 (7.5YR4/6) 2層に近いが、2層よりローム粒少。
13 暗褐色土 (7.5YR3/3) 黒褐色粒を少量。
14 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 暗褐色土粒含む。
15 明黄褐色土 (10YR6/6) やや粘性有り。
16 褐色土 (7.5YR4/4) ローム小ブロックを含む。しまりのゆるい暗褐色土を少量含む。
17 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土を極僅か。ロームブロック多量。
18 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒、暗褐色土小ブロックを含む。やや粘性有り。
19 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒、暗褐色土小ブロックを多く含む。
20 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
21 褐色土 (7.5YR4/6)
22 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロックを多く含む。しまり強い。(SK38)

pit2
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒子、炭化物多量に含む。しまりに欠ける。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子を多く含む。しまりに欠ける。

pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) 上層に焼土粒子を多量に、黒褐色粒子をわずかに含む。しまりに欠ける。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックをわずかに含む。しまりは強い。

pit4
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒子を多く含む。しまりに欠ける。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒子、ロームブロックを多く含むが、ややしまりは強い。

pit3
1 褐色土 (10YR4/4) 上層に焼土粒子を多く、ローム粒子をわずかに含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを多量に含む。ややしまりに欠ける。

pit5
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物を少量、ロームブロックを多く含む。しまりに欠ける。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒子を多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを多く含む。

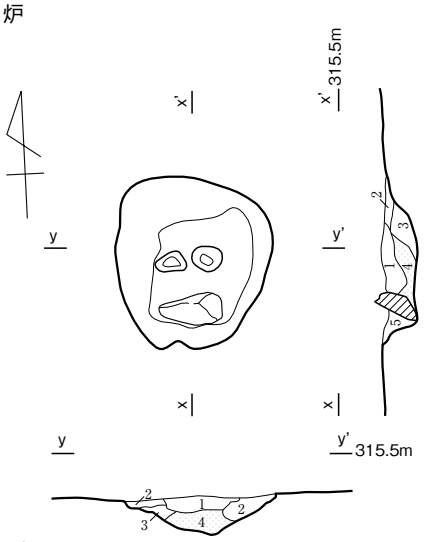
pit6
4 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多量に含む。ややしまりあり。

pit7
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物・ロームブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多く含む。
色調は第2層より暗い。

0 (1:60) 2m

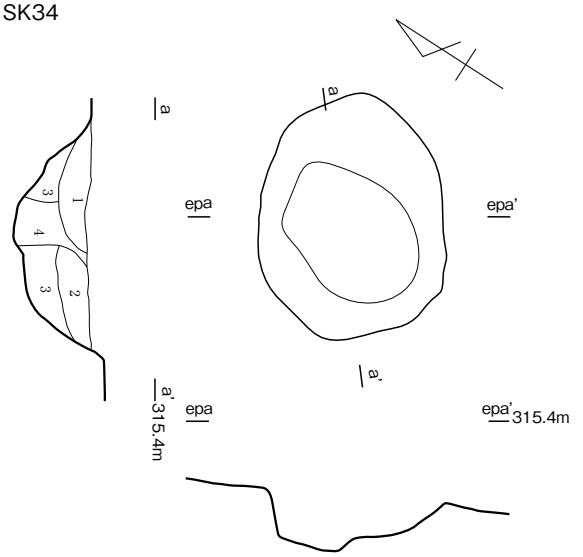
第95図　SI20・22、SK38(1)

SI20 炉



炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土を少量、炭化物を僅かに含む。
2 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土を少量、炭化物を多量に含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土を少量含む。しまり弱い。
4 焼土層
5 灰褐色土 (7.5YR4/1) 黄褐色粒を僅かに含む。

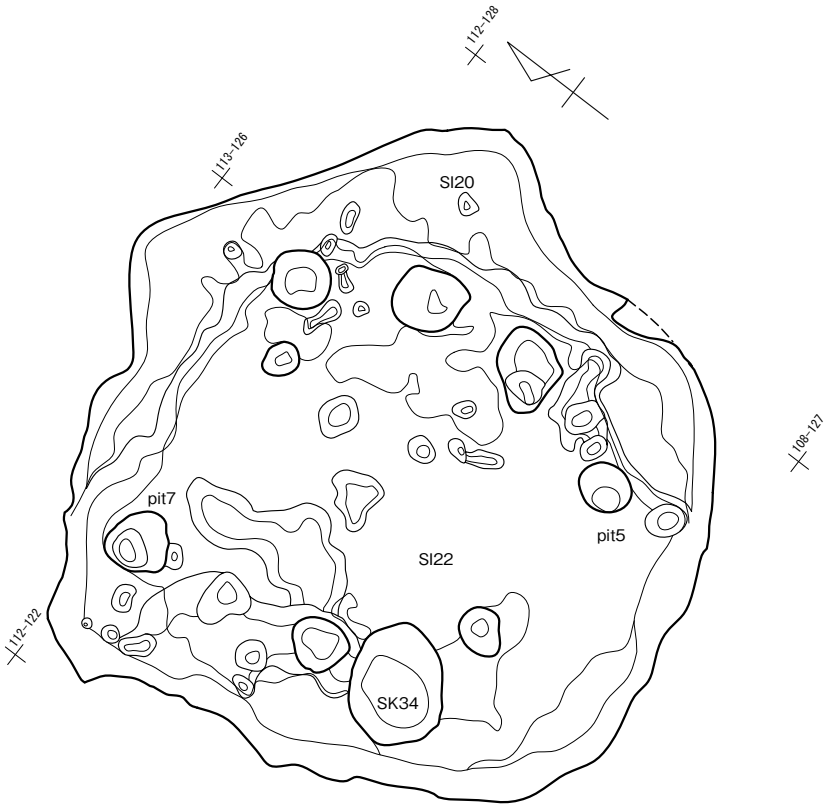
SK34



SK34
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物、ローム粒子を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多量に混入。しまりは強い。
4 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを僅かに混入する。

0 (1:30) 1m

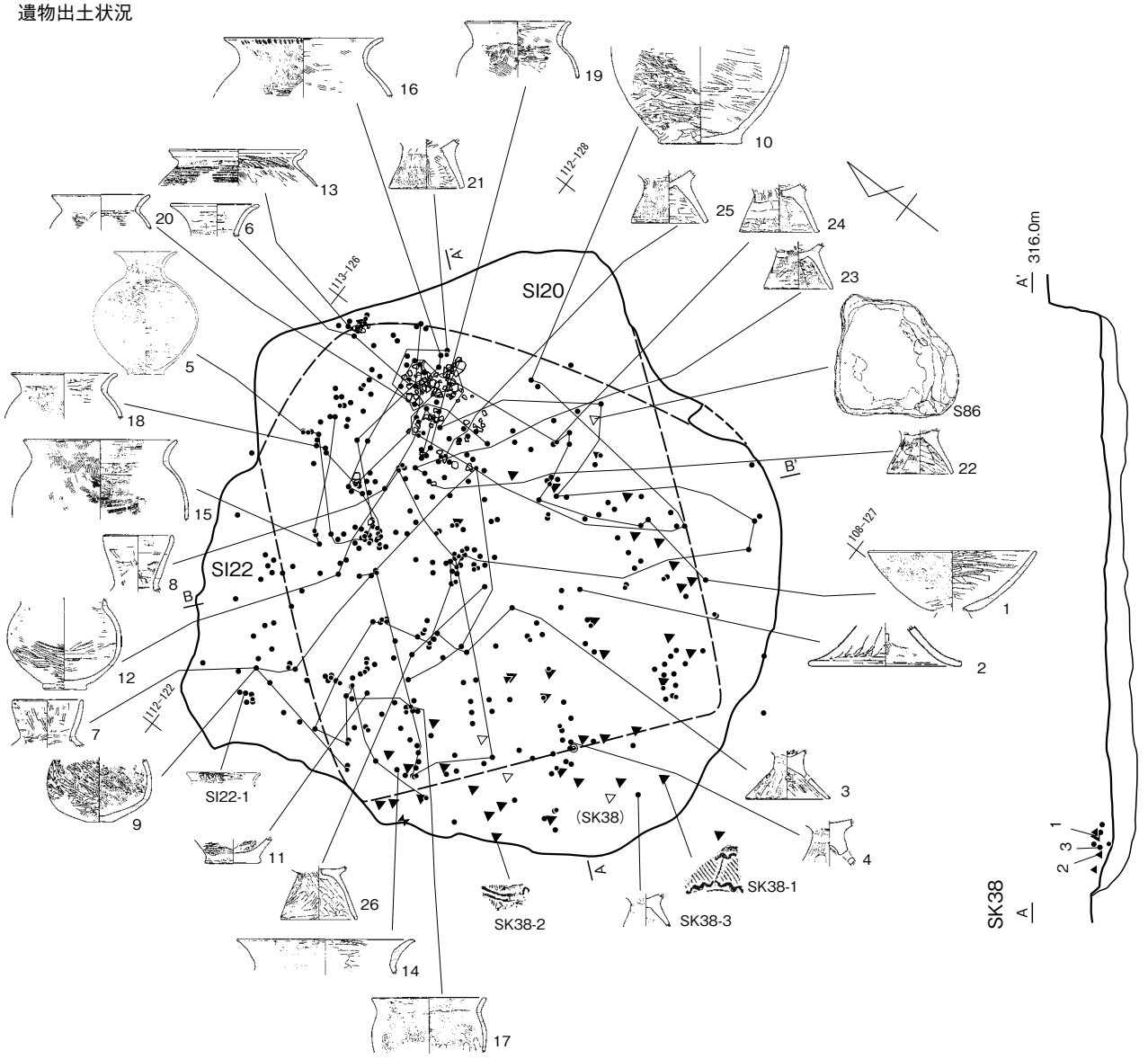
掘り方

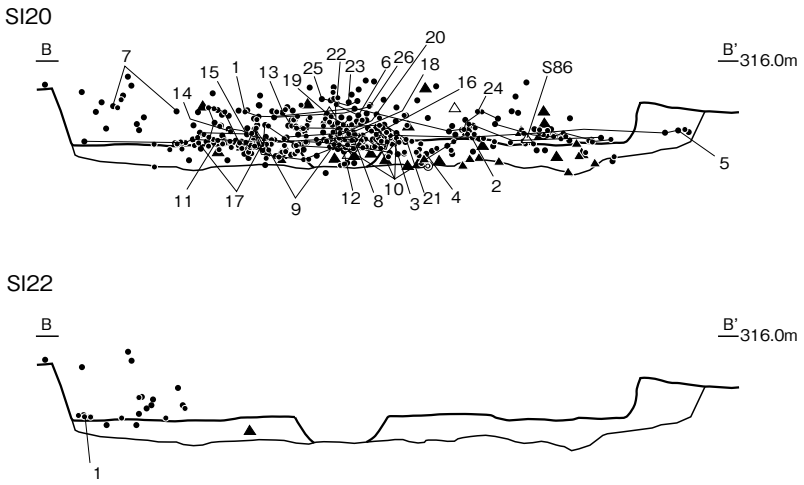


0 (1:60) 2m

第96図　SI20・22、SK38(2)

遺物出土状況



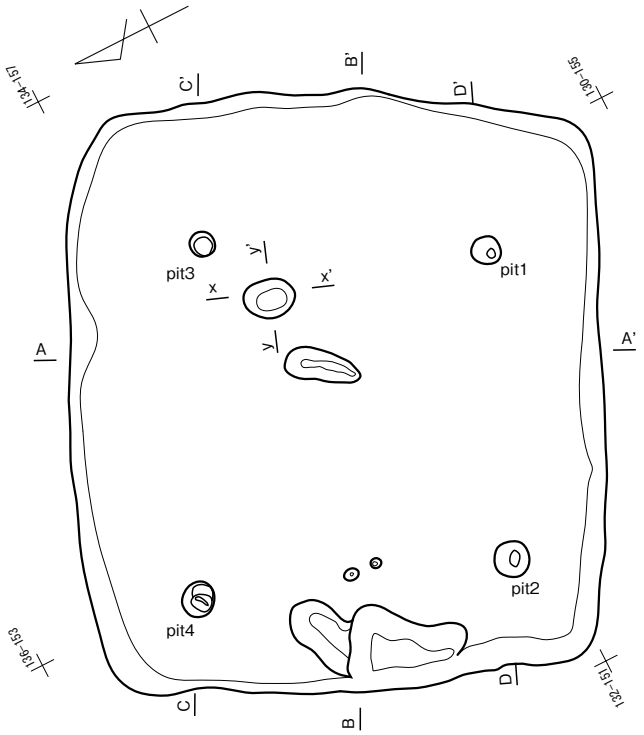


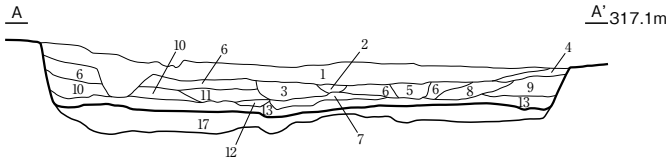
▲ 縄文土器
• 弥生土器、土師器
◎ 粘土
△ 石器・石製品
⧗ 炭化物

0 (1:60) 2m

第97図　SI20・22、SK38(3)

SI24





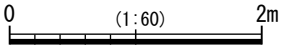
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を僅かに、暗褐色土小ブロックを含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒を多量に含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を極僅かに、暗褐色土小ブロックを含む。
4 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロックを含む。
5 褐色土 (7.5YR4/4) 明黄褐色粒を多量に含む。
6 褐色土 (7.5YR4/4) 粒子の粗い黄褐色粒を含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を少量、褐色土小ブロック、層下部に明褐色粒を含む。
8 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
9 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを多量に、層下部に褐色粒を含む。
10 褐色土 (7.5YR4/6) 粒子の粗い黒褐色粒を含む。しまりやや弱い。
11 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを含む。
12 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを含む。
13 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。しまり強い。
14 褐色土 (10YR4/6) 非常に細かい白色粒を含む。
15 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にやや粘性のある明褐色土を含む。
16 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性あり。しまり強い。
17 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。

pit4
1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 暗褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色粒を含む。

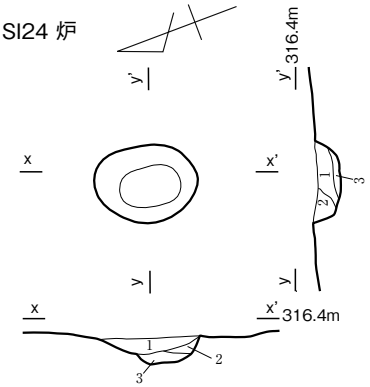
pit3
1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 暗褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色粒とローム小ブロックを多量に含む。

pit2
1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 暗褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色粒とローム小ブロックを多量に含む。

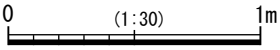
pit1
1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 暗褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 明褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色粒とローム小ブロックをまだらに含む。



SI24 炉

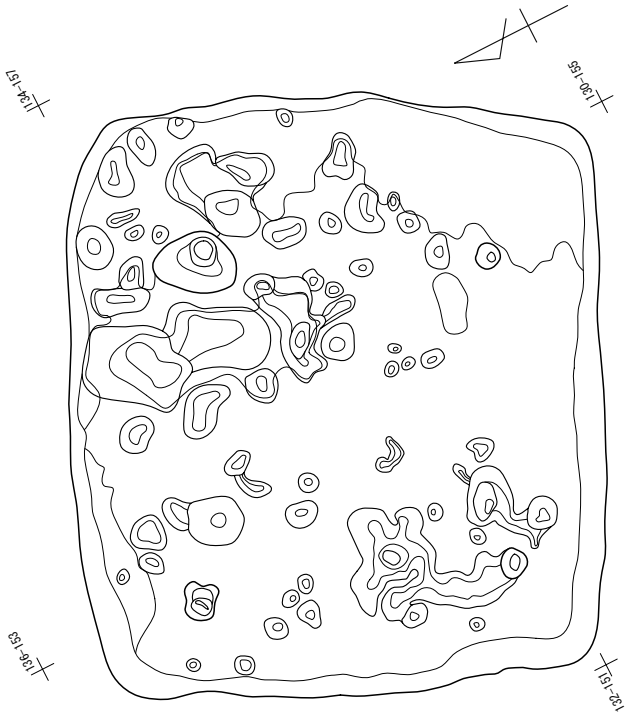


炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土ブロックを多量に含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土小ブロック僅か、明褐灰小ブロックを少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒とローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。

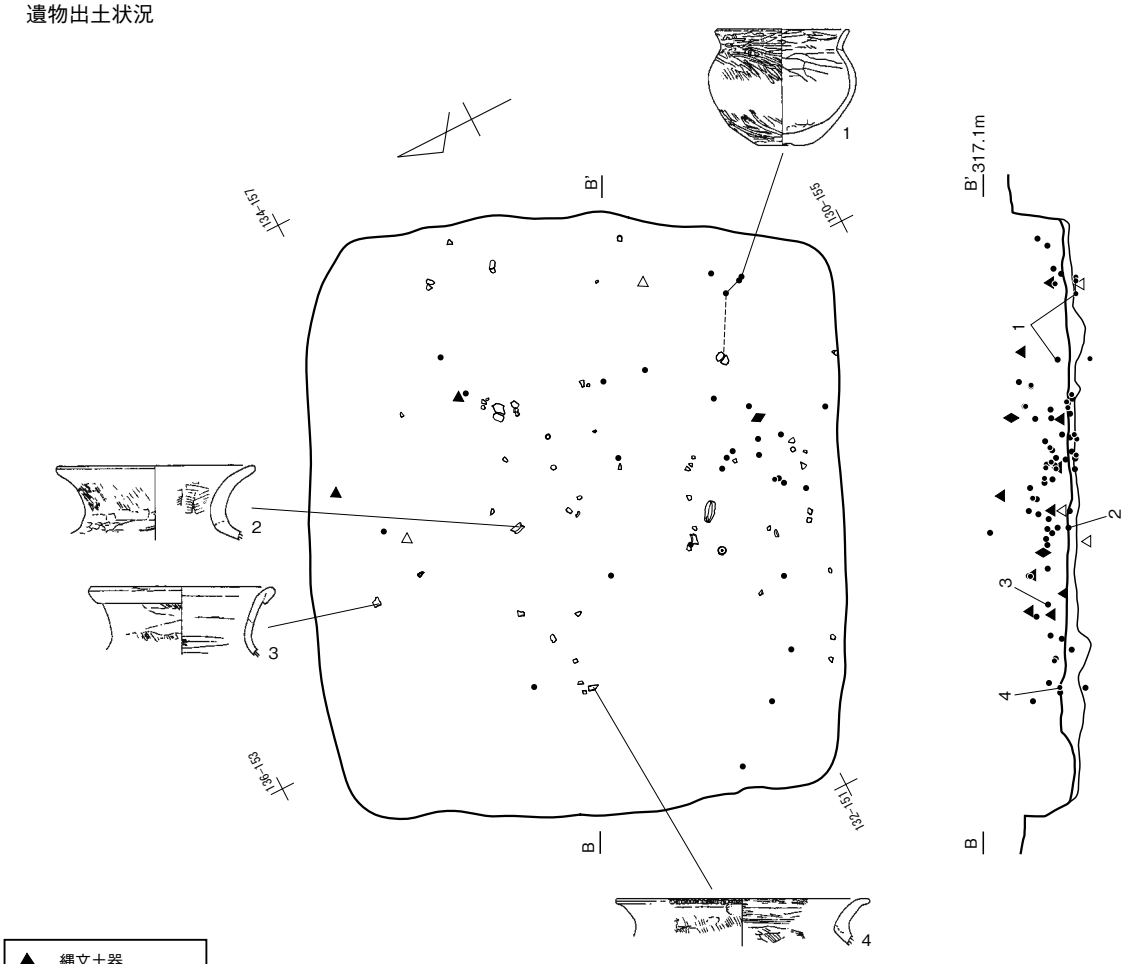


第98図　SI24(1)

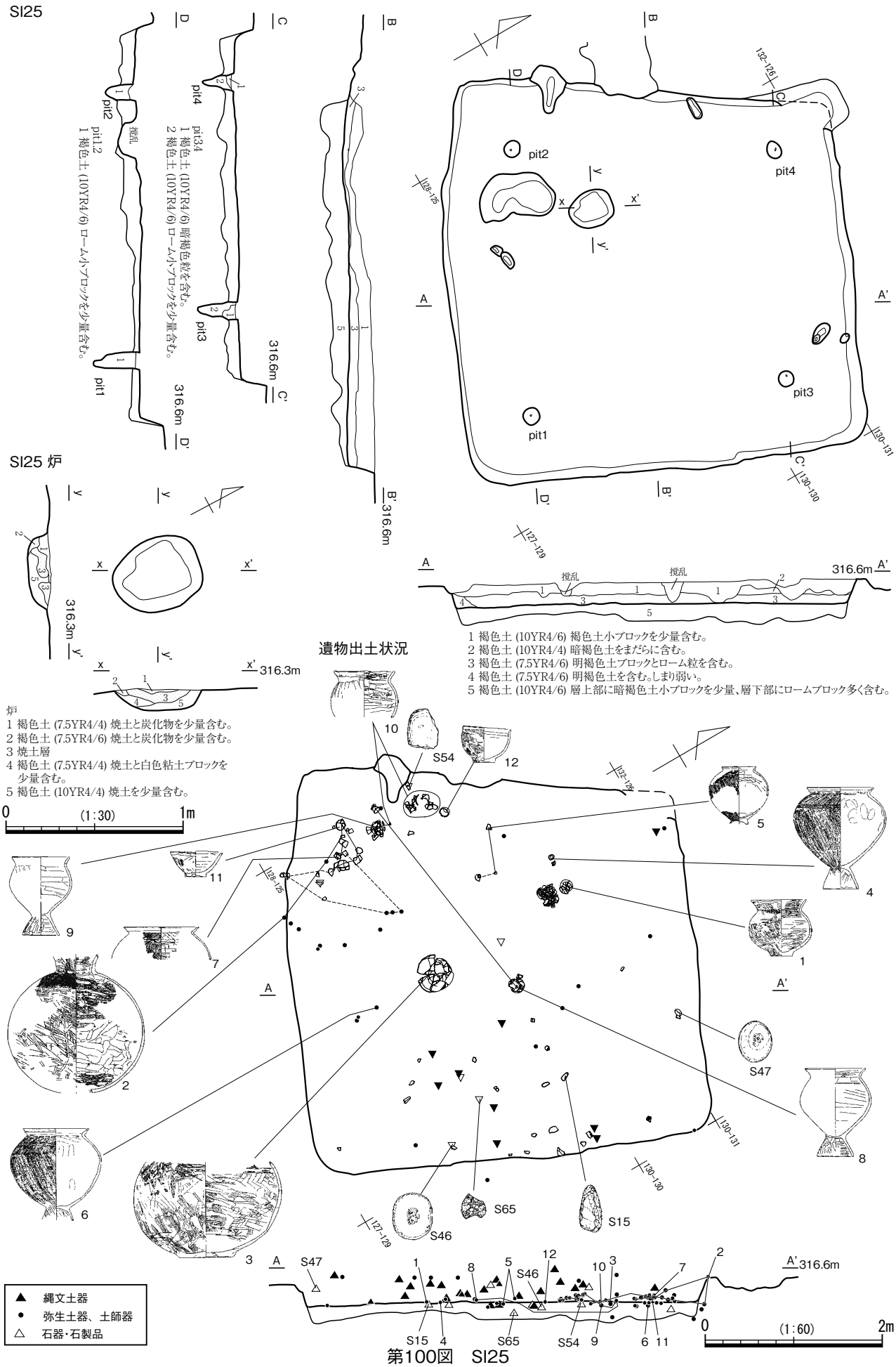
掘り方



遺物出土状況

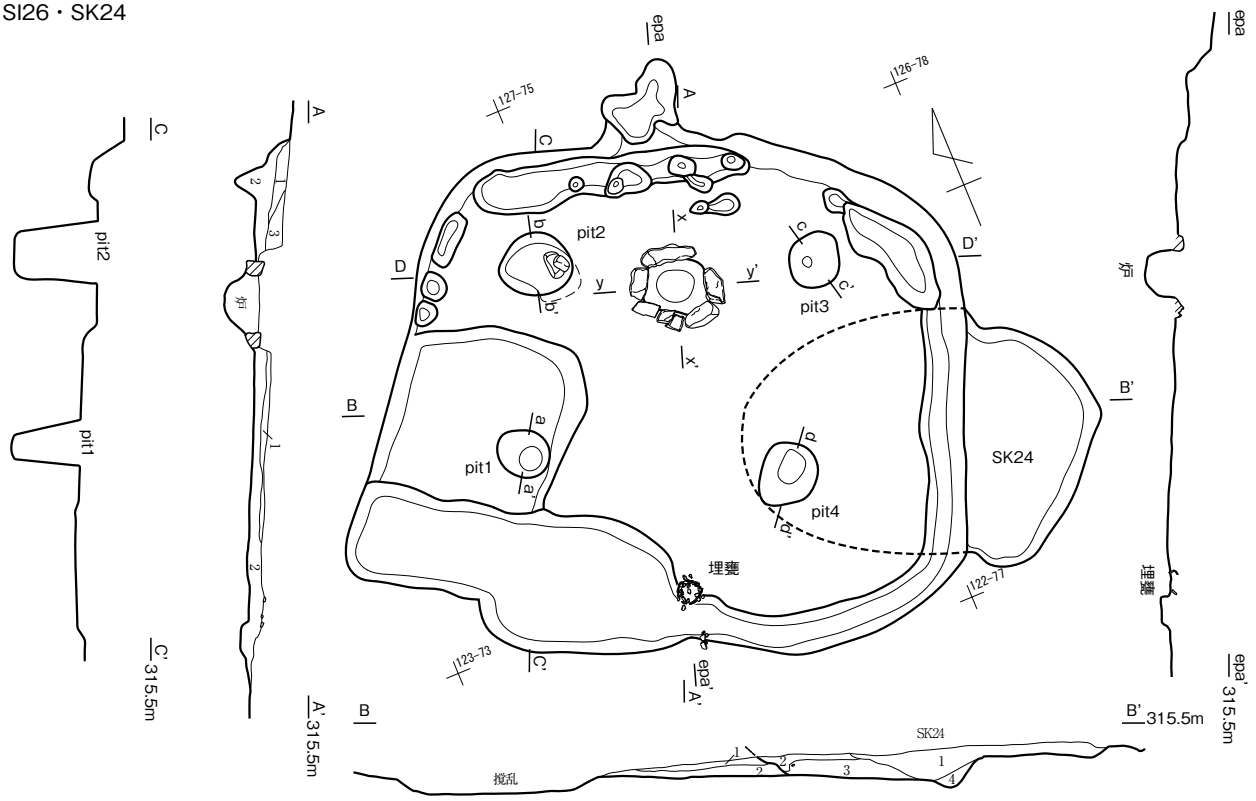


第99図　SI24(2)


SI25
SI25 炉
遺物出土状況
pit1
pit2
pit3
pit4
撹乱
316.6m
316.3m
炉
1 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土と炭化物を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土と炭化物を少量含む。
3 焼土層
4 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土と白色粘土ブロックを少量含む。
5 褐色土 (10YR4/4) 焼土を少量含む。
1 褐色土 (10YR4/6) 褐色土小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土をまだらに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土ブロックとローム粒を含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土を含む。しまり弱い。
5 褐色土 (10YR4/6) 層上部に暗褐色土小ブロックを少量、層下部にロームブロック多く含む。
0 (1:30) 1m
0 (1:60) 2m
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
△ 石器・石製品

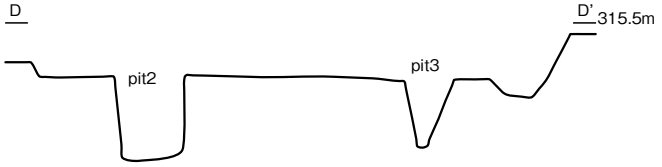
第100図　SI25

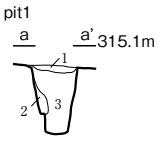
SI26・SK24



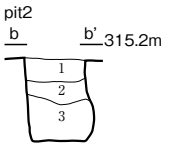
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色小ブロックを含む。しまり強い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を僅かに、層下部にローム粒を多く含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒を僅かに、炭化物を極僅かに含む。
4 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロックを多く含む。

SK24
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土小ブロックを多く、ローム小ブロックを少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物を少量、ローム粒子を多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒子を多く含む。

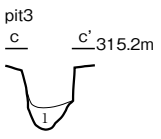




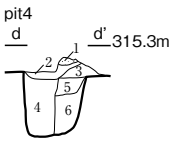
pit1
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層下部にロームブロック含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒少量含む。



pit2
1 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを含む。
2 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを多く、暗褐色粒を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを非常に多く含む。しまり強い。

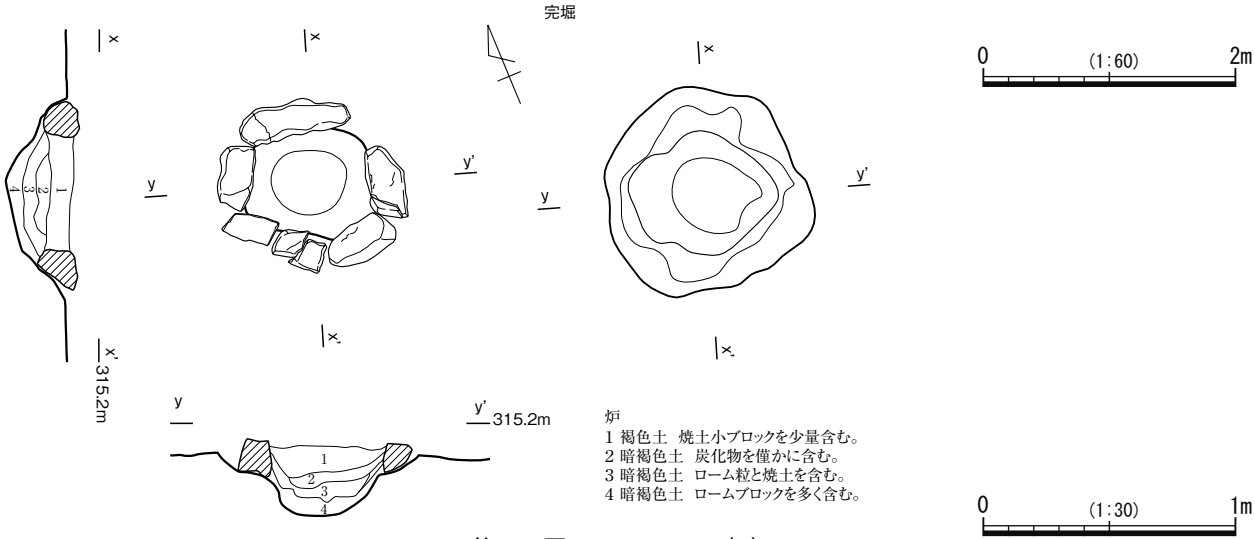


pit3
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒を多く含む。



pit4
1 焼土層　炭化物を僅かに含む。
2 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) 灰褐色土小ブロックを少量含む。
3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粒子の粗い褐色土竜を含む。
4 褐色土 (10YR4/4) 粘性のある褐色土ブロック及び、ロームブロックを含む。
5 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部に明黄褐色を含む。

SI26 炉



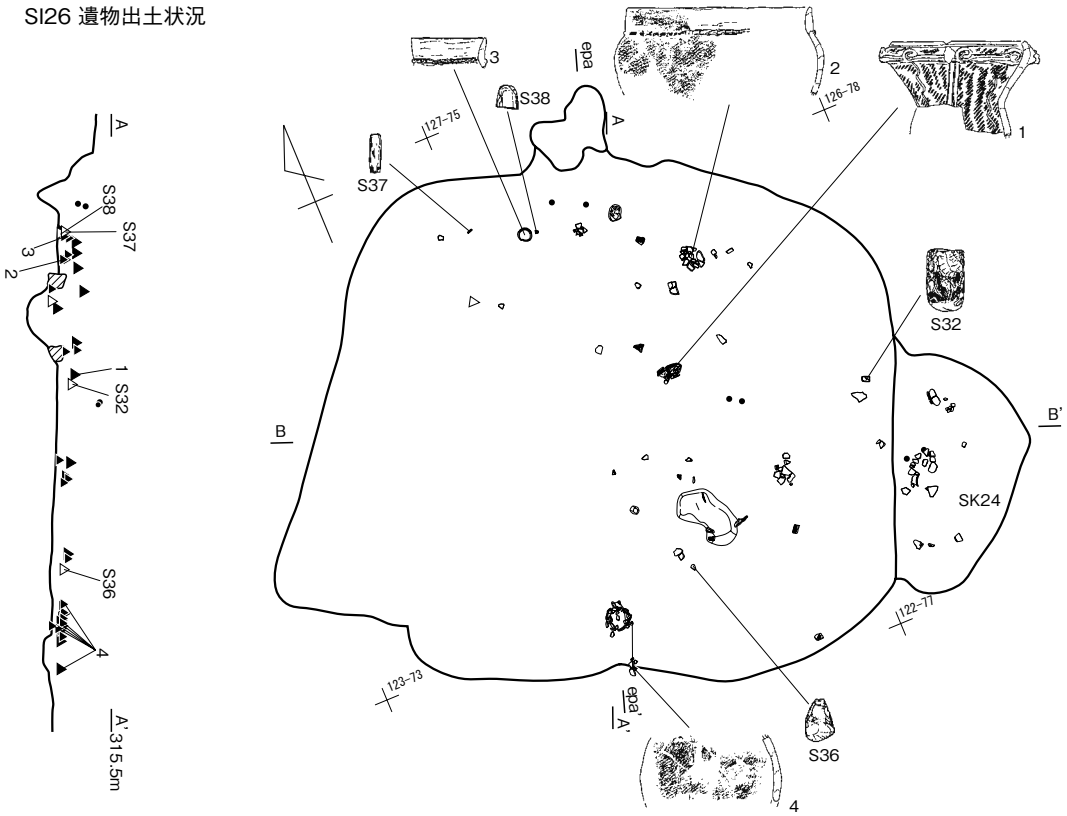
炉
1 褐色土　焼土小ブロックを少量含む。
2 暗褐色土　炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色土　ローム粒と焼土を含む。
4 暗褐色土　ロームブロックを多く含む。

0 (1:60) 2m

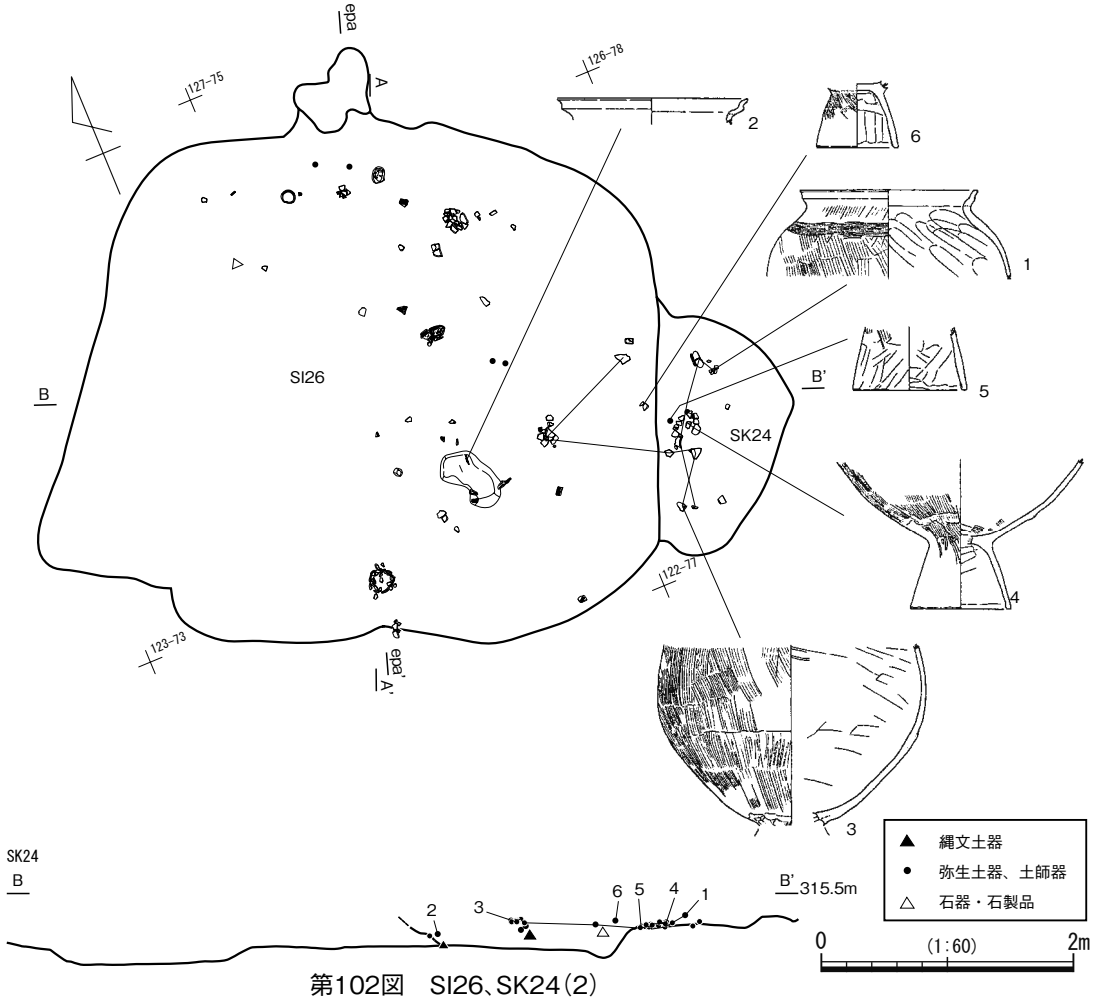
0 (1:30) 1m

第101図　SI26、SK24（1）

SI26 遺物出土状況

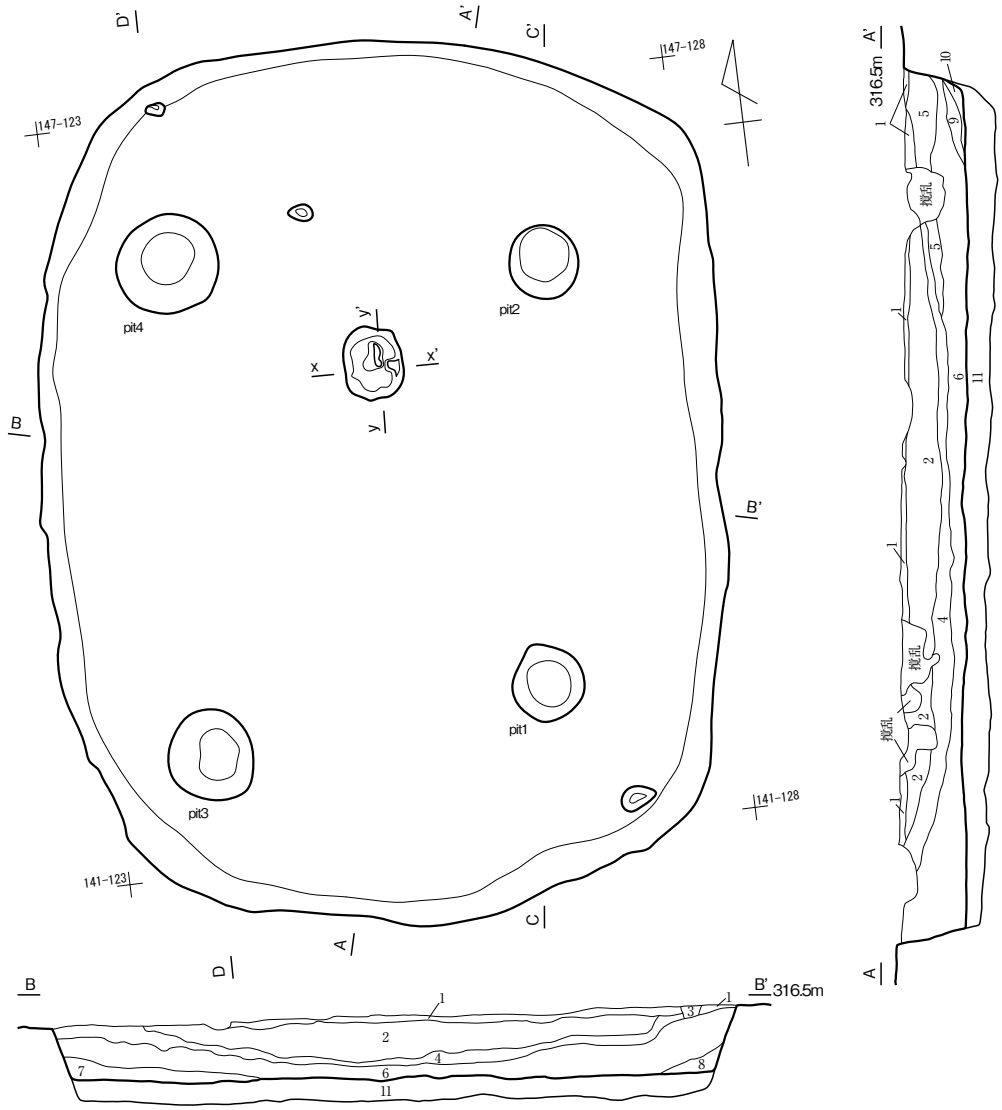


SK24 遺物出土状況

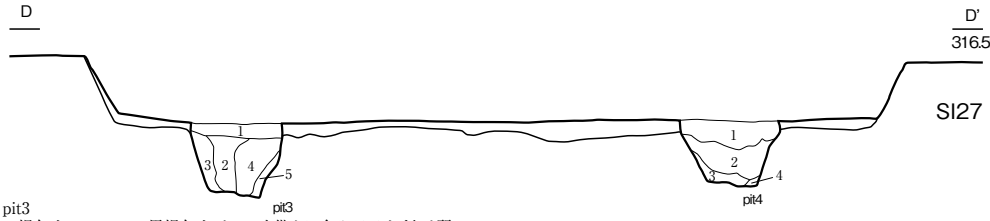


第102図　SI26、SK24(2)

SI27



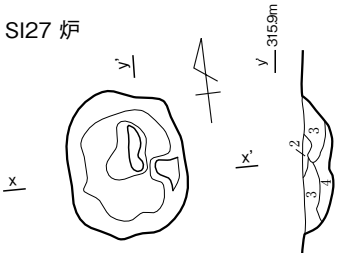
1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土と黒褐色土粒をまだらに少量含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土小ブロックを含む。
3 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色粒を少量、焼土を僅かに含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土ブロックを多量に含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 白色粒を僅かに、層下部にローム粒を含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土小ブロックを少量、層下部にロームブロックを少量含む。
7 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土小ブロックを少量、層下部にロームブロックを多量に含む。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にローム小ブロックを多量に含む。
9 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土小ブロックとローム小ブロックを少量含む。
10 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロックと、層下部にローム小ブロックを含む。
11 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。

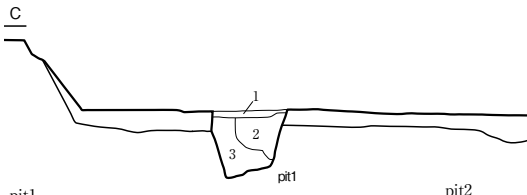


pit3
1 褐色土 (10YR4/6) 黒褐色土ブロックを僅かに含み、ややしまりは弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックを僅かに含む。
3 褐色土 (10YR4/4) 炭化物を極僅かに、暗褐色粒多量に含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒子を多く含む。
5 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロックを多く含む。しまりはない。

pit4
1 褐色土 (10YR4/6) ローム粒子を僅かに含み、ややしまりは弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックをわずかに含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロックを多量に含み、しまりに欠ける。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロックを僅かに含む。しまりは強い

SI27 炉





pit1
1 褐色土 (10YR4/4) 炭化物を極僅かに、暗褐色粒多量に含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックを僅かに含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒を多く含み、しまりはやや強い。

pit2
1 褐色土 (10YR4/6) 黒褐色土ブロックを僅かに含み、ややしまりは弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロックをわずかに含む。
3 褐色土 (10YR4/4) 炭化物を極僅かに、ロームブロックを多量に含む。しまりに欠ける。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロックを多く含む。しまりはない。

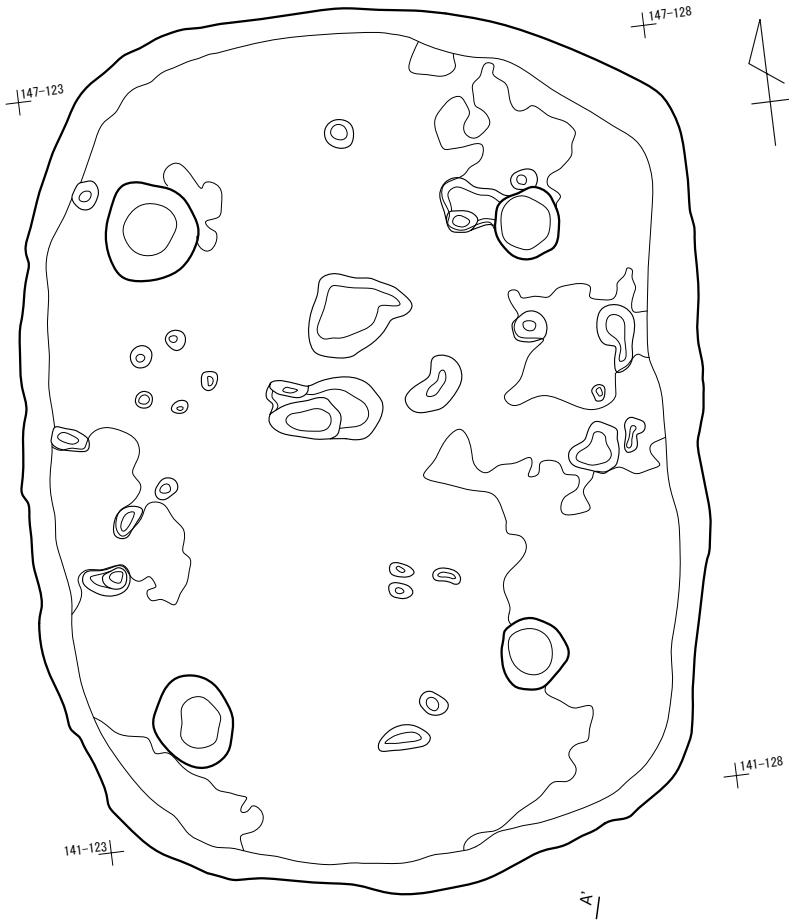
炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物を多量に含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒を多量、炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを少量含む。しまり弱い。
4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを多量、やや粘性のある白色粒と炭化物を僅かに含む。

0 (1:60) 2m

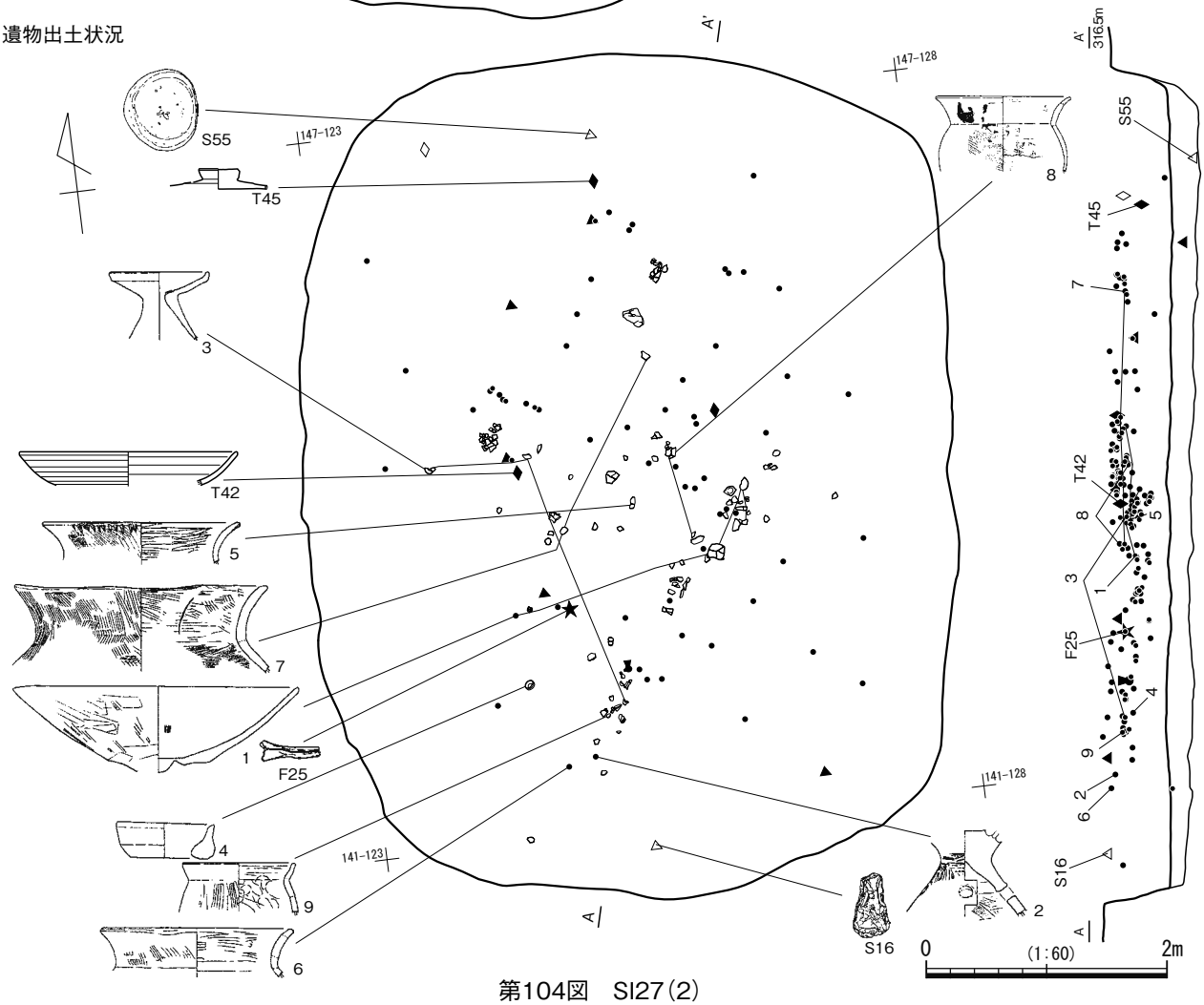
0 (1:30) 1m

第103図　SI27(1)

掘り方

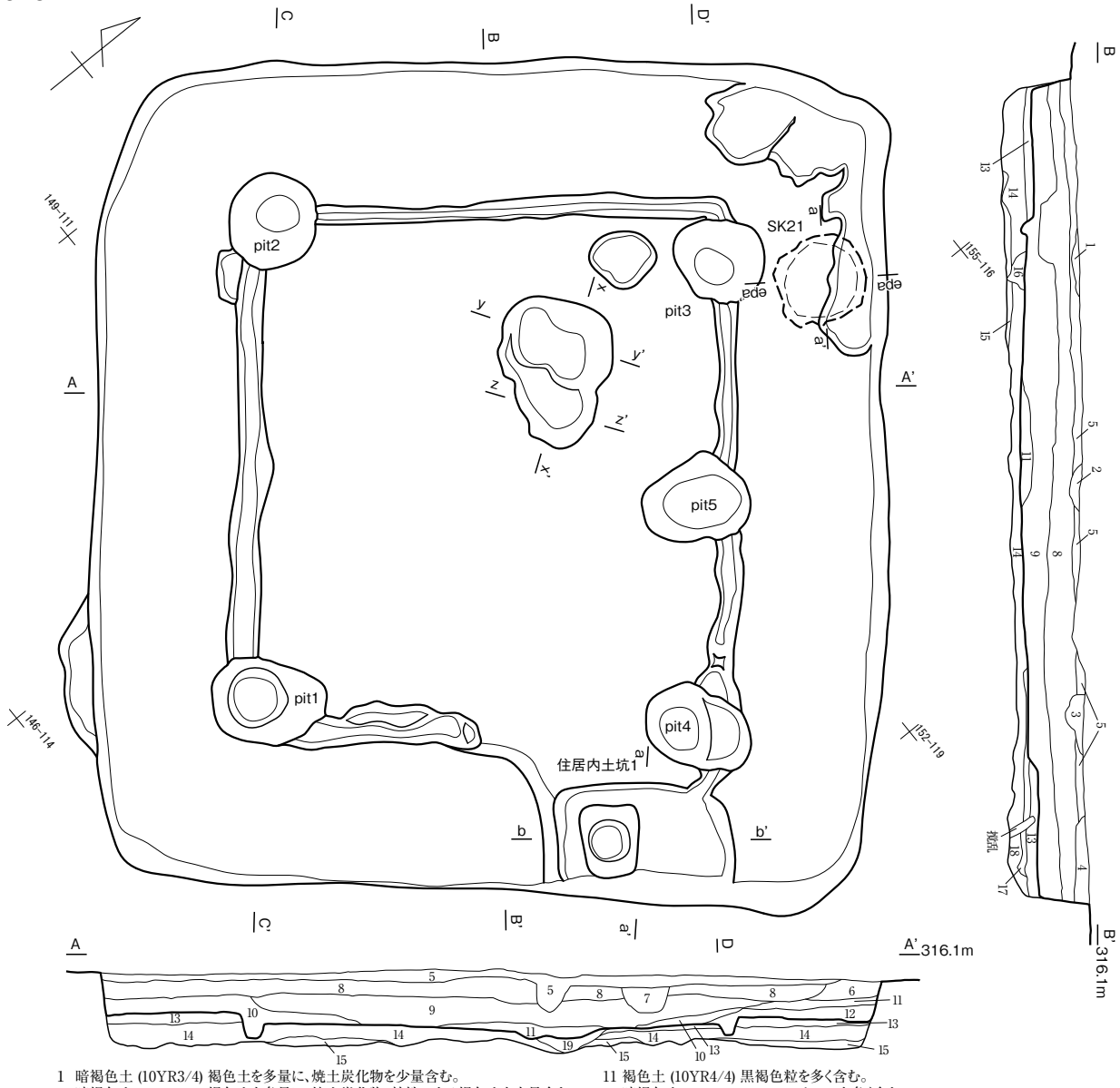


遺物出土状況



第104図　SI27(2)

SI28



1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土を多量に、焼土炭化物を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土を多量に、焼土炭化物、粘性のある褐色土を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロックを少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を層状に含む。
5 褐色土 (10YR4/6) 焼土・炭化物粒を僅かに含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土・炭化物粒を少量、層上部に粘質土小ブロックを少量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
8 褐色土 (10YR4/4) 焼土を極僅かに、粒子の粗い黒褐色砂質土粒を多く含む。
9 暗褐色土 (10YR3/4) 明褐色粒を多く、焼土を極僅かに含む。
10 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を少量含む。
11 褐色土 (10YR4/4) 黒褐色粒を多く含む。
12 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを多く含む。
13 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土小ブロック・ロームブロック・焼土・炭化物粒を含む。
14 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強い。
15 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土小ブロックを多く含む。
16 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多く含む。しまり強い。
17 褐色土 (10YR4/6) 黒、黄褐色土小ブロックを含む。しまり非常に強い。
18 褐色土 (10YR4/6) ローム少量含む。しまりやや弱い。
19 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に焼土を含む。しまり非常に弱い。

pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを含む。しまりやや弱い。

pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロック、ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを非常に多く含む。

pit3
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒少量含む。しまり弱い。
3 褐色土 (10YR4/4) 炭化物僅か。
4 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロック多い。しまり強い。

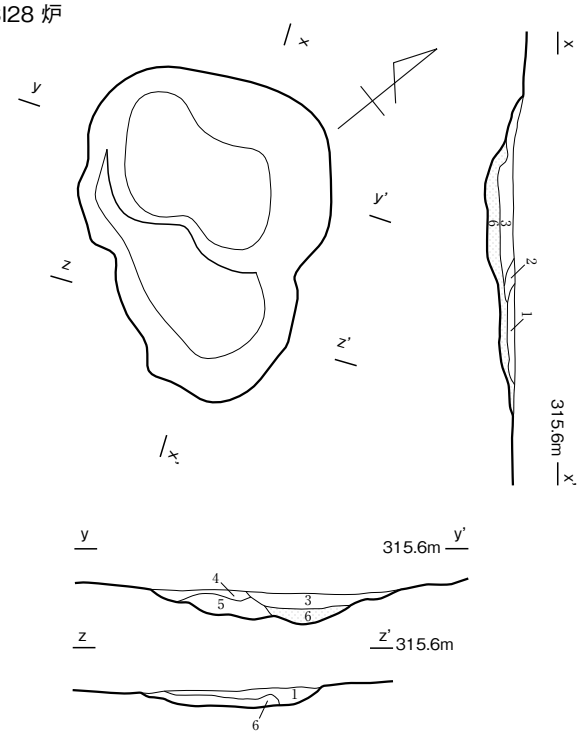
pit4
1 暗褐色土 (10YR3/4) 層上部に焼土、炭化物を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 層下部にローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 非常に粒子の粗い褐色砂質土を含む。
4 褐色土 (10YR4/4) 明褐色粒を多く、層下部にロームブロックを含む。

pit5
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロック、炭化物を含む。焼土を極僅かに含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 暗褐色粒を多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロック多くしまり強い。

0 (1:60) 2m

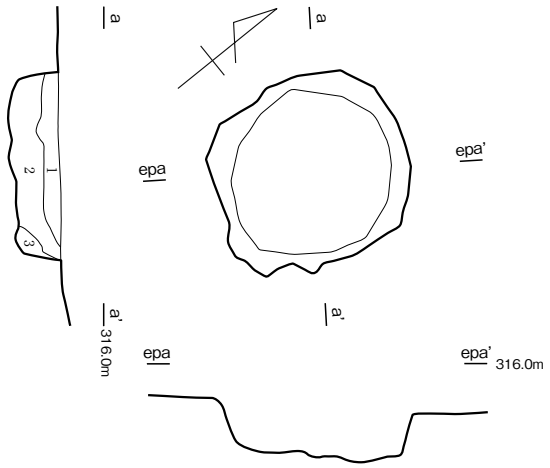
第105図　SI28(1)

SI28 炉



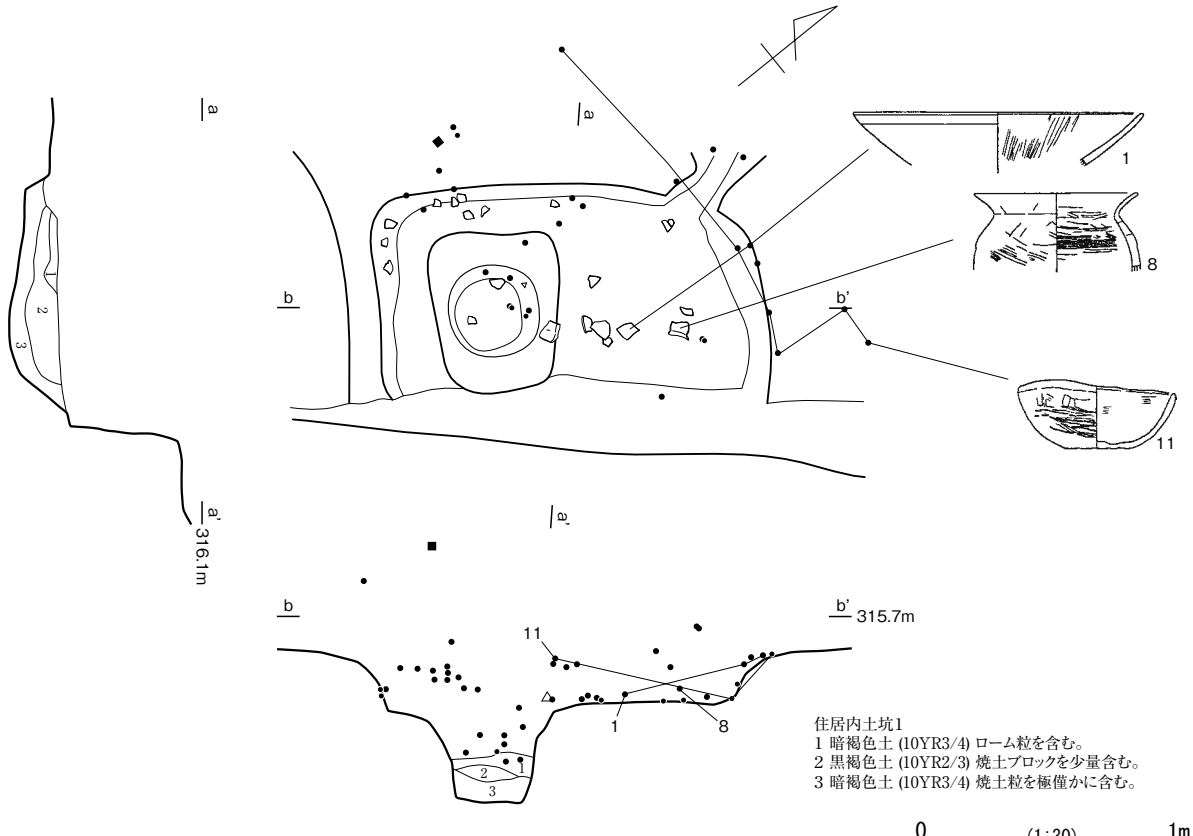
炉
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 白色粘質土(粘土か?)と
炭化物を少量、焼土を僅か。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土を多く、焼土を少量含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒を多く、焼土を少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロックを多く、
明褐色土ブロック・焼土・炭化物を少量含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を多く、ロームブロックを少量含む。
6 焼土層

SK21



SK21
1 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土少ブロックを含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土少ブロックを少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒を多く含む。

住居内土坑１遺物出土状況

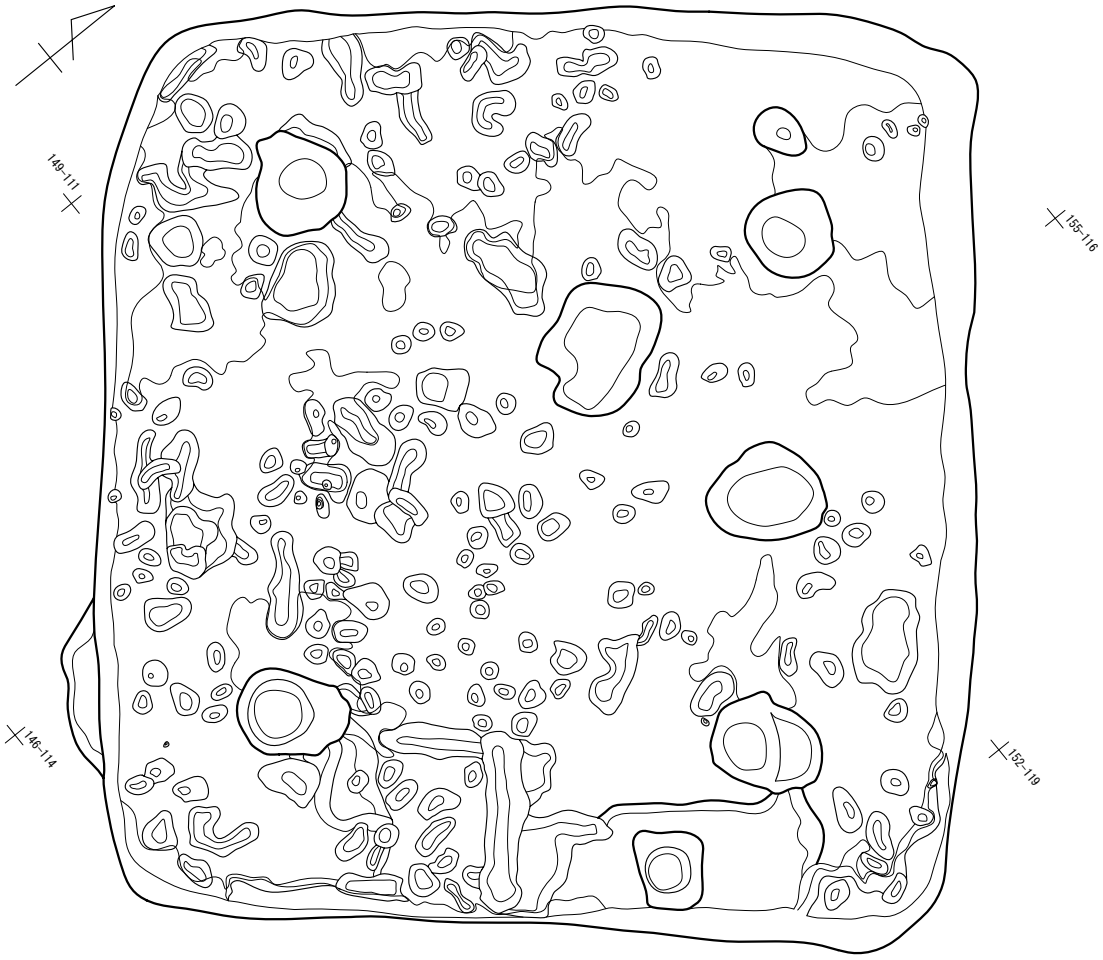


住居内土坑1
1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を含む。
2 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土ブロックを少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒を極僅かに含む。

0 (1:30) 1m

第106図　SI28(2)

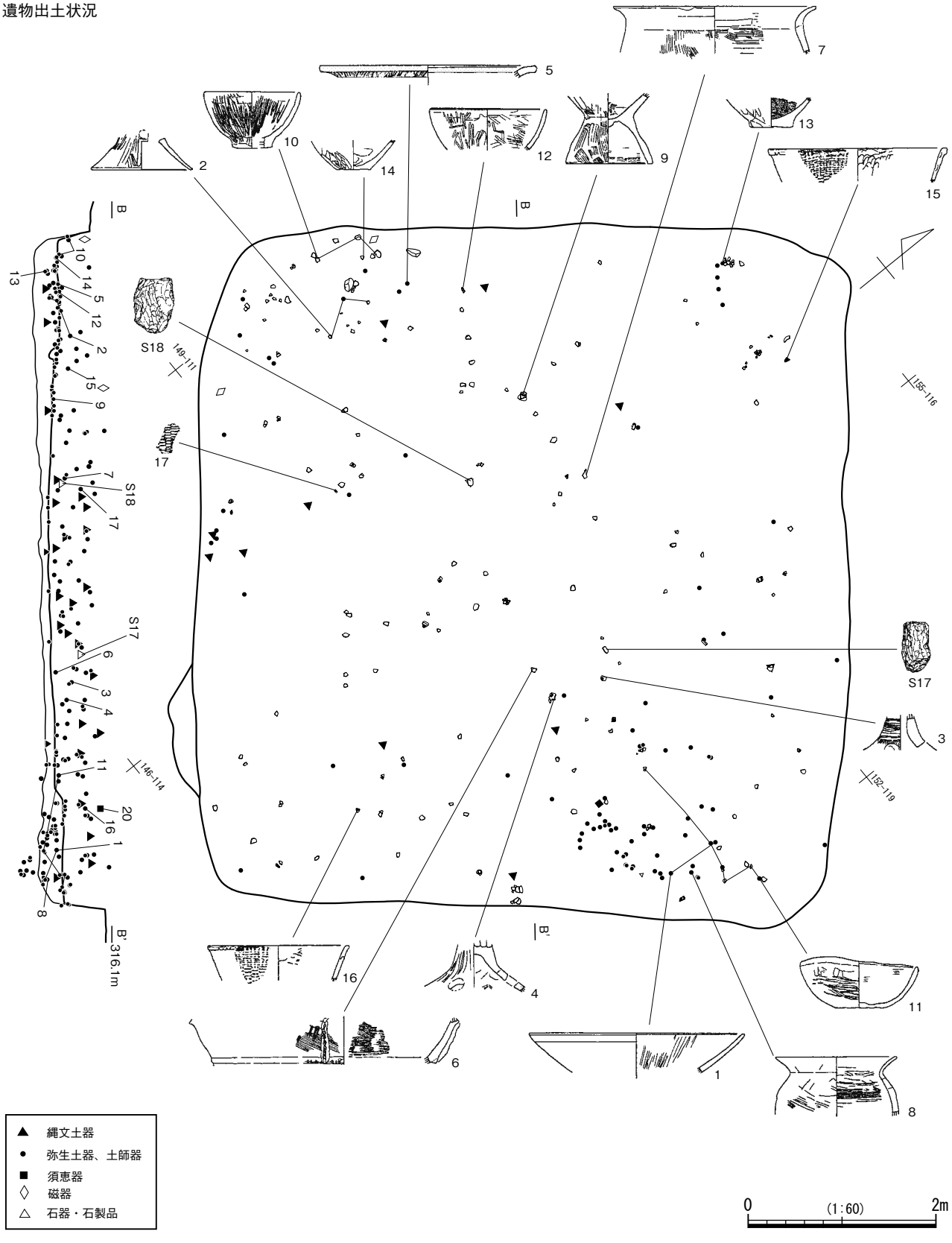
掘り方



0 (1:60) 2m

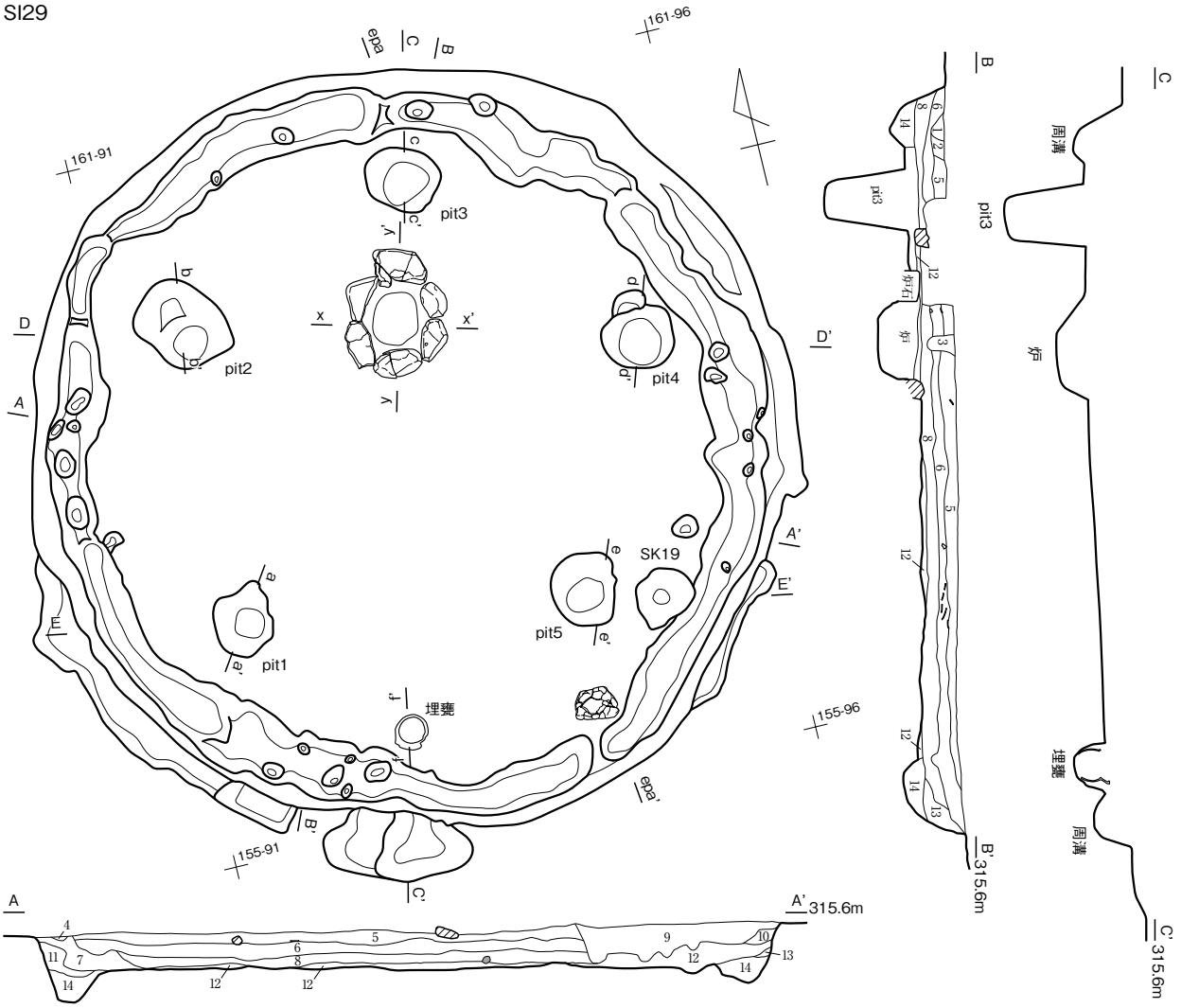
第107図　SI28(3)

遺物出土状況

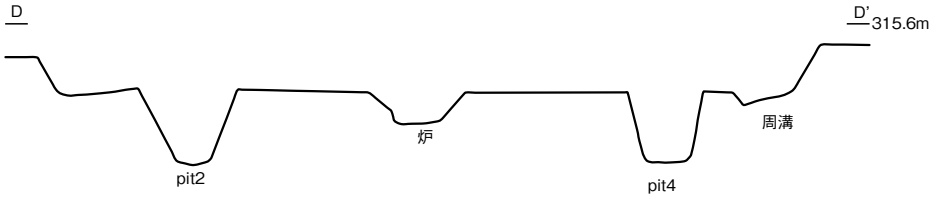


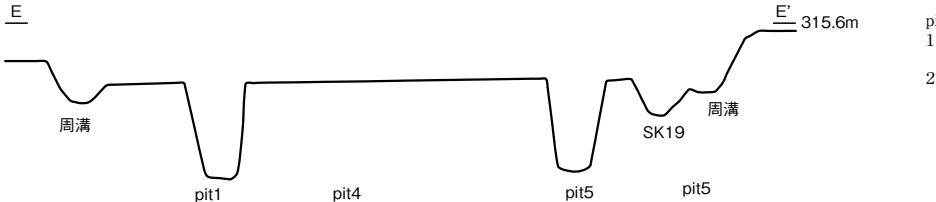
第108図　SI28(4)

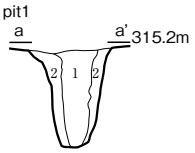
SI29



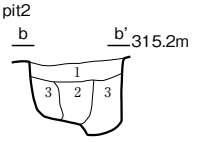
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土・炭化物を極僅かに、暗褐色土ブロックを多く含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土・炭化物を極僅かに、粒子の粗い黒褐色土を含む。
4 明褐色土 (7.5YR5/8) 炭化物を極僅かに含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック及び粘性のある明褐色土を含む。
6 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土粒・炭化物粒を僅かに含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土を少量、炭化物を多く、層下部に明褐色土ブロックを含む。
8 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を少量、焼土・炭化物を含む。
9 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を極僅かに、暗褐色土ブロックを含む。
10 明褐色土 (7.5YR5/8) 炭化物を僅かに含む。
11 褐色土 (7.5YR4/6)
12 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を多く、ローム小ブロックを少量含む。
13 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
14 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを非常に多く含む。



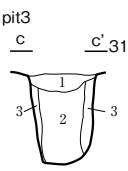




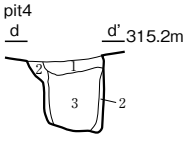
pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土、炭化物を極僅かロームブロックを少量含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土ブロックを多く含む。



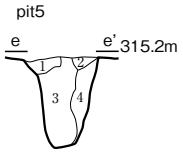
pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを多く、焼土・炭化物を僅かに含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを非常に多く、炭化物を僅かに含む。



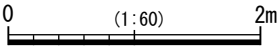
pit3
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を多く含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物とローム小ブロックを含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒とローム小ブロックを含む。



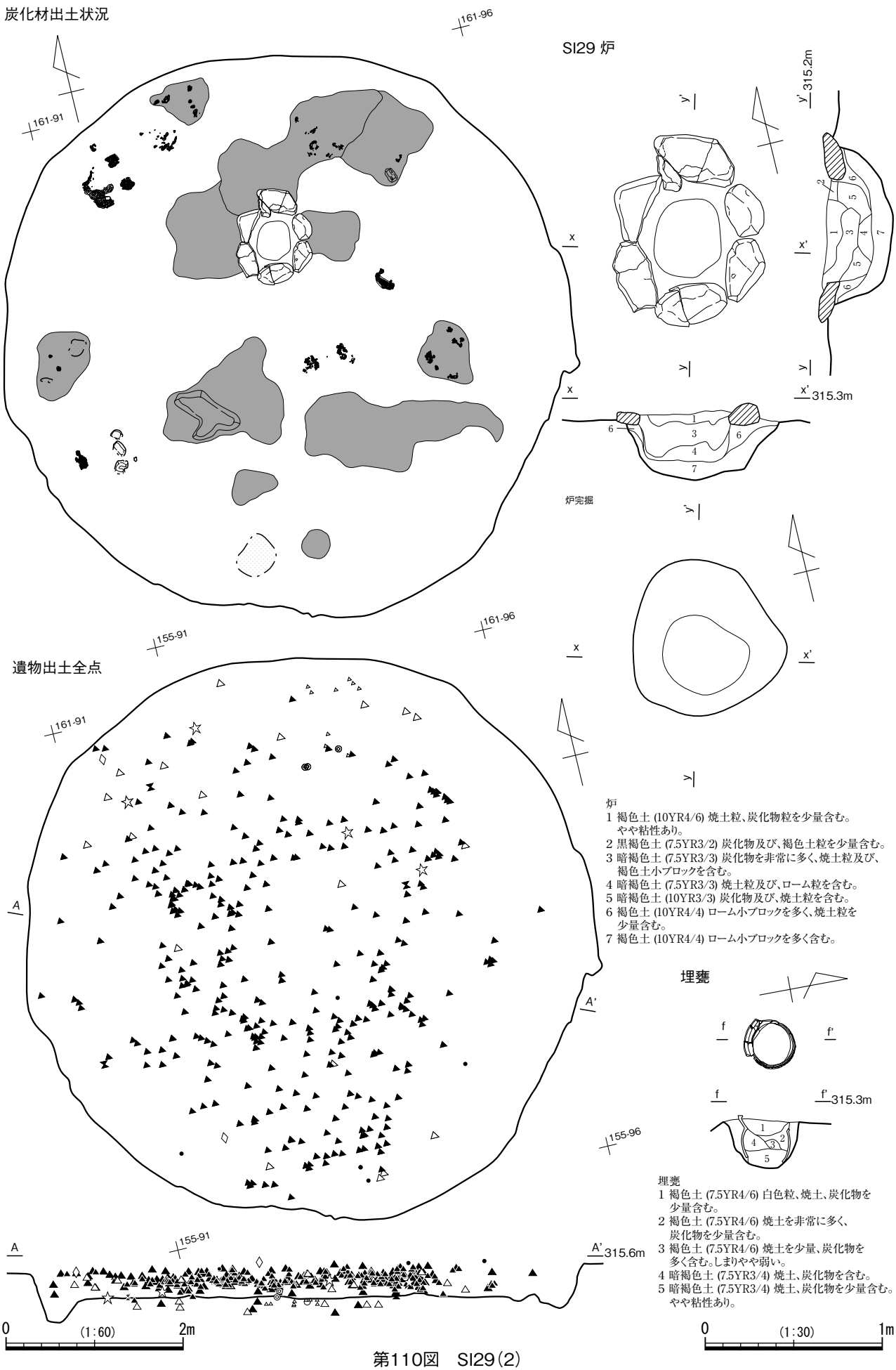
pit4
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物と黒色砂質土粒を多く含む。
2 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを少量、炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を多く、層下部にロームを多く含む。



pit5
1 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを非常に多く含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を少量、褐色土粒を多く含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを多く、炭化物を僅かに含む。

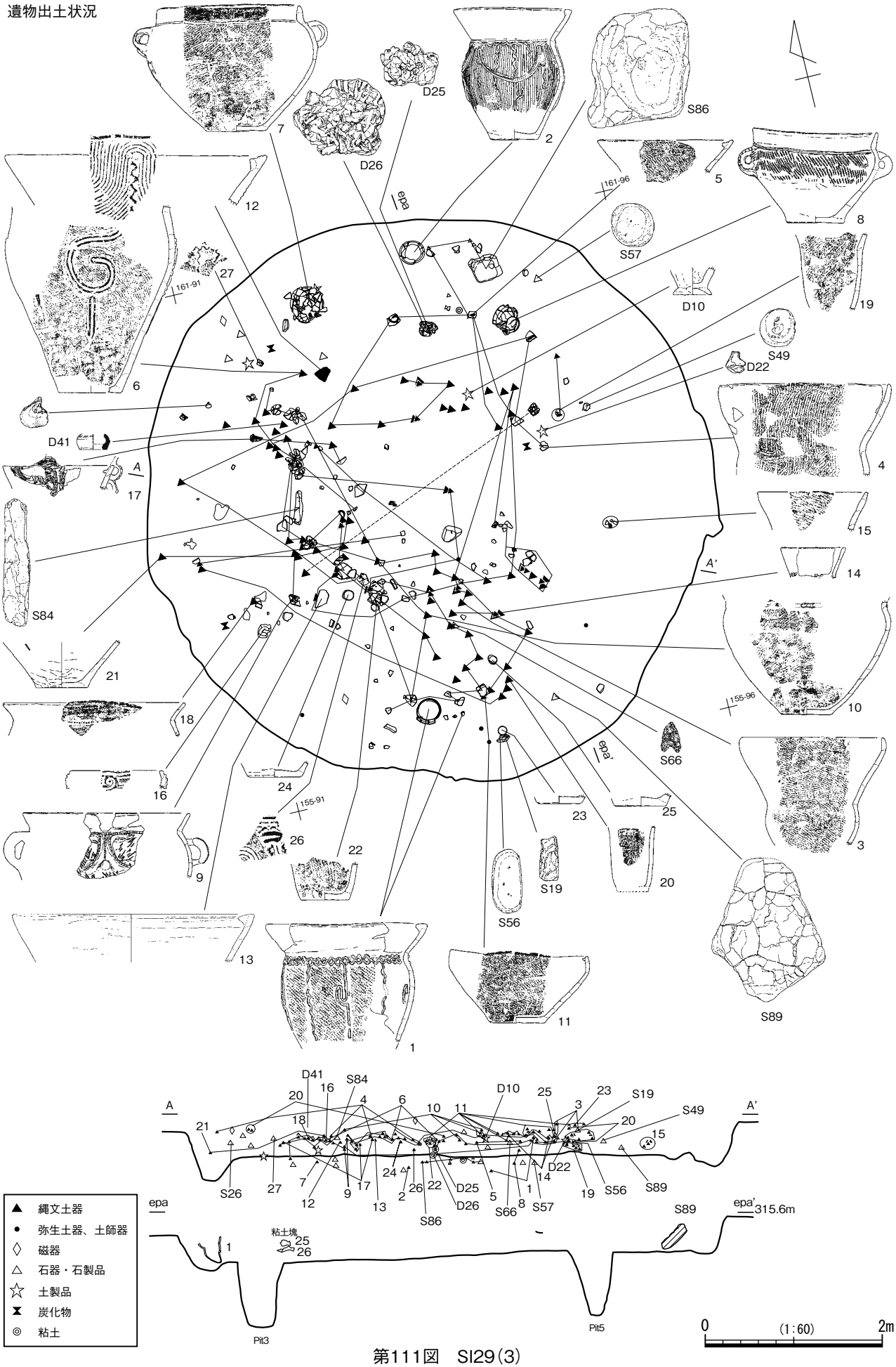


第109図　SI29(1)


炭化材出土状況
161-96
161-91
SI29 炉
y'
315.2m
x
x'
315.3m
炉完掘
遺物出土全点
155-91
161-96
161-91
A
A'
315.6m
155-96
埋甕
f
f'
315.3m
炉
1 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒、炭化物粒を少量含む。
やや粘性あり。
2 黒褐色土 (7.5YR3/2) 炭化物及び、褐色土粒を少量含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物を非常に多く、焼土粒及び、
褐色土小ブロックを含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土粒及び、ローム粒を含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物及び、焼土粒を含む。
6 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを多く、焼土粒を
少量含む。
7 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを多く含む。
埋甕
1 褐色土 (7.5YR4/6) 白色粒、焼土、炭化物を
少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を非常に多く、
炭化物を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を少量、炭化物を
多く含む。しまりやや弱い。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土、炭化物を含む。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土、炭化物を少量含む。
やや粘性あり。
0 (1:60) 2m
0 (1:30) 1m

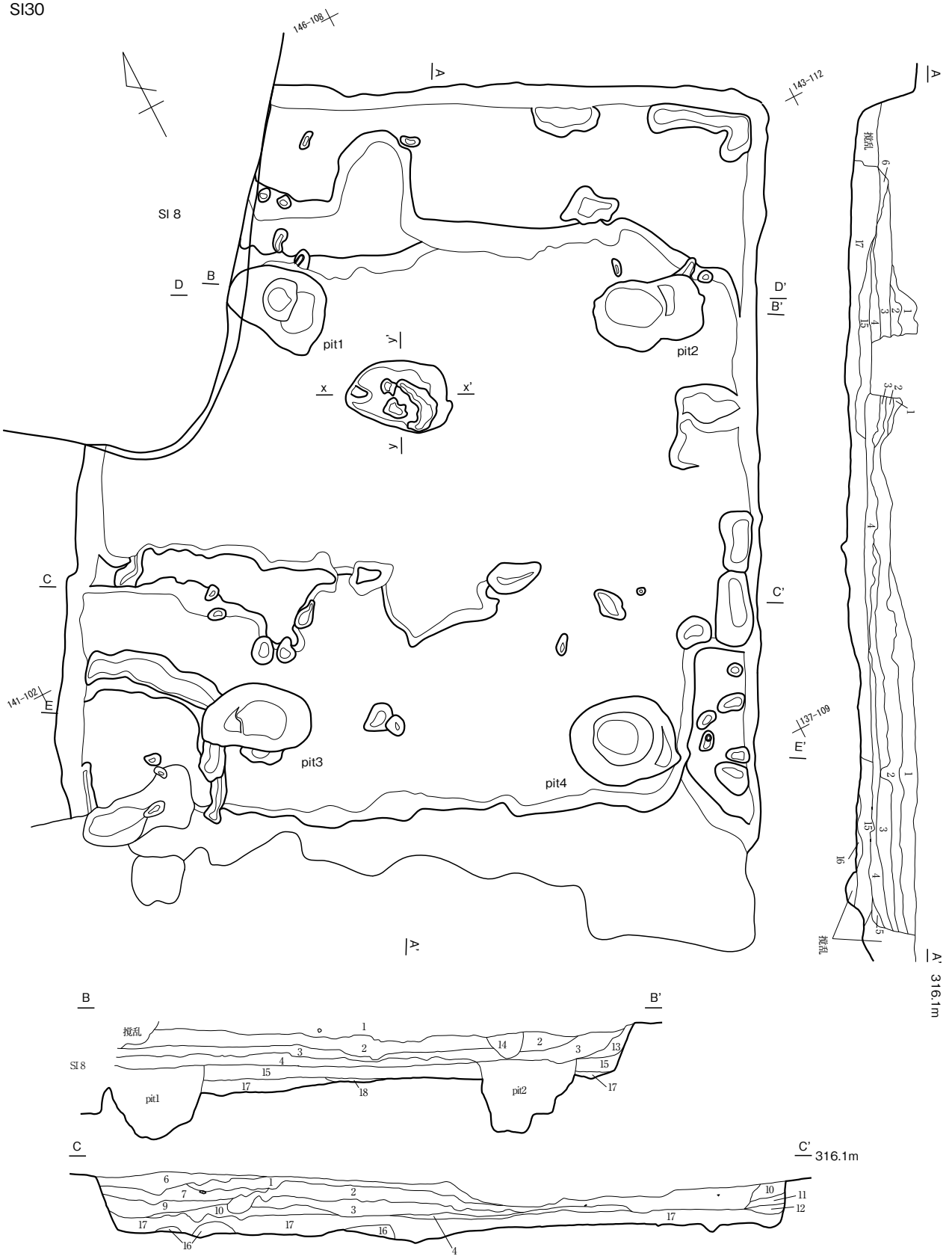
第110図　SI29(2)

遺物出土状況



第111図　SI29(3)

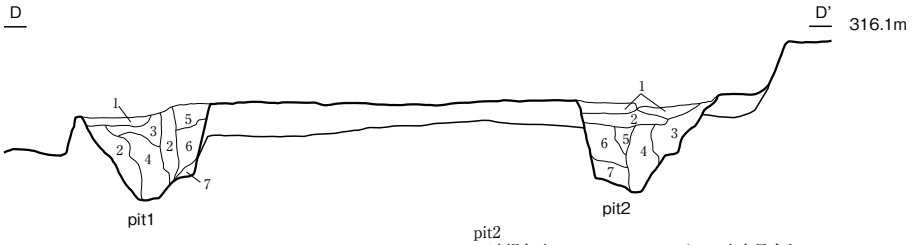
SI30



1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土ブロックを多く含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土ブロックを少量、炭化物を極僅かに含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを少量含む。
4 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを多く含む。
5 褐色土 (10YR4/6) 粒子の細かい白色砂質土を少量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロックを少量、焼土及び炭化物を極僅かに含む。
7 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土を少量、焼土及び炭化物を極僅かに含む。
8 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土及び炭化物を極僅かに含む。
9 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを多く含む。
10 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土及び炭化物を少量含む。
11 褐色土 (7.5YR4/4) 明褐色土ブロックを多く含む。
12 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を多く含む。しまり弱い。
13 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く含む。
14 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを非常に多く含む。しまり強い。
15 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロック及び、ロームを含む。しまり強い。
16 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土粒を僅かに含む。しまり非常に強い。
17 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック及びロームを含む。
18 褐色土 (10YR4/6) ロームを多く含む。

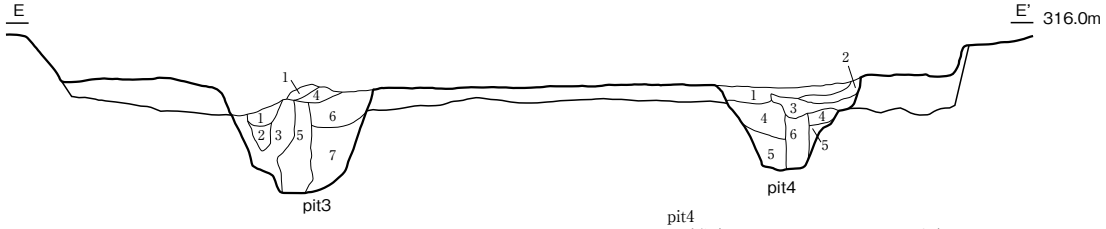
0 (1:60) 2m

第112図　SI30(1)



pit1
1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物、明褐色土小ブロックを含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒、炭化物を少量含む。しまりやや強い。
4 褐色土 (7.5YR4/6) ロームを多く含む。しまり非常に強い。
5 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒と、白色土小ブロックを含む。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色粒を含む。
7 褐色土 (7.5YR4/6) ロームを非常に多く含む。しまり強い。

pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く、炭化物を僅かに、黒・明褐色粒僅かに含む。
3 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
4 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多く含む。非常にしまり強い。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
6 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
7 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを多く、褐色土を少量含む。しまり強い。

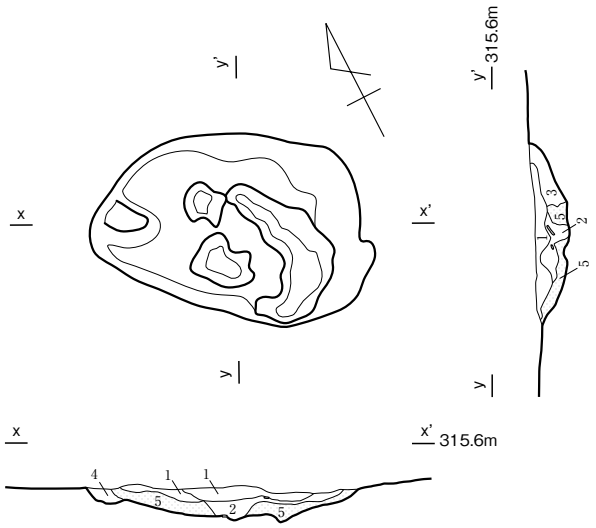


pit3
1 暗褐色土 (10YR3/4) ロームを少量含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土とロームを少量含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを多く含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 褐色土を少量、炭化物を僅かに含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを多く含む。しまり強い。
5 明褐色土　ロームブロックを非常に多く含む。しまり強い。
7 褐色土　ロームブロックを含む。層上部はしまり弱い。

pit4
1 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを含む。
2 褐色土
3 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックと暗褐色土小ブロックを含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロックを含む。しまり強い。
6 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを多く含む。

0 (1:60) 2m

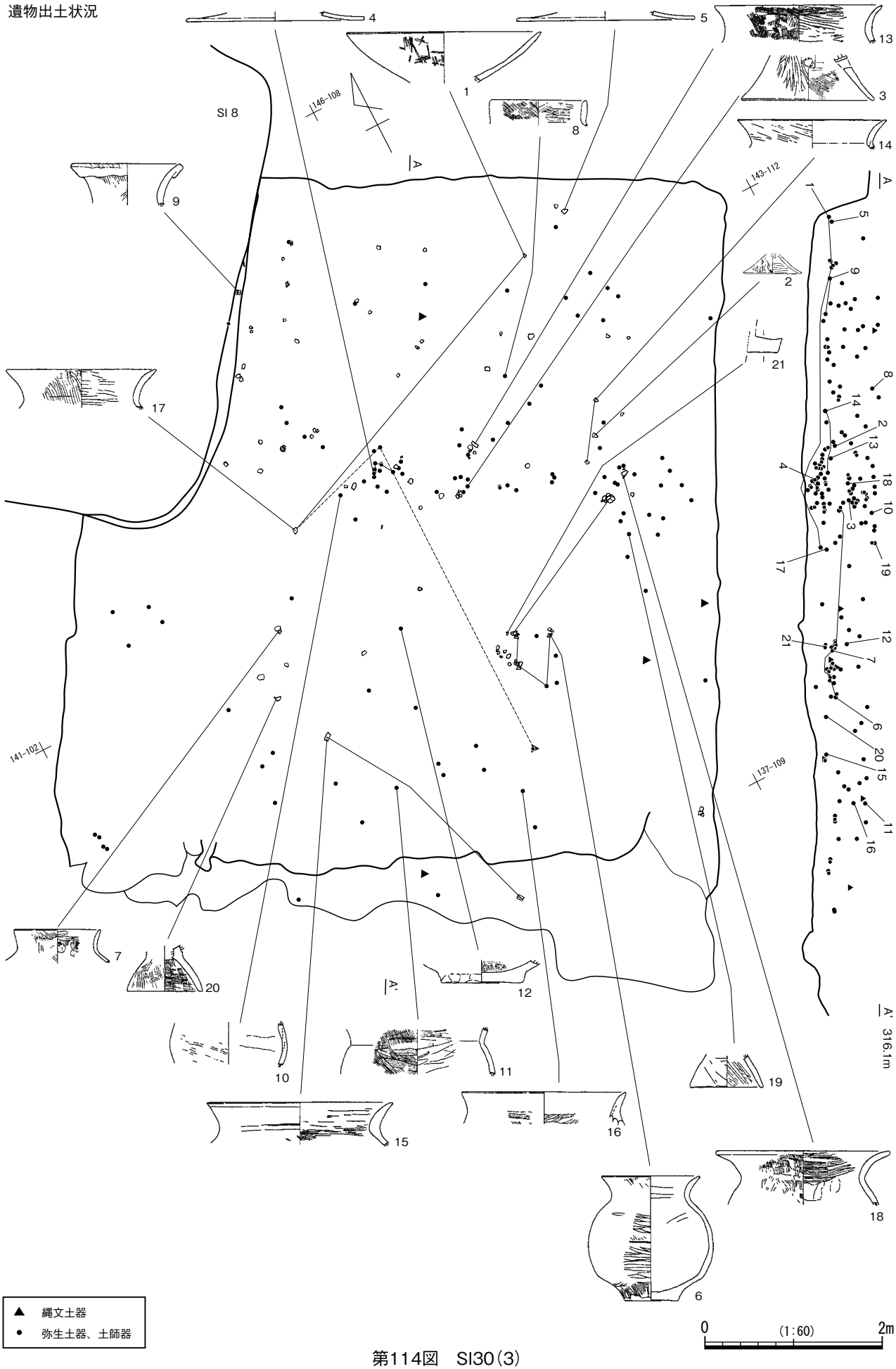
SI30 炉



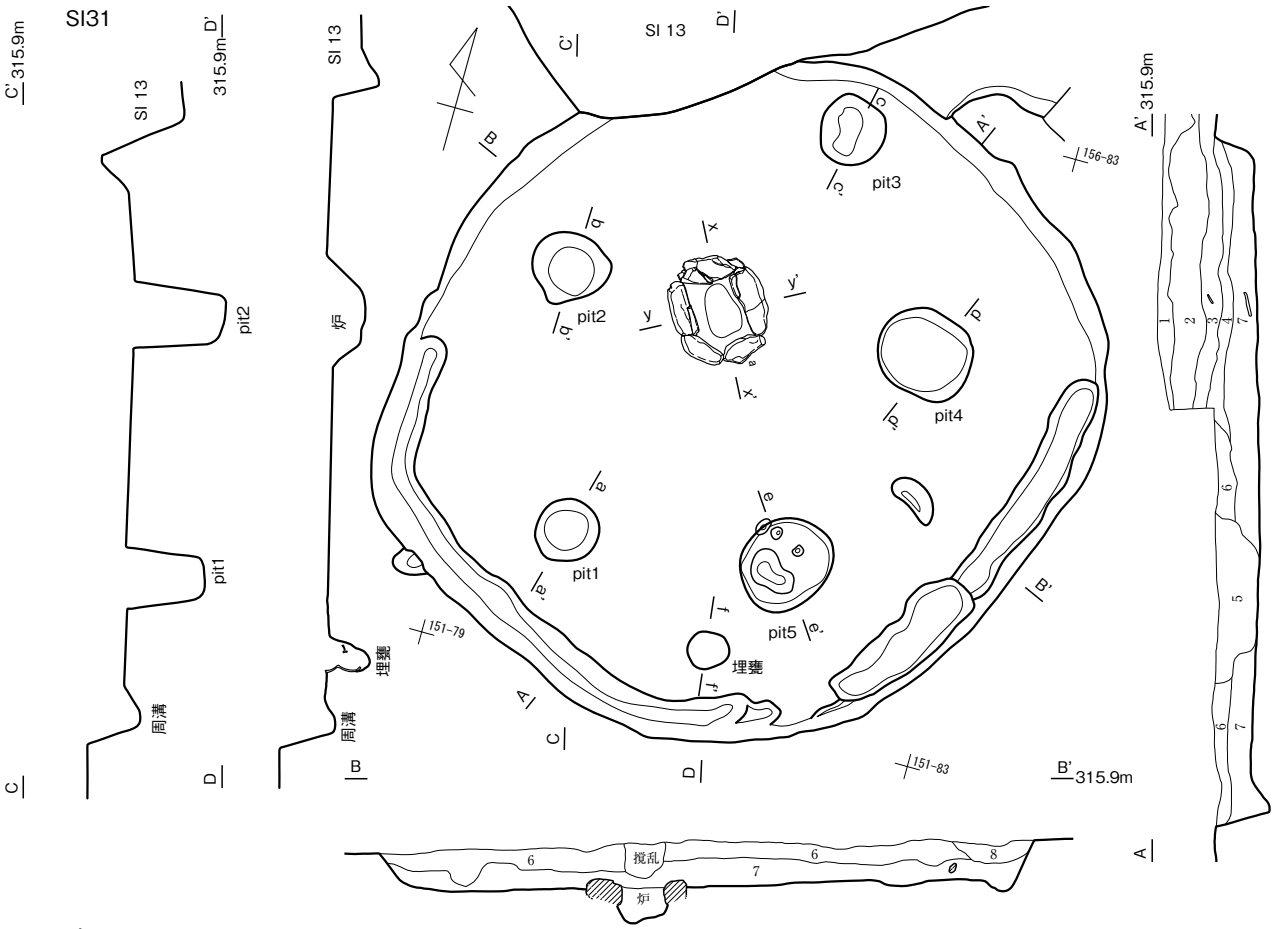
炉
1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒を少量、焼土を僅かに含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 焼土と、白色粘質土小ブロックを含む。
3 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土粒を少量含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を少量、ローム粒僅かに含む。
5 焼土層

0 (1:30) 1m

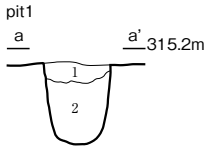
第113図　SI30(2)


遺物出土状況
SI 8
146-108
143-112
141-102
137-109
A
A'
316.1m
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
0
(1:60)
2m

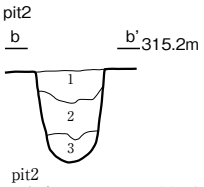
第114図　SI30(3)



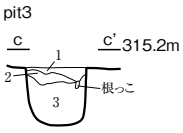
SI31ベルト
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土粒を多く含む。表土層。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロックを少量、焼土及び炭化物を極僅かに含む。表土層。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 黒、暗褐色土小ブロックを少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロックを含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に暗褐色土ブロックを多く、層下部にはロームブロックを多く含む。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを少量含む。
7 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を僅かに、ローム小ブロックを少量含む。
8 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土ブロックを少量、ロームを多く含む。



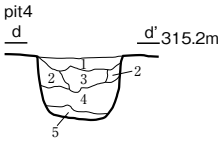
pit1
1 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に焼土・炭化物僅かに、ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物僅かに、層下部にローム多く含む。



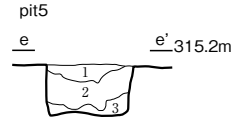
pit2
1 褐色土 (7.5YR4/4) 層上部に炭化物僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロック少量、炭化物極僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にローム多く含む。



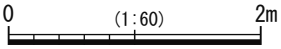
pit3
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土を多く、黒褐色土を僅かに含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土ブロックを多く含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層下部にロームを多く含む。しまり強い。

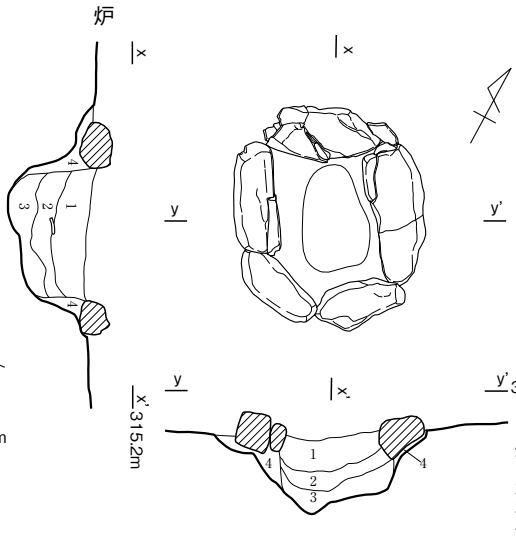


pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土を多く、黒褐色砂質土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土小ブロックを含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に明褐色粒、層下部に暗褐色粒を少量含む。
4 褐色土 (7.5YR4/4) 暗褐色土、ローム小ブロックを少量含む。
5 褐色土 (7.5YR4/3) ロームを多く含む。しまり強い。

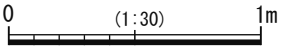


pit5
1 褐色土 (7.5YR4/4) 黒褐色粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/3) 暗褐色粒を含む。
3 褐色土 (7.5YR4/3) ロームを含む。

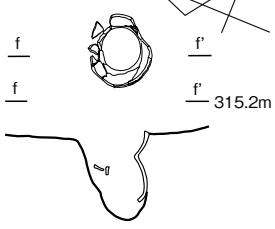




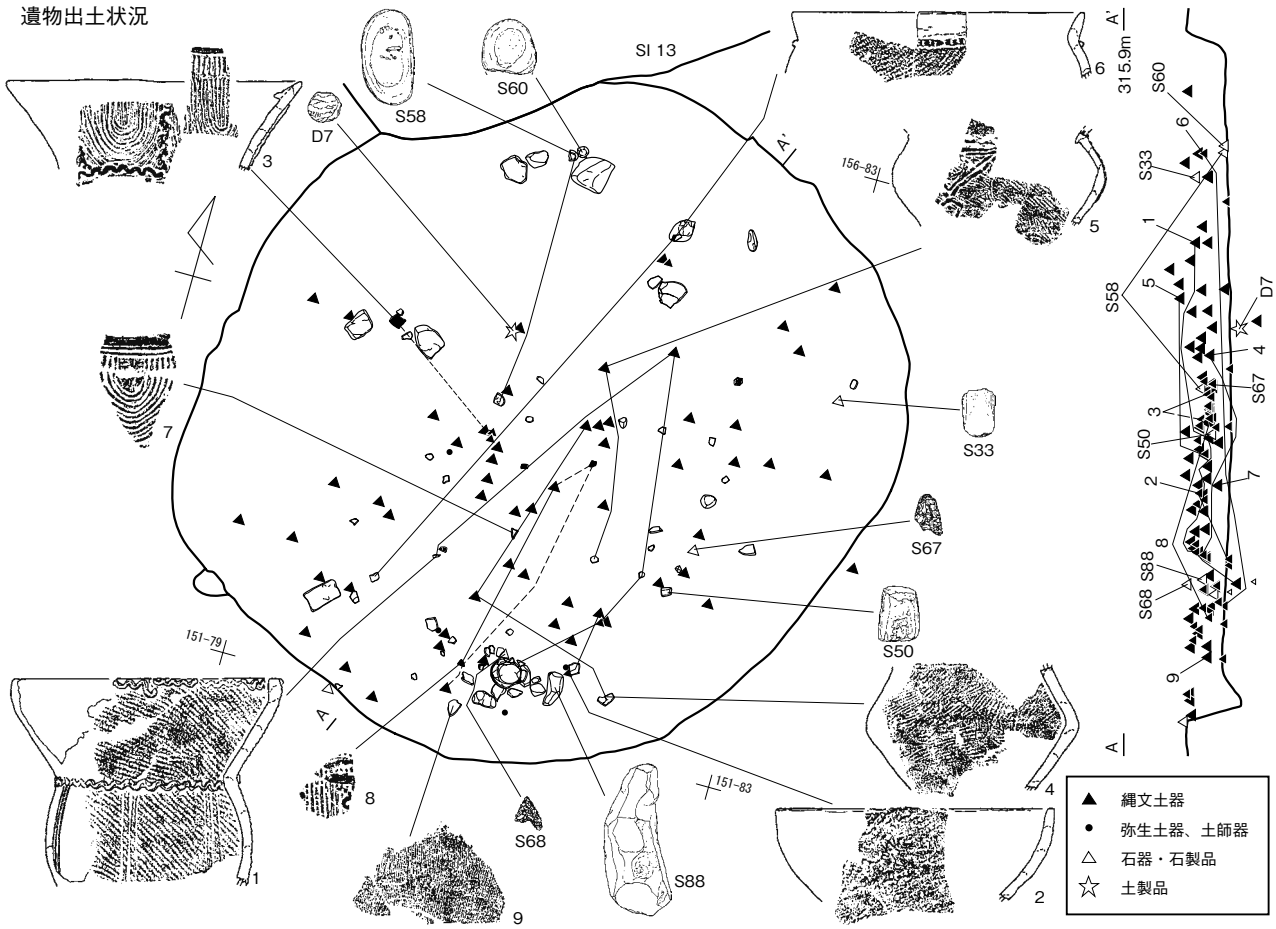
炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土小ブロック少量、炭化物僅かに含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム小ブロック多量、焼土小ブロック少量。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム小ブロック、焼土ブロック多。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロック多。しまり強い。

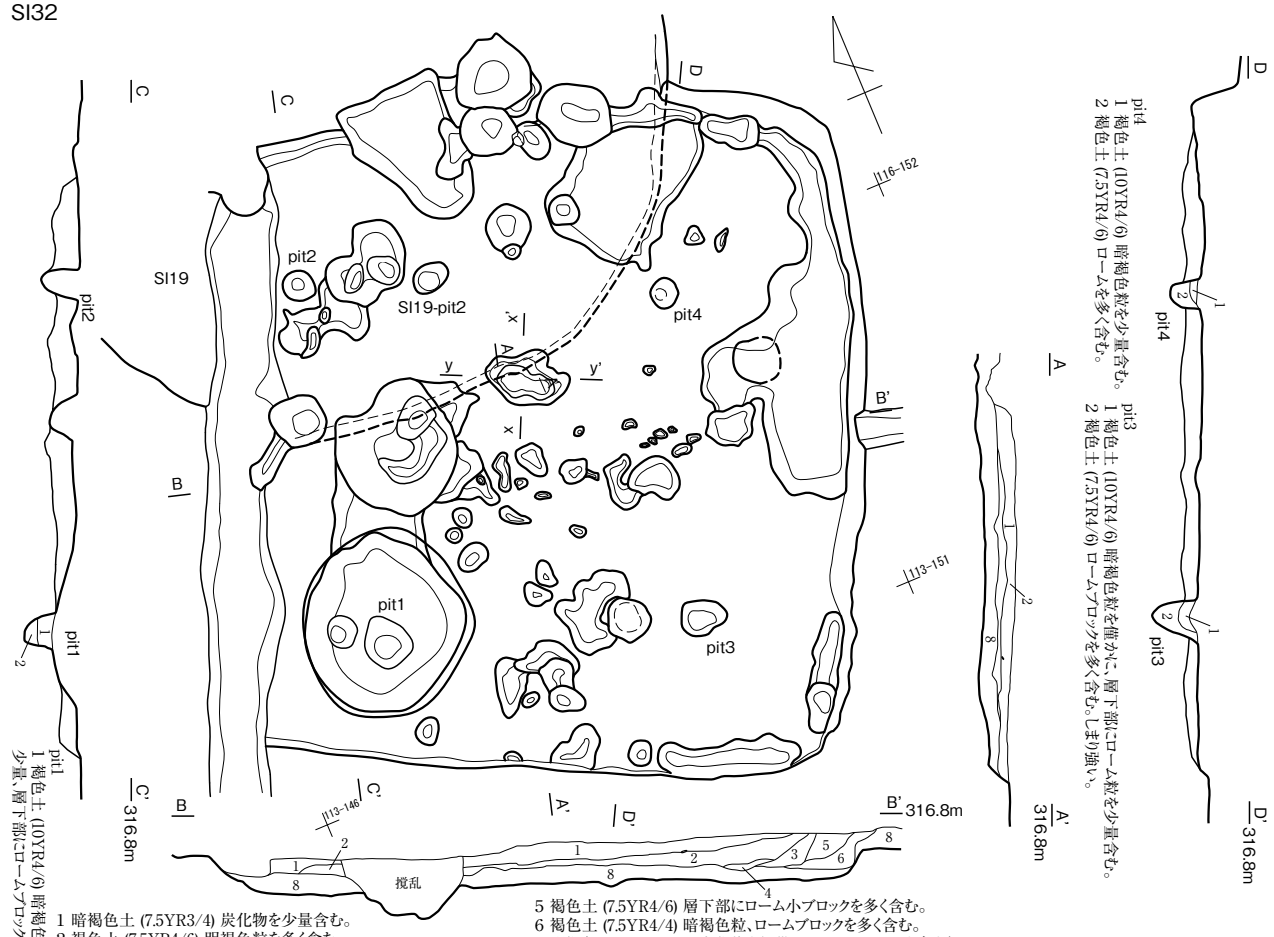


埋甕



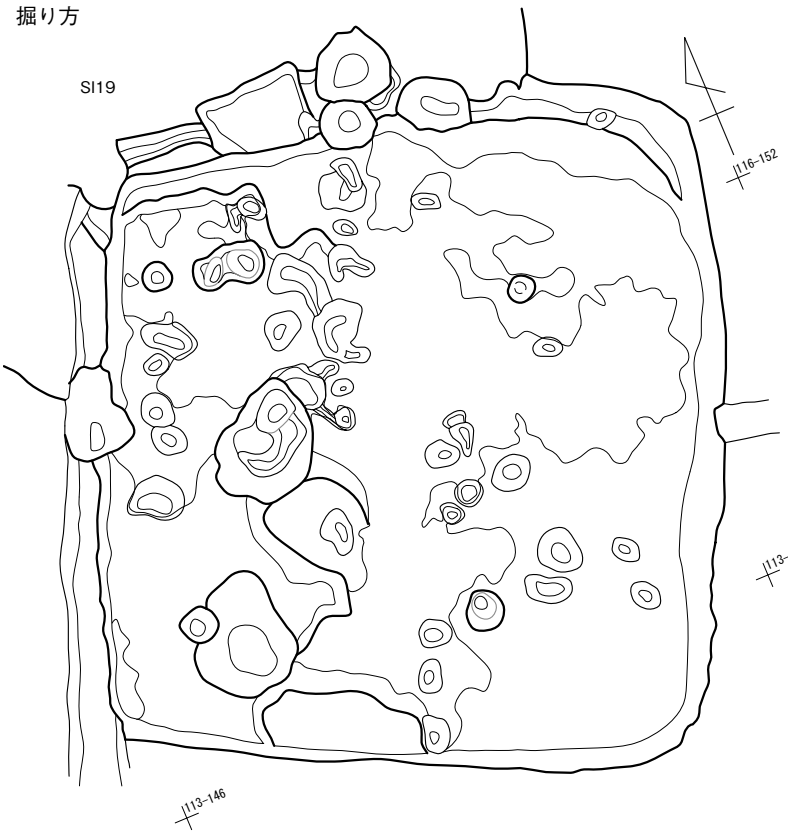
第115図　SI31 (1)



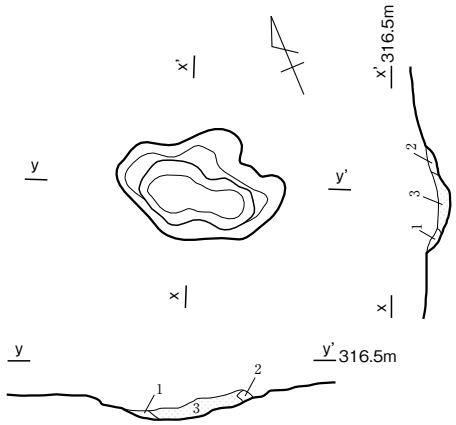


第116図　SI31 (2)、SI32(1)

掘り方



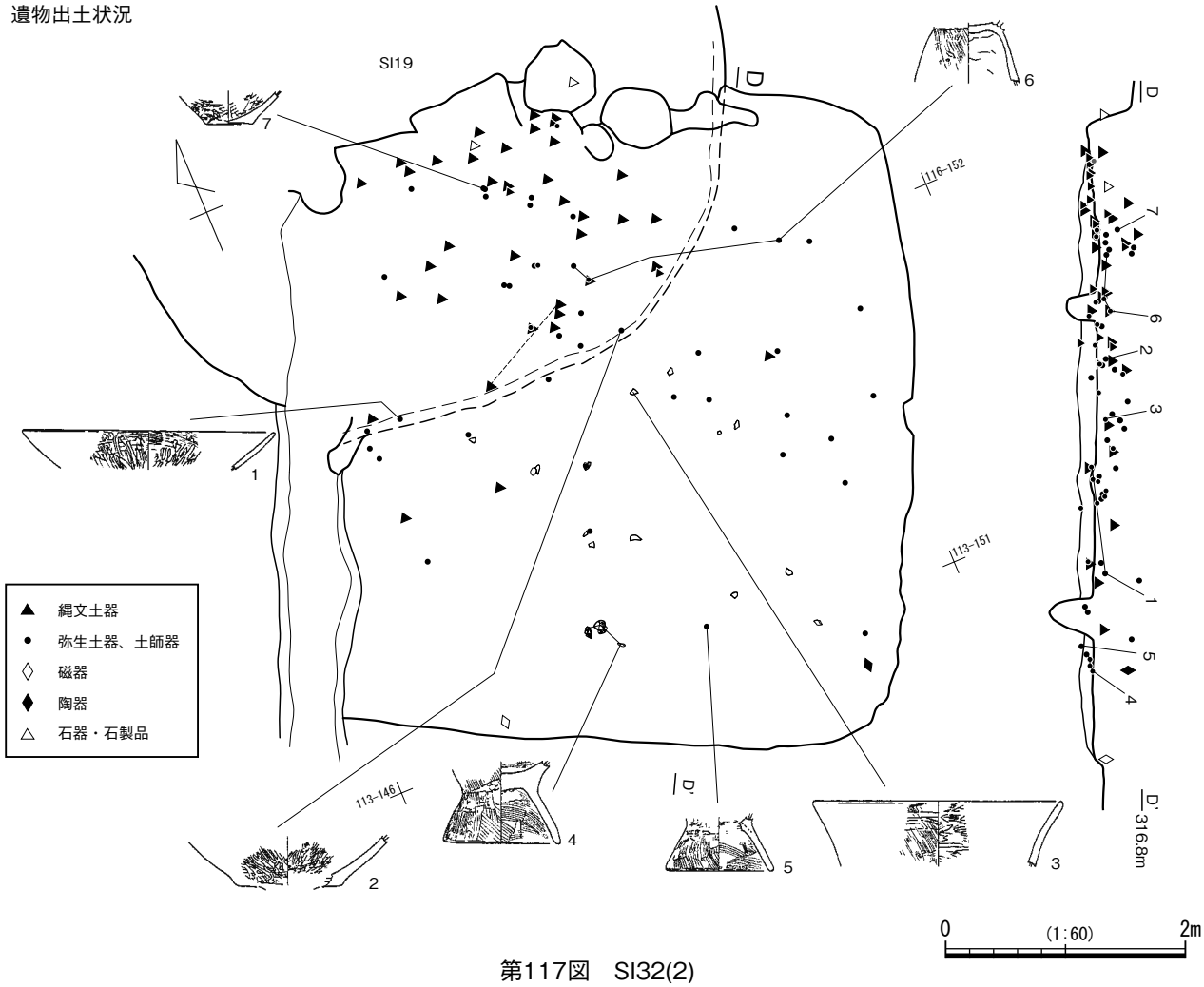
SI32 炉



SI32炉
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を少量、焼土を僅かに含む。
3 焼土層

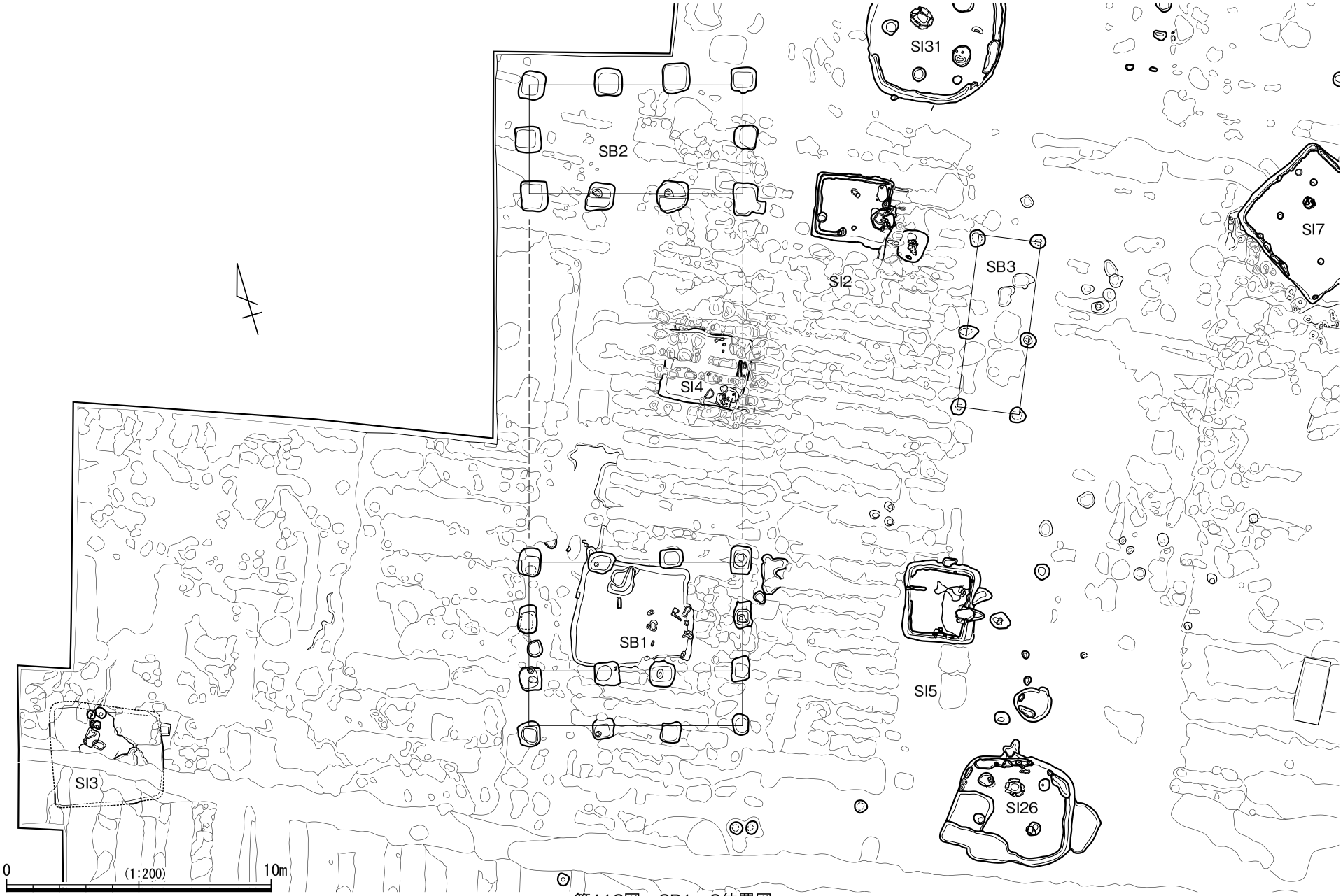
0 (1:30) 1m

遺物出土状況



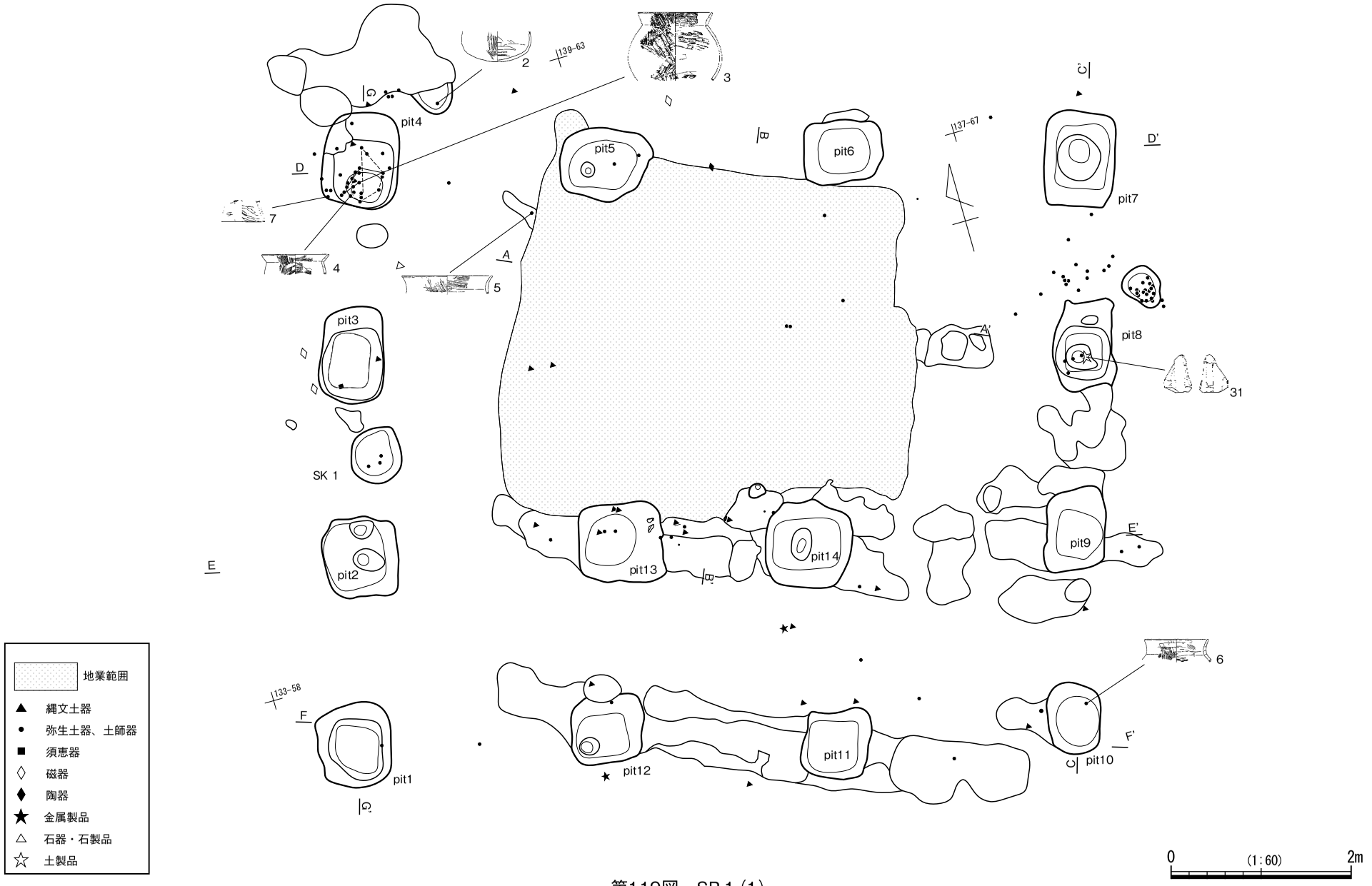
0 (1:60) 2m

第117図　SI32(2)

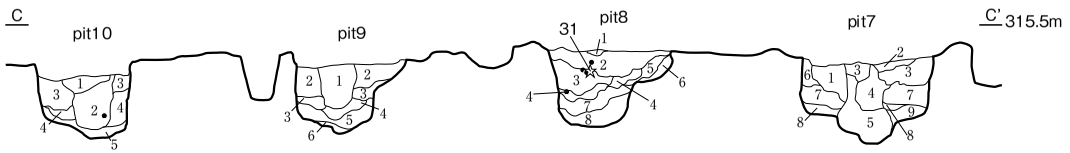


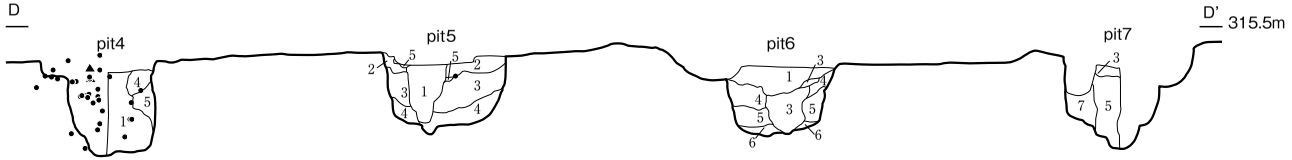
第118図　SB1～3位置図

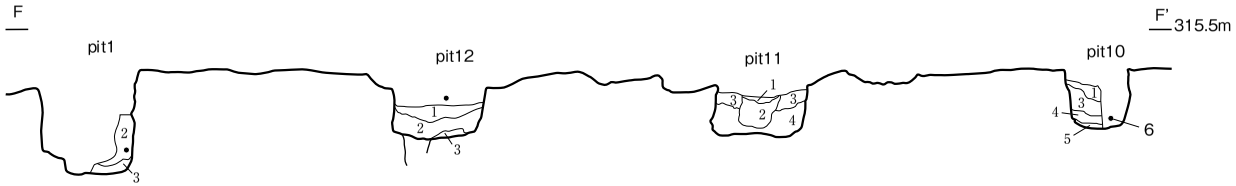
SB1

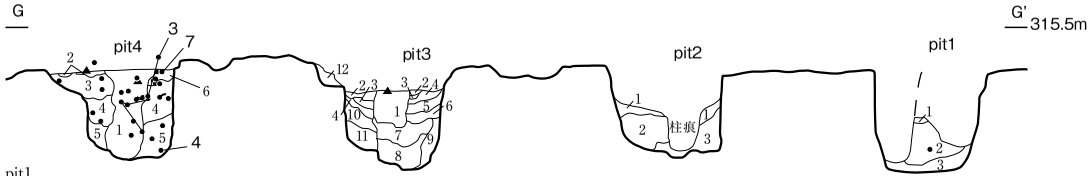


第119図　SB１(1)









pit1
1 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。黄味強い。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロックと黒褐色土の混土。黒褐色土のほうがやや多い。版築状。ロームブロックは硬くしまり強い。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 黒味やや強い。ローム小ブロック混。硬化したローム土混。

pit2
1 黄褐色土 (10YR5/6) ローム土主体。黒褐色土わずかに含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム土・ロームブロック主体。(硬い)暗褐色土ブロック混。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 黒味やや強い。粘性強い。しまり有り。

pit3
1 黒褐色土 (10YR3/4) 柱痕。しまり弱い。
2 黒褐色土 (10YR2/2)
3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 灰白色粘土を主とする。版築層
4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム土主体。
5 黒褐色土 (10YR3/1) 黒味強い。
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック多い。黒色土小ブロック入。
7 暗褐色土 (10YR3/4)　柱痕。ローム粒多い。黒色土小ブロック少々。焼土層?(赤褐色土小ブロック)入。
8 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕。やや黒味有り。しまりやや弱い。
9 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒主体。黒味有り。
10 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒主体。褐色味強い。
11 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒主体。
12 黄褐色土 (10YR5/8) ローム粒・黒色土小ブロック混。

pit4
1 黒褐色土 (10YR2/3) しまりやや弱い。柱痕。土師器片入。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黒色土ブロック混。3層に似る。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 灰白色粘土を含む。ローム小ブロック多い。
4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)　ローム小ブロック・ローム粒やや多い。土師器片含む。3層に似る。
5 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒やや多い。
6 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・小ブロック入。黒味強い。

pit7
1 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕状(抜き取り穴か)。しまり弱い。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックやや多い。
3 黒色土 (10YR2/1) 黒味強い。ローム粒入。ローム小ブロック少々。
4 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕状。しまりなし。
5 黒褐色土 (10YR3/2) 柱痕。
6 褐色土 (10YR4/4) ローム粒主体。
7 暗褐色土 (10YR3/3) ローム小ブロック主体。黒色粒入。
8 黒褐色土 (10YR3/2) 黒味有り。
9 暗褐色土 (10YR3/3)

pit8
1 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土ブロック。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック・砂粒・焼土粒入。版築状、硬くしまる。
3 黒褐色土 (10YR3/1) 黒色土中にローム小ブロック入。
4 黒褐色土 (10YR3/1) +ロームブロック。3層に似る。ロームブロック入。
5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・ロームブロック主体。
6 褐色土 (10YR4/6) 地山と同質のローム土。
7 黒色土 (10YR2/1)
8 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒やや多い。

pit9
1 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱い。柱痕。砂粒入。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 黒味有り。焼土小粒子入。
3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・ローム小ブロック入。
4 黒褐色土 (10YR2/3) やや黒味有り。しまりやや弱い。
5 暗褐色土 (10YR3/4) (19YR3/4)4層に似る。しまりやや弱い。
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

pit5
1 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕。ややしまり弱い。焼土小ブロック・砂粒入。やや粗。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックを含む。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒多い。ロームブロック・黒色粒入。
4 暗褐色土 (10YR3/4) やや黒味有り。
5 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 灰白色粘土ブロック・砂粒混。

pit6
1 褐色土 (10YR4/4) 褐色ローム小ブロック入。黒色小ブロック少々。しまり弱い。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 灰白色粘土ブロック。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 柱痕。しまり弱い。
4 暗褐色土 (10YR3/4) しまり有り。ローム粒主体。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 非常に硬くしまる(版築土)。黒色土小ブロック入。黒味有り。
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム主体。

pit13
1 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性高い。やiや黒味有り。ローム粒(地山)入。

pit14
1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒主体。黄味強い。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕。黒褐色小ブロック入。(やや多い)
3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒と黒褐色土小ブロックの混土。黄味強い。
4 黒褐色土 (10YR2/3)
5 暗褐色土 (10YR3/4) やや黒味のあるローム土。ローム小ブロックと黒色土小ブロックの混土。
6 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕状のくぼみ。黄褐色ロームブロック(硬い)混。
7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 5層に似るが、やや黒味は弱い。黄褐色ローム小ブロックを含む。

SB1pit10
1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 柱痕上層。ローム粒多い。ローム小ブロック入。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土中にロームブロック混。ややしまり弱い。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 2層に似る。黒色土中にロームブロック入。
4 黒褐色土 (10YR2/3) やや黒味強い。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 4層に似る。やや黒味弱い。

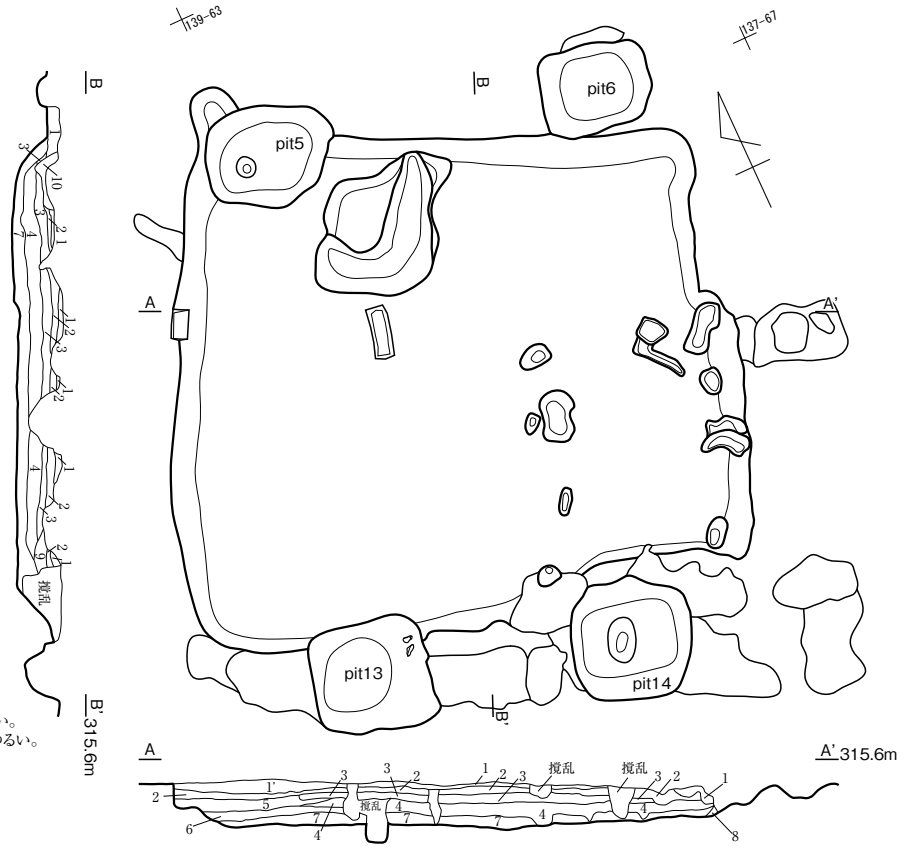
pit11
1 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックをやや多く含む。柱痕。焼土小ブロックわずかに入。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 柱痕。ローム小ブロック入。
3 褐色土 (10YR4/4) ローム粒主体。ロームブロック(ハード)入。しまり有り。
4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒主体。

SB1pit12
1 褐色土 (10YR4/4) ローム土・黒褐色ブロック(硬い)入。しまりやや弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 1層よりもやや暗色。
3 褐色土 (10YR4/4) 1層に似る。

0 (1:60) 2m

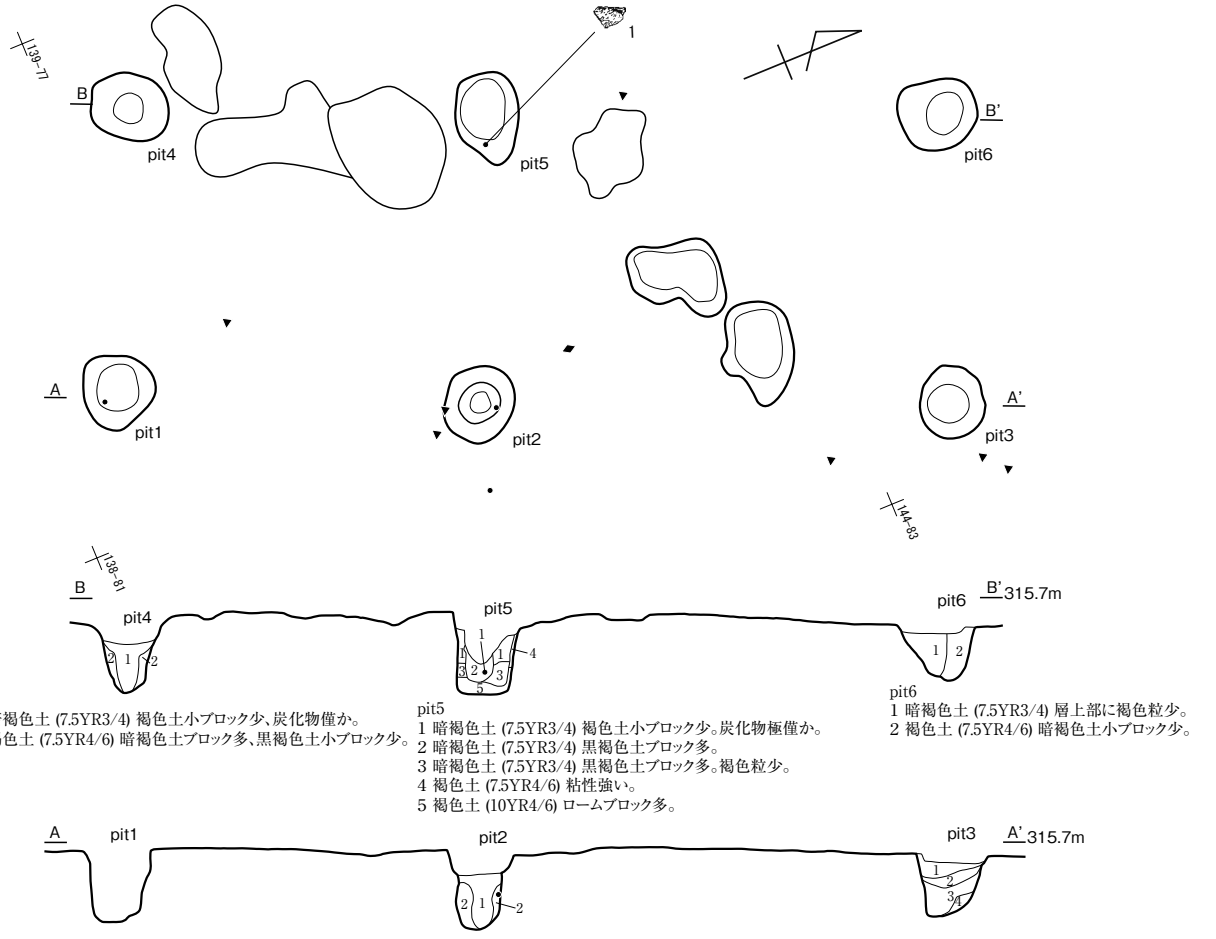
第120図　SB１(2)

SB1 地業跡



1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック少。
焼土、炭化物極僅か。しまり強い。
(搅乱西側1´はしまりややゆるい)
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒多。しまり強い。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土、炭化物僅か。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土、ローム粒少。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒多。
6 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒少。しまりややゆるい。
7 褐色土 (7.5YR4/6) ブラックバンド少。しまりややゆるい。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒多。
9 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒僅か。しまり強い。
10 褐色土 (7.5YR4/6) 黒、明褐色粒多。

SB3



pit4
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土小ブロック少、炭化物僅か。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロック多、黒褐色土小ブロック少。

pit5
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土小ブロック少。炭化物極僅か。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土ブロック多。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土ブロック多。褐色粒少。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 粘性強い。
5 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック多。

pit6
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層上部に褐色粒少。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロック少。

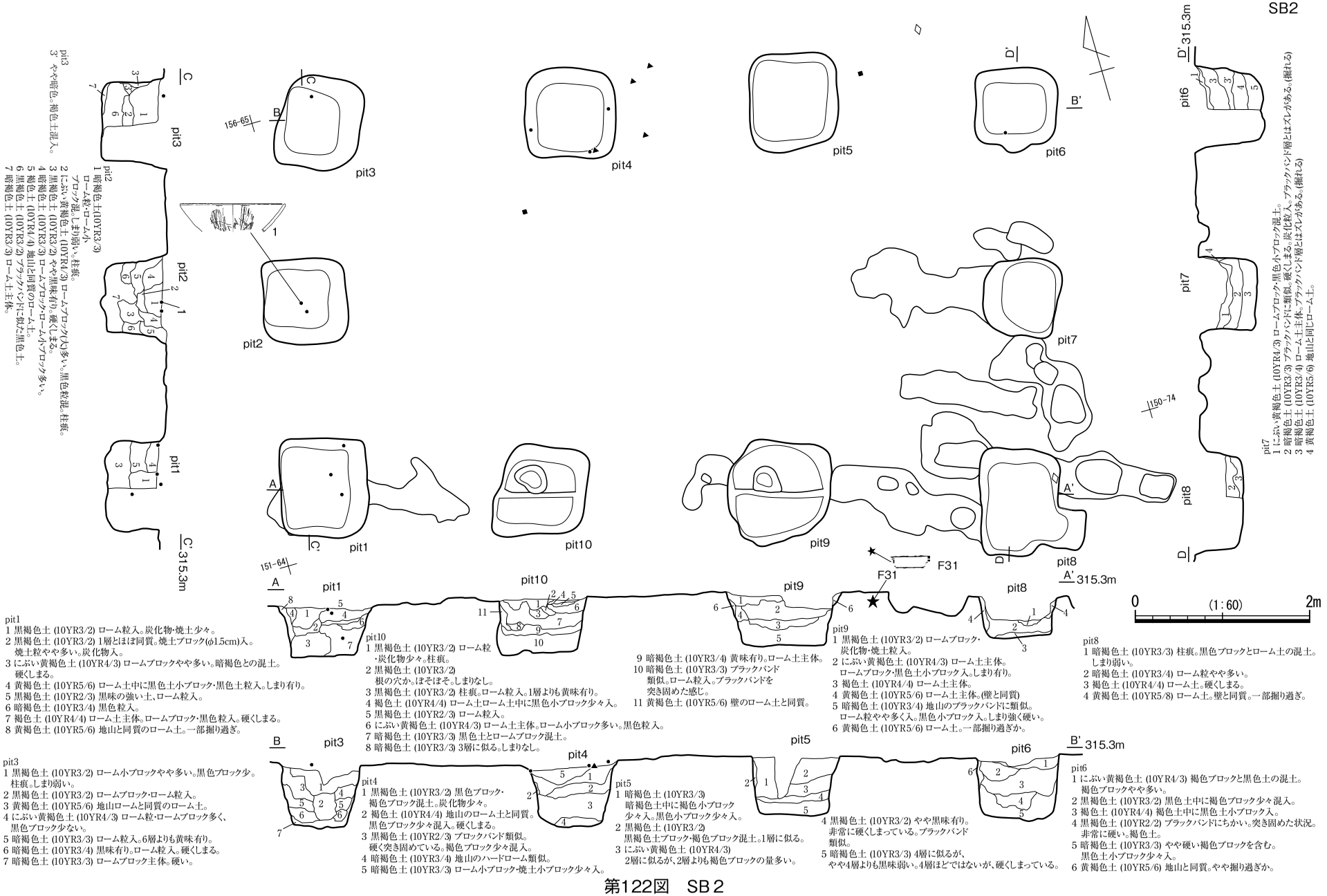
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
♦ 陶器

pit2
1 暗褐色土 (10YR3/4) 明褐色粒多。褐色粒少。
炭化物極僅か。層下部にローム小ブロック少。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色土ブロック少。層下部にローム小ブロック少。

pit3
1 暗褐色土 (10YR3/4) 明褐色粒多、黒褐色、褐色土ブロック少。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロック。
3 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロック、層下部にローム粒少。
4 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土小ブロック少、ローム粒多。

0 (1:60) 2m

第121図　SB1 (3)、SB3



pit1
1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒入。炭化物・焼土少々。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 1層とほぼ同質。焼土ブロック(φ1.5cm)入。焼土粒やや多い。炭化物入。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックやや多い。暗褐色との混土。硬くしまる。
4 黄褐色土 (10YR5/6) ローム土中に黒色土小ブロック・黒色土粒入。しまり有り。
5 黒褐色土 (10YR2/3) 黒味の強い土、ローム粒入。
6 暗褐色土 (10YR3/4) 黒色粒入。
7 褐色土 (10YR4/4) ローム土主体。ロームブロック・黒色粒入。硬くしまる。
8 黄褐色土 (10YR5/6) 地山と同質のローム土。一部掘り過ぎ。

pit2
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ローム小ブロック混。しまり弱い。柱痕。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック(大)多い。黒色粒混。柱痕。
3 黒褐色土 (10YR3/2) やや黒味有り。硬くしまる。
4 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック・ローム小ブロック多い。
5 褐色土 (10YR4/4) 地山と同質のローム土。
6 黒褐色土 (10YR2/2) ブラックバンドに似た黒色土。
7 暗褐色土 (10YR3/3) ローム土主体。

pit3
1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム小ブロックやや多い。黒色ブロック少。柱痕。しまり弱い。
2 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック・ローム粒入。
3 黄褐色土 (10YR5/6) 地山ロームと同質のローム土。
4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・ロームブロック多く、黒色ブロック少ない。
5 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒入。6層よりも黄味有り。
6 暗褐色土 (10YR3/4) 黒味有り。ローム粒入。硬くしまる。
7 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック主体。硬い。

pit4
1 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色ブロック・褐色ブロック混土。炭化物少々。
2 褐色土 (10YR4/4) 地山のローム土と同質。黒色ブロック少々混入。硬くしまる。
3 黒褐色土 (10YR2/3) ブロックバンド類似。硬く突き固めている。褐色ブロック少々混入。
4 暗褐色土 (10YR3/4) 地山のハードローム類似。
5 暗褐色土 (10YR3/3) ローム小ブロック・焼土小ブロック少々入。

pit5
1 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土中に褐色小ブロック少々入。黒色小ブロック少々入。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色土ブロック・褐色ブロック混土。1層に似る。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 2層に似るが、2層よりも褐色ブロックの量多い。
4 黒褐色土 (10YR3/2) やや黒味有り。非常に硬くしまっている。ブラックバンド類似。
5 暗褐色土 (10YR3/3) 4層に似るが、やや4層よりも黒味弱い。4層ほどではないが、硬くしまっている。

pit6
1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 褐色ブロックと黒色土の混土。褐色ブロックやや多い。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 黒色土中に褐色ブロック少々混入。
3 褐色土 (10YR4/4) 褐色土中に黒色土小ブロック入。
4 黒褐色土 (10YR2/2) ブラックバンドにちかい。突き固めた状況。非常に硬い。褐色土。
5 暗褐色土 (10YR3/3) やや硬い褐色ブロックを含む。黒色土小ブロック少々入。
6 黄褐色土 (10YR5/6) 地山と同質。やや掘り過ぎか。

pit7
1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック・黒色小ブロック混土。
2 暗褐色土 (10YR3/3) ブラックバンド類似。硬くしまる。炭化粒入。ブラックバンド層とはズレがある。(崩れる)
3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム土主体。ブラックバンド層とはズレがある。(崩れる)
4 黄褐色土 (10YR5/6) 地山と同じローム土。

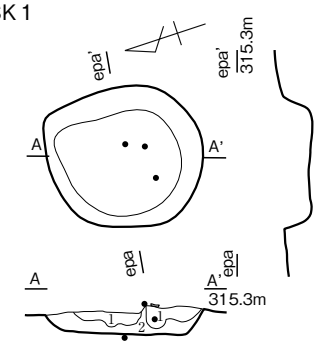
pit8
1 暗褐色土 (10YR3/3) 柱痕。黒色ブロックとローム土の混土。しまり弱い。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒やや多い。
3 褐色土 (10YR4/4) ローム土。硬くしまる。
4 黄褐色土 (10YR5/8) ローム土。壁と同質。一部掘り過ぎ。

pit9
1 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック・炭化物・焼土粒入。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム土主体。ロームブロック・黒色土小ブロック入。しまり有り。
3 褐色土 (10YR4/4) ローム土主体。
4 黄褐色土 (10YR5/6) ローム土主体。(壁と同質)
5 暗褐色土 (10YR3/4) 地山のブラックバンドに類似。ローム粒やや多く入。黒色小ブロック入。しまり強く硬い。
6 黄褐色土 (10YR5/6) ローム土。一部掘り過ぎか。
9 暗褐色土 (10YR3/4) 黄味有り。ローム土主体。
10 暗褐色土 (10YR3/3) ブラックバンド類似。ローム粒入。ブラックバンドを突き固めた感じ。
11 黄褐色土 (10YR5/6) 壁のローム土と同質。

pit10
1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・炭化物少々。柱痕。
2 黒褐色土 (10YR3/2) 根の穴か。ほそほそ。しまりなし。
3 黒褐色土 (10YR3/2) 柱痕。ローム粒入。1層よりも黄味有り。
4 褐色土 (10YR4/4) ローム土ローム土中に黒色小ブロック少々入。
5 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒入。
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム土主体。ローム小ブロック多い。黒色粒入。
7 暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土とロームブロック混土。
8 暗褐色土 (10YR3/3) 3層に似る。しまりなし。

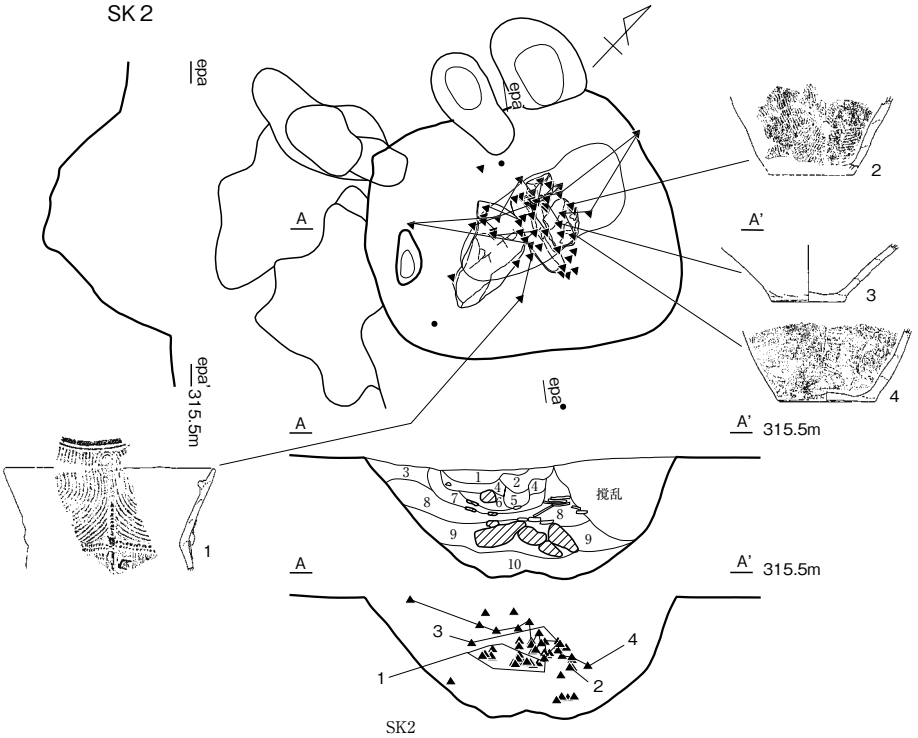
第122図　SB２

SK 1



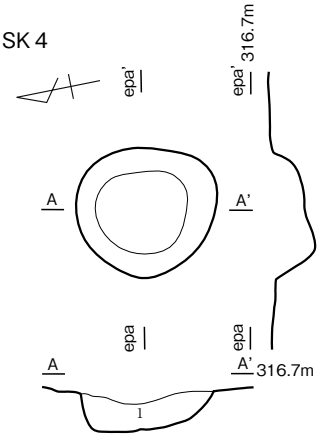
SK1
1 黒褐色土 (10YR2/3) しまり弱い。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒僅かに含む。

SK 2



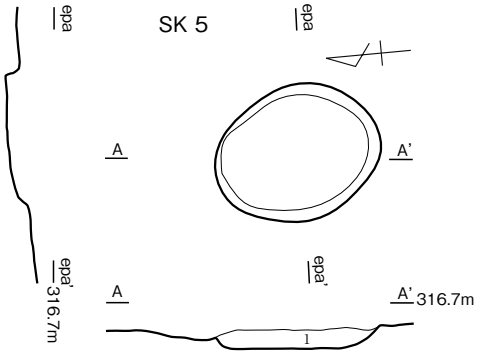
SK2
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 暗赤褐色土を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土・炭化物を少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土を含む。
4 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土を含む。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 暗赤褐色土と、炭化物を少量含む。
6 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土を非常に多く含む。
7 赤褐色土 (5YR4/6) 焼土を多く、炭化物と、明赤褐色粒を含む。
8 赤褐色土 (5YR4/8) 炭化物と焼土を少量含む。
9 赤褐色土 (5YR4/6) 炭化物と焼土を僅かに含む。しまり弱い。
10 褐色土 (7.5YR4/6) 黒色粒子とロームブロックを少量含む。

SK 4



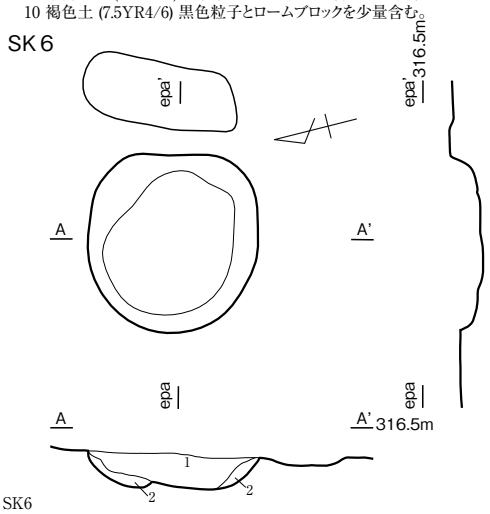
SK 4
1 褐色土 (7.5YR4/6) 上層に暗褐色土、下層にローム小ブロックを少量含む。

SK 5



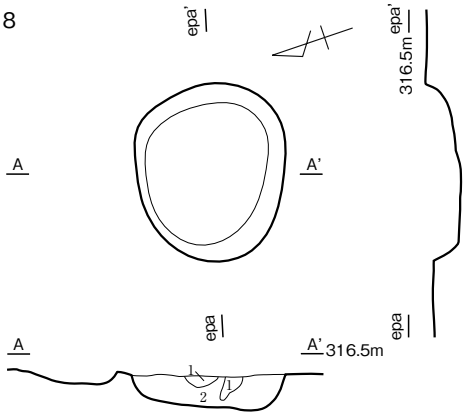
SK5
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを少量含む。

SK 6



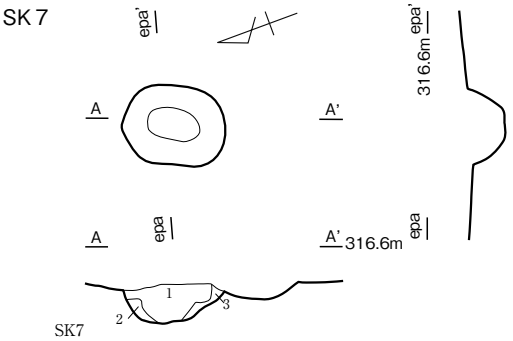
SK6
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を僅か、明褐色粒を少量、ローム小ブロックを含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。

SK 8



SK8
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックを多量に含む。
しまり非常に弱い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を少量、焼土を極僅かに含む。

SK 7

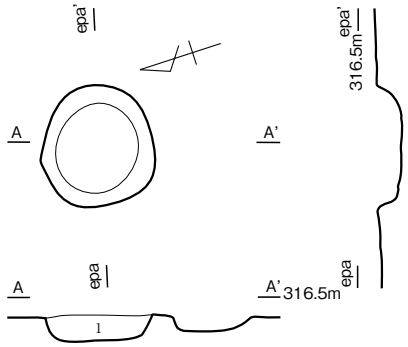


SK7
1 明褐色土 (7.5YR5/6) ローム小ブロックを多量に含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/6) 褐色粒を少量含む。
3 地山

0 (1:30) 1m

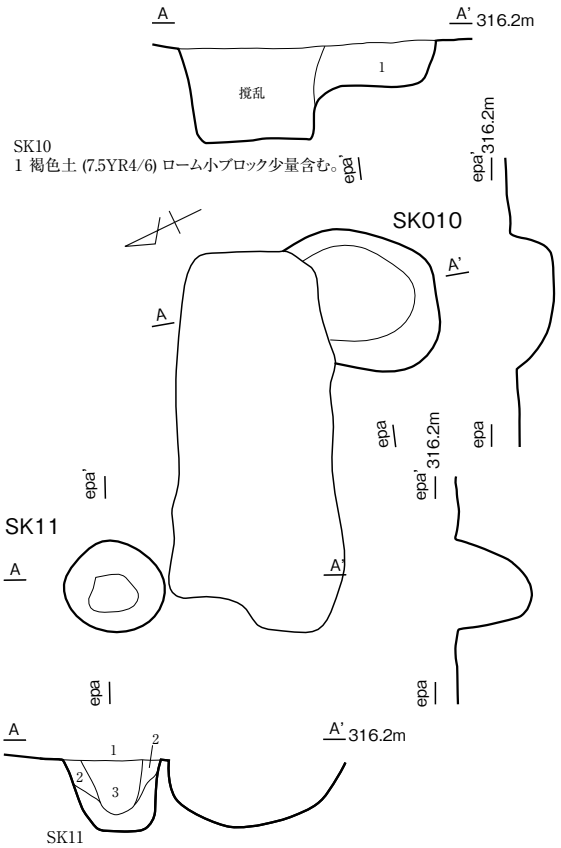
第123図　SK、Pit(1)

SK９



SK9
1 褐色土 (7.5YR4/6) 粒子の粗い暗褐色粒を多量に含む。

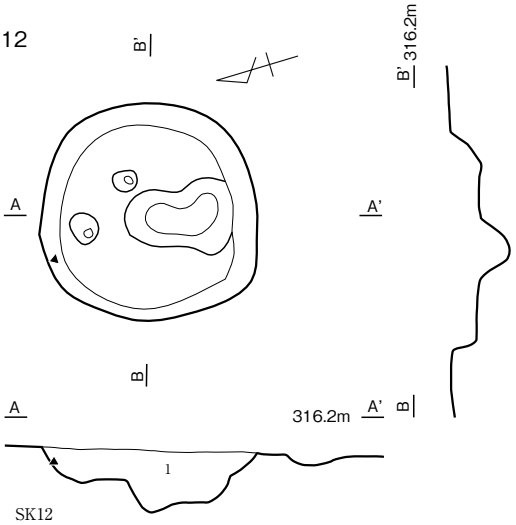
SK10・11



SK10
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック少量含む。

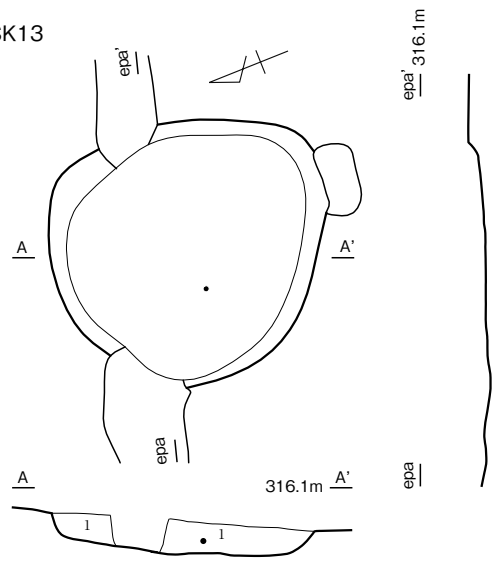
SK11
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を多量に含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒とローム小ブロックを少量含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロックを多量に含む。

SK12



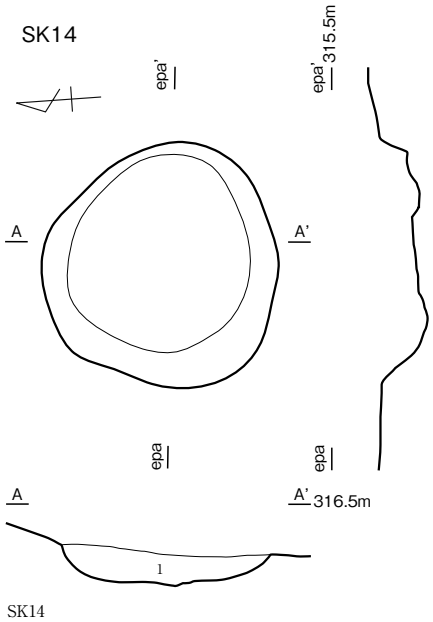
SK12
1 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色、黒色土小ブロックとローム小ブロックを少量含む。

SK13



SK13
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土小ブロックとローム小ブロックを少量含む。

SK14

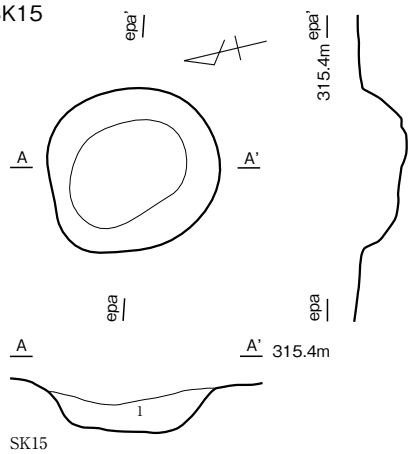


SK14
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物極僅か、ローム小ブロックを少量含む。

0 (1:30) 1m

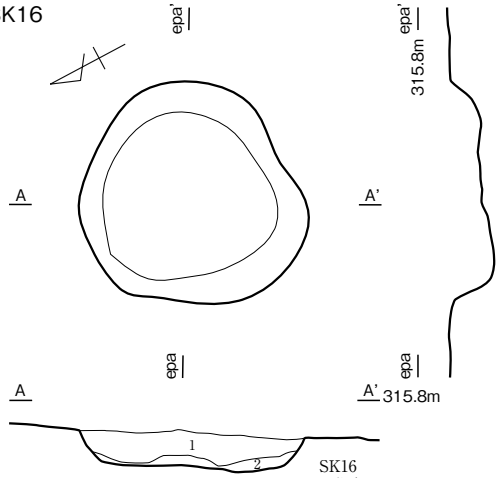
第124図　SK、Pit(2)

SK15



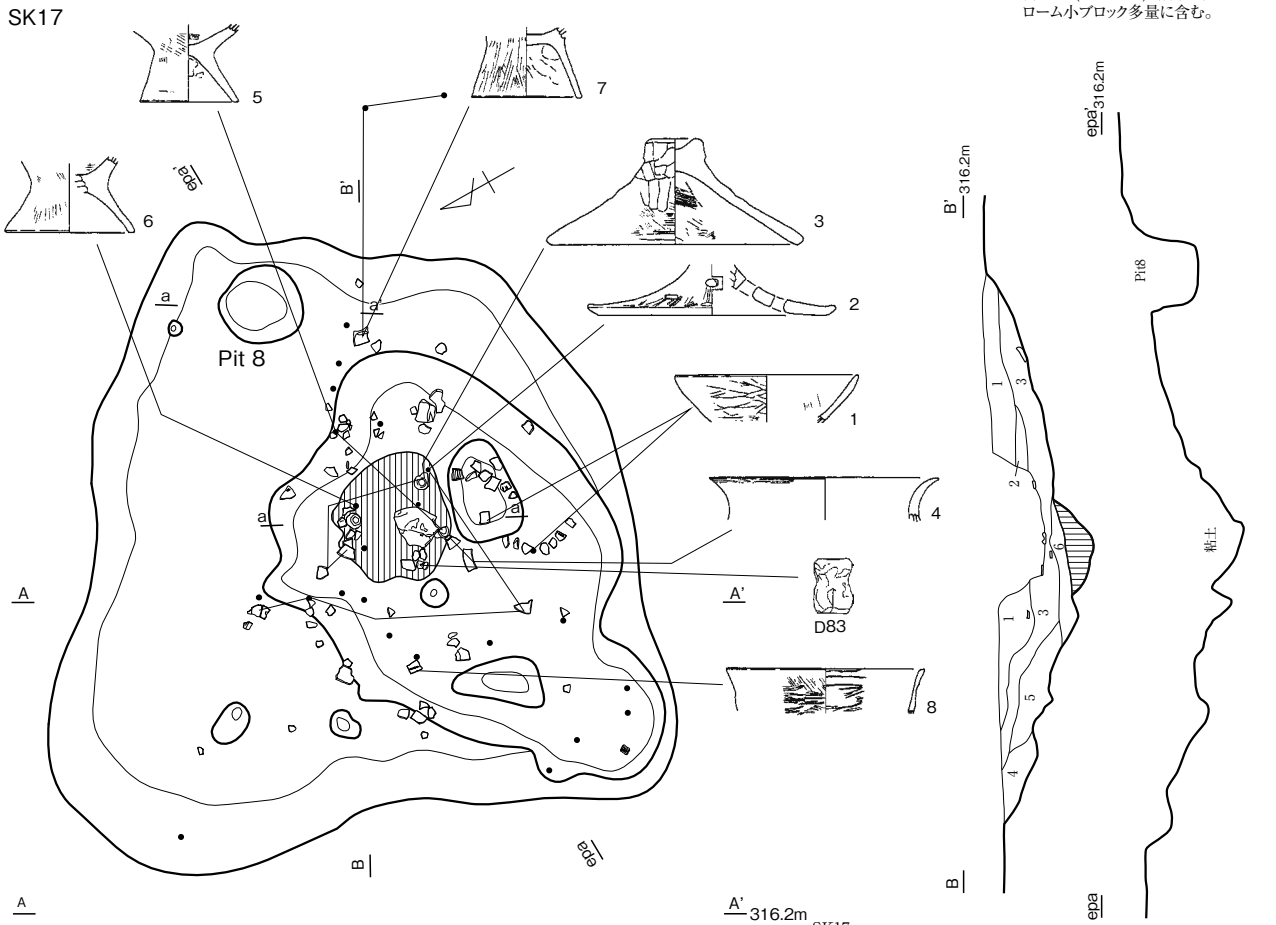
SK15
1 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色土小ブロックを少量、下層にローム小ブロックを少量含む。

SK16



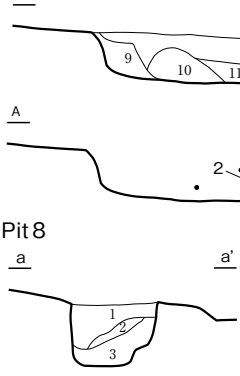
SK16
1 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロック少量含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒少量、ローム小ブロック多量に含む。

SK17



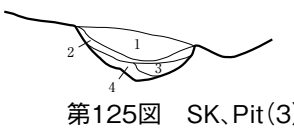
SK17
1 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物、暗褐色粒を含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 炭化物を僅かに暗褐色土小ブロックを僅かに含む。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を多量に含む。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物を僅か、ローム小ブロックを少量含む。
6 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土小ブロックを少量、焼土と炭化物を僅かに含む。
8 褐色土 (10YR4/4) 焼土を僅かに含む。
9 褐色土 (10YR4/6) 焼土を僅かに、暗褐色粒少。
10 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土を少量、暗褐色粒少。
11 暗褐色土 (10YR3/4) 明褐色粒含む。
12 黄褐色土 (10YR5/6) 褐色土小ブロック含む。

Pit8



Pit8 (SK17内)
1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 明褐色土ブロックとロームブロックを含む。やや粘性あり。
3 暗褐色土 (10YR3/4) ロームを多く含む。しまり強い。

SK17 粘土

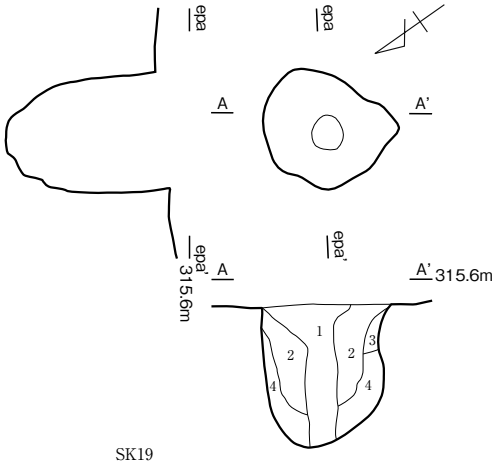


SK17 粘土
1 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 白色粘土を多、黒褐色土少。
2 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土粒多。
3 褐色土 (7.5YR4/6) 白色粘土小ブロック、ロームブロック含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロック多。

0 (1:30) 1m

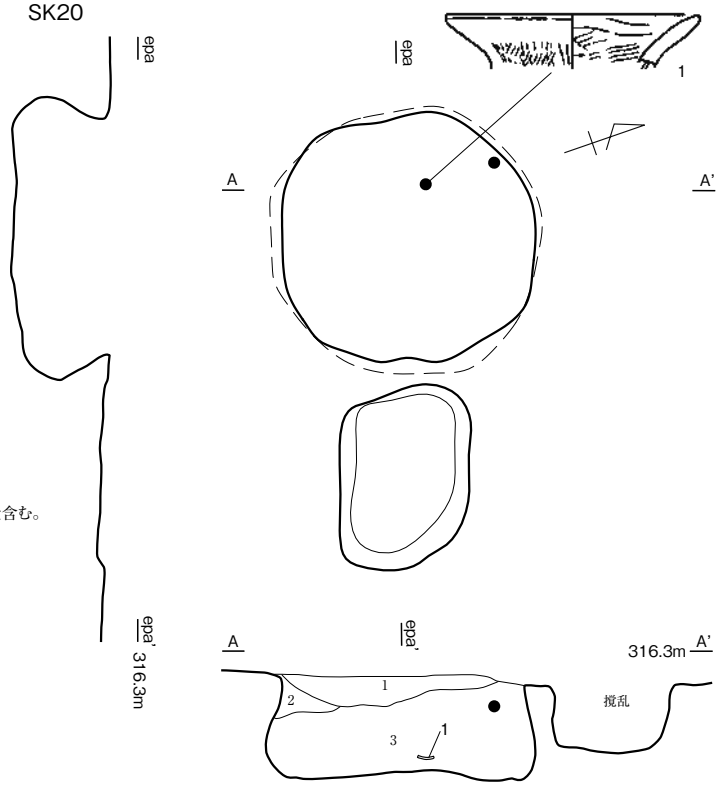
第125図　SK、Pit(3)

SK19



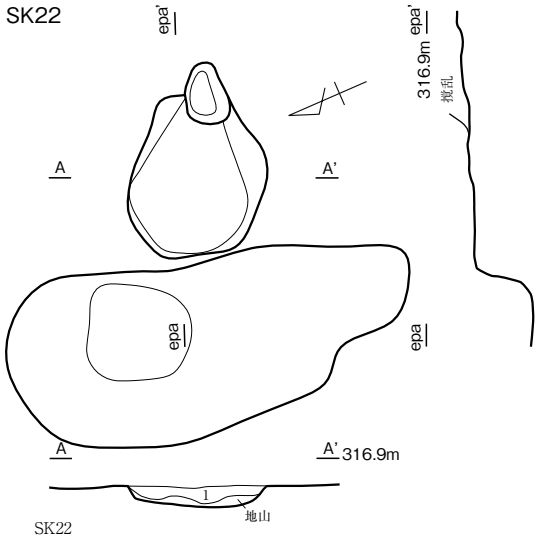
SK19
1 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土と炭化物を僅かに含む。
2 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 層上部に暗褐色土小ブロックを少量含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を僅かに含む。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物を極僅かに含む。

SK20



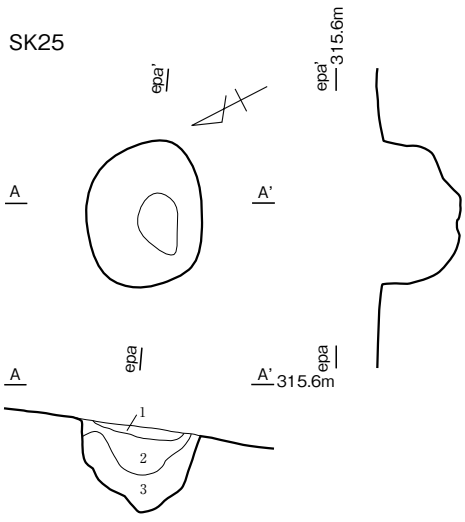
SK20
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロックを僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を僅かに含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色、黒褐色土小ブロックを含む。

SK22



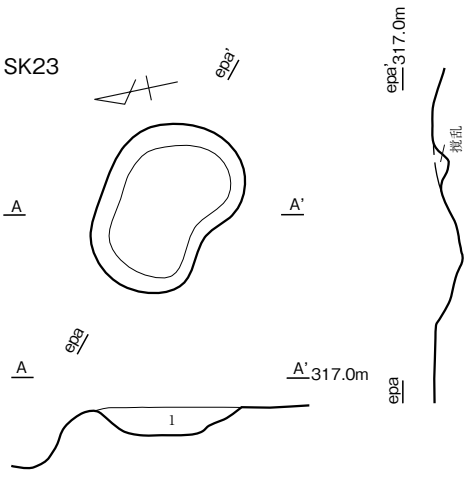
SK22
1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土を極僅かに含む。

SK25



SK25
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色粒少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 黄褐色土小ブロック多く含む。
3 褐色土 (10YR4/6)

SK23

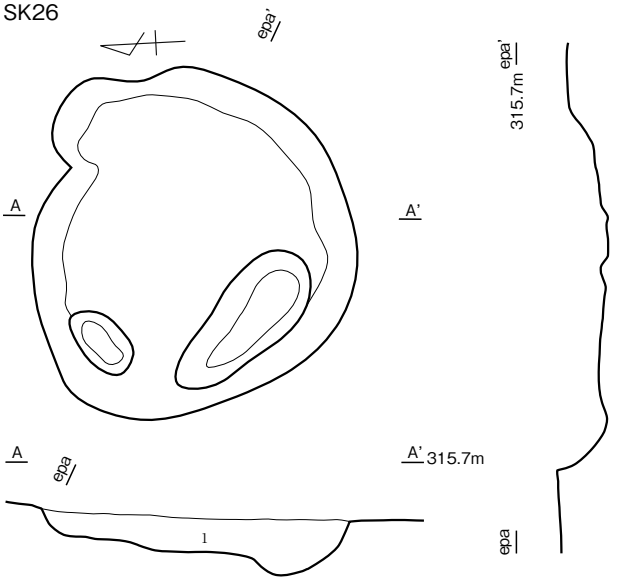


SK23
1 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に
暗褐色土小ブロックを多。
層下部にローム小ブロックを少。

0 (1:30) 1m

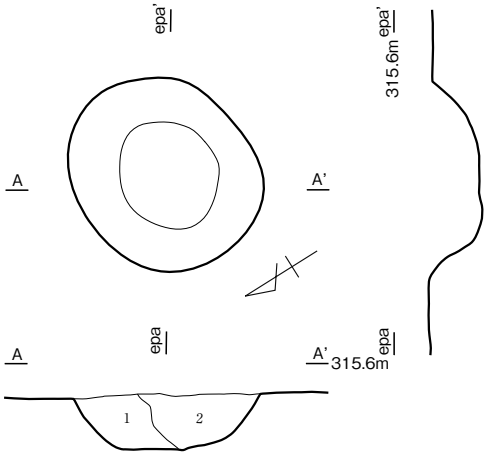
第126図　SK、Pit(4)

SK26



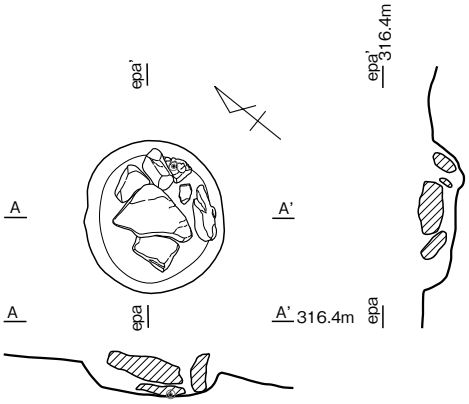
SK26
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色土ブロックを多量に含む。
ローム小ブロックを少量含む。

SK28

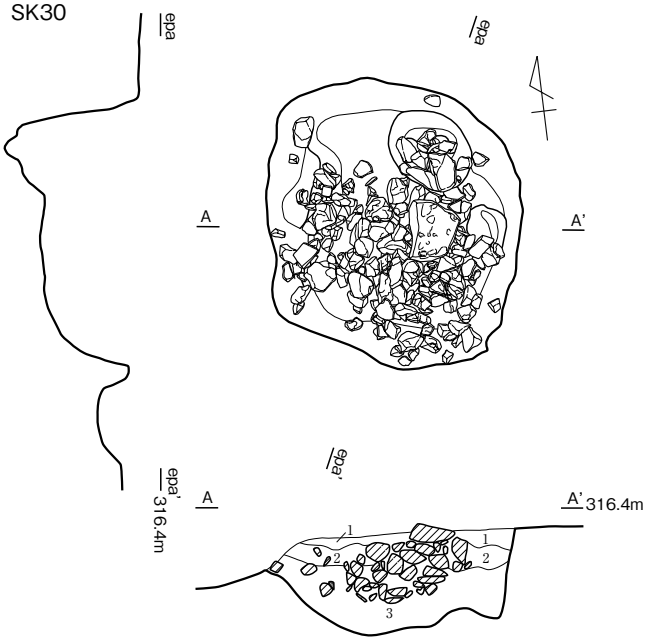


SK28
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロック、炭化物少。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロック、炭化物僅か。層下部にローム粒少。

SK29

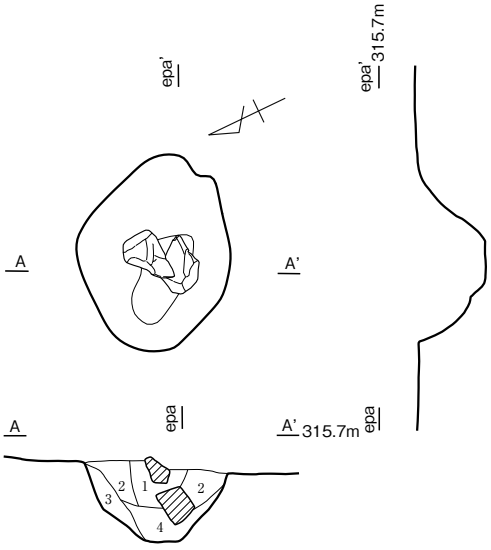


SK30



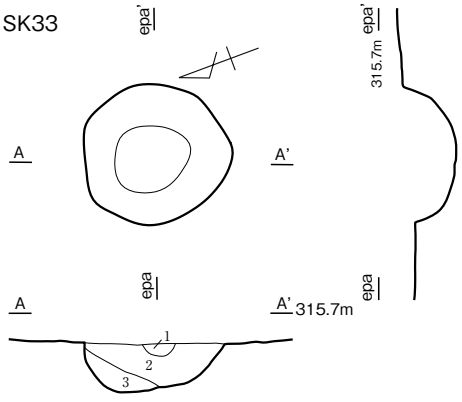
SK30
1 褐色土 (7.5YR4/6) 粒子の粗い暗褐色砂を多く含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 特になし
3 褐色土 (10YR4/6) ローム粒を少量含む。

SK32



SK32
1 暗褐色土　黒、褐色土小ブロック少。白色砂質粒僅か。
2 褐色土　暗褐色土ブロック少。ローム粒僅か。
3 褐色土
4 暗褐色土

SK33

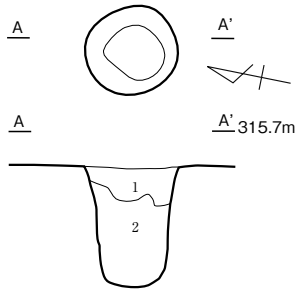


SK33
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロック多。
2 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土ブロック少、層下部にローム粒少。
3 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック多。

0 (1:30) 1m

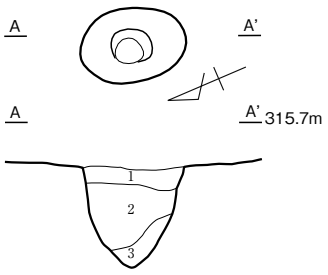
第127図　SK、Pit(5)

Pit1



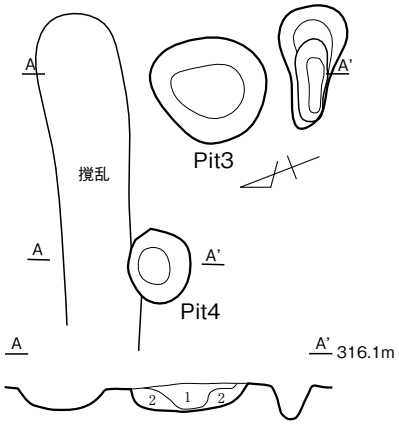
Pit1
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土粒を少量、
焼土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 黒色土粒を含む。

Pit2

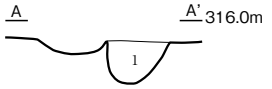


Pit2
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 黒褐色土粒を少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土粒を僅かに、
ローム小ブロックを少量含む。
3 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックを多量に含む。

Pit3・Pit4

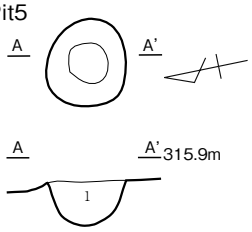


Pit3
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ロームを少量含む。



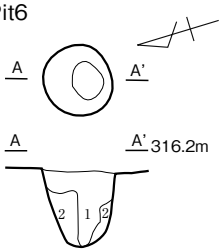
Pit4
1 褐色土 (7.5YR4/6) 層上部に暗褐色粒を、層下部にロームを含む。

Pit5



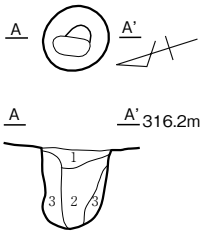
Pit5
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 層上部に褐色粒を少量、
層下部にロームを含む。

Pit6



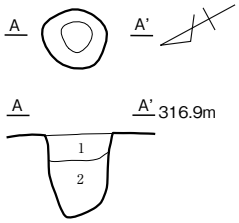
Pit6
1 褐色土 (10YR4/6) 明褐色土小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部にロームを多く含む。

Pit7



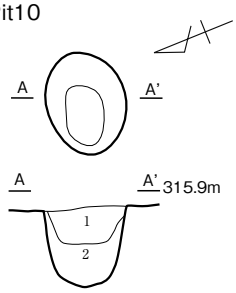
Pit7
1 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒を僅かに含む。
2 褐色土 (10YR4/6) 黒褐色土小ブロック、
層下部にロームを多く含む。
3 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色粒を少量含む。

Pit9



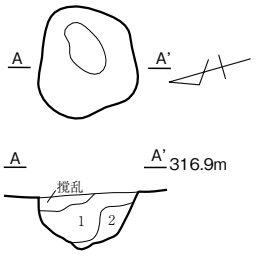
Pit9
1 褐色土 (7.5YR4/6) 暗褐色粒を含む。
2 明褐色土 (7.5YR5/8) 褐色土小ブロック
及びローム小ブロックを含む。

Pit10



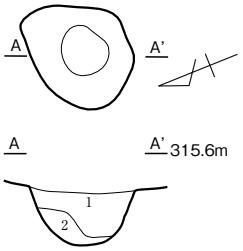
Pit10
1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒、黒褐色粒含む。

Pit11



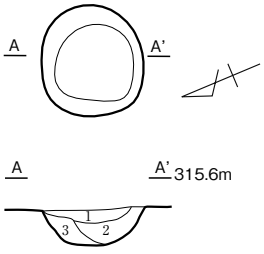
Pit11
1 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを多く含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土ブロックを非常に多く含む。

Pit12

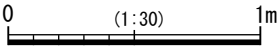


Pit12
1 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロックを少量含む。
2 褐色土 (10YR4/4) ローム小ブロックを多く含む。しまり強い。

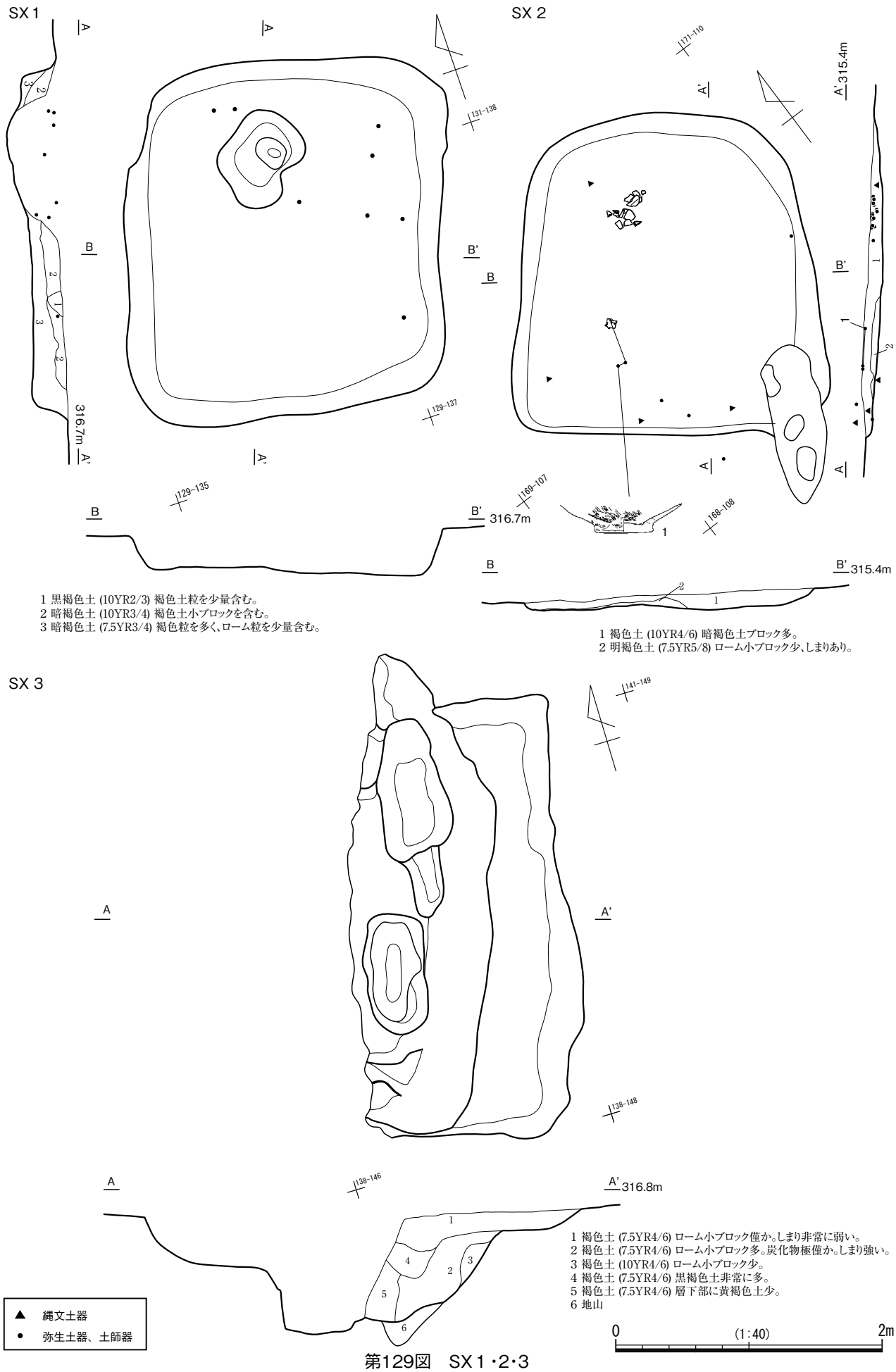
Pit13



Pit13
1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物、焼土粒を僅かに含む。しまり弱い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) 炭化物僅かに含む。
3 褐色土 (10YR4/6) ローム粒を含む。しまり強い。



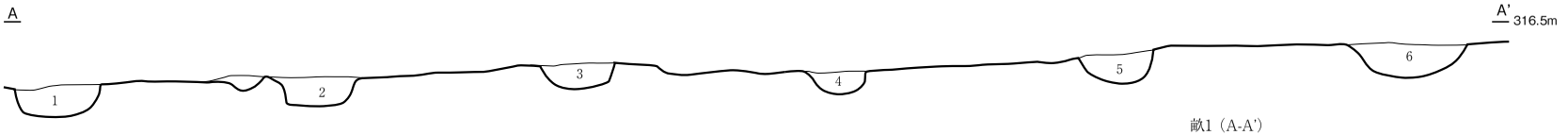
第128図　SK、Pit(6)


SX 1
SX 2
SX 3
316.7m
315.4m
316.8m
129–135
129–137
131–138
138–146
138–148
141–149
168–108
169–107
171–110
1 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土粒を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土小ブロックを含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 褐色粒を多く、ローム粒を少量含む。
1 褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土ブロック多。
2 明褐色土 (7.5YR5/8) ローム小ブロック少、しまりあり。
1 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック僅か。しまり非常に弱い。
2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム小ブロック多。炭化物極僅か。しまり強い。
3 褐色土 (10YR4/6) ローム小ブロック少。
4 褐色土 (7.5YR4/6) 黒褐色土非常に多。
5 褐色土 (7.5YR4/6) 層下部に黄褐色土少。
6 地山
▲ 縄文土器
● 弥生土器、土師器
0
(1:40)
2m

第129図　SX１･2･3

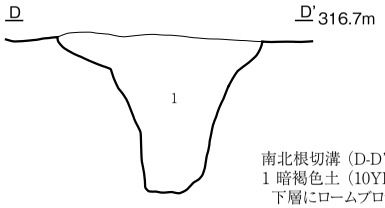
A
A'
B
B'
C
C'
Y=170
Y=160
Y=150
Y=140
Y=130
Y=120
Y=110
Y=100
Y= 90
Y= 80
Y= 70
Y= 60
Y= 50
Y= 40
Y= 30
X=180
X=170
X=160
X=150
X=140
X=130
X=120
X=110
X=100
X= 90
40m
(1:600)
0

第130図　畝(1)



畝1（A-A'）
1 褐色土（10YR4/6）暗褐色土小ブロック多量に含む。
2 褐色土（7.5YR4/4）暗褐色土小ブロックを含む。
3 褐色土（7.5YR4/6）暗褐色土小ブロックを多量に、黒色土粒を少量含む。
4 褐色土（10YR4/4）暗褐色土小ブロックを含む。
5 褐色土（10YR4/4）暗褐色土小ブロックを少量含む。
6 褐色土（10YR4/6）暗褐色土小ブロックを少量含む。

畝2（B-B'/C-C'）
1 褐色土（10YR4/6）下層にローム小ブロックを少量含む。
2 褐色土（10YR4/6）暗褐色土小ブロック多量に含む。
3 褐色土（10YR4/4）暗褐色土小ブロックを少量含む。



南北根切溝（D-D'）
1 暗褐色土（10YR3/4）中層に黒褐色土小ブロックを少量。
下層にロームブロックを含む。

第131図　畝(2)

0　(1:50)　2m

表14　B区出土縄文土器観察表

法量（　）は復元実測値、［　］は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種器形	法量(cm)			整形技法等			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
135	SI6	1	縄文	深鉢	16.8	(9.0)	(32.2)	ナデ	ナデ、隆線上に粘土貼付、沈線、刺突文、隆線上に刻み	ナデ	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-931.724.726…	内面:胴下半コゲ、外面:胴上半薄くスス、胴下半赤変、底部灰付着
135	SI6	2	縄文	深鉢	12.4	8.0	25.9	ナデ	ナデ、竹管条線、隆帯上に刻み	ナデか	明赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-712.714.903…	マメ状圧痕多、内面:胴下半コゲ付着、外面:胴上半黒変、底部灰付着
135	SI6	3	縄文	深鉢	(27.0)	－	[21.2]	ナデ	渦巻隆帯、粘土紐貼付(蛇行状・ボタン状)、櫛歯条線		内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:黒～褐(7.5YR4/4)	密	白・黒色粒子	良	SI6-18.278.459…	
135	SI6	4	縄文	深鉢	(23.6)	－	[16.6]	ナデ	ナデ、粘土紐貼付		内:褐(10YR4/4) 外:にぶい赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI6-685.718.719…	眼鏡状突起
135	SI6	5	縄文	深鉢	(28.6)	－	[11.3]	ナデ	ナデ、隆線		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-571.751	眼鏡状突起
135	SI6	6	縄文	深鉢	15.2	－	[20.8]	ナデ	ナデ、隆線、区画文、刺突文、渦巻文、口縁部渦巻文(2単位)		内:黒褐(10YR3/1) 外:明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母(多)	良	SI6-58.375.569…	内面:胴下半薄く黒変、外面:胴上半スス付着・胴下半赤変
135	SI6	7	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	沈線、区画文、刺突文		内:灰オリーブ5Y4/2 外:明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI6-275.517.769…	
135	SI6	8	縄文	深鉢	(23.8)	－	[26.4]	ナデ	重三角区画文、三又文、渦巻文、隆帯上に刻み、沈線		にぶい黄橙(10YR5/4)、黒	密	白・黒色粒子	良	SI6-3.78.217…	眼鏡状突起か、内面:胴下半黒変、外面:胴下半赤変
136	SI6	9	縄文	深鉢	(43.6)	－	[44.7]	ナデ	隆線上に刻み、区画文、竹管による沈線、渦巻文		黄褐(10YR5/6)、黒褐(10YR3/2)	密	白・黒色粒子	良	SI6-904.970.983…	内面:ススス
136	SI6	10	縄文	深鉢	(39.0)	－	[20.2]	ナデ	竹管による沈線、重弧文、格子目文、粘土紐貼付		褐(7.5YR4/4)	密	赤色粒子、雲母、長石	良	SI6-4.23.24…	
137	SI6	11	縄文	深鉢	(32.8)	－	[28.0]	ナデ	ナデ、重弧文、粘土紐貼付		内:黒褐(2.5Y3/1) 外:黒～暗褐(10YR3/3)	密	白・黒色粒子	良	SI6-563.564.702…	
137	SI6	12	縄文	把手	長 13.2	幅 9.0	厚 9.5		ナデ、沈線、刻み		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-772	
137	SI6	13	縄文	把手	長 10.6	幅 8.1	厚 6.8		ナデ、沈線		暗褐(10YR3/3)、明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI6-755	
137	SI6	14	縄文	深鉢	16.7	7.3	20.0	ナデ	ナデ、粘土紐貼付、櫛歯条線、沈線	ナデ	内:明黄褐(10YR6/6) 外:橙(7.5YR6/8)	密	白・黒色粒子、雲母	不良	SI6-281.282.815…	口縁部スス付着、外面:アバタ状
137	SI6	15	縄文	深鉢	20.3	10.0	30.2	ナデ	ナデ、縄文、粘土紐貼付、押圧文	ナデ	黒褐(10RY3/1)～明赤褐(5YR5/8)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-426.428.996…	内面:胴下半コゲ付着
137	SI6	16	縄文	深鉢	－	8.6	[19.0]	ナデ	ナデ、沈線、蛇行沈線、縄文	ナデ	内:オリーブ黒(5Y3/1) 外:赤褐(5YR4/8)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母	良	SI6-627.628.630…	内面:黒変、外面:赤変
137	SI6	17	縄文	深鉢	(20.0)	8.0	18.1	ナデ	ナデ、粘土紐貼付、竹管刻み	網代痕	明褐(7.5YR5/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-469.682.693…	内面:薄く黒変、外面:胴上半薄くスス、胴下半赤変、底部圧痕(一部網代痕)
137	SI6	18	縄文	深鉢	16.2	8.0	20.6	ナデ	波状口縁、竹管による沈線	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-483.487.488…	
137	SI6	19	縄文	深鉢	17.0	－	[23.1]	ナデ	ナデ、粘土紐貼付、一部縄文		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI6-656.783.788…	内面:胴下半薄くコゲ、外面:胴下半コゲ、赤変
138	SI6	20	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、粘土紐貼付		橙(7.5YR6/8)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI6-779.785.786	
138	SI6	21	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	竹管隆線、粘土紐、縄文、竹管押引文		内:外:明黄褐(10YR6/6)	密	赤色粒子、長石、石英	良	SI6-218.519.523…	X把手
138	SI6	22	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ、粘土紐貼付、刺突文		内:暗赤褐(2.5YR3/6) 外:赤褐(5YR4/8)	密	白(多)・黒色粒子、雲母	やや不良	SI6-368.411.550…	
138	SI6	23	縄文	深鉢	(43.4)	－	[17.5]	ナデ	ナデ、粘土紐貼付(蛇行状・格子目文)		内:明赤褐(5YR5/6) 外:明褐(7.5YR5/6)	やや密	白・黒色粒子、雲母	不良	SI6-597.600.603…	
138	SI6	24	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	撚糸文、渦巻文、竹管修形文		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI6-185.486.500…	
138	SI6	25	縄文	浅鉢	(35.6)	(10.5)	19.4	ナデ	ナデ、縄文、沈線文		褐(7.5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、金色雲母	良	SI6-7.11.12…	外面:底部摩耗
138	SI6	26	縄文	深鉢	17.9	－	[7.4]	ナデ	ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI6-242.243.585…	
138	SI6	27	縄文	深鉢	(17.0)	－	[5.3]	ナデ、ケズリか	ナデ		内:赤褐(2.5YR4/6) 外:暗赤褐(10R3/2)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI6-998	
138	SI6	28	縄文	鉢	20.9	－	[9.4]	ナデ	ナデ		内:黒 外:橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI6-195.270.431…	

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形技法等			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
138	SI6	29	縄文	鉢	(18.8)	－	[9.8]	ナデ	ナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI6-787.791.792…	微量にスス付着
138	SI6	30	縄文	浅鉢	34.2	8.8	13.3	ナデ	ナデ、削り		明黄褐(10YR6/6)、黒	密	白・黒色粒子	良	SI6-932	外面:底部角に丸味、使用痕か
139	SI6	31	縄文	深鉢	－	8.5	[10.9]	ナデ	ナデ、縄文、粘土紐貼付	ナデ	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-995	
139	SI6	32	縄文	深鉢	－	(7.4)	[3.9]	ナデ	ナデ、沈線	ナデ	内:ｵﾘｰﾌﾞ黒(5Y3/1) 外:赤褐(2.5YR4/6)	密	白色粒子	良	SI6-328.546	内面:黒変、外面:アバタ状、底部灰付着
139	SI6	33	縄文	深鉢	－	5.8	[6.2]	ナデ	縄文、粘土紐貼付	ナデ	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-918	内面:黒変
139	SI6	34	縄文	深鉢	－	6.2	[5.1]	ナデ	ナデ	ナデ	内:黒褐(2.5Y3/1) 外:明赤褐(5YR5/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-357.708	内面:スス付着、外面:アバタ状、底部灰付着
139	SI6	35	縄文	深鉢	－	10.0	[5.7]	ナデ	ナデ	ナデ	内:黒～にぶい黄橙(10YR6/4) 外:赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-246.253.743	内面:オコゲ付着、外面:アバタ状、底部灰
139	SI6	36	縄文	深鉢	－	7.7	[7.0]	ナデ	ナデ	ナデ	内:黒 外:赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-506.877	内面:オコゲ付着・黒変、外面:アバタ状、底部摩耗・底部灰付着
139	SI6	37	縄文	深鉢	－	16.3	[7.0]	ナデ	ナデ	網代痕	赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI6-70.214.215…	内・断面:スス付着、内外面:アバタ状
139	SI6	38	縄文	深鉢	－	12.8	[8.5]	ナデ	ナデ	網代痕	内:黒 外:褐(7.5YR4/4)	密	白・黒色粒子	良	SI6-567.738.739…	内面:黒変、内外面:アバタ状
139	SI6	39	縄文	浅鉢	－	10.5	[6.7]	ナデ	ナデ	ナデ	黄褐(10YR5/8)	密	白・黒色粒子	良	SI6-219.520.852…	外面:底部一部摩耗
139	SI6	40	縄文	浅鉢	－	－	[5.7]	ナデ	ナデ、竹管沈線		褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子	良	SI6-316	
144	SI14	1	縄文	深鉢	(39.0)	－	[30.6]	ナデ	刻み隆帯、沈線、渦巻文、ナデ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、長石(多)、石英、角閃石	良	SI14-28.419.429…	炉体土器、X把手、外面:スス付着か
144	SI14	2	縄文	深鉢	21.0	10.6	24.8	ナデ	U字貼付文、竹管沈線、刻み隆線	ナデ	内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:赤褐(5YR4/6)	密	赤色粒子、雲母、長石	やや良	SI14-593.594.595…	内面:荒れ、胴下半黒変、外面:赤変、底部灰付着
144	SI14	3	縄文	深鉢	(22.4)	－	[14.2]	ナデ	ナデ、隆帯に刻み、沈線		にぶい赤褐(5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI14-376.SI14一括	
144	SI14	4	縄文	深鉢	－	13.5	[23.8]	ナデ	縄文、沈線文、渦巻文、隆線文	ナデ	内:黄褐(2.5Y5/3)～暗褐(7.5YR3/3) 外:赤褐(5YR4/6)	密	デイサイト、赤色粒子、雲母	良	SI14-335.358.359…	内面:胴下半～底部黒変、外面:赤変
144	SI14	5	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ、隆線、沈線		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI14-286.543.G2592…	内面:薄く黒変
144	SI14	6	縄文	深鉢	30.6	－	[33.0]	ナデ	刻み隆帯、区画文、渦巻文、沈線文、ナデ		内:黒褐(10YR3/2) 外:暗褐(7.5YR3/3)	やや密	赤色粒子、長石か(やや多)	良	SI14-283.287.570…	4単位の波頂部、内面:胴下半コゲ、外面:胴上半スス付着・胴下半赤味
145	SI14	7	縄文	深鉢	33.0	13.0	58.5	ナデ	沈線文、刻み低隆帯、ナデ	ナデ	内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:赤褐(5YR4/6)～暗褐(10YR3/3)	密	赤色粒子、長石、角閃石	やや良	SI14-38.45.70…	内面:荒れ、胴下半薄く黒変、外面:胴上半薄く黒変、胴下半赤変、底部灰付着
145	SI14	8	縄文	深鉢	13.5	－	[14.3]	ナデ	沈線、押圧隆線、ナデ		内:にぶい黄褐(10YR5/4)～黒褐(10YR3/1) 外:褐(7.5YR4/3)	やや密	赤色粒子、長石(多)	良	SI14-411	内面:胴部黒変
145	SI14	9	縄文	深鉢	(12.2)	－	[7.9]	ナデ	粘土紐貼付		灰褐(7.5YR4/2)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI14-42.298.368	
145	SI14	10	縄文	深鉢	11.0	－	[19.1]	ナデ	ヘラガキ沈線、押圧隆帯文		内:黄褐(10YR5/6)～暗褐(10YR3/3) 外:にぶい赤褐(5YR4/3)	やや密	赤色粒子、雲母、長石、角閃石	良	SI14-289.500.501…	内面:胴下半薄く黒変、外面:赤変
145	SI14	11	縄文	深鉢	10.5	－	[13.5]	ナデ	沈線、粘土紐貼付		内:黄褐(10YR5/6)～暗褐(10YR3/3) 外:赤褐(5YR4/6)～にぶい黄褐(10YR5/3)	密	赤色粒子、長石、角閃石	不良	SI14-333.422.434…	内面:胴部薄く黒変、外面:スス、胴部赤変
145	SI14	12	縄文	台付深鉢	(10.5)	(5.8)	[21.2]	ナデ	文様(2単位)、竹管沈線、粘土紐貼付		内:黒褐(10YR3/1)～にぶい黄褐(10YR5/4) 外:赤褐(5YR4/6)～にぶい黄褐(10YR5/4)	密	赤色粒子、長石	良	SI14-341.342.378…	内面:胴部コゲ付着、外面:上部アバタ状、胴下半赤変、硬質
145	SI14	13	縄文	深鉢	15.1	－	[19.5]	ナデ	ナデ、粘土紐、竹管条線		にぶい赤褐(5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI14-29.262.267…	
145	SI14	14	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	隆帯、竹管沈線		にぶい赤褐(5YR4/3)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI14-144.152.159…	内面:黒変、外面:赤変
145	SI14	15	縄文	深鉢	(19.6)	8.4	(30.0)	ナデ	ナデ、沈線、条線	ナデ	褐(7.5YR4/4)～赤褐(5YR4/6)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI14-14.26.363…	内面:胴下半薄く黒変、底部炭化物付着、外面:胴下半赤変
145	SI14	16	縄文	深鉢	10.4	7.5	17.3	ナデ	ナデ、押引文、竹管条線	ナデ	赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI14-202	内面:黒変、外面:赤変

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形技法等			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
146	SI14	17	縄文	深鉢	(13.0)	(10.0)	(28.5)	ナデ	粘土紐貼付、縄文		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI14-96.99.103…	
146	SI14	18	縄文	深鉢	(18.0)	－	[18.0]	ナデ	ナデ、縄文、刻み隆線		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SI14-48.78.203…	内面:薄く黒斑、外面:胴下半赤変
146	SI14	19	縄文	深鉢	(13.2)	－	[12.0]	ナデ	沈線、縄文		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI14-423.424	
146	SI14	20	縄文	深鉢	7.5	－	[8.3]		押圧隆線、縄文、沈線		内:黒褐(7.5YR3/1)～暗褐(7.5YR3/3)　外:暗褐(7.5YR3/3)	やや密	赤色粒子、雲母、長石	良	SI14-555	内面:黒変、外面:赤変
146	SI14	21	縄文	深鉢	(17.0)	－	[5.3]	ナデ	ナデ		にぶい赤褐(5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI14-294.396	内外面:スス付着
146	SI14	22	縄文	深鉢	(9.8)	－	[7.9]	ナデ	刺突文、刻み隆線		にぶい赤褐(5YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SI14-57	
146	SI14	23	縄文	浅鉢	－	11.4	[7.8]	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	やや不良	SI14-46.58.80…	内面:一部黒変
146	SI14	24	縄文	浅鉢	－	(13.4)	[8.4]	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	やや不良	SI14-72.113.272…	外面:底部一部摩耗
146	SI14	25	縄文	深鉢	－	(12.3)	[6.1]	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI14-552.554	内面:上部コゲ、下部黒変、外面:底部摩耗
146	SI14	26	縄文	浅鉢	(35.2)	－	[5.4]	竹管押引文	ナデ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母(多)	良	SI14-249	
146	SI14	27	縄文	突起	長 10.2	幅 4.7	厚 4.5		沈線文、ナデ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI14-231	獣面状突起
147	SI16	1	縄文	台付深鉢	20.0	台上 8.0	[18.7]	ナデ	4単位の横S字文、竹管条線、蛇行粘土紐貼付		内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:にぶい褐(7.5YR5/4)	密	赤色粒子、長石	良	SI16-424	内外面:スス、台部以外完存
147	SI16	2	縄文	深鉢	(23.6)	－	[22.8]	ナデ	竹管沈線、粘土紐貼付		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-51.185.199…	内外面:黒変
147	SI16	3	縄文	深鉢	－	8.2	[20.4]		竹管沈線、粘土紐貼付		内:黒褐(5YR3/1)～にぶい黄褐(10YR5/4)　外:明赤褐(5YR5/6)	密	赤色粒子、雲母、長石	良	SI16-209.346.350…	内面:底部黒変、外面:底部灰付着
147	SI16	4	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	粘土紐貼付、竹管沈線		褐(10YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-244.327.491…	内外面:黒変
147	SI16	5	縄文	深鉢	13.0	8.4	19.3		縄文、隆線文貼付	ナデ	内:黒褐(10YR3/2)　外:赤褐(5YR4/6)	やや密	赤色粒子、雲母、長石、石英、角閃石等	良	SI16-20.151.319	内面:黒変、外面:底部灰付着
147	SI16	6	縄文	深鉢	17.5	－	[21.9]		ナデ、竹管沈線、縄文		内:暗褐(7.5YR3/3)～黒褐(7.5YR3/1)　外:にぶい黄褐(10YR5/3)～赤褐(5YR4/6)	密	雲母、長石他	良	SI16-85.143.144…	内面:薄く黒変、外面:胴部赤変、X小把手4ケ
147	SI16	7	縄文	深鉢	(33.4)	－	[5.5]	ナデ	縄文		にぶい黄褐(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-294.G1903	
147	SI16	8	縄文	深鉢	32.9	－	[17.8]	ナデ	縄文		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白色(多)・黒色粒子、小礫	良	SI16-285.293.298…	
147	SI16	9	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、粘土紐貼付		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-149.313.375…	内外面:スス付着
147	SI16	10	縄文	深鉢	(50.6)	－	[20.2]	ナデ	ナデ、竹管文、竹管隆帯		橙(7.5YR7/6)～にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	SI16-230.259.351…	
148	SI16	11	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	竹管隆帯、竹管条線		にぶい橙(7.5YR7/3)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母、小礫(2～3mm)	良	SI16-360.361.362…	
148	SI16	12	縄文	両耳鉢	35.0	10.8	27.4		無節縄文、竹管文、ナデ		内:黄褐(10YR5/6)～黒褐(10YR3/1)　外:明赤褐(5YR5/6)	やや密	赤色粒子、雲母、長石、角閃石	良	SI16-130.265.266…	内面:黒変
148	SI16	13	縄文	鉢	(29.8)	－	[22.0]	ナデ	ナデ、粘土紐貼付、縄文		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-417	
148	SI16	14	縄文	鉢	(36.6)	－	[9.8]	ナデ	ナデ、縄文		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI16-217.219.225…	
148	SI16	15	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	沈線、縄文		黄褐(10YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI16-12.13.70…	外面:黒変
148	SI16	16	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	沈線文、竹管沈線		にぶい黄橙(10YR7/3)	密	白(多)・黒(多)・赤色粒子、雲母	良	SI16-71.91.119…	把手付
149	SI16	17	縄文	深鉢	(18.0)	－	[4.7]	ナデ	ナデ		暗灰黄(2.5Y4/2)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-256	
149	SI16	18	縄文	深鉢	(24.2)	－	[4.7]	ナデ	ナデ		黄褐(2.5Y5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-272.497	
149	SI16	19	縄文	深鉢	(22.0)	－	[4.6]	ナデ	竹管刺突文、縄文、沈線文		褐(7.5YR4/6)	密	白・黒色粒子	良	SI16-220	
149	SI16	20	縄文	深鉢	－	(11.0)	[8.0]	ナデ	縄文、粘土紐貼付		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-2.5.251…	内面:黒変、外面:底部灰付着
149	SI16	21	縄文	深鉢	－	(8.5)	[12.3]	ナデ	ナデ、沈線		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-32.214.420…	内面:黒変

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形技法等			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
149	SI16	22	縄文	深鉢	－	13.4	[10.8]	ナデ	ナデ、竹管条線	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI16-390.G85	
149	SI16	23	縄文	深鉢	－	15.0	[13.3]	ナデ	ナデ	網代痕	褐(7.5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI16-385.386.432…	
149	SI16	24	縄文	深鉢	－	－	[7.0]	ナデ	粘土紐貼付、縄文		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SI16-245	
149	SI16	25	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	条線文、竹管隆線文		明褐(7.5YR5/6)	密	白(多)・黒(多)・赤色粒子、小礫(2mm)、雲母	良	SI16-335.SI23-21	
149	SI16	26	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	条線文、竹管隆線文		明褐(7.5YR5/6)	やや密	白(多)・黒(多)・赤色粒子、雲母、小礫(2mm)	良	SI16-78.120	
149	SI16	27	縄文	台付鉢	(10.0)	5.0	10.5	ナデ	ナデ、竹管条線、隆線文	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SI16-317.254	内面:胴部薄く黒変、小形品
151	SI19	1	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ、刺突文、沈線文、隆線文		内:黒褐(10YR3/2) 外:明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI19-43.45.50…	
151	SI19	2	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、沈線文、刻み隆線文		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI19-64.一括.G320	
151	SI19	3	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	沈線文、隆線文		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	やや良	SI19-23.一括.X110Y50…	
155	SI26	1	縄文	深鉢	19.8	－	[14.4]		縄文、沈線、隆帯文		内:にぶい黄褐(10YR5/4) 外:赤褐(5YR4/8)	密	赤色粒子、雲母、長石	良	SI26-16.G193.G2059	内面:薄く黒変、外面:赤変
155	SI26	2	縄文	鉢	(27.6)	－	[13.2]	ナデ	ナデ、竹管隆帯文、縄文		橙(5YR6/6)	密	白(多)・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI26-18	
155	SI26	3	縄文	深鉢	11.3	－	[4.3]	ナデ	ナデ、隆帯、刺突文		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI26-19	
155	SI26	4	縄文	深鉢	－	－	[9.7]	ナデ	縄文		橙(5YR6/6)	やや粗	白(多)・黒・赤色粒子、雲母、小礫	やや不良	SI26-26.27.28…	埋甕、疑似口縁、内面:コゲ、外面:スス
157	SI29	1	縄文	深鉢	(33.8)	－	[27.4]	ナデ	縄文、粘土紐貼付、ナデ		内:にぶい黄褐(10YR5/3)～暗褐(10YR3/3) 外:赤褐(5YR4/6)～黒褐(10YR3/1)	密	赤色粒子、雲母、長石	良	SI29-174.327	埋甕、内面:胴下半黒変、外面:口縁～胴上半スス付着・胴下半赤変
157	SI29	2	縄文	深鉢	25.0	10.0	28.5	ナデ	ナデ、竹管条線、粘土紐貼付	ナデ	内:黒 外:明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-306	内面:オコゲ付着、砂貯蔵土器
157	SI29	3	縄文	深鉢	(30.0)	－	[22.9]	ナデ	縄文		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI29-2.48.59…	
157	SI29	4	縄文	深鉢	36.1	－	[21.0]		無節縄文		内:赤褐(2.5YR4/6) 外:褐(7.5YR4/3)	やや密	赤色粒子、長石(やや多)、他	やや良	SI29-14.41.122…	外面:ややススけている
157	SI29	5	縄文	深鉢	(28.3)	－	[7.2]	ナデ	縄文		ｵﾘｰﾌﾞ黒(10Y3/2)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-134.169	
157	SI29	6	縄文	深鉢	－	(14.0)	[40.2]	ナデ	竹管隆線文、縄文施文		内・外:明褐(7.5YR5/6)	密	雲母、長石	良	SI29-12.15.38…	外面:黒斑
158	SI29	7	縄文	両耳鉢	30.0	12.5	27.0	ナデ	無節縄文、隆線文、ナデ、沈線文	ナデ	内:黒褐(5YR2/1) 外:黄褐(10YR5/6)	やや密	赤色粒子、雲母、長石等	良	SI29-303	内面:黒変処理、X状把手2
158	SI29	8	縄文	両耳鉢	26.5	20.2	11.9	ナデ	縄文、半截竹管文、竹管沈線	ナデ	内・外:にぶい黄橙(10YR6/4)～黒褐(10YR3/1)	密	雲母、長石、角閃石、礫(堆積岩)等	良	SI29-165.307	内外面:黒斑、X状把手2
158	SI29	9	縄文	両耳鉢	(35.3)	－	[14.0]	ナデ	ナデ、縄文、竹管押引文		褐(7.5YR4/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-28.89.192	内面:薄く黒変
158	SI29	10	縄文	深鉢	－	11.0	[24.5]	ナデ	ナデ、縄文、竹管押引隆線文	ナデ	にぶい赤褐(5YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-17.225.26…	内面:黒変
158	SI29	11	縄文	浅鉢	29.7	12.3	15.5	ナデ	縄文	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-21.27.46…	
159	SI29	12	縄文	深鉢	(55.6)	－	[10.5]	ナデ	重弧文、竹管文、粘土紐貼付		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI29-281	
159	SI29	13	縄文	深鉢	(51.2)	－	[10.3]	ナデ	ナデ		褐(7.5YR4/6)	やや密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI29-194	外面:スス付着
159	SI29	14	縄文	深鉢	(13.9)	－	[6.3]	ナデ	ナデ、粘土紐貼付		褐(7.5YR4/4)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-51.54.144	外面:黒変
159	SI29	15	縄文	深鉢	(23.2)	－	[8.0]	ナデ	縄文		褐(7.5YR4/6)	やや密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI29-268.269.270…	
159	SI29	16	縄文	深鉢	(19.3)	－	[3.9]	ナデ	隆帯、沈線、縄文		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-105	
159	SI29	17	縄文	深鉢	(23.6)	－	[7.8]	ナデ	刻み隆帯、重弧文		褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-10.19.224	
159	SI29	18	縄文	鉢	(38.3)	－	[7.2]	ナデ	刻み隆帯文、縄文		明褐(7.5YR5/6)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-190.191	内面:黒変
159	SI29	19	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文		にぶい褐(7.5YR5/4)	やや粗	白・黒色粒子、雲母	やや良	SI29-78.129.130…	
159	SI29	20	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文		にぶい黄褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-95.156.251…	内面:黒変
159	SI29	21	縄文	浅鉢	－	(11.0)	[10.0]	ナデ	ナデ、縄文	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-21.36.60…	内面:黒変、外面:底部黒変
159	SI29	22	縄文	深鉢	－	10.2	[7.8]	ナデ	ナデ、縄文	ナデ	褐(7.5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子	やや良	SI29-207.208.211…	

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種	法量(cm)			整形技法等			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
				器形	口径	底径	器高	内面	外面	底部						
159	SI29	23	縄文	深鉢	－	9.8	[1.5]	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-172	内外面:底部黒変
159	SI29	24	縄文	深鉢	－	11.5	[3.2]	ナデ	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-197	外面:底部黒変・摩耗
159	SI29	25	縄文	深鉢	－	11.0	[2.6]	ナデ	ナデ	網代痕	にぶい褐(7.5YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-188	
159	SI29	26	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	隆帯、縄文、粘土紐貼付、刻み		にぶい黄褐(10YR4/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-298	
159	SI29	27	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、粘土紐貼付		明黄褐(10YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI29-284	
161	SI31	1	縄文	深鉢	(27.7)	－	[22.1]	ナデ	縄文、粘土紐貼付、竹管沈線文		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI31-4.43.72…	内面:胴部コゲ付着、外面:スス付着・赤変
161	SI31	2	縄文	深鉢	(29.5)	－	[9.8]	ナデ			内:暗灰黄(2.5Y4/2)　外:明黄褐(10YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI31-42.69.94	
161	SI31	3	縄文	深鉢	(30.6)	－	[9.4]	ナデ	重弧文、粘土紐貼付		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI31-48.49.84…	内面:スス付着
161	SI31	4	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文		内:黒　外:明赤褐(5YR5/8)	やや密	白・黒色粒子	不良	SI31-10.31.70	
161	SI31	5	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、粘土紐貼付		内:にぶい黄褐(10RY5/4) 外:赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI31-52.71.一括…	内外面:微量にスス付着
161	SI31	6	縄文	鉢	(30.6)	－	[7.4]	ナデ	ナデ、押引隆線文、縄文		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI31-56.82	
161	SI31	7	縄文	深鉢	－	－	[6.4]	ナデ	重弧文		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI31-90	
161	SI31	8	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	竹管条線、押引文、粘土紐貼付		明黄褐(10YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI31-28.40.62…	内面:スス
161	SI31	9	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	撚糸文		赤褐(5YR4/8)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI31-65.一括	SI6-27と同一か
162	SK2	1	縄文	深鉢	(31.0)	－	[15.2]	ナデ	重弧文、押引粘土紐、櫛歯条線		内:にぶい黄褐(10RY5/4) 外:黒褐(7.5YR3/1)～褐(10YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	SK2-22	
162	SK2	2	縄文	浅鉢	－	10.0	[8.3]	ナデ	ナデ	木葉痕	内:黒褐(2.5Y3/1)～にぶい黄橙(10YR6/4)　外:赤褐(5YR4/8)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK2-51	内面:黒変
162	SK2	3	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文		内:黒・にぶい赤褐(5YR4/4) 外:にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK2-2.8.20…	
162	SK2	4	縄文	深鉢	－	15.0	[10.9]	ナデ	ナデ、条線文	木葉痕	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SK2-4.5.6…	内面:胴部コゲ付着
164	SK27	1	縄文	深鉢	(33.5)	(15.0)	(64.1)	ナデ	ナデ、隆線文、条線	ナデ	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒・赤色粒子	やや良	SK27-2.13.14…	
165	SK37	1	縄文	深鉢	(27.0)	9.5	37.8	ナデ	ナデ、重弧文(摺曲文)	ナデ	内:黒褐(10YR3/1)～褐(7.5YR4/3)　外:赤褐(5YR4/6)～暗褐(10YR3/3)	密	白・黒・赤色粒子、角閃石、デイサイト	良	14T.SI-11.G282…	SMT 14T埋甕か(SI11に同一個体)
165	SK37	2	縄文	深鉢	(11.6)	－	[10.5]	ナデ	ナデ、隆線文、区画文、沈線文、粘土紐貼付		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI11-55.56.G1226…	
165	SK37	3	縄文	浅鉢	－	－	－	ナデ	ナデ		にぶい黄褐(10YR4/3)	密	白・黒色粒子	良	SI11-49.50	内面:黒変
165	SK38	1	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	隆帯、沈線、粘土紐貼付		褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK34-1	
165	SK38	2	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	沈線、隆帯、粘土紐貼付		にぶい黄褐(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK34-3	
165	遺構外	1	縄文	深鉢	(24.3)	－	[5.0]	ナデ	隆線、沈線、縄文		にぶい赤褐(5YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G367	
165	遺構外	2	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	竹管沈線、粘土紐貼付、ナデ		内:暗灰黄(2.5Y4/2)　外:にぶい黄褐(10YR5/4)	やや密	白・黒色粒子	良	G1940.G1941	
165	遺構外	3	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	粘土紐貼付、竹管沈線、押引文		内:黒　外:にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	G964.G965.G1661…	内面:黒変
165	遺構外	4	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	条線、竹管隆線		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	G1028.G2408.G2416	
166	遺構外	5	縄文	深鉢	－	－	[3.2]	ナデ	刺突文		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	やや良	G1163	
166	遺構外	6	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	隆線文、縄文		にぶい褐(10YR4/3)～黒	密	白・黒色粒子、雲母	良	X140Y90	
166	遺構外	7	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	竹管沈線、刺突文、区画文		内:明赤褐(5YR5/6)　外:灰黄褐(10YR4/2)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G1160	内面:スス少
166	遺構外	8	縄文	深鉢	－	－	－		格子目条線		内:赤褐(5YR4/6)　外:褐(7.5YR4/3)	密	白・黒色粒子、雲母、石英	良	G1203	繊維土器か
166	遺構外	9	縄文	深鉢	－	－	－		ナデ、貝殻腹縁文		内:褐(7.5YR4/6)　外:褐(7.5YR4/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G1198	繊維土器か
166	遺構外	10	縄文	深鉢	－	－	－		刺突文、格子目条線文		灰黄褐(10YR4/2)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G1201	繊維土器
166	遺構外	11	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	縄文、沈線、ミガキ		内:にぶい黄橙(10YR6/4) 外:明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	G1177	

表15　B区出土土師器観察表

法量（　）は復元実測値、［　］は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種器形	法量(cm) 口径	底径	器高	整形 内面	外面	底部	色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
132	SI1	1	土師器	坏	(14.2)	(8.0)	5.1	ミガキ	ロクロナデ、ヘラナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1-25.67.84…	
132	SI1	2	土師器	坏	－	(8.4)	[1.8]	ミガキ	ミガキ、ロクロナデ、ヘラ削り	ミガキ、ナデ	橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI1-53	内面底部線刻あり、見込部暗文あり
132	SI1	3	土師器	坏	(12.4)	－	[5.3]	ミガキ	ミガキ、ナデ		橙(5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI1-7.34	
132	SI1	4	土師器	坏	－	－	－	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	SI1-20.SI3一括	墨書か
132	SI1	5	土師器	坏	－	－	－	ミガキ、ナデ	ミガキ		にぶい黄橙(10YR7/3)	密	白・黒色粒子	良	SI1-20	内面タール痕・墨痕あり
132	SI1	6	土師器	坏	(13.9)	(8.1)	3.55	ナデ	ロクロナデ、ヘラ削り	ナデ	橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1-26	
132	SI1	7	土師器	皿	14.3	8.5	3.0	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、下部ヘラ削り	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	SI1-22.56.97	内外面スス付着、外面・外面底部の一部に粘土付着、見込部暗文あり
132	SI1	8	土師器	甕	(23.6)	8.6	32.3	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	木葉痕	明褐(7.5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	SI1-54.55.58…	
132	SI1	9	土師器	甕	(14.4)	－	[9.2]	ヘラナデ	ハケ、ナデ		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI1-106.121.122	
132	SI1	10	土師器	甕	(19.2)	－	[17.5]	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	SI1-88.107.108…	
132	SI1	11	須恵器	坏	(13.4)	－	[2.75]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(7.5Y6/1)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI1-113.155.181	
132	SI1	12	須恵器	蓋	蓋径(14.0)	－	[1.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1) 釉-灰(5Y5/1)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1一括	内外面施釉
132	SI1	13	須恵器	蓋	蓋径(13.8)	－	[1.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1)	密	白(多)・黒色粒子	良	SI1-75.140	内面使用痕あり
132	SI1	14	須恵器	蓋	蓋径(14.2)	－	[1.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		内:灰褐(7.5YR6/2) 外:褐灰(10YR6/1～6/2)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI1-103.161	内面使用痕あり、表面粘土付着
132	SI1	15	須恵器	壺	(9.4)	－	[2.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1-173	
132	SI1	16	須恵器	甕	－	－	－	ナデ	タタキ		灰(5Y6/1)	やや粗	白・黒・赤色粒子	良	SI1-160	内面使用痕あり
133	SI1	17	須恵器	甕	－	－	－	ナデ、当て具痕	タタキ		灰白(7.5Y7/1) 釉-灰(7.5Y5/1)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI1一括	内面使用痕あり
133	SI1	18	須恵器	甕	－	－	－	青海波文	タタキ		灰(5Y5/1) 釉-ｵﾘｰﾌﾞ黒(5Y3/2)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1-73.74.141…	
133	SI1	19	須恵器	甕	－	－	－	ナデ	タタキ		内:灰白(5Y7/2) 外:灰白(5Y7/1)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI1-79	内面使用痕あり
133	SI2	1	土師器	坏	(13.1)	(8.4)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラ削り	ヘラ削り	橙(5YR6/6)	密	白・赤色粒子、雲母	良	SI2-34.35	内面墨痕有り
133	SI2	2	土師器	坏	(14.8)	－	[3.8]	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ		橙(5YR6/6)	密	白・赤色粒子、雲母	良	SI2-43.44	
133	SI2	3	土師器	坏	－	(11.8)	[3.3]	ロクロナデ	ミガキ	ヘラ削り	橙(5YR7/6)	密	白・赤色粒子、雲母	良	SI2-41	
133	SI2	4	土師器	甕	(25.0)	－	[12.7]	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ		橙(5YR6/6)	やや密	白・赤色粒子	良	SI2-49.50	内外面薄く変色
133	SI2	5	須恵器	蓋	－	つまみ部径2.6	[1.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		黄灰(2.5Y5/1)	密	白・赤色粒子、雲母	良	SI2-29	
133	SI2	6	須恵器	蓋	蓋径(15.0)	－	[1.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		黄灰(2.5Y5/1)	密	白色粒子、雲母	良	SI2-26	
133	SI2	7	須恵器	甕	(32.0)	－	[7.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(10Y5/1)	密	白色粒子	良	SI2-21.24.28	
133	SI3	1	土師器	甕	(17.6)	－	[7.4]	ハケ	ハケ		にぶい黄橙(10YR6/4)	やや密	白・赤色粒子	良	SI3-22.37	
133	SI3	2	土師器	甕	－	－	－	ハケ	ハケ		橙(7.5YR6/6)	やや密	白・赤色粒子	良	SI3-46	
133	SI3	3	土師器	甕	－	－	－	ハケ	ハケ		橙(5YR6/6)	やや密	白・赤色粒子	良	SI3-54	
133	SI3	4	須恵器	甕	－	－	－	青海波文	タタキ		灰黄(2.5Y7/2)	密	白色粒子	良	SI3-65.71	
134	SI3	5	須恵器	甕	－	－	－	青海波文	タタキ		褐灰(7.5YR5/1)	密	白色粒子	良	SI3-69	
134	SI3	6	須恵器	甕	－	－	－	青海波文	タタキ		褐灰(7.5YR4/1)	密	白色粒子	良	SI3-68.80	
134	SI3	7	奈良三彩	薬壺	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y8/2) 釉-明黄褐(2.5Y7/6)・暗ｵﾘｰﾌﾞ褐(2.5Y3/3)・常磐色(3G4.5/7)	密		良	SI3-34	
134	SI4	1	土師器	坏	11.1	5.5	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白色粒子	良	SI4-10.30.32…	
134	SI4	2	土師器	坏	11.4	－	[2.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白色粒子	良	SI4-11.12.37…	
134	SI4	3	土師器	坏	－	5.8	[1.9]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白色粒子、雲母	良	SI4-28.29	
134	SI4	4	土師器	甕	(31.4)	－	[5.9]	ナデ	ナデ		にぶい赤褐(5YR5/3)	やや密	白・黒色粒子	良	SI4-72	
134	SI4	5	土師器	甕	(33.8)	－	[10.5]	ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄褐(10YR5/3)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI4-60.61.66	
134	SI5	1	土師器	甕	(24.8)	－	[2.5]	ナデ、ハケ	ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	やや密	白・黒・赤色粒子	良	SI5-60.61.62…	
134	SI5	2	土師器	甕	(24.4)	－	[3.0]	ナデ	ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	やや密	白・黒・赤色粒子	良	SI5-63	
134	SI5	3	須恵器	甕	－	－	－	青海波文	タタキ		灰黄(2.5Y6/2)	密	白・黒色粒子	良	SI5-50.58.59	
134	SI5	4	須恵器	甕	－	－	－	ナデ	タタキ、ナデ		灰(5Y5/1)	密	白色粒子	良	SI5-13	
139	SI7	1	土師器	高坏	－	高台径(17.8)	[1.5]	ナデ	ミガキ、ナデ		にぶい褐(7.5YR5/4)	緻密	白・赤色粒子	良	SI7-21	
139	SI7	2	土師器	有段口縁壺	－	－	－		ナデ		橙(7.5YR7/6)	密	白・黒色粒子、礫(2～3mm)	やや良	SI7-55	内面剥離、羽状文
139	SI7	3	土師器	S字甕	16.3	－	[17.3]	ナデ、指頭痕	ロクロナデ、ハケ		にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	SI7-61.62.75…	

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
139	SI7	4	土師器	S字甕	12.8	－	[13.1]	ナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		橙(5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI7-84.88	
139	SI7	5	土師器	S字甕	－	高台径 7.5	[6.5]	ヘラナデ	ハケ	ナデ	橙(2.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI7-73	
139	SI7	6	土師器	台付甕	－	－	－	ナデ	ハケ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫(多)	良	SI7-32.一括	台部内剥離
139	SI7	7	土師器	台付甕	(16.5)	高台径 9.4	(26.5)	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	ハケ	橙(5YR6/6)	密	白・黒色粒子、小礫	良	SI7-2.3.6…	
139	SI7	8	土師器	有孔鉢	10.0	2.9	6.4	ハケ後ナデ、ヘラナデ	ハケ、ナデ		明赤褐(5YR5/6)	やや密	白・黒色粒子、小礫	良	SI7-87	底部孔(孔径1.0cm)
140	SI8	1	土師器	有透装飾器台	－	－	－	ミガキ	ナデ、ミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	やや密	白(多)・黒色粒子、小礫	良	SI8-129	
140	SI8	2	土師器	有段口縁壺	(20.4)	－	[6.8]	ハケ後ミガキ	ナデ、ハケ後ナデ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI8-17.18.26…	縄文、沈線、内外面赤彩
140	SI8	3	土師器	S字甕	9.3	高台径 5.4	12.4	ロクロナデ、ハケ、ナデ	ロクロナデ、ハケ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI8-137	
140	SI8	4	土師器	S字甕	－	高台径 (8.3)	[7.0]	ナデ、工具痕	ハケ	ナデ、指頭痕	灰黄(2.5Y6/3)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	SI8-12.13.82…	
140	SI8	5	土師器	S字甕	－	高台径 9.1	[6.5]	工具痕	ハケ、工具痕	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや密	白・黒色粒子、雲母	良	SI8-138	
140	SI9	1	土師器	壺	(15.6)	－	[3.5]	ナデ、ハケ	ヘラナデ		橙(5YR7/6)、褐灰(10YR6/1)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI9-27.39.40	外面剥離
140	SI9	2	土師器	壺	(12.8)	－	[4.5]	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ		にぶい橙(5YR6/4)～褐灰(5YR5/1)	やや密	白・黒色粒子、砂礫	良	SI9-38.39.40…	内外面共に剥離多い
140	SI9	3	土師器	壺	－	－	－	ナデ	ハケ		灰褐(7.5YR6/2)	密	白・赤(少)色粒子、砂礫	良	SI9-28	外面スス付着
140	SI9	4	土師器	壺	－	－	－	ナデ	ハケ		赤灰(2.5YR6/1)～橙(2.5YR6/6)	密	白色粒子、砂礫	良	SI9-DK-1.2.3	
140	SI9	5	土師器	S字甕	(14.8)	－	[3.8]	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)～褐灰(7.5YR6/1)	密	白(多)・黒(少)色粒子	良	SI9-42	外面スス付着
140	SI9	6	土師器	S字甕	(18.0)	－	[3.6]	ナデ	ナデ、ハケ		橙(7.5YR7/6)～褐灰(7.5YR6/1)	密	白・黒(少)色粒子	良	SI9-54	外面スス付着
140	SI9	7	土師器	甕	(15.8)	－	[4.0]	ハケ	ハケ		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白(少)・赤(少)色粒子	良	SI9-46	外面全体・内面一部にスス付着
140	SI9	8	土師器	台付甕	－	－	－	ヘラナデ	ハケ	ハケ後ヘラナデ	赤褐(2.5YR4/8)	やや密	白(多)・黒(少)・赤(少)色粒子	良	SI9一括	
140	SI9	9	土師器	甕	－	(9.6)	[1.8]		ハケ		浅黄褐(7.5YR8/4)	密	白(多)・黒(少)色粒子	良	SI9-21	内面剥離、外面底部一部剥離
140	SI9	10	土師器	鉢	(20.0)	－	[5.8]	ヘラナデ	ヘラナデ		褐灰(7.5YR5/1)	やや密	白(多)・黒色粒子	良	SI9一括.DK-1-1	内面スス付着
140	SI10	1	土師器	高坏	－	－	－	ミガキ	全面に細かいミガキ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	S10-10	内面荒れている
140	SI10	2	土師器	壺	－	5.8	[12.3]	ハケ	ハケ後ミガキ、全面にミガキ	ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	S10-26.45.64	
141	SI10	3	土師器	壺	－	－	－	ハケ後ミガキ	全面にミガキ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	S10-38	
141	SI10	4	土師器	壺	－	7.2	[17.8]	工具によるナデ	ハケ		橙(5YR7/6)	粗	白・黒色粒子、雲母、小礫(多)	やや良	S10-45.51.62…	内外面共摩滅顕著
141	SI10	5	土師器	S字甕	11.8	高台径 7.8	17.45	ナデ、ハケ後ナデ、工具痕	ナデ、ハケ	ナデ、指頭痕	赤橙(10R6/8)	密	白・黒色粒子、雲母	良	S10-21.63	内面摩滅顕著、外面オコゲ付着、台部に種痕か
141	SI10	6	土師器	S字甕	(20.2)	－	[5.3]	指頭痕	ハケ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	S10-54	
141	SI10	7	土師器	甕	(20.1)	－	[3.8]	ハケ後ナデ・ミガキ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、礫	良	S10-40	
141	SI10	8	土師器	甕	(15.5)	－	[3.8]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	やや密	白色粒子、小礫	良	S10-36	
141	SI10	9	土師器	甕	(13.3)	－	[2.9]	ハケ後ナデ	ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白色粒子	良	S10-29	
142	SI11	1	土師器	高坏	(21.9)	－	[5.9]	ミガキ	ミガキ		明黄褐(10YR6/6)～橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	S11-156.157.159…	内面アバタ状
142	SI11	2	土師器	高坏	－	高台径 (14.3)	[8.6]	荒いハケ後ナデ	ハケ後ミガキ		橙(7.5YR6/8)	密	白・黒色粒子	良	S11-164	内外面微量にスス付着、孔(孔径縦・横1.35cm)3ヶ所
142	SI11	3	土師器	壺	15.4	9.0	25.1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	S11-73.74.77…	外面胴部スス付着
142	SI11	4	土師器	壺	－	－	－	ハケ後ナデ	ハケ後細いミガキ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子	良	S11-144.149.150…	
142	SI11	5	土師器	小型壺	－	(4.4)	[5.3]	ミガキ	ミガキ、ナデ	ナデ	内:浅黄(2.5Y7/3)　外:明黄褐(10YR6/6)～黒	密	白・黒色粒子、雲母	良	S11-76.一括	外面スス付着
142	SI11	6	土師器	S字甕か	－	－	－	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒色粒子	良	S11-27.87	外面胴部スス付着
142	SI11	7	土師器	S字甕か	－	－	－	ミガキ、圧痕	荒いハケ後ミガキ・ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	S11-113.114.115…	内外面スス付着

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
142	SI11	8	土師器	甕	－	－	－	ハケ後ヘラナデ	ハケ後ヘラナデ		明赤褐(5YR5/6)～ｵﾘｰﾌﾞ黒(7.5YR3/1)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI11-148	
142	SI11	9	土師器	有孔鉢	16.1	4.0	9.6	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI11-165	孔(孔径縦・横1.2cm)
143	SI12	1	土師器	有段口縁壺	(24.2)	－	[4.4]	口縁部波状ハケ	ナデ、ハケ		明赤褐(2.5YR5/6)	粗	白色粒子(多)	良	G1055	内面スス付着、摩滅顕著
143	SI12	2	土師器	甕	－	－	－	ナデ	ナデ、ハケ		にぶい黄橙(10YR6/3)	緻密	白色粒子(少)	良	G289	
143	SI12	3	土師器	台付甕	－	高台径10.0	[6.5]	ハケ	ハケ、ナデ	ヘラ削り後ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白色粒子(少)	良	S12-10	
143	SI13	1	土師器	高坏	22.4	高台径(12.7)	14.5	ハケ後全体に細かいミガキ	ハケ後細かいミガキ・ミガキ	ハケ	明赤褐(2.5YR5/6)	やや粗	白色粒子、雲母(微量)、小礫(少)	良	SI13-49.50.51…	脚部に穿孔が4ヶ所施される
143	SI13	2	土師器	高坏	－	高台径(10.2)	[3.6]		ミガキ	ハケ、ナデ	橙(5YR6/6)	密	白色粒子、小礫	良	SI13-81	孔の単位は不明
143	SI13	3	土師器	広口壺	11.5	5.3	9.9	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキか	ナデ	橙(5YR6/6)	密	白色粒子(多)、小礫(多)	良	SI13-96	内外面共に摩滅顕著
143	SI13	4	土師器	広口壺	－	4.7	[6.5]	ナデ、ハケ	ハケ後ミガキ	ヘラ削り、ナデ	明赤褐(5YR5/6)	粗	白色粒子(多)、小礫(多)	良	SI13-83	
143	SI13	5	土師器	小型壺	(8.6)	5.5	13.5	ナデ、ヘラナデ	ハケ後ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR6/4)	やや粗	白色粒子	良	SI13-38.41.42…	外面摩滅顕著
143	SI13	6	土師器	小型壺	－	4.3	[9.8]	ナデ	ヘラ削り後ミガキ	ヘラ削り	明赤褐(5YR5/6)	やや粗	白色粒子、小礫	良	SI13-69	内面摩滅部分有り
143	SI13	7	土師器	折返し口縁壺	(15.3)	－	[5.4]	ハケ後ナデ、ハケ、ミガキ	ハケ後ナデ、ハケ、ミガキ		橙(7.5YR7/6)	密	白色粒子	良	SI13-82	
143	SI13	8	土師器	壺	(19.0)	－	[4.5]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい橙(10YR6/3)	粗	白色粒子、小礫(多)	良	SI13-32	
143	SI13	9	土師器	台付甕	18.5	高台径9.8	28.0	ハケ後ミガキ、指頭痕	ハケ	ハケ後ナデ	明赤褐(5YR5/6)	密	白色粒子	良	SI13-74.75.79…	口唇部刻目文
143	SI13	10	土師器	小型台付甕	－	高台径7.0	[4.7]	ナデ、ハケ、工具痕	ハケ後ナデ	ハケ	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや粗	白色粒子(多)	良	SI13-46	
143	SI13	11	土師器	台付甕	－	高台径(10.0)	[4.7]		ハケ後ナデ	ハケ	にぶい赤褐(5YR5/4)	粗	白色粒子、小礫	良	SI13-48	
146	SI15	1	土師器	有段口縁壺	(21.0)	－	[5.3]	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ		橙(7.5YR7/6)～褐灰(7.5YR6/1)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-202	
146	SI15	2	土師器	壺	(16.2)	－	[5.4]	ヘラナデ、ミガキ	ヘラナデ		橙(5YR6/6)～褐灰(10YR5/1)	密	白・黒・赤色粒子・小礫(多)	良	SI15-7	
146	SI15	3	土師器	S字甕	(15.8)	－	[2.8]	ナデ、ハケ、指頭痕	ハケ後ナデ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-167.253	
146	SI15	4	土師器	甕	(15.0)	－	[5.8]	ヘラナデ、ヘラ削り、ナデ	ハケ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-95.284	
146	SI15	5	土師器	甕	(11.8)	－	[3.9]	ナデ・ハケ	ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI15-241.295	外面スス付着
146	SI15	6	土師器	甕	(15.6)	－	[4.8]	ハケ	ハケ後ミガキ		明褐灰(7.5YR7/2)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫(少々)	良	SI15-242	外面全面にスス付着
146	SI15	7	土師器	甕	(16.8)	－	[4.0]	ヘラナデ、ハケ	ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-325	
146	SI15	8	土師器	甕	(18.8)	－	[3.2]	ナデ	ナデ		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-62	
146	SI15	9	土師器	甕	(15.8)	－	[3.7]	ナデ、ハケ	ハケ		橙(2.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、石英(少)	良	SI15-158	口唇部刻目文、外面スス付着
146	SI15	10	土師器	甕	(19.4)	－	[3.6]	ナデ、指頭痕	ナデ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI15-68	口唇部刻目文
146	SI15	11	土師器	甕	－	－	－	ナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		にぶい橙(7.5YR6/4)～褐灰(7.5YR6/1)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI15-279	外面スス付着
146	SI15	12	土師器	鉢	(10.8)	4.0	4.5	ミガキ	ミガキ	ヘラナデ	橙(5YR6/6)	密	白(多)・黒色粒子	良	SI15-306	
150	SI17	1	土師器	高坏	－	高台径(21.2)	[2.5]		ヘラナデ後ミガキ	ナデ後ハケ	にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白・黒色砂粒子、金色雲母(少)	良	SI17-1	
150	SI17	2	土師器	壺	(18.8)	－	[4.8]	ヘラナデ	ヘラナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	やや密	白(多)・黒色粒子	良	SI17-125	外面櫛描波状文、内外面共にスス付着
150	SI17	3	土師器	壺(加飾壺)	(23.8)	－	[4.5]	ナデ	ハケ、ナデ		赤褐(10R4/4)	密	白(多)・黒色粒子、小礫	良	SI17-20	内面櫛描波状文、内外面共赤彩
150	SI17	4	土師器	甕	(18.8)	－	[7.1]	ハケ、ヘラナデ	ナデ、ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)～黒	密	白(多)・黒色粒子	良	SI17-13.77.78…	外面全体にスス付着
150	SI17	5	土師器	台付甕	－	高台径9.2	[7.2]	ハケ	ハケ	ハケ	橙(5YR6/6)	密	白(多)・黒色粒子、小礫	良	SI17-87	
150	SI18	1	土師器	高坏	(18.4)	－	[3.6]	ナデ	ハケ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒色粒子	良	G2283.G2251	
150	SI18	2	土師器	壺	(18.8)	－	[9.0]	ミガキ	ナデ、ハケ後ミガキ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI18-27.SK18-39.79…	内面黒変
150	SI18	3	土師器	壺	－	(4.6)	[3.2]	ハケ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI18-30	
150	SI18	4	土師器	S字甕	(17.2)	－	[16.5]	ナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、金色雲母	やや良	SI18-86.87.91…	内外面黒変
150	SI18	5	土師器	S字甕	(17.2)	－	[5.1]	ナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、金色雲母	やや良	SI18-74.77	内外面黒変
150	SI18	6	土師器	S字甕	(20.0)	－	[5.8]	ハケ、指頭痕	ハケ		褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子、金色雲母	良	SI18-79.80.117…	内外面黒変

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
150	SI18	7	土師器	S字甕	(17.4)	－	[4.4]	ナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、金色雲母	やや良	SI18-95	内外面黒変
150	SI18	8	土師器	甕	(12.4)	－	[4.6]	ハケ	ハケ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、金色雲母	良	G1491	
151	SI18	9	土師器	甕	(14.2)	－	[4.1]	ハケ	ハケ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI18-18	
151	SI18	10	土師器	鉢	(25.8)	－	[4.3]	ハケ	ハケ後ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI18-9	外面黒変
151	SI18	11	土師器	鉢	－	－	－	ハケ	ハケ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	G1508	口唇部刻目文
151	SI18	12	土師器	鉢	(12.4)	2.6	(5.0)	ミガキ	ミガキ、ハケ	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	密	白色粒子	良	SI18-114	内外面赤彩・摩耗
151	SI18	13	土師器	有孔鉢	－	(7.0)	[2.5]	ハケ	ハケ後ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SI18-6	底部一部黒変
151	SI18	14	土師器	手焙り土器	－	6.6	[10.1]	ナデ、ハケ	ハケメ後粘土紐	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI18-24.141.142	
152	SI20	1	土師器	高坏	(20.5)	－	[7.7]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-37.40.50…	内面黒変・アバタ状、外面スス付着
152	SI20	2	土師器	高坏	－	高台径(13.5)	[3.5]	ハケ後ナデ	ナデ後削り		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-140	内外面スス付着
152	SI20	3	土師器	高坏	－	高台径10.6	[6.1]	ハケ、ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒色粒子	良	SI20-175.180.181…	孔(孔径縦・横0.7cm)5ヶ所、内面黒変
152	SI20	4	土師器	器台	－	－	－	ハケ、ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	明赤褐(2.5YR5/8)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-277	孔3ヶ所、内面黒変
152	SI20	5	土師器	壺	(15.4)	8.7	(30.4)	ミガキ	ハケ後ミガキ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	SI20-23.25.27…	外面スス汚れか・アバタ状
152	SI20	6	土師器	壺	(10.5)	－	[4.0]	ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子	良	SI20-71.75.249…	
152	SI20	7	土師器	直口壺	8.5	－	[5.7]	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-6.7.SI22-1	
152	SI20	8	土師器	直口壺	8.5	－	[7.0]	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		明黄褐(10YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-241.252.299…	
152	SI20	9	土師器	壺	－	3.2	[7.9]	細かいハケ	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-2.6.13…	外面一部黒変
152	SI20	10	土師器	壺	－	10.4	[12.2]	ハケ後ナデ	ハケ後ミガキ	木葉痕	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-85.161.273…	外面黒変
152	SI20	11	土師器	壺	－	7.0	[3.1]	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	ハケ後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-29	
152	SI20	12	土師器	甕	－	5.4	[11.5]	ハケ後ミガキ	ミガキ、ハケ、ナデ	ミガキ	明赤褐(5YR5/6)～橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI20-19.20.133…	内面アバタ状
152	SI20	13	土師器	S字甕	(16.7)	－	[4.4]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-61.68.72…	外面黒変・スス付着
152	SI20	14	土師器	甕	(21.7)	－	[4.3]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-225.一括	
152	SI20	15	土師器	甕	(18.8)	－	[10.0]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	やや良	SI20-31.53.308…	内面スス付着
152	SI20	16	土師器	甕	(19.7)	－	[7.4]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		内:明赤褐(5YR5/6) 外:橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	やや良	SI20-80.81.32…	口唇部ハケ後刻目文、内面摩耗・スス汚れ、外面コゲ付着
153	SI20	17	土師器	甕	(13.7)	－	[6.9]	ハケ後口縁部のみナデ	ハケ		橙(7.5YR7/6)	密	白色粒子	良	SI20-26.208.211	内面スス汚れ
153	SI20	18	土師器	甕	(13.0)	－	[5.6]	荒いハケ後ナデ	ハケ後口縁部のみナデ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-55.56.296…	内面アバタ状、外面スス付着
153	SI20	19	土師器	甕	(12.8)	－	[7.0]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明赤褐(5YR5/6・5/8)	密	白・黒色粒子	不良	SI20-257.263.270	内外面摩耗、外面スス付着
153	SI20	20	土師器	甕	(11.8)	－	[4.2]	ナデ、ミガキ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI20-275	
153	SI20	21	土師器	台付甕	－	高台径9.4	[6.1]	ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	内:赤褐(5YR4/6) 外:にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-78.168.312…	
153	SI20	22	土師器	台付甕	－	高台径8.4	[5.4]	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	赤褐(5YR4/6)	密	白色粒子	良	SI20-266	スス付着
153	SI20	23	土師器	台付甕	－	高台径8.6	[5.6]	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	赤褐(5YR4/8)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-274	
153	SI20	24	土師器	台付甕	－	高台径10.0	[6.1]	ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	赤褐(5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-165	
153	SI20	25	土師器	台付甕	－	高台径9.6	[6.6]	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI20-262.268.269…	内面スス付着
153	SI20	26	土師器	台付甕	－	高台径9.6	[6.7]	ヘラナデ	ハケ後ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)～にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子	良	SI20-14.94.一括	内面一部のみスス付着
153	SI20	27	土師器	台付甕	－	高台径(9.7)	[3.8]	ナデ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI20一括	
153	SI21	1	土師器	高坏	26.2	－	[8.2]	ナデ、ミガキ	ナデ後ミガキ		橙(5YR6/8)	密	白・黒・赤色粒子、砂礫	良	SI21-7	
153	SI21	2	土師器	甕	(11.8)	－	[2.5]	ミガキ	ミガキ		明赤褐(5YR3/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI21-2	スス付着
153	SI21	3	土師器	甕	(22.6)	－	[5.5]	ハケ後ミガキ	ナデ、ハケ後ミガキ		明赤褐(5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI21-6	
153	SI22	1	土師器	甕	(18.0)	－	[3.3]	ハケ後ミガキ	ハケ後ヘラナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	やや密	白色粒子	良	SI22-10	口唇部刻目文、内面黒変、外面一部黒変
153	SI23	1	土師器	広口壺	(9.4)	4.2	8.1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ、ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや密	白色粒子	良	SI23-26.27. SI16一括	
153	SI23	2	土師器	壺	－	5.0	[3.25]	ハケ、ナデ	ハケ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄(2.5Y6/3)	密	白色粒子	良	SI23-25.28	

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
153	SI23	3	土師器	有孔鉢 弥生	12.5	4.8	8.1	細かいハケ	ハケ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密	白色粒子(多)	良	SI23-24	
153	SI24	1	土師器	壺	(10.2)	4.4	(10.1)	ナデ、ミガキ、ヘラナデ、指頭痕	ハケ後ミガキ	ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	密	白色粒子、雲母	良	SI24-68.69.70…	
153	SI24	2	土師器	壺	(15.4)	－	[5.8]	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ		明黄褐(10YR6/6)	やや密	白色粒子	良	SI24-24	
153	SI24	3	土師器	壺	(14.3)	－	[5.3]	ハケ後ナデ	ハケ、ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・赤色粒子	良	SI24-53	折返し口縁
153	SI24	4	土師器	甕	(19.6)	－	[3.6]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	やや密	白色粒子	やや良	SI24-51	口唇部刻目文
154	SI25	1	土師器	壺	12.4	4.8	12.6	ミガキ	ハケ、ナデ、ミガキ	ヘラナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒色粒子	良	SI25-4	外面スス付着
154	SI25	2	土師器	壺	－	－	－	ハケ、ナデ、指頭痕、細かいハケ	ハケ後ミガキ		明赤褐(5YR5/8)	やや粗	白色粒子、小礫(多)	良	SI25-30.32.33…	肩部分細縄文、外面の残りは悪いが赤彩が施されている
154	SI25	3	土師器	壺	－	12.4	[21.5]	ハケ後ナデ、ヘラナデ	ハケ後ナデ、上下ミガキ	ナデ	浅黄橙(7.5YR6/4)	やや粗	白色粒子	良	SI25-83	
154	SI25	4	土師器	S字甕	14.8	高台径 8.0	22.7	ナデ、ハケ、指頭痕	ナデ、ハケ	指頭痕、ヘラナデ	橙(7.5YR7/6)	密	白(やや多)・黒色粒子、金色雲母	良	SI25-6.一括	外面スス付着
154	SI25	5	土師器	S字甕	(7.6)	－	[12.9]	ナデ	ハケ	ナデ	橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤(多)色粒子、雲母(多)	良	SI25-7.8.一括	
155	SI25	6	土師器	S字甕	14.6	－	[20.5]	ナデ、ヘラナデ、指頭痕	ナデ、ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	SI25-76	内外面共にスス付着
155	SI25	7	土師器	S字甕	(16.7)	－	[7.2]	ナデ、ハケ後ナデ	ナデ、ハケ		にぶい黄橙(10YR6/4)	やや粗	白色粒子(多)・雲母	良	SI25-37.一括	
155	SI25	8	土師器	台付甕	(13.2)	高台径 8.2	19.7	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	橙(7.5YR7/6)	密	白(多)・黒色粒子	良	SI25-26.72	外面剥離・整形不明瞭
155	SI25	9	土師器	台付甕	(12.8)	高台径 8.4	17.6	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・赤色粒子	やや不良	SI25-25.77	外面剥離激しく整形不明
155	SI25	10	土師器	甕	(13.4)	－	[10.2]	ナデ後ミガキ	ハケ後ナデ後ミガキ		にぶい橙(7.5YR6/4)～橙(2.5YR6/6)	密	白(多)・黒・赤(少)色粒子	良	SI25-12.13.14…	口縁・内面胴部指頭痕、外面口縁～胴部一部スス付着、外面胴部摩耗
155	SI25	11	土師器	鉢	11.4	4.8	5.6	ヘラナデ	ハケ後ナデ・ミガキ	ヘラナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒色粒子、砂礫	良	SI25-31	内外面スス付着
155	SI25	12	土師器	鉢	10.4	4.9	8.2	ナデ	ハケ後ミガキ、ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白色粒子、砂礫	良	SI25-10	内外面一部スス付着
156	SI27	1	土師器	高坏	23.4	－	[7.1]	ミガキ	ナデ、ハケ、ミガキ		浅黄橙(7.5YR8/4)	密	白・黒・赤色粒子、小礫(多)	良	SI27-24.45.116…	内外面摩滅、整形不明瞭
156	SI27	2	土師器	高坏	－	－	－	ハケ	ハケ、ミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	G1481	脚部孔4ヶ所
156	SI27	3	土師器	器台	8.0	－	[5.5]	ナデ	ナデ、ミガキ		橙(7.5YR7/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母	良	SI27-51.87.91	
156	SI27	4	土師器	器台か	8.0	6.3	2.95	ナデ	ナデ	ハケ、ナデ	橙(7.5YR7/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、雲母	良	SI27-65	ほぼ完形
156	SI27	5	土師器	甕	(16.0)	－	[3.4]	ミガキ、ナデ	ハケ		浅黄橙(7.5YR8/3)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SI27-81	口唇部刻目文
156	SI27	6	土師器	甕	(15.2)	－	[3.9]	ハケ	ナデ、ハケ		橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI27一括.G1480	
156	SI27	7	土師器	甕	(20.2)	－	[7.2]	ハケメ、ナデ	ハケ		橙(7.5YR7/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI27-85.112	
156	SI27	8	土師器	甕	(13.6)	－	[7.8]	ナデ、ハケ	ハケ		橙(5YR6/6～6/8)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI27-76.77.78…	外面スス付着
156	SI27	9	土師器	甕	(9.0)	－	[4.05]	ナデ、指頭痕	ハケ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI27-56	
156	SI28	1	土師器	高坏	(22.8)	－	[4.1]	ミガキ	ナデ、ミガキ		浅黄橙(10YR8/4)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-228.250	
156	SI28	2	土師器	高坏	－	高台径 (10.4)	[3.4]	ナデ	ハケ、全体にミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-68.148.253	孔4ヶ所
156	SI28	3	土師器	器台	－	－	－	ナデ	ミガキ		浅黄橙(10YR8/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI28-37	孔3ヶ所
156	SI28	4	土師器	器台	－	－	－	ハケ、ナデ	ミガキ		橙(7.5YR7/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫、雲母	良	SI28-61	
156	SI28	5	土師器	壺	(22.6)	－	[1.2]	ミガキ	ミガキ		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白(多)・黒色粒子、小礫	良	SI28-207	内外面赤彩、櫛描孤帯文
156	SI28	6	土師器	壺(加飾壺)	－	－	－	ハケ	ハケ		橙(7.5YR7/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	SI28-116	胴部刻目文、隆帯、大郭式
156	SI28	7	土師器	甕	(21.4)	－	[5.9]	ハケ、ナデ	ナデ、ハケ		橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI28-84	
156	SI28	8	土師器	甕	(12.7)	－	[6.3]	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ		にぶい黄橙(10YR7/3)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-227	器面荒れている
156	SI28	9	土師器	台付甕	－	高台径 (9.2)	[7.4]	ハケ	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	明赤褐(5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-135	
156	SI28	10	土師器	鉢	9.9	5.9	4.2	ミガキ	ミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-154.155.156	
156	SI28	11	土師器	鉢	(12.2)	5.0	5.3	ハケ後ミガキ	ハケ、ミガキ、ナデ	ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子	良	SI28-96.97.98…	所々黒変、雑なつくり
156	SI28	12	土師器	鉢	(12.2)	－	[4.3]	ハケ、ミガキ	ミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI28-142	
156	SI28	13	土師器	鉢	－	4.5	[3.1]	ハケ	ヘラナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-259	

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
156	SI28	14	土師器	鉢	―	3.6	[3.1]	ナデ	ミガキ	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SI28-152	
156	SI28	15	土師器	鉢	(18.9)	―	[3.6]	ナデ	籠目圧痕		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白色粒子、小礫	良	SI28-87	籠目土器
156	SI28	16	土師器	鉢	(14.9)	―	[3.7]	工具によるナデ	籠目圧痕		にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白・黒色粒子、礫(2～3mm)	良	SI28-26	籠目土器
156	SI28	17	土師器	鉢	―	―	―	ナデ	籠目圧痕		橙(7.5YR7/6)	緻密	白・黒色粒子	良	SI28-48	籠目土器
156	SI28	18	土師器	鉢	―	―	―	ナデ	籠目圧痕		にぶい橙(7.5YR7/4)	緻密	白色粒子	良	SI28一括	籠目土器
156	SI28	19	土師器	鉢	―	―	―	ナデ	籠目圧痕		にぶい橙(7.5YR7/4)	緻密	白色粒子	良	X140Y110	籠目土器
160	SI30	1	土師器	高坏	(21.8)	―	[5.7]	ミガキ	ミガキ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-74.75.104	内面摩耗、外面一部黒変
160	SI30	2	土師器	高坏	―	高台径(12.8)	[4.2]	ナデ	ハケ後ミガキ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI30-84	
160	SI30	3	土師器	高坏	―	高台径(14.8)	[5.1]	ハケ後ナデ	ハケ後ミガキ		橙(5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-13	
160	SI30	4	土師器	高坏	―	高台径(20.0)	[1.0]	ナデ	ナデ		橙(7.5YR7/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI30-157.162.164…	
160	SI30	5	土師器	高坏	―	高台径(20.4)	[1.5]	ミガキ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI30-76	
160	SI30	6	土師器	広口壺	(11.0)	6.0	14.0	ハケ後ナデ、ミガキ	ハケ後ミガキ	ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-40.90.108…	外面黒変
160	SI30	7	土師器	小型壺	(9.6)	―	[3.5]	ハケ、指頭痕	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白色粒子	良	SI30-129	外面黒変
160	SI30	8	土師器	小型壺	(10.6)	―	[2.7]	ハケ	ハケ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子・雲母	良	G989	
160	SI30	9	土師器	壺	(11.9)	―	[4.5]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子・雲母	良	SI30-57.59	折返し口縁
160	SI30	10	土師器	小型壺	―	―	―	ナデ	ハケ後ミガキ		橙(7.5YR6/6)	密	白色粒子、雲母	良	G568	外面赤変、内面に輪積み痕を明瞭に残す
160	SI30	11	土師器	壺	―	―	―	ハケ後ナデ	ハケ		褐(7.5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	G582	
160	SI30	12	土師器	壺	―	9.1	[2.5]	ハケ	ナデ、指頭痕	ナデ	橙(5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	G987	
160	SI30	13	土師器	甕	(18.8)	―	[4.0]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄褐(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SI30-78	口唇部刻目文
160	SI30	14	土師器	甕	(16.6)	―	[3.2]	ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	SI30-83.85.154	
160	SI30	15	土師器	甕	(21.0)	―	[4.8]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-136.143	外面黒変
160	SI30	16	土師器	甕	(18.2)	―	[3.6]	ナデ	ナデ、ハケ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	G921	剥離部分にハケ有り
160	SI30	17	土師器	甕	(16.8)	―	[4.3]	ハケ後ミガキ	ハケ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-103	
160	SI30	18	土師器	甕	(19.5)	―	[5.9]	ハケ後ナデ、指頭痕	ハケ後ナデ		赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子	良	SI30-88	
160	SI30	19	土師器	台付甕	―	高台径(8.2)	[3.7]	ハケ後ナデ	ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	G979	
160	SI30	20	土師器	台付甕	―	高台径(8.4)	[5.1]	ハケ	ハケ		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SI30-135	
160	SI30	21	土師器	把手	長さ[3.8]	幅[2.7]	厚さ1.6				明赤褐(2.5YR5/8)	密	白・黒色粒子	良	SI30-113	
161	SI32	1	土師器	高坏	(20.6)	―	[3.1]	ハケ、ミガキ	ハケ、ミガキ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白色粒子	良	SI19-19.SI32-6.SI32一括	
161	SI32	2	土師器	高坏	―	―	―	ミガキ	ハケ、ミガキ、ナデ		明黄褐(10YR6/6)	やや密	白色粒子	良	SI19-21	
161	SI32	3	土師器	壺	(20.4)	―	[5.4]	ハケ後ミガキ	ハケ後ナデ		にぶい橙(7.5YR6/4)	密	白色粒子	良	SI32-8	口唇部凸帯剥落
161	SI32	4	土師器	台付甕	―	高台径9.4	[6.7]	ハケ	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	明赤褐(5YR5/6)	やや密	白色粒子	良	SI32-17.18.19…	
161	SI32	5	土師器	台付甕	―	高台径8.5	[4.4]	ハケ	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	橙(5YR6/6)	やや密	白色粒子	良	SI32-27	
161	SI32	6	土師器	台付甕	―	―	―	ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR6/4)	やや密	白色粒子、雲母	良	SI19-10.12.一括…	
161	SI32	7	土師器	鉢	―	(3.8)	[2.6]	ミガキ	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや密	白色粒子	良	G1280	
162	SB1	1	土師器	坏	(15.6)	―	[3.05]	ミガキ	ミガキ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	X130Y50	箱形坏
162	SB1	2	土師器	壺	―	2.0	[6.6]	ハケ、ナデ	ミガキ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	密	白・黒(多)・赤色粒子、小礫	良	SB1-4	外面ほとんど摩滅
162	SB1	3	土師器	甕	(15.8)	―	[4.9]	ハケ、ナデ	ハケ		橙(7.5YR7/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SB1-11.14.22…	
162	SB1	4	土師器	甕	(14.4)	―	[4.3]	ハケ	ハケ		浅黄橙(10YR8/4)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SB1-31	
162	SB1	5	土師器	甕	(19.8)	―	[3.9]	ハケ	ハケ後ナデ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	G38	
162	SB1	6	土師器	甕	(13.7)	―	[4.9]	ハケ後ミガキ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	SB1-24	外面黒変
162	SB1	7	土師器	台付甕	―	高台径(9.4)	[4.5]		ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SB1-29	
162	SB2	1	土師器	高坏	(23.7)	―	[6.3]	ハケ後ミガキ	ミガキ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫、雲母	良	SB2-4	
162	SB3	1	土師器	甕	―	―	―	ナデ	ナデ、ハケ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SB3-1	外面コゲ付着
163	SK17	1	土師器	高坏	(14.2)	―	[4.7]	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SK17-31.41	
163	SK17	2	土師器	高坏	―	高台径(19.6)	[4.0]		ミガキ	ナデ、ミガキ	橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子	良	SK17-3.17.51…	内外面黒変

法量（　）は復元実測値、［　］は現存値である。

図版番号	出土位置	No.	種類	器種 器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部						
163	SK17	3	土師器	蓋	蓋径(19.4)	つまみ部径4.4	8.3	ナデ、ハケ	ハケ後ナデ、ヘラ削り		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK17-55.56.57	
163	SK17	4	土師器	甕	(18.0)	－	［3.3］	ナデ	ハケ後ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SK17-61.62.SK18-9	
163	SK17	5	土師器	台付甕	－	高台径(7.6)	［6.0］	ハケ	ハケ、ナデ	指頭痕、ナデ	赤褐(5YR4/6)	密	白・黒色粒子	良	SK17-46.63.SK18-5…	
163	SK17	6	土師器	台付甕	－	高台径(10.2)	［5.9］	ハケ	ハケ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK17-60	内外面摩耗
163	SK17	7	土師器	台付甕	－	高台径8.8	［5.5］		ハケ	ナデ、指頭痕	褐(7.5YR4/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK17-54.G514.G528	
163	SK17	8	土師器	鉢	(15.4)	－	［3.5］	ミガキ	ハケ後ミガキ		にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SK17-9	
163	SK18	1	土師器	高坏	－	－	－	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子	良	SK18-27	
163	SK18	2	土師器	壺	－	(7.4)	［6.8］	ナデ	ハケ後ミガキ、ヘラナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SK18-58.61	
163	SK18	3	土師器	壺	－	－	－	ナデ、指頭痕	ハケ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒色粒子、小礫	良	SK18-6.10.11	
163	SK18	4	土師器	甕	(9.8)	－	［8.6］	ハケ後ナデ	ハケ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	SK18-98	内面輪積み痕
163	SK18	5	土師器	甕	(19.6)	－	［7.8］	ハケ、ナデ	ハケ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、小礫	良	SK18-25.32.122	外面黒変
163	SK18	6	土師器	台付甕	－	－	－	ナデ	ヘラナデ、ハケ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	SK18-34.44	
163	SK18	7	土師器	台付甕	－	高台径9.0	［5.5］	ナデ	ハケ後ミガキ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	SK18-68.77	
163	SK18	8	土師器	鉢	13.6	3.5	5.3	ロクロナデ	ナデ、ミガキか	ナデ	橙(5YR6/8)	密	白・黒・赤色粒子	良	SK18-14.20.22…	
163	SK18	9	土師器	鉢	(9.8)	(4.6)	5.7	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子	良	SK18-55.60	
163	SK18	10	土師器	鉢か	(14.6)	－	［5.1］	ミガキ	ハケ後ミガキ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SK18-8	
163	SK18	11	土師器	鉢	－	5.8	［5.2］	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	SK18-16.18	
163	SK20	1	土師器	甕	(10.0)	－	［2.1］	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白(多)・黒色粒子、白色小礫	良	SK20-1	
164	SK24	1	土師器	S字甕	(14.0)	－	［7.0］	ナデ、指ナデ	ハケ		にぶい橙(7.5YR7/4)	やや密	白(多)・黒色粒子、金色雲母	良	SK24-14.15.22…	外面スス付着
164	SK24	2	土師器	S字甕	(15.0)	－	［1.8］	ナデ	ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白(多)・黒色粒子、金色雲母	良	SK24-1	
164	SK24	3	土師器	台付甕	－	－	－	ハケ後ナデ	ハケ		内:橙(5YR6/8)　外:にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白・黒色粒子、金色雲母(少)	良	SK24-3.4.5…	外面スス付着
164	SK24	4	土師器	S字甕	－	高台径(8.0)	［11.8］	ナデ、ヘラナデ	ハケ、ヘラナデ、ナデ	ヘラナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	やや粗	白(多)・黒色粒子、金色雲母	良	SK24-17.18.19…	内面スス付着、SK24-1と同一か
164	SK24	5	土師器	S字甕		高台径(9.0)	［4.9］		ハケ後ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK24-24.SI26一括	
164	SK24	6	土師器	S字甕	－	高台径6.4	［5.1］		ハケ	指ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒色粒子、金色雲母	良	SK24-35	台部スス付着
165	Pit1	1	土師器	壺	(13.8)	－	［1.9］	ハケ、ナデ	ナデ		浅黄橙(10YR8/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	1PT一括	
165	SX2	1	土師器	壺	－	9.3	［4.4］	ハケ後ナデ	ハケ後ミガキ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白(多)・黒・赤色粒子、小礫	良	SX2-3.G1141.G1142	外面底部赤彩
166	遺構外	12	土師器	高坏	6.7	高台径7.5	6.8	ミガキ	ハケ後ヘラ削り・ナデ	ハケ後ナデ	明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	G2180	内面黒色、孔4ヶ所、孔(孔径縦・横0.7cm)3ヶ所
166	遺構外	13	土師器	高坏	(20.4)	－	［4.9］	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		褐(7.5YR4/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	SI18-11.12.20…	内外面黒変
166	遺構外	14	土師器	小型壺	(6.0)	－	［3.0］	ミガキ	ミガキ		にぶい赤褐(5YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	G918	内外面赤彩
166	遺構外	15	土師器	広口壺	(8.8)	－	［5.2］	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	G146	内外面赤彩
166	遺構外	16	土師器	壺	－	3.0	［2.1］	ハケ、ナデ	ナデ	ヘラナデ	にぶい黄橙(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子	良	一括	
166	遺構外	17	土師器	壺	(21.4)	－	［5.7］	ハケ後ミガキ	ハケ後ナデ		橙(5YR6/8)	密	白・黒色粒子	良	G351	棒状貼付文、内面スス付着か
166	遺構外	18	土師器	甕	(16.0)	－	［5.0］	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		内:橙(7.5YR6/6)　外:黒	密	白・黒・赤色粒子	良	G1608.G1667	外面黒色
166	遺構外	19	土師器	甕	(11.8)	－	［4.2］	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	G1416	内面黒変、外面コゲ付着か
166	遺構外	20	土師器	甕	－	－	－	ハケ、ナデ、圧痕	ハケ後ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子	良	G2519.G2520.G2521…	内面スス付着
166	遺構外	21	土師器	S字甕	－	高台径8.1	［5.4］	ヘラナデ	ハケ後ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G17.G174	
166	遺構外	22	土師器	台付甕	－	－	－	ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子	良	G529	外面スス付着
166	遺構外	23	土師器	手焙土器	－	－	－	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		明赤褐(5YR5/6)～黒褐(10YR3/2)	密	白・黒・赤色粒子	良	G2242	胴部刻目文
166	遺構外	24	須恵器	蓋	蓋径(14.0)	－	［1.3］	ナデ	回転ヘラ削り		褐灰(10YR4/1)	密	白色粒子	良	G一括	

表16　B区出土土偶・土製品観察表

法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	No.	出土位置	種類	法量(cm・g)				色調	胎土	含有物	焼成	注記内容	備考
				長	幅	厚	重量						
167	1	SI6	土偶	21.4	12.8	4.0	442.84	黒褐(2.5Y3/1)～明褐(7.5YR5/6)		雲母、長石、角閃石		SI6-191.192.SI29-302…	頭部(幅4.3・厚3.5)、胸・腕部(幅12.8・厚3.3)、胴部(幅3.4・厚2.3)、臀部(幅7.3・厚3.7)、脚部(幅2.9・厚3.6)
167	2	SI6	土偶	[5.0]	3.6	2.8	40.38	明褐(7.5YR5/6)		雲母、長石、角閃石		SI6-409	頭部片
167	3	SI16	土偶	[7.0]	5.4	3.4	92.25	暗褐(7.5YR3/4)		雲母、長石(多)、石英		SI16-316	胴上半と右足欠失
168	4	SI16	土偶	[3.5]	3.1	6.0	52.94	明褐(7.5YR5/6)		赤色粒子、雲母、長石、砂礫		SI16-318	左脚部
168	5	遺構外	土偶	[7.1]	4.7	3.3	83.82	明黄褐(10YR6/6)		褐色粒、長石		SMT一括	顔面無文、腕・胴下半欠失、後頭部・耳たぶに孔
168	6	SI10	土鈴	[1.1]	[1.55]	0.25	1.28	にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白色粒子	良	SI10-73	内面:ナデ、外面:削り
168	7	SI31	土鈴	3.1	3.4	5.5	10.34	明黄褐(10YR6/6)		白・黒色粒子		SI31-103	
168	8	SI9	手捏土器	口径 －	底径 －	器高 [3.3]	－	明赤褐(5YR5/6)	密	白(少)・赤(少)色粒子	良	SI9-21	内面:ヘラナデ・指頭痕、外面:ハケ、底部:剥離
168	9	SI10	手捏土器	口径 (5.2)	底径 －	器高 [2.2]	－	にぶい橙(7.5YR6/4)	緻密	白色粒子	良	SI10-47	内面:指頭痕・一部剥離、外面:指頭痕・ハケ
168	10	SI29	手捏土器	口径 －	底径 (4.1)	器高 [2.9]	－	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子、金色雲母	良	SI29-167	内面:指頭痕、外面:ナデ
168	11	SI14	縄文 重り	3.9	2.1	1.0	10.00	にぶい褐(7.5YR5/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	G2585	内面:ナデ、外面:沈線
168	12	SI6	土製円盤	1.95	1.95	0.9	4.27	灰黄褐(10YR4/2)		白・黒・赤色粒子		SI6-346	
168	13	SI6	土製円盤	3.0	2.8	1.15	12.26	にぶい黄橙(10YR7/4)		白・黒色粒子		SI6-482	
168	14	SI6	土製円盤	3.1	3.0	1.2	12.49	明黄褐(10YR6/6)		白・黒色粒子		SI6-342	
168	15	SI6	土製円盤	4.0	3.7	1.1	20.00	明黄褐(10YR6/6)		白・黒・赤色粒子		SI6-353	
168	16	遺構外	土製円盤	3.0	2.4	1.0	9.46	内:にぶい黄褐(10YR5/4)　外:赤褐(5YR4/6)		白・黒色粒子		X140Y140	古墳前期か
168	17	遺構外	土製円盤	2.8	2.7	0.6	5.69	にぶい褐(7.5YR5/4)		白・黒・赤色粒子、雲母		G一括	古墳前期か
168	18	遺構外	土製円盤	[3.3]	3.0	1.05	11.60	にぶい黄橙(10YR5/4)		白・黒・赤色粒子		G2081	古墳前期か
168	19	遺構外	土製円盤	3.2	[2.9]	0.75	8.33	明赤褐(5YR5/6)		白・黒・赤色粒子		G一括	古墳前期か、ミガキ
168	20	遺構外	土製円盤	4.0	3.5	1.45	20.65	内:黒褐(7.5YR3/1)　外:赤褐(5YR4/6)		白・黒色粒子、雲母		X110Y70	古墳前期か
168	21	SI17	不明品	1.8	1.1	1.1	1.21	橙(7.5YR7/6)	粗	黒色砂粒子	やや良	SI17 炉	
168	22	SI29	匙か	[3.2]	2.3	4.0	5.50	にぶい黄(2.5Y6/4)	密	白・黒色粒子、金色雲母	良	SI29-3	
168	23	SK17	分銅形土製品	4.2	2.4	3.0	37.35	明赤褐(5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	SK17-83	外面:ナデ
168	24	遺構外	紡錘車	[2.15]	[4.8]	1.3	13.24	橙(7.5YR6/6)		白・黒・赤色粒子		G1973	
169	25	SI29	粘土塊	12.9	8.9	7.3	632.00	にぶい黄(2.5Y6/4)		雲母、長石、石等		SI29-304	
169	26	SI29	粘土塊	20.8	16.8	6.0	2200.00	にぶい黄(2.5Y6/4)～にぶい黄褐(10YR4/3)		雲母、長石、石等		SI29-308	網代痕
170	27	SI5	瓦塔	[16.6]	[14.9]	[7.4]	705.30	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		赤色粒子、雲母		SI5-66.67.71…	表面白色土塗布
171	28	SI3	瓦塔	[12.0]	[9.2]	[4.2]	271.51	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		SI3-59	表面白色土塗布
171	29	SI5	瓦塔	[2.8]	[3.6]	[1.2]	8.24	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		SI5-85	表面白色土塗布
171	30	SB1	瓦塔	[5.5]	[4.0]	[1.5]	23.58	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		SB1-39	表面白色土塗布
171	31	SB1	瓦塔	[4.4]	[1.9]	[1.9]	13.03	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		SB1 PT8一括	表面白色土塗布
171	32	遺構外	瓦塔	[7.5]	[5.0]	[1.5]	39.24	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		SB1-47	表面白色土塗布
171	33	遺構外	瓦塔	[2.9]	[1.2]	[1.2]	3.14	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		G1625	表面白色土塗布
171	34	遺構外	瓦塔	[3.9]	[1.7]	[1.25]	8.90	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		G一括	表面白色土塗布
171	35	遺構外	瓦塔	[6.3]	[1.1]	[0.9]	6.22	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		G1624	表面白色土塗布
171	36	遺構外	瓦塔	[6.9]	[3.5]	[2.5]	26.49	橙(7.5YR7/6)・灰黄(2.5Y7/2)		白・黒・赤色粒子、雲母		G2036	表面白色土塗布
171	37	SI2	瓦塔	[4.9]	[2.5]	0.9	7.58	暗灰黄(2.5Y5/2)		白・赤色粒子、雲母		SI2-20	須恵質
171	38	遺構外	瓦塔	[3.7]	[2.8]	1.4	14.85	内:にぶい黄橙(10YR7/4)　外:灰黄(2.5Y6/2)		白・赤色粒子、雲母		G688	須恵質
171	39	遺構外	瓦塔	[2.6]	[2.5]	1.4	8.40	暗灰黄(2.5Y5/2)		白・赤色粒子、雲母		G130-90	須恵質
171	40	遺構外	瓦塔	[3.6]	[3.0]	0.8	9.31	暗灰黄(2.5Y5/2)		白色粒子、雲母		G2034	須恵質
171	41	SI29	須恵器 不明製品	口径 －	底径 (6.0)	器高 [3.4]	－	にぶい褐(7.5YR5/3)	密	白色粒子	良	G573	内面:ロクロナデ、外面:ロクロナデ、底部:ナデ、瓦塔の一部(露盤)か 図は上下逆の可能性もあり
171	42	遺構外	瓦塔	[11.3]	[3.0]	1.8	86.11	内:にぶい黄橙(10YR7/4)　外:暗灰黄(2.5Y5/2)		白・赤色粒子、雲母		G816	須恵質

表17　B区出土石器・石製品観察表

法量[　]は現存値である。

図版番号	No.	出土位置	種　別	材　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	色　調	取上No.	備　考
172	1	SI6	打製石斧	砂岩	[8.90]	3.70	1.50	46.93	灰	SI6-292	
172	2	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	[9.70]	5.00	1.70	115.52	黄褐	SI6-239	
172	3	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	[10.20]	3.80	1.70	84.32	にぶい黄	SI6-293	
172	4	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	9.90	3.80	1.40	70.49	灰	SI6-372	全体に風化
172	5	SI6	打製石斧	粘板岩	11.00	4.80	0.90	63.22	灰	SI6-805	
172	6	SI6	打製石斧	粘板岩	[11.30]	6.40	1.30	114.64	灰	SI6-806	
172	7	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	9.10	4.35	1.85	89.32	にぶい黄	SI6-807	
172	8	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	[11.50]	7.10	1.40	119.79	灰ｵﾘｰﾌﾞ	SI6-808	
172	9	SI6	打製石斧	ホルンフェルス	11.10	4.80	1.80	107.62	浅黄	SI6-809	
172	10	SI14	打製石斧	砂質頁岩	9.60	4.80	1.80	111.50	灰	SI14-301	
172	11	SI14	打製石斧	頁岩	8.80	5.70	1.15	65.95	灰白	SI14-302	横刃形石器か
172	12	SI14	打製石斧	ホルンフェルス	[11.30]	4.50	1.45	99.95	灰	SI14-222	
172	13	SI14	打製石斧	ホルンフェルス	[8.20]	4.50	1.60	85.40	灰	G2575	
172	14	SI14	打製石斧か	粘板岩	[7.90]	[6.60]	2.00	85.94	灰	SI14-410	
172	15	SI25	打製石斧	ホルンフェルス	10.30	4.80	0.90	70.51	灰	SI25-65	全体に風化、もろい
172	16	SI27	打製石斧	ホルンフェルス	7.50	4.30	0.90	30.47	灰	G1482	
172	17	SI28	打製石斧	ホルンフェルス	[7.50]	4.25	1.00	45.60	灰	SI28-197	
172	18	SI28	打製石斧	砂岩	[8.30]	6.05	0.90	59.63	灰	SI28-196	
172	19	SI29	打製石斧	ホルンフェルス	[10.00]	4.15	1.40	80.06	灰ｵﾘｰﾌﾞ	SI29-286	
172	20	遺構外	打製石斧	粘板岩	[7.70]	4.70	0.95	38.49	灰	G1740	X110Y110
172	21	遺構外	打製石斧	砂岩	8.30	4.15	1.30	53.08	灰	G173	完存(裏面に礫の表皮面あり)、一部敲打痕あり、X140Y80
172	22	遺構外	打製石斧	粘板岩	7.90	3.20	0.95	33.07	灰	G1474	横刃形石器か、X120Y140
172	23	遺構外	打製石斧	砂岩	[8.45]	5.00	2.20	124.86	灰	G690	X120Y60
172	24	遺構外	打製石斧	ホルンフェルス	[9.70]	4.50	1.80	98.76	にぶい黄	G2508	X120Y100
172	25	遺構外	打製石斧	砂質粘板岩	9.20	4.60	2.05	129.71	暗灰	G59	X90Y110
173	26	SI29	石匙か	頁岩	6.85	6.35	1.10	42.89	灰ｵﾘｰﾌﾞ	SI29-289	一部使用痕あり
173	27	遺構外	石匙	頁岩	4.20	5.80	0.80	15.90	灰	G2211	X130Y70
173	28	遺構外	石匙	頁岩	4.35	5.60	1.00	20.70	灰白	G1174	X140Y160
173	29	SI14	横刃形石器	粘板岩	4.50	7.40	0.80	29.27	灰	SI14-221	
173	30	遺構外	横刃形石器	粘板岩	4.80	8.80	1.00	45.87	灰	G1589	X140Y170
173	31	SI6	磨製石斧	緑色凝灰岩類	12.00	4.95	2.55	230.00	にぶい黄	SI6-817	
173	32	SI26	磨製石斧	緑色凝灰岩類	[7.10]	4.30	1.10	59.83	灰白	SI26-1	
173	33	SI31	磨製石斧	緑色凝灰岩類	[7.45]	5.05	3.10	144.33	灰ｵﾘｰﾌﾞ	SI31-92	
173	34	遺構外	磨製石斧	砂岩	[3.20]	4.80	2.00	38.57	灰ｵﾘｰﾌﾞ	G2048	X130Y70
173	35	遺構外	磨製石斧	蛇文岩類	[3.10]	[4.10]	1.50	27.32	灰白	G98	X130Y130
173	36	SI26	磨製石斧片か	緑色凝灰岩類	4.80	3.20	1.30	23.72	ｵﾘｰﾌﾞ灰	SI26-42	再利用か
173	37	SI26	磨製石斧	蛇文岩類	[4.30]	1.30	1.05	10.15	黄褐、明ｵﾘｰﾌﾞ灰	SI26-3	
173	38	SI26	磨製石斧	緑色凝灰岩類	[2.60]	2.40	0.90	8.75	明ｵﾘｰﾌﾞ灰	SI26-2	
173	39	SI6	凹石	安山岩	12.20	7.00	4.45	550.00	黄灰	SI6-804	一部磨り面あり
173	40	SI6	凹石	花崗岩類	[10.45]	7.70	4.70	555.00	浅黄	SI6-455	表面・裏面に磨り面あり
173	41	SI14	凹石	安山岩	11.60	7.20	6.00	760.00	灰黄	SI14-393	
174	42	SI14	凹石	閃緑岩	9.30	7.35	4.10	395.00	灰白	SI14-394	
174	43	SI14	凹石	安山岩	[6.40]	[6.65]	4.60	210.00	黄褐	SI14-310	
174	44	SI14	凹石	安山岩	11.30	8.75	4.20	635.00	灰白	SI14-300	
174	45	SI16	凹石	安山岩	[9.40]	5.90	5.50	470.00	灰黄	SI16-206	一部磨り面あり、一部被熱
174	46	SI25	凹石	安山岩	10.30	8.60	3.80	495.71	灰	SI25-88	
174	47	SI25	凹石	安山岩	9.30	7.50	4.90	441.34	灰	SI25-69	裏面は磨り面、中央にごく浅いたたきによるくぼみあり
174	48	SI19	凹石	安山岩	10.80	8.60	5.00	620.00	褐灰	SI19-65	一部敲打痕あり

法量[　]は現存値である。

図版番号	No.	出土位置	種　別	材　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	色　調	取上No.	備　考
174	49	SI29	凹石	安山岩	8.50	7.70	3.95	360.00	灰黄	SI29-291	2面の凹み面あり
174	50	SI31	凹石	花崗閃緑岩	[8.70]	[6.30]	5.20	385.00	灰白	SI31-93	
174	51	遺構外	凹石	安山岩	10.3	7.5	4.7	525	灰白	G1279	X110Y140
174	52	遺構外	凹石	ホルンフェルス(砂岩源)	8.00	5.10	3.75	315.00	灰ｵﾘｰﾌﾞ	G976	全体的に磨り面あり、X130Y90
175	53	SI14	石錘	ホルンフェルス	[5.00]	3.60	1.00	26.43	灰黄褐	SI14-306	
175	54	SI25	磨石	安山岩	[8.50]	[6.80]	5.00	334.76	灰白	SI25-75	
175	55	SI27	磨石	安山岩	9.60	8.50	4.50	525.00	にぶい黄	SI27-164	
175	56	SI29	磨石	花崗岩類	14.10	6.70	4.40	695.00	灰黄	SI29-300	被熱、赤変、黒変(スス)
175	57	SI29	磨石	安山岩	9.60	9.40	4.50	650.00	灰黄	SI29-318	表面に磨り面あり
175	58	SI31	磨石	安山岩	15.00	[8.20]	6.50	990.00	にぶい黄	SI31-100.101	
175	59	遺構外	磨石	玄武岩	[11.20]	9.40	7.80	910.00	黄灰	G1045	X130Y110
175	60	SI31	磨石	安山岩	[8.70]	8.30	6.00	675.00	灰白	SI31-102	表面・裏面に磨り面あり
175	61	遺構外	磨石	玄武岩	10.00	6.20	3.95	325.00	灰ｵﾘｰﾌﾞ	G1372	表面に磨り面あり、X120Y140
176	62	SI5	石鏃	チャート	2.50	1.70	0.50	1.34	灰白	SI5-25	
176	63	SI6	石鏃	黒曜石	[1.15]	[1.00]	0.25	0.23	黒透	SI6一括	
176	64	SI14	石鏃	頁岩	2.80	2.05	0.60	2.16	黒褐	G2587	
176	65	SI25	石鏃	黒曜石	[1.90]	1.90	0.30	0.96	黒透	SI25-96	
176	66	SI29	石鏃	黒曜石	2.20	1.55	0.50	1.08	黒透	SI29-282	
176	67	SI31	石鏃	黒曜石	[2.20]	[1.40]	0.30	0.66	黒透	SI31-54	
176	68	SI31	石鏃	黒曜石	[1.80]	[1.30]	0.30	0.42	黒透	G674	
176	69	遺構外	石鏃	黒曜石	2.80	1.85	0.40	1.27	黒透	G611	X150Y70
176	70	遺構外	石鏃	黒曜石	2.50	1.45	0.50	0.94	黒透	G1729	X110Y80
176	71	遺構外	石鏃	黒曜石	1.65	1.30	0.30	0.47	黒透	前B一括	
176	72	遺構外	石錐	黒曜石	[2.55]	1.10	0.65	1.53	黒透	G1297	
176	73	SI19	尖頭器	チャート	[6.45]	2.90	1.00	21.64	灰色	G1604	
176	74	遺構外	尖頭器	頁岩	5.15	3.05	1.20	15.28	灰白色	G471	X120Y100
176	75	遺構外	尖頭器	頁岩	6.00	3.60	1.00	19.37	灰	G2056	X130Y70
177	76	遺構外	尖頭器	頁岩	[4.80]	3.40	1.00	13.77	灰白	G857	X120Y90
177	77	遺構外	ユーストフレイク	黒曜石	5.95	2.90	0.60	7.66	黒透	G977	X130Y90
177	78	遺構外	ユーストフレイク	黒曜石	4.15	2.40	0.60	5.79	黒	G2316	X170Y90
177	79	遺構外	ユーストフレイク	黒曜石	3.70	1.85	0.95	5.59	黒	G2012	X120Y50
177	80	遺構外	ユーストフレイク	黒曜石	3.20	1.40	0.50	1.62	黒透	G450	X120Y90
177	81	遺構外	原石	黒曜石	4.80	3.15	2.20	36.22	黒	G2328	X160Y100
177	82	遺構外	原石	黒曜石	5.30	3.75	3.40	81.31	黒	G2020	正面を除き風化(被熱)、X120Y40
177	83	遺構外	原石	黒曜石	7.40	2.70	1.50	23.71	黒透	前B表採一括	
178	84	SI29	石柱	緑色変質ﾃﾞｲｻｲﾄ	38.80	8.10	6.50	2215.00	浅黄	SI29-288	
178	85	SI6	台石	緑色変質安山岩	30.20	25.80	16.10	16400.00	浅黄	SI6-991	砥石か、表面一部赤変
178	86	SI20	台石	花崗岩類	29.20	29.10	10.90	11500.00	明黄褐	SI20-477	
179	87	SI29	台石	閃緑岩	35.60	31.10	14.45	27200.00	灰黄	SI29-311.312.320.323	320.311.312(小片)・323(本体)、裏面2面に使用痕、裏面の方が平らで使用顕著、表面側はドーナツ状に薄くスス付着、被熱、表皮剥離(被熱のため)、全体的に薄く赤変
179	88	SI31	石柱	玢岩	31.90	14.30	7.80	4290.00	灰白	SI31-98	立石か
180	89	SI29	自然石	花崗岩類	43.10	34.20	11.20	20200.00	にぶい黄橙	SI29-328	全体的に被熱のため亀裂が入る、表面を中心に剥離する、表面被熱・赤変あり、裏面スス付着
180	90	遺構外	碁石	砂岩	2.00	1.70	0.50	2.49	黒褐色	G309	X110Y150
180	91	遺構外	碁石	砂質粘板岩	2.10	[1.70]	0.55	2.60	黒褐色	G1477	X140Y130
180	92	遺構外	碁石	砂岩	2.10	2.25	0.70	4.36	黒	G一括	X120Y90
180	93	遺構外	碁石か	ホルンフェルス	1.65	1.40	0.35	1.47	黒褐色	G1921	X110Y80

表18　B区出土金属製品観察表

法量（　）は復元実測値、[　]は現存値である。

図版番号	No.	出土位置	種　別	法量			重量(g)	注記内容	備　考
				長さ・径	幅	厚さ			
181	1	SI18	古銭	2.3	2.3	0.1	2.15	SI18-1	
181	2	遺構外	古銭	2.3	2.3	0.1	3.64	G1290	
181	3	遺構外	古銭	2.4	2.4	0.1	3.09	G1595	
181	4	遺構外	古銭	2.3	2.3	0.1	2.54	遺構外-49	材質:銅、寛永通寶(新寛永)
181	5	遺構外	硬貨	2.2	2.2	0.1	3.19	G463	半銭か
181	6	遺構外	硬貨	1.56	1.55	[0.25]	1.30	遺構外-50	一銭　材質:錫・亜鉛、表:菊花紋章、裏:大日本 昭和19年
181	7	遺構外	雁首銭	1.8	2.1	0.25	1.66	遺構外-712	材質:銅
181	8	SI10	火打ち金	2.1	5.95	0.4	15.75	SI10-52	材質:鉄
181	9	遺構外	火打ち金	1.6	5.4	0.9	7.57	G一括	
181	10	遺構外	火打ち金	[1.3]	4.95	0.55	6.92	G1585	材質:鉄
181	11	遺構外	火打ち金	[1.6]	[5.8]	0.65	9.19	遺構外-975	材質:鉄
181	12	SI8	刀子か　片刃	1.3	[4.1]	0.3	3.66	SI8-68	
181	13	遺構外	刀子か	[7.75]	1.7	0.45	8.18	遺構外-1006	材質:鉄
181	14	SI5	角釘	8.9	1.15	0.5	9.91	SI5-56	材質:鉄
181	15	SD1	角釘	9.3	1.2	0.7	9.84	SD1-180	材質:鉄
181	16	SD1	角釘	6.8	1.1	0.6	6.43	SD1-76	
181	17	SD1	角釘	[5.8]	1.1	0.6	6.50	SD1-156	
181	18	SD1	角釘	[5.2]	1.5	0.6	5.95	SD1-179	
181	19	SD1	角釘	[5.1]	1.1	0.5	5.73	SD1-81	
181	20	SD1	角釘	[5.65]	0.7	0.55	5.25	SD1-3	材質:鉄
181	21	SI8	角釘	5.9	0.9	0.6	9.15	SI8-87	
181	22	遺構外	角釘	[6.8]	1.1	0.7	12.90	遺構外-144	材質:鉄
181	23	SI7	煙管(雁首)	2.8	1.1	0.09	4.93	SI7-1	材質:銅
181	24	遺構外	煙管(吸口)	0.9	6.2	0.08	2.87	G1623	材質:銅
181	25	SI27	煙管(吸口部)	[3.05]	0.5～1.1	0.05	1.57	SI27-22	材質:銅
181	26	SI7	環状鉄製品	[1.4]	[2.0]	0.6	1.83	SI7-56	
181	27	SI1	棒状鉄製品	[6.1]	0.6	0.6	3.58	SD1-17	
181	28	SI4	棒状鉄製品	[5.5]	0.35	0.35	1.79	SI4-36	材質:鉄
181	29	SI4	棒状鉄製品	[5.2]	0.25	0.25	1.80	SI4-36	材質:鉄
182	30	SI5	棒状鉄製品	[4.0]	[6.7]	0.6	16.94	SI5-57	
182	31	SB2	板状鉄製品	1.15	[4.0]	0.2	2.67	SB2-9	材質:鉄
182	32	SK18	板状鉄製品	[3.2]	2.25	0.2	3.92	SK18-35	材質:鉄
182	33	遺構外	板状鉄製品	[10.15]	2.3	0.7	64.23	G1978	材質:鉄(穴はレントゲンより)
182	34	SI18	不明銅製品	[1.15]	[3.05]	0.3	4.40	SI18-135	材質:銅か
182	35	遺構外	鉄滓	6.2	5.9	3.5	158.18	G1876	

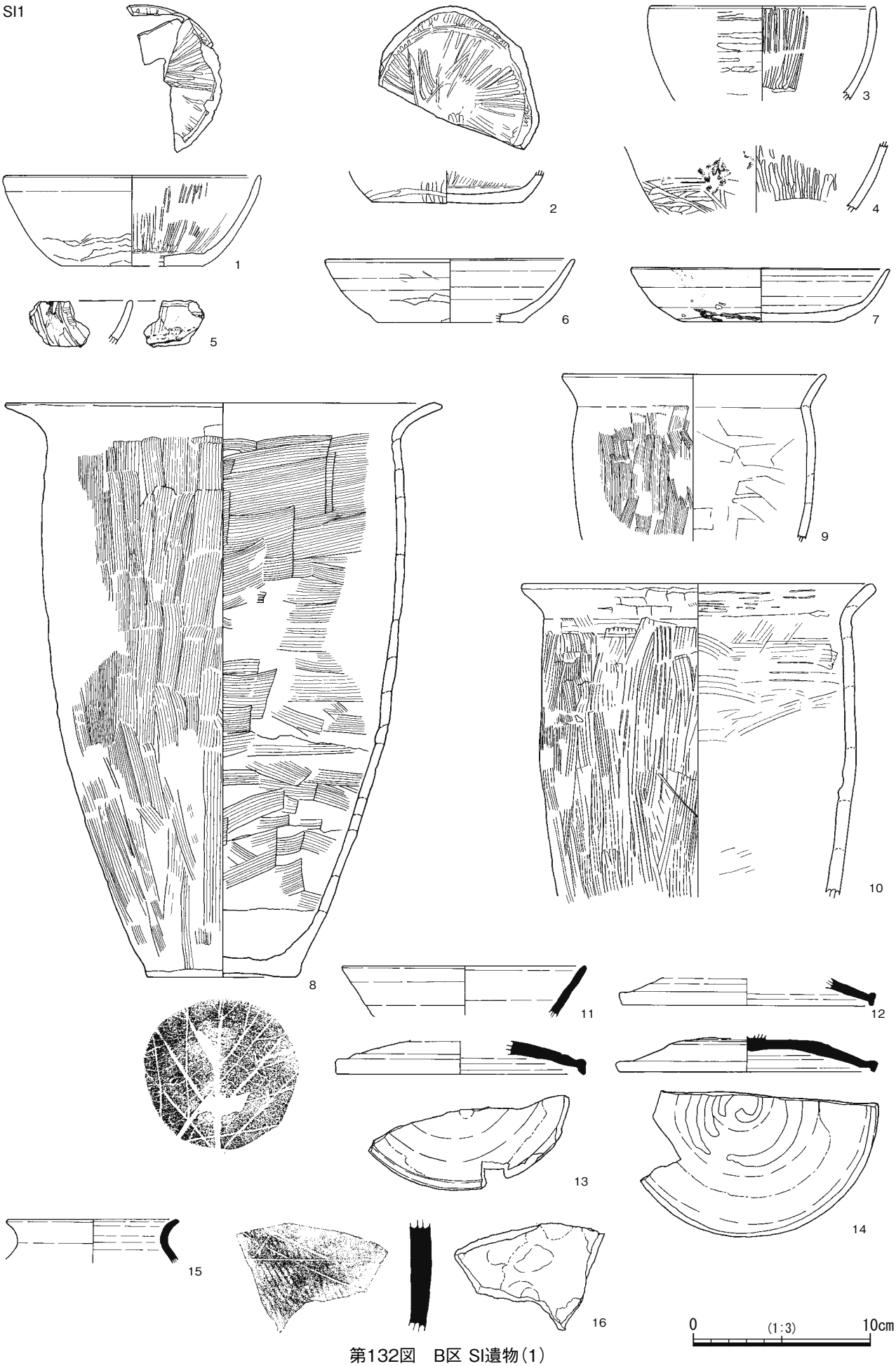
表19　B区出土陶磁器観察表

法量（　）は復元実測値、［　］は現存値である。

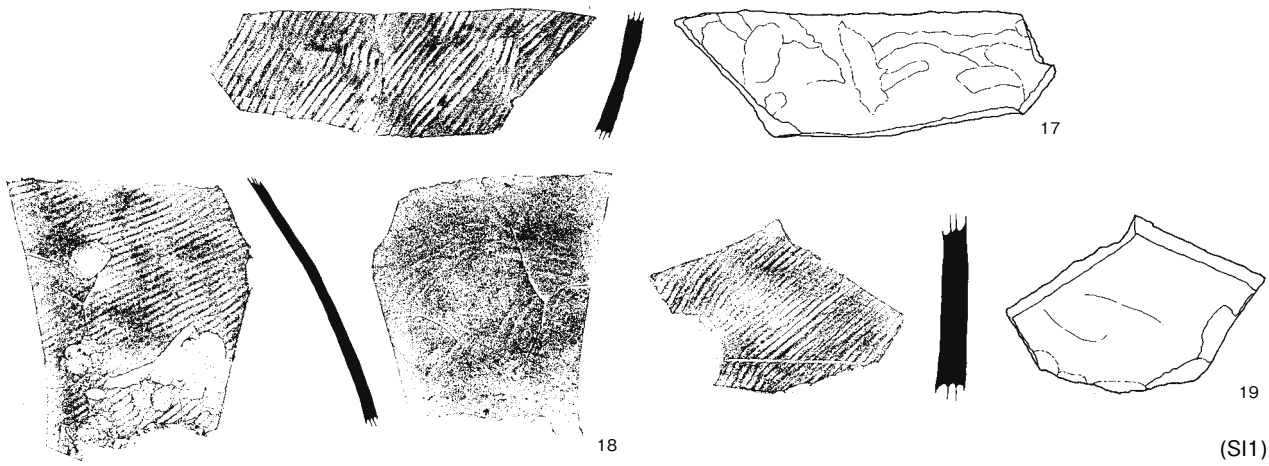
図版番号	No.	出土位置	種類	器種器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	産地	時代	装飾技法	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部									
182	1	遺構外	磁器	碗	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1) 釉-灰ｵﾘｰﾌﾞ(5Y5/2)	密	白・黒色粒子	良	龍泉窯	14C	緑釉	G一括	連弁文
182	2	遺構外	磁器	皿	－	－	－			ロクロナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	密	白・黒色粒子	良	漳州窯	16C末～17C前	染付	G1342	(※青花)X130Y140
182	3	SI31	磁器	猪口	－	(4.0)	[3.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(5Y8/1)	密	赤色粒子	良	肥前	18C後半	染付	SI31一括	
182	4	SI6	磁器	仏花器	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(N8/0) 釉-ｵﾘｰﾌﾞ灰(10Y6/2)	緻密	白・黒色粒子	良	肥前	18C	青磁	SI6一括	
182	5	遺構外	磁器	仏飯器	(6.8)	－	[2.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3)	密	黒色粒子	良	肥前	18C	染付	G382	貫入あり、X120Y120
182	6	遺構外	磁器	碗	(8.0)	－	[4.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1)	密	黒色粒子	良	肥前	18C	染付	X120Y80	焼成不良、X120Y80
182	7	遺構外	磁器	碗	(7.0)	－	[4.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(7.5Y8/1)	密		良	肥前	18C後～19C初	染付	G一括	筒形碗
182	8	遺構外	磁器	碗	(7.0)	－	[4.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(N8/0)	密	黒色・赤色粒子	良	肥前	18C後～19C初	染付	X140Y70	筒形碗、X140Y70
182	9	遺構外	磁器	碗	(7.0)	－	[5.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄(2.5Y7/2) 釉-灰白(10Y7/2)	密		良	肥前	18C後～19C初	青磁染付	G694	筒形碗、貫入あり、X120Y50
182	10	遺構外	磁器	灰落し	(5.0)	－	[4.3]	ロクロナデ			灰白(N8/0)	密	黒色粒子	良	肥前	18C後～19C前	染付	X140Y130	口唇部敲打痕、X140Y130
182	11	遺構外	磁器	香炉	(9.5)	－	[2.7]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y8/2) 釉-緑灰(7.5GY6/1)	緻密	白・黒色粒子	良	肥前	18C後～19C中	青磁	G一括	
182	12	遺構外	磁器	香炉	(11.8)	－	[3.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(7.5Y7/1) 釉-ｵﾘｰﾌﾞ灰(10Y5/2～2.5GY5/1)	緻密	白・黒色粒子	良	肥前	18C後～19C中	青磁	G2112	口唇部敲打痕、X140Y70
182	13	遺構外	磁器	香炉	(10.4)	－	[3.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(N8/0) 釉-明緑灰(10GY7/1)	緻密	白・黒色粒子	良	肥前	18C後～19C中	青磁	G230	X120Y80
182	14	遺構外	磁器	紅皿	(6.8)	－	[1.4]				白(N9.5) 釉-明緑灰(7.5GY8/1)	密		良	肥前	19C前～中	白磁	G一括	型づくり
182	15	SK28	磁器	碗	(7.0)	－	[2.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(N8/0)	密	黒色粒子	良	瀬戸・美濃	19C前～中	染付	SK28一括	
182	16	遺構外	陶器	皿	－	(7.4)	[1.3]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白(5YR8/1) 釉-灰白(5Y8/2)	密	白・黒・赤色粒子	良	瀬戸・美濃	16C前	灰釉	G2227	鉄絵、貫入あり、X130Y110
182	17	遺構外	陶器	皿	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y8/2) 釉-灰白(2.5Y8/1)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	16C前	灰釉	X130Y90	鉄絵、貫入あり、X130Y90
182	18	遺構外	陶器	擂鉢	－	－	－	ナデ、櫛目	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR7/2) 釉-暗赤褐(5YR3/2)	密		良	瀬戸・美濃	16C～17C前	鉄釉	G592	X120Y80
182	19	遺構外	陶器	皿	(15.8)	－	[1.8]				灰白(10Y8/1) 釉-灰ｵﾘｰﾌﾞ(7.5Y5/3)	密	黒色粒子	良	瀬戸・美濃	16C後半	灰釉	G一括	大窯
182	20	遺構外	陶器	皿	(12.2)	－	[2.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(7.5Y5/1) 釉-黒褐(7.5YR3/2)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	16C後半	鉄釉	G一括	大窯
182	21	遺構外	陶器	皿	(16.3)	－	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄褐(10YR7/3) 釉-灰白(5Y8/2)	やや密		良	瀬戸・美濃	17C前		X120Y70	鉄絵、X120Y70
182	22	遺構外	陶器	皿	(12.0)	－	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(10YR8/2)	やや粗	黒色粒子	やや良	瀬戸・美濃	17C前半		G一括	志野皿
182	23	遺構外	陶器	碗	(10.8)	－	[4.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3) 釉-灰黄褐(10YR4/2)	やや密	黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C前半	鉄釉	G1594	X140Y160
182	24	SI6	陶器	皿	－	－	－		ナデ		にぶい黄橙(10YR6/3) 釉-灰黄(2.5Y6/2)･ｵﾘｰﾌﾞ灰(10Y5/2)	密		良	瀬戸・美濃	17C後	灰釉、緑釉流し	SI6-320	菊皿
182	25	遺構外	陶器	擂鉢	－	－	－	櫛目	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR6/3) 釉-黒褐(10YR3/1)	密	白色粒子	良	瀬戸・美濃	17C後	鉄釉	G2011	X120Y50
183	26	SI27	陶器	鉢	－	－	－	ハケ、ナデ	ロクロナデ		浅黄(2.5Y7/3) 釉-浅黄(5Y7/3)	密		良	瀬戸・美濃	17C～18C		SI27-3	黄瀬戸鉢、刷毛目

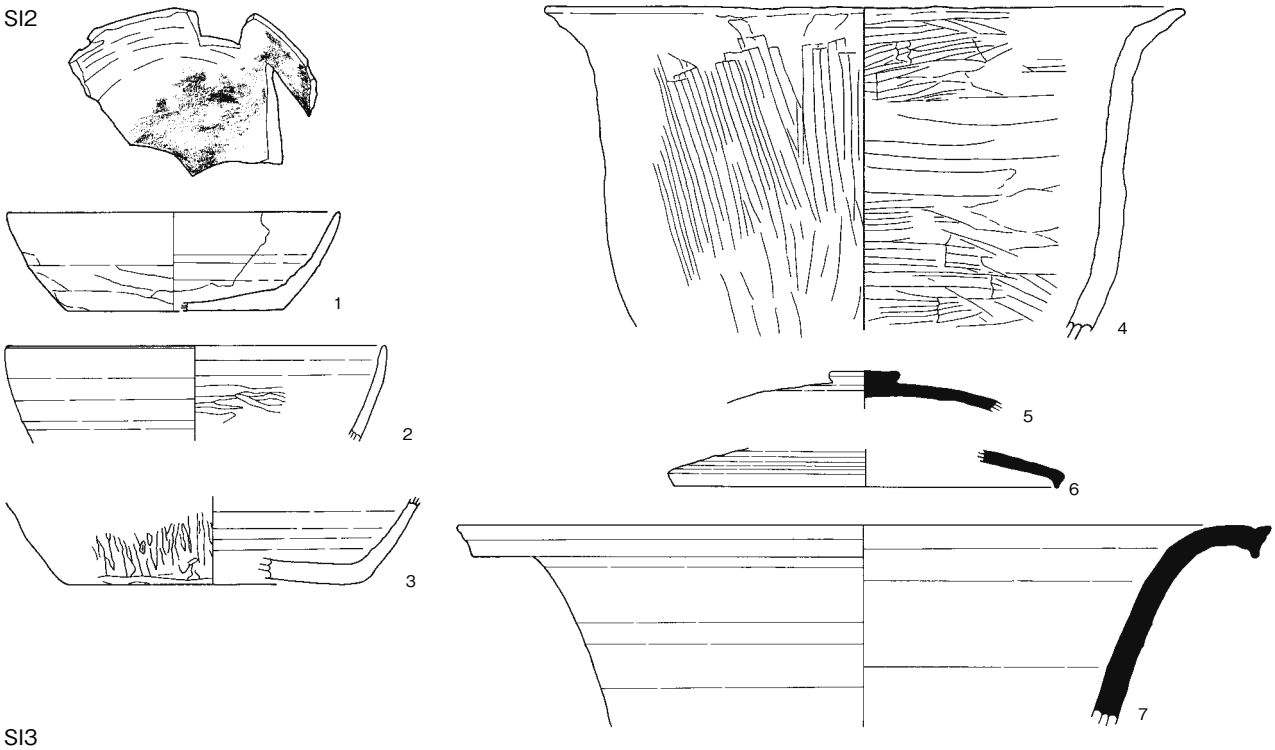
法量(　)は復元実測値、[　]は現存値である。

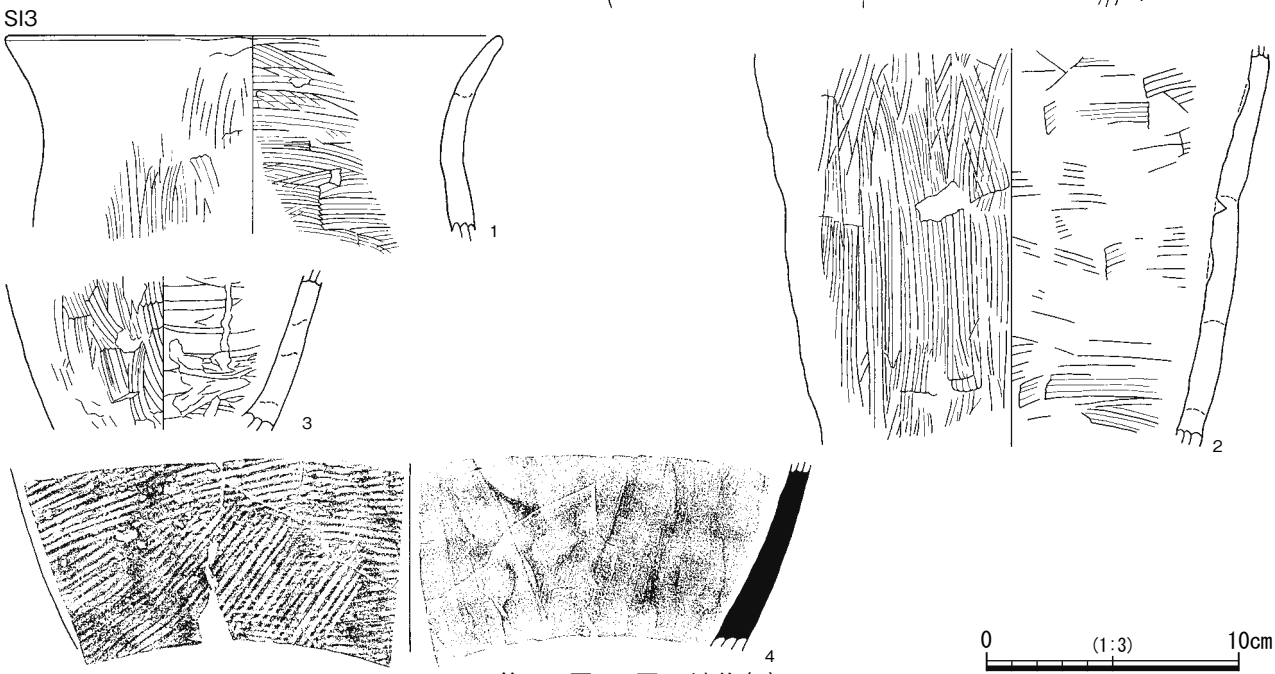
図版番号	No.	出土位置	種類	器種器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	産地	時代	装飾技法	注記内容	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部									
183	27	遺構外	陶器	擂鉢	－	－	－	櫛目	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3) 釉-暗褐(7.5YR3/3)	やや粗	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	17C後～18C前	鉄釉	G1610	X120Y100
183	28	遺構外	陶器	鉢	(29.7)	－	[3.1]	ロクロナデ	ロクロナデ		赤褐(2.5YR4/6) 釉-灰褐(5YR5/2)	密	白・黒色粒子	良	肥前	17C末～18C前		X130Y80	三島手、X130Y80
183	29	遺構外	陶器	碗	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄(2.5Y7/4) 釉-灰オリーブ(5Y6/2)	密	白・黒色粒子	良	京・信	18C前	灰釉	X150Y120	X150Y120
183	30	遺構外	陶器	皿	(8.7)	－	[1.45]	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄(2.5Y7/3) 釉-にぶい黄(2.5Y6/4)	密	白色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前半	灰釉	G48	X110Y90（灯明皿か）
183	31	遺構外	陶器	碗	(9.0)	－	[3.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(5Y6/1) 釉-灰(10Y7/1)	密	白色粒子	良	肥前	18C前半	陶胎染付	G294	貫入あり、X110Y150
183	32	遺構外	陶器	碗	(9.2)	－	[3.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(5Y7/1) 釉-灰白(7.5Y7/1)	密	白・黒色粒子	良	肥前	18C前半	陶胎染付	G一括	貫入あり
183	33	遺構外	陶器	碗	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰(5Y6/1) 釉-灰白(10Y7/1)	密	白色粒子	良	肥前	18C前半	陶胎染付	G624	貫入あり、X130Y70
183	34	遺構外	陶器	碗	－	高台径(5.2)	[2.5]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰(2.5Y4/1) 釉-オリーブ黒(5Y3/2)	密	黒色粒子	良	肥前	18C前半		G1013	刷毛目、X140Y70
183	35	遺構外	陶器	擂鉢	－	－	－	ナデ、櫛目	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3) 釉-にぶい赤褐(5YR4/4)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	18C前～中	鉄釉	X130Y40	X130Y40
183	36	遺構外	陶器	皿	(11.9)	－	[2.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3) 釉-灰白(5Y7/2)	密	小礫	良	瀬戸・美濃	18C		X110Y100	(※摺絵の部分欠)X110Y100
183	37	SI6	陶器	壺	[6.5]	－	[4.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y8/2) 釉-褐(7.5YR4/3)	密		良	瀬戸・美濃	18C	鉄釉	SI6一括	内面鉄分付着(お歯黒壺か)
183	38	遺構外	陶器	鬢水入れ	－	－	[0.6]	タタラ成形			にぶい黄橙(10YR6/3) 釉-灰白(5Y7/1)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	18C	灰釉	G1021	鉄絵、底部無釉、X140Y80
183	39	遺構外	陶器	片口鉢	(16.1)	－	[3.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄(2.5Y6/2) 釉-灰オリーブ(7.5Y5/3)	密	黒色粒子	良	瀬戸・美濃	18C後半～19C前半	灰釉	X120Y50	X120Y50
183	40	遺構外	陶器	灯明受皿	(10.5)	－	[1.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y7/1)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	19C前～中	鉄釉	X110Y80	X110Y80
183	41	遺構外	陶器	灯明受皿	(9.4)	－	[1.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰(N6/0)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	19C前～中	鉄釉	G一括	
183	42	SI7	陶器	灯明上皿	(12.9)	－	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		淡黄(2.5Y8/3)	密	白・黒色粒子	良	瀬戸・美濃	19C前～中	鉄釉	SI7-26	
183	43	遺構外	陶器	灯明受皿	(9.2)	(4.4)	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰白(5Y7/1)	密	白・黒・赤色粒子	良	瀬戸・美濃	19C中～後	灰釉	G1046	X130Y100
183	44	遺構外	陶器	鍋	－	(10.2)	[2.4]	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	にぶい橙(2.5YR6/4) 釉-暗オリーブ(5Y4/3)	密	白・黒色粒子	良	不明	19C	鉄釉	G386	スス付着、X120Y110
183	45	SI27	陶器	鍋の蓋	－	－	[1.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい褐(7.5YR6/3) 釉-オリーブ黒(5Y3/2)	密	白・黒色粒子	良	不明	19C	鉄釉	SI27-70	
183	46	遺構外	陶器	皿	(10.2)	(6.8)	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	明赤褐(5YR5/6)	密	白色粒子	良	志戸呂か	不明	鉄釉	G一括	



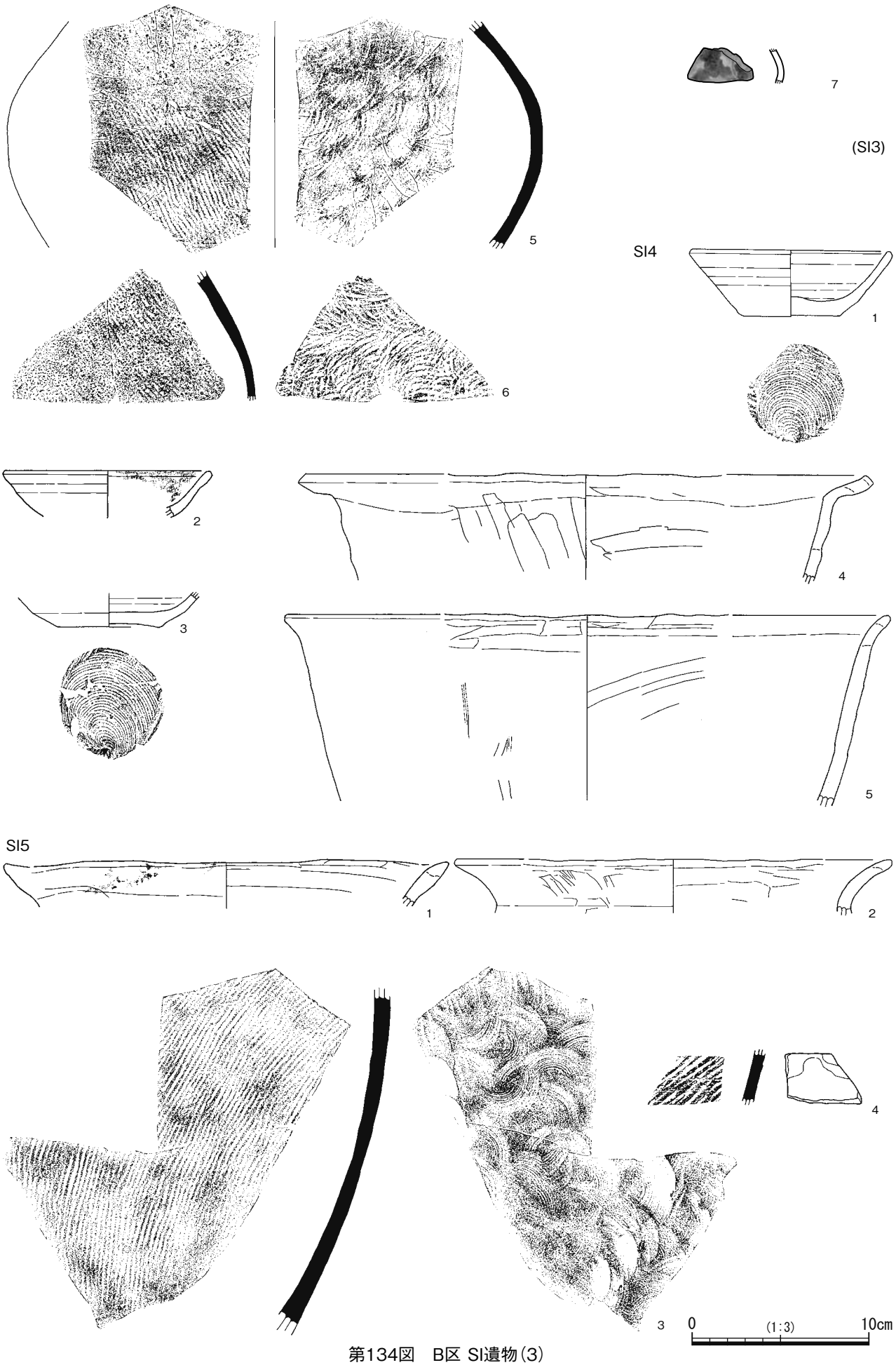
第132図　B区 SI遺物(1)





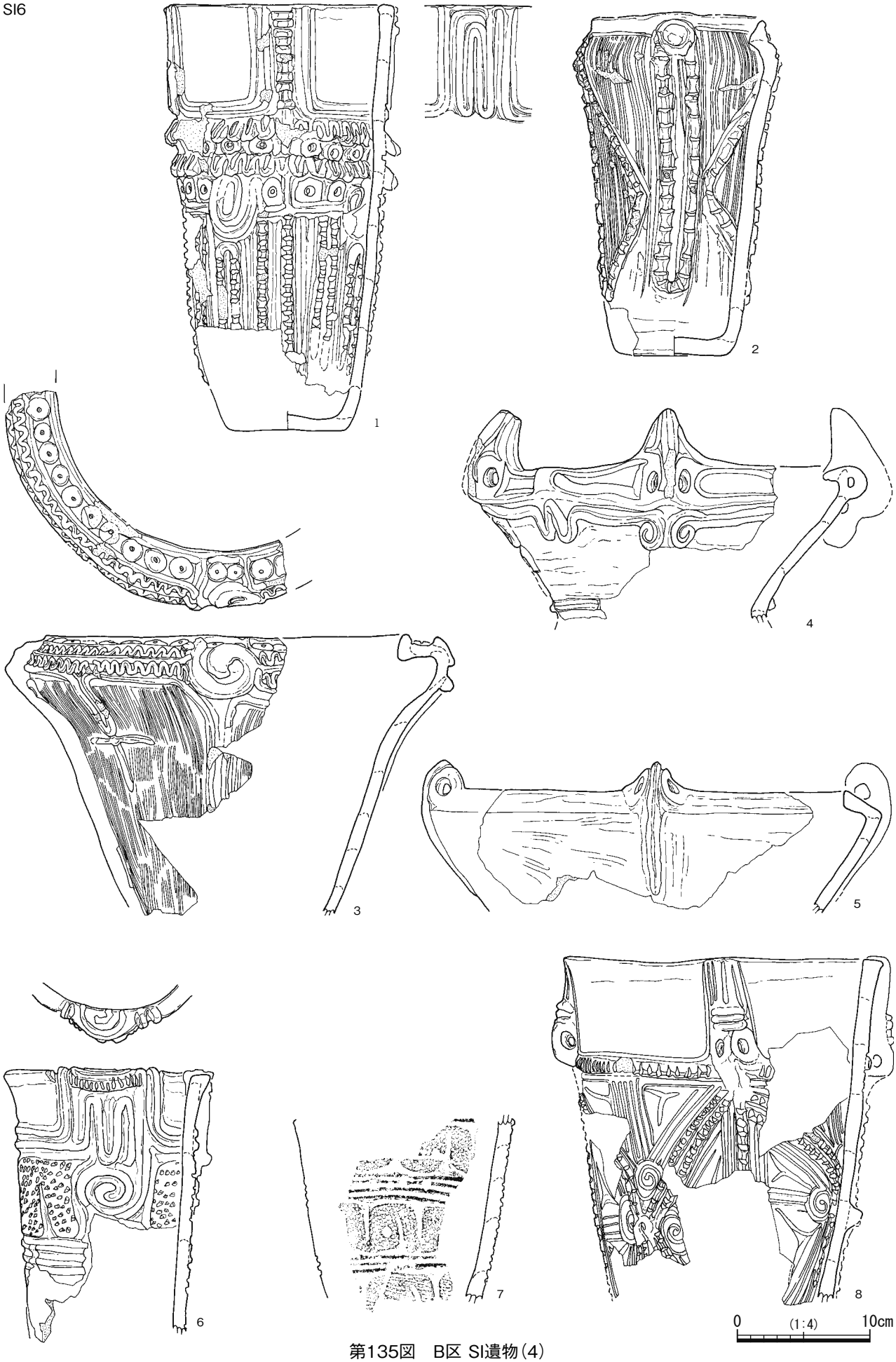


第133図　B区 SI遺物(2)

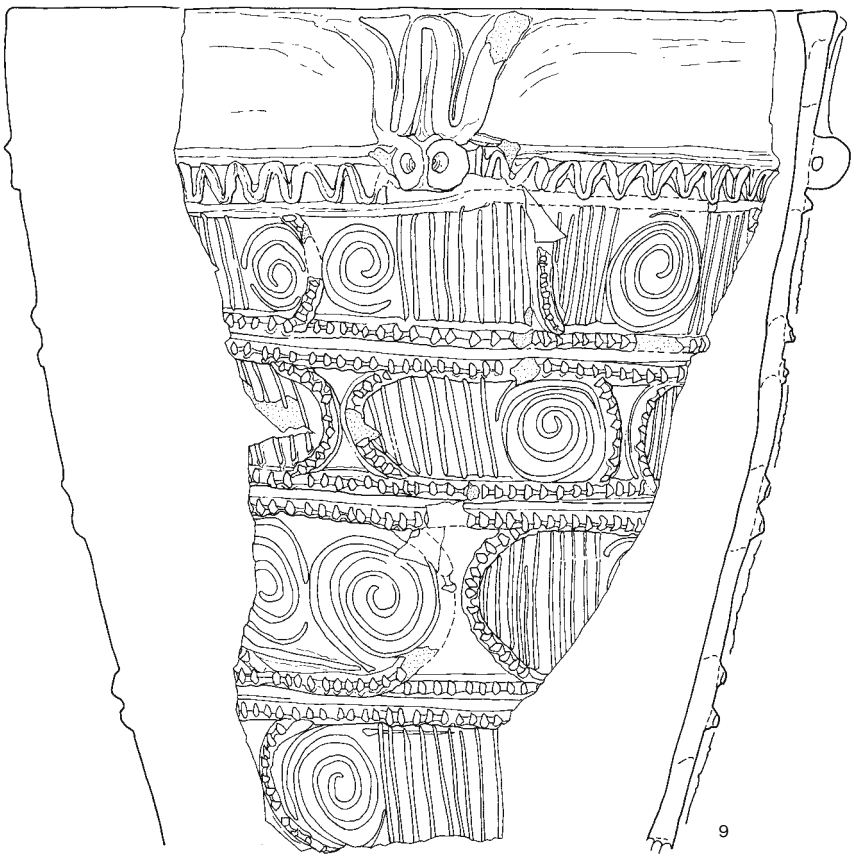


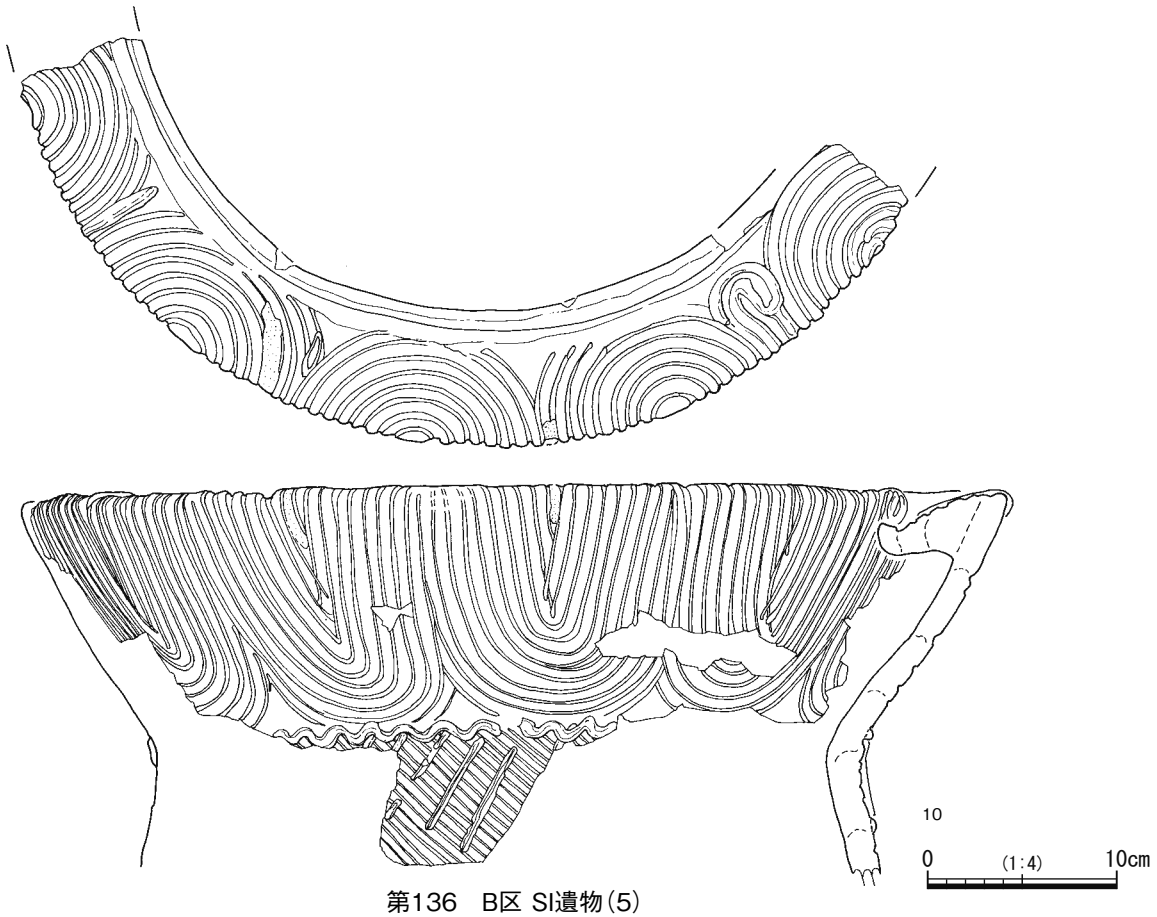
第134図　B区 SI遺物(3)

SI6



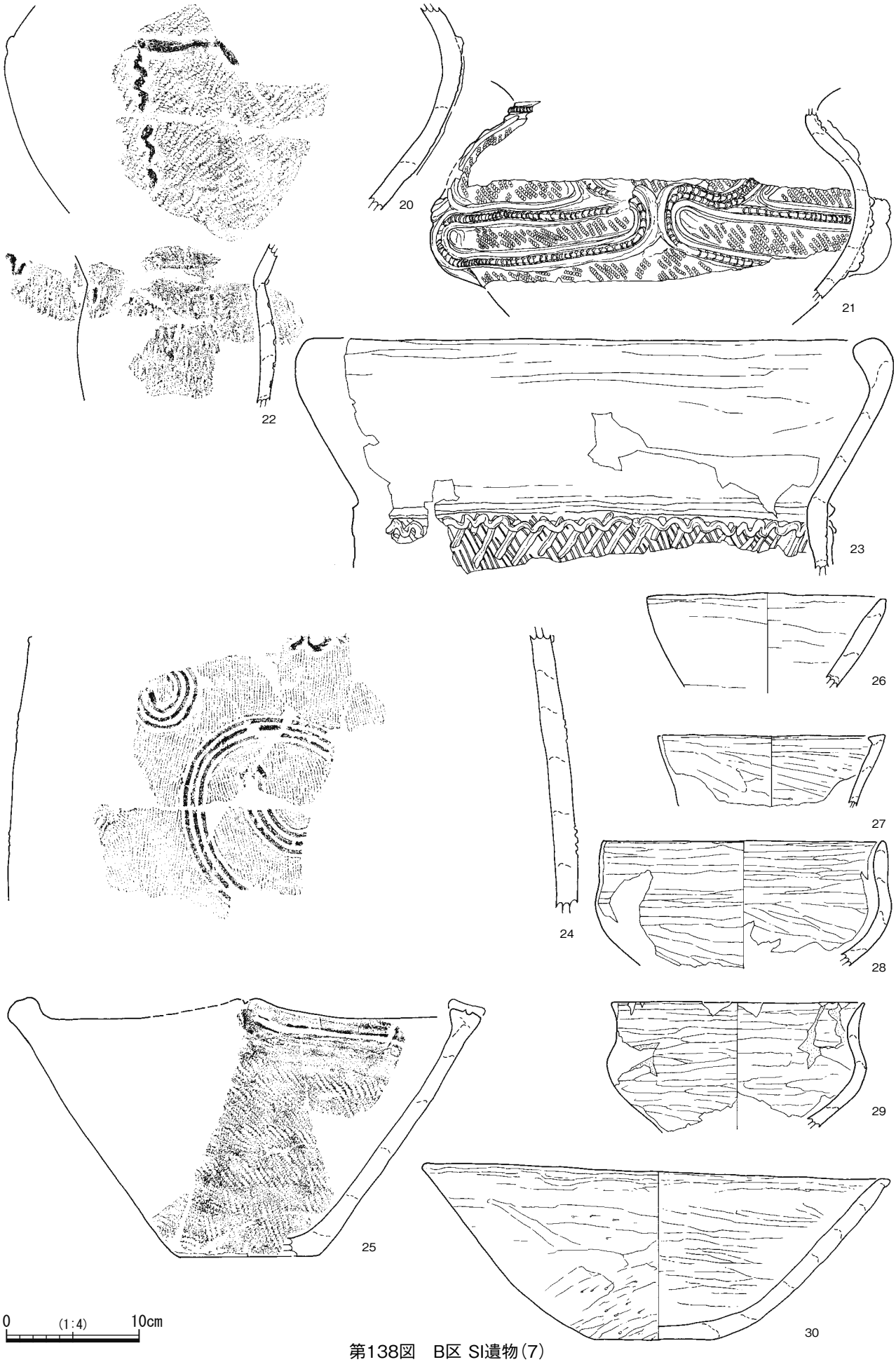
第135図　B区 SI遺物(4)



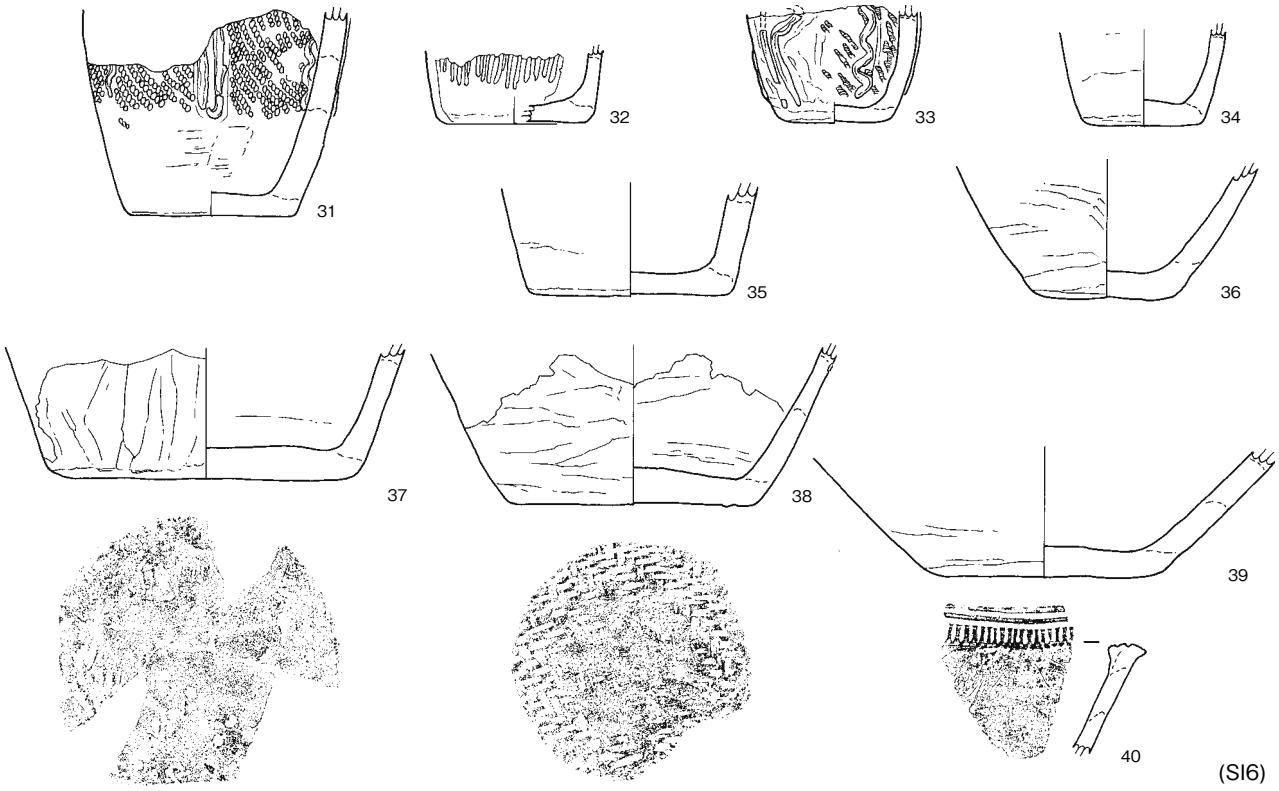


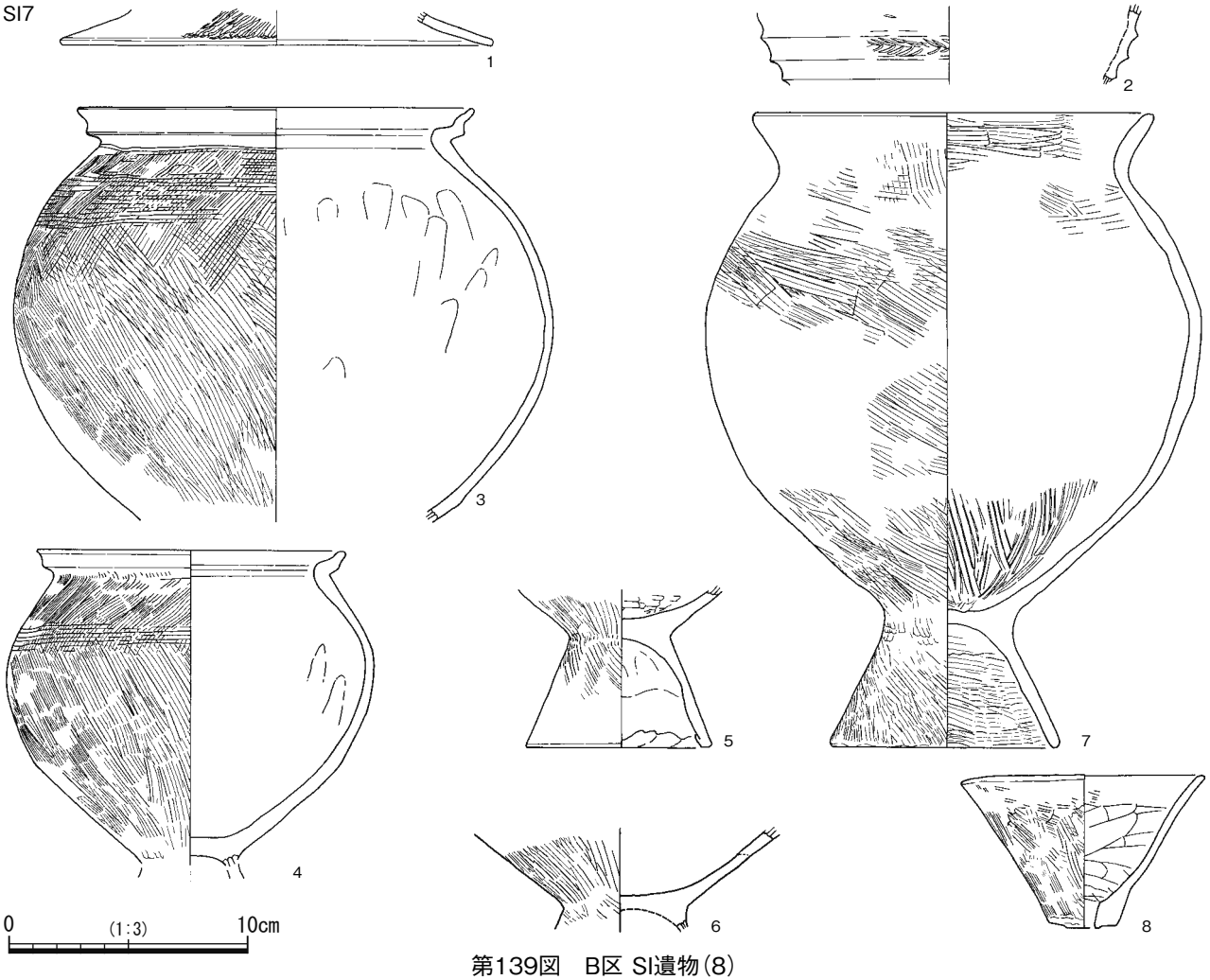
第136　B区 SI遺物(5)

第137図　B区 SI遺物(6)



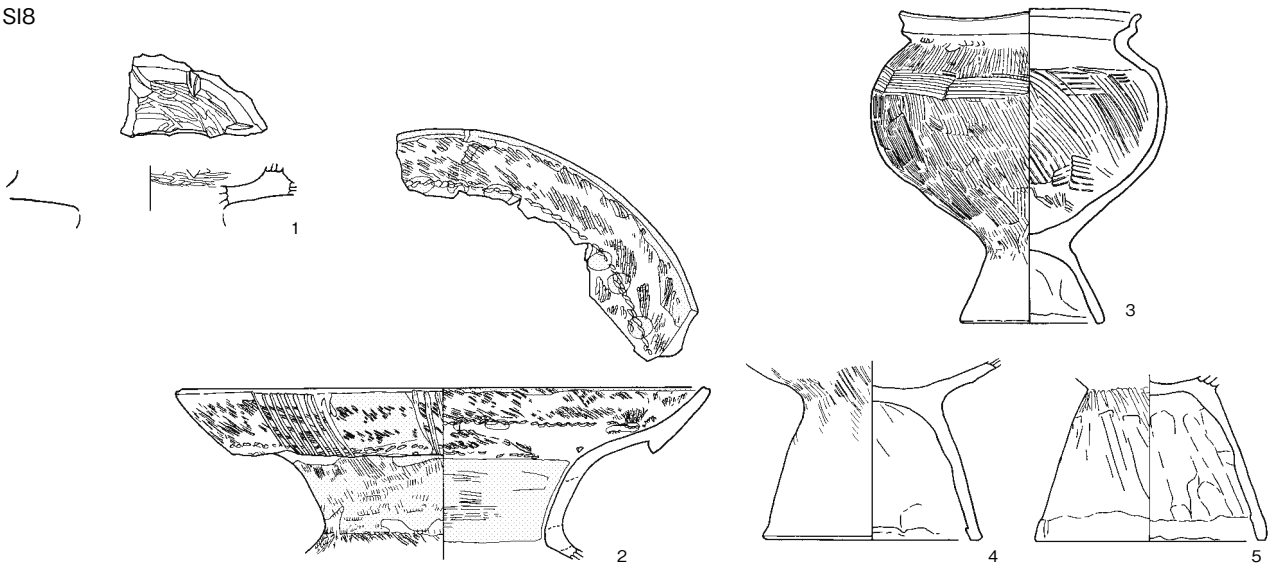
第138図　B区 SI遺物(7)



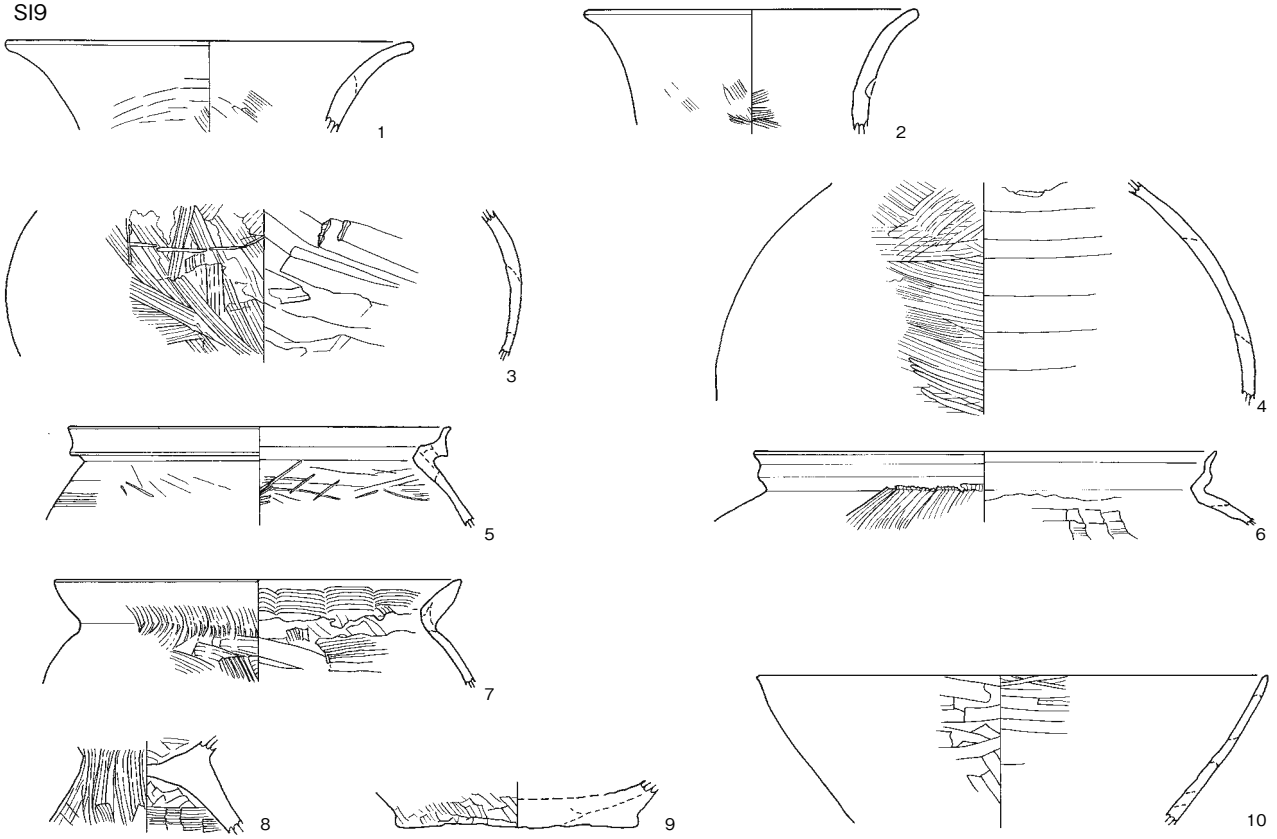


第139図　B区 SI遺物(8)

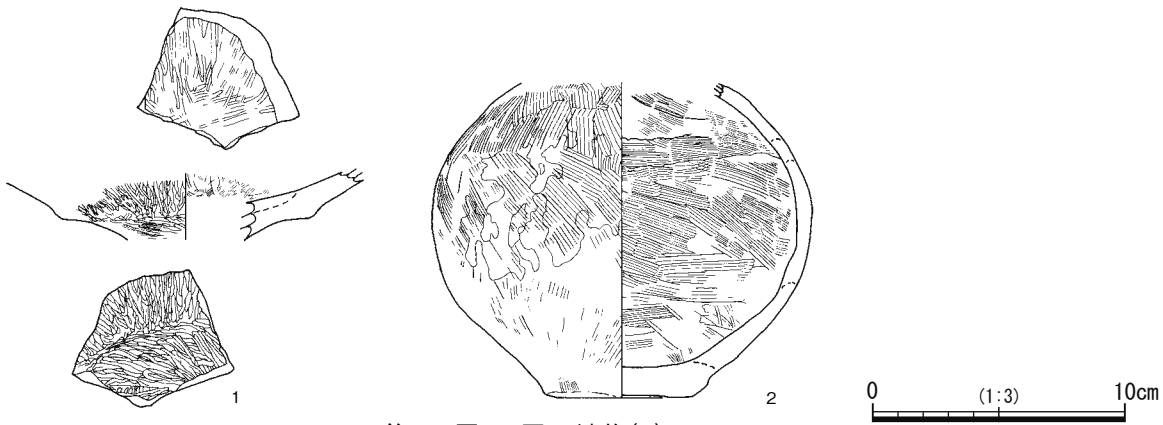
SI8



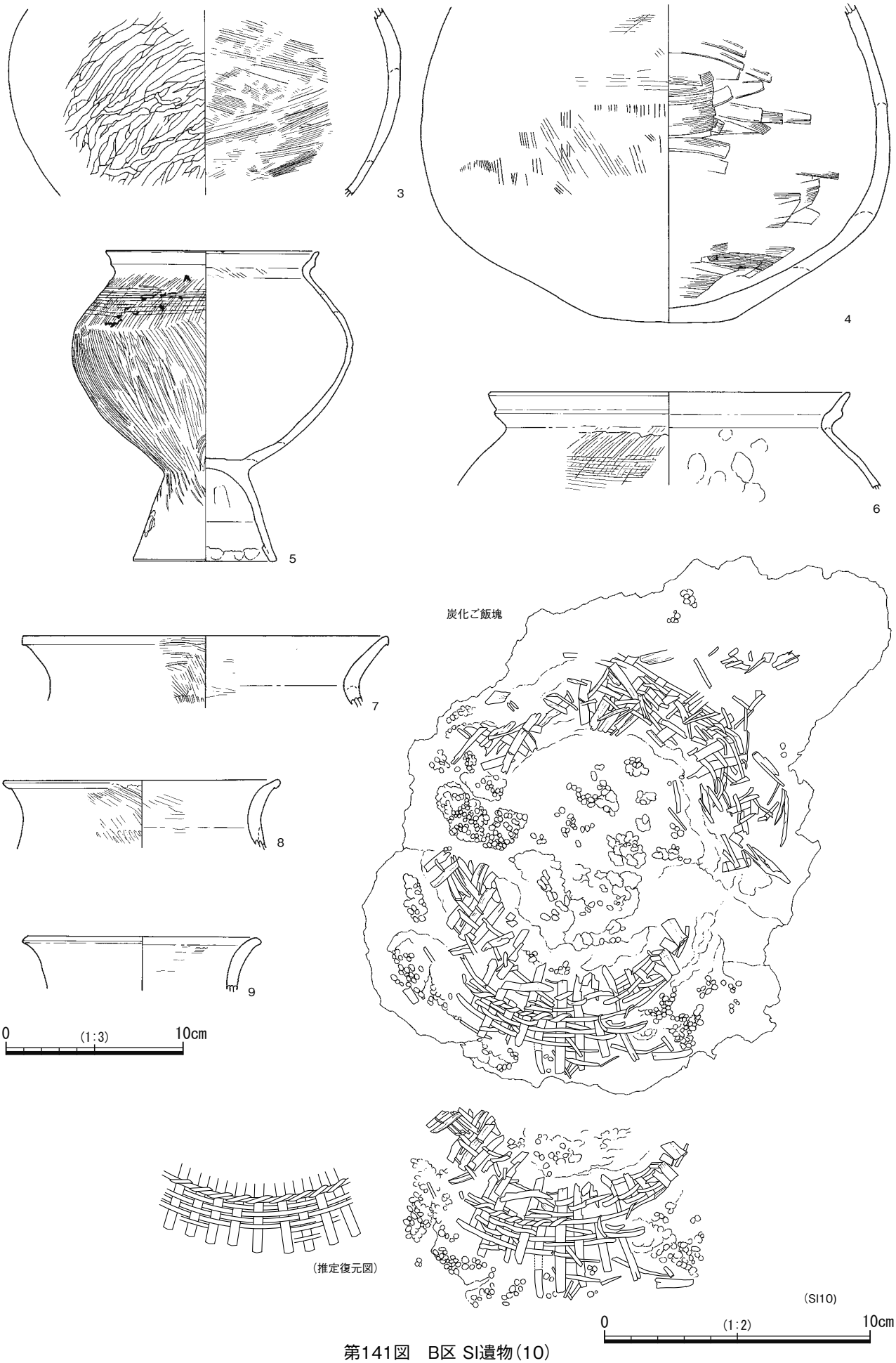
SI9



SI10

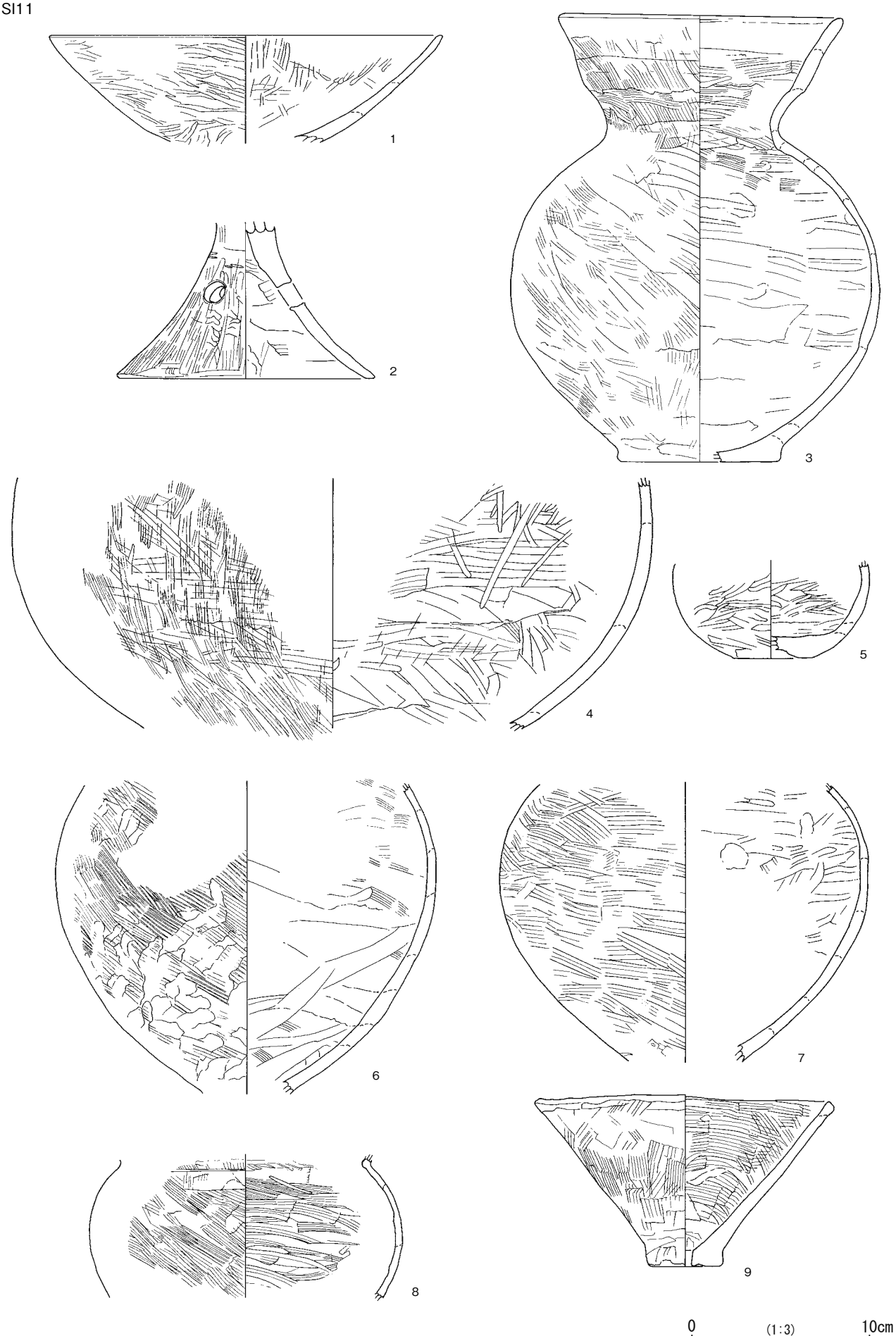


第140図　B区 SI遺物(9)



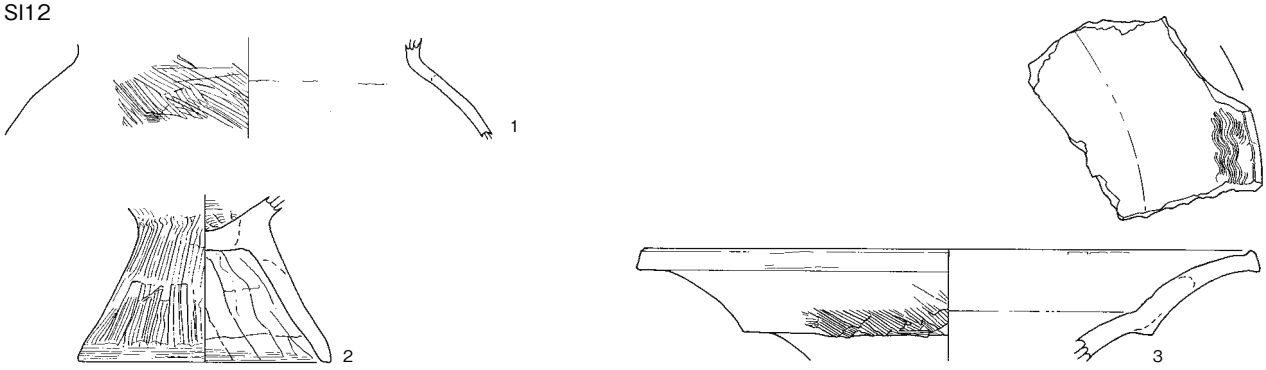
第141図　B区 SI遺物(10)

SI11

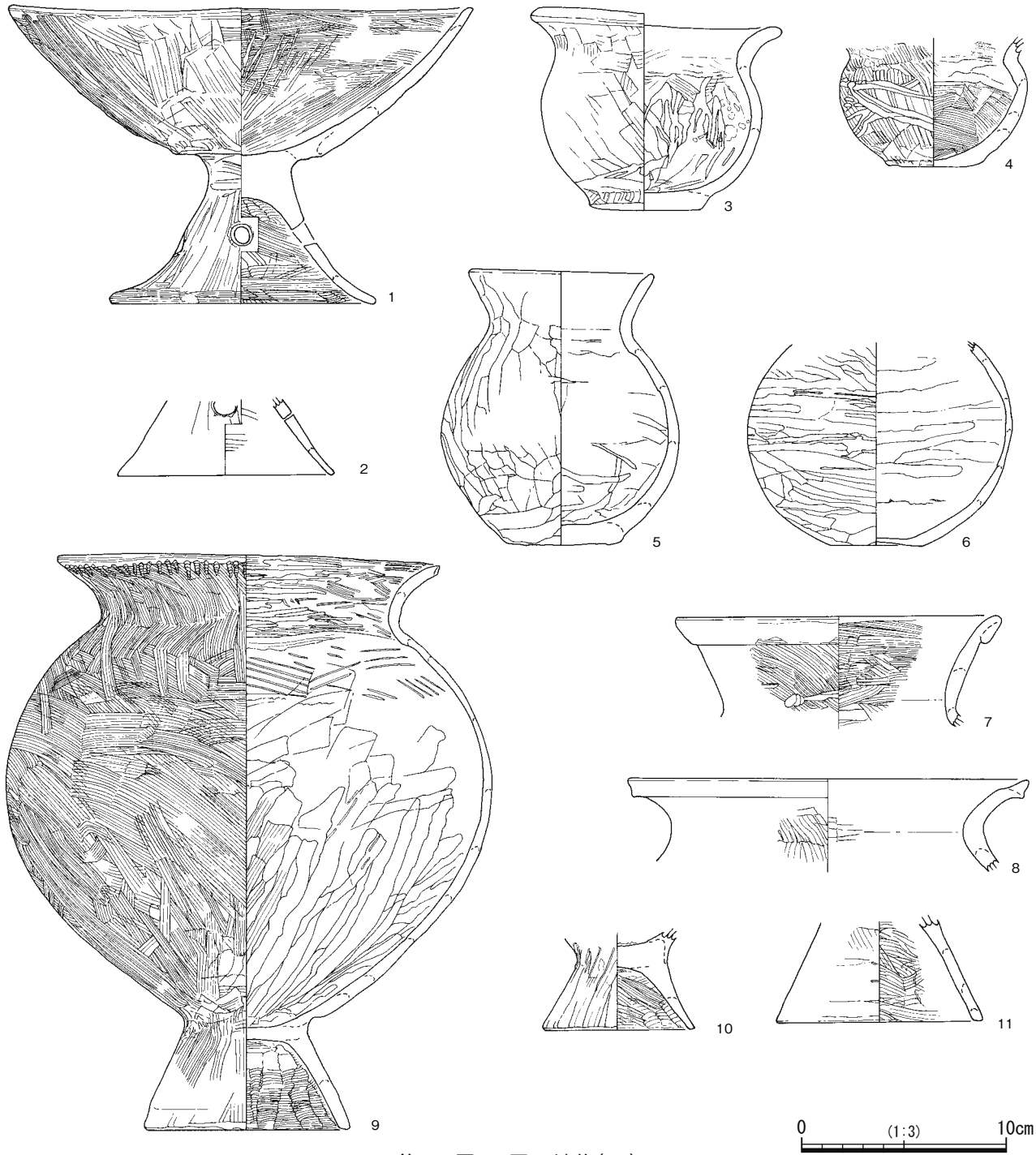


第142図　B区 SI遺物(11)

SI12

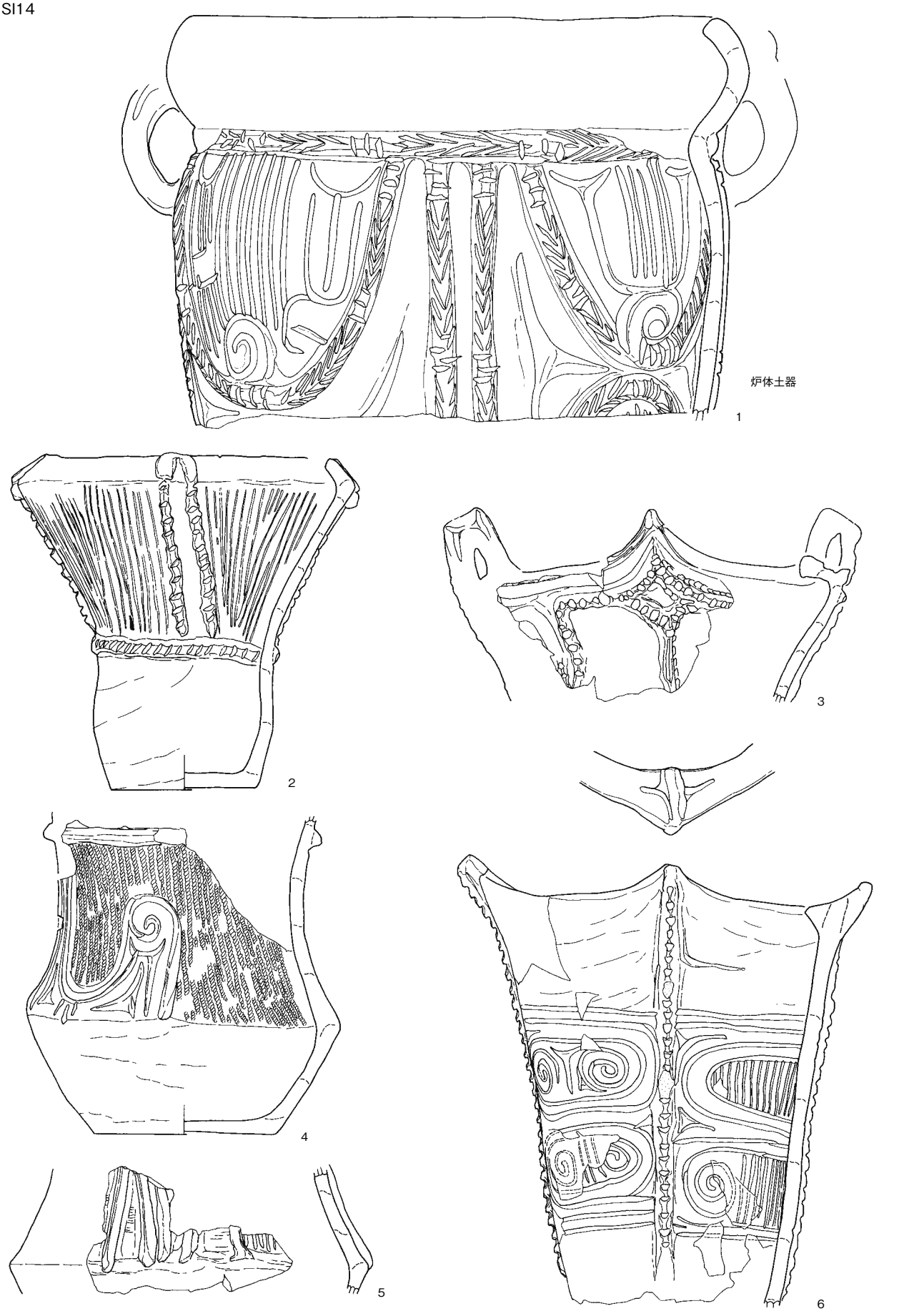


SI13

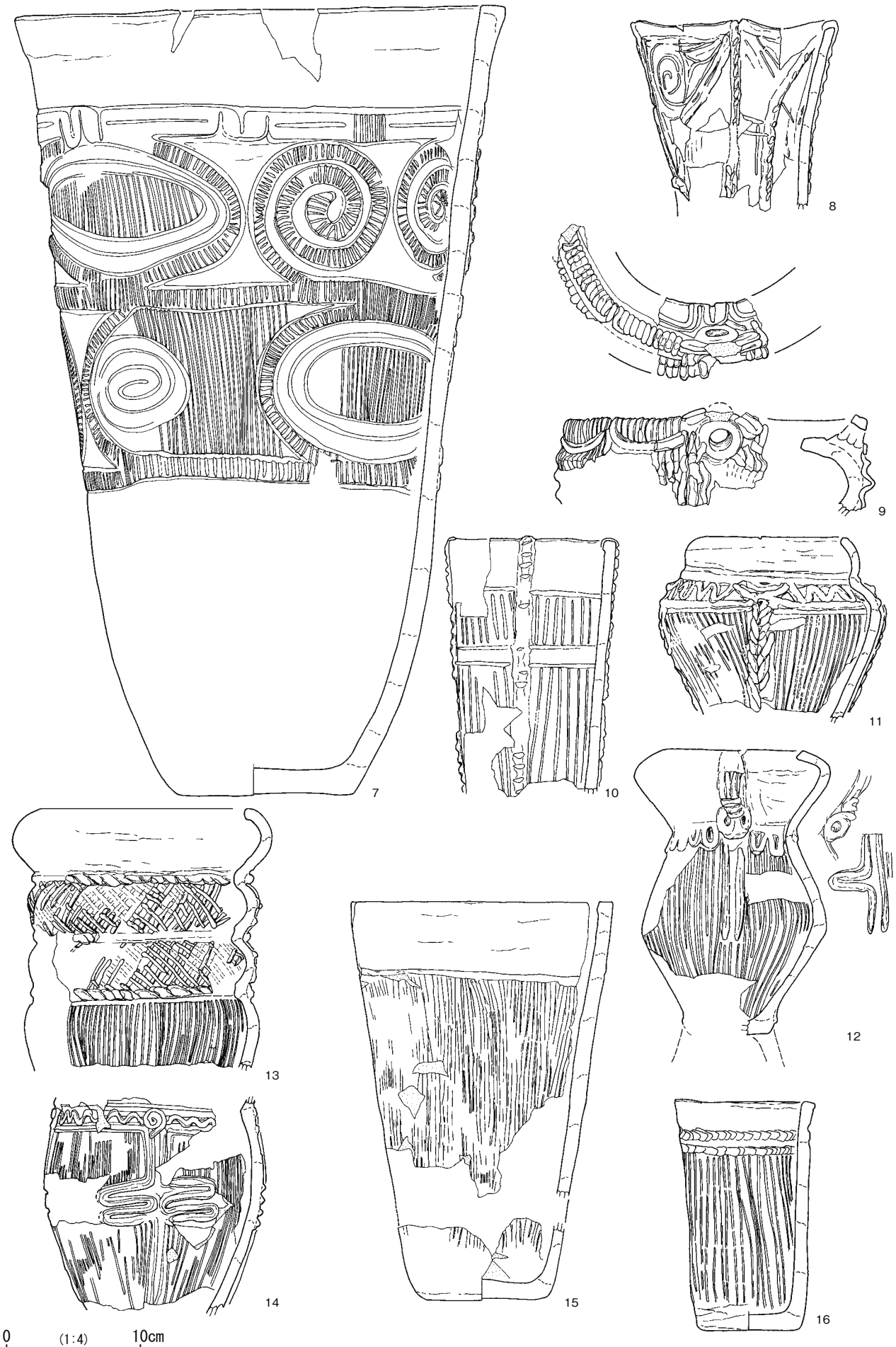


第143図　B区 SI遺物(12)

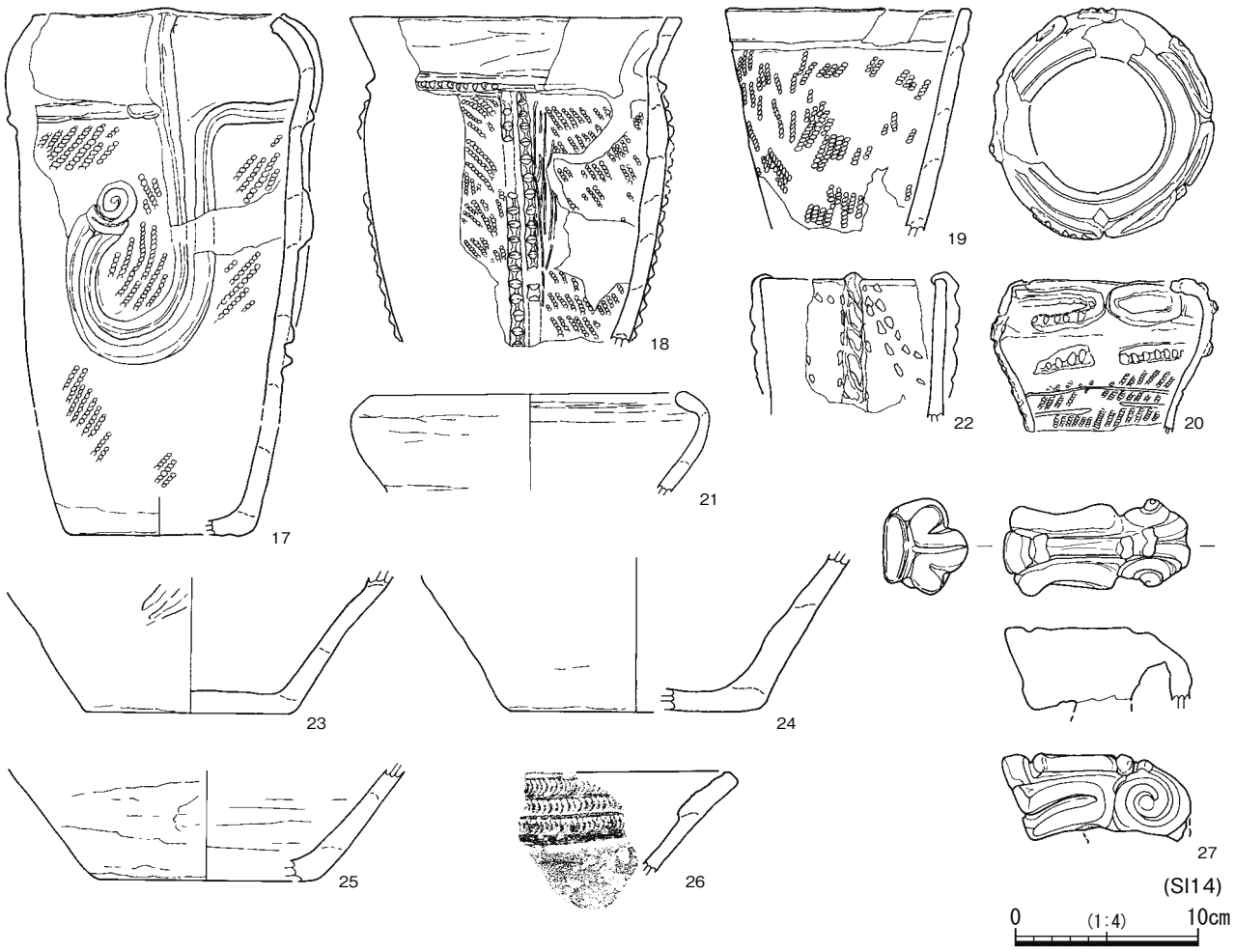
SI14

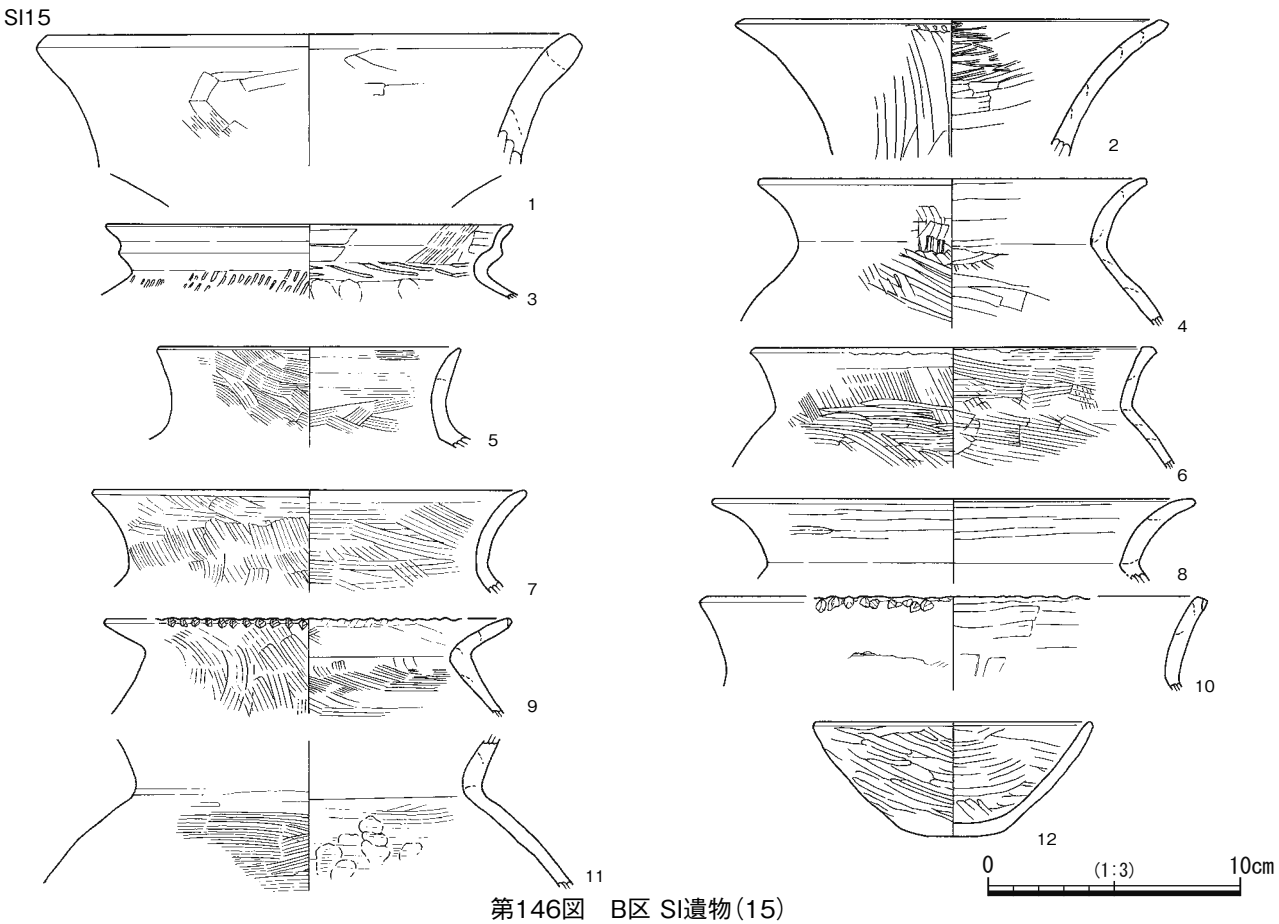


第144図　B区 SI遺物(13)

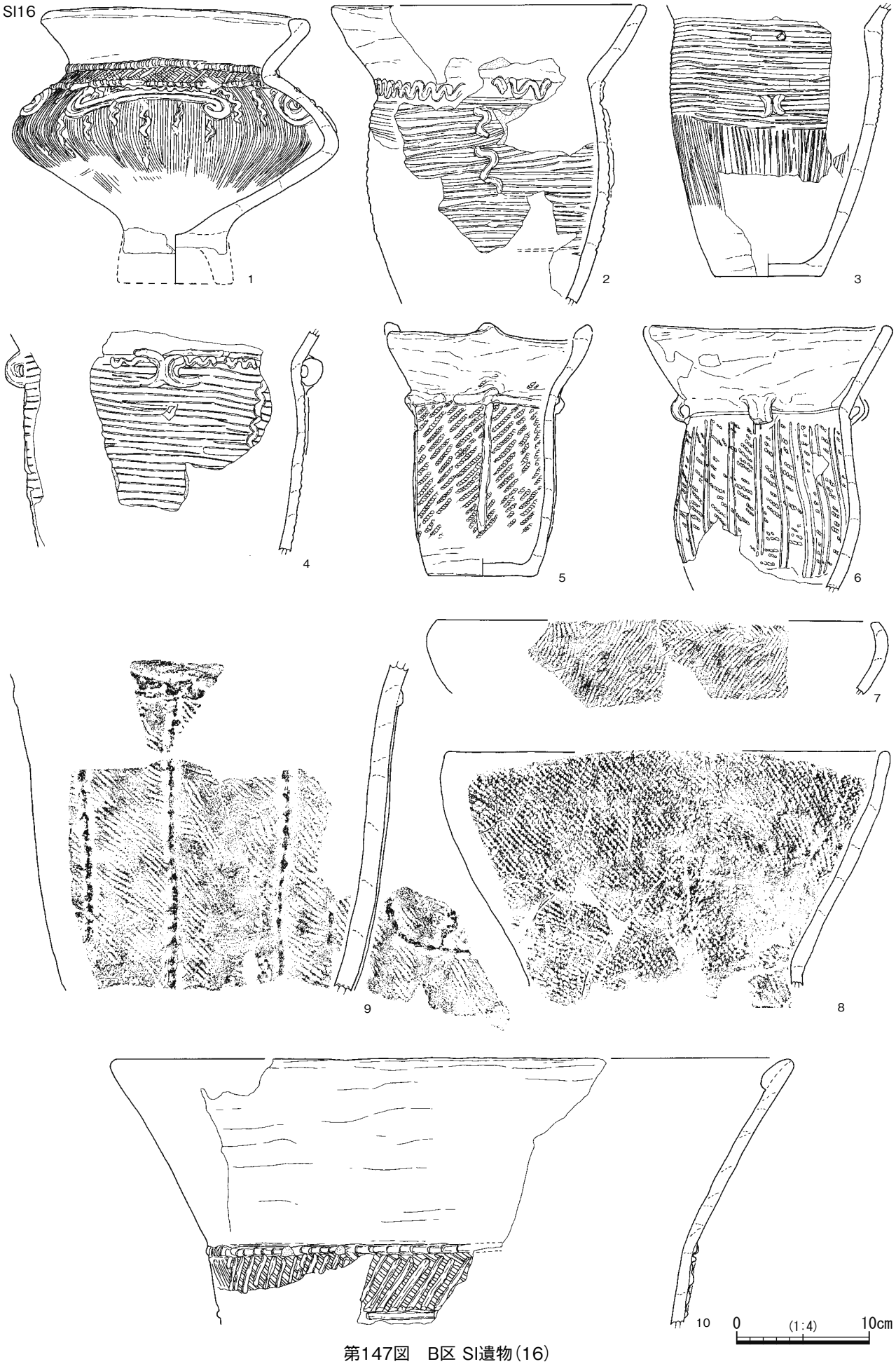


第145図　B区 SI遺物(14)

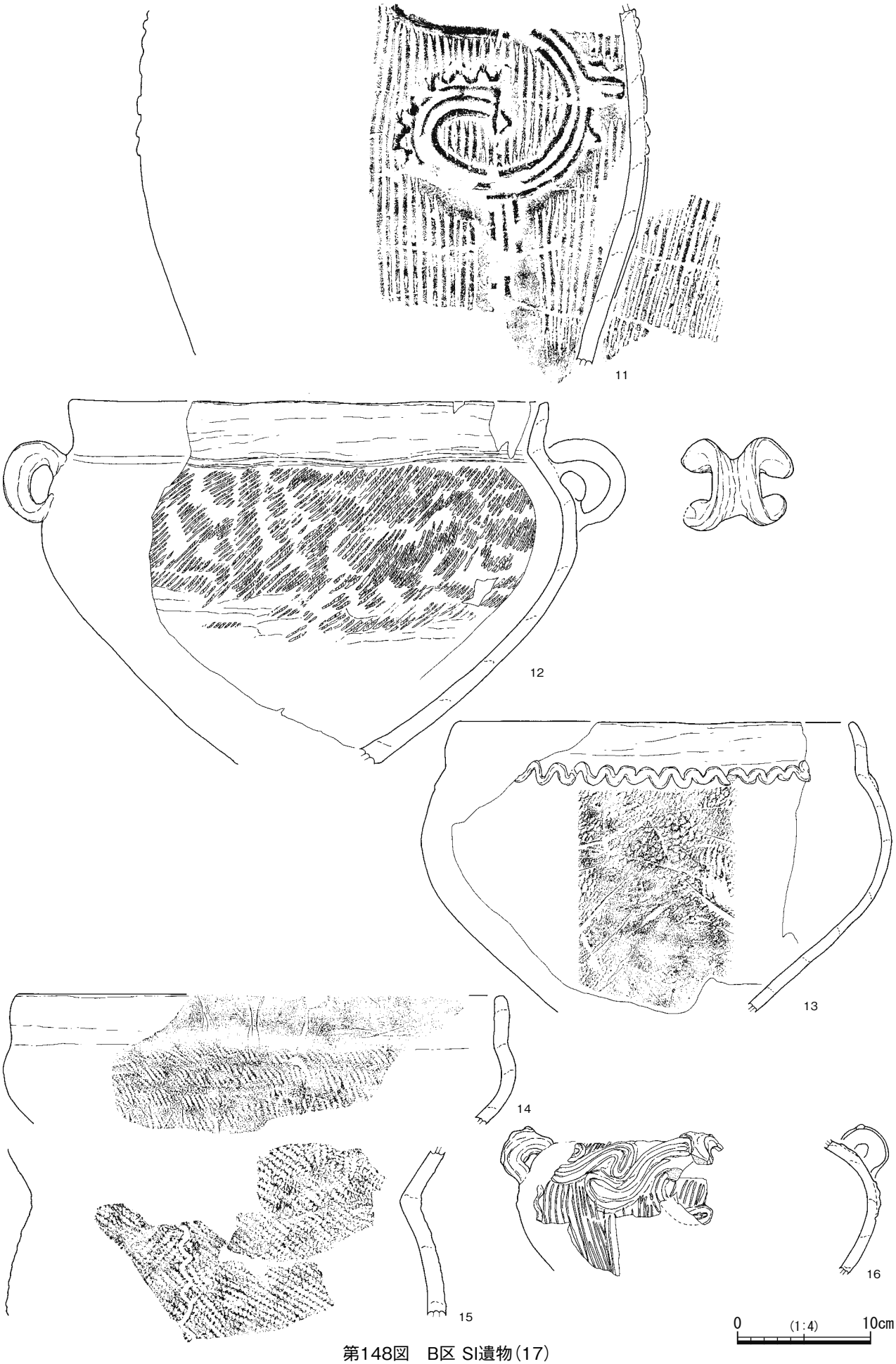




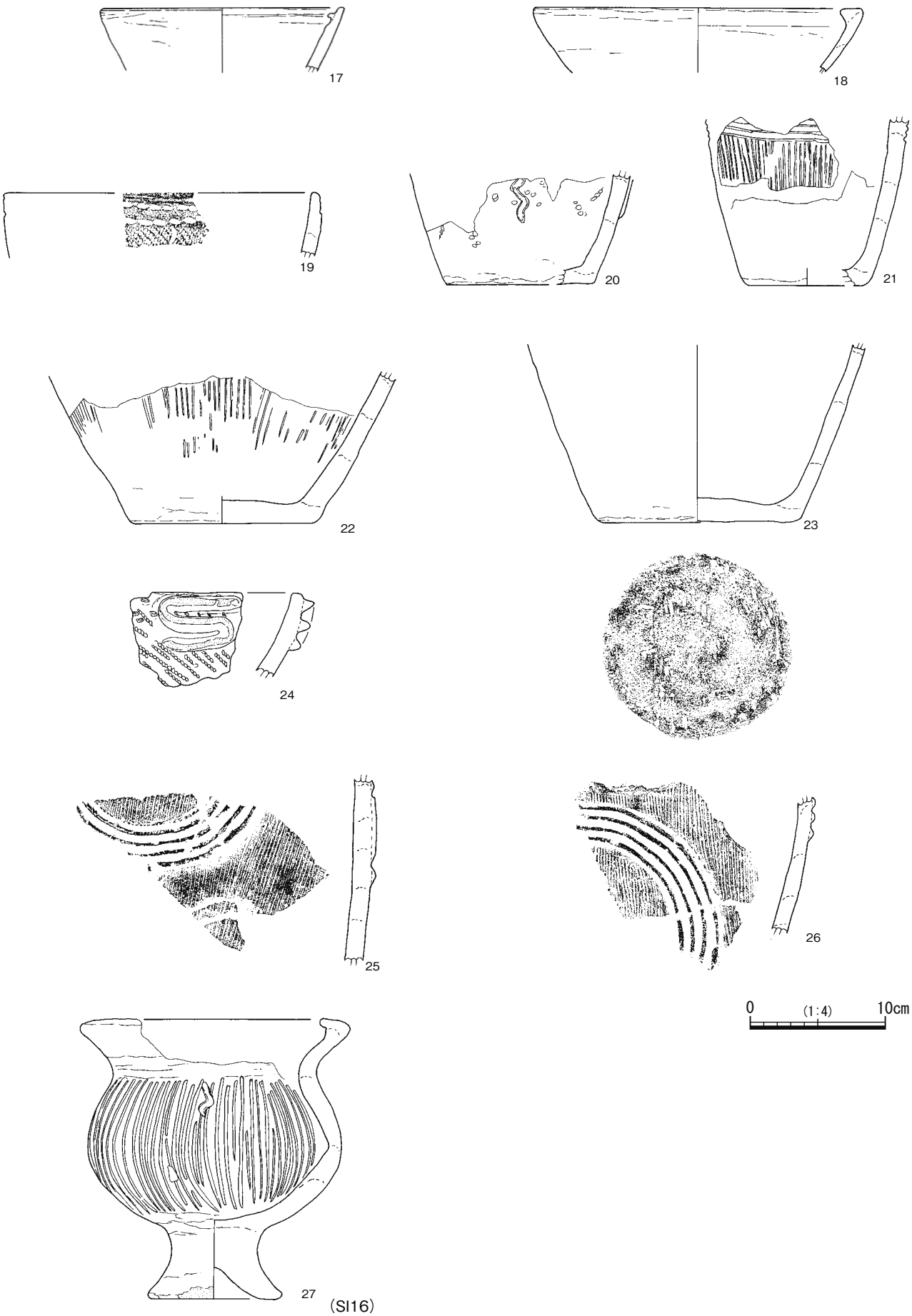
第146図　B区 SI遺物(15)



第147図　B区 SI遺物(16)

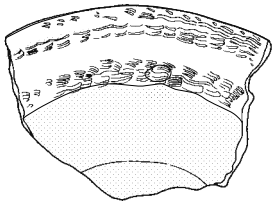


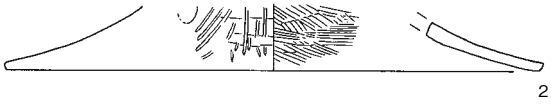
第148図　B区 SI遺物(17)

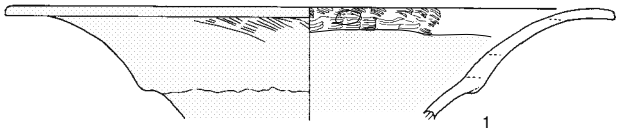


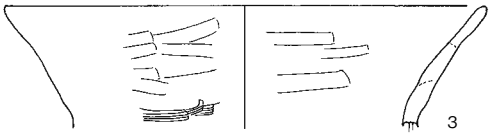
第149図　B区 SI遺物(18)

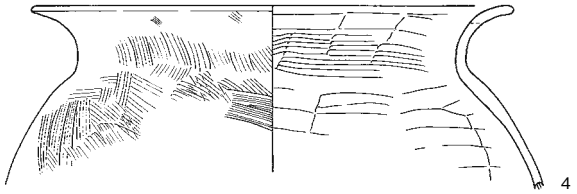
SI17

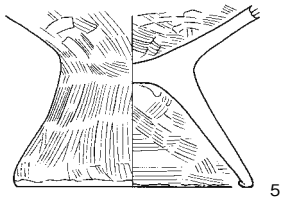




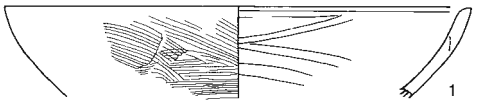


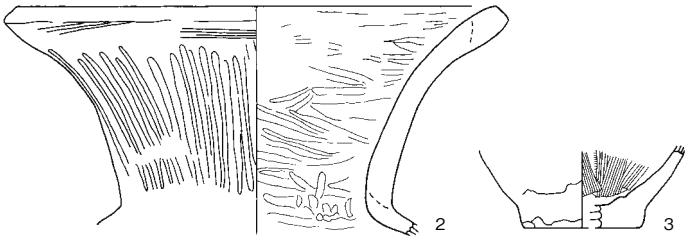


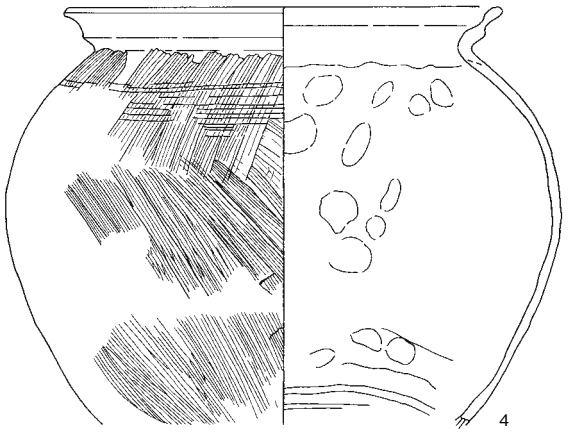


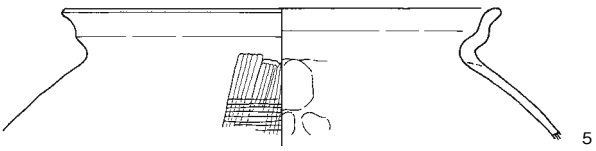


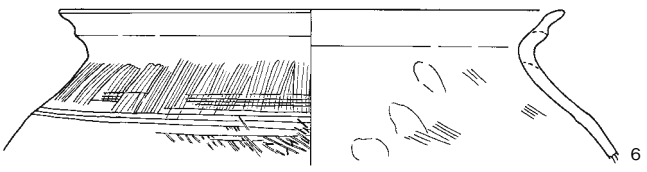
SI18

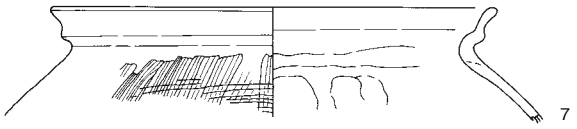


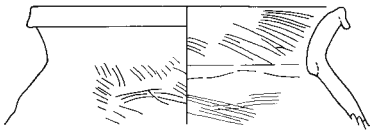






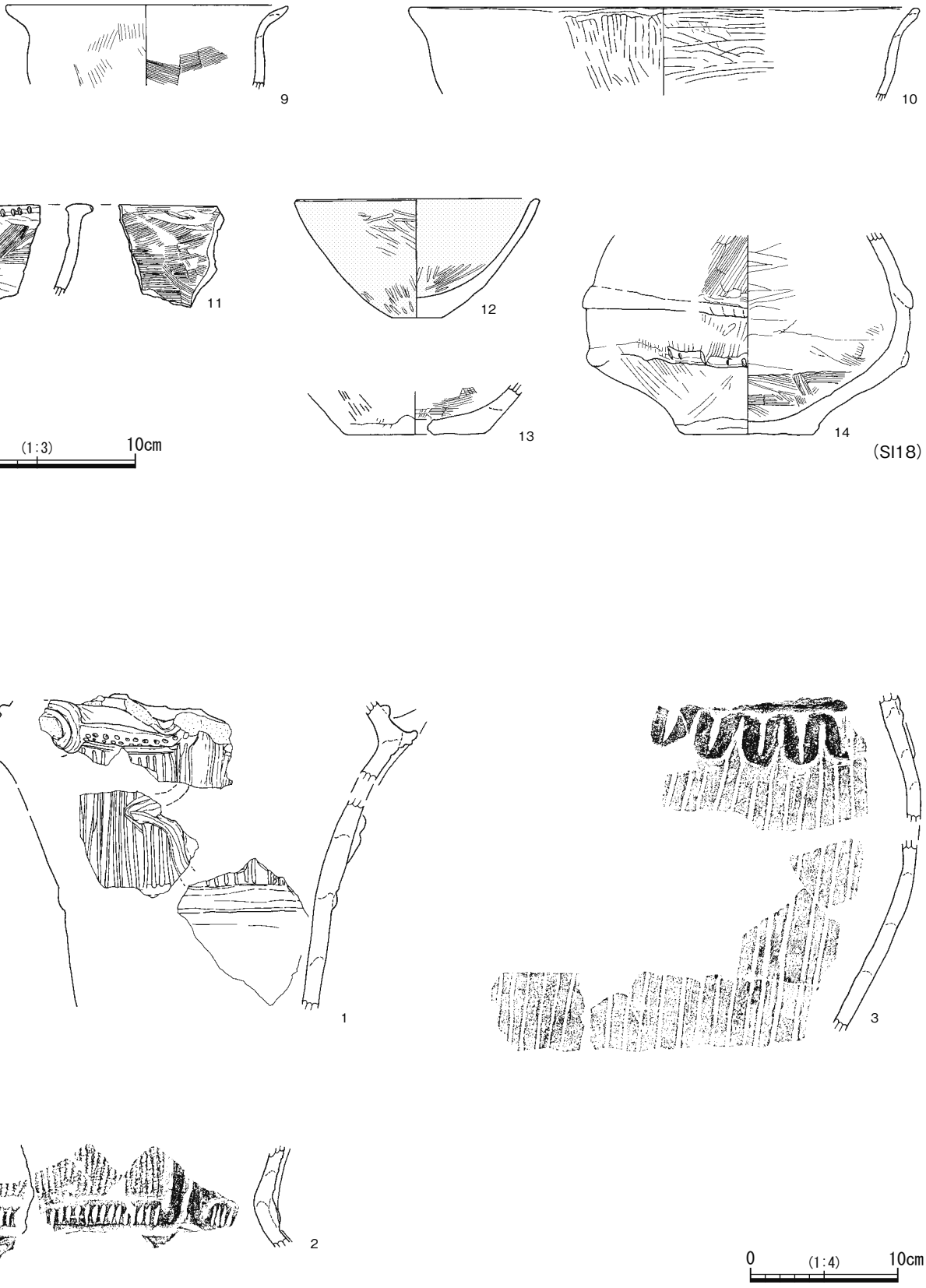




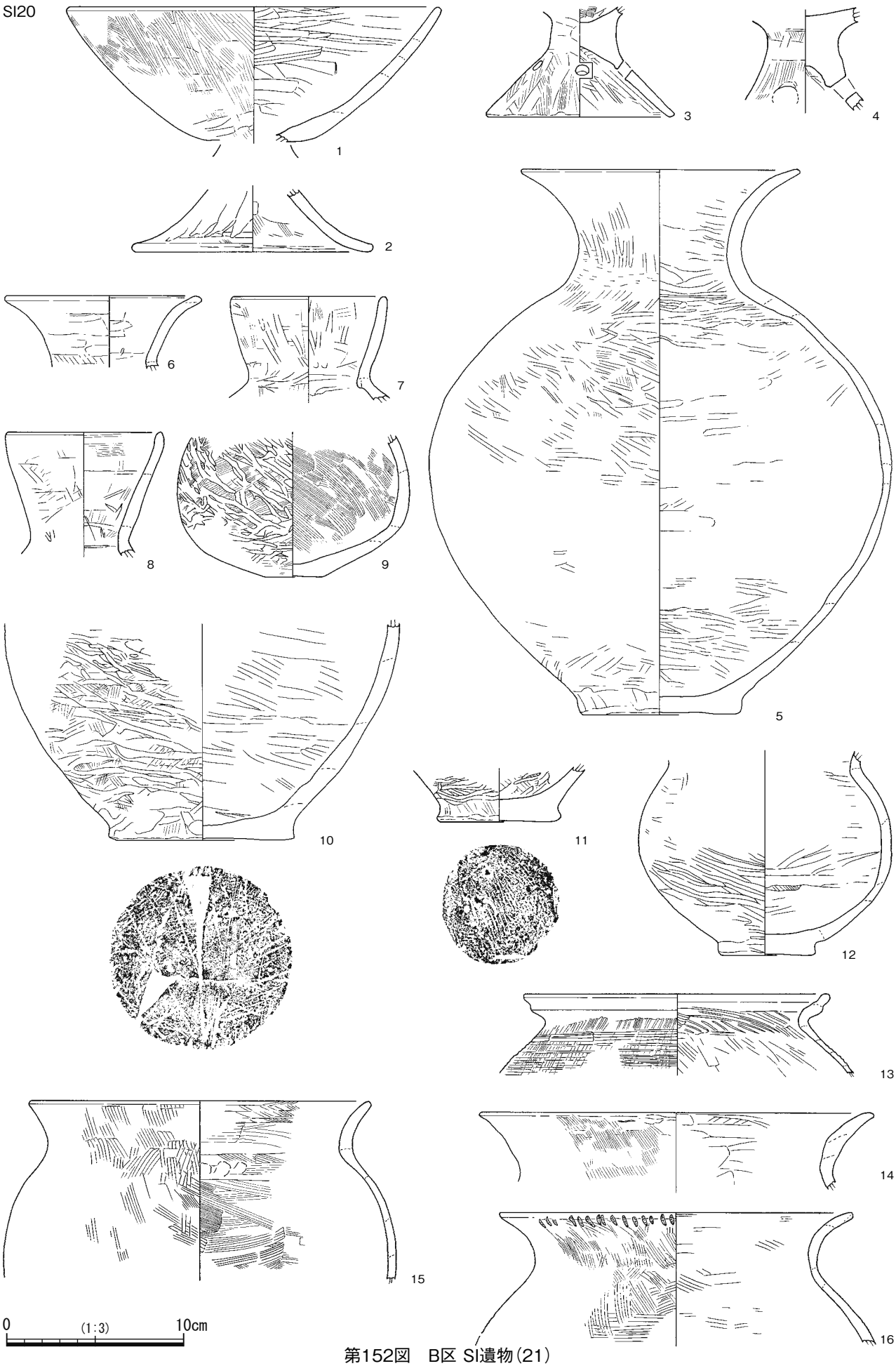


0 (1:3) 10cm

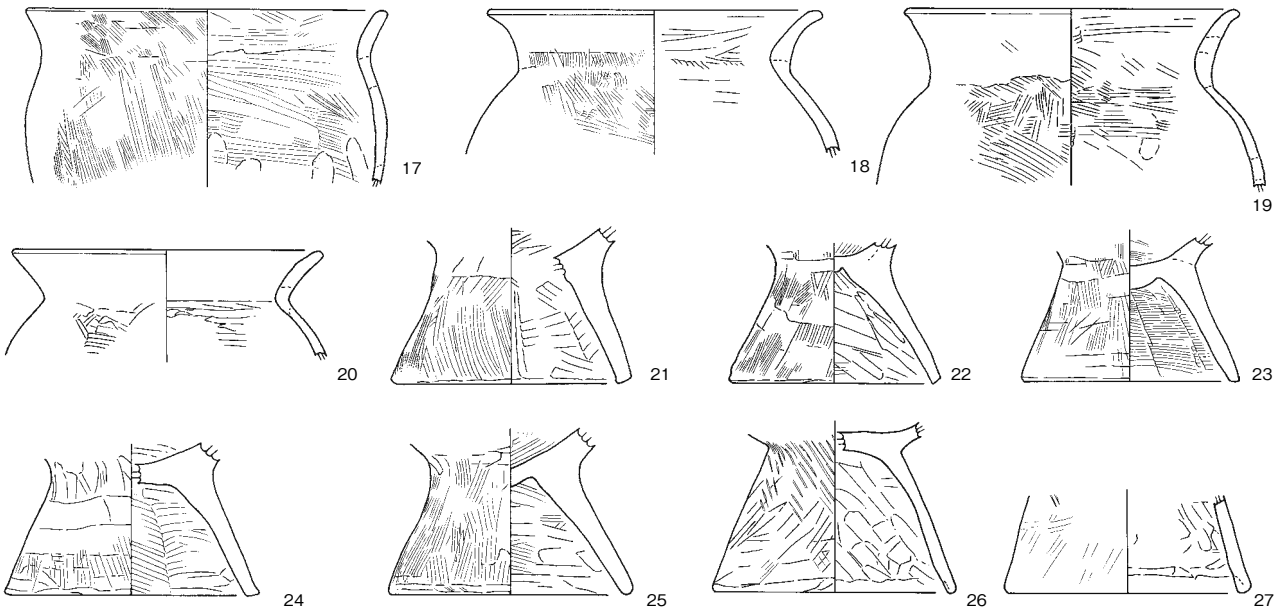
第150図　B区 SI遺物(19)



第151図　B区 SI遺物(20)

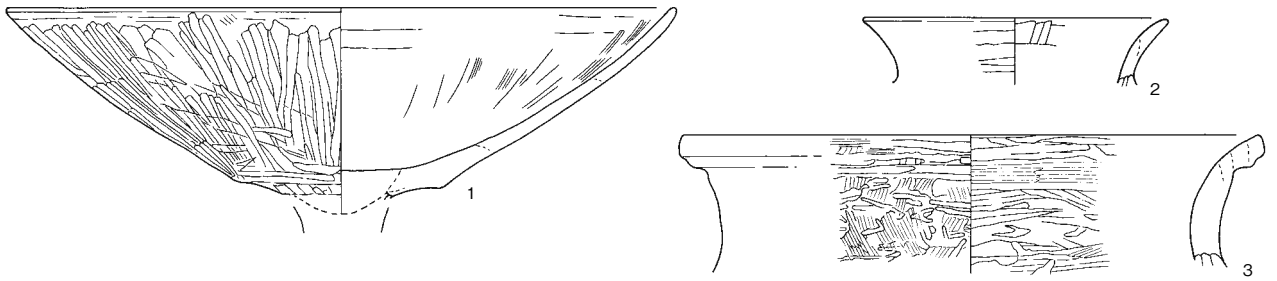


第152図　B区 SI遺物(21)

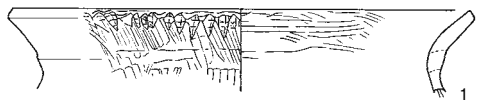


(SI20)

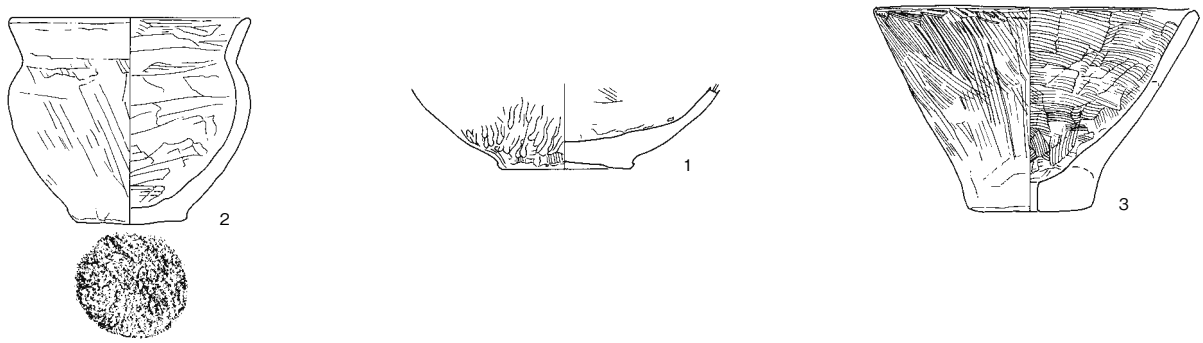
SI21



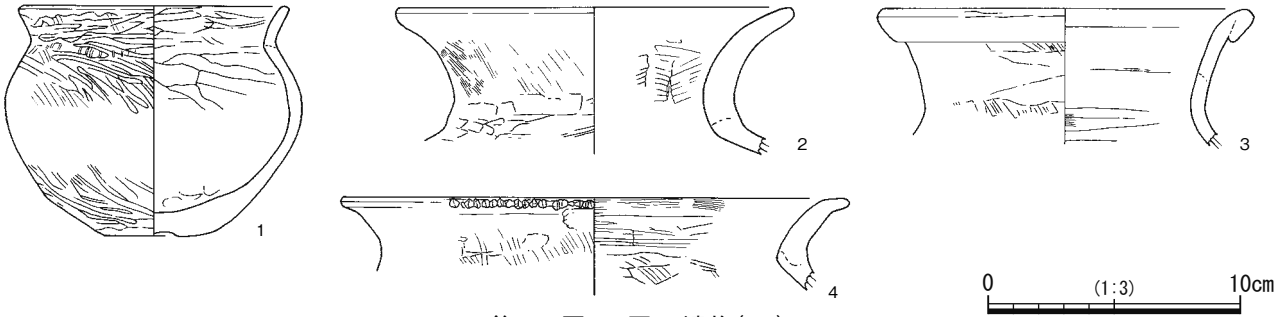
SI22



SI23

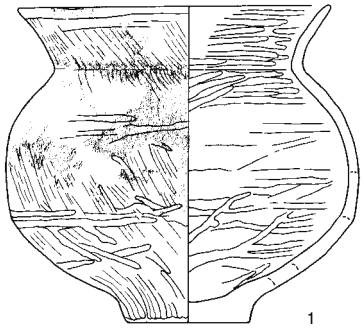


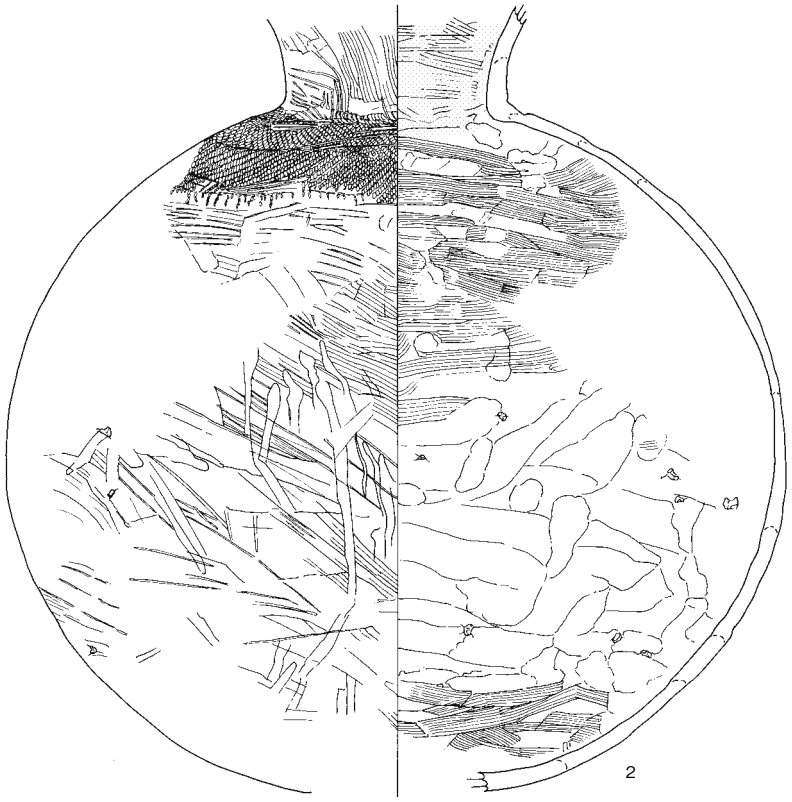
SI24

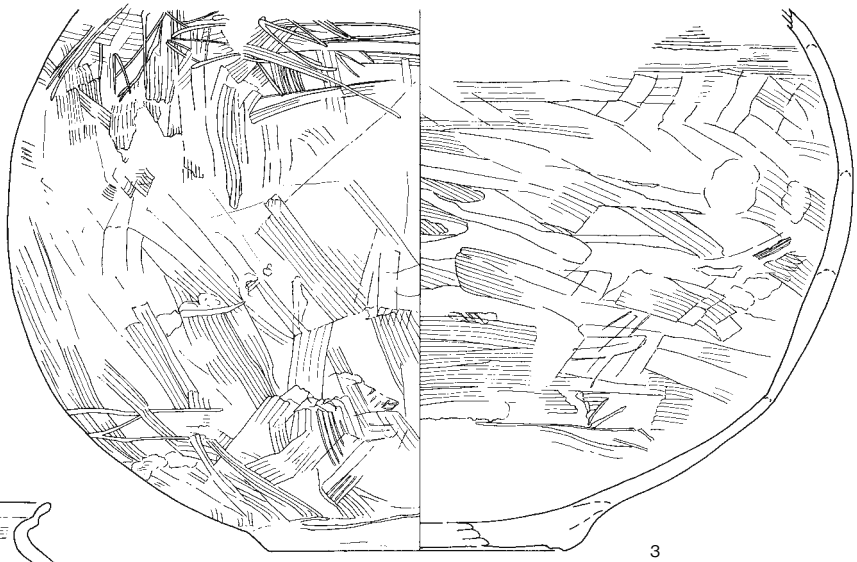


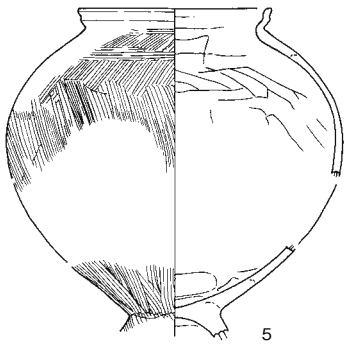
第153図　B区 SI遺物(22)

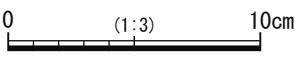
SI25



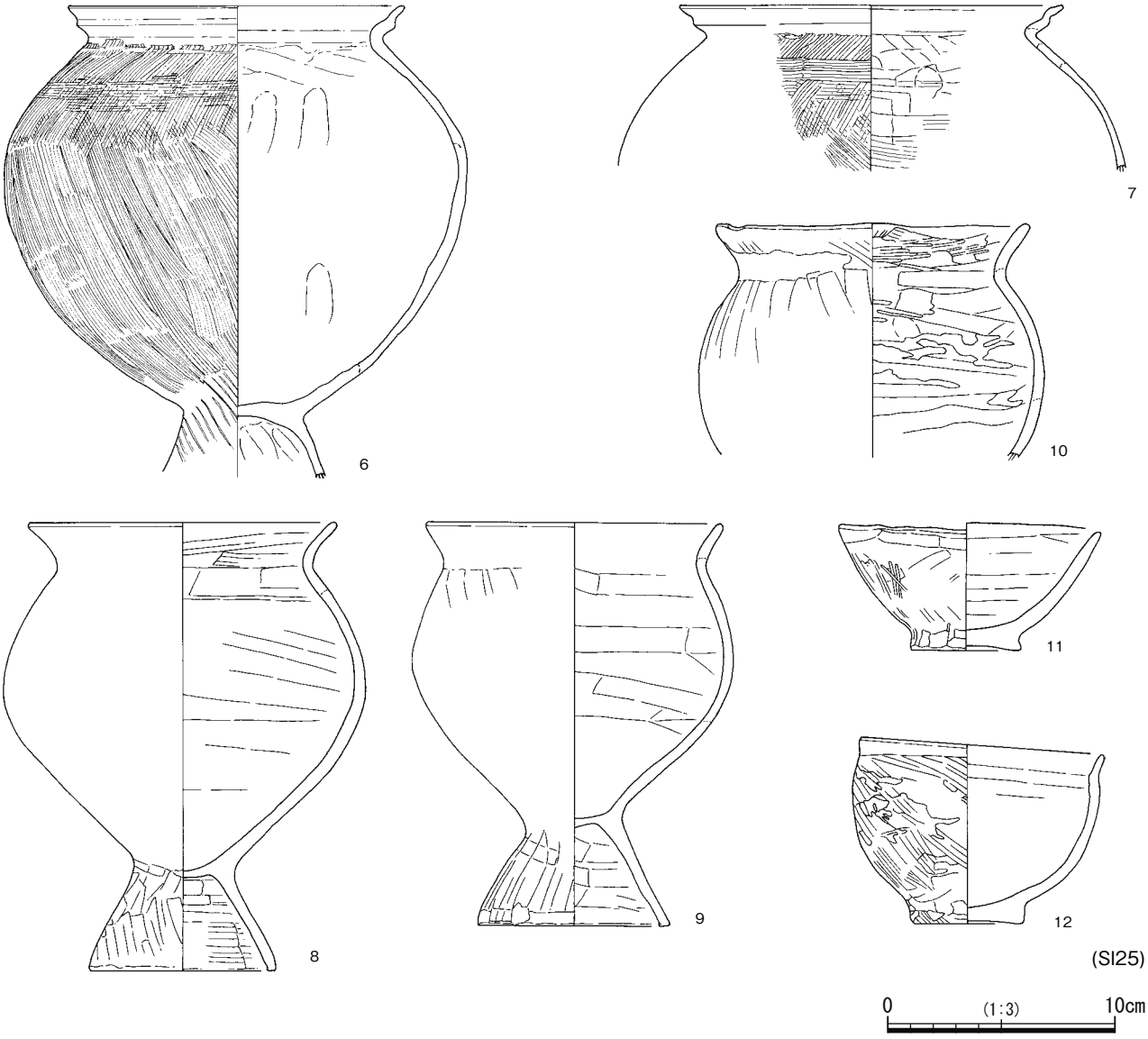


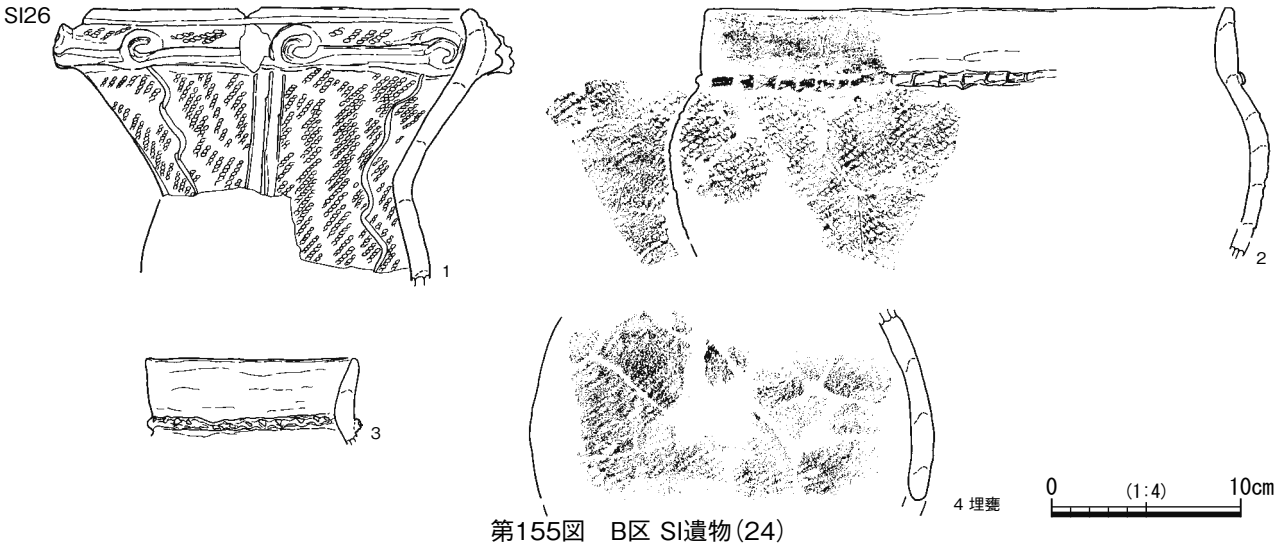






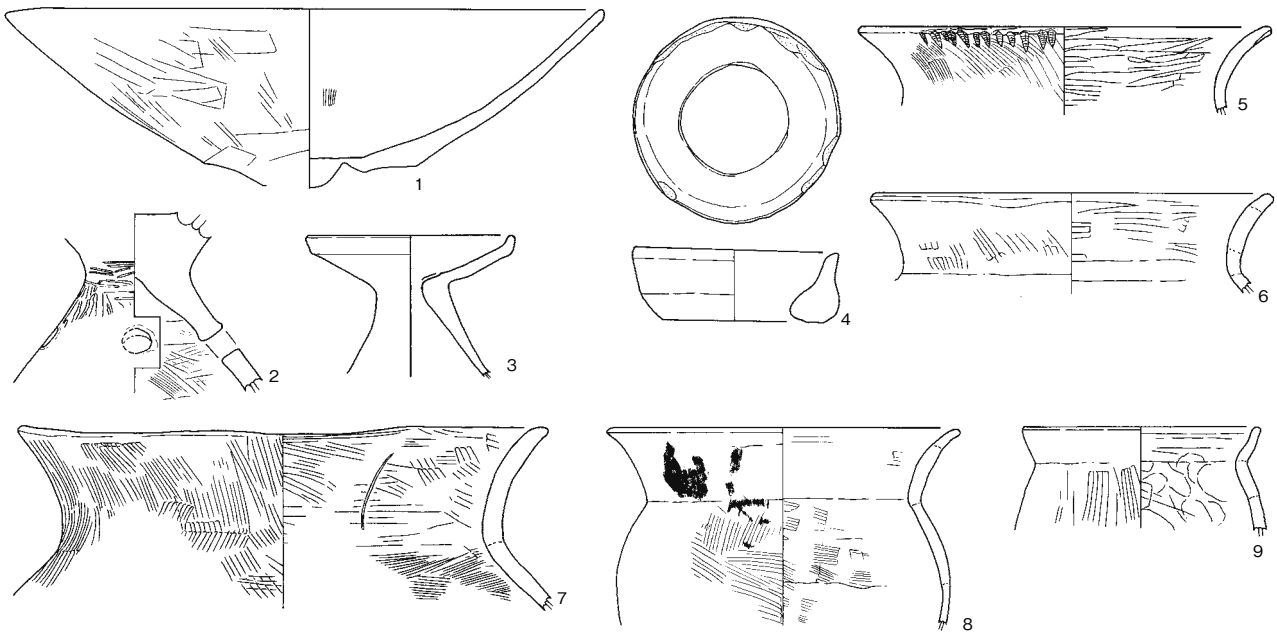
第154図　B区 SI遺物(23)



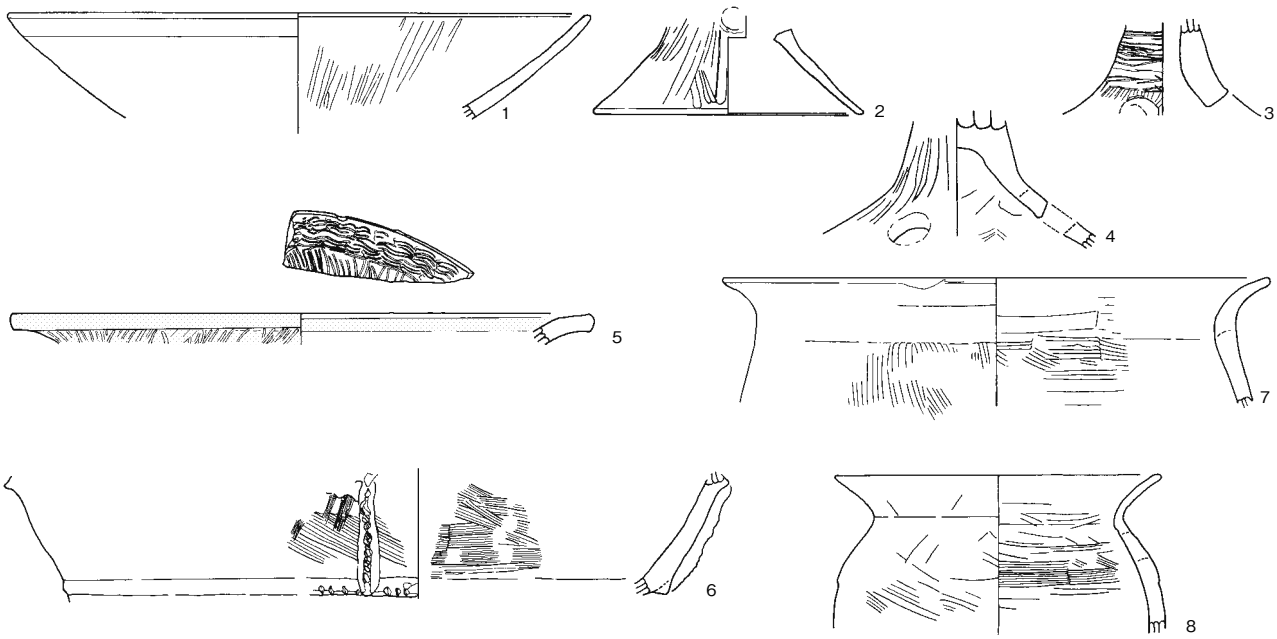


第155図　B区 SI遺物(24)

SI27

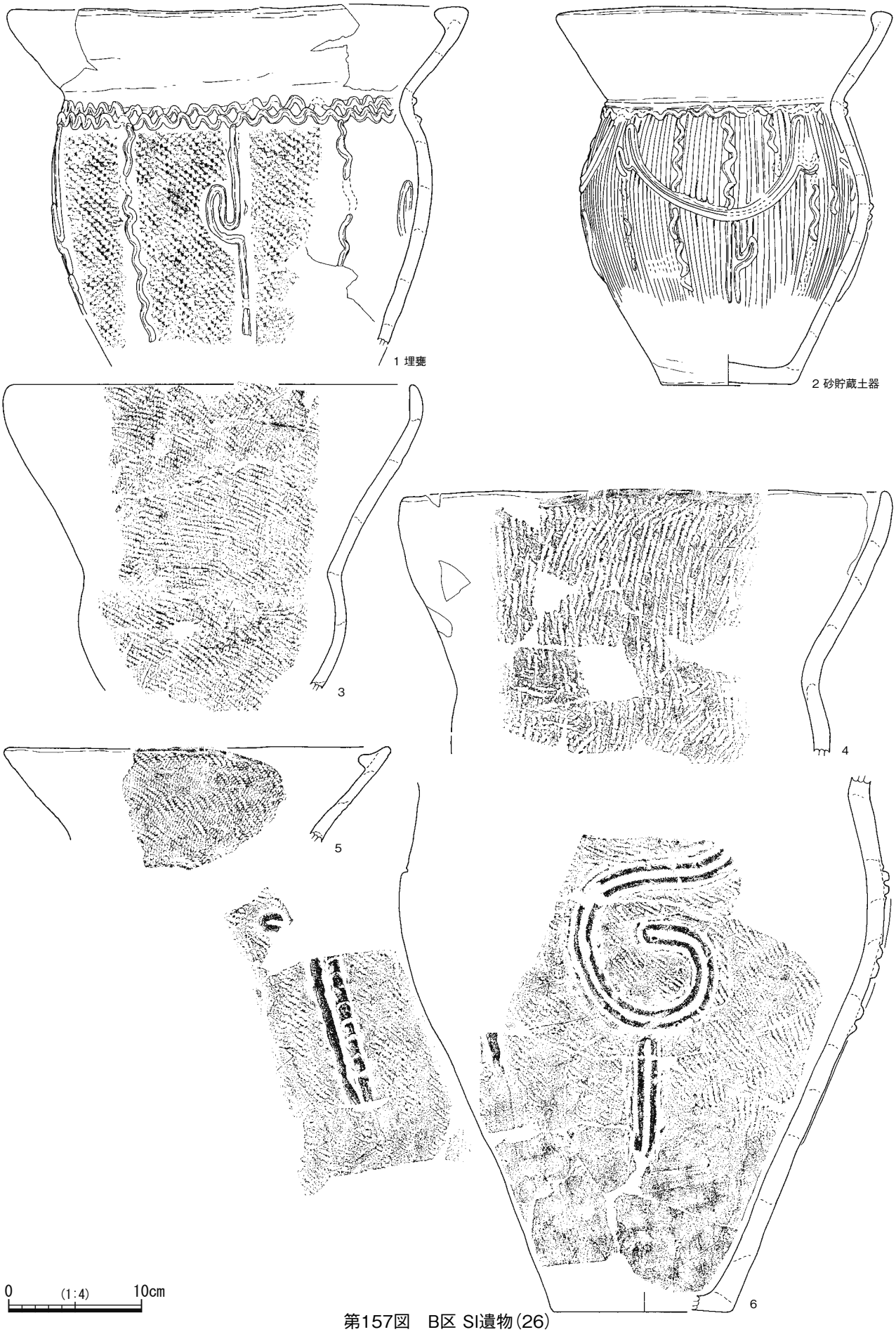


SI28



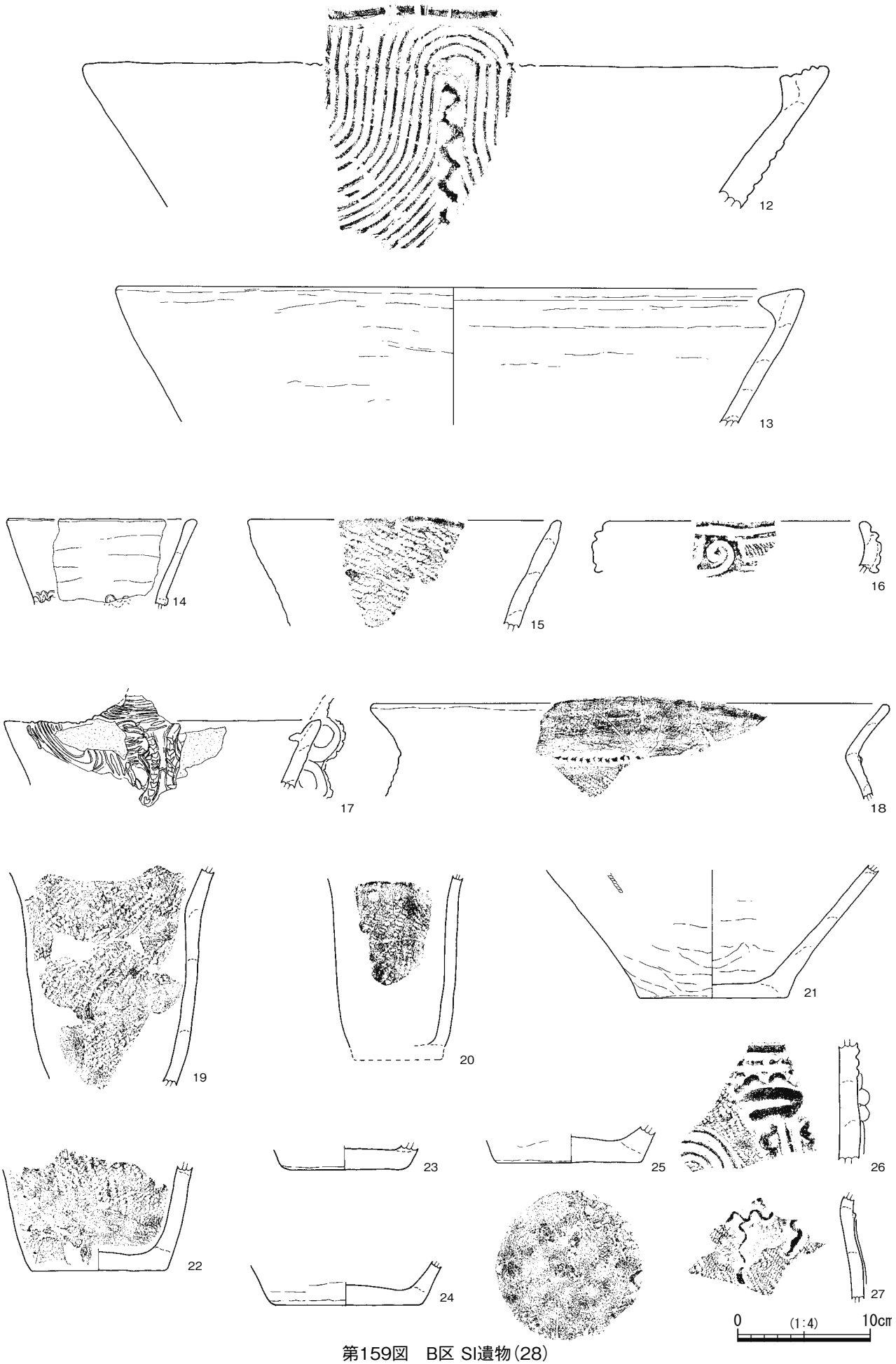
第156図　B区 SI遺物(25)

SI29

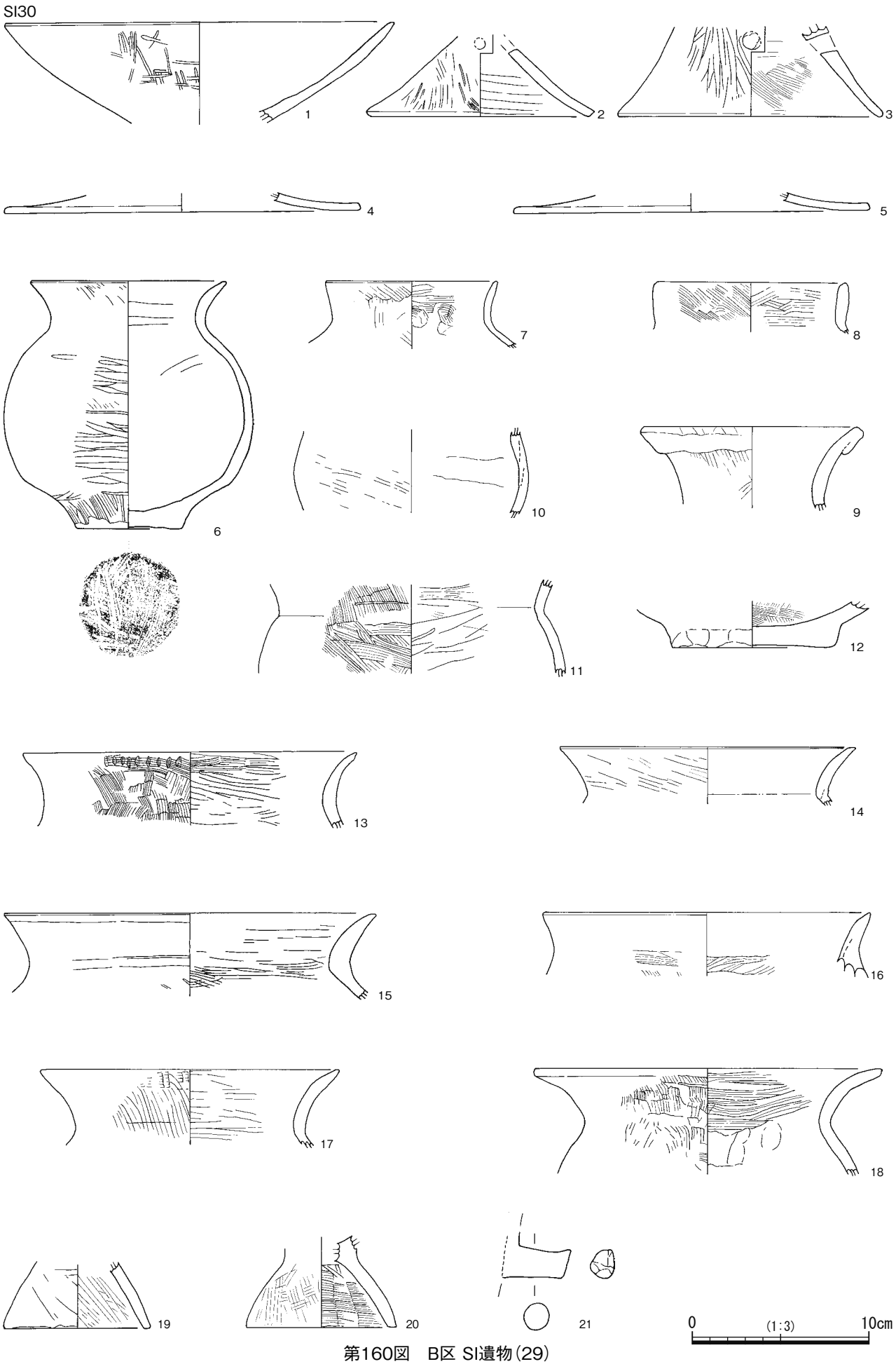


第157図　B区 SI遺物(26)

第158図　B区 SI遺物(27)

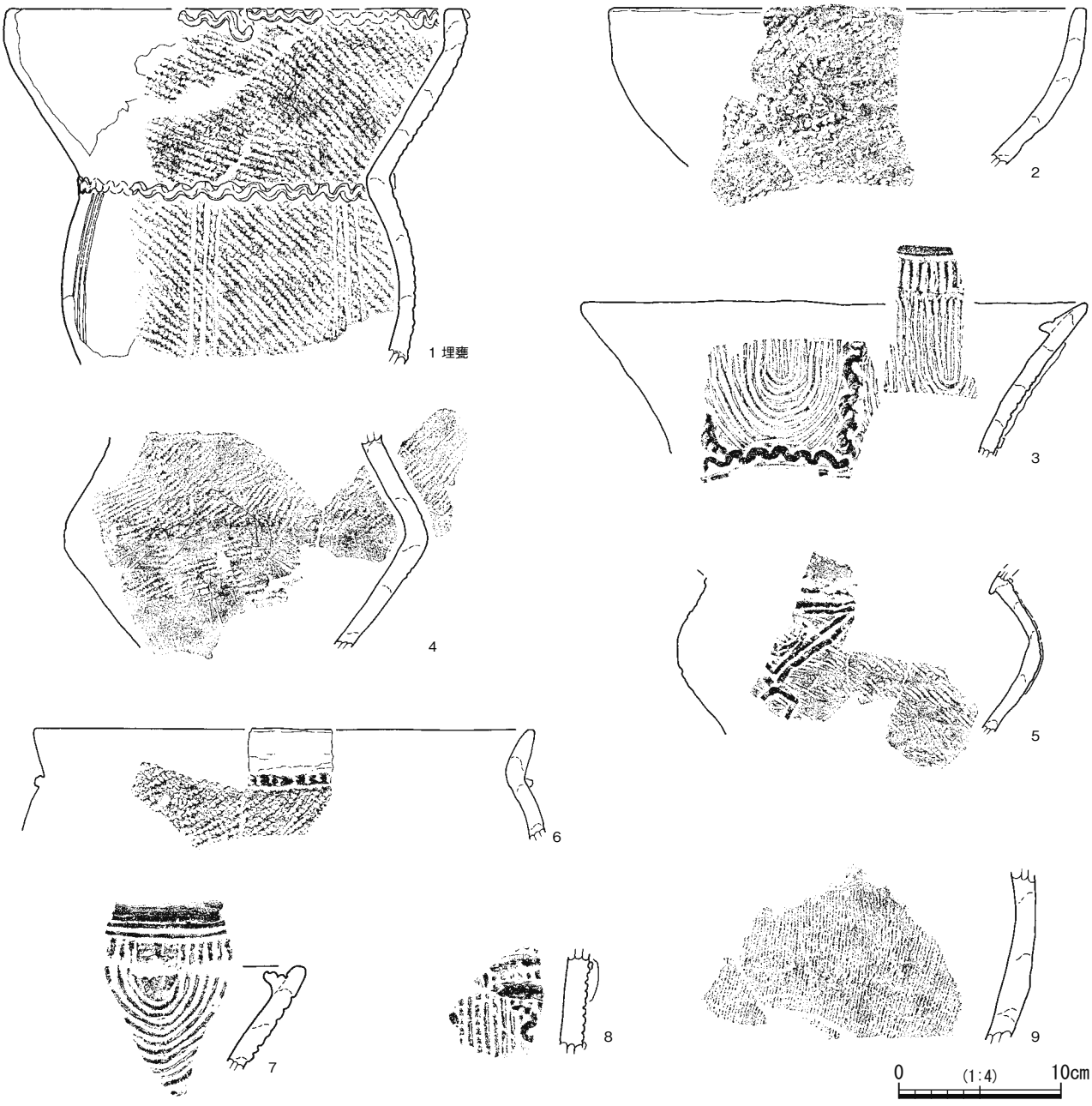


第159図　B区 SI遺物(28)

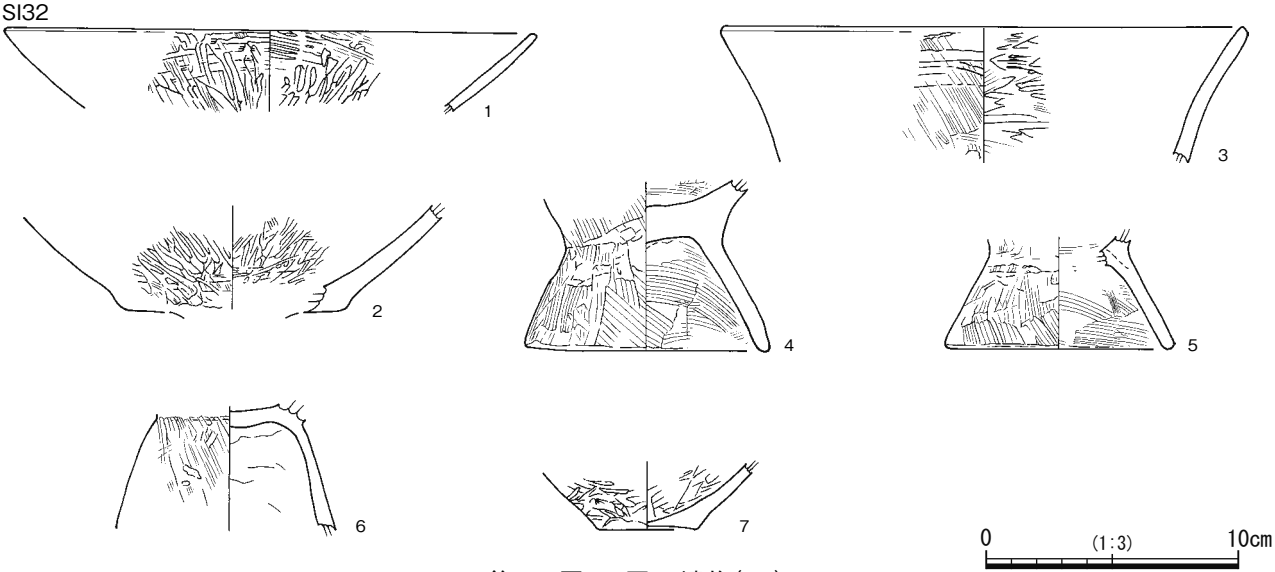


第160図　B区 SI遺物(29)

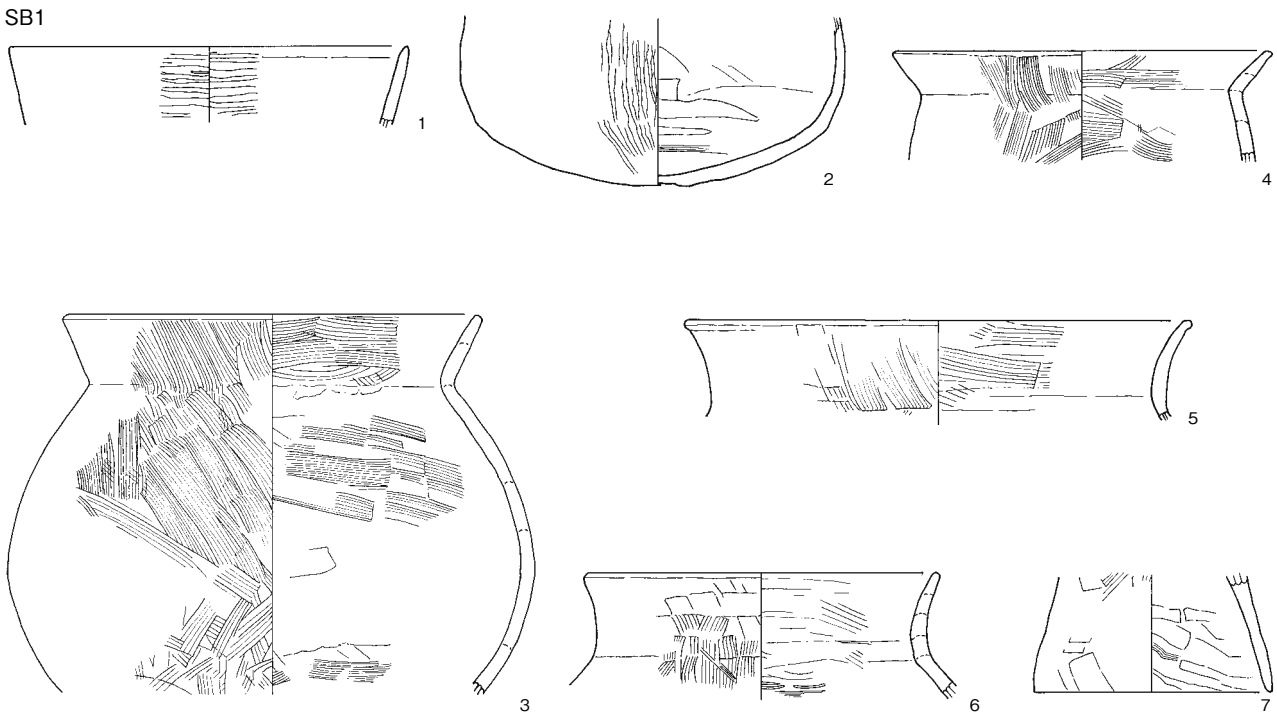
SI31

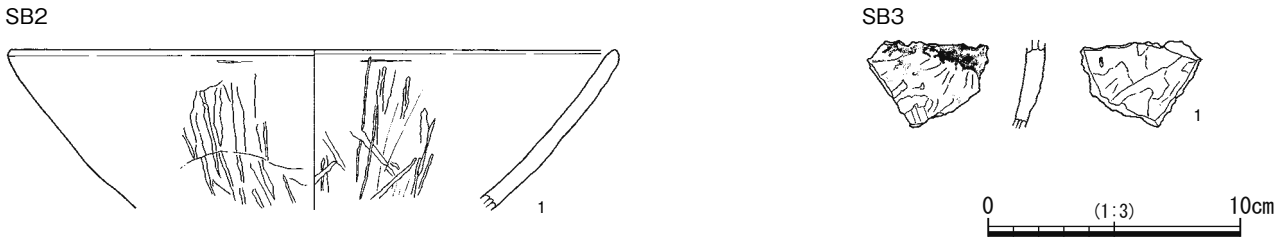


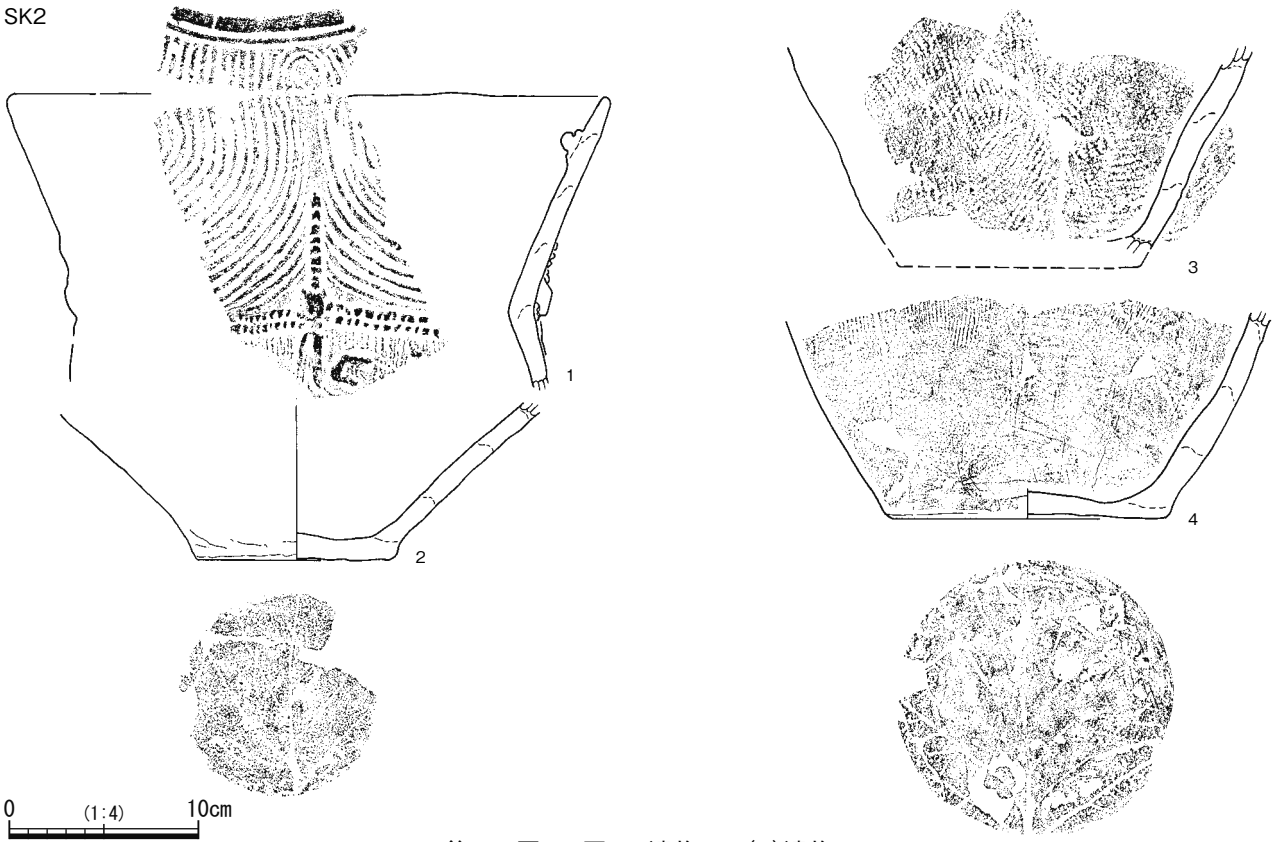
SI32



第161図　B区 SI遺物(30)

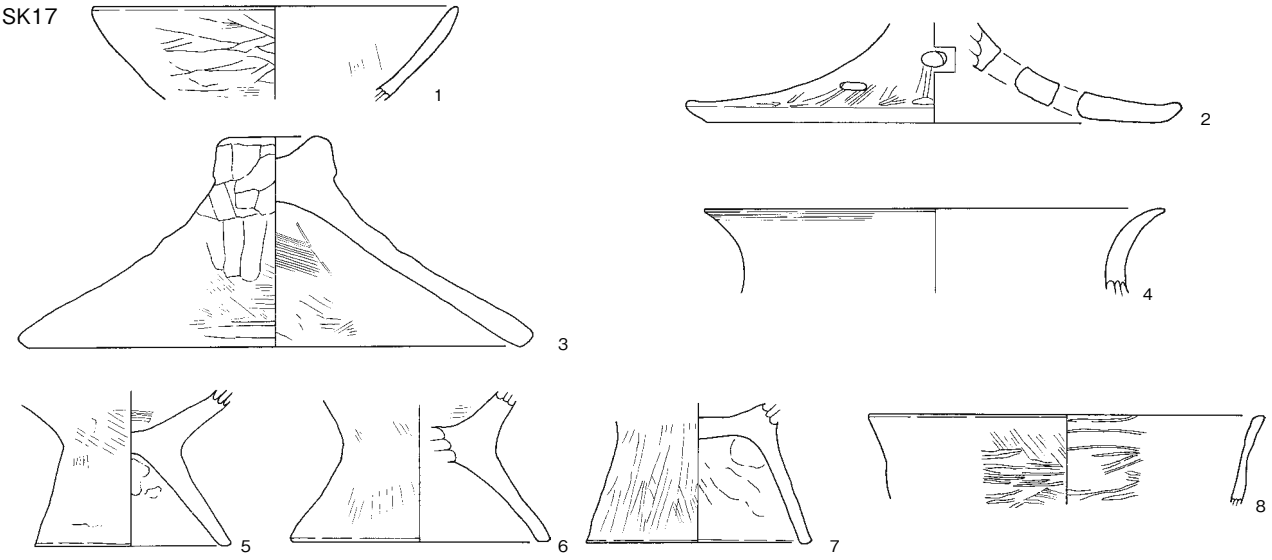




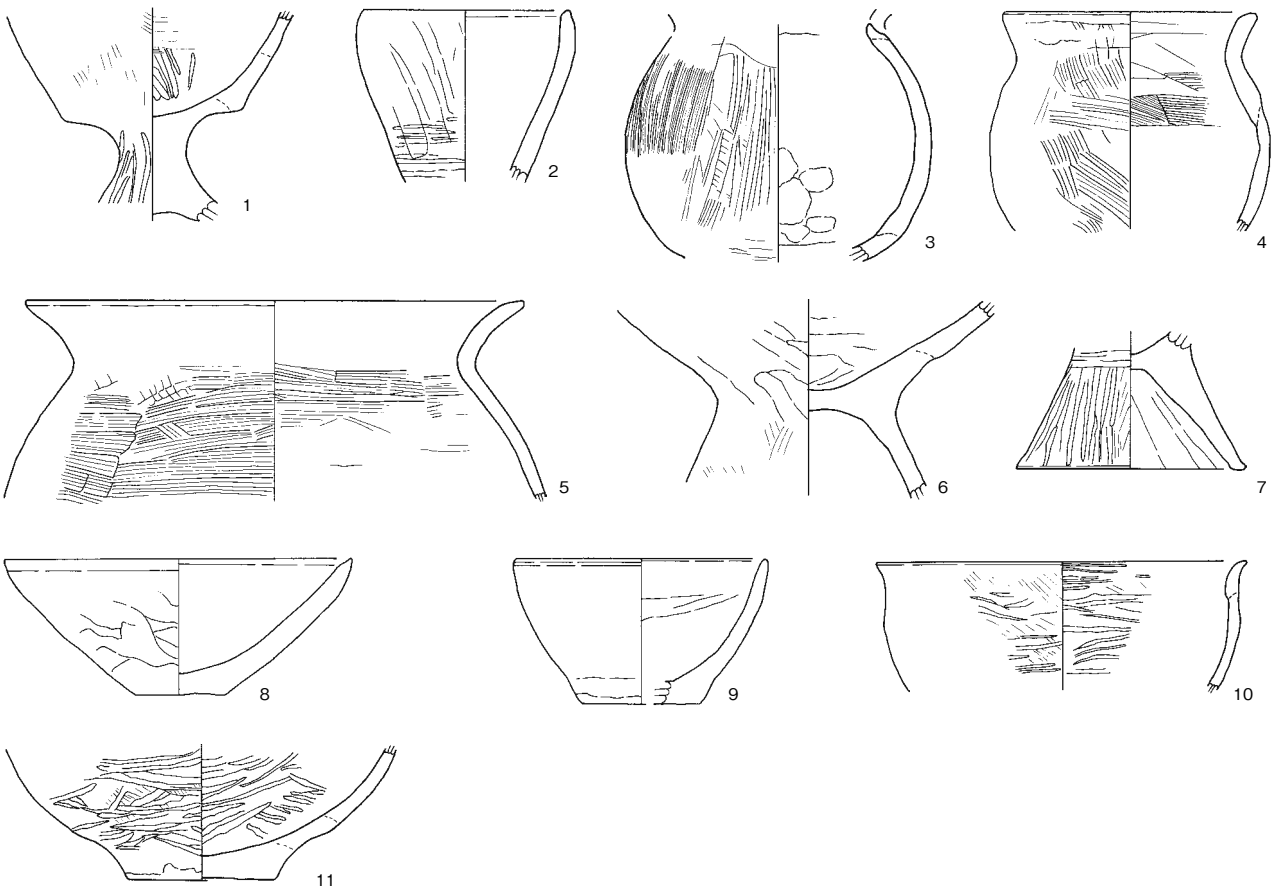


第162図　B区 SB遺物、SK(1)遺物

SK17



SK18

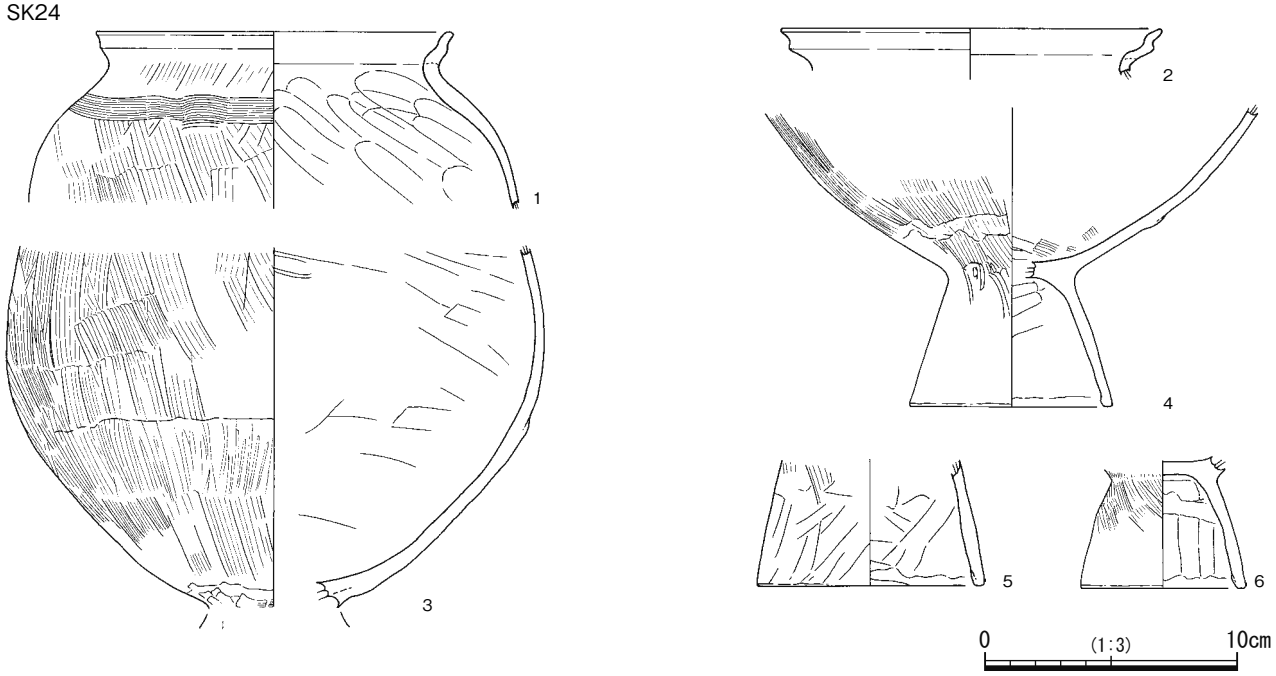


SK20

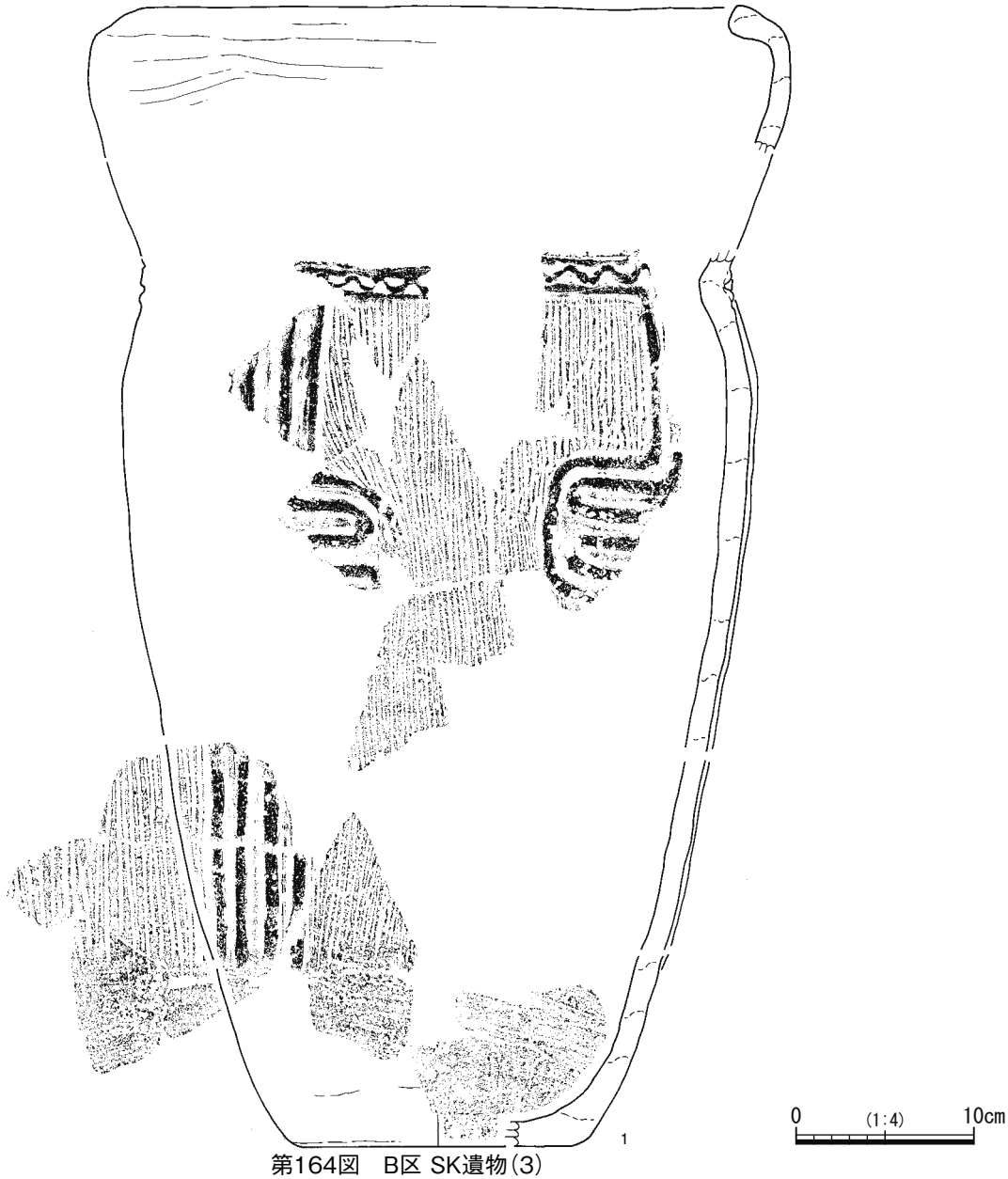
0 (1:3) 10cm

第163図　B区 SK遺物(2)

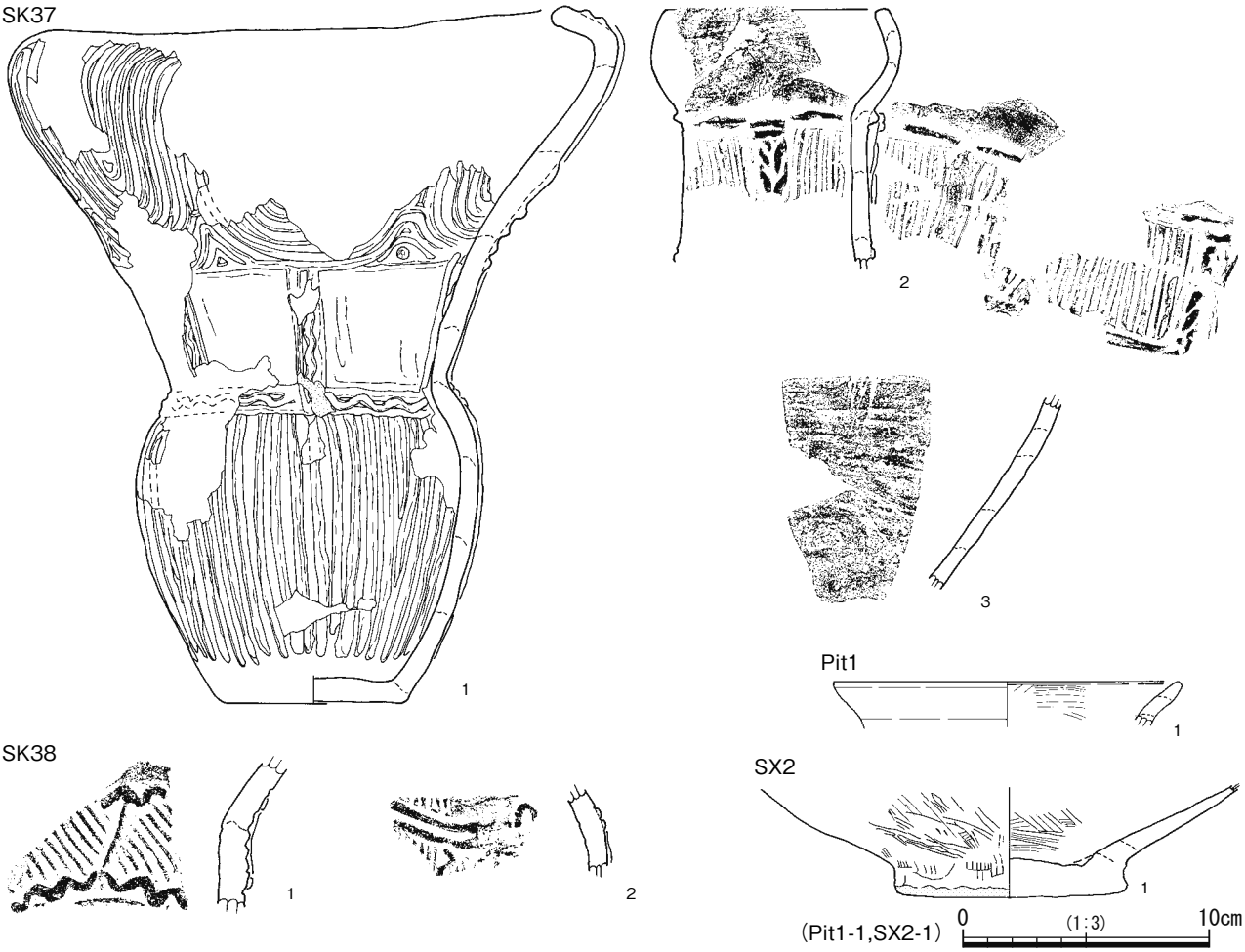
SK24



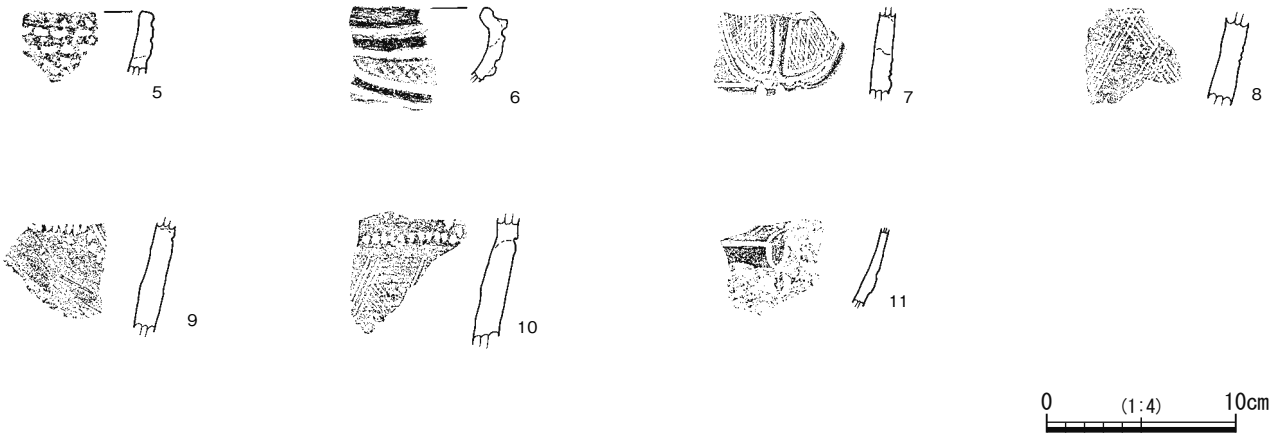
SK27

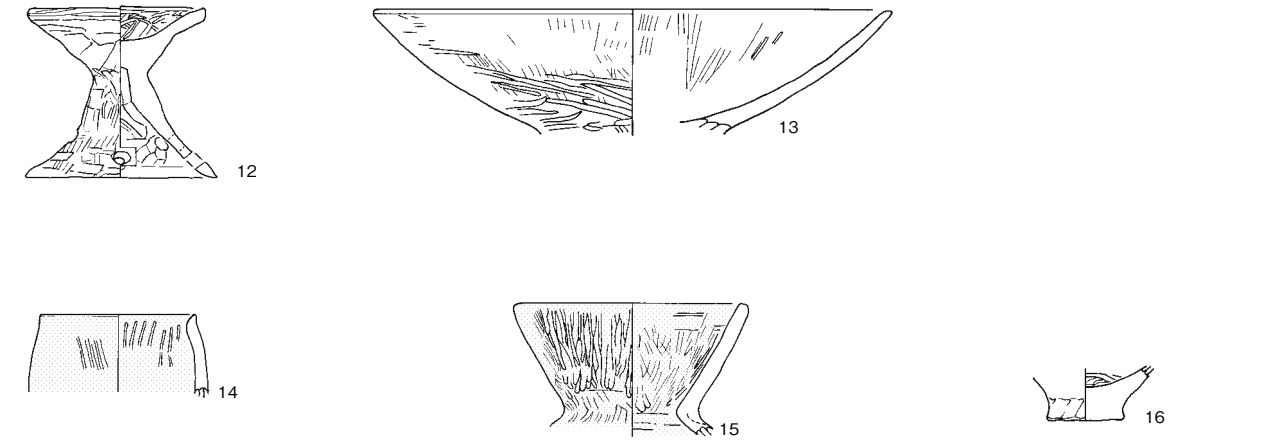


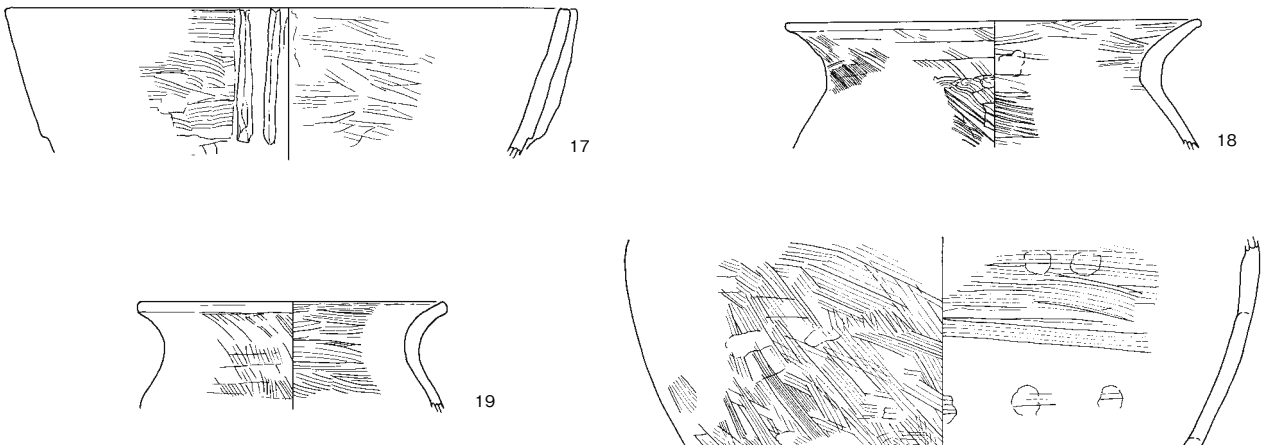
第164図　B区 SK遺物(3)



第165図　B区 SK遺物(4)、B区遺構外遺物(1)

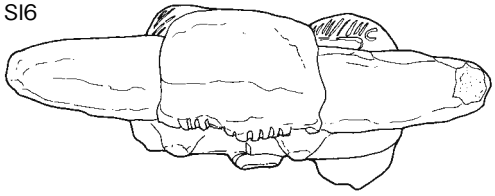


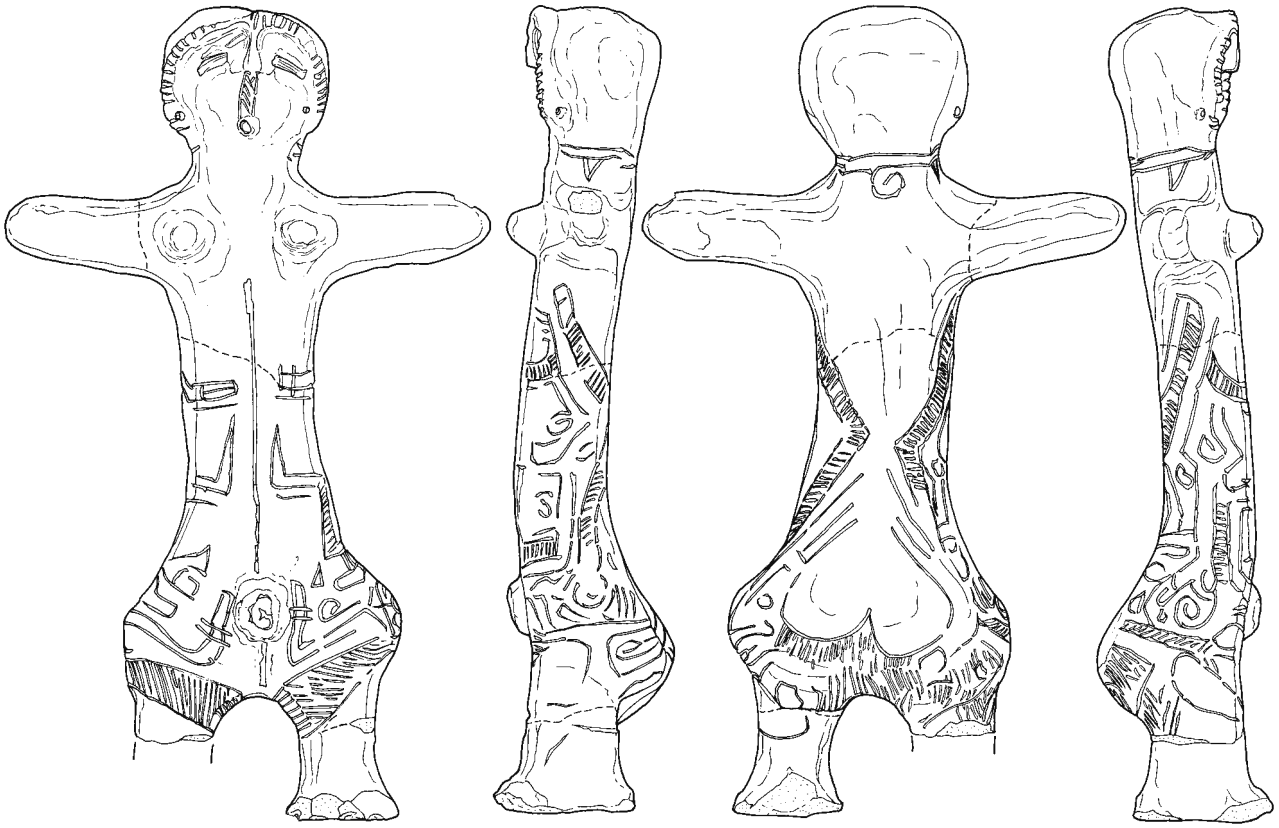




第166図　B区遺構外遺物(2)

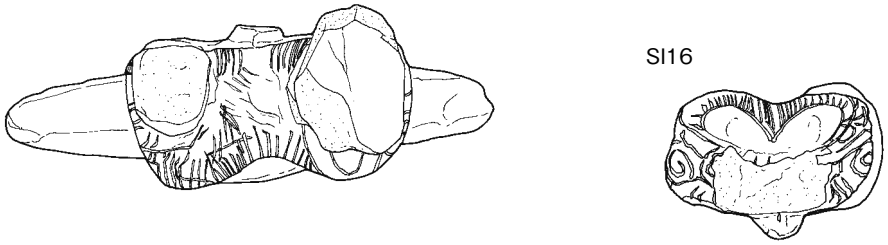
土偶
SI6

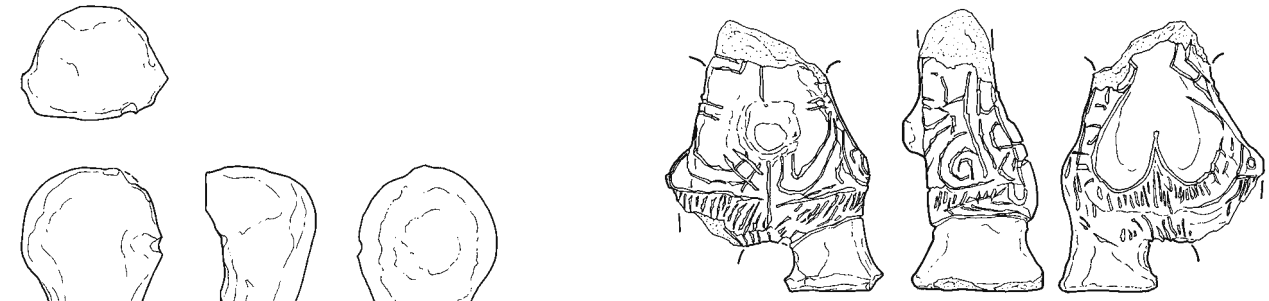




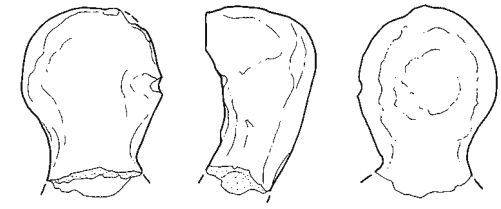
D1

SI16

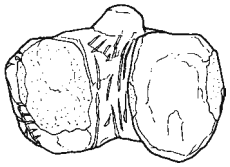




D3

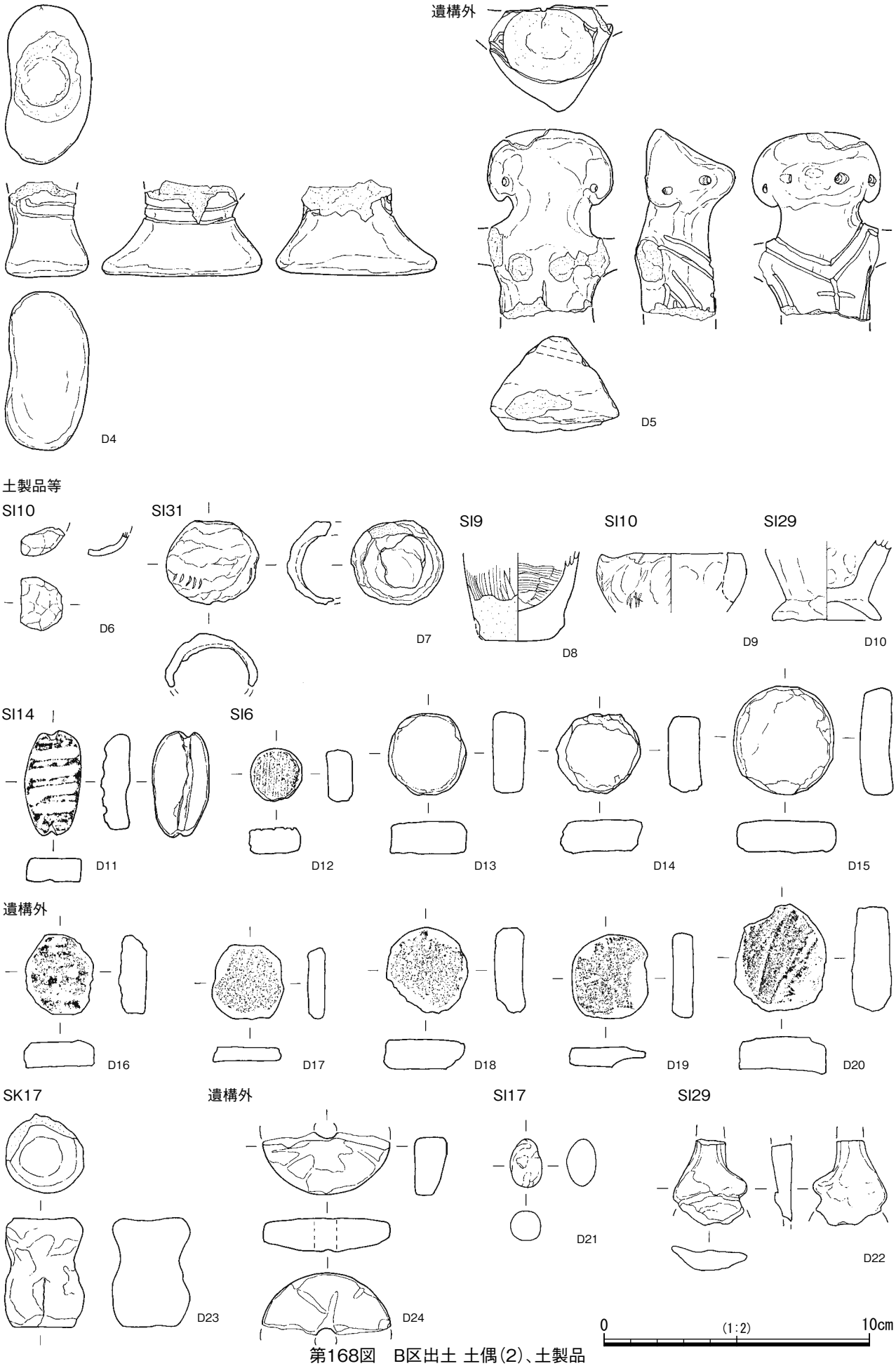


D2

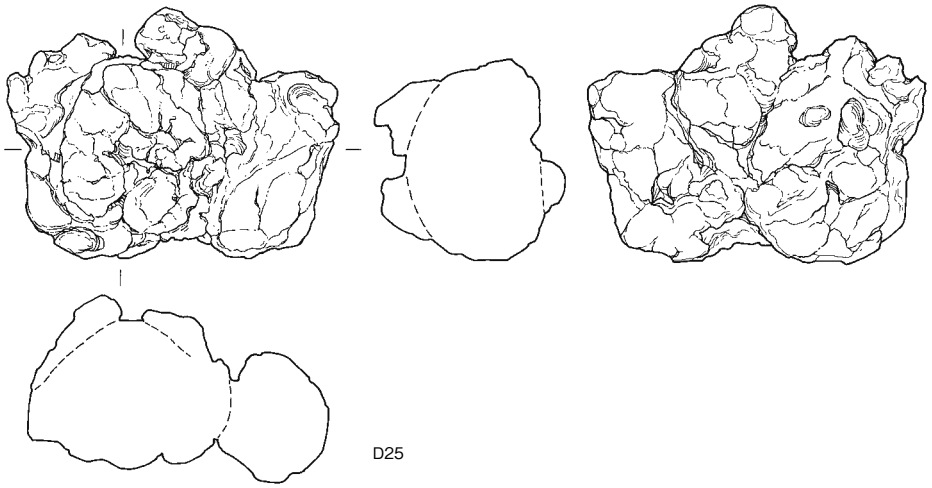


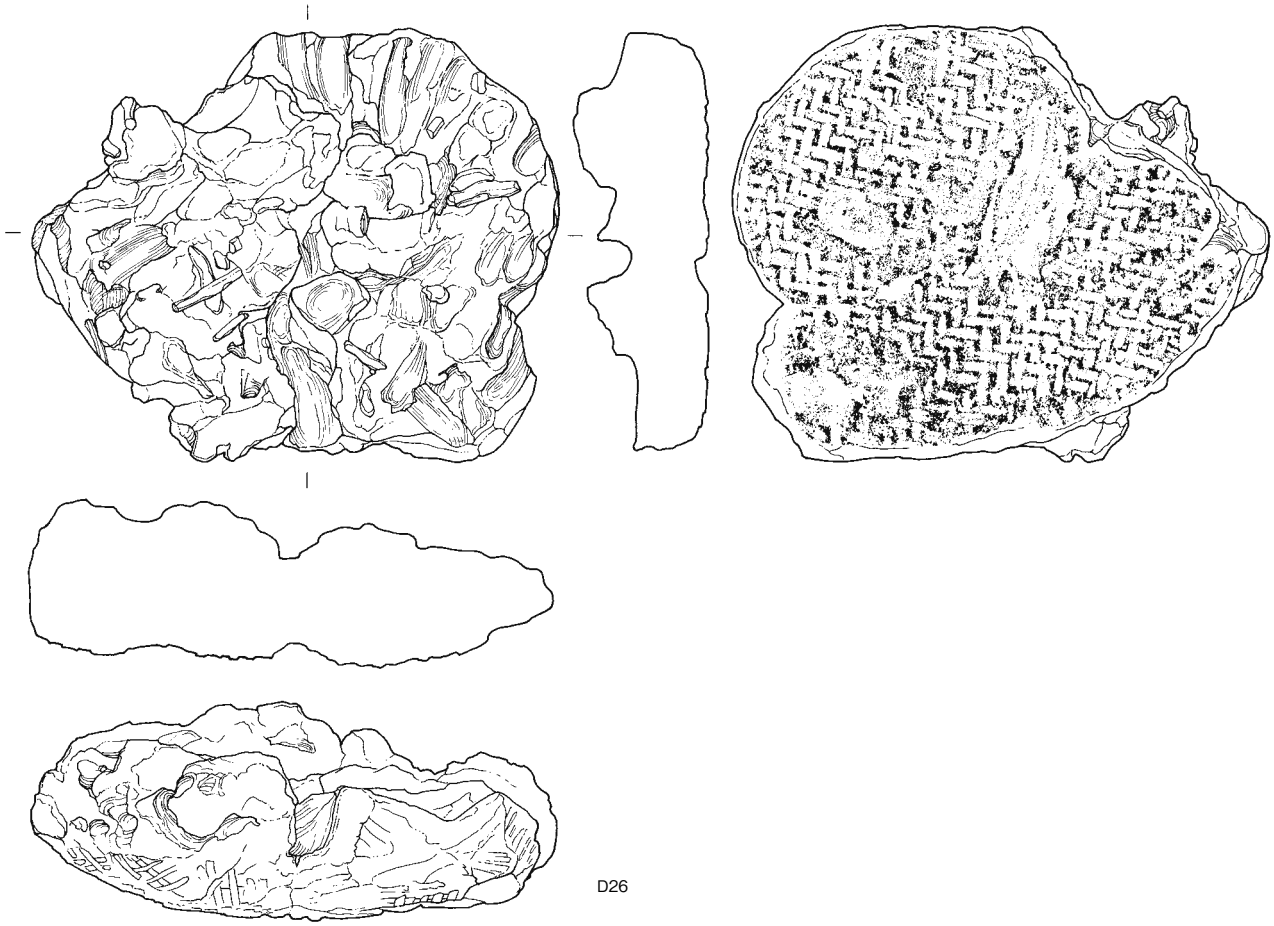
0 (1:2) 10cm

第167図　B区出土 土偶(1)



第168図　B区出土 土偶(2)、土製品



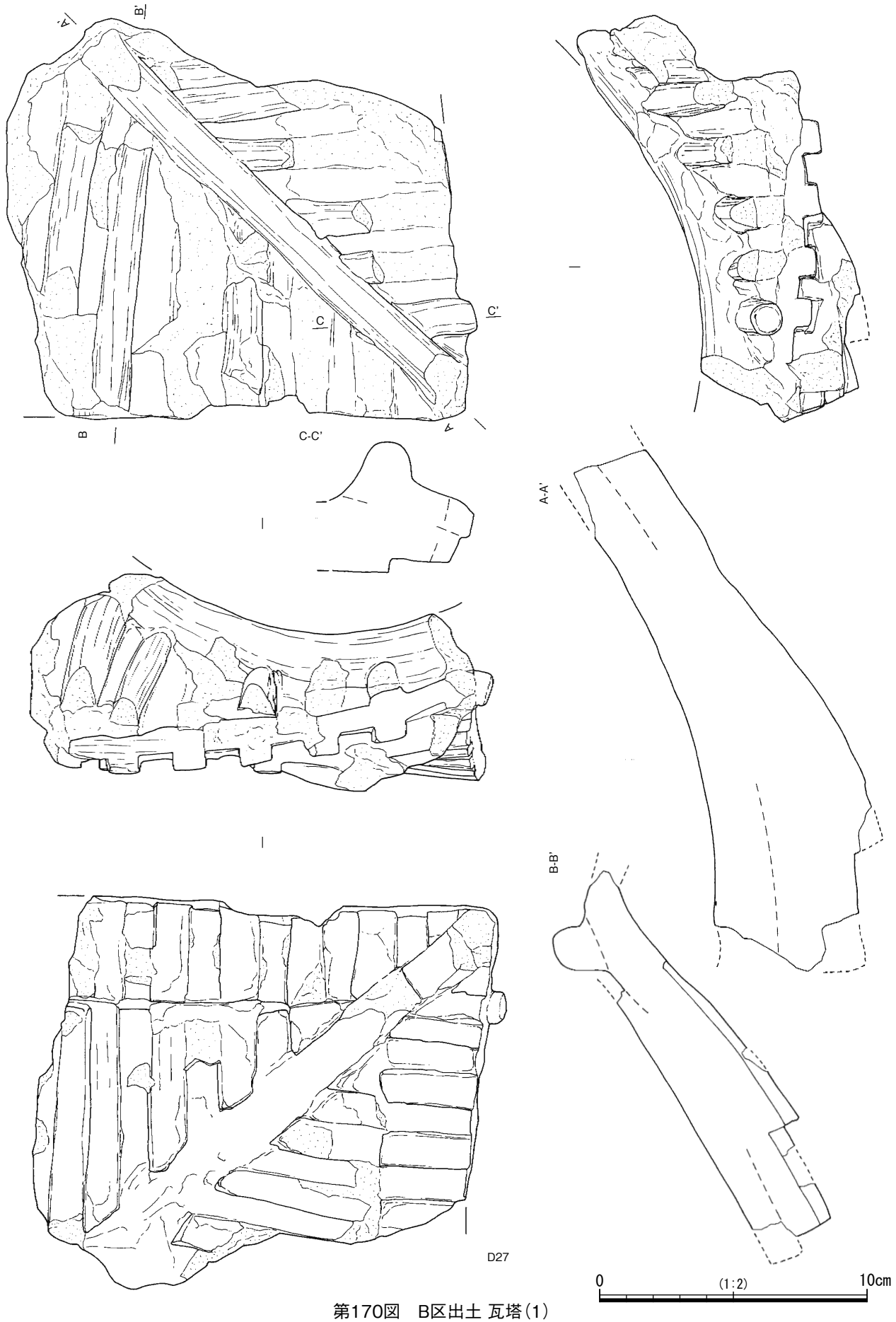


0　(1:3)　10cm

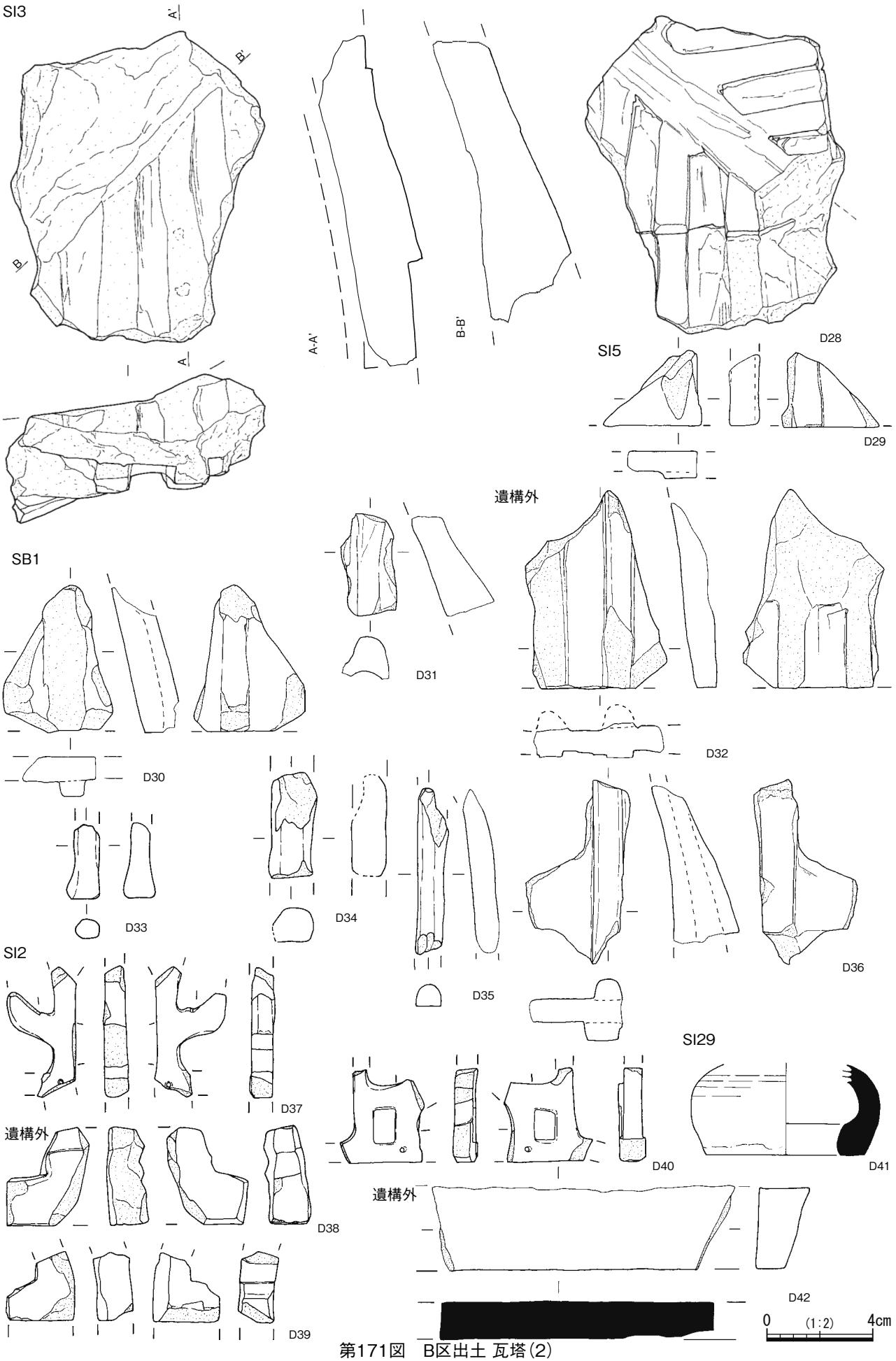
第169図　B区 SI29粘土塊

瓦塔

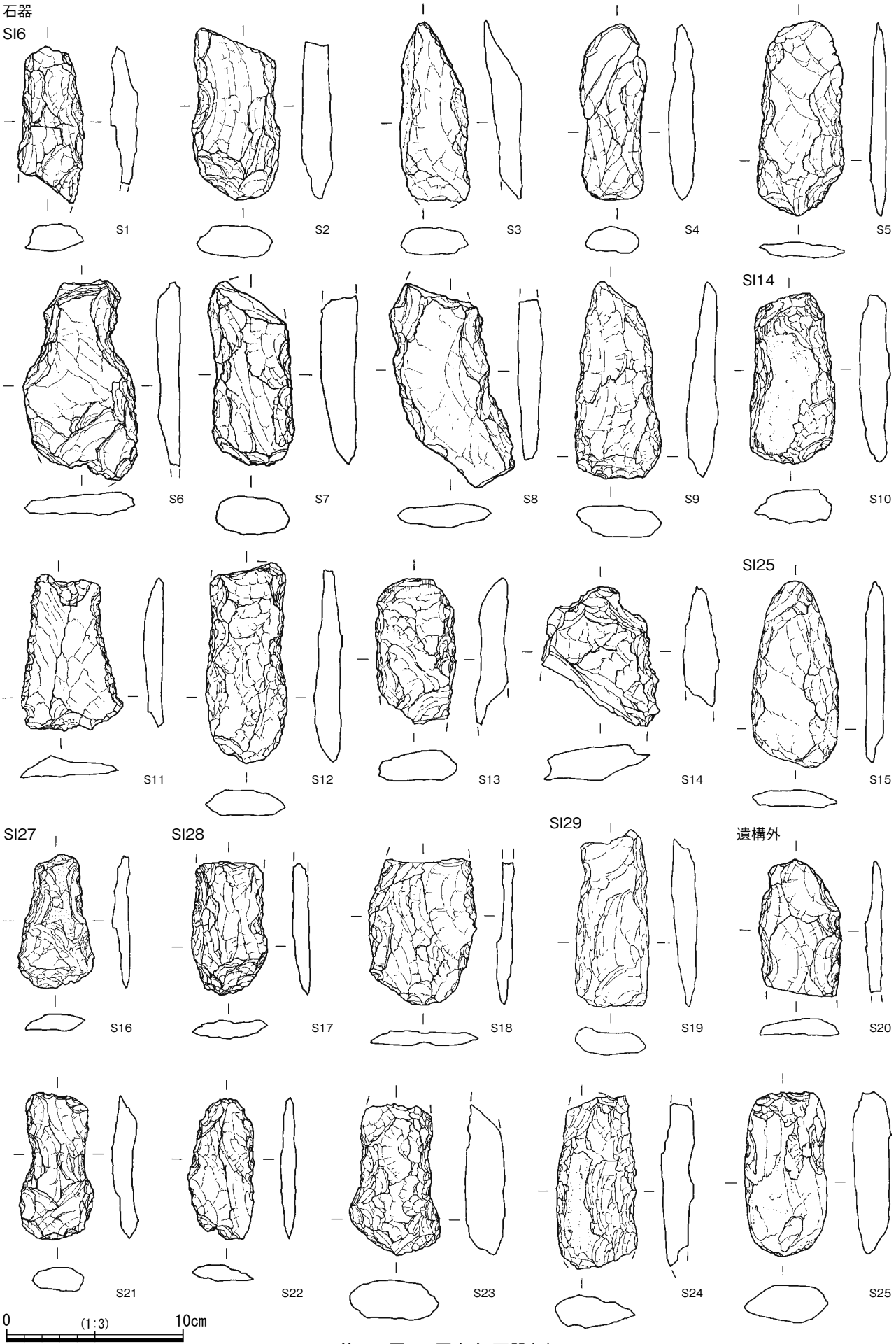
SI5



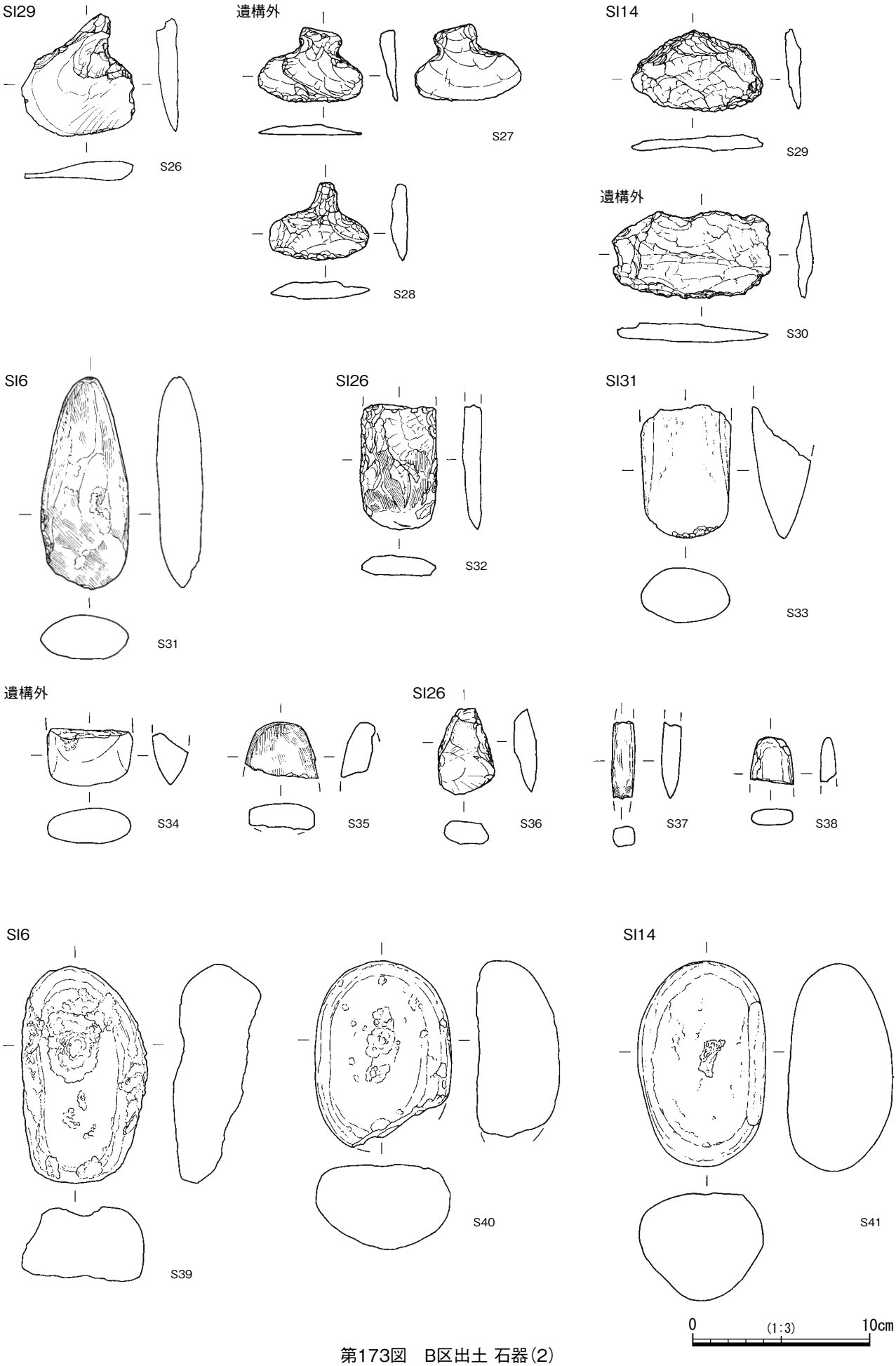
第170図　B区出土 瓦塔(1)



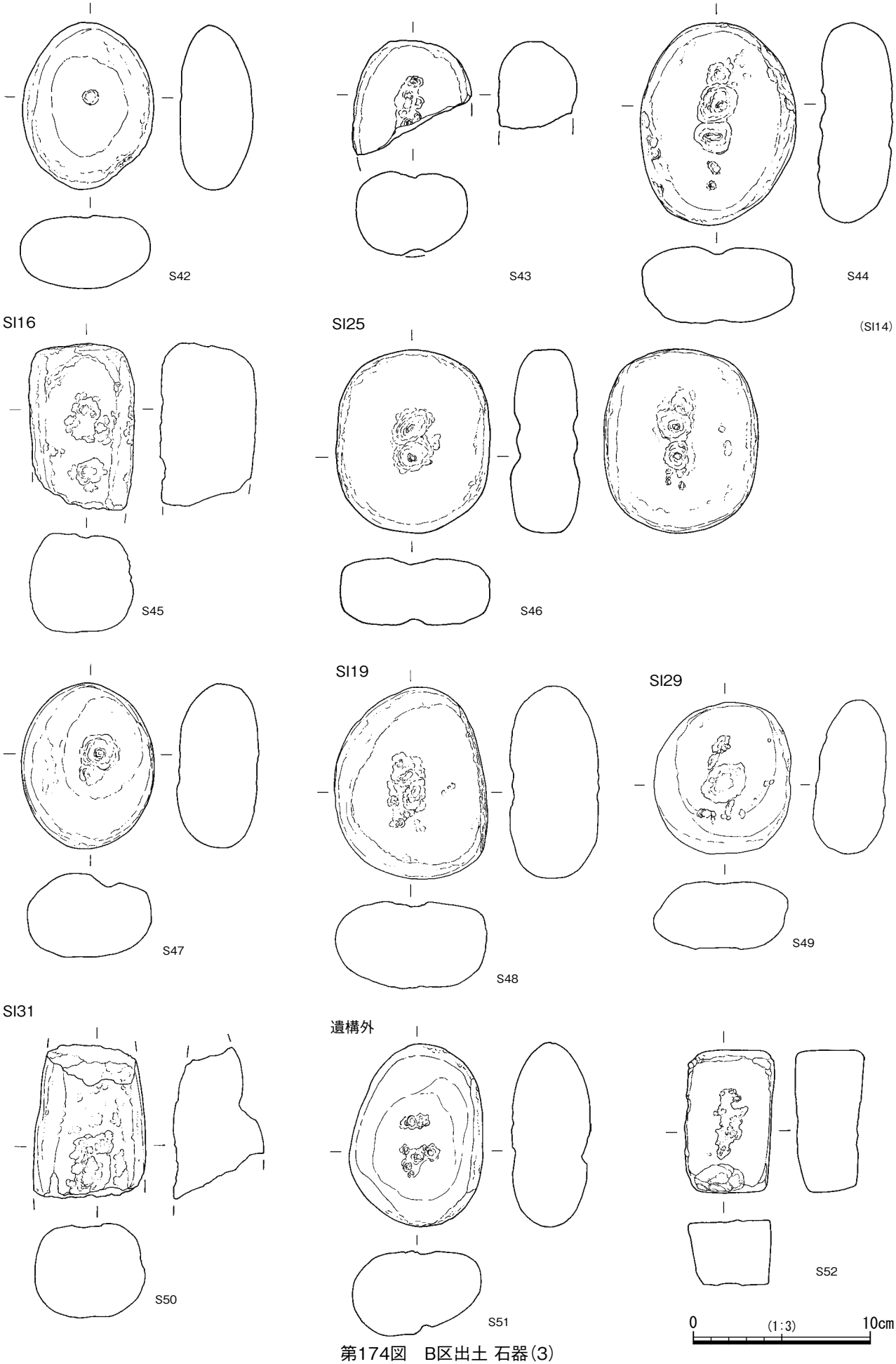
第171図　B区出土 瓦塔(2)



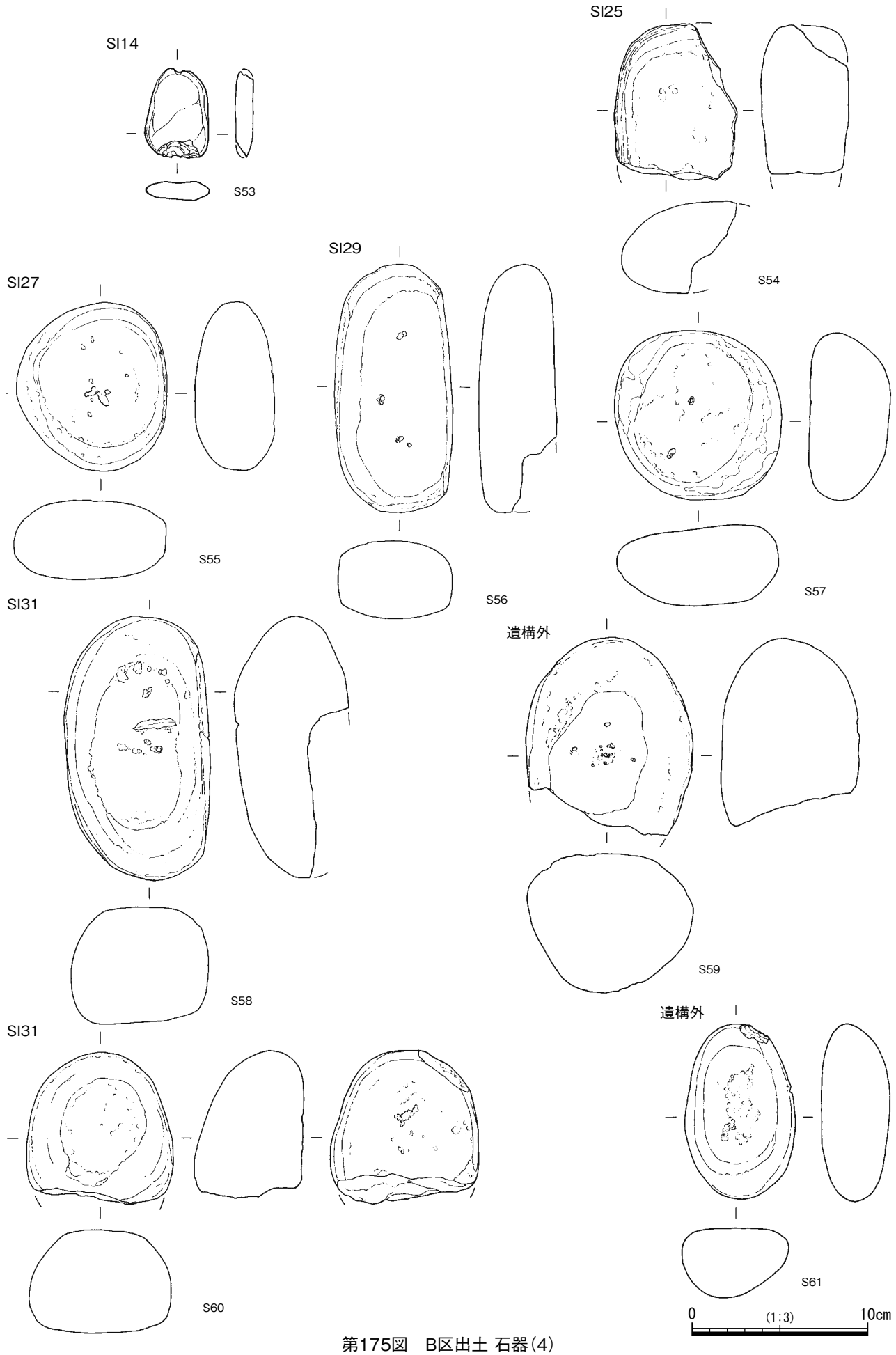
第172図　B区出土 石器(1)



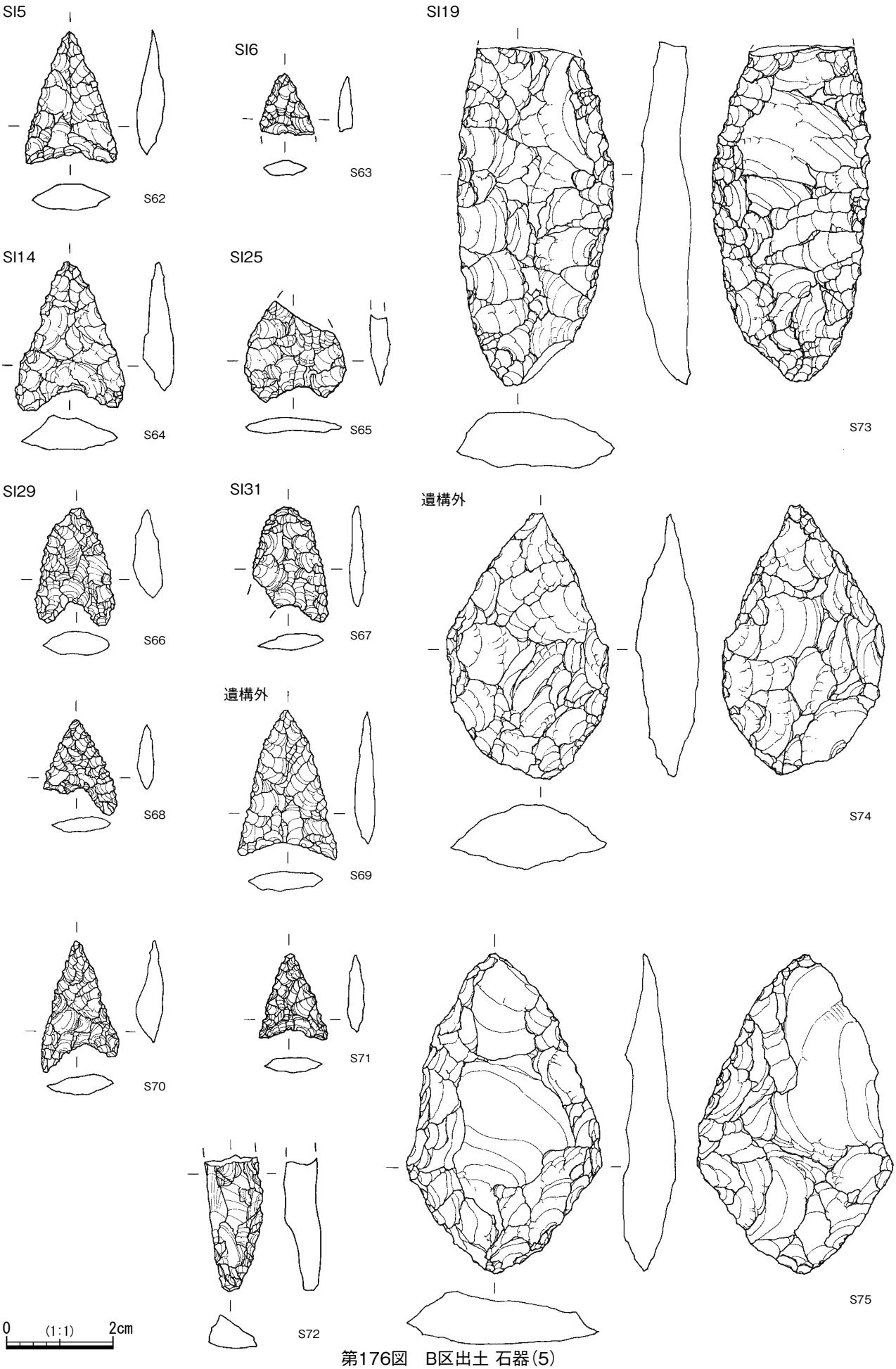
第173図　B区出土 石器(2)



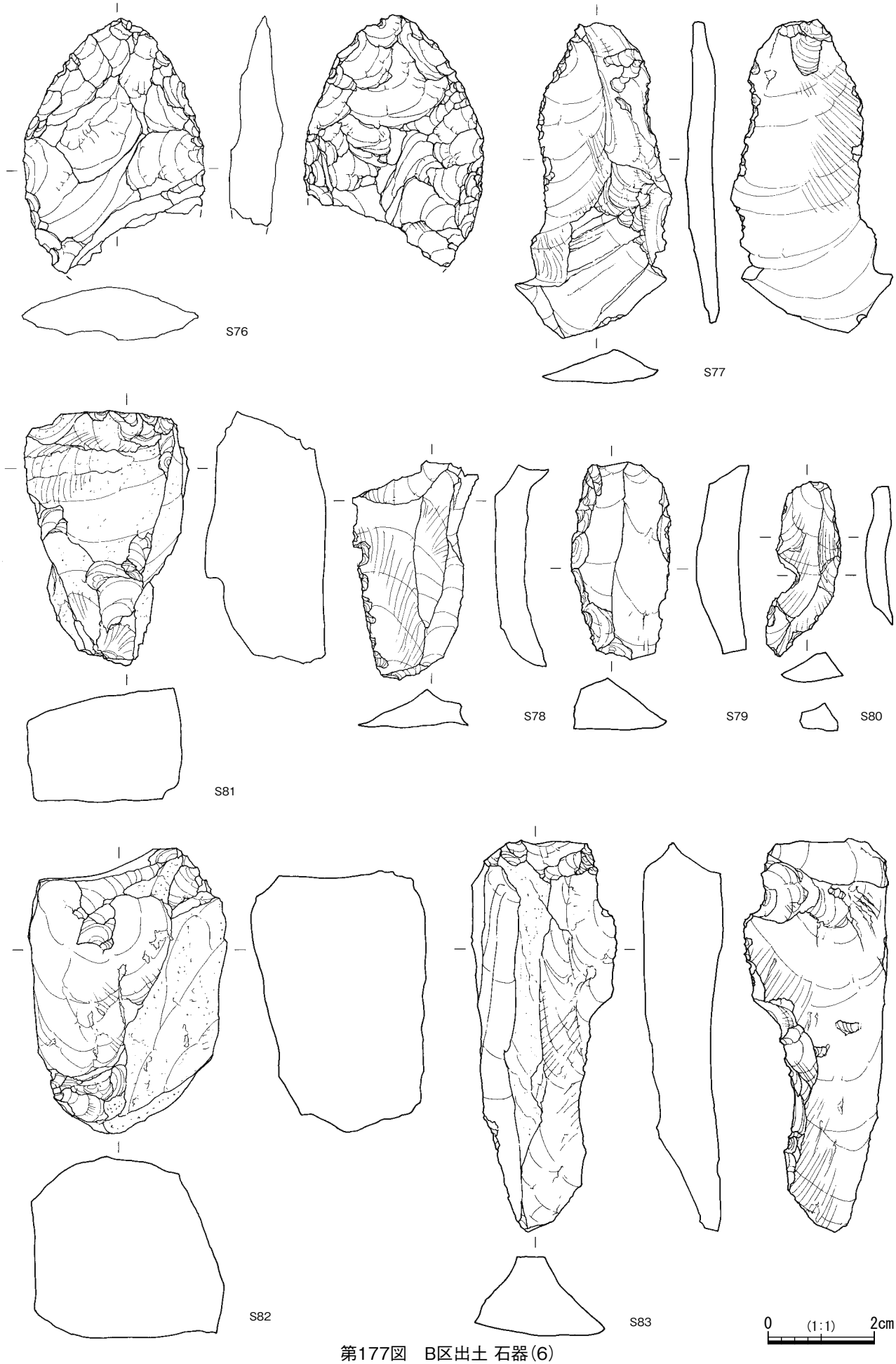
第174図　B区出土 石器(3)



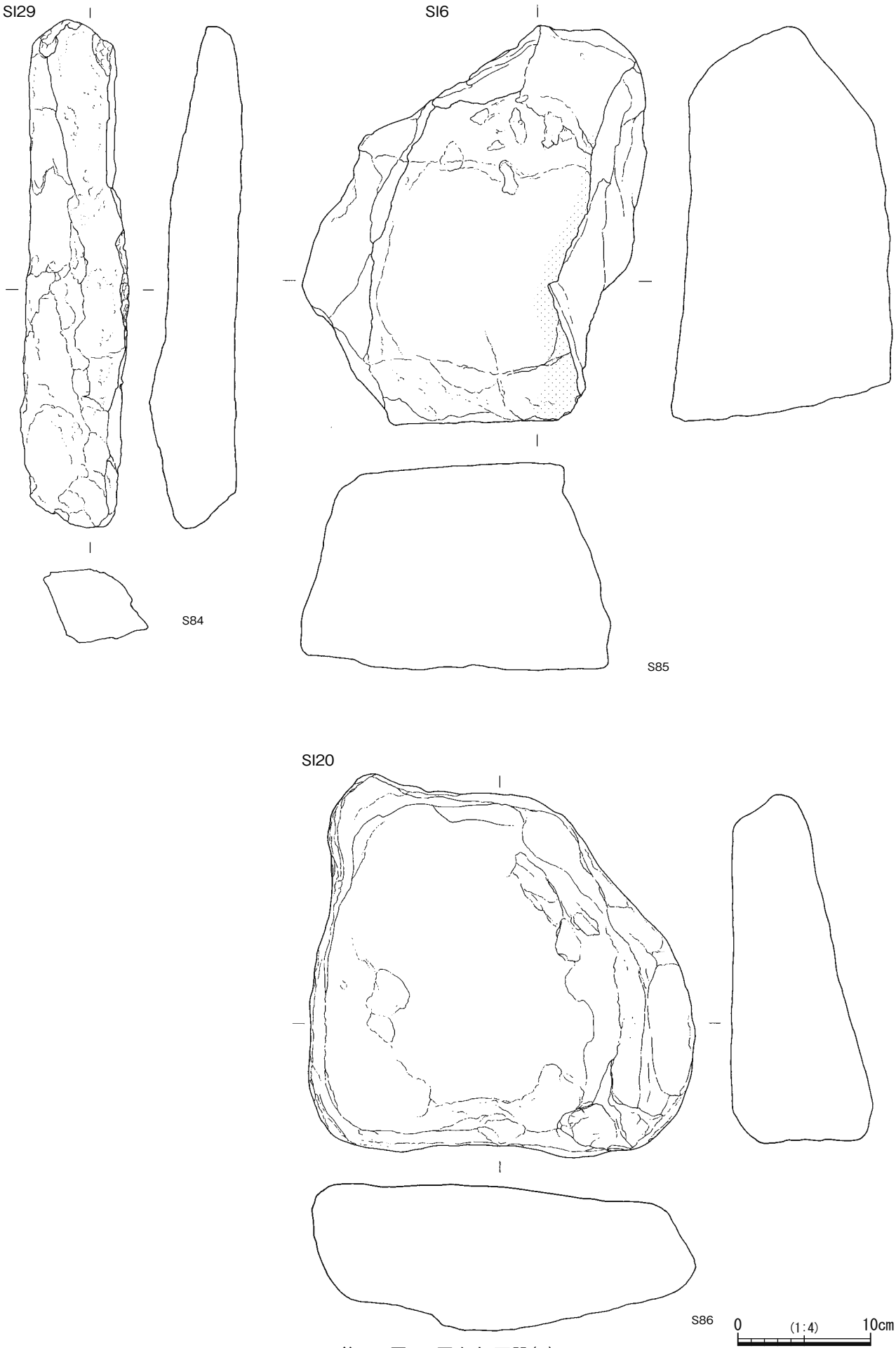
第175図　B区出土 石器(4)



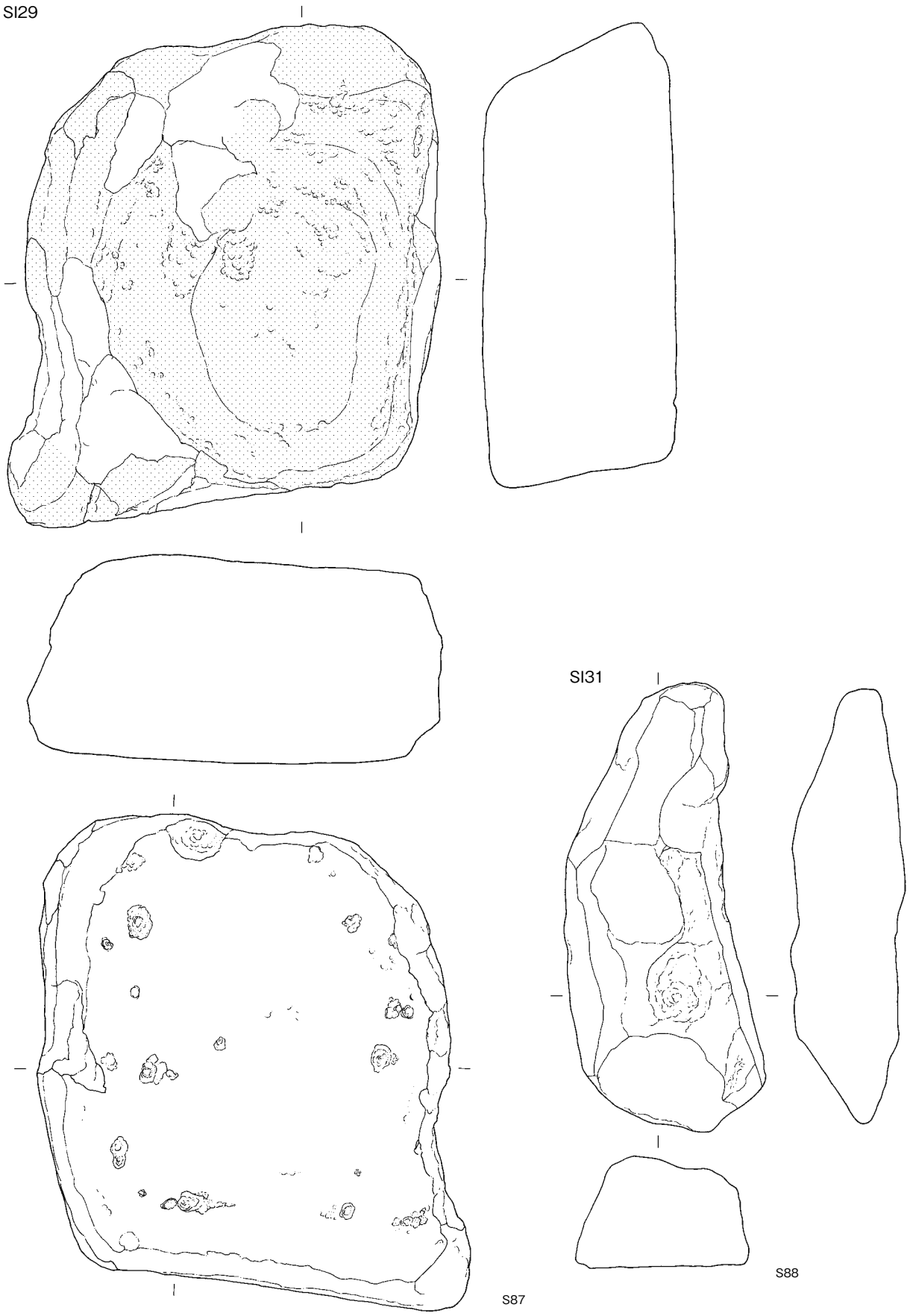
第176図　B区出土 石器(5)



第177図　B区出土 石器(6)



第178図　B区出土 石器(7)

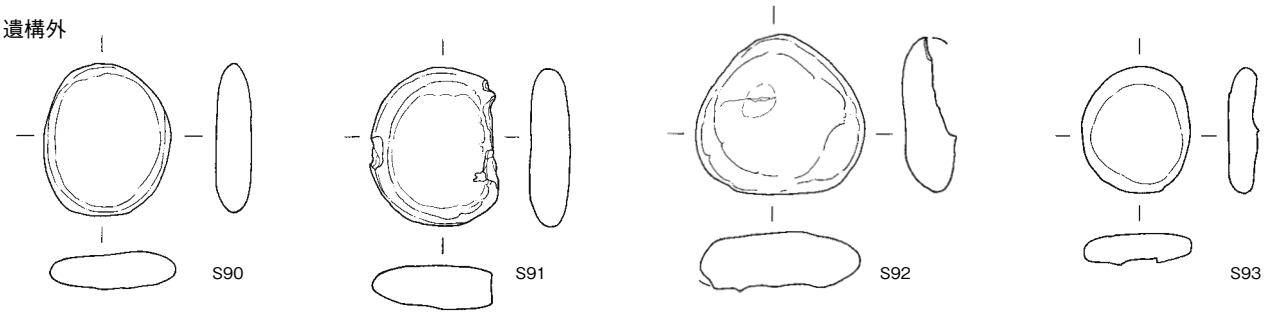


第179図　B区出土 石器(8)

SI29

0 (1:4) 10cm

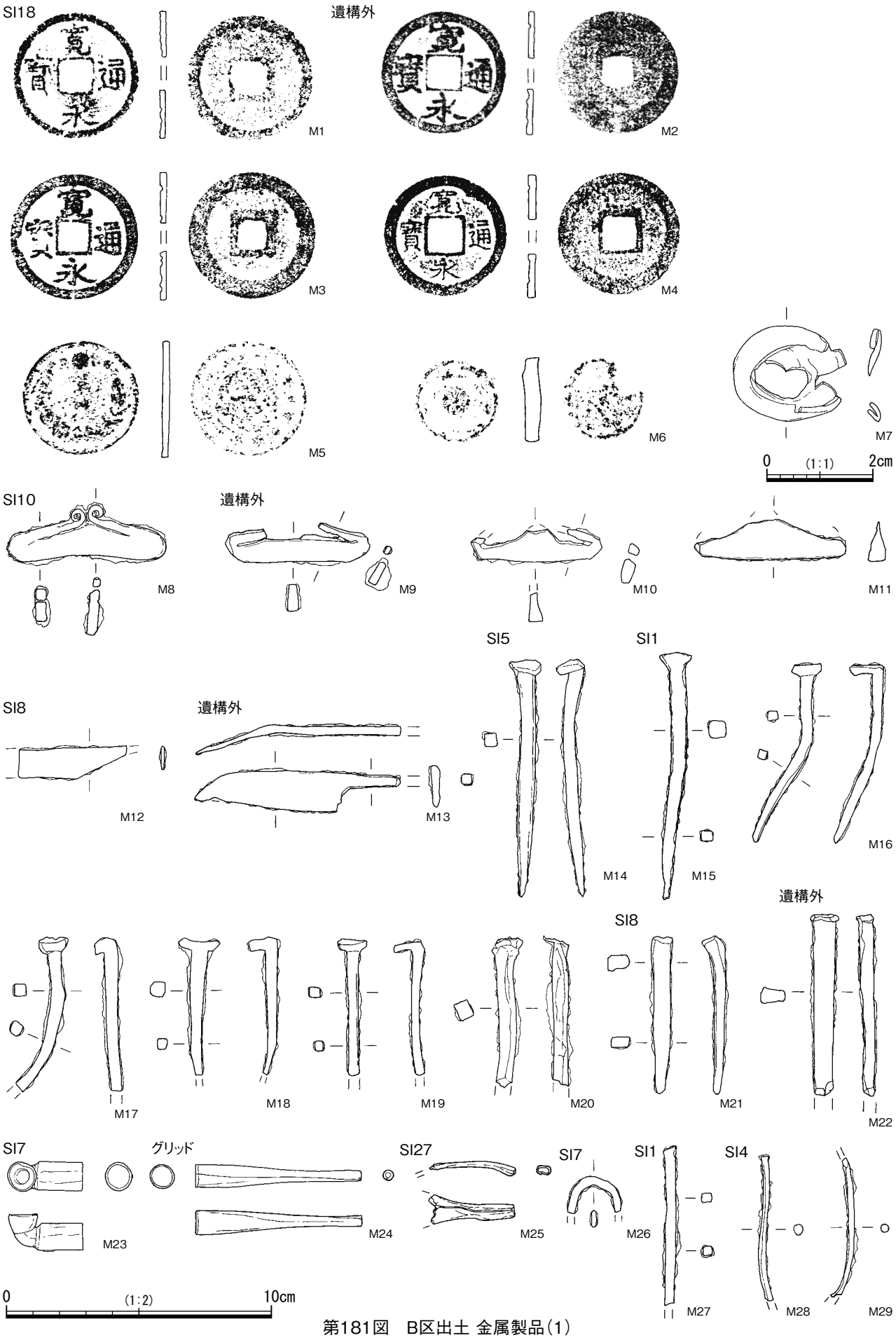
遺構外



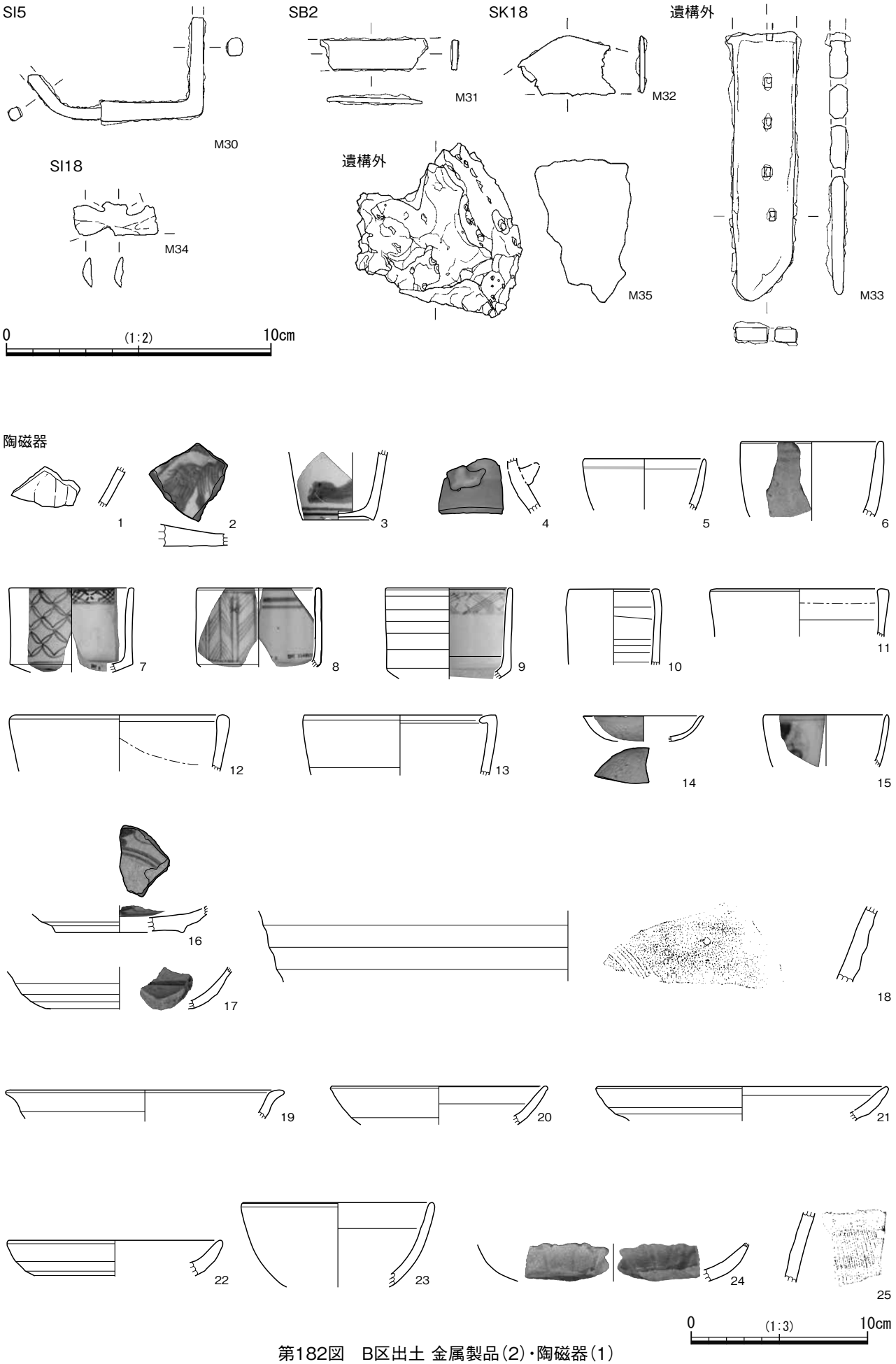
0 (1:1) 2cm

第180図　B区出土 石器(9)

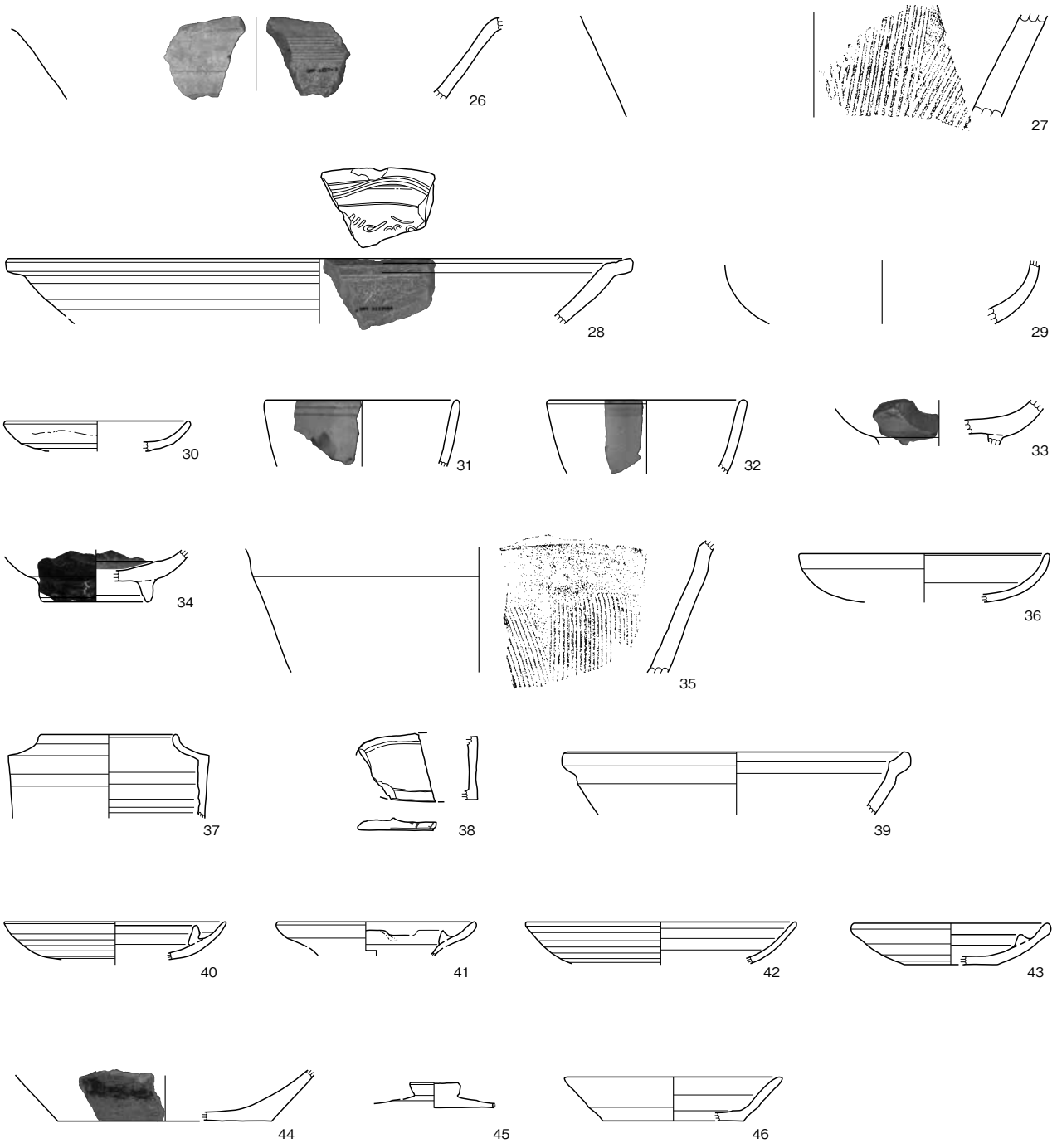
金属製品



第181図　B区出土 金属製品(1)



第182図　B区出土 金属製品(2)・陶磁器(1)



第183図　B区出土 陶磁器(2)

第５章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定（炭化種子）

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子

１．はじめに

笛吹市に所在する前付遺跡から出土した炭化種子について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて炭化種実同定も行っている（同章第５節参照）。

２．試料と方法

試料は、竪穴住居跡 SI010 から出土した炭化ご飯塊の破片から採取した炭化種子１点を測定試料として用いた。発掘調査所見によれば、SI010 は古墳時代前期の遺構と推測されている。

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-27438	遺構：SI010	種類：炭化種実（イネ種子） 器種：炭化ご飯塊 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に

表2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-27438	-25.82±0.14	1770±17	1770±15	238AD(28.0%)258AD 285AD(4.9%)290AD 295AD(35.4%)322AD	223AD(95.4%)333AD

2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。試料の暦年較正結果のうち 2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目すると、SI010 出土のイネ炭化種子は 223-333 cal AD(95.4%) であった。これは３世紀前半から４世紀前半で、小林（2009）によると弥生時代後期～古墳時代前期に相当する。

この測定結果はイネの種子が結実した年代を示しており、発掘調査所見による出土遺構の推定時期とも調和的である。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代」:55-82, 雄山閣.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」:3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

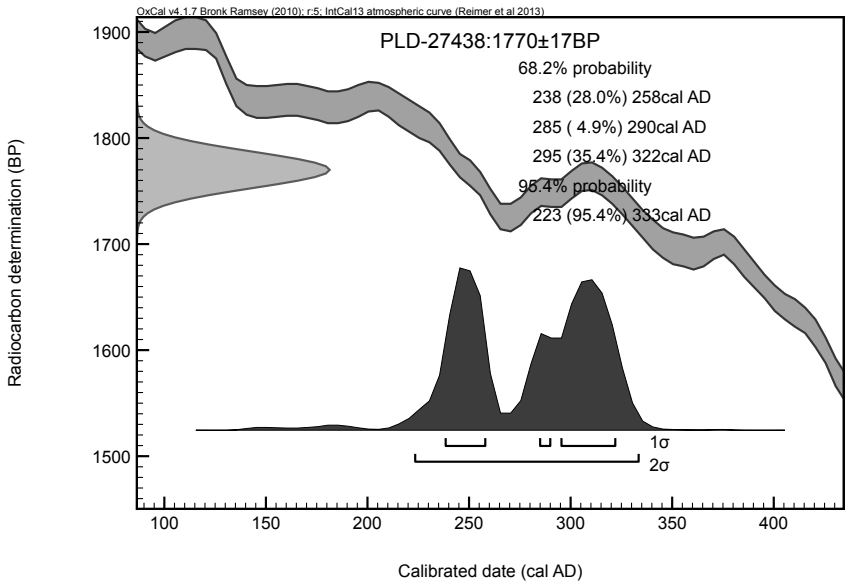


図1　暦年較正結果

第２節　放射性炭素年代測定（炭化鱗茎）

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子

１．はじめに

笛吹市に所在する前付遺跡から出土した炭化鱗茎について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお､同一試料を用いて炭化鱗茎同定と安定同位体分析も行われている（同章第３・４節参照)。

２．試料と方法

試料は、竪穴住居跡 SI029 から出土した砂貯蔵土器（第 157 図 2）内面付着の炭化鱗茎（PLD-27437）が１点である。土器の時期は、縄文時代曽利Ⅱ式期と推測されている。

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-27437	遺構：SI029	種類：土器付着炭化物（鱗茎） 器種：砂貯蔵土器 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）

３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また､付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は､測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され､試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入

表2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-27437	-27.00±0.15	4147±19	4145±20	2864BC(15.1%)2836BC 2816BC(5.1%)2806BC 2760BC(48.0%)2671BC	2872BC(18.9%)2832BC 2820BC(71.6%)2658BC 2653BC(4.9%)2634BC

る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。試料の暦年較正結果のうち 2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目すると、2872-2832 cal BC(18.9%)、2820-2658 cal BC(71.6%)、2653-2634 cal BC(4.9%)であった。これは、小林（2008）によると縄文時代中期後半に相当する。

試料は土器内面付着の炭化鱗茎（ツルボ型）で、測定結果は鱗茎が形成された年代を示している。したがって、測定を行った鱗茎は、縄文時代中期後半に生育していたと考えられ、土器型式の時期とも調和的である。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学２　歴史のものさし－縄文時代研究の編年体系－」: 257-269, 同成社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」:3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

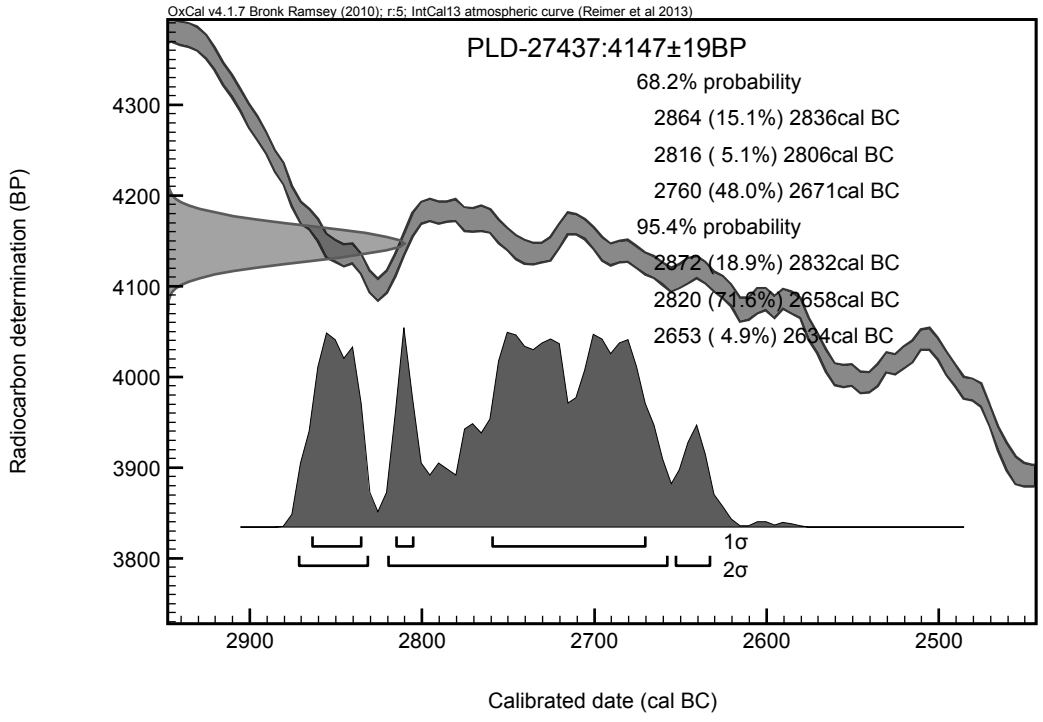


図1　暦年較正結果

第３節　前付遺跡から出土した炭化鱗茎の同定

米田恭子・佐々木由香（パレオ・ラボ）

１．はじめに

前付遺跡の縄文時代中期の竪穴住居跡から砂が入った状態の土器が出土した。土器内の砂を取り出したところ、複数の炭化鱗茎が出土した。ここでは炭化鱗茎について外部形態および細胞形態による同定を行い、当時の利用植物を検討した。なお、同一試料の一部を用いて放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体分析も行われている（同章第２・４節参照）。また、分析にあたり東北大学植物園小林和貴氏のご教示を得た。

２．試料と方法

試料は竪穴住居跡 SI029 の縄文時代中期後半の曽利Ⅱ式の深鉢（第 157 図 2）内部から出土した炭化鱗茎である。土器内の砂は縦方向に２分割にして取り出されており、ここでは後から取り出された試料を試料 No.1、先に取り出された試料を試料 No.2 とした。細胞形態の観察は、試料 No.1 から３点（分析 No.1-1、1-2、1-3）と試料 No.2 から３点（分析 No.2-1、2-2、2-3）の計６点の、形状が異なるタイプで残存状態の良い鱗茎を実体顕微鏡下で選び、分析試料とした（表１）。

表1　前付遺跡出土炭化鱗茎の分析試料

試料No.	試料採取位置	遺構名	遺物の時期	土器型式	器種	分析No.	鱗茎の形状	残存率	AMS	CN
1	後に取り出した砂内	SI029	縄文時代中期後半	曽利Ⅱ式	深鉢	1-1	完形	1/2以上	○	○
						1-2	半割	1/2		○
						1-3	細長小	-		○
2	先に取り出した砂内					2-1	完形	1/2以上		○
						2-2	半割	1/2		○
						2-3	細長小	-		○

なお、分析 No.1-1（PLD-27437）を用いて放射性炭素年代測定が行われた結果、縄文時代中期後半の暦年代範囲を示した（放射性炭素年代測定の項参照）。

試料を実体顕微鏡で観察し、形状ごとにタイプ分けを行った後、計数と計量を行った。鱗茎の細胞形態を観察するために、各試料３タイプの鱗茎計６点について実体顕微鏡下で網目状の細胞が観察された最外部の鱗片葉の一部を手術用のメスで剥がし、カーボンテープで試料台に固定した。その後イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）で検鏡および写真撮影を行った。撮影した範囲において表皮細胞と葉肉細胞各５点の長軸方向と短軸方向の長さを計測して、平均値と標準偏差を求めた。

なお、同定にあたっては現生炭化鱗茎標本（ユリ科ネギ属アサツキとノビル、ツルボ属ツルボ、ヒガンバナ科ヒガンバナ属ヒガンバナとキツネノカミソリ）と比較した。試料の残りは、笛吹市教育委員会で保管されている。

３．結果

各試料を観察した結果、鱗茎の残存形状を全体形の 1/2 以上が残存する完形タイプ、縦方向に割れた半割タイプ、横方向に割れた輪切タイプ、他の試料と比較して明らかに小さく細長い形状の細長小タイプ、数点の鱗茎が凝固した状態の複合タイプの５種類にタイプ分けした。

出土炭化鱗茎の残存状態と個数、重量を表２に表し、表皮細胞および葉肉細胞の大きさの平均値と標準偏差を表３に示す。

［外部形態の観察］（表２）

試料の多くは直径約 1.2cm 前後の球形である。ほとんどの試料は土器側に接していたと推定される背面側が平坦に潰れており、光沢をもつ。現生標本と比較すると、鱗茎の短径が 2.5 ～ 5.0cm程度のヒガンバナと短径が 2.0 ～ 2.5cm程度のキツネノカミソリである可能性は低い。また、輪切タイプの横断面を観察したところ、鱗片葉が覆瓦状に重なる様に見られたものの、被熱による膨張のため、ノビルの横断面に見られる鱗片葉が一定の間隔で筒状に重なるタイプとの識別は困難であった（図版１－８）。一方アサツキについては中心部と外側のみの鱗片葉が筒状に重なる形状のため、アサツキである可能性は低い。したがって外部形態の観察から、鱗茎はネギ属ノビルとツルボ属ツルボの２種に絞られた。

表2　前付遺跡出土炭化鱗茎の個数と重量（g）

鱗茎の形状	残存率	試料No. 1		試料No. 2		合計		総合計	
		個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ
完形	1/2以上	35	4.62	63	8.01	98	12.63	222	27.40
半割	1/2	28	3.28	55	6.23	83	9.51		
輪切	1/2	7	0.67	5	0.34	12	1.01		
細長小	－	13	0.51	3	0.10	16	0.61		
複合	－	5	1.79	8	1.89	13	3.68		
破片	－	－	7.46	－	10.26	－	17.72	136*	35.44

＊　完形の鱗茎1個体0.13gから換算した完形個体換算数

試料の残存形状は、全体形の 1/2 以上残存するタイプ（完形）が計 98 個、縦方向に割れたタイプ（半割）が計 83 個、横方向に半分に割れたタイプ（輪切）が計 12 個観察された。また、小型でやや細長い形状のもの（細長小）が計 16 個、数個の鱗茎が固まったタイプ（複合）が計 13 個で、総合計は 222 個であった。このほかに破片が多数含まれていた。完形の鱗片 1 個体の平均重量（0.13g）から完形個体換算数を求めると、破片は約 136 個体分に相当する。

［細胞形態の観察］（表３）

現生のノビル炭化鱗茎とツルボ炭化鱗茎の鱗片葉の細胞形態を比較すると、表皮細胞とその下の葉肉細胞で構成される。まず、現生の表皮細胞をみると、ノビルの表皮細胞はツルボに比べて長軸方向、短軸方向ともにやや長く､長短比の平均値をみるとツルボはノビル（1 :3.3 ± 0.7）よりやや横長の長方形（1 :3.4 ± 0.3）である。ただし細胞の形状は一定では無いため、細胞の大きさのみでノビルかツルボかを判断するのは難しい。ただし表皮細胞の形態を観察すると、ツルボの表皮細胞は角の部分が直角に近い長方形であるのに対し（長短比は１：0.5 ± 0.1）、ノビルは丸みをおびた歪な長方形（長短比は１：0.7 ± 0.1）という特徴をもつ。さらにツルボの表皮細胞中には大きな気孔（長径 31.1 μ m ×短径 20.9 μ m）が認められる場合がある。

現生の葉肉細胞については、ノビルは縦軸方向に長い六角形で角が明瞭であるのに対し、ツルボは、ノビルに比べて丸みをおびた六角形で、細胞壁が厚い傾向がある。また、ツルボの葉肉細胞中にはえぐみの成分であるシュウ酸カルシウムやデンプンが含まれており、シュウ酸カルシウムの針状結晶やデンプン粒が観察

表3　試料と現生炭化鱗茎の表皮細胞および葉肉細胞の平均値と標準偏差（現生炭化鱗茎は各5点の平均値）

分析料No.	表皮細胞			葉肉細胞			結果
	X（長軸）	Y（短軸）	X/Y比	X（長軸）	X（短軸）	X/Y比	
1-1	0.05 ± 0.00	0.12 ± 0.01	1 : 2.5 ± 0.3	0.12 ± 0.01	0.07 ± 0.00	1 : 0.6 ± 0.1	ツルボ型
1-2	0.04 ± 0.01	0.11 ± 0.02	1 : 3.1 ± 0.4	0.08 ± 0.01	0.05 ± 0.01	1 : 0.6 ± 0.1	ツルボ型
1-3	0.03 ± 0.00	0.11 ± 0.01	1 : 3.7 ± 0.3	0.07 ± 0.00	0.04 ± 0.00	1 : 0.6 ± 0.0	ツルボ型
2-1	0.02 ± 0.01	0.10 ± 0.01	1 : 4.3 ± 1.0	0.12 ± 0.00	0.06 ± 0.00	1 : 0.5 ± 0.0	ツルボ型
2-2	0.02 ± 0.00	0.07 ± 0.01	1 : 3.4 ± 0.4	0.06 ± 0.01	0.05 ± 0.01	1 : 0.8 ± 0.1	ツルボ型
2-3	0.03 ± 0.00	0.13 ± 0.26	1 : 4.4 ± 0.9	0.07 ± 0.01	0.06 ± 0.01	1 : 0.8 ± 0.1	ツルボ型
現生炭化ノビル	0.05 ± 0.00	0.15 ± 0.04	1 : 3.3 ± 0.7	0.15 ± 0.04	0.08 ± 0.02	1 : 0.5 ± 0.1	－
現生炭化ツルボ	0.04 ± 0.00	0.12 ± 0.01	1 : 3.4 ± 0.3	0.11 ± 0.01	0.08 ± 0.01	1 : 0.7 ± 0.1	－

されることもある。

以下、試料番号ごとに記載を行う。

分析 No.1-1：表皮細胞の長短比は 1 ：2.5 ± 0.3、葉肉細胞の長短比は 1 ：0.6 ± 0.1 で現生のノビルに近い。ただし表皮細胞の長方形の角が現生のツルボにみられる直角に近い形態であり、葉肉細胞が丸みをおびた六角形の形態のためツルボ型とした。

分析 No.1-2：表皮細胞の長短比は 1 ：3.1 ± 0.4、葉肉細胞の長短比は 1 ：0.6 ± 0.1 でノビルに近い。ただし表皮細胞の長方形の角がツルボにみられる直角に近い形態であり、葉肉細胞が丸みをおびた六角形で、厚みのある細胞壁が観察されたためツルボ型とした。

分析 No.1-3：表皮細胞は不明瞭であったが、表皮細胞の長短比（1：3.7 ± 0.3）および葉肉細胞の形態観察からツルボ型とした。また、現生のツルボ表皮細胞に観察される気孔に類似した形態の気孔が、表皮細胞中に長径 21.5 μ m ×短径 15.4 μ m の大きさで観察された（図版 2-14a）。

分析 No.2-1：表皮細胞の長短比（1 :4.3 ± 1.0）と葉肉細胞が丸みをおびた六角形のため、ツルボ型とした。また、現生のツルボ葉肉細胞中に観察されるシュウ酸カルシウムの結晶に類似した形態が観察された（図版 2-15b）。

分析 No.2-2：葉肉細胞の長短比（1 ：0.8 ± 0.1）と丸みをおびた六角形の形態からツルボ型とした。また、現生のツルボやキツネノカミソリ、ヒガンバナの葉肉細胞中に観察されるデンプン粒が観察された（図版 3-16b）。

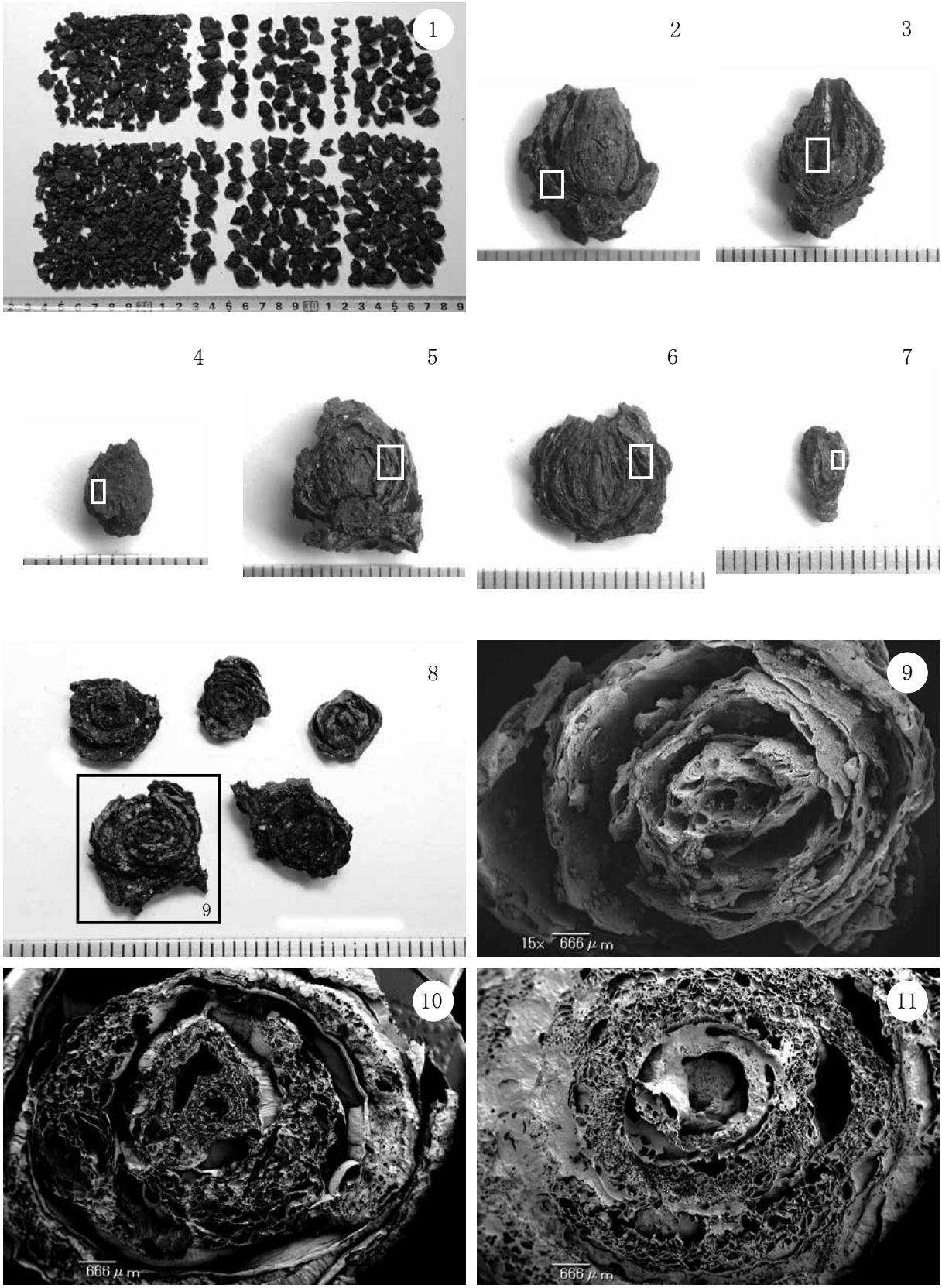
分析 No.2-3：葉肉細胞がやや不明瞭であったが長短比が 1 ：0.8 ± 0.1 であることと、丸みをおびた六角形であり、表皮細胞の長方形の角が直角に近い形態であることからツルボ型とした。

４．考察

前付遺跡の縄文時代中期後半の土器内面から多量に出土した炭化鱗茎についてタイプ分けを行ったのち６点を抽出し、外面形態と細胞形態、またそのほかの付加情報（シュウ酸カルシウムの有無など）の観察を行った結果、同定した６点の炭化鱗茎はすべてツルボ型に分類された。現状では種の同定は困難であり、本分析ではツルボ型とタイプ分けするに留めたが、少なくとも現生の鱗茎標本（ユリ科ネギ属アサツキとノビル、ツルボ属ツルボ、ヒガンバナ科ヒガンバナ属ヒガンバナとキツネノカミソリ）の中では、ツルボ属ツルボに最も近かった。同定した個体以外は外面形態のみの観察を行ったが、細胞形態の観察を行った個体と著しい違いはみられなく、また１個体の土器内から出土した産出状況を加味すると、すべてツルボ型であった可能性が高い。破片を含めて個体数に換算すると約 360 点の鱗茎が土器内に残存していた。

ツルボは、ユリ科ツルボ属の多年草であり、土手や山野の日当りが良い場所に生える。えぐみがあるため、利用にあたってはアク抜きが必要である。民俗事例では水にさらしたり、数日間の煮沸を行ったとされる。食用のほか、薬用にも用いられる。これまで遺跡出土例ではツルボと同定された例はないため、ツルボがどのような利用がなされたのかを民俗例と比較して検討が必要である。

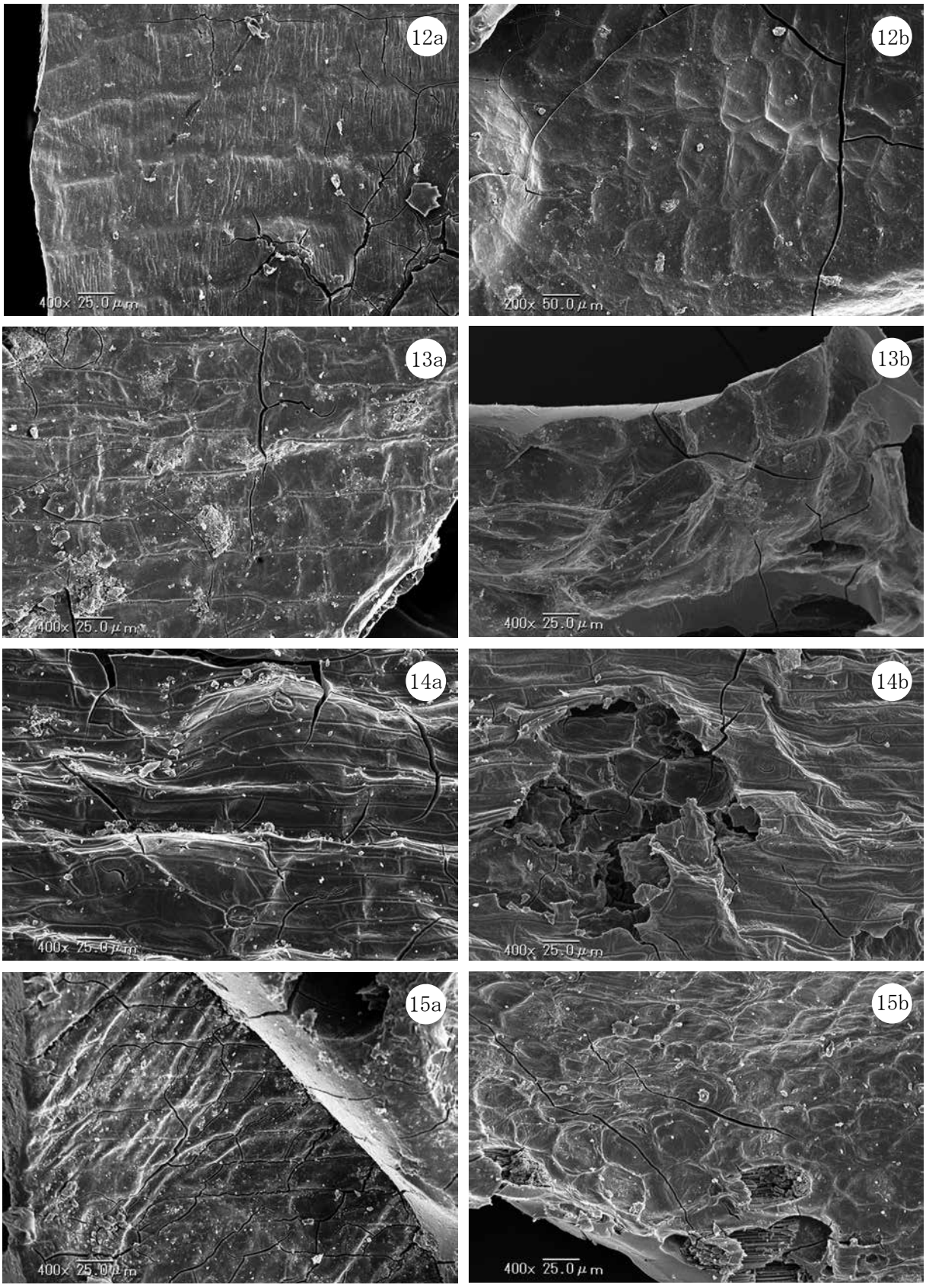
今後、現生鱗茎標本の外部形態と細胞形態、付加情報から識別点を探り、遺跡の出土試料と比較を行い、種についてはさらに検討を行いたい。



図版 1　前付遺跡出土の炭化鱗茎試料の走査型電子顕微鏡写真（1）

1．試料全体、2．分析 No.1-1（PLD-27437）、3．分析 No.1-2、4．分析 No.1-3、5．分析 No.2-1、6．分析 No.2-2、7．分析 No.2-3、8．輪切タイプ（試料 No.2）、9．輪切タイプ（試料 No.2）、10．現生炭化ツルボの横断面、11．現生炭化ノビルの横断面

走査型電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載、試料写真内白枠は試料採取位置を示す

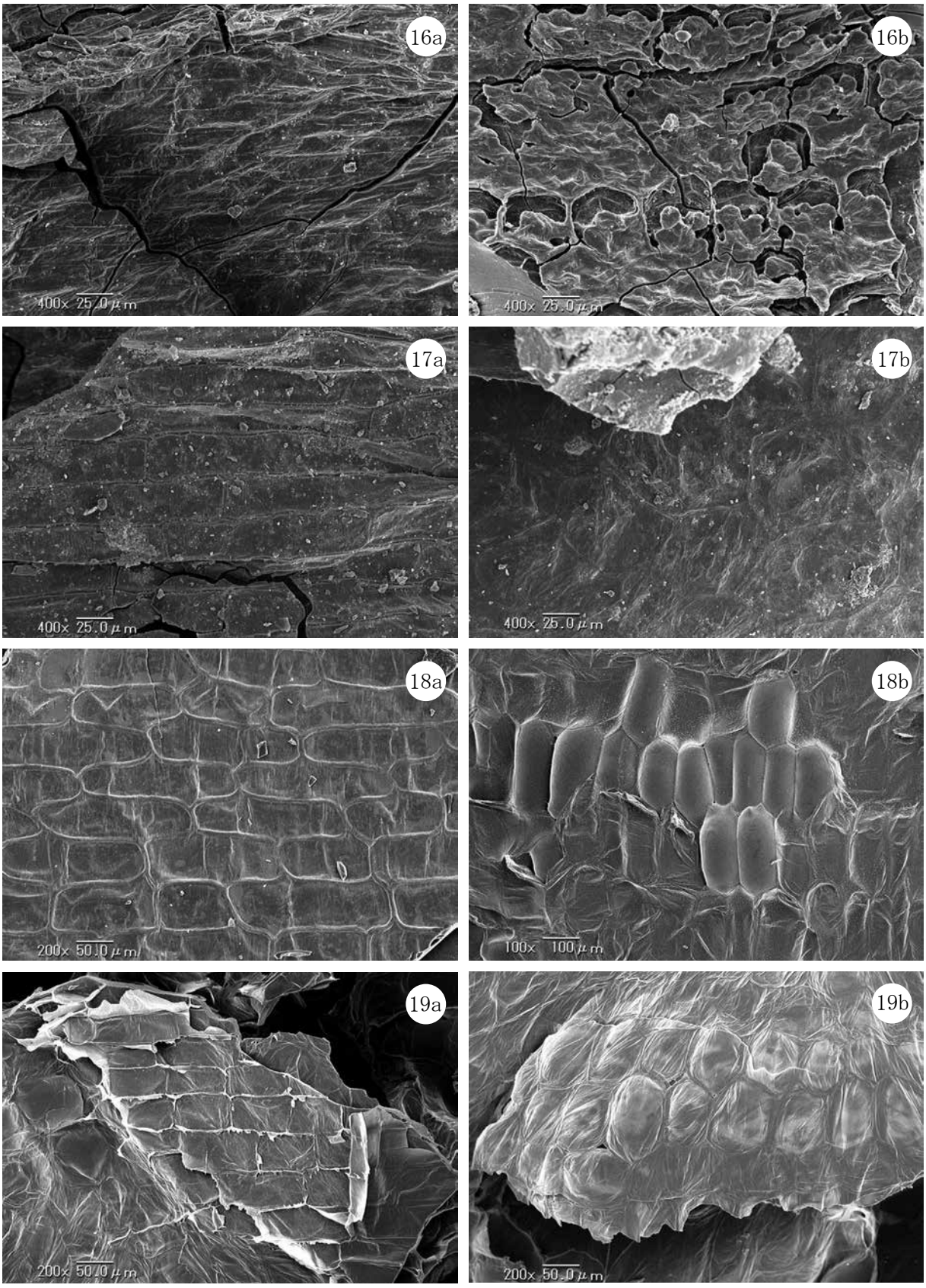


図版 2　前付遺跡出土炭化鱗茎の走査型電子顕微鏡写真（2）

12．分析 No.1-1、13．分析 No.1-2、14．分析 No.1-3、15．分析 No.2-1

a：表皮細胞、b：葉肉細胞

走査型電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載



図版 3　前付遺跡出土炭化鱗茎と現生炭化鱗茎の走査型電子顕微鏡写真（3）

16. 分析 No.2-2、17. 分析 No.2-3、18. 現生炭化ノビル、19. 現生炭化ツルボ

a：表皮細胞、b：葉肉細胞

走査型電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載

第４節　前付遺跡出土炭化鱗茎の炭素・窒素同位体分析

米田　穣・山﨑孔平（東京大学総合研究博物館）
米田恭子・佐々木由香（パレオ・ラボ）

１．はじめに

本報告では、笛吹市前付遺跡から出土した炭化鱗茎の炭素・窒素安定同位体比を測定した。比較的低温で長時間加熱されて形成された炭化種実では、炭化以前の炭素・窒素同位体比を長期間にわたって保持していることが知られており（DeNiro and Hastorf, 1985）、炭化鱗茎でも同様に生息環境や、調理・加工時の状況が記録されていると期待される。ここでは、前付遺跡で縄文時代中期後半の土器の内部から出土した炭化鱗茎について、炭素・窒素同位体比を測定した。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定や炭化鱗茎同定も行われている（同章第２・３節参照）。

２．試料と方法

竪穴住居跡 SI029 から出土した砂貯蔵土器（第 157 図 2）内面に付着した炭化鱗茎６点で、炭素・窒素同位体比を分析した（表１）。炭化鱗茎は、ツルボ型と同定された（第３節参照）。なお、同一試料１点を用いて放射性炭素年代測定を行った結果、縄文時代中期後半の年代が得られた（第２節参照）。

手術用メスを用いて約 10mg を分取し、純水中で 10 分間超音波洗浄して、65 度で乾燥した。放射性炭素年代測定で実施される酸・アルカリ・酸処理を、炭化物の安定同位体比の分析に応用する事例が報告されているが、未炭化植物遺体と炭化植物遺体の比較研究に基づき、本報告では純水での超音波洗浄のみを実施した（DeNiro and Hastorf, 1985）。そのうち、約 0.4mg を錫カップに秤量して、炭素含有量と窒素含有量、炭素同位体比を測定した。それぞれの試料の窒素含有量をもとに２～５mg の試料を再度錫カップに秤量して、窒素同位体比を別途測定した。炭素・窒素含有量の測定は元素分析計（Flash2000,Therm Fisher Scientifics 社）を用いて、炭素・窒素同位体比は元素分析計にインターフェース（ConFlo II, Thermo Fisher Scientific 社）を介して接続された安定同位体比質量分析計（Delta V, Thermo Fisher Scientific 社）を用いて測定した。炭素同位体比と窒素同位体比の測定誤差は、0.1‰以下である。

３．結果

炭素・窒素含有率ならびに炭素・窒素安定同位体比の分析結果を表１に示す。今回測定した点の炭化鱗茎は、炭素同位体比の平均値が -26.2‰（１標準偏差 0.3‰）、窒素同位体比の平均値が 1.4‰（１標準偏差 0.7‰）であり、C_3 植物の示す同位体の特徴によく一致している。これまでに炭化鱗茎については、東京都東村山市下宅部遺跡から出土した縄文時代後・晩期の炭化鱗茎が付着した土器から、炭化鱗茎付近の炭化物が採取され炭素・窒素同位体比が報告されている（工藤・佐々木, 2010）。今回しめされた炭素同位体比は下宅部遺跡の炭化物の平均値（-26.2 ± 0.3‰）と非常に近似するのに対し、窒素同位体比では下宅部遺跡の炭化物の平均値（2.4 ± 1.4‰）よりも低い値を示している（図１）。

また、炭素同位体比と窒素同位体比で分散が非常に小さいことも特筆に値する。炭素含有量と窒素含有量の平均値は、それぞれ 64.9％と 0.9％で、標準偏差（1.5％と 0.4％）はこちらも変動が小さい。

表1　元素分析および炭素・窒素同位体分析の結果

試料 No.	$d^{13}C$ (‰)	$d^{15}N$ (‰)	C/N (モル比)	炭素 (重量%)	窒素 (重量%)	鱗茎の形状	同定結果
1-1	-26.3	1.7	85.2	62.2	0.9	完形（1/2以上残存）	ツルボ型
1-2	-26.6	2.2	128.5	66.5	0.6	半割	ツルボ型
1-3	-26.0	0.9	50.6	64.5	1.5	細長小	ツルボ型
2-1	-26.0	1.2	115.1	66.1	0.7	完形（1/2以上残存）	ツルボ型
2-2	-26.5	0.3	124.6	65.4	0.6	半割	ツルボ型
2-3	-25.9	2.2	55.7	64.4	1.3	細長小	ツルボ型

４．考察

現生の鱗茎類（ノビル、クワイ、オニユリ）について、乾燥試料と土器による炭化実験の産物で、同位体分析の結果が報告されている（図１；吉田，2006）。現生の鱗茎の炭素同位体比は遺跡出土炭化鱗茎よりも低い値を示しており、化石燃料に由来する二酸化炭素の影響（Suess 効果）を約 1.6‰補正する必要がある（Marino and McElroy, 1991）。また、窒素同位体比についても今回の分析結果とは一致しない。現生植物の窒素は施肥や富栄養価などの撹乱を大きくうけており、直接比較することは困難であるが、現生の鱗茎と比較しても前付遺跡出土炭化鱗茎は炭素・窒素同位体比ともに非常に変動が小さいことがわかる。

一方、炭素・窒素含有量について、現生資料との相違が大きい点には注意が必要である。下宅部遺跡の炭化物でも窒素含有量が低いため（データ未報告）、C/N 比の平均値と標準偏差が 67.6 ± 19.1 と大きいことが指摘されていた。今回分析した炭化鱗茎では窒素含有量が非常に低く（0.9 ± 0.4％）、C/N 比の平均値と標準偏差は 93.3 ± 34.6 と非常に高い。この相違は炭化したときの条件（温度や酸素濃度など）が関係するかもしれないが、今後、炭化条件の相違や汚染、変性をどのように評価するのか、検討が必要である。

下宅部遺跡の炭化鱗茎付近の炭化物と比較すると、今回分析した炭化鱗茎の炭素同位体比は非常によい一致をしめした。一方、窒素同位体については、下宅部遺跡のデータが若干高い値をしめしていた。炭化種実の窒素同位体比については、前処理としてアルカリ処理を行うことで窒素同位体比が上昇することが報告されており（Kanstrup et al., 2014）、先行研究との前処理方法の相違に起因する可能性がある。

以上を考慮すると、前付遺跡から出土した炭化鱗茎と下宅部遺跡の炭化鱗茎付近の炭化物では、炭素・窒素同位体比で類似した値を示していると指摘できる。炭素・窒素同位体ならびに炭素・窒素含有量で変動が小さいという特徴は、工藤・佐々木（2010）が指摘したように、植物のみを煮炊きあるいは蒸すといった作業の可能性を示唆している。

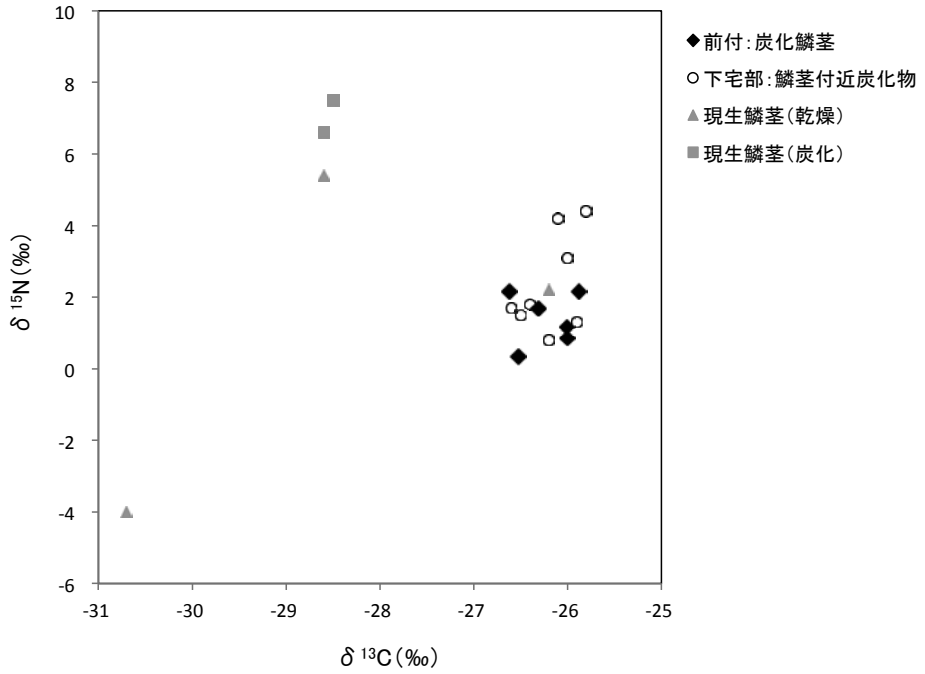


図1　前付遺跡出土炭化鱗茎の炭素・窒素同位体比と下宅部遺跡出土炭化物（工藤・佐々木，2010）、現生鱗茎（吉田，2006）との比較

引用文献

DeNiro, M.J. and Hastorf, C.A. (1985) Alteration of $^{15}N/^{14}N$ and $^{13}C/^{12}C$ ratios of plant matter during the initial stages of diagenesis: Studies utilizing archaeological specimens from Peru. Geochimica et Cosmochimica Acta, 49, 97-115.

Kanstrup, M., Holst, M.K., Jensen, P.M., Thomsen, I.K., and Christensen, B.T. (2014) Searching for long term trends in prehistoric mauring practice. $D^{15}N$ analyses of charred cereal grains from the 4th to the 1st millennium BC. Journal of Archaeological Science, 51, 115-125.

工藤雄一郎・佐々木由香（2010）東京都下宅部遺跡から出土した縄文土器付着植物遺体の分析．国立歴史民俗博物館研究報告，158，1-26.

Marino, B.D. and McElroy, M.B. (1991) Isotopic composition of atmospheric CO_2 inferred from carbon in C_4 plant cellulose. Nature, 349, 127-131.

吉田邦夫（2006）炭化物の安定同位体分析．新潟県立歴史博物館研究紀要，7，51-58.

第５節　前付遺跡出土の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

１．はじめに

笛吹市に位置する前付遺跡では、縄文時代中期や古墳時代前期の竪穴住居跡などが検出された。ここでは、遺構から産出した炭化種実を同定し、当時利用された種実について検討した。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（同章第１節参照）。

２．試料と方法

試料は、遺構から回収された土壌試料を水洗して得られた炭化種実である。遺構の内訳は、縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式期）の竪穴住居跡であるSI006とSI016、SI029、SI031の４棟と、弥生時代末から古墳時代前期？の竪穴住居跡であるSI012の１棟、古墳時代前期の竪穴住居跡であるSI007～SI0011、SI013、SI015、SI017、SI018、SI020、SI021、SI028、SI030の13棟、古墳時代前期？の土坑であるSK018の１基、8世紀後半の竪穴住居跡であるSD01（SI01）とSI002、SI005の３棟、8世紀代の可能性がある掘立柱建物跡であるSB01のPit2の１基、10世紀末から11世紀代の竪穴住居跡であるSI004の１棟である。

土壌の採取から水洗、炭化物の抽出は、帝京大学山梨文化財研究所が行った。水洗には最小0.5mm目の篩が用いられた。水洗量は、表を参照されたい。炭化種実の抽出・計数・同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。試料は、笛吹市教育委員会に保管されている。

３．結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核とクリ炭化果実・炭化子葉、コナラ属炭化子葉、モモ炭化核の４分類群、草本植物ではスベリヒユ属炭化種子とウリ属炭化種子、イネ炭化種子の３分類群の、計７分類群が見いだされた。これらの他に科以上の同定に必要な識別点が残存していない一群である同定不能炭化種実が得られた。種実以外には炭化した虫えいと炭化材が得られた（表１～4）。未炭化のエノキグサ属種子とアワ有ふ果、エノコログサ属有ふ果も得られたが、立地から判断して当時の未炭化種実は残存しないと考えられるため、現生と判断した。

以下、得られた炭化種実を遺構別に記載する。

[縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式期)]

SI006：炉からオニグルミが少量、クリがわずかに得られた。

SI016：炉からは同定可能な種実が得られなかった。

SI029:埋甕内土からイネがわずかに得られた。土器内や埋甕、炉からは同定可能な種実は得られなかった。

SI031：炉からは同定可能な種実が得られなかった。現生の種実が得られた。

[弥生時代末から古墳時代前期？]

SI012：焼土からクリがやや多く得られた。

[古墳時代前期]

SI007：炉からクリとイネがわずかに得られた。

SI008：炉からイネがわずかに得られた。

SI009：炉からは同定可能な種実が得られなかった。

SI010：カマドからイネとイネ炭化種子塊が得られ、重量を完形個体数に換算すると約673点であった。No.63の中の土からは約19点分のイネが得られた。

SI011：炉からイネがわずかに得られた。

SI013：炉（東）からはイネが少量、炉（西）からはイネがわずかに得られた。No.79遺物の中の土からは同定可能な種実が得られなかった。

表1　前付遺跡から出土した炭化種実（1）（括弧内は破片数）

遺構名		SB01	SD01(SI	SI002	SI004	SI005	SI006	SI007	SI008	SI009
サンプル名		柱根底の土	カマド	カマド（上層）	カマド	カマド炭化物	炉	炉	炉	炉
時期		8C代？	8C後半		10C末～11C代	8C後半	曽利Ⅱ式	古墳前期		
分類群	水洗量（ml）	1500	5000	2500	5000	5500	3000	5000	5000	5000
オニグルミ	炭化核						(25)			
クリ	炭化果実						(4)			
	炭化子葉						(2)	(1)		
スベリヒユ属	炭化種子		1							
イネ	炭化種子							1	(1)	
虫えい	炭化	1 (2)		(1)		1		7 (1)		

表2　前付遺跡から出土した炭化種実（2）（括弧内は破片数）

遺構名		SI010		SI011	SI012	SI013			SI015
サンプル名		カマド	№63の中の土	炉	焼土サンプル 焼土範囲	炉(東)	炉(西)	№79遺物の中の土	炉
時期		古墳前期			弥生末～古墳前期？	古墳前期			
分類群	洗量（ml）	5000	50	3500	500	5000	5000	6000	5000
クリ	炭化子葉				(65)				
イネ	炭化種子	673* 5.38g	19* 0.15g	(1)		5 (18)	2 (2)		2 (13)
虫えい	炭化							4 (10)	(4)

＊イネ炭化種子10点の重量0.08gからの完形個体換算数

表3　前付遺跡から出土した炭化種実（3）（括弧内は破片数）

遺構名		SI016	SI017	SI018	SI020	SI021	SI028		
サンプル名		炉	炉	焼土	炉	炉	炉(南)	炉(東)	炉(西)
時期		曽利Ⅱ式	古墳前期						
分類群	水洗量（ml）	3000	5000	3500	4000	5000	5000	3000	4000
オニグルミ	炭化核				(5)				
モモ	炭化核							(1)	
ウリ属	炭化種子								(1)
イネ	炭化種子				7 (5)		1 (5)	(7)	1 (5)
同定不能	炭化種実	(2)		(3)	(1)				
虫えい	炭化		1						

表4　前付遺跡から出土した炭化種実（4）（括弧内は破片数）

遺構名		SI029					SI030	SI031	SK018
サンプル名		土器 土サンプル②	土器内 土サンプル②	埋甕内土	埋甕サンプル	炉	炉	炉	土サンプル
時期		曽利Ⅱ式					古墳前期	曽利Ⅱ式	古墳前期？
分類群	水洗量（ml）	3000	500	3500	4000	3500	5000	4000	3500
コナラ属	炭化子葉								(2)
モモ	炭化核								1 (1)
イネ	炭化種子			1			5 (8)		62 (38)
同定不能	炭化種実					(1)			(8)
エノキグサ属	種子							14	
アワ	有ふ果							5	
エノコログサ属	有ふ果							2	

SI015：炉からイネが少量得られた。

SI017：炉からは同定可能な種実が得られなかった。

SI018：焼土からは同定可能な種実が得られなかった。

SI020：炉からオニグルミとイネがわずかに得られた。

SI021：炉からは同定可能な種実が得られなかった。

SI028：炉（南）からはイネがわずかに、炉（東）からはモモとイネがわずかに、炉（西）からはウリ属とイネがわずかに得られた。

SI030：炉からイネが少量得られた。

[古墳時代前期？]

SK018：イネが多く、コナラ属とモモがわずかに得られた。

[8 世紀後半]

SD01（SI01）：カマドからスベリヒユ属がわずかに得られた。

SI002：カマドからは同定可能な種実が得られなかった。

SI005：カマドからは同定可能な種実が得られなかった。

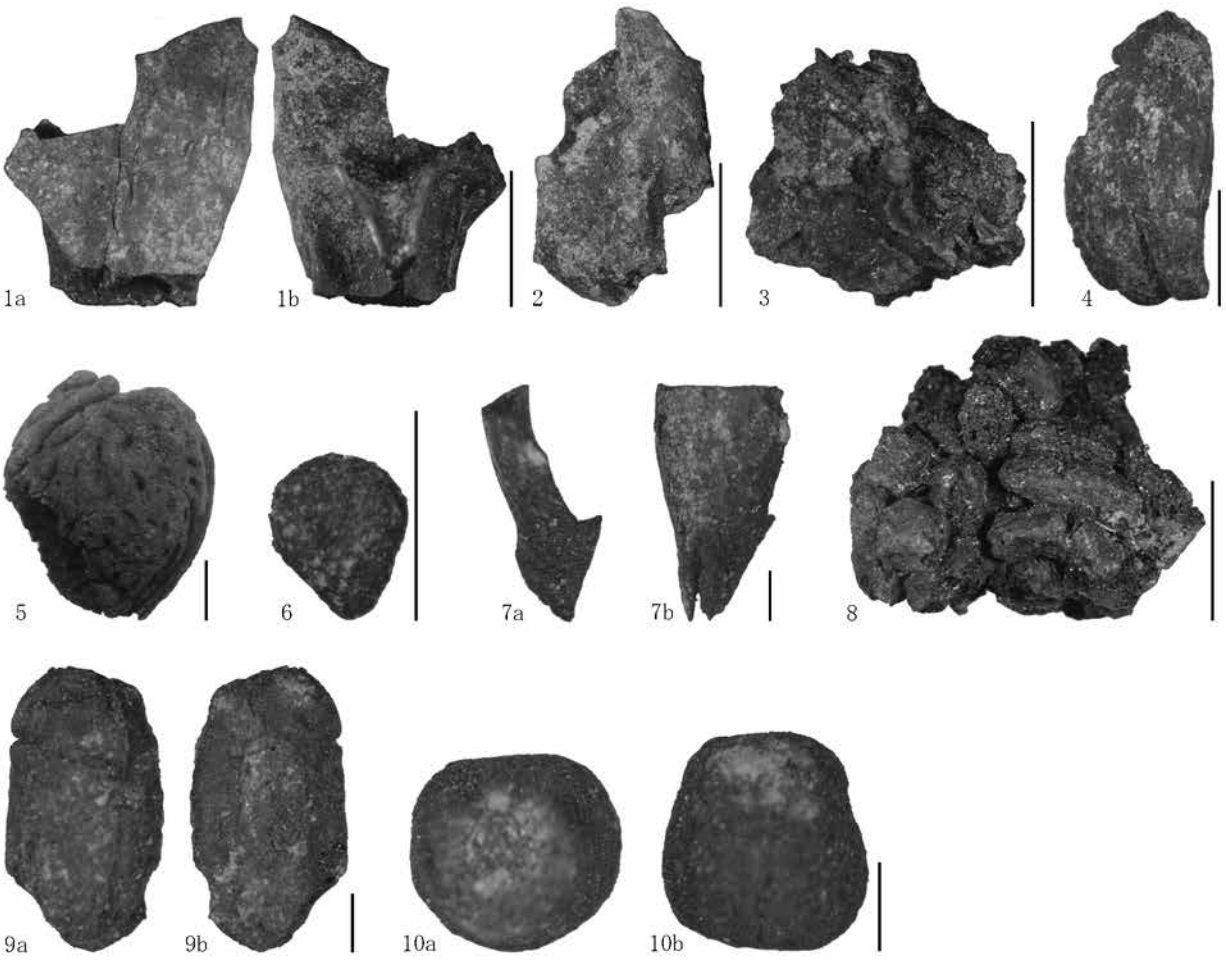
[8 世紀代]

SB01：Pit2 の柱根底の土からは同定可能な種実が得られなかった。

[10 世紀末から 11 世紀代]

SI004：カマドからは同定可能な種実が得られなかった。

次に、炭化種実の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。



スケール1-5, 8：5mm, 6, 7, 9, 10：1mm

図版1　前付遺跡から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核（SI006、炉）、2. クリ炭化果実（SI006、炉）、3. クリ炭化子葉（SI006、炉）、4. コナラ属炭化子葉（SK018、土サンプル）、5. モモ炭化核（SK018）、6. スベリヒユ属炭化種子（SD01(SI01)、カマド）、7. ウリ属炭化種子（SI028、炉（西））、8. イネ炭化種子塊（SI010、カマド、PLD-27438）、9. イネ炭化種子（SI010、カマド）、10. 炭化虫えい（SI007）

（1）オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino　炭化核　クルミ科

すべて 1/2 以下の破片である。完形ならば側面観は広卵形。本来は縦方向の縫合線があるが残存していない。表面には浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は角が尖り、光沢がある。最大の破片で、残存高 11.5mm、残存幅 8.6mm。

（2）クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

果実は、完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつくが残存していない。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。最大の破片で、残存高 10.5mm、残存幅 6.2mm。子葉は、完形ならば側面観が広卵形で、表面一面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。最大の破片で、残存高 6.6mm、残存幅 7.5mm。

（3）コナラ属　*Quercus* sp.　炭化子葉　ブナ科　図版 1：2-3

1/2 以下の破片である。完形ならば上面観は円形で、側面観は楕円形～俵形か。先端の突出はほとんどない。形状から、クヌギ節（クヌギとアベマキ）以外のコナラ属の可能性が高い。残存高 12.7mm、残存幅 8.2mm。

（4）モモ　*Amygdalus persica* L.　炭化核　バラ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は卵形。下端中央に凹んだ大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。残存長 20.6mm、幅 17.8mm、厚さ 16.4mm。

（5）スベリヒユ属　*Portulaca* spp.　炭化種子　スベリヒユ科

上面観は扁平、側面観は円形。全体にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ 0.8mm、幅 0.6mm。

（6）ウリ属　*Cucumis* sp.　炭化種子　ウリ科

破片であるが、完形ならば側面観は狭倒卵形で、臍部がやや肥大するか。表面は平滑。残存長 4.8mm、残存幅 2.2mm。

（7）イネ　*Oryza sativa* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がわずかに残る。塊内の種子は縦方向に膨張し、胚の窪みや溝が不明瞭。SI010 の試料から任意に抽出した 10 点の大きさは、長さ 4.7 ～ 5.5（平均 5.0 ± 0.2）mm、幅 2.7 ～ 3.1（平均 2.9 ± 0.1）mm。炭化種子（ご飯）塊の大きさは、長軸 12.4mm、短軸 9.8mm、厚さ 9.0mm。

（8）虫えい　Gall

上面観は円形、側面観は丸みを帯びた楕円形で、中央がゆるやかに凹む。長さ 2.5mm、幅 2.3mm。

4．考察

以下、時期別に考察を行う。

[縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式期）]

検討を行った 4 棟中 3 棟の竪穴住居跡から炭化種実が得られた。このうち、同定ができたのは SI006 と SI029 の試料のみで、SI006 の炉からはオニグルミが少量、クリがわずかに得られた。産出したオニグルミの核やクリの果実は食用ではない部分のため、不要な部位を炉内で燃やした可能性などが考えられる。クリの子葉は食用部分であるが、調理中に炭化したか、取り残した部分が果実と共に燃やされた可能性などが考えられる。SI029 の埋甕内土からはイネが産出した。しかし、1 点しか得られておらず、埋甕内は同定不能炭化種実も含めて炭化種実が全く得られていないため、年代観も含めて慎重に検討する必要がある。

[弥生時代末から古墳時代前期？]

SI012 の焼土からはクリがやや多く得られた。食用部位である子葉部分のみが破片で炭化しており、加工・調理中あるいは保管中に何らかの要因で炭化した可能性などが考えられる。

[古墳時代前期]

13 棟中、10 棟の竪穴住居跡から炭化種実が得られ、うち 9 棟の住居跡からはイネが得られた。特に焼失

住居跡であるSI010からは大量のイネと調理後のご飯塊が得られた。炭化ご飯塊のイネ１点を用いた年代測定の結果、弥生時代後期～古墳時代前期の暦年代が得られている（第５章第１節参照）。イネ以外では、SI007からクリ、SI020からオニグルミ、SI028からモモとウリ属がわずかに得られた。これらの種実は炉やカマドから産出しているため、不要な部分を燃やした、あるいは調理・加工中に炭化したなどの可能性が考えられる。

[古墳時代前期？]

SK018からはイネが多く、コナラ属とモモがわずかに得られた。この住居は縄文時代の住居跡と重複しているが、産出した種実は縄文時代中期に産出しない栽培植物が多く、古墳時代の遺構である可能性が高い。

[８世紀代以降]

８世紀後半の住居跡では、３棟中、SD01（SI01）のみからスベリヒユ属がわずかに得られた。１点のみの産出であるため、焚き付け材などに混ざった種実が偶発的に炭化したと考えられる。８世紀代の竪穴住居跡と10世紀末～11世紀代の竪穴住居跡各１棟からは炭化種実が得られなかった。

第６節　前付・大祥寺遺跡出土木材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

笛吹市に所在する前付遺跡から出土した炭化材と、大祥寺遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は、前付遺跡の竪穴住居跡 SI029 から出土した炭化材と、大祥寺遺跡の建物跡にかかる遺構の一部から出土した木材である。前付遺跡の竪穴住居跡 SI029 は縄文時代中期後半の遺構で、炉と土器内の土壌を水洗して採取された炭化材である。大祥寺遺跡の木材が採取された遺構の時期は、中世末から近世初頭と推測されている。

炭化材試料は、実体顕微鏡で観察した後、カミソリまたは手で３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径１cm の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

木材試料は、剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。永久プレパラートはパレオ・ラボに保管されている。

３．結果

前付遺跡の竪穴住居跡 SI029 から出土した炭化材は、すべて広葉樹のクリであった。形状は破片で、土器内土サンプル②の炭化材と土器土サンプル②の炭化材は 1.5cm角以下、炉は 0.5cm角以下であった。

大祥寺遺跡から出土した木材では、針葉樹のヒノキと、広葉樹のクリが確認された。木取りは、クリで割材が２点みられたが（大 456、大 474）、その他の試料は状態が悪く、木取りは不明である。

結果の一覧を表１に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

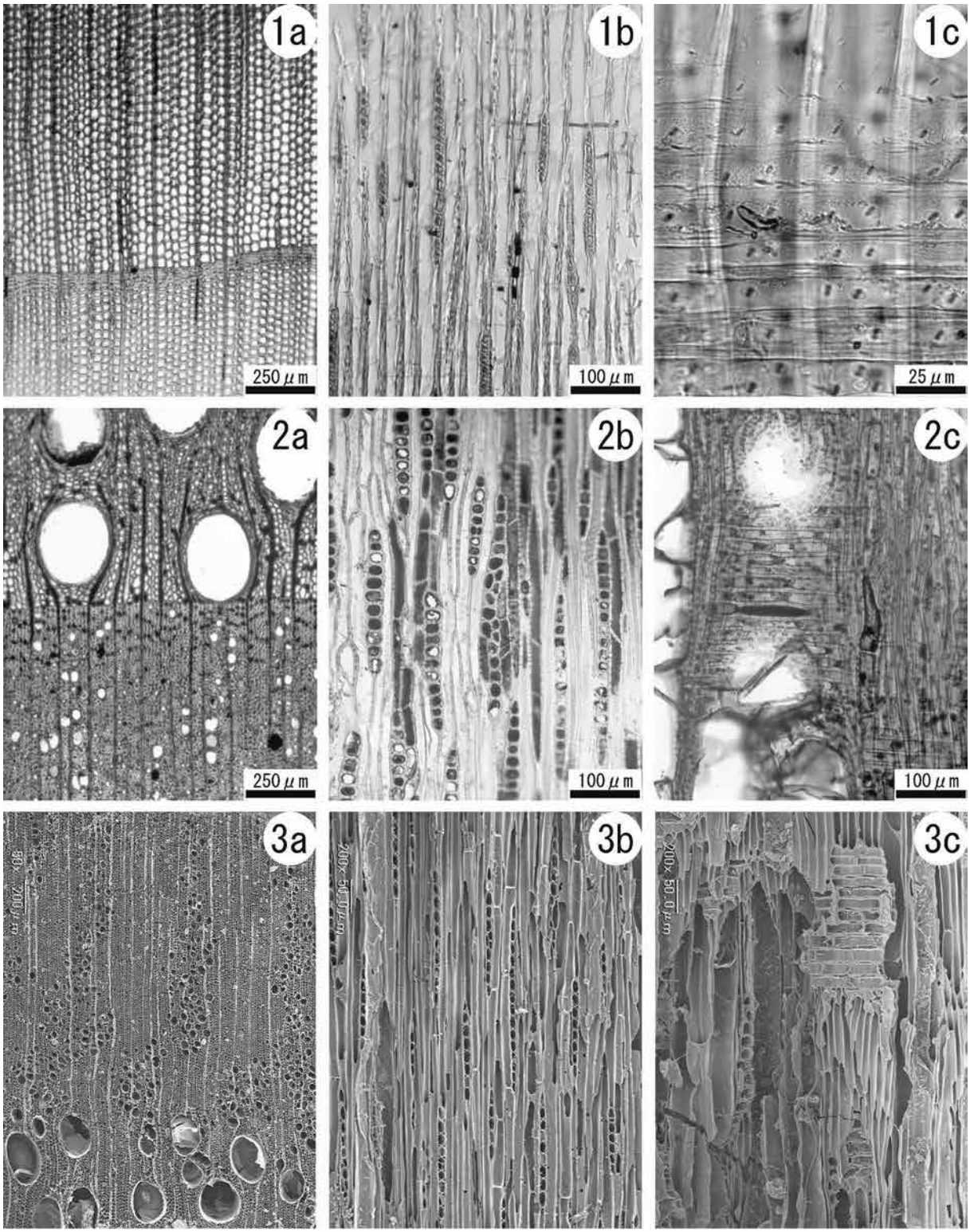
（１）ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版１　1a-1c（大 448 －第 41 図 90）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に２個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

表1　樹種同定結果

遺跡名	遺構名	サンプル名	試料種	樹種	形状、木取り	遺構の時期	備考
前付遺跡	SI029	土器内　土サンプル②	炭化材	クリ	破片：2.8ｇ、1.5cm角以下	縄文時代（曽利Ⅱ式期）	-
前付遺跡	SI029	土器　土サンプル②	炭化材	クリ	破片：2.4ｇ、1.5cm角以下		-
前付遺跡	SI029	炉	炭化材	クリ	破片：0.5ｇ、0.5cm角以下		-
大祥寺遺跡	-	大448	生材	ヒノキ	不明	中世末～近世初頭（18C）	建物跡にかかる遺構の一部、1回以上の建物建替えの痕跡あり
大祥寺遺跡	-	大452	生材	ヒノキ	不明		
大祥寺遺跡	-	大456	生材	クリ	割材		
大祥寺遺跡	-	大457	生材	クリ	不明		
大祥寺遺跡	-	大459	生材	ヒノキ	不明		
大祥寺遺跡	-	大460	生材	ヒノキ	不明		
大祥寺遺跡	-	大474	生材	クリ	割材		
大祥寺遺跡	-	大473	生材	クリ	不明		



図版1　前付・大祥寺遺跡出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真
1a-1c．ヒノキ（大祥寺遺跡-大448）、2a-2c．クリ（大祥寺遺跡-大457）、3a-3c．クリ（前付遺跡-SI029土器内土サンプル②）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

（2）クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図版1　2a-2c（大457 －第41図89）、3a-3c（前付遺跡SI029土器内土サンプル②）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽および耐湿性に優れ、保存性が高い。

4．考察

前付遺跡の竪穴住居跡SI029から出土した炭化材はすべてクリであった。炉や土器内から出土しているため、燃料材の可能性がある。クリは重硬で、燃料材としては火持ちがよい材である（伊東ほか，2011）。山梨県では、縄文時代は建築材を中心にクリが多用される傾向があり、燃料材でもクリが比較的多く利用されている（伊東・山田編，2012）。今回の分析結果は、周辺地域の木材利用傾向とも類似する。

大祥寺遺跡から出土した木材では、針葉樹のヒノキと、広葉樹のクリが確認された。試料の状態が悪く、用途は不明であるが、建物跡にかかる遺構の一部から出土しているため、建築材の可能性が考えられる。ヒノキは軽軟な材、クリは重硬な材であり、建築材であったとすれば、使用する部位によって異なる樹種を利用していたと推測される。山梨県内では、中世～近世においての建築材にマツ属複維管束亜属やモミ属、ヒノキを含むヒノキ科などの針葉樹が比較的多く利用されており（伊東・山田編，2012）、今回の分析結果もこの傾向に調和的である。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，海青社．

第７節　前付遺跡から出土した炭化かごの素材植物の同定

鈴木三男・小林和貴（東北大学植物園）
佐々木由香（パレオ・ラボ）
能城修一（森林総合研究所）

１．はじめに

山梨県前付遺跡から出土した炭化かごの素材植物を調査した。かごは古墳時代前期の焼失住居から出土し、かご内には炭化したご飯が塊の状態で残存していた。ここでは、かごの素材同定を行い、当時利用されていた植物について検討した。

２．資料と方法

資料は竪穴住居跡である SI10 から出土した炭化ご飯塊に付着して出土したかご（遺物番号 39318）である。素材同定用の試料はクリーニングの過程で剥がれた破片のうち、素材の形状や幅が異なる５点を任意に抽出した。試料には、便宜的に試料番号（YAM）を付した。これらについて表面観と破断面の形態観察をデジタルマイクロスコープ（Hirox 社 KH-7700）で行った。試料の残りは、東北大学植物園に保管されている。

3. かごの技法

かごは残存直径 16.5cm で、残存高は 4.5cm であった。底径は最大でも 8.5cm。器種は口縁部が残存していないが、広口のかごと推定される（第 141 図 10）。図はかごの外面側になる。編組技法の呼称は、佐々木ほか（2014）を参照して行った。体部の編組技法はござ目編み（１越え・１潜り・１送り）であり、底部近くにヨコ添え２本巻き付け編みが１段ある。このヨコ添えは底縁に配される帯部の可能性もある。底部は残存していないが、体部への立ち上がりの本数から推定して、２本１単位とする２本飛び網代であった可能性がある。

素材はいずれも割り裂き材を使用しており、表皮側をかごの外面に使用しているが、節や芽などは観察できなかった。

素材の幅は、タテ材が 3.0~4.0（平均 3.5）mm、ヨコ材が 1.0~2.0（平均 1.5）mm、ヨコ添え材は 2.0mm、ヨコ添え巻き付け材は 2.3mm である。タテ材間隔は 3.5mm で、タテ材密度は５cm 中に７本であった。

４．同定結果

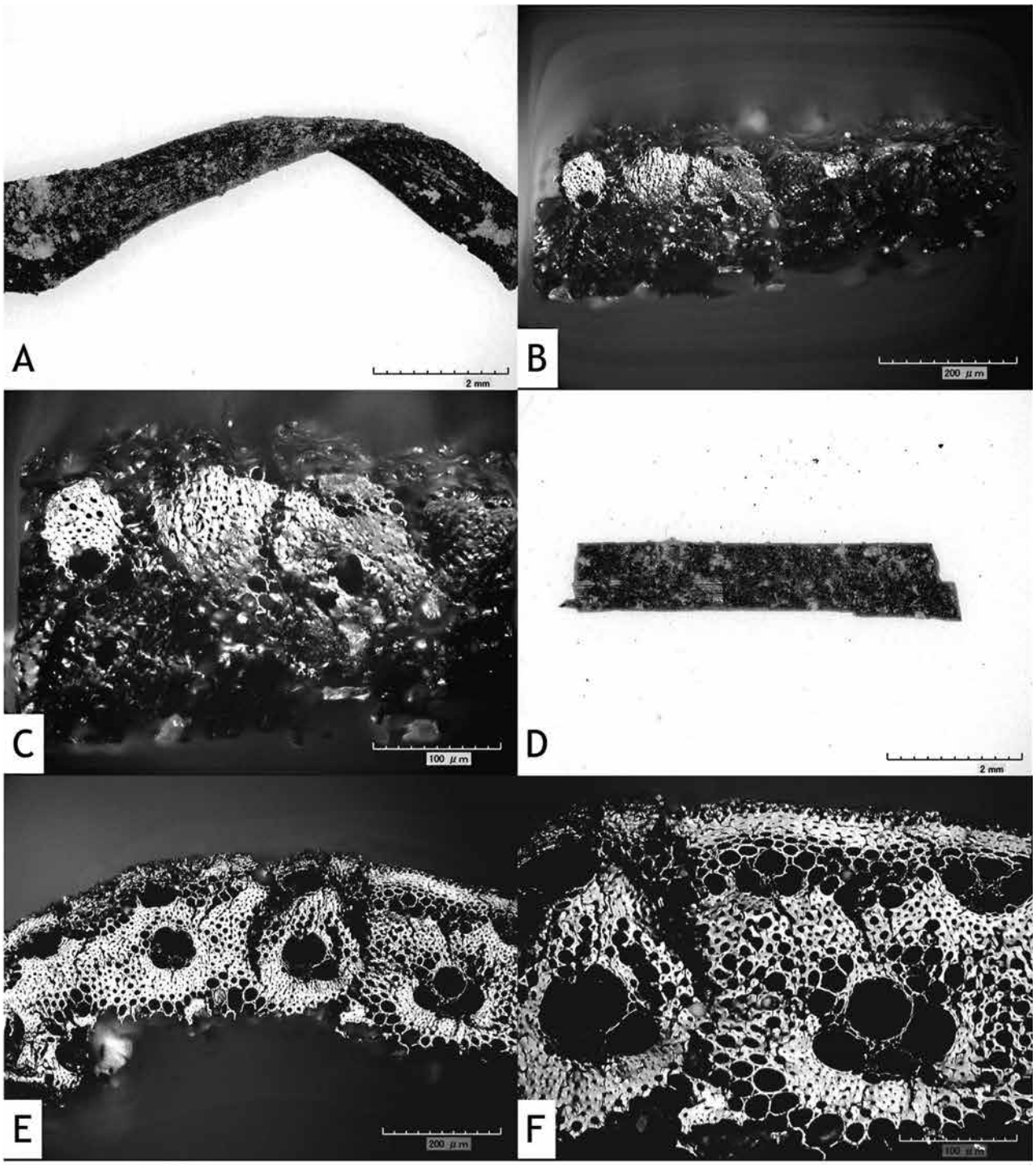
同定の結果、５点とも単子葉類イネ科の稈であることが明らかとなった。

以下に観察された構造について記載する。

（１）YAM- １　ヨコ添え巻き付け材　ササ類　Bambusoideae　イネ科

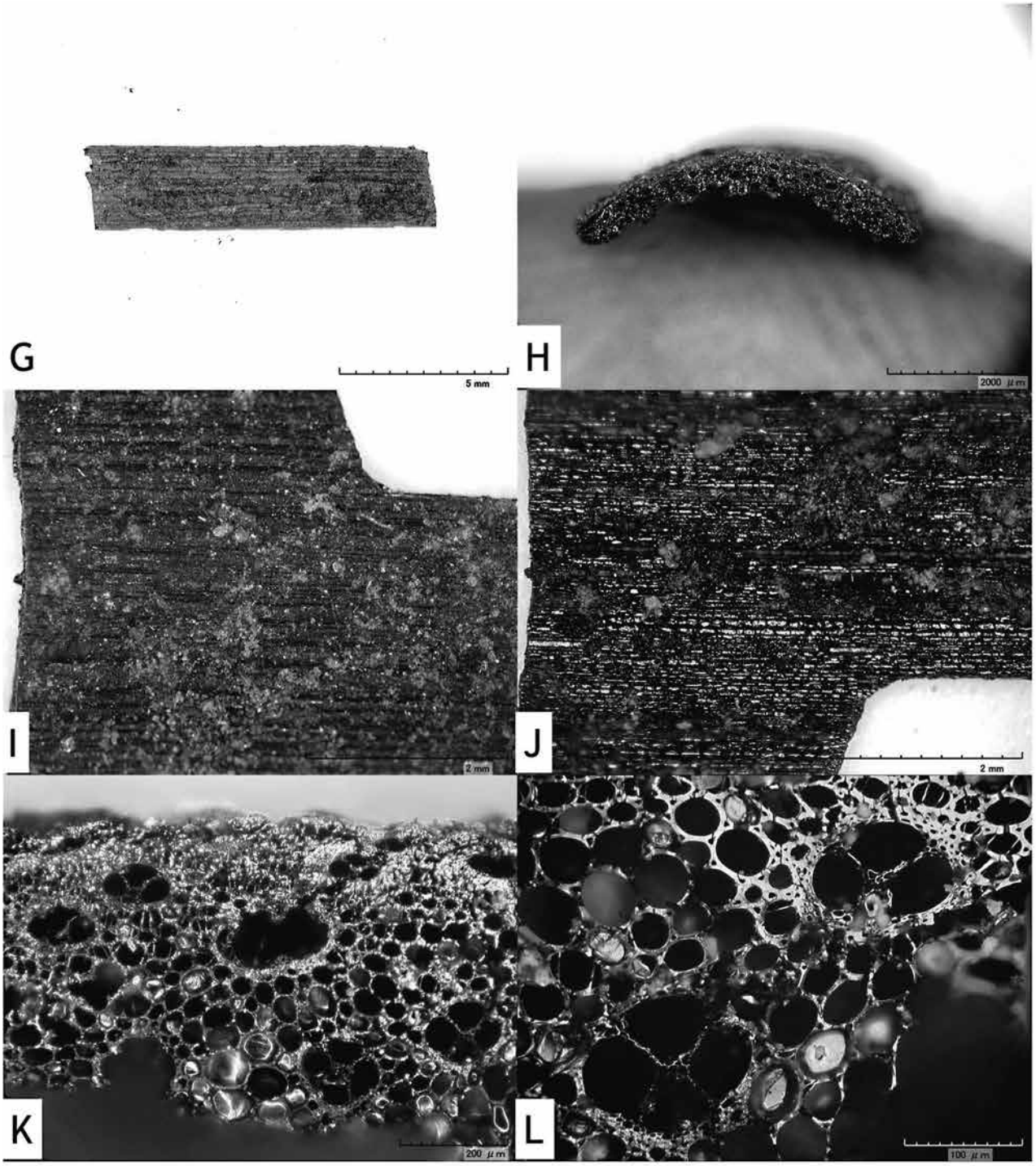
試料は、巻き付けられた形状が判断できたため、ヨコ添え巻き付け材と判断した。幅 0.9mm、厚さ 0.3mm ほどの非常に微細なテープ状である。幅は割れたと推定される。横断面では片面に表皮が残り、反対側は人為的に削られて厚さが調整されたことがわかる。維管束は表皮側に一塊の篩部があり、その左右やや内側に一対の丸い後生木部道管、篩部の内側に一塊の原生木部腔があり、篩部の外側には大きな繊維細胞の塊がある。これは典型的なイネ科の稈の維管束構造である。

イネ科には様々な植物群があり、それらの維管束は基本構造において良く一致しているが、イネやムギ類などは大きな髄腔があるのに対し、ススキなどは髄腔がないこと、草本質の稈は篩部外側の繊維組織があまり発達しないのに対し竹笹類は良く発達して非常に硬い稈を作るなど、ある程度構造からグループを絞り込むことが可能である。本試料は、表皮近くの維管束の組織はよく発達するが、直ぐ内側では柔組織が卓越すること、わずか 0.9mm という試料横断面のサイズ中でも表皮が弧状に見えることから径の細い竹笹類、即ちササ類の稈であると言える。山梨県にはネザサ属やササ属など多くのササ類があり、それを稈の構造で識



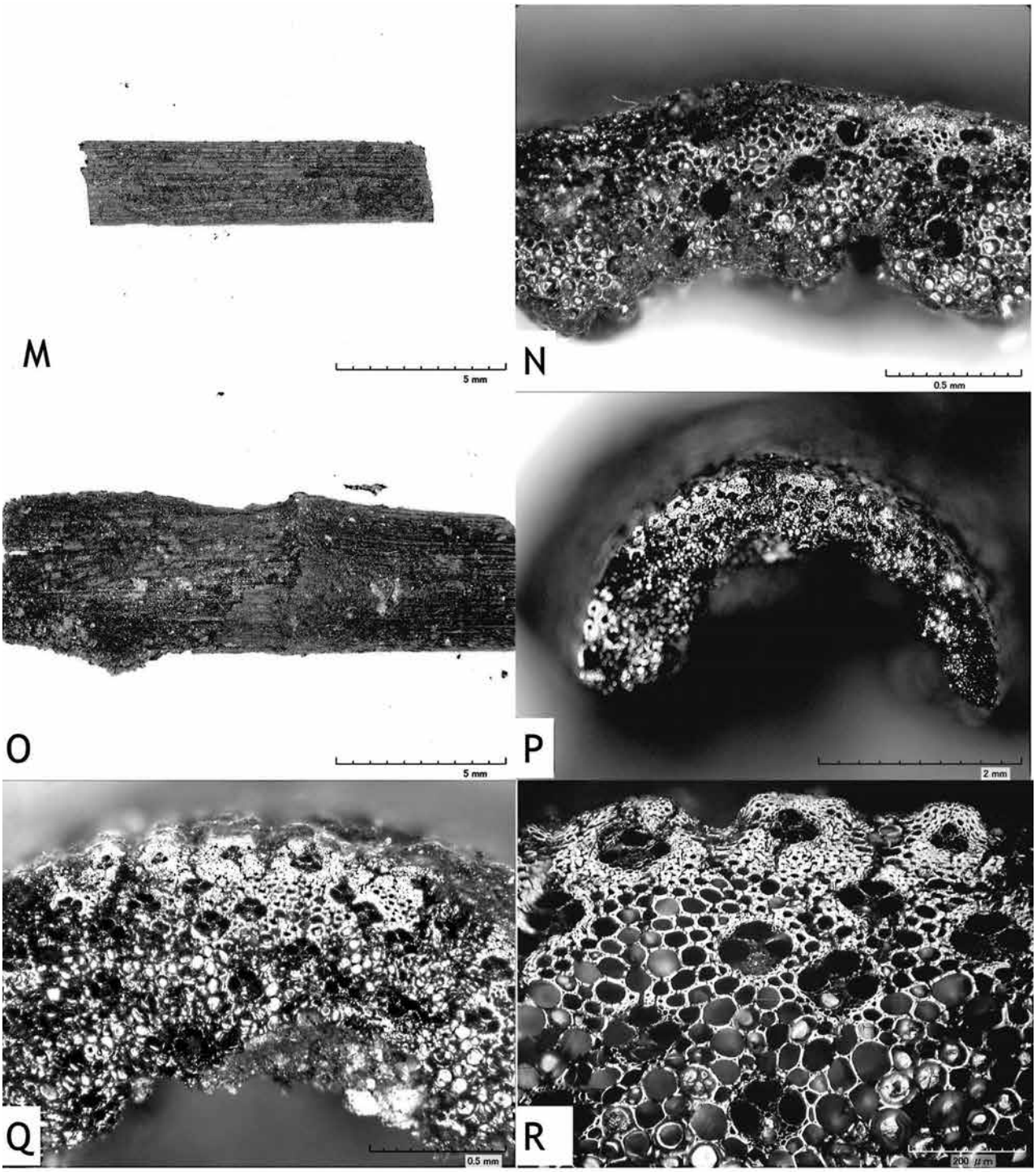
図版1　山梨県前付遺跡出土かご素材のマイクロスコープ画像（1）

A: YAM-1表面観，B: YAM-1破断面，C: YAM-1破断面の拡大，D: YAM-2表面観 E: YAM-2破断面，F: YAM-2破断面の拡大.



図版2　山梨県前付遺跡出土かご素材のマイクロスコープ画像（2）

G:YAM-4表面観，H:YAM-4 破断面，I:YAM-4表面観の拡大（表皮側），J:YAM-4表面観の拡大（髄腔側），K:YAM-4 破断面の拡大，L:YAM-4 破断面の拡大.



図版3　山梨県前付遺跡出土かご素材のマイクロスコープ画像（3）

M:YAM-3表面観，N:YAM-3 破断面，O:YAM-5 表面観，P:YAM-5 破断面，Q:YAM-5 破断面の拡大，R:YAM-5 破断面の拡大.

別することは難しい。

（2）YAM- 2　ヨコ材　ヨシ　*Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud.　イネ科

試料は幅 0.9mm、厚さ 0.3mm ほどの非常に微細なテープ状で、断面では片面に表皮があり、反対側は組織が毀れているため､削りの調整があったかどうかは不明である。維管束の基本構造は上記と同じであるが､篩部外側の繊維組織はあまり発達せず、むしろ維管束内側（原生木部腔の内側）にやや発達する。内側では繊維組織は発達せず柔組織が占める。また、資料の範囲内で表皮側の弧状の湾曲が強く、径がかなり細い稈であることがわかる。更に表皮は平滑な弧状ではなく、小さく波状に湾曲しているように見られるため、稈の表面は平滑でなく、縦筋があったと思われる。以上の形態から、ヨシの稈であると同定した。

（3）YAM- 3　ヨコ材またはヨコ添え材　ヨシ　*Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud.　イネ科

幅 2.1mm、厚さ 0.7mm ほどのテープ状で、断面では片側に表皮があり、反対側は組織が毀れているため、削りの調整があったかどうかは不明である。また髄腔があったかどうかも、残存形態からはわからない。維管束の基本構造は上記と同じであるが、篩部外側の繊維組織はあまり発達せず、内側も繊維組織は発達せず柔組織が占める。表皮は平滑な弧状ではなく､小さく波状に湾曲していることから､稈の表面は平滑でなく､縦筋があったと思われる。以上の形態から、YAM-2 と同じくヨシの稈と同定した。

（4）YAM- 4　タテ材　ヨシ　*Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud.　イネ科

幅 4.5mm、厚さ 0.6mm ほどで、付随する繊維組織は発達せず、草本質の稈であることがわかる。表皮は波状に湾曲するため、稈表面には縦筋があることがわかる。これらの形質からヨシの稈と同定した。

（5）YAM- 5　半割材　ヨシ　*Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud.　イネ科

幅 4.5mm の半割材であるため、稈の径は約 5.0mm といえる。肉厚は 1.0mm ほどで大きな髄腔を持つ。維管束及び繊維組織の形態は YAM-2 ～ 4 と同じであることから、これもヨシの稈と同定した。かご自体には半割材の素材がみられないため、かごに使われていた素材かどうかは不明である。

5．考察

古墳時代前期の竪穴住居から出土した炭化ご飯塊が入っていたかごは、ヨシをタテ材とヨコ材に使い、ササ類を使ってヨコ添え巻き付け編みが配された広口のかごであった。ササ類の内側は人為的に削られて厚みを調整している様相が組織的に確認できた。

炭化した編組製品で、技法および素材が明らかになった製品は非常に稀である。またご飯という内容物が伴っていた例も少ない。神奈川県北川表の上遺跡の古墳時代後期の竪穴住居跡から出土したおにぎりが入ったかごは､竹笹類と同定されている（佐々木ほか, 2009）。本例は､炭化ご飯塊の内面調査がされていないため､単なるご飯なのかおにぎり状に加工されたのかは不明であるが、調理後の米を入れた編組製品例としてさらに時期を遡り、食品をどのような容器に入れていたのかを示す好例といえよう。

引用文献

佐々木由香・バンダリ スダルシャン・米田恭子・村田健太郎・小石川　篤（2009）北川表の上遺跡出土炭化種実同定および炭化種実塊の X 線 CT 画像解析による検討．財団法人　横浜市ふるさと歴史財団　埋蔵文化財センター編「港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 42　北川表の上遺跡」: 423-435. 横浜市教育委員会.

佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一（2014）下宅部遺跡の編組製品および素材束の素材からみた縄文時代の植物利用．国立歴史民俗博物館研究報告，187，323-346.

※本成果は、平成 25 － 27 年度科学研究費補助金基盤研究（A）（代表　鈴木三男）「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」の研究成果の一部である。

第８節　レプリカ法による粘土塊および敷物圧痕の観察

佐々木由香・米田恭子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

山梨県笛吹市前付遺跡では、縄文時代中期後半の竪穴住居跡から土器製作に関連すると推定される粘土塊が出土した。ここでは粘土塊表面のレプリカを採取して、粘土塊および粘土塊下面の敷物圧痕の観察を行った。

２．資料と方法

資料は、縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式期）の焼失住居であるSI29の石囲炉北側の床面から出土した粘土塊である（第169図）。粘土塊は鏡餅状に上下に重なって出土し、下側の塊（第169図D26）は、長軸21cm、短軸17cm、厚さ6.7cmである。下側の塊の上面には細い粘土紐や指頭圧痕と推定される凹み、下面には敷いていたと推定される編組製品の圧痕が観察できたため、以下の手順で圧痕のレプリカを作製した。

圧痕内を筆と流水で水洗し、乾燥条件下でブロアーを用いて付着物を除去した。レプリカ法は、丑野・田川（1991）等を参考にして以下の手順で行った。資料の保護のため、パラロイドB72の５％アセトン溶液を離型剤にして圧痕部分および周囲に含浸させた。印象剤に用いるシリコーン樹脂（アグサジャパン製ブルーミックスソフト）を注射器に入れ、圧痕部分および周囲に充填してレプリカを作製した。このレプリカを実体顕微鏡で観察し、写真撮影を行った。なお、レプリカは（株）パレオ・ラボに保管されている。

３．観察結果および考察

下側の粘土塊の下面には編組製品の圧痕が残存していた。側面には全くみられないため、敷物の可能性が高い。編組技法は、１本１単位とする２本飛び網代で、端部は観察できない。素材植物の幅は４mm程度、厚さは0.6mm程度で、節や芽などは観察できない（表１、図版1-2a～c・d）。粘土塊に付着した側が湾曲しており、植物の表皮側があたっていると考えられる。このため、素材植物は直径数mm程度の円形の植物を割り裂いて使用したと考えられる。厚さは0.6mm前後で、内面を薄く削っていた可能性が高い。

表1　前付遺跡出土粘土塊の敷物圧痕の素材の法量（㎜）

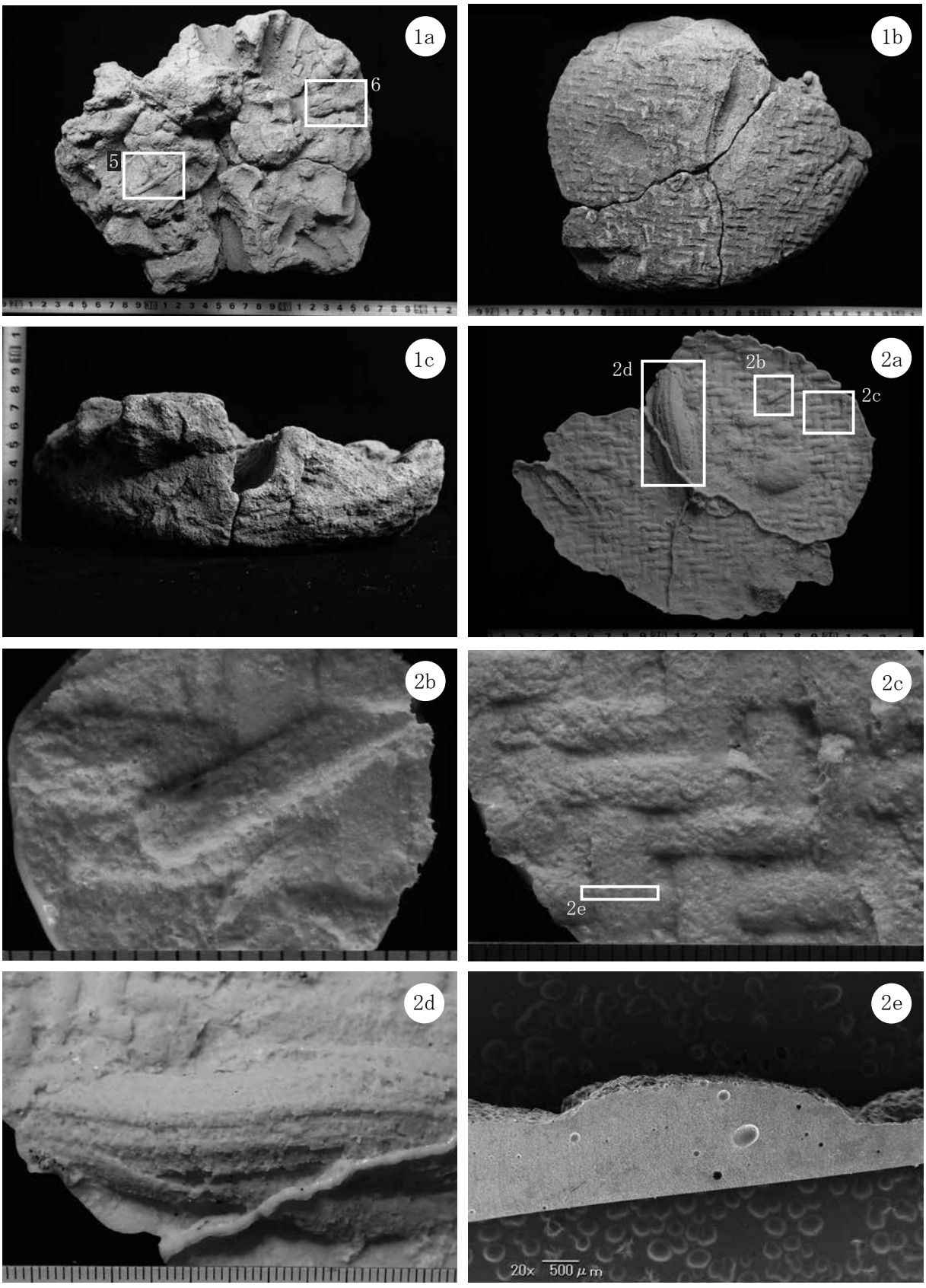
試料名	遺構名	遺構の年代	編組技法	タテ・ヨコ材の法量	
				幅	厚さ
粘土塊	SI29	縄文時代中期後半	2本飛び網代	4.08	0.63

下側の粘土塊の上面には、稈状の植物圧痕が観察された。図版1-2dの稈状の植物圧痕は幅15.5mm程の半円形で、縦方向に幅1.9mm程の稜が４本観察された。図版2-3b・3cの稈状の植物圧痕は幅14.4mm程の半円形で、幅0.63mm程の稜が３本観察された。図版2-4a～4cは指頭圧痕にみえるが、そのうちの一つには図版1-2 dに類似した幅2.07㎜の稜が中央にあるため（図版2-4c）、植物の可能性もある。このほか、径４～５㎜程の表面に付着した粘土紐が数本観察できた（図版2-5・6）。

引用文献

丑野　毅・田川裕美（1991）レプリカ法による土器圧痕の観察．考古学と自然科学，24，13-36．日本文化財科学会．

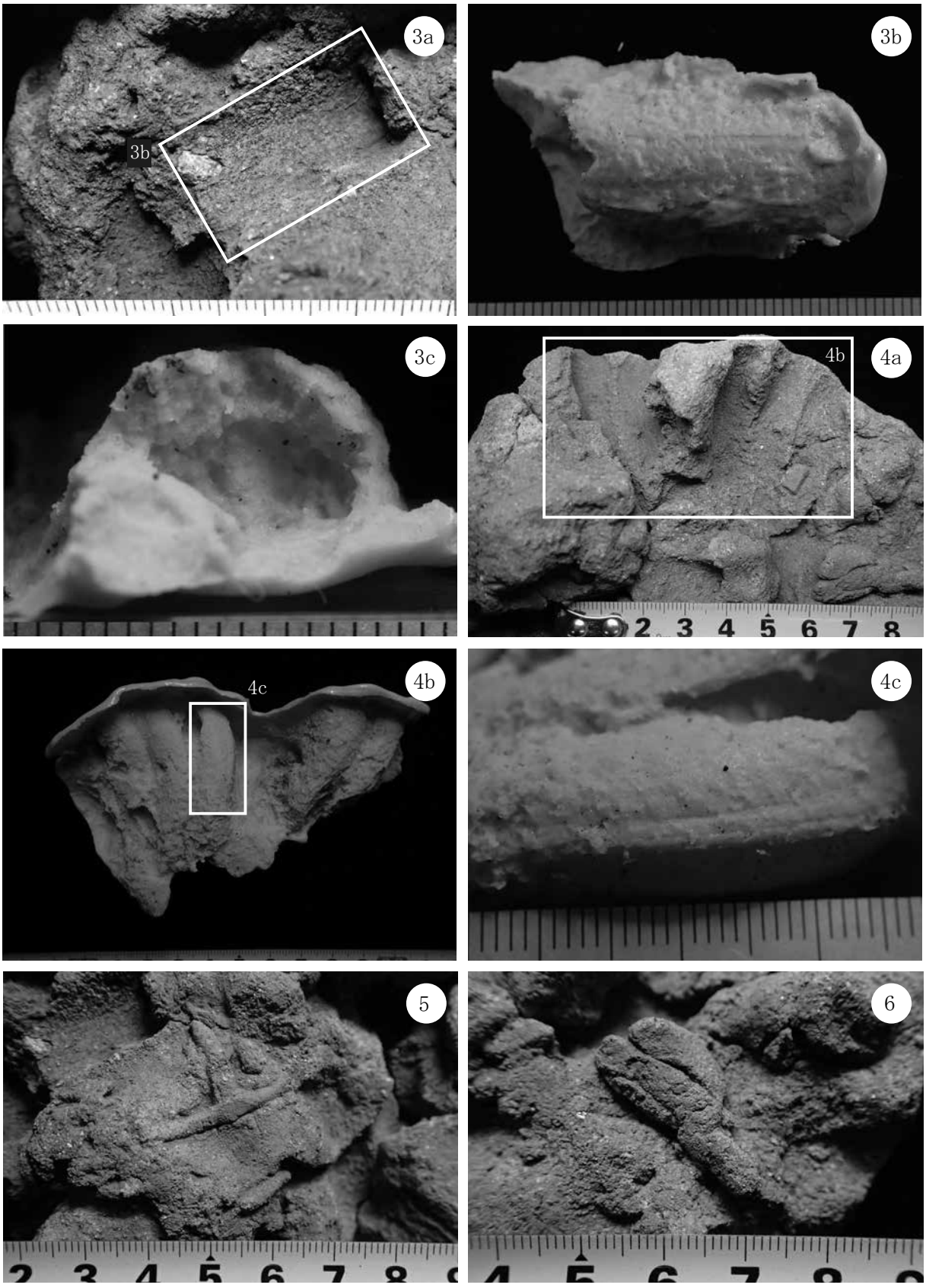
※本成果は、平成25－27年度科学研究費補助金基盤研究（A）（代表　鈴木三男）「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」の研究成果の一部である。



図版１　前付遺跡から出土した粘土塊（下面）の圧痕レプリカ（1）

1．粘土塊（下面）（a：上面、b：底面、c：側面）、2．底部の圧痕レプリカ（a：全体、b・c・d：部分拡大、e：素材断面の走査型電子顕微鏡写真）

粘土塊および圧痕レプリカ写真内白枠は写真位置を示す



図版２　前付遺跡から出土した粘土塊（下面）の圧痕レプリカ（2）

3．稈状の植物圧痕（a：圧痕採取位置、b：レプリカ、c：レプリカの断面）、4．指頭圧痕？（a：圧痕採取位置、b：レプリカ、c：レプリカの断面）、5・6．粘土塊上面付着の粘土紐

粘土塊および圧痕レプリカ写真内白枠は写真位置を示す

第９節　レプリカ法による籠目文土器の観察

佐々木由香・米田恭子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

山梨県笛吹市前付遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居跡などから土器表面に籠を押し当てた籠目文土器が出土した。ここでは籠目文土器表面のレプリカを採取して、籠の編組技法の観察を行った。

２．資料と方法

資料は、古墳時代前期の竪穴住居であるSI28から出土した３点（第156図15･16･17）と、X140･Y110グリッドから出土した古墳時代前期？の１点（第156図19）の、計４点である。レプリカの作製方法は、同章第８節を参照されたい。シリコン樹脂は資料No. １と２にアグサジャパン製ブルーミックスソフト、資料No. ３と４にニッシン製JMシリコン・レギュラータイプを使用した。採取したレプリカは実体顕微鏡で撮影し、技法を観察し、デジタルノギスを用いて計測を行った。レプリカは（株）パレオ・ラボに保管されている。

３．レプリカの観察結果（表１）

以下に、破片別に技法の観察結果を記載する。なお、技法の呼称方法は佐々木ほか（2014）に準拠した。４点に共通する要素として、体部の素材はいずれも幅1.45 ～ 1.75mm程度の割り裂き材である。

表1　前付遺跡出土籠目文土器の圧痕レプリカと素材の法量（㎜）

資料No.	遺構/グリッド	遺物No.	部位	時期	タテ材		ヨコ材		ヨコ添え巻き付け材	
					幅	厚さ	幅	厚さ	幅	厚さ
1	SI28	87	口縁部	古墳時代前期	1.49	0.75	1.75	0.39	2.16	0.34
2		26	口縁部		1.58	0.66	1.64	0.30	2.17	0.32
3		一括	胴部		－	－	1.46	0.23	－	－
4	X140 Y110	－	胴部	古墳時代前期？	－	－	1.63	0.28	－	－

資料No. １（第156図15）：縦方向の残存長3.9cmの範囲に籠の体上部が残存している。体部の技法は、タテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目で、５段残存する。その上部はタテ材を１本１単位とするヨコ添え２本巻き付け編みで、９段確認できる。９段目は半分ほどが明瞭に確認できる。土器には籠の裏面が圧痕となっているために、籠の表面にあるヨコ添え材はみえない。ほぼ籠の口縁部と思われるが、口縁部は残存していない。

資料No. ２（第156図16）：縦方向の残存長4.1cmの範囲に籠の体上部が残存している。体部の技法は、タテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目で、９段残存する。その上部はタテ材を１本１単位とするヨコ添え２本巻き付け編みで、８段確認できる。その他の所見は資料No. １と同様である。

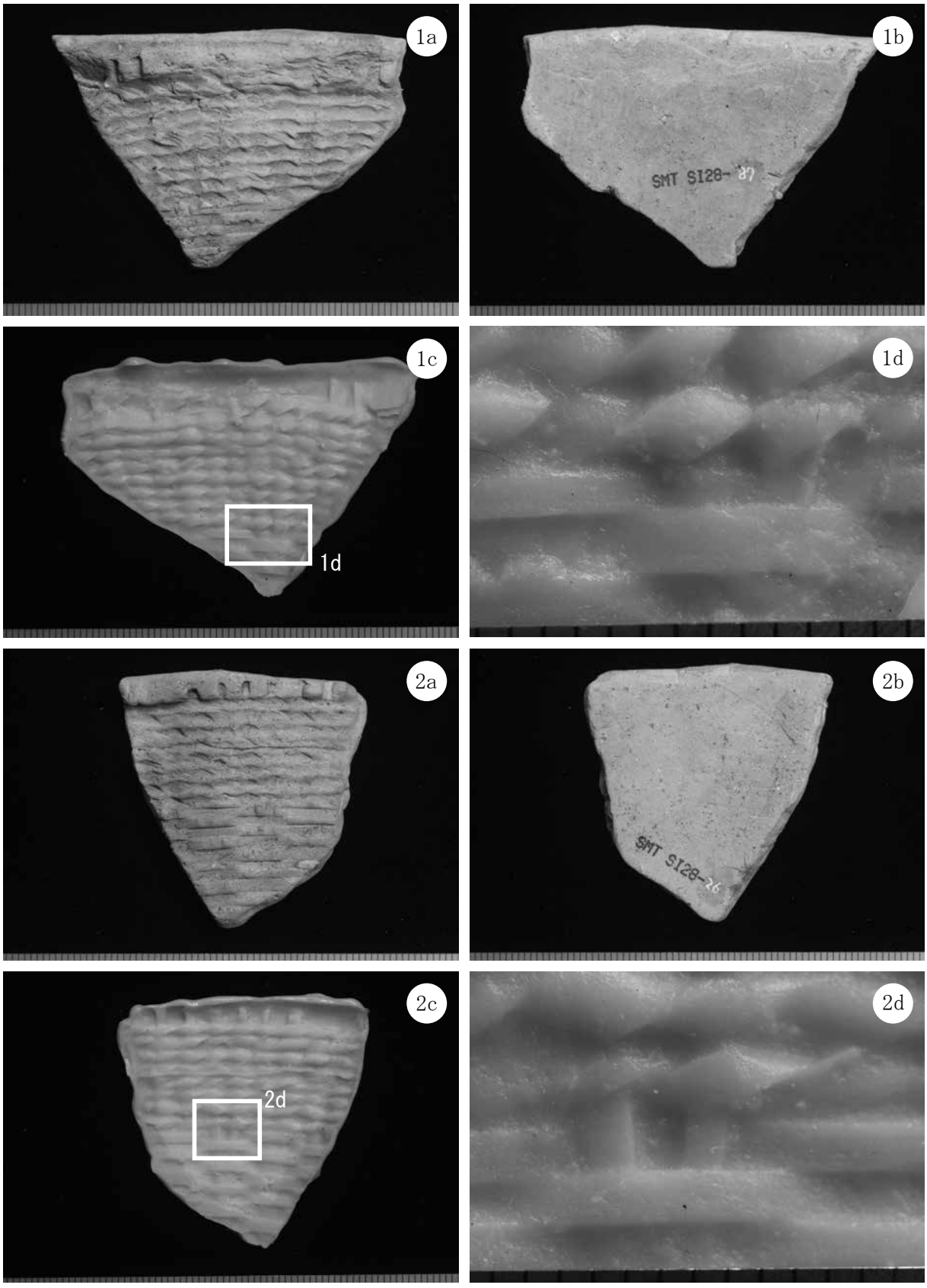
資料No. ３（第156図17）：縦方向の残存長2.7cmの範囲に体下部が残存している。体部の技法は、タテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目で、14段残存する。上部のヨコ材の幅は1.5mm程度であるが、下部の３段の幅は2.3 ～ 2.6mm程度の幅広である。

資料No. ４（第156図19）：縦方向の残存長2.6cmの範囲に体部が残存している。体部の技法は、タテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目で、15段残存する。下部のヨコ材はやや幅広であるが、残存が悪い。

引用文献

佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一（2014）下宅部遺跡の編組製品および素材束の素材からみた縄文時代の植物利用．国立歴史民俗博物館研究報告，187集，323-346.

※本成果は、平成25 － 27年度科学研究費補助金基盤研究（A）（代表　鈴木三男）「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」の研究成果の一部である。

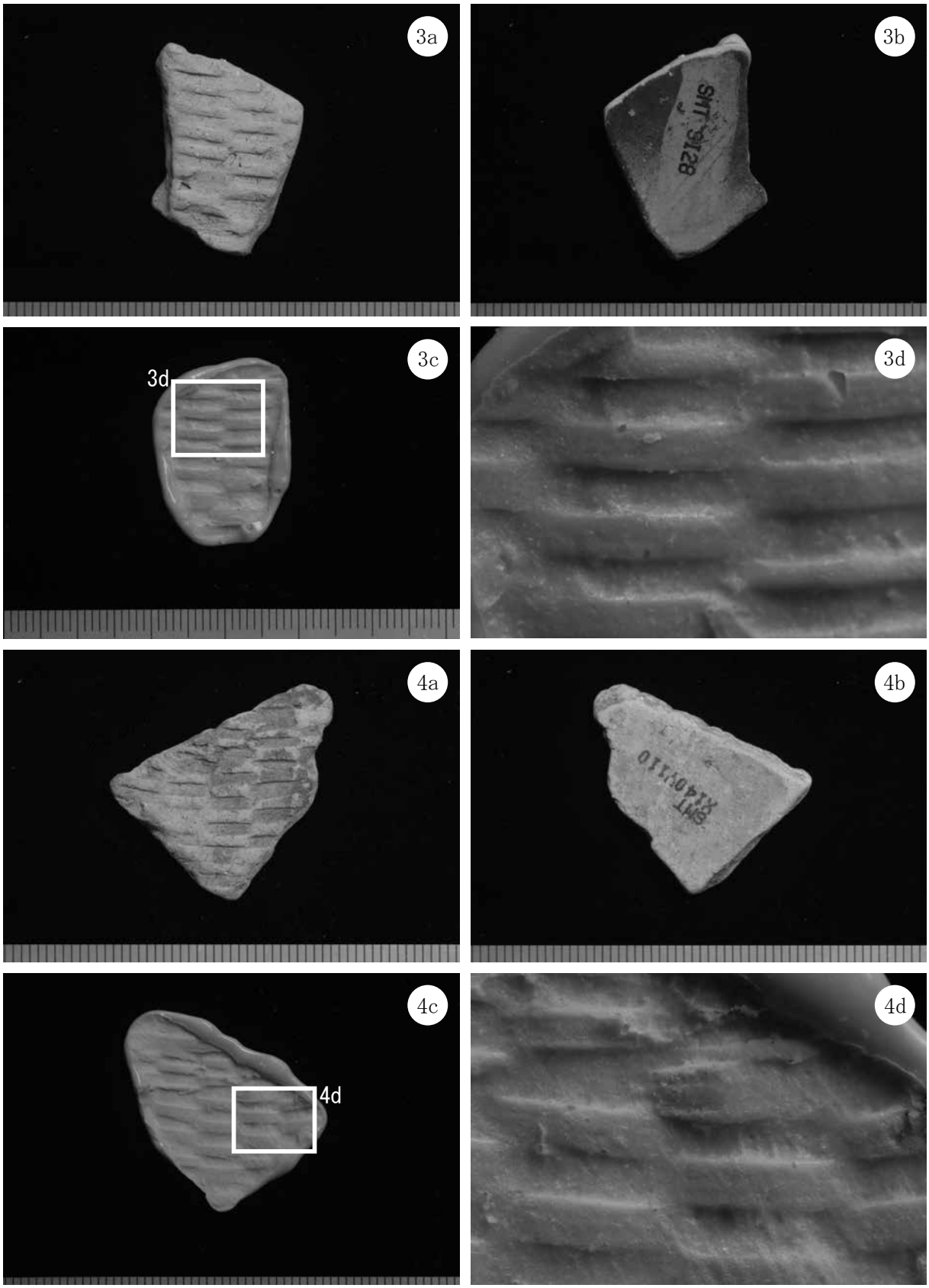


図版１　前付遺跡出土籠目文土器の圧痕レプリカ（1）

1．資料 No.1、2．資料 No.2

a：土器外面、b：土器内面、c：土器外面の圧痕レプリカ、d：圧痕レプリカの部分拡大

圧痕レプリカ写真内白枠は部分拡大写真位置を示す



図版２　前付遺跡出土籠目文土器の圧痕レプリカ（2）

1．資料 No.3、2．資料 No.4

a：土器外面、b：土器内面、c：土器外面の圧痕レプリカ、d：圧痕レプリカの部分拡大

圧痕レプリカ写真内白枠は部分拡大写真位置を示す

第６章　土器胎土分析

第１節　前付遺跡出土貯蔵砂・粘土塊・土器の岩石鉱物分析

河西　学

はじめに

山梨県笛吹市寺尾に所在する前付遺跡は、緑色変質した火山岩類の多い新第三系から構成される御坂山地の前縁に形成された曽根丘陵台地の平坦面上に位置する。この平坦面は、澤（1981）のⅡ面、また内藤・桂田（1992）の原面に相当する。前付遺跡では、縄文時代中期曽利Ⅱ式期の焼失竪穴建物 29 号住居跡（以下 SI29）内において、石囲い炉北側の床面に住居火災により焼かれた粘土塊や台石とともに頸部まで砂で満たされた完形の曽利Ⅱ式土器が正位で出土した。粘土塊は、細い粘土紐や指頭圧痕が残る不定形の塊状を呈し、出土状況から土器製作に関連した遺物と推定されることから、曽利Ⅱ式土器中の貯蔵砂も土器製作原料であった可能性が想定された。貯蔵砂、遺跡周辺河川砂、粘土塊および出土土器との関係を明らかにするため、粒度分析や岩石鉱物分析を行ったので、以下に報告する。

１．試料

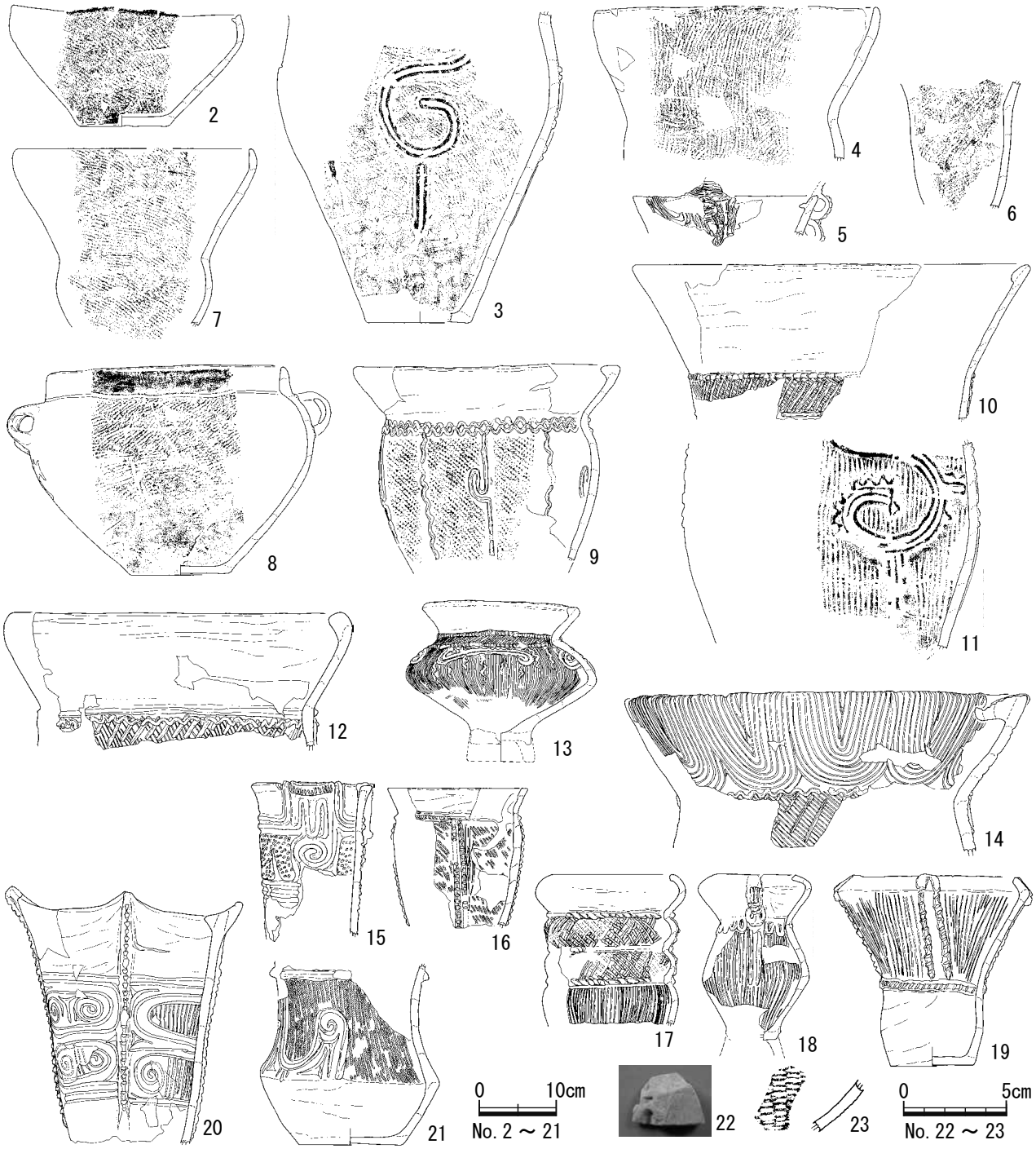
試料は、前付遺跡出土の貯蔵砂、粘土塊や井戸尻式～曽利Ⅱ式縄文土器片、瓦塔片および籠目文土器などであり、比較試料ととして周辺の現世河川砂（間門川・蟹沢川・笛吹川）、遺跡内風成層などを採取して用いた (表１、第１・２図)。

２．分析法

まず、土器内貯蔵砂と現世河川砂とを比較するため、砂試料の粒度分析を行った。粒度分析は、室温で充分風乾させた試料を四分法で約 50g を秤量し､0.5 Φごとの分析篩を用いて篩別し､区画ごとに重量を測定し、区画ごとの百分率で表示した。その数値を基に、図解法により Folk and Ward（1957）の方法で粒度指数を

表１　試料表

試料番号	遺跡名	地点	時期	型式分類	器種	部位	備考
S-1	前付遺跡	SI-29		貯蔵砂			
Sm-1	前付周辺堆積物	間門川		河川砂			
Sm-2	前付遺跡	風成層		風成層			
Sm-3	前付周辺堆積物	蟹沢川		河川砂			
Sm-4	前付周辺堆積物	笛吹川		河川砂			
No. 1	前付遺跡	SI-29	縄文中期	粘土塊			粘土塊, No.308
No. 2	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	鉢	胴部	土器65,66、破片SMT,SI29-94
No. 3	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器164、破片SMT,SI29-42
No. 4	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器208、破片SMT,SI29
No. 5	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	口縁部	土器224、破片SMT,SI29
No. 6	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器274,275、破片SMT,SI29
No. 7	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器295、破片SMT,SI29
No. 8	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	鉢	胴部	土器303、破片SMT,SI29-303
No. 9	前付遺跡	SI-29	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器327、破片SMT,SI29-92
No. 10	前付遺跡	SI-16	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	口縁部	土器446、破片SMT,SI16-169
No. 11	前付遺跡	SI-16	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器406、破片SMT,SI16-
No. 12	前付遺跡	SI-6	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	頸部	土器915,895,887、破片SMT,SI16-976
No. 13	前付遺跡	SI-16	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器424、破片SMT,SI16
No. 14	前付遺跡	SI-6	縄文中期	曽利Ⅱ式	深鉢	胴部	土器604、破片SMT,SI6-57
No. 15	前付遺跡	SI-6	縄文中期	井戸尻式	深鉢	胴部	土器879、破片SMT,SI6-345
No. 16	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式	深鉢	口縁部	土器285、破片SMT,SI14-114
No. 17	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式末～曽利Ⅰ式	深鉢	胴部	土器419、破片SMT,SI14-178
No. 18	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式	深鉢	口縁部	土器163,337、破片SMT,SI14-384
No. 19	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式	深鉢	胴部	土器595、破片SMT,SI14-598
No. 20	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式	深鉢	口縁部	土器585、破片SMT,SI14
No. 21	前付遺跡	SI-14	縄文中期	井戸尻式	深鉢	胴部	土器358、破片SMT,SI14
No. 22	前付遺跡		8世紀代	瓦塔	瓦塔		瓦塔, SMT,X140-Y60,　SMT,G
No. 23	前付遺跡	SI-28	古墳前期	籠目文土器		胴部	SI28-48,実測3



第１図　分析土器の実測図

算出した。

薄片法による岩石鉱物分析では、まず概要を把握するために複数の土器片についてルーペを用いて肉眼観察を行った。分析試料を選択後、以下の方法により薄片を作製した。土器を切断機で４×2.5cm 程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。土器片をエポキシ樹脂を含浸させて補強し、土器の鉛直断面切片（厚さ３mm）を切断し、岩石薄片と同じ要領で薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッチングし、コバルチ亜硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパラートとした。以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ポイントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に 0.3mm、短辺方向に 0.4mm とし、各薄片で 2,000 ポイントを計測した。計数対象は、粒径 0.05mm 以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリクス (「粘土」) 部分とし、植物珪酸体はすべてマトリクスに含めた。

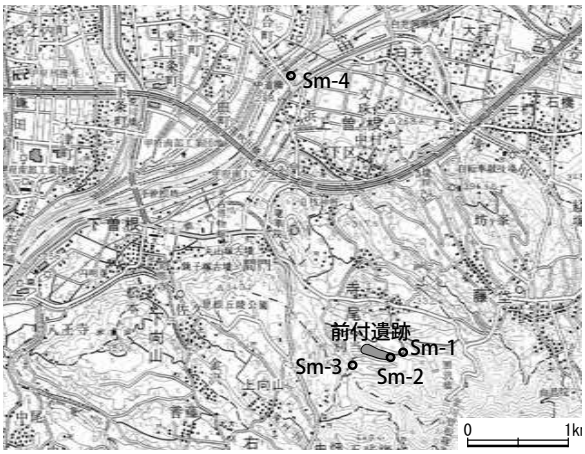
3．分析結果

(1) 粒度分析

粒度分析の結果は、頻度分布図と粒度指数を表示する（第３図、表2)。貯蔵砂は、保存されていた袋ごとにS-1、S-2の２点を分析した。両貯蔵砂試料は、分級度が普通～やや良く、尖度が突出している点で笛吹川砂と類似性が高く、分級度が悪く尖度が中間的な遺跡に隣接する間門川砂・蟹沢川砂とは明らかに異なる。

(2) 岩石鉱物分析

SI29号住内の土器の肉眼観察結果を表３[1)]に示す。ほとんどの土器が、花崗岩類およびその造岩鉱物から主として構成され、緑色変質火山岩類･変質火山岩類･泥質岩･珪質岩・砂岩などをわずかに伴う傾向が見られる。

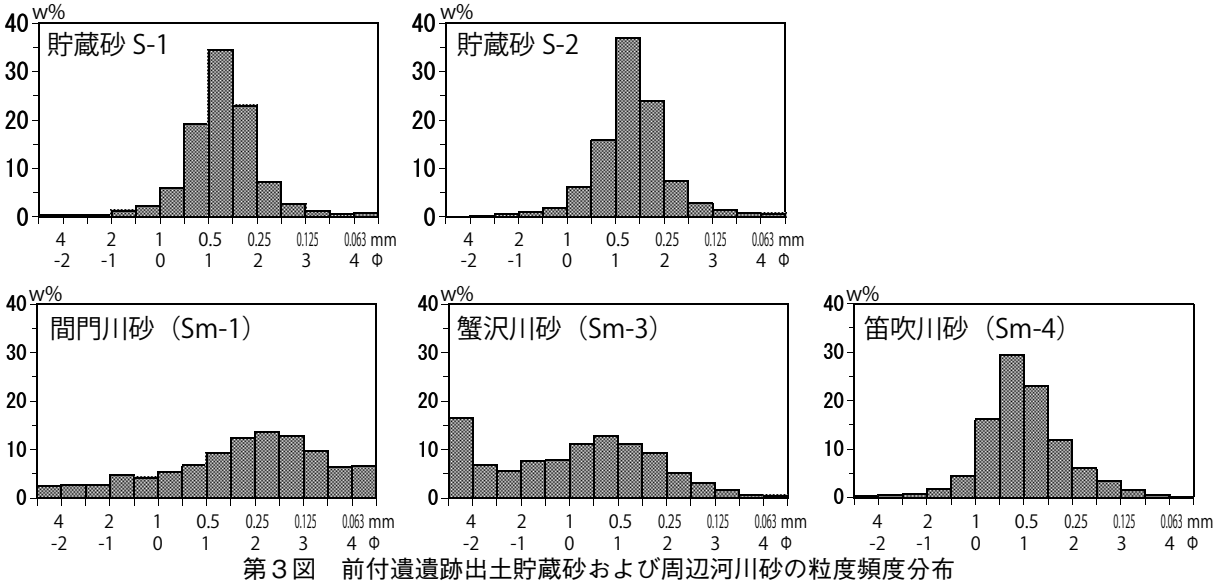


第２図　遺跡および試料採取位置図

（国土地理院発行5万分の１地形図『甲府』使用）

薄片での顕微鏡観察結果を表４に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリクスの割合（粒子構成)、および砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第４・５図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。変質火山岩類（凝灰岩を含める)・玄武岩・安山岩・デイサイト[2)]（含流紋岩)・花崗岩類・変成岩類（含ホルンフェルス)・砂岩・泥岩・珪質岩（含チャート)・炭酸塩岩（含石灰岩)・苦鉄質岩類のポイント総数を基数とし、各岩石種の構成比を示した岩石組成折れ線グラフを第６図に示す。折れ線グラフのピークに基づいて土器を便宜的に分類した（表５)。クラスタ分析の樹形図を第７図に示す。クラスタ分析は、折れ線グラフと同様の11種の岩石データを用いてR言語のhclustで行なった。クラスタ分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、ウォード法によって算出した。第７図では、今回の土器データとともに釈迦堂遺跡の曽利式土器、甲府盆地内河川砂などと比較し、便宜的に１～11の数字をクラスタに付した（河西1989、1992、2001、河西ほか1989)。以下に特徴を述べる。

貯蔵砂S-1の岩石鉱物組成は、花崗岩類とその造岩鉱物から主に構成され、ホルンフェルス・デイサイト



第３図　前付遺遺跡出土貯蔵砂および周辺河川砂の粒度頻度分布

表２　粒度指標一覧表

	前付遺跡貯蔵砂S-1		前付遺跡貯蔵砂S-2		間門川Sm-1		蟹沢川Sm-3		笛吹川Sm-4	
中央粒径(φ)	1.28	中粒砂	1.33	中粒砂	1.98	中粒砂	0.25	粗粒砂	0.95	粗粒砂
平均粒径(φ)	1.32	中粒砂	1.33	中粒砂	1.74	中粒砂	−0.02	極粗粒砂	1.01	中粒砂
分級度	0.72	普通	0.67	やや良い	1.72	悪い	1.85	悪い	0.81	普通
歪度	0.05	ほぼ対称	0.02	ほぼ対称	−0.22	負の歪み	−0.21	負の歪み	0.13	正の歪み
尖度	1.22	突出	1.40	突出	1.09	中間的	0.95	中間的	1.25	突出

表３　土器胎土の肉眼観察結果

ID	遺跡名	遺構	注記	型式	花崗岩類	石英	長石	黒雲母	角閃石	変質火山岩	緑色変質火山岩	泥質岩	珪質岩	砂岩	赤褐色粒子	砂分量	円磨度	粒度	推定原料産地
001	前付遺跡	SI-029		粘土塊	○	○	○	○	○						○	多	角張る	粗～中	花崗岩類地域か
002	前付遺跡	SI-029	SI29-85	曽利Ⅱ式	○	○	○	○	○	△			△丸			多～中	角張る～丸い	粗～中	主として花崗岩類地域か
003	前付遺跡	SI-029	SI29-225	曽利Ⅱ式	◎	○	○		○	△？						多～中	角張る	粗	主として花崗岩類地域か
004	前付遺跡	SI-029	SI29-274	曽利Ⅱ式	◎	○	○		○	○？		○			△	多	角張る	粗～中	主として花崗岩類地域か
005	前付遺跡	SI-029	SI29-275	曽利Ⅱ式	◎	○	○		○						○	多～中	角張る	粗～中	花崗岩地域か
006	前付遺跡	SI-029	SI29-276	曽利Ⅱ式	◎	○	○	○	○						○	多	角張る	中	花崗岩地域か
007	前付遺跡	SI-029	SI29-299	曽利Ⅱ式	○	○	○	○	○	△？			○			多	角張る	中	主として花崗岩類地域か
008	前付遺跡	SI-029	SI29-303	曽利Ⅱ式	◎	○	○	○	○			△？			△	多	角張る	粗～中	主として花崗岩類地域か
009	前付遺跡	SI-029	SI29-306	曽利Ⅱ式	◎	○	○	○	○	△丸			△	△		多	角張る	粗～中	主として花崗岩類地域か
010	前付遺跡	SI-029	SI29-307	曽利Ⅱ式	◎	○	○	○	○		○		△			多～中	角張る	粗～中	主として花崗岩類地域か
011	前付遺跡	SI-029	SI29-326	曽利Ⅱ式	○	○	○	○	○		△		△			中	角張る	中	主として花崗岩類地域か
012	前付遺跡	SI-029	SI29-327	曽利Ⅱ式	○	○	○	○	○			△丸	△	△	○	多	角張る～丸い	粗	主として花崗岩類地域か

をわずかに伴い、重鉱物組成では黒雲母が多く角閃石が続く特徴があり、笛吹川の砂 Sm-4、Nos.17,35,38,39 と類似性が高い。間門川・蟹沢川の砂 Sm-1、Sm-3 は、御坂山地の新第三系地質を反映し緑色変質火山岩類が多く、花崗岩類を伴い、重鉱物組成では緑簾石・単斜輝石・斜方輝石などが多く、貯蔵砂 S-1 の特徴とは明らかに異なる。貯蔵砂 S-1 は、第７図において笛吹川砂 Sm-4、No.35、および日川・重川・天川など笛吹川支流河川砂とともにクラスタ１を構成していることから、笛吹川河川砂に由来する可能性が高いことが示される。以上のように粒度分布や岩石鉱物組成の結果から貯蔵砂 S- Ⅰは、遺跡周辺の堆積物とは異なることが明らかで、笛吹川河川砂に最も類似性が高く、貯蔵砂の原料産地は、笛吹川の沖積地に推定される。したがって貯蔵砂は、遺跡から少なくとも約２km 以上離れた笛吹川沖積地から人為的に運び込まれたと考えることができる。

遺跡内の風成層試料 Sm-2 は、細粒のため砂の含有率（以下含砂率）が７％と低率で、岩石鉱物組成では泥質ブロック、緑色変質火山岩類を含む変質火山岩類が多く、玄武岩スコリア・安山岩・デイサイト・花崗岩類・泥質岩などをわずかに伴い、重鉱物組成ではカンラン石と緑泥石が多い。地元地質に由来する変質火山岩類とともに、富士火山テフラの影響によると推定される玄武岩・カンラン石が含まれ、興味深い。

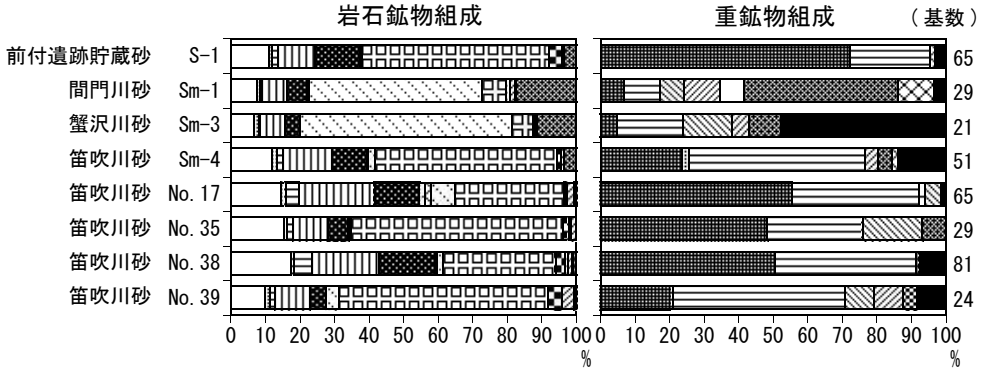
粘土塊 No.1 は含砂率が 39％と高く、岩石鉱物組成では花崗岩類とその造岩鉱物を主体としホルンフェルスを伴うなど貯蔵砂 S-1 のと共通する部分が多いが、緑色変質火山岩類・緑簾石・単斜輝石・斜方輝石など貯蔵砂 S-1 には含まれない岩石鉱物が少量ながら含まれる特徴をもつ。このことは、粘土塊の岩石鉱物組成が、間門川・蟹沢川の砂 Sm-1・Sm-3 や風成層 Sm-2 の組成で代表される地元地質と貯蔵砂で代表される笛吹川の砂との混和によって生じた可能性を示唆する。

前付遺跡出土の曽利Ⅱ式土器 Nos.2 ～ 14 は、含砂率が 16 ～ 32％と多様である。No.12 を除くほとんどの試料では、岩石鉱物組成において花崗岩類とその構成鉱物と緑色変質火山岩類を含む変質火山岩類を伴う点で粘土塊 No.1 と類似性が高い。重鉱物組成では、黒雲母・角閃石を共通して含むが、試料によって緑簾石・不透明鉱物・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石・カンラン石などをときに含み、その組成比は多様である。黒雲母・角閃石は花崗岩類に由来する可能性があるが、一部の角閃石や酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石は黒富士火山火砕流堆積物などに由来する可能性があり、緑簾石・単斜輝石・斜方輝石・カンラン石などは御坂山地から曽根丘陵を構成する地質に由来する可能性が推定される。土器胎土内の砂粒子は、時間差があるので直接貯蔵砂 S-1 が用いられたわけではないことから、原料の岩石鉱物組成が貯蔵砂と微妙に異なっていた可能性も考えられ、酸化角閃石などの存在からは、荒川流域の堆積物の影響のある堆積物を利用していた可能性も想定される。現世の笛吹川豊積橋付近河川砂 No.29（河西 1989）は、荒川合流後の河川砂であり、デイサイト・酸化角閃石などが多く含まれるが、縄文時代の流路変遷によっては遺跡に近い笛吹川沖積地においても同様の状況があった可能性も否定できない。曽利Ⅱ式 Nos.2,4,6,7,13,14 は、貯蔵砂 S-1、笛吹川砂 Sm-4 などとともに表５でＧ類、第７図でクラスタ１を構成している。曽利Ⅱ式 Nos.3,5,8 ～ 11 は、表５でＧ類（Nos.3,8,11）、Ｇ - ｖ類（Nos.5,10）、Ｇ - ｍｔ類（Nos.9）などに分類され、第７図で粘土塊 No.1 と

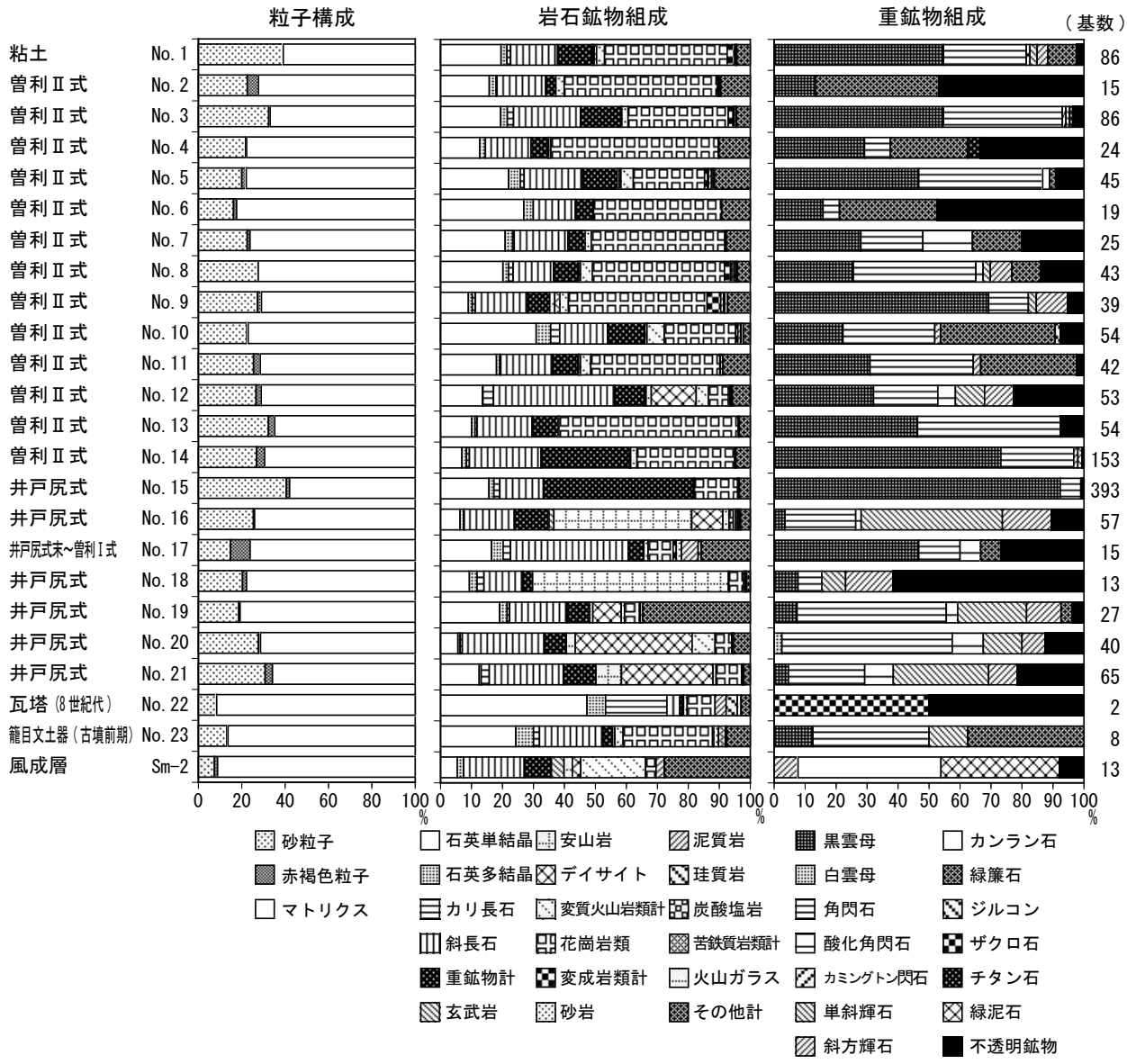
表４　土器胎土中の岩石鉱物(数字はポイント数を、＋は計数以外の検出を示す)

試料番号	S-1	Sm-1	Sm-3	Sm-4	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 6	No. 5	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 18	No. 19	No. 20	No. 21	No. 22	No. 23	Sm-2
石英-単結晶	55	37	33	60	152	71	126	55	87	88	94	111	49	138	92	72	65	37	127	32	49	38	71	31	77	79	64	8
石英-β型																									+			
石英-多結晶	4	5	7	6	15	10	14	8	10	15	11	10	7	21	5	1	7	8	13	6	11	10	9	4	4	10	15	3
カリ長石	9	3	2	10	9	1	13			5	2	8	5	13	2	18	4	5	15	1	7	9	3	4	16	33	5	
斜長石	54	36	36	70	118	71	140	64	44	75	78	72	92	69	85	208	115	124	114	82	113	51	69	146	147	7	54	29
黒雲母	47	2	1	12	47	2	47	7	3	21	7	11	27	12	13	17	25	112	363	2	7	1	2		3		1	+
白雲母				1																				1				
角閃石	15	3	4	26	23		33	2	1	18	5	17	5	16	14	11	25	36	26	13	2	1	13	22	16		3	+
酸化角閃石											4	1				3				1	1		1	4	6		+	
カミングトン閃石					1		1																					
単斜輝石		2	3		2		1					1	1			5				26		1	6	5	20		1	
斜方輝石		3	1	2	3							3	4	1	1	5		2	1	9		2	3	3	6			1
カンラン石		2								1																		6
緑簾石		13	2	2	8	6	1	6	6	1	4	4		20	13				1		1		1				3	+
ジルコン														1				+	+						+			
ザクロ石																										1		
チタン石						+		1																				
緑泥石	1	3		1														2										5
不透明鉱物	2	1	10	7	2	7	3	8	9	4	5	6	2	4	1	12	4	1	2	6	4	8	1	5	14	1		1
玄武岩					3								+			1				8								6
安山岩	+	2		1	3		1			3		2	9		1	9		1		226		257	4	16	51		2	4
デイサイト	2				6			1		2		3	9	3	3	77		1		51			34	209	182			4
凝灰岩																												
緑色変質火山岩類		224	261	6	11	11		1		3	8	4		12	6	1				2	1							15
変質火山岩類		26	45	5	9	1	13	2		13	1	17	15	13	11	20	2	11	3	8	3	1	4	41	6	2	7	16
花崗岩類	272	35	31	263	308	223	210	235	134	92	194	235	244	103	212	34	374	169	113	7	24	19	18	30	51	15	76	5
ホルンフェルス	19			6	19	2	10	1		4		11	24	3	1				2		3						1	
他の変成岩類																												
砂岩	1	6	2				2			1		2								4	5		1				4	
泥質岩	1	6	4	4	3	2	4			4		4	5	4	4	3		2	1	3	16	2		2	2	6		4
珪質岩					1					2		3		1		2			1	1	3	1				6		
炭酸塩岩																												
緑簾石岩											2	2	2							2							6	
他の苦鉄質岩類																												
火山ガラス-無色		2			1	1	1			2		1	5			2	2			2	+	1	2	1	2	1	1	
火山ガラス-褐色														3									1			1		
変質岩石	2	39	19	3	16	20	17	2	5	13	14	14	7	6	12	10	1	5	7	1	6	1		11		1	17	14
変質鉱物	1	4		1	4	4	6	10	5	5	4	7	8	3	3	13	4	13	17	8	24	2	1	1	3		1	13
泥質ブロック	15	44	37	14	14	19	6	32	20	28	17	2	25	1	30	8	18	7	5	7	17	2	128	18	10	4	2	14
その他																												
赤褐色粒子		2	2		5	103	13	10	28	41	26	1	36	12	62	47	58	75	30	10	180	37	12	19	67	1	10	29
マトリクス					1217	1446	1338	1555	1648	1559	1524	1448	1419	1541	1429	1421	1296	1389	1159	1482	1523	1556	1616	1427	1317	1832	1727	1823
合計	500	500	500	500	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
石英波動消光	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
石英清澄					+											+				+				+	+			
石英融食																				+								
パーサイト	+		+		+			+	+			+	+	+	+	+		+		+	+	+	+	+	+			
マイクロクリン	+	+		+	+							+	+	+	+		+	+	+	+			+		+			
ﾏｲｸﾛｸﾘﾝﾊﾟｰｻｲﾄ	+																											
安山岩の斑晶鉱物		opx			cpx		cpx			opx		opx	cpx			cpx, opx				cpx, opx		cpx, opx		cpx, opx	cpx, opx			
デイサイトの斑晶鉱物	ho				ho							opx, oxyho	opx, opq	ho	cpx, opq	cpx, oxyho, opq				cpx, ho, oxyho			opx, ho, oxyho, opc	cpx, opx, ho, oxyho, opc	cpx, ho, oxyho, bq			
変質火山岩類岩質				D	AD, D	D	AD, D	AD, D		AD, D	AD	AD, D	AD, D	D	D	B, AD, D	D	AD, D	D	AD, D	AD, D	AD	D	AD, D	D	D	D	B, AD, D
花崗岩類含有鉱物	bi, ho, cpx	Bi, ho	bi	bi, ho	mu, bi, ho	bi, ho	mu, bi, ho	bi, ho	bi, ho	bi, ho	bi	mu, bi, ho	bi, ho, cpx	mu, bi, ho	bi, ho	bi	bi, ho	bi, ho	mu, bi, ho	mu	bi	bi	bi		bi, ho	mu	bi, ho	
ミルメカイト			+	+	+							+	+		+		+	+							+			
ﾏｲｸﾛｸﾞﾗﾌｨｯｸ組織			+	+	+	+	+	+	+		+		+		+								+				+	
火山ガラス形態		B, F			C	B	E			A', C		B	A, A', B, F	B		B, C	B, F			B, F	A'	B	A, A', B	A	A', F	A, A', C	A, A'	
植物珪酸体					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
植物遺存体							+			+		+			+	+	+		+	+				+				

鉱物：bi黒雲母，mu白雲母，ho角閃石，oxyho酸化角閃石，cpx単斜輝石，opx斜方輝石，opq不透明鉱物，opcオパサイト，bqβ型（高温型）外形石英
変質火山岩類：Ｂ玄武岩質，ＡＤ安山岩質～デイサイト質，Ｄデイサイト質
火山ガラス形態：Ａ泡壁型平板状，Ａ’泡壁型Ｙ字状，Ｂ塊状，Ｃ中間型，Ｄ中間型管状，Ｅ軽石型繊維状，Ｆ軽石型スポンジ状

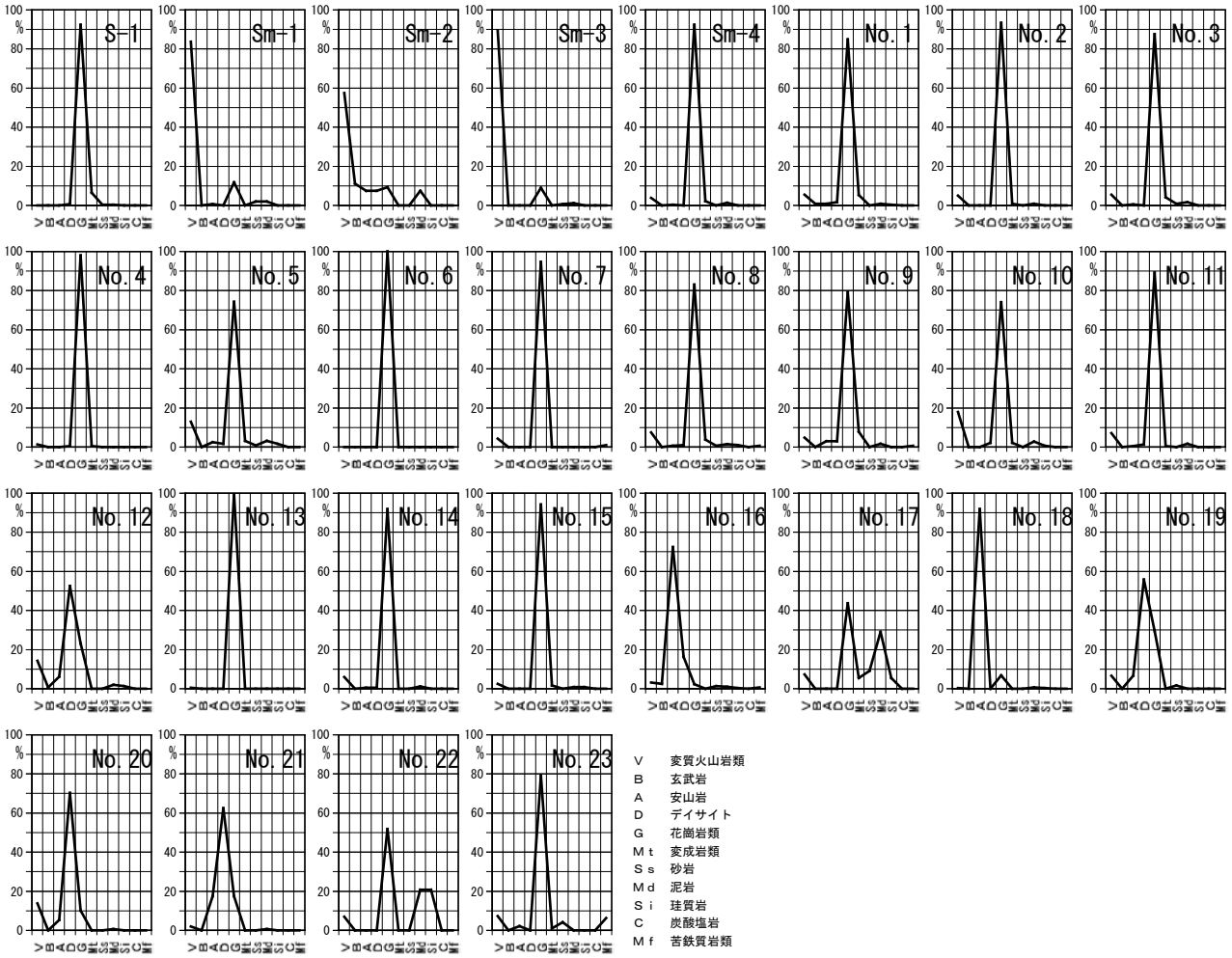


第４図　前付遺跡出土貯蔵砂および周辺河川砂の岩石鉱物組成（笛吹川 No.17 ～ 39 は、河西（1989）のデータを表示）



第５図　土器胎土等の岩石鉱物組成

ともにクラスタ２を構成している。クラスタ１を構成する曽利Ⅱ式胎土は花崗岩類の割合が高く、釈迦堂遺跡の曽利Ⅳ式・加曽利ＥⅢ～Ⅳ式胎土と類似性が高いことが示される一方、クラスタ２を構成する曽利Ⅱ式土器は粘土塊 No.1 と同様に変質火山岩類など地元の堆積物の混和が特徴的であり、釈迦堂遺跡土器と明らかに異なる地域性を示すことがわかる。さらに、クラスタ１を構成する釈迦堂遺跡の曽利Ⅳ式・加曽利ＥⅢ～Ⅳ式胎土における重鉱物組成では、半数近くで緑簾石が計数されず、含まれる試料でも緑簾石の割合が２％以下であるのに対し、前付遺跡では、緑簾石が含まれない Nos.13,14 を除く Nos.2,4,6,7 において 16％以上の比較的高い割合で存在し、釈迦堂遺跡とは異なる地域的特徴を示している。このようにクラスタ２の



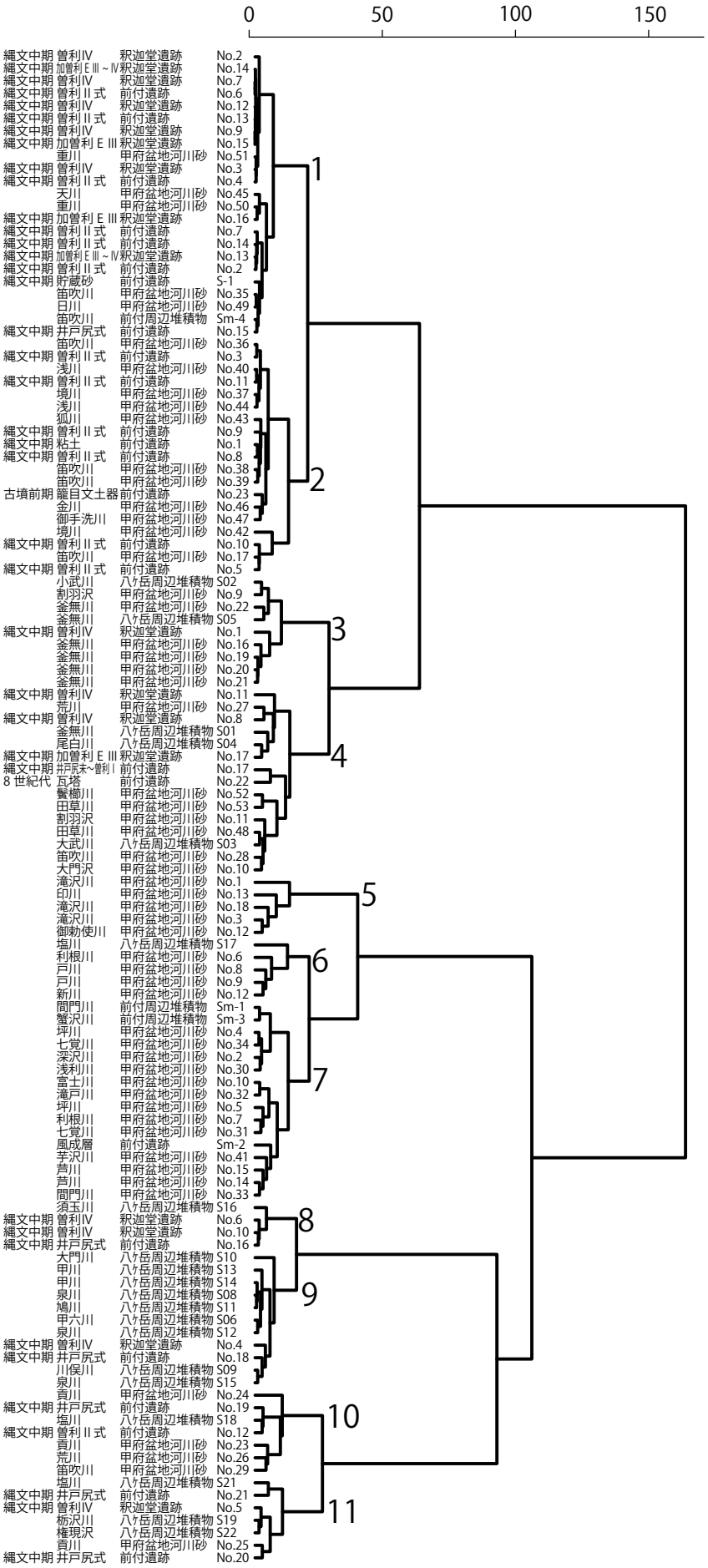
第６図　岩石組成折れ線グラフ

表５　折れ線グラフによる土器分類

分類	折れ線グラフの特徴		試料番号
V－b 類	変質火山岩類の第１ピーク	玄武岩の第２ピーク	Sm-2
V－g 類		花崗岩類の第２ピーク	Sm-1, Sm-3
A類	安山岩の第１ピーク	顕著な第1ピーク	18
A－d 類		デイサイトの第２ピーク	16
D－v 類	デイサイトの第１ピーク	変質火山岩類の第２ピーク	20
D－g 類		花崗岩類の第２ピーク	12, 19
D－a ・ g 類		安山岩と花崗岩類の第２ピーク	21
G類	花崗岩類の第１ピーク	顕著な第1ピーク	S-1, Sm-4, 1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 11, 13, 14, 15,
G－v 類		変質火山岩類の第２ピーク	5, 10, 23
G－m t 類		変成岩類の第２ピーク	9
G－m d 類		泥質岩の第２ピーク	17, 22

Nos.3,5,8 ～ 11 やクラスタ 1 のうち Nos.2,4,6,7 は、地元地質の特徴を有しており、粘土塊 No.1 との共通性が認められることから遺跡周辺地域において笛吹川河川砂で代表される混和材と地元の原料を混和して製作された地元土器である可能性が強いと推定される。Nos.13,14 は、地元原料の特徴が認められず、花崗岩類分布地域に原料産地が推定される搬入土器である可能性がある。Nos.13,14 の原料産地は、笛吹川流域が有力な候補の一つとして推定される。

No.12 は、岩石鉱物組成で斜長石・石英・デイサイトを主体とし、花崗岩類・変質火山岩類・安山岩などを伴い、重鉱物組成では黒雲母・角閃石・不透明鉱物が多い点で他の曽利Ⅱ式と共通するが、酸化角閃石・



第７図　土器と関東地域河川砂とのクラスタ分析樹形図

単斜輝石・斜方輝石がやや多い特徴が認められる。これらの鉱物は、デイサイト・安山岩の斑晶に含まれるものである。No.12 は、表５でＤ - ｇ類に分類され、第７図では井戸尻式 No.19 や貢川・荒川・塩川などの河川砂とともにクラスタ 10 を構成する。No.12 の原料産地は、デイサイト質の火砕流で特徴づられる黒富士火山周辺の荒川・塩川流域が候補の一つとして推定される。搬入土器である可能性がある。

井戸尻式土器 Nos.15 ～ 21 は、SI-14 出土試料が主体のためか胎土の特徴が曽利Ⅱ式とは明らかに異なる。含砂率は 15 ～ 41％と多様である。岩石鉱物組成ではデイサイト・安山岩で特徴づけられる試料が多い。Nos.16,19 ～ 21 は、デイサイト・安山岩を主体とし、花崗岩類・変質火山岩類・堆積岩などを伴い、重鉱物の含有は少なく、重鉱物組成では角閃石・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石などから主として構成される特徴を示す。No.16 は、表５でＡ - ｄ類に、第７図で須玉川河川砂とともにクラスタ８に含まれる。No.16 の原料産地は、安山岩とデイサイトが産する茅ヶ岳・黒富士火山周辺の荒川・塩川流域や釜無川流域などが候補の一つとして推定される。Nos.19 ～ 21 は、表５でＤ - ｖ類（No.20）、Ｄ - ｇ類（No.19）、Ｄ - ａ・ｇ類（No.21）に分類され、第７図で荒川・塩川流域河川砂とともにクラスタ 10・11 を構成する。Nos.19 ～ 21 の原料産地は、茅ヶ岳・黒富士火山周辺の荒川・塩川流域が候補の一つとして推定される。No.18 は、安山岩主体の岩石鉱物組成で、花崗岩類をわずかに伴い、重鉱物の含有は少なく、重鉱物組成では不透明鉱物が多く、斜方輝石・単斜輝石・角閃石・黒雲母をわずかに伴う。No.18 は、表５でＡ類に分類され、第７図で八ヶ岳周辺の河川砂とともにクラスタ９を構成する。No.18 の原料産地は、八ヶ岳周辺地域が有力候補の一つとして推定される。No.15 は、花崗岩類とその造岩鉱物から構成される特徴的組成を示し、重鉱物の含有率が極めて高く、重鉱物組成では９割以上を黒雲母が占め角閃石を伴う。No.15 は、表５でＧ類に分類され、第７図では貯蔵砂 S-1 や曽利Ⅱ式土器などとともにクラスタ１を構成する。No.15 の原料産地は、Nos.13,14 と同様に笛吹川流域の花崗岩類地域が有力な候補地の一つとして推定される。以上の井戸尻式土器は、搬入土器である可能性が考えられる。No.17 は、岩石鉱物組成では斜長石が多く、花崗岩類・泥質岩が続き、砂岩・ホルンフェルス、緑色変質を含む変質火山岩類などを伴い、重鉱物組成では黒雲母・不透明鉱物が多く、角閃石・酸化角閃石・緑簾石が含まれ、No.7 と見かけ上類似する。No.17 は、表５でＧ - ｍｄ類に、第７図で笛吹川・釜無川流域河川砂などとともにクラスタ４を構成する。No.17 の原料産地は、笛吹川・釜無川流域などが候補の一つとして推定される。しかし、緑色変質火山岩類・緑簾石などがわずかに検出されること、地元産土器と推定された No.7 と重鉱物組成が類似すること、縄文時代の釜無川の流路は明らかになっていないので遺跡に近い現笛吹川沖積地も釜無川堆積物の影響があった可能性が否定できないことなどから、No.17 に在地的要素が含まれるという可能性は残される。

８世紀代の瓦塔試料 No.22 は、構成粒子が全体に細かく、含砂率が８％と低い。岩石鉱物組成では、石英に次いでカリ長石が多く、斜長石を伴い、岩石では花崗岩類・泥質岩・珪質岩などがやや多く、変質火山岩類をわずかに伴い、重鉱物の含有は極めて少なく、ザクロ石と不透明鉱物が計数されたに過ぎない。No.22 は、表５でＧ - ｍｄ類に、第７図で曽利Ⅱ式 No.17 や笛吹川・釜無川流域河川砂などとともにクラスタ４を構成する。No.22 の原料産地は、No.17 と同様に笛吹川・釜無川流域などが候補の一つとして推定される。ただし、カリ長石が斜長石よりも多いこと、わずかな重鉱物にザクロ石が計数される特徴などは甲府盆地の河川砂や在地的な土器胎土ではほとんど認められないことから、例えば領家帯花崗岩など他地域の地質に由来する搬入土器である可能性がより高いと考えられる。

古墳時代前期の籠目文土器 No.23 は、含砂率が 13％で、岩石鉱物組成では花崗岩類とその造岩鉱物から主として構成され、変質火山岩類・緑簾石岩・砂岩・安山岩を伴い、重鉱物の含有は少なく、重鉱物組成では緑簾石・角閃石が多く黒雲母・単斜輝石を伴う。No.23 は、表５でＧ - ｖ類に分類され、第７図では曽利Ⅱ式土器や笛吹川流域河川砂とともにクラスタ２を構成する。第５図では、緑簾石岩を苦鉄質岩類に分類しているが緑色変質火山岩類にも緑簾石が集中する場合もある。No.23 の原料産地は、笛吹川流域が候補の一つとして推定される。籠目文土器の出土例は、県内ではほどんどないとされているため今後の分析試料の蓄積を待ってさらに検討したい。

４．土器原料の産地推定における意義

貯蔵砂や粘土塊の出土例は、土器作りにおける原料がどのように調達されて利用されているかを具体的に示す事例として重要である。河川砂が土器原料として利用されている点、それらが２km 以上離れた地点から搬入されている点、他地域からの原料と地元原料を混和している点などが推定され、混和しても地元地質を反映した岩石鉱物が識別可能である点が確認された。

土器作りに際し、遺跡の立地する地質と明らかに異なる地質に由来する原料が遺跡に運び込まれていた事例が明らかになった。従来の土器の原料産地の推定は、遺跡が立地する地質との比較によって行ってきた（河西 1992,1999,2010）。地域ごとに地元地質を利用した土器作りがなされている場合には、土器の原料産地を土器の製作地として見なすことができた。その場合、土器の移動は、土器の製作地（＝原料産地）と遺跡が立地する地質との比較によって推定されてきた。

今回の分析では、搬入された多くの混和材とわずかな地元地質の組み合わせが曽利Ⅱ式胎土に認められた。土器作りにおける資源調達の範囲、およびそこでの多様な地質利用の可能性をも考慮して土器移動の推定をする必要性が示された。土器原料の利用範囲や運搬距離などを推定するには、今回のような具体例の蓄積から推定するのが直接的で確実である。しかし、具体例が得られない場合には、同時代の各地域の土器胎土組成の分布から地域性を見いだし地域地質との関係から間接的に推定することも可能と考えられる。

まとめ

SI29 出土の土器内の貯蔵砂、粘土塊、遺跡内の土器および周辺河川砂を分析した結果、貯蔵砂は花崗岩類とその造岩鉱物から主として構成され、笛吹川の河川砂と類似性が最も高く、２km 以上離れた笛吹川の沖積地から採取されて遺跡内に運び込まれた可能性が推定された。粘土塊と曽利Ⅱ式土器の多くは、類似性が高く、花崗岩類とその造岩鉱物とともに緑色変質火山岩・緑簾石などを伴い、貯蔵砂に代表される原料と地元原料とを混和して地元で製作された土器であると推定された。一方、曽利Ⅱ式 No.12 はデイサイト地域に、Nos.13,14 は、花崗岩類地域に原料産地が推定された。また、井戸尻式は、No.17 に在地的要素が含まれる可能性が残されるものの、他のほとんどの試料は搬入土器と推定され、曽利Ⅱ式土器と対照的な胎土を示す。古墳時代の籠目文土器 No.23 は、笛吹川流域が原料産地候補の一つと推定された。８世紀代の瓦塔試料 No.22 は、カリ長石が多くザクロ石を伴うことから例えば領家帯花崗岩など他地域の地質に由来する搬入土器である可能性が推定された。

土器製作に関わる遺構から土器原料となりうる具体的な堆積物が発見され、堆積物の属性を詳細に分析したことで、原料産地と遺跡の地理的関係、土器作りにおける資源調達の範囲、原料の調合割合などの具体的な事象が明らかになることが示され、土器の原料産地・製作地の推定精度の今後の向上が期待される。

註

１）表３の注記番号が、表４備考の土器番号に該当する。

２）デイサイト～流紋岩質の珪長質火山岩をここでは略称してデイサイトとしている。

引用文献

河西学 (1989)「甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成－土器胎土分析のための基礎データ－」『山梨考古学論集Ⅱ』、505-523。
河西学 (1992)「岩石鉱物組成からみた縄文土器の産地推定」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』4、61-90。
河西学 (1999)「土器産地 - 推定における在地－岩石学的胎土分析から推定する土器の移動－」帝京大学山梨文化財研究所研究報告、9、285-302。
河西学 (2001)「仲田遺跡を構成する堆積物の岩石鉱物組成」『仲田遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第 187 集、、40-42。
河西学・櫛原功一・大村昭三 (1989)「八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析」帝京大学山梨文化財研究所研究報告、第 1 集、1-64。
河西学 (2010)「胎土分析からみた土器の産地と移動」『移動と流通の縄文社会史』雄山閣、131-156。
河西学・宮澤公雄・櫛原功一・望月秀和 (2014)「笛吹市前付遺跡出土の貯蔵された砂の産地―土器原料の産地推定における意義―」『日本文化財科学会第 31 大会研究発表要旨集』264-265。
澤祥 (1981)「甲府盆地西縁・南縁の活断層」地理学評論、54、473-492。
内藤範治・桂田保 (1992)「甲府盆地南縁曽根丘陵の第四系」第四紀、25、67-78。

第２節　前付遺跡出土土器の胎土分析

松本建速（東海大学）・市川慎太郎・中村利廣（明治大学）

１．はじめに

山梨県笛吹市前付遺跡 SI29 から、土器製作に利用された痕跡が残る焼成粘土塊、粗砂が貯蔵された土器、他に多くの土器が出土した（本報告参照）。そこで、焼成粘土塊と出土土器の原料の関係、それらと土器内貯蔵砂との関係、遺跡およびその周辺のロームや川砂との関係などを考察する目的で、それぞれの試料の化学成分の測定をおこなったので、以下にごく簡単に報告する。

試料の粉砕は松本が、ガラスビード作成および実験は、明治大学理工学部設置の装置を用いて市川・中村がおこなった。本稿執筆は、２節（２）、３節、表１、表２を市川・中村、他は松本である。

２．試料と実験

同一住居内から出土した焼成粘土塊と土器、土器内貯蔵砂、周辺の砂と土の合計 24 点である。SI29 出土の焼成粘土塊が１点、SI6、SI14、SI16、SI29 から出土した土器が 17 点（曽利Ⅱ式 10 点、井戸尻～曽利Ⅰ式１点、井戸尻式６点）、他に８世紀代の瓦塔１点、前付遺跡およびその周辺から採取した砂･土試料５点（前付遺跡 SI29 出土土器内貯蔵砂１点、前付遺跡採取風成ローム層１点、遺跡周辺の河川砂３点）である。出土遺構名、河川名の詳細は表３に記した。

（２）実験

蛍光 X 線装置には Rigaku RIX 3100 を用いた。X 線管球には エンドウィンドゥ型 Rh 管球を、分光結晶には LiF（200）, PET（002）, Ge（111）, TAP（001）を用いた。管電圧 50 kV、管電流 80 mA で動作し、主成分（Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe）・微量成分（V, Cr, Ni, Cu, Zn, Rb, Sr, Y, Zr, Nb, Ba, Pb）の分析線（K α 線、Ba は L α 線、Pb は L β 線）を励起した。検出器には、ガスフロー型プロポーショナル・カウンター（軽元素測定用）とシンチレーション・カウンター（重元素測定用）を用い、プロポーショナル・カウンターには PR ガスを 50 cm 3 min- 1 流した。測定は全て、測定室を数 Pa 程度の真空雰囲気にし、試料の不均一性を軽減するため、試料を 30 rpm で回転して行った。試料ホルダーからの散乱 X 線を遮断するために、分析試料であるガラスビードの下に 厚さ 5 mm のアクリル板を敷いた。測定の際には、装置のドリフト補正を行うために、後述する検量用標準ガラスビードのうちの一枚を毎回測定し、検量線を標準化した。

定量分析には、試料と融剤との質量比が 1:10 のガラスビードを用いた。土器片は、土器の一部を折り取り、器表面の風化した部分を電動やすりで削り取ったものを試料とした。土器、粘土および砂試料を、瑪瑙製乳鉢と乳棒で指先に粒子が感じなくなるまで粉砕・混合した。それらの粉末試料を電気炉（FUM312PA; Advantec Toyo Seisakusho Kaisha）で 500° C、2 h　加熱し、試料中の水分や有機物を除去したものをガラスビードの調製に用いた。融剤には、電気炉で 700° C、8 h 乾燥した四ホウ酸リチウムを用いた。融剤 4.000 g と試料粉末 0.400 g とを電子天秤で正確に秤量した後、薬包紙に移して竹製の匙で混合した。混合したものを Pt るつぼ（CS-2 型、Pt 95%–Au 5%）中に移し、高周波誘導加熱装置（BEAD SAMPLER NT-2000; Nippon Thermonics）で加熱・熔融した。混合物の熔融は、予備加熱 800° C, 120 s, 本加熱 1200° C、120 s、揺動加熱 1200° C、120 s [1,2] で行った。その後、この熔融物を室温まで急冷してガラス化し、直径 35 mm のガラスビードとした。作製したガラスビードは、薬包紙で包みデシケーター中で保存した。

検量線の作成には､頒布標準物質ではなく､試薬調合による検量用標準 [3] を用いた。検量用標準ガラスビード（試料 : 融剤 = 1:10）は、前掲の融剤 4.000 g および定量対象成分（Na2O, MgO, Al2O3, SiO2, P2O5, K2O, CaO, TiO2, MnO, Fe2O3; V, Cr, Ni, Cu, Zn, Rb, Sr, Y, Zr, Nb, Ba, Pb）を含有する特級試薬（Na2CO3, MgO, Al2O3, SiO2, Na4P2O7, KCl, CaCO3, TiO2, MnO2, Fe2O3; V2O3, Cr2O3, NiO, CuO, ZnO, RbCl, SrCO3, Y2O3, ZrO2, Nb2O3, BaCO3, PbO）0.400 g を混合・熔融して調製した [4]。日本産の土器を定量できる検量

範囲を推定[5]し、偏りがないように試薬の添加量を組み合わせた 10 種類の検量用標準ガラスビードを作製した。主成分酸化物の検量線のブランク試料は、融剤 4.400 g と 剥離剤として塩化リチウム 0.022 g を、微量成分元素のブランク試料は、融剤 4.000 g と前掲の特級試薬のうち Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Mn, Fe を含有するもの合計 0.400 g を混合・熔融して調製した。

分析線に妨害線が重なる場合、妨害線の強度を差し引く必要がある。ここでは、V K α に Ti K β, Cr K α に V K β, Y K α に Rb K β, Zr K α に Sr K β, Nb K α に Y K β, Ba L α に Rb K α（n = 3）が重なったので、各々 Ti K α, V K α, Rb K α, Sr K α, Y K α, Rb K α の強度で補正した。微量成分元素では、分析試料間のマトリックスの違いを補正するために、各分析線近傍のバックグラウンド散乱線の強度を内標準とした。

3．結果

検量用標準ガラスビードを用いて検量線を作成したところ、直線性はいずれも良好であり、相関係数は r = 0.997–1.000 であった。ブランク測定（n = 8）の標準偏差の 3 倍から算出した検出限界（試料粉末中の濃度とし算出）は、Na2O, 500 mass ppm; MgO, 420 mass ppm; Al2O3, 120 mass ppm; SiO2, 240 mass ppm; P2O5, 18 mass ppm; K2O, 110 mass ppm; CaO, 50 mass ppm; TiO2, 110 mass ppm; MnO, 22 mass ppm; Fe2O3, 78 mass ppm; V, 17 mass ppm; Cr, 8.8 mass ppm; Ni, 3.5 mass ppm; Cu, 13 mass ppm; Zn, 4.2 mass ppm; Rb, 5.8 mass ppm; Sr, 3.0 mass ppm; Y, 4.4 mass ppm; Zr, 3.0 mass ppm; Nb 1.5 mass ppm; Ba, 45 mass ppm; Pb, 6.2 mass ppm であった。検量線の正確さを検証するために旧地質調査所発行の河川堆積物標準試料（JSd-1, JSd-2, JSd-3）を定量したところ、定量値は推奨値[6]と概ね一致した（表 1）。本法による前付遺跡出土土器および砂試料の分析値を表 2 に示す。検出限界未満の分析結果は、検出せず（Not Detected; N. D.）と表記した。

4．考察

（1）酸素を除去した数値の算出

測定された主要元素は酸化物として示されているが 、比較する地質データには、Fe として FeO も示されるもの、ICP-AES で測定されたもののように、酸素を外した元素のみの値もあるので、考察に際し、次のようにして分析値を整えた。また、分析値はトータルが 100％ではなく、約 90 ～ 100％前後でばらついている。ガラスビード試料作成過程の 1200 度で試料を焼成するときに、試料中の粘土鉱物の結晶内に含まれていた水が揮発することが主な要因であるが、このままでは各試料の値を比較することができない。条件を同じにするために、まず主要 10 元素の酸化物としての値の総計が 100％となるように調整した後、酸素を除去した元素単体の値を算出した（表３）。

（2）岩石・造岩鉱物の化学組成との比較

土器の原料は地殻の風化物なので、その大部分は珪酸塩鉱物で構成されることになる。そこで Si と各元素との関係を見るために、全元素について Si を横軸とした変化図を作成した（図１）。なお、本土器試料には花崗岩類が含まれるものが多いので（河西 2014）、関東周辺の花崗岩の化学組成とのデータ（工業技術院地質調査所 1959）も図１には載せた。また、土器の原料の主要部分となる粘土層は各地の地質に由来するので、考察は、岩石の化学組成を基本として、それらを構成する造岩鉱物の化学組成を念頭に置いておこなった。その一部を図示した（図２）。

（3）Mn 濃度から見た胎土の原料および粘土試料との関係

土器に含まれる Mn は時代や地域を問わず 0.05％に満たず、そのような粘土層は一般に白色系であり、褐色系の粘土や地表に近い土には、Mn が 0.05％以上含まれる（松本 2011）。今回の試料もその傾向を示す。土器試料 18 点中、0.06％が２点、0.05％が５点、それ以外の 11 点は 0.05％未満である。焼成粘土塊は 0.04％であった。遺跡およびその周辺の砂や土壌試料は、0.05％である笛吹川の砂を除き 0.07 ～ 0.10％である。風

成ローム層はとくに高く 0.10％である。土器試料の Mn は大部分が 0.05％以下であり、白色系粘土を利用したと推測できる。砂層やローム層は明らかに Mn 濃度が高く、傾向が異なる。ローム層は遺跡内のものだが、それが原料として使われていないことは明白である。

（4）Si・Al をもとにした原料地質の推定

地殻の大部分は珪酸塩鉱物でできているため Si はどの地域にも最も多い。次に多いのは地殻の約 60％を占める長石類に含まれる（地学団体研究会編 1995）Al である。また、地殻の主要な岩石である火成岩は、SiO2 濃度で分類することができる。その基準を示し、Al との相関を見た（図 1-1）。また、岩石に含まれる Al は 10％以下である（図 2-1）。図 1-1 の砂とロームの値を見るとわかるように、砂は Al が少なく、粘土鉱物の比率が高まると Al が増える。ただし、一般に、風化して移動しやすい元素は Ca、Na、Mg、K であり、移動しづらいのは Si、Fe、Al である（松井 1988）。そして、前者の元素が減少した分増えるのは Al であり、Fe や Si はそれほど増加しないのが普通である。本土器試料の Al は 10 ～ 15％ほどだが、Ca、Na 等が 1 ～ 5 ％ほど減少したことになる。Si も多少は増加したであろうが、背景の地質とあまり隔たりはないはずである。Si の値から、大部分の土器は安山岩等の中性岩が主体の地質の粘土を原料とし、ローム層の土は土器の原料とはなっていないことがわかる。

SI29 から出土した No.1 焼成粘土塊は、SI16 出土の No.10（曽利Ⅱ式）の値に近いが、他の土器とは異なる原料であった。No.9・10 と焼成粘土塊は、フェルシック岩的な値を示す。８世紀の瓦塔はさらに Si の値が高い。

（5）焼成粘土塊と土器試料、土器内貯蔵砂、遺跡内ローム、遺跡周辺砂との関係

Si、Al から本試料は、ローム、多数土器試料、焼成粘土塊と少数土器（No.9・10）、砂、瓦塔の５つに分けられた。焼成粘土塊は SI29 出土だが、SI16 出土の曽利Ⅱ式（No.10）に最も類似し、SI29 出土の曽利Ⅱ式（No.9）は少し異なる値となるが、他の元素を見てもだいたい近い値となるので、大きく見ればそのような括りとなる。

風化によってあまり動かないとされる V、Zr（宮城ほか 2009）に注目すると、フェルシック岩的ななかでも瓦塔（No.22）は全く違う傾向である。焼成粘土塊と No.9・10 の Zr の値は近い。土器内貯蔵砂と河川砂の V、Zr はそれほど違わないが、土器試料やロームとは異なる。土器の方が２元素とも高い値なので、それらの砂の源が風化してできた粘土というわけではないようである。

土器内貯蔵砂と遺跡周辺河川砂では、化学成分にあまり差はない。ただし、Ca、Na、K、Sr、Rb といった長石類を構成する主要元素では、貯蔵砂と笛吹川の砂の値が近い（図 1-18）。

前付遺跡内のロームは Si が 25％以下（SiO253％以下）であり、マフィック岩的である。Fe、Ti、V も高く、風成層であることから、富士山由来であると読み取れる。

（6）混和材による化学組成の変化

河西（2014）によると、焼成粘土塊（No.1）と曽利Ⅱ式（No.2 ～ 14）には花崗岩類が、井戸尻式（No.16 ～ 21）の多くには安山岩やデイサイトが加えられている。全岩石鉱物の 40％ほどを占め、土器全体のなかでも８％ほどになるので、それらの影響が化学組成に示される可能性がある。風化で動きやすい Ca が高い 16・18・20 にはその傾向が出ている。曽利Ⅱ式には花崗岩類が混和されているのだが、やはり花崗岩類を混ぜる関東東部の阿玉台式土器（河西ほか 2014）と違って K は増えていない。加えられたのが、カリ長石を多く含む狭義の花崗岩ではなく、花崗閃緑岩であることを示していよう。

５．まとめと今後の課題

山梨県笛吹市前付遺跡 SI29 から、土器製作に利用された痕跡が残る焼成粘土塊、粗砂が貯蔵された土器、他に多くの土器が出土した。それらの化学成分を測定し考察した結果を以下にまとめる。

１）どの元素を見ても、遺跡内のローム層は用いていない。Mn 濃度から土器の大部分は白色系粘土を使っている。

２）SI29 出土の焼成粘土塊と類似する胎土を持つ土器が SI16 から出土していた。

3）土器内貯蔵砂は笛吹川の砂の化学組成に最も近い。

このようなことがわかったが、笛吹市域での土器製作の在り方を詳細に考えるには、まだデータが不足している。今後も分析を継続しさらにデータを蓄積する必要がある。今後の課題である。

註

1） K. Nakayama, Y. Shibata, T. Nakamura 2007 “Glass beads/x-ray fluorescence analyses of 42 components in felsic rocks” X-Ray Spectrometry 36 pp.130–140

2） K. Nakayama, T. Nakamura 2005 “X-ray fluorescence analysis of rare earth elements in rocks using low dilution glass beads” Analytical Science 21 pp.815–822

3） K. Nakayama, T. Nakamura 2008 “Calibrating standards using chemical reagents for glass bead x-ray fluorescence analyses of geochemical samples” X-Ray Spectrometry 37 pp.204–209

4） S. Ichikawa, K. Nakayama, T. Nakamura 2012 “Glass-bead/X-ray fluorescence analysis of earthenware body – sampling from heterogeneous earthenware” X-Ray Spectrometry 41 pp.22–33

5） S. Ichikawa, K. Nakayama, T. Nakamura 2012 “Loose-powder technique for X-ray fluorescence analysis of ancient pottery using a small (100 mg) powdered sample” X-Ray Spectrometry 41 pp.288–297

6） N. Imai, S. Terashima, S Itoh, A. Ando 1996 “1996 complication of analytical data on nine GSJ geochemical reference samples, sedimentary rock series” Geostandards Newsletter 20 pp.165–216

引用・参考文献

河西　学　2014「前付遺跡出土貯蔵砂・粘土塊・縄文土器の岩石鉱物組成（予察）」『混和を伴う縄文時代の土器作り資料集』92-95 頁 科研費事業（河西学代表課題番号 24520863）公開シンポジウム

河西学・松本建速・市川慎太郎・中村利廣・小林謙一・塚本師也　2014「桧の木遺跡出土阿玉台式土器の胎土分析」『研究紀要』22 号 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

工業技術院地質調査所　1959『本邦産花崗岩質岩石の化学成分』

地学団体研究会編　1995『新版地学教育講座③鉱物の科学』東海大学出版会

松井　健　1988『土壌地理学序説』築地書館

松本建速　2011「化学成分からみた縄文～平安時代の土器の胎土」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』15 集

表 1　1:10 ガラスビード/蛍光 X 線分析による地球化学標準試料（旧地質調査所発行）の主成分酸化物濃度（mass%）および微量成分元素濃度（mass ppm）

	JSd-1 (河川堆積物)			JSd-2 (河川堆積物)			JSd-3 (河川堆積物)		
	分析値		推奨値[a]	分析値		推奨値[a]	分析値		推奨値[a]
Na_2O	2.76	(0.6)	2.73	2.45	(1.3)	2.44	0.391	(1.8)	0.411
MgO	1.91	(0.7)	1.81	2.83	(0.7)	2.73	1.19	(3.1)	1.17
Al_2O_3	14.9	(0.1)	14.7	12.3	(0.7)	12.3	10.2	(1.1)	9.91
SiO2	69.5	(0.1)	66.6	62.6	(0.4)	60.8	80.7	(0.5)	76
P_2O_5	0.131	(3.8)	0.122	0.114	(3.7)	0.105	0.089	(6.5)	0.082
K_2O	2.32	(0.5)	2.18	1.20	(0.5)	1.15	2.12	(0.7)	1.97
CaO	2.98	(0.2)	3.03	3.58	(1.1)	3.66	0.567	(0.3)	0.56
TiO_2	0.659	(0.8)	0.643	0.613	(1.5)	0.614	0.440	(0.9)	0.403
MnO	0.086	(0.6)	0.092	0.107	(1.4)	0.12	0.135	(0.5)	0.148
Fe_2O_3[b]	5.20	(0.2)	5.06	11.7	(1.0)	11.7	4.54	(1.1)	4.37
Total	100		97.0	97.4		95.6	100		95.0
V	81.0	(7.1)	76	139	(4.9)	125	74.5	(2)	70.4
Cr	37.0	(18)	21.5	122	(2.4)	108	41.0	(13)	35.3
Ni	N. D.		7.04	90.9	(1.6)	92.8	14.4	(24)	19.6
Cu	17.4	(11)	22	1260[c]	(3.7)	1117	506[c]	(1.0)	426
Zn	107	(1.3)	96.5	2160[c]	(0.7)	2056	148	(1.0)	136
Rb	63.0	(2.6)	67.4	16.1	(6.0)	26.9	326	(2.9)	285
Sr	321	(0.7)	340	197	(1.8)	202	54.2	(2.5)	58.7
Y	14.1	(8.5)	14.8	15.9	(8.5)	17.4	16.6	(10)	14.9
Zr	151	(1.6)	132	117	(2.1)	111	124	(2.5)	124
Nb	6.96	(4.7)	11.1	N. D.		4.56	3.83	(15)	7.8
Ba	527	(5.5)	520	1370[c]	(2.5)	1199	470	(2.8)	462
Pb	9.67	(3.3)	12.9	161	(3.1)	146	85.1	(2.7)	82.1

() 相対標準偏差, % (n = 5). N. D., not detected, 検出せず.

[a] 参考文献 6. [b] 全ての Fe を Fe_2O_3 として算出. [c] 検量線を外挿し算出.

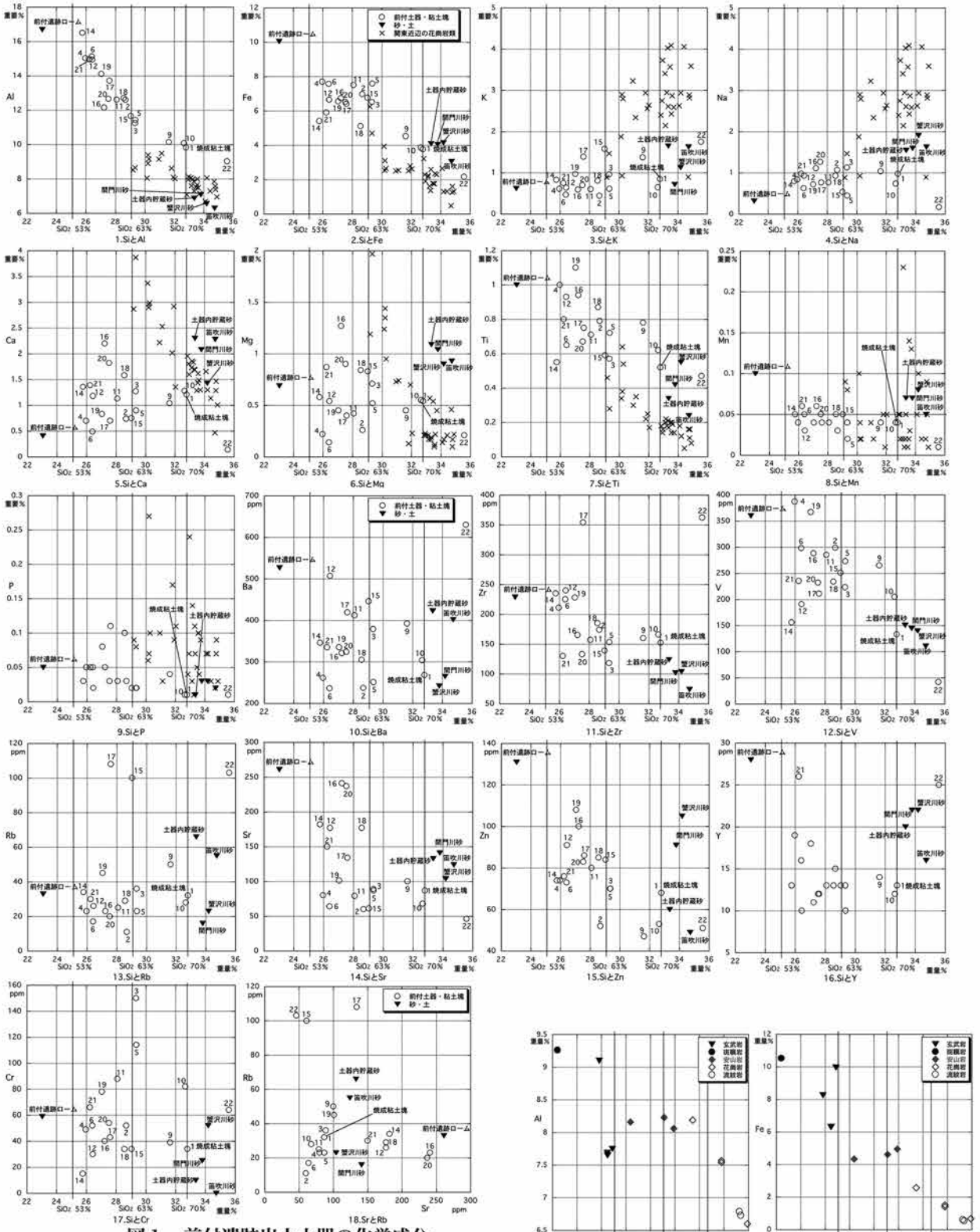


図１　前付遺跡出土土器の化学成分

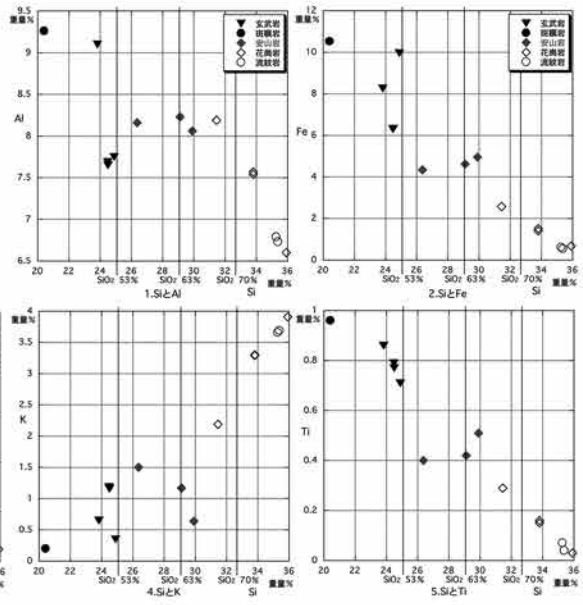


図２　代表的な火成岩の化学成分

（産業技術総合研究所発行
岩石標準試料推奨値データを利用）

表2-1 1:10 ガラスビード/蛍光 X 線分析による前付遺跡出土土器の主成分酸化物濃度 (mass%) および微量成分元素濃度 (mass ppm)

	前付01	前付02	前付03	前付04	前付05	前付06	前付09	前付10	前付11	前付12	前付14	前付15
Na_2O	1.30	1.36	1.46	1.06	0.581	0.790	1.36	0.981	0.998	1.24	1.02	0.698
MgO	0.872	0.406	1.13	0.343	0.822	0.221	0.727	0.894	0.660	0.882	0.911	1.31
Al_2O_3	18.2	22.4	20.4	26.6	20.6	26.8	18.5	18.8	22.8	28.1	29.5	21.1
SiO_2	68.7	57.8	60.4	52.0	60.0	53.0	65.4	68.8	57.4	56.2	52.1	59.4
P_2O_5	0.026	0.063	0.039	0.100	0.040	0.107	0.079	0.025	0.068	0.039	0.063	0.050
K_2O	1.01	0.495	1.11	0.683	0.705	0.534	1.59	0.768	0.687	0.767	0.944	1.82
CaO	1.66	0.976	1.70	0.918	1.21	0.646	1.41	1.76	1.51	1.65	1.80	1.01
TiO_2	0.848	1.24	0.914	1.56	1.14	1.46	1.26	1.01	1.13	1.07	0.866	0.937
MnO	0.051	0.037	0.048	0.046	0.024	0.058	0.047	0.055	0.047	0.032	0.064	0.067
Fe_2O_3[a]	5.28	9.40	8.97	10.3	10.4	10.2	6.26	5.43	10.3	9.46	7.31	9.26
Total	97.9	94.1	96.2	93.5	95.5	93.8	96.6	98.5	95.6	99.4	94.6	95.7
V	133	299	223	387	273	298	265	205	285	191	156	251
Cr	33.8	51.8	150	49.3	114	51.9	38.7	81.6	88.4	30.1	15.1	34.2
Ni	8.01	9.13	26.9	6.46	20.1	8.93	4.48	4.04	17.6	10.1	N. D.	7.25
Cu	13.4	53.2	33.0	70.0	35.5	66.3	54.9	18.5	48.5	41.2	55.7	54.1
Zn	67.7	51.6	69.7	74.1	70.3	73.2	46.8	52.9	79.6	91.4	74.2	83.5
Rb	32.2	11.0	36.3	22.5	23.4	16.9	50.4	27.6	24.7	26.0	34.4	99.7
Sr	87.0	59.8	88.8	80.2	87.2	64.0	100	68.5	79.1	177	182	60.5
Y	12.9	15.3	13.3	19.0	10.4	15.5	14.1	12.2	13.4	9.73	13.1	12.8
Zr	152	174	118	211	153	225	160	166	157	240	235	139
Nb	N. D.	N. D.	N. D.	3.72	N. D.	2.84	2.71	N. D.	2.23	6.16	5.36	N. D.
Ba	268	237	379	261	251	236	392	304	412	507	346	446
Pb	7.97	13.3	12.4	11.7	9.57	12.4	14.4	8.87	9.37	13.3	19.9	13.9

N. D., not detected, 検出せず.
[a] 全ての Fe を Fe_2O_3 として算出.

表 2-2 1:10 ガラスビード/蛍光 X 線分析による前付遺跡出土土器・周辺で採取した砂の主成分酸化物濃度 (mass%) および微量成分元素濃度 (mass ppm)

	前付16	前付17	前付18	前付19	前付20	前付21	前付22	前付S-1	間門川Sm-1	前付Sm-2	蟹沢川Sm-3	笛吹川Sm-4
Na_2O	1.45	0.985	1.20	0.919	1.65	1.25	0.234	2.10	2.15	0.409	2.58	2.22
MgO	2.02	0.628	1.34	0.706	1.42	1.36	0.351	1.82	1.72	1.08	1.49	1.55
Al_2O_3	22.1	24.7	22.9	25.2	22.9	26.7	17.1	13.0	13.3	29.8	12.4	12.0
SiO_2	56.1	56.3	58.3	54.7	56.5	52.9	76.3	71.5	71.9	46.5	73.1	74.9
P_2O_5	0.118	0.238	0.208	0.181	0.063	0.104	0.034	0.024	0.072	0.100	0.078	0.051
K_2O	0.682	1.60	0.932	1.10	0.806	0.857	2.12	1.99	0.863	0.705	1.36	1.98
CaO	2.97	0.930	2.12	1.10	2.45	1.84	0.196	3.22	2.89	0.537	2.01	3.21
TiO_2	1.51	1.20	1.38	1.73	1.08	1.26	0.793	0.562	0.704	1.58	0.915	0.405
MnO	0.072	0.045	0.064	0.044	0.066	0.067	0.009	0.097	0.086	0.125	0.106	0.071
Fe_2O_3[a]	9.28	8.74	6.99	8.85	8.95	7.98	3.11	5.87	5.75	13.6	5.94	4.41
Total	96.3	95.3	95.4	94.5	95.9	94.3	100	100	99.4	94.5	99.9	101
V	288	211	234	367	232	235	41.9	151	145	360	140	111
Cr	40.3	43.0	34.1	77.5	53.7	66.1	63.6	9.56	25.1	59.3	52.1	N. D.
Ni	N. D.	5.52	N. D.	14.6	13.8	12.4	8.11	N. D.	N. D.	17.6	N. D.	N. D.
Cu	34.8	44.3	38.0	88.7	40.7	54.9	N. D.	N. D.	13.4	98.4	N. D.	N. D.
Zn	100	85.7	85.0	108	82.6	76.4	51.5	59.6	91.1	131	105	49.2
Rb	23.0	108	28.8	45.3	20.0	30.2	103	66.0	15.9	32.7	22.9	55.4
Sr	241	134	177	101	237	150	46.1	133	141	261	104	124
Y	11.4	11.8	13.3	18.4	11.8	26.4	24.7	19.9	21.8	28.1	22.3	16.4
Zr	165	354	185	228	133	130	362	124	102	229	104	73.6
Nb	2.72	10.1	4.19	4.55	N. D.	N. D.	15.2	N. D.	N. D.	4.47	N. D.	N. D.
Ba	321	419	305	335	324	335	630	423	242	527	265	402
Pb	9.95	21.2	13.3	13.2	N. D.	16.3	22.8	N. D.	7.52	15.6	10.8	N. D.

N. D., not detected, 検出せず.
[a] 全ての Fe を Fe_2O_3 として算出.

表3 試料分析値一覧(酸素を除去した値) Si～P(重量%)V～Zr(ppm)

試料名	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	V	Cr	Ni	Cu	Zn	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Ba	Pb	Rb/Sr	型式名、その他
前付01	32.79	0.52	9.83	3.77	0.04	0.54	1.21	0.98	0.85	0.01	133	34	8	13	68	32	87	13	152	1	268	8	0.370	粘土塊、SI29
前付02	28.68	0.79	12.60	6.98	0.03	0.26	0.74	1.07	0.44	0.03	299	52	9	53	52	11	60	15	174	0	237	13	0.185	曽利Ⅱ式、SI29
前付03	29.34	0.57	11.24	6.52	0.04	0.71	1.27	1.13	0.96	0.02	223	150	27	33	70	36	89	13	118	−1	379	12	0.409	曽利Ⅱ式、SI29
前付04	25.97	1.00	15.03	7.70	0.04	0.22	0.70	0.84	0.61	0.05	387	49	6	70	74	23	80	19	211	4	261	12	0.281	曽利Ⅱ式、SI29
前付05	29.36	0.72	11.43	7.59	0.02	0.52	0.90	0.45	0.61	0.02	273	114	20	35	70	23	87	10	153	0	251	10	0.268	曽利Ⅱ式、SI29
前付06	26.41	0.93	15.13	7.58	0.05	0.14	0.49	0.63	0.47	0.05	298	52	9	66	73	17	64	16	225	3	236	12	0.264	曽利Ⅱ式、SI29
前付09	31.63	0.78	10.14	4.53	0.04	0.45	1.04	1.04	1.37	0.04	265	39	4	55	47	50	100	14	160	3	392	14	0.501	曽利Ⅱ式、SI29
前付10	32.65	0.62	10.08	3.86	0.04	0.55	1.28	0.74	0.65	0.01	205	82	4	18	53	28	68	12	166	n.d.	304	9	0.403	曽利Ⅱ式、SI16
前付11	28.09	0.71	12.61	7.51	0.04	0.42	1.13	0.77	0.60	0.03	285	88	18	49	80	25	79	13	157	2	412	9	0.312	曽利Ⅱ式、SI16
前付12	26.43	0.65	14.94	6.65	0.03	0.54	1.18	0.93	0.64	0.02	191	30	10	41	91	26	177	10	240	6	507	13	0.147	曽利Ⅱ式、SI16
前付14	25.76	0.55	16.50	5.41	0.05	0.58	1.36	0.80	0.83	0.03	156	15	n.d.	56	74	34	182	13	235	5	346	20	0.189	曽利Ⅱ式、SI6
前付15	29.04	0.59	11.66	6.77	0.05	0.83	0.75	0.54	1.58	0.02	251	34	7	54	84	100	61	13	139	n.d.	446	14	1.647	曽利Ⅱ式、SI6
前付16	27.23	0.94	12.15	6.74	0.06	1.27	2.20	1.11	0.59	0.05	288	40	n.d.	35	100	23	241	11	165	3	321	10	0.096	井戸尻式、SI14
前付17	27.60	0.75	13.71	6.41	0.04	0.40	0.70	0.77	1.39	0.11	211	43	6	44	86	108	134	12	354	10	419	21	0.806	井戸尻～曽利Ⅰ式、SI14
前付18	28.56	0.87	12.70	5.12	0.05	0.84	1.58	0.93	0.81	0.10	234	34	n.d.	38	85	29	177	13	185	4	305	13	0.163	井戸尻式、SI14
前付19	27.05	1.10	14.11	6.55	0.04	0.45	0.83	0.72	0.97	0.08	367	78	15	89	108	45	101	18	228	5	335	13	0.450	井戸尻式、SI14
前付20	27.53	0.67	12.66	6.53	0.05	0.90	1.82	1.27	0.70	0.03	232	54	14	41	83	20	237	12	133	n.d.	324	n.d.	0.084	井戸尻式、SI14
前付21	26.24	0.80	14.96	5.91	0.06	0.87	1.39	0.98	0.75	0.05	235	66	12	55	76	30	150	26	130	n.d.	335	16	0.202	井戸尻式、SI14
前付22	35.58	0.47	9.03	2.17	0.01	0.21	0.14	0.17	1.75	0.01	42	64	8	n.d.	51	103	46	25	362	15	630	23	2.237	瓦塔・8世紀
前付S-1	33.35	0.34	6.88	4.09	0.07	1.09	2.30	1.55	1.65	0.01	151	10	n.d.	n.d.	60	66	133	20	124	n.d.	423	n.d.	0.496	土器内貯蔵砂
間門川Sm-1	33.79	0.42	7.09	4.05	0.07	1.04	2.08	1.60	0.72	0.03	145	25	n.d.	13	91	16	141	22	102	−3	242	8	0.112	河川砂
前付Sm-2	23.03	1.00	16.70	10.05	0.10	0.69	0.41	0.32	0.62	0.05	360	59	18	98	131	33	261	28	229	4	527	16	0.125	風成層
蟹沢川Sm-3	34.18	0.55	6.57	4.15	0.08	0.90	1.43	1.91	1.13	0.03	140	52	n.d.	n.d.	105	23	104	22	104	n.d.	265	11	0.220	河川砂
笛吹川Sm-4	34.73	0.24	6.30	3.06	0.05	0.93	2.28	1.63	1.63	0.02	111	n.d.	n.d.	n.d.	49	55	124	16	74	n.d.	402	n.d.	0.445	河川砂

宮城直樹・馬場壮太郎、新城竜一　2009「沖縄島に分布する基盤岩類の風化に伴う全岩化学組成変化」『琉球大学教育学部紀要』75号　253-270頁　琉球大学教育学部

第７章　　総　　括

第１節　遺構分布と遺物の出土傾向について

第１項　遺構の分布と変遷および地理的特徴

調査の結果、大祥寺遺跡（A 区）では建物跡２棟、溝 31 条、土坑 26 基、地下式坑２基、経石埋納遺構１基、前付遺跡（B 区）では竪穴住居跡 33 軒、掘立柱建物跡３棟、土坑 37 基、ピット跡 13 基を検出した。同じ尾根上に位置する遺跡ではあるが、A 区と B 区では約 200 ｍの距離を隔て４ｍ前後の標高差があり、遺構・遺物の出土傾向には相違がみられた。

以下、主な調査成果の変遷を示し、検出した遺構と地理的特徴についてまとめておく。

時代別遺構検出状況

縄文時代草創期　　：A・B 区　尖頭器〔遺構外出土遺物　A 区 100、B 区第 176・177 図 73 ～ 76〕
縄文時代前期後半　　：A 区 土坑１基〔SK26〕
縄文時代中期中葉　　：B 区（井戸尻式期）竪穴住居３軒〔SI6A，14，19〕
縄文時代中期後半　　：B 区（曽利式期）　竪穴住居５軒〔SI6B，16，26，29，31〕
古墳時代前期　　：B 区 竪穴住居 20 軒〔SI7 ～ 13，15，17，18，20，21 ～ 25，27，28，30，32〕
８世紀中葉　　：B 区 掘立柱建物跡２棟〔SB1・2〕、竪穴建物跡１軒〔SI1 ～ 3・5〕
11 世紀前半代　　：B 区 竪穴建物跡１軒〔SI4〕
15 世紀末～ 16 世紀初頭：A 区 建物跡２棟〔SB1・2（第１回線）〕、テラス面〔SD5〕
18 世紀前半　　：A 区 建物跡２棟〔SB1・2（第２回線）〕、テラス面〔SD1〕
近世以降　　：A 区 経石埋納遺構〔SK1〕

遺構の変遷について

まず、同じ尾根上の立地であっても、時代ごとに利用する場所が異なる点が注意される。ただし縄文時代草創期については両遺跡からともに石器が出土している。検出した石器は、他の遺構や撹乱等により原位置ではない可能性が高い。しかし、『境川村誌』等では、同地域周辺を旧石器の分布域としており、草創期段階以前の様相を考える上で貴重な発見となった。また明確な遺構は確認できなかったが、A 区では早期の土器片、B 区では前期初頭の土器片が出土している。

遺構としては、A 区検出の縄文時代前期後半頃の屋外集石炉〔SK26〕が最古で、その周辺では少量ながら同時期の土器片が出土している。居住の痕跡は、B 区で縄文時代中期中葉の井戸尻Ⅲ式期から曽利Ⅱ式期までの竪穴住居跡が確認できた。なお、縄文時代の詳細な変遷は、第２節第１項でまとめている。

次段階としては、B 区で古墳時代前期の竪穴住居跡 20 軒を検出している。SI22 などは重複で時期決定が困難ではあるが、出土遺物から判断してこの段階に含めた。また今回の報告では古墳時代前期と括ったが、遺構の平面形状が小判形を呈した SI27 や、ベッド状遺構を伴う SI13・28 の存在と、S 字甕や高坏等遺物の種別･型式などから細分できる可能性もあり、今後の課題と考えている。なお、前期以降の古墳時代の遺構･遺物は検出できなかった。

奈良･平安時代の遺構変遷については、前付遺跡で８世紀中頃に竪穴建物跡〔SI1 ～ 3･5〕を検出している。寺院建築と推定した掘立柱建物跡〔B 区 SB1・2〕はこれと同時期もしくはそれ以前の構築で、SI5 竈内から瓦塔片が出土した状況から、SI5 と同時期あるいはそれ以前廃絶と推定した。その後、B 区では SI4 の 10 世紀末を最後に明確な遺構はなく、耕作土に混じって中近世の遺物が出土するのみであった。

16 世紀初頭頃には大祥寺遺跡でテラス造成と建物跡〔A 区 SB1・2〕が構築されている。この尾根東端の南斜面を切り土して構築したテラス面と SB1 については、改築改変の痕跡が確認でき、遺物からは 18 世紀前半頃の時期と推定した。また遺構時期は不明であるが、地下式坑２基、経石埋納遺構は寺院伝承との関連性を考える上で示唆的であるが、出土遺物、遺構から遺構群が寺院であったと断定するには至っていない。

遺構の分布傾向と遺物の出土状況について

今回の調査地点は、半島状の小丘・痩せ尾根・舌状台地等といわれるような、東西に細長く延びた台地上に立地した。検出した遺構のほとんどが頂部より南側の斜面に分布し、大祥寺遺跡では南斜面を切り土してテラス面と建物を構築していた。おそらくは北風を避ける目的があったものと考えられる。また、尾根上のため堆積土の流出は避けられないが、河川の流れによる土砂の流入・侵食の影響を受けないことから、遺跡出土の砂や礫、溶岩等が人為的な搬入かどうかの区別が容易であった。とくにSI29で検出した砂を貯蔵していた土器は際立った存在であり、周辺の粘土塊と台石の存在から土器製作の場と推定するに至った。但し、調査対象地のほぼ全域が畑地であったため、広範囲に耕作痕や区画溝が深く入り、遺構の遺存状況は良好とはいえなかった。前付遺跡の耕作痕については、近現代の土地利用を示す遺構として記録化した(第130図)。これは耕作による撹乱で遺物が移動している可能性も考慮したものであり、瓦塔の分布状況などを考える上で必要であった。なお、調査区の遺物出土量については表21・22で整理しておく。

第２項　遺物の出土傾向について

発見した遺物は、プラスチックコンテナでおよそ70箱相当の出土量があった。出土量の目安を示すため、遺構別に出土遺物の計量を行い、表20～22にまとめた。なお、古墳時代以降の土器類（土師器・土師質土器）については、小片で時期の判別が付かないものも含むため、計量では一括した。

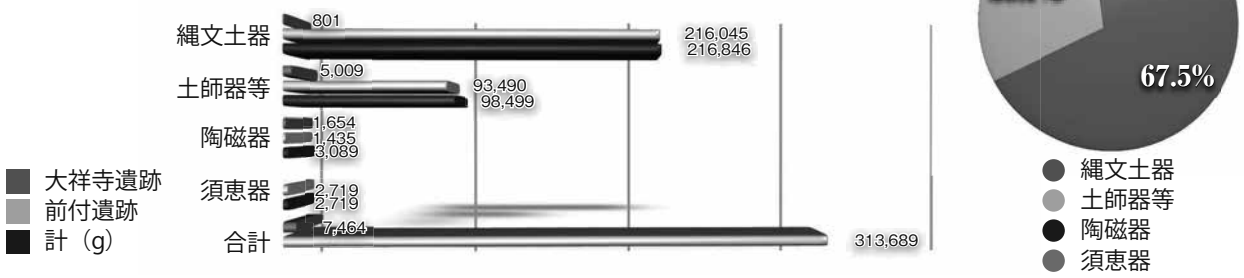
表20に示すとおり、調査全体では縄文土器が約216.8kg、土師器類が約98.4kg、陶磁器類が約３kgであった。縄文時代の住居は８軒であるが、断面の厚い縄文土器は約216kg、古墳前期以降の住居は25軒検出したものの、S字甕等の薄い器種が大半で約93.4kgであった。土器量の目安としては、全体重量との割合では縄文土器が67.5%で、住居軒数で割ると一軒あたり約27kg、土師器は30.7%で一軒あたり約3.7kgであった。

大祥寺遺跡（A区）については、時期を示す遺物として陶磁器類を中心に図化を行ったが、重量では鍋などの器種の違いもあり、土師質土器が陶磁器の約３倍の量であった。また報告した石器以外にも、黒曜石片、水晶片等の出土が目立ち、A区ではテラス面やSD1からも水晶が出土した。水晶については、寺院等では鎮壇具等に用いられる場合もあるが、県内では縄文時代早・前期に甲府盆地東部での出土事例が多く、同じく早期の土器片が出土している状況から、縄文時代に石器石材として搬入されたものと考えられる。

その他、SI16・SI26出土の溶岩片、SI2出土の溶融物が付着した礫、また両調査区の遺構外出土であるが、鍛冶滓が出土した。溶岩については岩石の表面観察から富士山溶岩と推定した。中道往還に近い立地もあり、石皿としての利用目的で縄文時代に人為的に運び込まれたと考える。鉄滓については、天神遺跡で鉄が付着した粘土塊の出土と、物見塚遺跡で土坑から羽口が出土した事例が報告されており、同地域で鍛冶行為を行っていた可能性が指摘されている。今回の調査では、大祥寺遺跡で検出した経石のひとつにも、溶融した金属の付着がみられた。なお、中世以降の土地利用の変遷や検出した遺構の性格については、ここでは十分な考察ができなかったが、寺院、居館の可能性を含めて今後検討していきたい。　（望月秀和）

表20　種別出土量比較

遺跡名	縄文土器	土師器等	陶磁器	須恵器	合計
大祥寺遺跡	801	5,009	1,654	0	7,464
前付遺跡	216,045	93,490	1,435	2,719	313,689
計（g）	216,846	98,499	3,089	2,719	321,153g



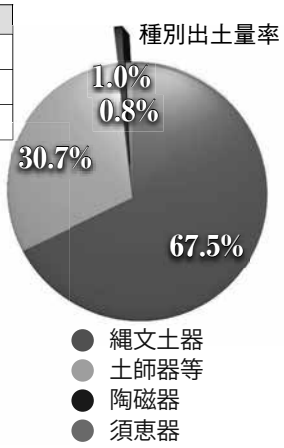


表21　大祥寺遺跡出土遺物量一覧

調査区位置	出土地	縄文	土師	陶器	磁器	土器	土製品	黒曜石	石器	炭化物	水晶等	焼粘土	ガラス	瓦	遺構別出土量
テラス面	SB1		49	59	10	364			2,541	19		3			3,045
テラス面	テラス面（SB2含）		48	162	8	326		15	3		6	40			608
テラス面	SD1	64	28	140	41	770		1	101	2	2	49			1,198
テラス面	SD3			117	20	38		17	1			16	9		218
テラス面	SD5		40			50									90
テラス面	SD6		17			92	2								111
テラス面	SD7			44		50									94
テラス面	SD8					38									38
テラス面	SD9		2	2	1	42						10			57
テラス面	SD10			12		142									154
テラス面	SD11			200	6	170	8	2			4				390
テラス面	SD12											19			19
テラス面	SD15					7									7
テラス面	SK3					18									18
テラス面	SK4				26										26
テラス面	SK6			229		77			107						413
テラス面	SK8								91						91
テラス面	SK22					10									10
テラス面	SK24							2	722						724
テラス面	SX2	53	10	9		1,346			8,915						10,333
テラス面	SX3		36	39	5				520						600
テラス面	サブトレ		23			167									190
調査区西	SD2			24		9		4	15						52
調査区西	SD17	11			12	19								73	115
調査区西	SD18								134						134
調査区西	SD19					106		2							108
調査区西	SD24							4							4
調査区西	SD29	14						5							19
調査区西	SD30・31			65		71									136
調査区西	SK1							5							5
調査区西	SK25					84			278						362
調査区西	SK26	11													11
調査区西	SK27				4	10									14
調査区西	SK28	40													40
調査区西	SX 4				2			1							3
-	遺構外	608	156	130	287	594	20	134	684			24		11	2,648
種別出土量　計		801	409	1,232	422	4,600	30	192	14,112	21	12	161	9	84	22,085

単位：g

表22　前付遺跡出土遺物量一覧（縄文土器・土師器・陶磁器・須恵器）

出土地	遺構年代	縄文土器	土師器	陶磁器	須恵器	遺構別出土量
SI6	縄文	55,448	853	105		56,406
SI14	縄文	46,598				46,598
SI16	縄文	37,615		410		38,025
SI19	縄文	3,720	661	51		4,432
SI26	縄文	2,735	80	3		2,818
SI29	縄文	34,661	1	68		34,730
SI31	縄文	9,030	128	82		9,240
SK2	縄文	3,800				3,800
SK27	縄文	1,020	10			1,030
SK34	縄文か	222	159			381
SI7	古墳前期	119	2,104	68	3	2,294
SI8	古墳前期	638	1,484	91		2,213
SI9	古墳前期	309	1,266	11		1,586
SI10	古墳前期		4,280			4,280
SI11	古墳前期	1,960	4,574	8		6,542
SI12	古墳前期	92	292	10		394
SI13	古墳前期	762	4,351	10		5,123
SI15	古墳前期	2,517	4,346	32		6,895
SI17	古墳前期	1,010	2,840	100		3,950
SI18	古墳前期	1,731	3,845	74		5,650
SI20	古墳前期	1,549	14,160	16		15,725
SI21	古墳前期	26	830			856
SI23	古墳前期		1,262			1,262

単位：g

出土地	遺構年代	縄文土器	土師器	陶磁器	須恵器	遺構別出土量
SI24	古墳前期	195	1,809	108		2,112
SI25	古墳前期	1,465	8,687	10		10,162
SI27	古墳前期	4,055	4,503	42		8,600
SI28	古墳前期	798	5,959	24	43	6,824
SI30	古墳前期	388	5,608			5,996
SI32	古墳前期	400	1,000			1,400
SK17	古墳前期	319	1,339			1,658
SK18	古墳前期	268	3,211			3,479
SI22	古墳前期か	30	300			330
SK1	古墳前期か		26			26
SK4	古墳前期か		123			123
SK20	古墳前期か	7	47			54
SK24	古墳前期か	93	768			861
SI1	奈良	50	4,196	11	504	4,761
SI2	奈良	350	482		856	1,688
SI3	奈良	118	1,279	30	874	2,301
SI5	奈良	128	695		267	1,090
SK3	奈良		27			27
SI4	平安末	345	1,350	71	54	1,820
SK12	—	19				19
SK13	—		20			20
遺構外	—	1,455	4,535		118	6,108
種別出土量計		216,045	93,490	1,435	2,719	313,689

単位：g

第２節　検出した遺構について

第１項　縄文時代における土地利用の変遷

前付遺跡では大別して草創期、前期初頭、中期中葉（井戸尻Ⅲ～曽利Ⅰa)、中期後半（曽利Ⅱa）の４時期に居住域を主とする土地利用が認められた。

草創期では遺構はないが、遺構外より槍先形尖頭器４点が出土し、隣接する大祥寺遺跡の１点と合わせ計５点の石器が出土している。前付遺跡での出土地点はX120Y100・X130Y70・X120Y90グリッド等で、いずれも単独での出土ではあるが、石材はチャート・頁岩であり、また形態については外縁が曲線的な柳葉形と直線的な木葉形があり、尖頭器の最終段階的な様相を示している。こうした遺物の出土状況から、この時期における利用形態は居住地、一時的なキャンプ地、または猟場等を想定するに留めざるを得ない。

前期初頭では、やはり遺構を伴うものではないが、中越式の影響を受けた山梨地域的な土器、関東的な打越式土器片がわずかに存在する。

集落域として確実な利用を開始するのは中期中葉末、井戸尻Ⅲ式期からである。調査区東寄りの尾根幅が一段と狭まったところに尾根上を中心にSI14・19が近い位置にあるほか、やや離れてSI6Aがあり、またSK37として調査された付近にも同時期の土器がややまとまって出土したことから住居であった可能性が高く、約70ｍにわたり列状に配置した４軒程度からなる集落が本時期に形成されたといえる。住居形態は円形プラン、５～７本主柱で、炉は奥壁寄りにあり、炉はSI14によれば円形平置き石囲炉で埋甕炉を伴い、SI19は埋甕炉を伴わないものの同様な石囲炉で、見方によっては中期前葉的なＤ字形の炉の系譜上に置かれるもので、古手の様相をもつ。SI6Aも炉石の一部のみにすぎないが、円形平置き石囲炉と推定される。同時期の土坑はSK37を別にすると未検出である。この時期に関しては興味深いデータが胎土分析の結果から得られた。それは、この時期の土器胎土の多くが非在地的であったとする結果で、デイサイトを多数含むことから混和材の採取地点が八ヶ岳、茅ヶ岳関連流域に求められるというものである（第６章第１節参照)。粘土、あるいは混和材の流通の可能性も考えられるが、河川砂を採取した甲府盆地南縁における河道配置が現在とは異なり、デイサイト等を含む茅ケ岳流域の影響が反映したことを想定する必要があるが、土器そのものを携えて集団が移動してきたという状況も推定でき、集落の初期における土器利用のあり方を示唆している。なおSI14・19とSI6Aはやや距離を置いて存在することから、集落の初期段階では東西２群に分かれた住居配置を指摘できる。

続く曽利Ⅱａ式期には、集落域は調査区中央部の尾根幅が広がるあたりに５軒からなる集落を形成する。曽利Ⅰｂ式期の遺構や遺物がないことから、Ⅰａ式からⅡａ式に直接連続するものではなく、いったん集落の継続性は断絶したものと考えておく。本時期には尾根中央部の平坦地を挟むようにして南斜面側にSI6B・16・26があり、北側にSI29・31がある。南斜面側の３軒は同じ等高線上に直線的に配置し４本主柱を主とするやや小形の住居である。SI26が隅丸方形、４本主柱であり、SI16は柱穴が５本存在するが、４本主柱の可能性がある。またSI6は柱穴配置が不明ではあるが４本主柱であった可能性があり、これら３軒は４本主柱、隅丸方形を基本とする可能性がある。炉形態はSI16が不明ではあるが、SI6・26は石囲炉で、SI6では平置きから直立に移行しつつある段階の楕円形石囲炉であり、SI26は方形を意識した平置き石囲炉となる。付帯施設としてはSI26に胴部利用の埋甕がある。それに対してSI29は奥壁側に柱穴を配した５本主柱、SI31は主軸手前に配した５本主柱で、ともに円形５本主柱を基本とする。炉はともに平置きの石囲炉で、SI29が楕円形、SI31が長方形または方形を意識した平面形となっている。また出入り口部にはともに胴下半を欠く縄文地文の紐線文土器を正位埋設する共通性がある。このように立地的にも遺構的にも南北２群に大別可能で、柱穴配置や平面プラン等に不明な点もあるものの、住居形式的にも２群に区別される可能性が大きい。時期的には出土土器によれば曽利Ⅱａ式期で収まる時間であり、炉形態的にもSI6がやや異質であるほか、SI26とSI31に方形化の変化を見いだすことができるものの、同時期のバラエティーとみなしておきたい。なお竪穴覆土での遺物出土状況によれば、北側２軒のうち、SI29に遺物が多く、SI31に少な

いことから、両者は同時存在ではなく、SI29 が古く、SI31 が新しい可能性がある。また南側３軒では SI6・16 が多く、SI26 が少ないことから、SI26 が最も新しく、SI6・16 の間にも前後関係があったとみるべきで、一時期に限れば南北２軒、それに同時併存する１軒程度が加わり計３軒程度の集落であったと考えられる。この時期の土坑には SK3、SK27、SK38 等がある。集落中心を意識した配置とは言い難く、偏在したあり方を示している。土器には縄文地文（紐線文）土器群が主体的で、曽利Ⅱａ式期の甲府盆地南縁の土器様相を示す資料としてまとまった資料といえる。SI29 では後述するように住居奥壁側空間に土器作りの場を留めた出土状況が遺存し、胎土分析により 2.5㎞離れた河川砂を混和材として集落内で土器作りが行われていたことが判明した。そうした土器作りのムラでは特殊遺物が多いことを以前指摘したが、本遺跡では住居軒数の割に土偶が目立つ。中でも SI6 出土の土偶は SI29 出土の腕と住居間接合し、右脚部のみを欠失する完形に近い優品である。この土偶によく似た土偶は曽利式土器圏内に分布し、とくに類例として比較できるのは長野県富士見町の坂上遺跡１号小竪穴例である。形態は両方とも長胴、短足、出臍で直立し、腕を水平に伸ばし、体部には沈線文で剣先文などの文様を施文する。顔面が平面的で、人中線が長いなどの共通点がある。大きさは坂上例が 23㎝、本遺跡例が 21.5㎝とほぼ同じで、しかも両者のシルエットは酷似したものとなる。ただ異なるのは坂上例が顔面ハート形、目はアーモンドアイで、口は細長く、後頭部、顎部など立体的であり、胴部断面が楕円形であるのに対し、本遺跡例は平面的、板状で、坂上例の模倣的（コピー土偶、三上 2014）ではあるが、同じイメージ（範型）をもとに製作されたひとつの土偶形式（型式）と理解できよう。そのほか、SI6 と遺構外表採の土偶はともに顔面が無文で、頭部形態が類似し、これらもまたひとつの形式として注目しておきたい。（櫛原功一）

第２項　古墳時代の遺構について

本遺跡からは、古墳時代前期の住居跡が 23 軒検出された。調査区の西側では、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が採集されるが、東側に位置する大祥寺遺跡からは、本期の遺構、遺物は発見されておらず、本調査区が古墳時代集落の東端にあたるものと考えられる。

住居のほとんどが隅丸方形のプランを呈し、対角線上に４本の柱穴を配している。一部例外もあるが、炉は北東側の柱穴列の内側に設置されるが、枕石を用いる例は少ない。炉の対辺壁際には貯蔵穴と思われる掘り込みをもつ例が多くみられた。

その中にあって、SI13・28・30 からは、壁際床より一段高くした、いわゆる「ベッド状遺構」が検出されている。SI13 は北東と南東壁際、SI30 は北、南壁際のそれぞれ２辺にベッド状遺構を設けているが、SI28 は入口部脇に設けられた貯蔵穴を除き、全周する。ベッド状遺構が全周する例は、甲州市西田遺跡 35 号住居跡などにみられるが、類例としては希少である。

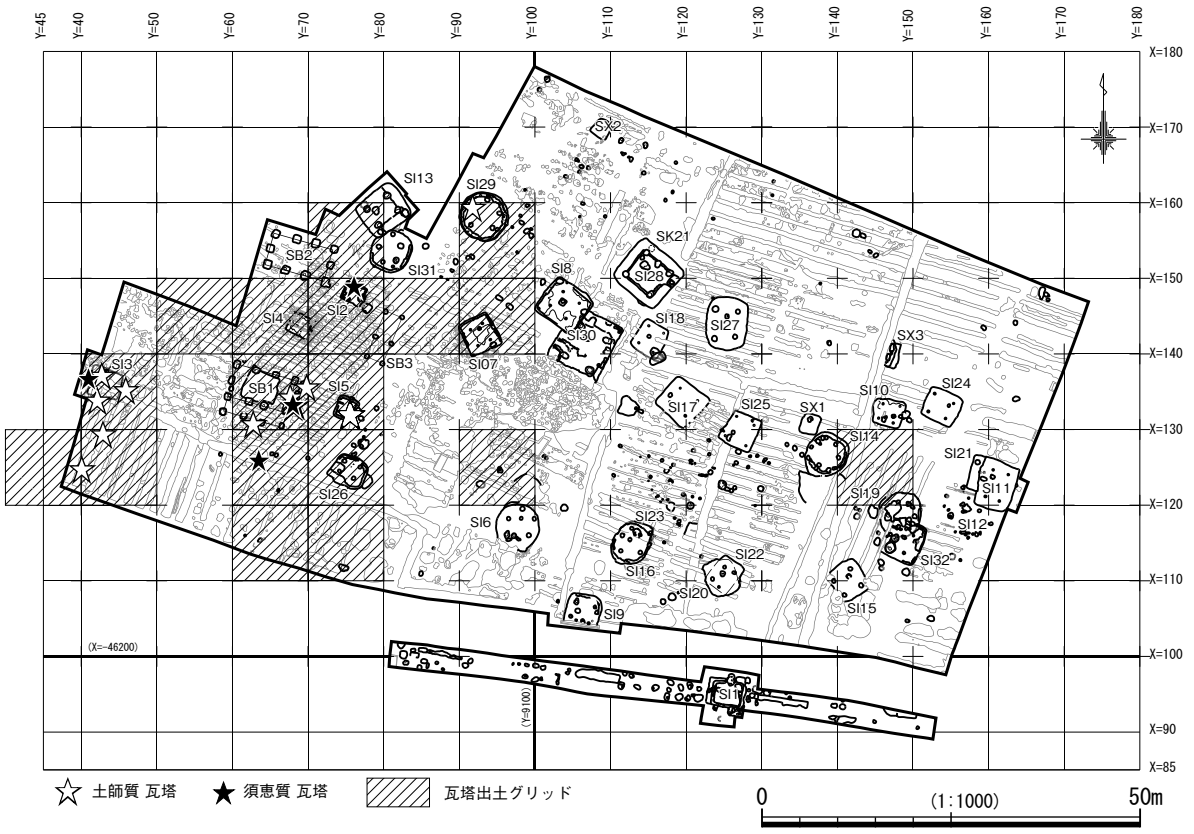
いずれの住居も検出された住居跡の中では大形の規模を誇るもので、大形住居のみに敷設された施設といえる。また、立地的にも尾根頂部に集中しており、施設をもたない住居とは一線を画す印象を受ける。

（宮澤公雄）

第３項　大祥寺の伝承と寺院建築について

大祥寺は現在甲府市上曽根町にある竜華院の前身寺院とされており、『甲斐国志』「吉国山竜華院」の項には、「真言宗前附山大祥寺ト云　弘法大師ノ開造、寺尾村ニ在リ古寺迹ヲ前附一ト云フ今ノ御朱印ノ内ナリ暦応中威韓和尚今ノ地へ移ス」と記されている。大祥寺遺跡内にあった石碑周辺は大祥寺の故地と伝えられてきたが、大祥寺遺跡では古代寺院の痕跡を確認できなかった。しかし前付遺跡では、８世紀中葉と推定される計画的に配置された掘立柱建物〔SB1･2〕２棟と、その周囲に一定の距離をあけて構築した竪穴建物跡〔SI1～3・5〕を検出し、さらに瓦塔の出土から、これを山林寺院と推定した。

報告のとおり、前付遺跡では縄文時代中期と古墳時代前期は居住域で、尾根の南斜面に竪穴住居跡が分布する。その後に続く集落の痕跡はないが、奈良時代になって尾根筋に直交する方向で、同軸線上に同一規模の掘立柱建物２棟が存在する。寺院施設としては掘立柱建物２棟が中心的な施設として存在するのみで、伽



第184図　瓦塔片分布図

藍的な区画遺構はない。村落内寺院的な遺構のあり方ではあるが、周辺に同時期の竪穴が少ないことから、山林寺院との性格付けに至った。ただし狭い尾根上に２棟を含む境内地がどのように設定されていたか、門はあったのかどうかなど、未解明な点が多い。

第 184 図には、瓦塔の出土状況を示した。掘立柱建物を中心に分布する状況は確かであり、同遺構に伴っていた可能性は高いといえる。しかし、それが寺院内のどこに据えられ、残りの部位がどこに散逸したのかは不明である。調査時点では、SB1 の掘り込み地業部分に設置したものと考えたが、耕作痕が著しく、瓦塔設置の痕跡等は確認できなかった。また、瓦塔片が掘立柱建物内から出土していない状況から、元々は基壇を構築してその上に設置した可能性があるが、耕作で削平されたと考えられる。なお、竪穴建物内から出土した瓦塔片については、SI5 竈内の出土状況と同じく、各遺構の廃棄時の祭祀行為に用いられたもので、竪穴が寺院を構成する施設であった証左と考える。つまり、この寺院の終焉とともに寺院関連の竪穴建物も廃棄することとなり、不要となった瓦塔を用いて竪穴建物等の施設を廃棄したのではないだろうか。瓦塔を用いた祭祀行為の事例としては、富山県富山市・向野池遺跡で井戸内から瓦塔が出土し、井戸廃棄時の祭祀行為と推定している。また、屋蓋部以外の部位が少なかった点については、東京都東村山市・宅部山遺跡で同一個体の瓦塔片が約 250m 離れた地点で出土した事例もある。本遺跡出土資料の欠失部分も、井戸や別の場所での祭祀行為に用いられた可能性もあり、今後の調査に期待するところである。

なお、山梨県内における瓦塔の出土事例は、今回の発見が５例目である。調査報告書が刊行されている瓦塔の出土事例としては、韮崎市宮ノ前第２遺跡、同市半縄田遺跡、甲府市大坪遺跡の事例がある。その他、未報告ではあるが山梨市連方屋敷で出土が確認されている。韮崎市宮ノ前第２遺跡は、仏堂と推定した４号掘立柱建物址周辺と溝内より出土した事例である。いずれも土師質の瓦塔片で 15 点、基壇部と推定する４点が検出された。同市の半縄田遺跡では１号掘立柱建物址から漆紙小片とともに土師質の１点が出土し、仏教関連施設の存在が推定されている。甲府市の大坪遺跡では、西区遺構外から６点が出土し、同じ調査区の南東隅では掘立柱建物の一部を検出している。報告では覆土中に混在した遺物の年代から、古墳時代６世紀と比定するが、古代まで下る可能性がある。また周辺には東畑遺跡 B 地区では金銅製観世音菩薩像が出土

しており、周辺に仏教施設の存在が推定される地域でもある。瓦塔自体が寺院や仏教関連施設との関連性が考えられる遺物で、県内で検出した事例では、ほぼすべての遺跡に掘立柱建物跡が伴う。また、前付遺跡の事例のように、竪穴建物が寺院遺構の一画に含まれる可能性があり、再度検討する必要がある。

なお大祥寺については、『東八代郡誌』「吉国山龍華院」の項に「本尊は釈迦牟尼佛、左右は文殊菩薩なり。観音菩薩、聖天の像各一躯は弘法大師の作なりと称し、大祥寺伝来の寺宝なり。寺記に云、古は真言宗にして前附山大祥寺といひ、大同元年弘法大師の開創にかゝり、もと寺尾村にありたり。今にその遺跡を前附一町田といふ」とあり、大同元年（806）創建とする。竜華院には本尊胎内仏として観音菩薩像を祀るが、時代的には中近世の作とみられる。大同元年創建説は、あくまでも伝承として捉えるべきではあるが、前付遺跡から検出された山林寺院の記憶が大祥寺伝説として保持された可能性が十分にある。また掘立柱建物は伝承より半世紀ほど早い８世紀中頃の寺院遺構であるが、この地域では最も古い「尾根の寺院」の記憶が「寺尾」地名の由来になったのかもしれない。大祥寺が竜華院の地で再興されるのが暦応年中（1338 ～ 1341）であり、結論的には今回の調査地点においては伝承に直接結びつく遺構・遺物は検出できなかったが、大祥寺遺跡地内で検出された 16 ～ 18 世紀代のテラス、建物群が竜華院と何らかの関連をもった坊院であった可能性も十分考慮しなければならない。（望月秀和）

第３節　出土遺物について

第１項　縄文土器について

前付遺跡では縄文中期中葉末（井戸尻Ⅲ～曽利Ⅰａ式）および中期後半（曽利Ⅱａ式）の土器群に時期的なまとまりを見ることができ、甲府盆地南縁地域での様相を示すものとして理解できる。

中期中葉末　SI6A、SI14、SI19 の土器群が該当する。深鉢形土器には円筒形、キャリパー形、内湾した無文口縁をもつ深鉢形（無文口縁形と仮称）に大別できる。

円筒形では SI6 の１・６～９、SI14 の６・７・10・15・16・19 がある。SI6 の１・７・８・９はいずれも口縁部に直立する角頭状の無文帯口縁に、４単位のW字状、あるいは垂下文等のモチーフをもつ。頸部文様帯は１・９には存在し、１は２段、９は１段の波状文をもつ。胴部文様帯は１の縦位条線文、６の横帯区画文、９の横帯楕円区画文、８の人体文がある。２も口縁が内湾しているが円筒形の一種で、人体文モチーフに縦位沈線文地文とする。隆線上のキザミはヘラキザミを主とし、曽利Ⅰａ式期につながる技法といえる。そのほか、６･７は横帯文に玉抱き三叉文を施文し、地文を刺突文とする土器で、曽利Ⅰａ式に多い。一方、SI14 では３・４は胴部を２段の横帯楕円区画文とする開きぎみの口縁を持ち、頸部文様帯が未発達な点は SI6 よりも古手にみえる。７は低平隆帯上をヘラ沈線で密に刻むもので、曽利Ⅰａ式にはない要素である。

キャリパー形では SI6 の４・５、SI14 の３が類似し、曽利Ⅰａ式の無文口縁へとつながる要素をもつ。また口縁部文様帯に縦位条線（沈線）地文をもつ SI6 の３、SI14 の２は同類といえる。底部は SI14 の４・５のようにソロバン形と推定できる。SI6 の 11 は大形深鉢で、口縁部には重弧文（褶曲文）を隆線貼付で表出したもので、曽利Ⅱａ式以降の重弧文に系譜性をもつ。

無文口縁形は SI6 にはないが、SI14 には埋甕炉１をはじめ、11 ～ 13・17・21 がある。１は隆線上のキザミを綾杉状（矢羽状）とする人体文モチーフで、明らかに古手である。11 ～ 13 は曽利Ⅰａ式といえ、丸味をもって内湾する無文口縁部が特徴的で、地文は竹管条線とする。17 は縄文地文で、口縁部の無文部から垂下するＪ字文をもち、地文を縄文とする。18・19 も縄文地文で、曽利Ⅱ式の曽利縄文系に先行した縄文地文として注目される。このように SI6・14 ともに井戸尻Ⅲ式から曽利Ⅰａ式の土器群が存在するが、SI14 にやや古い一群が伴うとともに曽利Ⅰａ式が明確に存在するが、SI6 では曽利Ⅰａ式の存在は明確ではない。

中期後半　SI6 Ｂ、SI16、SI26、SI29、SI31 の土器群が該当する。全般的にみて口縁部無文の長胴甕系（大甕系）深鉢、中～小形深鉢、直立口縁をもつ鉢、浅鉢の各種器形があり、口縁部には無文、重弧文、頸部文様帯には斜格子文、波状文、地文には縄文（撚糸文）、条線文、刺突文があるが、刺突文地文は少ない。

また異系統土器に加曽利Ｅ式系のSI6の16、SI26の１のほか、大木系とみられるSI6の21がある。これらは曽利縄文系土器を主とした一群で、曽利Ⅱａ式に位置づけられる。加曽利Ｅ式土器の影響で縄文地文化が隆盛をみたといわれ、SI26の１は併行関係を示す資料となる。無文口縁部は直線的なものが多く、内湾した例が少ない。また縄文地文土器でも無文口縁との類似性があり、両者の併行関係、同時性を物語る。また無文口縁のうち、縄文地文系と条線地文系は頸部の括れは「く」の字状を呈すなど、器形が類似する。

５軒の資料はほぼ同時期とみられるが、竹管条線文が目立つSI16はやや古手の様相を呈す。また同じ縄文地文土器の中でもSI31の１のように口縁部、頸部に波状隆線を貼付するものと、縄文地文のみとするSI29の３などの間には時間差があるように思われるし、SI29の３やSI31の１のように口縁部に屈曲部をもって直立するものは、SI29の６のような直線的なものより新しく、加曽利Ｅ式土器の影響を考えねばならない。とくに口縁端部形態ではSI29の埋甕１と床直の２、覆土中の３・４の比較から、湾曲口縁から直線的、屈曲直線的に推移する過程が窺がえる。また頸部についていえば「く」の字状から、次第に緩やかなカーブへと変遷することが知られ、SI6の15・16などは新しい様相といえる。

竪穴住居の立地および住居形式、炉形式が南北２群に分かれる可能性があることについては前節で指摘したが、出土土器からみるとSI6・16に口縁部無文で胴部上半に横位竹管沈線文帯をもつものが目立つなど、若干の土器の様相の違いを指摘しうるが、それが時期差なのか、同時性における集団差を意味するものかは判らない。今後の検討課題としたい。

なお、「規範から逸脱したような土器」（山本2007）が本遺跡でも存在する点については第４節で後述する。

（櫛原功一）

第２項　籠目土器について

本調査において、SI28から４点、遺構外から１点の計５点の籠目土器が出土した。籠目土器は、器外面に編物の圧痕を遺す土器で、粘土紐を籠の内側に積み上げて成形されるものである（鐘方・角南1998）。

出土品のうち、２点は口縁部資料、３点は胴部資料であり、いずれも鉢形土器である。口縁部資料の２点は明らかに別個体であるが、胴部資料がどちらの個体と同一資料であるのかは明らかにすることは出来ない。

口縁部資料のうち、第156図15は、粘土紐を貼付け口縁部を肥厚させている。上部はタテ材を１本１単位とするヨコ添え２本巻き付け編みがされ、その下段はタテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目編みの痕跡を明瞭に残す。同16は、口唇部が折返しされ明瞭な段を有する。口唇部から12ｍｍのところに粘土積み上げ痕を明瞭に残している。残存する上半部は、タテ材を１本１単位とするヨコ添え２本巻き付け編みされ、下半はタテ材を２本１単位、ヨコ材を１本１単位とするござ目が確認できる（籠目土器の籠目については、第４章第９節に詳述）。いずれも、口唇部にはタテ材のみ確認できることから、籠の端部処理はされず、タテ材が剥き出しの状態であったことがわかる。

籠目土器は、茨城から福岡まで分布しているが、その中心域は近畿地方である。時期的には３世紀後半から６世紀中頃までみられるが、３世紀後半から４世紀初頭は西日本を５世紀後半から６世紀中葉には太平洋沿岸の東日本一帯に分布の中心とするという（鐘方・角南1998）。

本遺跡から出土した籠目土器は、山梨県内では初めての出土例である。SI28は前期後半の所産であり、当該期の出土例は東日本においても数例が知られるに過ぎない。SI28からは、ほかに特殊な遺物の出土はないものの、住居は調査区内で最大規模を誇り、全周するベッド状遺構を備えるなど、他の住居とは異なる様相をもつ。

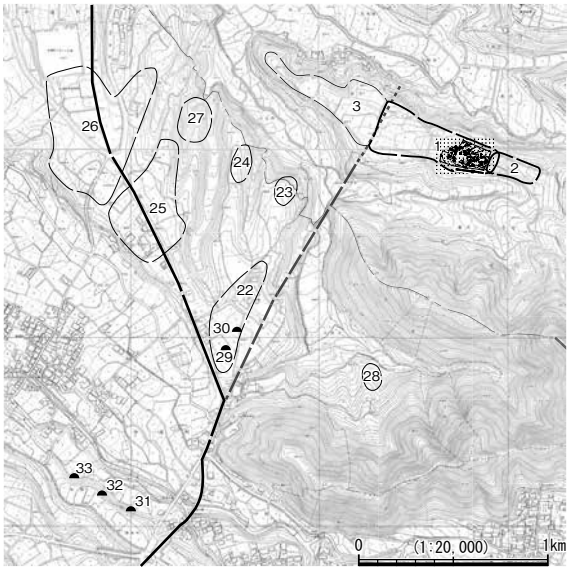
胎土分析の結果からは、笛吹川流域が原料産地候補のひとつと推定されるが、類例は少なく畿内的な色彩の強い遺物であることには間違いない（胎土分析の結果については第６章第１節を参照）。本遺跡から東へ約2.2kmほどの甲府市（旧中道町）米倉山・東山地区は、甲府盆地でいち早く古墳築造が開始され始めた地域であり、前期から中期にかけての古墳が継続的に築造され続けた地域である。それらの古墳には当該期において東日本最大規模を誇る甲斐銚子塚古墳なども含まれており、内部主体や副葬品からは畿内的な色彩が強い古墳とされる。

SI28 はまさにこれらの前方後円墳が造営されていた時期にあたり、至近距離にあることからも畿内的な色彩の強い遺物が出土した本遺跡の性格が注目されるところである。

（宮澤公雄）

第３項　瓦塔について

瓦塔の出土状況については第１節第３項で既述したが、いずれも小片で全点数では 82 点を数えた（SI5 竈出土遺物の接合後は 63 点）。土師質のものが大半を占め、水煙の一部および軸部または基壇部の破片、伏鉢状の破片など６点はいずれも灰オリーブ色（5Y5/2 相当）の須恵質あるいは陶質というべきか、焼き締まった硬質感のある破片である。



第185図　中道往還 経路推定

土師質の瓦塔片については、すべて屋蓋部と推定した。SI5 出土の D27 の観察では、棒状粘土の貼付によって丸瓦を表現し、軒に対しては垂直方向に、約 1.1 ～ 1.2cm の間隔で平行に貼り付けられていた。丸瓦の断面は逆Ｕ字形で横幅約 1.3cm、縦幅（貼付高さ）約 1.1cm を測る。軒先の表現は詳細で、屋根の丸瓦と軒下の垂木の位置は同位置、同間隔に合わせていた。また、欠損部が多くて一箇所のみであったが、丸瓦が軒先より約 0.4cm ほど突出し、瓦当文様はないが径 1.2 × 1.1cm の軒丸瓦を表現した部分が確認できた。軒裏の垂木については、二軒繁垂木が表現されており、垂木の部分は飛檐垂木、地垂木の順に板状にした粘土を貼り付けた後、篦状工具による削り出し整形を施したと思われる。確認した範囲では、各寸法については地垂木の長さ約 1.5 ～ 10cm、縦幅約 0.4cm、横幅約 1.1cm、飛檐垂木が長さ約 3.3cm、縦幅約 0.5cm、横幅約 1.1cm であった。木造層塔の形状を細かく再現している一方で、平瓦および丸瓦の継ぎ目の表現がないなど、簡略化した部分もみられる。特筆すべきは、表面に白色の化粧土を塗り、ナデ調整している点であろうか。厚みのある部分では、約２mm ほど貼り付けていた。

土師質の瓦塔片は、胎土分析によって原料産地は笛吹川・釜無川流域なども候補の一つに推定されるものの、搬入土器である可能性がより高いと推察された（第６章第１節）。須恵質と土師質の部位があることについては、須恵質の部位を意図的に製作したものか、焼成に斑が生じた結果なのかは不明である。事例では塩尻市菖蒲沢窯跡や南比企窯跡群の新沼窯跡に類似しており、本資料も須恵窯（登り窯）で生産している可能性が推察される。なお、山梨県内では須恵器の生産遺跡は明確になっていない状況であるが、本遺跡の所在する境川町には須恵器の生産に関わる遺跡があり、『境川村誌』に調査報告が掲載されている。胎土分析では、他所からの搬入の可能性が示されたが、工人とともに搬入してきた材料で製作した可能性もあり、今後の周辺調査および須恵窯跡の調査によって瓦塔の所産が明らかになることを期待したい。

また、この地から瓦塔が出土した意義については、中道往還との関連性を考えたい。笹生衛氏は、瓦塔が建てられた景観を、集落周辺の出入り口に安置する瓦塔・丘陵頂部に安置する瓦塔・墓域に安置する瓦塔の３パターンの抽出と、これらの景観と整合性を持つ「佛頂尊勝陀羅尼」の功徳を説く経典が８世紀の日本で信仰されていたと推測し、「佛頂尊勝陀羅尼経」で説く高山上や道に面した塔に陀羅尼を安置する行為と出土状況から復元した瓦塔の景観との整合性を指摘した。前付遺跡は、立地から明確に「丘陵頂部に安置される瓦塔」であり、また前付遺跡とその西に隣接する馬場遺跡の境にある道は、南へ辿っていくと、中畑町に所在する諏訪神社の前までほぼ直線的に通じており、中道往還からの支路のひとつであった可能性がある。（第 185 図）。８世紀の甲斐国分二寺の創建や甲斐路（御坂路）が官道（東海道からの支路）となる段階に至るまで、駿河からの最短距離の道であった中道往還は、右左口を基点に盆地各地へと人が行き交う主要なルートであったと考えられる。とすれば、尾根上の高所と道沿いに寺院が立地することは、陀羅尼を安置する行為にも合致する。寺院の建立者や支路の行先、「大祥寺」との関連については今後の検討課題であるが、この尾根上の瓦塔を安置していた寺院が「寺尾」の由来になった可能性は十分に考えられよう。　（望月秀和）

第４節　前付遺跡での砂貯蔵土器発見の意義

１　前付遺跡 SI29 での出土状況

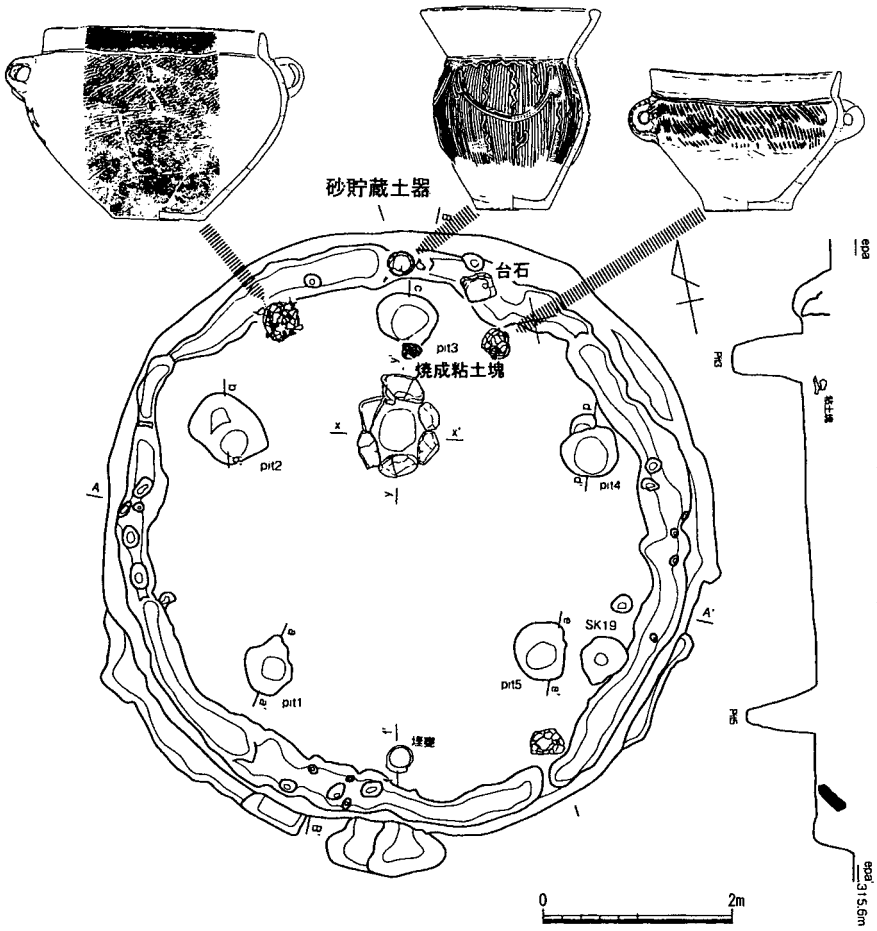
前付遺跡の曽利Ⅱ式期では、５軒が直径 40 ～ 50 ｍの環状的に配置する。すなわち北側に SI29・31 の２軒、南側に SI6・16・26 の３軒が並び、この５軒は廃棄の時間差は考えられるが、併存期間が想定でき、ほぼ同時存在とみてよい。このうち SI29 では奥壁寄りの空間から砂貯蔵土器を含む数個体の土器､焼成粘土塊、台石からなる土器製作資料が出土し、大いに注目されることとなったが、火災住居（焼失家屋）のため偶然に土器作りの場を留めるようにして遺物が出土したと考えた次第である。

出土状況を整理すると、焼成粘土塊が炉と奥壁柱穴間に床面からやや浮いて出土している。砂貯蔵土器は奥壁柱穴裏側の壁際、周溝上から壁側にわずかに傾いて正位で出土した。台石は奥壁柱穴右脇の周溝上にかかるようにして床面直上に平らに据えた状態で出土した。２つの両耳鉢は奥壁柱穴を挟むように奥壁の左右空間から正位、床直で出土した。向かって左側の土器はやや離れて完存状況で出土し、右側の土器は台石のそばから出土しているが口縁の一部を欠く。

焼成粘土塊は鏡餅状に上下に重なって出土し、下側にあたる 21 × 17㎝、厚さ 6.5㎝の粘土塊は下面（接地面側）に網代痕があり、側面にも網代痕が立ち上がるように連続する。網代編みの浅い籠に入れられて被熱したとみられるが、炭化した籠自体は存在しなかった。焼成粘土塊は柱穴を完掘した状況での断面図では床面から浮上するように出土しているが、出土レベルは炉石の上面とほぼ同じで、床面を覆う炭化層下面からの出土であったことから、火災時には床面近くにあり、火災で被熱し焼成粘土化したと考える。粘土塊は３つほどのブロックからなり、表面を中心に指頭痕が多数付着する。表面には小粘土塊のほか、細い粘土紐を数箇所に貼付し、粘土紐が十文字にクロスした部分もある。それらの粘土紐は曽利Ⅱ式期の紐線文系土器のそれに近いものであり、文様施文時に粘土紐を貼付した際、余った粘土紐を粘土塊に戻した状況を呈している。粘土重量は大が 2.2kg、小が 630 ｇで、粘土塊としては大きい。籠に入れられた土器の素地土としての生粘土塊が住居焼失時に偶然被熱したもので、貯蔵・保管された状態ではなく、まさに土器作りの最中、あるいは直後の状態と推定する。つまり、住居の奥壁空間が土器作りのための空間であった可能性を指摘しておきたい。

砂貯蔵土器は口径 24㎝、高さ 28.4㎝の曽利Ⅱ式の紐線文土器深鉢で、頸部（高さ 21.5㎝）まで約 5.37kg の砂が充満していた。砂は細粒で、礫は含まれないことから、河川の細粒砂が堆積した中洲状地点から採取したことが推測される。こうした砂は前付遺跡の台地上には存在せず､埋没過程で偶然入った可能性はない。この点に関しては河西学氏の科学的分析が行われ、砂粒の岩石的構成比、粒径分布が直線距離で約 2.5 ｋｍ離れた笛吹川のサンプルと一致したことから、笛吹川河川砂が集落内に搬入されたことが明らかになった。さらに前付遺跡の曽利Ⅱ式期の土器胎土および焼成粘土塊中の砂粒の岩石的構成とも一致したことで、土器胎土に混和する砂として用いられたことが推定された。つまり砂利用を目的に人為的に持ち込まれたもので、それは土器製作のための混和材であった可能性が、科学的分析によって大きく浮上することになったのである。砂が混和材として意図的に粘土に入れられたであろうことは、これまでも土器製作実験で経験的に指摘され、胎土分析でも河川砂の意図的な混入を前提としてきたが、出土状況として具体的に検出され、科学的検証が行われた事例は管見では初めてである。

考古学的には、砂に混和材以外の用途がなかったとは言い切れない。しかし砂貯蔵土器の出土位置が焼成粘土塊の近くであり、焼成粘土塊はすでに砂が混和された素地土で、施文時の状況を示していたことから、土器作りに関わる砂利用の様相を示したものと考える。ただし土器作りの道具が置かれていただけなのか、土器作りがその場で行われていたのかは検証が難しい。砂の残量をみるかぎり、使用中というより使用前、砂を充満した状態に近い。砂は素地調整の際に混和するもので、土器製作過程で順次加えるものではないことから、土器製作の場に砂貯蔵土器が置かれている必要はないともいえる。また土器を川に持参して直接砂を入れたのか、あるいは別容器や袋で集落内に運び込んだ砂を土器に移し替えたのか、といった細部につい



第186図　SI29内遺物出土状況

ては不明である。

貯蔵土器内の砂中からは炭化鱗茎が多数出土し、また土器内壁下半には炭化鱗茎付着痕がみられた。鱗茎は佐々木由香氏らの分析によりユリ科ツルボ属と推定されている。砂回収後に炭化物の存在に気付いたため、付着状況については観察できていないものの、土器内面下半に丸いオコゲ痕が多数付着することから、この土器で鱗茎を煮沸したことは確実である。鱗茎煮沸後、土器内に炭化鱗茎が付着した状態で、土器内面を丁寧に洗浄することなく容器として転用したものといえる。直後に土器内に砂を充満したため、土器内面のオコゲの状況が良好に保存されたのであろう。

台石は33 × 25cm、厚さ13cmの表裏面に平坦面をもつ板状で、出土状況で上側がススにより黒変剥離し、中央部分には直径13cmの円形に被熱赤変した部分があり、なんらかの物体が石の上にのった状況で被熱した可能性が推測されている。ただし台石上に粘土や土器を載せた状況での被熱ではなかったことは確かで、また裏面の方が平坦で使用感があった。そのほか、出土した両耳鉢は、水を入れる容器として用いられたとすれば、これも土器作り関連遺物といえる。

こうした出土状況から、いくつかの不確定要素はあるものの、出土した遺物は土器作り関連資料と理解でき、奥壁空間が土器製作の場であった、と推測するものである。

2　奥壁空間と土器作り

炉裏の奥壁空間は、出入り口から一番遠いことから暗い空間とみなされ、作業空間とするには不向きであると考えられている。しかし、一方で人の出入りの激しい出入口側のスペースよりも、人が最も立ち入らない空間であることから、土器作りのような作業を行うには適していたのかもしれない。また土器作りであれば、粘土の保管、貯蔵のためには、出入口に近い南側よりも北側の奥壁側の方が乾燥しにくく適している。明かりについては炉に最も近いことから、日が落ちてから作業を行うのであれば炉の光を利用することができることから最適な場所であり、日中の作業場所としても奥壁側に明り採りの窓があれば問題はないだろう。土器作りは製作から乾燥の間、移動せずに同じ場所で行うのが理想的で、湿った場所よりも屋根があって乾燥した場所がふさわしい。竪穴住居内の奥壁空間は暗さを克服できさえすれば作業空間として適した場所であったといえる。

従来の縄文時代の土器製作観は、ムラごとに自給自足的に行われ、製作者は女性であって、ムラの広場に女性が集まって土器作りを行い、女性間で土器作りの技術が受け継がれていった、という漠然としたイメージが一般的に持たれてきた。しかし実証はむずかしく、また土器製作者が女性だったかどうかも疑わしいとされる（可児 2005）。そうした中で土器作りのイメージを具体的にしたのは多摩ニュータウン遺跡№245・248 両遺跡の調査である。№248 遺跡は大規模な粘土採掘坑遺跡であり、近接する№245 遺跡の６軒の住居

内からは生粘土が出土し、とくに51号住では粘土で覆われて器台（台形土器）、未焼成土器、石皿（台石）が床面上から出土したことから「土器を製作していた場」と推測された。またふたつの遺跡は粘土採掘坑と粘土を採掘した集落の関係にあることが、打斧、浅鉢の接合関係から実証されている（東京都1998、及川・山本2001、山本2007）。№248遺跡の粘土採掘坑は、№245遺跡をはじめとする周辺集落の共有地となっていた可能性が高いとされるが、土器製作はあくまでも自給自足的で、周辺集落に供給する専業的な土器作りではなかったと考えられている。

多摩ニュータウン№245遺跡における51号住をはじめとする生粘土が出土した竪穴住居での出土状況によれば、粘土の貯蔵・管理から土器製作に至る一連の土器作り過程が住居内で行われた、つまり土器作りが住居単位で行われたのではないかという見方ができる。さらに土坑状を呈した粘土採掘坑の規模やそれらの分布から考えると、ひとつの採掘坑が粘土採掘を行った1軒の竪穴住居との対応関係を示すことが推測され、粘土採掘を含めて土器作りが住居単位で行われたといえるだろう。つまり土器作りの単位が各住居単位で、土器作りが行われたのはそれぞれの竪穴住居内であったと考えられる。

近年、縄文土器の器面に付いたマメ類や昆虫圧痕に注目し、三内丸山遺跡等でコクゾウムシの多数の圧痕を確認した小畑弘己氏によると、コクゾウムシは屋内害虫ともよばれ、豊富な穀類が貯蔵された屋内に生息するという。またネズミやガの糞なども胎土中に確認されることから、「土器作りは屋外ではなく、貯蔵食物や家屋内に棲みついた害虫や小動物のいた家屋内で行われた可能性が高い」と指摘した（小畑2014）。土器作りの場を考えるうえで極めて重要な指摘であろう。

3　砂の出土事例

土器の中に砂が入った状態で出土した類例は、管見では知らない。ただ混和材としての砂に関する報告例の古いものでは、尖石遺跡31号住がある（宮坂1957）。31号住は直径7ｍもの竪穴で、集落内では大形の部類にあたり、炉は一辺1.25ｍの方形、深さは47㎝とひときわ大きく、底面から側壁面が焼けて赤変していた。炉内の三隅からは花崗岩風化礫が出土したほか、炉内からは酸化鉄塊が出土したことから、花崗岩風化礫は混和材として利用された可能性が示唆された。また奥壁左側の柱穴脇に赤土塊の貯蔵穴があり、水漉しした粘土かと推測されている。以上により報告者の宮坂英弐氏は、本竪穴を土器製作住居と考え、竪穴の規模が大きく、炉が大きいのは土器を炉内で焼成するためではなかったかと推測した。今日、宮坂氏の推測をにわかに認めることは難しく、炉内三隅の風化礫は方形石囲炉の隅石ではなかったかと思われる。ただし花崗岩風化礫の存在は他遺跡でも聞くことがあり、わざわざ硬い礫から砂粒を採取する必要性があったとは考えにくいものの、山間部など河川砂の採取が困難な地域では、山砂利用のほかそうした利用方法もあったのかもしれない。また炉を利用した土器焼成に関しては、傾聴に値する。

多摩ニュータウン№72遺跡329号住では、竪穴住居の奥壁右側から非常に細かな砂が径30㎝、厚さ10㎝程度にまとまって出土し、「篩をかけたように目が均質であることから、土器作りの際に混和材として用いるものではなかろうか」と推測されている（東京都2009）。出土した位置が№245遺跡51号住や前付遺跡例と共通している点が注目される。

このように砂に関しては類例がほとんどないが、竪穴住居内の調査ではこれまでさほど注意されていなかったことも事実である。混和材の砂に関しては、二次堆積粘土には自然の状態で含まれているというような見方もあるが、意図的に加えたものという認識に立ち、今後の調査の中で砂の存在に注目する必要がある。

4　生粘土の出土事例

生粘土出土例では、前述したように多摩ニュータウン№245遺跡51号住（加曽利E1式末～E2式前半）の右奥壁寄りから未焼成土器、器台（台形土器）、台石、敲石、玉髄片が出土した事例が著名である。51号住の粘土出土地点は5か所あるが、中でも東壁に接して出土した粘土ブロックが最大量で、粘土ブロックに接するように柱穴と小ピットが並んでいることから、間仕切りされた壁際の空間が粘土の貯蔵および作業空

間であったと推測され、土器製作の場と考えられている。未焼成土器は台形土器に載せて焼成前の乾燥段階にあったと考えられ、貯蔵粘土が崩れて遺物を覆ったもので、台石や敲き石の出土から、粘土を砕いて素地土を作り、土器を製作したと推測されている。ちなみに未焼成土器は文様から曽利式土器、もしくは曽利系土器で、多摩地域で曽利式土器が製作されていたことを直接示す事例といえる。また玉髄片が出土していることから石器製作が同じ場で行われたことがわかる。したがって、土器、石器などを製作する作業スペースとして奥壁右側空間が利用され、しかも土器製作専用のスペースではなく、石器も同じ場所で作られていたこととなる。土器作りを女性、石器作りを男性と仮定すると、男女の共有空間としての利用が考えられ、竪穴住居内の場の空間区分を探るうえで興味深い。

№245遺跡で生粘土が出土した竪穴住居のうち粘土が大量に出土した48号住（加曽利E1式期）では円形プランの奥壁側または奥壁左側空間に粘土が分布し、59号住（加曽利Ｅ１式期）では隅丸方形プランの奥壁左側、北西隅に粘土分布があった。ともに出入口側ではなく、奥壁側からの出土である。少量出土の場合、38号住（勝坂3式）では右側空間（東南側）に存在する。48・51・59号住のように大量に粘土が出土した事例は、粘土を住居内に貯蔵した事例と考えられ、奥壁左側、右側の違いはあるものの、いずれも奥壁側からの出土である。

そのほか酒呑場遺跡（山梨県北杜市）Ⅰ区10号住（藤内式期）、石之坪遺跡（山梨県韮崎市）、坂上遺跡（長野県富士見町）６号住（曽利Ⅱ式期）、大深山遺跡（長野県川上村）18号住（曽利Ⅱ式期）などで生粘土が竪穴住居内から出土した事例がある。

これらの事例により、粘土の量が多量の場合と少量の場合があり、前者では竪穴住居内奥壁空間床面上に保管することが多い。後者では奥壁側と推測される例のほか、出入口側に保管する事例があり、床面上のほかピット内貯蔵例がある。また曽利Ⅱ式期に粘土貯蔵例が多いのは偶然とは思われない。台形土器が多出するのもこの時期で、土器型式の地域性が細分化する時期でもある。さらにX把手甕のように土器が大形化するのはこの時期をピークとしており、人口規模の拡大に伴う土器作りの隆盛期として理解しておきたい。

５　規範を逸脱した土器

前付遺跡の曽利Ⅱ式期の土器をみると、多摩ニュータウン遺跡№245遺跡で指摘されたように、山本孝司氏が指摘する「規範を逸脱したような土器」（イレギュラーな土器）が存在する。SI6では地文を省略して無文とした17、波状口縁から沈線文を垂下しただけの文様をもつ18、直線的な胴部で、隆線文のほかは無文とし、胴部の一部にのみ帯状に縄文施文する19、SI16では縄文地文上に竹管文を垂下した小さなX把手をもつ６がある。これらの共通性として高さ20㎝前後から25㎝程度の小形深鉢であるほか、器形の変形、土器文様のうちの地文の省略、文様の簡略化などの手抜き的行為が認められる。自家消費のために製作した土器で、集落外に供給されることがなかったのであろう。

６　まとめ

前付遺跡では奥壁側から砂貯蔵土器や焼成粘土塊が出土するなど、土器作りが住居単位に住居の奥壁空間で行われたと考えられる。全国的に見ても土器作りの痕跡はまだまだ少ないが、№245遺跡例などによれば、縄文中期後半に土器製作が行われたのは竪穴住居内奥壁空間で、床面上に大量の粘土を貯蔵した住居があり、粘土の貯蔵から土器製作、台形土器の保管は住居ごとに行われ、粘土採掘も同様であったと思われる。すべての住居が土器製作の痕跡をもつわけではないことから、土器作りの住居は集落内でも限定的と想定したい。また台形土器を複数個所有する住居があるなど、土器作りを盛んに行った住居の出現が、とくに縄文中期後半の曽利Ⅱ式期に各地で見出される。台形土器は土器作りが一時的ではなく、継続的居住を前提として今後の土器作りを見込んで所有、使用した道具であり、本遺跡のように短期的な集落には必ずしも必要ではなかったのであろう。縄文土器は商品的価値をもって流通した可能性はあるが、土器作りの痕跡のない住居でも土器作りが行われた可能性があり、土器作りの専業化、流通については今後の課題としたい。　（櫛原功一）

第５節　前付遺跡出土の炭化ご飯塊について

１.出土状況

同資料は、古墳時代前期の竪穴住居（SI10）から出土した（第４章第１節および資料の分析については第５章第１・７節参照）。同遺構からは建物構築材の一部であろう炭化した木材等が散見され、状況から焼失遺構と推定し、同資料も火災によって炭化したことで遺存したものと考えられる。

SI10の中央部と北壁の中間の位置から出土し、調査時の所見では籾殻等はみられないため、おにぎり状に固形した状態であると推定した。時期的にも希少な事例と考え、取り上げの際は、山梨文化財研究所の保存科学担当と方法について検討し、薬剤の塗布を実施するなどの養生を行いながら取り上げることにした（下記参照）。炭化ご飯塊の取上げは、炭化米の表面に薬剤を塗布した後、周囲を床面まで掘り下げ、さらにやや床面を抉るように掘りあげて採取した。他、周辺に散在していた炭化米も土ごと採集し、土壌洗浄により抽出している。

（望月秀和）

２.取り上げおよび保存処理

前付遺跡で出土した炭化ご飯塊は、発見当初はおにぎり状の塊と思われたが、取り上げ後のクリーニング過程で編物に入れられた米であったことが判明した。残存状態は良好で、取り上げ時に炭化ご飯塊とその周囲の土に面的、層的にパラロイドB72アセトン溶液を十分浸みこませ固めてから、深く掘り下げて取り上げたことが功を奏したといえる。

写真1・２　取上げ直後の状態

次に炭化ご飯塊の取り上げ、保存処理の実際について紹介するが、保存処理は限られた道具や材料で試行錯誤しながら行った。表面のクリーニングでは、作業途中で亀裂が生じてしまい十分なクリーニングが行えなかったり、パラロイドB72を使用したことで光沢が除去しきれないなどの問題点もあり、最良の方法とはいえないが、一事例として参考にしていただきたい。

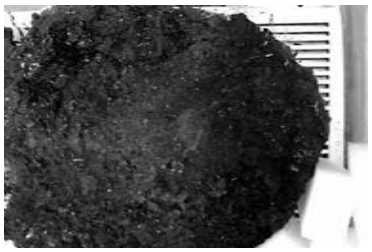


写真３　表面に亀裂が入った状態

炭化ご飯塊の取り上げ

炭化ご飯塊の部分とその周囲にパラロイドB72アセトン溶液20wt%程度を十分浸みこませ土ごと固めた後、深めに掘り下げて取り上げた。

表面のクリーニング、強化

アセトンでパラロイドB72を溶かしながら炭化ご飯塊のクリーニングおよび不要な土の除去を行う際に溶剤の影響により亀裂が入り表面が崩れかけたため、パラロイドB72アセトン溶液40wt%を筆で塗布して表面を強化した。

写真４　作製したサポート

表面用サポート作製

裏面をクリーニングする際、表面が崩れるのを防ぐためのサポートを作成した。適当な大きさに切った不織布にエポキシXNR6301を浸み込ませながら炭化ご飯塊の表面の凹凸に合わせて貼り、一晩乾燥した。その際、樹脂が浸みこんだ不織布が直接炭化ご飯塊に触れないように表面の凹凸に合わせてラップフィルムを敷いた。

エポキシXNR6301主剤：硬化剤＝100：40（wt%）使用量140 g

裏面のクリーニング

ひっくり返して、アートナイフ、筆を用いて慎重に土を除去していたところ、編物が出できたので、形を崩さないようにブロアーで少しずつ土を

写真５　裏面の養生（途中経過）

吹き飛ばした。

編物部分の強化、裏面全体の強化、クリーニング

編物全体が出たところで、パラロイドB72エタノール溶液20wt%をスプレーで噴霧して強化。筆などで樹脂を塗布すると編物が筆に付く恐れがあるので、スプレーの使用を推奨する。乾いたところで、再度スプレーで樹脂を噴霧し、編物部分を強化した。シリンジ、筆を用いてパラロイドB72アセトン溶液30wt%を部分的に浸み込ませ全体を強化ながらクリーニングを行った。

裏面の充填

裏面の亀裂箇所にアラルダイト2020と粒子の細かい土を混和しペースト状にしたものを充填。土は遺物出土地点の土をふるって粒子を均一にしたものを使用。

アラルダイト2020　主剤：硬化剤＝100：30（wt%）

使用量　アラルダイト19.46 g　土21.57 g

裏面の養生

表面のサポートをはずして亀裂の充填や光沢の除去作業をする際、裏面の編物の崩れを防ぐためパラロイドB72アセトン溶液20wt%を浸み込ませた典具帖紙で編物側全体を養生した。

表面の充填

ひっくり返して表面の亀裂、隙間にアラルダイト2020と土の混和材を充填した。

使用量　アラルダイト10 g　土11.08 g

表面と裏面の仕上げ

アセトンを使用し、炭化ご飯塊、編物が崩れないように様子をみながらパラロイドB72の光沢を除去した。裏面の養生を取る際はエタノールを使用した。　（小澤美和子）

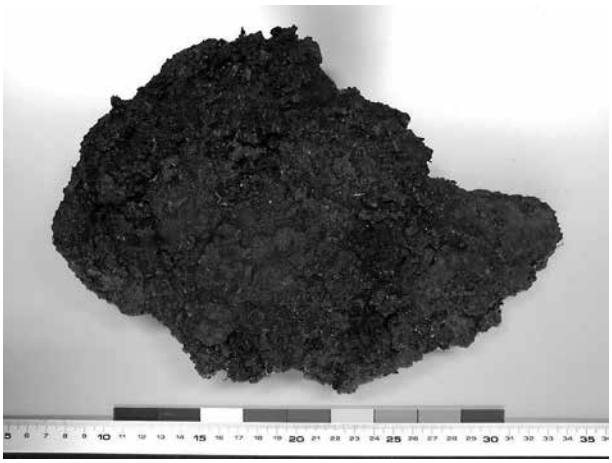


写真６　保存処理後の状態（表面）

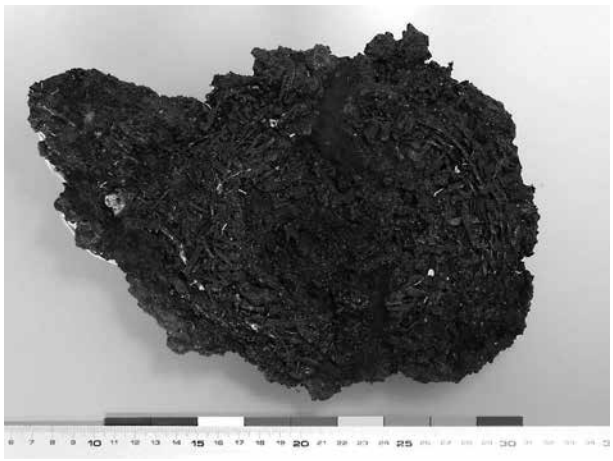


写真７　保存処理後の状態（裏面）

◎主な使用道具、材料

絵筆　ネオセーブル（ぺんてる）

ブロアー（エツミ）

アートナイフ（オルファ）

シリンジ（ダイソー）

噴霧器　　E-Value オートスプレーガーデン（藤原産業）

アクリル樹脂　パラロイドB72（Rohm and Haas）

エポキシ樹脂　アラルダイト2020（Huntsman Advanced Materials）

エポキシ樹脂　XNR6301（長瀬チバ）

典具帖紙

不織布

引用・参考文献

〔地誌・論考等〕

池田敏宏　1999「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討―関東地方瓦塔屋蓋部編年の懸賞作業を中心に―」『研究紀要』第７号
　　財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
池田敏宏　2004「山野開発と瓦塔の造立―瓦塔造立の背景についての考察」『古代考古学フォーラム 2004『古代の社会と環境』　開発と神仏とのかかわり』
　　資料集　帝京大学山梨文化財研究所
池田敏宏　2008「初現期の瓦塔系譜―勝呂類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置づけ―」『土曜考古』第 32 号
池田敏宏　2009「初現期の瓦塔系譜（2）―多武峯類型瓦塔、ならびに類似瓦塔の位置づけ―」『東国史論』第 23 号
閏間俊明　2002「生粘土と焼成粘土塊雑感－韮崎市内の遺跡・遺物をとおして－」『土器から探る縄文社会　2002 年度研究集会資料集』
小畑弘己　2014「土器圧痕とコクゾウムシが語る縄文時代の食と暮らし」『歴博』№ 187
及川良彦・山本孝司　2001「土器作りのムラと粘土採掘場－多摩ニュータウン№ 245 遺跡と№ 248 遺跡の関係－」『日本考古学』11
鐘方正樹・角南総一郎　1998「籠目土器と笊形土器」『奈良市埋蔵文化財センター紀要』1997
清雲俊元　1978「甲斐金峰山と修験道」『富士・御嶽と中部霊山』山岳宗教史研究叢書 9
櫛原功一　2002「土器作りのムラ」『土器から探る縄文社会　2002 年度研究集会資料集』
櫛原功一　2004「台形土器の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』12
境川村　1990『境川村誌』資料編　考古・古文書
坂詰秀一　2000『仏教考古学の構想－その視点と展開－』雄山閣
佐々木由香　2014「縄文人の植物利用－新しい研究法からみえてきたこと－」『ここまでわかった縄文人の植物利用』
笹生　衛　2012「瓦塔の景観と滅罪の信仰―瓦塔が建てられた景観と経典との関連を中心に―」『日本古代の祭祀考古学』吉川弘文館
可児通宏　2005『考古学研究調査ハンドブック２　縄文土器の技法』
山本孝司　2007「土器製作のムラ」『縄文時代の考古学６　ものづくり　道具の製作の技術と組織』
出河裕典　1996「瓦塔の生産―塩尻市菖蒲沢窯跡の資料の検討を通して―」『長野県の考古学』
出河裕典　1998「第２章　篠ノ井遺跡群　瓦塔　出土資料の検討」『北陸新幹線埋蔵文化財調査報告書４』―長野市内その 1―
　　篠ノ井遺跡群 石川条里遺跡　築地遺跡　於下遺跡　今里遺跡　長野県教育委員会　（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 33
東方仁史　2010「笊形土器研究ノート」『遠古登攀』
東村山ふるさと歴史館　2011『企画展図録　狭山丘陵からみた古代の東村山　瓦塔の建つ風景』
三上徹也　2014『縄文土偶ガイドブック　縄文土偶の世界』
山梨教育会　1979『東八代郡誌』山梨教育会
山梨県考古学協会　2002「縄文土器製作関連遺構・遺物集成」『土器から探る縄文社会　2002 年度研究集会資料集』

〔調査報告書〕

大坪遺跡発掘調査会　2002『大坪遺跡』－平成 12 年度調査地点の報告－
㈶浜松市文化振興財団　2009『北神宮寺遺跡』
境川村教育委員会　1993『天神遺跡』境川村埋蔵文化財調査報告書第７輯
境川村教育委員会　1998『遺跡分布図』山梨県東八代郡境川村
境川村教育委員会　1999『金山遺跡第４次・立石北遺跡第２次・京原遺跡第３次・一の沢遺跡第９次』境川村埋蔵文化財調査報告書第 15 輯
境川村教育委員会　1999『一の沢遺跡（10 次）』農村地域活性化農道整備事業に伴う発掘調査報告書　境川村埋蔵文化財調査報告書第 16 輯
境川村教育委員会　2002『西原遺跡・柳原遺跡（２次）』県営一般農道整備事業に伴う発掘調査報告書　境川村埋蔵文化財調査報告書第 17 輯
境川村教育委員会　2004『天神遺跡（２次）・立石北遺跡（３次）・北原遺跡』境川村埋蔵文化財調査報告書第 20 輯
塩尻市教育委員会　1991『菖蒲沢窯跡　発掘調査報告』
東京都埋蔵文化財センター　1998『多摩ニュータウン№ 245・341 遺跡』東京都埋蔵文化財センター報告第 57 集
東京都埋蔵文化財センター　2009『多摩ニュータウン遺跡－№ 72・795・796 遺跡－（14）』
中道町教育委員会　1993『立石遺跡』中道町埋蔵文化財発掘調査報告書第 16 集
韮崎市教育委員会　1991『宮ノ前第２遺跡　北堂地遺跡』県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
韮崎市教育委員会　1995『半縄田遺跡』県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
笛吹市教育委員会　2008『中原・白戸遺跡』県営畑地帯総合整備事業寺尾地区発掘調査報告書　笛吹市文化財調査報告書第７集
笛吹市教育委員会　2012『国指定史跡　甲斐国分寺跡－金堂跡確認調査の概要報告―』笛吹市文化財調査報告書第 22 集
笛吹市教育委員会　2012『北原遺跡（２次）』県営畑地帯総合整備事業寺尾地区支線農道第７号工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
　　笛吹市文化財調査報告書第 24 集
富士見町教育委員会　1988『坂上遺跡』『唐渡宮　八ヶ岳南麓における曽利文化期の遺跡群発掘報告』
宮坂英弐　1957『尖石』
八幡一郎　1976『信濃大深山遺跡』川上村教育委員会
山梨県教育委員会　1984『中道往還』山梨県歴史の道調査報告書第三集
山梨県教育委員会　1987『上の平遺跡　第４次・第５次発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 59 集
山梨県教育委員会　1989『鍋弦塚・米倉山遺跡　第４次・第５次発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 59 集
山梨県教育委員会　1991『上の平遺跡（第１・２・３次調査）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 59 集
山梨県教育委員会　1991『東山南（B）遺跡』甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 64 集
山梨県教育委員会　1993『東山南（A）遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 76 集
山梨県教育委員会　1993『東山北遺跡』甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 79 集
山梨県教育委員会　1994『上の平遺跡第６次調査　東山北遺跡第４次調査　銚子塚古墳南東部試掘』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 94 集
山梨県教育委員会　1996『立石・宮の上遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 110 集
山梨県教育委員会　1996『菖蒲池遺跡』：米倉山ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 119 集
山梨県教育委員会ほか　1997『酒呑場遺跡（第３次）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 136 集

山梨県教育委員会　1996『米倉山Ｂ遺跡』: 米倉山ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 163 集
山梨県教育委員会　1999『うえのだいら　上の平遺跡第７次発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 173 集
山梨県教育委員会　2000『諏訪尻遺跡　境川分譲地造成事業に伴う発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 180 集
山梨県教育委員会　2005『原町農業高校前遺跡（第２次)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 221 集
山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター・甲府市教育委員会　2014『古代東国と畿内王権―甲斐中道古墳群の検討から―』甲斐銚子塚古墳史跡指定 85 周年・大丸山古墳史跡指定記念　資料集

おわりに

甲府盆地南縁の曽根丘陵の細長い小丘の上に立地する前付遺跡・大祥寺遺跡の調査によって、周辺地域と同じく、縄文時代中期集落、古墳時代前期集落の分布を確認することができた。また学術研究上において注目すべき多くの事例を得ることができたといえる。最後に、その成果と課題をまとめて、今後の調査研究に繋げたい。

縄文時代　住居内（SI29）から砂を貯蔵していた土器が出土した。火災によって使用時のまま廃棄されたため、その周辺から出土した粘土塊と台石は、居住空間内での土器製作を考える上で貴重な事例となった。また砂の入った土器内には、ツルボと推定される炭化鱗茎が検出された。ツルボは食用になるが、同じ植生で類似するノビルと違い、アク抜きが必要な植物種であるという。この種を選択し、土器内に残った理由などもあわせて検討していきたい。

古墳時代前期　調査範囲内だけで 20 軒を検出した。周辺の調査成果を鑑みても、相当数の集落が同様の地形上に分布しており、これらの集落が中道古墳群の形成に関連した可能性も十分考えられる。またこの時期の住居炉の多くから炭化米が検出された。これが米食を示すのか、もしくは祭祀行為等により残ったものであったのか、事例を検討する必要がある。特に、SI10 から出土したかご状の容器に入った炭化ご飯塊は、古墳時代前期の食生活を知るための大変希少な成果である。なお、本書では分析報告に加えて、その取上げ方法・処理方法についても報告することができた。今後の調査での一助となれば幸いである。

奈良平安時代～中世・近世　地元地域にとっての調査の命題であったのが、地名の由来である「大祥寺」の発見である。しかし遺称地である「大祥寺遺跡」で実際に検出したのは、伝承が残る９世紀初頭や 14 世紀ではなく、16 世紀・18 世紀の遺構・遺物であった。とくに掘立柱建築の性格については今後の大きな検討課題となった。但し、地名の由来に関しては「前付遺跡」において伝承よりさらに古い、８世紀中葉に比定する山林寺院遺構を発見した。この遺構を「大祥寺」と断定できたわけではないが、周辺で最も古い段階の「尾根にある寺」であり、地元の地名の「寺尾」の由来になった可能性は十分に考えられよう。

その他、出土した瓦塔や、掘立柱建物跡と竪穴建物遺構との組み合わせは、同時期の寺院建築の一形態を示す可能性もある。さらに瓦塔という意匠と意図を強く表す遺物の存在から、中道往還から派生する本遺跡へのルートを推定した。なお、本遺跡の南西に位置する「右左口（うばぐち)」の地名については、円楽寺優婆堂の存在を由来とする説もあるが、文字通り右（東）左（西）へ向かう道が複数開口していた地理的な要因もあったのではないだろうか。なお、中道往還から本遺跡へのルートを検出した遺構と遺物から想定したが、そのルートの行先や、経路としての時期的な需要など、今後考察を重ねていく必要がある。

以上、今回の調査成果と今後の課題をあげた。前付・大祥寺遺跡発掘調査によって得られた成果は、本地域に刻まれた歴史を解明するだけにとどまらず、考古学や自然科学研究の分野においても大変良好で多くの資料と情報を得ることができた。この調査で得た視点が、今後の調査研究の一助となれば幸いである。また今後の周辺地域における発掘調査に期待をしつつ、検討を続けていきたい。　（望月秀和）

末筆となりましたが、前付大祥寺遺跡の発掘調査の調査成果は、厳しい夏の暑さや丘陵上の強風にも耐えていただいた発掘調査スタッフと、膨大な資料整理を成し遂げた整理スタッフ、そして調査から整理報告書刊行に至るまで、地元・寺尾の皆様をはじめとする多くの方々、諸機関にご理解とご協力を賜り、得ることができました。心より御礼申し上げるとともに、今後も埋蔵文化財発掘調査へのご理解とご協力を願います。

1．大祥寺遺跡調査前全景

2. 調査区遠景（上寺尾・中寺尾方面を望む）

3. 調査地点遠景（西から）

4. SB1 上層

5. SB1 完掘

図版２

1．SB1 近景（南東から）

2．SB2（東から）

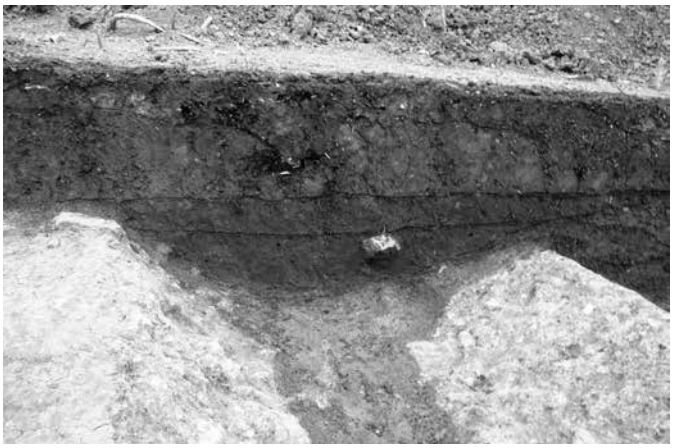
1．SB1 近景（北から）

2．SB1 近景（西から）

3．テラス東端（北から）

4．SB2 近景（東から）

5．SD1・5 近景（南から）



6．SD1・5 調査区南壁

7．SX1（SB1 竈跡検出状況）

8．SX1（構築土断ち割り状況）

図版 4

1．Pit70 柱材検出状況（90）

2．Pit70 断面

3．Pit73 礫充填

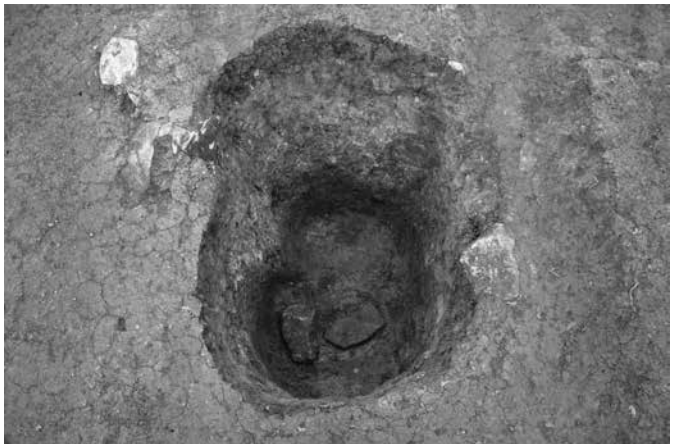
4．Pit73 柱材検出状況

5．Pit104 柱材検出状況

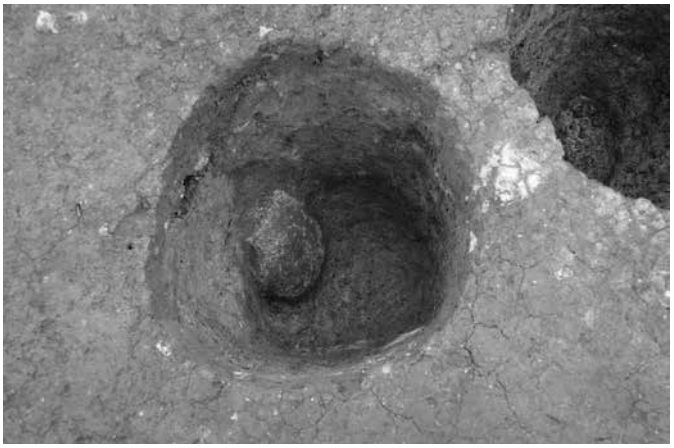
6．Pit112 礫出土状況

7．Pit136 礫出土状況

8．Pit138 柱痕

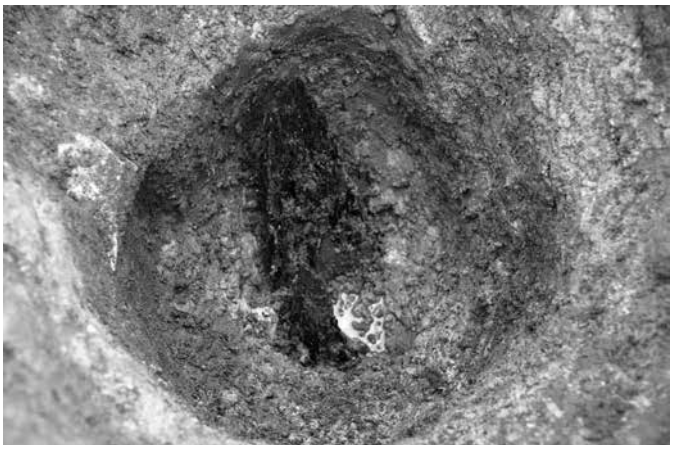


1. Pit148 完掘状況

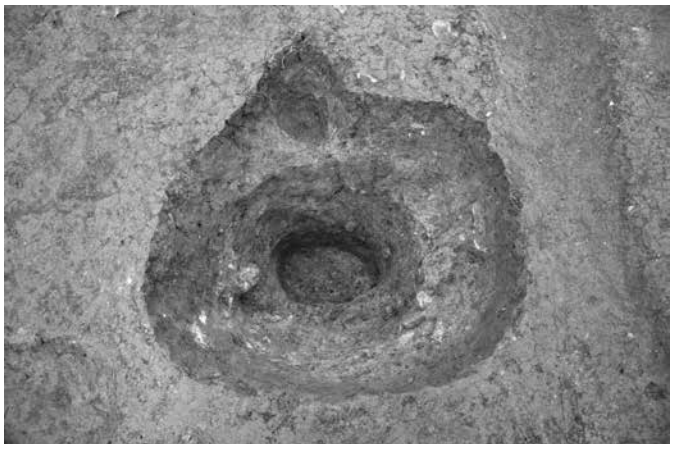


2. Pit149 完掘状況

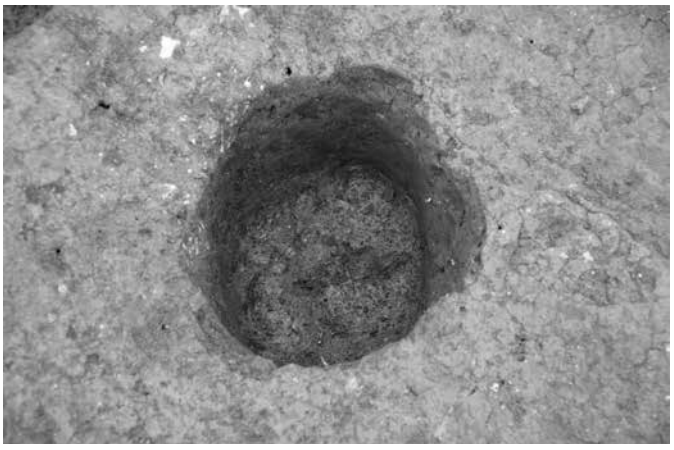
3. Pit151 柱材検出状況



4. Pit151 柱材検出状況

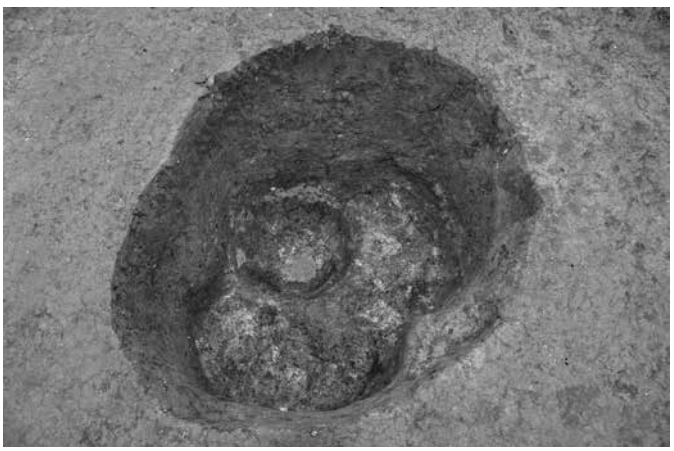


5. Pit152 完掘状況



6. Pit159 完掘状況

7. Pit161 完掘状況



8. Pit 完掘状況

図版 6

1．SX2 礫出土状況

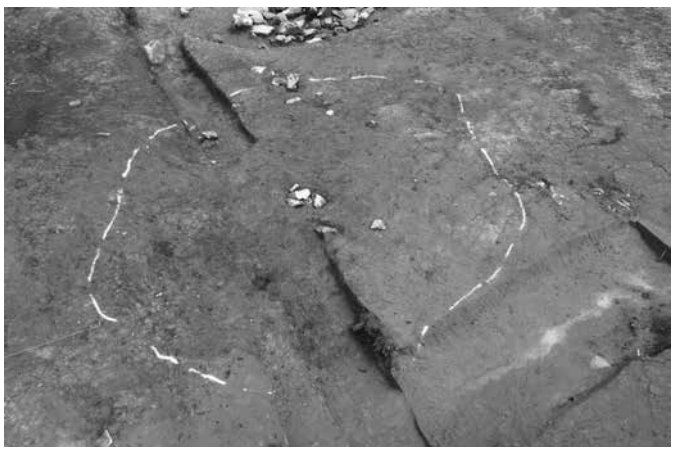
2．SX2 堆積状況

3．SX2 礫除去後（南から）

4．SX2 礫除去後（西から）

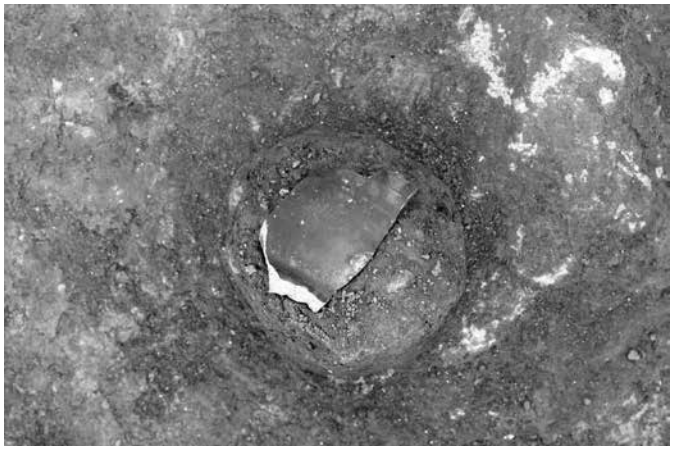
5．SX2 地輪（127）出土状況

6．SX2 灰器（60）出土状況

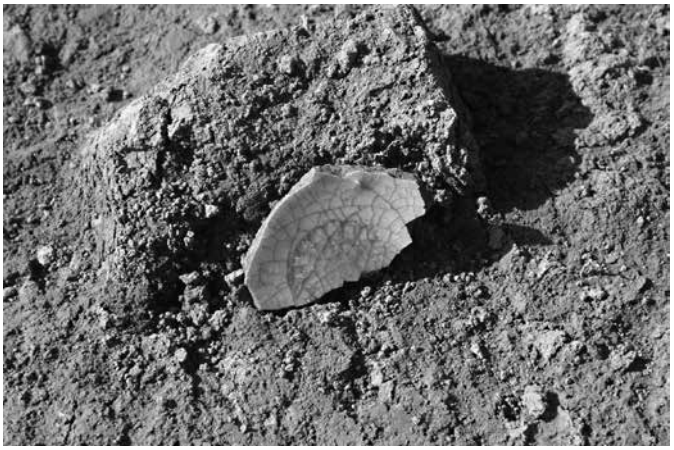


7．SX3 炭化物分布範囲

8．SX3 完掘状況



1．遺物出土状況（21）



2．遺物出土状況（3）

3．遺物出土状況（15）

4．遺物出土状況（135）

5．地下式坑近景（奥：SK2, 手前：SK24）

図版 8

1．SK2 完掘状況

2. SK2 底面検出状況

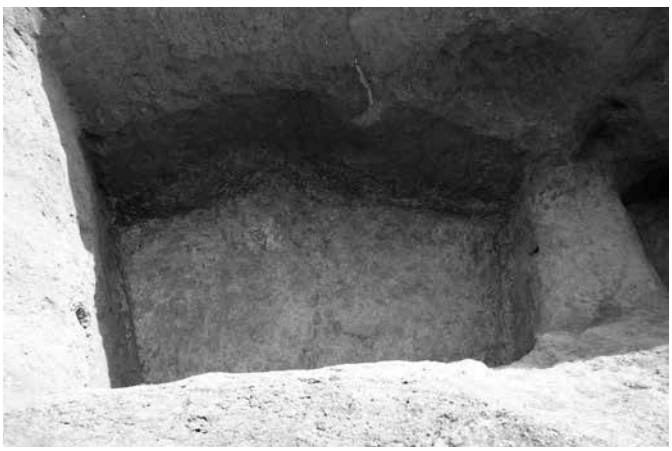
3. SK2 竪坑底面

4. SK2 壁面工具痕

5. SK24 検出状況

6. SK24 内部

7. SK24 完掘状況（東から）



8. SK24 完掘状況（北から）

1．SD2 近景（西から）

2. SK8 断面

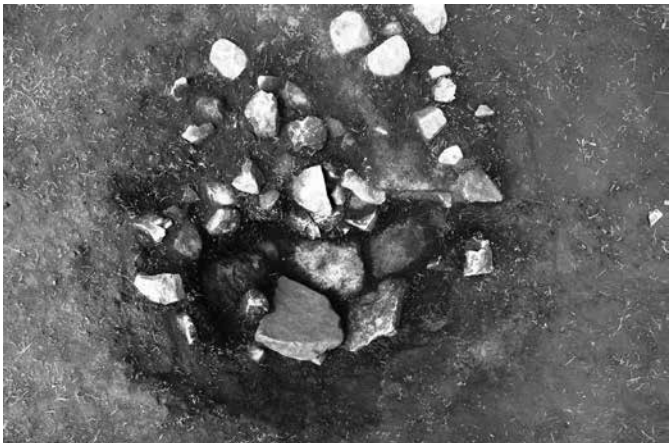
3. SK3・4 礫検出状況

4. SK12 礫検出状況

5. SK12 断ち割り状況

図版 10

1．SK13 炭化物堆積状況



2．SK13 断ち割り状況

3．SD17・18 近景（東から）

4．SD18・19 近景（東から）

5．SD20 ～ 24（北から）

6．SD17・SK25 断面

7．SD17・SK25 断ち割り状況

8．SK25 断ち割り状況

1．SK26 検出状況

2．SK26 断ち割り状況

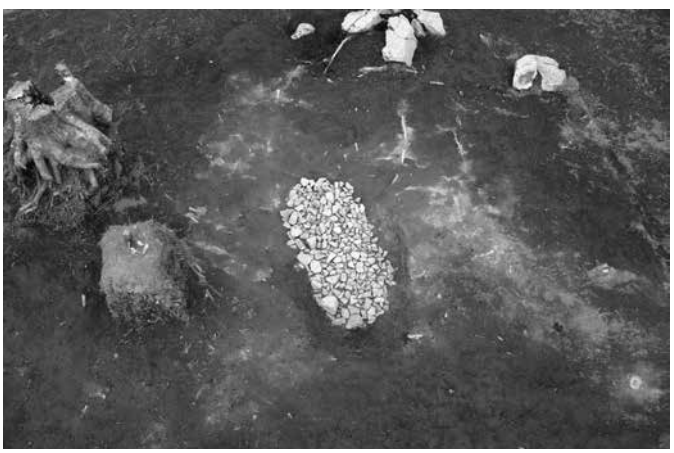
3．SK26 底面礫検出状況

4．SK28 遺物出土状況

5．SK28 遺物出土状況（53）

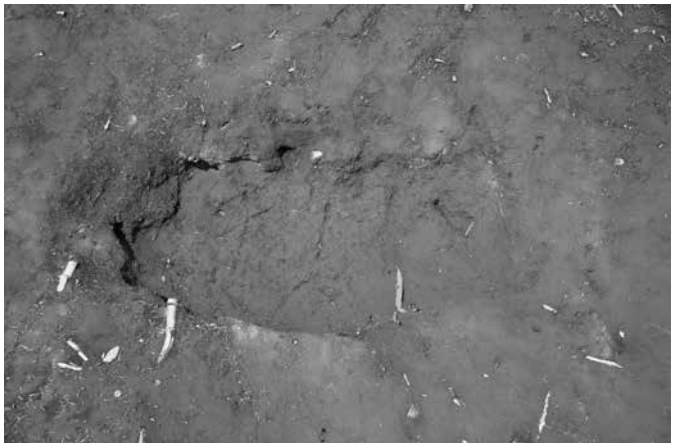
6．SK1・SX5 近景（東から）

7．SK1 経石検出状況



8．SK1 経石検出状況（西から）

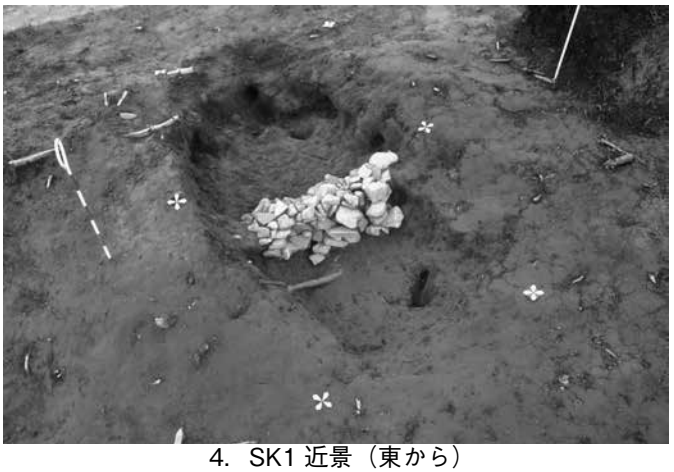
図版 12



1．SK1 完掘状況

2．作業風景（経石検出作業）

3．SK1 経石堆積状況（東から）



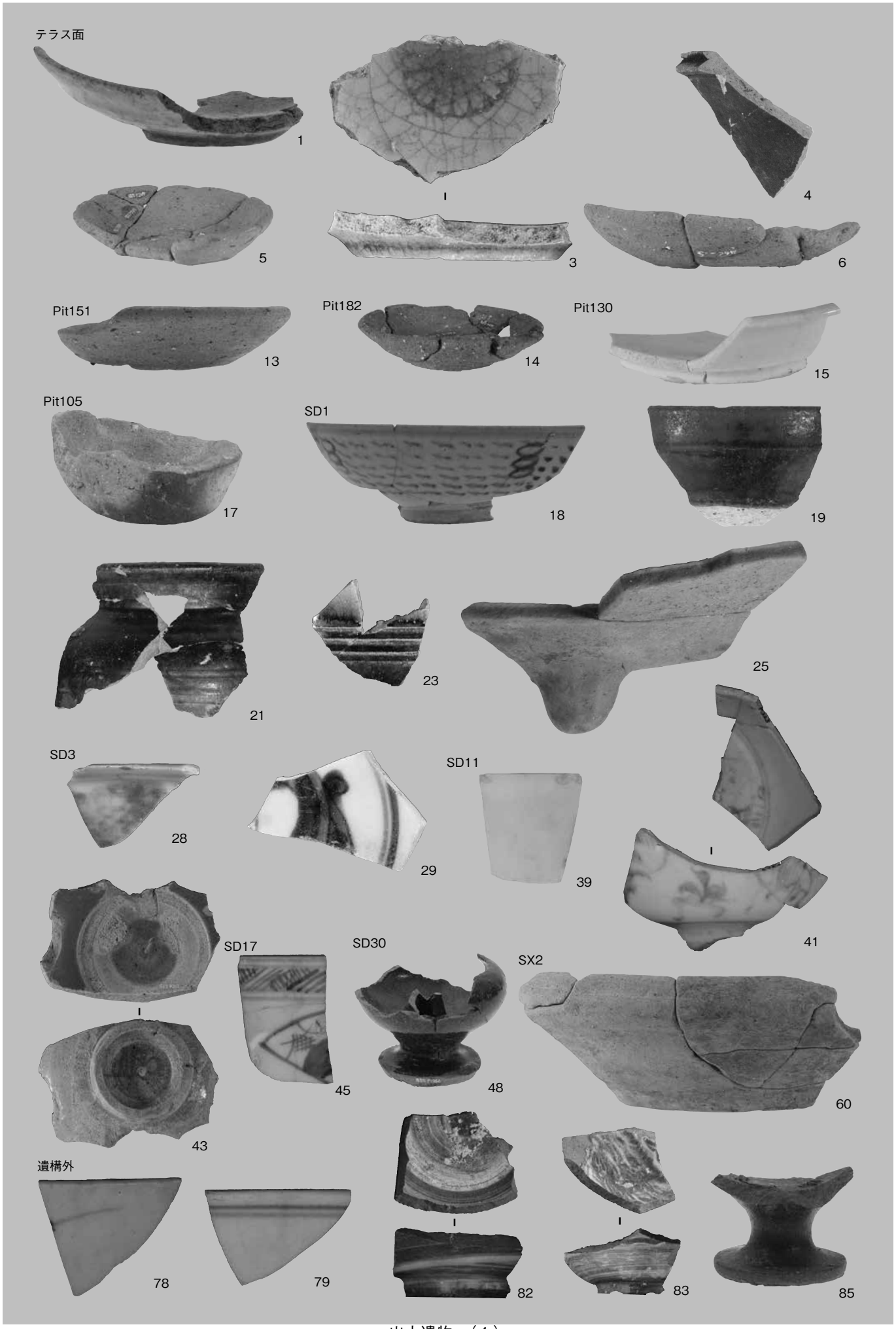
4．SK1 近景（東から）

5．SK1 経石出土状況（中央：16）

6．SK1 経石出土状況（中央：71）

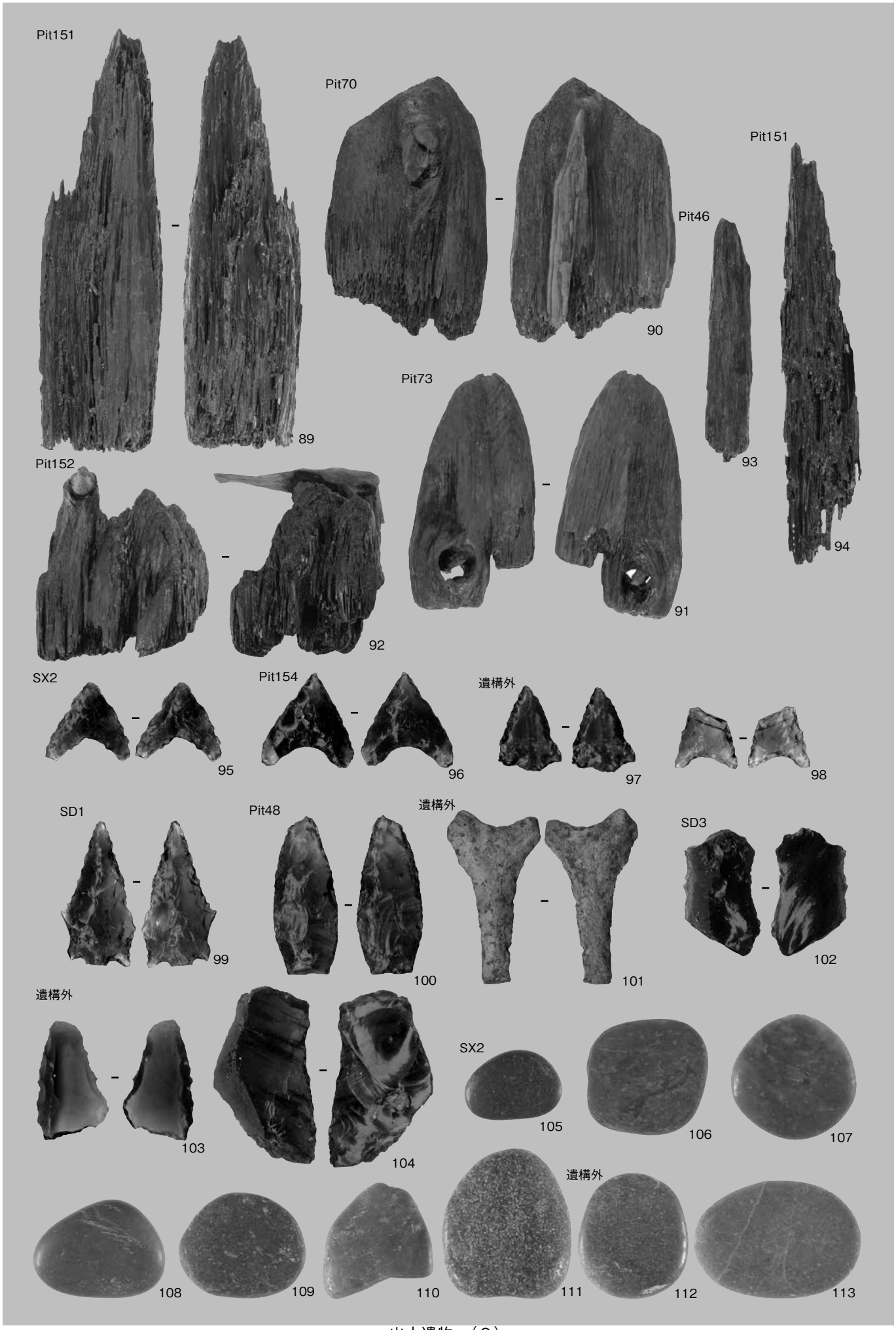
7．SK1 経石出土状況（中央：171）

8．SK1 経石出土状況（中央：21・22）

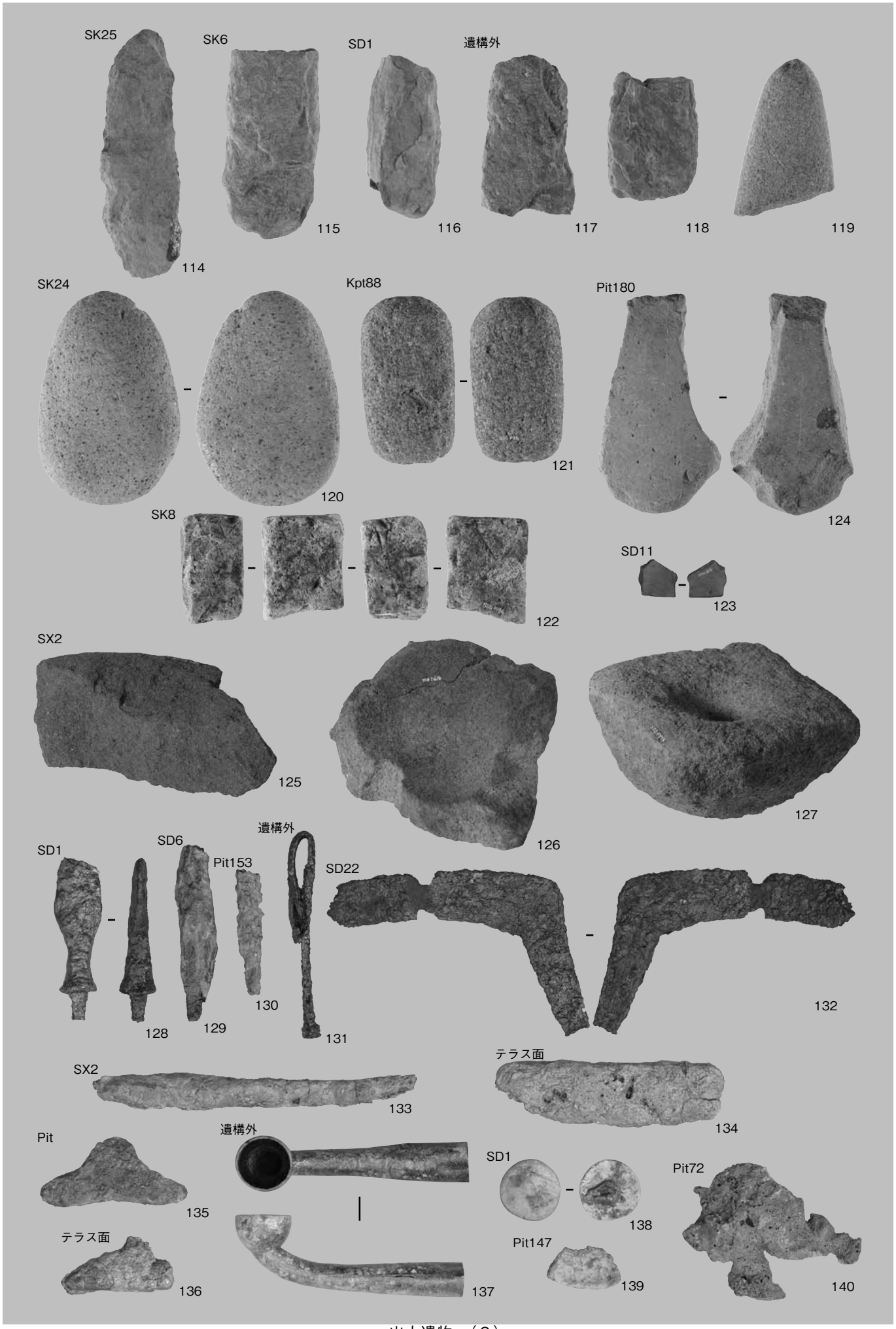

テラス面
1
4
5
3
6
Pit151
13
Pit182
14
Pit130
15
Pit105
17
SD1
18
19
21
23
25
SD3
28
29
SD11
39
41
SD17
45
SD30
48
SX2
60
43
遺構外
78
79
82
83
85

出土遺物 （1）

図版 14

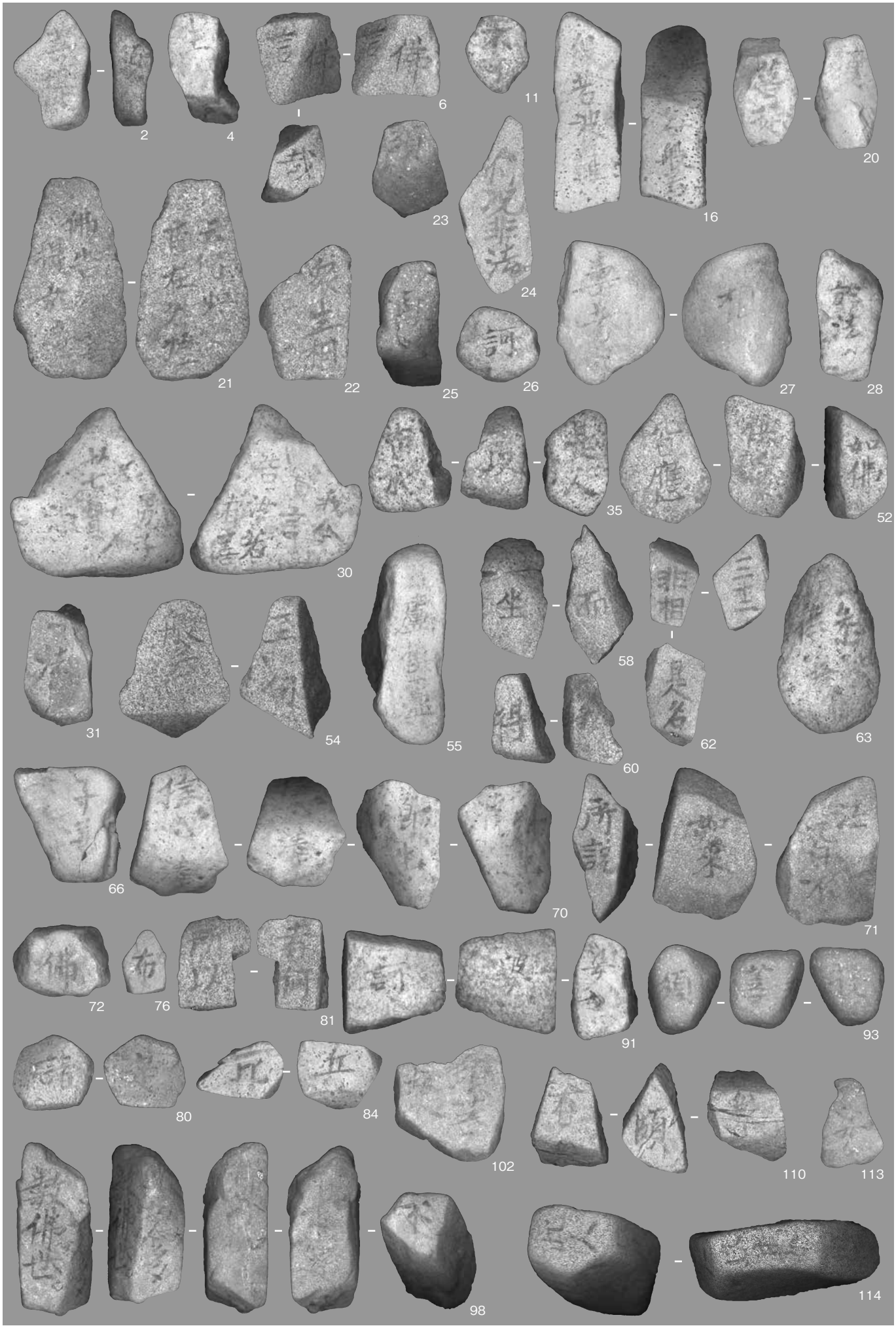

Pit151
89
Pit70
90
Pit46
93
Pit151
94
Pit73
91
Pit152
92
SX2
95
Pit154
96
遺構外
97
98
SD1
99
Pit48
100
遺構外
101
SD3
102
遺構外
103
104
SX2
105
106
107
108
109
110
111
遺構外
112
113

出土遺物 （2）

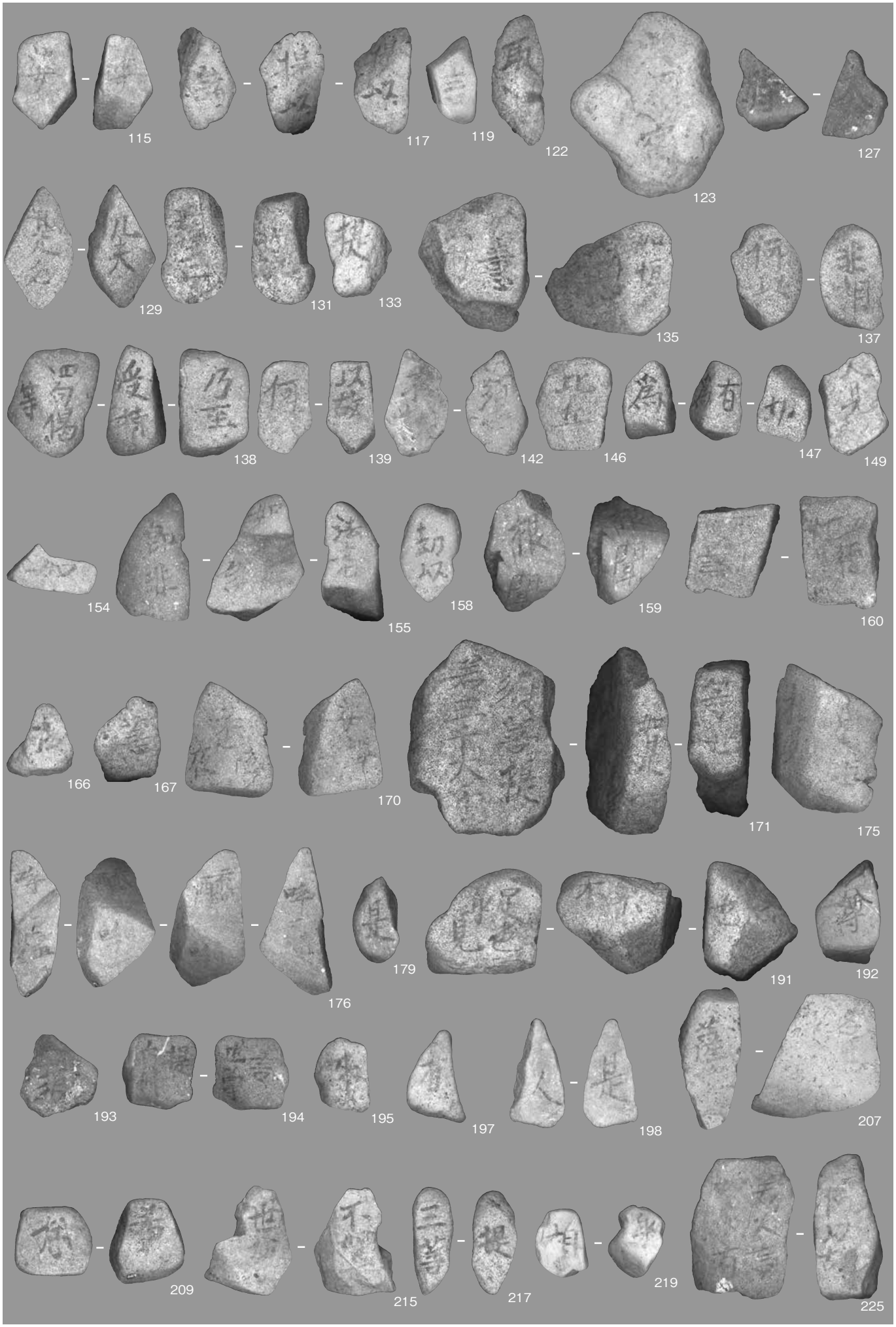

SK25
114
SK6
115
SD1
116
遺構外
117
118
119
SK24
120
Kpt88
121
Pit180
124
SK8
122
SD11
123
SX2
125
126
127
SD1
SD6
Pit153
遺構外
128
129
130
131
SD22
132
SX2
133
テラス面
134
Pit
135
遺構外
137
SD1
138
Pit72
テラス面
136
Pit147
139
140

出土遺物 （3）

図版 16

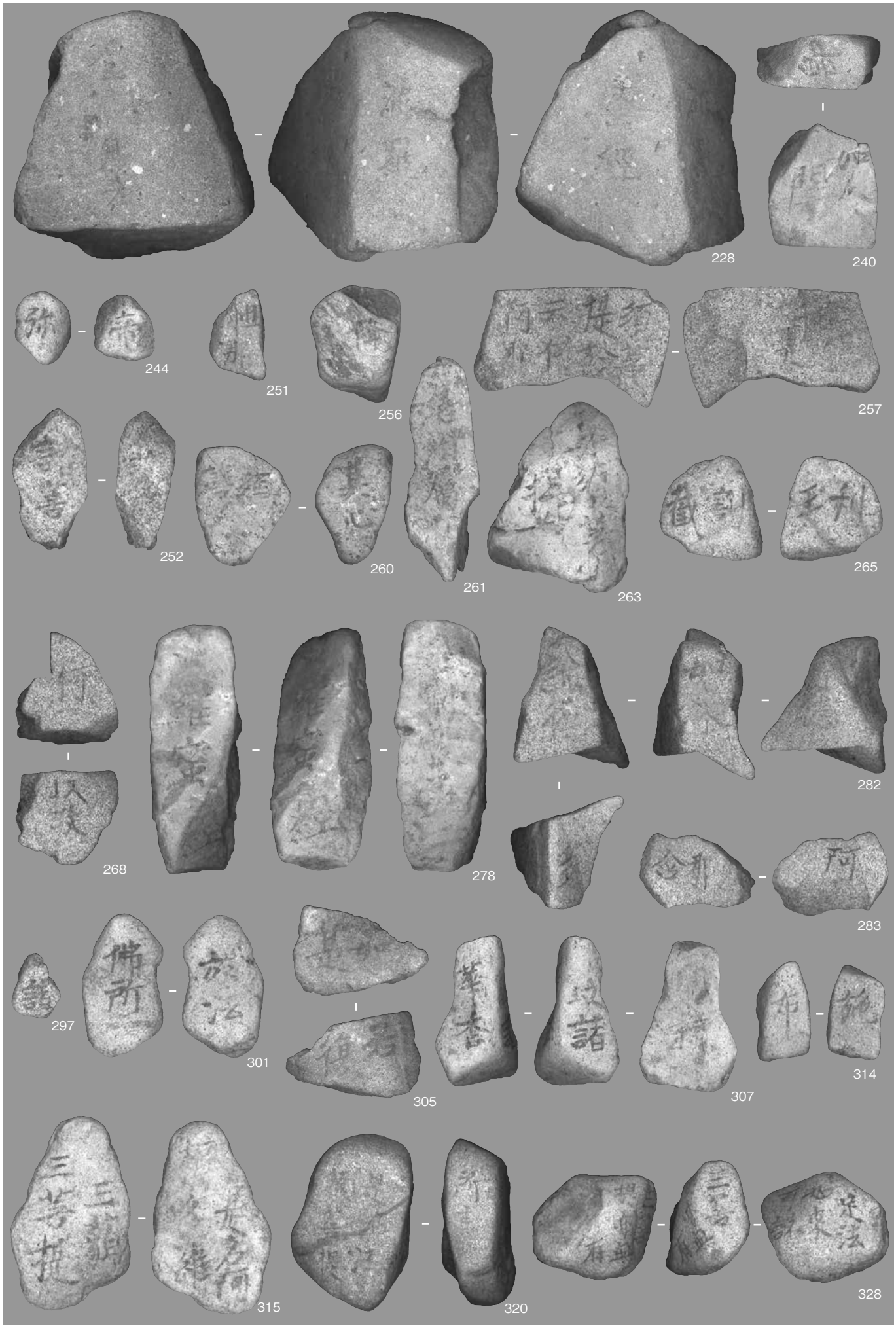


大祥寺遺跡　経石（1）

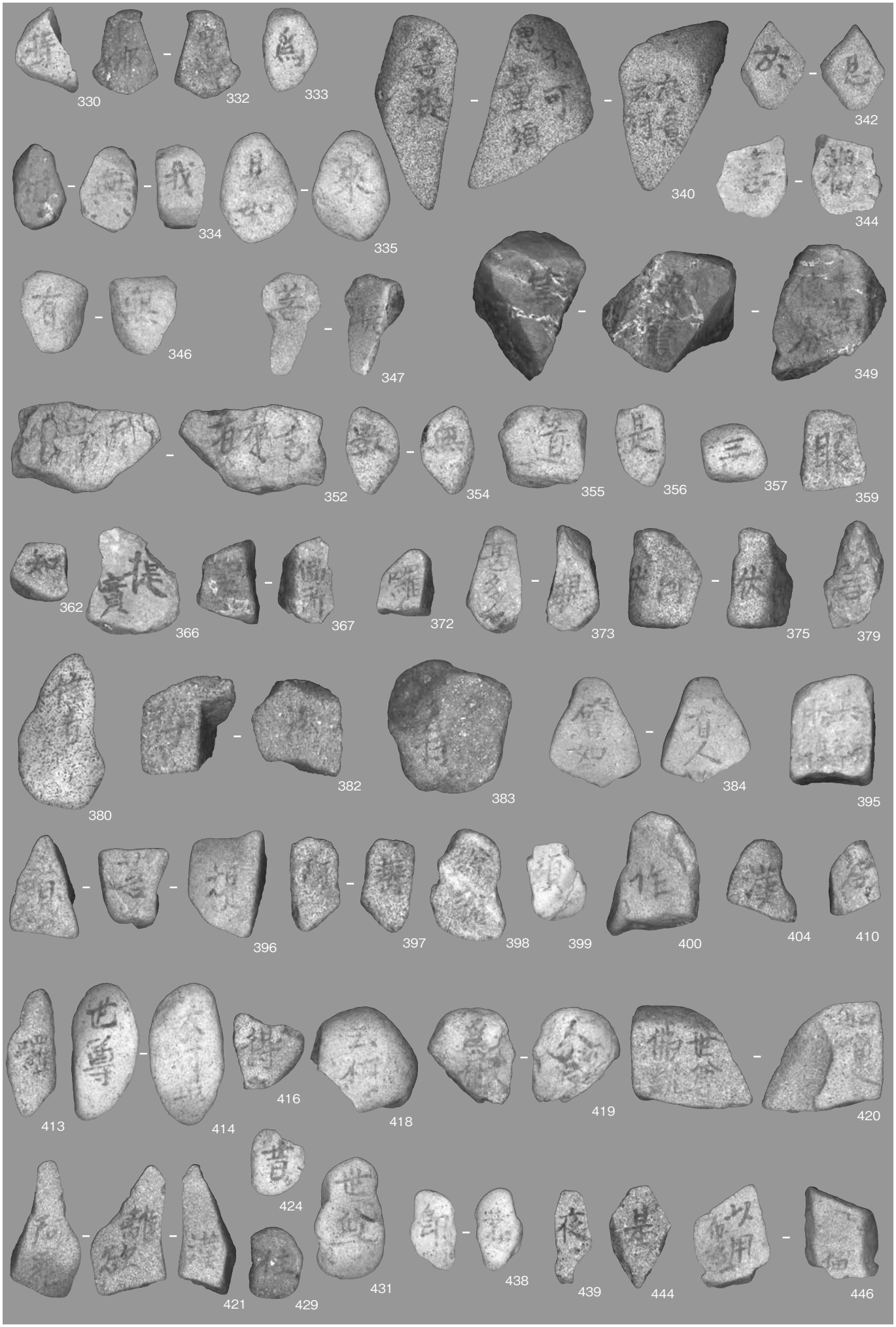

115
117
119
122
123
127
129
131
133
135
137
138
139
142
146
147
149
154
155
158
159
160
166
167
170
171
175
176
179
191
192
193
194
195
197
198
207
209
215
217
219
225

大祥寺遺跡　経石（2）

図版 18

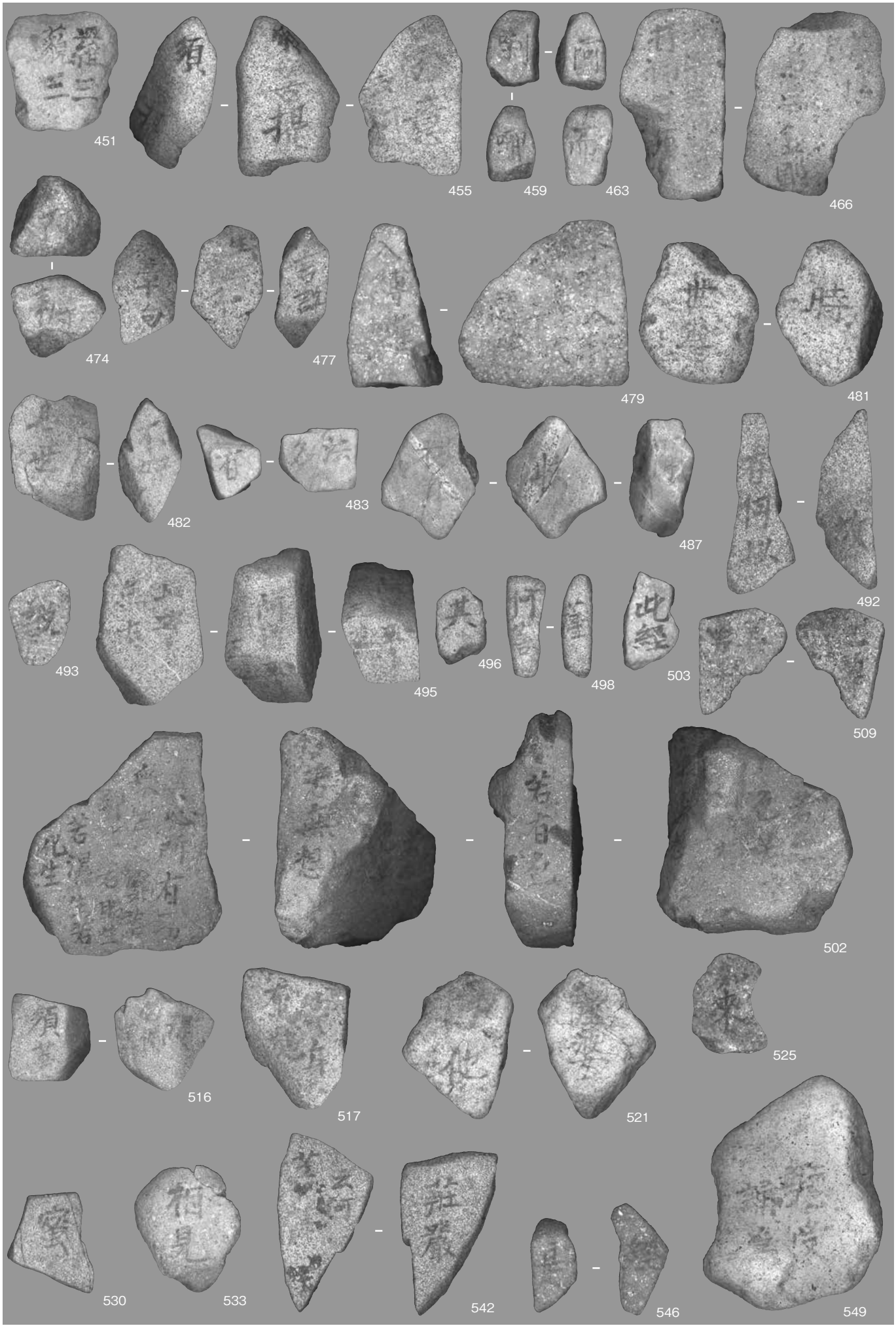


大祥寺遺跡　経石（3）

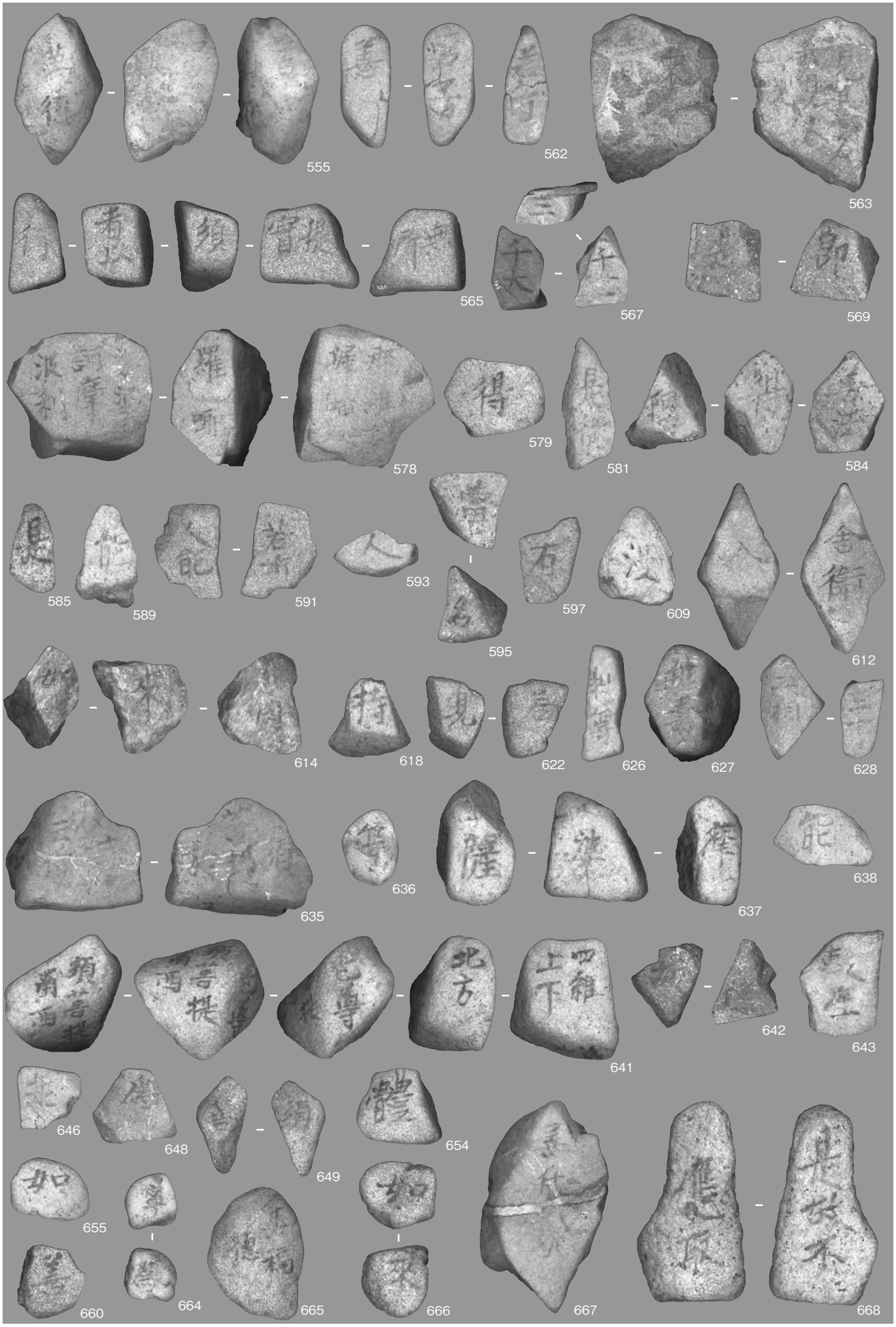

330
332
333
334
335
340
342
344
346
347
349
352
354
355
356
357
359
362
366
367
372
373
375
379
380
382
383
384
395
396
397
398
399
400
404
410
413
414
416
418
419
420
421
424
429
431
438
439
444
446

大祥寺遺跡　経石（4）

図版 20

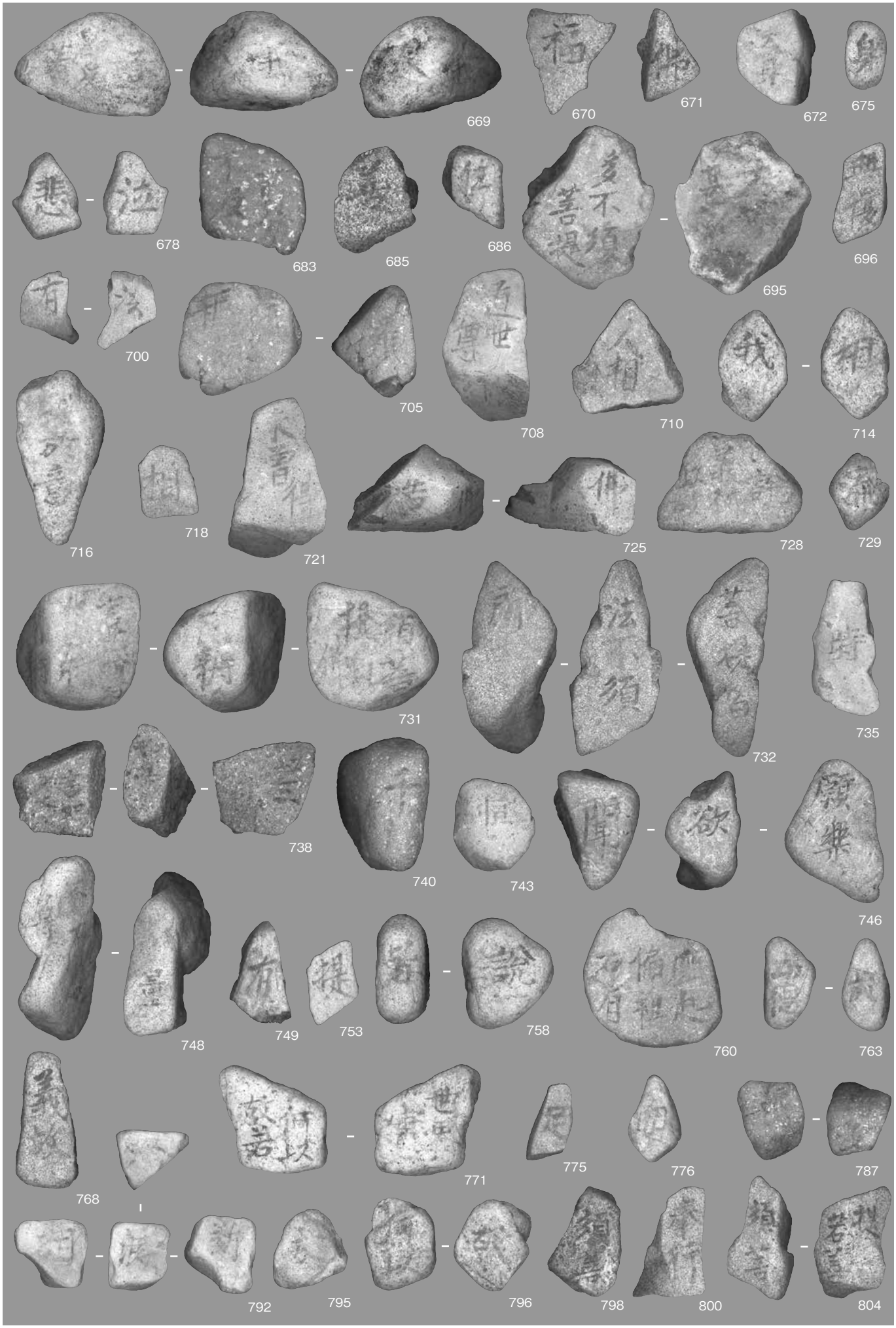


大祥寺遺跡　経石（5）

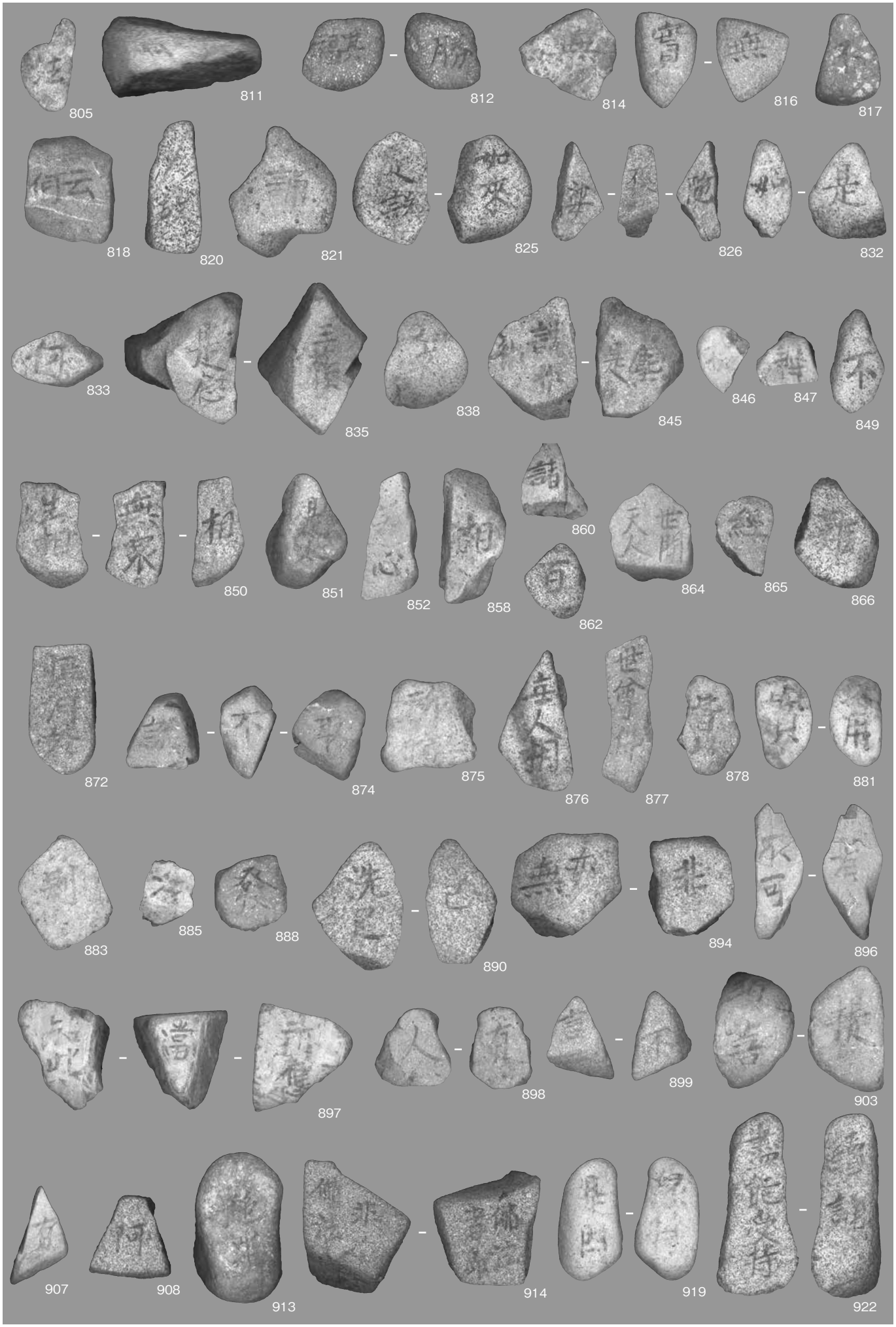

555
562
563
565
567
569
578
579
581
584
585
589
591
593
595
597
609
612
614
618
622
626
627
628
635
636
637
638
641
642
643
646
648
649
654
655
660
664
665
666
667
668

大祥寺遺跡　経石（6）

図版 22

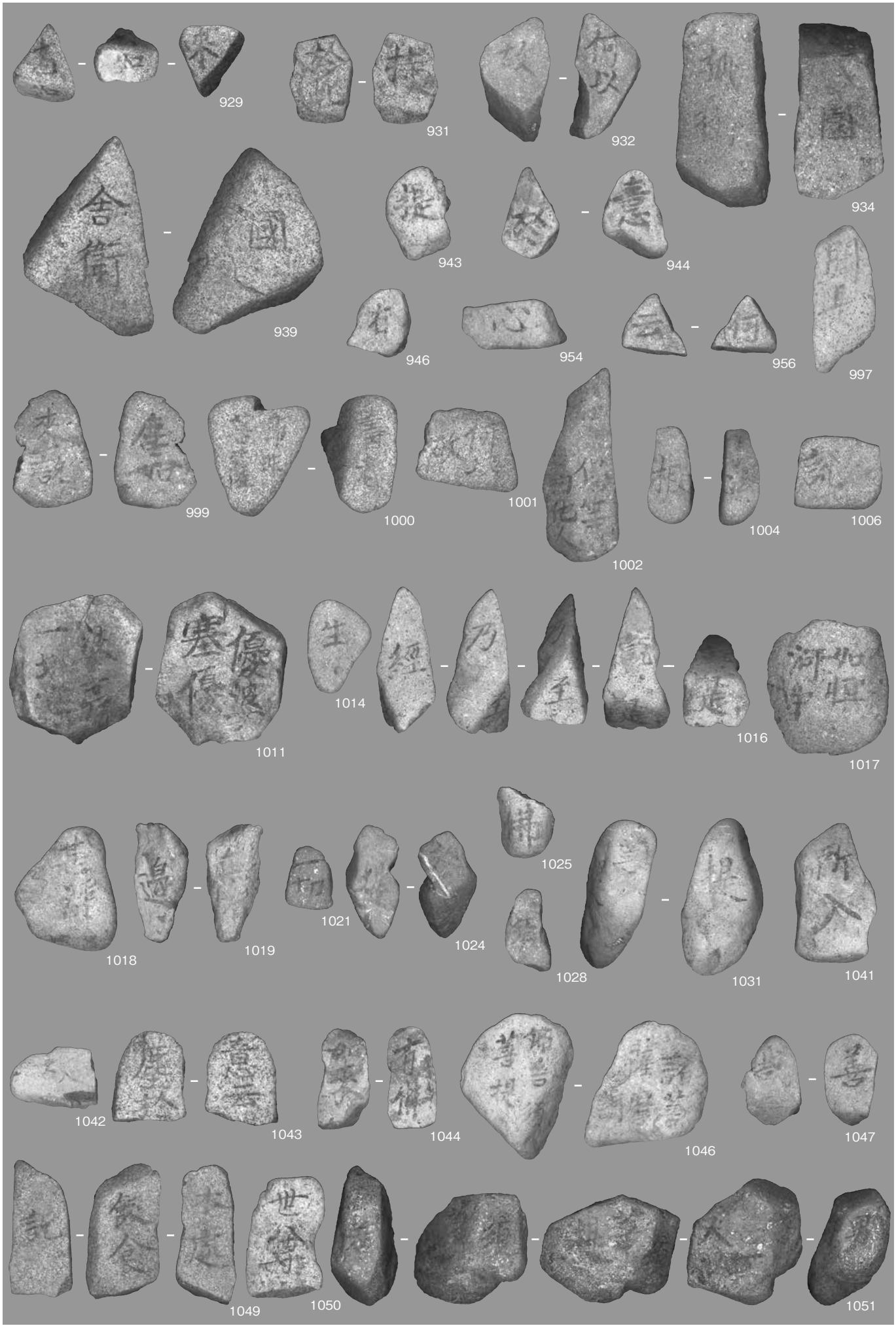


大祥寺遺跡　経石（7）

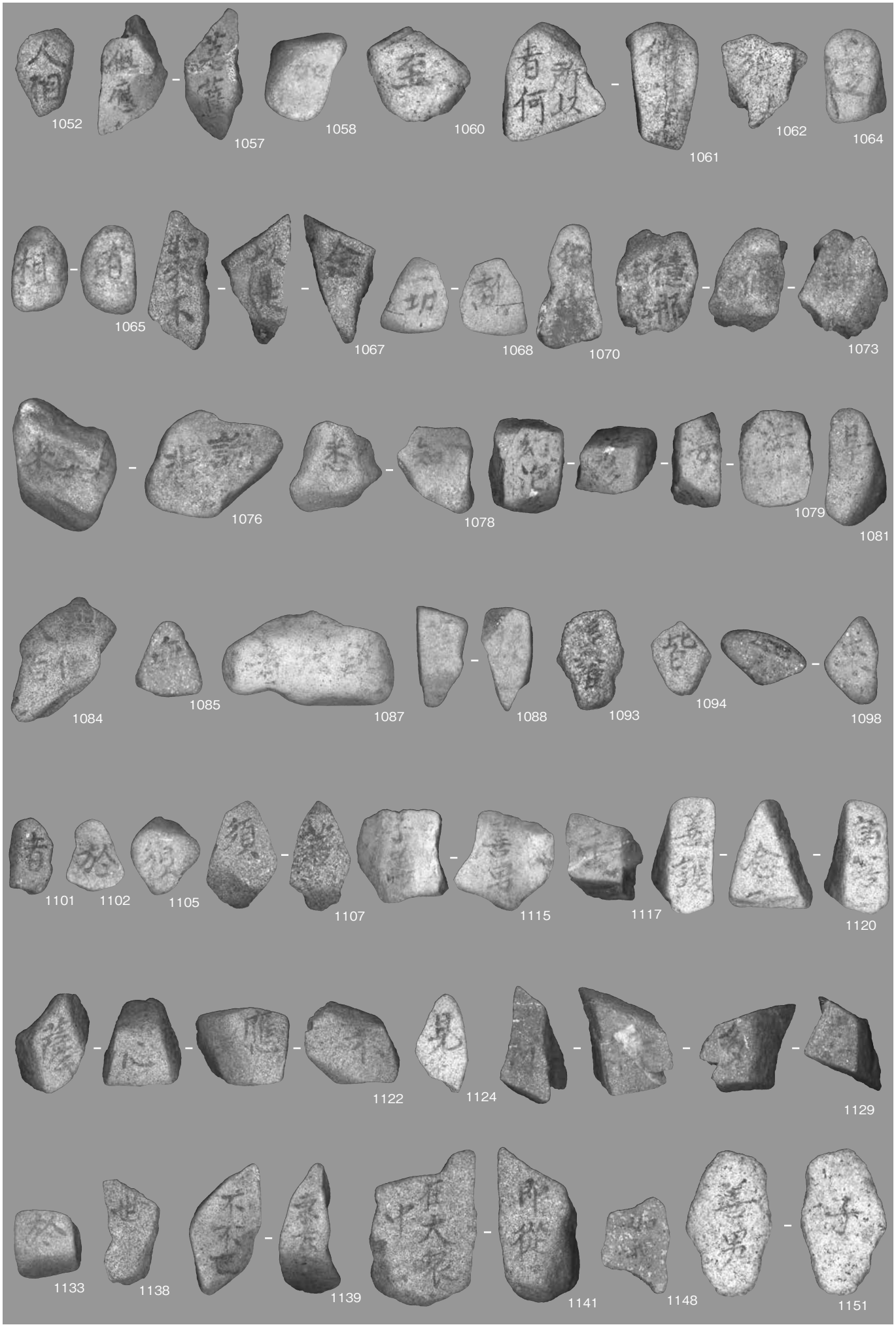

805
811
812
814
816
817
818
820
821
825
826
832
833
835
838
845
846
847
849
850
851
852
858
860
862
864
865
866
872
874
875
876
877
878
881
883
885
888
890
894
896
897
898
899
903
907
908
913
914
919
922

大祥寺遺跡　経石（8）

図版 24

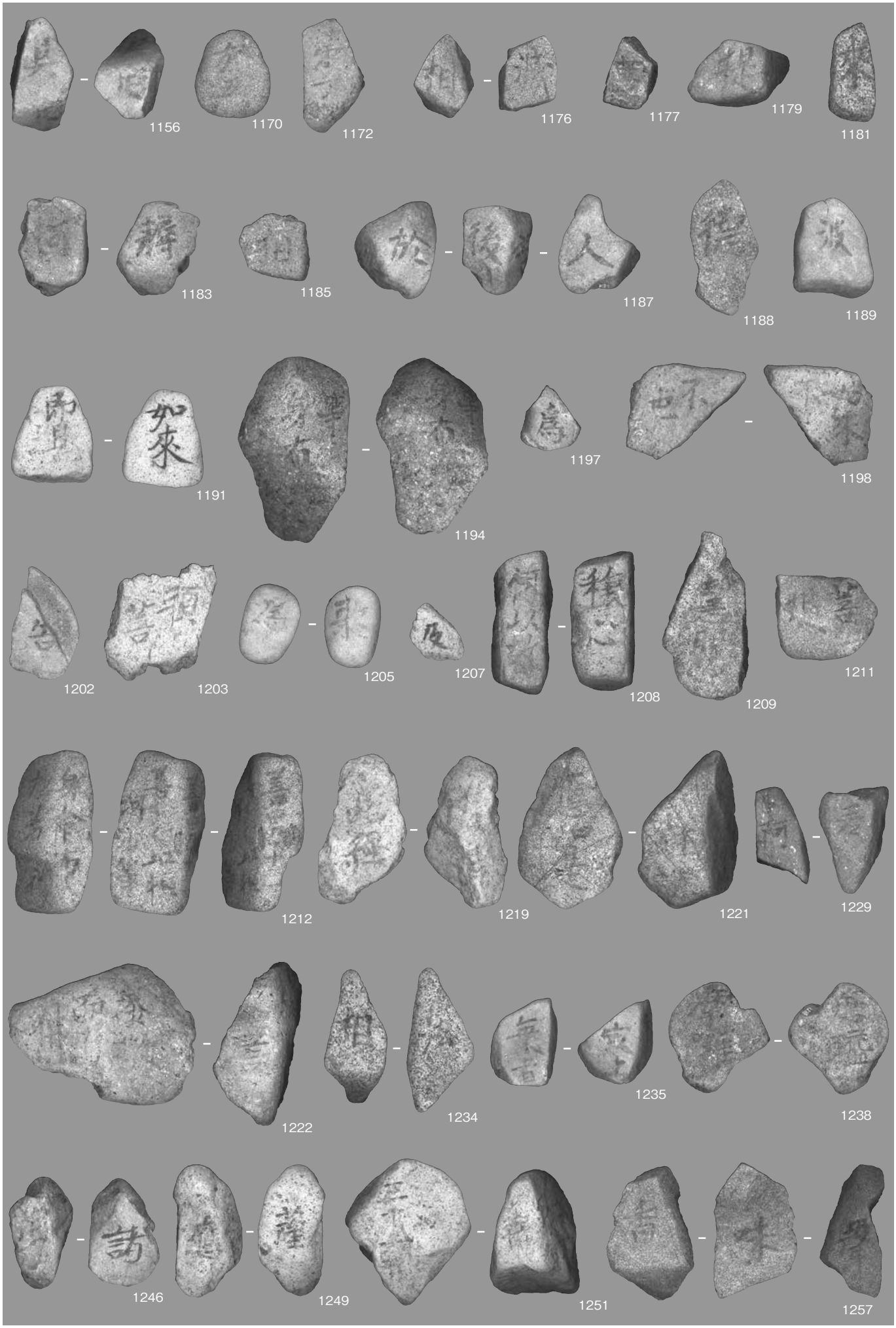


大祥寺遺跡　経石（9）

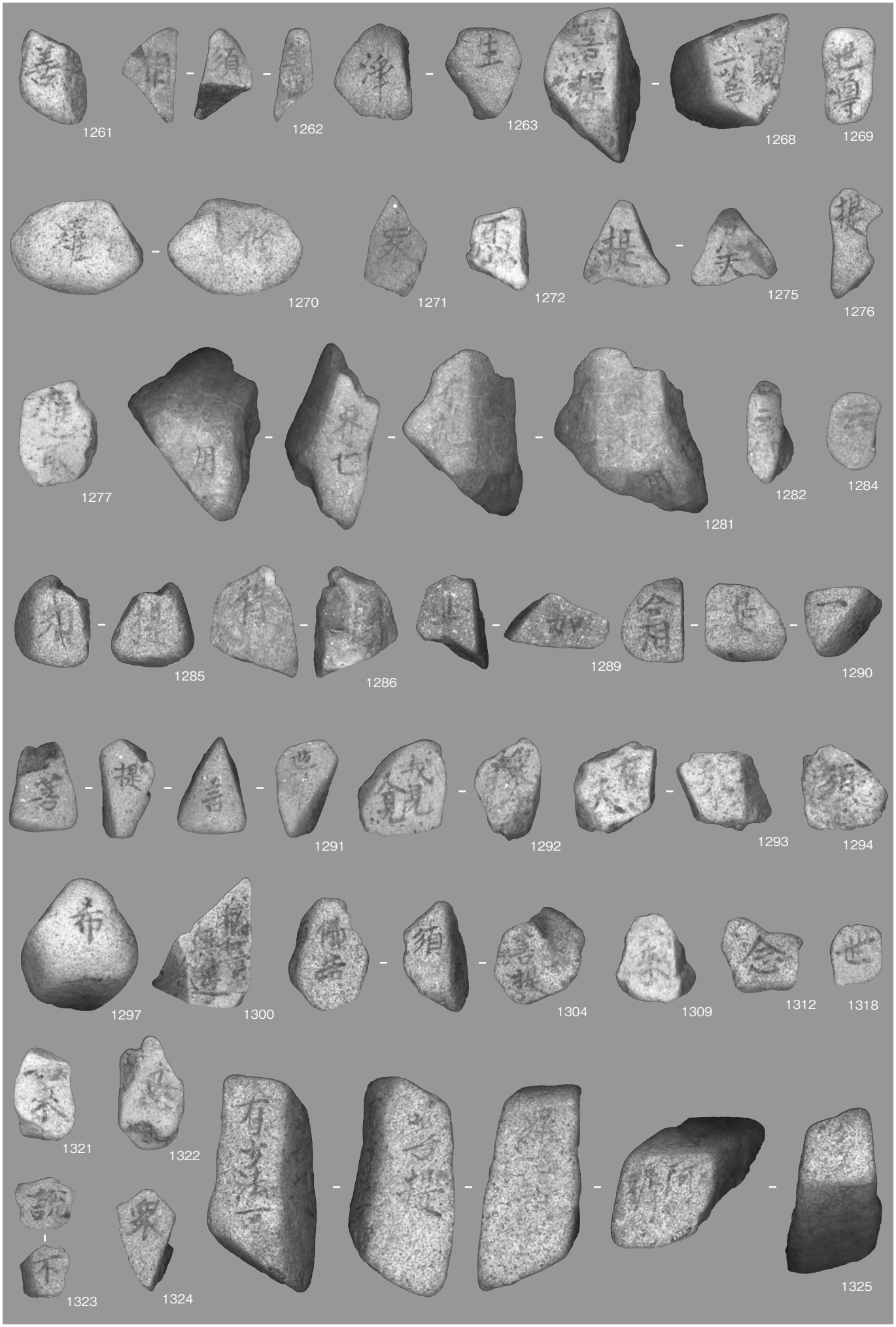

1052
1057
1058
1060
1061
1062
1064
1065
1067
1068
1070
1073
1076
1078
1079
1081
1084
1085
1087
1088
1093
1094
1098
1101
1102
1105
1107
1115
1117
1120
1122
1124
1129
1133
1138
1139
1141
1148
1151

大祥寺遺跡　経石（10）

図版 26



大祥寺遺跡　経石（11）


1261
1262
1263
1268
1269
1270
1271
1272
1275
1276
1277
1281
1282
1284
1285
1286
1289
1290
1291
1292
1293
1294
1297
1300
1304
1309
1312
1318
1321
1322
1323
1324
1325

大祥寺遺跡　経石（12）

図版 28

1．前付遺跡調査前

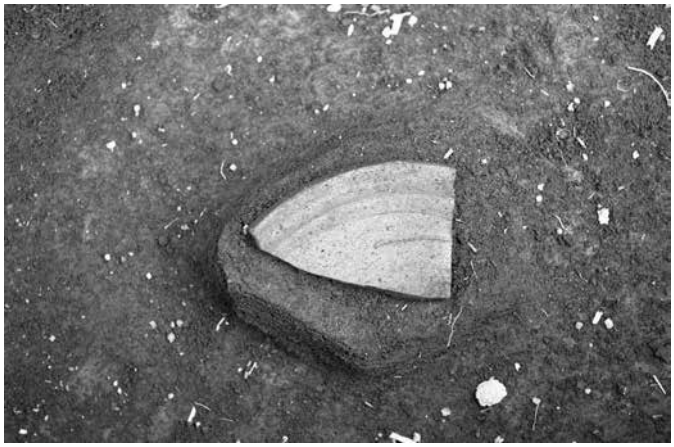
2．遺構確認作業（1）

3．遺構確認作業（2）

4．SI1 完掘

5．SI1 遺物出土状況（1）

6．SI1 遺物出土状況（2）



7．SI1 遺物出土状況（3）

8．SI1 遺物出土状況（4）

1．SI1 ステップ状高まり

2．SI1 竈

3．SI1 竈完掘

4．SI1 竈構築粘土

5．SI1 竈遺物出土状況

6．SI2 完掘

7．SI2 遺物出土状況（1）

8．SI2 遺物出土状況（2）

図版 30

1．SI2 遺物出土状況（3）

2．SI2 竈完掘

3．SI3 完掘

4．SI3 遺物出土状況（1）

5．SI3 遺物出土状況（2）

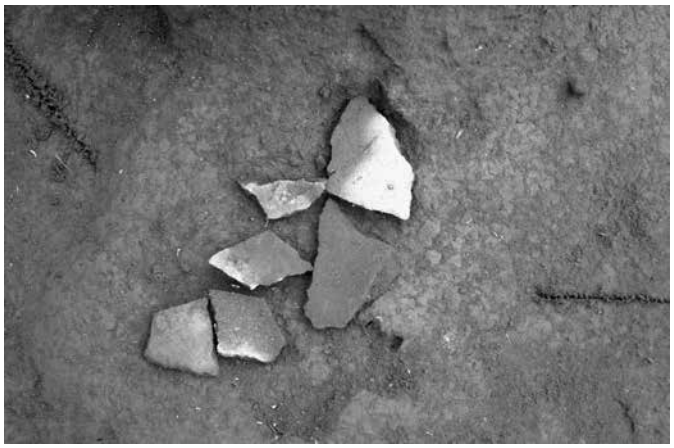
6．SI3 遺物出土状況（3）

7．SI4 完掘

8．SI4 遺物出土状況（1）

1．SI4 遺物出土状況（2）

2．SI4 遺物出土状況（3）



3．SI4 遺物出土状況（4）

4．SI4 竈完掘

5．SI4 竈遺物出土状況

6．SI5 完掘

7．SI5 遺物出土状況（1）

8．SI5 遺物出土状況（2）

図版 32

1．SI5 遺物出土状況（3）

2．SI5 遺物出土状況（4）

3．SI5 竈完掘

4．SI5 竈遺物出土状況（1）

5．SI5 竈遺物出土状況（2）

6．SI6 完掘

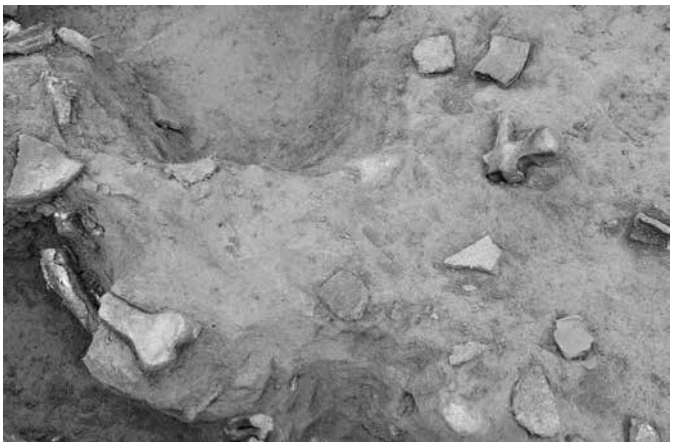
7．SI6 遺物出土状況（1）

8．SI6 遺物出土状況（2）

1．SI6 遺物出土状況（3）

2．SI6 遺物出土状況（4）

3．SI6 遺物出土状況（5）



4．SI6 土偶出土状況

5．SI6 炉内遺物出土状況

6．SI6 炉石出土状況

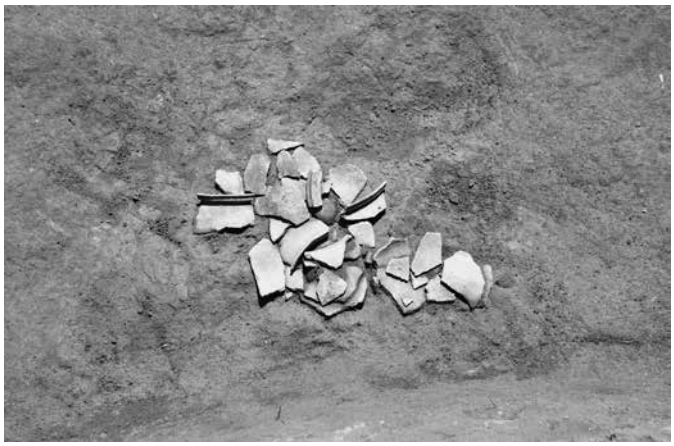
7．SI7 完掘

8．SI7 遺物出土状況（1）

図版 34

1．SI7 遺物出土状況（2）

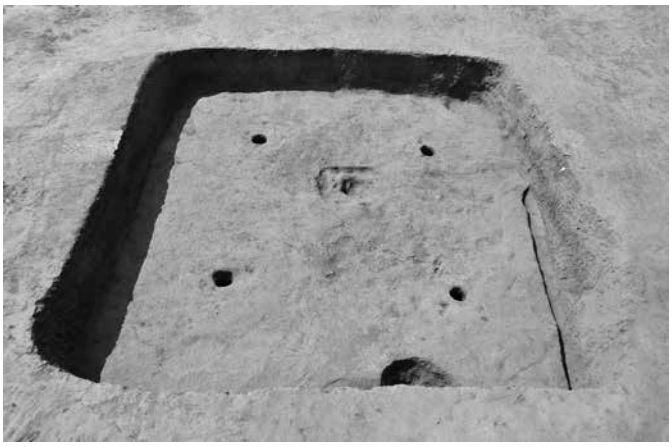
2．SI7 遺物出土状況（3）



3．SI7 遺物出土状況（4）

4．SI7 遺物出土状況（5）

5．SI7 炭化物出土状況



6．SI8 完掘

7．SI8 遺物出土状況（1）

8．SI8 遺物出土状況（2）

1．SI8 遺物出土状況３

2．SI8 炭化物出土状況

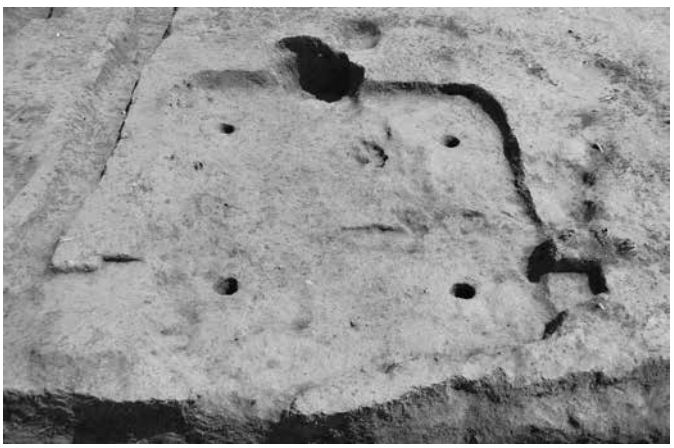
3．SI8 内 SK 2

4．SI9 完掘

5．SI9 遺物出土状況（１）

6．SI9 遺物出土状況（２）

7．SI9 遺物出土状況（３）



8．SI10 完掘

図版 36

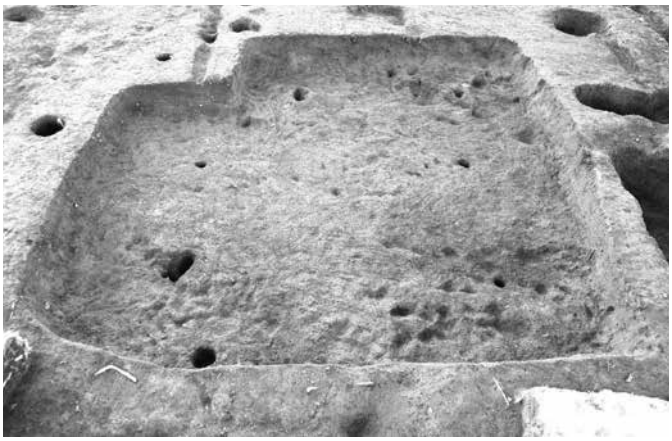
1．SI10 遺物出土状況（1）

2．SI10 遺物出土状況（2）

3．SI10 遺物出土状況（3）

4．SI10 遺物出土状況（4）

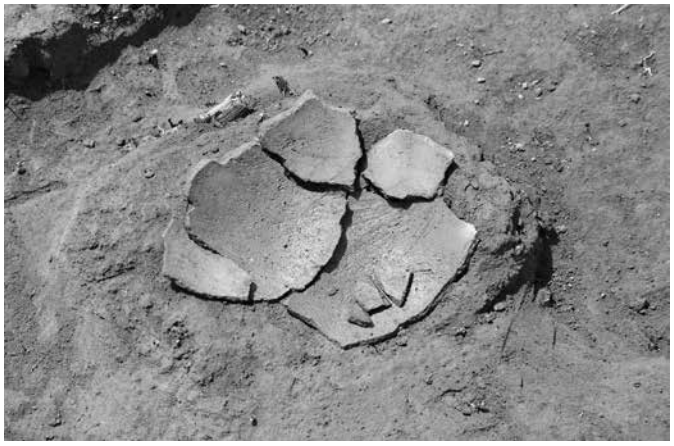
5．SI10 炭化ご飯塊



6．SI11・21 完掘

7．SI21 完掘

8．SI11 遺物出土状況（1）



1．SI11 遺物出土状況（2）

2．SI11 遺物出土状況（3）

3．SI11 遺物出土状況（4）

4．SI11・21 遺物出土状況

5．SI21 遺物出土状況

6．SI12 完掘

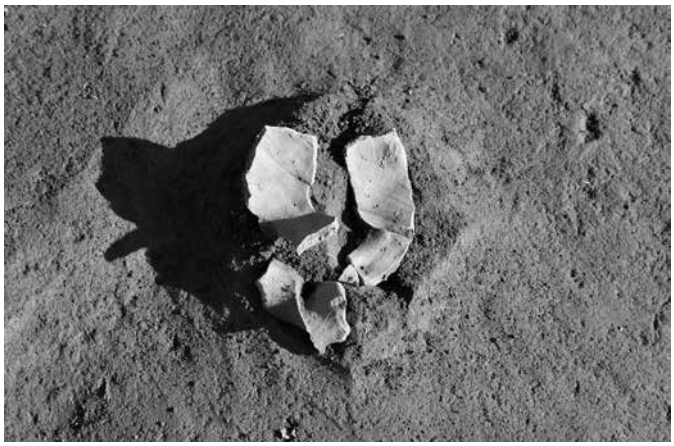
7．SI12 遺物出土状況

8．SI13 完掘

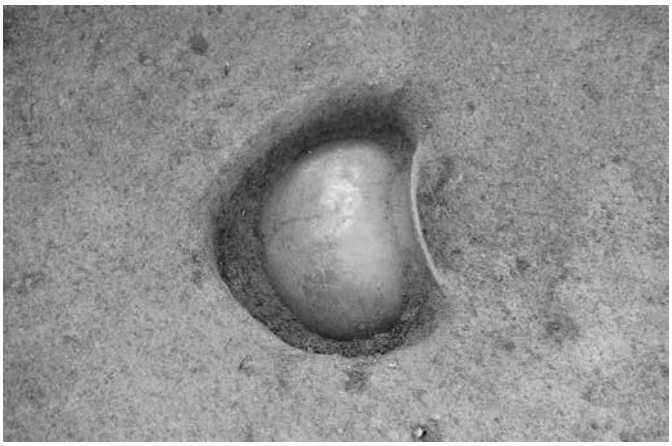
図版 38

1．SI13 遺物出土状況（1）

2．SI13 遺物出土状況（2）



3．SI13 遺物出土状況（3）



4．SI13 遺物出土状況（4）

5．SI13 遺物出土状況（5）

6．SI13 貯蔵穴遺物出土状況

7．SI14 完掘

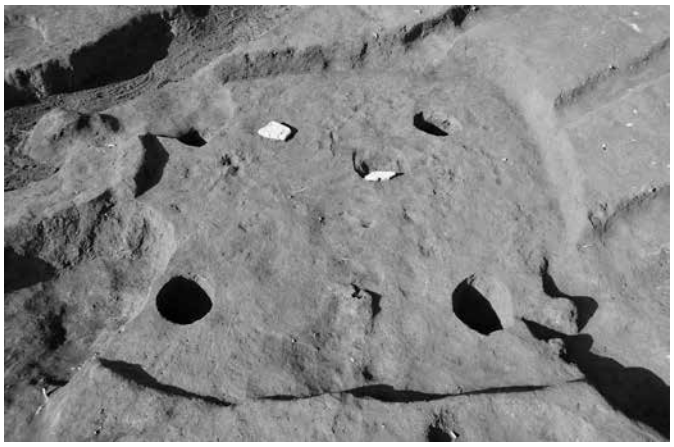
8．SI14 遺物出土状況（1）

1．SI14 遺物出土状況（2）

2．SI14 遺物出土状況（3）

3．SI14 遺物出土状況（4）

4．SI14 炉



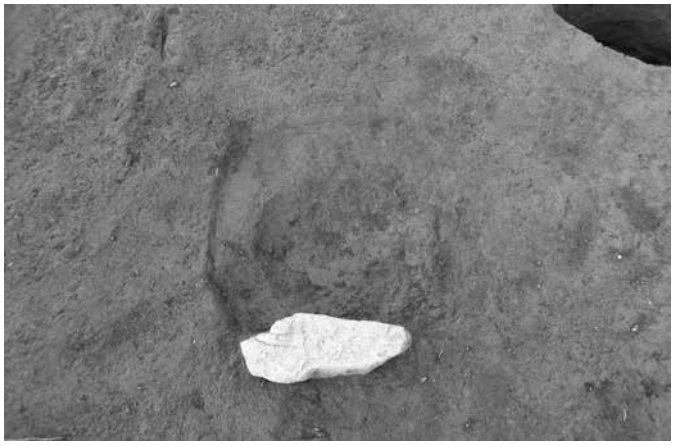
5．SI15 完掘

6．SI15 遺物出土状況（1）

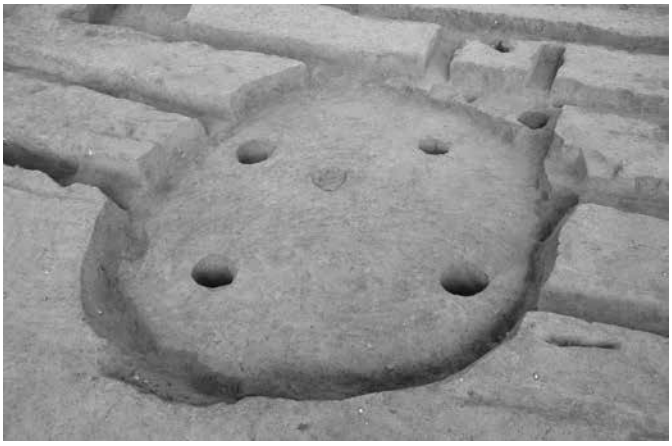
7．SI15 遺物出土状況（2）

8．SI15 遺物出土状況（3）

図版 40



1．SI15 炉



2．SI16 完掘

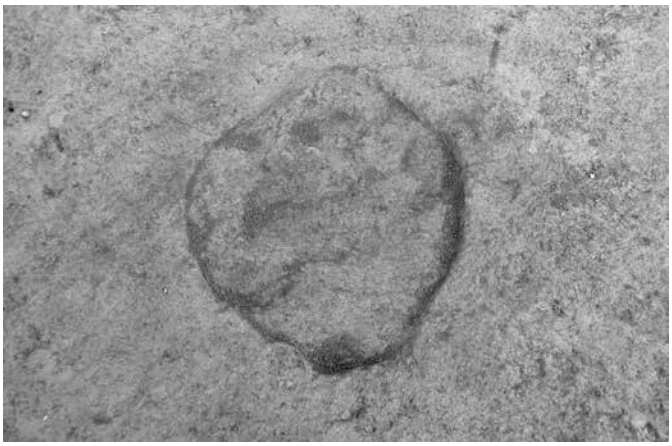
3．SI16 遺物出土状況（1）

4．SI16 遺物出土状況（2）

5．SI16 遺物出土状況（3）

6．SI16 遺物出土状況（4）

7．SI16 遺物出土状況（5）



8．SI16 炉

1．SI17 完掘

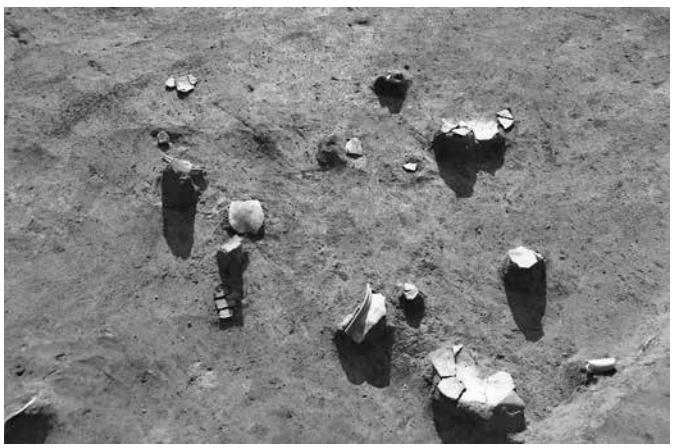
2．SI17 遺物出土状況（1）

3．SI17 遺物出土状況（2）

4．SI18 完掘

5．SI18 遺物出土状況（1）

6．SI18 遺物出土状況（2）

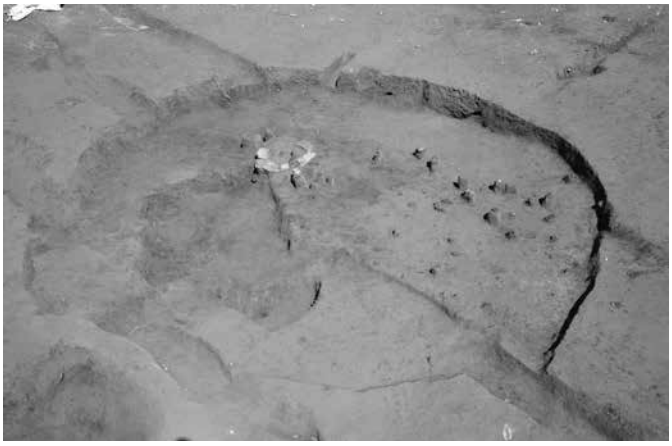


7．SI18 遺物出土状況（3）

8．SI18 遺物出土状況（4）

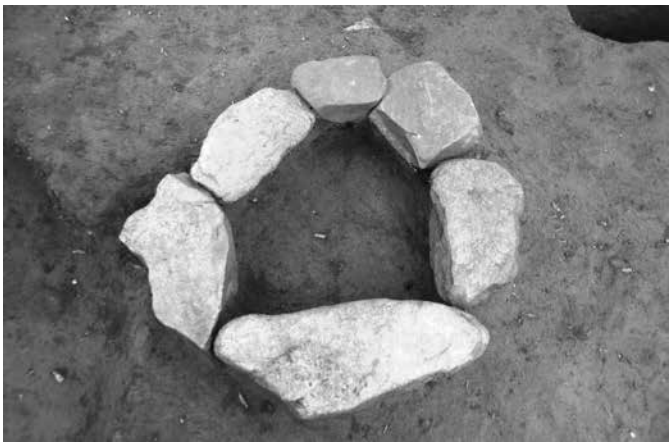
図版 42

1．SI19 完掘



2．SI19 遺物出土状況（1）

3．SI19 遺物出土状況（2）



4．SI19 炉

5．SI20・22 完掘

6．SI20 遺物出土状況

7．SI20・22 遺物出土状況（1）

8．SI20・22 遺物出土状況（2）

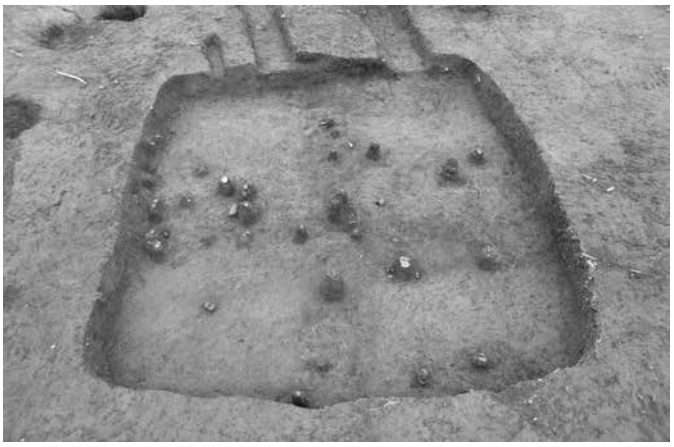
1．SI20・22 遺物出土状況（3）

2．SI20・22 遺物出土状況（4）

3．SI23 完掘

4．SI23 遺物出土状況

5．SI24 完掘



6．SI24 遺物出土状況（1）

7．SI24 遺物出土状況（2）

8．SI25 完掘

図版 44

1．SI25 遺物出土状況（1）

2．SI25 遺物出土状況（2）

3．SI25 遺物出土状況（3）

4．SI25 遺物出土状況（4）

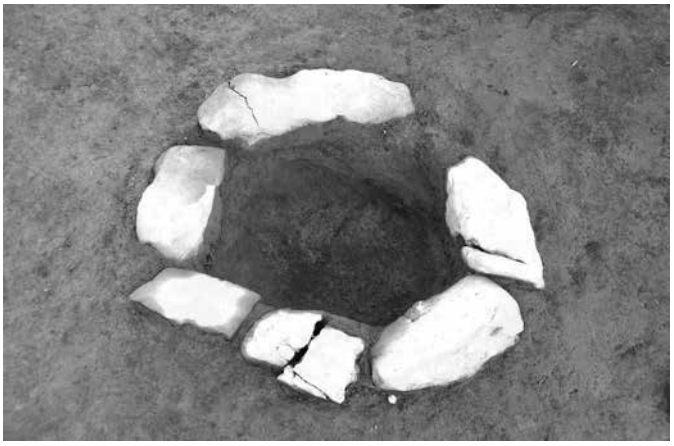
5．SI25 遺物出土状況（5）

6．SI26 完掘

7．SI26 遺物出土状況（1）

8．SI26 遺物出土状況（2）

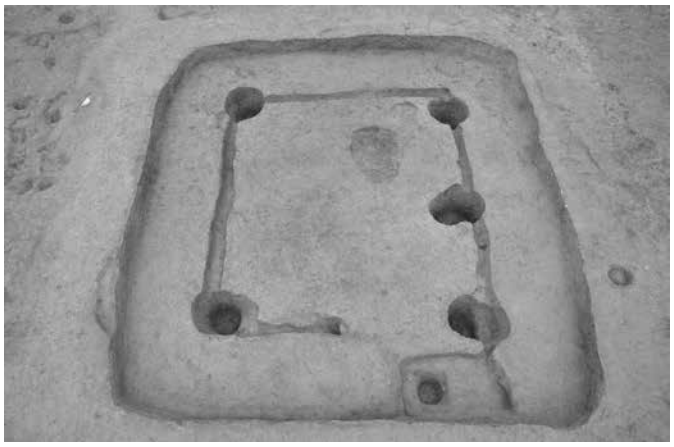
1．SI26 埋甕



2．SI26 炉

3．SI27 完掘

4．SI27 遺物出土状況



5．SI28 完掘

6．SI28 遺物出土状況（1）

7．SI28 遺物出土状況（2）

8．SI28 遺物出土状況（3）

図版 46

1．SI28 貯蔵穴

2．SI28 貯蔵穴遺物出土状況

3．SI29 完掘

4．SI29 遺物出土状況（1）

5．SI29 遺物出土状況（2）

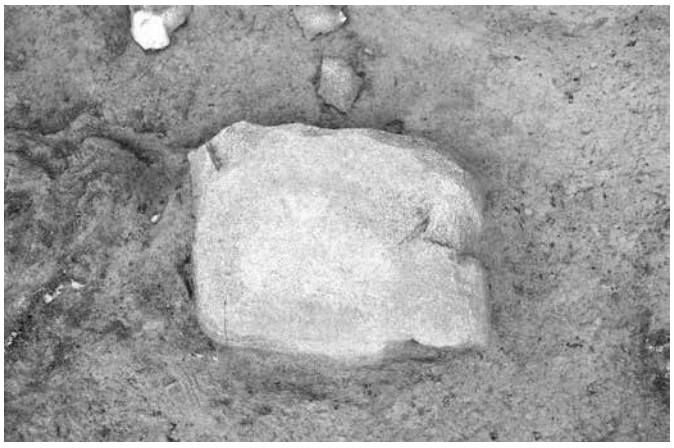
6．SI29 遺物出土状況（3）

7．SI29 遺物出土状況（4）

8．SI29 砂貯蔵土器

1．SI29 砂貯蔵土器半裁

2．SI29 深鉢



3．SI29 台石

4．SI29 焼成粘土塊

5．SI29 埋甕

6．SI29 炭化材

7．SI29 炉

8．SI30 完掘

図版 48

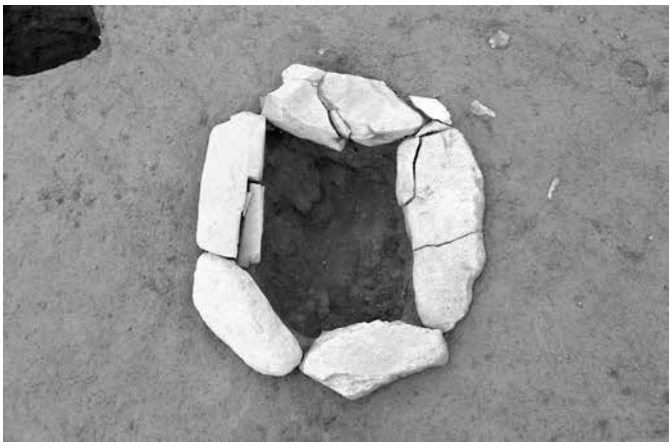
1．SI30 遺物出土状況

2．SI31 完掘

3．SI31 遺物出土状況（1）

4．SI31 遺物出土状況（2）

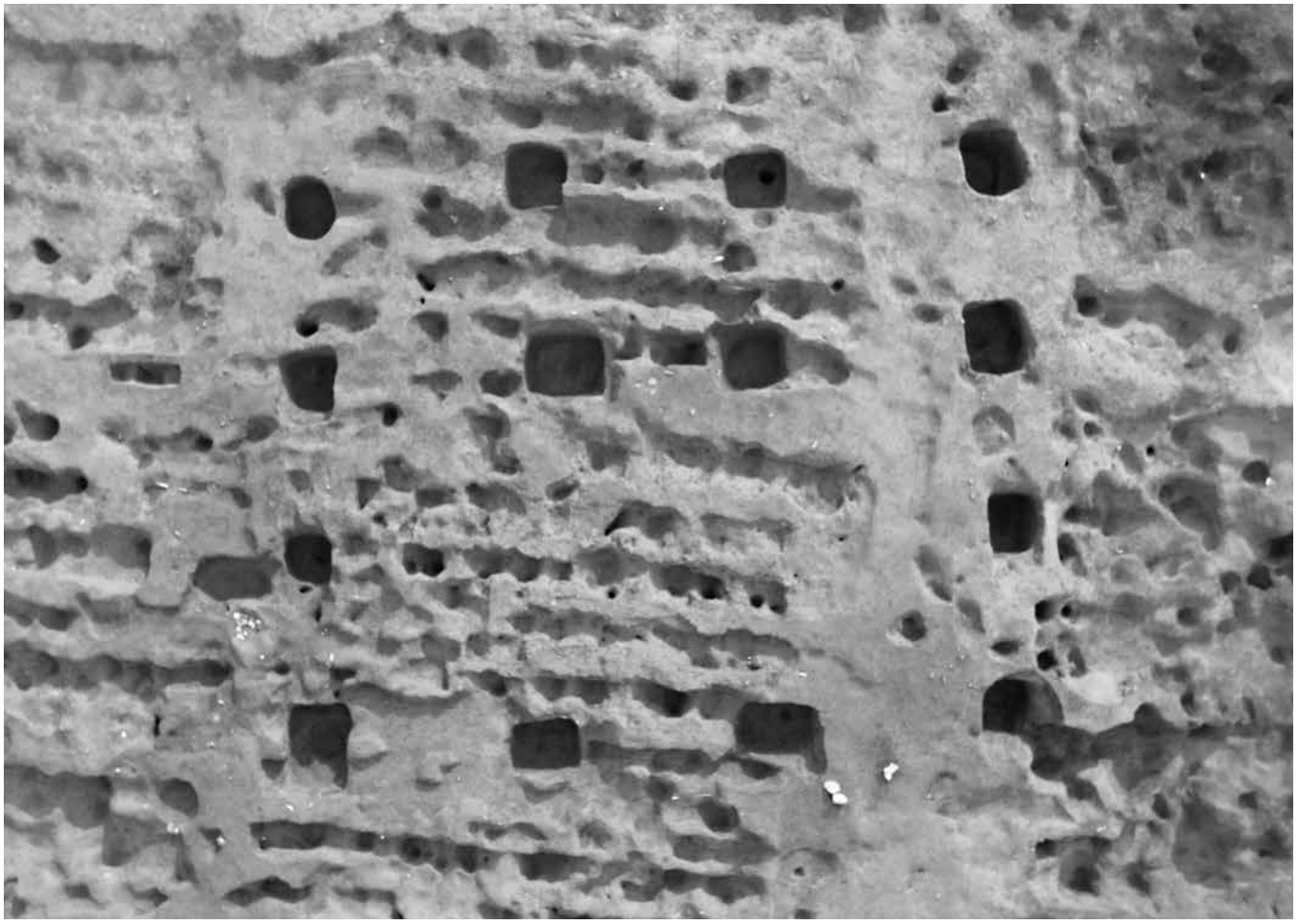
5．SI31 埋甕



6．SI31 炉

7．SI32 完掘

8．SI32 遺物出土状況



1．SB1 完掘

2．SB1 地業範囲

3．SB1 地業部分セクション W-E

4．SB1 地業部分セクション N-S

5．SB1 地業部分掘り方

図版 50

1．SB1 pit1

2．SB1 pit2

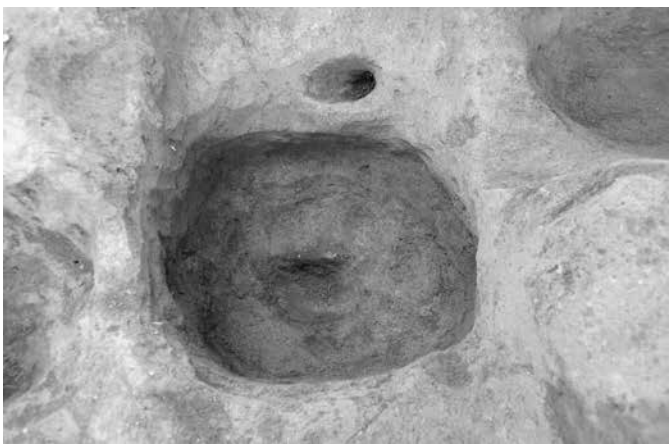
3．SB1 pit3

4．SB1 pit4

5．SB1 pit5

6．SB1 pit6

7．SB1 pit7

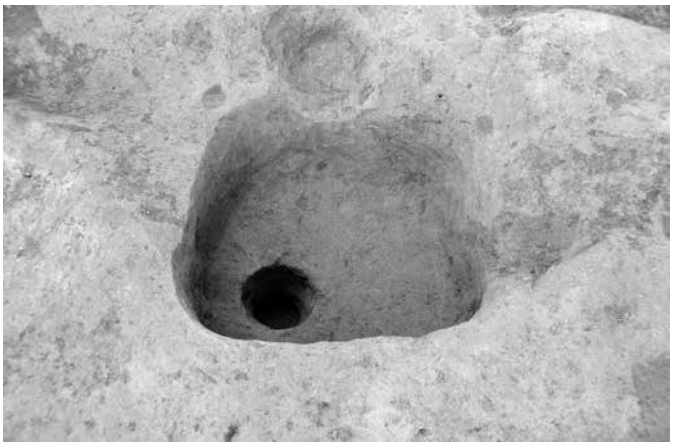


8．SB1 pit8

1．SB1 pit9

2．SB1 pit10

3．SB1 pit11



4．SB1 pit12

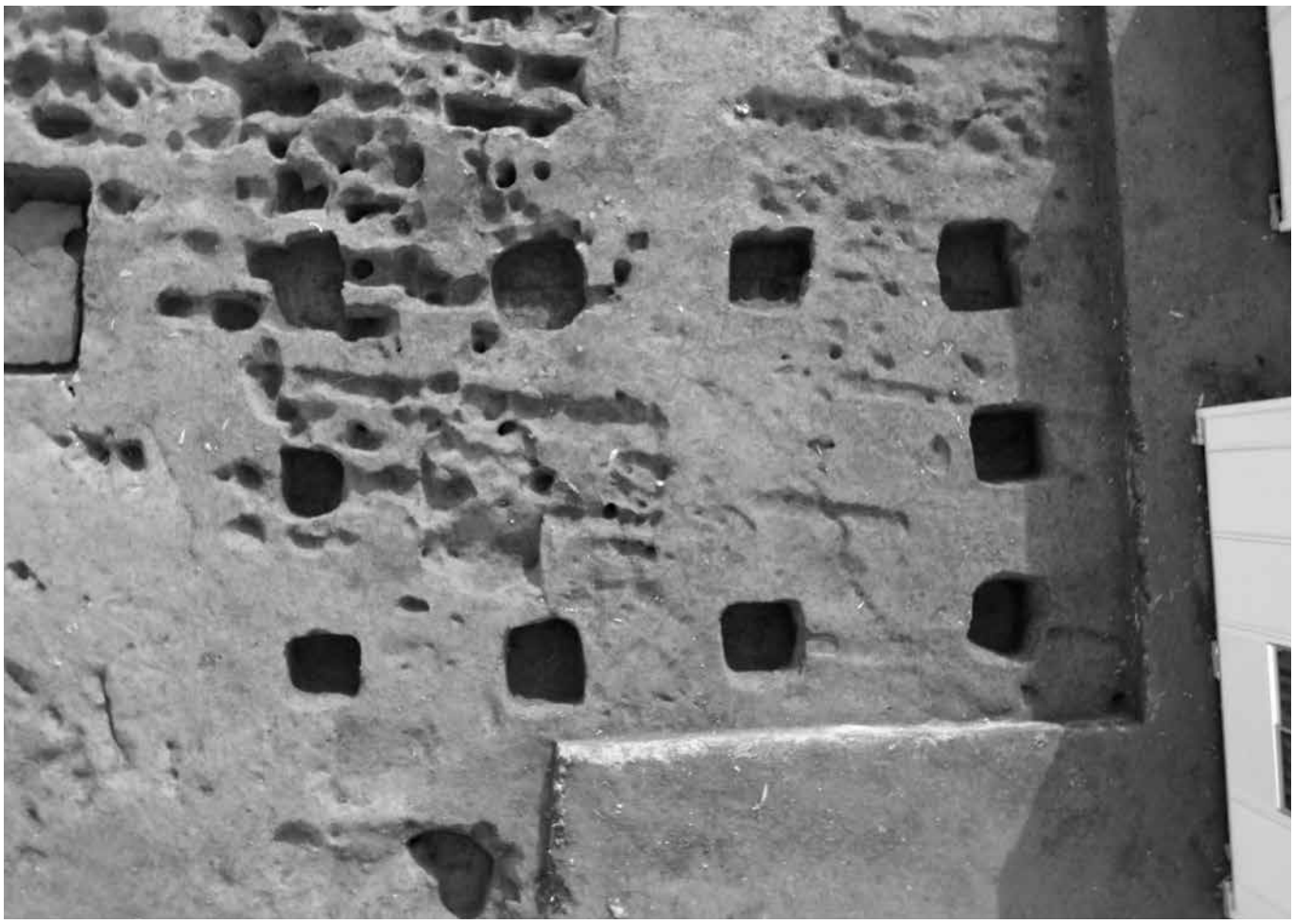
5．SB1 pit13

6．SB1 pit14

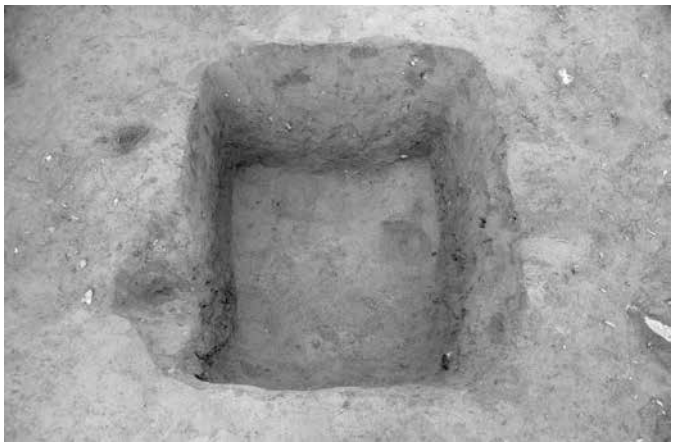
7．SB1 pit8 遺物出土状況

8．SB1 遺物出土状況

図版 52



1．SB2 完掘



2．SB2 pit1

3．SB2 pit2

4．SB2 pit3

5．SB2 pit4

1．SB2 pit5

2．SB2 pit6

3．SB2 pit7

4．SB2 pit8

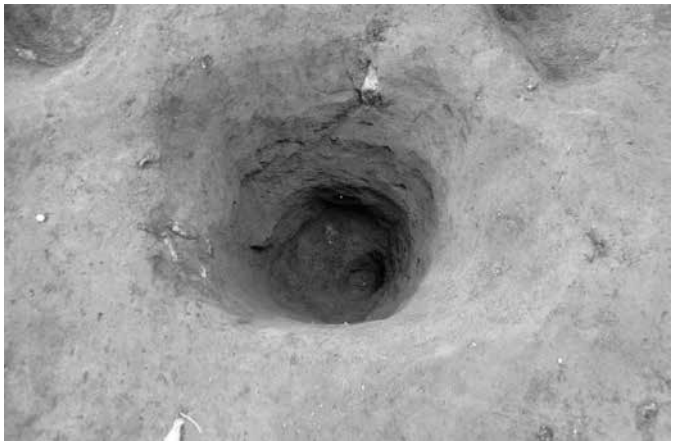
5．SB2 pit9

6．SB2 pit10

7．SB3

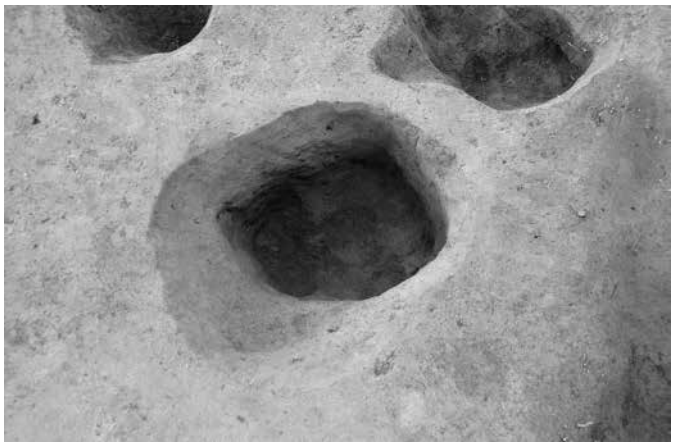
8．SB3 pit1

図版 54



1．SB3 pit2

2．SB3 pit3



3．SB3 pit4

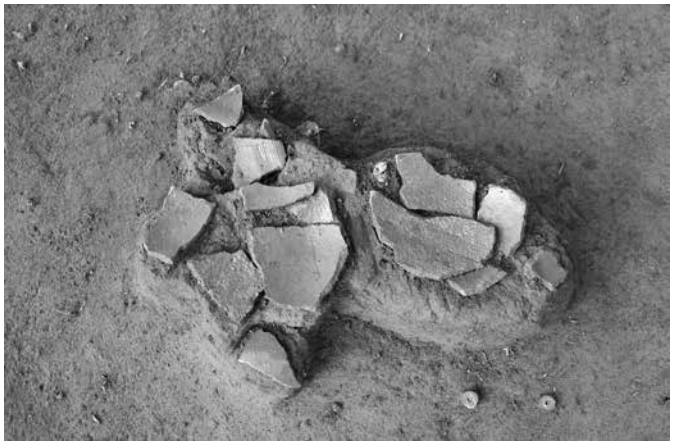
4．SB3 pit5

5．SB3 pit6

6．SX1 完掘

7．SX2 完掘

8．SX2 遺物出土状況（1）



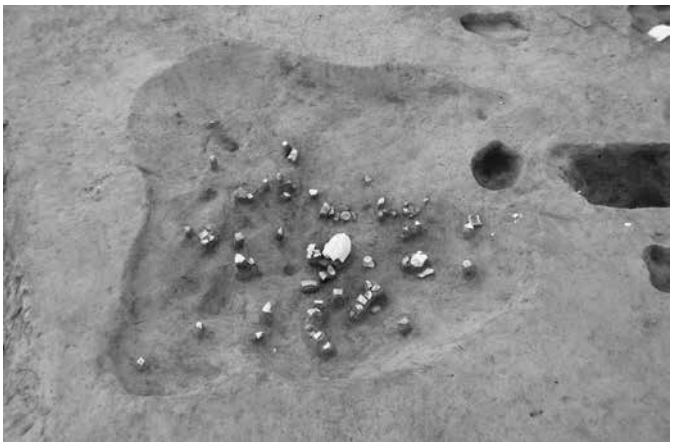
1．SX2 遺物出土状況（2）

2．SX3 完掘

3．SK1 遺物出土状況

4．SK2 遺物出土状況 (1)

5．SK2 遺物出土状況 (2)



6．SK17 遺物出土状況（1）

7．SK17 遺物出土状況（2）

8．SK18 遺物出土状況（1）

図版 56

1．SK18 遺物出土状況（2）

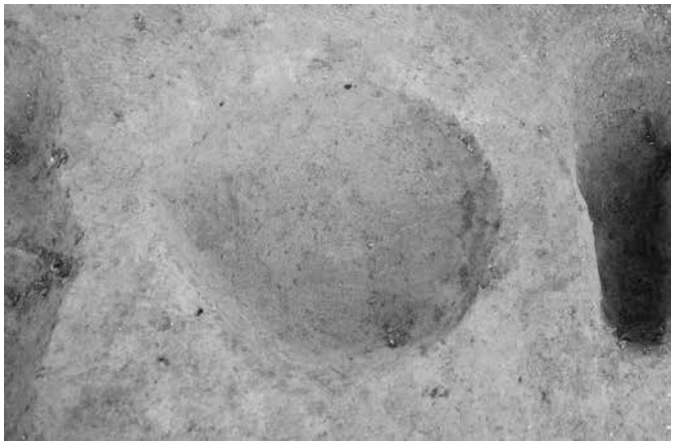
2．SK27 遺物出土状況

3．SK29 礫出土状況

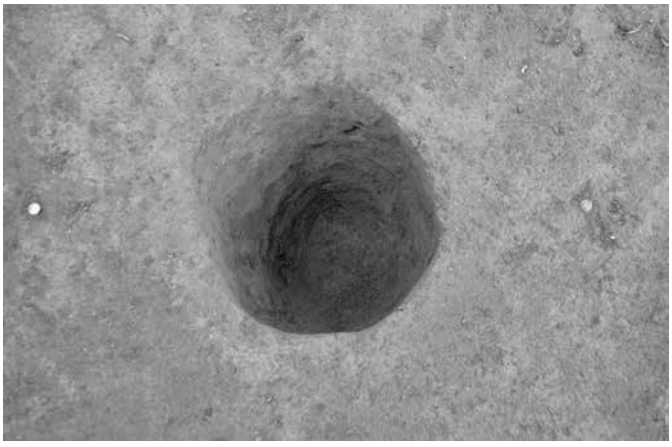
4．SK30 礫出土状況

5．SK32 礫出土状況

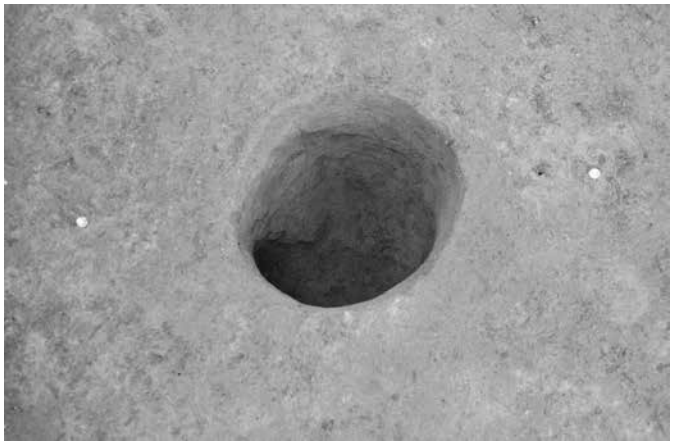
6．Pit1・2



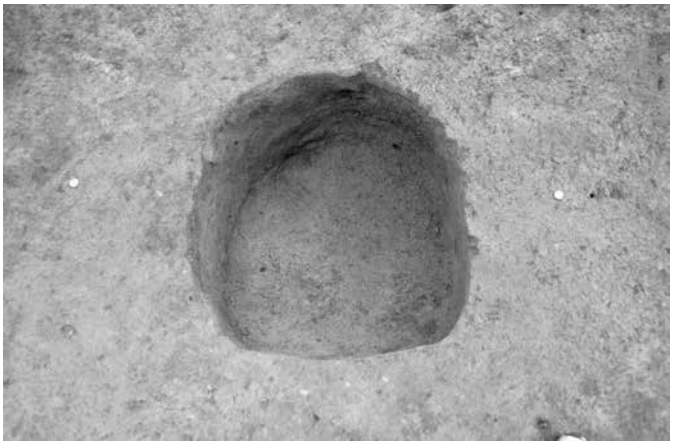
7．Pit3



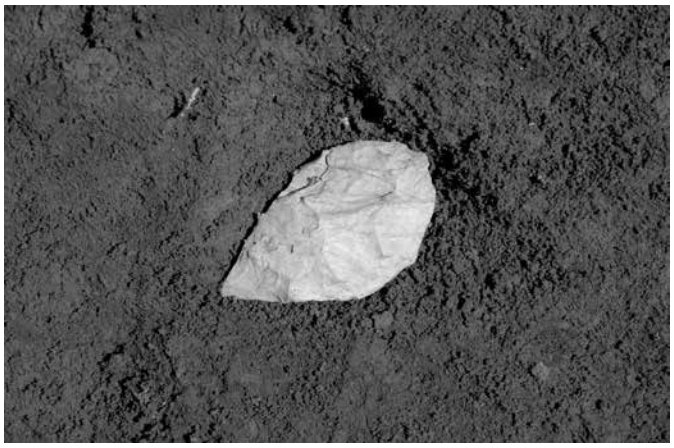
8．Pit6



1．Pit7



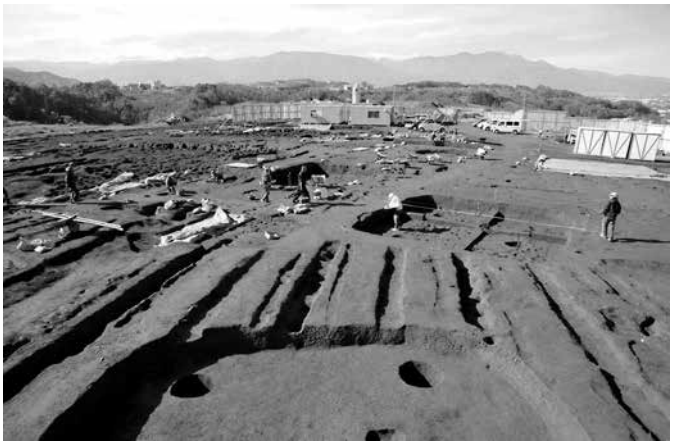
2．Pit13



3．遺構外 尖頭器出土状況

4．見学会（1）

5．見学会（2）

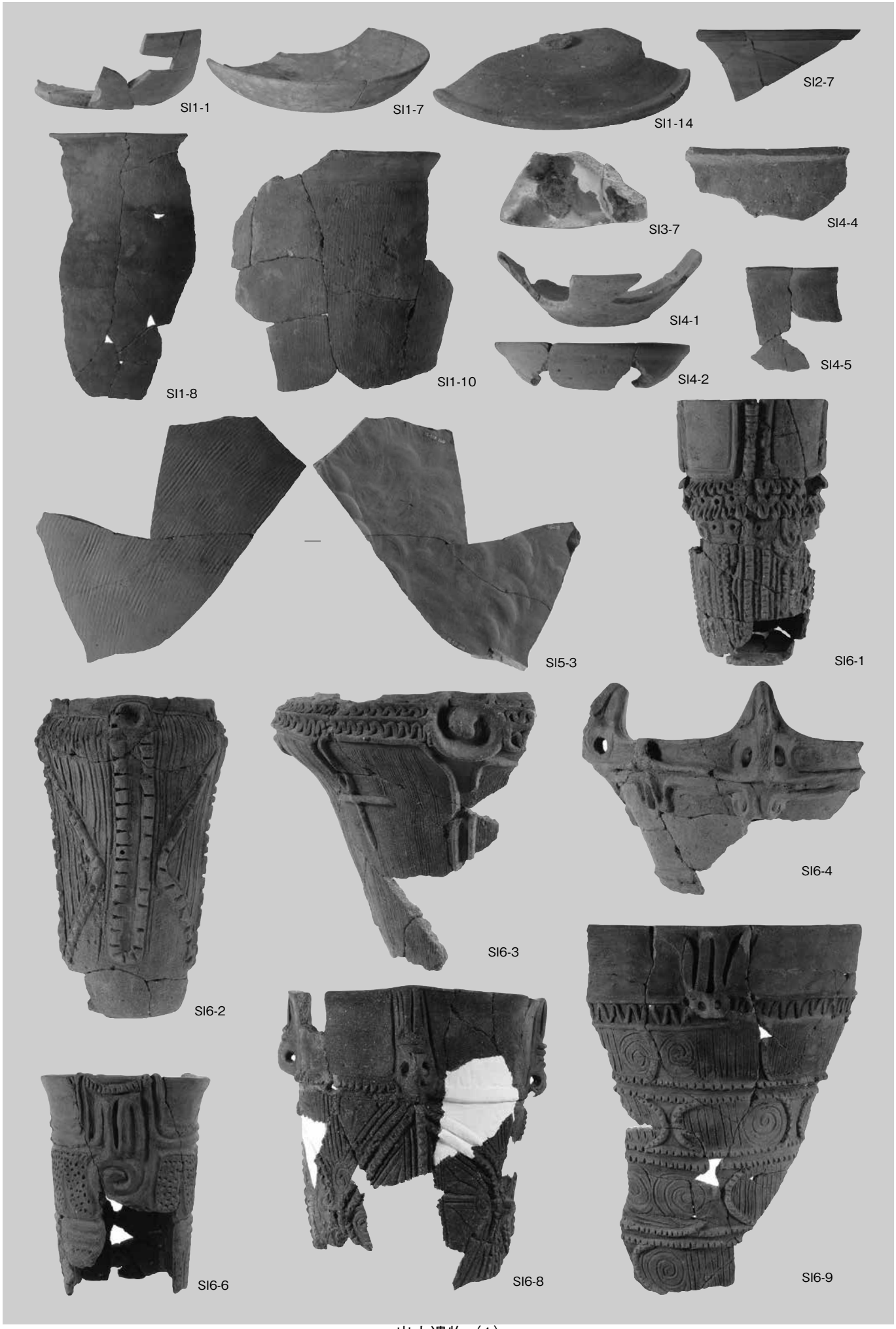


6．調査風景（1）

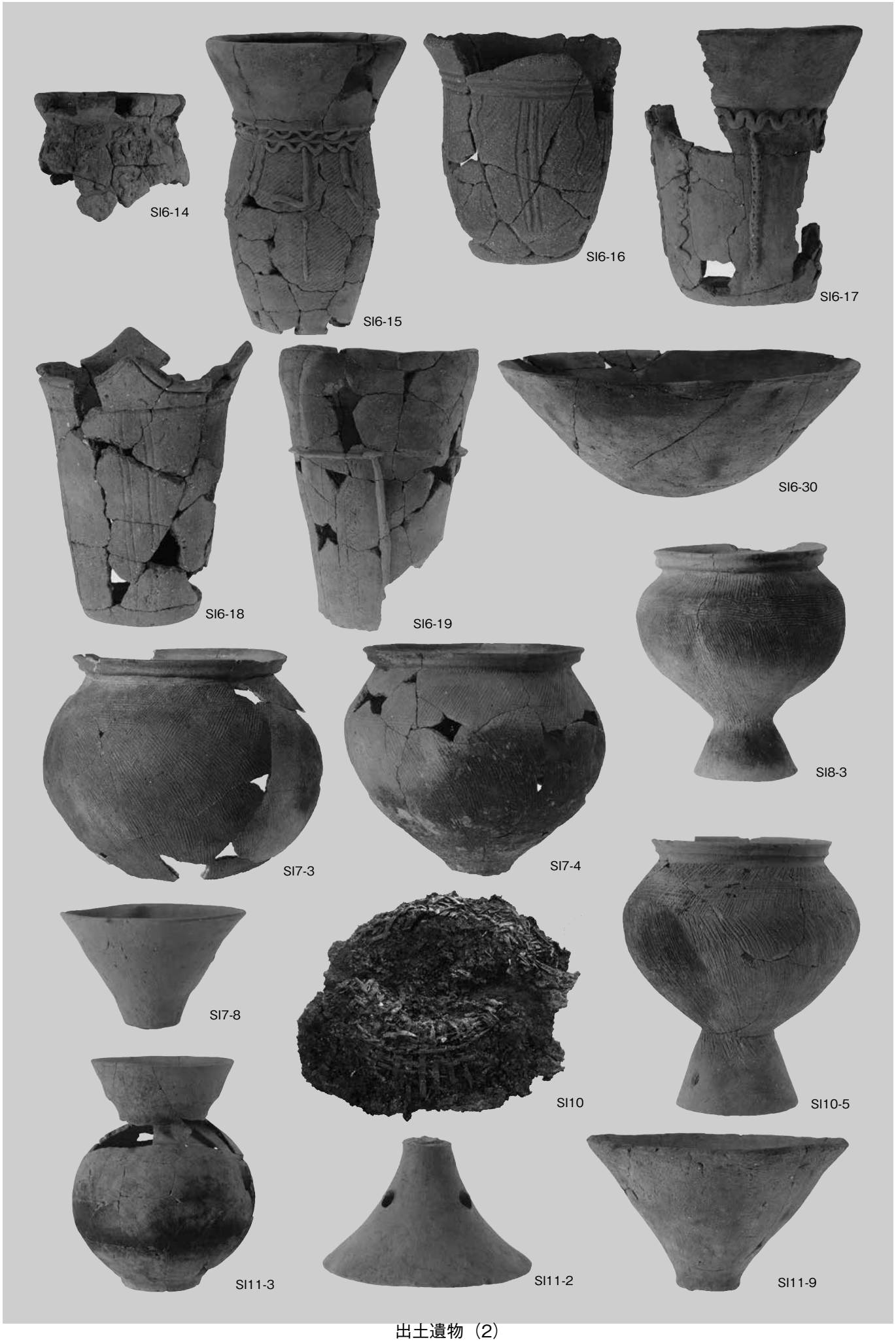
7．調査風景（2）

8．調査終了

図版 58

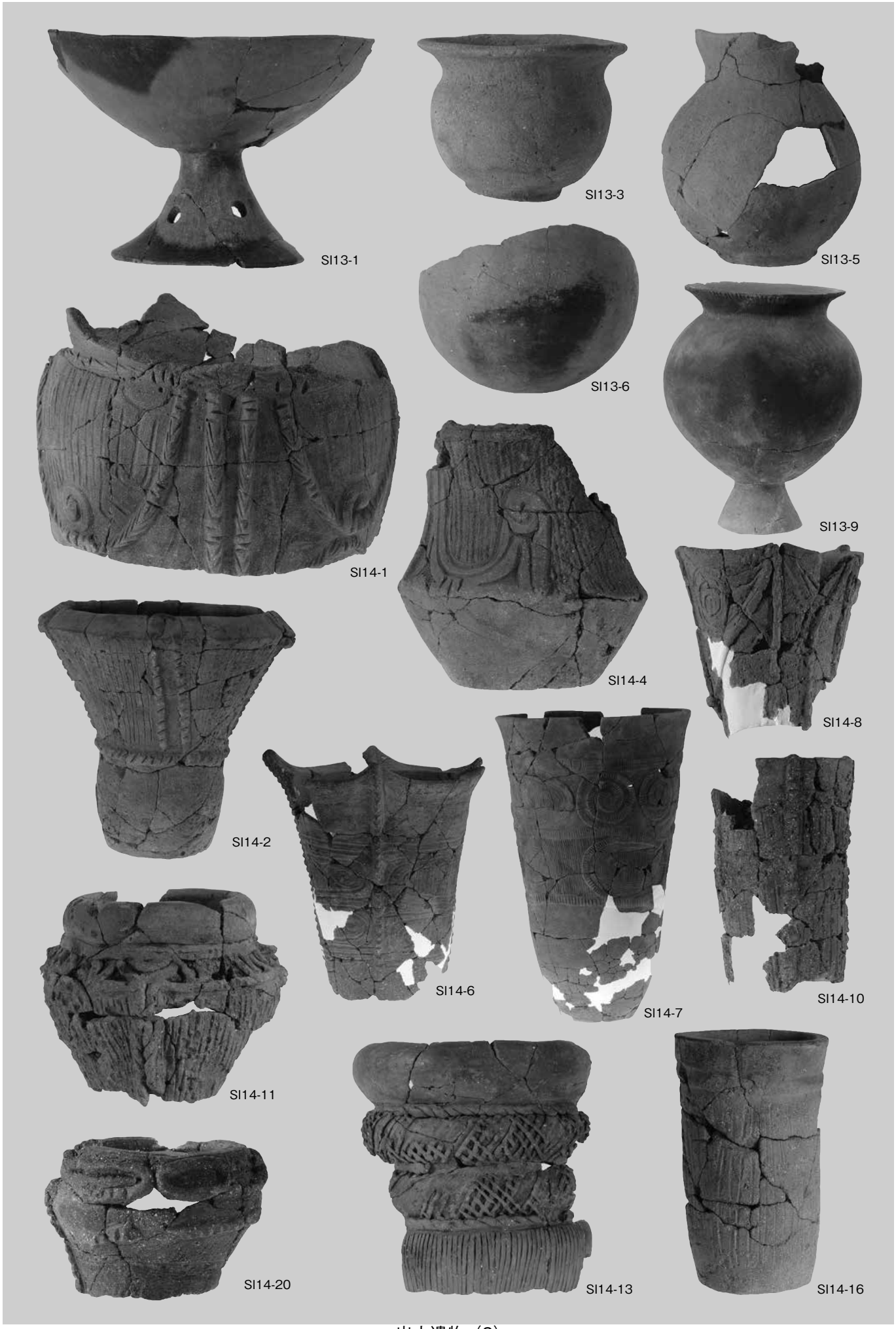

SI1-1
SI1-7
SI1-14
SI2-7
SI1-8
SI1-10
SI3-7
SI4-4
SI4-1
SI4-2
SI4-5
SI5-3
SI6-1
SI6-2
SI6-3
SI6-4
SI6-6
SI6-8
SI6-9

出土遺物（1）

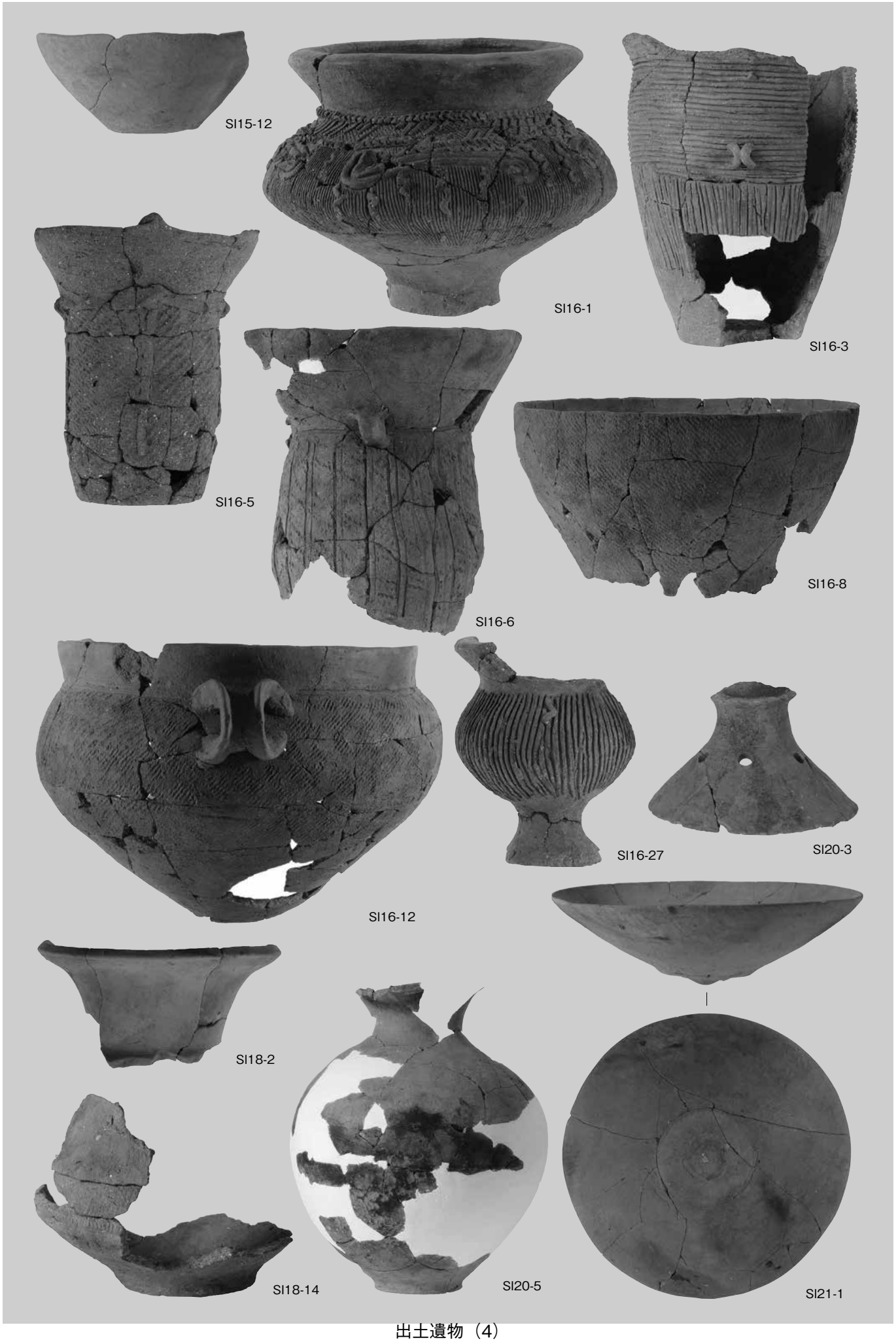

SI6-14
SI6-15
SI6-16
SI6-17
SI6-18
SI6-19
SI6-30
SI8-3
SI7-3
SI7-4
SI7-8
SI10
SI10-5
SI11-3
SI11-2
SI11-9

出土遺物（2）

図版 60

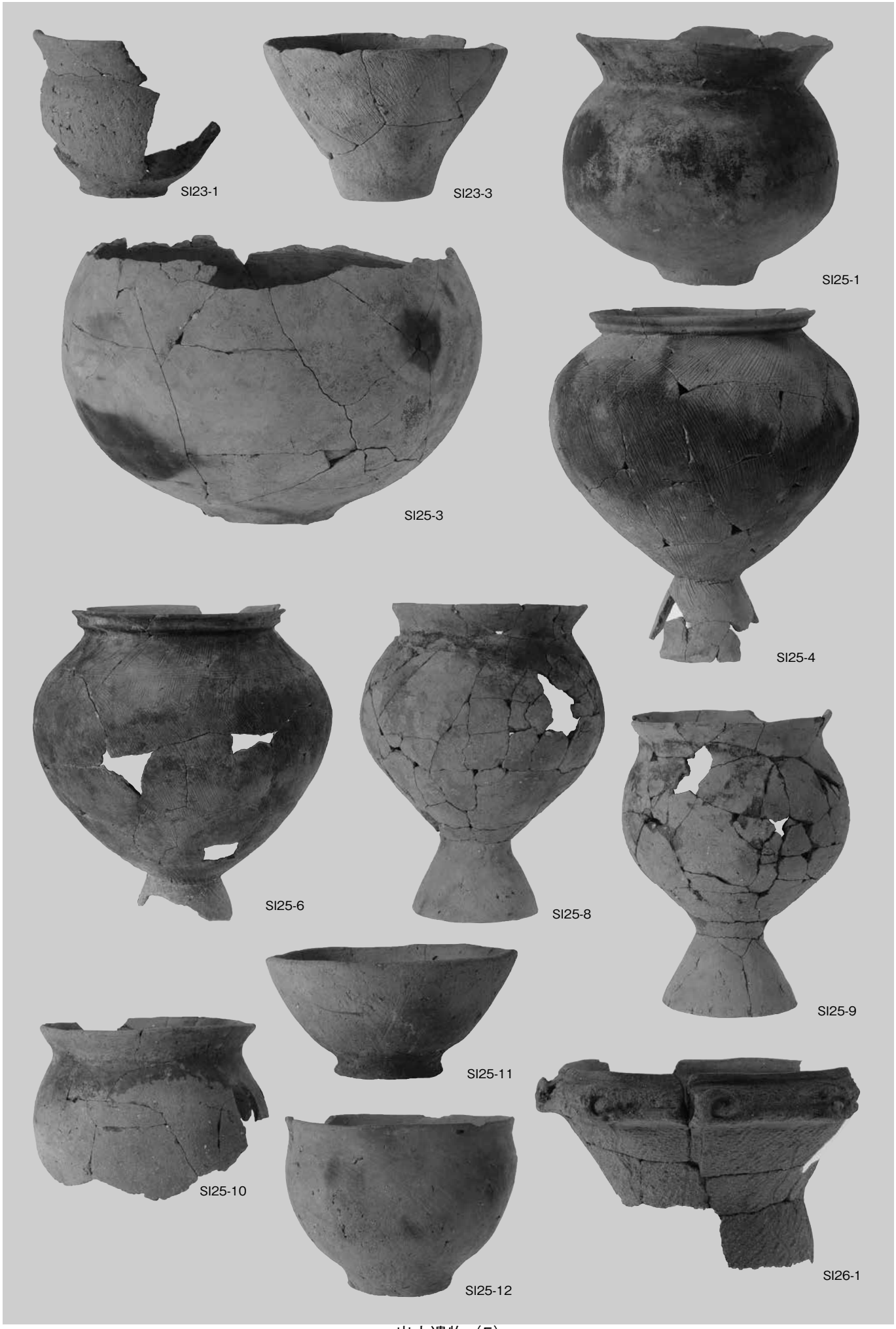

SI13-1
SI13-3
SI13-5
SI13-6
SI13-9
SI14-1
SI14-4
SI14-8
SI14-2
SI14-6
SI14-7
SI14-10
SI14-11
SI14-20
SI14-13
SI14-16

出土遺物（3）

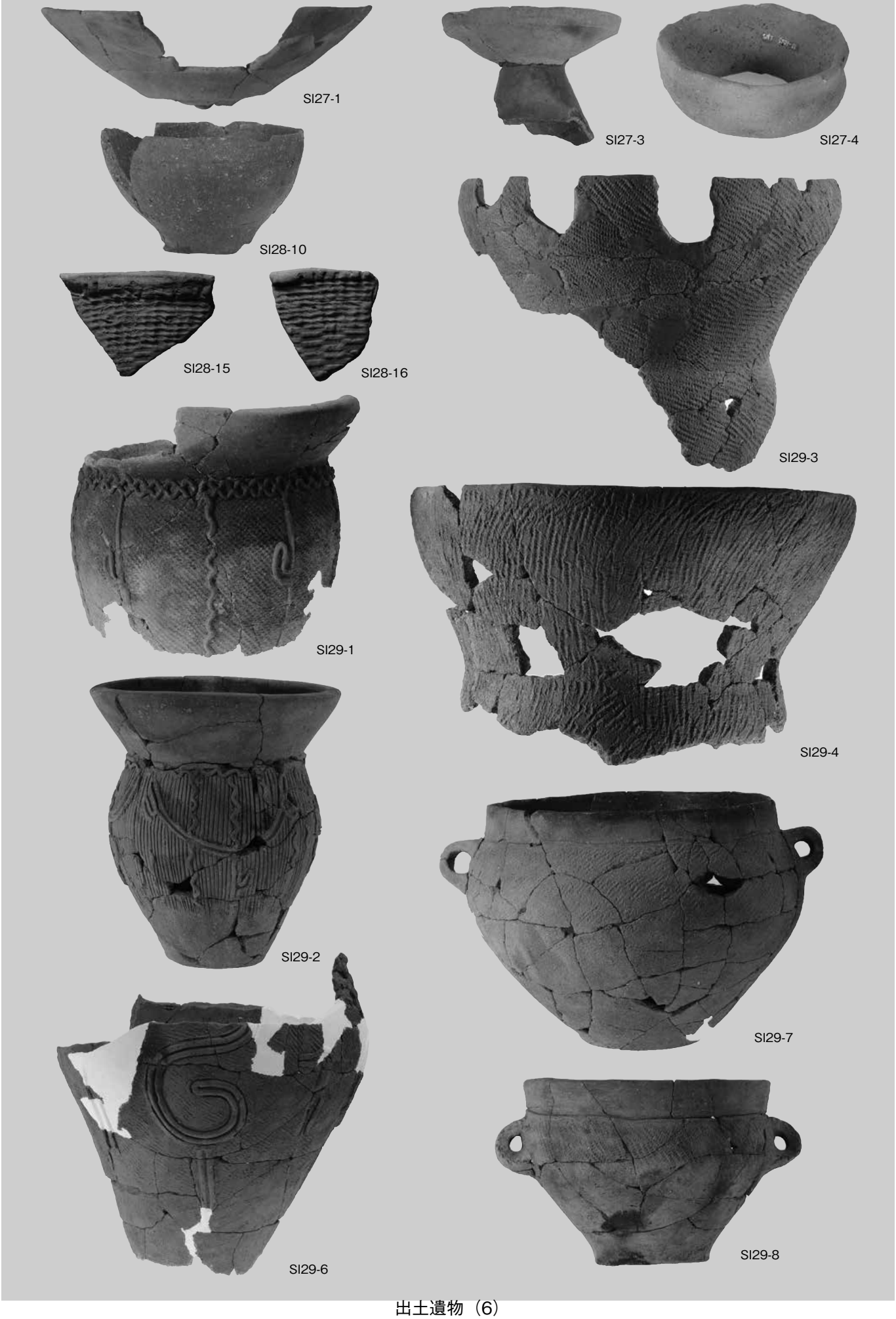

SI15-12
SI16-1
SI16-3
SI16-5
SI16-6
SI16-8
SI16-12
SI16-27
SI20-3
SI18-2
SI18-14
SI20-5
SI21-1

出土遺物（4）

図版 62

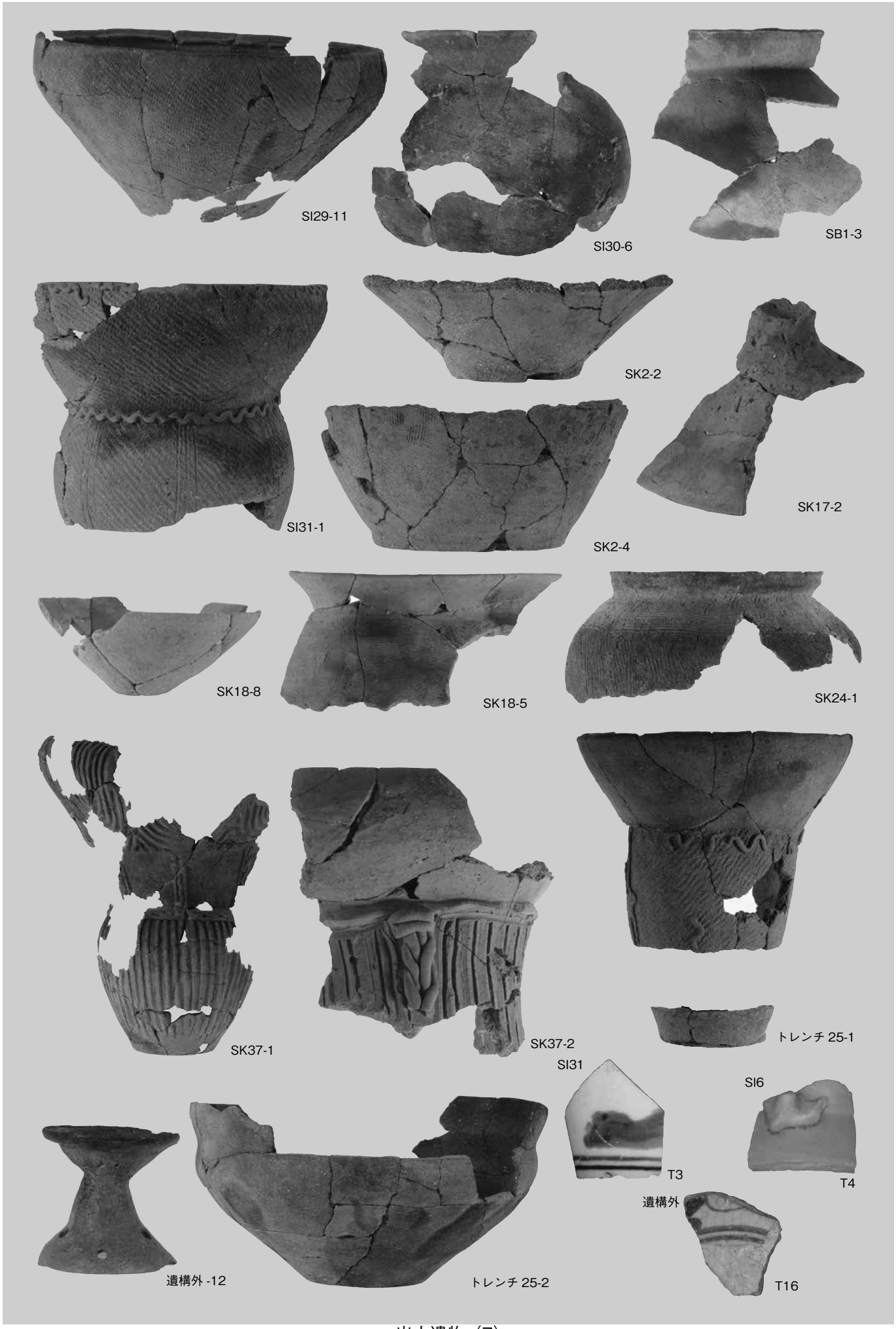

SI23-1
SI23-3
SI25-1
SI25-3
SI25-4
SI25-6
SI25-8
SI25-9
SI25-11
SI25-10
SI25-12
SI26-1

出土遺物（5）

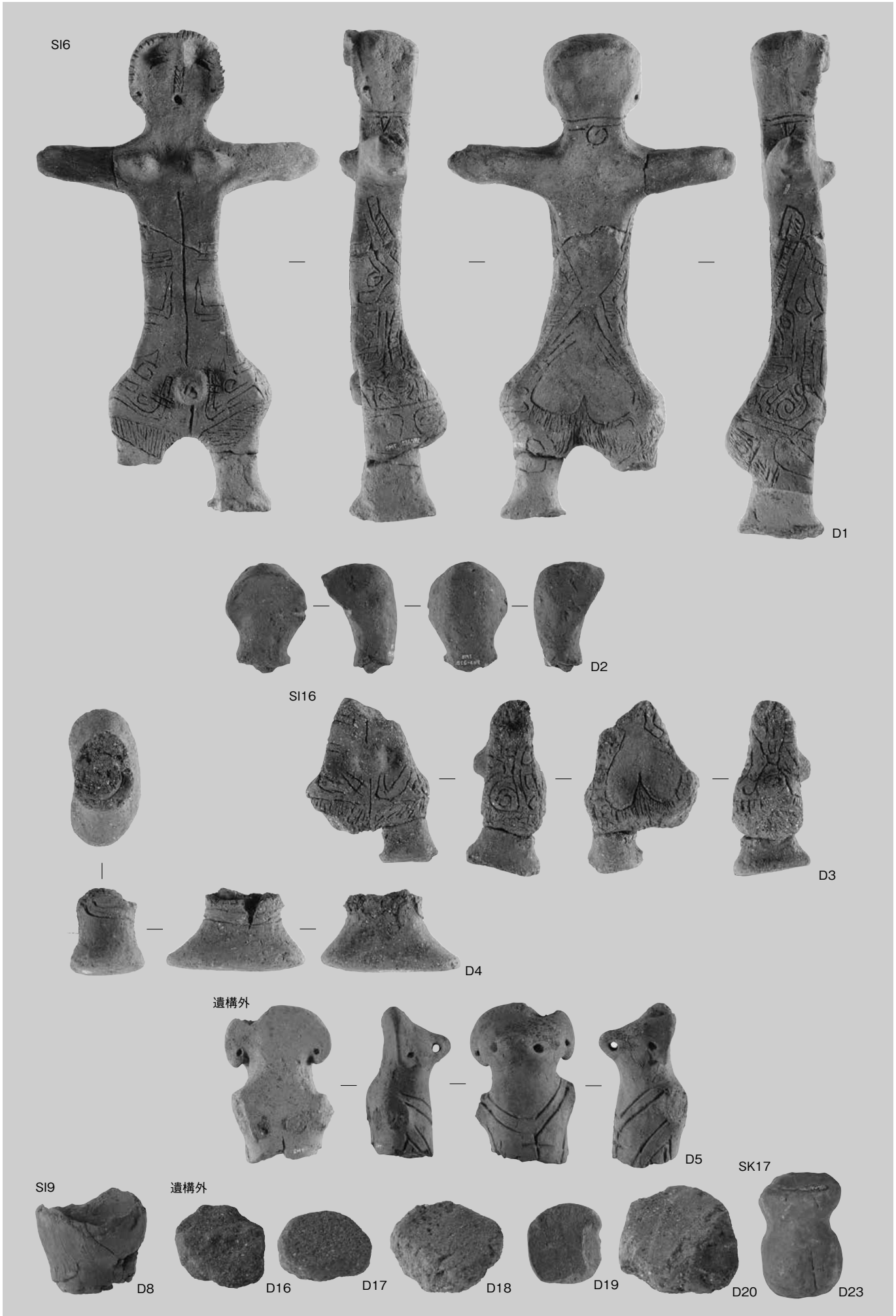

SI27-1
SI27-3
SI27-4
SI28-10
SI28-15
SI28-16
SI29-3
SI29-1
SI29-4
SI29-2
SI29-7
SI29-6
SI29-8

出土遺物（6）

図版 64

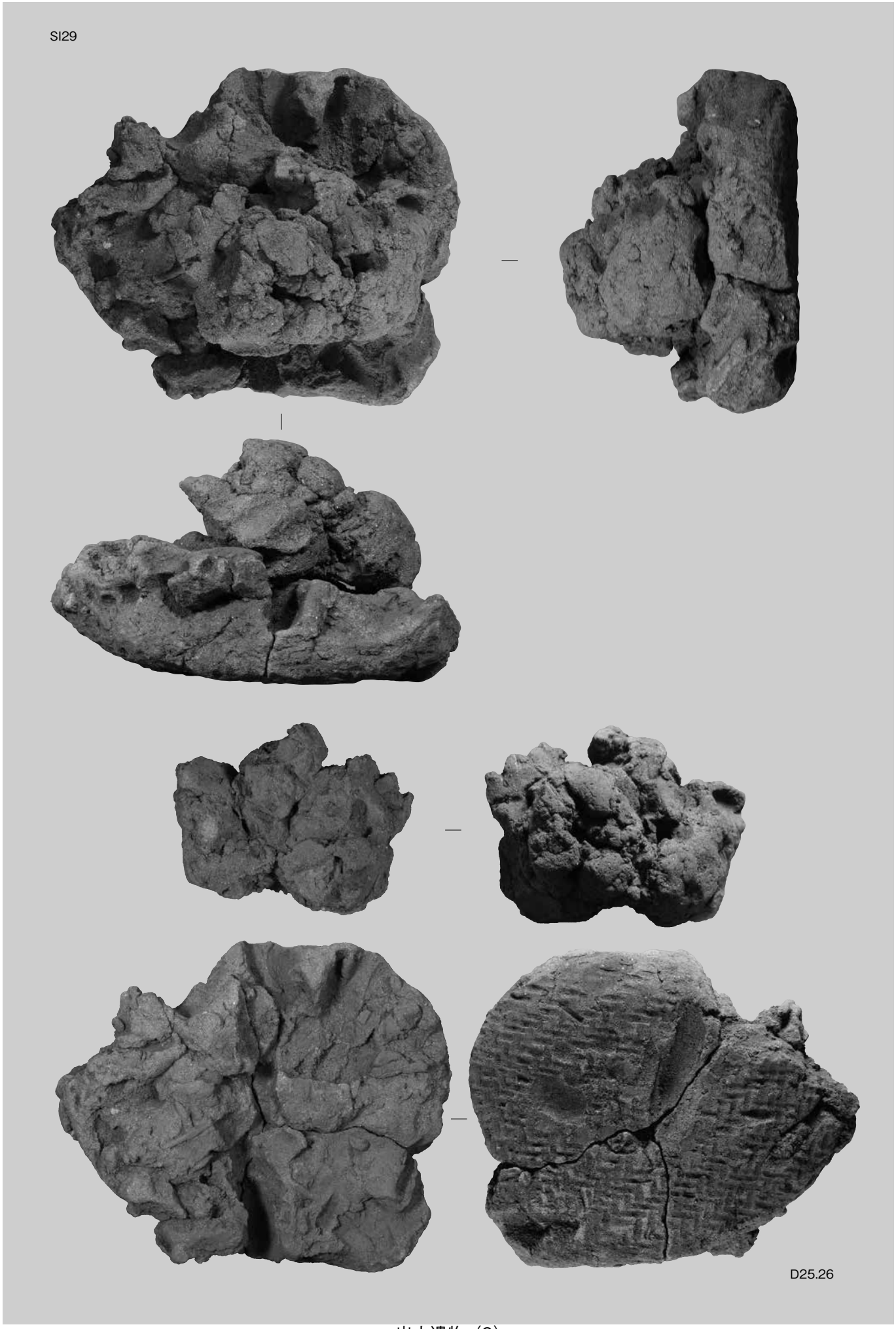

SI29-11
SI30-6
SB1-3
SI31-1
SK2-2
SK17-2
SK2-4
SK18-8
SK18-5
SK24-1
SK37-1
SK37-2
トレンチ 25-1
SI31
SI6
T3
T4
遺構外
遺構外 -12
トレンチ 25-2
T16

出土遺物（7）

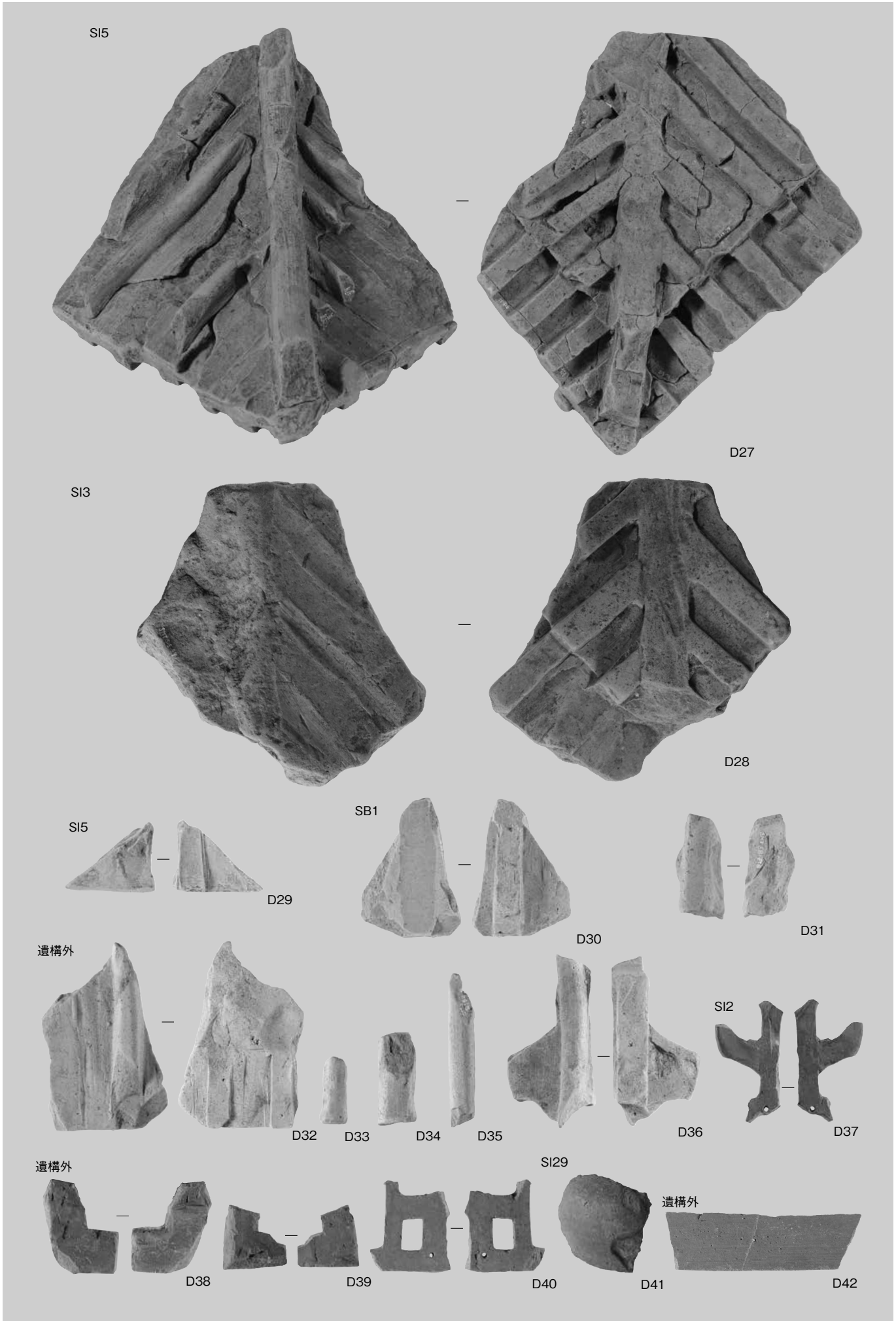

SI6
D1
D2
SI16
D3
D4
遺構外
D5
SI9
D8
遺構外
D16
D17
D18
D19
D20
SK17
D23

出土遺物（8）

図版 66

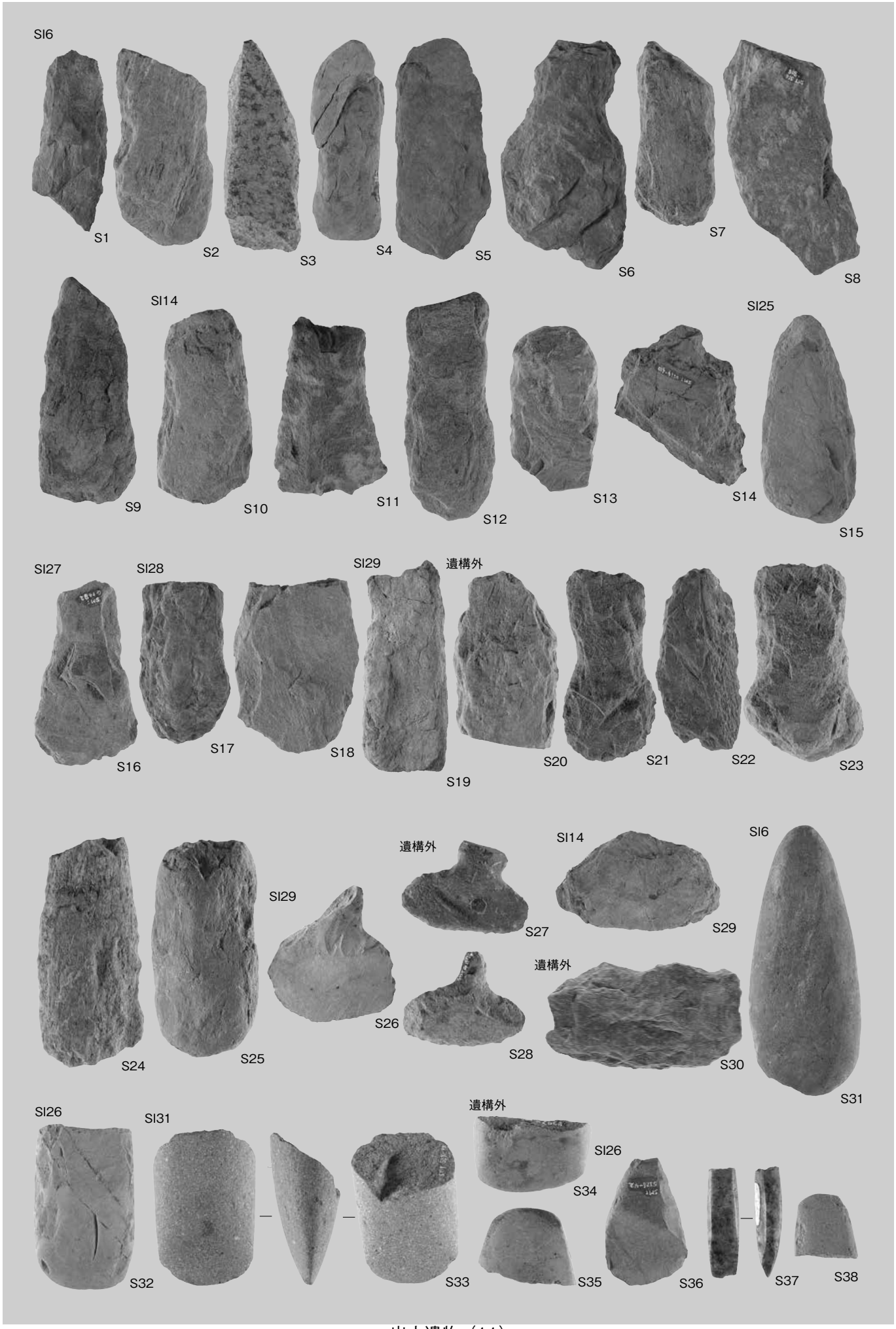


出土遺物（9）

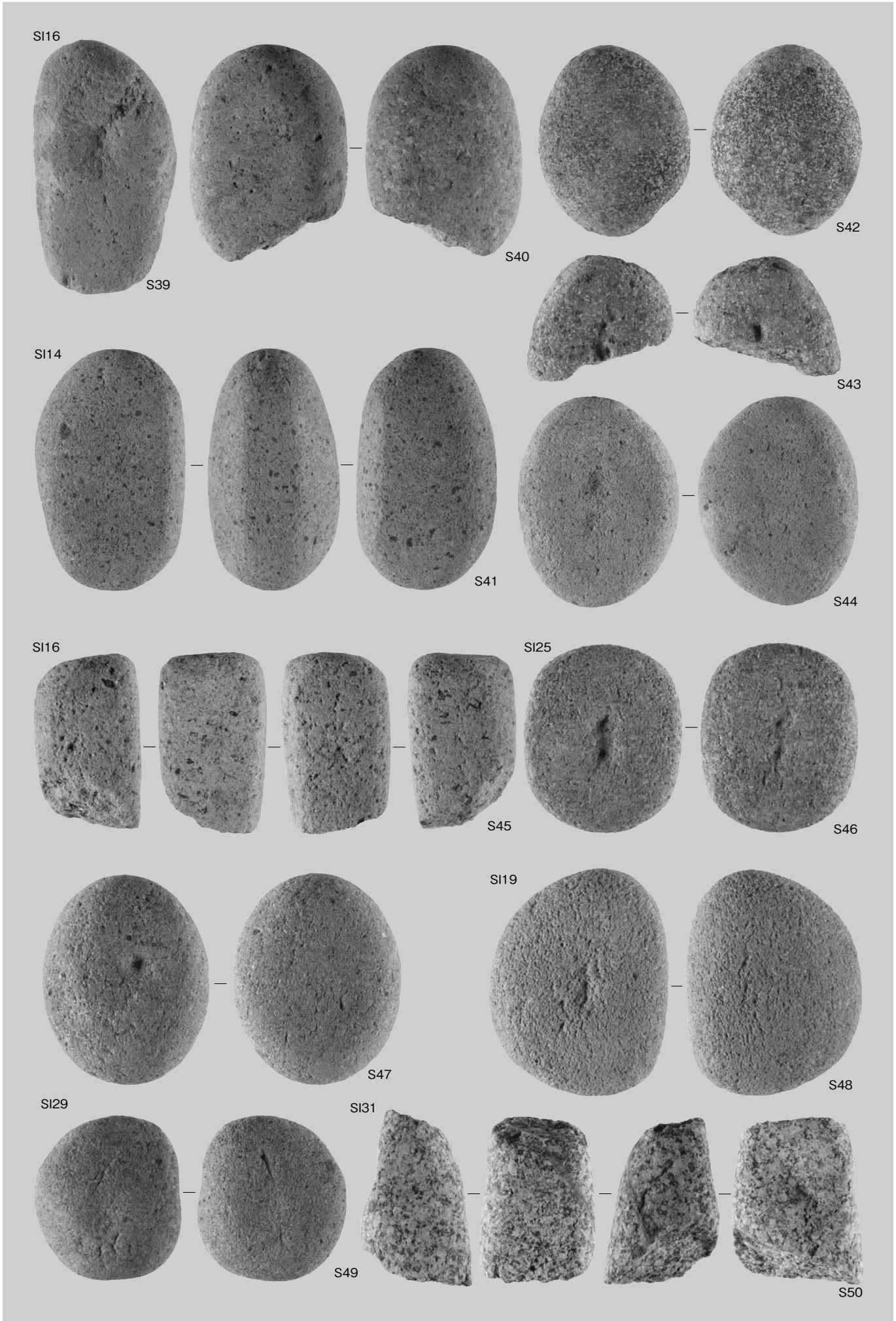

SI5
D27
SI3
D28
SI5
D29
SB1
D30
D31
遺構外
D32
D33
D34
D35
D36
SI2
D37
遺構外
D38
D39
SI29
D40
D41
遺構外
D42

出土遺物（10）

図版 68

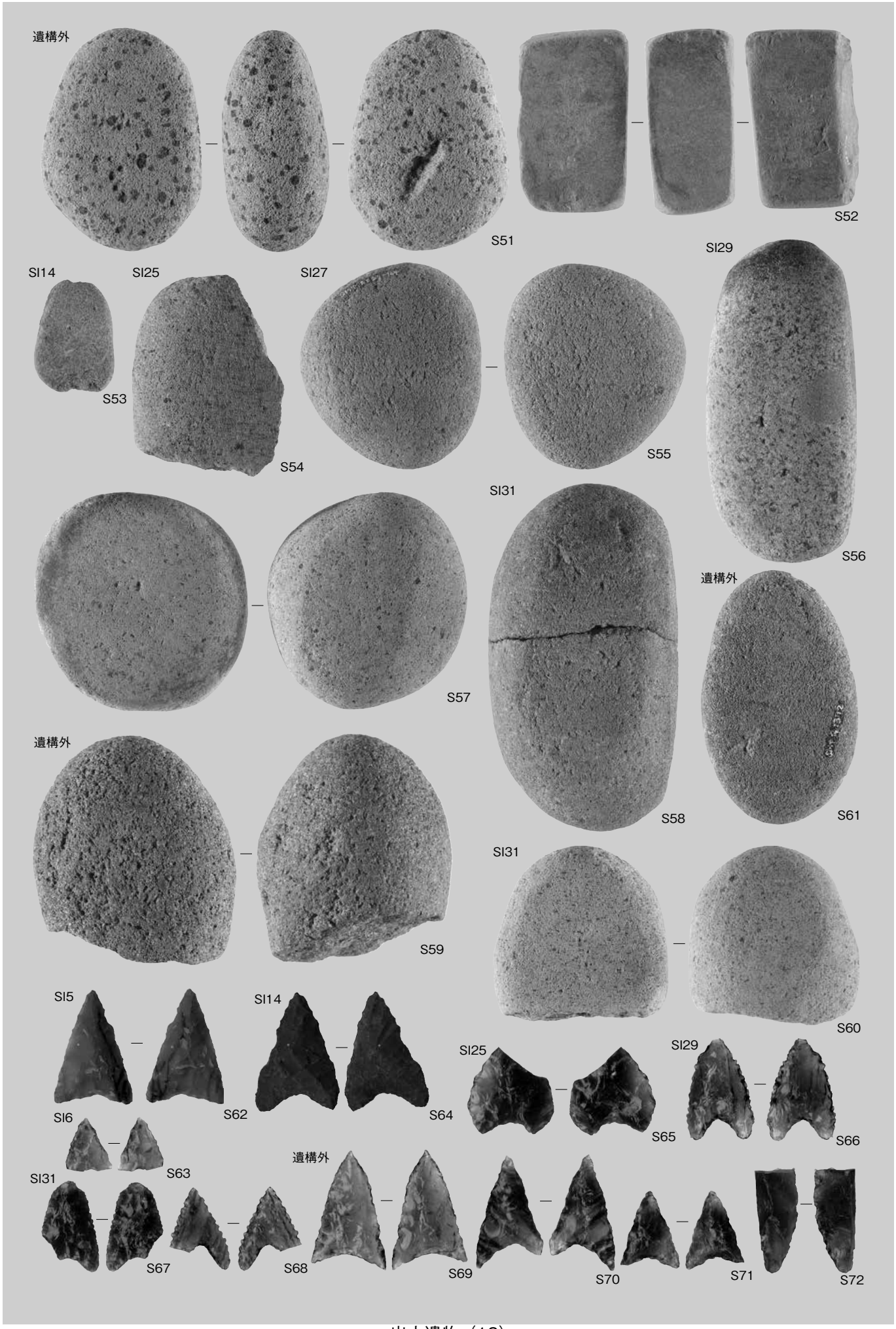

SI6
S1
S2
S3
S4
S5
S6
S7
S8
SI14
S9
S10
S11
S12
S13
SI25
S14
S15
SI27
SI28
SI29
遺構外
S16
S17
S18
S19
S20
S21
S22
S23
S24
S25
SI29
S26
遺構外
S27
SI14
S29
SI6
S28
遺構外
S30
S31
SI26
SI31
S32
S33
遺構外
SI26
S34
S35
S36
S37
S38

出土遺物（11）

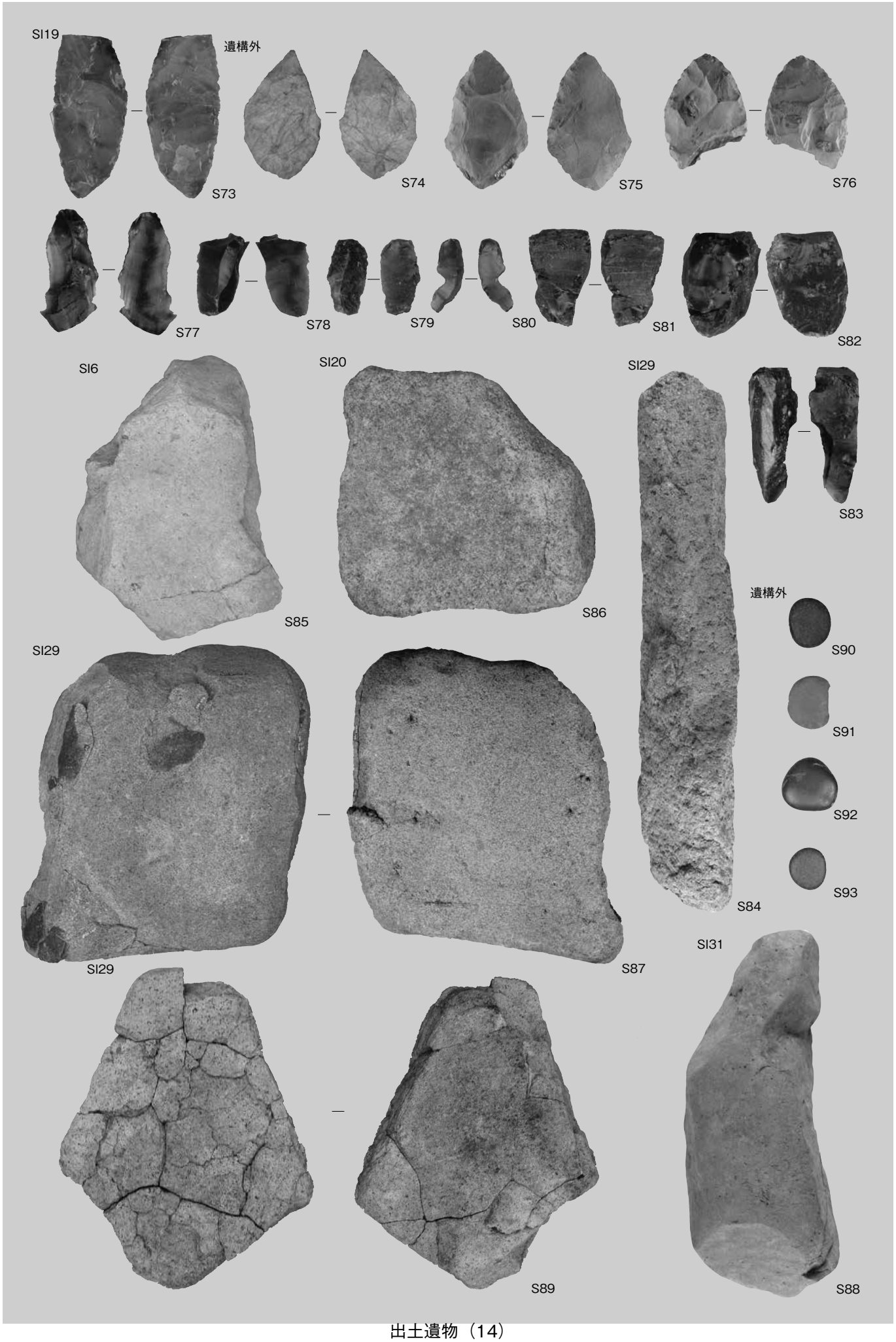

SI16
S39
S40
S42
SI14
S41
S43
S44
SI16
S45
SI25
S46
S47
SI19
S48
SI29
S49
SI31
S50

出土遺物（12）

図版 70

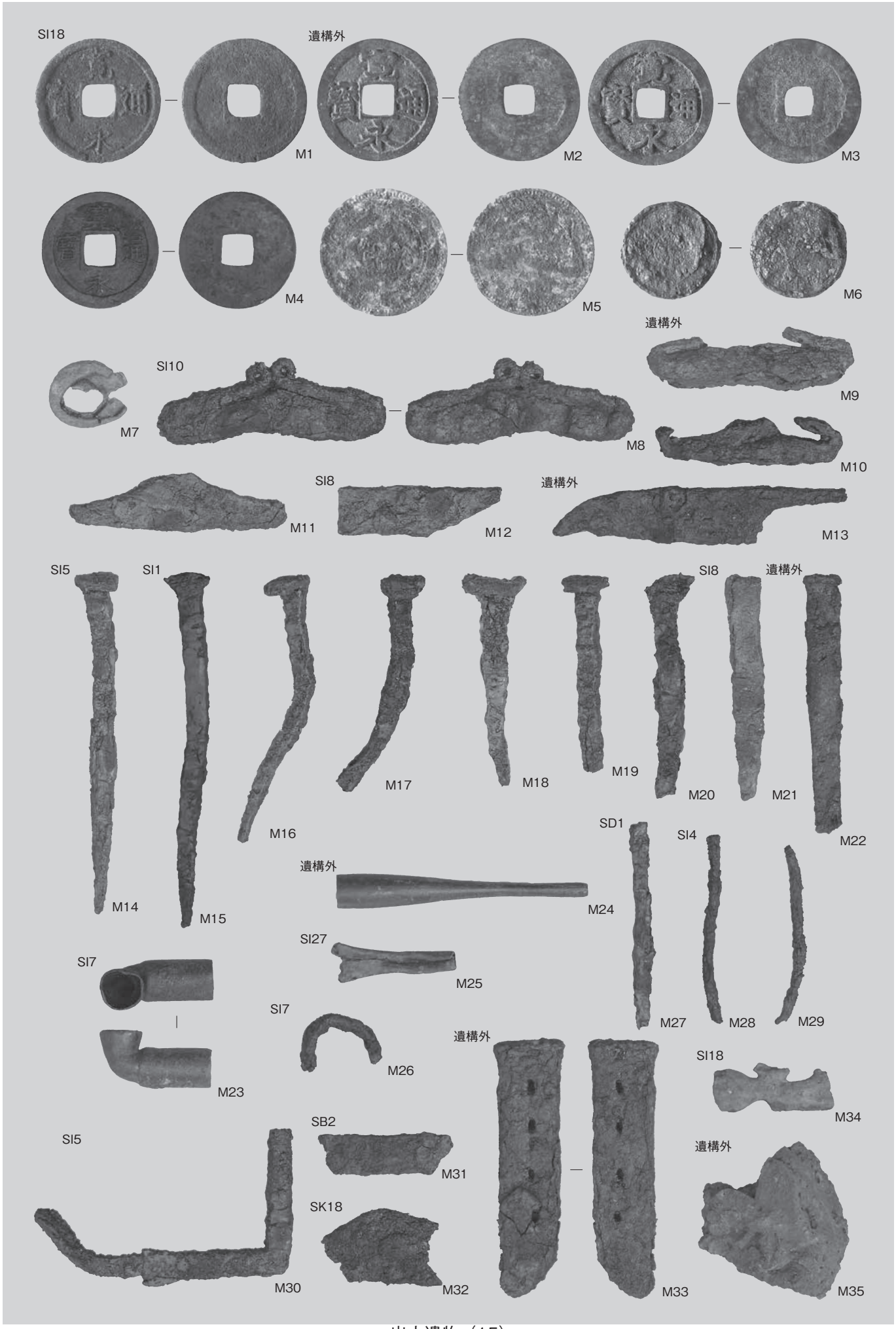

遺構外
S51
S52
SI14
SI25
SI27
S53
S54
S55
SI29
S56
SI31
S57
S58
遺構外
S61
遺構外
S59
SI31
S60
SI5
SI14
S62
S64
SI25
SI29
S65
S66
SI6
S63
SI31
遺構外
S67
S68
S69
S70
S71
S72

出土遺物（13）


SI19
遺構外
S73
S74
S75
S76
S77
S78
S79
S80
S81
S82
SI6
SI20
SI29
S83
S85
S86
S84
遺構外
S90
S91
S92
S93
SI29
SI29
S87
SI31
S89
S88

出土遺物（14）

図版 72


SI18
M1
遺構外
M2
M3
M4
M5
M6
遺構外
M7
SI10
M8
M9
M10
SI8
M11
M12
遺構外
M13
SI5
SI1
M14
M15
M16
M17
M18
M19
SI8
M20
遺構外
M21
M22
SD1
SI4
遺構外
M24
SI27
M25
SI7
M23
SI7
M26
M27
M28
M29
遺構外
SI18
M34
SI5
SB2
M31
遺構外
SK18
M30
M32
M33
M35

出土遺物（15）

報告書抄録

ふりがな	まえつけいせき・だいしょうじいせき
書 名	前付遺跡・大祥寺遺跡
副書名	甲府・峡東地域ごみ処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第31集
編著者名	望月和幸　宮澤公雄　櫛原功一　河西学　小澤美和子　望月秀和 佐々木由香　伊藤茂　安昭炫　佐藤正教　廣田正史　山形秀樹　小林紘一　黒沼保子 Zaur Lomtatidze　Ineza Jorjoliani　米田恭子　米田穣　バンダリ スダルシャン 鈴木三男　小林和貴　能城修一 松本建速　山﨑孔平　市川慎太郎　中村利廣
編集機関	公益財団法人山梨文化財研究所　（山梨県笛吹市石和町四日市場1566-2）
刊行機関	笛吹市教育委員会　（山梨県笛吹市石和町市部809-1）
発行年月日	平成27（2015）年3月25日

ふりがな	ふりがな	コード		測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
だいしょうじいせき 大祥寺遺跡 まえつけいせき 前付遺跡	やまなしけんふえふきし 山梨県笛吹市 さかいがわちょうてらお 境川町寺尾 あざかにさわ1220ほか 字蟹沢1220ほか	251	大祥寺： 境川-133 前付： 境川-132	35° 34’ 58”	138° 35’ 57”	2013.4.08 ～ 2013.11.29	大祥寺 （A区） 4,212㎡ 前付 （B区） 6,903㎡	ごみ処理 施設建設

種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡 寺院跡 建物跡	縄文時代草創期、 前期後半、 中期中葉、 中期後半 古墳時代前期 奈良・平安時代 中・近世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 経石埋納土坑 地下式坑 溝	土器 石器 尖頭器 陶磁器 土偶 瓦塔 炭化ご飯塊	縄文時代中期後半の住居から、砂を貯蔵していた土器が出土した。土器作りに関連する資料と考えられる。さらに同土器内からはツルボの炭化鱗茎が検出された。 古墳時代前期の住居から編み物かごに入った状態で、炭化した米（炭化ご飯塊）が出土した。 奈良時代の掘立柱建物跡２棟と、県内で5例目となる瓦塔が出土した。

前付遺跡・大祥寺遺跡

―甲府・峡東地域ごみ処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2015年3月20日　印刷

2015年3月25日　発行

編　集　公益財団法人山梨文化財研究所

山梨県笛吹市石和町四日市場1566-2　TEL 055-263-6441

発　行　甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合

笛吹市教育委員会

公益財団法人山梨文化財研究所

印　刷　相互印刷株式会社